

日本近代文学研究における文学館の役割
—「全国文学館協議会」加盟文学館の発行物を中心に—

岡野 裕行

図書館情報メディア研究科

筑波大学

2006年6月

目次

第1章 はじめに.....	4
1.1 研究の背景.....	4
1.1.1 文学館研究の現状.....	4
1.1.2 全国文学館協議会.....	7
1.1.3 文学館の「資料」の違い.....	10
1.1.4 博物館的機能と図書館的機能.....	11
1.1.5 発行物に関する研究.....	13
1.2 研究の目的と方法.....	15
1.2.1 研究の目的.....	15
1.2.2 研究の方法.....	18
1.3 本研究の対象とする文学館.....	21
1.4 本研究における用語の定義.....	31
1.4.1 所蔵資料と発行物.....	31
1.4.2 発行物の分類と定義.....	31
第2章 文学館の発行物.....	35
2.1 「全国文学館協議会」加盟文学館の発行物の調査.....	35
2.2 「展示の記録」.....	35
2.2.1 「展示の記録」の種類と現状.....	35
2.2.2 「展示の記録」の目的.....	40
2.2.3 「展示の記録」の機能.....	41
2.3 「所蔵資料の記録」.....	46
2.3.1 「所蔵資料の記録」の種類と現状.....	46
2.3.2 「所蔵資料の記録」の目的.....	49
2.3.3 「所蔵資料の記録」の機能.....	50
2.4 「所蔵資料／対象作家の研究」.....	52
2.4.1 「所蔵資料／対象作家の研究」の種類と現状.....	52
2.4.2 「所蔵資料／対象作家の研究」の目的.....	60
2.4.3 「所蔵資料／対象作家の研究」の機能.....	62
2.5 「対象作家の作品」.....	63
2.5.1 「対象作家の作品」の種類と現状.....	63
2.5.2 「対象作家の作品」の目的.....	72
2.5.3 「対象作家の作品」の機能.....	75
2.6 「利用者の作品」.....	78

2.6.1	「利用者の作品」の種類と現状	78
2.6.2	「利用者の作品」の目的	81
2.6.3	「利用者の作品」の機能	83
2.7	「文学館活動の記録」	86
2.7.1	「文学館活動の記録」の種類と現状	86
2.7.2	「文学館活動の記録」の目的	90
2.7.3	「文学館活動の記録」の機能	94
2.8	文学館の発行物の現状と意義	96
2.8.1	文学館の発行物の現状	96
2.8.2	文学館の発行物の意義	99
第3章	文学館の出版事業	102
3.1	出版事業の6種類の性質	102
3.2	発行物の選択とその組合せ	104
3.3	出版事業の性質	105
3.3.1	総合文学館	106
3.3.2	地域文学館	111
3.3.3	個人文学館	116
3.4	文学館の出版事業の特徴	121
第4章	日本近代文学研究と文学館	123
4.1	日本近代文学研究者と出版者	123
4.2	文学館と日本近代文学研究者	124
4.2.1	「目録」の役割と「書誌」の役割	124
4.2.2	三浦綾子に関する「個人書誌」	127
4.2.3	文献の入手経路	128
4.2.4	書誌データ数の変遷	130
4.2.5	資料の差異	133
4.2.6	「書誌」の作成と文学館	135
4.3	文学館と出版者	137
4.3.1	「復刻」と「複製」	137
4.3.2	「復刻」事業発展の背景	139
4.3.3	財) 日本近代文学館における図書の「復刻」	140
4.3.4	財) 日本近代文学館における雑誌の「復刻」	143
4.3.5	「復刻」事業の推進	145
4.3.6	「復刻」事業の縮小	146
4.3.7	文学館と出版者	150

第5章 おわりに.....	152
5.1 文学館の出版事業の現状とその意味.....	152
5.2 残された課題.....	154
5.3 今後の展望.....	155
5.4 謝辞.....	156
註.....	158

第1章 はじめに

1.1 研究の背景

1.1.1 文学館研究の現状

現在、日本には「文学館」と呼ばれる施設が数多く存在している。例えば1962年に設立された日本近代文学館（東京都目黒区駒場）は、代表的な文学館のひとつであり、日本近代文学研究を進めるにあたって必要不可欠な存在となっている。あるいはまた、俳句研究の中心的施設である俳句文学館（東京都新宿区）は1976年に、また、児童文学の分野に関しては、大阪府立国際児童文学館（大阪府吹田市）が1984年に設立されており、それぞれの分野における専門図書館的な役割を担っている。

そういった文学館の数は、現在までにいったい全国でどれくらいあるのだろうか。このよな問いについては、日本近代文学館事務局長の染谷長雄が、坪井賢一の取材に答えるなかで、“図書館は図書館法、博物館は博物館法で規定されている条件があるが、文学館には規則・規定する法律がない。名称がばらばらであることもあり、数を把握することはむずかしい”¹と述べているように、一概に把握することは容易ではないというのが現状である。つまり文学館の共通認識を図ることは、非常に困難な状況にあるのだが、このような文学館数の調査に関しては、元北海道立文学館館長であり、現在、財団法人北海道文学館副理事長である木原直彦が、これまでに絶え間ない調査を行っている。

木原直彦の文学館調査は、1990年に最初の報告が行われており、これ以降2005年まで、発表媒体を変えながら6種類の稿を見出すことができる。木原直彦はそれらの中で、1990年の時点では全国に175館²、1995年の時点で285館³、1998年の時点で392館⁴、2000年の時点で478館⁵、2003年の時点で539館⁶、2005年の時点で555館⁷の文学館が存在していることを報告している。ただし、そこに収録された文学館の定義は、“形態が多種多様であるため明確な基準はたてられ”ないと述べ、その選択基準を“きわめて恣意的である”と断っている⁸。そのため、文学館や記念館などの名称が付された独立した建物を持つ館だけではなく、福岡県柳川市の北原白秋生家のような「生家」や、奈良県奈良市の志賀直哉旧居などのような「旧居」、あるいは小田原市立図書館内に設置された長谷川如是閑文庫のような「文庫」の類も含まれていることには注意を払っておきたい（文学館の数を把握するには、そもそも「文学館とは何か」といった定義を明確にしなければならないが、これについては〔1.3 本研究の対象とする文学館〕において、改めて言及する）。

木原直彦の調査結果を参考にすれば、文学館は1990年を基準としたとき、1995年はその1.63倍（ $\div 285/175$ ）、1998年は2.24倍（ $\div 392/175$ ）、2000年は2.73倍（ $\div 478/175$ ）、2003年は3.08倍（ $\div 539/175$ ）、2005年には3.17倍（ $\div 555/175$ ）となって

いることがわかる。つまり文学館の数は 1990 年以降、約 8 年で 2 倍以上となり、約 15 年で 3 倍を超えるまでに増加したのである。

こういった館数の増加の影響のためか、そういった文学館を紹介するガイドブックのような図書が、全国文学館協議会編『全国文学館ガイド』（2005 年）など、これまでに 14 冊発行されていることが確認できる⁹。これらはそのいずれもが、各文学館の住所、電話番号、開館時間、入館料などを示し、写真を交えながら、訪問記やエッセイの形式でその活動や特徴を概略的に触れたものばかりである。

具体例を挙げてみれば、木原直彦著『文学館・きたみなみ』（1990 年）の内容は、次のようになっている。ここではその中の小樽文学館と日本近代文学館の冒頭部分を例として取り上げてみたい。

運河に象徴される小樽は文学遺産の密度が濃い港まちである。

小樽グリーンライオンズクラブが母体となった小樽文学館設立期成会の運動が実り、市立の文学館が開館したのは昭和五十三年十一月三日であった。市立による地域総合の文学館としては全国ではじめてである。

かつて、小樽は“北のウォール街”といわれた。色内にあるルネサンス様式の日銀支店がその栄華を物語っているが、文学館は向かい側の市分庁舎二階部分を改装したもので、翌年には市立小樽美術館が同じ階でオープンしている。（小樽文学館）

館へのみちは、渋谷駅から京王・井の頭線に乗って二つ目の駒場東大前駅で降りると、徒歩で六、七分だから近い。駒場公園は手入れがゆきとどき、各種の大木と芝生が深閑としたたたずまいを見せている。もともと前田侯爵邸の敷地であったが、よく加賀（金沢）百万石の前田の殿様、といわれたりするその子孫の東京邸内である。

建物の規模は鉄筋コンクリート造りの地下二階、地上三階で、それに塔屋を持つ。延べ床面積は約四千平方メートルで、必要な機能を満たしているが、どちらかといえば展示よりも資料の収蔵と閲覧を主体とした文学館である。（日本近代文学館）

他の例としては、東京新聞・中日新聞文化部編『文学館のある旅 103』（2004 年）の神奈川近代文学館と大阪府立国際児童文学館の冒頭部分を引用してみたい。

東京・駒場の日本近代文学館と並ぶ近代文学の総合資料館である。所蔵資料は約九十五万点、ことに戦後文学の充実で知られる。また藤田圭雄文庫にはじまり獅子文六、尾崎一雄、大野林火、勝呂忠、近藤東、中里恒子、堀辰雄、中島敦、野間宏、大岡昇平、立原正秋、吉野秀雄、井上靖、埴谷雄高など、寄贈による文庫は三十七に及ぶ。一九八四年春、文芸評論家で日本近代文学館理事長だった小田切進氏を理事長に開館した。駒

場の理事，評議員も協力したため，両館は姉妹館ともいわれた。(神奈川近代文学館)

「家出したことある人!」。大阪府立国際児童文学館専門員の土居安子さんが質問すると，小学生やお母さんたち十六人は一瞬きょとん。少しずつ手が上がると同時にくすくす笑いも。同館で月一回開かれるワークショップの光景。「今日は家出のお話をつくりましょう」の掛け声で二人一組になって寸劇の相談を始めた。(中略)

研究，図書館機能を併せ持つ同館がオープンしたのは一九八四年。児童文学専門施設として先陣を切った。元早稲田大学教授，鳥越信氏から譲り受けた蔵書十二万点が母体。現存の所蔵点数は六十八万点にのぼる。文学館には閲覧室を設置。一階にあるこども室とは異なる静寂さだ。七人の専門員と二人の司書も「乳幼児絵本の研究」と「読書支援ソフト『本の海大冒険』の研究・開発」を行っている。(大阪府立国際児童文学館)

以上のように，これら文学館を主題とした書物は，館の特徴(設立年，所在地，活動内容，設立の経緯など)を，表面的かつ幅広く語ることに力点が置かれていることが読みとれる。言葉を換えて言えば，現在において文学館を主題としたこうした書物は，文学館活動の極めて表層的な部分のみをなぞっているだけで，その活動内容の問題点を細かく分析し，考察するところにまで至っていないのである。

これは現状として文学館というものに対する注目度が低いため，議論を深めようとしても，その土壌が形成されていないことが大きな理由だと思われる。文学館を対象とした具体的な事例研究や，問題点を深く掘り下げた議論は，あまりにも学問的な蓄積が少なく，これは例えば現在，文学館の類似機関である図書館や博物館についての研究が，それぞれ「図書館学」や「博物館学」などの学問として確立されているように，多くの研究者に広く認知され，関連書籍も多数出版されていることと比べると，その違いは明白であろう¹⁰。深く掘り下げた議論の蓄積が少ないため，それを語るには，先に引用した『文学館・きたみなみ』や『文学館のある旅 103』などのように，まずは活動の表層的な部分に触れざるを得ないだろう。

あるいは，2000年に好村富士彦が¹¹，2002年に水島裕雅が¹²，それぞれの立場から「広島文学館」の可能性を模索している文章を寄せているように，これから文学館の建設を目指そうとする地域の報告も見られる。これらは文学館が現在においても発展段階にあり，その機能や性質を問うどころか，どのように文学館の建設にこぎ着けるか，その出発点を模索している段階にある地域も存在していることを示している。

つまり文学館に関する文章は，既に開館しているものについてはその概要を示すことに重点が置かれ，建設計画中の文学館については，いかにそれを実現化するのかを論じることを目的とした内容となっているのである。すなわち，文学館の機能や性質，目的について深く議論を行うような土壌は，少なくとも現在の日本においては，ほとんど開拓されて

いないのである。

1.1.2 全国文学館協議会

しかし、日本における文学館研究が遅々として進んでいないとは言っても、ひとつだけ例外が見られる。その唯一の例外は、本研究でも積極的に取り上げることになる「全国文学館協議会」という団体である。

「全国文学館協議会」とは、文学館を専門的に研究することを目的に、1996年に日本近代文学館を中心として発足した団体であり、このような文学館という名称を掲げ、その専門性を明白にして発足した研究団体は、同会が日本で初めてのものである。日本における文学館研究の先駆であり、これは大学などの研究機関から始められたものではなく、文学館の現場で業務に当たっている職員の人たちが独自に立ち上げ、お互いの業務の情報交換や議論を目的に設立されたものである。

この点に関しては、同会の会長であり、同時に現在の日本近代文学館理事長でもある中村稔が、その活動10周年を迎えた2005年に次のように述べている¹³。

文学館は、全国的にみると、数え方によれば数百にも達するが、その中の主要な約八十館が集って、全国文学館協議会を組織して以来、本年が十周年にあたる。

いったい文学館とはどういう事業をする施設なのか、私見によれば、全国文学館協議会が発足するまで、まともに考えられてきたことはなかった。

「全国文学館協議会」の発足以前には、文学館という施設が“まともに考えられてきたことはなかった”と述べられているが、同会の発足以前に文学館を正面から研究対象として取り上げた論考は、確かに管見の範囲でも皆無のようである。この半世紀ほどの間に、数多くの文学館が日本中に誕生し、そしてそれは今尚増え続けているにも関わらず、中村稔の言うとおりに、文学館はそれ自体が学問の対象となることはなく、「全国文学館協議会」の発足を待たねばならなかったのである。とすると文学館は、「全国文学館協議会」の発足以降、未だ学問としてはわずか10年ほどの研究の蓄積がなされているに過ぎず、その研究は未だ緒についたばかりというのが現状なのである。

ところで「全国文学館協議会」の行っている活動、すなわち、文学館そのものを学問の対象として考えていくということは、いったいどのようなものなのだろうか。まずはそのことを、「全国文学館協議会」のこれまでの研究成果を概観することで確認していきたい。

これまでの「全国文学館協議会」の研究は、大きく「総務情報」、「資料情報」、「展示情報」の三つに分けられており、毎回それぞれについて4館ずつ報告を行い、それを踏まえた上で、「共同討議」という形で議論を深めるというスタイルを取っている。中村稔はこう

いった研究の成果を、「図書館学」や「博物館学」などの既存の学問の呼び名に倣うように，“「文学館学」の情報の宝庫であると私は自負している”¹⁴と述べ、「文学館学」という用語（おそらく「全国文学館協議会」による造語である）を用いることで、その独自性を強調して語っている。

もちろん「文学館学」なる学問は、まだ広く認知されているものではなく、その確立はこれからの研究成果にかかっているという状態である。例えば、さいたま文学館の学芸員である宮瀧交二は、1998年の時点で、“未だに「文学館学」が未確立で、試行錯誤が続いている”¹⁵と述べ、その確立と発展を切望している意見を出しているが、おそらく宮瀧交二のように、文学館の現場で業務に従事している者を含め、「全国文学館協議会」に関わっている人々など、非常に限られた範囲でのみ使用されている用語に留まっているのが現状であろう。

ではこのような「文学館学」の現在までの成果を確認するべく、「全国文学館協議会」の会報を見ていきたい。〔付属資料2：「全国文学館協議会」発行物目録〕に、『全国文学館協議会会報』の第29号までの目次の一覧を添付しておいたが、これを参考にすると、「総務情報」については、以下の通りこれまでに3回行われており、各回とも4館ずつ、計12館の事例報告が行われていることが見てとれる。

- (1) 『全国文学館協議会会報』第9号 1999年 〈第1回総務情報部会報告〉
 - (1-1) さいたま文学館の運営について.....さいたま文学館
 - (1-2) 文学に親しむキッカケづくりが使命？.....鎌倉文学館
 - (1-3) 現在に至るまでの経緯.....中原中也記念館
 - (1-4) 大原富枝文学館の歩み.....大原富枝文学館
- (2) 『全国文学館協議会会報』第19号 2002年 〈第2回総務情報部会報告〉
 - (2-1) 文学館における友の会の実践.....世田谷文学館
 - (2-2) 東京都近代文学博物館の35年.....東京都近代文学博物館
 - (2-3) 個人記念館で考えたこと、考えていること.....吉川英治記念館
 - (2-4) 中原中也記念館の現状、そして将来.....中原中也記念館
- (3) 『全国文学館協議会会報』第28号 2005年 〈第3回総務情報部会報告〉
 - (3-1) 総務に関する現状と課題について.....群馬県立土屋文明記念文学館
 - (3-2) 吉川英治記念館の財政構造の変遷.....吉川英治記念館
 - (3-3) 鎌倉文学館の財政面における直営と財団運営の比較.....鎌倉文学館
 - (3-4) (財)石川近代文学館のあゆみ.....石川近代文学館

同様に、「資料情報」についても、以下のようにこれまでに3回が行われ、各回とも4館ずつ、計12館の事例報告がされている。

- (4) 『全国文学館協議会会報』第6号 1998年 〈第1回資料情報部会報告〉
- (4-1) 日本近代文学館における資料の整理について 日本近代文学館
 - (4-2) 資料の収集・保存とコンピュータ管理について 世田谷文学館
 - (4-3) 子規博における資料収集について 松山市立子規記念博物館
 - (4-4) 日本現代詩歌文学館の設立経緯と最近の資料収集の状況について
..... 日本現代詩歌文学館
- (5) 『全国文学館協議会会報』第15号 2001年 〈第2回資料情報部会報告〉
- (5-1) 俳句文学館の資料収集の問題点—現在並びに今後について— 俳句文学館
 - (5-2) コンピュータ作業の実際—図書の入力を中心に 神奈川近代文学館
 - (5-3) 「群馬文学全集」について 土屋文明記念文学館
 - (5-4) 姫路文学館における資料収集・整理の現状と問題点 姫路文学館
- (6) 『全国文学館協議会会報』第25号 2004年 〈第3回資料情報部会報告〉
- (6-1) 仙台文学館の資料整理の現状と課題 仙台文学館
 - (6-2) 三猿文庫〈地域文学資料〉活用について 草野心平記念文学館
 - (6-3) 大佛次郎記念館所蔵パリ＝コミュニケーション関連資料について 大佛次郎記念館
 - (6-4) 「資料と研究」について 山梨県立文学館館長

また、「展示情報」に関しても、以下の通り3回の開催がなされ、各回において4館ずつ、計12館の事例報告となっている。

- (7) 『全国文学館協議会会報』第3号 1997年 〈第1回展示情報部会報告〉
- (7-1) 個人展における展示手法について—「大岡昇平展」を事例として
..... 神奈川近代文学館
 - (7-2) 映像の展示—ビデオ制作の実務について 姫路文学館
 - (7-3) 文学碑展について 藤村記念館
 - (7-4) 避暑地の文学展—私立文学館として 軽井沢高原文庫
- (8) 『全国文学館協議会会報』第12回 2000年 〈第2回展示情報部会報告〉
- (8-1) 「伊藤整の『日本文壇史』展製作日記」 市立小樽文学館
 - (8-2) 常設展示の構成等をめぐって 北海道文学館
 - (8-3) 文学館における常設展示の手法について—仙台文学館を事例として
..... トータル・メディア開発研究所
 - (8-4) 展示に関する法律問題 全国文学館協議会
- (9) 『全国文学館協議会会報』第22号 2003年 〈第3回展示情報部会報告〉
- (9-1) 一般テーマ展の面白さと難しさ —「文学・青春」展について

.....	日本近代文学館
(9-2) 武者小路実篤記念館の展示活動.....	武者小路実篤記念館
(9-3) 夏目漱石展について	神奈川近代文学館
(9-4) 常設展のない企画展	司馬遼太郎記念館

これらの目次を見ればわかるように、「総務情報」では、文学館の運営や財政の問題を中心として議論し、「資料情報」では、文学館が所蔵する資料の整理、収集、保存、活用、あるいは『群馬文学全集』や『資料と情報』のように、文学館の発行物の報告などを中心とした問題を扱い、また、「展示情報」では、文学館の展示における手法、構成、法律などの問題を議論している。それぞれに論点が明確に絞られており、一見理に適った議論の内容と考えられるが、しかし同会報の目次から窺える「全国文学館協議会」の研究姿勢に、若干配慮が足りないと感じる点がひとつある。それは、「資料情報」という用語が抱えている曖昧性の放置である。

1.1.3 文学館の「資料」の違い

その曖昧性を具体的に指摘すれば、「資料情報」という用語の中に、「文学館が所蔵する資料」（寄贈、寄託、購入などにより収集された、作家の直筆原稿や図書、初出誌、遺品など）に関するものと、「文学館が発行する資料」（ここで例に出された『群馬文学全集』や『資料と情報』などがその例となるが、他にも「図録」や「館報」の類も考えられる。詳細は本研究の本論に譲る）という二重の意味を持たせていることである。

例えば現在、日本近代文学研究においては、ある作家の業績を一覧にする「個人書誌」が重要視されているが、この「個人書誌」はさらに「著書目録」と「参考文献目録」とに分けて考えることが一般的である。「著書目録」とは、作家本人の手による文献を収録対象とし、一方の「参考文献目録」とは、評論家や日本近代文学研究者など、第三者がその作家を論じた文献を対象としている。つまり同じ「目録」という名が付与されていても、ある文献の著者が誰なのか（作家本人か、あるいは第三者か）という視点によって、その文献が「著書目録」か「参考文献目録」のうち、どちらに収録されるようになるのかが決定される。この区分がなされていることによって、日本近代文学研究者が「個人書誌」を利用する際、記述された文献の情報が作家本人の手による文章なのか、あるいは第三者の手によるものなのかということ容易に峻別できるようになるため、書誌作成者が「個人書誌」をこの二つに分けて作成することは、非常に重要な配慮となる。

こういった考え方に倣えば、文学館の「資料情報」も、その扱っている対象の性質の違いから、「文学館が所蔵する資料」と「文学館が発行する資料」の二つに分けて考えることが可能であり、むしろこの二つは明確に分けて考える方が、それぞれの資料の役割を理解

しやすくなると考えられる。

「文学館が所蔵する資料」とは、直筆原稿や遺品などのように、唯一無二の資料であるか、あるいはまた初版本や稀覯本など、現存する数の極端に少ない貴重な資料が多く含まれている。それらはときに展示などで公開されたりするが、その場合はガラスケース等に厳重にしまわれ、利用者が直接手を触れることができないようにすることが通例であり、基本的に閲覧の難しい資料が目立つものである。

一方の「文学館が発行する資料」とは、「冊子体¹⁶」や「パンフレット¹⁷」など、印刷された紙媒体や、CD-ROMやDVDなどの光メディアで新たに出版される資料であり、そこには「文学館が所蔵する資料」（ときに他の文学館や図書館などから借用した資料も含まれる）などを元にした事実や新たな知見、あるいはそれまでの研究の成果が、文学館の責任において編集されたものである。ものによってその部数は異なるであろうが、印刷物である以上、ある程度の発行部数が世に出回っているはずであり、例えば調布市武者小路実篤記念館では、1997年の時点で「図録」は一度に3,000部を、また、同様に山梨県立文学館では1,500部の製作がなされることが明らかにされている¹⁸。

極端に数の少ない稀覯本や直筆原稿などを中心とした「文学館が所蔵する資料」は、非常に貴重なものであるからこそ積極的に収集され、整理保存されるわけであるが、しかしそれは「文学館が発行する資料」とは明らかに別の意味を持つ資料であり、そもそも資料の整理、収集、保存、活用の問題と、資料の発行の問題を同列に論じること自体に無理があると考えられる。

すなわち、作家の遺した（残した）ものを指し示す意味で用いる「資料」と、事実や新たな知見を世に公開するために、文学館の責任において製作（編集・発行）された発行物を指す意味の「資料」とは、どちらも簡単に「資料」と呼べてしまう類のものであることに深く注意を払う必要がある、先に「資料情報」という用語に曖昧性が含まれると指摘したのも、このような理由による。

では、こういった「文学館が所蔵する資料」と「文学館が発行する資料」との性質の違いを明確にするには、どのような考え方をすればよいだろうか。この点については、これまでの「全国文学館協議会」における議論で取り上げられてきた、文学館の持つ「博物館的機能」と「図書館的機能」という2種類の機能に注目してみるといいだろう。

1.1.4 博物館的機能と図書館的機能

そもそも文学館に関して、そこに「博物館」や「図書館」としての性質が含まれることが意識され始めたのは、おそらく日本近代文学館の設立（1962年）に際して確立されたものと考えられる。例えば1963年には、日本近代文学館の運営方針として、“図書館と博物館とをはっきりと区別する方針をたて”¹⁹ることが明確になったとされるが、つまり文学

館が博物館と図書館の両方の性質を有することを目指すものという考え方は、既に 40 年以上もの歴史があるものと言える。

「図書館」という機能については、大久保乙彦が 1968 年に日本近代文学館を評して、“収蔵の範囲を主としてわが国明治以後の文学・演劇および類縁の科学資料に限っている点では、専門図書館的である”²⁰と述べているように、特に日本近代文学研究者のための「専門図書館」と見なされる傾向にある。このことは曾根博義らが、『国文学解釈と鑑賞』などの文学研究雑誌上において、日本近代文学研究のための施設として、1978 年頃から断続的に、国立国会図書館と共に文学館（特に、日本近代文学館）を取り上げ、「図書館」のひとつとしての側面から、その利用案内をまとめていることから、近年、日本近代文学研究における文学館への注目度が非常に高まっており、それらが重要な役割を期待されていることが窺い知れる²¹。

おそらくこういった経緯を踏まえながら、2001 年に中村稔は、“きわめて限られた少数の読者のための図書館的機能を果たすことが本来、文学館の役割である”²²と述べた上で、日本近代文学館や俳句文学館、大阪国際児童文学館、日本現代詩歌文学館などをその例として挙げ、その一方で、“だが、今日、多くの文学館に求められているのは、文学館の収蔵品をひろく展示し、公衆の閲覧に供する、いわば博物館的機能を果たすことである”²³と述べているように、文学館は「図書館」としての側面もありながら、「博物館」としての活動も期待されている機関であると述べている。

この中村稔の意見に関して、日本現代詩歌文学館の学芸員である豊泉豪は、“専門図書館と博物館、この文学館が持つ二つの機能を過不足無く両立させることは非常に難しいわけですが、だからと言って私は二つの機能は決して相反するものではない”²⁴と述べ、あるいはまた、世田谷文学館学芸課長の生田美秋は、中村稔の論考に多くの点で共感を示す一方、しかし日本近代文学館や俳句文学館が「図書館的機能」を重視しているのに対し、世田谷文学館のような地域に根ざす文学館は、それと同じくらい“博物館としての文学館”²⁵を重視していると述べ、中村の論考が様々な文学館の性質の違いに触れておらず、「図書館的機能」にウエイトを置く文学館を重視した意見であるという批判を提出している。

つまり、文学館がこのような「博物館的機能」と「図書館的機能」の 2 種類の機能を持っているということは、現在の文学館研究の通説となっているのである。これは先の中村稔の言説によって、「博物館的機能」と「図書館的機能」というような、より簡潔で明確な用語がはっきりと定着し、その後の議論の流れが決定づけられることになったためと考えられる。

ところで、「博物館」の機能とはいったいどのようなものなのだろうか。あるいは、「図書館」が期待されている機能とは何だろうか。文学館の機能を把握するためにも、ここでそれぞれの機能を考えてみたい。

そもそも「博物館」とは法律上の定義として、“歴史、芸術、民族、産業、自然科学等

に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関”²⁶のことを意味し、一方、「図書館」とは、“図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設”²⁷を指すものである。

これらの定義を踏まえながら、文学館がこの両方の性質を有しているとする仮定すると、文学館とは、文学者に関する図書や記録、その他必要な資料に関して、①収集すること、②整理すること、③保管すること、④一般公衆の利用に供すること、⑤一般公衆の教養に資する事業を行うこと、⑥調査研究を行うこと、などを目的とした機関であると言えるだろう。

文学館とはこのように、「博物館」としての側面と「図書館」としての側面の、両方の性質を持つがゆえに、その定義から大きく6種類の事業を行っていると考えられるのだが、そのような考え方に倣って見たとき、先に指摘した『資料と情報』や『群馬文学全集』などの「文学館が発行する資料」とは、文学館行っている事業のうち、⑥調査研究を行うことの成果が、印刷物として公表されたものだと考えることができるだろう。一方、①～⑤については、いずれも「文学館が所蔵する資料」についての事業であると考えられる。

本研究ではこういった「文学館が発行する資料」を、「発行物」と呼んでいきたい（〔1.2.2 研究の方法〕において明確な定義を行うことにする）が、⑥の性質を考えてみれば、文学館がこういった何らかの発行物を出版する事業（以後、単に「出版事業」と呼ぶ）は、特に珍しいものというわけではなく、一般的に行われているものであると予想される。これは博物館法第3条「博物館の事業」の第6項に、“博物館に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること”²⁸と明記されていることから、文学館が「博物館」としての機能を持つとするならば、当然行うべき事業の一つと考えられるためである。

しかしこれまでの文学館を対象とした研究において、こういった⑥調査研究の成果を発表するために作製された発行物というものは、果たしてどれほどの注目を浴びてきたのだろうか。

1.1.5 発行物に関する研究

これは残念ながら、これまでほとんど考えられてこなかったと言わざるを得ない。もちろん、先の『群馬文学全集』や『資料と情報』の報告がなされている事例があるように、まったく考えられてこなかったというわけではない。また、あるいはこれまでに他にも、各文学館の展覧会の「図録」などについて、簡単な一覧が作成されたという事例を確認す

することもできる²⁹。

だがそれらの報告がなされたことによって、果たして文学館の発行物についての議論が活発に行われるようになるほど、注目度が高いものであったのかと問うてみるとどうだろうか。結論を言い切ってしまうと、これまではそれに関する議論は行われておらず、文学館を対象とした研究の主流からは見過ごされてきた感があることは否めない。

前述したように、「博物館的機能」や「図書館的機能」といった用語が確立されたことにより、「文学館の所蔵する資料」については、文学館の機能を考えていく際に、これまで積極的に議論の俎上に上っていることが確認できる。確かに大まかな枠組みで考えてみれば、「博物館的機能」と「図書館的機能」という 2 種類のアプローチから文学館を捉えることは、その問題点を明確にし、議論をしやすくするためには有効な方法であると言えよう。現在では「博物館」も「図書館」も、共に広く認知されている施設であるため、①～④のような機能は、「図書館的機能」という名称から容易に想起される事業であるし、また、「博物館的機能」という呼び名からは、④の資料の展覧会や⑤のようなレクリエーションの開催事業が思い起こされる。

おそらくこれまで「全国文学館協議会」では、主に「図書館的機能」の問題点を議論するために「資料情報部会」を、また、「博物館的機能」の問題点を議論するために「展示情報部会」という場を設けていたものと考えられる。だが、「博物館」や「図書館」の定義を参考にしてみれば、文学館とは⑥のように、独自の調査研究を元にした何らかの発行物を出すという機能をも有していることになる。博物館という施設が法律上の定義として、案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書などの出版を事業のうちを含んで考えられているのは、それだけ⑥のような調査研究の成果の発表の場として作製される発行物は、自明のごとく出版されるものと考えられているのだろう。

例えば、日本で最初の博物館である文部省博物館（1872－1889 年）に始まり、その後を受け継ぐ、帝国博物館（1889－1990 年）、帝室博物館（1900－1947 年）、国立博物館（1947－1952 年）、東京国立博物館（1952 年－）などは、いずれも「図録」や「目録」などの発行に積極的であり、帝国博物館編『帝國博物館工藝部列品目録：全』（1897 年）、東京帝室博物館編『東京帝室博物館和漢書分類目録』（1902 年）、東京国立博物館編『東京国立博物館蔵書目録』（1957 年）や『日本古美術展図録』（1964 年）など、実に多くの発行物を作製していることが窺える。あるいは、紙の博物館編『紙の博物館収藏品』（2000 年）、国立歴史民俗博物館編『明治維新と平田国学』（2004 年）のように、他の博物館でもこういった発行物の作製は、数多くの事例を見受けることが可能である。つまりこれらは、博物館にとって非常に一般的な事業のひとつとして認識されているのであろう。

あるいはまた、図書館においてもこういった発行物の作製は重要な業務のひとつであり、例えば国立国会図書館の『日本全国書誌』（1977 年）や『雑誌記事索引』（1948 年－）などを始め、東京都立日比谷図書館編『五十年紀要』（1959 年）や同館編『諸橋文庫目録』

(1962年)など、図書館が責任編集となっている発行物も、数多く世に出されている。

だがそういった博物館や図書館と同じような機能を持つとされる文学館においては、発行物の作製という事業に関して、それが文学館の持つ重要な機能のひとつであると強く指摘されたことは、おそらくこれまでになかっただろう。そういった「図録」などの発行物の作製も、文学館の重要な事業のひとつであると同時に、その活動の歴史を刻印している資料群と考えられるが、それらに注目が集まっていない現状は、それだけ文学館の発行物に対する注目度や、その意義に関する考察が遅れ気味であることの証左となろう。

あるいはまた、先に述べたように、これまで文学館を主題とした書物は14冊発行されてきたが、しかしその内容はいずれもが文学館の概略を述べただけの、いわゆるガイドブック的な役割を果たすだけに留まっているのが現状である。これは誌面の都合上、逐一文学館の発行物を収録しきれないということがあるだろうが、一方でそういった「文学館の発行する資料」自体に主眼が置かれてこなかったという理由もあるだろう。つまりこれまでは、「文学館の発行物とはいったいどのようなものなのか」というような問題提起の視点がなかったのである。

1.2 研究の目的と方法

1.2.1 研究の目的

そこで本研究では、次の4点を明らかにすることを目的としたい。

まず一つ目に、これまでに述べてきたような文学館の発行物に大きく注目し、その作製がこれまでどれくらいなされてきたのかを確認することである。発行物は、これまでの「全国文学館協議会」における議論では、「資料情報」という曖昧な用語に含まれるものであったため、それほど重要視されることがなかったが、それを中心的に取り上げることで、「所蔵資料」を研究対象とする、これまでの議論の主流とは違った側面からアプローチしていくことができると考えられる。

そのためには、これまでに文学館の発行物にはどのようなものがあるのかを、逐一示していく必要があるだろう。先に群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬文学全集』、山梨県立文学館の『資料と研究』については言及しておいたが、このわずか二つの事例だけで、文学館の発行物の一般論を語るわけにはいかない。つまり、文学館の発行物に注目する以上、本研究ではできるだけ多くの文学館の事例を探らなければならず、数多くの事実の確認をすることがなによりも求められる。

二つ目に、そういった文学館の発行物というものは、どういった経緯で必要とされた結果、世の中に生み出されたものか、どういった目的でそれらの発行物を作製するにいたったのか、ということについて考えてみたい。そもそも文学館というものは、大きく「博物

館的機能」と「図書館的機能」とを遂行するために建てられるものであることは、先の中村稔の指摘からも理解できる。しかし、そこには「文学館が所蔵する資料」と「文学館が発行する資料」とが、まったく性質の異なるものであるということへの注意が払われていなかったように、発行物についてほとんど考察がなされず、結果として文学館職員ですら、その作製目的に対して明確な意識を払わなくなってしまうくらい、自明のごとく備わっている事業になっていると考えられる。つまりそこには、「なぜ発行物を作製するのか」というような、発行物の作製目的に関する文学館側の思想が見えて来づらい状況にあると言える。

もちろん、先に例示した『群馬文学全集』や『資料と情報』とが生み出される目的については、それぞれ次のように述べられているように、しっかりと明らかにされており、これまで発行物作製の目的がまったく語られてこなかったわけではない。

[群馬県立土屋文明記念文学館による『群馬文学全集』発行の目的]

文学館の業務を資料の収集、保存、研究、公開にとどめず、広く普及活動の一環として地域文学全集の刊行を企画した。

刊行の目的や刊行を通じて期待したことを挙げると次のとおりである。

- ・地域の文学遺産を総括し 20 世紀の文学のモニュメントとする。
- ・読むことのできなかつた優れた作品を紹介する。
- ・見落とされていた逸材を発掘する。
- ・既定の作品の再評価を行う。
- ・新しい文学運動の呼び水とする。
- ・文学資料の収集、研究を進める。
- ・「本」による近代文学館を築く。

この企画の背景には、今年 94 歳（筆者註：2000 年現在）になる館長の伊藤信吉が世紀の節目にあたり、永年にわたる文学研究や文芸評論活動を基に、人々の交流、体験、断片的な記憶などの証言的記録を自身の目から整理体系化し次世代に残そうという強い意図があった³⁰。

[山梨県立文学館による『資料と研究』発行の目的]

当館では、年 2 回の企画展を行っているが、資料公開の観点から見ると展示はあくまで一過性のものであり、図録掲載においても制限があるため、別の形での公開を考える必要があると痛感してきた。その一つの手だてとして、館報での翻刻に加え、「資料と研究」を発行することとした³¹。

以上のような発行物の作製目的についての事例報告はありつつも、これらはあくまで例

外的であり、文学館が自らの発行物について語る事例はそれほど多くはなく、しかもそれを幅広い事例を元に、まとまった形で論じた研究は見当たらない。そこで本研究では、そういったこれまでの議論では見落とされがちであった、文学館の発行物の作製目的をまとめてみることにしたい。

二つ目の観点については、さらに異なる側面も考える必要がある。それはつまり、文学館の発行物は、いったいどのような機能を持っているのか、ということである。「博物館的機能」も「図書館的機能」も、そこに「機能」という用語が与えられていることから分かるように、当然ながら文学館関係者以外の人々（展覧会の観覧者や、所蔵資料を閲覧する目的で来館する日本近代文学研究者など、広く文学館の利用者を意味する）や機関（所蔵資料の貸し出しなど、文学館は他の文学館などとの連携が行われている）に対して何らかの働きかけを及ぼすものである。つまりそこには、必ず誰かに対する何らかの影響を見て取ることができるはずであり、何の影響力も持たない「機能」などというものは考えにくい。

例えば「博物館的機能」であれば、展覧会の観覧者に対し、作家の生き様を伝えることで感銘を与えたり、新たな知見や事実を伝えたり、それまで一般に知られていなかったような作品を伝えたりすることができる。また、「図書館的機能」には、例えば日本近代文学研究者に対し、他のどの機関でも収蔵していない貴重な資料を閲覧可能としたり、事実確認などのレファレンスに応えたりすることができる。これらは全て、文学館の職員が文学館の利用者に対しての働きかけであるが、それらの働きかけを総称して「博物館的機能」や「図書館的機能」という名称が与えられていると考えられるだろう。

とすれば文学館は発行物を作製することで、利用者に対して何らかの働きかけを行う性質を有しているものと考えられる。つまりここでは、文学館は発行物を作製することによって、いったい誰に、どのような働きかけを行っているのだろうかということ（その影響について）を明らかにしていくことにしたい。これは文学館を利用する者がどういった立場にあるか（日本近代文学研究者、一般の利用者、団体など）によって、若干意味合いも変わってくると思うが、本研究では文学館を「専門図書館」のように利用している日本近代文学研究者への影響、つまり、日本近代文学研究への寄与という視点を中心として、その意義を探っていくことにしたい。すなわち、文学館がこういった発行物を出版することで、いったい日本近代文学研究にはどのような影響がもたらされているのか、ということの追求である。

三つ目は、発行物そのものの目的と意義を明らかにしたことを踏まえ、それらが個々の文学館でどのように実施されているのかを、文学館同士を比較することで、その特徴を見ていきたい。つまり一つ目や二つ目の考察は、あくまで発行物自体に主眼を置き、それらの意味を問うものであったが、ここでは文学館に主眼を置き、ある文学館ではどういった発行物を重要視しているのか、また、別の文学館ではどうなっているのか、ということ

調べることで、それぞれの文学館の出版事業の特徴を明らかにしていきたい。これは1館の事例のみを取り上げるのではなく、複数の文学館の事例を比較することで、それぞれの特徴が見いだせるものと考えられるため、できるだけ多くの文学館の事例を具体的に取り上げてみたい。

そして最後に四つ目は、文学館の発行物という側面から、日本近代文学研究と文学館との関連性を考えていきたい。これには大きく二つのアプローチが考えられる。一つ目は、文学館が日本近代文学研究者と関わりあうことで、どのような結果がもたらされるのか。つまり、文学館の存在は、日本近代文学研究者にどのような影響をもたらすのか、あるいは逆に、日本近代文学研究者は文学館を利用することで、どのような成果を得ることができるのか、ということの追求である。そして二つ目は、文学館が他の出版者と関わることで、日本近代文学研究に関するどのような発行物が生み出されるのか、ということである。つまり、文学館と他の出版者の協力関係を見ていくものである。

まとめてみると、本研究の目的は、以下の4項目（細分までを含めると、実質6項目）に集約されることになる。

- [I]文学館の発行物の事例の確認と提示。
- [II]文学館の発行物の性質についての考察。
 - [II-1]発行物と文学館との関係（作製することの目的やその役割）。
 - [II-2]発行物と利用者との関係（発行物の機能やその影響）。
- [III]文学館ごとの出版事業の相違について考察。
- [IV]日本近代文学研究における文学館の発行物との関係。
 - [IV-1]文学館と日本近代文学研究者との関係から。
 - [IV-2]文学館と他の出版者との関係から。

以上のように本研究では、[I]～[IV]の順番に文学館の発行物というものの持つ性質（目的、役割、機能など）を概観し、文学館による研究成果の発表の場としての発行物の位置づけを明確にするとともに、文学館の行っている出版事業の概要を探っていくことで、文学館が日本近代文学研究に対して果たしている機能の一側面を明らかにしてみたい。

1.2.2 研究の方法

それでは、こういった文学館の発行物自体の機能や、それを生み出す文学館の出版事業を探っていくには、どのようなアプローチをすれば良いのかを考えてみたい。

[I]については、先に例示した土屋文明記念文学館の『群馬文学全集』や山梨県立文学館の『資料と情報』の事例のように、文学館が実際に何らかの発行物を世に出しているこ

との具体例を提示すればよいだろう。

しかし、「全国文学館協議会」の会報上で取り上げられた事例は、わずかにこの 2 館における 2 例のみであった。このわずかな事例だけで、文学館の発行物についての一般論を導き出すのは、さすがに危険である。例えば、「この 2 例は文学館において特殊な事例ではないのか、もしかしたら他の館ではまったく発行物を出していない可能性はないのか」、あるいは、「この 2 館ではそれ以外の発行物を出していないのか」と問われたとき、それに反論できる他の事例を提示する必要があるだろう。つまり現状では、土屋文明記念文学館や山梨県立文学館はもとより、他の文学館の事例も含め、現在把握されている「文学館が発行する資料」の事例の提示（存在が確認されている発行物）が、圧倒的に少ないのである。

とするとまずは、「文学館の発行物にはどのようなものがあるのか」、「それらはこれまでどれくらいの点数が発行されているのか」、「その内容にはどういったことが記述されているのか」などを、なるべく多くの文学館について調べ上げる必要があるだろう。つまり、文学館の発行物の現状を、事実として把握していくことが何よりも優先される。そして尚かつ、それらはできる限り網羅的に把握することが望ましい。とすると、それぞれの文学館が設立されてから現在に至るまでのあらゆる発行物に目を配り、それらを一覧できる形に整える必要がある。そのために本研究では、[I]を明らかにするために、まず始めに、文学館の発行物に関する「書誌」の作成を行うことにする。

ただし、ここで問題になることは、文学館の発行物というものの意味する範囲（定義）である。すなわち、何をもって文学館の発行物とみなすかということであるが、そもそも文学館が出版事業に関わろうとする場合、それは図書館情報学で言うところの「団体著者」に相当する機関であると考えられる。「団体著者」とは、“特定の名称によって識別され、かつ一つの実体として活動するか、または活動することのありうる組織体もしくは個人の集合体”であり、“その団体が、ある著作の知的もしくは芸術的内容の創造、ないしは具現（演奏等を含む）に責任を有するか、または寄与するところがある”場合に用いられる呼称である³²。

つまり文学館の発行物とは、そういった団体著者としての文学館が、編集者や発行者として名を連ねた著作物と言うことができる。本研究では、平野英俊が行った「政府刊行物」の定義を参考にしながら、文学館の発行物について、次のように定義付けをしてみたい³³。

文学館の発行物とは、「文学館が著作者、編者、監修者あるいは発行者となるなど、文学館がその著作物に対し、直接なんらかの責任をもつことが明確であるもの」とする。

すなわち本研究では、「編集」あるいは「監修」、さらには「発行」に携わった機関として、表題紙や奥付などに文学館名が記されている発行物をその対象とする。「編集」機関、

あるいは「監修」機関とは、著者名や編者名などと同じく、図書館の目録で言うところの「責任表示³⁴」の意味を有しており、誰が発行物の内容記述の責任を負っているかということを示している。一方の「発行」機関とは、「出版者³⁵」を示しており、こういった機関が刊行にあたっての責任を負っているのかを示している。

そういった発行物を収集し、それらを文学館ごとにいくつかの項目に分類したうえで、それぞれについての「書名」、「出版年」、「編集者（あるいは監修者）」、「発行者」、「目次」を列挙して、文学館の発行物に関する「書誌」を作成していく。これによって、「ある文学館の発行物にはどのようなものがあるか」、「ある文学館の発行物は、これまで何点出されているか」、「そこにはどのような内容が記述されているのか」などを把握し、これまでの文学館の発行物がどれだけ世に出されてきたのかを把握することが可能となる。

また、[Ⅱ-1]については、発行物の「編集」や「監修」、「発行」を行う文学館と、作製された発行物そのものとの関係性を考察していくことにしたい。これを行うためには、まずは文学館の発行物をその性質によって分類していく過程を必要とする。文学館の発行物には、「図録」や「目録」、「館報」などの種類があるが、「図録」は展覧会の記録、「目録」は所蔵資料の記録、「館報」は文学館活動の記録というように、その作製目的が大きく異なるものであると考えられる。詳細な考察は本論に譲るが、「図録」であれ「目録」であれ、発行物とは本来、それが何らかの理由で必要とされるからこそ作製されるのであって、無目的に作製されるものはひとつとしてないはずである。これについては、発行物の種類（その分類と定義については、[1.4.2 発行物の分類と定義]にて述べる）ごとに考えていくことにしたい。

[Ⅱ-1]の観点は、発行物の送り手となる文学館と、発行物そのものとの関係性を探るものであることに対し、[Ⅱ-2]は、発行物とその受け手（日本近代文学研究者を含む、文学館の利用者の全体）との関係性を探るものである。言い換えれば、発行物とそれを読む立場にある者（読者）とがどのように関わっているのかを問うものである。発行物とは、送り手（文学館）と受け手（読者）とを繋ぐ媒体（メディア）であり、[Ⅱ]を調べることの目的は、この三者の関係を明らかにしていくことであると言えるだろう。本研究では特に、利用者としての日本近代文学研究者に対する影響を特に重要視し、文学館の発行物と日本近代文学研究との関連性を中心的に検討してみたい。

そして[Ⅲ]については、発行物というものを、文学館の出版事業という枠組みから捉えていくものである。つまり文学館の出版事業とは、非常に多種多様な形態からなる発行物で構成されているものであり、例えば、ある一つの文学館で「図録」も「目録」も「館報」も、というように、複数の種類の発行物を出している事例があるとする。その一方で、「図録」と「館報」の2種類だけを発行している文学館もあり、「図録」のみ、あるいは「館報」のみの発行という文学館もあるだろう。これらの具体例やその考察は、[第3章 文学館の出版事業]に譲ることにするが、つまり文学館の発行物は、すべての文学館で同じ

ように作製されているわけではなく、文学館ごとに固有の方向性を持っていると考えられる。本研究では、ある発行物を出しているのか出していないのかという観点を多くの文学館に当てはめ、その結果を比較することで、それぞれの文学館の出版事業の特徴を掴んでいきたい。

そして最後に[IV]であるが、まず[IV-1]においては、三浦綾子記念文学館を例に取り上げ、そこに関わってきた日本近代文学研究者たちが、「個人書誌」という日本近代文学研究上の重要な文献の作成にどのように関わり、結果として「書誌作成」がどのような過程で成熟していったのかを、文学館開館以前と以後を比較することで、文学館がそこにどのような影響を与えたのか、その重要性を示してみたい。そして[IV-2]に関しては、日本近代文学館が作製してきた数多くの「復刻」を例に取り上げ、それに関わってきたほるぷやほるぷ出版との関係を見ていくことで、文学館が他の出版者と関わることが、どれほど日本近代文学研究に対して強い影響力を持っているのかを考えていくことにしたい。

1.3 本研究の対象とする文学館

文学館の館数は、先に木原直彦の調査について言及した際に触れたように、現在では 555 館の存在を確認できるが、その内容は一般には「文庫」や「生家」と呼ばれる施設をも含んでおり、一般に「文学館」という用語で想起されるような、独立した建物を持ち、展示会を行うような施設というものだけではなかった。言うなれば、「文学館」という用語が意味する範囲の線引きは非常に難しいものであり、これは個々の施設の特性が一樣に語ることが可能なほど同質のものが揃っているわけではなく、それぞれが固有の性質を有しているためと考えられる。

しかし本研究では、「文学館」を研究対象として設定する以上、たとえひとつの仮説に過ぎないとしても、何らかの定義付けを行っておく必要はあるだろう。そこで本研究では、博物館法の定義を参考にしながら、「文学館」という用語の意味する範囲を、次のように定義してみたい³⁶。

文学館とは、文学に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関のことである。

以上のように本研究では、文学に関する資料を取り巻く活動を行っている機関を、文学館と呼んでいきたいが、それらは規模や活動内容の面で、個々の特徴が際立っているため、それらの特徴を把握するには、文学館同士の比較が欠かせない。しかし木原直彦が示した

555 館全てを一度に検討するのは、あまりにも膨大であるため、本研究で総括的に扱うのは少々難しい。そのため、当初から遺漏があることを承知した上で、555 館からある程度の館数にまで絞り込んでいくことにしたい。

ではその線引きをどのようにすればよいだろうか。その解決策として、本研究における調査対象を定める際には、先にも言及した「全国文学館協議会」という枠組みを採用したい。すなわち、「全国文学館協議会」に加盟していることを文学館であることの一つの条件とし、この加盟文学館を対象に限定したうえで研究を進めていくこととする。

もちろん、「全国文学館協議会」に限定することで調査対象から漏れてしまう文学館が多数出てきてしまうことは充分承知しており、「全国文学館協議会」に加盟していない館が文学館に該当しないと言いたいわけではない。ただ本研究の目的は、あくまで文学館の発行物と出版事業の調査と考察であり、ある施設が文学館であるか否かといった是非を問うことではないことではないため、ある程度調査対象の選別に不備や遺漏があることを承知で「全国文学館協議会」加盟文学館という線を引きことにする。対象を絞ることによって、文学館の網羅的な調査とはならないが、「全国文学館協議会」に加盟している文学館は、現在開館準備中のものを除けば、すべて独立した建物を有しており、また規模が大きく、名も通っている代表的な文学館がほぼ加盟していることから、「全国文学館協議会」という枠組み内だけでも文学館の発行物の考察を行うことに支障はないと考えている。

また、調査期間は 2004 年度（2005 年 3 月 31 日）までとし、それ以前に出版された「全国文学館協議会」加盟文学館の発行物を見ていくこととする。

ただし、「全国文学館協議会」は 1996 年の発足以降、加盟文学館数に増減があるため、本研究では「2005 年 5 月 23 日現在」という基準を設けることにする。2005 年 5 月 23 日の日付の根拠は、「全国文学館協議会会報」の第 29 号（2005 年 6 月 16 日発行、2005 年度の最初の号に該当する）に掲載された会員名簿の会員館数確定日付であることによっており、これによって 2004 年度までの加盟文学館数を確定することができる³⁷。このように線を引いた上で「全国文学館協議会」に加盟している文学館の数を数えてみると、全部で 81 館の文学館がその対象となる。

全 81 館の加盟文学館は、以下の表 1-1 の通りである。文学館名や所在地として記した自治体名は、前述した「全国文学館協議会」会員名簿（2005 年 5 月 23 日現在のもの）を用いており、名簿の記載順に排列した。各館の名称は、会員名簿に記載された原文のままであり、冒頭の番号は本研究における各館の固有の番号とし、単に【 】と数字で表記されたものは、この一覧に従うものとする。また、一覧の中で【42】小諸市立藤村記念館と【49】藤村記念館とが似た名称のため、紛らわしいところだが、これも「全国文学館協議会」の会員名簿の原文のまま記したものであり、その記述方針に従い、館名の冒頭に「小諸市」という自治体名を付けるか付けないかで区別することにしたい。

表 1-1 : 「全国文学館協議会」加盟文学館一覧 (2005年5月23日現在)

文学館名	所在地	設立年
【01】旭川・地域文学研究会 ※	北海道旭川市	-
【02】有島記念館	北海道虻田郡ニセコ町	1978年
【03】旭川市井上靖記念館	北海道旭川市	1993年
【04】市立小樽文学館	北海道小樽市	1978年
【05】函館市文学館	北海道函館市	1993年
【06】(財)北海道文学館	北海道札幌市	1988年
【07】三浦綾子記念文学館	北海道旭川市	1995年
【08】青森県近代文学館	青森県青森市	1994年
【09】弘前市立郷土文学館	青森県弘前市	1990年
【10】(財)石川啄木記念館	岩手県岩手郡玉山村	1969年
【11】日本現代詩歌文学館	岩手県北上市	1984年
【12】仙台文学館	宮城県仙台市	1998年
【13】原阿佐緒記念館	宮城県黒川郡大和町	1990年
【14】(財)斎藤茂吉記念館	山形県上山市	1967年
【15】いわき市立草野心平記念文学館	福島県いわき市	1998年
【16】郡山市こおりやま文学の森資料館	福島県郡山市	2000年
【17】古河文学館	茨城県古河市	1998年
【18】田山花袋記念文学館	群馬県館林市	1987年
【19】群馬県立土屋文明記念文学館	群馬県群馬郡群馬町	1996年
【20】徳富蘆花記念文学館	群馬県北群馬郡伊香保町	1989年
【21】水と緑と詩のまち前橋文学館	群馬県前橋市	1993年
【22】大宮文学館〈仮称〉 ※	埼玉県さいたま市	-
【23】さいたま文学館	埼玉県桶川市	1997年
【24】文京区立鷗外記念本郷図書館	東京都文京区	1962年
【25】(財)海音寺潮五郎記念館	東京都世田谷区	1979年
【26】(財)世田谷文学館	東京都世田谷区	1995年
【27】立原道造記念館	東京都文京区	1992年
【28】(財)田端文士村記念館	東京都北区	1993年
【29】東京都江戸東京博物館	東京都墨田区	1990年
【30】(財)日本近代文学館	東京都目黒区	1962年
【31】俳句文学館	東京都新宿区	1976年
【32】調布市武者小路実篤記念館	東京都調布市	1985年
【33】(財)吉川英治記念館	東京都青梅市	1966年

【34】大佛次郎記念館	神奈川県横浜市.....	1976年
【35】神奈川県立神奈川近代文学館.....	神奈川県横浜市.....	1982年
【36】鎌倉文学館	神奈川県鎌倉市.....	1985年
【37】山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館	山梨県南都留郡山中湖村	1998年
【38】山梨県立文学館	山梨県甲府市	1989年
【39】池波正太郎真田太平記念館	長野県上田市	1998年
【40】臼井吉見文学館	長野県南安曇郡堀金村.....	1991年
【41】軽井沢高原文庫	長野県北佐久郡軽井沢町	1985年
【42】小諸市立藤村記念館	長野県小諸市	1952年
【43】堀辰雄文学記念館.....	長野県北佐久郡軽井沢町	1993年
【44】(財)会津八一記念館	新潟県新潟市	1972年
【45】(財)石川近代文学館	石川県金沢市	1968年
【46】泉鏡花記念館.....	石川県金沢市	1999年
【47】徳田秋聲記念館	石川県金沢市	2005年
【48】室生犀星記念館	石川県金沢市	2002年
【49】藤村記念館	岐阜県中津川市.....	1947年
【50】熱海文学館〈仮称〉 ※.....	静岡県熱海市	-
【51】(財)芹沢・井上文学館.....	1970年
芹沢光治良文学館	静岡県沼津市	
井上靖文学館	静岡県駿東郡長泉町	
【52】浜松文芸館	静岡県浜松市	1988年
【53】新美南吉記念館	愛知県半田市	1994年
【54】加悦町江山文庫	京都府与謝郡加悦町	1994年
【55】茨木市立川端康成文学館	大阪府茨木市	1985年
【56】大阪府立国際児童文学館	大阪府吹田市	1984年
【57】司馬遼太郎記念館.....	大阪府東大阪市.....	1996年
【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	兵庫県芦屋市	1988年
【59】姫路文学館	兵庫県姫路市	1991年
【60】佐藤春夫記念館	和歌山県新宮市.....	1989年
【61】森鷗外記念館.....	島根県津和野町.....	1995年
【62】(財)吉備路文学館	岡山県岡山市	1985年
【63】勝央美術文学館	岡山県勝田郡勝央町	2005年
【64】ふくやま文学館	広島県福山市	1999年
【65】中原中也記念館	山口県山口市	1994年

【66】徳島県立文学書道館	徳島県徳島市	2002年
【67】菊池寛記念館	香川県高松市	1992年
【68】壺井栄文学館	香川県小豆郡内海町	1992年
【69】『坂の上の雲』記念館〈仮称〉 準備担当 ※	愛媛県松山市	-
【70】松山市立子規記念博物館	愛媛県松山市	1981年
【71】本山町立大原富枝文学館	高知県長岡郡香北町	1991年
【72】上林暁文学館	高知県幡多郡大方町	1998年
【73】高知県立文学館	高知県高知市	1997年
【74】香北町立吉井勇記念館	高知県香美郡香北町	2003年
【75】火野葦平資料館	福岡県北九州市	1985年
【76】福岡市文学館	福岡県福岡市	2002年
【77】松本清張記念館	福岡県北九州市	1998年
【78】長崎市立遠藤周作文学館	長崎県長崎市	2000年
【79】熊本近代文学館	熊本県熊本市	1985年
【80】かごしま近代文学館	鹿児島県鹿児島市	1997年
【81】川内まごころ文学館	鹿児島県薩摩川内市	2004年

(※印は準備中の館を示す。)

以上の通り、日本全国の北から南まで、全 81 館が本研究における調査対象となる。

ただし、このうちの 4 館は現在準備中（※印の付いたもの）であるため、これらは考察の対象から外して考えることにする。また、【29】東京都江戸東京博物館は、「近世」の資料を扱い、それらに関する「図録」などを作製しているが、「近代文学」を対象とする本研究の趣旨から若干外れるため、同館も考察の対象にも含めていない。以上の理由から、【01】旭川・地域文学研究会、【22】大宮文学館〈仮称〉、【29】東京都江戸東京博物館、【50】熱海文学館〈仮称〉、【69】『坂の上の雲』記念館〈仮称〉準備担当を除き、現在開館している残りの 76 館を調査の対象とする。

対象とする文学館は以上の通りだが、亀井秀雄が“成立事情、目的、規模、性格（総合文学館か、個人顕彰文学館か）、財政的な裏づけ、研究的な機能の有無、サービスの面から見て千差万別であって、共通点を見出すことは極めて難しい”³⁸と述べているように、文学館は、その規模や目的が館によって大きく異なっているものであり、それぞれが固有の性格を有していると考えられる。

例えばその規模を見ていくだけでも違いは明らかなのだが、この点については、坪井賢一が全国の 36 箇所の文学館について、「全国の代表的な文学館」という表に詳しくまとめている³⁹。それを参考にすれば、例えば【30】日本近代文学館は、設立主体が「財団法人」

で専門職員数が13人となっている。これと同様に、【35】神奈川県立神奈川近代文学館は「県」の設立で専門職員数が6人、【06】(財)北海道文学館は「道」の設立で専門職員数が2人、【36】鎌倉文学館は「市」の設立で専門職員数が3人、【26】(財)世田谷文学館は「区」の設立で専門職員数が6人、【20】徳富蘆花記念文学館は「町」の設立で専門職員数が1人、【41】軽井沢高原文庫は「個人」の設立で専門職員数が1人、【08】青森県近代文学館は「県」の設立で図書館に併設されているため、文学館の専門の職員は居ないという状態になっていることが見てとれる。以上のように、専門職員数だけを見ていくだけでも、個々の文学館で違いが見られることが確認できる。

以上のように文学館は、それぞれが固有の性質を有しており、その活動内容は大きく異なっているのだが、それらに対する大雑把な分類は可能である。現在ではこういった文学館の規模の観点から、大きく分けて3種類に分類することができると考えられている。この点については、例えば中村稔が次のように述べている⁴⁰。

文学館といっても、その収集する文学関係資料の対象を、明治以降、全国的にみて文学史的に業績を評価されるような文学者の全部とする、日本近代文学館のような施設から、特定の地域ゆかりの文学者に関する資料を対象とする鎌倉文学館、高知県立文学館等や、子規記念博物館、中原中也記念館等の、特定の文学者の記念館に至るまで、じつにさまざまな性格の文学館がある。

ここで指摘されているように、文学館の規模という観点から見た3種類の分類とは、“明治以降、全国的にみて文学史的に業績を評価されるような文学者の全部とする”もの、“特定の地域ゆかりの文学者に関する資料を対象とする”もの、そして“特定の文学者”を対象とするものであることがわかる。

このうち、二番目の項目に属すると考えられる文学館が、それに属するための決定的な要因は、ある特定の「地域」を対象としていることであり、また、同様に三番目の項目に属すると考えられる文学館がそれに属するための要因は、ある特定の「個人」をその対象としていることである。それに対し、一番目の項目が二番目、三番目とは異なる視点から分類されているとすると、その視点は二番目と三番目の視点と排中律の関係になくはならない。すなわち、「地域」によって対象とする作家を制限されることもなく、また、ある特定の「個人」についてのみ、その対象とするわけでもないということになる。

「全国文学館協議会」に加盟している文学館の中の76館のうち、「地域」や「個人」によってその対象とする作家を限定していない文学館は、前出の【30】(財)日本近代文学館の他に、【11】日本現代詩歌文学館、【31】俳句文学館、【35】神奈川県立神奈川近代文学館、【56】大阪府立国際児童文学館の計5館がそれに該当するものと考えられる。このうち、【35】神奈川県立神奈川近代文学館は「神奈川」という地域名が冠してあるが、先

に引用した『文学館のある旅 103』の記述からもわかるように、もともと【30】(財)日本近代文学館の姉妹館として建設されたため、その対象とする作家は特に「神奈川」に限ってはならず、【30】(財)日本近代文学館と同じく、実質「日本近代文学」をテーマとして掲げられた文学館であるといえる。同様に【11】日本現代詩歌文学館は「詩歌」、【31】俳句文学館は「俳句」、【56】大阪府立国際児童文学館は「児童文学」をその対象としていることがわかる。

これら「近代日本文学」「詩歌」「俳句」「児童文学」という語を見れば分かるように、これら五つの文学館は、収集対象とする資料を「地域」や「作家」によって決めているわけではなく、日本近代文学史上のあるテーマを中心に掲げて活動を行っていることがわかる。本研究ではこのような文学館を「総合文学館」と呼ぶことにする⁴¹。これと同様に二番目の「地域」によって収集対象とする資料を決定している文学館を「地域文学館」、また三番目のように、個人を対象とする文学館を「個人文学館」と呼んでいくことにする。

本研究で対象とする「全国文学館協議会」の加盟文学館が、総合文学館、地域文学館、個人文学館のどれに該当するのかは、以下の通りである。

a. 総合文学館

「全国文学館協議会」の加盟文学館の中で総合文学館に該当する館は、以下の表 1-2 の通り、全 5 館である。合わせて設立年月と 2005 年 3 月までの活動年数を示し、活動年数の長い順に並べている。

表 1-2 : 「全国文学館協議会」に加盟する総合文学館

	館名	設立年月	活動年数
1	【30】(財)日本近代文学館.....	1962年 5月	42.92
2	【31】俳句文学館.....	1976年 3月	29.08
3	【35】神奈川県立神奈川近代文学館.....	1982年 4月	23.00
4	【11】日本現代詩歌文学館.....	1984年 4月	21.00
5	【56】大阪府立国際児童文学館.....	1984年 5月	20.92

以上の通り、総合文学館は、1960年代に1館、1970年代に1館、1980年代に3館が活動を開始しており、文学館全体から見ても活動年数が長い館が多いことが窺える。

b. 地域文学館

「全国文学館協議会」の加盟文学館の中で地域文学館に該当すると考えられる館(館名

に自治体名が冠されているもの) は、以下の表 1-3 の通り、全 29 館である。こちらも活動年数の長い順に並べている。

表 1-3 : 「全国文学館協議会」に加盟する地域文学館

	館 名	設立年月	活動年数
1	【45】(財) 石川近代文学館.....	1968年 1月	37.25
2	【04】市立小樽文学館.....	1978年 11月	26.42
3	【62】(財) 吉備路文学館.....	1985年 3月	20.08
4	【41】軽井沢高原文庫.....	1985年 8月	19.67
5	【36】鎌倉文学館.....	1985年 10月	19.50
6	【79】熊本近代文学館.....	1985年 10月	19.50
7	【52】浜松文芸館.....	1988年 4月	17.00
8	【06】(財) 北海道文学館.....	1988年 11月	16.42
9	【38】山梨県立文学館.....	1989年 11月	15.42
10	【09】弘前市立郷土文学館.....	1990年 3月	15.08
11	【59】姫路文学館.....	1991年 4月	14.00
12	【05】函館市文学館.....	1993年 4月	12.00
13	【21】水と緑と詩のまち前橋文学館.....	1993年 7月	11.75
14	【28】(財) 田端文士村記念館.....	1993年 9月	11.58
15	【08】青森県近代文学館.....	1994年 3月	11.08
16	【54】加悦町江山文庫.....	1994年 10月	10.50
17	【26】(財) 世田谷文学館.....	1995年 4月	10.00
18	【63】勝央美術文学館.....	1995年 6月	9.83
19	【19】群馬県立土屋文明記念文学館.....	1996年 4月	9.00
20	【73】高知県立文学館.....	1997年 4月	8.00
21	【23】さいたま文学館.....	1997年 11月	7.42
22	【80】かごしま近代文学館.....	1997年 12月	7.33
23	【12】仙台文学館.....	1998年 4月	7.00
24	【17】古河文学館.....	1998年 10月	6.50
25	【64】ふくやま文学館.....	1999年 4月	6.00
26	【16】郡山市こおりやま文学の森資料館.....	2000年 2月	5.17
27	【76】福岡市文学館.....	2002年 5月	2.92
28	【66】徳島県立文学書道館.....	2002年 10月	2.50
29	【81】川内まごころ文学館.....	2004年 1月	1.25

以上のように、全 29 館が館としての活動を行っていることになる。ただし、【19】群馬県立土屋文明記念館は、個人名が冠されているが、実質は「群馬県」という地域を重視した文学館であり、その内容も土屋文明個人に留まっていないことから、地域文学館に含めることが妥当と判断した。

地域文学館は、1960 年代に 1 館、1970 年代に 1 館、1980 年代に 7 館、1990 年代に 16 館、2000 年代に 4 館が活動を開始しており、特に 1990 年代の増加が目立っている。

c. 個人文学館

一方、「全国文学館協議会」加盟文学館の中で、個人文学館に分類されると考えられる館（館名に個人名が冠されているもの）は、以下の表 1-4 の通り、全 42 館である。こちらも活動年数の長い順に並べている。

表 1-4：「全国文学館協議会」に加盟する個人文学館

	館 名	設立年月	活動年数
1	【49】藤村記念館.....	1947年 11月	57.42
2	【42】小諸市立藤村記念館.....	1952年 2月	53.17
3	【24】文京区立鷗外記念本郷図書館.....	1962年 1月	43.25
4	【33】(財)吉川英治記念館.....	1966年 4月	39.00
5	【14】(財)斎藤茂吉記念館.....	1967年 11月	37.42
6	【10】(財)石川啄木記念館.....	1969年 9月	35.58
7	【51】(財)芹沢・井上文学館.....	1970年 5月	34.92
8	【44】(財)会津八一記念館.....	1972年 5月	32.92
9	【34】大佛次郎記念館.....	1976年 3月	29.08
10	【02】有島記念館.....	1978年 4月	27.00
11	【25】(財)海音寺潮五郎記念館.....	1979年 12月	25.33
12	【70】松山市立子規記念博物館.....	1981年 4月	24.00
13	【55】茨木市立川端康成文学館.....	1985年 5月	19.92
14	【32】調布市武者小路実篤記念館.....	1985年 8月	19.67
15	【75】火野葦平資料館.....	1985年 8月	19.67
16	【18】田山花袋記念文学館.....	1987年 4月	18.00
17	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館.....	1988年 10月	16.50
18	【20】徳富蘆花記念文学館.....	1989年 11月	15.42
19	【60】佐藤春夫記念館.....	1989年 11月	15.42
20	【13】原阿佐緒記念館.....	1990年 6月	14.83

21	【40】 臼井吉見文学館.....	1991年 4月	14.00
22	【71】 本山町立大原富枝文学館.....	1991年 11月	13.42
23	【68】 壺井栄文学館.....	1992年 6月	12.83
24	【27】 立原道造記念館.....	1992年 7月	12.75
25	【67】 菊池寛記念館.....	1992年 11月	12.42
26	【03】 旭川市井上靖記念館.....	1993年 3月	12.08
27	【43】 堀辰雄文学記念館.....	1993年 4月	12.00
28	【65】 中原中也記念館.....	1994年 2月	11.17
29	【53】 新美南吉記念館.....	1994年 3月	11.00
30	【61】 森鷗外記念館.....	1995年 4月	10.00
31	【07】 三浦綾子記念文学館.....	1995年 12月	9.33
32	【57】 司馬遼太郎記念館.....	1996年 11月	8.42
33	【72】 上林暁文学館.....	1998年 4月	7.00
34	【15】 いわき市立草野心平記念文学館.....	1998年 7月	6.75
35	【37】 山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館	1998年 7月	6.75
36	【77】 松本清張記念館.....	1998年 8月	6.67
37	【39】 池波正太郎真田太平記念館.....	1998年 10月	6.50
38	【46】 泉鏡花記念館.....	1999年 11月	5.42
39	【78】 長崎市立遠藤周作文学館.....	2000年 3月	5.08
40	【48】 室生犀星記念館.....	2002年 8月	2.67
41	【74】 香北町立吉井勇記念館.....	2003年 4月	2.00
42	【47】 徳田秋聲記念館.....	2005年 4月	0.00

個人文学館は、1940年代に1館、1950年代に1館、1960年代に4館、1970年代に5館、1980年代に8館、1990年代に19館、2000年代に4館が活動を開始しており、こちらも地域文学館と同じく、特に1990年代の増加が目立っている。だが1940年代、1950年代の文学館も見受けられるように、歴史的には総合文学館よりも早い時期に活動を開始したものも見受けられる。

以上の通り、本研究の調査対象となる文学館76館は、総合文学館5館、地域文学館29館、個人文学館42館に分けて考えることができる。本研究において、総合文学館、地域文学館、個人文学館という用語を用いた場合には、それぞれ以上に挙げた5館、29館、42館の文学館を総称する意味として用いることとする。また、単に文学館という用語を用いたときは、総合文学館、地域文学館、個人文学館を総称するものとし、研究対象として設定した全76館を意味することとする。

1.4 本研究における用語の定義

1.4.1 所蔵資料と発行物

先に「資料情報」という用語の曖昧性を指摘しておいたが、その点に注意したいがため、本研究ではなるべく「資料」という用語を用いないように注意を払っている。これは単に「資料」と記述してしまうと、「文学館が所蔵する資料」なのか、あるいは「文学館が発行する資料」なのかが不明確となり、その違いが分かりづらくなるためである。

そのため本研究では、「文学館が所蔵する資料」については、「所蔵資料」というように「所蔵」という意味を強調するなどの措置をとるか、あるいは文脈から明らかに「所蔵」の意味が判断できる場合にのみしか用いていない。一方の「文学館が発行する資料」については、「発行物」と呼ぶことにし、そこに「資料」という用語を一切含めないことで、その違いを明確にすることにする。

つまり本研究で「資料」という用語が使われるのは、作家の直筆原稿や作品、遺品など、従来文学館が収集、保存、展示などに用いてきたものを指す意味に用い、文学館が責任編集や発行機関として名を連ねた「図録」や「館報」などを指し示す場合には、「発行物」と呼ぶことで用語の統一を図っていくことにする。

また、引用文中等に「出版物」「刊行物」という用語が使用されることがあるが、本研究ではそれら 2 種類の用語については、「発行物」と同様の意味を持つものとして考えていくことにする。

1.4.2 発行物の分類と定義

次に本研究の議論の中心となる、文学館の発行物にはどのような種類があるのかを見ていきたい。これは先に述べた〔1.2 研究の目的と方法〕において言及した、〔I〕や〔II〕を明らかにするためには必須の項目となり、また、「書誌」を作成していく上では、こういった発行物の性質にしたがった分類は、後々の「書誌」の利用を考えた場合には、欠かすことのできない配慮となる。

文学館の発行物の定義は、先に述べておいたように、奥付や表題紙等に「編集」や「監修」、あるいは「発行」の機関として文学館の館名が記載されている発行物をそれに該当するものとする。このように定義した上で、それにはどのような種類があるのかを考えると、その機能や目的の面から、以下の表 1-5 における〔イ〕～〔へ〕のように、大きく 6 つの性質を持ち、それらはさらに細分化され、合計で 17 種類の形態を見いだすことができると考えられる。

表 1-5：文学館の発行物の性質とその形態

発行物の性質	発行物の形態
[イ]展示の記録	①図録
[ロ]所蔵資料の記録	②目録
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	③紀要，④研究誌，⑤研究書，⑥記録集，⑦事典
[ニ]対象作家の作品	⑧作品，⑨復刻，⑩複製，⑪翻刻，⑫全集
[ホ]利用者の作品	⑬文芸雑誌，⑭創作集，⑮受賞作品集
[ヘ]文学館活動の記録	⑯館報，⑰記念誌

では、以上の用語の定義をしておきたい。具体例を示しながら定義を行った方が理解しやすいと思われるが、それぞれの定義の間にそれを挟むことで、かえって冗長な記述になってしまうことを避けたいがために、ここでは定義のみを簡潔に示すに留め、具体例は別に示した〔付属資料 1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕に譲ることとする。

- ①図録…………… 文学館において催される展覧会（常設展や企画展のこと）の際に作製される、図版や文章が入り交じった展示資料の解説書のこと。図録はさらに、「常設展」「企画展」「展覧会会期後発行」の 3 種類に分けられる。
- ②目録…………… 文学館の所蔵資料一点一点の特徴を分析して、その特徴を一定の記述規則に基づき書誌データ（図書ならば、著者名、タイトル、出版者、出版年、ページ数など）に表現し、これらのデータを探索しやすいように排列したリストのこと⁴²。
- ③紀要…………… 文学館に提出された論文や研究発表を掲載する機関誌のことで、学術報告や研究報告を目的とした逐次刊行物のこと⁴³。
- ④研究誌…………… 文学館に提出された研究発表を掲載したものだが、紀要のように逐次的ではなく、かつ団体編集のもの。
- ⑤研究書…………… 文学館に提出された研究発表を掲載したものだが、紀要のように逐次的ではなく、かつ個人の著作であるもの。
- ⑥記録集…………… 講演会やシンポジウムなどの内容を活字化したもの。
- ⑦事典…………… ある編集方針にしたがって物や人物、ことがらを表す言葉を収集、抽出し、それらを見出しとして音順あるいは主題によって排列し、それぞれについて簡潔に解説したレファレンスブックのこと⁴⁴。
- ⑧作品…………… 文学館がその対象とする作家の作品を、オリジナルの形態で発行したもの（他に類を見ないもの）のこと。
- ⑨復刻…………… 過去に他の出版者から発行された活版印刷された作品を、改めて同じ

装幀をほどこして原本のまま再現したもの。

- ⑩複製..... 資料を原形のままに模して再製したもの。復刻と異なり、活版印刷された作品以外の資料を原本としている。
- ⑪翻刻..... 作家の日記や書簡など、手書きの状態の資料を活字化し、再編集してまとめたもの。
- ⑫全集..... 一人の著者か複数の著者かを問わず、多くの著作から代表的なものを選び収録した図書のこと⁴⁵。
- ⑬文芸雑誌..... 志を同じくする同好の人々が自らの作品の発表の場や情報交換の場とするために執筆、編集、刊行する逐次刊行物で、文学館が対象とする作家の作品ではなく、利用者の作品をまとめたもの⁴⁶。
- ⑭創作集..... 利用者の作品を集め、編纂したもの。文芸雑誌との違いは、逐次的か否かということである。
- ⑮受賞作品集.... 文学館が何らかの賞を企画し、一般の人から送られたその応募作品の中から入選作品を選んで編纂したもの。創作集との違いは、何らかの文学賞に合わせて発行されたものか否かということである。
- ⑯館報..... 文学館の PR 活動のメディアの一つとなる定期刊行物であり、利用者と文学館の結びつきを強めるためのコミュニケーションの場となることを目的に作製されるもの。各文学館でその趣旨は異なるが、おおむね文学館の行事、お知らせ、利用者の声、資料紹介などの記事内容を含んでいる⁴⁷。
- ⑰記念誌..... 文学館それ自身の活動や機能、設立目的などについて記述したもの。文学館開館時に、それを記念して発行される「開館記念誌」と、一定期間の活動（十周年、二十周年など）を記念した「周年記念誌」に分けられる。

これら発行物の機能や役割についての詳細な検討は、第 2 章において詳しく論じてみたいが、以上の定義を補う意味で、ここでは簡単にその特徴を記しておく。

「[イ]展示の記録」や「[ロ]所蔵資料の記録」に該当する発行物の収録対象は、文学館が対象とする作家が遺し（残し）、所蔵資料として館に保存されているものを中心に、その後、館が新たに購入するなどして収集した資料、さらには寄贈資料や寄託資料などを元に作製されることに特徴がある。例えば図書として発行された作品やその初出雑誌、直筆原稿はもちろんのこと、作家の蔵書や遺留品などがその収録の対象となっている。「[イ]展示の記録」の場合に限れば、他機関から借用された資料が内容として収録されることもあるだろう。また、現役の作家の場合であっても、その作家に何らかの形に関わる資料を元にして作製されることに大きな違いはない。

「[イ]展示の記録」や「[ロ]所蔵資料の記録」があくまで作家の遺した（残した）ものを中心とし、その軌跡を事実として記録する側面が強いのにに対し、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」はそれらを踏まえた上で、第三者の手による研究や批評を中心として構成されている。もちろん「図録」にも第三者からの評論などが寄稿されていることがあり、それらも重要な意味を持っているが、「図録」はそもそも展覧会に出展された資料の記録や解説を念頭に置いて作製されるものであり、評論や研究のみで構成しようとする「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」とは、その作製の動機が明確に異なっている。

そして「[ニ]対象作家の作品」と「[ホ]利用者の作品」は、どちらも研究や評論などではなく、作品そのものを収録しているが、「[ニ]対象作家の作品」は、文学館が資料収集を行っている、日本近代文学史上に名を残した作家の作品を対象としているのに対し、「[ホ]利用者の作品」は、文学館を訪れる一般の利用者たちの作品を対象にするという違いがある。こういった「[ニ]対象作家の作品」に関する発行物は、文学館の対象としている作家の書いた文章の内容そのものを、何らかの形で世に出すことに主眼が置かれており、一方の「[ホ]利用者の作品」という発行物は、文学館がそれぞれの地域の文芸運動の中心的な役割を担っていることを示している。

また、「[ヘ]文学館活動の記録」については、これら「館報」によって館の展覧会情報やその後日談を提供したり、あるいは新資料の寄贈や寄託の報告、入館者数の集計結果などを収録し、さらに「記念誌」では、館の沿革や設立の経緯なども報告したりしている。これはつまり「[ヘ]文学館活動の記録」についての発行物は、「[イ]展示の記録」や「[ロ]所蔵資料の記録」のような文学館の収蔵する対象作家の資料について、あるいは「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」のようにそれについての第三者の言動ではなく、文学館の活動そのものを記した資料であることを示している。

以上の通り、文学館の発行物には6種類の性質につき、全部で17種類の形態が見い出せることになる。

ただし、この他にも「図録」などと内容的には重複しつつも、「パンフレット⁴⁸」や「リーフレット⁴⁹」、「一枚もの⁵⁰」と呼ばれる簡易な形で出される発行物も考えられる。だがそれらの発行物は、例えば根本彰が“東京都内には、少なくとも数千の民間の団体が存在し、それぞれが会報、ニュース、雑誌、報告書、パンフレット、ビラ等の印刷物をだしているといわれるが、東京都立中央図書館の東京室が把握しているものはそのうちのごく一部である”⁵¹と述べ、存在確認の難しさを指摘しているように、一般にその確認を取ることは、非常に困難な作業となっている。こういった簡易な発行物に関する調査の難しさは、文学館も同様であり、多くの文学館について同一条件の調査をすることが困難なため、本研究では、それらについては割愛して考えていくことにする（もちろん、それらの簡易な発行物の調査が不要と言いたいわけではなく、いずれそれらを補う調査も必要だろう）。

第2章 文学館の発行物

2.1 「全国文学館協議会」加盟文学館の発行物の調査

ではまず[I]の観点から、文学館の発行物についての現状を調べてみたい。これを明らかにするためには、各文学館について、これまでにどのような発行物が出されてきたのかを「書誌」という形で一覧にすることが必要とされるが、本研究ではこれを明らかにするために、「全国文学館協議会」に加盟している文学館の発行物を網羅的に調査した。

その結果をまとめたものが、別に用意した〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕である（記述内容量があまりにも膨大なものとなったため、本論とは別に記している）。「全国文学館協議会」に加盟している文学館の発行物の現状（発行点数や書誌データ、その内容等）は、これで確認することが可能である。

それら発行物に収録された内容の詳細な検討については、本章の次節以降において、順次述べていくことにしたいが、ここではまずこの書誌作成の結果から、本研究で対象とする76館の文学館について、2004年度（2005年3月31日）までに出版されてきた発行物の点数が、全体で6,283点であることが確認できることを述べておくに留めておきたい。そしてそれら全体のまとめは、〔2.8 文学館の発行物の現状と意義〕において改めて論じることし、ひとまず「発行物の性質」ごとにその点数や機能をまとめてみたい。

では次節以降において、この6,283点の発行物を、[II]の観点から発行物の性質ごとに現状を確認し、それらの作製目的や機能を検討していくことにする。

2.2 「展示の記録」

2.2.1 「展示の記録」の種類と現状

まずは、「[I]展示の記録」に含まれる「図録」を取り上げることにする。

筆者の作成した〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕の内容をもとに、「[I]展示の記録」の文学館ごとの発行点数と発行している文学館の数（発行館数）を調べてみると、その結果は、以下の表2-1のようにまとめることができた。ここでは便宜的に、発行点数の多い文学館の順に並べている。便宜的と断ったのは、前述した通り、文学館の規模や活動年数は、それぞれに異なっているため、単純に2005年3月31日現在の点数を比較することに、特に意味はないためである。以下、「[ロ]所蔵資料の記録」や「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」などについても、同じように便宜的に発行点数の多い順に並べることにする。

表 2-1：文学館の「[イ]展示の記録」の発行点数と発行館数

順位	館名	図録
1	【35】神奈川県立神奈川近代文学館	47
2	【70】松山市立子規記念博物館	46
3	【32】調布市武者小路実篤記念館	37
4	【59】姫路文学館	35
5	【36】鎌倉文学館	34
5	【38】山梨県立文学館	34
7	【21】水と緑と詩のまち前橋文学館	31
8	【06】(財)北海道文学館	30
9	【19】群馬県立土屋文明記念文学館	27
9	【26】(財)世田谷文学館	27
11	【30】(財)日本近代文学館	26
12	【18】田山花袋記念文学館	24
13	【23】さいたま文学館	23
14	【08】青森県近代文学館	21
14	【11】日本現代詩歌文学館	21
16	【12】仙台文学館	18
17	【73】高知県立文学館	17
18	【04】市立小樽文学館	16
18	【15】いわき市立草野心平記念文学館	16
20	【77】松本清張記念館	14
21	【61】森鷗外記念館	13
22	【16】郡山市こおりやま文学の森資料館	11
22	【27】立原道造記念館	11
24	【54】加悦町江山文庫	10
25	【64】ふくやま文学館	8
26	【17】古河文学館	7
26	【44】(財)会津八一記念館	7
26	【66】徳島県立文学書道館	7
29	【45】(財)石川近代文学館	6
29	【76】福岡市文学館	6
31	【80】かごしま近代文学館	5
32	【10】(財)石川啄木記念館	4
32	【43】堀辰雄文学記念館	4

32	【49】藤村記念館	4
32	【55】茨木市立川端康成文学館	4
32	【65】中原中也記念館	4
32	【79】熊本近代文学館	4
38	【24】文京区立鷗外記念本郷図書館	3
38	【41】軽井沢高原文庫	3
38	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	3
38	【60】佐藤春夫記念館	3
38	【78】長崎市立遠藤周作文学館	3
38	【81】川内まごころ文学館	3
44	【33】(財)吉川英治記念館	2
44	【34】大佛次郎記念館	2
44	【37】山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館	2
44	【57】司馬遼太郎記念館	2
48	【02】有島記念館	1
48	【03】旭川市井上靖記念館	1
48	【07】三浦綾子記念文学館	1
48	【14】(財)斎藤茂吉記念館	1
48	【20】徳富蘆花記念文学館	1
48	【28】(財)田端文士村記念館	1
48	【39】池波正太郎真田太平記念館	1
48	【48】室生犀星記念館	1
48	【52】浜松文芸館	1
48	【53】新美南吉記念館	1
48	【63】勝央美術文学館	1
48	【67】菊池寛記念館	1
48	【72】上林暁文学館	1
発行点数の総計		698
発行館数		60

以上のように、「[イ]展示の記録」はこれまでに 60 館が発行に携わっており、その点数は全体で 698 点となっていることが確認できる。これに該当する発行物は、現状では「図録」という形態が見出せるのみである。発行館数の 60 館という数字は、17 種類の発行物のなかで最も大きく、それだけ「図録」という形態は、多くの文学館で出版している発行物であることが見てとれる結果である。

a. 図録

では「図録」の事例を詳しく見ていきたいが、文学館の「図録」は、大きく分けて以下の3種類の形態があると考えられる。

一つ目は、それぞれの文学館における「常設展」の記録を収めたものであり、例えば【06】(財)北海道文学館の『北海道立文学館常設展図録』(1995年)や、【26】(財)世田谷文学館の『文学のまち 世田谷 世田谷文学館常設展示案内』(1995年)などが挙げられるだろう。こういった「常設展」は、数年間同じ展示を続けるのが普通であり、一般に展示内容が変更される機会が少ないものである。そのため、一度展示をしてしまえば、数年間同じものを使用できるため、製作のコストを低く抑えられるという長所がある。

一方で、【26】(財)世田谷文学館の根岸宏和が、“常設展は、初めの1~2年はよいが、徐々にリピーターが減少していきます。費用の点で改修できず、移動可能な部分の手直ししかできません”⁵²と述べているように、いつも同じ展示内容であるために、リピーターを得ることが難しく、また改修が容易に行えないという欠点もある。これは土居裕美子らが“常設展示は如何に工夫されていても、一度見ればいい”⁵³のものであると指摘しているように、基本的に「常設展」とは、展示の内容に変化がないため、利用者は一度見れば満足してしまい、何度も足を運ばせるだけの影響力に欠けているものと考えられる。そういった弊害も大きいため、中村稔が、“常設展のない館として、立原道造記念館、武者小路実篤記念館、シーズン中の軽井沢高原文庫、日本現代詩歌文学館などがあります”⁵⁴と述べているように、あえて「常設展」という形式を採用しない文学館も見受けられる。

二つ目は、それぞれの文学館の展覧会の「企画展」の記録を収めたもので、例えば【27】立原道造記念館の『秋期企画展「立原道造と『四季』の詩人たち』(1997年)や、【73】高知県立文学館の『「浜本浩とその時代」企画展図録』(1998年)などが挙げられるだろう(文学館によっては「特別展」という名称が与えられることがあるが、本研究では内容的に同じものとして捉え、「企画展」に用語を統一する)。世に出ている文学館の「図録」としては、これに該当するものが最も多い。

これは、一つ目に言及した「常設展」の弊害(展示内容が変わらないためにリピーターが減少する)を克服し、その内容を補完するために行われているもので、例えば坪井賢一のインタビューに対する回答として、高山敦司が“常設展示がほとんどでも入館者が増えている宮澤賢治記念館は例外だが、文学館が展示主体になった結果、同じ内容の展示では開館三年で入館者数が顕著に減少していく。入館者を確保するための講座開設や企画展が重要になっている”⁵⁵と述べているように、入館者を維持するには、常に新しい内容を提示する「企画展」が不可欠な催しとなっているようである。もちろん、「常設展」とは反対に、展示製作のためのコスト面の負担が大きくなるという欠点もある。

そして三つ目は、展覧会の開催時ではなく、その終了後に改めてその記録をまとめた「展覧会会期後発行」のものがある。この例としては【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学図録』(1964年)がある。例えば同書の「刊行のことば」には、次のように記されている⁵⁶。

日本近代文学館は、近代文学の関係諸資料の蒐集保存をはかり、研究に資するとともに、それを広く文学愛好者に公開する目的で、学会および文壇の二百五十名によって発起され、昭和三十八年財団法人として発足した。同年秋、創立記念行事の一つとして、「近代文学史展」を東京の伊勢丹で開催した。それは明治以来初めての大規模なもので、多数の学者、文士のほか、関係各方面の積極的な援助を得て行なわれた。この展覧会は二週間にわたる開催期間中に、四万二千人の参観者が入場した。そのとき会場の混雑のため十分に鑑賞できないとの声があり、入場できなかった人も少なくなかったため、それらの展示品を写真に撮り、さらに重要な資料を補い、詳細な解説を加えて編んだのが本書である。半歳にわたって多くの編集委員が、新たに数倍の資料にあたった末、精選し、編集したものである。

つまり同書は当初、「図録」としてまとめることは考えられていなかったが、その記録化の要望が非常に高かったことから、開催終了後に出版が計画された「図録」であることが見てとれる。ただし、この事例は現在のところ、【30】(財)日本近代文学館のみに見受けられるものであり、文学館一般としては、やや特殊な発行形態のようである。

こういった「展覧会会期後発行」の「図録」の重要性については、例えば【23】さいたま文学館の宮瀧交二が、次のように述べている⁵⁷。

例えば東京国立博物館とか西洋美術館だと、今は予算がなくてやっていないらしいですけれども、以前は会期中にカタログを作りまして、展覧会が終わって2、3年してからものすごく内容の充実した豪華本がまた出ていました。ああいうのは理想ではないかと思います。図録でおしまいではなくて、図録プラス展覧会で得られた成果を1回どこかでまとめておく。

そうしないと、そういう情報は館に残らずに担当者だけに残ってしまう。私どものように、職員の異動がある館ではそういう情報が全部個人と一緒に動いてしまっていて、館に残って蓄積されていないという危険があります。

ただし、ここで“理想”と述べられているように、こういった「展覧会会期後発行」という形態の発行は、予算の都合や、次の展覧会に向けての準備による時間の不足などの面から、その作製を実現化するには、非常に難しいのが現状であると言えるだろう。

以上の通り、「図録」は展覧会の種別とその発行時期から大きく 3 種類に分類されることになる。「図録」の発行は先に定義したように、展覧会の開催に即して出されるものであるが、ただここで注意しておかねばならないことは、展覧会が行われても、必ずしも「図録」を作るということにならないこと（簡略な「パンフレット」などで代替させてしまう）があり、展覧会の回数と「図録」の発行回数は、まったく同じではないということである。展覧会にあたって「図録」を作るか否かは各文学館の意向に依る部分が大きく、例えば中村稔が“図録を作るか作らないかということは、本当に予算の関係で決まるわけです。予算がなければ図録はできない”⁵⁸と述べているように、特に予算の都合という事情によって、「図録」を準備せずに展覧会に臨まれる場合もある。

「図録」という発行物は、展覧会の開催と不可分の関係にあるという前提を思い返してみれば、その発行点数が多い文学館というのは、それだけ展覧会の開催や更新の頻度が高いのだということが予想される。「図録」の発行の予算は、それぞれの展覧会開催の予算に含まれているはずであるから、「図録」の発行に積極的な文学館は、それだけ、(1)展覧会の開催に積極的であること、(2)「図録」を作製できる予算の余裕があること、(3)「図録」の編集など、その作製に人員を割けること（展覧会に必要不可欠な、展示以外に対する人的余裕）、(4)文学館が組織全体として「図録」の作製に積極的であること（実現する能力と完成させる意志）、(5)「図録」の内容に対する協力者がいること（図版の著作権の許可、第三者からの寄稿）、などの要因を全てクリアすることが求められるが、そういった諸々の事情を解決できる環境にあるということだろう。

2.2.2 「展示の記録」の目的

ところで「図録」の発行が展覧会の開催と不可分の関係にあるということは、「図録」を発行しようとする文学館側の目的として、次のことが言えると考えられるだろう。

一つ目に、「図録」とは展覧会の記録化を目的で作製される発行物であるということである。一般に展覧会を行うには、展示資料の選択、展示資料の陳列、展示資料解説のパネル作製、展示資料の口頭による説明、他館からの関連資料の借用、資料の権利者に対する展示許可申請、などの業務が考えられる。つまり展覧会は、現実的に展示に用いる所蔵資料を目の前にしながらの作業が多く見られるということである。

一方、「[イ]展示の記録」としての「図録」の作製には、展示資料の記録化（写真撮影）、展示資料の解説文の執筆、対象作家や展示資料に関する評価の付与、などの業務が必要とされる。言い換えれば文学館が行っている「常設展」や「企画展」に関して、「その展覧会にどういった資料が展示されていたのか」、「それはどの作家に関する資料なのか」などを逐一記録化し、さらに「それら資料は、その作家の文学にとって、あるいは文学史上において、どのような意味を持っているのか」などの評価をも付与する行為である。

つまり「図録」の作製とは、利用者が目にする展覧会自体を整える作業（展示資料と現実的に向き合う作業）ではなく、活字や図版と向き合う編集作業となる。言い換えれば、展覧会の成果を徹底的に記録化し、「図録」という書物の世界へと収めようとする業務である。「記録」とはそもそも、“情報や記号を形象として何らかの物質に固定する行為、もしくはその行為による産物”⁵⁹という意味であるから、「図録」は展覧会の成果の固定化を図ったものであり、それを冊子体（図書やそれに近いボリュームを有する形態）というメディアに載せ、持ち運び可能な形式に変換したものと呼ぶことができるだろう。

そして二つ目に、持ち運びできる形式に変換されるがゆえに、「図録」は展覧会の情報を館外に拡張するという機能を有しているとも考えられる。逆の言い方をすれば、展覧会の情報は、「図録」によって初めて文学館という固定された空間（枠組み）を飛び出すことが可能となるのである（ただし、近年ではインターネットを用いる方法も考えられるが、本研究ではひとまずそれを除き、〔付属資料 1：「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕に記述したような、紙媒体を用いた既存の出版流通の範疇のみで考えていくことにする。以下、同様にインターネット上の情報提供については、考察の対象から外して考えることにする）。

展覧会とは、利用者が実際に文学館に足を運ぶことでしか享受できない類^{たぐい}の機能であるが、その中で唯一文学館に足を運ばずともその情報を知りうることができるのは、「図録」という形態以外に有り得ない。もちろん、「図録」から享受できるものは、展示内容の中でも写真に収まったバーチャルな部分のみであるから、実際に展示された資料の現物を見たときに比べて、そこから受け取れるもの、感じ取れるものは少ないだろうことは想定される。とはいえ、展示資料というものは、常に物理的距離の問題（遠方に住む者は気軽に観に行くことができない）、時間的距離の問題（展覧会の期間が終了すれば、展示資料は撤去され、二度と同じ展示内容を見ることはできない）に晒されており、同一の展示内容の観覧は、万人に対して保障されているものではない。それを多少なりとも補うことができるのは、「図録」という発行物を残すことで、少しでも展覧会の雰囲気伝える以外に方法はない。

すなわち、「常設展」や「企画展」の違いを問わず、「図録」のような「[イ]展示の記録」を作製することの目的は、ある時期のある決まった期間のみ行われる展覧会の情報を、図書という形態に記録化し、それを絶えず文学館の外へ、あるいは後世へと伝え続けるためにあると言えるだろう。

2.2.3 「展示の記録」の機能

さて、ではこういった「図録」に代表される「[イ]展示の記録」が果たす機能を考えてみたい。

「図録」の機能について言及した先行する論考としては、例えば1999年に【26】(財)世田谷文学館の生田美秋が、“展示資料の再録と解説、展覧会の記録、学芸員の調査研究の発表の場として重要な意味を持つ出版物です”⁶⁰と述べているものが挙げられる。生田美秋の意見をまとめてみれば、図録の機能には、(1)展示資料の図版の収録、(2)展示資料の図版の解説、(3)展覧会の記録、(4)学芸員の調査研究の発表、の4項目があるということになる。だが生田美秋の示した4つの機能を踏まえたとき、そこにはさらに、(5)展覧会の主題についての評価の付与、(6)展覧会の主題についての寄稿の振興、(7)展覧会の主題についての目録の提供、(8)展覧会の主題で取り上げた作家の年譜の提供、(9)展覧会の主題に対する協力者・協力機関の情報提供、などの5項目を追加できるものと考えられる。ではその理由を含め、それぞれの機能を検討していきたい。

まず、(1)と(2)に関しては、「図録」はそもそも展示の記録化を目指して作製されるものであるから、これは当然備えているべき機能と考えられる。「図録」には、一般に展覧会に出展された資料ひとつひとつが図版として収められ、それらに対して必要に応じて解説文を添えたうえで、一冊に凝縮するようにまとめられ、編集されている。

生田美秋によれば、他の研究書や解説書とは異なる「図録」の持つ大きな特色であり、かつ重要視すべきことは、こういった資料図版の掲載であるとされる⁶¹。そのため【26】

(財)世田谷文学館の「図録」は、①解説原稿の本数を減らし、その分資料のウエイトを高める、②資料写真を大きく、見易くする、③図録の構成、判型やページ数も各展覧会テーマにふさわしいものとする、などに注意しつつ作製することが目標となっているようであるが、特に①と②の理由には、【26】(財)世田谷文学館がいかにも「図録」における図版の扱いを重要視しているかが顕著に表れていると言える。同館のように、「図録」の第一の目的が図版の提供であることを念頭に置いた場合には、これらは当然要求される編集方針であろう。これについては滋賀県立近代美術館学芸員の國賀由美子も、「図録」製作の注意点として、“図録の命はやはり図版、つまりは出品物の写真である。どんなモノを展示している(した)のか、ヴィジュアルほどわかり良いものはない。だから上質な図版を提供できるよう努める。それは出品物が如何様のものであっても同じである”⁶²と述べていることから窺い知れるだろう。

(3)の「展覧会の記録」については、ある時点で行われた展覧会にどのような資料が出品されていたのかを後になってから振り返るには、「図録」は必要不可欠なものであり、それぞれの展覧会のテーマの選択における時代性が、色濃く反映されることが指摘できる。このことは学芸員の立場から塚原晃が、“その展示会の内容をもっとも雄弁に後世に伝える手段”⁶³と述べ、あるいは國賀由美子も同じく学芸員の立場から、“展覧会が終わると、形あるものとして残るのは図録のみである。展覧会の記録としての意味合いもつもので、図版を含め必要なデータを遺漏なく載せておきたい。会場まで足を運ばなかった人に、これを見ればどんな展覧会だったかをわかってもらえるものを残したい”⁶⁴と述べているよう

に、「図録」は「展覧会の記録」としての性格を、強く期待されているものである。

本研究の対象とする文学館を例として具体的に考えてみれば、例えば芥川龍之介の展覧会の場合、その名前を「図録」のタイトルに含めているものには、【30】(財)日本近代文学館の『芥川龍之介 没後五十年記念展』(1977年),『日本近代文学館 創立35周年・開館30周年記念展 時を超えて——漱石,芥川,川端』(1998年),【38】山梨県立文学館の『生誕百年記念 芥川龍之介展』(1991年),『龍之介・牧水・普羅と八ヶ岳 一北巨摩の文学一』(1996年),『文士の友情 芥川龍之介と菊池寛・久米正雄』(2003年),【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『芥川龍之介展 生誕一〇〇年』(1992年),『21世紀文学の預言者 芥川龍之介展』(2004年),【59】姫路文学館の『夏目漱石・芥川龍之介展』(1998年),【73】高知県立文学館の『夏目漱石・芥川龍之介展』(1998年),【06】(財)北海道文学館の『特別企画展「夏目漱石と芥川龍之介」』(1999年),【60】佐藤春夫記念館の『特別展 芥川龍之介・佐藤春夫展 〈世紀末〉へのまなざし』(1999年)というように、全国の文学館でこれまでに11点が発行されていることが確認できる。同じ芥川龍之介というテーマであっても、作家を単体で取り上げた「没後五十年」「生誕百年」など、作家の節目ごとに行われる催しをはじめとして、【38】山梨県立文学館のように、八ヶ岳・北巨摩という土地との関連で展示を行ったものや、夏目漱石や川端康成、佐藤春夫、菊池寛、久米正雄といった同時代の他の作家との関連で展示を行ったものなど、それが行われた時期によって、異なるアプローチがなされていることが理解できる。展覧会そのものを見ることは、その展示期間中だけにしかできないことであるが、その当時の展示内容が、現在においてもある程度把握可能になるのは、「図録」という発行物が製作され、現在まで大切に保存されているためである。

(4)の「調査研究の発表」については、例えば筆者が作成した〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕の目録の中から選び出せば、【26】(財)世田谷文学館の『「青鞥」と「女人芸術」 ～時代をつくった女性たち展』(1996年)の中に、同館の学芸員である菊地香が、「明治の女性と文学」なる文章を寄せているように、文学館職員の肩書きが付与された原稿が収録されていることを例として挙げてみれば、そういった機能も存在することが理解できるだろう。ただし生田美秋は、こうした文学館の学芸員が原稿を寄せることに対し、“全国の文学館の図録を見てももっと学芸員の原稿を収録すべきだと思いますが、原稿執筆の時期と作品集荷、図録製作、展示作業が重なり結局難しいというのが現状です”⁶⁵と述べているように、こういった「図録」を利用した学芸員による研究発表は、展示の準備にかかる時間的な問題から後回しになりがちであり、一般に館外の研究者などの寄稿に頼る部分が多いようである。

(5)の「評価の付与」は、それぞれの展覧会のテーマがなぜ選択され、どういった背景で実際に催されるに至ったのか、そしてなぜそういった「図録」が発行されるに至ったのかを記録した部分のことである。こういった文章は、「図録」の冒頭にその多くが館長などの

名義で、「図録刊行にあたって」「ごあいさつ」「開催にあたって」などの名目で記されている部分のことである。これは例えば、【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学図録』(1964年)には「刊行のことば」や「序」、【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『大岡昇平展』(1996年)には「開催にあたって」、【27】立原道造記念館の『開館記念特別展「ふるさとの夜に寄す」』(1997年)には「ごあいさつ」、【07】三浦綾子記念文学館の『三浦綾子記念文学館図録』(1998年)には「刊行のことば」、【02】有島記念館の『いま見直す有島武郎の軌跡』(1998年)には「図録刊行にあたって」、【08】青森県近代文学館の『一佐藤紅緑没後50年特別展一花はくれない』(1999年)には「開催にあたって」、【43】堀辰雄文学記念館の『堀辰雄没後50年特別企画展図録「僕は歩いてみた 風のなかを…」』(2003年)には「辰雄没後五十年にあたって」などが収録されていることが例として挙げられるだろう。

これらの文章の中には、展覧会が行われる理由、展覧会のテーマが選ばれた理由、「図録」が発行されることになった理由などが記されることが通例であり、例えば【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『大岡昇平展』(1996年)の冒頭に記された「開催にあたって」には、編集に携わった中野孝次が、次のような展覧会開催の経緯の説明と、それに対する力強い決意と自負を込めた文章を寄せている⁶⁶。

大岡昇平はもともとが湘南と縁の深い作家であった。青年期の小林秀雄、中原中也との関わりでの鎌倉から、戦後疎開先から上京して文学活動を始めたころの鎌倉、さらに最盛期の舞台となった大磯まで、終始神奈川県と深く結ばれていた。作品にもそれは反映している。

その作家の三度目の全集刊行(三度というのにも他に類がない)が完了するのを機に、残された遺稿が、神奈川近代文学館に「大岡昇平文庫」として収蔵されることになった。これも待望してきたことの実現であるだけに、館にとっても記念すべきよろこばしい事柄である。大岡文庫の新設によって、館の収蔵はさらに輝かしいものとなるだろう。

今回の展覧会は、その意味でひとつの記念展示と言っていい。三度目の全集の完了を祝するとともに、大岡昇平の遺稿が神奈川近代文学館に収蔵されたことを祝賀感謝するための。大岡文学の真価がこれによって、年配の読者のみならず、また多くの若い人々に理解されるようになることをわたしは期待する。

この「開催にあたって」が記されていることによって、なぜ【35】神奈川県立神奈川近代文学館が、1996年に大岡昇平をテーマとして取り上げたのかが明確になる。つまり読者は、大岡昇平という作家が展覧会のテーマとなるに値する人物であることを、このような文章によって知ることが可能となるのである。

そして(6)の「寄稿の振興」は、(4)学芸員の「調査研究の発表」とも若干被るところがあ

るが、(4)が館内の学芸員による寄稿であるのに対し、(6)は館外からの寄稿のことを意味する。「図録」が作成されるときには、その多くが図版だけではなく、展示のテーマを解説するような文章が添えられていることが多い。このことは筆者が作成した〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕に記載した各文学館の「図録」の収録内容を参考にしてもらえばわかると思うが、例えば【06】(財)北海道文学館の『北斗の印——吉田一穂』(1999年)には、今井富士雄による「吉田一穂の涅槃像」、吉田八岑による「一穂回想」、漆田邦裕による「絶対詩人・吉田一穂」、和田徹三による「吉田一穂の思い出」、酒井忠康による「吉田一穂の書と絵のこと」など、26本の寄稿がなされていることが見てとれる。こうした文章の数々は、【06】(財)北海道文学館が展覧会を催し、『北斗の印——吉田一穂』という「図録」を発行すると決定したことによって執筆の依頼がなされ、発表に至ったものである。また、これらの寄稿は「図録」が発行された当時(1999年)の時点における評価として、日本近代文学研究にも利用することができる。「図録」はこのように、図版の収録を第一の目的としながらも、同時に誌面に彩りを加えるために多くの寄稿を促し、展覧会のテーマに関する評価や解説を加える働きも有している。

そして(7)の「目録の提供」、(8)の「年譜の提供」、(9)の「協力者・協力機関の情報提供」については、それぞれの「図録」の巻末に収録されていることが多い。これによって研究者は、「図録」を利用する際に、展覧会で取り上げられたテーマや人物に関する文献の目録や年譜、あるいは、あるテーマに関する資料の所蔵機関を知ることが可能となる。一例を挙げてみると、【38】山梨県立文学館の『松本清張と木々高太郎』(2002年)の目次を見れば、そこには、「略年譜」「主な展示資料」「協力者」という項目が記されていることが確認できる。この場合の「略年譜」は(8)、「主な展示資料」は(7)、「協力者」は(9)に該当すると考えられるが、こういった「年譜」や「目録」などは、日本近代文学研究の基礎資料と言うべきものであるし、あるいは「協力者」に名を連ねた機関名・個人名は、展覧会のテーマに関連する展示資料のいずれかを出品しており、後年になってから「図録」に収録された資料の追調査を行おうとする場合に、「協力者」の一覧は、その資料調査に際して所在情報という重要な示唆を与えてくれる。

以上のように、「図録」に収録される内容やそこから読みとれる情報は、実に多岐に渡っており、展覧会という催しをきっかけとして、多くの示唆を日本近代文学研究者に与えてくれる。例えば、武藤康史は【30】(財)日本近代文学館の展覧会を観た際に、以下のような想像をめぐらし、その際に「図録」の解説から示唆を得たことを明らかにしている⁶⁷。

日本近代文学館の「時を超えて——漱石、芥川、川端」という展示では芥川の机を見たが、これは芥川の結婚祝いに夏目鏡子夫人が贈ったものだという。机の上にあるのは《「続西方の人」を書き上げたと思われるペン、漱石をまねた茶合のペン皿など》と図録に説明してあったが、そのペンはいわゆる付けペンである。

付けペンなんて、私の経験では原稿用紙二、三行しか持たない。いちいちインク壺に入れるのでは思考が中断して大変だろうな。でも付けペンで中断しつつ書いたから芥川
のああいう文体になったのかしら？ ……などと想像がふくらむけど、たぶん間違った
想像だろう。

このように図版や解説文、寄稿など、「図録」に収録された内容は、ときに間接的に日
本近代文学研究者に何らかの示唆を与え、また、直接的にそこからの引用も可能にしてお
り、日本近代文学研究を支える重要な発行物とのひとつとなっている。

2.3 「所蔵資料の記録」

2.3.1 「所蔵資料の記録」の種類と現状

では次に、「[ロ]所蔵資料の記録」について考えていきたい。まずは文学館ごとの発行点
数と発行館数を、以下の表 2-2 に示すことにする。こちらも「[イ]展示の記録」と同様に、
発行点数の多い文学館の順に並べている。

表 2-2：文学館の「[ロ]所蔵資料の記録」の発行点数と発行館数

順位	館名	目録
1	【30】(財) 日本近代文学館.....	31
2	【35】神奈川県立神奈川近代文学館.....	23
3	【34】大佛次郎記念館.....	16
4	【24】文京区立鷗外記念本郷図書館.....	12
4	【56】大阪府立国際児童文学館.....	12
6	【19】群馬県立土屋文明記念文学館.....	9
7	【31】俳句文学館.....	8
8	【06】(財) 北海道文学館.....	6
9	【59】姫路文学館.....	5
10	【04】市立小樽文学館.....	4
11	【12】仙台文学館.....	3
11	【38】山梨県立文学館.....	3
11	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館.....	3
14	【18】田山花袋記念文学館.....	2
14	【23】さいたま文学館.....	2
14	【26】(財) 世田谷文学館.....	2

14	【33】(財)吉川英治記念館.....	2
14	【61】森鷗外記念館.....	2
14	【79】熊本近代文学館.....	2
20	【14】(財)斎藤茂吉記念館.....	1
20	【32】調布市武者小路実篤記念館.....	1
20	【45】(財)石川近代文学館.....	1
20	【49】藤村記念館.....	1
20	【70】松山市立子規記念博物館.....	1
発行点数の総計.....		152
発行館数.....		24

以上のように、「[口]所蔵資料の記録」はこれまでに 24 館が発行に携わっており、その数は全体で 152 点となっていることが確認できる。これに該当する発行物は、現状では「目録」という形態が見出せるのみである。

a. 目録

さて、それらは大きく分けて、(1)作家個人の蔵書や関連資料を対象とした、いわゆる「文庫目録」と、(2)文学館全体の所蔵資料を対象とした「所蔵資料目録」とに分けることができると考えられる。文学館の規模の面から、個人文学館の発行する「目録」は(1)のみに当てはまる（すなわち、文学館全体の所蔵資料が作家個人のものに等しい状態にある）と考えられ、一方で総合文学館や地域文学館は、(1)と(2)のどちらのケースも含まれると考えられる（つまり、総合文学館や地域文学館は、多数の作家の資料を収集対象とするが、そのうちの一人だけを取り上げるのか、あるいは二人以上を対象とするのか、「目録」の編集上どちらかを選択できる）。後者はさらに、(2-1)図書を対象とするか、(2-2)雑誌を対象とするか、(2-3)遺品や色紙、直筆原稿、書簡などの非図書資料を対象とするか、(2-4)あるいはその全てを対象とするかなど、それぞれの文学館によって収録方針が異なっている。

(1)については、【14】(財)斎藤茂吉記念館の『斎藤茂吉記念館主要資料目録』(1991年)、【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館 収蔵資料目録 I』(1989年)、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 土屋文明文庫 資料目録』(2000年)、【24】文京区立鷗外記念本郷図書館の『森鷗外資料目録 平成 13 年(2001年)版』(2001年)、【30】(財)日本近代文学館の『高見順文庫概要 日本近代文学館所蔵資料目録 1』(1977年)、【32】調布市武者小路実篤記念館の『調布市武者小路実篤記念館 所蔵品目録 1990 年』(1991年)、【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『尾崎一雄文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 1』(1986年)、【38】山梨県立文学館

の『山崎方代旧蔵資料目録』(1996年)、【49】藤村記念館の『藤村記念館文庫目録』(1982年)、【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館の『芦屋市谷崎潤一郎記念館蔵 谷崎潤一郎資料目録 図書・逐次刊行物篇 2001年版』(2002年)、【59】姫路文学館の『岸上大作資料目録』(1994年)、【70】松山市立子規記念博物館の『松山市立子規記念博物館 館蔵資料目録 I』(1984年)、【79】熊本近代文学館の『耕治人文庫目録 (熊本近代文学館目録 2)』(1991年)など、実に多くの事例を見受けることができる。

一方、(2-1)については、【12】仙台文学館の『仙台文学館所蔵資料目録〈書籍〉』(2003年)、【31】俳句文学館の『俳句文学館蔵書目録』(1978年)などが、(2-2)については、【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学館 所蔵雑誌目録稿 昭和46年12月現在』(1972年)、【56】大阪府立国際児童文学館の『大阪府立国際児童文学館財産目録 逐次刊行物篇 1986』(1987年)などが、(2-3)については、【04】市立小樽文学館の『小樽文学館所蔵資料目録 色紙・短冊編』(1998年)、【56】大阪府立国際児童文学館の『大阪府立国際児童文学館財産目録 原画篇 1988』(1989年)などが、(2-4)については、【23】さいたま文学館の『さいたま文学館収集資料目録』(1998年)などがその事例となること、それらの書名から判断できるだろう。

以上のように「目録」は、文学館によって編集方針が大きく異なるものだが、「目録」は「図録」に比べてその発行点数はあまり多くはない。これはその作成に、膨大な手間と予算がかかるものであることが理由として考えられる。例えば、【57】司馬遼太郎記念館の館長である上村洋行は、次のように述べている⁶⁸。

平成十一年から徐々にはじめ、途中で中断したものの、記念館が開館してから本格的にとりかかった。それからでも三年半がすぎた。データベースと言うほど本格的なものではない。題名、著者、出版社などを書き込むだけの、いわば書名目録をつくらうとしているだけなのに、ずいぶんかかっている。いったい何をしているのかとあきれ顔でこの文章を読んでくださっている方もおありだと思ふ。

いったんは七割方はすんだと思っていたが、入力項目に漏れがあつて見直しをはかった。それだけではない。専門業者がやれば早いのだろうが、経済面と学芸担当の知識にならない、という理由で学芸担当のスタッフがこつこつ作業をはじめた。ただ、作業時間は変則で、日常業務の合間の、しかも、週に二日ほど、合わせて数時間という条件が影響している。

「目録」作成の作業というものは、たった一人の作家についてだけでも膨大な手間がかかることが、このような【57】司馬遼太郎記念館の苦勞からも窺える。もちろんこれは作業時間が通常の業務外にしか確保できないという理由が大きいのだが、こういった事情はおそらくどこの館でもさほど変わりはないであろう。

つまり、「目録」の作成には、ある程度の人的余裕、経済的余裕が必要とされるものであり、「目録」の発行点数や発行館数が「図録」に比べて非常に少ない結果となっているのは、単純に「目録」の作製作業に取りかかっているというわけではなく、取りかかろうにもそれに手が回らないというのが現実なのであろう。

もちろん、こういった様々な難しい事情を抱えながらも、手間暇をかけて「目録」の発行に踏み切っている文学館の数も 24 館存在しており、その数は決して少なくはない。そのように「目録」の作製が着実に行われている背景には、「図録」と同様に、それらが日本近代文学研究上、重要な役割を果たしているためと考えられる。

2.3.2 「所蔵資料の記録」の目的

ではその「目録」持つ意味とは何なのであろうか。ここではまず、その作製の目的を考えていきたい。

先の「図録」が文学館の展覧会の記録化を目的にしているのに対し、「目録」の場合は、展覧会の開催とは無関係に作製されているものである。つまり「[口]所蔵資料の記録」としての「目録」は、(1)所蔵資料の確認を行い、(2)それらの書誌データを抽出し、(3)書誌記述⁶⁹を行い、(4)「目録」という体裁に編集・発行する、といった作業を経て生み出される発行物であると考えられる。言い換えれば「目録」というものは、収集保存されている所蔵資料について、その書誌データを何らかの主題に従って排列し、それらを包括的に収録したうえで、冊子体（図書やそれに近いボリュームを有する形態）というメディアに載せ、持ち運び可能な形式に変換したものと言うことができる。持ち運び可能であるがゆえに、同時にそのようにしてまとめ上げた書誌データを、館の外部に向けて公開しようとすることも可能にしている。

自館の所蔵する資料の書誌データを、館外の人たちに公開するという行為は、まさしく「図書館」（その意味するところは、“人間の知的生産物である記録された知識や情報を収集、組織、保存し、人々の要求に応じて提供することを目的とする社会的機関”⁷⁰である）としての活動と酷似しており、先に中村稔らが文学館の機能として「図書館的機能」を挙げていたのは、このような文学館の活動内容を考えれば、当然のことだと考えられる。

すなわち、文学館が図書館的な性格を有していると考えられている以上、日本近代文学研究者や一般の利用者への情報要求を見据え、それにいつでも対応できる環境を整備することが要求される。また、「目録」を提供するという事は、所蔵資料を展示に用いるだけではなく、日本近代文学研究者や利用者の要求に応じて、日本近代文学研究のための資料の閲覧に協力するという意思表示の表れでもある（所蔵資料に関する「目録」を提供し、その存在情報を公に示しておきながら、閲覧を許可しないということは考えにくい）。

とすると「目録」のような「[口]所蔵資料の記録」は、日本近代文学研究を見据えた上

で、文学館の所蔵資料の活用を図る目的で作製されているものであると言えるだろう。

2.3.3 「所蔵資料の記録」の機能

ではこういった「[口]所蔵資料の記録」の機能について考えていきたい。これを代表する発行物は「目録」であるが、ここではまず、文学館の「目録」とも関連が深く、日本近代文学研究において重要視されている「書誌」との違いに触れながら、その機能を考えてみたい。

まず「書誌」とは、“何らかの基準で選ばれた図書、論文、記事などの資料一点一点の特徴を分析して、その特徴を一定の記述規則に基づき、書誌データ（図書ならば、著者名、タイトル、出版地、出版者、出版年、ページ数など）に表現し、これらのデータを探索しやすいように排列したリスト”のことであり、“文献の存在と書誌データを知らせるものであって、文献の所在も明示している目録とは区別される”という性質を持っているとされる⁷¹。つまり「目録」との違いは、「所在情報」（先の引用文中の“文献の所在”に該当し、すなわち、目的とする文献をどの機関が所有しているか、という情報のこと）の有無であり、記述内容は共に書誌データであることから、簡単に言えば「目録」は、「書誌」の記述に「所在情報」を付加したものだと言える。まとめてみれば、「書誌」と「目録」の提示するものは、以下のようになるだろう。

- ・「書誌」：①文献の存在、②書誌データ
- ・「目録」：①文献の存在、②書誌データ、③所在情報

つまり文学館が自館の所蔵する資料をもとに書誌データをまとめ上げたとすれば、そこには自動的に「所在情報」の意味も付与されることになるため、「目録」の役割を果たすようになるわけである。文学館の「目録」とは、「書誌」の二つの機能に加え、館が所蔵しているという「所在情報」をも暗に含まれているため、そういった所蔵資料（この場合、「一次資料⁷²」に該当する）へのアクセスがしやすいという特徴を持っている。これはつまり、日本近代文学研究者が、文学館の発行する「目録」を参考に、その所蔵資料を閲覧しようとする場合には、文学館を訪れることで、目的の文献に巡りあえるということが一目で分かるという仕組みになっているということである。

もちろん、「目録」から享受できるものは、所蔵資料の書誌データ⁷³のみであるから、実際にそこに記載された所蔵資料を閲覧するには、文学館へと足を運ばなくてはならず、例えば遠方に住む日本近代文学研究者などが、気軽に閲覧に赴くことができるとは限らない。それでも「目録」によって、ある文献が世の中に存在することが明らかにされ、さらにその文献の書名や著者名、出版者名、出版年などの書誌データが把握可能であるならば、他

の図書館などを利用することも可能（ただし、現存するものが1点のみの稀覯本や直筆原稿など、よほどの貴重な資料でない限りという条件は当然ながら付いてくるだろう）となるわけであるから、文学館がこのように「目録」を発行することの意義は大きく、世に資料の存在を知らしめるという重要な役目を担っている。

「書誌」も「目録」も、ともに文献の存在と書誌データを提供することには違いがないため、ここからは「書誌」が日本近代文学研究へ大きな影響を及ぼすという考察を、谷沢永一、大森一彦の二人の指摘を見ていくことで、その結果を文学館の「目録」に敷衍して意味づけしてみたい。ここでは「書誌」のなかでも、ある一人の作家という基準を設けた「個人書誌」というものを考えていくことで、「書誌」の持つ機能を見ていくことにする。

「個人書誌」は、一見すると単なる書誌データの羅列であり、事実の並びに過ぎないものと目に映るが、しかし日本近代文学研究における「個人書誌」は、単なる書誌データの羅列による事実の提供という意味だけに留まらない。それらは、日本近代文学研究に積極的に活用していこうという明確な意図でもって作成されている。

例えば谷沢永一は、近代書誌学の果たしうる役割として、(1)著作目録と年譜と年表、(2)研究文献目録、(3)文献解題、(4)雑誌細目、(5)資料発掘、(6)文献考証、(7)索引作製、(8)本文校訂という8項目を示している⁷⁴。すなわち、ある作家についての研究を行おうとする場合に、日本近代文学研究者は、「著作目録」や「年譜」によって当該作家の軌跡を確認したり、「研究文献目録」でこれまでの研究史を概観したり、必要としているテーマに関する研究文献の有無を把握することが可能となる。また「文献解題」は、当該文献が文学史上どのような意味を持っているのかを明らかにし、それを公に提示するという機能を持つことになる。

一方で大森一彦は、「著作文献目録」が整備されることによって、(9)随筆が発表雑誌から本になるまでの編集プロセス、(10)発表メディアの機能、(11)発表メディアの種類などを見て取ることが可能になり、対象とする著者の資料の生産と流通のメカニズムを具体的に分析することができるようになる」と述べ、同時に「参考文献目録」の機能については、(12)対象とする人物の影響度を把握することが可能になると指摘している⁷⁵。

例えば(9)のような観点を用いれば、図書という形態で発行された作品だけを見るのではなく、その成り立ちについての把握が可能となり、ある作品がどういったメディア（雑誌なのか、あるいは新聞なのか）に連載されたことで完成に至ったのかを知ることができるようになるということである。一般に作品が生み出される時期（執筆の時期）と、作品が図書として発行される時期（出版年月）には時間的な隔りがあり、そのズレをある程度補おうとするならば、その作品が連載された時期を知ること、すなわち初出を把握することは、日本近代文学研究上どうしても必要な作業となる。

あるいは、(10)や(11)のように、その発表メディアそのものの特徴を掴むことは、その対象とする読者層を考慮に入れるということであり、そこから作品の成立への影響が見て

とれるものである。例えば雑誌であれば、総合雑誌、婦人雑誌、児童雑誌、少年雑誌、少女雑誌などの違いは、それぞれ対象とする読者層が異なることが前提にあり、一般に大人の女性が読むような婦人雑誌に子供向けの作品が発表されることはなく、その逆もまた同様である。

例えば三浦綾子という作家の作品を考えてみると、「セブンティーン」という少女雑誌に、『石の森』（1976年）という少女向けの作品が連載されていた（1975年2月－1976年2月）という事実がある一方、「婦人公論」という婦人雑誌には、『水なき雲』（1983年）という大人の女性向けの作品を連載していた（1981年5月－1983年3月）という経緯がある⁷⁶。これは、作品の発表メディアが作品の内容に影響を及ぼす（作家が作品の発表メディアによって、そのテーマを使い分ける）ことの証左となろう。(10)や(11)のように、発表メディアの機能や種類を見ていくことは、そういう意味で日本近代文学研究上、非常に重要な示唆を与えてくれるものである。

つまり「個人書誌」とは、日本近代文学研究への寄与を見据えた上での、地道な作業の積み重ねによって成立する発行物といえる。谷沢永一や大森一彦の指摘は、そういった「個人書誌」が有している機能を見事にあぶりだしているが、これらの「個人書誌」の持つ機能は、当然ながらそれに「所在情報」を加えた「目録」にも、同じように含まれるものであると考えてみれば、文学館の「目録」とは、日本近代文学研究者に多くの示唆を与えるという機能があり、それゆえに日本近代文学研究に対して大きな貢献を果たすという意味を持っている。

ただし「目録」は、「書誌」には無い「所在情報」という機能を有する一方、「書誌」が目指そうとする「網羅性」のに対する機能面が弱いため、必ずしも「目録」と「書誌」が同じ内容を収録しているわけではない（「目録」は所蔵資料のみを記述するため、所蔵が確認できないものについては収録することができない。そのため、内容的には一般に「書誌」のほうが、「目録」よりも多くの書誌データを収録される傾向にある）ことには注意が必要である。「網羅性」の議論を含め、このあたりの問題については、[4.2.1 「目録」の役割と「書誌」の役割]において改めて論じてみたい。

2.4 「所蔵資料／対象作家の研究」

2.4.1 「所蔵資料／対象作家の研究」の種類と現状

次は、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」を考えていきたいが、これは「[イ]展示の記録」や「[ロ]所蔵資料の記録」とは異なり、「紀要」「研究誌」「研究書」「記録集」「事典」の5種類の形態があるため、以下の表2-3のように、それぞれの発行点数と発行館数、そしてそれら全ての合計の点数についてを、文学館ごとに算出した。

表 2-3 : 文学館の「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」の発行点数と発行館数

順位	館名	紀要	研究誌	研究書	記録集	事典	合計
1	【31】俳句文学館	13	33	0	1	7	54
2	【56】大阪府立国際児童文学館	30	2	0	2	3	37
3	【38】山梨県立文学館	10	1	0	21	0	32
4	【18】田山花袋記念文学館	18	1	0	0	0	19
4	【41】軽井沢高原文庫	19	0	0	0	0	19
6	【11】日本現代詩歌文学館	6	2	0	8	0	16
6	【30】(財)日本近代文学館	0	0	0	8	8	16
6	【59】姫路文学館	8	3	4	1	0	16
9	【06】(財)北海道文学館	3	10	1	0	1	15
9	【19】群馬県立土屋文明記念文学館	9	5	1	0	0	15
11	【28】(財)田端文士村記念館	0	12	0	0	0	12
12	【12】仙台文学館	0	0	0	11	0	11
12	【45】(財)石川近代文学館	10	1	0	0	0	11
12	【53】新美南吉記念館	11	0	0	0	0	11
12	【77】松本清張記念館	11	0	0	0	0	11
16	【65】中原中也記念館	9	0	0	0	0	9
17	【36】鎌倉文学館	0	6	0	0	0	6
18	【32】調布市武者小路実篤記念館	0	1	0	4	0	5
18	【73】高知県立文学館	0	0	0	5	0	5
20	【66】徳島県立文学書道館	4	0	0	0	0	4
21	【04】市立小樽文学館	0	2	0	1	0	3
21	【10】(財)石川啄木記念館	0	1	2	0	0	3
21	【14】(財)斎藤茂吉記念館	0	1	2	0	0	3
21	【34】大佛次郎記念館	0	1	0	2	0	3
21	【35】神奈川県立神奈川近代文学館	0	3	0	0	0	3
26	【42】小諸市立藤村記念館	0	0	2	0	0	2
26	【49】藤村記念館	0	0	1	1	0	2
26	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	0	0	0	2	0	2
29	【07】三浦綾子記念文学館	0	1	0	0	0	1
29	【21】水と緑と詩のまち前橋文学館	0	1	0	0	0	1
29	【23】さいたま文学館	0	1	0	0	0	1
29	【25】(財)海音寺潮五郎記念館	0	1	0	0	0	1

29	【43】堀辰雄文学記念館	0	0	0	1	0	1
29	【54】加悦町江山文庫.....	0	1	0	0	0	1
29	【57】司馬遼太郎記念館	0	1	0	0	0	1
29	【64】ふくやま文学館.....	0	1	0	0	0	1
29	【67】菊池寛記念館	0	0	1	0	0	1
29	【68】壺井栄文学館	0	0	1	0	0	1
29	【76】福岡市文学館	0	0	0	1	0	1
発行点数の総計.....		161	92	15	69	19	356
発行館数		14	24	9	15	4	39

以上のように、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」はこれまでに 39 館が発行に携わっており、その点数は全体で 356 点となっていることが確認できる。その内訳としては、「紀要」が 161 点と最も多く、それに「研究誌」の 92 点や「記録集」の 69 点などが続く形となっている。

a. 紀要

まずは「紀要」であるが、これはもともと逐次的に刊行することが念頭におかれているため、各館とも 1～2 年周期で 1 点ずつ、地道にその点数を増やしている傾向にある。年刊として発行されているものとしては、【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館研究紀要』（1989 年－）、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『風 文学紀要』（1997 年－）、【38】山梨県立文学館の『資料と研究』（1996 年－）、【41】軽井沢高原文庫の『高原文庫』（1986 年－）、【53】新美南吉記念館の『新美南吉記念館 研究紀要』（1995 年－）、【56】大阪府立国際児童文学館の『国際児童文学館紀要』（1985 年－）、【59】姫路文学館の『姫路文学館紀要』（1998 年－）、【65】中原中也記念館の『中原中也研究』（1996 年－）、【66】徳島県立文学書道館の『徳島県立文学書道館 研究紀要 水脈』（2000 年－）、【77】松本清張記念館の『松本清張研究』（1999 年－）の 10 館があり、隔年刊として発行されているのは、【11】日本現代詩歌文学館の『日本現代詩歌研究』（1994 年－）、【31】俳句文学館の『俳句文学館紀要』（1980 年－）の 2 館、また、定まった周期を持たない不定期刊としては、【06】（財）北海道文学館の『北海道立文学館 紀要』（1996 年）や『資料情報と研究』（2000 年－）、【45】（財）石川近代文学館の『鏡花研究』（1974 年－）の 2 館がある。

このうち最も多い形態は、1 年周期（年刊）での発行であるから、これがひとつのスタンダードな形となっているようである。研究をできるだけ早く世に出すことが望まれる場合、発行までの周期は短い方が便利ではあるが、おそらく文学館が普段行っている所蔵資

料の展覧会や、資料の収集、保存、レファレンスなどのほうが活動の優先順位が高く、それらの業務遂行との兼ね合いを考えた場合、おそらくこのような1年周期での発行が、時間的な早さの限界なのであろう。

時期が早い例としては、【45】(財)石川近代文学館の『鏡花研究』が1974年にいち早く発行を行っており、あるいは【31】俳句文学館の『俳句文学館紀要』なども1980年に創刊されていることが挙げられるが、各館の発行年を眺めてみれば、これら2館は特殊な事例であり、こういった「紀要」という発行物は、文学館全体としては、1990年代以降に本格的に普及し始めたという傾向が掴める。もちろん、文学館の数が目に見えて増加したのは、先に述べたように1990年代以降の現象であるから、そういった文学館数という事情も考慮しなければならないが、一般に文学館の発行物として「紀要」が定着し始めたのは、ここ15年ほどの現象と言えるだろう。

こういった「紀要」は逐次刊行物として出版される以上、継続的な発行が見込まれるものであり、各館とも着実にその発行点数が増加している。しかし、【06】(財)北海道文学館や【45】(財)石川近代文学館などの例に見られるように、不定期な発行になってしまう例も見受けられる背景には、掲載する論文が集まらないことや、資金の不足などの理由が考えられ、発行館数の少なさ(全体でも14館)と共に、継続性が求められる「紀要」の発行の難しさを痛感させられる。

「紀要」はその定義から、日本近代文学研究に直接寄与する内容(研究論文や資料の紹介、目録など)のみで構成されているものである。例えば、第1章で例に挙げた【38】山梨県立文学館『資料と研究』の第1輯(1996年)には、中島国彦による「明治期紀行文の文学表現 一小島烏水の昇仙峡紀行を中心に」、関口安義による「芥川龍之介と児童文学」、平岡敏夫による「透谷伝の謎・谷村長安寺の墓」、中村稔による「斎藤茂吉の滞欧随筆について」、紅野敏郎による「『文體』の検討 一字野千代・井伏鱒二・太宰治・坂口安吾・三好達治ら」など、合わせて16の論文が収録されていることが確認できる。いずれも日本近代文学史上の何らかの主題について論じた内容ばかりが収録されていることが窺え、その重要度は非常に高いものだと言えるだろう。

b. 研究誌

次に「研究誌」の具体的をいくつか挙げてみれば、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『ぐんまの文学ガイド』(1998年)や『群馬文学年表』(2003年)、【25】(財)海音寺潮五郎記念館の『「文学建設」誌総目次』(1980年)、【54】加悦町江山文庫の『与謝野礼巖・鉄幹年譜』(1995年)などを見出すことができる。これらの書名を見てみれば分かるが、文学館が発行する「研究誌」には、「雑誌の総目次」をはじめ、「年譜」や「年表」、「ガイドブック」などがあり、日本近代文学研究者がそこから何らかの示唆を得たり、事実の

確認に使用したりできる類の発行物が見受けられる。

あるいはまた、【06】(財)北海道文学館が編集を行った『北海道文学ライブラリー』は、これまでに船山馨(『船山馨——北の抒情』1996年)、渡辺淳一(『渡辺淳一——ロマンの旅人』1997年)、三浦綾子(『三浦綾子 いのちへの愛』1998年)という、北海道を代表する3人の作家個人の「研究誌」であり、多くの研究者の寄稿をそれぞれ1冊にまとめ上げたもので、作家の評価や位置付け、作品解題などを収録した書物となっている。

例えば、『船山馨——北の抒情』には、川西政明と川西阿貴による「評伝 船山馨」、八木義徳による「船山馨のころ」、小松伸六による「見知らぬ橋」をめぐって、渡辺淳一による「船山馨先生のこと」、小笠原克による「一枚の鏡」などの寄稿文が収録されており、船山馨についての評価が行われている一方、「略年譜」や「主要著書一覧」など、日本近代文学研究上の事実確認に用いられる内容も収録されている。

同じようなシリーズものの「研究誌」としては、【19】群馬県立土屋文明記念文学館が『〈土屋文明記念館リブレ〉 塙新書』と題した発行物を出しており、これまでに『歌人 土屋文明一ひとすじの道一』(1996年)や『群馬の作家たち』(1998年)、『佐藤緑葉の文学——上州近代の作家——』(1999年)といった3点を確認することができる。

こういった「研究誌」の数々は、文学館主導のもとに進められた研究が世に出されたものであり、「紀要」のような逐次的な刊行を目指す発行物以外にも、日本近代文学研究の結果が、随時世に出されていることを示している。こういった「研究誌」は、逐次的な刊行を原則とする「紀要」とは異なり、その出版時期が決まっていなかったために、その点数は全体でも92点というように、「紀要」のように多く見受けられる発行物ではない。だがそれは逆に言えば、それだけ発行に際しての制約が少ない(世に出したいものを、必要なときに出せる。「紀要」は論文が少なくとも数編まとまることや、すぐに世に出したくとも決められた発行日まで発行がされないなどの制約がある)という性格も有していることになる。

「[ハ]所蔵資料/対象作家の研究」のなかでは、発行点数こそ「紀要」に若干劣るものの、発行館数が24館というように、最も多くの文学館が関わっている発行物であることが確認できる。

c. 研究書

次は「研究書」について考えていきたい。「研究書」は個人の著作を文学館が発行機関となって世に出したものと先に定義したが、その発行点数は15点というように、「研究誌」よりもさらに少ないものとなっている。これはこういった個人の著作は、おそらくは主に他の一般の学術系の出版者から発行されることが主流であり、文学館があえて出版に携わる必要性の薄い類のものであるがためであろうと予想される。文学館はそもそも一般の出版者のように、出版事業を活動の中心に据えて業務を行っている機関ではないから、こう

いった個人の著作である「研究書」という発行物に携わること自体が、むしろ珍しいことなのかもしれない。

また、個人の著作であるため、その出版はいささか突発的な要素が強く、当初から文学館が出版を企画して執筆されたとも思えず、個人が書きためた原稿を、何かのきっかけに文学館が発行機関の役目を受け持ち、その出版に踏み切ったものではないかと想像される。こういった文学館発行の「研究書」に、いわゆる「シリーズもの」がほぼ皆無（【59】姫路文学館発行の永井早苗著『姫路文学館シリーズ1 井上通泰伝』（1990年）が唯一の「シリーズもの」であるが、今のところシリーズの続編はなく、継続性が非常に薄い）であることも、あらかじめ発行することを決めてから製作に取りかかるような類の発行物ではないことを感じ取ることができる。

ただし、その内容を見てみればわかるが、こういった文学館の発行する「研究書」には、評伝を内容としたものが多く見受けられる。例えば先に言及した『姫路文学館シリーズ1 井上通泰伝』を始め、【14】（財）斎藤茂吉記念館が発行する鈴木啓蔵著『斎藤茂吉伝』（1985年）、【42】小諸市立藤村記念館発行の林勇著『小諸に於ける藤村の足あと』（1963年）、【49】藤村記念館発行の島崎楠雄著『父藤村の思い出と書簡』（2002年）、【59】姫路文学館発行の小川太郎著『血と雨の墓標 評伝・岸上大作』（1999年）、【68】壺井栄文学館発行の戎居仁平治著『壺井栄伝』（1995年）などが挙げられる。文学館の出版する「研究書」に評伝の類が目立つのは、ある作家に興味を持つ研究者やその遺族が、そういった評伝を書き上げたことも大きいですが、文学館側がそのような対象作家についてのまとまった評伝を欲している可能性もあるだろう。

これは例えば文学館を訪れた利用者が、展示された作家の業績や人物像についてさらに詳しく知りたいという思いを抱き、その情報要求が文学館に寄せられたときに、このようなまとまった評伝があればそういった問い合わせにも応えやすくなり、また、その「研究書」を文学館の利用者が購入してくれれば、館の利益にも繋がるという側面も持ち合わせるようになるからと考えられる。一般に「紀要」や「研究誌」が、日本近代文学研究者向けの内容の深い発行物であるとするれば、評伝のような「研究書」は、それよりはいくぶん一般の利用者向けの要素も含まれており、文学館としても利用者としても、両者共に都合の良い発行物であると考えられる。

最初から出版を企画するような性質の発行物ではないが、原稿としてまとまっているものがあるならば、文学館が積極的に発行機関としての役割を果たし、世に送り出す意義は大きいと考えられる。

d. 記録集

次に「記録集」を見ていきたい。「記録集」とは、講演会やシンポジウムの内容をまと

めたものであるため、まずはそういった企画が行われることが前提となる発行物である。

例えば【19】群馬県立土屋文明記念文学館の藤井節男らが、“文学館では文学に興味や関心をお持ちの県民の方々を対象に講演会、講座を開設し、文学活動の振興を図っている。企画展や特別展に関連した講演会や、幅広い観点から文学への興味や関心を喚起できるようなカルチャー講座、月一回一年間の連続講座である月例文芸講座を開催している”⁷⁷と述べているように、こういった講演会やシンポジウムなどの催しは、多くの文学館で行われているが、それが扱う内容は、「紀要」のような研究論文に劣らず、幅広いテーマが選択されていることが通例である。

具体例を挙げてみれば、【30】(財)日本近代文学館の『日本の近代文学』(1964年)では、勝本清一郎による「北村透谷と「文学界」」、中島健蔵による「国木田独歩と民友社」、塩田良平による「明治の女流作家たち」、木俣修による「与謝野晶子と新詩社」、楠本憲吉による「正岡子規と「ホトトギス」」、中村光夫による「自然主義について」、亀井勝一郎による「内村鑑三と正宗白鳥」など、全部で18本の講演記録が収録され、さらに「年表」や「人名索引」といった内容までもが付与されていることが確認できる。

こういった「記録集」は、文学館の発行物としての歴史は長く、古いものでは【30】(財)日本近代文学館が、1964年にいち早く発行を開始したと考えられる。同館の「記録集」には、先に言及した『日本の近代文学』をはじめとし、『日本の近代文学・人と作品』(1965年)、『日本近代文学史』(1966年)、『日本の近代詩』(1967年)、『日本近代文学と外国文学』(1969年)、『現代文学と古典』(1970年)、『現代世界文学と日本』(1971年)、『日本文学の戦後』(1972年)までの8点を出している例が見受けられる(共通のシリーズ名こそ付与されていないが、これらは同館の夏の講座をまとめたものであり、一連のシリーズものとして発行されたものである。ただし、『日本文学の戦後』を最後に、シリーズの刊行が中止となった)。

さらにこういった形式は、後に活動を開始した他の文学館でも踏襲され、例えば【11】日本現代詩歌文学館の『日本現代詩歌文学館報告書』(1991年一)や『詩歌文学館賞記念講演集』(1993年一)、【12】仙台文学館の『仙台文学館ブックレット』(1998年一)、【32】調布市武者小路実篤記念館の『講演記録集』(1989年一)、【38】山梨県立文学館の『山梨の文学』(1985年一)、【73】高知県立文学館の『高知県立文学館講演記録 流風余韻』(1998年一)などでは、「記録集」を逐次刊行物として発行しており、これらの文学館が、継続的にそれらを発行し続けていこうとする意向が窺える。

もちろん逐次的ではなくとも、【04】市立小樽文学館の『韓国の文学と文化を知る 講演記録集』(2003年)、【43】堀辰雄文学記念館の『野ばらの匂う散歩みち 一堀多恵子談話集一』(2003年)、【49】藤村記念館の『藤村記念館記念講演集』(1994年)、【76】福岡市文学館の『福岡市文学館・公開市民講座 福岡の近代文学』(2004年)のように、随時発行が行われている事例もいくつか見受けられることができるため、文学館の発行物の形態と

して、少しずつ広まっている傾向にあるようである。

e. 事典

最後に、「事典」の事例を見ていきたい。「事典」はこれまでに、【06】(財)北海道文学館の『北海道文学大事典』(1985年)、【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学大事典』(1977年-1978年、全6冊)、【31】俳句文学館の『入門歳時記 角川小辞典 30』(1980年)や『俳人協会会員名鑑』(1982年-)、【56】大阪府立国際児童文学館の『日本児童文学大事典』(1993年、全1冊)の4館が出版に関わっている。その発行点数は、他の発行物に比べてみると、非常に少ないものとなっていることが確認できる。

その理由としては、こういった「事典」の編集というものは、膨大な手間が掛かるものであり、容易にその出版に踏み切れないという事情があると考えられる。例えば『日本近代文学大事典』の冒頭に収められた「刊行の辞」には、同書の編集に携わった小田切進により、以下のような文章が寄せられている⁷⁸。

ここによくやく完成、刊行をみることになった『日本近代文学大事典』全六巻は、近代文学館の設立に大きな寄与をされた講談社社長野間省一氏の熱心な薦めによって、昭和四六年、館の創立一〇周年を記念する事業として着手し、いらい文壇・学界の三〇名から成る編集委員会が二十数次にわたる協議を重ね、歴史・社会・哲学・思想・美術・演劇・映画・出版・新聞など関連領域をふくむ執筆者八六〇名、関係者スタッフの総数あわせて九〇〇名に及ぶ多数の方々の協力を得て、今日までの研究成果のすべてをとり入れ、館がこの十五年間に収蔵するにいたった貴重な諸資料を生かし、六年をついやして成ったきわめてスケールの大きな文学事典であります。

このように【30】(財)日本近代文学館は、講談社の力を借りつつ、6年という年月をかけて事典の編集を行い、発行にこぎつけていることが理解できる。“きわめてスケールの大きな”という物言いには、単なる自画自賛というわけではなく、それに携わった者としての苦勞と、完成した「事典」への自負が強く込められていることが感じられる。関わっている執筆者や関係者の人数の多さを見れば、「事典」という発行物が容易に完成に至れない類の発行物であることは明白であろう。

その他、『北海道文学大事典』は北海道新聞社、『入門歳時記 角川小辞典 30』は角川書店、『日本児童文学大事典』は大日本図書など、『日本近代文学大事典』と同様に、大手の出版者の協力を得ながら(というよりも『日本近代文学大事典』のように、元々は出版者側が企画を行い、それに伴って文学館に協力を求めているという形式が実際のところだろう)の出版となっており、その事業としての大きさを想像できるが、こういった「事典」

というものは、文学館が単体で発行するにはいささか大きな出版事業であるため、他の出版者の協力なしには容易に手を付けにくいものであるのだろう。

これはその内容を考えてみても、日本近代文学全般を扱った『日本近代文学大事典』はもとより、児童文学全般を扱った『日本児童文学大事典』、あるいは北海道の文学を対象とした『北海道文学大事典』など、「事典」に収録される内容やそのテーマは、実に幅広いものであり、例えば個人文学館のように規模の小さい文学館では、こういった「事典」という形態の発行物に介入するほど、広いテーマを扱っていないという理由が大きいと考えられる。

現在発行されている「事典」は、総合文学館と地域文学館のごく一部に限られていることから、今後も積極的に出版が行われる種類の発行物ではなさそうである。

2.4.2 「所蔵資料／対象作家の研究」の目的

さて、ではこういった「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」は、いったいどういう目的をもって作製されているのだろうか。例えば「紀要」の重要性については、先頃、【30】(財)日本近代文学館の「紀要」が創刊されたことに伴い、紅野敏郎が次のような意見を述べている⁷⁹。

駒場の日本近代文学館は、散逸する資料をここでくいとめ、さらに資料の充実を後世のためにという意志で、多くの人びとの支持と協力によって成り立ってきた。準備段階からいけば五十年近い歳月を経ている。したがって現在集まってきている諸資料は実に歴大な量。それを公開、活用してもらうには、企画展などではとても追いつけない段階に来ている。企画展といえ、どこの文学館も然るべき発想、工夫が発揮されてはいるが、どうしても一般的な人気に支えられた作家にかたよりがちになる。近代の文学史をキメこまかく、人気とか目玉とかに左右されないで、という方向には行きにくい現状が厳然として存在する。

日本近代文学館といえども、所蔵資料の公開、活用に若干のかたよりがあり、せっかく御遺族や関係者から多くの寄贈を受けながら、そのまま放擲されているものもしばしば見かける。「館報」でその一部は紹介もしてはきたが、十分なかたちでの公開、活用となっていない例が多くある。

そのとき文学館に「紀要」が必要になってくる。資料として時の脚光を浴びてはいないが、よくよく検討してみれば、きわめて有益な要素を内包している諸資料が多くあり、それを職員と研究者らが協力して、光をあてて世に押し出したい、そのための広場としての「紀要」。それは企画展のように花火をあげるような営みではない。むしろ企画展、常設展という発想のなかにおいては、敬遠されてきたが、文学史という太い脈絡のなか

では決してはずしてはならぬ資料群というものがある。その種のものに対しては、一般の人はもとより研究者のなかでも避けて通っている人が多い。

このように述べた上で紅野敏郎は、中村稔による「未公開著作物の展示と引用について」、黒井千次による「“声のライブラリー”の十年」、十川信介による「鳥居素川と池辺三山の往復書簡―内紛のさなかに―」など、全21論文(23人執筆)を同書の目次から引用して示し、「図録」や「館報」などには収録されない、“資料としての時の脚光を浴びてはいないが、よくよく検討してみれば、きわめて有益な要素を内包している諸資料”をもとにした日本近代文学研究の成果を問うている。

つまり、文学館の展覧会と「図録」の発行だけで、全ての所蔵資料を一般に公開することは事実上不可能という状態にあり、それを補完する目的で作製されるのが、「紀要」ということになる。見方を変えれば、展示に使用できる資料(利用者の観覧の要求が高いと考えられる資料)というものは、非常に限られたものであるということが理解できる。このことは、「[ハ]所蔵資料/対象作家の研究」に該当する「紀要」の他の4種類の発行物(「研究誌」や「研究書」、「記録集」、「事典」)にも同様のことが言える。

例えば、「研究誌」として発行された【25】(財)海音寺潮五郎記念館の『「文学建設」誌総目次』(1980年)について先に言及したが、これは書名にある通り、「文学建設」という雑誌の目次を一覧にしたものである。同館がこれを発行することで、「雑誌の執筆者として誰が参加していたのか」、「どのような記事が収録されていたのか」などが容易に把握可能となるため、同誌に関する文学研究は、飛躍的に向上することが期待できる。しかしこういった雑誌の総目次のような地道な研究は、展示資料の図版やその解説、評価の記録を目的とする「図録」にわざわざ収録するような内容ではない。つまり、展覧会向けの内容とは明確に一線を画しているわけである。

また、「研究書」である【49】藤村記念館の『父藤村の思い出と書簡』(2002年)には、著者である島崎楠雄が、「飯倉片町の頃」や「父の再婚」、「私の結婚」など、身内でしか知り得ない観点から島崎藤村の人物像を記述しているように、著者独自の見解が集約された発行物であるし、あるいは「記録集」なども「紀要」と同様に、講演者やパネリストらの見解を発表するために作製されるものである。

これは「事典」に見られる用語の解説も同様であり、収録される用語の解説を、執筆者が独自の見解を示したものである。例えば、『日本近代文学大事典 第五巻』の内容として、雑誌『青空』や『世代』、『人間』などの解説を紅野敏郎が、『赤い鳥』の解説を藤田圭雄が、『ARS』や『地上巡礼』などの解説を木俣修が、『文藝公論』や『文藝時代』、『文藝戦線』、『マヴォ』などの解説を小田切進が担当していることが見てとれるが、これらにはすべて、事実の提示(雑誌の執筆者、出版者、出版年)と共に、執筆の担当者の独自の見解も多数含まれている。つまり「[ハ]所蔵資料/対象作家の研究」というものは、文学館が研究者

らに対し、彼らの見解を世に発表する場を提供することを目的に、その作製が行われるものであると言えるだろう。

以上のことから、文学館はレファレンスなどによって、外部の日本近代文学研究者に所蔵資料を閲覧させるだけでなく、それ自身が日本近代文学研究を行い、研究成果を発行物というメディアに載せて世に送り出すという役割も担っていると考えられる。とするとこれら「紀要」や「研究誌」など、5種類の「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」作製の目的は、そういった自館内における研究成果の公開ということになるだろう。

2.4.3 「所蔵資料／対象作家の研究」の機能

こういった「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」が発行されることの意味としては、(1)日本近代文学研究に関する発表媒体の提供、(2)日本近代文学研究の促進、(3)日本近代文学研究の蓄積、(4)所蔵資料の活用などが考えられる。

まず(1)については、これは日本近代文学研究に限ったことではないが、一般に研究というものは、どのような分野であれ、最終的に活字の形で公にされることが要求されるものである。その研究成果を発表するための機会（発表媒体）を提供する役割を果たしているのが、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」に該当する発行物であり、これらが積極的に世に出されることによって、文学館の職員はもちろん、それに関わる館外の日本近代文学研究者たちも、自説を発表する機会に恵まれることになる。

(2)は(1)の機能と重なる部分も多いが、特に「紀要」や「記録集」には、逐次刊行物として出されている発行物がいくつか見受けられる。こういった発行形態を採用することにより、出版年月日が設定されることになるが、これはある一定期間以内に何らかの新たな知見を世に出す必要性が生まれてくることに繋がってくる。「研究書」などはほとんどが単発の発行であったために継続性が非常に薄く、それゆえに、発行点数の面で明らかに他の発行物より少ない結果となっていたが、「紀要」のように逐次刊行物として発行することによって発表までの期限を区切ることは、すわなち締め切り日が設定されるという意味であり、結果として日本近代文学研究者に研究発表を促す機能を持つことになる。

(3)については、こういった発行物の内容は、後に述べる「作品」や「復刻」などとは異なり、全て日本近代文学研究者や文学館の職員など、第三者の手による文章や調査結果ばかりであることが前提となっている。言い換えれば「紀要」や「研究誌」などは、日本近代文学研究の集合体であり、それらが活字となって世に出されることにより、長年に渡ってそれらを蓄積していく役割を果たしている。研究成果が冊子体となることによって、他の文学館や図書館での所蔵が促され、その成果が広く公になり、世の中に残っていくことに繋がるだろう。

そして(4)については、先に引用した紅野敏郎も、“所蔵資料の公開、活用に若干のかた

よりがあり、せっかく御遺族や関係者から多くの寄贈を受けながら、そのまま放擲されているものもしばしば見かける”⁸⁰ことから、それら活用されていない所蔵資料を、「紀要」を発行することで補いたいという旨の発言をしていたが、展覧会での展示はもちろん、「図録」などに収録することができない資料であっても、日本近代文学研究という立場から見れば、それらを十分に活用できる可能性が広がるということであろう。

このことは例えば、【18】田山花袋記念文学館の野口弥生も、同館の所蔵資料を元にした研究活動の重要性を次のように述べている⁸¹。

田山家資料は、花袋の夫人りさ氏（昭和四十四年死去）の意志により田山家に保存され、瑞穂氏に引き継がれた後も、ごく一部を除き、ほとんど公開されることなく、散逸を免れたものである。このため、今までの花袋研究において未調査の資料が多く、館として調査研究を進め、「研究紀要」「研究叢書」にその成果を公表している。こうした研究活動は、研究顧問を中心に、東京や地元の花袋研究者に協力をいただいているため、協力者との連絡を密にしておくことが不可欠である。

つまり【18】田山花袋記念文学館の場合、そういった埋もれている資料の存在は、一般に外部の日本近代文学研究者らが把握することは難しく、文学館の現場でそれらの所蔵資料を目の当たりにしている文学館の職員や、彼らに要請された“研究顧問”や“東京や地元の花袋研究者”のみしか原則的に把握することはできないものとなっていた。このことは、他の文学館の場合でも、それほど大きな違いはないだろう。とすればそれらを活用し、その重要性を広めることができる機会は、こういった日本近代文学研究を目的に作られている、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」という発行物を通すことで行われる以外に方法はない。

つまり、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」の持っている重要な意義は、日本近代文学研究に関わる多くの研究者らの研究成果やその見解を、文学館が一括してひとまとめにし、文学館の外へと発信していくという機能であると指摘できるだろう。

2.5 「対象作家の作品」

2.5.1 「対象作家の作品」の種類と現状

次は、「[ニ]対象作家の作品」を考えていきたい。これには「作品」「復刻」「複製」「翻刻」「全集」の5種類があるが、先の「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」と同様に、まずはそれら発行物の形態ごとに、その発行点数と発行館数を確認してみたい。

表 2-4：文学館の「[ニ]対象作家の作品」の発行点数と発行館数

順位	館名	作品	復刻	複製	翻刻	全集	合計
1	【30】(財)日本近代文学館.....	2	2,056	21	23	0	2,102
2	【31】俳句文学館.....	520	0	0	0	15	535
3	【56】大阪府立国際児童文学館.....	20	102	0	0	0	122
4	【67】菊池寛記念館.....	0	0	0	0	24	24
5	【45】(財)石川近代文学館.....	1	0	0	0	20	21
6	【19】群馬県立土屋文明記念文学館.....	0	0	0	0	20	20
7	【18】田山花袋記念文学館.....	4	0	0	5	0	9
8	【14】(財)斎藤茂吉記念館.....	7	0	0	0	0	7
9	【38】山梨県立文学館.....	3	0	3	0	0	6
9	【59】姫路文学館.....	2	3	0	1	0	6
9	【64】ふくやま文学館.....	5	0	0	1	0	6
12	【33】(財)吉川英治記念館.....	1	4	0	0	0	5
13	【27】立原道造記念館.....	0	4	0	0	0	4
14	【08】青森県近代文学館.....	0	0	0	3	0	3
14	【49】藤村記念館.....	0	2	0	1	0	3
16	【07】三浦綾子記念文学館.....	2	0	0	0	0	2
16	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館.....	0	0	0	2	0	2
18	【04】市立小樽文学館.....	1	0	0	0	0	1
18	【10】(財)石川啄木記念館.....	0	1	0	0	0	1
18	【11】日本現代詩歌文学館.....	0	1	0	0	0	1
18	【34】大佛次郎記念館.....	1	0	0	0	0	1
18	【37】山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館 ..	1	0	0	0	0	1
18	【43】堀辰雄文学記念館.....	1	0	0	0	0	1
18	【54】加悦町江山文庫.....	0	1	0	0	0	1
18	【57】司馬遼太郎記念館.....	1	0	0	0	0	1
18	【60】佐藤春夫記念館.....	0	0	0	1	0	1
18	【78】長崎市立遠藤周作文学館.....	0	0	0	1	0	1
	発行点数の総計.....	572	2,174	24	38	79	2,887
	発行館数.....	16	9	2	9	4	27

以上のように「[ニ]対象作家の作品」は、これまでに 27 館が発行に携わっており、その発行点数は全体で 2,887 点となっていることが確認できる。その内訳としては、「復刻」

が飛び抜けて多く、そのほとんどを【30】(財)日本近代文学館が占めていることが確認できる。この「復刻」に関する【30】(財)日本近代文学館の発行点数の多さからは、同館の特殊性が強く感じられるが、これについては〔4.3 文学館と出版者〕にて詳しく検討してみたい。

a. 作品

では最初に「作品」について考えてみることにする。これを出版する文学館には、【31】俳句文学館など、16館が見受けられる。本研究で定義する「作品」とは、他の出版者から発行されていないオリジナルな形態で出版されたものである。「作品」には、それぞれの文学館が対象としている文学者の未発表作品が含まれることがあり、それゆえに日本近代文学研究上の新たな発見の成果が込められている可能性がある。

例えば【07】三浦綾子記念文学館が編集した『まっかなまっかな木』(2002年)という「作品」は、三浦綾子が残した唯一の童話であるが、同書のあとがきに“この「まっかなまっかな木」は妻・綾子の書いた唯一の童話で、一九七五年「おひさま」という小学館発行の雑誌に載った。これを一冊の絵本にしようと、三浦綾子記念文学館が企画し、岡本佳子さんに絵を描いてもらった”と述べていることから窺えるように、これは【07】三浦綾子記念文学館が開館した後、所蔵資料の中から発見された初出雑誌をもとに、北海道新聞社の協力を得ながら、同館の責任編集において世に出したものとなっている。これによって三浦綾子は子供向けの創作も行っていたことが一般に明らかになり、三浦綾子という作家の評価も、より多角的に行われる必要性が生じるきっかけとなったものである。

また、【31】俳句文学館は一般の出版者のように、多くの俳人の作品を『自註現代俳句シリーズ』(1976年-)や『脚註名句シリーズ』(1984年-)という2種類のシリーズものの「句集」として継続的に発行している。そのため、【31】俳句文学館の「作品」の発行点数は、500点を越えるほどの膨大な数となっており、他館に比べて明らかに群を抜いたものとなっていることが見てとれる。これは【31】俳句文学館が、他の多くの館が対象とする「小説」とは異なる「俳句」という分野を扱っているがゆえに、その対象とする俳人の数が膨大であることが大きいと考えられる。個人文学館は一人の文学者を、地域文学館はそれぞれの地域に関わる文学者を対象とするなか、総合文学館である【31】俳句文学館が対象とする俳人は、その母胎である社団法人俳人協会の協会員であるが、彼ら俳人は全国各地に俳人協会の支部ができていくほど数多く存在している。「作品」を生み出す作家、文学者、俳人の対象人数が多ければ、それだけその文学館の発行点数も増加することは当然の結果であろう。

あるいは、【57】司馬遼太郎記念館の『二十一世紀に生きる君たちへ』(2003年)のように、内容的には一度他の出版者から出されていても、それとは異なる編集や装幀で文学

館が新たに作製するというケースもある。同書の「発刊にあたって」には、同館の館長である上村洋行が次のような文章を寄せている⁸²。

「二十一世紀に生きる君たちへ」は司馬遼太郎が小学六年生の教科書（大阪書籍刊）に書いた文章である。すでに一般向けにも出版されており、小学生だけでなく多くの人たちにお読み頂いているのだが、この冊子は少し違っている。推敲に推敲を重ねた直筆原稿を掲載したことだ。（中略）

この文章はまた司馬遼太郎記念館の基調になっており、地下一階の大書架の壁面にこの文章のみを印刷した額をかけている。蔵書の世界から目線を額に移された方はほとんどの人が必ず最後まで読んでいかれる。

この光景に厳粛な想いをもちつつ、司馬遼太郎記念館として二〇〇三年二月から八月まで同題名の企画展を開いた。すべての直筆原稿や校正原稿を展示したところ、多くの方が「直筆原稿をいつまでも座右に置くことができれば」「小学生だけでなく大人も読める本にしてほしい」と言われた。

実は私自身にも以前から簡便な図録のようなものを記念館で出し、幅広い年齢の方々を読んでいただけたらという構想があった。そこで、企画展を機会に記念館だけの『二十一世紀に生きる君たちへ』を製作することにした。

以上のように上村洋行は、利用者からの要望に加え、自らの構想を具体化しようと計画したことで、同書の発行に踏み切ったことを明らかにしているが、そこにはこれまでに他の出版者が出したものとは異なり、文学館自らが編集（直筆原稿の図版を合わせて収録）することによって、独自の特色を出した“記念館だけの”「作品」の発行にこぎ着けていることが見てとれる（この場合は、厳密には「異版⁸³」という扱いになるだろう）。

それまでであれば、単にテキストのみを収録すれば事が足りていたものであった文章が、展覧会という形で文学館が直筆原稿を公開したことにより、原稿を手元に置きたいという要求が生まれ、新たな需要を開拓できたと言える。つまりこの「作品」が誕生する経緯には、文学館の展覧会という出来事と、それに対する利用者の反響がどうしても必要だったのである。これは既存の出版者では思いつかなかった企画であり、【57】司馬遼太郎記念館という文学館が作られたこと、そして前述の引用文のような展覧会が行われたことの賜物である。

b. 復刻

さて、では次に「復刻」を見ていきたい。これを発行する文学館には、【30】（財）日本近代文学館や【56】大阪府立国際児童文学館など、9館存在していることが確認できる。

また、文学館の「復刻」は、大きく図書の「復刻」と雑誌の「復刻」の2種類に分けることができる。

図書の「復刻」で最も古いものには、【30】(財)日本近代文学館の『名著復刻全集 近代文学館 ——明治後期——』(1968年)があり、これは上田敏の『海潮音』(1905年)、蒲原有明の『春鳥集』(1905年)、窪田空穂の『まひる野』(1905年)夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』(全3冊, 1905年-1907年)など、全29作品(31点)をセットにし、付属解説を1点付して発行したものであった。同館では、これに続けて『名著復刻全集 近代文学館 ——明治前期——』(1968年, 全30作品66点・付属解説1点), 『名著復刻全集 近代文学館 ——大正期——』(1969年, 全35作品36点・付属解説1点), 『名著復刻全集 近代文学館 ——昭和期——』(1969年, 全32作品32点・付属解説1点)など、これまでに21セットの図書の「復刻」を行っていることが確認できる。

また、同館は雑誌の「復刻」も積極的に行っており、これまでに、『「文藝時代」復刻版』(1967年, 全31点・付属解説1点), 『「四季」復刻版』(1967年, 全83点・付属解説1点), 『「文藝戦線」復刻版』(1968年, 全45点・付属解説1点)など、38セットを確認することができる。

【30】(財)日本近代文学館の「復刻」は、以上のように図書と雑誌を合わせて、2,056点にまで膨れあがっていることが確認できる。「復刻」に関して、【30】(財)日本近代文学館の他に、これほどの点数を出している文学館は他に類を見ない。そのため、文学館の「復刻」のほとんどは、同館が発行しているものであるというのが現状のようである(ただし、【30】(財)日本近代文学館の「復刻」は、セットものとして発行されているため、「復刻全集」の名の示す通り、後述する「全集」の性格も併せて有しているのだが、本研究では内容の面から、便宜的に「復刻」に分類することにする)。

例えば【27】立原道造記念館の「復刻」は、『詩集「さふらん」』(2000年)と『復刻版『四季』立原道造追悼号』(2003年)の2点のみであるし、【11】日本現代詩歌文学館では、豊田玉萩の『新体詩「野ばら」』(1907年)を『日本現代詩歌文学館復刻シリーズ第1輯』(1990年)として1点発行しているなどの例が見受けられるが、これらと比較してみれば、その発行点数の違いは明白であろう。つまり、それだけ【30】(財)日本近代文学館の「復刻」の出版事業は、特殊とも呼べる活動であることが理解できる。その中でも、【56】大阪府立国際児童文学館の活動は、3桁(102点)の発行点数を有しており、【30】(財)日本近代文学館に次ぐ活動実績を誇っているが、その出版事業の規模としては、【30】(財)日本近代文学館の成果には遠く及ばないというのが現状である。

「復刻」を出している文学館は、先に述べたように、これまでに9館ほどに留まっているのだが、こういった「復刻」を行っていない文学館でも、もちろんその重要性は認識されており、例えば【04】市立小樽文学館の玉川薫は、次のように述べている⁸⁴。

実際、読みたくても作品が読めないということもある。現在も文庫本や新書で主だった作品を読むことのできる小林多喜二は、幸福な例外といえる。伊藤整ですら、ようやく数点の作品を文庫本で読むことができる程度である。伊藤整の中学校の先輩であり、人生派文学の私小説作家岡田三郎に至っては、古書店で著書を求めるのも難しい。展示と作品は別とはいっても、その作品を読むことがほとんど不可能な作家の資料展示は、やはり空しいと言わざるを得ない。難しい点も多いが、館による復刻版や作品集の刊行を、少しでも進めていきたいものである。

作品を読むことが難しい作家の展示を“空しい”と感じ、そういった状況を打破するためには、「作品」や「復刻」の存在が欠かせないことは認識しつつも、しかしそれを実行に映すには、“難しい点も多い”と妥協せざるを得ないのが現状であり、実現に至らないことが多いようである。

おそらくこの“難しい点”というのは、何をおいても資金面、そしてそれに大きく影響されてしまう人材不足とが考えられるが、これは実際に「復刻」を実現している文学館ですら、【30】(財)日本近代文学館と【56】大阪府立国際児童文学館を抜かせば、数えるほどの点数しか実現できていないことから、文学館においてこういった「復刻」という発行者を成立させることは、非常に難しいものだとということが窺える。

「復刻」の重要度の高さに加え、その意義を理解している文学館職員の高い志にも関わらず、現実にはその進み具合が遅々たるものであるというのは、文学館の出版事業における「復刻」の難しさを感じさせてくれる。

c. 複製

では次に「複製」を考えていきたい。「複製」を発行している文学館は、現状では【30】(財)日本近代文学館、【38】山梨県立文学館以上の2館のみである。「複製」には現在のところ、大きく分けて次に示すような3種類の形態が見られる。

一つは、【30】(財)日本近代文学館の『複製 近代文学手稿 100 選』(1994年)や『夏目漱石原稿「道草」 全三巻』(2004年)、【38】山梨県立文学館の『芥川竜之介資料集』(1993年)のような、作家の遺した原稿を写真撮影し、図版として収録したものである。これは作家の原稿を(写真ではあるが)そのまま見ることができるため、推敲の跡などを確認することができる。

先に「作品」のところと言及した、【57】司馬遼太郎記念館の『二十一世紀に生きる君たちへ』(2003年)についての上村洋行の文章を思い返してみれば、こういった作家直筆の原稿に対する閲覧要求は、一般に非常に高いことが指摘できるだろう(同書は原稿を写真に収めて収録していたため、「複製」のような性格をも有しているのだが、同じ内容を活

字として改めて収録していたり、他に「洪庵のたいまつ」というエッセイも活字で収録されたりしており、内容としては図版よりも活字の方が多く、図版が付録的な要素が強いために、本研究では「作品」に分類している)。司馬遼太郎の直筆の原稿を見ることで、例えば“呼びかけの呼称をいったん「諸君」としたが、小学生の通用語としていいのかどうか、編集者に手紙で問いかけたうえ、「君たち」に替えるなど、校正のぎりぎりの段階まで文章を考えていた様子がかみあがってくる”⁸⁵といったような、文章が練られていく様子までが把握できるようになっている。

あるいは、三浦綾子の『氷点』（1965年）の成立事情に関して、上出恵子による詳細な論考がある⁸⁶。『氷点』はもともと、1963年に募集された朝日新聞社の一千万円懸賞小説への応募作品として書かれたものであったが、現在、【07】三浦綾子記念文学館において、その原稿のコピーが閲覧できる状態にある。上出恵子はそれを参照しながら、『氷点』には「下書き原稿」（原稿用紙388枚）、「応募原稿」（同823枚）、「掲載原稿」（第158回分まで）の3種類の原稿があることを明らかにし、その違いを比較検討しながら、作品成立の過程を追っている。こうした研究が可能となるのは、まさに作家の残した原稿を閲覧・検討できる環境が整っていることで可能となるものである。

この点については紅野敏郎が、“未定稿は、いわゆる水茎のあとうるわしいものではなく、下書き的要素を含んだ、思い乱れた文字も見られ、そこに作者の思い悩み、一气呵成の勢い、ためらい、その他推敲の行われた現場の姿をかいまみることが出来る。研究者にとっては、完成稿（活字）よりも興味をそそられること疑いなし”⁸⁷と述べている。つまり日本近代文学研究においては、このように直筆原稿を見ていくことで、作品が活字化される以前の状態を把握し、推敲の跡から作家の思索の軌跡を見ていくことが可能となるため、重要な資料として位置づけられているのである。

また、二つ目に【30】（財）日本近代文学館の『日本文学色紙全集』（1968年）のような、作家の書き残した色紙をそのまま再現し、複数枚をまとめたものが見受けられる。そういった色紙からは、書き添えられた言葉やその筆跡などから、そのときにおける作家の心情や生活の息吹を感じることができるものである。

例えば、【33】（財）吉川英治記念館では、その「館報」である『草思道だより』（1992年一）において、「収蔵品紹介」という連載を長く続けており、その中で幾度も吉川英治の色紙を紹介しながら、その色紙を書いた当時の生活状況や、筆を執った背景を紹介しているが、その『草思道だより』第12巻第1、2合併号には、「ぬる川や湯やら霧やら月見草」という色紙が紹介されており、これは吉川英治が青森県の温川温泉ぬるかわに宿泊した際の情景を詠んだ句であることが紹介され、後にこの句を刻んだ文学碑が同地に建てられたことが記されている⁸⁸。あるいは、『草思道だより』第13巻第3号には、「秋の灯や英明英穂何を読む」という色紙を紹介しながら、一人軽井沢で仕事をしている吉川英治が、家族宛（英明と英穂は吉川英治の二人の息子）に送った色紙のエピソードが紹介されている⁸⁹。色紙と

いうものはこのように、ある瞬間における作家の生活を切り取り、そこに作家の軌跡を刻印するものである。

そして三つ目に、【30】(財)日本近代文学館の『近代文学館』シリーズがあり、これは八木書店の協力のもと、『マイクロ版 近代文学館 1「新潮」』(1977年)、『マイクロ版 近代文学館 2「解放」』(1982年)、『マイクロ版 近代文学館 3「文章世界」』(1986年)など、マイクロフィッシュという形態で貴重な雑誌を発行したものである。マイクロフィッシュは、“本や雑誌のページ、地図や設計図などの平面資料を写真技術により縮小した資料で、内容を肉眼で読みとることはできない”⁹⁰という性質を持つものであり、保管スペースの節約に加え、製作のコスト面でも優れているために、図書館等での保存メディアとして定着したものである。

現状では【30】(財)日本近代文学館が、文学館では唯一こういった形態の「複製」を出しているが、現在では保存メディアの技術の発展により、さらに『CD-ROM 版 近代文学館 6「太陽」』(1999年)や『DVD 版 近代文学館 7「文芸倶楽部 明治篇」』(2005年)のように、マイクロフィッシュという形態ではなく、時代が進むにつれ、CD-ROM や DVD による提供に形を変えつつある。

d. 翻刻

次に「翻刻」を見ていきたい。「翻刻」の事例としては、【30】(財)日本近代文学館の『近代 文学研究資料叢書 (2) 森鷗外・夏目漱石・三木露風未発表書簡集』(1972年)や【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館研究叢書 第一巻 田山花袋宛柳田国男書簡集』(1991年)、【08】青森県近代文学館の『資料集 第一輯 有明淑の日記』(2000年)など、現在では9館を見受けることができる。こういった「翻刻」がそれ単体で発行されることが少ないのは、先に述べた文学館発行の「紀要」や、後述する「館報」、あるいは文学館の発行物ではない他の学会の学会誌などに、研究論文のひとつとして収録されることが多いことが理由として考えられる。

例えば【38】山梨県立文学館の「館報」である『山梨県立文学館館報』第10号(1992年)の目次を眺めてみると、その中に「資料翻刻」という文字が見受けられる。内容としては、石原文雄の『田舎名物其の一』と芥川龍之介の『新コロムブス』の「翻刻」だが、このように「翻刻」は、「館報」の中の一つの記事として収録されることが珍しくない。また、「紀要」に収録されたものの事例としては、【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館研究紀要』第6号(1994年)に、宮内俊介による「花袋宛・近松秋江書簡」の「翻刻」が掲載されていることが挙げられるだろう。

また、こういった文学館が発行する「館報」や「紀要」以外でも、日本近代文学研究を行っている学会誌などにも、「資料紹介」として「翻刻」が収録されることがある。例えば

【49】藤村記念館の館長・鈴木昭一の手によって『島崎藤村研究』に収録された、「藤村記念館蔵大脇信興自筆「年内諸事日記帳 三拾番」(明治二年)：〈翻刻〉—その1—⁹¹⁾や、

【48】室生犀星記念館職員である船登芳雄の手によって『室生犀星研究』に収録された、「新資料：山根義雄宛犀星書簡について⁹²⁾」などがそれに該当すると考えられるだろう。

あるいはまた、三島由紀夫の未発表書簡が『決定版 三島由紀夫全集第 38 巻』(2004 年)に収録されたことを受け、2004 年 2 月 3 日付の「朝日新聞夕刊」において、由里幸子が“文壇や「楯の会」周辺の間人間関係や細やかな事実がたどれ、「仮面」に隠れた様々な表情が見えてくる”⁹³⁾と報じているように、こういった「翻刻」は、作家の個人全集が企画される折に、新資料として収録されるケースもある。書簡が全集に収録されることが、大々的に新聞に報じられていることから分かるように、それだけ自筆の書簡や日記というものは、日本近代文学研究に対する貢献度が非常に高く、新たな事実の発見のために大きな影響を及ぼすものであると考えられる。

「翻刻」は以上のように、「[二]対象作家の作品」という枠組みではなく、「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」の一部として、あるいは個人全集の出版などに伴い、機会を見つけてはこまめに発表されることも多いことから、それ単体での発行点数が少なく抑えられているものと推測される。

e. 全集

最後に「全集」を考えてみたい。「全集」を発行している文学館は、【19】群馬県立土屋文明記念文学館、【31】俳句文学館、【45】(財)石川近代文学館、【67】菊池寛記念館の 4 館のみとなっている。このうち、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬文学全集』(1999 年—2003 年、全 20 巻)と【45】(財)石川近代文学館の『石川近代文学館全集』(1987 年—1998 年、全 20 巻)は、それぞれ「群馬県」や「石川県」という地域性を押し出したものであり、【67】菊池寛記念館のものは、『菊池寛全集』(1993 年—1995 年、全 24 巻)というように菊池寛の「個人全集」、そして【31】俳句文学館のものは、『現代俳句選集』(1964 年—1987 年)や『季題別現代俳句選集』(1993 年—2001 年)のように、俳句の「選集」となっている。それぞれ総合文学館、地域文学館、個人文学館の扱う内容に照準を合わせた内容となっていることが見てとれる。

具体的な内容を見てみれば、例えば『群馬文学全集』では、第一巻は田山花袋、第二巻は土屋文明、第三巻では村上鬼城と長谷川零余子、第四巻は山村暮鳥、第五巻は萩原朔太郎、第六巻は大手拓次と岡田刀水士、第七巻は佐藤緑葉と白石實三と田中辰雄というように、作家個人を取り上げている。あるいは第十二巻で「群馬の歌人」、第十三巻で「群馬の俳人」、第十四巻で「群馬の詩人」というように、歌や詩の作家を主題として取り上げているものもある。また、第十五巻では「群馬ゆかりの歌句小説」、第十六巻では「群馬ゆかり

の詩歌小説」のように群馬県に関する作品を扱い、第十七巻や第十八巻では「群馬の作家」というように、作家を主題として取り上げていることも確認できる。以上のように『群馬文学全集』という発行物は、徹底的に「群馬県」という枠組みを用い、明治から現在に至るまでの文学を網羅するように編纂されていることが見てとれる。こういった傾向は、泉鏡花や徳田秋声、室生犀星を取り上げつつ、俳句や短歌などもまとめようとする『石川近代文学全集』にも共通している内容である。

その他、【31】俳句文学館は会員の作品を「選集」としてひとまとめにし、【67】菊池寛記念館の場合は、菊池寛という作家個人を主題に据えながら、彼らの作品群を編纂していることが、それらの目次を見ることで確認できる。

2.5.2 「対象作家の作品」の目的

では、これら「[二]対象作家の作品」はどういった目的で作製されているのだろうかを考えてみたい。これは発行物の種類それぞれに固有の目的があると考えられる。例えば『群馬文学全集』の作製目的については、先に[1.2.1 研究の目的]で触れておいたが、それを参考にしながら簡潔にまとめてみると、「[二]対象作家の作品」の目的には、(1)未発表作品を世に送り出す(「作品」)、(2)既発表の入手困難な作品を改めて世に送り出す(「復刻」、「複製」、「全集」)、(3)重要な作品を再評価する(「作品」、「復刻」、「全集」)、(4)文学作品を総括する(「全集」)、(5)書簡や日記、直筆原稿、色紙など、閲覧の難しい資料を世に送り出す(「複製」、「翻刻」)、などが考えられる。

まず(1)のように、それまでに他のどの出版者からもまとまった形で発行されていなかった作品が発見され、それを新たに文学館が一冊の図書としてまとめることで、広く世に公開されることがある。これは未発表の作品が埋もれていたことが前提にあり、例えば直筆原稿の発見や、単行本化されていない初出誌の発見というケースが考えられる。先に言及した三浦綾子の『まっかなまっかな木』(2002年)は、このうちの後者に該当するものである。

また(2)のように、既に発表済みのものであっても、絶版や品切れによって入手困難な図書や雑誌というものは多数存在する。これは先に引用した、【04】市立小樽文学館の玉川薫の意見からも理解することはできるだろう。「復刻」のように、装幀などを含めて同じものを作製するにせよ、マイクロフィッシュなどによる「複製」のように、誌面のみを収録する形態にせよ、「全集」のように、全巻を同じ装幀でまとめ上げてしまうにせよ、それまで読むことが容易には叶わなかった作品を、多くの人に公開できるようになるのは、文学館が(2)の目的を持ちつつ、出版事業を行っているからである。

そしてこういった(1)や(2)のように、それまで多くの人たちが見過ごしてきた(気づかれなかった)作品に改めてスポットを当てることで、(3)のような作品への評価も付随してく

る。こういった文学館主導の「作品」には、その発行に際して何らかの理由が付与される例が多く見られる。例えば、【04】市立小樽文学館の『伊藤整詩集 雪明かりの路抄』（2000年）には「伊藤整詩集『雪明かりの路』について」、【14】（財）斎藤茂吉記念館の『斎藤茂吉作品集 山形県内詠短歌叢書 第一編 茂吉記念館叢書 第一編』（1990年）や『土屋文明・五味保義・吉田正俊作品集 山形県内詠短歌叢書 第二編 茂吉記念館叢書 第二編』（1991年）には「解題」が、【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋作品集 1 梅雨のころ』（1997年）や『田山花袋作品集 2 幼き日のスケッチ』（1997年）には「作品について」、【34】大佛次郎記念館の『「おさらぎ選書」第五集 大佛次郎初期作品集』（1991年）には福島行一による「解題」が付されているように、一般に文学館の発行する「作品」には、何かしらの評価や解題が、収録内容の一部として付与されることが一般的である。そこには、なぜその作品を世に送り出すのかについての理由や、その作品が持つ意味（作家の業績における意味合い、文学史上の位置づけなど）が記述されることになる。

このことは、「復刻」や「全集」でも同じである。例えば、【30】（財）日本近代文学館の図書「復刻」には、『名著復刻全集 近代文学館 作品解題 ——明治後期——』（1968年）、『名著復刻全集 近代文学館 作品解題 ——明治前期——』（1968年）、『名著復刻全集 近代文学館 作品解題 ——大正期——』（1969年）、『名著復刻全集 近代文学館 作品解題 ——昭和期——』（1969年）、『新選 名著復刻全集 近代文学館 一作品解題』（1970年）などが付属しており、同様に雑誌の「復刻」にも、『解説 「文藝時代」復刻版 別冊』（1967年）、『解説 「四季」復刻版別冊』（1967年）、『解説 「文藝戦線」復刻版別冊』（1968年）のように、逐一別冊の解説が用意され、そこに多くの日本近代文学研究者が文章を寄せていることが確認できる。

また、【67】菊池寛記念館の『菊池寛全集』には、第一巻に井上ひさしと上林吾郎、第二巻に阿川弘之、第三巻に水上勉、第四巻に安岡章太郎、第五巻に川端康成、第六巻に後藤明生、第七巻に河野多恵子などが「解説」として稿を寄せ、個々の巻に「解題」が付されるなど、菊池寛の作品について実に多くの評価を与える結果となっている。こういった「解説」や「解題」を付与するのは、『群馬文学全集』や『石川近代文学館全集』でも同様であり、文学館は(3)の目的を意識しつつ、「[二]対象作家の作品」を世に送り出していることが見てとれる。

(4)については、多様な文学作品をひとつの体系の元にひとまとめにするもので、ここには個人や地域といった観点からまとめられた「全集」が該当することになる。『群馬文学全集』や『石川近代文学館全集』は、それぞれ「群馬県」や「石川県」という地域を、『菊池寛全集』は「菊池寛」という作家個人を、『現代俳句選集』は「俳句」という文学表現の一分野を主題としてまとめられているが、それぞれの「全集」では、それらの主題に合致した内容が編集され、収録されている。もちろん編者による収録作品の選択に異論が起こることは当然考えられるとしても、これによってある主題における諸作品を一つのまとまり

として読者に訴えかけることができる。

先に触れた『群馬文学全集』の発行目的として、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の飯塚薫が、“地域の文学遺産を総括し 20 世紀の文学のモニュメントとする”という理由を挙げていたことは前述したが、つまり「全集」という発行物は、その出版事業としての規模の大きさ（飯塚薫は、“組織，スタッフ，事業費用，時間など大がかりな仕事”と回想している）から、エポック・メイキングなものになる傾向が強くと考えられる⁹⁴。このことは、“20 世紀の文学のモニュメント”という同館の事業に対する自負を込めた物言いからも伝わってくるだろう。

また、(5)のように、世に一点限りしかない所蔵資料（書簡，日記，直筆原稿，色紙など）の公開は、「複製」や「翻刻」などによる方法を取ることによって、広く行われることになる。これは文学館を訪れることでのみ閲覧可能であった資料に関して、その形を変えることで、文学館の外へと持ち出すことを可能にするものであり、先に言及した【57】司馬遼太郎記念館の『二十一世紀に生きる君たちへ』の出版理由の中で、上村洋行が利用者の“直筆原稿をいつまでも座右に置くことができれば”⁹⁵という思いを形にするという理由もあったことを述べているが、「複製」は、そういった利用者の願いを具現化する目的で作製されることもある。

そして以上のような文学館の「〔二〕対象作家の作品」が、総体的に有している目的は、いずれも閲覧の難しい資料（稀覯本，未発表作品，直筆原稿，日記，書簡など）を広く公にするということに尽きる。

さらに、一般の出版者が原則的に利益を目的に出版事業を進めているのに対し、文学館はそういう利益を度外視しても、求められる要求にはできるだけ応えようと努力を惜しまない傾向にある。例えば、【30】（財）日本近代文学館では、雑誌の「復刻」である『「ホトトギス」復刻版』（1972 年－1973 年）の発行に際し、“文学館では、研究に不可欠とされながら、揃いで入手することが極めて困難な雑誌を鋭意探索し、執筆者・著作権者の了解を得てこれを研究資料として復刻・刊行するしごとを、館の重要な事業のひとつと見え、採算はある程度犠牲にしても研究家・愛書家の要望に応えるべく努めてきた。これまでに復刻した雑誌はすでに十種を数え、いずれも好評を得ている”⁹⁶と述べているように、採算度外視で出されることもある。あるいは【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬文学全集』は、当初“平成 9 年度の予算化を目指して要求したが失敗に終わ”りながらも、“文化を残すことの大切さを訴えた結果、平成¹⁰度¹⁰予算に刊行のための歳出予算を盛り込む”ことによって実現化され、“群馬県内の公共図書館，中学校図書館，高校・短大・大学の図書館，文学館，国会図書館，都道府県立図書館，国外大学，海外県人会施設などへ無償提供”されたものであり、当初から採算をまったく考えないものであった⁹⁷。これらは一般の出版者とは異なり、文学館が利益よりも日本近代文学研究への貢献を第一に考えていることの証左となるだろう。

つまり文学館は、当然ながら予算に影響される部分も多分にありながら、日本近代文学研究に必要と考えられる資料については、赤字を覚悟してでも積極的に公開していこうとしている性格を強く有していると考えられる。

日本近代文学研究とは、一般に、①作品そのものを読み解き、自分なりの読解を提示することと、②作品に対する第三者の先行研究を参照することの、大きく分けて二つのプロセスが組み合わされることによって進められる。例えば先に言及した「書誌」が、「著書目録」（作家本人の手による文献の一覧）と「参考文献目録」（第三者の手による研究文献の一覧）とに分けられていたことは、その両者の違いを明確にし、それぞれの事実の確認や把握を容易にする目的で作製されるものであった。

先に述べた「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」の目的や機能を思い返してみると、それはこのうちの後者②における利用を目的に作製されていたものであったと言える。つまり、徹底的に日本近代文学研究者の手による文章（研究文献、解説、解題など）を収録していたものであった。一方、ここで述べてきた「[ニ]対象作家の作品」は、日本近代文学研究のうちの前者①での利用を目的に作製される発行物であると言えるだろう。

つまり、「[ハ]所蔵資料／対象作家に関する記録」や「[ニ]対象作家の作品」は、いずれも日本近代文学研究というものを見据えた上で、それに対する積極的な寄与を図る目的で作製されるという根幹の部分は同じであり、その方向性が、作家本人の手による文献を出すのか（「著書目録」に収録されるべき発行物）、あるいは研究者の手による文献を出すのか（「参考文献目録」に収録されるべき発行物）で異なるという性格を持っているのである。

2.5.3 「対象作家の作品」の機能

こういった「[ニ]対象作家の作品」は、日本近代文学研究にとって非常に大きな役割を果たしているが、ここでは『驢馬』という雑誌の「復刻」を事例として、その役割を考えていきたい。

日本における出版史を概観したとき、活版印刷された資料を対象とする「復刻」は、1950年代後半から始まるとされる（このあたりの事情についての詳細は、[4.3.1 「復刻」と「複製」]において改めて述べる）。この黎明期における「復刻」の一例として、小田切秀雄が中心となって推し進めた『驢馬』というプロレタリア文学関係の雑誌の「復刻」（1960年に日本近代文学研究所から発行）がある。

この「復刻」事業について小田切秀雄は、『驢馬』が中野重治や堀辰雄らの文学的な出発が記されている貴重な雑誌でありながら、どの図書館でも所蔵が確認できず、また、中野重治ら発行した本人たちでも揃いを持っていなかったことを述べた上で、“『驢馬』の復刻は多くの現代文学研究者や中野らの読者から実に喜ばれ、感謝もされて、そのことが復刻という仕事の持つ意味合いをわたしたちに教え”⁹⁸てくれたと回想している。

小田切秀雄の言う“復刻という仕事の持つ意味合い”とは、例えば後に日本近代文学館の初代理事長となる高見順が、“日本近代文学研究所（代表者小田切秀雄）がこのたび「驢馬」全十二冊の見事な復刻版を出した。この雑誌は、面白いというだけでなく文学史的に貴重なのであろう。この雑誌はたしかにあの時代の象徴が感じられるし、昭和文学の青春の息吹があざやかに感じられる”⁹⁹と述べているように、“多くの現代文学研究者や中野らの読者”¹⁰⁰たちが雑誌発行当時の雰囲気を知るために、第一級の研究資料となりうるということであろう。さらに高見順は“今度の復刻本でこの「驢馬」は詩を中心とした同人雑誌なのだと分った”¹⁰¹とも述べているが、このことから日本近代文学研究というものは、現物の確認をすることが非常に重要な作業であり、それによって新たな発見がなされる可能性を秘めていることが理解できる。

しかし、このように雑誌というものは日本近代文学研究上、過去を振り返る上で重要な資料でありながら、高見順が“明治期のものは、どんなものでも大切にされているが、身近かの昭和となると粗末にされる。終戦後の仙花紙の出版物など、放っておくと絶滅の恐れがある”¹⁰²と回想しているように、散逸も激しく、現存する部数が少ないがために貴重書となっており、容易に閲覧することが叶わないものとなっている。それを広く公にし、研究者に新たな発見を促すことで日本近代文学研究に寄与するためには、「復刻」は欠かせない資料であるということを高見順の回想は教えてくれる。

また、稲岡勝が“雑誌や統計書・名鑑類などの逐次刊行物を号をおって見るとき、一機関で完全に充足されることは稀である。所蔵先を求めて、いくつもの機関を訪れることも珍しくなかった。逐次刊行物が複製される場合は、可能な限り欠号を埋めて完全揃いの形で刊行されるので、通時的にファクトを探すときには大変便利で有りがたい存在である”¹⁰³と指摘していることも重要である。稲岡勝が言うように、雑誌の「復刻」は揃いで発行されることが多いことから、日本近代文学研究にとって重要な初出や典拠の事実確認の労力を激減させてくれ、その恩恵は計り知れないほどに大きい。

両者の意見を踏まえた上でまとめてみれば、「復刻」の持つ重要な機能は、高見順が感じ取ったような「新たな事実の発見」と、稲岡勝が指摘するような「通時的な事実の確認」の二つがあり、「復刻」が日本近代文学研究に必要とされる大きな理由は、この二つの機能があるゆえである。例えば満州文学の研究者である西原和海が、同分野における基本資料の散逸の激しさからその遅々たる研究の進歩を嘆きつつ、“この分野の研究は一から始めなくてはならない。まずは資料の追跡と発掘、次いではその収集と整備、そしてその普及ということになる”¹⁰⁴と述べた上で「復刻」の重要性を説いているが、このことは日本近代文学研究の基本資料としての「復刻」が、いかに研究者たちに切望されているのかを痛烈に物語っている。

また、「復刻」は日本近代文学研究者だけではなく、作家が文学作品を書く際の参考文献としても用いられることがある。例えば渡辺淳一は、与謝野鉄幹・晶子夫妻の生涯を描

いた『君も雛罌粟われも雛罌粟』(1999年)において、「主要参考文献」の中に【30】(財)日本近代文学館の発行した『名著復刻全集 近代文学館 ——明治前期——』(1968年)のうちの『みだれ髪』(鳳晶子)と『紫』(与謝野鉄幹)を挙げており、小説の執筆に際して、同館の「復刻」を参考にしたことを明らかにしている¹⁰⁵。おそらく渡辺淳一は、高見順の述べていたような「復刻」の持つ「新たな事実の発見」の機能を用い、そこから何らかのヒントを得ながら小説の執筆に取り組んだものと考えられる。

「復刻」の重要性は以上の通りだが、このことは「作品」や「複製」、「翻刻」、「全集」なども、「新たな事実の発見」を研究者に与えてくれるという意味では、同様の性質を持っていると考えられる。

例えば前述したように、【07】三浦綾子記念文学館の『まっかなまっかな木』(2002年)は、文学館が所蔵資料の中から発見して出版するまでは、一般にその存在が知られていなかったものであり、その内容を読むことすら容易には適わなかったものである。【07】三浦綾子記念文学館の「作品」発行业は、まさに作家の評価を変化させる重要なきっかけとなったのである。あるいは「翻刻」であれば、先に引用した【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館研究紀要』第6号所収の宮内俊介による「花袋宛・近松秋江書簡」なども、この「翻刻」の発表以前は、関係者を除いてほとんどその存在が知られていることはなかったはずである。

こういった「翻刻」の重要性については、日記や書簡の原本を見ずとも、その内容の分析ができるということが大きい。例えば竹盛天雄が「鷗外に与えた手紙」という研究を行うに際し、“わたくしがここに取り上げるものは、現物にさかのぼることをせず、もっぱら「近代文学研究資料叢書」の一つとして翻刻刊行された該書に依ることをあらかじめお断りして置く”¹⁰⁶と述べているように、森鷗外の書簡の現物を見たわけではなく、【30】(財)日本近代文学館が発行した『日本からの手紙—日本近代文学館所蔵—滞独時代森鷗外宛1886~1888』(1983年)を利用して研究を進めたことを明らかにした上で考察を行っているが、これは「翻刻」が発行されたことによって、資料の所蔵機関に足を運ばずとも研究が行えるようになったことを示しており、日本近代文学研究上の利便性が飛躍的に向上したものであることを教えてくれる。

ただし門屋光昭は、「翻刻」のように手書きの文字を活字化することの問題点として、“何頁にもわたる日記もあれば、数メートルにも及ぶ巻紙の手紙もある。絵葉書も同様である。普通は要件のみを簡潔に書くスペースしかないはずだが、結構書き込んでいる。そして図柄、写真や絵を巧みに取り込んでメッセージを発している。その読み取りが実に面白い。書簡類を刊行する場合には「絵葉書」と記載して済ますだけでなく、図柄など最低限のデータを加えてほしい”¹⁰⁷と述べており、絵葉書の図柄が切り捨てられてしまうことが多いという問題が残ることを指摘している。つまり、「復刻」や「複製」と異なり、「翻刻」は活字化することにより、装幀や書体など、原本の持つ雰囲気や趣意を切り捨ててしまうという欠

点も内在していることには注意しておかねばならない。書かれた文章の内容を読みとることではできても、その原本が持つ作家の息吹を読みとることができなくなるという問題を抱えているのである。こういった弊害は、「翻刻」を利用した日本近代文学研究を行うにあたっては、最低限注意を払っておかねばならないものである。

また、当然ながら「翻刻」には、誤記や転載ミスも含まれる可能性は残るため、あくまで「翻刻」は原本の内容を代替するものであり、厳密にはそれぞれが異なる性質を持っていることを理解しておく必要もある。これは先に引用した竹盛天雄が「翻刻」を元にしたことをきちんと述べた上考察を行っていたが、そういった原本と「翻刻」の内容の異同の可能性を考慮すれば、日本近代文学研究の姿勢として、非常に好ましいものと評価できるだろう。

先に引用したように、【04】市立小樽文学館の玉川薫が、“展示と作品は別とはいっても、その作品を読むことがほとんど不可能な作家の資料展示は、やはり空しいと言わざるを得ない”¹⁰⁸とこぼしていたが、日本近代文学研究は、何をおいてもまずは作家のテキストに触れること無しには始まらない。つまり文学館の発行する「[二]対象作家の作品」とは、それ以前であれば読むことすら難しかったテキストを、「作品」や「翻刻」のように新たに読みやすい形で提供する（あるいは「復刻」のように改めて同じ形で提供する）ことを目的としており、研究者がそこから「新たな事実の発見」や「通時的な事実の確認」を可能とすることを期待されつつ出版が行われているのである。言い換えれば、「[二]対象作家の作品」は、徹底的に日本近代文学研究というものを見据え、日本近代文学研究者に対して積極的な情報提供を図るという機能を果たしているのである。

2.6 「利用者の作品」

2.6.1 「利用者の作品」の種類と現状

では次に、「[ホ]利用者の作品」を考えていきたい。これには「文芸雑誌」「創作集」「受賞作品集」の3種類の形態が該当するため、これまでと同様に、まずはそれぞれの発行点数と発行館数を確認してみたい。

以下の表 2-5 のように、「[ホ]利用者の作品」はこれまでに 11 館が発行に携わっており、その発行点数は全体で 110 点となっていることが確認できる。この数字をこれまでの[イ]～[ホ]と比べてみると、「[ホ]利用者の作品」は、最も出版に携わる文学館の数や発行点数が少ないものとなっている。

また、「文芸雑誌」「創作集」「受賞作品集」を、重複して同時に発行する文学館がまったく見られない（つまり「文芸雑誌」を出している文学館は、「創作集」や「受賞作品集」を発行していない、他も同様）ということが、「[ホ]利用者の作品」の特徴として指摘でき

るだろう。

また、これらの発行物について、総合文学館の関わりが皆無であることも目を惹く特徴だろう。現状では「[ホ]利用者の作品」は、地域文学館と個人文学館のみに見受けられる特徴のようである。

表 2-5：文学館の「[ホ]利用者の作品」の発行点数と発行館数

順位	館名	文芸雑誌	創作集	受賞作品集	合計
1	【14】(財) 斎藤茂吉記念館.....	0	51	0	51
2	【23】さいたま文学館.....	15	0	0	15
3	【26】(財) 世田谷文学館.....	10	0	0	10
3	【53】新美南吉記念館.....	0	0	10	10
5	【54】加悦町江山文庫.....	0	0	9	9
6	【67】菊池寛記念館.....	5	0	0	5
7	【16】郡山市こおりやま文学の森資料館.....	0	0	4	4
8	【32】調布市武者小路実篤記念館.....	0	2	0	2
8	【66】徳島県立文学書道館.....	2	0	0	2
10	【19】群馬県立土屋文明記念文学館.....	0	0	1	1
10	【76】福岡市文学館.....	0	1	0	1
発行点数の総計.....		32	54	24	110
発行館数.....		4	3	4	11

a. 文芸雑誌

でははじめに「文芸雑誌」について考えてみたい。この発行物には、【23】さいたま文学館の『文芸埼玉』(1997年一)、【26】(財)世田谷文学館の『文芸せたがや』(1996年一)、【66】徳島県立文学書道館の『文芸とくしま』(2004年一)、【67】菊池寛記念館の『文芸もず』(2000年一)の4館の事例がある。「文芸雑誌」は、最も歴史の古いものでも、【26】(財)世田谷文学館の『文芸せたがや』であるから、その歴史は非常に浅いものである。また、【67】菊池寛記念館を除いた他の3館は、開館とほぼ同時に発行が開始されているが、このことから文学館の活動の当初から、「文芸雑誌」という形態の発行物を意識していたことが窺える。

特に【26】(財)世田谷文学館や【23】さいたま文学館の場合、発行に携わっている巻合が途中からとなっているが、これは【26】(財)世田谷文学館の事例は、文学館開館以

前の第 14 号までは、「世田谷区総務部文化事業課」が編集し、「世田谷区」が発行しており、同様に、【23】さいたま文学館の事例は、文学館開館以前の第 57 号までは「文芸埼玉編集委員会」が編集、「埼玉県教育委員会」が発行機関として名を連ねているように、もともと区や県の事業としてこういった「文芸雑誌」が発行されていたものである。ここからは、それら自治体が文学館の建設に先立ち、率先して区民・県民の文学的な土壌を育もうとする意向にあったことが窺えるだろう。

いずれも文学館の開館に伴ってその業務が引き継がれた形だが、こういった自治体主導の「文芸雑誌」の存在からは、文学館を単なる箱物として建てるのではなく、地域の文学活動の中心的存在となるよう、地域住民の文化的向上を目指そうとする意識を感じ取ることができる。

b. 創作集

同様に「創作集」には、【14】(財) 斎藤茂吉記念館の『斎藤茂吉追慕歌集』(1975 年一) や『斎藤茂吉追慕全国大会吟行会作品集』(1981 年一)、【32】調布市武者小路実篤記念館の『らくがき帳『心の譜』』(1989 年) や『「実篤のいる空間」創作文集』(1989 年)、【76】福岡市文学館の『平成 15 年度福岡市文学館文学講座 詩のワークショップ作品集』(2004 年) など、3 館の事例が見られる。そのうちのほとんど(54 点中 51 点)は、【14】(財) 斎藤茂吉記念館の発行するものであり、これは「創作集」という発行物の形態のみならず、「[へ]利用者の作品」全体から見ても、同館は最も積極的な活動を行っていることが確認できる。

歴史的には、【14】(財) 斎藤茂吉記念館の『斎藤茂吉追慕歌集』の事例が、1975 年と最も古く、これは開館前に発行した「研究誌」である『斎藤茂吉資料』(1965 年)を抜かせば、同館の中でも最も古い発行物となっている(これに次ぐのは、1984 年に出版された『斎藤茂吉記念館建設実行委員会誌』という「記念誌」であり、「創作集」の出版からさらに 10 年の年月を要している)。発行点数も他館に比べて圧倒的に多く、それだけ【14】(財) 斎藤茂吉記念館は、「創作集」という形態の発行物に最も力を注いでいることが確認できる。つまり館名に冠された斎藤茂吉という作家に何らかの形で関係する発行物よりも、一般の利用者の作品を出版することに最初に取り組み、それを継続して発行し続けていることが見えてくる。対象とする作家よりも、利用者の作品を積極的に発行している同館の出版事業は、他のどの文学館にも見られない、珍しい方針である。

その他、【32】調布市武者小路実篤記念館や【76】福岡市文学館の「創作集」は、単発の発行であるために継続性が薄く、今後の出版の継続については、他館の事例も含め、長い目で見ていく必要があるだろう。

c. 受賞作品集

「受賞作品集」には、【16】郡山市こおりやま文学の森資料館の『三汀賞入選句集』（2001年一）、【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『お話ランド創作童話賞作品集（第28回特別展「みんなおいでよお話ランドへ 木暮正夫子どもの本ワールド」開催記念）』（2004年）、【53】新美南吉記念館の『赤いろうそく 新美南吉童話賞入選作品集』（1996年一）、【54】加悦町江山文庫の『江山文庫俳句大賞作品集』（1996年一）というように、4館の事例がある。

このような発行物が見受けられ始めたのは、1996年の【53】新美南吉記念館や【54】加悦町江山文庫の事例であり、「文芸雑誌」と同様に、ここ10年ほどの間に一般的になってきた発行物のようである。こういった「受賞作品集」へと力を入れ始める文学館が登場してきたのは、文学館一般においては、それだけ比較的新しい現象だということがわかるだろう。

「受賞作品集」の発行のためには、その定義から、何らかの文学賞の開催が必要とされるが、これはつまり、「受賞作品集」の作製の契機となる文学賞の催しの定着が、それぞれの文学館で着々と進み、事業のひとつとしてしっかりと根付いていることが感じ取れる。

2.6.2 「利用者の作品」の目的

では、こういった「[ホ]利用者の作品」に該当する「文芸雑誌」や「創作集」、「受賞作品集」を出すことの目的を考えてみたい。

例えば、【26】（財）世田谷文学館の『文芸せたがや』の創刊号（1982年3月）の編集後記には、“『文芸せたがや』は、日頃、文芸に親しまれている区民の皆さんの創作発表と相互研鑽の場として発行することになったものです”¹⁰⁹と述べられているように、(1)作品発表の場の提供と、(2)お互いの文学的な研鑽とを目的に発行されたものであった。創刊号には803人（詩、短歌、俳句、随筆、小説の5部門を合わせて1,821点）からの応募があり、そこから審査によって選ばれた77点が掲載されたと記されていることから、その創刊の目論見は見事に成功したものと言えよう。創刊号の選考委員には、安部宙之介、江間章子、香川進、中野菊夫、瀧春一、中村汀女、大林清、渡辺淳一ら、世田谷区在住の作家が名を連ねており、その発行は、以後着実に軌道に乗っていくことになる。前述のように、第15号より【26】（財）世田谷文学館に編集・発行の業務が委譲され、それを機会にシナリオ、童話、川柳の3部門が追加され、合計で8部門が世田谷文学賞として募集され始めたのだが、その発行の目的とする(1)と(2)については、創刊以降変わることなく、現在にまで続いていると言えるだろう。

こういった一般の利用者の作品を提供するということと、それによる相互研鑽という目

的は、「創作集」や「受賞作品集」も根本は一緒であろう。例えば、【14】(財) 斎藤茂吉記念館の『齋藤茂吉追慕全国大会吟行会作品集』のうちの1冊である『歌集 経塚山』(1981年)の「あとがき」には、“第七回齋藤茂吉追慕全国大会・上山市内齋藤茂吉歌碑めぐり吟行会には、九十四名(市職員を除く)が参加し、内七十一名が出詠しました”，また、“歌集名「経塚山」は、此の日の吟行会の主目的地が経塚山の歌碑であったので、この題名を選びました”と記されている¹¹⁰。つまりこれは、【14】(財) 斎藤茂吉記念館が主催する一般参加の吟行会の記録の要素が強いのだが、そのように発行物として1冊にまとめることは、先の「文芸雑誌」で述べたような、(1)と(2)の機能に通ずるものである。

あるいは、【53】新美南吉記念館の『赤いろうそく』の創刊号(1988年、当時は(社)半田青年会議所が編集・発行を行っていた)には、“新美南吉記念館の建設を機に、将来、「童話のまちはんだ」宣言とか、児童文学の登竜門の一つとして「新美南吉文学賞」の創設等ができれば、地域文化の活性化と観光の面からもすばらしいことだと思います”¹¹¹と記されているように、(1)や(2)のように、文学館の利用者に直接訴えかけるような目的の他に、(3)文学賞の創設、(4)地域文化の活性化や、(5)観光事業への寄与という波及効果も期待されているのである。

こういった波及効果が期待されていることは、次のような【59】姫路文学館の学芸員である玉田克宏の意見も参考になるだろう¹¹²。

博物館の重要な役割には、生涯学習の機会や社会教育の場を提供するということがある。まして、公立の施設では、いわばスポンサーが市民であるから、特定の文学愛好家や研究者だけではなく、広く市民全体を対象に文化的土壌の向上に寄与するという目標を掲げられている。

同じようなことは、【26】(財)世田谷文学館の藤田尚子が、“博物館施設が、資料の収集・保存・研究・展示という役割を担っている機関であることは自明のことである。またそれ自体教育的意味を持っているが、生涯教育が重要視される近年、博物館施設には積極的な教育普及活動が求められている”¹¹³と述べた上で、同館の「夏休みこども文学館」というイベントを例に挙げているが、つまり文学館は、これまで見てきたような日本近代文学研究者に対する情報提供という側面だけではなく、一般の利用者への教育普及活動も重要視されており、それぞれの地域における生涯学習施設としての役割を大きく期待されているのである。

「文芸雑誌」や「創作集」、「受賞作品集」というものは、文学館によって催された様々な文学イベント(先のに言及した吟行会や、文学賞による作品の募集とその発表など)を通して、文学館が利用者や地域へと、その活動を広く還元していった結果であると言えるだろう。

2.6.3 「利用者の作品」の機能

さて、ではここからは「[ホ]利用者の作品」の意味を考えていきたい。

ここではまず、こういったプロの作家ではない一般の人々が中心となっている発行物の事例として、「同人誌」というものの評価を見ていきたい（本来、文学館が発行する「文芸雑誌」も、「同人誌」と同じような性格を持っていると考えられるが、通常「同人誌」というものは、それに寄稿する同人が資金を出し合って発行するものであり、文学館が発行するものとは、資金の面で若干意味合いが異なると考えられる。そのため、本研究では「同人誌」と同じ内容であっても、文学館が発行するものについては、敢えて「文芸雑誌」と呼び、その違いに注意を払っている）。

こういった「同人誌」の持つ意義については、例えば桂芳久が1967年に次のように述べている¹¹⁴。

文学同人誌無用論が文壇の一部で主張されているようであるが、この論には同人誌が職業作家の養成機関であるという固定観念が潜在しているようにみうけられる。高校、大学の野球部が職業野球の選手をつくるために存在しているのではないと同様に、文学同人誌はプロ作家の養成のためにあるのではなく、文学そのもののために在るのが本来の姿であろう。

同人誌に作品を発表している作家の全ての目的が、職業としての作家を志向していると判断するならば、偏見と認識不足といわねばならぬ。文学に人生をかけることと、文学によって生活することとは、いまや次元の異なるものである。（中略）

現在、職業としていない小説家、批評家、詩人が五万をくだらない数で全国にいると推測できる。これらの全てが文学を生活の手段とすることを願望としているわけではあるまい。ただ純粋に〈文学〉に心を魅せられているのだ。そのために深夜机に向って創作しているのだし、身銭をきって雑誌をつくり作品を発表しているのである。

桂芳久は「同人誌」の存在意義を、“文学そのもののために在る”と述べ、それに作品を発表する人たちを評して、“純粋に〈文学〉に心を魅せられている”と述べる。ここには日本近代文学史上に名を残し、文学館という建物によってその業績を顕彰された作家たちとは、明らかに異なる評価がそこには見受けられる。同様のことは、例えば川崎彰彦が1988年に「同人誌」を評して“ほかでは得られない自己表現の場”¹¹⁵であると述べている。そこに見られるのは「書きたいから書く」「やりたいからやる」といった単純な理由である。

中田耕治は、こういった「同人誌」の重要性を、桂芳久との対談の中で次のように述べ

ている¹¹⁶。

これは、およそぼくらしからぬ発言だろうけれども、たとえば「釧路文学」。これは小説も載ってないぐらいの雑誌だが、そのなかに釧路懲治監の明治初期における受刑者の研究が出ている。面白い仕事なんだ。それと北海道におけるプロレタリア文学の盛衰史、こういう仕事をしている人がいるんだな。同人雑誌でなければできない仕事を認めたいな。たとえば佐藤喜一が、『小熊秀雄研究』をずっとやっている。同人雑誌でなければできない仕事として「室蘭文学」で、木原直彦が機会を与えて長島義三に回想を書かせている。木原直彦はほとんど独力で「北海道文学」をやっている、北海道文学を発掘したり再評価したり縁の下の力もちみたいなしごとをやっているわけだけれど。

以上のように中田耕治は、「釧路文学」や「室蘭文学」、「北海道文学」などの「同人誌」を例に挙げながら、“同人雑誌でなければできない仕事”というものの重要性を述べている。ここに挙げられた佐藤喜一の『小熊秀雄研究』や、長島義三による回想、木原直彦の仕事はもちろんのことながら、中田耕治はさらに「札幌文学」の沢田誠一、原田康子、「仙台文学」の浜田隼雄、「文芸山口」の福田百合子、「日本海作家」の杉原文夫、白崎昭一郎、「北狄」の服部達、星野清一郎、末津きみ、「秋田文学」の千葉治平、「野田文学」の宗谷真爾、「日本きゃらばん」の庄司肇、「制作」の福岡徹などを例に出しながら、彼ら市井の人びとの仕事を高く評価している。

こういった「同人誌」というものは、現在でも出版されているものであるが、前述したように、文学館の「文芸雑誌」というものも、同じような性格を有しているものとして考えていくことができる。例えば【26】(財)世田谷文学館の『文芸せたがや』第15号(1996年4月)には、「世田谷文学者探方」として逢坂剛、影山民夫、沢木耕太郎、新川和江、氷室冴子に関しての調査結果の記述がある¹¹⁷。次いで第16号(1997年4月)には、同じく「世田谷文学者探方」欄があり、それに加えてさらに「世田谷文学碑ガイド」という欄もあり、そこには徳富蘆花文学碑、海音寺潮五郎文学碑、高群逸枝詩碑、中村汀女句碑、斎藤茂吉歌碑など、区内に点在する文学碑の調査報告が記されていることが確認できる¹¹⁸。『文芸せたがや』はこのように、一般の人々の作品を掲載するだけでなく、近代文学史上に名を残した作家に関する記述も少なからず見受けることができる。つまり、単に利用者の作品を編集したものではなく、文学館関係者や利用者の研究成果も収録されているのである。これは文学館というものが、それだけ地域における文学の中心的施設であることを期待されていることを意味するだろう。

また、これらは「友の会」などの文学館支援団体との関わりで、発行元として名を連ねることで資金の援助を行い、その代わりにボランティアによる援助を請うているという可能性もある。こういった文学館とボランティアとの関係については、【19】群馬県立土屋

文明記念文学館の藤井節男らが、もしも文学館にボランティアがなかったら、“来館者への解説をする機会が増える。閲覧室に一日いなければならない。多数の寄贈図書の分類・整理をしなければならない。ショップで販売する商品の企画からしなければならない。特別展企画展開催時のティーサービスができなくなる。文学館周辺の清掃はどうするか。大量の郵便物の整理やイベント開催時の駐車場整理はどうするかなど、職員の仕事量は増大する”¹¹⁹と述べており、文学館活動におけるボランティアの重要性を指摘している。

つまり文学館活動の理解者を増やすことは、それだけ館の職員の負担を減らすことに繋がっていることが理解できる。こうしたボランティアの助けがあることで、文学館の職員は、文学館本来の業務に集中することができるため、大きな目で見れば、それによって文学館活動の質の向上に繋がっていくものと考えられる。牧内岩夫は、“参加型という点ではボランティア活動もある。北海道旭川市にある井上靖記念館と三浦綾子記念文学館では、コーヒーラウンジの運営などにボランティアが協力している。好きな作家の文学館を支えるという充実感があるようだ”¹²⁰と指摘しているが、当然ながらボランティアする側が、そういった仕事を楽しく行うことができるように、文学館という場所を、あらゆる人が集まりやすいような環境として維持することにも意識的になる必要があるだろう。

以上のことをまとめると、つまり文学館は、「[ホ]利用者の作品」を発行することで、(1)作品発表の場の提供、(2)利用者の文学的研鑽、(3)利用者のための文学賞の創設、(4)地域文化の活性化、(5)観光事業への寄与、(6)地域の文学者についての在野からの研究発表、(7)ボランティアの確保、などの役割を担っていると考えられる。

すなわち「[ホ]利用者の作品」とは、文学愛好者を育てることで利用者の文化的向上を目指し、それぞれの地域に文学館を根付かせると共に、さらに文学館活動のサポートをも期待するものであると言えるだろう。これらの発行物は、直接的な日本近代文学研究というものに対する寄与には繋がりにくい（特に「創作集」や「受賞作品集」は、日本近代文学研究との直接的な関わりが薄い）部分が多いが、大きく視点を広げてみれば、それによって文学館活動というものの底辺を担う地域社会の“文化的土壌の向上”¹²¹という役目を担っているのである。こういった事業の重要性については、先に引用した藤井節男らが、“月例文芸講座は、俳句、短歌、詩について、入門から実作、鑑賞まで指導しているものである”と述べ、さらに“講座は地味であるが、文学愛好者の層を確実に広げていくには講座のような地道な積み重ねが大切だと思われる”とまとめていることから窺い知れるだろう¹²²。

文学館とは、地域社会の中にしっかりと根付いてこそ効率の良い活動が行えるものであり、地域からのサポートも受けつつ、また、逆に地域へと還元していく活動を行うものであると言える。

2.7 「文学館活動の記録」

2.7.1 「文学館活動の記録」の種類と現状

では最後に、「[へ]文学館活動の記録」を考えていきたい。これには以下の表 2-6 のように、「館報」と「記念誌」の 2 種類の形態が該当する。これまでと同様に、それぞれの発行点数と発行館数を示す。

表 2-6：文学館の「[へ]文学館活動の記録」の発行点数と発行館数

順位	館名	館報	記念誌	合計
1	【31】俳句文学館	407	6	413
2	【30】(財) 日本近代文学館	260	1	261
3	【70】松山市立子規記念博物館	114	0	114
4	【49】藤村記念館	110	2	112
5	【35】神奈川県立神奈川近代文学館	106	2	108
6	【06】(財) 北海道文学館	76	0	76
7	【38】山梨県立文学館	69	0	69
7	【79】熊本近代文学館	68	1	69
9	【59】姫路文学館	66	0	66
10	【41】軽井沢高原文庫	61	0	61
11	【09】弘前市立郷土文学館	55	0	55
12	【33】(財) 吉川英治記念館	52	1	53
13	【11】日本現代詩歌文学館	45	3	48
14	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	40	0	40
15	【27】立原道造記念館	35	0	35
16	【56】大阪府立国際児童文学館	29	2	31
17	【04】市立小樽文学館	29	1	30
18	【26】(財) 世田谷文学館	29	0	29
19	【14】(財) 斎藤茂吉記念館	26	2	28
19	【73】高知県立文学館	27	1	28
21	【21】水と緑と詩のまち前橋文学館	27	0	27
22	【77】松本清張記念館	23	0	23
23	【08】青森県近代文学館	22	0	22
23	【25】(財) 海音寺潮五郎記念館	22	0	22
25	【13】原阿佐緒記念館	21	0	21

25	【39】池波正太郎真田太平記念館	21	0	21
27	【15】いわき市立草野心平記念文学館.....	20	0	20
28	【10】(財)石川啄木記念館.....	18	1	19
29	【32】調布市武者小路実篤記念館.....	15	1	16
30	【07】三浦綾子記念文学館.....	14	0	14
30	【16】郡山市こおりやま文学の森資料館	14	0	14
30	【57】司馬遼太郎記念館	14	0	14
33	【80】かごしま近代文学館.....	13	0	13
34	【12】仙台文学館	12	0	12
34	【28】(財)田端文士村記念館	12	0	12
34	【60】佐藤春夫記念館.....	11	1	12
37	【72】上林暁文学館	11	0	11
38	【20】徳富蘆花記念文学館.....	10	0	10
38	【23】さいたま文学館.....	7	3	10
38	【65】中原中也記念館.....	10	0	10
41	【19】群馬県立土屋文明記念文学館	6	0	6
41	【61】森鷗外記念館	6	0	6
43	【18】田山花袋記念文学館.....	5	0	5
43	【68】壺井栄文学館	5	0	5
45	【03】旭川市井上靖記念館.....	4	0	4
46	【78】長崎市立遠藤周作文学館	2	0	2
47	【36】鎌倉文学館	0	1	1
47	【45】(財)石川近代文学館.....	0	1	1
47	【46】泉鏡花記念館	1	0	1
発行点数の総計.....		2,050	30	2,080
発行館数		47	17	49

以上のように、「[へ]文学館活動の記録」はこれまでに 49 館が発行に携わっており、その点数は全体で 2,080 点となっていることが確認できる。その内訳としては、【31】俳句文学館や【30】(財)日本近代文学館などの発行点数が多いが、「館報」はその定義から逐次的な発行がなされるため、全体的に積極的な出版事業となっている。

a. 館報

まずは文学館の「館報」であるが、発行館数が 47 館存在しており、非常に多くの文学

館で出版されている形態の発行物であることが窺える。この 47 館という発行館数は、現状では 60 館が出版していた「図録」に次ぐ二番目の規模である。発行点数の面から言っても、2,050 点という数字は、「復刻」の 2,174 点に続く数字となっている。

そしてそれは、内容から判断して大きく分けて二つの種類があると考えられる。そのうちの一つは、文学館活動の記録を編集しながらも、そこにエッセイなどの寄稿を積極的に取り入れ、比較的一般利用者向けの読み物としての性格を持つもの（本研究では便宜的に「利用者向け館報」と呼ぶことにする）である。ここで言う利用者には、日本近代文学研究者も含まれると考えられるだろう。そしてもう一方は、そういった読み物としての性格を一切排除し、数字（入館者数、所蔵資料数）や活動実績（展覧会の記録やそのテーマ）など、文学館の活動の具体的な事実を示すことでその記録化を図り、報告書の形態に仕上げたもの（本研究では「関係者向け館報」と呼ぶ）である。それゆえに、「館報」の発行パターンには、3 種類（①「利用者向け館報」のみを発行、②「関係者向け館報」のみを発行、③「利用者向け館報」と「関係者向け館報」の両方を発行）あると考えられる。

①の「利用者向け館報」のみを発行する文学館は、その数が非常に多いのだが、一例を挙げれば、【30】（財）日本近代文学館の発行する『日本近代文学館』（1971 年 5 月一）が考えられる（その他合計で 36 館が存在する¹²³）。その第 1 号の目次を見てみると、尾崎一雄が「古本・震災・戦災」、岩城之徳が「啄木六十回忌におもう」、紅野敏郎が「父と娘と友」、神谷忠孝が「片岡鉄平の未発表原稿」、国岡彬一が「大石誠之助の情歌」、恩田逸夫が「改造の大震災号」というエッセイを寄せ、さらに「社会文庫展」特集として、小田切進が「社会文庫の事」、山本正弘が「社会文庫の思い出」、神崎清が「幸徳秋水資料」、西田勝が「田岡嶺雲の書簡」、堀切利高が「荒畑寒村に関して」を寄せるなど、全体を通して、実に多くの執筆者が稿を寄せていることが確認できる。それだけ読み物として体裁が整っており、一般の利用者にも手に取りやすい内容となっていることが確認できる。

一方、②のような「関係者向け館報」のみを発行する文学館には、【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館 年報』（1991 年一）がそれに該当すると考えられる（その他合計で 2 館が存在する¹²⁴）。その内容を見ていくと、例えば、『田山花袋記念文学館 年報 6』（2005 年）には、「年度別入館者数」「特別展」「普及事業」「特別利用」「資料収集」「館名変更について」「事業費」「施設概要」「案内図」「お問合せ」といった項目が見受けられ、そこにはエッセイなどの読み物が皆無であり、事業内容やその実績が淡々と記されているだけであることが確認できる。現在の文学館においては、こういった「関係者向け館報」よりも、「利用者向け館報」を出している文学館のほうが、その数が多いことが確認できる。

また、その両者を並行して発行している③の文学館には、例えば【35】神奈川県立神奈川近代文学館があり、同館は『神奈川近代文学館』（1983 年一）という「利用者向け館報」を出している一方、『神奈川近代文学館年報』（1986 年一）のような「関係者向け館報」を出している（その他合計で 9 館が存在する¹²⁵）。『神奈川近代文学館』の第 1 号（1983 年 7

月)には、小田切進の「神奈川近代文学館の構想」、佐佐木朝登の「館の展示設備」、安西篤子の「気軽に訪ねたい」、磯田光一の「故郷としての横浜」、小田切進と青木茂による「追悼尾崎一雄名誉館長」、岡松和夫の「立原正秋の原稿」、高野昭の「獅子先生の創作ノート」、川添猛「館への期待」などのエッセイが寄せられる一方、「独自の資料整理基準案まとまる」や「資料保全設備の全容」、「図書資料寄贈者名」、「館の歩み(昭和五十四年九月十日～昭和五十八年五月末)」のように、利用者向けに簡略な館の活動報告も行っている。そして、『神奈川近代文学館年報 昭和60年度』(1986年)には、「建設目的」「沿革」「施設の概要」「組織及び運営」「予算」「利用状況」「資料収集状況」「条例等」「財)神奈川文学振興会」などの項目が記されており、そこでは読み物を収録するというよりも、館の活動の客観的なデータを、細やかに記録する目的があることが窺える。

b. 記念誌

一方、「記念誌」は現在のところ、17館で発行されており、全体でも30点というように、その数はそれほど多くはない。「記念誌」はそもそもの定義から、文学館が開館する際か、あるいは文学館の活動がある一定期間を経た場合にのみ発行されるわけであるから、頻繁に出版を行えない発行物なのであろう。

一般に10年や20年などように、区切りの良い単位で出されることが多く、例えば、【11】日本現代詩歌文学館の『日本現代詩歌文学館開館10周年記念 詩歌文学館ものがたり』(2000年)や【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『一九八四・四～一九九四・三 神奈川近代文学館一〇年史』(1994年)、【36】鎌倉文学館の『鎌倉文学館10周年記念』(1995年)などが10年単位、あるいは【10】(財)石川啄木記念館の『石川啄木記念館開館二十周年記念誌「啄木鳥」』(1990年)が20年単位の事例となる。

このうち最も短いタームのものでも、【31】俳句文学館の『俳人協会二十五年小史』(1987年)から始まり、『俳人協会三十年小史』(1991年)、『俳人協会三十五年小史(追補編)』(1996年)、『俳人協会四十年小史』(2001年)まで続く一連の「記念誌」であり、これらが5年という期間で発行されるものが確認できる。活動の記録を「記念誌」として残していくには、おそらくこのような5年という区切りが短さの限度なのであろう。

また、「開館記念誌」としては、【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学館 設立の趣意』(1963年)、【35】神奈川県立神奈川近代文学館の『神奈川近代文学館建設の趣意』(1982年)、【14】(財)斎藤茂吉記念館の『斎藤茂吉記念館建設実行委員会誌』(1984年)、【33】(財)吉川英治記念館の『吉川英治記念館設立史』(1988年)などが事例となるが、そもそも「記念誌」の数が少ないため、こういった「開館記念誌」を発行している文学館は、むしろ例外的な出版事業を行っているものと評価できる。

2.7.2 「文学館活動の記録」の目的

さて、では以上のような文学館の「〔へ〕文学館活動の記録」が作製される目的を考えていきたい。その前に、例えば他の類似機関の「館報」が、どのような目的をもって作製されているのかを見ていきたい。ここでは公共図書館、大学図書館、学校図書館、公民館の館報を取り上げることにする。

そもそもこのような「館報」の役割がいつ頃から認識されだしたのかは定かではないが、例えば公共図書館の「館報」については、1955年に石井敦が、“日本の図書館報は、館報告（report）から出発している。「館報」として独立に図書館で発行しはじめたのは、恐らく1902年（明治35年）私立成田図書館であろう。以後、大橋、山口県立、大阪府立、帝国図書館、宮崎県立、宮城県立、南葵文庫、私立鹿児島、富山市立が明治年間に創刊されている”¹²⁶と述べているように、明治後期頃から徐々にその数を増やしていったようである。しかし石井敦の指摘によれば、明治期の「館報」は、沿革略、建築及設備の概要、蔵書、閲覧概況・統計、図書館規則、寄贈図書などを内容とし、そこに図書館利用者のためという考えがなかったとされている。

石井敦はさらに、“大正年代に入って、館報は閲覧者との関係ではじめて考えられるようになってくる。それは図書館サービス拡充のための一手段として意識せられ、その数も次第に増加してきた”¹²⁷と述べ、新たに増加図書目録や読書随筆などが内容に加えられるようになったと評価し、“監督機関に報告する report から、一部の閲覧者（研究者・教育者などの文化人）もその配布対象に考えられてきた”¹²⁸とまとめている。そしてその後、昭和期には地域社会内の図書館関係者や読書施設運営者（団体）にも配布対象を拡大し、さらに戦後期には閲覧者や地域住民がその対象に加えられたと、四つの時期に分けてその変遷を述べている。石井敦の意見をまとめてみると、以下の表2-7のようになるだろう。

表 2-7：公共図書館の「館報」の配布対象とその収録内容の歴史的変遷

時 期	配 布 対 象	内 容
明治期	図書館の監督	閲覧統計、寄贈図書、館の沿革、日記抄 管理機関の関係者
大正期	地域社会の文化人	書誌的な随筆、地方史料、増加図書目録
昭和期	戦前 管内の読書施設 管内の関係者	図書管理用の手引、図書館技術・経営論、 館員の研究、貸出文庫の連絡、 事務的な記録、諸会議の記録、 多く読まれた図書の順位表
	戦後 閲覧者 地域住民（不読者層）	図書館の行事、図書館技術の紹介、 館活動の啓蒙的宣伝、図書紹介

すなわち公共図書館の「館報」は時を経るに従って、内部関係者への報告書という意味合いから、外部の関係機関に対する情報提供、さらには不特定多数の利用者への宣伝へと、その作製目的が徐々に変化し、数は少ないが対象の明確な関係者・関係機関から、不特定多数の利用者へと意識が向けられるようになったということである。

もちろん、戦後の「館報」が全て地域住民を対象としていたとはっきり区別できるものではなく、当然ながら作製された「館報」は、図書館の監督や地域社会の文化人なども目を通すわけであり、従来のような内部関係者への報告書としての性格も併せ持っている可能性は充分考えられる。つまり、読者の対象を極端に変えた（ある集団から別の集団へと鞍替えした）というわけではなく、既存の配布対象を相変わらず含みながら、配布対象を徐々に拡大していったというような変化と捉えた方が自然であろう。

現在はこうした流れを汲み、不特定多数の利用者を対象とした誌面作りが主流であり、大学図書館、学校図書館、公民館などでもこういった傾向は同様となっている。例えば大阪経済大学図書館の替地勝治は、1984年に大学図書館の「館報」について次のように述べている¹²⁹。

最近どの大学図書館も多様な学生の要望に応え、その利便をはかることが考慮されてきている。数年前から当館でも図書館が持つ諸機能のすべてを活かし、要求に応じて学生利用者の中へ入っていく工夫がなされている。館報はこれら図書館諸活動についての雰囲気伝えるものであると理解している。

あるいは学校図書館については、岡山市立芳田中学校職員の鹿野恵子が、2002年に次のように述べている¹³⁰。

たぶん、図書館の広報物を作るときは、誰でもいくつかの願いを込めると思う。広報紙（誌）の種類や載せる情報の内容によって、目的や使われ方は違うが、確実に多くの利用者の手に渡り、残そうと思えば半永久的に残っていくものだから、それだけに丁寧に中身のあるものを作りたいと思っているはずである。

私は、まず「パツ」と見たときに、利用者が「読みたい」と思う紙面であることを心がける。そして利用者が読んで、十分おもしろく多少なりともトクをした気分になってほしいと願う。また、読むことによって図書館のあらゆる機能に目を向けることができ、図書館をもっと活用しようと思えるようでありたいとも思う。さらには毎回の発行を楽しみに待ってもらえ、大切に保存しておきたいと思えるようなものを制作したいと思っている。

また、公民館の「館報」については、1986年に保谷市（現・西東京市）住吉公民館職員の多田喬四郎が、次のように述べている¹³¹。

公民館報は、公民館に来る人と来られない人をつなぐ大切なパイプ役でなければなりません。

行政の一つの仕事として発行する公民館報も、当然住民が主人公である点は変わりありません。だから、公民館報をどんなにきれいに印刷したとしても、その内容が住民の求めているものと異なっていたり、求めたくなるようなものでないと何の意味もないものになってしまいます。逆に、どんなにいい内容のものを準備していても、だれにも知らせず、知らされずとなると、何もしなかったのと同じような結果になってしまいます。

そのためには、公民館職員の義務的な仕事としてではなく、広く住民の参加を得て、しかも住民が中心となって発行する公民館報でなければなりません。公民館報を見れば、その公民館が住民と結びついた活動をしているかどうかすぐわかるといわれますが、それは住民の声が反映された活動をしているかどうかの基準となっているからであろうと思います。

これらの意見から窺えることは、「館報」の読者対象として、いずれも利用者（公民館報の場合は住民）を見据えており、それに合わせた紙面作りを心がけている姿勢である。そこには石井敦が述べたような、明治期、大正期に見られたある特定の人や機関に対してのみに報告するような閉鎖性は感じられず、「館報」を編集する人たちが、より不特定多数の利用者に受け入れられるような紙面作りを目指していたという意向が表れている。

文学館が本格的に活動し始めたのは、戦後の【49】藤村記念館の1947年が最初であるが、その中でも最も早く発行された「館報」は、【31】俳句文学館の『俳人協会々報』（1962年5月創刊）、次いで【30】（財）日本近代文学館の『日本近代文学館ニュース』（1963年1月創刊）である。公共図書館の「館報」が、閲覧者や地域住民向けに変化してきたという石井敦の「館報」についての指摘は1955年であったが、文学館の「館報」が発行され始めるのは、その指摘から実に7年も後のことである。そういった時代性を考慮すれば、おそらく文学館の「館報」の創刊にあたっては、同時代の公共図書館や公民館などにおける「館報」、すなわち、石井敦の言うところの公共図書館の戦後期の「館報」を参考にした部分が多かったのではなかろうか。つまり、閲覧者や地域住民を意識した誌面作りである。

現在の文学館の「館報」の主流は、「利用者向け館報」であることは先に示したが、これは石井敦の提示した論考に見事に沿った形となっているものだと言えるだろう。すなわち「館報」という発行物は、大きな捉え方をすれば、文学館活動に関する情報を利用者へ提供するという目的があり、文学館と利用者とを繋ぐ役割を担っている発行物ということになる。別の言い方をすれば、文学館が行っている「広報活動」のひとつとして捉えるこ

とができるだろう¹³²。

ただし、石井敦の論考は 1955 年時点のものであるため、現在の文学館の「館報」の事情について考えていくには、若干不十分の部分があるので、その点を補っておきたい。

先に述べたように、近年の文学館における「館報」は、一般利用者向けの編集方針となっている「利用者向け館報」と、関係者向けの内容を収録しようとする「関係者向け館報」とが並行して発行している文学館が少なからず見られるようになった。最も早い例では、【70】松山市立子規記念博物館の事例があり、同館では 1980 年代前半から両者の使い分けを開始している。具体的には、1981 年に創刊された『季刊 子規博だより』が一般向けの内容であり、1983 年に創刊された『松山市立子規記念博物館年報』が関係者向けのものということになるだろう。

「関係者向け館報」は、これは石井敦の分類においては、明治期や大正期に見られた類の「館報」であると言える。つまりこれは「館報」本来の目的であり、原点へと回帰したものと捉えることができる。これはすなわち、「館報」が一般利用者向けのものと同様関係者向けのものへと分割されたことを物語っており、それぞれが独自のものとして作製されるようになったということである。

つまり「館報」とはそもそも、内部関係者向けの報告書としての目的から出発したものであったが、しかし外部関係者、一般利用者へと配布対象を拡げることによって、その内容が幅を持ち、徐々に変化することとなったという背景がある。変化があったとは言え、そこには相変わらず内部の関係者への報告書という性格も含んでいたが、しかし内容的に一般利用者向けの読み物としての「館報」に傾倒してくると、報告書的な意味合いが薄まってしまふという弊害もあったと推測される。そのため、それを打開するために、活動実績を報告する目的の「関係者向け館報」が、そこから分離独立したと考えられる。【35】神奈川県立神奈川近代文学館や【70】松山市立子規記念博物館のように、2 種類の「館報」を併用し始める文学館が登場してきたのは、そういった両者の作製目的が、徐々に明確化されていったことによるのだろう。

「[へ]文学館活動の記録」を発行することの目的とは、文学館の利用者に対する情報提供と先に述べたが、実はこれは正確な表現ではない。正しくは、文学館に携わる全ての人々（利用者、関係者問わず）への情報提供ということになるだろう。利用者の存在は見えやすいが、この関係者という存在は、あまり語られないために一般に気づかれにくい（例えば、先に引用した大学図書館の「館報」、学校図書館の「館報」、公民館の「館報」は全て利用者に対する視点のみであった）。

だが「館報」という発行物は、石井敦が言うように、そもそもの原点は内部関係者への報告書を目的に作製されるようになったものである。例えば公立の文学館であれば、予算などの関係から、資金を出している自治体への活動報告が必要とされると思うが、こういった「館報」はそういった場合に、文学館の活動報告書としての役割を果たすことになる

と考えられる。つまり「館報」の作製は、表向きは利用者の方面を向いているということになるが、一方で関係者への報告書という役割もしっかりと担っているというわけである。

あるいはまた、「館報」や「記念誌」は、文学館の活動の記録化という側面も存在すると考えられる。これは例えば、【11】日本現代詩歌文学館の「館報」の合本である『日本現代詩歌文学館・館報』（1995年）が発行された際に、同館の館長である扇畑忠雄が、“文学館が刻んだ貴重な記録を歴史としてまとめ、後世の研究に資そうと”¹³³する目的で作製を行ったとの発言をしているように、「館報」は文学館の活動を一定期間ずつ積み重ねたものであり、それぞれの文学館の活動の軌跡が刻み込まれた発行物となっている。文学館の活動を歴史的に振り返るには、こういった「館報」や「記念誌」は欠かせない発行物となるだろう。

つまり「[へ]文学館活動の記録」を発行することの目的は、(1)文学館の利用者に対する情報提供、(2)文学館の利用者に対するPR、(3)文学館の関係者に対する活動報告、(4)文学館活動の記録化、などがあると言える。

2.7.3 「文学館活動の記録」の機能

さて、では「[へ]文学館活動の記録」の持っている機能を考えてみたい。その機能としては、利用者らが、(1)文学館の活動の情報を得ること、(2)文学館の対象とする作家の情報を得ること、(3)文学館の所蔵資料の情報を得ること、などが考えられるだろう。

総合文学館、地域文学館、個人文学館を問わず、「館報」に記録されている記事を見ても、そこから見えてくるものは、文学館の関係者向けの記事ではなく、文学館を訪れる利用者向けの記事が目立つということである。先にも述べたが、「館報」は関係者も目を通すものであり、報告書としての性格も含んではいるが、表向きは利用者向けの「広報」を期待されている発行物である。そのため、その内容は利用者向けのものが必然的に多くなる傾向にあるのだろう。このことは、先に言及しておいた石井敦の論考にあったような、戦後の公共図書館の「館報」が、閲覧者や地域住民を対象としていたことと非常に酷似している。

例えば文学館の「館報」の内容を、その目次から確認してみれば、展覧会などの館の活動報告や、収蔵資料の紹介、あるいはエッセイの寄稿など、実に多岐にわたっている。具体的に例を挙げてみれば、総合文学館では、【30】(財)日本近代文学館の「館報」である『日本近代文学館』第20号(1974年)の目次からは、水上勉が「宇野先生の「字」」、吉田精一が「中村星湖氏の印象」、佐伯彰一が「同時代人の自伝」というエッセイを寄せていたり、あるいは「所蔵資料紹介」として「織田作之助書簡」や「広津和郎書簡」などが紹介されていることが確認できる。こうした作家に関するエッセイの数々や、書簡の紹介などは、前述した「[へ]文学館活動の機能」の機能の(2)や(3)に該当する内容と言えるだろう。

あるいは地域文学館の一例として、【38】山梨県立文学館の「館報」である『山梨県立文学館館報』第10号（1992年）を挙げてみると、こちらも山下一海が「禁断の蛇笏」、牧宏「差出・わが風景」などのエッセイを寄せ、同時に「研究ノート」や「館蔵資料紹介」「寄贈図書紹介」などが収録されているように、外部の研究者や利用者向けの誌面構成となっていることが窺える。

また、個人文学館の例としては、【25】（財）海音寺潮五郎記念館の「館報」である『海音寺潮五郎記念館誌』第10号（1990年）を見てみると、司馬遼太郎や尾崎秀樹による講演、磯貝勝太郎によるエッセイ、「海音寺潮五郎著書目録稿」という研究記録の掲載などがなされており、収録されている記事の数は【30】（財）日本近代文学館や【38】山梨県立文学館と比べて少ないが、内容的には非常に質の高い記事が収録されていることが期待できる内容となっている。

もう一例、【77】松本清張記念館の「館報」である『松本清張記念館』第5号（2000年）を取り上げてみると、西島伊三雄への「インタビュー」、展示会の紹介、地域の文学の紹介など、幅広い内容を扱っていることがわかる。このうち、「展示会の紹介」などは、前述の(1)のような文学館活動の報告をするものであるから、「館報」という発行物が、いかに幅広い内容を収録しているかが見てとれる。

ところでこういった「館報」に収録された「所蔵資料の紹介」や「目録」、「研究ノート」、「講演」、「翻刻」などの内容は、文学館の他の機能によって生み出される発行物（「目録」や「紀要」、「記録集」、「翻刻」など）に似た内容を収録していることが見えてくる。これは保昌正夫が、【30】（財）日本近代文学館の「館報」に連載されている「所蔵資料紹介」に関して、“未公開のものを「公開」していくに当たっては、さまざまな手段があるが、この館報による紹介は紙面の制限があるとはいえ、一つの確かな形を示していると思われる”¹³⁴と言及していることから窺えるように、先に述べた「[ロ]所蔵資料の記録」や「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」、「[ニ]対象作家の作品」などと明らかに内容的に被るという側面がある。

つまり、こういった「館報」に代表される「[へ]文学館活動の記録」というものは、そういった幅広い内容の収録を許容する可能性を秘めているのである。言い換えれば「館報」とは、紹介程度に留まる内容の薄い記事となってしまいう弊害はあるにせよ、発行の頻度の短さや手軽さから、他の種類の発行物についての要約などを紹介するには、非常に便利な発行物になると評価できる。

以上のように「[へ]文学館活動の記録」とは、これら文学館に関わる様々な情報の集合体であり、それらを多くの利用者へと伝えることで、文学館活動を広く周知させ、活動の理解を得るという役割を果たしているのである。

2.8 文学館の発行物の現状と意義

2.8.1 文学館の発行物の現状

さて、これまで見てきたような、6種類の性質ごとの発行点数と発行館数を、ひとつの表にまとめてみたい。そうするとその結果は、以下の表 2-8 のようになるだろう（表 2-8 は、便宜的に発行点数が多い順番に並べてある）。

表 2-8：「発行物の性質」ごとの発行点数と発行館数

順位	館名	[イ]	[ロ]	[ハ]	[ニ]	[ホ]	[ヘ]	合計
1	【30】(財) 日本近代文学館	26	31	16	2,102	0	261	2,436
2	【31】俳句文学館	0	8	54	535	0	413	1,010
3	【56】大阪府立国際児童文学館	0	12	37	122	0	31	202
4	【35】神奈川県立神奈川近代文学館	47	23	3	0	0	108	181
5	【70】松山市立子規記念博物館	46	1	0	0	0	114	161
6	【38】山梨県立文学館	34	3	32	6	0	69	144
7	【59】姫路文学館	35	5	16	6	0	66	128
8	【06】(財) 北海道文学館	30	6	15	0	0	76	127
9	【49】藤村記念館	4	1	2	3	0	112	122
10	【14】(財) 斎藤茂吉記念館	1	1	3	7	51	28	91
11	【11】日本現代詩歌文学館	21	0	16	1	0	48	86
12	【41】軽井沢高原文庫	3	0	19	0	0	61	83
13	【19】群馬県立土屋文明記念文学館	27	9	15	20	1	6	78
14	【79】熊本近代文学館	4	2	0	0	0	69	75
15	【26】(財) 世田谷文学館	27	2	0	0	10	29	68
16	【33】(財) 吉川英治記念館	2	2	0	5	0	53	62
17	【32】調布市武者小路実篤記念館.....	37	1	5	0	2	16	61
18	【18】田山花袋記念文学館	24	2	19	9	0	5	59
18	【21】水と緑と詩のまち前橋文学館	31	0	1	0	0	27	59
20	【09】弘前市立郷土文学館	0	0	0	0	0	55	55
21	【04】市立小樽文学館	16	4	3	1	0	30	54
22	【23】さいたま文学館	23	2	1	0	15	10	51
23	【27】立原道造記念館	11	0	0	4	0	35	50
23	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	3	3	2	2	0	40	50
23	【73】高知県立文学館	17	0	5	0	0	28	50

26	【77】松本清張記念館	14	0	11	0	0	23	48
27	【08】青森県近代文学館.....	21	0	0	3	0	22	46
28	【12】仙台文学館	18	3	11	0	0	12	44
29	【36】鎌倉文学館	34	0	6	0	0	1	41
30	【45】(財)石川近代文学館	6	1	11	21	0	1	40
31	【15】いわき市立草野心平記念文学館.	16	0	0	0	0	2	36
32	【67】菊池寛記念館.....	1	0	1	24	5	0	31
33	【16】郡山市							
	こおりやま文学の森資料館	11	0	0	0	4	1	29
34	【10】(財)石川啄木記念館	4	0	3	1	0	19	27
35	【28】(財)田端文士村記念館.....	1	0	12	0	0	12	25
36	【25】(財)海音寺潮五郎記念館	0	0	1	0	0	22	23
36	【65】中原中也記念館	4	0	9	0	0	10	23
38	【34】大佛次郎記念館	2	16	3	1	0	0	22
38	【39】池波正太郎真田太平記念館	1	0	0	0	0	21	22
38	【53】新美南吉記念館	1	0	11	0	10	0	22
41	【13】原阿佐緒記念館	0	0	0	0	0	21	21
41	【54】加悦町江山文庫	10	0	1	1	9	0	21
41	【61】森鷗外記念館.....	13	2	0	0	0	6	21
44	【07】三浦綾子記念文学館	1	0	1	2	0	14	18
44	【57】司馬遼太郎記念館.....	2	0	1	1	0	14	18
44	【80】かごしま近代文学館	5	0	0	0	0	13	18
47	【60】佐藤春夫記念館	3	0	0	1	0	12	16
48	【24】文京区立鷗外記念本郷図書館	3	12	0	0	0	0	15
48	【64】ふくやま文学館	8	0	1	6	0	0	15
50	【66】徳島県立文学書道館	7	0	4	0	2	0	13
51	【72】上林暁文学館.....	1	0	0	0	0	11	12
52	【20】徳富蘆花記念文学館	1	0	0	0	0	10	11
53	【76】福岡市文学館.....	6	0	1	0	1	0	8
54	【17】古河文学館	7	0	0	0	0	0	7
54	【44】(財)会津八一記念館	7	0	0	0	0	0	7
56	【43】堀辰雄文学記念館.....	4	0	1	1	0	0	6
56	【68】壺井栄文学館.....	0	0	1	0	0	5	6
56	【78】長崎市立遠藤周作文学館	3	0	0	1	0	2	6
59	【03】旭川市井上靖記念館	1	0	0	0	0	4	5

60	【55】 茨木市立川端康成文学館	4	0	0	0	0	0	4
61	【37】 山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館.	2	0	0	1	0	0	3
61	【81】 川内まごころ文学館	3	0	0	0	0	0	3
63	【42】 小諸市立藤村記念館	0	0	2	0	0	0	2
64	【02】 有島記念館	1	0	0	0	0	0	1
64	【46】 泉鏡花記念館	0	0	0	0	0	1	1
64	【48】 室生犀星記念館	1	0	0	0	0	0	1
64	【52】 浜松文芸館	1	0	0	0	0	0	1
64	【63】 勝央美術文学館	1	0	0	0	0	0	1
69	【05】 函館市文学館	0	0	0	0	0	0	0
69	【40】 臼井吉見文学館	0	0	0	0	0	0	0
69	【47】 徳田秋聲記念館	0	0	0	0	0	0	0
69	【51】 (財) 芹沢・井上文学館	0	0	0	0	0	0	0
69	【62】 (財) 吉備路文学館	0	0	0	0	0	0	0
69	【71】 本山町立大原富枝文学館	0	0	0	0	0	0	0
69	【74】 香北町立吉井勇記念館	0	0	0	0	0	0	0
69	【75】 火野葦平資料館	0	0	0	0	0	0	0
	発行点数の総計	698	152	356	2,887	110	2,080	6,283
	発行館数	60	24	39	27	11	49	68

以上のように、文学館全体の発行点数は、6,283点となることが確認できる。

ただし、この表 2-8 の内容について、ひとつ注意しなければならないことがある。本来であれば、発行物の形態にはいくつかの種類があり（「図書」や「目録」、「館報」など）、それらは先に示したように、それぞれが異なる機能や目的を有しているものと考えべきだが、ここではそれぞれの内容量の違い（例えば、内容的に 100 ページを越えるようなボリュームの「目録」と、わずかに数ページから十数ページほどの内容しか収録していない「館報」では、その発行物としての質が明らかに異なる）を無視し、その発行点数を単純に合わせた値であるため、非常に単純で大雑把な数値の把握となっている。そのため、これらの発行点数の総計に特に重要な意味があるわけではない（そもそも現在把握されている文学館の館数 555 館から、恣意的に 76 館に絞り込んだ時点で、その発行点数の総計を求めることは無意味なことであろう）。この表 2-8 は、あくまで文学館の出版事業の概要を、発行点数の面から大雑把に把握するために示したものであり、数字自体に重きを置くべきではない。

さて、表 2-8 を見れば分かるように、本研究で対象とした文学館 76 館のうち、68 館で

は何らかの発行物を出していることが確認できる。つまり、その発行物の種類を問わなければ、何らかの発行物を出すという行為（発行物の「編集」や「監修」の機関、あるいは「発行」の機関に名を連ねること）は、文学館にとって特に珍しいことではなく、ごく普通に行われているものだと言えるだろう。少なくとも、文学館にとって発行物を出すことは、決して特殊なものではなく、頻繁に行われているものであることは確認できる結果である。

とすれば、先に言及した【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬文学全集』や【38】山梨県立文学館の『資料と研究』は、文学館の発行物という観点からは、ほんの僅かの事例であったことが理解できる。これほどまでに大量の発行物が、既に世の中に出されているにも関わらず、文学館の発行物はこれまで積極的に話題にされることがなかったのであるが、先に述べたように、これはやはり「文学館の発行物とはどのようなものなのか」、「それらはどういった機能を持っているのか」といった問題提起がなされてこなかったがためだと考えられる。

とはいえ、本研究での調査をまとめた〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕が存在しなかったこれまでは、2004年度までの間に、文学館の発行物が6,283点も世に出されていることなど誰も把握しておらず、それに対する注目度も低かったわけであるから、現在に至るまで、文学館の発行物の概略が論じられてこなかったのも仕方がないのかもしれない。

ただし、対象とした文学館のうち、発行点数が0点という文学館が8館確認できることから、必ずしも全ての文学館が出版事業を行っているとは言えないという側面もある。このあたりの背景には、資金や人材の不足が考えられ、文学館における出版事業の重要性は認められつつも、現実の場面においては、必ずしも作製に踏み切れることが容易なわけではないことが明らかになっている。

さらに発行点数の観点から見ると、特に【30】(財)日本近代文学館と【31】俳句文学館が、別格とも言える出版事業を行っていることが顕著である。この2館の出版事業は特殊なものと考えられるが、これに続くのは、【56】大阪府立国際児童文学館や【35】神奈川県立神奈川近代文学館のように、全体的に総合文学館の発行点数が多いことが際立っている。総合文学館は、扱うテーマの大きさもさることながら、その研究成果を広く世の中に広めるための出版事業に、積極的に力を注いでいることが見てとれる数字と言えるだろう。

2.8.2 文学館の発行物の意義

さて、これまでのことをまとめてみたい。これまで見てきたように、文学館の発行物には6種類の背質を持ち、17種類の形態が見受けられたが、ではそれらを総括的に考えたと

き、それら発行物が作製される意義とは何だろうかを考えてみたい。おそらくそれは、次の6点に集約されるだろう。

- ① 文学館の諸活動を記録化すること
- ② ①の成果を、文学館の外部へと広めること
- ③ ①や②によって、文学館と他団体との連携を図ること。
- ④ ①や②によって、文学館と来館者（日本近代文学研究者や一般の利用者）との交流を促進すること。
- ⑤ ①や②によって、来館者（日本近代文学研究者や一般の利用者）同士の交流を促進すること。
- ⑥ ①から⑤によって、日本近代文学研究の発展に大きく貢献すること。

①や②については、そもそも発行物が記録¹³⁵を目的としたメディアとして存在している以上、当然のように有している機能である。例えば、「いつ頃にいかなる内容の展覧会を行っていたのか」、「その展覧会にはどのような資料が展示されていたのか」などが把握可能となるのは、「図録」という発行物が作製され、広く配布・販売されているがためである。

また②については、例えばある日本近代文学研究者が文学館の遠方に住んでいる条件下において、「その文学館が所蔵する資料にはどのようなものがあるか」ということを調べるときに、文学館に直接足を運ばずにそれを確認できるのは、「目録」という発行物が作製され、それが広く世に流通しているがためである。これは言い換えれば、文学館の行っている諸活動を拡張する行為であるとも言える。例えば、展覧会の記録を文学館の外へと押し出すには「図録」という発行物が必要であり、同様に所蔵資料の書誌データを外へと押し出すには「目録」が、文学館が主導となっている日本近代文学研究の成果を外へと押し出すには「紀要」や「研究誌」などの発行物がどうしても必要になる。その役目を背負っているのが、文学館の発行物と言えるだろう。文学館の活動は、それが建てられたある特定地域に密着したものである側面が強いという傾向があるが、しかしそういった地理的・時間的な制限を大きく越えることができるのは、こういった多くの発行物によるものである。

そして文学館が携わってきた発行物によって蓄積された、文学に関する数多の情報は、③のように団体間の連携を促し、④のように文学館とその来館者とが繋がる機会を生み出し、⑤のように来館者同士がお互いを刺激し合う場となる。③の場合は、例えば「図録」の内容を眺めてみれば、他の文学館との協力によってテーマに関する展示資料が補完されることが確認でき、あるいは「事典」のように、他の出版者がその製作に協力することによって完成にいたる発行物を考えてみれば、文学館がすべて独自に編集・発行に携わることばかりではないことが見えてくる。あるいは④のように、新たな発行物の作製にあたっては、文学館の外部の来館者（日本近代文学研究者や一般の利用者ら）がもたらす様々な

文章が寄せられることが求められる。例えば、日本近代文学研究者らが執筆する研究論文などが「紀要」や「研究誌」として結実し、一般の利用者が創作した作品なども、「文芸雑誌」や「創作集」としてまとめられている。また、例えば「紀要」における共同研究や「記録集」における対談や講演、シンポジウムなどのように、⑤においては来館者同士（日本近代文学研究者同士、日本近代文学研究者と一般の利用者、一般の利用者同士）がお互いを刺激し合う場ともなっている。

つまり文学館の発行物とは、それぞれの文学館が所蔵している文学に関する資料をもとにした、あらゆる利用形態のサポートであり、文学館を中心とながら、多様な機関や多くの人々を繋いでいく役目を果たしていると言えるだろう。

第3章 文学館の出版事業

3.1 出版事業の6種類の性質

さて、第2章では6種類の「発行物の性質」ごとに文学館の発行物の現状を示し、それをもとに、それぞれの「発行物の性質」がどのような意味を持っているか、という観点から考察をおこなった。しかし第2章で提示した結果は、あくまで発行物を中心に見ていったために、「ある文学館ではどのような性質を持つ発行物を出版しているのか(していないのか)」というような、個々の文学館の出版事業の性質を見ていくことが難しかった。言い換えれば、発行物そのものの現状やその意義を把握することはできたが、では出版事業が個々の文学館において、どのような活動方針に基づいて遂行されているのかについての理解が難しかったということである。これは第2章が「発行物の性質」ごとに現状を見ていくというアプローチで迫ったためであり、そのような問題設定においては、こういった文学館ごとの出版事業の性質にまで迫るのは不可能であった。つまり、発行物そのものの性質と、発行物を出版する文学館の性質とは、別々に考えなければならないものということである。

そこで本章では、文学館の出版事業を中心とした考察を行い、その特徴を掴む作業を行っていきたい。その方法としては、第2章で見てきた「発行物の性質」について、個々の文学館を基準として再編集することから始めることになるだろう。具体的な事例の提示やその考察は後述するが、こういった文学館ごとの「発行物の性質」をまとめていくことによって、それぞれの文学館がどういった性質を持つ発行物を出版しているのかというような、出版事業の形態が明確になると考えられる。

ここでは、第2章で考えてきた「発行物の性質」を文学館の出版事業の側から捉え直し、そこに文学館の「出版性」という概念を提唱してみたい。本研究で用いるこの「出版性」という考え方は、先の第2章で述べてきた「発行物の性質」について1対1に対応し、以下の表3-1のように6種類存在しているものとする。

表3-1: 「出版性」の種類とそれに対応する「発行物の性質」の種類

「出版性」の種類	「発行物の性質」の種類
[い]展示記録性	「[イ]展示の記録」を出版している場合。
[ろ]所蔵資料記録性	「[ロ]所蔵資料の記録」を出版している場合。
[は]研究記録性	「[ハ]所蔵資料/対象作家の研究」を出版している場合。
[に]作品公開性	「[ニ]対象作家の作品」を出版している場合。
[ほ]利用者作品公開性	「[ホ]利用者の作品」を出版している場合。
[へ]活動記録性	「[ヘ]文学館活動の記録」を出版している場合。

以上のような 1 対 1 の対応を踏まえた上で、「出版性」という用語の意味するところをを、以下のように定義する。

「出版性」とは、文学館が発行物を出版する際に、6 種類の「発行物の性質」の中のどれを重要視して作製に至ったのか、その発行物選択時における文学館の判断基準に影響を及ぼした活動方針（文学館の出版事業の持つ性格）のこと。

つまり文学館は、どのような性質を持つ発行物を出すにしろ、何らかの発行物を出版した（発行物の性質を選択した）時点で、自らの館の出版事業における活動方針をも世に示していることになる。詳細な検討は後述するが、これはそれぞれの文学館が固有に持っている性格であると考えられる。以上のような定義をすると、文学館の出版事業に関して、例えば「目録」のような「[ロ]所蔵資料の記録」を発行している文学館は、「[ろ]所蔵資料記録性」の「出版性」を有する文学館、あるいは「館報」のような「[へ]文学館活動の記録」を出している文学館は、「[へ]活動記録性」という「出版性」を有している文学館であると評価できるようになる。

文学館の発行物は、先に定義した 17 種類のいずれを出すにしろ、出版するにあたってはそれなりの資金や人材が必要とされるものであるが、それらには当然ながら限りがあるものと推測される。例えば、ある文学館で「図録」を新しく出そうと決定した際に、その作製に対してそれなりの資金や人材を割り当てれば、他の発行物にかかる資金や人材は不足することは容易に想像がつくだろう。つまり発行物は、こういった発行物でも作製可能というわけではなく、その作製に関して何らかの優先順位が存在すると考えられる。この優先順位は、資金や人材の確保を含め、催しなどのタイミング、文学館の設立母体や利用者からのリクエストによる外的要因など、様々な理由が考えられ、個々の文学館で異なる事情があると考えられる。

発行物には多様な種類があり、さらにそれぞれについて作製の目的や機能が異なることは第 2 章にて検討したとおりだが、ではなぜ、ある文学館ではその中から「図録」を発行しようとしたのか、あるいはまた別の文学館では、なぜ「館報」を選んだのだろうか。どの種類の発行物を出すかについては、特に何の強制があるわけでもなく、テーマの選択から資金や人材の確保までを含め、完全に個々の文学館の裁量次第なのだが、だからこそ「どの発行物を世に出したのか」、あるいは「どの発行物には関わっていないのか」といった観点からは、それぞれの文学館の出版事業の性格が透けて見えることになる。つまり、「ある文学館がこういった発行物を出しているのか」という問いは、「ある文学館はこういった発行物を重要視しているのか」という意味にも通じるわけであり、出版事業において発行物の種類を選択する作業には、文学館運営の思想（文学館が関わっているどのような情報を

館外の利用者に伝えたいのか) が暗に刻み込まれているものと考えられる。

ではここからは、それぞれの文学館の性質を、出版事業における「出版性」という観点から見ていくことで明らかにしてみたい。

3.2 発行物の選択とその組合せ

その前に、文学館の「出版性」の組合せの問題についても言及しておきたい。前節の「出版性」の定義に従えば、例えば「図録」を出している文学館は「[い]展示記録性」、あるいは「目録」を出している文学館は「[ろ]所蔵資料記録性」という「出版性」を持つということになるが、当然ながら複数の「出版性」を所有する文学館も存在する。つまり「図録」を重視しつつ、同時に「館報」の発行にも力を入れている文学館を例に挙げた場合、これは「[い]展示記録性」と「[へ]活動記録性」の2種類の「出版性」を同時に有しているものと評価しなければならない。すなわち文学館の出版事業は、「出版性」の複合体であると考えていかなくては、その全体的な性質を捉えることはできないものであると考えられ、そこには6種類の「出版性」の存在が確認できるがゆえに、その組合せにも注意を払わねばならないものと考えられる。

そこで以上のような6種類の「出版性」を総括していく視点も用意しておきたい。本研究ではそういった「出版性」を総括する概念を、「出版形態」と呼んでいくことにする。このように定義すると文学館の出版事業は、次の表3-2のような関係性によって表現することができるだろう。

表 3-2：文学館の「出版形態」の種類と内在する「出版性」の数との関係

「出版形態」の種類	内在する「出版性」の数
①複合出版型（6種）	[い][ろ][は][に][ほ][へ]の6種類全ての「出版性」を有する。
②複合出版型（5種）	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のうち、5種類の「出版性」を有する。
③複合出版型（4種）	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のうち、4種類の「出版性」を有する。
④複合出版型（3種）	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のうち、3種類の「出版性」を有する。
⑤複合出版型（2種）	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のうち、2種類の「出版性」を有する。
⑥単出版型	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のうち、1種類の「出版性」を有する。
⑦未出版型	[い][ろ][は][に][ほ][へ]のいずれの「出版性」も有しない。

以上のように、2種類以上の「出版性」を有している文学館の出版事業については「複合出版型」（これはさらに2～6種類ごとの5段階に細分される）、1種類のみ「出版性」を有する文学館については「単出版型」、いずれの「出版性」も持たない文学館は「未出版型」と呼ぶことにする。当然ながら、所有する「出版性」の数が多いほど、すなわち、

「未出版型」よりは「単出版型」，「単出版型」よりは「複合出版型」のほうが，出版事業の内容が幅広いものとなるため，それだけ活発な出版事業を行っていると評価される。

以上のことから，文学館の「出版形態」の意味するところは，次のように定義することができるだろう。

「出版形態」とは，6種類の「出版性」の組合せ方を表現する概念であり，個々の文学館の出版事業の規模や幅の広さを意味する。

このことを言い換えれば，個々の文学館の出版事業の性質を総体的に表現したものが「出版形態」であり，その文学館の「出版形態」の内訳や詳細を表す概念が，「出版性」という位置付けになる。

以上のような定義をしたとき，そのうちの「複合出版型」には「出版性」の数によって5種類の状態があり，さらにその内容には，「出版性」の組合せによって，理論上は57通り（ ${}^6C_2+{}^6C_3+{}^6C_4+{}^6C_5+{}^6C_6=57$ ）の小分類が考えられる。同様に「単出版型」の下位には，6通り（ ${}^6C_1=6$ ）の小分類が定義されることになる。また，「未出版型」としては，1通り（ ${}^6C_0=1$ ）の形態があり，以上を合計した64通り（ $=57+6+1$ ）が，「出版性」の組合せに考慮した全ての「出版形態」の種類となる。このことは次ページの表 3-3 のように表すことができるだろう。

つまり文学館の出版事業は，5種類の「複合出版型」，1種類の「単出版型」，1種類の「未出版型」の合計7種類の「出版形態」に分類され，それらはさらに，保有する「出版性」の数とその組合せによって，合計で64通りに細分されるものと定義される。これによって全ての文学館が，何らかの「出版形態」に分類されることになる。

3.3 出版事業の性質

ではここからは，前節で定義した文学館の「出版形態」を，個々の文学館に当てはめることでそれぞれの出版事業の性質を見ていくことにしたい。しかし，対象としている文学館の数が多いため，全ての館について述べていくことは冗長であり，無駄も多くなってしまふ。そのため，同じような「出版形態」を持つ館同士については，全ての事例に言及することはせず，ある文学館を代表として取り上げることで，その性質を考察することにし，文学館の「出版形態」の全ての事例は，〔付属資料 3：文学館の「出版形態」〕に譲ることにしたい。

では以下において，総合文学館，地域文学館，個人文学館の3種類の規模ごとに分けながら，「出版形態」に関して何らかの特色が見られた文学館を取り上げてみたい。

表 3-3：文学館の「出版形態」の種類とそれに対応する「出版性」の組合せ

「出版形態」の種類	「出版性」の組合せ
①複合出版型（6種）	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性 ／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性」 <p>（※全1通り。）</p>
②複合出版型（5種）	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性 ／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性」 ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性 ／[に]作品公開性／[へ]活動記録性」 <p>（※全6通り。その他の組合せは割愛。）</p>
③複合出版型（4種）	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性 ／[に]作品公開性」 ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性 ／[ほ]利用者作品公開性」 <p>（※全15通り。その他の組合せは割愛。）</p>
④複合出版型（3種）	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性」 ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[に]作品公開性」 <p>（※全20通り。その他の組合せは割愛。）</p>
⑤複合出版型（2種）	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性」 ・「[い]展示記録性／[は]研究記録性」 <p>（※全15通り。その他の組合せは割愛。）</p>
⑥単出版型	<ul style="list-style-type: none"> ・「[い]展示記録性」 ・「[ろ]所蔵資料記録性」 <p>（※全6通り。その他の組合せは割愛。）</p>
⑦未出版型	<p>—</p> <p>（※全1通り。）</p>

3.3.1 総合文学館

総合文学館の「出版形態」については、その館数も少ないため、5館全てについて述べていくことにする。

まずは【30】（財）日本近代文学館の「出版形態」を考えてみたいが、同館の場合は「発行物の性質」ごとに、以下の表3-4のような発行点数が見られる。

表 3-4 : 【30】 (財) 日本近代文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	26
[ロ]所蔵資料の記録	31
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	16
[ニ]対象作家の作品	2,102
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	261
総計	2,436

以上の結果を参考にすると、【30】(財)日本近代文学館では、[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の5項目に該当する発行物を出版していることが窺える。このことから同館は、「[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性」の5種類の「出版性」を有する「複合出版型(5種)」であることが見てとれる。すなわち、「[ホ]利用者の作品」以外の5種類の性質の発行物に携わっているということは、【30】(財)日本近代文学館は展示を行い、所蔵資料の書誌情報を積極的に館外に公開し、自館の所蔵資料を元にした研究発表を行い、対象とする作家に関する閲覧の難しい作品を、多くの日本近代文学研究者や一般の利用者らが閲覧できるように出版し、尚かつ自館の活動の報告を定期的に行うというように、八面六臂な活動をしていることが理解できる。つまり同館は、単に発行点数が他館と比べて飛び抜けて多いというだけではなく、あらゆる性質の発行物に気を配り、積極的な出版事業を、文学館の活動方針としているということである。

これと同様に、他の総合文学館についても見ていきたい。まずは、【31】俳句文学館だが、これは以下の表3-5のようにまとめることができる。

表 3-5 : 【31】 俳句文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	0
[ロ]所蔵資料の記録	8
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	54
[ニ]対象作家の作品	535
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	413
総計	1,010

表 3-5 の結果からは、【31】俳句文学館では[ロ][ハ][ニ][ヘ]の4種類の発行物を出版して

いることが見てとれる。これによって同館は「[ろ]所蔵資料記録性/[は]研究記録性/[に]作品公開性/[へ]活動記録性」の「出版性」を持つ、「複合出版型（4種）」の文学館であることが見て取れる。

同様に、【56】大阪府立国際児童文学館，【35】神奈川県立神奈川近代文学館，【11】日本現代詩歌文学館については、それぞれ次の表 3-6，表 3-7，表 3-8 のようになる。

表 3-6 : 【56】大阪府立国際児童文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	0
[ロ]所蔵資料の記録	12
[ハ]所蔵資料/対象作家の研究	3
[ニ]対象作家の作品	119
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	31
総計	199

表 3-7 : 【35】神奈川県立神奈川近代文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	47
[ロ]所蔵資料の記録	23
[ハ]所蔵資料/対象作家の研究	3
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	108
総計	181

表 3-8 : 【11】日本現代詩歌文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	21
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料/対象作家の研究	16
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	48
総計	86

以上の結果をまとめると、【35】神奈川県立神奈川近代文学館は、[イ][ロ][ハ][へ]の4種類の発行物を出版していることから、「[い]展示記録性/[ろ]所蔵資料記録性/[は]研究記録性/[へ]活動記録性」の「出版性」を有する「複合出版型（4種）」の文学館、【56】大阪府立国際児童文学館は、[ロ][ハ][ニ][へ]の4種類の発行物を出版していることから、「[ろ]所蔵資料記録性/[は]研究記録性/[に]作品公開性/[へ]活動記録性」の「出版性」を有する「複合出版型（4種）」の文学館、【11】日本現代詩歌文学館は[イ][ハ][ニ][へ]の4種類の発行物を出版していることから、「[い]展示記録性/[は]研究記録性/[に]作品公開性/[へ]活動記録性」の「出版性」を有する「複合出版型（4種）」の文学館であると言える。

それぞれの文学館の「出版形態」の違いを明確にするために、以上5館の事例を、以下の表3-9ように一覧にし、文学館同士の比較を行ってみることにしたい。[い]から[へ]までの6種類の「出版性」に従い、何らかの発行物の出版が見られたものには○、出版がないものについては×を記入している。また、発行点数の総計が多い文学館順に並べている。

表 3-9：総合文学館の「出版性」の有無

	文学館名	[い]	[ろ]	[は]	[に]	[ほ]	[へ]
1	【30】(財)日本近代文学館.....	○	○	○	○	×	○
2	【31】俳句文学館.....	×	○	○	○	×	○
3	【56】大阪府立国際児童文学館.....	×	○	○	○	×	○
4	【35】神奈川県立神奈川近代文学館.....	○	○	○	×	×	○
5	【11】日本現代詩歌文学館.....	○	×	○	○	×	○
「出版性」を有する館数.....		3	4	5	4	0	5
総合文学館5館に対する館数の割合(%).....		60	80	100	80	0	100

以上の表3-9からは、総合文学館はいずれも4種類以上の「出版性」を有しており、総合的に幅広い「発行物の性質」を扱っていることが見えてくる。

この結果を詳細に検討していくと、このうち、【31】俳句文学館や【56】大阪府立国際児童文学館などが、「[い]展示記録性」の機能をまったく有していないことなどは、特筆すべき点であろう。つまりこれら文学館では、展示というものを通した文学館活動があまり重要視されていないということであろう。一方で「[は]研究記録性」の機能を重視する傾向の強さが目立つことから、総合文学館はその責務として、日本近代文学研究の成果の蓄積に力を注ぐことを強く意識しているのだろうと推測させてくれる。

さらに、「[へ]活動記録性」を5館全てが有していることは、いずれの文学館も自館の活動の啓蒙や普及に非常に強い関心を寄せていることが表れている。これは見方を変えれば、これら総合文学館がそれだけ規模も大きく、館外から注目されやすい種類の文学館である

ことも示している。つまり総合文学館はその規模の大きさから、文学館の関係者にとっては語るべき（発信するべき）情報が多く、一方で日本近代文学研究者や一般の利用者の側から見ても、文学館からの情報公開を大いに期待しているという面があるのだろう。これは総合文学館の活動に寄せる期待の大きさの表れでもある。

また、いずれも「[ほ]利用者作品公開性」の機能を有していないことから、総合文学館の出版事業というものは、基本的に文学史に掲載されているような、資料の収集対象となっている作家を取り上げることが目的となっていることが窺える。この点については後述する地域文学館や個人文学館とは異なり、一般の利用者らも、総合文学館にはそのような機能をそれほど期待していない傾向にあるのだろう。

では最後に、総合文学館の「出版形態」を一覧できる形にまとめてみたい。これは以下の表 3-10 のようにまとめることができるだろう。

表 3-10：総合文学館の「出版形態」と「出版性」の組合せ

「出版形態」の別	館数	「出版性」の組合せ	文学館の固有番号
複合出版型（6種）	0	-	-
複合出版型（5種）	1	[い][ろ][は][に][へ]	【30】
複合出版型（4種）	4	[い][ろ][は][へ]	【35】
		[い][は][に][へ]	【11】
		[ろ][は][に][へ]	【31】 【56】
複合出版型（3種）	0	-	-
複合出版型（2種）	0	-	-
単出版型	0	-	-
未出版型	0	-	-

以上のように、総合文学館は5館全てが「複合出版型」の性質を有している。また、その「出版性」の組合せは、わずか5館ながら4種類の形式を見ることができる。これはつまりそれぞれの文学館の「出版形態」は、それだけ固有の性質を有しているということである。唯一の例外は、【31】俳句文学館と【56】大阪府立国際児童文学館とが、同じ「出版形態」というものであり、この二つの文学館は、発行物の内容やその発行点数は違えど、文学館として同じ方向性の出版事業を展開していることが見えてくる。

総合文学館は、全体として積極的な出版事業を持っていることが見てとれる。このことは、後述する地域文学館や個人文学館と比べてみると明らかなのだが、地域文学館や個人文学館には、「単出版型」や「未出版型」といった「出版形態」の文学館が少なからず含まれているが、一方で総合文学館は、その全てが「複合出版型」となっている。このことから総合文学館は、発行物を世に出そうとする意識（幅広い「出版性」を有する出版事業）

が圧倒的に高い文学館が集まっていることが窺える。

3.3.2 地域文学館

次は地域文学館を考えてみたいが、この事例としては、まず【19】群馬県立土屋文明記念文学館の事例を取り上げてみることにしたい。同館の発行点数は、以下の表 3-11 の通りである。

表 3-11 : 【19】群馬県立土屋文明記念文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	27
[ロ]所蔵資料の記録	9
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	15
[ニ]対象作家の作品	20
[ホ]利用者の作品	1
[ヘ]文学館活動の記録	6
総計	78

表 3-11 を参考にすると、【19】群馬県立土屋文明記念文学館は[イ][ロ][ハ][ニ][ホ][ヘ]全てについて発行物を出していることが分かるが、これによって同館は、「[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ホ]利用者作品公開性／[ヘ]活動記録性」というように、6種類全ての「出版性」を有する、「複合出版型（6種）」であることが確認できる。

このような6種類全ての「出版性」を持つ文学館は、先に述べた総合文学館には1館も見られなかったものであり、また、地域文学館の中においても、このような「出版形態」を持つ文学館は他に見ることができず、【19】群馬県立土屋文明記念文学館のみが有しているものとなっている。それだけ「複合出版型（6種）」という「出版形態」は、特殊な事例といえるわけだが、同館があらゆる種類の発行物に目を配りながら出版事業を行っていることが、一目瞭然の結果となっている。発行点数が78点というように、他館と比べても決して多くの発行物を出版しているわけではないが、様々な「発行物の性質」を幅広く出版しようとする姿勢からは、同館の出版事業の特異性が透けて見えるだろう。

特徴的な「発行形態」を持つ文学館の他の事例としては、以下に示した表 3-12、表 3-13 に見られるような、【38】山梨県立文学館と【59】姫路文学館の2館が特筆すべきものとして挙げられる。

表 3-12 : 【38】 山梨県立文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	34
[ロ]所蔵資料の記録	3
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	32
[ニ]対象作家の作品	6
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	69
総計	144

表 3-13 : 【59】 姫路文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	35
[ロ]所蔵資料の記録	5
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	16
[ニ]対象作家の作品	6
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	66
総計	128

以上の表 3-12, 表 3-13 から分かるように, これら 2 館では, 「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性」の 5 種類の「出版性」を持つ, 「複合出版型 (5 種)」の出版事業を遂行していることが確認できる。これは先の総合文学館で見てきた【30】(財) 日本近代文学館の事例と, その発行点数は大きく違えども, まったく同じ「出版形態」であることがわかる。これらの文学館も, 非常に幅の広い出版事業を行っていると言えるだろう。

このような 5 種類の「出版形態」を持つ地域文学館には, 他に【04】市立小樽文学館, 【45】(財) 石川近代文学館があり, 地域文学館では合計で 4 館が該当する。つまりこれらの文学館は, 同じような出版事業の形態を推し進めているということであり, 出版事業における文学館としての性格が, 非常に酷似しているということが指摘できる。

こういった類型が多い「複合出版型」としては, 「付属資料 3 : 文学館の「出版形態」」を参考にすれば, 他にも【21】水と緑と詩のまち前橋文学館, 【41】軽井沢高原文庫, 【73】高知県立文学館, 【36】鎌倉文学館, 【28】(財) 田端文士村記念館の 5 館が, 「[い]展示記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性」の 3 種類の機能を有する「複合出版型」となっていることが確認できる。

以上は「複合出版型」の文学館の事例であったが、「単出版型」の事例については、【17】古河文学館や【81】川内まごころ文学館などの事例を取り上げてみたい。これらの館の発行点数は、以下の表 3-14、表 3-15 のようになっている。

表 3-14：【17】古河文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	7
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	0
総計	7

表 3-15：【81】川内まごころ文学館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	3
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録	0
総計	3

表 3-14、表 3-15 から見てとれるように、これらの館では「[い]展示記録性」の機能のみを有していることが見てとれる。地域文学館の中では、「単出版型」の文学館はそれほど多くはないのだが、これはまだ文学館としての活動の歴史も浅いため、幅広い「出版性」を有するほどには、文学館の出版事業が成熟していないためだろう。同じような「出版形態」は、【52】浜松文芸館や【63】勝央美術文学館も有しており、これら 4 館で共通していることが確認できる。

現在のところ、これらの館では「図録」の作製のみの出版事業となっているわけだが、筆者が【17】古河文学館を訪れた際、学芸員の秋澤正之氏にこの点について直接話を伺ったところ、同館では「[ヘ]文学館活動の記録」に該当する「館報」の発行も検討しているが、現在ではそれに手が回らない状態であるということであった。設立から 1 年後に最初の「図録」である『和田芳恵展』（1999 年）が出版され、その後も次々に「図録」の作製

に力を注いできたが、それ以外の種類の発行物が出されていないことから分かるように、
【17】 古河文学館は、まずは他の発行物のどれよりも「[イ]展示の記録」を重要視している文学館であるということが見えてくる。

先にも述べたように、発行物というものはどういった種類のものを作るにしても、ある程度のコストや手間がかかるものであり、ある発行物を作ろうとすれば当然ながら他の発行物に手が回らなくなることは容易に想像できる。特に職員の少ない小さな文学館ほど、その傾向は顕著であろう。また、職員に発行物を作りたいという気持があったとしても、やはり資金や人材不足の面で多くの発行物に手を付けることは難しい状況にあることも理解できる。それだけ1点1点の発行物が世に出される背景には、それぞれに理由があり、文学館の事情（資金、人員、催し）、職員の情熱、外部からの要望（設立母体の機関、近代文学研究者、一般の利用者）など、様々な要因を考える必要があるだろう。

では、以上のこと地域文学館全体でどのような傾向があったのかを比較しやすくするために、以下のような表3-16にまとめてみた。これもさきほど同様に、何らかの発行が見られたものについては○、発行がないものについては×を記入した。また、発行点数の総計が多い順に並べている。

表 3-16：地域文学館の「出版性」の有無

	文学館名	[い]	[ろ]	[は]	[に]	[ほ]	[へ]
1	【38】 山梨県立文学館.....	○	○	○	○	×	○
2	【59】 姫路文学館.....	○	○	○	○	×	○
3	【06】 (財) 北海道文学館.....	○	○	○	×	×	○
4	【41】 軽井沢高原文庫.....	○	×	○	×	×	○
5	【19】 群馬県立土屋文明記念文学館.....	○	○	○	○	○	○
6	【79】 熊本近代文学館.....	○	○	×	×	×	○
7	【26】 (財) 世田谷文学館.....	○	○	×	×	○	○
8	【21】 水と緑と詩のまち前橋文学館.....	○	×	○	×	×	○
9	【09】 弘前市立郷土文学館.....	×	×	×	×	×	○
10	【04】 市立小樽文学館.....	○	○	○	○	×	○
11	【23】 さいたま文学館.....	○	○	○	×	○	○
12	【73】 高知県立文学館.....	○	×	○	×	×	○
13	【08】 青森県近代文学館.....	○	×	×	○	×	○
14	【12】 仙台文学館.....	○	○	○	×	×	○
15	【36】 鎌倉文学館.....	○	×	○	×	×	○
16	【45】 (財) 石川近代文学館.....	○	○	○	○	×	○
17	【16】 郡山市こおりやま文学の森資料館..	○	×	×	×	○	○

18	【28】(財) 田端文士村記念館	○	×	○	×	×	○
19	【54】加悦町江山文庫.....	○	×	○	○	×	×
20	【80】かごしま近代文学館.....	○	×	×	×	×	○
21	【64】ふくやま文学館.....	○	×	○	○	×	×
22	【66】徳島県立文学書道館.....	○	×	○	×	○	×
23	【76】福岡市文学館	○	×	○	×	○	×
24	【17】古河文学館	○	×	×	×	×	×
25	【81】川内まごころ文学館.....	○	×	×	×	×	×
26	【52】浜松文芸館	○	×	×	×	×	×
27	【63】勝央美術文学館.....	○	×	×	×	×	×
28	【05】函館市文学館	×	×	×	×	×	×
29	【62】(財) 吉備路文学館	×	×	×	×	×	×
「出版性」を有する館数		26	10	17	8	6	19
地域文学館 29 館に対する館数の割合 (%)		90	34	59	28	21	66

以上の表 3-16 を見てみると、最も多くの館が有する「出版性」は、「[い]展示記録性」であり、これは地域文学館全体の 90% ($\equiv 26/29 \times 100$) に該当することが理解できる。この結果からは、地域文学館における「図録」に対する力の入れ具合が見て取れるだろう。これに次ぐのは、「[は]研究記録性」と「[へ]活動記録性」であるが、これらの性質は、およそ 3 館につき 2 館に見られることから、以上の 3 種類の「出版性」が、地域文学館を代表する性質であることが理解できる。

また、総合文学館には見られなかった「[ほ]利用者作品公開性」の機能が、21%の文学館で有していることが確認できるが、これは後述する個人文学館も含め、もっとも高い数値となっている。地域文学館は、それだけ一般の利用者の作品の発行に力を注いでいる傾向が強いと言えるだろう。

では最後に、地域文学館の「出版形態」の館数をまとめてみたい。

以下の表 3-17 のように、地域文学館は「複合出版型」が 22 館で全体の 76% ($\equiv 22/29 \times 100$) を占めており、これが最も多い割合となっている。4 館につき 3 館は「発行物の性質」を幅広く選択するような活動を行っていることがわかるように、総合文学館にはやや及ばないものの、地域文学館の出版事業は、全体的に積極的なものであると評価できるだろう。

ただし、「単出版型」が 5 館で全体の 17% ($\equiv 5/29 \times 100$) であり、「未出版型」が 2 館で全体の 7% ($\equiv 2/29 \times 100$) となっているように、必ずしも地域文学館の全てが積極的な出版事業を行っているわけでもないことには、注意を払っておく必要があるだろう。それだけ文学館の出版事業というものは、館ごとの特色が異なっているのである。

表 3-17：地域文学館の「出版形態」と「出版性」の組合せ

「出版形態」の別	館数	「出版性」の組合せ	文学館の固有番号
複合出版型 (6種)	1	[い][ろ][は][に][ほ][へ]	【19】
複合出版型 (5種)	5	[い][ろ][は][に][へ]	【04】 【38】 【45】 【59】
		[い][ろ][は][ほ][へ]	【23】
複合出版型 (4種)	3	[い][ろ][は][へ]	【06】 【12】
		[い][ろ][ほ][へ]	【26】
複合出版型 (3種)	12	[い][ろ][へ]	【79】
		[い][は][に]	【54】 【64】
		[い][は][ほ]	【66】 【76】
		[い][は][へ]	【21】 【28】 【36】 【41】 【73】
		[い][に][へ]	【08】
		[い][ほ][へ]	【16】
複合出版型 (2種)	1	[い][へ]	【80】
単出版型	5	[い]	【17】 【52】 【63】 【81】
		[へ]	【09】
未出版型	2	-	【05】 【62】

3.3.3 個人文学館

個人文学館も非常に数が多いため、地域文学館と同じく、特徴的な出版事業を行っている文学館について考え、似たような性質を持つ文学館については割愛する。まずは、【14】(財) 斎藤茂吉記念館の事例を見ていくことにする。

表 3-18：【14】(財) 斎藤茂吉記念館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	1
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	3
[ニ]対象作家の作品	7
[ホ]利用者の作品	51
[ヘ]文学館活動の記録	28
総計	91

以上の表 3-18 の通り，同館では[イ][ロ][ハ][ニ][ホ][へ]の 6 種類の発行物を出版しているため，「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性」の全ての「出版性」を有する「複合出版型（6 種）」であることが見てとれる。これは先の地域文学館で取り上げた【19】群馬県立土屋文明記念文学館と合わせ，全ての文学館の中でわずかにこれら 2 館のみが有する「出版形態」である。それだけ発行物を幅広く出すということ（それまでに作製したことがない発行物に新たに取にかかると）は難しいことであり，一般に文学館は過去に出版した自館の発行物に照らし合わせ，それまでの慣例に従った同じ種類の発行物を繰り返し出版するというような方向に向かう傾向が見受けられる。

また，【30】（財）日本近代文学館と同じような，「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性」の 5 種類の「出版性」を有する個人文学館には，【49】藤村記念館，【18】田山花袋記念文学館，【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館の 3 館がある。例えば【49】藤村記念館の「出版形態」は，以下の表 3-19 の通りである。

表 3-19：【49】藤村記念館の発行点数

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録	4
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究	2
[ニ]対象作家の作品	3
[ホ]利用者の作品	0
[へ]文学館活動の記録	112
総計	122

繰り返しになるが，このように多くの種類の発行物に関わることは，その文学館の出版事業の幅の広さを意味している。発行物はそのほとんどが日本近代文学研究と密接な関係を持っていることは先に第 2 章にて示しておいたが，つまりこのような多くの「出版性」を有する文学館は，日本近代文学研究に対してそれだけ多様な貢献を果たしていることが見てとれる。

では以下の表 3-20 に，個人文学館全体についての出版状況をまとめてみたい。これも何らかの発行物が見られたものには○，発行物が見られないものについては×を記入している。また，発行点数の総計が多い順に並べている。

表 3-20 : 個人文学館の「出版性」の有無

	文学館名	[い]	[ろ]	[は]	[に]	[ほ]	[へ]
1	【70】松山市立子規記念博物館	○	○	×	×	×	○
2	【49】藤村記念館	○	○	○	○	×	○
3	【14】(財) 斎藤茂吉記念館	○	○	○	○	○	○
4	【33】(財) 吉川英治記念館	○	○	×	○	×	○
5	【32】調布市武者小路実篤記念館	○	○	○	×	○	○
6	【18】田山花袋記念文学館	○	○	○	○	×	○
7	【27】立原道造記念館	○	×	×	○	×	○
8	【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館	○	○	○	○	×	○
9	【77】松本清張記念館	○	×	○	×	×	○
10	【15】いわき市立草野心平記念文学館	○	×	×	×	×	○
11	【67】菊池寛記念館	○	×	○	○	○	×
12	【10】(財) 石川啄木記念館	○	×	○	○	×	○
13	【25】(財) 海音寺潮五郎記念館	×	×	○	×	×	○
14	【65】中原中也記念館	○	×	○	×	×	○
15	【34】大佛次郎記念館	○	○	○	○	×	×
16	【39】池波正太郎真田太平記館	○	×	×	×	×	○
17	【53】新美南吉記念館	○	×	○	×	○	×
18	【13】原阿佐緒記念館	×	×	×	×	×	○
19	【61】森鷗外記念館	○	○	×	×	×	○
20	【07】三浦綾子記念文学館	○	×	○	○	×	○
21	【57】司馬遼太郎記念館	○	×	○	○	×	○
22	【60】佐藤春夫記念館	○	×	×	○	×	○
23	【24】文京区立鷗外記念本郷図書館	○	○	×	×	×	×
24	【72】上林暁文学館	○	×	×	×	×	○
25	【20】徳富蘆花記念文学館	○	×	×	×	×	○
26	【44】(財) 会津八一記念館	○	×	×	×	×	×
27	【43】堀辰雄文学記念館	○	×	○	○	×	×
28	【68】壺井栄文学館	×	×	○	×	×	○
29	【78】長崎市立遠藤周作文学館	○	×	×	○	×	○
30	【03】旭川市井上靖記念館	○	×	×	×	×	○
31	【55】茨木市立川端康成文学館	○	×	×	×	×	×
32	【37】山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由紀夫文学館 ..	○	×	×	○	×	×

33	【42】小諸市立藤村記念館.....	×	×	○	×	×	×
34	【02】有島記念館.....	○	×	×	×	×	×
35	【46】泉鏡花記念館.....	×	×	×	×	×	○
36	【48】室生犀星記念館.....	○	×	×	×	×	×
37	【40】臼井吉見文学館.....	×	×	×	×	×	×
38	【47】徳田秋聲記念館.....	×	×	×	×	×	×
39	【51】(財) 芹沢・井上文学館.....	×	×	×	×	×	×
40	【71】本山町立大原富枝文学館.....	×	×	×	×	×	×
41	【74】香北町立吉井勇記念館.....	×	×	×	×	×	×
42	【75】火野葦平資料館.....	×	×	×	×	×	×
「出版性」を有する館数.....		31	10	17	15	4	25
個人文学館 42 館に対する館数の割合 (%)		74	24	40	36	10	60

以上のように個人文学館は、全体の 74% (≒31/42×100) の発行が見られるように、「[い]展示記録性」の機能を最も多くの館が有していることが見てとれる。また、「[へ]活動記録性」の機能も、およそ 3 館につき 2 館が有することから、この 2 種類の「出版性」は、比較的多くの個人文学館が採用しているものと言えるだろう。

一方で「[は]研究記録性」の機能は、総合文学館や地域文学館における数値が高かったことに比べ、個人文学館は 40%と若干数値が落ちる(総合文学館は 100%、地域文学館は 59%)。つまり個人文学館は、日本近代文学研究の蓄積についての機能が、他の総合文学館や地域文学館と比べて若干弱く、それよりは「[い]展示記録性」に力を注ぐ方向を目指している傾向にある。

これは例えば坪井賢一が、“文学館の実際の展示企画は乃村工藝社や丹青社など、専門の企業が請け負っている。文学館や記念館のシェアでは約五〇%でトップだという乃村工藝社によれば、八二年に開館した宮沢賢治記念館が、その後の文学館のスタイルを決めたのだという。つまり、資料の収集保存から、美術館のように展示主体になった”¹³⁶と述べているように、文学館が“展示主体”の性格を帯びだしたと無関係ではあるまい。

すなわち、それだけ文学館は展示の業務を求められ、それゆえに発行物の中では「図録」に対する要求が最も高く、その他の発行物については後回しにされがちな傾向があるのだろう。そういった“展示主体”の傾向が強まる情勢にありながら、それでも地域文学館では「[は]研究記録性」の機能を有する文学館の割合が多かったが、それは館の規模の違い(資金や職員数の違い)はもちろんのこと、文学館としての方針の違いによるものであるう。

では最後に、個人文学館の「出版形態」をまとめていきたい。

表 3-21：個人文学館の「出版形態」と「出版性」の組合せ

「出版形態」の別	館数	「出版性」の組合せ	文学館の固有番号
複合出版型（6種）	1	[い][ろ][は][に][ほ][へ]	【14】
複合出版型（5種）	4	[い][ろ][は][に][へ]	【18】 【49】 【58】
		[い][ろ][は][ほ][へ]	【32】
複合出版型（4種）	6	[い][ろ][は][に]	【34】
		[い][ろ][に][へ]	【33】
		[い][は][に][へ]	【07】 【10】 【57】
		[い][は][に][ほ]	【67】
複合出版型（3種）	9	[い][ろ][へ]	【61】 【70】
		[い][は][に]	【43】
		[い][は][ほ]	【53】
		[い][は][へ]	【65】 【77】
		[い][に][へ]	【27】 【60】 【78】
複合出版型（2種）	9	[い][ろ]	【24】
		[い][へ]	【03】 【15】 【20】 【39】 【72】
		[い][に]	【37】
		[は][へ]	【25】 【68】
単出版型	7	[い]	【02】 【44】 【48】 【55】
		[は]	【42】
		[へ]	【13】 【46】
未出版型	6	-	【40】 【47】 【51】 【71】 【74】 【75】

以上の通り、個人文学館の 69%（ $\equiv 29/42 \times 100$ ）が「複合出版型」、17%（ $\equiv 7/42 \times 100$ ）が「単出版型」、そして「未出版型」が 14%（ $\equiv 6/42 \times 100$ ）となることが見てとれる。個人文学館はその半数以上が「複合出版型」であるが、その「出版形態」には、【14】（財）斎藤茂吉記念館の「[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性」から、【25】（財）海音寺潮五郎記念館や【68】壺井栄文学館に見られるような「[は]研究記録性／[へ]活動記録性」まで、16通り見られるように、非常に多種多様である。これはそれぞれの個人文学館の出版事業が固有の性質を持っているがためだろう。

また、「未出版型」の割合は、総合文学館や地域文学館と比べたとき、最も高い数値となっている。これは個人文学館のうちの 14%が、発行物を世に出すこと自体が難しいという条件下に置かれていることを表しているが、14%は決して少ない数値ではない。先に発行物が世に出される背景には、様々な条件（製作のための資金、作製業務にあたる人材、

展覧会などの動機、作製を促す利用者などの外的要因)が絡み合っているものと述べておいたが、こういった「未出版型」の多さからは、文学館が何らかの発行物を出すことの難しさを感じ取ることができる。

3.4 文学館の出版事業の特徴

以上の通り、文学館の出版事業は実に多くの「出版形態」が存在しているが、ここからわかることをまとめてみたい。

まず一つ目に、文学館というものは、それぞれが独自の出版事業を遂行している傾向が強いということである。これは似たような「出版形態」を有する文学館は、思いのほか少なく、まったく同じような「出版形態」を探すのは、思っていた以上に難しいということである。つまりそれだけ出版事業というものは、それぞれの文学館の特徴が強く表れているものであると言える。

文学館の「出版性」は、どのような規模の文学館であっても、それぞれの館の活動年数が長くなるとともに、ひとつひとつ獲得していくものであると考えられるが、その過程が館ごとに異なるということであろう。つまり、同じ「[い]展示記録性/[へ]活動記録性」という「複合出版型(2種)」の文学館であっても、最初に「[い]展示記録性」を備え、次に「[へ]活動記録性」に手をつけようとする文学館もあれば、逆に、最初に「[へ]活動記録性」を備え、その後に「[い]展示記録性」の整備に進んだ館もあるはずである。つまり、文学館の出版事業を成長させる過程に正解があるというわけではなく、それぞれの文学館が独自の方針で獲得していくものということになる。

文学館の「出版形態」は、最終的には【19】群馬県立土屋文明記念文学館や【14】(財)斎藤茂吉記念館のように、全ての「出版形態」を獲得する状態、すなわち「複合出版型(6種)」に収束することが理想的だが(現実的には、それは不可能という文学館のほうが多いと思われるが)、そこに到るまでの道のりは決して一様ではない。しかし、そういった新たな「出版性」の獲得の過程に正解がないからこそ、それだけ文学館の出版事業というものに、多様さが生まれているともいえる。

二つ目に、総合文学館は出版事業の内容が幅広い文学館が多いことが挙げられる。先に述べたように、文学館の出版事業は全ての「出版性」を獲得する状態に収束していく傾向にある。これは、活動期間が長い文学館ほどその傾向は顕著に現れると考えられる。総合文学館というものは、いずれも活動期間が長いため、総体的に「出版形態」が多様性を帯びている状態にあるということだろう。

三つ目に、地域文学館や個人文学館は、文学館ごとの出版事業のばらつきが大きく、幅の広い出版事業を有している館もあれば、まったく出版事業に手をつけられない文学館も存在している。これは総合文学館に比べて館数も多いということもあり、そのために文学

館ごとの違いが目立つということが理由として考えられるが、既に長い活動の歴史を有している文学館と、比較的設立が新しい文学館とが混在しているため、出版事業が成熟している文学館と、それが未成熟の文学館との格差が大きいのだろうと考えられる。

ただし、いずれの文学館の調査結果も、現時点における「出版形態」であるため、今後新たな「出版性」を獲得し、より幅の広い出版事業を行う可能性は残されている。この点については、今後の活動の成果を追調査していくことが求められるだろう。

ともあれ、「出版形態」や「出版性」という概念を用いることで、以上のように文学館の持つ出版事業のそれぞれの性質を見ていくことが可能となった。文学館の出版事業が一概に語る事が難しいのは、以上のように、それぞれの文学館が異なる「出版形態」を有しているために、その内容が大きく異なっているためと考えられる。これまで文学館の発行物に対する注目度が低く、文学館の出版事業における一般論を探ることが難しかったのも、それぞれの文学館の出版事業の内容の隔たり（「出版形態」の相違）が大きいために、ある文学館の出版事業の特徴を把握しても、他の文学館にその結果を適用しづらい状況にあったためだろう。

以上のように、本研究によって文学館の出版事業の特徴、すなわち「出版形態」には、文学館ごとに様々な形態が見られ、それぞれに異なる性格を有していることが明らかになった。

第4章 日本近代文学研究と文学館

4.1 日本近代文学研究者と出版者

第2章においては発行物という観点から、また、第3章においては出版事業という観点から文学館の特徴を探ってきた。これによって文学館の発行物の作製目的や意義を掴み、また、それぞれの文学館の出版事業の形態を把握することが可能となった。そこで本章ではこれまでの議論を踏まえながら、文学館の活動をさらに別の視点から眺めてみたい。それは、日本近代文学研究と文学館との関連性を見ていくことである。

これまでに述べてきたことからわかるように、文学館は発行物を出すことで、日本近代文学研究者や一般の利用者に対し、所蔵資料の情報や研究成果を発信するという事業を行っている。それら発行物は日本近代文学研究に寄与する部分が多いことから、結果として文学館は、出版事業によって日本近代文学研究に積極的な貢献を果たすという性格を有しており、その発展に非常に大きな力となっていることが判明することとなった。

しかしそういった6,283点にもものぼる数多くの文学館の発行物は、現実においては、全国の文学館がそれぞれ独力で全てを出版してきたわけではない。もちろん、文学館が編集機関と発行機関を兼ねている発行物（例えば「館報」などは、例外なくそれぞれの文学館が編集機関と発行機関の両方に名を連ねている）については、文学館が独力で出版している発行物であることに疑いの余地は無い。

しかし、例えば「研究書」を思い出してみれば、これはそれぞれに関して特定の著者が存在しており、文学館は発行機関としての役割で名を連ねている発行物であった。つまり、文学館が関係している発行物であることに間違いは無いのだが、内容的にはそこに文学館の意向が及ぶ領域は少ないもの（著者個人の思想が反映されている部分がほとんど）と考えられる。おそらくは、【49】藤村記念館が編集発行した、島崎楠雄著『父藤村の思い出と書簡』（2002年）の冒頭に収録された、鈴木昭一による「まえがき」のように、内容に影響を及ぼさない部分での編集に留められていることであろう。

あるいはまた、文学館が編集機関に名を連ねているが、発行機関が別の出版者というケースも意外に多くの事例が見受けられる。例えば『複製 近代文学手稿 100選』（1994年）という発行物は、編集機関が【30】（財）日本近代文学館であるが、発行機関は二玄社が担当している「複製」である。あるいは、【56】大阪府立国際児童文学館が編集機関として関わっている『新・文学の本だな』（1985年－1986年）は、発行機関が国土社となっている「作品」である。

そもそも文学館の発行物の定義は、文学館が発行物の編集機関、監修機関、発行機関のいずれかに名を連ねるといったものである。これは見方を変えれば、文学館は必ずしも全ての機関として発行物に関わる必要はないという意味でもある。つまり、文学館の発行物と

して最低限の関わり方をしている場合（編集機関，監修機関，発行機関のいずれかひとつの機関として文学館が関わっている発行物の場合）には，必然的に他の団体や個人が，それを補足する役割を担うことになるのだろう。

もう少し具体的に言ってみれば，こういった文学館の出版事業を補足する役目を負っているのは，日本近代文学研究者という個人であるか，あるいはまた，発行物の製作に協力をする出版者という団体のいずれかであろう。つまり文学館には，日本近代文学研究を行う専門家である日本近代文学研究者と，日本近代文学研究に寄与すると考えられる様々な図書や雑誌を発行する出版者の二者が，それぞれに思惑（例えば，研究者であれば自らの研究テーマの追求であり，あるいは出版者であれば利益の追求など）がありつつも，文学館と協力する形で出版事業に力を貸しているものと考えられる。もちろん先に述べたように，文学館の発行物は日本近代文学研究に対する寄与が大きいものであるから，どのような形であるにせよ，こういった他の日本近代文学研究者や出版者の協力によって発行物が世に出る機会が増えることは，大きな目で見れば非常に好ましいことであることに疑いの余地は無い。

では日本近代文学研究における文学館の発行物を考えたとき，そういった文学館と日本近代文学研究者，あるいは，文学館と出版者との関係は，いったいどのようなものなのだろうか。

そこで本章では，(1)文学館と日本近代文学研究者，(2)文学館と出版者との関係性の2点について，それぞれに事例を元にしながら考えてみたい。(1)については，【07】三浦綾子記念文学館をめぐる繰り広げられた，「個人書誌」作製の事例であり，(2)については，【30】(財)日本近代文学館において長年行われている，「復刻」作製の歴史から窺える，文学館と出版者との関わりである。

4.2 文学館と日本近代文学研究者

4.2.1 「目録」の役割と「書誌」の役割

ではまず，文学館と日本近代文学研究者との関わりについて見ていきたい。

第2章において，文学館の出版事業によって世に送り出された発行物は，それがいずれも日本近代文学研究への直接的（一部は間接的）な寄与を果たすものだとして述べてきた。それらは，6種類の性質と17種類の形態に分けられ，それぞれに作製の目的や機能があることが明らかになったが，本章ではその中に，「目録」という発行物があったことを思い出してみたい。

そういった発行物に「[ロ]所蔵資料の記録」という名称を与えたように，「目録」とは文学館が所蔵する資料の書誌データを逐一記録し，文学館を離れた場所からであっても，文

学館の所蔵する資料を把握できるようにすることを目的とした発行物のことを意味するものである。第2章で述べたことの繰り返しになるが、「目録」とは、「文献の存在」、「書誌データ」、「所在情報」の3種類の情報を提供するものであり、それゆえに日本近代文学研究者は、文学館を離れた場所からでも、例えば「ある作家の文献にはどのようなものがあるか（文献の存在）」、「その文献の書誌データはどのようなものか（書誌データ）」、「ある作家に関する、ある文献は、文学館に所蔵されているのか（所在情報）」などを知ることが可能となるのである。

ところで「目録」と似たような働きをするものに、「書誌」というものがあることも先に述べておいた。「書誌」は「目録」とは異なり、「文献の存在」、「書誌データ」の2種類の情報を提供するものであり、「所在情報」の提供は行わないという性質を持つものである。つまり「書誌」に記述された内容は、どういった機関が所蔵しているのかが不明であり、もし「書誌」に記述された内容についての「所在情報」を知りたい場合には、そこから先の調査は自ら図書館などを駆使して探し出す必要があるわけである。

しかし、これは決して「書誌」が「目録」よりも不便であるとか、内容的に質が劣っているとかというものではない。なぜならば、「書誌」は「目録」が対象とする内容（収録範囲）をはるかに越え、そこに「目録」にはない、「網羅性」という機能を有することになるからである。

つまり「目録」は、ある1機関の所蔵する資料をあるテーマに従って一覧にしたものだが、それゆえに「所在情報」は暗黙のうちに付加されるという性質を持っている。これはしかし、自館に所蔵がない資料に関しては、たとえ館外に文献の存在を確認していたとしても、収録することが許されないという制約が付くことになる。つまり、「目録」は所蔵資料の存在を外部に伝えるために作製するものである以上、所蔵資料という枠組みを越えることはできず、最終的な落としどころが最初から明確になっている（目録作業を終了させるタイミングは、所蔵資料全てについて記述し終えたとき）という性質がある。そのため、「目録」というものは、ある主題に関して、ある1機関の所蔵する資料については網羅的だが、所蔵が確認できない資料については、その部分が収録から漏れてしまう可能性がどうしても残ってしまうものである。

一方の「書誌」とは、「所在情報」の提供という機能を捨てる代わりに、「網羅性」という「目録」には持つことができない別の機能を有することになる。つまり、どこに所蔵されているかを明確に示さない代わりに、世の中のどこかに存在が確認できれば、書誌データを収録することができる（というよりも、必然的に収録することが求められる）という性格を有している。つまり「目録」と「書誌」とは、その機能面において、「所在情報」を取るか、「網羅性」を取るかの違いが見られるのである。

そして一般に文学館が作製するのは、このうちの自館の所蔵資料のみを収録する「目録」であり、普通は「書誌」ではない。では、「目録」が持つことのできない機能を持つ「書誌」

を作製するのは、いったい誰なのか。それは現状では、一般に日本近代文学研究に携わっている、日本近代文学研究者が行っているものと考えられる。その中でも特に近年においては、ある特定作家を対象とする「個人書誌」の発展が目覚ましい。

例えば 1982 年から日外アソシエーツより刊行され続けている『人物書誌大系』シリーズ（2006 年 3 月現在、36 巻まで刊行されている）は、「個人書誌」をテーマとして掲げた日本で最初のシリーズものの図書であり、一卷につき一人の作家を対象として編纂されているものである。また、もともとは葉山嘉樹やプロレタリア文学研究から出発した浦西和彦は、「個人書誌」の作成と日本近代文学研究との関連性を重要視し、これまでに『開高健書誌』（1990 年）や『田辺聖子書誌』（1995 年）、『河野多恵子文芸事典・書誌』（2003 年）などを刊行している¹³⁷。

筆者も三浦綾子の文学とキリスト教との関係を研究する過程で「個人書誌」の作成の必要性を痛感し、『三浦綾子書誌』（2003 年）をまとめ上げたという経緯がある。版元の勉誠出版からは、1995 年に『太宰治全作品研究事典』が刊行されたのを皮切りに、1998 年には『松本清張事典』、『川端康成全作品研究事典』、『柳田國男事典』が、2000 年に入ると『迢空・折口信夫事典』、『芥川龍之介全作品事典』、『夏目漱石事典』、『島尾敏雄事典』、『三島由紀夫事典』などが相次いで刊行され、翌 2001 年には『堀辰雄事典』、さらに 2002 年には『芥川龍之介大事典』、2004 年の『松本清張事典』や『太宰治大事典』というように、一連の事典シリーズが刊行されており、拙著もその流れのひとつと位置付けられる。

これらのように一卷の書物としてまとまらないまでも、たとえば作家の個人全集などには、著作一覧や年譜など、なんらかの形で目録が巻末に添付されることが通例となっている。だがそれらのように全集の一部ではなく、それが単行本として刊行されるという現象からは、日本近代文学研究において「個人書誌」というものが、いかに重要視されているのかを感じ取ることができるだろう。

こういった傾向が強まってきた理由については、既に黒古一夫が、1977 年に行われた三好行雄と谷沢永一の論争を踏まえた上で、“どのような論理も「書誌」的事実の裏付けがなければ、空中楼阁のようにいつかは瓦解する、と多くの近代文学研究者が理解するようになった”¹³⁸と指摘しているように、「個人書誌」が日本近代文学研究の発展に寄与するところが多々あると考えられるようになったからである。

この点に関しては谷沢永一や大森一彦の論考をもとに、本研究でも既に言及しておいたが、日本近代文学研究においては、特にこの「個人書誌」が有している「網羅性」が非常に重要なものとなる。なぜならば書誌データの「網羅性」を追及するということは、既存の書誌データのみで研究を行うのではなく、それまでに明らかになっていない「事実」を新たに探し出し、それをもとにした新しい解釈を、常に模索していくという研究方法に結びつくからである。

例えば黒古一夫は、宮嶋資夫という作家に関して、彼が仏門に入って以降の「書誌」を整備したこと（特に『大法輪』という雑誌への寄稿を明らかにしたこと）で、“宮嶋資夫という文学者の全体像を「事実」を基に組み立てることができるようになった”¹³⁹と述べ、彼の文学活動に対する論を展開しているが、こういった推論が可能となるのは、“「事実」を基に”論理を組み立てているがためであり、このことは日本近代文学研究における「書誌」の重要性を、見事にあぶりだしていると言えるだろう。

4.2.2 三浦綾子に関する「個人書誌」

ではここからは、筆者が研究対象としてきた三浦綾子という作家の事例を見ていきたい。三浦綾子に関しては、収録内容が書誌データの記載に限定されていない年譜のようなものではなく、書誌データのみを収録対象とした「書誌」としては、現在では4種類の存在を確認できる。発行年が古いものから順に並べると、以下のようになる。

- [A] 朝日新聞社編集部編による『三浦綾子作品集 第18巻』（1984年）巻末所収の「著作目録」「参考文献目録」¹⁴⁰。
- [B] 村田和子編による『三浦綾子全集 第20巻』（1993年）巻末所収の「年譜・著作目録」¹⁴¹。
- [C] 東延江編著による『三浦綾子随筆書誌』（2001年）所収の「全著作目録」「作品収載著書目録」「序文・帯・その他の目録」「三浦綾子関係評論集目録」¹⁴²。
- [D] 岡野裕行著による『三浦綾子書誌』（2003年）所収の「著書目録」「初出目録」「参考文献目録」¹⁴³。

『氷点』（1964年）を始め、多くの作品がベストセラーとなって現在にまで読み継がれ、没するまで約35年のキャリアを持った三浦綾子であるが、その「個人書誌」は当初、[A]や[B]のように、全集の類の書物が刊行される機会にその一部として収録されたものであった。これは当時、そういった書物には「個人書誌」を収録することが必須と見なされていたということであろうが、逆に言えば、従来「個人書誌」というものは、そのような機会にしか作成されることが少なかったことも示しているだろう¹⁴⁴。

しかし、このような全集の一部としての扱いではなく、また、先に述べた[D]のような作家研究の一環として作られるわけでもなく、[C]のように文学館の建設にともなって作成されるというケースが見られるようになった。[C]の編者である東延江という人物は、**【07】** 三浦綾子記念文学館が建設されている旭川市在住の人物であり、館内に深く入り込んで調査をした（というよりも建設にあたって寄付された三浦綾子本人所蔵の資料をまとめ上げた）人物である¹⁴⁵。つまり[C]の作成のきっかけには、**【07】** 三浦綾子

記念文学館の存在が大きく影響を及ぼしているわけであり、同館の「目録」作成の一環として書誌データを記録し始め、それが後に[C]の「書誌」へと繋がっていったわけである。

もちろん【07】三浦綾子記念文学館との関連でいえば、[D]の作成に際しても同様のことが言え、その作成過程においては、【07】三浦綾子記念文学館所蔵の資料に頼った部分が非常に大きい。例えば[D]所収の「著書目録」の作成においては、単行本の帯に記載された文章まで収録することをその方針としたが、帯というものは、図書館はもちろん、古書店や新刊書店でも、多少古いものとなると保存されていないことがしばしば見受けられるものであり、そういった失われがちな情報の調査は難しいものである¹⁴⁶。だが【07】三浦綾子記念文学館に所蔵されていた資料は、ほとんどが出版当時のまま、帯も付属した状態で保存されていたため、そういった手に入りにくい貴重な資料を確認することができた。同様に「点字本」や「翻訳」などの一般的な流通ルートに乗りにくい資料の現物確認も、【07】三浦綾子記念文学館の資料に頼った部分が大きかった。

一方「参考文献目録」においては、地元旭川の神楽公民館が発行している「三浦綾子百科シリーズ」などの地方出版物、また、「初出目録」においては、「郷土史あさひかわ」などの地方誌、キリスト教関連のトラクト（宗教上のパンフレットのこと）など、【07】三浦綾子記念文学館の所蔵資料によって、現物の確認を取ることができた書誌データが数多くある。もし【07】三浦綾子記念文学館が無ければ、こういった現物の存在すら知らないまま「書誌」を作成し、その多くを見逃してしまう破目に陥っていたことだろう¹⁴⁷。

4.2.3 文献の入手経路

では果たして、三浦綾子についての「個人書誌」の作成には、【07】三浦綾子記念文学館がどの程度重要な役割を果たしてきたのだろうか。ここでは、先に挙げた三浦綾子に関する4種類の「個人書誌」に収録されている書誌データ数を分析することによって、文学館と「個人書誌」の作成とが、いかに深く関係しているかについての事例を示してみたい。その関連性を述べるための方法として、大森一彦が寺田寅彦に関する「個人書誌」を作成した際の体験を踏まえ、文献の入手経路を示した論考を参考にしてみたい。

寺田寅彦に関する「個人書誌」を作成した大森一彦は、その文献探索の体験を元に、書誌作成の方法論を示し¹⁴⁸、さらに寺田寅彦に関する文献の入手経路についての考察を行っている¹⁴⁹。そこでは寺田寅彦に関する367件に及ぶ書誌データ数を、「先行文献目録の利用」や「周辺人物の書誌の利用」、「新刊情報のレビュー」などの情報入手経路ごとにカウントし、こういった入手経路からの割合が多いのかをパーセンテージで示している。

このような大森一彦による文献探索の区分は、以下のような4種類にまとめることができる。

- [ア] 対象とする著者に関する先行する書誌の利用
- [イ] 対象とする著者以外の先行する書誌の利用
- [ウ] 書誌作成者の独自の調査による文献探索
- [エ] 書誌作成者以外の者からの報告

大森一彦の報告によれば，[ア]は全体の 14%，[イ]はわずか 4%，[ウ]が一番多く 52% を占め，[エ]は 30%との結果が出ている。つまり[ウ]のような，大森一彦本人による文献探索の割合が最も高い数値を示しているのだが，このような書誌データの入手先を数値によって裏付けするという手法は，新たな書誌データの入手先は既存の先行する「書誌」に頼るだけではなく，その先行する「書誌」を超える視点を持つ必要があるという指摘を，具体的な数字を提示することで客観的に判断可能としている点に特色がある。

当然ながら「書誌」というものは，先行する「書誌」に収録された書誌データをなぞるだけでは意味がなく，そこに編者による新しい発見を追加しなければならない。すなわち，[ウ]の割合が高ければ高いほど，その「書誌」の果たした役割は重要なものと評価できる。

「目録」というものは，単純に言ってしまうと，1 機関に存在する資料のみの書誌データを記述しつくせば事足りるのに対し，「書誌」というものは「網羅性」を迫及するため，その作業に明確な終わりというものはなく（ある主題に関連する資料の全てを確認することができないため，完璧な書誌作成終了時点の線引きが事実上不可能である），古い「書誌」は新しく作られる「書誌」によって随時更新されていくものとなる。

本章では「個人書誌」と文学館との関連について考察していきたいが，これを大森一彦の分析手法との関連で考えるならば，[イ]や[エ]についての考察は本研究で扱うべき範疇から外れることになる。ここでは[ア]のように，ある特定の作家を対象とする「書誌」を対象とし，なおかつ[ウ]のように，「書誌」作成者自身が先行する「書誌」に未収録の状態にある新たな書誌データを発見するというケースを考えることになる。そこで本章における考察は，大森一彦のように書誌データ数をカウントし，その数値を比較するという方法に倣いたい。

具体的には，三浦綾子の 4 種類の「書誌」について，まず[ア]に相当する書誌データ数を，[A]～[D]それぞれの目録から抽出することから始める。ただし，[A]や[B]は，[D]における「著書目録」「初出目録」に相当する書誌データが，年ごとに混在した表記となっているため，まずはその混在した書誌データを，他の「書誌」と比較可能なように再編集する必要がある。本研究では[D]における「著書目録」「初出目録」「参考文献目録」という 3 種類の目録に分ける方法に統一して考えていきたい。そのため，[A]～[C]に収録されている個々の書誌データを，筆者の考えに基づいて，[D]における「著書目録」「初出目録」「参考文献目録」のいずれかに相当するように，逐一判断したうえで再編集を行った。

ただし、[A]～[D]のいずれも、何らかの雑誌や新聞で連載され、その後に図書として刊行されたような作品、すなわち連載小説に関しては、「著書目録」と「初出目録」のいずれにも記述する体裁を取っているが、雑誌や新聞への掲載がないままに最初から図書として刊行された、いわゆる「書下ろし」の形式で刊行された作品¹⁵⁰の書誌データの扱いは、各「書誌」で異なっているため、本研究におけるデータ集計の方針を次のように明確にしておく。

[A]～[C]では、それら「書下ろし」の書誌データは、「著書目録」の書誌データを記述することで初出情報の提供も兼ねた記述方針であり、改めて「初出目録」に別途収録するという作業をしていない。しかし、[D]ではそういった「書下ろし」の書誌データは、あえて「著書目録」と「初出目録」の両方に収録するという方針を取っている¹⁵¹。そのため本研究では、このような「書下ろし」の作品についての書誌データは、それぞれの「書誌」が「著書」と「初出」の意味を明確に意識した上で記述を行っているかということを重視し、[D]において「著書目録」「初出目録」の両方に収録された「書下ろし」の書誌データは、[A]～[C]については「著書目録」のみに掲載されたものとして取り扱っている¹⁵²。以上のように[D]の方法に統一することによって、各「書誌」に収録されている書誌データ数を、同じ基準でもって比較することが可能となる。

このような書誌データの再編集を行った後、[A]～[D]それぞれに収録されている書誌データ数をカウントする。その結果を、文学館開館以前の「書誌」である[A]と[B]、開館以後の「書誌」である[C]と[D]の前後で、どの程度書誌データの数に違いが見られるかを比べ、その結果を元に、「書誌」の作成と文学館との関わりについての考察を行うこととする。

4.2.4 書誌データ数の変遷

さて、三浦綾子に関する4種類の「書誌」である[A]～[D]それぞれに関して、[D]における「著書目録」、「初出目録」、「参考文献目録」の3種類の目録に相当する書誌データ数が算出されるように、その収録件数を合計してみると、次の表4-1のようになる。

表 4-1：三浦綾子に関する「個人書誌」に収録された書誌データの件数

	[A]	[B]	[C]	[D]
「著書目録」に相当する書誌データの件数	129	220	422	583
「初出目録」に相当する書誌データの件数	379	596	1,693	1,967
「参考文献目録」に相当する書誌データの件数	224	0	20	719

この表4-1を見れば、「著書目録」や「初出目録」は、共に新しい「書誌」が作成されるたびに書誌データ数が着実に増加していることがわかる。新しい「書誌」は常にそれ

以前の「書誌」の提示した書誌データ数を超え、新たな発見を付け加えていることが見てとれる。

ただし、「参考文献目録」に関しては、書誌データ数が発行年順に増えておらず、「書誌」ごとの収録数に明らかに違いが見られる。それゆえに書誌データ数の比較による考察を行うことはできないため、本研究において「参考文献目録」の言及はしない。しかし、谷沢永一が、“研究は積み重ねの開拓を旨としていますから、過去の文献を真剣に渉猟しなければ先へ進めないわけです”¹⁵³と論じているように、日本近代文学研究に先行研究（参考文献）は必須のものであることは自明なことであるが、三浦綾子の「書誌」に関する限り、[B]の収録対象に「参考文献目録」が入っていないことや、[C]は単行本化された文献のみ収録となっていることなどから、編者にその重要性があまり認識されていなかったと考えられる。

ではまずは表 4-1 の「著書目録」から見ていきたいが、それぞれの収録対象となる資料の範囲を明記しておく、[A]と[B]は、「単行本」「文庫本」「全集」「翻訳」の 4 種類の資料を収録対象とし、同様に[C]は、「単行本¹⁵⁴」「作品収載著書目録¹⁵⁵」「序文・帯」の 3 種類、[D]は、「単行本」「作品集／全集／選集」「文庫本」「共著／対談／インタビュー」「編著」「写真集」「大活字本」「文学全集」「寄稿エッセイ」「点字本」「音声出版物」「映像出版物」「翻訳」の 13 種類の資料を収録対象としている。

まず、[A]は三浦綾子に関する最初の「書誌」であるから、[A]の編者が独自の調査で把握した書誌データの全てが収録されているものと考えられ、大森一彦の分類に従えば、全ての書誌データが[U]のケースに相当するものと位置付けられる。もっとも[A]の凡例を読んでもみれば、三浦綾子に関する最初の「個人書誌」は、三浦綾子自身が書き留めておいた記録に基づいていることが明らかにされている¹⁵⁶。つまり[A]の発行当時における書誌データ数は、三浦綾子本人が把握していた書誌データ数にほぼ等しいわけである。後に[C]や[D]によって大幅に書誌データの追加が成されることを考えると、著者本人の記録が必ずしも十分なものとはならないことがわかる。

[B]は[A]を元にした「書誌」であるため、[A]の発行年である 1984 年までは、書誌データ数にほとんど違いは見られず、内容もまったく一緒であるが、それでも[B]が[A]の約 1.7 倍 ($220/129 \div 1.71$) となる書誌データ数を収録しているのは、[A]の発行以降の書誌データを補足するように収録しているためである。[B]の時点での新規の書誌データ数は、[B]の総数から[A]の総数の差を取った値、すなわち[A]が発行された 1984 年から[B]の発行された 1993 年までの間の書誌データ数と等しく、その件数が $220 - 129 = 91$ 件であることを示している。つまり[B]においては、59% ($\div 129/220 \times 100$) が[A]に相当し、41% ($\div 91/220 \times 100$) が[U]に相当することになる。

収録対象に注意を払いながら、同様の手順を[C]と[D]にも適用した結果¹⁵⁷を表にまとめると、以下の表 4-2 のようになる。

表 4-2：三浦綾子に関する「著書目録」における「先行する書誌への依存の割合[A]」と「独自の調査で追加した書誌データの割合[U]」の割合

	[A]	[B]	[C]	[D]
先行する書誌への依存の割合[A]	0%	59%	35%	72%
独自の調査で追加した書誌データ割合[U]	100%	41%	65%	28%

ここで注目すべきは、[C]における[A]の割合の小ささであろう。[B]や[D]が、それぞれ 59%、72%もの割合で先行する「書誌」に収録されていた書誌データに依っていたものが、[C]に関しては、先行する「書誌」に収録されていた書誌データ数の割合はわずか 35%しかない。これらの数値はすなわち、[C]の「書誌」を作成するにあたっては、先行する「書誌」を参考にした書誌データよりも、自らの調査によって判明した書誌データのほうが多いということを示している。

この数字の変化に対して重要な役割を果たしていたと考えられるのが、【07】三浦綾子記念文学館であり、[C]の編著者である東延江が同館の資料整理を行ったという事実である。つまり、この極端な数値の違いは、【07】三浦綾子記念文学館が建設されたことによって、その所蔵する資料を元に[C]が作成されたことが大きかったのではないかということを示唆させてくれる。

この疑問点を明らかにするために、もうひとつ表 4-1 の結果から、「初出目録」についての考察も行ってみよう。ここでも特筆すべきは、[B]と比べたときの[C]であり、約 2.8 倍（ $\approx 1693/596$ ）という書誌データ数を収録していることである。[A]と比べたときの[B]が約 1.6 倍（ $\approx 596/379$ ）となっているのは、「著書目録」の理由と同様、[A]発行後の書誌データを補足しているからであり、[C]と比べたときの[D]が約 1.2 倍（ $\approx 1,967/1,693$ ）であることを考えても、[C]の書誌データ数の増加は著しいものがある。このことはすなわち、前述の「著書目録」と同様に、「初出目録」に関しても、[B]と比較したときの[C]が最も書誌データ数を増加させていることを示しており、「初出目録」もやはり[C]の存在が大きい意味を持っていることが数字上から確認できる。つまり[C]が発行されたおかげで、[B]のように「全集」と銘打たれた書物に収録された「書誌」ですら、実は三浦綾子の活動の 3 分の 1 ほどの書誌データ数しか収録できていなかったことが明らかにされたわけである。

では先ほどの「著書目録」と同様に、先行する書誌への依存の割合[A]と、独自の調査で追加した資料の割合[U]を算出し、その結果を表 4-3 に示した。（「著書目録」と同じく、[A]はその全てが[U]に相当する書誌データと見なし、それ以降の「書誌」については、先行する「書誌」に掲載された書誌データは、それを参照したものと見なした。）

表 4-3：三浦綾子に関する「初出目録」における「先行する書誌への依存の割合[A]」と「独自の調査で追加した書誌データの割合[U]」の割合

	[A]	[B]	[C]	[D]
先行する書誌への依存の割合[A]	0%	64%	35%	86%
独自の調査で追加した書誌データの割合[U]	100%	36%	65%	14%

やはり[C]の割合は、[B]や[D]とは明らかに異なっている。[U]の大きさから判断すれば、「初出目録」においても、【07】三浦綾子記念文学館が作られる機会に、それまで公にされていなかった資料が[C]の調査によって続々と表に出てきたことが想像でき、文学館の資料整理を行うことが、「書誌」作成にいかにか大きな影響を与えるのかを感じとることができるだろう。

【07】三浦綾子記念文学館には、三浦綾子本人の所蔵資料が多数寄贈されているわけであるが、[C]によって追加されたデータ数を考えると、それらは[A]や[B]の作成時点では、その大多数が完全に死蔵されていた状態であったことが見えてくる。著者本人の所蔵資料といえども、文学館が作られる機会に改めて調査がなされると、公にされていなかった資料がいかにか多いのかが理解できる値である。

4.2.5 資料の差異

[C]がそのような独自の調査を可能とした背景には、すでに述べてきたように、【07】三浦綾子記念文学館の存在が大きく関わっているということは明白である。表 4-3 のように、[C]において「初出目録」の書誌データ数が増加したのは、それまで誰も公にしてこなかった資料の存在を数多く指摘できたことが大きく、そこには文学館に寄贈された数多くの資料を整理する中で確認したものが多かったと想像される。

しかし、表 4-2 の結果に表れているように、[C]の「著書目録」もかなりの割合で書誌データ数を増加させている。「著書目録」とは雑誌や新聞の記事を採録するものではなく、図書の形態で発行された資料を収録対象とするものである。だが普通に考えてみれば、たとえ文学館が建設されたという事情を考慮したとしても、図書の発行がわずか7年で倍ほどに膨れ上がるものではあるまい。それでも[C]の「著書目録」が、[A]や[B]に比べて格段に書誌データ数を増加している理由は何なのだろうか。

その答えは、例えば[C]の「著書目録」が、その収録内容に「作品収載著書目録¹⁵⁸」という、それ以前の「書誌」には存在していない独自の項目を、新しく提示していることにある。ここには121件の書誌データが記述されているのだが、この項目が追加されることで、[C]における「著書目録」の収録書誌データ数が大幅に増加する結果となったのである。この項目を「書誌」に収録しようとする方針を立てたのは、三浦綾子に関する「書誌」

では[C]が最初であり、[A]や[B]の編纂時ではまったく気に留められていなかったものがある。つまり[A]や[B]の編者は、三浦綾子の「著書目録」を作成する際に、①三浦綾子の単著による単行本、②三浦綾子の単著による文庫本、③三浦綾子の単著による全集、④三浦綾子の単著による翻訳、のような四つの着眼点しか持っていなかったことが分かる。おそらく[A]や[B]の編者は、「著書目録」とは「単著」による資料でなければならないという既成観念にとらわれていたものと思われる。

これに対し、[C]は⑤随筆・写真・小説集の中に三浦綾子作品が収録されている図書についても、「著書目録」に含まれるべき資料と判断し、「書誌」の作成に新しい解釈を取り入れたわけである。この部分に、「著書目録」に対する認識の変化が見受けられる。

⑤はそれまでの[A]や[B]のような「書誌」では見落とされてきた資料であるが、この着眼点に気が付いたのは、既に先行する「書誌」が2種類存在していたにも関わらず、改めて同じ主題の「書誌」を作成しようとした[C]の編者である東延江が、それ以前の「書誌」を超える付加価値を新たに付け加えようと試みた結果であろう。「個人書誌」に収録すべき資料は「単著」に限らなくても良い、という実に単純なことなのだが、これは気付いた後だからこそ、そのように簡単に言えるのであって、[A]や[B]の編者が気付かずに見落とししていた資料を指摘し、項目を増やした(資料の違いに気付いた)ことは、「著書目録」や「初出目録」において多数の書誌データを明らかにしたこととともに、[C]のもう一つの功績であると言える¹⁵⁹。

もちろん他の作家で考えてみれば、これまでもこのような一部所収の目録などは作成されていたわけであるから、こういった項目の概念自体は東延江が新たに作り出したものではない。そもそも日本近代文学研究において作家の研究を行う場合、随筆集や小説集などの合集に一部収録されることの意味(他の作家たちとの関係の縮図であり、その時代における評価に関わるものである)の考察は重要であるから、作家の活動の全体を書誌データとして示そうと考えるならば、必然的に言及せざるを得ない項目となるはずである。[C]は、そういった作家研究の常識に基づくようになったということであろう。

繰り返すが、東延江がこのような着眼点を見出した背景には、【07】三浦綾子記念文学館の所蔵資料の影響があるものと推測できる。つまり「書誌」の作成を行う以前に、そういった資料が所蔵されていたがゆえに、[C]に収録すべき資料であると気付いたということであり、資料の現物があってこそその結果であると考えられる。当然ながら、こういった「個人書誌」や「目録」の項目は、現物の資料に即して立てられるべきであり、普通は資料に先行する項目立てなどありえない。

大森一彦の論考は、既存の目録に頼らない文献探索の重要性を指摘していたが、その方法は引用文献の追跡や著作物からのヒントなど、基本的に芋蔓式に未発見の文献を探すというものであった。一方の東延江による調査は、既に集められていた文献を整理する作業の結果が中心ということが出来る。つまり大森一彦のような文献調査とも異なり、三浦綾

子に関する現物の資料が調査対象として文学館に寄贈されたことから、直接に資料を見出すことができたわけである。

[D]の「著書目録」において、筆者が「大活字本」や「点字本」などの項目を用意しえたのも、現物の資料を目の当たりにしたからに他ならず、それが13種類もの小項目に分類することになったのも、最初から13種類の項目を用意していたわけではなく、調査を進めるうちに新たな資料が発掘され、項目を増やす必要性を感じたからである。例えば、筆者は「単行本」と「大活字本」を別項目として立てたが、これを思いついたのは、【07】三浦綾子記念文学館で実物の資料を見たからであり、これがもし現物を見ることができずに、コピーしか入手できなかったとしたならば、その資料ごとの差異に気付くことができなかつたかもしれない。つまり現物を見ることで資料ごとの特徴をより鮮明に把握することができたわけである。このことは、現物の資料が「書誌」の項目立ての変更にまで影響を及ぼすということを示している。

「書誌」における項目立て、すなわち資料をどのように分類していくかについては、書誌データの記述とともに編者の意向を反映できる部分であり、完成後の「書誌」の使い勝手に影響してくる重要な部分である。目録における分類の重要性については、例えば谷沢永一が、“今日では文献目録はいくらお作りになりましても、それが分類されていないで、ただ網羅されているということだけでありまして、これは利用不可能であるということをご理解いただけると思います。したがって、これを何としても分類しなければならない”¹⁶⁰と述べているが、資料をどのように分類するかを考えるとときには、完成後の「書誌」の全体像を想像し、目の前にある資料がどの資料と同じ性質を持つのか、あるいは異なる性質を持つのかを、個々の資料について考える必要がある。

図書館による調査で「個人書誌」を作る場合、一館で必要な資料を得ることは難しいため、必然的に様々な図書館から少しずつ資料を収集することになる。だが、このような地道な調査だけでは、完成後の「書誌」の全体像を把握することは難しい。そのため、新しい資料の発見に伴って項目が増えたりした場合、一度作成した「書誌」を再編集する必要もでてくるかもしれない。そういったとき、【07】三浦綾子記念文学館のように目的とする資料が一カ所に集まる場所があると、資料群の大まかな全体像を把握することが可能となる。これは文学だけではなく、あらゆる資料を幅広く収集する方針の図書館のような機関では持ちにくい、文学館の大きな特徴であると考えられる。

4.2.6 「書誌」の作成と文学館

さて、では【07】三浦綾子記念文学館が建設されたことによって、「書誌」の作成にどのような影響が見られたかをまとめてみたい。

【07】三浦綾子記念文学館に限らず、文学館は一般に、①資料の保存を行い、②資料の

収集を行い、③資料の公開を行う、という機能を有していると考えられる。

とするとまずは①のように、【07】三浦綾子記念文学館が作られることによって、三浦綾子本人が所蔵していた資料の受け入れ先ができたことが重要である。つまり資料の保存場所としての機能を有するわけである。また、文学館はそもそも資料を半永久的に保存する目的で作られるものであるから、所蔵されている資料を破棄することはまず考えられない。例えば収蔵庫の問題などにより、図書館では捨ててしまうような本の箱やカバー、雑誌のバックナンバーなども、文学館にとっては貴重な資料となり、保存の対象となる。もちろん図書館と同じく、文学館にも収蔵庫の問題があるが、これはこれでまた別の議論が必要である¹⁶¹。

次に②のように、【07】三浦綾子記念文学館ができたことで、開館の時点で三浦綾子が所蔵していた資料だけではなく、その後に文学館が収集した資料が随時追加され、また外部からも資料の寄贈が促進されることによって、三浦綾子関係の資料が一ヶ所に集中して管理されるようになったことが指摘できる¹⁶²。このことを文学館一般について敷衍すると、つまり文学館という建物は、当初は対象とする作家に関連する資料を保存する目的で建設されるものであるが、一度建設されると、その当初の意図を超えて、資料収集の機能を持つようになる。日本近代文学研究はもちろん、それに大きく寄与を果たす「個人書誌」の作成には、この文学館の持つ資料収集機能が大いに活用できる。

また③については、三浦綾子の所蔵していた資料が本人の手元を離れ、建前上は誰でも閲覧することが可能になったことは大きい。資料が名目上公になっていることは、資料の死蔵を防ぐ意味では重要である。もちろん、何の後ろ盾もない在野の研究者などが閲覧から締め出されることは充分考え得ることであり、貴重資料閲覧が誰にでも平等に行われているとは考えにくい。文学館を専門図書館として考えていくなれば、例えば高名な研究者にしか公開を許可しないようなことは、文学館の姿勢として本来あってはならないことであり、公開の方法を検討することで解決する部分もあると思うが、このような資料公開の差別の問題も、また別の議論が必要であろう。

そしてさらに先に述べたように、④資料ごとの差異を示す、という機能もある。文学館のように、様々な資料を一望できる環境は、資料ごとの差異を明瞭化し、「書誌」の項目立てに大きな影響を及ぼすことになる。資料ごとの特徴をつかみ、そこに明確な分類を施すことは、「書誌」の使い勝手の向上にも繋がるため、このようにあらゆる資料が一カ所に集中することの意義は大きいと考えられる。

そしてもうひとつ重要なことに、⑤「書誌」の作成を促す、という機能もあると考えられる。これは[C]の「書誌」がそうであるように、【07】三浦綾子記念文学館に寄贈された資料を整理していくために「目録」を作る必要性があったのだが、その作業を受け持っていた東延江は、文学館に収蔵されていない資料についても興味を持ち出し、その調査を続けるうちに、所蔵資料のみを対象とする「目録」から脱皮し、網羅性を追及する「個人書

誌」として発展させたわけである。このことは東延江本人が、[C]の「あとがき」にて、“調べ始めた十年ほど前はほんの「覚え書き」程度のものでした。年々、欲が出てきて、序文も調べたい、帯文も、評論などもということになりました”¹⁶³と述べていることから窺い知れるだろう。

前述の[C]や[D]の「書誌」は、いずれも【07】三浦綾子記念文学館が責任編集を行ったものではなく、外部の研究者の手による「書誌」であったが、つまり文学館は、日本近代文学研究者に対して(必ずしも全ての日本近代文学研究者に対してというわけではないが)、「書誌」の作成を促すという側面も有しているのである。先に述べたように、「書誌」は日本近代文学研究に大きな力となるものであるから、文学館は日本近代文学研究者という人々と関わることによって、その発展に大きく力を貸しているわけである。

一般に文学館の職員や関係者は、文学館の所蔵する資料についての「目録」を作ることはあっても、その枠組みを越えて網羅的な「書誌」を作ることは無い(あるとすれば、それは公的な仕事、正規の仕事ではなく、私的な領域に属するものである)。なぜならば「書誌」の作製という領域に踏み込もうとすれば、途端に「網羅性」という名の元に、文学館が所蔵する資料という枠組みを容易に越えてしまうためである。「目録」という発行物が対象とする資料とは、自館に所蔵されている資料のみであり、そういった枠組みを取り払いながら、様々な場所から多くの書誌データを集め、「書誌」を作り出すのは、これまで見てきたような日本近代文学研究者の仕事となる。もちろん、文学館が無くとも「個人書誌」を作ることは可能ではあるが、文学館が作られることで、より充実した「個人書誌」作成の土壌ができるようになると考えられる。

4.3 文学館と出版者

4.3.1 「復刻」と「複製」

ではもう一つ、【30】(財)日本近代文学館の「復刻」を事例として取り上げながら、文学館と出版者との関係を見ていくことで、それと日本近代文学研究への関連性について述べてみたい。

そもそも【30】(財)日本近代文学館の「復刻」事業は、1967年に始まった(詳細は後述する)。だが「復刻」という形態の出版事業自体は、同館が行う以前の古典籍や近世史料を対象とした「複製」と呼ばれる出版形態にまで遡ることができる。まずは、この「複製」から「復刻」に至るまでの出版史の流れを簡単に見ていきたい。

先頃刊行された『図書館情報学用語辞典』(第2版)によれば、そもそも「複製」とは“記録資料を、原形のままだに模して再製すること。また、再製されたもの”¹⁶⁴という定義付けがされており、「復刻」もほぼ同じ定義となっている。だが同辞典の「復刻」の項には、

合わせて“現在では活版印刷された図書や雑誌を対象”¹⁶⁵とも記されており、このような“活版印刷”という言葉は、「複製」の定義には見受けられない表現であることが確認できる。このことから、現在両者はもとの資料が活版印刷されたものか否か、という視点によって用語の使い分けがなされる傾向にあることが窺い知れる。

歴史的には、古典籍や近世史料を対象とした「複製」のほうが早く、この点については朝倉治彦が、戦前における貴重図書複製会や稀書複製会、あるいは戦後の貴重古典籍刊行会の「複製」事業をその例に挙げて説明している¹⁶⁶。活版印刷された資料を対象とする「復刻」は、そういった「複製」の誕生からさらに時間をおいて出現してくるが、その時期については、小野塚健が“風間書房の「日本叢書索引」「室町時代言語の研究」なんかは早いところじゃないですか。これが昭和三十二、三年ですね”¹⁶⁷と述べ、あるいは『日本古書通信』の編集者も“昭和三十年頃からだった”¹⁶⁸と述懐しているように、戦後10年ほど経過した1950年代後半から徐々に行われ始めたとされる。【30】(財)日本近代文学館が行ったような「復刻」は、こういった戦前から続く古典籍や近世史料の「複製」の出版(“明治・大正の頃から”¹⁶⁹という指摘もある)、そして1950年代後半から行われ始めた他の出版者の「復刻」事業という流れに位置づけることができる。

そういった「復刻」の黎明期は、用語の混乱も多かった。例えば1962年に久保田正文が「復刻」という用語を用いており、既にこの頃から活版印刷の資料に対する「複製」行為を「復刻」と呼ぶ風潮が一部には存在していたことが窺える¹⁷⁰。だが一方で1970年においても、“活字本の複製出版”¹⁷¹などの言い回しがされているように、「復刻」という用語を用いず、それまでの慣習から「複製」という用語に“活字本の”と断り書きを入れることで、古典籍や近世史料の「複製」との違いを出した表現も見受けられる。

このような用語の混乱について朝倉治彦は1970年(ちょうど【30】(財)日本近代文学館の「復刻」事業が軌道に乗り始めた頃)に、“複製本の意味するところは、このところ著しく変化してきたように思われる。語の内容を変えて使うようになったというわけではなく、従来の複製本によって抱いてきたものだけにとどまらない複製本が極めて多く作られるに至ったために、語の内容が拡充したわけである”¹⁷²と、その変化に戸惑いを感じる発言を行っている。

つまり“従来の複製本”が対象外としてきた(というよりも、当初は世の中に存在すらしていなかった)活版印刷による図書や雑誌の「復刻」が、1970年頃には本格的に目立つようになったため、その事実を受けて“語の内容が拡充”することを迫られたというわけであろう。言い換えれば「複製」という用語は、1970年頃、古典籍や近世史料の「複製」を意味すると同時に、活版印刷された資料を原本とした「複製」(現在で言うところの「復刻」)の意味も含まざるを得ない状況になっていたのである。1972年の「出版・読書界10大ニュース」には“復刻本のブーム”¹⁷³が挙げられているくらいであるから、朝倉治彦が稿を寄せた1970年には、「復刻」の出版が流行する土壌が既に固まっていたとしても不思議

議ではない。

とすると先に言及した用語辞典が、「復刻」の項にあえて“活版印刷”という用語を含めているのは、そういった用語の混乱を避けるための措置と考えられる。つまり「複製」の“語の内容が拡充”した部分に「復刻」という用語を与えることにより、両者を区別（“従来の複製本”が対象としてきた古典籍や近世史料については「複製」、活版印刷された資料については「復刻」という用語を当てる）しようとする意図が反映されているのだろう。

4.3.2 「復刻」事業発展の背景

黎明期における「復刻」の一例として、先の〔2.5.3 「対象作家の作品」の機能〕においても述べたように、小田切秀雄が中心となって推し進めた『驢馬』という雑誌の「復刻」がある。これは日本近代文学研究所から発行されたものだが、小田切秀雄ら日本近代文学研究所は、この後立て続けに『種蒔く人』や『へちまの花』、『黒煙』、『文学界』の復刻も行った¹⁷⁴。これはそういった「復刻」の重要性を察知した小田切秀雄らの意向も当然ながら、それら「復刻」の重要性を認識した日本近代文学研究者ら、多くの人びとの後押しもあったことだろう。

例えば紅野敏郎は、“全国の大学自体の高度成長期、とくに大学国文科の拡張期、という現象、研究者人口の増加、という状況と呼応し、徐々に需要は増してもいった”¹⁷⁵と指摘しているが、大学の整備に伴って大学図書館が増大し、また研究者の数も増加すれば、蔵書構築のためにこういった「復刻」への需要が高まっていくのは当然である。一方で井上周一郎は、古書店の立場から、“戦災で沢山の書物が焼かれなお戦中、戦後のしばらくの時期を通じて、学問と出版の空白時代があった。反面、新制大学が各地にできた、図書館、研究所の整備が行われ、基礎的な古書の価格が高くなると共に、その数も減ってくる。そこに複製、復刻が当然盛んになる原因があるとも云えると思います”¹⁷⁶というように、紅野敏郎と同様のことを指摘しつつ、さらに古書価格の高騰化と品薄化を理由として挙げている。

また、久源太郎はそういった新設の図書館に「復刻」が好まれた理由として、原本に比べて「復刻」は、綺麗さ、堅牢さ、整理のしやすさといった特徴を備えていることを指摘しながら、“上製の合本にしてあって、背文字まできちんと入っている場合が多いですね、あるいは帙入りとか。図書館の場合、それを非常に期待している”¹⁷⁷と述べている。これを補足するように、小柳精以知は古書店の立場から、“古本とその複製本を並べておくと複製の方が先に売れるんです。安いから売れるというのと違うんですよ、高い方が売れるんです”¹⁷⁸と、原本よりもむしろ「復刻」のほうに大きな需要があるという印象を語っている。

一方、こういった「復刻」事業の成立条件として、久保田正文が“何よりも、オフセッ

ト印刷技術の高度化ということがある”¹⁷⁹と、出版者側の事情に触れていることも重要である。つまり「復刻」を希求する研究者人口の増大（需要）と、印刷技術の進歩による「復刻」製作の低コスト化（供給）のタイミングがうまく合致したことで、「復刻」は出版事業として成長を続け、結果として日本近代文学研究にとって重要な資料が数多く世に出され、多くの日本近代文学研究者の益するところとなったのである。

さて、小田切秀雄は「復刻」の製作を重ねた後、プロレタリア文学関係の多くの資料が散逸した状況を打開するため、プロレタリア文学図書館の設立へと奔走し、近代文学図書館（構想段階の呼称で、後の【30】（財）日本近代文学館のこと）との名目でその設立運動に関わることになった^{180,181}。【30】（財）日本近代文学館は1962年に設立された後、1967年に開館に至ったが、同館ではそれ以来、長年にわたって図書と雑誌の「復刻」を行っている。[2.5.1 「対象作家の作品」の種類と現状]でも述べたように、その数は現在までに図書が全21セット（計628点、付属の解説21点を含む）、雑誌は全38セット（計1,428点、付属の解説40点を含む）を数えるまでになっている。「復刻」された作品は合わせて実に2,056点にまで積み重ねられている。

4.3.3 財）日本近代文学館における図書の「復刻」

ではまず【30】（財）日本近代文学館が行ってきた図書の「復刻」の内訳をみてみたい¹⁸²。【30】（財）日本近代文学館の図書の「復刻」は以下の通り、1968年9月から2004年9月まで21セット発行されている。（括弧内の年月は、【30】（財）日本近代文学館による「復刻」の年月を示している。）

- (1) 『名著復刻全集 近代文学館 ——明治後期——』（全29作品31点・付属解説1点・計32点、1968年9月）
- (2) 『名著復刻全集 近代文学館 ——明治前期——』（全30作品66点・付属解説1点・計67点、1968年12月）
- (3) 『名著復刻全集 近代文学館 ——大正期——』（全35作品36点・付属解説1点・計37点、1969年4月）
- (4) 『名著復刻全集 近代文学館 ——昭和期——』（全32作品32点・付属解説1点・計33点、1969年9月）
- (5) 『新選 名著復刻全集 近代文学館』（全37作品40点・付属解説1点・計41点、1970年4月）
- (6) 『特選 名著復刻全集 近代文学館』（全30作品32点・付属解説1点・計33点、1971年5月）
- (7) 『精選 名著復刻全集 近代文学館』（全33作品46点・付属解説1点・計47点、

1972年6月)

- (8) 『名著複刻 漱石文学館』(全23作品25点・付属解説1点・計26点, 1975年11月)
- (9) 『名著複刻 芥川龍之介文学館』(全22作品22点・付属解説1点・計23点, 1977年7月)
- (10) 『名著複刻 詩歌文学館〈連翹セット〉』(全25作品25点・付属解説1点・計26点, 1980年4月)
- (11) 『名著複刻 詩歌文学館〈山茶花セット〉』(全25作品25点・付属解説1点・計26点, 1980年12月)
- (12) 『名著複刻 詩歌文学館〈石楠花セット〉』(全25作品25点・付属解説1点・計26点, 1981年12月)
- (13) 『名著複刻 詩歌文学館〈紫陽花セット〉』(全24作品28点・付属解説1点・計29点, 1983年8月)
- (14) 『種田山頭火句集 複刻版』(全7作品7点・付属解説1点・計8点, 1983年12月)
- (15) 『名著初版本複刻珠玉選』(全35作品37点・付属解説35点・計62点, 1984年7月-1985年8月)
- (16) 『名著複刻 漱石小説文学館』(全14作品16点・付属解説1点・計17点, 1984年9月)
- (17) 『秀選 名著複刻全集 近代文学館』(全15作品21点・付属解説1点・計22点, 1984年12月)
- (18) 『複刻版 自筆歌集「ソライロノハナ」』(全1作品1点・付属解説1点・計2点, 1985年10月)
- (19) 『名著初版本複刻 太宰治文学館』(全32作品32点・付属解説1点・計33点, 1992年6月)
- (20) 『初版本複刻 近代文学の名作』(全21作品23点・付属解説1点・計24点, 2002年10月-2004年1月)
- (21) 『複刻版 武蔵野全三冊』(全1作品3点・付属解説1点・計4点, 2004年9月)

このような図書の「復刻」は、書名やその内容から判断すると大きく四つの系統に分けることができる。一つ目は、日本の近代文学における名著かつ稀覯本をセレクトしてまとめたもので、(1)~(7)と(15)(17)(20)の計10セットがそれに該当する。二つ目は、選択範囲をさらに「詩歌」という主題に限定した上で、その名著をセレクトしたもので、(10)~(13)の4セットが該当する。そして三つ目が、ある特定の作家個人の著作の初版本を網羅的に収録したもので、(8)(9)(14)(16)(19)の5セットがそれに該当する。最後に四つ目が、

ある作品を単体で「復刻」したもので、(18)(21)の2種類が確認できる。

これら図書「復刻」のセットがいかに近代文学の名著を揃えていたかは、次に挙げるようにその詳細を見てみれば一目瞭然である。ただし各セットとも点数が多いため、紙幅の都合上、ここでは(1)のみの詳細を示すに留め、他の事例は〔付属資料 1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕に譲りたい(括弧内は原本の発行年を示している)。

(1) 『名著復刻全集近代文学館 ——明治後期——』

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 上田敏『海潮音』(1905年) | 16. 柳田國男『遠野物語』(1910年) |
| 2. 蒲原有明『春鳥集』(1905年) | 17. 石川啄木『一握の砂』(1910年) |
| 3. 窪田空穂『まひる野』(1905年) | 18. 若山牧水『別離』(1910年) |
| 4. 夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』全3点(1905年-1907年) | 19. 吉井勇『酒ほがひ』(1910年) |
| 5. 薄田泣菫『白羊宮』(1906年) | 20. 北原白秋『思ひ出』(1911年) |
| 6. 島崎藤村『破戒』(1906年) | 21. 谷崎潤一郎『刺青』(1911年) |
| 7. 伊藤左千夫『野菊の墓』(1906年) | 22. 武者小路實篤『おめでたき人』(1911年) |
| 8. 鈴木三重吉『千代紙』(1907年) | 23. 徳田秋聲『徼』(1912年) |
| 9. 正宗白鳥『紅塵』(1907年) | 24. 長塚節『土』(1912年) |
| 10. 高濱虚子『鶏頭』(1908年) | 25. 齊藤茂吉『赤光』(1913年) |
| 11. 田山花袋『田舎教師』(1909年) | 26. 高村光太郎『道程』(1914年) |
| 12. 永井荷風『ふらんす物語』(1909年) | 27. 森鷗外『雁』(1915年) |
| 13. 北原白秋『邪宗門』(1909年) | 28. 夏目漱石『夏目漱石自筆原稿: 永日小品・山鳥』(年代未詳) |
| 14. 三木露風『廢園』(1909年) | 29. 文藝新聞社『日本文士階級鑑: 文藝新聞社刊』(年代未詳) |
| 15. 岩野泡鳴『耽溺』(1910年) | |

以上のように、文学史上に歴然と名を残している作品ばかりが集められていることがわかる。

また、こういった「復刻」が行われる際に必ず添えられている別冊解説の存在も重要である。例えば(1)では、『名著復刻全集 近代文学館 作品解題 ——明治後期——』(1968年)が付属され、吉田精一、荒正人、瀬沼茂樹、福田清人、成瀬正勝、木俣修、伊藤整、稲垣達郎、小田切進らの批評家・研究者たちによる解説が収録されているが、これら解説は「復刻」された実物と同様重要であり、「復刻」が行われた時代(この例の場合1968年)における作品の評価を刻印した資料として、日本近代文学研究に大いに活用できる。言い換えればつまり「復刻」とは、作品を再現して当時の雰囲気伝えることと同時に、その作品が「復刻」に値するものであるという評価をも付与する意味も持っている。

さて、このうちもっとも大きな規模で発行されているのは、100点を超える作品を当初から4回に分けて刊行することが決まっていた(1)～(4)の『名著復刻全集 近代文学館』シリーズ、そして(10)～(13)の『名著復刻 詩歌文学館』シリーズであると考えられる。【30】

(財)日本近代文学館の「復刻」は初版本当時の雰囲気のできるだけ再現するようにとの意向から、“初版本を最低三冊、多い時は十冊も集め、装幀や本文の異同、褪色や汚損や印刷上の不備などによる不良箇所と比較検討など、原本の調査・考証に努め、刊行当時の色や形を探查し、その上でフィルムの手入れ・修正、装幀や絵の精確な復元へのさまざまな方法による原版の作製によって、やっと一冊一冊の復刻版がつくられる。また用紙や布・皮などの資材も十分に研究し、刊行当時のものに近づけるために、ほとんど特注して作り、和紙の特漉きに当っては福井の紙漉き村に常時担当者が立合って、質や色調・風合などを再現する”¹⁸³というように、底本の決定から完成までに多大な労力をかけている^{184,185}。それをほぼ同時並行で100点を超える作品の発行にこぎ着けたことは実に驚くべきことであり、この2シリーズの「復刻」は、一文学館のプロジェクトとしては実に大きなものであった¹⁸⁶。

特に最初のシリーズである(1)～(4)は、【30】(財)日本近代文学館自身が“どこでも容易に入手できないばかりでなく、大学や図書館でも見ることができない不朽の名著名作と「稀覯本」ばかりをあつめた豪華な企画として、またその再現の技術がきわめて精度の高かったことから、たちまち四十四年の最終回配本時には全セットが売切れるという圧倒的な好評を受けた”¹⁸⁷と回想するように、出版事業として大成功を収めたのであった。このことは1968年の「出版・読書界10大ニュース」のひとつに数えられ、その中で“画期的”¹⁸⁸と評されていることから窺い知れるだろう。小田切秀雄が『驢馬』という雑誌の「復刻」で感じた“復刻という仕事の持つ意味合い”¹⁸⁹は、図書の「復刻」においても同じように当てはまるものが、こういった大きな反響をもって多くの人たちに迎えられたことによって立証されたと言える。稀覯本という容易に閲覧できない資料への要求の高さは即完売という結果に如実に表れており、(1)～(4)のシリーズはその後の一連の図書の「復刻」の口火を切ったのである。

4.3.4 財)日本近代文学館における雑誌の「復刻」

一方の【30】(財)日本近代文学館の行ってきた雑誌の「復刻」は、以下のように現在までに38セットが発行されている。(括弧内の年月は【30】(財)日本近代文学館による「復刻」年月を示している。)

- (1) 『「文藝時代」復刻版』(全31点・付属解説1点・計32点、1967年5月)
- (2) 『「四季」復刻版』(全83点・付属解説1点・計84点、1967年11月)

- (3) 『「文藝戦線」復刻版』(全 45 点・付属解説 1 点・計 46 点, 1968 年 3 月)
- (4) 『「赤い鳥」復刻版』(全 196 点・付属解説 3 点・計 199 点, 1968 年 11 月－1969 年 3 月)
- (5) 『「青空」復刻版』(全 28 点・付属解説 1 点・計 29 点, 1970 年 6 月)
- (6) 『「辻馬車」復刻版』(全 32 点・付属解説 1 点・計 33 点, 1970 年 6 月)
- (7) 『「文学」復刻版』(全 6 点・付属解説 1 点・計 7 点, 1970 年 6 月)
- (8) 『「ARS」復刻版』(全 7 点・付属解説 1 点・計 8 点, 1970 年 12 月)
- (9) 『「奇蹟」復刻版』(全 9 点・付属解説 1 点・計 10 点, 1970 年 12 月)
- (10) 『「プロレタリア文学」復刻版』(全 19 点・付属解説 1 点・計 20 点, 1972 年 1 月)
- (11) 『「ほととぎす」復刻版』(全 20 点・付属解説 1 点・計 21 点, 1972 年 4 月)
- (12) 『「ホトトギス」復刻版』(全 174 点・付属解説 1 点・計 175 点, 1972 年 10 月－1973 年 9 月)
- (13) 『「白痴群」復刻版』(全 5 点・付属解説 1 点・計 6 点, 1974 年 1 月)
- (14) 『「文科」復刻版』(全 4 点・付属解説 1 点・計 5 点, 1974 年 1 月)
- (15) 『「山繭」復刻版』(全 36 点・付属解説 1 点・計 37 点, 1974 年 1 月)
- (16) 『「青年文学」復刻版』(全 21 点・付属解説 1 点・計 22 点, 1975 年 2 月)
- (17) 『「人間」復刻版』(全 24 点・付属解説 1 点・計 25 点, 1975 年 2 月)
- (18) 『「文学界」復刻版』(全 25 点・付属解説 1 点・計 26 点, 1975 年 2 月)
- (19) 『「鶴」復刻版』(全 2 点・付属解説 1 点・計 3 点, 1976 年 5 月)
- (20) 『「文藝市場」復刻版』(全 19 点・付属解説 1 点・計 20 点, 1976 年 5 月)
- (21) 『「よしあし草」「関西文学」復刻版』(全 34 点・付属解説 1 点・計 35 点, 1976 年 5 月)
- (22) 『「新興文学」復刻版』(全 9 点・付属解説 1 点・計 10 点, 1977 年 10 月)
- (23) 『「銅鑼」復刻版』(全 16 点・付属解説 1 点・計 17 点, 1978 年 3 月)
- (24) 『「赤い鳥」復刻版』(全 196 点・付属解説 1 点・計 197 点, 1979 年 2 月) [(4)の再「復刻」だが, (4)とは解説が異なる。]
- (25) 『「新生」復刻版』(全 16 点・付属解説 1 点・計 17 点, 1980 年 11 月)
- (26) 『「世代」復刻版』(全 17 点・付属解説 1 点・計 18 点, 1980 年 11 月)
- (27) 『「近代文学」復刻版』(全 45 点・付属解説 1 点・計 46 点, 1981 年 3 月)
- (28) 『「作品」復刻版』(全 80 点・付属解説 1 点・計 81 点, 1981 年 4 月－1982 年 3 月)
- (29) 『「荒地」復刻版』(全 6 点・付属解説 1 点・計 7 点, 1981 年 5 月)
- (30) 『「序曲」復刻版』(全 1 点・付属解説 1 点・計 2 点, 1981 年 5 月)
- (31) 『「方舟」復刻版』(全 2 点・付属解説 1 点・計 3 点, 1981 年 5 月)
- (32) 『復刻 日本の雑誌』(全 78 点・付属解説 1 点・計 79 点, 1982 年 5 月－同年 6 月)

月)

- (33) 『「地上巡礼」復刻版』(全6点・付属解説1点・計7点, 1983年5月)
- (34) 『「文体」復刻版』(全4点・付属解説1点・計5点, 1983年7月)
- (35) 『「文藝公論」復刻版』(全17点・付属解説1点・計18点, 1985年6月)
- (36) 『「歷程」復刻版』(全26点・付属解説1点・計27点, 1985年10月)
- (37) 『「マヴォ」復刻版』(全7点・付属解説1点・計8点, 1991年3月)
- (38) 『「文藝通信」復刻版』(全42点・付属解説1点・計43点, 1992年5月)

雑誌の「復刻」の持つ重要性については、既に〔2.5.3 「対象作家の作品」の機能〕で述べておいたので、ここで改めて繰り返すことはしないが、【30】(財)日本近代文学館は小田切秀雄が、“プロレタリア文学図書館では金が集まらぬが、近代文学図書館ということにしたら、文学者から出版社・雑誌社・新聞社にいたるまでが協力してくれるのではないか、プロレタリア文学はそのなかにふくめればいい”¹⁹⁰と回想するように、もともとプロレタリア文学の資料の保存を目的としたところから構想された文学館である。だが同館が「復刻」してきた雑誌の一覧を眺めてみると、その小田切秀雄の当初の思惑を大きく超え、日本近代文学のあらゆる方向へと手を広げていることが見てとれる。

例えば(1)は、1924年10月から1927年5月まで、川端康成や片岡鉄兵、横光利一などを同人として発行された文芸雑誌で、「新感覚派」の雑誌と評価されている¹⁹¹。また(2)は、第一次(1933年5月—同年7月)、第二次(1934年10月—1944年6月)、第三次(1946年8月—1947年12月)、第四次(1967年12月—)というように発行された詩雑誌で、堀辰雄や三好達治、丸山薫らを同人とし、モダニズム運動後の抒情詩を確立しようとする詩雑誌を目指す傾向があった¹⁹²。【30】(財)日本近代文学館ではこのうちの第一次と第二次を「復刻」している。もちろん(3)のように、葉山嘉樹や黒島伝治らが参加し、プロレタリア文学運動を目的に発行された雑誌もそこには含まれており、小田切秀雄が当初に考えていたようなプロレタリア文学関係の「復刻」もしっかりとなされている¹⁹³。

その他、(4)から(38)までの雑誌の「復刻」は、全て日本近代文学史上に歴然と残された貴重な雑誌ばかりであることが窺えるが、雑誌の「復刻」は日本近代文学研究に対して寄与の大きさゆえに、形を変えて幾度も行われてきたことが、このような一覧にしてみると明らかになった。

4.3.5 「復刻」事業の推進

ところで【30】(財)日本近代文学館の「復刻」はどのような変遷を経て行われてきたのだろうか。それを確認するために、図書と雑誌の「復刻」を年ごとに点数を数え、それを合わせてグラフ化してみたい。

図 4-1 のように、開館した 1967 年から 1985 年までは、図書または雑誌のいずれかを毎年のように「復刻」していることが見てとれ、後半における 1991 年から 1992 年、2002 年から 2004 年の「復刻」がむしろ例外的なものであると容易に認識できるくらい、その前半の活発さが顕著にグラフに表れている。図書の「復刻」は、1967 年から 1985 年までの 19 年間の活動でそのほとんどともいえる約 90% ($\equiv 567/628 \times 100$) が世に出されており、それに続く 1986 年から 2005 年までの 20 年間では、わずかに 61 点の発行点数に留まっている。また、雑誌の「復刻」は同じく 1985 年までにおいて約 95% ($\equiv 1,377/1,428 \times 100$) が発行されており、1986 年以降ではわずかに 51 点 (2 セット) の発行点数に留まっている。

これまでの【30】(財)日本近代文学館の「復刻」の点数は、図書と雑誌を合わせて 2,056 点であると既に述べておいたが、実にその 95% ($\equiv 1,944/2,056 \times 100$) は 1967 年から 1985 年までの 19 年間で作製されたものであることが明らかになった。つまり【30】(財)日本近代文学館は、1962 年 5 月の設立から現在 (2005 年 3 月) まで、約 43 年間の活動年数を誇っているが、「復刻」の製作という出版事業の一側面から見れば、明らかにその前半と後半とで極端に活動の質を変えているのである。これはいったい何故なのだろうか。

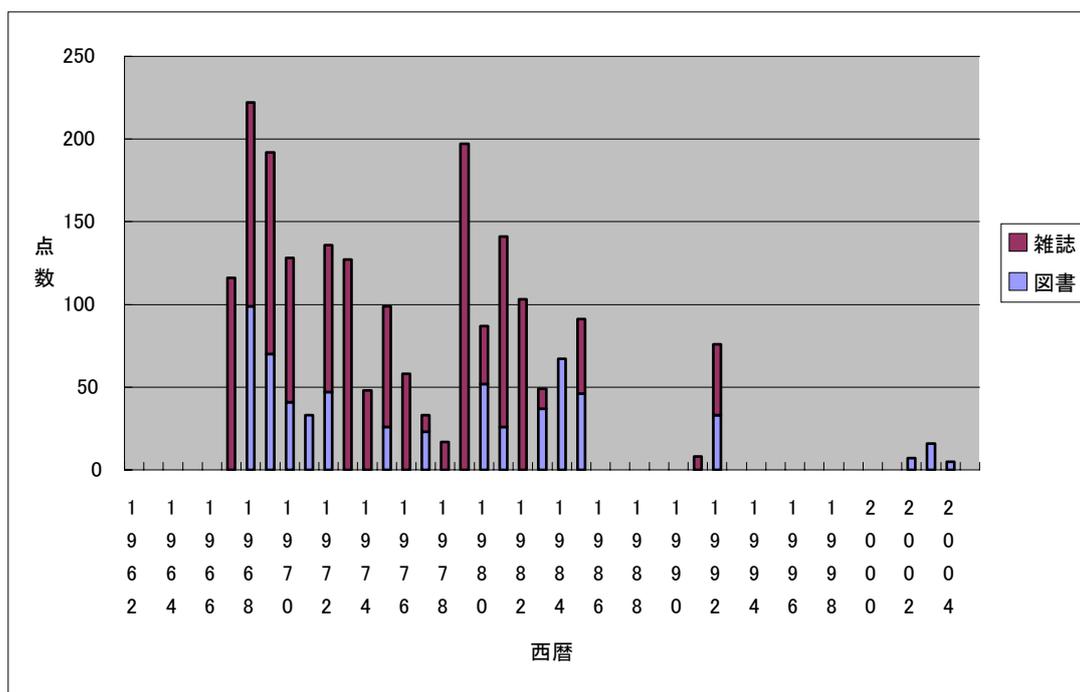


図 4-1 : 【30】(財)日本近代文学館における図書と雑誌の年別「復刻」点数

4.3.6 「復刻」事業の縮小

では【30】(財)日本近代文学館においてこのような活動の変化をもたらしたものの、す

なわち出版事業が弱まりだした1980年代半ばには、一体何があったのかを考えてみたい。

理由として考えられるのは、まず一つに「復刻を望まれる資料の払底」が考えられ、それ以上「復刻」する対象がなくなると推測される。例えば小柳精以知は1962年から1967年を「復刻」事業のピークと述べた上で、「復刻」の広告が少なくなった当時（1981年）の出版状況について“もう復刻のタネが尽きたということもあると思うんですよ”¹⁹⁴と述べているが、「復刻」は事業として行う以上、対象としてある程度の採算の取れるような資料を選択する必要があるのは当然である。つまりそれは「復刻」をすれば売ることが見込めるものであり、言い換えれば研究者の需要の大きい資料ということになるが、相次ぐ「復刻」によってそういった重要な資料が少なくなってきたということが考えられる。

しかし現在までの間に「復刻」を望まれる資料がことごとく「復刻」され尽くしたわけではなく、未だに手をつけられていない資料は存在する。例えば先にも引用した西原和海は、満州文学の「復刻」が遅々として進まない理由として、“朝鮮のみならず台湾、満州、どの地域をとってみても、出版社が採算上、この種の復刻出版で成功できるほどには、読者（研究者・研究機関・図書館）の需要はまだ成熟していない”¹⁹⁵と述べ、読者側の事情（成熟度）を指摘しているが、このことは「復刻」がある程度の需要がなければ行われなものであることを教えてくれる。もちろん満州文学も日本近代文学を語る上で重要な研究分野であることは疑いようがないのだが、同分野の研究者の少なさゆえに出版者側に重要性が低いと判断され、その「復刻」に手を付けてもらえないという状況にあるのだろう。

これまでの「復刻」の歴史を振り返ったとき、確かに重要度の高い資料については積極的に「復刻」がおこなわれてきたと思われるが、しかし西原和海が「復刻」の乏しさを指摘した満州文学はもちろん、近代以降に生み出されてきた膨大な文学作品を想像してみれば、そのすべてを「復刻」し尽くすことなどは不可能なことであり、事実、【30】（財）日本近代文学館では『女学生』や『平和』などの雑誌、あるいは永井荷風や谷崎潤一郎、川端康成などの作家個人の初版本全集などを1973年に企画していたが、しかし現在に至るまでその実現に至っていない¹⁹⁶。過去に企画されているながら実現されないこういった資料の存在は、「復刻」を望まれる資料の払底という理由の反証となるため、この推測はいささか説得力に弱いところがあるかもしれない。

そして二つ目に、「他の出版者の参入」が考えられる。つまり同時期に他の出版者がこういった「復刻」事業に参入してきたため、敢えて「復刻」事業を継続する必要性が薄れたという可能性もある。この推測は、小田切秀雄が“『驢馬』から三年足らずのうちに営業出版社が文学関係の図書や雑誌の復刻をさかんに行うようになり、何もわたしたちがやらないでもいい、ということになったし、つくって売るといふことになれば業者と競争もせざるをえず、もともとそういうことにわたしたちは馴れていないし、なすべきことでもない、と考えたのであった”¹⁹⁷と回想するような、日本近代文学研究所の「復刻」事業からの撤退の理由とも類似することになるが、例えば臨川書店や不二出版など、近代日本文学

における重要な資料の「復刻」を積極的に行う出版者が台頭してきたことによって、【30】（財）日本近代文学館が「復刻」事業の縮小を促されたとも考えられる¹⁹⁸。日本近代文学研究所や【30】（財）日本近代文学館の成功によって、「復刻」事業が商売になると考える他の出版者がそこに参加してくるのはむしろ当然の流れであろう¹⁹⁹。こういった多数の出版者が「復刻」事業に参入する状況になって引き起こされる問題として、企画の重複が挙げられる。例えば小槲精以知が“同じ企画がカチ合うこともよくあるようです、臨川さんなんかよくあったようですね”²⁰⁰と述べているように、「復刻」の需要の大きい重要性の高い資料（採算の取れる資料）は出版者同士でパイを奪い合うようなものであり、ある出版者が既に「復刻」した資料については、改めて「復刻」しても需要（採算）が見込めないため、それとは別の出版者が手を出しにくいものとなる。【30】（財）日本近代文学館が行うより早く他の出版者が積極的に「復刻」を行っていたとすれば、事業の縮小は当然の帰結である。

三つ目は、原本の「著作権」という制約上、「復刻」に踏み切ることができないという理由も考えられる。例えば美作太郎が“いわゆる「編集もの」の場合には、これに寄稿した甲、乙、丙それぞれが自分の寄稿したものに著作権をもっているだけでなく、編者には「編集著作権」が生まれているので、この双方に目を配る必要がある。雑誌の古いバック・ナンバーを復刻するとき苦労が要るのはこの点である”²⁰¹と述べているように、雑誌の場合、たった一冊の「復刻」を作るにあたっては数多くの執筆者（あるいはその著作権を有する遺族）の了解を取らねばならず、権利関係の確認や克服には膨大な時間と手間が費やされる。しかも権利を有する遺族が確認できた場合でも、例えば久源太郎が“高群逸枝さんが「女人芸術」九千頁の内、八十頁ほど書いていて、決して少ない量ではないわけですが、その許可はどんな形でも出せないというんですね、高群さんの遺族の方ですが、それで結論的にはその部分は白頁にするということになったそうです”²⁰²と述べているように、どのような労力を費やしても最終的に権利を克服できないこともあり得る。そのような資料を数十冊のセットにして「復刻」するためにはいったいどれほどの手間が掛かるものなのか、このことは「復刻」を担当した当事者でなければ想像することは難しいが、これは後に述べるコストの問題とも関連してくることだろう。

四つ目は、底本となるべき「原本の未入手」が考えられる。ここには「復刻」に値するような状態の良好な原本を、比較検討のために複数部入手できないというケースも当てはまるだろう。原本を一冊も入手できない（発見できない）がために「復刻」することができないのはもちろん当然である。しかし『名著復刻詩歌文学館〈連翹セット〉』に収録された『中野重治詩集』が“全くの孤本”²⁰³、つまりわずか一冊の原本から「復刻」されており、また、『復刻 日本の雑誌』に収録された「婦人朝日」創刊号は、紅野敏郎が裏表紙の確認できない合本状態のものが一冊のみ判明しただけで同じ雑誌の比較検討が行えなかったと述べ、その上で“裏表紙なし、従ってこの「婦人朝日」のみは、裏が白ページのまま

それが底本となり、そのまま複製というハメになった”²⁰⁴とまとめているが、こういった事例を考えてみれば、比較検討のために複数の原本が入手できないことをそのまま「複製」のできない理由とするには、やや説得力に欠ける部分が残る。

五つ目に、「複製技術の消散」が挙げられ、「複製」を希望する原本が存在してもそれを再現できる技術や紙などの原料が残っておらず、「複製」が技術的に「作製不能」な状態にあることも考えられる。本の製本技術や紙の材質はそれが製作された時代の影響を受けるものであり、【30】(財)日本近代文学館の「複製」も作品ごとにしっかりと紙の質や装丁の方法を変えている。それを後世において再現することの難しさは、他ならぬ【30】(財)日本近代文学館自身が、“美本を入手しても、原本にわずかながら紙やけ、しみ、汚れ等による欠損があるため、刊行時の正しい初版本の姿への復元には高度の技術が必要とされ、多数の関係者による苦心の製作が続けられている”²⁰⁵と語っていることから推測できる。紙の材質の問題については、小田切秀雄も『驢馬』の「複製」に際して、“たとえば用紙が、軽く手ざわりのあたたかい上質のコットン紙だったのに、いまではそれと同質の紙をどこでもつくっていないために、比較的それに近いものを使わざるをえず、このことは今でも多少の心残りである”²⁰⁶と回想しているように、材料の調達において困難を極めるようである。ただし、このような材料については、まったく同じ材質のものを使用せずとも、小田切秀雄が『驢馬』の「複製」において妥協を示したように、「複製」自体を行うことに支障はないため、これは「複製」が少なくなった理由としてはそれほど大きな問題ではないだろう。むしろここで重要なのは、しみや汚れ、欠損によって失われてしまった正しい本の状態を、どのように再現するのかということのほうの問題である。

そしておそらくこれが最も大きな理由だと思われるが、六つ目に「資金不足」とそれに大きく影響される「人材不足」が挙げられる。例えば前述の『驢馬』は最終的に赤字であり、採算度外視の事業だったと小田切秀雄が回想している²⁰⁷。また、【30】(財)日本近代文学館も、こういった「複製」事業に関しては、“採算はある程度犠牲にしても研究者・愛書家の要望に応えるべく努めてきた”²⁰⁸や、“あんまり収益は大きいものではないようですが、まあ失敗はない仕事でした”²⁰⁹と述べているように、「複製」事業は一般的に膨大な資金と手間を必要とするものである。数多の文学館の中でも【30】(財)日本近代文学館は公的な援助を受けず、財団法人による独立採算で事業を行っているため、「複製」事業に関する資金が不足するようになったのではないだろうか。

ただし、【30】(財)日本近代文学館の「複製」は、実際は当初からほるぷ出版が製作を請け負い、さらに販売会社として、ほるぷ(旧名称：図書月販)も名を連ねていたものであり、【30】(財)日本近代文学館が発行元となる形で、それぞれが協力し合った結果、生み出されたものである。このあたりの事情については、伊藤整が“この案は、私どものような大事を取るものではちょっとたてようのない、大胆な案ですけれども、案をたてた側(図書月販の中森社長です)が本を作る費用も出してくれる、売ることでも大いに助力し

てくれるということで、取りかかりました”²¹⁰と述べていることから窺い知ることができ
る。だがこのほるぷが徐々に業績を悪化させ、1999年12月28日に倒産を迎えたことも、
同館の「復刻」からの撤退の要因となっているであろう。

ほるぷは、企業や労働組合などへの団体販売や、家庭訪問販売などによる個人販売を中
心とする、月賦販売によって活動を行っていた販売会社（製作を担当していたのは、ほる
ぷ出版である）だが、バブル経済崩壊によってそういった事業の継続が困難な時代になり、
新たな「復刻」作製に協力できなくなったとも考えられる。このあたりの事情は、元ほる
ぷ社員であった林一夫が、ほるぷの企業体質を批判した上で、そもそもこういった月販販
売という事業自体が、時代の流れによる社会状況の変化によって、徐々に縮小を迫られた
のだらうと指摘している²¹¹。

【30】(財)日本近代文学館による「復刻」事業が、徐々に縮小化された理由を一概に
ひとつの原因に求めることは難しいが、おそらく以上のような六つの条件が複雑に絡み合
いながら引き起こされた結果と推測される。文学館の出版事業のひとつである「復刻」は、

【30】(財)日本近代文学館に話を限れば、日本近代文学研究者や研究機関の需要に応え
るように1960年代後半から急成長したが、しかし1980年代半ばにはその機能を弱めだし、
徐々に出版事業を変化（「復刻」事業からの漸次撤退）させてきたのである。

ともあれ、これまでに発行された数多くの「復刻」が全国の大学図書館など、日本近代
文学研究を行っている研究機関に広く普及している現状があり、また、こういった「復刻」
は、日本近代文学研究に大きな寄与を果たすものであることを思い返してみれば、こうい
った【30】(財)日本近代文学館に代表される「復刻」事業は、日本近代文学研究に多大
なる影響を及ぼしていると言えるだろう。

4.3.7 文学館と出版者

さて、以上のことから、次のことがわかるだろう。

まず一つ目に、文学館の発行物というものは、時代の流行に大きく左右されるものであ
るということである。つまり文学館の発行物というものは、それが単独で行われるという
ものではなく、他の出版者の動向や流行と連動しており、出版の歴史と非常に密接な関係
にあるということである。「復刻」の出版事業が流行の兆しを見せれば、文学館もそれにの
りながら、積極的に事業へと参入していくものであり、それが事業として成功することが
誰の目にも明らかになると、さらに他の出版者も「復刻」事業に参入してくるというよう
に、決して文学館が単体で全ての発行物を企画し、発行にこぎ着けているわけではないと
いうことである。採算が見込めなくなれば作られなくなるということからも、こういった
文学館の発行物も世の出版状況に大きく左右されるものであり、常に同じような発行物を
作り続けられるものではないということである。

また二つ目に、文学館の発行物というものは、他の出版者の事情に大きく左右されるということもある。例えば、【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学大事典』は、小田切進によって、“近代文学館の設立に大きな寄与をされた講談社社長野間省一氏の熱心な薦めによって、昭和四六年、館の創立一〇周年を記念する事業として着手し”²¹²たものであることが明らかにされているが、つまり『日本近代文学大事典』は、もともと【30】(財)日本近代文学館側が出版を企画したものではなく、講談社側の企画だったわけである。これによって、文学館の思惑を超える発行物が生み出される可能性が指摘できる。

おそらく、『日本近代文学大事典』の作製は、一文学館の思い付きでは実現不可能な大事業であり、講談社というバックボーンがあることで、初めて作製に踏み切ることができたものだと推測される。これまでに述べてきたようなほるぷやほるぷ出版との関係における「復刻」事業も、このような事情は同様であろうと推測される。こういった他の出版者との連携によって、文学館側としても出版事業を分担することによって負担が軽減されるため、それだけ多くの発行物が世に出る機会も増えることが期待できることに加え、出版の専門家が協力することによって、内容の質の向上にも繋がることを期待できる。

つまり文学館の出版事業は、それを単体で語るだけではなく、同時代における他の文学館や出版者との関連性にまで深く踏み込まなくては、その発行物に込められた期待や役割、あるいはそれが発行されることのきっかけが見えづらいということである²¹³。

文学館の発行物は、一般に文学館だけで発行に踏み切れる小規模なものから、他の出版者の協力を仰ぐことなしに発行に踏み切れない大規模のものまで、多種多様である。出版者は採算を得るために、様々な企画を文学館側に持ち込んでくると考えられるが、しかしそのおかげで、文学館が単体では実現不可能な発行物が次々と作製され、日本近代文学研究に寄与する重要な資料が、日の目を見ることに繋がってくるのである。こういった日本近代文学研究に関係する発行物の出版に協力的な出版者は、文学館にとって、自らの出版事業を拡大してくれる力強い協力者だと言えるだろう。

文学館の出版事業は以上のように、日々大量の発行物が生み出される巨大な出版文化の中の非常にわずかな領域に過ぎないのだが、それによって出版される1点1点の発行物は、常に日本近代文学研究を見据え、そこに大きな寄与を果たす役割を担うべく作製されているのである。

第5章 おわりに

5.1 文学館の出版事業の現状とその意味

では本研究のまとめである。

まずは[I]の結果である。これまで文学館の活動は、「博物館的機能」と「図書館的機能」の二分法で捉えられてきたが、本研究で示したような文学館の発行物の調査はまったく行われたことはなく、調査研究が遅れていた分野であった。本研究ではそのような発行物を作製する業務を文学館の出版事業と呼び、その現状を指摘することを第一の目的とした。

このような文学館の出版事業の現状であるが、これは本研究の詳細な書誌作成の成果である〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕によって事実を示すことができた。その詳細は付属資料に譲りたいが、これによって本研究で対象とした76館で、6,283点の発行物を確認することができた。内容の面から見て、その機能や目的がそれぞれに異なっているため、このような単純に点数を合計した数値自体に特に大きな意味があるわけではないが、出版事業の現状を大まかに指摘するためには、事実を数字として示すことは有効であろう。

次に[II]の結果であるが、本研究ではまず文学館の発行物を、その機能や目的から分類を試みた。その結果、6種類の性質と17種類の形態に分類できることが確認できた。その内容は、「[イ]展示の記録」（「図録」の1種類が該当）、「[ロ]所蔵資料の記録」（「目録」の1種類が該当）、「[ハ]所蔵資料／対象作家の記録」（「紀要」「研究誌」「研究書」「記録集」「事典」の5種類が該当）、「[ニ]対象作家の作品」（「作品」「復刻」「複製」「翻刻」「全集」の5種類が該当）、「[ホ]利用者の作品」（「文芸雑誌」「創作集」「受賞作品集」の3種類が該当）、「[ヘ]文学館活動の記録」（「館報」「記念誌」の2種類が該当）のようになる。

以上のように分類した上で、①それぞれの発行物が作製されることの目的を探ること、②それぞれの発行物が作製されることの意義や役割の検討、という二つの側面から考察を行った。このうちの①は、発行物とそれを作製する文学館（職員や関係者）との関係を探るものであり、もう一方の②は、発行物とそれを受け取る読者（日本近代文学研究者や一般の利用者）との関係を探るものである。これによって文学館の発行物は、その性質ごとに様々な機能を有していることが明らかになった。

文学館の出版事業は、発行物というメディアを通して、(1)文学館活動の記録化、(2)文学館活動の館外への拡張、という機能を有している。そのため、例えば「図録」という発行物は、文学館において展覧会が催されたときに、その記録化を目的に生み出されるものであり、また、展覧会に足を運ばなかった利用者に対し、そのときの展示の雰囲気伝える役目を果たすものであると考えられる。その他、文学館の発行物は、そのほとんどが日本近代文学研究への直接的・間接的な寄与を目的に作製されるものであることが明らかにな

った。

また、[Ⅲ]では視点を文学館の出版事業に移し、それぞれの文学館がどういった内容の発行物を出しているのか、その出版事業の形態を見ていった。その際、「出版形態」や「出版性」という概念を新たに提唱した。これは、「[イ]展示の記録」を出している場合は「[い]展示記録性」,「[ロ]所蔵資料の記録」を出している場合は「[ろ]所蔵資料記録性」,「[ハ]所蔵資料／対象作家の研究」を出している場合は「[は]研究記録性」,「[ニ]対象作家の作品」を出している場合は「[に]作品公開性」,「[ホ]利用者の作品」を出している場合は「[ほ]利用者作品公開性」,「[ヘ]文学館活動の記録」を出している場合は「[へ]活動記録性」の機能を有していると評価するものであり、このような分類を踏まえながら、総合文学館、地域文学館、個人文学館の別に見ていった。

これによって、総合文学館は全体的に積極的な出版事業を行っており、一方の地方文学館や個人文学館では、出版事業の遂行に積極的な文学館が見られる一方、出版事業を行っていない「未出版型」の活動状態にある文学館も見受けられ、それぞれの文学館の差が大きいものであることが判明した。また、同じような「出版形態」を有する例は意外にも少なく、それぞれの文学館がそれぞれの思惑で出版事業を形にしており、それらの性質は、文学館ごとに固有のものが数多く見受けられた。

最後に、[Ⅳ]の観点では視点を日本近代文学研究に移し、それと文学館との関連性を見ていった。その際、日本近代文学研究と深い関わりを持つ者として、日本近代文学研究者と出版者の二者を取り上げ、彼らと文学館との関わり合いを探っていった。

前者においては、例えば文学館が発行する「目録」と同じような性格を持つ「書誌」についての検討を行い、文学館は「目録」の発行に携われるが、「書誌」の作成に取り組めるのは、通常は文学館の外部で研究を行っている日本近代文学研究者であることを指摘した上で、そういった「書誌」が発展していく過程には、文学館の存在が大きな影響を及ぼすケースがあることを事例として取り上げた。

また、後者においては、例えば【30】(財)日本近代文学館が発行する「復刻」は、ほるぷやほるぷ出版という、他の出版者との関わりから生み出されていたことが明らかになった。この事例からは、文学館単体による出版事業の他にも、他の出版者の影響を強く受ける発行物があるということが明らかになった。こういった他の出版者は、文学館単体では形にできないような、規模の大きな出版事業を具現化してくれる協力者として、文学館の出版事業の一部を担う存在となっている。

つまり文学館という場は、日本近代文学研究を行うための中心的施設となるが、そこには館外の日本近代文学研究者や他の学術系の出版者が、自分たちの思いを形にするべく、それぞれの思惑で足を運んでくる場だと言えるだろう。日本近代文学研究者は、文学館から持ち帰った知識を元に新しい知見を次々と発表し、出版者は文学館が所蔵する資料を次々と記録に収めることで商売を行い、結果として日本近代文学研究に寄与する図書を

次々と発行している機関ということが明らかになった。

文学館とは、そういった様々な思惑を持った人たちが集う場であり、その全てが日本近代文学研究という大きな流れの一端を担っているのである。数多くの文学館の発行物は、そういった日本近代文学研究の歴史を刻んだ、多くの先人たちの思いが込められた大いなる遺産と言えるだろう。

5.2 残された課題

本研究では文学館の発行物の機能や、出版事業の現状の調査を取り上げ、それらの考察を行ってきたが、本研究において問題が解決したわけではなく、今のところはその事例を提示し、若干の考察を加えられたのみに過ぎない。筆者の力不足の部分もあり、問題はいくつか残されてしまった。未解決の問題点と今後の展望を記しておきたい。

まず一つに、最も大きな問題は、発行物の内容の検討が不十分であるということである。本研究の第2章では、発行物の性質や種類ごとにその目的や機能を探っていったが、これまでに出版された膨大な発行物に言及しつくすことは不可能なことであった。なるべく発行物の書名や内容に触れ、具体例として示したつもりだが、それでもやはり言及が不十分な点も多い。文学館の発行物は、これまで積極的に語られてこなかったため、本研究では概論的な内容に留まってしまっている。新しい考え方をいくつか提示できた部分もあると思われるが、内容としては発行物の表層的な機能を指摘した部分が多いため、今後はそれぞれの発行物の性質ごとに、さらなる検討を加えていく必要があるだろう。

また二つ目に、あくまで本研究は「全国文学館協議会」という枠組みにおける文学館の発行物や出版事業の検討ということであり、本当の意味での文学館の発行物や出版事業を総体的に語っていないという問題がある。これには文学館というものの定義をもう一度見直すことから始めなければならないが（いわゆる生家や文庫は、「文学館」の意味する範疇に含めてもいいのか、など）、しかし冒頭でも言及したように、「全国文学館協議会」という枠組みだけでは、明らかに遺漏は残っているのは明白である。そういった他の文学館の事例もいずれは補填することが求められるだろう。

また三つ目に、本研究で対象とした文学館の発行物を網羅的に調査したつもりだが、しかしおそらく見落としもあり、検索漏れや記述のミスなどで、完全なる「書誌」が作成されていない可能性は充分に残っている。谷沢永一が、“言うまでもなく、書誌に完璧はあり得ない”²¹⁴と述べているように、「書誌」作成に完璧さを求めることは非常に困難なことなのだが、しかし完璧さを旨とすることは常に求められる。この点に関しては、今後の追調査で補足していきたい。文学館の発行物というものに、もっと注目が集まるようになれば、「書誌」作成の環境もより良い方向に変わると思うが、ひとまず本研究によって、文学館の発行物に対する注目度が高まることを期待したい。

四つ目に、第4章で取り上げた文学館と日本近代文学研究者、文学館と出版者との関係の議論は、問題提起に過ぎない記述に留まってしまったため、出版文化史や日本近代文学研究史など、より歴史的な視点を補強し、それらと文学館の活動とを結び付けることが求められると考えるが、このあたりも更に議論を深めていく必要があるだろう。

五つ目に、文学館の所蔵資料を用いることで、どれだけ日本近代文学研究が行われているのかにも注目する必要があるだろう。例えば、【30】(財)日本近代文学館には、作家・小杉天外が所蔵、収集した古文書、記録、図書、手記、遺品などが、「小杉家文書」として寄贈されているが、鎌田永吉は、そのうちの天外の父・豊治の手による「戊辰戦争役書上」を用い、「戊辰内乱期における秋田藩内の農民諸隊の分析」²¹⁵を行っている。あるいは【59】姫路文学館所蔵の『播磨国書写敵討』の解題と翻刻が、土居文人の手によって行われていたり²¹⁶、【35】神奈川県立神奈川近代文学館所蔵の『風流陣』の総目次の作成を西村将洋が行ったりしている事例も見られる²¹⁷。このように、文学館が所蔵する資料を元にした研究の事例が昨今増加しているのは、それだけ文学館が果たす役割が大きくなってきたことの証しだが、文学館の発行物だけではなく、いずれはこういった文学館の存在自体の意味を問う方面にも、議論を発展させることも必要となるだろう。

以上、文学館の出版事業の残された問題点を挙げてみたが、冒頭で述べたように、こういった文学館の発行部や出版事業、文学館と日本近代文学研究との関係性の議論は未だ始まったばかりであるから、今後の文学館研究の発展と、「文学館学」の早期の確立を願うばかりである。

5.3 今後の展望

文学館は発行物の形態やその可能性において固有の性質を持っており、一様に語ることは難しいものであった。これは本研究を通じて感じた一番大きな印象である。もちろん本研究で論じてきたように、いくつか同じような「出版形態」を有する文学館を探し出すことはできるが、しかしその内容まで詳細に見ていけば、ひとつとして同じような出版事業を行っている文学館はなかったということである。

本研究を行う以前であれば、もし文学館の発行物について語ろうとする場合、発行点数の多い文学館、つまり出版事業に積極的な文学館ばかりに注目が集まり、発行点数の少ない文学館は見過ごされる傾向にあったと考えられる。【30】(財)日本近代文学館や【31】俳句文学館、【35】神奈川県立神奈川近代文学館など、多くの発行物を出版している文学館のみを見るだけで文学館の出版事業を語り、一方でほとんど発行物を出版していない、あるいは発行物を全く出版していない文学館については、まったく見過ごされてきた可能性が高い。そういった見過ごしをしないよう、なるべく多くの文学館の事例を提示し、一様に並べた上で比較検討できたことは、本研究の大きな貢献だと思っている。今後は更な

る調査を続け、不備な点を補っていきたい。

ところで、調査を依頼した文学館の中で、特に発行点数の少ない文学館のいくつかからは、「あまり発行物を出していないので参考にならない」という声をはじめ、「調査対象として捉える意味はない」「調査しても無駄」「関係ない」という消極的な意見がいくつか寄せられた。多くの文学館の出版事業の現状をある程度見てきた立場から言わせてもらうと、そういった発行点数の少ない文学館の事例も実に意味深いものであり、多くの文学館の事例を比較することで、文学館の出版事業の現状を把握可能となったことは事実である。特に「発行物を何も出していない」という事例があるからこそ、文学館が発行物を出すことの難しさを痛感したことは、文学館の出版事業を考えていく上で、重要な示唆を与えてくれた。

本研究によってこれまで文学館全体で 6,283 点の発行物が出されていることが明らかになったが、この先も文学館は多くの発行物を生み出すことで、日本近代文学研究への助力となる仕事を続けて行くだろう。だが、そういった発行物は当たり前のように出されているのではなく、1 点 1 点が地道な作業のもとに積み重ねられた、文学館の活動の歴史に支えられているのである。

これから先、文学館がどのような発行物を出すことになるかはわからないが、われわれ日本近代文学研究者も、そういった文学館の出版事業を自覚することで、文学館活動の一部に参加しているという自覚をもって日本近代文学研究を続けていく必要があるのではないかと考えている。日本近代文学研究と文学館との関係は、お互いが持ちつ持たれつの関係であり、どちらも疎かにできるものではないのである。

5.4 謝辞

では最後に、本研究を進めるにあたってお世話になった方々に、一言お礼を申し上げておきたい。

まず、本研究を進めるに際しては、「全国文学館協議会」加盟文学館の職員の皆様に、非常に大きなお力添えを頂いた。研究対象の設定上、やむを得ない部分もあったが、数多くの文学館関係者に、多大なるお手数をお掛けしてしまった。逐一全ての文学館の担当者のお名前を列挙することは長くなるため、失礼ながら割愛させて頂きたいが、ここに改めて皆様方へお礼申し上げたい。

また、私の指導教官である筑波大学教授・黒古一夫先生には、大学がまだ図書館情報大学であった頃の卒業研究から今日まで、長年にわたってお世話になってきた。ご迷惑をお掛けしたことは数えきれないが、一貫したご指導を頂いたことは、私の研究者としての基礎を築く上で貴重な経験となった。感謝申し上げます。

そして筑波大学附属図書館の職員の皆様には、修士論文のひとつとして仕上げた『三浦

綾子書誌』(2003年, 勉誠出版) 執筆の際の調査において, 幾度も面倒な作業をお願いしてしまいましたが, 引き続き博士論文の調査においても多大なるご迷惑をお掛けしてしまいました。「書誌学」という学問の方法を念頭に置いている以上, 文献調査が膨大となることは避けられないことではあるが, 度重なる文献複写依頼にお力添えを頂けたことなしに, 本研究を完成させることは不可能であった。職員の皆様には, 重ね重ねお礼申し上げたい。

今からおよそ 10 年前, 図書館情報大学という全国的にも珍しい大学に入学してから, 合併によって筑波大学の大学院生となった現在まで, 長年勉強を続ける間に, 自分の中で図書館に対する見方が大きく変わってきた。もちろん, 時代の流れで図書館自体が大きく様変わりしていることも事実であるが, 根幹の部分では, 図書館情報学に携わる諸先生方の薫陶に影響を受けた部分が非常に大きい。博士論文を進めるにあたって, 先生方には何度もご迷惑を掛けてしまい, 自分の不勉強さを恥じるばかりだが, この約 10 年間で学んだ図書館情報学は, 研究者を目指す者として非常に大きな糧となった。それぞれにお礼を申し上げる紙幅は無いため, お名前は割愛させて頂きたいが, ここに記すことで先生方への感謝の辞としたい。

そしておよそ 10 年もの間, 学問の道に進もうとする自分を後押ししてくれた両親と家族に, この研究成果を捧げたい。長年にわたって伸び伸びと研究に打ち込める環境を与えてくれたことは, 論文執筆の大きな力となった。皆に感謝する。

本研究が長年図書館情報学を学んできた成果として, 新たな知見と問題提起を含んでいくことを願いつつ, 今後の研究に繋げていければ幸いである。

註

- 1 坪井賢一. 文学館で街おこしの現場. 週刊ダイヤモンド. vol.84, no.34, 1996, p.38-43.
- 2 木原直彦. 文学館きたみなみ. 札幌, 北海道新聞社, 1990, 270p.
- 3 木原直彦. 文学館きたみなみ. 増補改訂版. 札幌, 北海道新聞社, 1995, 270p.
- 4 木原直彦. 全国文学館等一覧表. 全国文学館協議会会報. no.6, 1998, p.26-40.
- 5 木原直彦. 全国文学館等一覧表. 全国文学館協議会会報. no.14, 2000, p.38-52.
- 6 木原直彦. 全国文学館等一覧表. 全国文学館協議会会報. no.24, 2003, p.36-52.
- 7 木原直彦編. “全国文学館等一覧”. 全国文学館ガイド. 全国文学館協議会編. 東京, 小学館, 2005, p.186-198.
- 8 同上.
- 9 文学館を主題としている図書には, これまでに以下の 14 冊が確認できる.
 - (1) 小田切進. 文庫へのみち: 郷土の文学記念館. 東京, 東京新聞出版局, 1981, 229p.
 - (2) 小田切進. 続文庫へのみち: 郷土の文学記念館. 東京, 東京新聞出版局, 1981, 253p.
 - (3) 木原直彦. 文学館・きたみなみ. 札幌, 北海道新聞社, 1990, 270p.
 - (4) 木原直彦. 文学館・きたみなみ. 増補改訂版. 札幌, 北海道新聞社, 1995, 324p.
 - (5) 榊原浩. 文学館探索. 東京, 新潮社, 1997, 290,7p, (新潮選書).
 - (6) 中村稔. 文学館感傷紀行. 東京, 新潮社, 1997, 350p.
 - (7) 小松健一. 文学館 抒情の旅. 京都, 京都書院, 1998, 255p, (京都書院アーツコレクション, 87).
 - (8) リテラール編集部編. 文学館ワンダーランド: 全国文学館・記念館ガイド 160. 東京, メタログ, 1998, 302p.
 - (9) 淡交社編集局編. 日本の文学館百五十選. 東京, 淡交社, 1999, 190p.
 - (10) 森田溥. 文学館とうほく紀行. 無明舎出版, 2000, 217p.
 - (11) 小松健一. 作家の風景: 文学館をめぐる——I. 白石書店, 2001, 125p, (パレットボックス).
 - (12) 小松健一. 作家の風景: 文学館をめぐる——II. 白石書店, 2001, 125p (パレットボックス).
 - (13) 東京新聞・中日新聞文化部編. 文学館のある旅 103. 東京, 集英社, 2004, 221p.
 - (14) 全国文学館協議会編. 全国文学館ガイド. 東京, 小学館, 2005, 207p.
- 10 例えば, 樹村房の「図書館学シリーズ」「博物館学シリーズ」などのシリーズものの図書が, その例となるだろう.
- 11 好村富士彦. 特集 運動へその記録とその芸術性, 広島文学館への道: 広島文学資料保全の会の活動. 新日本文学. vol.55, no.7, 2000, p.62-67.
- 12 水島裕雅. 広島の文学館の可能性. 芸術研究. no.15, 2002, p.81-87.
- 13 中村稔. “文学館・全国文学館協議会について”. 全国文学館ガイド. 全国文学館協議会編. 東京, 小学館, 2005, p.206-207.
- 14 同上.
- 15 宮瀧交二. 文学館における展示について: さいたま文学館の企画展を例として. MOUSEION. no.44, 1998, p.1-11.
- 16 “同一サイズの紙や獣皮紙などなどを複数枚重ね, その一辺を糊や糸でとじ合わせたもの” のこと. 参照は, 以下の文献による.
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. “冊子体”. 図書館情報学用語辞典. 第 2 版. 東京, 丸善, 2002, vii,273p. 参照は, p.81.
- 17 “分量が数ページから数十ページと少なく, きわめて簡易な方法でとじてある冊子体の印刷資料” のこと. “折った紙をとじないで重ねただけで冊子体にしたもの” も含まれる.

参照は、以下の文献による。

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“パンフレット”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.193．

18 中村稔ほか．共同討議．全国文学館協議会会報．no.4，1997，p.13-30．

19 日本の潮4：発足近い日本近代文学館．世界．no.214，1963，p.166-169．

20 大久保乙彦．財団法人日本近代文学館：私たちの新しい図書館．図書館雑誌．vol.62，no.2，1968，p.28-30．

21 文学館の利用案内を掲載した雑誌記事には、例えば以下のような文献がある。

(1) 日本近代文学館利用案内．国文学解釈と鑑賞．vol.43，no.1，1978，p.171-172．

(2) 日本近代文学館資料・閲覧方法案内．国文学解釈と鑑賞．vol.43，no.1，1978，p.172-173．

(3) 曾根博義．図書館・文学館案内．国文学解釈と鑑賞．vol.46，no.12，1981，p.142-152．

(4) 曾根博義．図書館・文学館・文庫をどう利用するか．別冊國文學．no.51，1998，p.174-188．

22 中村稔．文学館の使命：図書館的機能と博物館的機能．全国文学館協議会会報．no.17，2001，p.8-9．

23 同上．

24 豊泉豪．「随想—文学館学序説のためのエスキスのために〈総務篇〉」を読んで：博物館としての文学館．全国文学館協議会会報．no.18，2001，p.30-33．

25 生田美秋．「博物館としての文学館：「随想—文学館学序説のためのエスキスのために〈総務篇〉」について．全国文学館協議会会報．no.18，2001，p.34-40．

26 青山善充，菅野和夫編．“博物館法”．六法全書 I．平成17年版．東京，有斐閣，2005，p.2618-2619．

27 青山善充，菅野和夫編．“図書館法”．六法全書 I．平成17年版．東京，有斐閣，2005，p.2617-2618．

28 同上．

29 例えば、以下の2文献がそれに該当すると考えられる。

(1) 各館の展覧会の記録，および各展覧会の図録・パンフレットについて．全国文学館協議会会報．no.1，1996，p.1-46．

(2) 各館の資料集・目録・紀要・年報など展覧会図録以外の刊行物の記録．全国文学館協議会会報．no.2，1996，p.1-12．

30 飯塚薫．「群馬文学全集」について．全国文学館協議会会報．no.15，2001，p.16-18．

31 高室有子，保坂雅子．「資料と研究」について．全国文学館協議会会報．no.25，2004，p.20-22．

32 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“団体著者”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.141．

33 平野英俊は、団体著作である「政府刊行物」について、“政府刊行物とは、「国の機関が著作者，編者，監修者あるいは発行者となるなど，国がその著作物に対し，直接なんらかの責任をもつことが明確であるもの」ということができる”と定義付けをしている。参照は、以下の文献による。

平野英俊．“9．政府刊行物”．図書館資料論．平野英俊編．改訂版．東京，樹村房，2004，p.50-54，（新・図書館学シリーズ，7）．

34 「責任表示」とは，“著作の知的もしくは芸術的内容の創造，ないしは具現（演奏等を含む）に責任を有するか，これに寄与するところがある，個人または団体に関する表示”を意味する。参照は、以下の文献による。

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“責任表示”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.123．

- 35 「出版者」とは，“出版物の刊行に責任をもつ個人または団体”を意味する。参照は、以下の文献による。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“出版者”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.98.
- 36 「博物館」の定義は，“歴史，芸術，民俗，産業，自然科学等に関する資料を収集し，保管（育成を含む）し，展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し，その教養，調査研究，レクリエーション等に資するために必要な事業を行い，あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関”というものである。参照は，以下の文献による。
青山善充，菅野和夫編．“博物館法”．六法全書 I．平成17年版．東京，有斐閣，2005，p.2618-2619.
- 37 全国文学館協議会 会員．全国文学館協議会会報．no.29，2005，p.89-94.
- 38 亀井秀雄．文学館を考える：その外延と内包．市立小樽文学館報．no.28，2005，p.8-15.
- 39 前掲書 1.
- 40 前掲書 13.
- 41 本研究では考察対象としていないが，【29】江戸東京博物館も，「近世文学」を対象とした「総合文学館」に含まれるものと考えられる。
- 42 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。ただし，本来「目録」の解説を参考にすべきところだと考えられるが，同書 229 ページの「目録」の解説文には，“日本の習慣では，目録が書誌の意味で用いられることが多い”と記述されており，文学館が発行する「目録」も，「書誌」の解説を当てたほうが的を射た定義になると思われるため，本研究では「書誌」の意味で「目録」という用語を用いることにする。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“書誌”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.108.
- 43 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。
(1) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“紀要”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.47.
(2) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“逐次刊行物”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.143.
- 44 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“事典”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.91.
- 45 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“選集”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.126.
- 46 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“同人誌”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.160.
- 47 以下の解説を下敷きとして，文章を改めた。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“図書館報”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.173.
- 48 前掲書 17.
- 49 “印刷した1枚の紙を1回折って，2ページないし4ページの冊子体にした印刷資料”のこと。参照は，以下の文献による。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“リーフレット”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.240.
- 50 “1枚の紙の前面に折り目を考慮しないで書写または印刷した資料で，一般に，広げた

-
- ままで読み、折り畳まないもの”のこと。参照は、以下の文献による。
- 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“一枚もの”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.8。
- 51 根本彰。“第7章 全国書誌と出版”。文献世界の構造：書誌コントロール論序説。東京、勁草書房、1998、p.205-238。
- 52 中村稔、根岸宏和ほか。共同討議。全国文学館協議会会報。no.10, 1999, p.4-19。
- 53 土居裕美子、秋枝（青木）美保、山田謙次、松下正司。中国四国地方における文学館の実態と課題。比治山大学現代文化学部紀要。no.8, 2001, p.41-52。
- 54 前掲書 52。
- 55 前掲書 1。
- 56 日本近代文学館編。日本近代文学図録。東京、毎日新聞社、1964、369,21p。
- 57 中村稔、宮瀧交二ほか。共同討議（記録）。全国文学館協議会会報。no.13, 2000, p.49-112。
- 58 中村稔。図録の製作はどうすべきか。全国文学館協議会会報。no.13, 2000, p.104-108。
- 59 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“記録”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.50。
- 60 生田美秋。展示情報部会の開催によせて。全国文学館協議会会報。no.11, 1999, p.11-16。
- 61 同上。
- 62 國賀由美子。学芸員談話室(3)：展覧会図録、制作のあれこれ。博物館学年報。no.36, 2004, p.141-146。
- 63 塚原晃。DTPを応用した展覧会図録制作について。アート・ドキュメンテーション研究。no.6, 1997, p.23-31。
- 64 前掲書 62。
- 65 前掲書 60。
- 66 神奈川文学振興会編。大岡昇平展。横浜、神奈川近代文学館、神奈川文学振興会、1996、63p。
- 67 武藤康史。文学館に遊ぶ。東京人。vol.16, no.2, p.24-45。
- 68 上村洋行。辞書、辞典、事典、字典のたぐいは何冊？。遼：司馬遼太郎記念館会誌。no.16, 2005, p.1。
- 69 「記述」とは、“個々の資料について、他の資料または同一著作の他の版と同定識別するために、タイトルと責任表示に関する事項、版に関する事項など、一連の書誌的事項を組織的に構成して記録すること”を意味する。参照は、以下の文献による。
- 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“記述”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.42。
- 70 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“図書館”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.164。
- 71 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“書誌”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.108。
- 72 「一次資料」とは、“二次資料の収録もしくは加工の対象となった原資料”のこと。参照は以下の文献による。
- 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“一次資料”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.8。
- 73 「書誌データ」とは、“書誌あるいは書誌データベースにおいて、1点ごとの資料を識別同定するために記述するのに必要なデータ。書誌データは、資料そのものから得られる、著者、タイトル、出版に関する事項、形態に関する事項、その他の事項から構成される”ことを意味する。参照は以下の文献による。
- 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編。“書誌データ”。図書館情報学用語辞典。第2版。東京、丸善、2002、vii,273p。参照は、p.110。

-
- 74 谷沢永一．“編集者と著者との雑談”．書誌学的思考：日本近代文学研叢．東京，和泉書院，1996，p.819-858.
- 75 大森一彦．“中谷宇吉郎の資料とその目録”．文献探索 2004．深井人詩編．東京，文献探索研究会，2004，p.243.
- 76 岡野裕行．“三浦綾子略年譜”．三浦綾子：人と文学．東京，勉誠出版，2005，p.211-228，（日本の作家 100 人）．
- 77 藤井節男，渡邊松男，矢野幸彦．文学館における普及活動について．風：文学紀要．no.5，2001，p.91-100.
- 78 小田切進．“『日本近代文学大事典』刊行の辞”．日本近代文学大事典 第 1 巻．日本近代文学館編．東京，講談社，1977，p.1-2
- 79 紅野敏郎．日本近代文学館の「紀要」創刊．日本古書通信．vol.70，no.9，2005，p.10-12.
- 80 同上．
- 81 野口弥生．文学館のかかえる問題下，田山花袋記念館の課題．日本古書通信．vol.59，no.8，1994，p.11-12.
- 82 上村洋行．“発刊にあたって”．二十一世紀に生きる君たちへ．司馬遼太郎，司馬遼太郎記念館編．東大阪，司馬遼太郎記念館，2003，p.60-61.
- 83 “ある版の本文（句読点等を含む）と同一のものが別の出版社や印刷所から新たな版で出されたり，同一出版社から別の作製手段で新たに出版されたりした場合，既出の版に対して新しい版”のこと．参照は，以下の文献による．
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“異版”．図書館情報学用語辞典．第 2 版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.9.
- 84 玉川薫．文学館のかかえる問題下，地方文学館の難しさ．日本古書通信．vol.59，no.8，1994，p.10.
- 85 前掲書 82.
- 86 上出恵子．“第一章 『氷点』論——原稿にみる三浦文学の原点——”．三浦綾子研究．東京，双文社出版，2001，p.53-71.
- 87 紅野敏郎．特集：樋口一葉——日記の領分／創作の場，「たけくらべ」「にぎりえ」「われから」の未定稿・原稿類を中心に：山梨県立文学館から．國文學解釈と教材の研究．vol.49，no.9，2004，p.84-86.
- 88 収蔵品紹介 44，色紙「ぬる川や湯やら霧やら月見草」．草思道だより．vol.12，no.1,2，2003，p.7.
- 89 収蔵品紹介 49，色紙「秋の灯や英明英穂何を読む」．草思道だより．vol.13，no.3，2004，p.7.
- 90 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“マイクロ資料”．図書館情報学用語辞典．第 2 版．東京，丸善，2002，vii,273p．参照は，p.222.
- 91 鈴木昭一．藤村記念館蔵大脇信興自筆「年内諸事日記帳 三拾番」（明治二年）：〈翻刻〉—その 1—．島崎藤村研究．no.26，1998，p.62-77.
- 92 室生犀星記念館．新資料：山根義雄宛犀星書簡について．室生犀星研究．no.26，2003，p.3830-3837.
- 93 由里幸子．「仮面」の下素顔つぶさに：三島由紀夫の書簡 800 通．朝日新聞．2004-02-03．夕刊，2 版，12 面．
- 94 前掲書 30.
- 95 前掲書 68.
- 96 「ホトトギス」配本始まる：明治期百七十四冊の複製版．日本近代文学館．no.10，1972，p.1.
- 97 前掲書 30.
- 98 小田切秀雄．“『驢馬』と『種蒔く人』を蘇らせる。イワノフ『装甲列車』”．小田切秀雄

-
- 全集 第17巻. 東京, 勉誠出版, 2000, p.247-263.
- 99 高見順. “「驢馬」復刻版に寄す: この不思議な雑誌の鮮やかな青春の息吹”. 高見順全集 第14巻. 東京, 勁草書房, 1974, p.426-428.
- 100 前掲書 98.
- 101 前掲書 99.
- 102 高見順. “貴重な屑雑誌”. 高見順全集 第17巻. 東京, 勁草書房, 1972, p.423-424.
- 103 稲岡勝. 近代出版に関する復刻版資料. 出版研究. no.19, 1988, p.157-176.
- 104 西原和海. 旧植民地の文芸雑誌とその復刻. 日本古書通信. vol.69, no.2, 2004, p.12-14.
- 105 渡辺淳一. “主要参考文献”. 君も雛罌粟われも雛罌粟 (下): 与謝野鉄幹・晶子夫妻の生涯. 東京, 文藝春秋, 1999, p.441-445, (文春文庫, わ-1-23).
- 106 竹盛天雄. 『日本からの手紙 日本近代文学館所蔵 滞独時代森鷗外宛 1886-1888』を読む 序説. 国文学解釈と鑑賞. 臨時増刊号, 1999.
- 107 門屋光昭. 啄木と絵葉書: 石川啄木記念館所蔵の絵葉書を中心として. 日本文学会誌. no.14, 2002, p.24-50.
- 108 前掲書 84.
- 109 編集後記. 文芸せたがや. no.1, 1982, p.204.
- 110 齋藤茂吉記念館. “あとがき”. 歌集 経塚山: 第七回 齋藤茂吉追慕全国大会上山市内齋藤茂吉歌碑巡り吟行会作品集. 上山, 齋藤茂吉記念館, 1981, p.34.
- 111 半田青年会議所. あとがきにかえて. 創作童話集 赤いろうそく. no.1, 1988, 裏表紙.
- 112 玉田克宏. 展示情報部会の開催に寄せて: 垣根をこえた企画展示の模索. 全国文学館協議会会報. no.11, 1999, p.25-27.
- 113 藤田尚子. 世田谷文学館における「夏休みこども文学館」の実施. 博物館研究. vol.35, no.10, 2000, p.23-25.
- 114 桂芳久. 同人雑誌評, 同人誌の機能. 文芸. vol.6, no.2, 1967, p.260-264.
- 115 川崎彰彦. 特集=文学を超えて文学へ, 座の精神: 同人雑誌への考察若干. 新日本文学. vol.43, no.1, 1988, p.107-109.
- 116 中田耕治, 桂芳久. 〈対談〉同人雑誌を考える. 文芸. vol.6, no.12, 1967, p.246-254.
- 117 世田谷文学者探方. 文芸せたがや. no.15, 1996, p.4-13.
- 118 世田谷文学碑ガイド. 文芸せたがや. no.16, 1996, p.16-43.
- 119 前掲書 77.
- 120 牧内岩夫. 文学館を楽しむ: 多彩な企画 活動参加も. 日本経済新聞. 2005-09-18. 朝刊, 13面.
- 121 前掲書 112.
- 122 前掲書 77.
- 123 「利用者向け館報」には, 以下の文学館の「館報」が該当すると考えられる.
- (1) 【03】旭川市井上靖記念館の『旭川市井上靖記念館報』(2001年一)
 - (2) 【04】市立小樽文学館の『市立小樽文学館報』(初号発行年月日不明)
 - (3) 【06】(財)北海道文学館の『北海道文学館報』(1967年一)や『サンクンガーデン』(1996年一)
 - (4) 【07】三浦綾子記念文学館の『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』(1998年一)
 - (5) 【08】青森県近代文学館の『青森県近代文学館報』(1994年一)
 - (6) 【09】弘前市立郷土文学館の『北の文脈ニュース』(1993年一)
 - (7) 【10】(財)石川啄木記念館の『石川啄木記念館』(1988年一)
 - (8) 【11】日本現代詩歌文学館の『日本現代詩歌文学館』(1985年一)
 - (9) 【13】原阿佐緒記念館の『原阿佐緒記念館だより』(1991年一)

-
- (10) 【16】郡山市こおりやま文学の森資料館の『こおりやま文学の森通信』(2000年ー)
- (11) 【19】群馬県立土屋文明記念文学館の『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』(1997年ー)
- (12) 【20】徳富蘆花記念文学館の『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』(1992年ー, 後に『徳富蘆花記念文学館館報 不如歸通信』に改題)
- (13) 【21】水と緑と詩のまち前橋文学館の『前橋文学館報』(1995年ー)
- (14) 【25】(財)海音寺潮五郎記念館の『海音寺潮五郎記念館誌』(1980年ー)
- (15) 【26】(財)世田谷文学館の『世田谷文学館』(1995年ー)
- (16) 【27】立原道造記念館の『立原道造記念館』(1996年ー)
- (17) 【28】(財)田端文士村記念館の『田端文士村記念館だより』(1995年ー)
- (18) 【30】(財)日本近代文学館の『日本近代文学館ニュース』(1963年ー)や『日本近代文学館』(1971年ー)
- (19) 【31】俳句文学館の『俳人協会々報』(1962年ー, 後に『俳人協会會報』『俳人協會々報』『俳句文学館』に改題)
- (20) 【33】調布市武者小路実篤記念館の『館報 武者小路実篤記念館』(1987年ー)や『美愛眞』(2001年ー)
- (21) 【34】(財)吉川英治記念館の『草思道だより』(1992年ー)
- (22) 【40】池波正太郎真田太平記念館の『池波正太郎真田太平記念館』(1999年ー)
- (23) 【42】軽井沢高原文庫の『軽井沢高原文庫通信』(1986年ー)
- (24) 【47】泉鏡花記念館の『鏡花雪うさぎ』(2005年ー)
- (25) 【50】藤村記念館の『藤村記念館だより』(1973年ー)
- (26) 【57】大阪府立国際児童文学館の『大阪国際児童文学館ニュース』(1982年ー, 後に『大阪国際児童文学館 news』に, その後さらに『大阪国際児童文学館 REPORT』に改題)
- (27) 【58】司馬遼太郎記念館の『遼 司馬遼太郎記念館会誌』(2001年ー)
- (28) 【59】芦屋市谷崎潤一郎記念館の『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』(1991年ー)
- (29) 【62】森鷗外記念館の『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ』(1997年ー)
- (30) 【66】中原中也記念館の『中原中也記念館館報』(1996年ー)
- (31) 【69】壺井栄文学館の『壺井栄文学館だより』(1996年ー)
- (33) 【73】上林暁文学館の『大方あかつき館報』(1999年ー)
- (34) 【74】高知県立文学館の『高知県立文学館ニュース 藤並の森』(1998年ー)
- (35) 【79】長崎市立遠藤周作文学館の『遠藤周作文学館』(2002年ー)
- (36) 【80】熊本近代文学館の『熊本近代文学館報』(1985年ー)

¹²⁴ 「関係者向け館報」には, 以下の文学館の「館報」が該当すると考えられる。

- (1) 【18】田山花袋記念文学館の『田山花袋記念館 年報』(1991年ー)
- (2) 【23】さいたま文学館の『館報』(1998年ー)

¹²⁵ 「利用者向け館報」と「関係者向け館報」の両方を出している文学館は, 以下の一覧の通りである。いずれも「利用者向け館報」「関係者向け館報」の順に記載。

- (1) 【12】仙台文学館の『仙台文学館ニュース』(2002年ー)と『仙台文学館年報』(2000年ー)
- (2) 【14】(財)斎藤茂吉記念館の『茂吉記念館だより』(1998年ー)と『斎藤茂吉記念館の歴史』(1986年ー, 後に『斎藤茂吉記念館年報』に改題)
- (3) 【15】いわき市立草野心平記念文学館の『いわき市立草野心平記念文学館』(1998年ー)と『いわき市立草野心平記念館年報』(2000年ー)
- (4) 【36】神奈川県立神奈川近代文学館の『神奈川近代文学館』(1983年ー)と『神奈川近代文学館年報』(1986年ー)
- (5) 【39】山梨県立文学館の『山梨県立文学館館報』(1989年ー)と『山梨県立文学館』

- 年報』(1995年一, ただし初号のタイトルは『山梨県立文学館5年間の軌跡』)
- (6) 【60】 姫路文学館の『手帖姫路文学館』(1991年一)と『姫路文学館年報』(1993年一)
- (7) 【71】 松山市立子規記念博物館の『季刊 子規博だより』(1981年一)と『松山市立子規記念博物館年報』(1983年一)
- (8) 【78】 松本清張記念館の『松本清張記念館』(1999年一)と『年報』(1999年一, 後に『松本清張記念館年報』に改題)
- (9) 【81】 かがしま近代文学館の『かがしま近代文学館・メルヘン館 館報』(1998年一)と『かがしま近代文学館かがしまメルヘン館年報』(2001年一)
- 126 石井敦. 館報論:現在の公共図書館報の分析. 図書館雑誌. vol.49, no.11, 1955, p.2-6.
- 127 同上.
- 128 同上.
- 129 替地勝治. 特集:大学図書館の新しさを求めて, 学生との接点を求めて:装いを新たにした館報. 図書館雑誌. vol.78, no.4, 1984, p.207-208.
- 130 鹿野恵子. 図書館員のためのステップアップ専門講座:第49回, 子どもたちに読まれる館報をめざして:図書管理用や読書意欲に結びつく図書館だよりを. 図書館雑誌. vol.96, no.5, 2002, p.317-319.
- 131 多田喬四郎. 特集:情報をつくり, 地域をつくる, “地域をみつめ, つなぎ, つくる:公民館報ができるまで”. 月刊社会教育. no.355, 1986, p.39-44.
- 132 図書館情報学における「広報活動」とは, “図書館のPR活動の一つで, サービス対象者に対し, まず図書館の存在を知らせ, 図書館の概要, 規模, 蔵書, サービス内容などをアピールする活動”のことを指し示す用語であり, 一般にパンフレットや掲示などの文字情報や, ビデオ, スライド, 放送などの視聴覚メディアの利用など, 多様な方法が取られるが, そこには文字情報による「広報活動」の一つとして, 「館報」という方法も含まれるとされる。参照は, 以下の文献による。
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. “広報活動”. 図書館情報学用語辞典. 第2版. 東京, 丸善, 2002, vii, 273p. 参照は, p.65-66.
- 133 扇畑忠雄. “発刊のことば:詩歌の大地に刻み続けて”. 日本現代詩歌文学館・館報. 北上, 日本現代詩歌文学館, 日本現代詩歌文学館振興会, 1995, p.1.
- 134 保昌正夫. 特集=演劇書のある図書館, 小山内薫——二通の葉書:日本近代文学館. 悲劇喜劇. no.529, 1994, p.11-13.
- 135 前掲書 59.
- 136 前掲書 1.
- 137 浦西和彦は, 先に述べた『人物書誌体系』シリーズでも, 「徳永直」(第1巻), 「谷沢永一」(第13巻), 「葉山嘉樹」(第16巻), 「武田麟太郎」(第21巻)の作成に携わっており, 書誌学の先導者の一人となっている。
- 138 黒古一夫. 「書誌学」の可能性:近代文学研究の現場から(附・宮嶋資夫の『大法輪』執筆目録). 図書館情報大学研究報告, vol.18, no.1, 1999, p.79-88.
- 139 同上.
- 140 朝日新聞社編集部編. “著作・参考文献目録”. 三浦綾子作品集 第18巻. 東京, 朝日新聞社, 1984, p.321-348.
- 141 村田和子編. “年譜・著作目録”. 三浦綾子全集 第20巻. 東京, 主婦の友社, 1993, p.391-562.
- 142 東延江編. 三浦綾子随筆書誌. 自家版. 旭川, 2001, 115p.
- 143 岡野裕行. 三浦綾子書誌. 東京, 勉誠出版, 2003, vi, 321p. 監修は, 黒古一夫.
- 144 もちろん古くは瀧田貞治による『逍遙書誌』(1937年), 入江春行による『与謝野晶子書誌』(1957年)などがあるが, その数はそれほど多くはない。また, 日外アソシエーツ

や勉誠出版のようなシリーズものとは異なり、他に関連する図書の刊行はない。つまり当時の「個人書誌」は、ある意味で特殊な図書だったことが伺える。

¹⁴⁵ 東延江が文学館開館前の資料調査に関わっていたことは、例えば三浦綾子が「三浦綾子記念文学館」のための資料調べが始まったのが一九九六年六月で、早くも二年になろうとしている。この二年間に、私に関する記録や資料が正に虱つぶしに点検されてきた。いずれもボランティアの人たちの奉仕で、中でも松野郷延江（詩人＝筆名・東延江）さんは、終始全力を注いでこれに当たってこられた」と述べていることから窺い知ることができる。参照は、以下の文献による。

三浦綾子．「あとがき」．雨はあした晴れるだろう．東京，角川書店，1998，p.323-326，（角川文庫，み 5-20）．

¹⁴⁶ 例えば【30】（財）日本近代文学館が編集した『名著初版本複製 太宰治文学館』（1992年）が刊行された際、存在は多くの研究者が様々な資料から確認しながら、「実物」が見つからず（所持している研究者が公開を拒否し）、1冊だけ太宰自身が書いたとされる帯文を復刻することができなかった、という事例がある。

¹⁴⁷ 例えば筆者は、[D]において「大活字本」に分類されている『泉への招待』全4巻（1985年）の存在を、国立国会図書館のNDL-OPACによってその存在を知ったが、三浦綾子記念文学館における調査によって、同書に1993年発行の異版（全4巻）があることを初めて知った。この異版はNDL-OPACでは検索されず、現時点で現物の確認が取れているのは【07】三浦綾子記念文学館所蔵のものだけである。

¹⁴⁸ 大森一彦は自らの文献探索の方法を、「大森の方法」として以下の10箇条にまとめた。

- (1) まず先行文献目録から批判的に摂取すること。
- (2) 関連論文の引用文献を追跡してみる。
- (3) その人物の著作物からヒントを得ること。
- (4) その人物が扱ったものと同一テーマの文献に注意すること。
- (5) その人物の交遊圏から執筆者群を推定すること。
- (6) 隣接する個人書誌を通覧すること。
- (7) 関連雑誌を網羅的に調査すること。
- (8) 地方出版物に注意を払うこと。
- (9) その人物ゆかりの人に会い教示を得ること。
- (10) 文献調査をするばかりでなく自らも文献を生産する側にまわってみること。

参照は、以下の文献による。

大森一彦．個人書誌における文献探索：寺田寅彦を例として．書誌索引展望．vol.5, no.2, 1981, p.10-13.

¹⁴⁹ 大森一彦．昭和女子大学『近代文学研究叢書』40「[寺田寅彦]資料年表」の分析と批判．国文学．no.51, 1975, p.64-72.

¹⁵⁰ 三浦綾子の「書下ろし」には、『岩に立つ』（1979年）や『母』（1991年）などがある。

¹⁵¹ つまり同じデータを重複して収録していることになるが、これは「著書目録」というものは「図書」の形で刊行された全ての書誌データ（著書）を、また、「初出目録」は発表の媒体（図書、雑誌、新聞）を問わず、各作品が最初に世に出された年月日（初出）を、時系列という規則に従って羅列すべきという筆者の書誌作成の方針によるものであり、それぞれの役割を明確に意識した結果である。

¹⁵² 多少の不公平感があるかもしれないが、それぞれの書誌の記述方針や、実際に記述されているその内容に厳密に従うことが、本来、最も公平な取り扱いであると考えられるからである。

¹⁵³ 前掲書 74.

¹⁵⁴ ただし、[D]ではこの項目を、さらに「単行本」と「写真集」「共著／対談／インタビュー」に細分している。

- ¹⁵⁵ [D]においては、「寄稿エッセイ」と呼んでいる。
- ¹⁵⁶ [A]の凡例には、“著作目録の作成にあたっては、著者の記録をもとに、編集部がこれをまとめ、関西学院大学の水谷昭夫氏のご教示を、海外翻訳目録については、青山四郎氏のご協力をえました”との記述がある。
- ¹⁵⁷ [C]に収録された書誌データのうち、106件が[B]にも掲載されていることから、[C]の新たな発見は $301-106=195$ 件となることが言える。よって[C]における[ア]は $106/301 \times 100 \div 35\%$ 、[ウ]は $195/301 \times 100 \div 65\%$ となる。同様に[D]における新発見は $583-422=161$ 件であるから、[D]の[ア]は72%、[ウ]は28%となる。
- ¹⁵⁸ [C]の凡例には、「随筆・写真・小説集の中に三浦綾子作品が収録されているもの」との説明がある。
- ¹⁵⁹ このような収集する資料の範囲を拡大する（資料の存在に気付き、「著書目録」に収録していく）作業は、[D]においても行われている。三浦綾子に関する「大活字本」「点字本」「音声出版物」「映像出版物」などは、[D]が最初に言及した書誌であり、それ以前の書誌には見られなかったものである。
- ¹⁶⁰ 谷沢永一．“書誌学の課題”．書誌学的思考：日本近代文学研叢．東京，和泉書院，1996，p.701-725.
- ¹⁶¹ 全国文学館協議会が発行する『全国文学館協議会会報 第20号』（2002年）所収の「文学館の総務に関する共同討議（第2回）」でもこの問題が取り上げられている。
- ¹⁶² 例えば三浦綾子記念文学館館報「みほんりん」には、毎号様々な関係者から寄贈された図書、雑誌記事、新聞記事の一覧が示されている。文学館ができる以前であれば、図書館などに分散されて保存されていた資料が、文学館ができたことによって、文学館がその資料の収集・保存に務めることができるようになり、研究者にその資料の存在を館報上で示すことができるようになったということである。
- ¹⁶³ 前掲書 142.
- ¹⁶⁴ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“複製”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p. 参照は，p.203.
- ¹⁶⁵ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編．“復刻”．図書館情報学用語辞典．第2版．東京，丸善，2002，vii,273p. 参照は，p.205.
- ¹⁶⁶ 朝倉治彦．昨今の複製本．日本古書通信．vol.35，no.6，1970，p.7.
- ¹⁶⁷ 井上周一郎，小柳精以知，小野塚健，八木福次郎．複製・復刻本の十年間：単行本から大揃物へ．日本古書通信．vol.33，no.7，1968，p.12-15.
- ¹⁶⁸ 小柳精以知，久源太郎．複製・復刻本のその後：変貌しながら続く．日本古書通信．vol.46，no.3，1981，p.19-21.
- ¹⁶⁹ 複製出版の歴史：複製本書目について．日本古書通信．vol.35，no.6，1970，p.7-8.
- ¹⁷⁰ 久保田正文．復刻・復版．日本古書通信．vol.27，no.10，1962，p.2-3.
- ¹⁷¹ 前掲書 169.
- ¹⁷² 前掲書 166.
- ¹⁷³ 高田克太郎，中嶋正夫，吉澤輝夫．“3.3 資料篇”．図書館資料論．図書館科学会，高田克太郎編．東京，教育出版センター，1976，p.52-68，（講座 新図書館学，2）.
- ¹⁷⁴ 前掲書 98.
- ¹⁷⁵ 紅野敏郎．復刻の周辺．言語生活．no.334，1979，p.18-23.
- ¹⁷⁶ 井上周一郎，小柳精以知，小野塚健，八木福次郎．複製・復刻本の10年間：単行本から大揃物へ．日本古書通信．vol.33，no.7，1968，p.12-15.
- ¹⁷⁷ 前掲書 168.
- ¹⁷⁸ 前掲書 168.
- ¹⁷⁹ 前掲書 170.
- ¹⁸⁰ 実際に文学館設立に奔走していたのは小田切進だが、その辺りの経緯は高見順が、“日

本近代文学館設立の仕事がことのほか急速に進捗して、ことに従っている私自身、驚いている。ことの始まりは、立教大学の小田切進氏が中心となって、昭和初期の文芸雑誌（同人雑誌をもふくむ）の展示会をやったことにある。研究のための文献である。私の家にも氏が借りにこられた。そのときこんな話が出た。今のうちにこういう雑誌や本を集めて保存しておかないと、みんななくなってしまう。有名な作家の本や有名な雑誌は保存されているが、名もない同人雑誌のようなもので今となると実は大切な文献だというのは、ほとんど失われて行く。愛書家によって保存さえしているものもあるが、どうしてもこれは公的な文学館（図書館）が必要だ”と書いている。参照は以下の文献による。

高見順．“貴重な屑雑誌”．高見順全集 第17巻．東京，勁草書房，1972，p.423-424.

181 また、前掲書 180 にある文芸雑誌の展示会については、主催者の小田切進自身の回想である以下の文献が詳しく述べている。

小田切進．文芸雑誌展のこと：付・主要現代文芸誌一一九誌一覧．日本古書通信．vol.26，no.1，1962，p.4-8.

182 ただし日本近代文学館では、「復刻」のことを「複製」と表記しているが、この違いを述べておきたい。現在のところ、「ふっこく」という用語には、「復刻」「複製」「覆刻」の3種類の表記が確認できる。長澤規矩也の『図書学辞典』（1979年）によれば、元々は「覆刻」という表記が正式なものであり、しかし当用漢字に「覆」の字が無いため、やむなく「複」の字を当てていると記されている。つまり元々は、「覆刻」あるいは「複製」という表記が正しい表記となるわけである。しかし、朝倉春彦が“「覆」はかぶせるという意味”を持ち、元々は“かぶせぼり”という複製手法を言い表す行為であることに触れており、また、長澤規矩也も“薄い紙を使って、濃い墨でしき写しにしたものを版下に使う”と述べているように、もともとは近世の頃の複製の手法として、版下を作り直す行為を言い表すものである。その上で朝倉春彦は、“出版広告を見ますと、覆を複のように使用している例を、時々見受けませんが、活字印刷になってから、覆刻は、存在するわけがありません”と述べているように、活版印刷された原本を元にした「ふっこく」は、「覆刻」ではなく、「複製」か「復刻」ということになる。しかし、先に長澤規矩也が「覆」が使用できないため、「複」を用いると述べていたように、「覆刻」と「複製」は同様の意味を与えられている用語である。とすると、近代以降の活版印刷を対象とする意味での「ふっこく」は、「覆刻」でも「複製」でもない位置づけになり、それ故に「復刻」という用語が考え出されたのだろう。『角川新字源（蔵書版）』（1976年）や『学研漢和大辞典（机上版）』（1980年）などの漢和辞典を参考にすると、「復」は「くりかえす」「ふたたび」などの字義を持ち、一方の「複」は「かさねる」「二重にする」などの意味を持っているようである。おそらく「復」の字は「復活」「復員」などの使われ方をすることから、「復刻」とは同じものを再び発行するという「行為」を重視し、「複」の字は「複製」「複写」などの使われ方から、「複製」とは似せるように作られた「物」そのものを指し示す意図で使用されてきたのだろう。現在ではどちらの使い方も間違いではなく、両者とも普通に用いられているが、近年では「復」の字を用いることが多いようであり、本研究でも用語として「復刻」を使用することとし、「複製」は引用文中に出現する場合のみ用いた。この用語の問題は、進士慶幹も日本近代文学館が敢えて「複製」という用語を用いている点に注目しており、その理由を“ここでは「複製」という表現を用いているのも、なるべく似せた形でという心のつもりなのであろうか”と分析している。参照は以下の文献による。

(1) 長澤規矩也．“ふくせいぼん 複製本”．図書学辞典．東京，三省堂，1979，p.55.

(2) 長澤規矩也．“ふっこくぼん 覆刻本”．図書学辞典．東京，三省堂，1979，p.55-56.

(3) 朝倉治彦．特集：図書館サービスと著作権，複製出版などと図書館とのかかわりあ—雑感—．現代の図書館．vol.13，no.1，1975，p.26-30.

(4) 進士慶幹．復刻版繁昌記．日本古書通信．vol.39，no.2，1974，p.2-3.

183 リー・ダイ社が館複製版を無断使用．日本近代文学館．no.48，1979，p.1.

184 『名著複製全集近代文学館』シリーズ製作時のより詳細な解説には、以下の文献がある。

名著複製全集編集部. 文学書複製の苦心: 名著複製全集をかえりみて. 日本古書通信. vol.35, no.6, 1970, p.6-7.

185 また、日本近代文学館の複製事業を総括的に振り返ったものには、以下の文献がある。渡辺展亨.“近代文学作品の複製作業から”. 図書館雑誌. vol.93, no.7, 1999, p.549-551.

186 これに対して、例えば(6)の『特選名著複製全集』などは、“本来、最初の複製全集に収録を予定されていたながら、原本の入手や製作原価などの都合で実現できなかったもので、この「特選版」の刊行によって一連の複製全集は一応完成するわけである”と述べられているように、(1)–(4)の『名著複製全集近代文学館』の成功を踏まえたうえでの補遺的な意味合いが強いようである。参照は以下の文献による。

「資料叢書」などを刊行：今年度の事業計画決まる. 日本近代文学館. no.1, 1971, p.1.

187 名著複製十五万セット、六百万部に. 日本近代文学館. no.45, 1978, p.1.

188 前掲書 173.

189 前掲書 98.

190 前掲書 98.

191 小田切進.“文芸時代”. 日本近代文学大事典 第5巻. 日本近代文学館, 小田切進編. 東京, 講談社, 1977, p.379-380.

192 成田孝昭.“四季”. 日本近代文学大事典 第5巻. 日本近代文学館, 小田切進編. 東京, 講談社, 1977, p.135-136.

193 小田切進.“文芸戦線”. 日本近代文学大事典 第5巻. 日本近代文学館, 小田切進編. 東京, 講談社, 1977, p.383-385.

194 前掲書 168.

195 前掲書 104.

196 刊行長期計画きまる：新聞・雑誌・単行本を複製. 日本近代文学館. no.12, 1973, p.1.

197 前掲書 104.

198 例えば不二出版は、『近代思想』(1982年)や『都の花』(1985年), 『文学時標』(1986年), 『趣味』(1986年), 『家庭雑誌』(1986年–1987年), 『人民文庫』(1996年), 『青年文』(2003年)などを複製し、また、臨川書店は、『新思潮』(1967年), 『三田文学』(1970年), 『白樺』(1972年), 『志がらみ草紙』(1995年), 『やまと錦』(1998年)など、数多くの雑誌を複製している。

199 『日本古書通信』には、図書や雑誌の複製についての目録が、連載の形を取りながら何度か掲載されている。これらを参考にすれば、日本近代文学研究所や日本近代文学館、臨川書店、不二出版以外にも、冬至書房、世界文庫、明治文献、日本図書センター、ゆまに書房など、多くの出版者が複製事業に参入していることが見てとれる。目録の掲載されている『日本古書通信』は、以下の通り、これまでに全32文献を確認することができる。

(1) 最近複製・複製本一覧. 日本古書通信. vol.30, no.11, 1965, p.12-13.

(2) 複製・複製本一覧2. 日本古書通信. vol.31, no.7, 1966, p.16.

(3) 複製・複製本書目(1). 日本古書通信. vol.33, no.7, 1968, p.15-17.

(4) 複製・複製本書目(続). 日本古書通信. vol.33, no.8, 1968, p.12-13.

(5) 複製・複製本書目(上). 日本古書通信. vol.35, no.6, 1970, p.9-12.

(6) 複製・複製本書目(下). 日本古書通信. vol.35, no.7, 1970, p.8-12.

(7) 複製・複製本書目(1). 日本古書通信. vol.37, no.8, 1972, p.8-10.

(8) 複製・複製本書目(2). 日本古書通信. vol.37, no.9, 1972, p.10-13.

(9) 複製・複製本書目(3). 日本古書通信. vol.37, no.10, 1972, p.8-11.

-
- (10) 複製・複製本書目(4). 日本古書通信. vol.37, no.11, 1972, p.10-13.
 - (11) 複製・複製本書目 補遺. 日本古書通信. vol.37, no.12, 1972, p.11-13.
 - (12) 複製・複製本書目 続1. 日本古書通信. vol.42, no.5, 1977, p.10-13.
 - (13) 複製・複製本書目 続2. 日本古書通信. vol.42, no.6, 1977, p.12-14.
 - (14) 複製・複製本書目 続3. 日本古書通信. vol.42, no.7, 1977, p.14-16.
 - (15) 複製・複製本書目 続4. 日本古書通信. vol.42, no.8, 1977, p.14-16.
 - (16) 複製・複製本書目 続5. 日本古書通信. vol.42, no.9, 1977, p.14-15.
 - (17) 複製・複製本書目 続6. 日本古書通信. vol.42, no.10, 1977, p.14-15.
 - (18) 複製・複製本書目 続7. 日本古書通信. vol.42, no.12, 1977, p.8-9.
 - (19) 複製・複製雑誌類目録(1). 日本古書通信. vol.44, no.2, 1979, p.14-15.
 - (20) 複製・複製雑誌類目録(2). 日本古書通信. vol.44, no.3, 1979, p.14-15.
 - (21) 複製・複製本書目(1). 日本古書通信. vol.45, no.10, 1980, p.12-15.
 - (22) 複製・複製本書目(2). 日本古書通信. vol.45, no.11, 1980, p.10-15.
 - (23) 複製・複製本書目(3). 日本古書通信. vol.45, no.12, 1980, p.6-10.
 - (24) 複製・複製本書目(4). 日本古書通信. vol.46, no.3, 1981, p.10-12.
 - (25) 複製・複製本書目(5). 日本古書通信. vol.46, no.8, 1981, p.18-20.
 - (26) 複製・複製本書目(6). 日本古書通信. vol.47, no.2, 1982, p.20-22.
 - (27) 複製・複製本書目(7). 日本古書通信. vol.47, no.8, 1982, p.16-18.
 - (28) 複製複製本書目(8). 日本古書通信. vol.49, no.2, 1984, p.16-19.
 - (29) 複製文学雑誌一覧. 日本古書通信. vol.51, no.1, 1986, p.24-26.
 - (30) 複製文学雑誌一覧(上). 日本古書通信. vol.69, no.1, 2004, p.22-23.
 - (31) 複製文学雑誌一覧(中). 日本古書通信. vol.69, no.2, 2004, p.28-31.
 - (32) 複製文学雑誌一覧(下). 日本古書通信. vol.69, no.3, 2004, p.24-25.

尚、以上の一覧を参考にすれば、こうした復刻に関する目録が作成され、頻繁に『日本古書通信』に掲載されていた時期は1965年から1986年の間と考えられるが、これらと日本近代文学館が積極的に復刻事業を行っていた時期とが見事にほぼ一致していることは、復刻の需要が高まっていた当時の情勢を如実に反映していると考えられるだろう。

²⁰⁰ 小柳精以知, 杉浦台紀, 八木福次郎. その後の複製・複製本. 日本古書通信. vol.42, no.5, 1977, p.6-9.

²⁰¹ 美作太郎. 復刻出版と著作権. 日本古書通信. vol.44, no.1, 1979, p.3-4.

²⁰² 前掲書 168.

²⁰³ 「名著複製詩歌文学館」の刊行迫る. 日本近代文学館. no.53, 1980, p.1.

²⁰⁴ 紅野敏郎. 雑誌創刊号復刻に関連して. 日本古書通信. vol.47, no.9, 1982, p.2-3.

²⁰⁵ 前掲書 203.

²⁰⁶ 前掲書 98.

²⁰⁷ 前掲書 98.

²⁰⁸ 「ホトトギス」配本始まる: 明治期百七十四冊の複製版. 日本近代文学館. no.10, 1972, p.1.

²⁰⁹ 吉田精一, 伊藤整. 吉田精一連載対談 2, 日本近代文学館のことなど. 国文学解釈と教材の研究. vol.13, no.12, 1968, p.132-139.

²¹⁰ 同上.

²¹¹ 林一夫. 世にも不思議な株式怪社ほるぷ. 東京, 文芸社, 2001, 158p.

²¹² 前掲書 78.

²¹³ このような他の出版者との共同の発行物としては、他にも以下のような関係が見られる。

(1) 【06】(財) 北海道文学館と北海道新聞社, 『北海道文学大事典』(1985年)

(2) 【19】群馬県立土屋文明記念文学館と川島書店, 『群馬文学全集』(1999年-2003

-
- 年)
- (3) 【19】群馬県立土屋文明記念文学館と塙書房、『〈土屋文明記念館リブレ〉 塙新書』(1996年ー)
 - (4) 【57】大阪府立国際児童文学館と大日本図書、『日本児童文学大事典』(1993年, 全3巻)
 - (5) 【57】大阪府立国際児童文学館と国土社、『新・文学の本だな』(1985年ー1986年)
 - (6) 【57】大阪府立国際児童文学館と岩崎書店、『雑誌「童話」復刻版』(1982年)
 - (7) 【57】大阪府立国際児童文学館と久山社、『『児童芸術研究』復刻本』(1986年)
 - (8) 【57】大阪府立国際児童文学館と大阪書籍、『『豆の木』復刻本』(1998年)
 - (9) 【68】菊池寛記念館と文藝春秋、『菊池寛全集』(1993年ー1995年)
- ²¹⁴ 谷沢永一. “文献目録の反省期”. 書誌学的思考: 日本近代文学研叢. 東京, 和泉書院, 1996, p.661-665.
- ²¹⁵ 鎌田永吉. 戊辰内乱期の農民諸隊論: 日本近代文学館所蔵小杉家文書の紹介を兼ねて. 秋大史学. no.23, 1976, p.68-77.
- ²¹⁶ 土居文人. 姫路文学館金井寅之助文庫蔵『播磨国書写敵討』解題と翻刻. 播磨学紀要. no.7, 2001, p.17-38.
- ²¹⁷ 西村将洋. 神奈川近代文学館蔵 俳句雑誌『風流陣』総目次: 「HAIKAI DU JAPON」の軌跡. 同志社国文学. no.59, 2003, p.21-87.

論文リスト

著書

- 岡野裕行. 三浦綾子：人と文学. 東京, 勉誠出版, 2005, 246p.
- 岡野裕行, 黒古一夫監修. 三浦綾子書誌. 東京, 勉誠出版, 2003, vi,321p.

雑誌論文

- 岡野裕行. 文学館の「出版者の機能」に関する考察—日本近代文学館の復刻を中心に—. 情報メディア研究. vol.5, no.1, 2007, 掲載予定.
- 岡野裕行. 個人書誌作成における文学館の役割—三浦綾子記念文学館を事例として—. 図書館情報メディア研究. vol.3, no.1, 2005, p.77-87.

日本近代文学研究における文学館の役割
—「全国文学館協議会」加盟文学館の発行物を中心に—

資料編

岡野 裕行

図書館情報メディア研究科

筑波大学

2006年6月

付属資料 1 : 「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録

目次

凡例	12
【02】有島記念館	16
図録.....	16
【03】旭川市井上靖記念館	16
図録.....	17
館報.....	17
【04】市立小樽文学館	17
図録.....	17
目録.....	21
研究誌	21
記録集	22
作品.....	22
館報.....	22
記念誌（周年）	26
【05】函館市文学館	26
【06】（財）北海道文学館	26
図録（常設展）	26
図録（企画展）	26
目録.....	35
紀要.....	35
研究誌（シリーズ）	36
研究誌	37
研究書	42
事典.....	43
館報.....	43
【07】三浦綾子記念文学館	63
図録.....	63
研究誌	63
作品.....	64
館報.....	64
【08】青森県近代文学館	69

図録.....	69
翻刻.....	75
館報.....	75
【09】弘前市立郷土文学館	79
館報.....	79
【10】(財)石川啄木記念館	80
図録.....	81
研究誌	81
研究書	81
復刻.....	82
館報.....	82
記念誌 (周年)	85
【11】日本現代詩歌文学館	85
図録 (常設展)	85
図録 (企画展)	85
紀要.....	87
研究誌	88
記録集	89
復刻.....	90
館報.....	90
館報 (合本)	99
記念誌 (周年)	99
【12】仙台文学館	100
図録 (常設展)	101
図録 (企画展)	101
目録.....	106
記録集	106
館報.....	108
【13】原阿佐緒記念館	111
館報.....	111
【14】(財)斎藤茂吉記念館	114
図録.....	114
目録.....	114
研究誌	114
研究書	114

作品.....	115
創作集.....	119
館報.....	122
記念誌（開館）.....	129
記念誌（周年）.....	130
【15】 いわき市立草野心平記念文学館.....	130
図録（常設展）.....	130
図録（企画展）.....	131
館報.....	135
【16】 郡山市こおりやま文学の森資料館.....	139
図録（常設展）.....	139
図録（企画展）.....	139
受賞作品集.....	141
館報.....	141
【17】 古河文学館.....	142
図録.....	142
【18】 田山花袋記念文学館.....	144
図録.....	145
目録.....	148
紀要.....	149
研究誌.....	152
作品.....	153
翻刻.....	153
館報.....	157
【19】 群馬県立土屋文明記念文学館.....	158
図録（常設展）.....	158
図録（企画展）.....	158
目録.....	170
紀要.....	174
研究誌（シリーズ）.....	175
研究誌.....	177
研究書.....	178
全集.....	178
受賞作品集.....	186
館報.....	186

【20】 徳富蘆花記念文学館	187
図録.....	188
館報.....	188
【21】 水と緑と詩のまち前橋文学館	190
図録（常設展）	190
図録（企画展）	190
研究誌	196
館報.....	198
【23】 さいたま文学館	203
図録.....	203
目録.....	207
研究誌	207
文芸雑誌	208
館報.....	209
記念誌（開館）	211
【24】 文京区立鷗外記念本郷図書館	211
図録.....	211
目録.....	212
【25】（財）海音寺潮五郎記念館	215
研究誌	215
館報.....	216
【26】（財）世田谷文学館	219
図録（常設展）	219
図録（企画展）	220
目録.....	229
文芸雑誌	230
館報.....	231
【27】 立原道造記念館	238
図録.....	238
復刻.....	240
館報.....	240
【28】（財）田端文士村記念館	247
図録.....	247
研究誌	247
館報.....	249

【30】 (財) 日本近代文学館	250
図録 (企画展)	250
図録 (展覧会会期後発行)	257
目録.....	259
記録集	262
事典.....	264
作品.....	267
復刻 (図書)	269
復刻 (雑誌)	312
複製 (マイクロ)	362
複製 (色紙)	364
複製 (原稿)	364
翻刻.....	365
館報.....	381
記念誌 (開館)	422
【31】 俳句文学館	423
目録.....	423
紀要.....	424
研究誌 (シリーズ)	427
研究誌	429
記録集	430
事典.....	431
作品 (シリーズ)	432
作品.....	462
全集.....	464
館報.....	465
記念誌 (周年)	477
【32】 調布市武者小路実篤記念館.....	483
図録 (常設展)	483
図録 (企画展)	483
目録.....	489
研究誌	489
記録集	490
創作集	490
館報.....	491

記念誌（開館）	493
【33】（財）吉川英治記念館	494
図録.....	494
目録.....	495
作品.....	495
復刻.....	495
館報.....	496
記念誌（開館）	503
【34】大佛次郎記念館	503
図録.....	503
目録（シリーズ）	503
目録.....	504
研究誌	504
記録集	505
作品.....	505
【35】神奈川県立神奈川近代文学館	505
図録.....	506
目録.....	517
研究誌	521
館報.....	521
記念誌（開館）	541
記念誌（周年）	542
【36】鎌倉文学館	542
図録.....	542
研究誌	546
記念誌（周年）	549
【37】山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由起夫文学館	549
図録.....	549
作品.....	549
【38】山梨県立文学館	550
図録.....	550
目録.....	563
紀要.....	564
研究誌	568
記録集	569

作品.....	571
複製.....	572
館報.....	572
【39】池波正太郎真田太平記館	585
図録.....	585
館報.....	585
【40】臼井吉見文学館	588
【41】軽井沢高原文庫	589
図録.....	589
紀要.....	589
館報.....	594
【42】小諸市立藤村記念館	596
研究書.....	596
【43】堀辰雄文学記念館.....	597
図録.....	597
記録集	598
作品.....	599
【44】(財)会津八一記念館	599
図録.....	599
【45】(財)石川近代文学館	600
図録.....	600
目録.....	601
紀要.....	601
研究誌	604
作品.....	604
全集.....	604
記念誌 (周年)	610
【46】泉鏡花記念館	611
館報.....	611
【47】徳田秋聲記念館	611
図録.....	611
【48】室生犀星記念館	612
図録.....	612
【49】藤村記念館	612
図録.....	612

目録.....	613
研究書.....	613
記録集.....	614
復刻.....	614
翻刻.....	614
館報.....	614
記念誌（周年）.....	633
【51】 （財）芹沢・井上文学館.....	635
【52】 浜松文芸館.....	635
図録.....	635
【53】 新美南吉記念館.....	635
図録.....	635
紀要.....	635
受賞作品集.....	637
【54】 加悦町江山文庫.....	638
図録.....	638
研究誌.....	639
復刻.....	639
受賞作品集.....	639
【55】 茨木市立川端康成文学館.....	640
図録.....	640
【56】 大阪府立国際児童文学館.....	642
目録.....	642
紀要.....	643
研究誌.....	651
記録集.....	652
事典.....	652
作品.....	653
復刻.....	655
館報.....	659
記念誌.....	662
【57】 司馬遼太郎記念館.....	663
図録.....	663
研究誌.....	663
作品.....	663

館報.....	663
【58】 芦屋市谷崎潤一郎記念館	668
図録.....	668
目録.....	668
記録集	669
翻刻.....	670
館報.....	670
【59】 姫路文学館	676
図録（常設展）	676
図録（企画展）	677
目録.....	685
紀要.....	686
研究誌	687
研究書	689
記録集	690
作品.....	690
復刻.....	691
翻刻.....	691
館報.....	691
【60】 佐藤春夫記念館	702
図録.....	702
翻刻.....	703
館報.....	703
記念誌	705
【61】 森鷗外記念館	705
図録.....	705
目録.....	711
館報.....	711
【62】（財）吉備路文学館	712
【63】 勝央美術文学館	712
図録.....	712
【64】 ふくやま文学館	712
図録.....	713
研究誌	715
作品.....	715

翻刻.....	716
【65】 中原中也記念館	716
図録.....	716
紀要.....	716
館報.....	721
【66】 徳島県立文学書道館	723
図録.....	723
紀要.....	724
文芸雑誌	725
【67】 菊池寛記念館	726
図録.....	726
研究書	726
全集.....	727
文芸雑誌	730
【68】 壺井栄文学館	730
研究書	730
館報.....	731
【70】 松山市立子規記念博物館	731
図録（常設展）	731
図録（企画展）	732
目録.....	740
館報.....	740
【71】 本山町立大原富枝文学館	763
【72】 上林暁文学館	763
図録.....	763
館報.....	764
【73】 高知県立文学館	765
図録（常設展）	765
図録（企画展）	766
記録集	770
館報.....	772
記念誌	777
【74】 香北町立吉井勇記念館	778
【75】 火野葦平資料館	778
【76】 福岡市文学館	778

図録.....	778
記録集.....	779
創作集.....	779
【77】松本清張記念館.....	780
図録.....	780
紀要.....	782
館報.....	785
【78】長崎市立遠藤周作文学館.....	788
図録.....	788
翻刻.....	789
館報.....	789
【79】熊本近代文学館.....	790
図録（常設展）.....	790
図録（企画展）.....	790
目録.....	791
館報.....	791
記念誌.....	802
【80】かごしま近代文学館.....	802
図録.....	803
館報.....	804
【81】川内まごころ文学館.....	806
図録.....	806

凡例

1. この目録は、2005年6月16日現在、「全国文学館協議会」に加盟している文学館を対象に、その発行物をまとめたものである。
2. 収録対象は、「編集者」「監修者」あるいは「発行者」のいずれかに館名が記載されている発行物を対象とした。
3. 収録した発行物は、以下の17種類である。合わせてその定義を示す。
 - ① 図録 文学館において催される展覧会（常設展や企画展のこと）の際に作製される、図版や文章が入り交じった展示資料の解説書のこと。図録はさらに、「常設展」「企画展」「展覧会会期後発行」の3種類に分けられる。
 - ② 目録 文学館の所蔵資料一点一点の特徴を分析して、その特徴を一定の記述規則に基づき書誌データ（図書ならば、著者名、タイトル、出版者、出版年、ページ数など）に表現し、これらのデータを探索しやすいように排列したリストのこと。
 - ③ 紀要 文学館に提出された論文や研究発表を掲載する機関誌のことで、学術報告や研究報告を目的とした逐次刊行物のこと。
 - ④ 研究誌 文学館に提出された研究発表を掲載したものだが、紀要のように逐次的ではなく、かつ団体編集のもの。
 - ⑤ 研究書 文学館に提出された研究発表を掲載したものだが、紀要のように逐次的ではなく、かつ個人の著作であるもの。
 - ⑥ 記録集 講演会やシンポジウムなどの内容を活字化したもの。
 - ⑦ 事典 ある編集方針にしたがって物や人物、ことがらを表す言葉を収集、抽出し、それらを見出しとして音順あるいは主題によって排列し、それぞれについて簡潔に解説したレファレンスブックのこと。
 - ⑧ 作品 文学館がその対象とする作家の作品を、オリジナルの形態で発行したもの（他に類を見ないもの）のこと。
 - ⑨ 復刻 過去に他の出版者から発行された活版印刷された作品を、改めて同じ装幀をほどこして原本のまま再現したもの。
 - ⑩ 複製 資料を原形のままに模して再製したもの。復刻と異なり、活版印刷された作品以外の資料を原本としている。
 - ⑪ 翻刻 作家の日記や書簡など、手書きの状態の資料を活字化し、再編集してまとめたもの。
 - ⑫ 全集 一人の著者か複数の著者かを問わず、多くの著作から代表的なものを選び収録した図書のこと。

- ⑬文芸雑誌…… 志を同じくする同好の人々が自らの作品の発表の場や情報交換の場とするために執筆，編集，刊行する逐次刊行物で，文学館が対象とする作家の作品ではなく，利用者の作品をまとめたもの。
- ⑭創作集 …… 利用者の作品を集め，編纂したもの。文芸雑誌との違いは，逐次的か否かということである。
- ⑮受賞作品集 …… 文学館が何らかの賞を企画し，一般の人から送られたその応募作品の中から入選作品を選んで編纂したもの。創作集との違いは，何らかの文学賞に合わせて発行されたものか否かということである。
- ⑯館報 …… 文学館の PR 活動のメディアの一つとなる定期刊行物であり，利用者 と文学館の結びつきを強めるためのコミュニケーションの場となることを目的に作製されるもの。各文学館でその趣旨は異なるが，おおむね文学館の行事，お知らせ，利用者の声，資料紹介などの記事内容を含んでいる。
- ⑰記念誌 …… 文学館それ自身の活動や機能，設立目的などについて記述したもの。文学館開館時に，それを記念して発行される「開館記念誌」と，一定期間の活動（十周年，二十周年など）を記念した「周年記念誌」に分けられる。
4. 記述内容は，「書名」「出版年」「編集者（あるいは監修者，著者）」「発行者」「目次」とした。記載の順番は，以下の通りとした。
- 通し番号.『書名』 発行年月日 編集者 発行者
- 収録：目次
- ただし，「館報」や「紀要」などの逐次刊行物は，共通タイトルが一目で分かるように一段下げ，巻号も加えて以下の通りに記述した。
- 通し番号.『書名』
- 通し番号.『書名』 号数 発行年月日
- 収録：目次
5. 一部「目次」のない資料もあるが，それについては「発行者」のあとに，「目次無し」と記入し，「収録」以下を原則として割愛した。ただし，「目次無し」の資料であっても，筆者が現物を確認した資料については「目次無し」と記載した上で，筆者の責任の上でその「目次」を作成した。一部文学館職員の方が作成した「目次」一覧を参考にしたものもあるが，その際は「※原本未見」と記した。
6. 発行物はその種類ごとに発行年代順に並べ，「通し番号」はその時系列順に番号を付与した。特に同一タイトルを持つ発行物（「館報」や「紀要」のような逐次刊行物）については，シリーズ名のみを記述し，一段下げてその詳細を排列した。
7. 「書名」は，原則として奥付から取った。ただし奥付に記載がないものについては，

一部表題紙から採用した。

8. 「発行年月日」は奥付から取った。ただし、「図録」などに一部奥付に記載がないものがあるが、それらに関しては展示期間の最初の年月日を発行日とした。
9. 「発行年月日」は、月まで判明している資料は月まで、月日まで判明している資料は月日までを記載した。
10. 「編集者（あるいは監修者、著者）」「発行者」は、奥付から転載した。複数の機関（人物）が関わっている場合は、それらを全て記載し、“/”（スラッシュ）で間を区切った。
11. 「収録：」以下には「目次」を記述した。論題名同士は“/”（スラッシュ）で間を区切り、全ての論題を続けて記述した。
12. 「目次」の階層関係は、高い階層から順に“〈 〉”（山括弧），“[]”（大括弧）“{ }”（中括弧）の記号で示した。例えば以下の記述例があるとする。
収録：一章〇〇 〈一節□□ [①△△／②××] ／二節◇◇〉 ／二章●●
これは原本では、以下のような階層関係となっていることを示す。
一章〇〇
一節□□
①△△
②××
二節◇◇
二章●●
13. 「目次」の中の著者名は、各論題の記述の最後に“()”内に記入することで統一した。
14. 階層関係の指示に“〈 〉”“[]”“{ }”の記号を使用しているため、原本の「目次」の中にそれらが出てきた際には、本稿では区別のために、“〈 〉”は“《 》”（二重山括弧），“[]”は“〔 〕”（亀甲括弧）と置き換えることで統一した。ただし“{ }”は論題中に未出のため、他の記号に置き換える措置はしていない。
15. 区切り記号として“/”（スラッシュ）を用いているため、原本の「目次」の中に“/”（スラッシュ）が用いられている場合は、区別のためにそれを“・”（中黒）で置き換えた。
16. 以上の置き換えを除き、原則として原本の「目次」に記載されている通りの記述を行った。
17. 旧字体は原則として原本の記述ままにしたが、一部旧字体の変換ができなかった文字については、新字体に改めた。その際、新字体に改めた箇所については“_”（下線）を引き、置き換えたことが区別つくように配慮した。
18. 新字体が無い旧字体のうち、変換できなかった文字については、全て“＝”（井桁）で置き換えた。

19. 「復刻」については、原本の書誌情報と復刻版の諸氏情報とを併記し、何年何月にどの出版社から出された資料を復刻したのかを把握できるように配慮した。
20. 「復刻」「複製」「文芸雑誌」「創作集」「受賞作品集」については、「目次」の掲載を割愛した。
21. 発行物の内容などに何らかの特筆すべき注意点があった場合、“※”印に続けてその説明を付した。
22. 文学館の並びの順番は、「全国文学館協議会」加盟館会員名簿を参考とした。

【02】有島記念館

図録

1. 『いま見直す有島武郎の軌跡』 1998年7月18日 著者：高山亮二 構成・編集：飯田勝幸／有島記念館 発行：ニセコ町／有島記念館

収録：図録刊行にあたって／はじめに／I アメリカ留学とヨーロッパへの旅 キリスト教への失望と「相互扶助」精神の発見〈新教徒の国〔新大陸〕アメリカ A チャペル・キャンパス・祈り [1 アメリカ上陸 異文化への驚き／2 ハヴァフォード大学での日々 孤独な異邦人への変身／3 日露戦争の重圧 トルストイの平和思想への共感／4 クローウェル農場 留学記の安息所／5 日本の再認識と信仰 修士論文「日本文明の発展」／6 信仰の動揺と省察 フレンド精神病院での体験〕／新教徒の国〔新大陸〕アメリカ B 異質・混・自由・模索 [7 ハーバード大学 キリスト教信仰の崩壊と新しい思想の模索／8 有島の思想を新しく揺り動かした人々A 宗教的雰囲気から離れて／9 実生活上の変化 思索から体験へ／10 ダニエル農場での労働体験 有島の思想・観念の肉体化／11 有島の思想を新しく揺り動かした人々B ワシントン国会図書館で／12 アメリカからヨーロッパへ〕／ヨーロッパ〔旧大陸〕への旅 弟壬生馬（生馬）と共に [13 中世の建築と絵画を訪ねて—イタリア {ナポリ／ローマ／アッシジ／フィレンツェ・ベニス・ミラノ}／14 中世の精神を残す国スイス {シャウハウゼン 理想社会での実体験／「フジヤマ・サークル」の人々／夢のような1週間 ティルダとの出会い}／15 シャウハウゼンからロンドンへ {汎人類的思想の確立 クロポトキンを訪ねて／船での帰国 故国日本への不安}〕〕／II ^{ノベリスト}作家・思想家 有島武郎「相互扶助」^{MUTUALAID}と汎人類的思想の追求〈1 母校札幌農学校後身東北帝国大学農家大学予科教授／2 ティルダ書簡の意味するもの／3 有島武郎、文壇に登場 最も人気有る作家として／4 ^{MUTUALAID}「相互扶助」思想の実践／5 理想の挫折／6 武郎の死／7 時空を越えて よみがえる愛 ティルダ宛書簡の好評とティルダ来日／〔その後のティルダ／ティルダの跡を訪ねて〕〕／III 有島武郎再評価 時代と、揺れ動く評価〈1 死後失墜した有島評価／2 北海道文学の父として 戦後の再評価／3 第三の新人達の台頭／4 新しい有島評価の芽生え〕／IV ユートピアをめざして 21世紀に生きる思想／付〈1 有島武郎略年譜／2 有島記念館の歩み／3 図録発刊によせて [遙かなる響き —記念特別展に憶う (高山亮二)／「もの」と想像力—『図録』の刊行に寄せて (栗田廣美)／ユートピアン^{MUTUALAID}の聖地として—有島記念館との二〇年 (飯田勝幸)]〕

【03】旭川市井上靖記念館

図録

1. 『井上靖と旭川 出生地への思いをつづって』 2004年3月1日 編集：旭川市井上靖記念館 発行：松田忠男 監修：神谷忠孝
収録：写真でふり返る井上靖〈少年時代／青年時代／文学者として／井上靖が生まれたころの旭川／旭川を訪れた井上靖〉／出生地への思いをつづって〈魔の季節／出生地の話／母を語る／郷里伊豆／私の自己形成史／すずらん／思い出すままに／幼き日のこと／旭川・伊豆・金沢／わが母の記〔花の下／月の光／雪の^{おもて}面〕／堀口先生のこと／四季それぞれ／ナナカマドの赤い実のランプ／井上靖文学碑文／靖と旭川（井上ふみ）／靖の誕生（井上ふみ）／井上靖の主な作品／井上靖の主な受賞歴／旭川市井上靖記念館／井上靖略年譜／発刊によせて（松田忠男）

館報

1. 『旭川市井上靖記念館報』
 - 1-1. 『旭川市井上靖記念館報』 創刊号 2001年4月10日
収録：茨木時代の父（浦城いくよ）／自主事業の概況報告
 - 1-2. 『旭川市井上靖記念館報』 第2号 2002年4月20日
収録：疎開の地 福栄村（浦城いくよ）／自主事業の概況報告／文学散歩に参加して（神林正恵）
 - 1-3. 『旭川市井上靖記念館報』 第3号 2003年4月20日
収録：十周年に寄せて（浦城いくよ）／自主事業の概況報告／読書会・未来へ向けて（秋岡康晴）
 - 1-4. 『旭川市井上靖記念館報』 第4号 2004年4月25日
収録：資料本「井上靖と旭川」発行／井上靖の業績／開館十周年記念特別展／自主事業の概況報告

【04】市立小樽文学館

図録

1. 『特別展「海の聖母——詩人・吉田一穂展」』 1993年7月31日 発行：市立小樽文学館
収録：ごあいさつ／詩人の出発——揺籃の海から上京まで／吉田一穂と北海道（井尻正二）／一穂と同時代・激動の現代詩／『海の聖母』の浪漫世界／短歌的抒情との訣別／散文詩集『故園の書』のアナーキズム／絶対詩の探究・『稗子伝』の異端宣言／昭和詩史の北極星（千葉宣一）／吉田一穂の書（写真）／「白鳥」十五章の完成と『古代緑地』

／父・一穂断章（吉田八）／『ひばりはそらに』一穂の童話／一穂童話の思想（添田邦裕）／晩年——随想集『桃花村』／殉詩の人（今井富士雄）／吉田一穂略年譜／展示資料一覧／出品・展示協力者

2. 『特別展「花の原型——中城ふみ子展」』 1994年7月23日

収録：ごあいさつ（市立小樽文学館）／ふみ子展によせて（野江敦子）／咎ふかき——中城ふみ子断想（増谷龍三）／中城ふみ子の闘病（牟田信春）／夜々もあやめは（福島泰樹）／解説・菱川善夫／I 少女期 不羈奔放と清純／II 結婚と破綻 内なる野生の直視／III 歌への没入 中城美学の開花／IV 中城ふみ子と戦後社会 戦後思潮の影響／V 乳癌との戦い もゆる限りはひとに与へし乳房なれ／VI 『乳房喪失』とその反響／VII 死への復讐 エロスの永遠性／VIII 火の継走／中城ふみ子中井英夫往復書簡／中城ふみ子略年譜／展示資料一覧／出品・展示協力者

3. 『小熊秀雄と池袋モンパルナス展——自由を求めた詩人と画家たち』 1995年8月4日 編集：市立小樽文学館

収録：開催にあたって／展覧会協力者／池袋モンパルナス 戦時下に「個」に執着した絵描きの群れ（宇佐美承）／美術部門《《繚乱》を生きた画家たち 一たとえば小熊秀雄と野田英夫（窪島誠一郎）／図版 [池袋モンパルナスの盛衰をみつめて／鬘光と松本竣介／天才と破滅／池袋を描く／池袋モンパルナス青春群像／祖国と異国／福沢一郎とシュルレアリスムの画家たち]》／文学部門〈小熊秀雄・夜の歌（吉田美和子）／第一部 詩人の生涯 [詩人の誕生／叛逆児の遍歴／東京・長崎町／しゃべり捲くれ／二つの詩集／なつかしい馬の糞茸よ／千早町三十番地東荘]／第二部 小熊秀雄と池袋モンパルナス [長崎アトリエ村／ききがき・池袋モンパルナスのころ（寺田政明（談））／池袋モンパルナスの歌／小熊秀雄、東京を描く／激情と放浪／エピローグ]》／作家略歴／小熊秀雄年譜・池袋モンパルナス関連年表／出品目録〈美術関係／文学関係〉

4. 『物質の真昼——詩人・河邨文一郎展』 1996年7月19日 編集：市立小樽文学館

収録：河邨文一郎の詩を透して／金子光晴の衝撃／河邨文一郎の詩業〈水天宮の丘に立って／『青年詩集』／初期詩集の世界／この人々とともに／『物質の真昼』／『ザ・ミッドナイト・サン』／詩人集団「核の会」／金子光晴とともに／『人間の星座』〉／河邨文一郎略年譜／展示資料一覧

5. 『宮澤賢治——一通の復命書』 1997年8月1日 編集：市立小樽文学館

収録：開催にあたって／宮澤賢治と法華経（木ノ内洋二）／ジョバンイは汽車に乗った——宮澤賢治・北の旅（斉藤征義）／序章 わが友保阪嘉内〈我が友賢治——遺品は呟く（保阪庸夫）〉／第一章 農業教師宮澤賢治〈イーハトーボ農学校の春（宮澤賢治）／賢治の教え子の追想と、その家族の話／農業教師としての宮澤賢治（佐藤成）〉／第二章 オホーツク挽歌・一九二三年八月〈青森挽歌（宮澤賢治）／宮澤賢治の挽歌について（栗谷川虹）〉／第三章 銀河鉄道の夜〈銀河の旅と別れが意味するもの（菅原千

- 恵子) / 第四章 一通の復命書・一九二四年五月〈植民地の^{ランドスケープ}景観——「修学旅行復命書」のまなざし——(小森陽一) / 第五章 注文の多い料理店〈未来からの語り——賢治童話再考(吉田文憲) / エピローグ 宮澤賢治の求めたまことの道〈林中乱思(宮澤賢治) / 宮澤賢治《負の遺産》(吉田司) / 泣く子供・そしてゴーシュの夜へ(吉田美和子) / 年譜 / 展示資料一覧 / 協力者一覧
6. 『あがた森魚 二〇〇一年一〇〇一秒展望展 ～イナガキ・タルホ銀河系遊覧記念～』
1998年2月20日 発行：市立小樽文学館
収録：或る港街は21世紀の海を見つめている(あがた森魚) / 稲垣先生との出会い(萩原幸子) / 叱られた事、二、三(木ノ内洋二) / カールと白い電燈(稲垣足穂) / 永遠の遠国のうた(あがた森魚) / 多弁の淵源——稲垣足穂の「物語」(高橋康雄)
7. 『小林多喜二の肖像』 1998年4月30日 編集：市立小樽文学館 発行：小樽文学舎
収録：小林多喜二の筆蹟 / 小林多喜二自筆「年譜」 / 多喜二の「祝辞」(プロット第2回大会) / 「兄多喜二を語る」(小林三吾) / 「小林多喜二君と作品」(志賀直哉) / 「志賀直哉の文学縦横談」(抄) / 「二人の作家」(抄)(西田伊策) / 「同志小林多喜二」(山田清三郎) / 「その日その日」(抄)(河辺碓治) / 「同志小林多喜二を思う」(斎藤利雄) / 「告別」(武田麟太郎) / 「団体」(抄)(本庄睦男) / 「小林多喜二を回顧する(一)」(山野千衛) / 「逢はなかった多喜二」(島木健作) / 「小林多喜二碑についてお願い」(伊藤整) / 《多喜二の手紙を小樽に!》基金への手紙(抄) / コラム〈「多喜二評?」 / 「多喜二の死と肉親」 / 「律儀者・小林多喜二」〉
8. 『伊藤整の「日本文壇史」展』 1998年7月25日 編集：市立小樽文学館
収録：和田本町・日野・久我山 / その頃のこと(奥野渉) / 伊藤整氏の生活と意見 / 日本文壇史〈『日本文壇史』誕生の経緯(大久保房男) / あれこれのこと——『日本文壇史』について(中島和夫) / 日本文壇史写真館 / 東京地図 / カメラ対談 / 徳川夢声氏と語る〉 / 伊藤整氏の創意と工夫〈『日本文壇史』の叙述法(曾根博義) / 伊藤整の仕事場 / 伊藤整の袋ファイルタイトル一覧〉 / 伊藤整昭和三十八年日記より / 伊藤整と文壇(小笠原克) / 「日本文壇史」執筆時期年表 / 縁の下の人びと(伊藤礼) / おもな展示資料
9. 『鋼鉄の映画人——小林正樹』 1998年9月12日 編集：市立小樽文学館 発行：「東京裁判」小樽上映実行委員会 目次無し
10. 『若い詩人の肖像——伊藤整、青春のかたち』 1999年6月
収録：若い詩人の肖像——伊藤整、青春のかたち〈小樽高等商業学校 / 小樽高商教師列伝 / 私記・《文学風土》としての小樽——多喜二と整(小笠原克) / 小樽市街図 / 伊藤整と当時の詩壇 / 少女たち、 / たった一人の読者の君に——伊藤整と川崎昇 / 中学教師伊藤整 / 座談会・小樽市中学校の創立と伊藤整先生 / 詩集刊行 / 伊藤整詩集『雪明かりの路』より / 詩人たちとの出会い / 若いマンガ家の肖像(畑中純) / 長男伊藤整 / 長男

整の『若い詩人の肖像』(武井静夫) / 伊藤整履歴 (川崎昇) / おもな展示資料 / 特別
附録『若い詩人の肖像』人名索引 / 伊藤整文学賞の十年、そして未来。〈文学賞につ
いて (中村稔) / 井上靖先生の思い出 (新谷昌明) / 座談会・伊藤整文学賞創設まで /
伊藤整文学賞の会沿革 / 暖かさを手渡し (大石章) / 小樽のなかの伊藤整 (木原直彦)
/ 伊藤整文学賞歴代受賞作品 / 座談会・伊藤整文学賞の10年

11. 『思いがけないルネサンス ——戦後北海道出版事情』 1999年2月5日 編集・発
行：市立小樽文学館

収録：戦後北海道の出版事情 (出村文理) / 戦後北海道で出版された児童出版物 (谷瑛
子) / 早春記 (伊藤整) / 当世汽車の旅 (岡田三郎) / 札幌にて (伊藤整) / 部落配給
酒 (伊藤整) / 遠い声 (伊藤整) / パネル・ディスカッション式文学論 / 空前の豪華文
士講演旅行 / 更級源蔵と敗戦後の札幌 / 更級源蔵を銘記する (小笠原克)

12. 『昭和歌謡全集北海道編——流行歌にみる民衆史の深層』 1999年8月7日 編集・
発行：市立小樽文学館

収録：近代北海道史年表 / なかにし礼「石狩挽歌」のもう一つの展開 (平岡正明) / 第
一話・野口雨情・船頭小唄 (歌の原景) 〈野口雨情と北方の海、大地 (野口在彌) / 北
海道演藝界 (野口雨情) / 「船頭小唄」(時雨音羽)〉 / 第二話・伊藤権之助・男の勝
負 (湊湾人夫の労働歌) 〈石山事件の内実 (堅田精司) / 銭湯の歌謡曲 (堅田精司)〉 /
第三話・アリュージュの春 (アツ玉碎) 〈越崎清二軍曹の「アリュージュ」従軍
ノート / 極北の海洋民アリュージュのことばと文化 (大島稔)〉 / 第四話・こまどり姉妹・
幸せになりたい (北海道炭鉱史) / 第五話・永山則夫・アバシリ番外地 (貧民ノ真ノ願
イノ一言ノ) 〈獄中ノートより / 永山則夫年譜 / なぜか、アバシリ (永山則夫) / 「歌
謡曲」の使命 (石川忠司)〉 / 第六話・大滝美代子・花園橋 (でもやるんだよ) 〈興行師
一代・西浦實氏大いに語る / 幻の解放同盟特選盤 (船橋英雄) / 「歌謡曲」の小さな解
放と、大きな解放 (阿部幸弘) / 歌謡解放宣言 (湯浅学)

13. 『特別展 中野重治と北海道の人びと』 2000年7月22日 編集：市立小樽文学館

収録：中野重治と「北見の海岸」(亀井秀雄) / 中野重治と北海道の人びと1 / 日本問題
としての啄木 (中野重治) / 石川啄木書簡明治四十四年八月十五日高田治作宛 / 小林多
喜二の一面 (中野重治) / 小林多喜二書簡一九二四年一月志賀直哉宛 / つぎの世紀への
贈り物 (澤地久枝) / 中野蔵書の書き込み・拾遺 (越野格) / 小熊秀雄について (中野
重治) / 無題 (遺稿) (小熊秀雄) / 古今的新古今的 (中野重治) / 中野重治と北海道
の人びと2 / 北海道の作家たち (中野重治) / 一疋の昆虫 (今野大力) / 『久保栄全集』
完結記念の席で (中野重治) / 中野重治、同時代の文人と (中島和夫) / 中野重治と北
海道の人びと3 / 「とびとびの記憶」より (中野重治) / この書の刊行について (中野
重治) / 再び「柳のたなばた」(澤田誠一) / 在所の感性 中野重治と越前・福井 / 「梨
の花」より (中野重治) / ヒネ沢庵の煮たもの (広部英一) / 中野鈴子・抄 / 詩集のう

しろに（中野重治）／中野鈴子と『ゆきのした』／「あゆむみち」について（加藤忠夫）／原さんが、いつもいた（加藤忠夫）／哀憐なお（日下新介）／断唱（日下新介）／中野重治と北海道の人びと 4／伊藤信二のこと（中野重治）／特集伊藤信二まえがきと編集後記（小笠原克）／ゴモの遺族（伊藤信二）／「伊藤信二集」刊行計画当時のこと（風間六三）／伊藤信二・労働運動と文学運動（堅田精司）

14. 『企画展小笠原克責任編集『北方文芸』』 2001年2月16日 目次無し

15. 『一原有徳／新世紀へ 図録』 2001年7月 編集・発行：市立至る美術館／市立小樽文学館

収録：展覧会の特色に（一原有徳）／幻想小説三篇（一原有徳）／俳句自伝（一原有徳）／不遇の俳人矢田枯柏（一原有徳）／クレパス画（一原有徳）／小笠原克さんと私（一原有徳）／爽快なリズムの建築（片桐保昭）

16. 『韓国文学展 観覧の手引』 2003年7月18日 編集：市立小樽文学館 目次無し

目録

1. 『小樽文学館所蔵 主要雑誌・図書目録 昭和55年12月現在』 1982年3月 発行：市立小樽文学館 目次無し

2. 『小樽文学館所蔵資料目録 主要雑誌・図書編（追補分） 自筆原稿・書簡編 昭和57年12月現在』 1984年7月 発行：市立小樽文学館

3. 『市立小樽文学館所蔵雑誌目録 平成2年（1990）12月現在』 1991年3月31日 編集・発行：市立小樽文学館 目次無し

4. 『小樽文学館所蔵資料目録 色紙・短冊編』 1998年8月 編集・発行：市立小樽文学館

収録：短歌／口語短歌／川柳／俳句／その他

研究誌

1. 『小樽の文学碑』 1994年3月31日 編集：市立小樽文学館

収録：文学碑・詩碑〈伊藤整 「海の捨児」／小林多喜二 冬が近くなるとぼくはそのなつかしい国のことを考えて／八田尚之 「がんぜ」／河邨文一郎 「山上の旗」〉／歌碑〈青山ゆき路 豊倉の流れに沿うて定山が袈裟掛け憩うた岩頭ち光る／石川啄木 ころよく我にはたらく仕事あれそれを仕遂げて死なむと思ふ／石川啄木 かなしきは小樽の町よ歌ふことなき人人の声の荒さよ／小田観螢 距離感のちかき銀河をあふぎをり身は北ぐにゝ住みふさふらし／戸塚新太郎 森にひそむかの妖精もいでて遊べ木もれ日うごく羊歯の葉の上／並木凡平 廃船のマストにけふも浜がらす鳴いて日暮れる張碓の浜〉／句碑〈青き郭公 車道開く原始茂りの雲の上／石塚友二 霏々と降る雪の中なり朝里川／勝又木風雨 青鳩や礁つづきに小樽港／金児杜鵑花 み仏に滝の

しぶきや百合の花／田中五呂八 人間を掴めば風が手にのこり／高濱年尾 遠き家の
氷柱落ちたる光かな／千葉仁 轉に山陰動き初めにけり／長谷部虎杖子 車組むや一
滴の油地にひらく／比良暮雪 芝原のいづちともなく轉れり／久未永霽 観音よ地藏
よ夏至の海蒼し／三ツ村謡村 柳絮とび我が街に夏来たりけり／小樽文学地図・交通
案内図／作家と作品の舞台

2. 『新・小樽のかたみ 石川啄木と小樽啄木会五十五年』 2003年5月13日 編集：小
樽啄木会／小樽文学館 発行：「新・小樽のかたみ」刊行委員会
収録：小樽啄木会の五十五年／人間啄木をめぐって〈啄木雑感（亀井秀雄）／啄木の俳
句（荒木茂）／啄木日記の補助資料としての『小樽のかたみ』の価値（小林芳弘）／啄
木の妹石川ミツの受洗をめぐって（北間正義）／啄木の短歌〈啄木と現代短歌（増谷
龍三）／小樽時代回想の歌『一握の砂』から（鈴木勇蔵）／致で啄木に会った人〈在
りし日の啄木（高田紅果）／桜庭チカとその周辺（高橋利蔵）／啄木と露堂（藤田民子）
／啄木との出会い〈啄木の詩に魅せられて（安達英明）／先生と啄木（那須野和司）／
宮崎氏と石川氏、金田一氏（玉川薫）／小樽の啄木歌碑〈東山仮歌碑建立（事務局）
／公園歌碑と高田紅果の思い出（柴田健治）／水天宮に啄木歌碑を（岩木寿）／小樽
啄木街道〈小樽に残る啄木街道（高橋利蔵）／小樽啄木地図〉／小樽啄木会沿革史／あ
とがき（刊行委員会）

記録集

1. 『韓国の文学と文化を知る 講演記録集』 2003年12月20日 編集：市立小樽文学
館
収録：姜 二の《看羊録》について（金東旭）／十八世紀挑戦士大夫の日本体験と『日東
壯遊歌』（崔相殷）／演劇としての韓国演行文学——民謡・パンソリ・仮面劇を中心に
（趙萬鎬）／日韓交流における言語と文学の発見（亀井秀雄）／韓国から見た北海道の
文学——異文化コミュニケーションとしての翻訳（申寅燮）

作品

1. 『伊藤整詩集 雪明かりの路抄』 2000年2月11日 編集：市立小樽文学館 発行：
小樽文学舎
収録：「序」より／雪の来る朝／雪あかりの人／故郷に目ざめる／雪明り／冬の詩三篇
／雪夜／雪の朝／忍路／林檎園の六月／小樽の秋／伊藤整詩集『雪明りの路』について

館報

1. 『市立小樽文学館報』
1-1. 『小樽文学館 小樽文学館設立期成会報』 第1号 発行年月日不明

- 収録：小樽文学展に多数の参観者／寄稿 海と粉雪のつるつる坂（室生あやこ）／特集 風土と作家と作品と〈岡田三郎を語る（山田正弘）／伊藤整を語る（山田正弘）／並木凡平と作品（青山ゆ路）／小林多喜二と小樽文学館（木ノ内洋二）／八田尚之——小樽（大西洋）〉／収納資料解説 文章世界／ご寄付ご尊名／助成会事務局日誌抄
- 1-2. 『市立小樽文学館報』 第1号 発行年月日不明
収録：小樽文学館特別展 10年の歩み／小樽文学史略年表
- 1-3. 『市立小樽文学館報』 第2号 1989年3月31日 目次無し
- 1-4. 『市立小樽文学館報』 第3号 1990年3月31日 目次無し
- 1-5. 『市立小樽文学館報』 第4号 1991年3月31日 目次無し
- 1-6. 『市立小樽文学館報』 第5号 1992年3月31日
収録：私記・《文学風土》としての小樽（一）（小笠原克）／特別展記念講演抄録「岡田三郎と北海道」／岡田三郎展——風貌から予感するもの（高橋明子）／新収蔵資料のなかから・平成四年度の催し
- 1-7. 『市立小樽文学館報』 第6号 1992年10月15日
収録：私記・《文学風土》としての小樽（二）（小笠原克）／山中恒展を開催／特別展記念講演抄録「小樽・私の心の原体験」
- 1-8. 『市立小樽文学館報』 第7号 1993年3月31日
収録：私記・《文学風土》としての小樽（三）（小笠原克）／館収蔵小林多喜二関係資料／田中五呂八と新興川柳運動（木ノ内洋二）／新収蔵資料のなかから・平成五年度の催し
- 1-9. 『市立小樽文学館報』 第8号 1993年10月15日
収録：私記・《文学風土》としての小樽（四）（小笠原克）／田中五呂八展・吉田一穂展を開催／特別展記念講演抄録「吉田一穂 人と作品」／花はむらさき・吉田一穂展に寄せて（吉田美和子）
- 1-10. 『市立小樽文学館報』 第9号 1994年3月31日
収録：私記・《文学風土》としての小樽（五）（小笠原克）／宮原晃一郎の生涯（玉川薫）／宮原晃一郎と翻訳文学（木ノ内洋二）／新収蔵資料のなかから・平成六年度の催し
- 1-11. 『市立小樽文学館報』 第10号 1994年10月15日
収録：渡辺淳一氏講演抄録「伝記小説の問題点」／中城ふみ子展を開催／「花の原型——中城ふみ子展」をみて（萩原貢）
- 1-12. 『市立小樽文学館報』 第11号 1995年3月31日
収録：自伝的スケッチ《1 『蒼鷹』学習》（菱川善夫）／日高昭二氏講演抄録「小説家・小林多喜二」／新収蔵資料のなかから・平成七年度の催し
- 1-13. 『市立小樽文学館報』 第12号 1995年10月31日

収録：自伝的スケッチ 2 青春彷徨（菱川善夫）／宇佐見承氏講演抄録「硝煙と絵筆」
／池袋モンパルナス・星の樹の男たち（吉田美和子）／小熊秀雄と池袋モンパルナス
展

1-14. 『市立小樽文学館報』 第 13 号 1996 年 3 月 31 日

収録：自伝的スケッチ 3 《壊す人》風巻景次郎ほか（菱川善夫）／『転形期の人々』
の小樽描写（布野栄一）／小林多喜二自筆草稿による「転形期の人々」冒頭部校異／
小林多喜二草稿・小熊秀雄絵画などを受贈／文学入門講座「現代詩の楽しみ」を開催
／小樽文学館平成八年度事業のお知らせ ほか

1-15. 『市立小樽文学館報』 第 14 号 1996 年 10 月 31 日

収録：自伝的スケッチ 4 八代集とのあいど「涯」の創刊（菱川善夫）／河邨文一
郎氏講演抄録「小樽一わが詩のふるさと」／物質の真昼——詩人・河邨文一郎展／新
収蔵資料・小林多喜二「不在地主」関連はがき

1-16. 『市立小樽文学館報』 第 15 号 1997 年 3 月 31 日

収録：自伝的スケッチ 5 中井英夫と中城ふみ子（菱川善夫）／小笠原克氏講演抄録
「伊藤整の世界へ」／『雪明かりの路』によせて・現代短歌入門・夏堀正元氏講演／
進展児資料・田口タキ宛小林多喜二最後のはがき／平成九年度の行事予定、他

1-17. 『市立小樽文学館報』 第 16 号 1997 年 11 月 15 日

収録：自伝的スケッチ 6 評論賞の入選——双頭の龍（菱川善夫）／斎藤征義氏講演
抄録「宮澤賢治・北の旅」／「宮澤賢治——一通の復命書」展をめぐる報告書（梅木
万里子）／「宮澤賢治——一通の復命書」展を開催

1-18. 『市立小樽文学館報』 第 17 号 1998 年 3 月 31 日

収録：自伝的スケッチ 7 寺山修司——《劇》の暗号（菱川善夫）／宮澤賢治の樺太
旅行——時刻表から見た一考察（渡辺真吾）／あがた森魚二〇〇一年一〇〇一秒展望
展／小林多喜二の《届いた手紙》について（小笠原克）／平成十年度の展覧会

1-19. 『市立小樽文学館報』 第 18 号 1998 年 12 月 20 日

収録：自伝的スケッチ 8 二人の《塚本》——沸騰するダンディズム（菱川善夫）／
特別展記念講演抄録『日本文壇史』という仕事 《二十年》後にむけて（小笠原克）
／冬から春にかけての催し・小樽文学舎からのお知らせ

1-20. 『市立小樽文学館報』 第 19 号 1999 年 3 月 31 日

収録：自伝的スケッチ 9 評論集『敗北の抒情』出版前後（菱川善夫）／昭和 20 年代
初期の小樽の版元と出版物（平澤秀和）／言っておかなければならぬこと（玉川薫）
／春から夏にかけての催し

1-21. 『市立小樽文学館報』 第 20 号 1999 年 12 月 20 日

収録：自伝的スケッチ 10 同人誌運動の熱風の中で（菱川善夫）／企画展「若い詩人
の肖像——伊藤整、青春のかたち」／「昭和歌謡全集北海道編」アンケートバトル／

- 言葉に、ならない。(玉川薫) / 企画展「異人さんのタオル——遠つ邦より来し人々は」
- 1-22. 『市立小樽文学館報』 第21号 2000年3月31日
収録：自伝的スケッチ 11 「北海道青年歌人会前史」と「極」(菱川善夫) / 小笠原克さんと私(一原有徳) / 小笠原克を悼む(紅野敏郎) / お詫びのまえがき(小笠原克) / 永山則夫を常設する。(玉川薫) / 企画展・特別展のお知らせ
- 1-23. 『市立小樽文学館報』 第22号 2000年12月20日
収録：自伝的スケッチ 12 現代短歌シンポジウムから北海道青年歌人会シンポジウムへ(菱川善夫) / 特別展記念講演抄録 中野重治と北海道(亀井秀雄) / 大崎さんと、加藤さん(玉川薫) / 多喜二の思い出(村山亜土) / 今年の展覧会 / 来年の展覧会
- 1-24. 『市立小樽文学館報』 第23号 2001年3月31日
収録：自伝的スケッチ 13 深作光貞と「フェスティバル律」 / 叙事詩「稚内」をめぐって(菱川善夫) / 海外で日本文学はどのように研究されているか(亀井秀雄) / 裸燈(一原有徳) / 山口昌男氏の、(仮設) 書物の神話学展 会場計画レポート(片桐保昭) / 来年度の企画展 / 韓国・木浦大学校総長一行が来訪
- 1-25. 『市立小樽文学館報』 第24号 2001年12月30日
収録：自伝的スケッチ 14 「蝕」と「蝕の季節」の中で(菱川善夫) / 鏡の呪縛(亀井秀雄) / 韓国旅行(舛井遊) / 今年の展覧会・文学散歩・講座等
- 1-26. 『市立小樽文学館報』 第25号 2002年3月31日
収録：自伝的スケッチ 15 黄金の爪痕——北海道青年歌人会シンポジウムの軌跡(菱川善夫) / 歴史教科書問題と韓国行き(亀井秀雄) / 穴(玉川薫) / 特別展・オタル喫茶店物語、他
- 1-27. 『市立小樽文学館報』 第26号 2002年12月25日
収録：小林多喜二「栄養検査」その他(ノーマ・フィールド) / 自伝的スケッチ 16 「象徴」意識の深化——小田観螢の死を起点に(菱川善夫) / 「妙見カゲ」という名の樹木(富田幸司) / 小林多喜二「遺体写真」撤去について(亀井秀雄)
- 1-28. 『市立小樽文学館報』 第27号 2004年3月10日
収録：自伝的スケッチ 17 「現代短歌・北の会」の運動とその背景(菱川善夫) / 流行歌にうたわれた文学の世界(青砥純) / ボランティア養成講座「製本教室」(玉川薫) / 特別展・こどもたちの戦争体験、他
- 1-29. 『市立小樽文学館報』 第28号 2005年3月31日
収録：自伝的スケッチ 18 シンポジウムの終息と「涯」(菱川善夫) / 東京散策と古本屋(三宅悟) / 平成十六年度事業報告 / 文学館を考える——その外延と内包(亀井秀雄) / 平成十七年度予定事業 / 伊藤整生誕百年記念講演会・シンポジウム

記念誌（周年）

1. 『市立小樽文学館十周年記念誌』 1989年3月31日 編集・発行：市立小樽文学館
収録：記念誌の刊行に当たって／小樽文学館のあゆみ〈小樽文学館設立の経緯／小樽文学館十年の沿革／小樽文学館一〇年のあゆみ（写真）〉／小樽文学館の収蔵資料〈小樽文学館所蔵資料一覧表／これまでに収蔵された主な文学資料／収蔵資料のなかから（写真）〉／小樽の文学史〈小樽文学史試稿／市立小樽文学館審議会委員名簿〉

【05】函館市文学館

発行物無し

【06】（財）北海道文学館

図録（常設展）

1. 『北海道立文学館常設展図録』 1995年9月22日 編集・発行：財団法人北海道文学館
収録：常設展の構成について／札幌農学校と有島武郎／北海道文学の流れ〔明治・大正期〕〈空知川の岸辺・国木田独歩／開拓期を彩る作歌群／漂泊の人・石川啄木／有島武郎をめぐる人々／道産子作家誕生／同人雑誌群／来道作家の足跡〔大正期〕〉北海道文学の流れ〔昭和前期〕〈プロレタリア文学の潮流／若い詩人の肖像・伊藤整／来道作家の足跡〔昭和前期〕／農民文学の世界／戦時下の文学〉／北海道文学の流れ〔昭和後期〕〈戦後文学の展開／さまざまな座標 I／旋風をおこした作家たち／さまざまな座標 II／来道作家の足跡〔昭和後期〕／活躍する作家たち〉／アイヌの口承文芸／北海道の詩／北海道の短歌／北海道の俳句／北海道の川柳／北海道の児童文学／千島・樺太の文学／北海道文学史略年表／開館までの経緯／常設展協力者

図録（企画展）

1. 『有島武郎文学アルバム 北海道文学館発足記念・有島武郎文学展』 1967年10月25日 編集：有島武郎文学展実行委員会 発行：北海道文学館
収録：兄を思う（有島生馬）／三人三様（里見弴）／有島武郎文学展によせて（更科源蔵）／有島武郎照影／著作／原稿／絵・デッサン／家族と友人／幼少年時代／札幌農学校生徒時代／米国留学時代／農科大学教授時代／作家活動時代／現代に生きる有島武郎／武郎さんのこと（志賀直哉）／『白樺』と武郎さん（武者小路実篤）／有島文学の

現代的意義（瀬沼茂樹）／気がかりな人（本多秋五）／札幌農学校時代の有島武郎（半沢洵）／北海道と有島文学（あとがきに代えて）（山田昭夫）／有島武郎略年譜（上杉省和編）／未発表遺稿「旅」（18枚）（有島武郎）／未発表・武者小路実篤宛・志賀直哉宛書簡（有島武郎）

2. 『伊藤整・亀井勝一郎の文学』 1970年11月10日 編集：北海道文学館＝伊藤整・亀井勝一郎文学展実行委員会 発行：北海道文学館
収録：趣旨／伊藤整アルバム〈白神岬―父母、そして幼児の頃／忍路郡塩谷村一少年の日／詩人としての出発／上京―詩人から小説家へ／著書のなかから―戦前（I）／著書のなかから―戦前（II）／評論集（戦前）／評論集（戦後）／翻訳／チャタレイ／編著各種／戦後小説／家族とともに（昭和34年8月）／ある日あるとき／伊藤整氏のスクラップより（I）／伊藤整氏のスクラップより（II）／晩年の花／その他／伊藤整の北海道〉／伊藤整・人と文学〈紫インキー少年譜より（北見恂吉）／伊藤整の詩（更科源蔵）／伊藤整の小説（小笠原克）／評論家としての伊藤整（亀井秀雄）／父のこと（伊藤礼）〉／亀井勝一郎アルバム〈生れ故郷・函館／山形高校・東大時代／『転形期の文学』のころ／日本のふるさとへ／初期の著作／太宰を偲んで／交遊／中国の旅／原稿と本／芸術院賞受賞のころ／菊池寛賞受賞のころ／『日本人の精神史研究』／書齋にて／愛蔵の品じな／北海道文学展／『日本人の精神史研究』／書齋にて／愛蔵の品じな／北海道文学展／自筆年譜／その死／文学碑〉／亀井勝一郎・人と文学〈兄・勝一郎と北海道の思い出（亀井勝次郎）／亀井の思い出（亀井斐子）／戦前・戦中の亀井（神谷忠孝）／戦後の評論（武田友寿）／求道者（安東璋二）〉／伊藤整略年譜／亀井勝一郎略年譜／伊藤整・亀井勝一郎文学展出品目録
3. 『北海道の詩歌』 1971年11月30日 編集・発行：北海道文学館
収録：北海道の詩（小柳透）／北海道の短歌（大平忠雄）／北海道の俳句（木村敏男）／出品目録／北海道内詩歌誌一覧／北海道詩歌年表／北海道文学館の主な行事／日録／北海道文学館規約／北海道文学館役員名簿／北海道詩歌展実行委員
4. 『久保栄文学アルバム』 1973年10月 編集：北海道文学館久保栄文学展実行委員会 発行：北海道文学館
5. 『渡辺淳一文学展』 1990年11月15日 発行：（財）北海道文学館
収録：渡辺淳一の歩み〈幼少年期・札幌南高の季節／北大・札幌医大時代／「くりま」の仲間／直木賞前後／そして、今〉／渡辺文学の世界〈医師物語／北海道を描く／男女の愛を華麗に／伝記の系譜／エッセイから〉／渡辺さんのこと（平岩弓枝）／インバネスの美男子（原田康子）／渡辺淳一文学地図（川辺為三作成）／渡辺淳一年譜（川西政明編）
6. 『北の夜明け 海峡を越えた探検家・紀行家たち 北海道立文学館特別展図録』 1995年9月22日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館

収録：口絵／開館記念特別展「北の夜明け」に寄せて（南原一晴）／文学館の成長を祈って（坂野上明）／「北の夜明け」展開催にあたって（澤田誠一）／特別展「北の夜明け——海峡を越えた探検家・紀行家たち——」会場構成図／文学作品にみる幕末の探検家・紀行家たち〈高田屋嘉兵衛／間宮林蔵／北へ注がれる強い視線（吉村昭）／顔と貌（北方謙三）／伊能忠敬／最上徳内／近藤重蔵／菅江真澄／松浦武四郎／榎本武揚／児童文学作品にみる探検家・紀行家たち〉／探検家・紀行家たちとその時代〈ロシアとの懸け橋 高田屋嘉兵衛／探検家たちの足跡 最上徳内、近藤重蔵、伊能忠敬、間宮林蔵／蝦夷地理解のさきがけ 松浦武四郎／旅人たちの道南来訪 菅江真澄、古川古松軒、遠山景晋／幕末から明治へ 榎本武揚、島義勇／北方探検史略年表〉／文人墨客としての軌跡〈記録の人・松浦武四郎／探検家 異聞^{ヴァリエーション}／旅人たちのまなざし／菅江真澄と北海道（安水稔和）〉／特別展借用展示資料一覧／特別展協力者一覧

7. 『北海道立文学館特別企画展図録 北海道の俳句 一戦後 50 年の歩み一』 1996 年 5 月 22 日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館

収録：戦後の新しい風〈結社誌の創・復刊にみる戦後俳句のエネルギッシュな出発／北海道俳句の新たな展開／はたらく者の俳句／同人誌の多彩な台頭／句集・俳書の出版熱高まる〉／現代の作家群〈地域に根ざした俳句活動と主催誌の誕生／カルチャーブームと女性俳人の活躍／俳句団体の三つの流れ／俳誌の展望—主宰交代による継承〉／風土と季語〈北方の季語十六選／四十八句にみる風土と季語〉／主な来道俳人／北海道俳句協会の歩み〈協会の発足／草創期を支えた人々／運営に当たった人々／全道俳句大会の開催／『北海道俳句年鑑』の発刊／『北海道歳時記』の刊行／俳句展の開催／顕賞〉／戦後北海道の俳句各賞一覧〈北海道文化賞／北海同文化奨励賞／鮫島賞／北海道俳句協会賞／北海道新聞文学賞／北海道新聞俳句賞／北海道現代俳句賞／細谷源二賞／北海道芸術新賞／現代俳句協会賞／現代俳句協会新人賞／蛇笏賞／角川俳句賞／新俳句人連盟賞／新俳句人連盟賞評論賞〉／北海道戦後俳句史略年表

8. 『北海道立文学館特別企画展図録 久保栄と北海道 一激動の時代を生きた劇作家の軌跡一』 1996 年 9 月 30 日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館

収録：ごあいさつ／久保栄の読者 一野間宏・井上光晴・大江健三郎—（小笠原克）／出会ってからのこと（武谷三男）／火山灰地の宇宙（山下肇）／「火山灰地」は J・P・サルトルに負けない（澤田誠一）／久保さんのこと（田村義也）／久保先生の思い出（吉行和子）／「火山灰地」をめぐって（米坂ヒデノリ）／「林檎園日記」文学碑の触発（井上理恵）／高校演劇「火山灰地」公演の頃（本山節彌）／火山灰地の頃から（木村靖英）／「あの人は“玲子です”」（扇靖宏）／久保栄略年譜／展示資料提供等協力者一覧

9. 『特別企画展 森田たまと素木しづ ～しなやかに煌めく感性のかたち～』 1997 年 4 月 29 日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館

収録：森田たまと素木しづ（カラー口絵）／大正文学における森田たま・素木しづの位

置（神谷忠孝）／森田たま『もめん随筆』について（藪禎子）／素木しづの小説（岩田光子）／再録 片瀬まで（村岡たま子（森田たま））／再録 美しき牢獄（素木しづ）／森田たま著書一覧／素木しづ創作一覧／森田たま・素木しづ略年譜／特別企画展協力者一覧

10. 『特別企画展 青春と文学 ～有島青少年文芸賞・絵画展と学校文芸誌の足跡をたどる～』 1997年9月27日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館
収録：口絵〈有島武郎青少年公募絵画展（有島武郎賞受賞作品）／有島青少年文芸賞から巣立った作家たち／道内学校文芸誌の足跡／学校文芸誌にみる文学者の足跡〉／青春の出会い 一澤井さんと Y 子一（見延典子）／有島文芸賞の頃から（澤井繁男）／青春と文学 一平凡の中の美一（小松茂）／有島武郎青少年絵画展のこと（吉田豪介）／高校生と文学（武井静夫）／遥かに遠い「過去」（千街晶之）／回想（杉山良美）／「青春」と「青春」の間（樟本絵里）／ごあいさつ／有島少年文芸賞の三十四年間 ①／有島武郎と青少年／有島青少年文芸賞の三十四年間 ②／有島武郎と絵画 ①／道内高校文芸誌の現状／有島武郎と絵画 ②／アンケート調査結果から／道内の高校文芸誌／入選者一覧／出品資料一覧／協力いただいた機関、個人
11. 『特別企画展 北海道の短歌』 1998年4月20日 編集・発行：北海道立文学館／財団法人北海道文学館
収録：口絵／主な来道歌人／北海道歌壇の形成（大正・昭和《戦前・戦中》）／北海道歌人会結成とその後の展開（昭和《戦後》）／北海道歌壇の流れ（現代）／北海道の短歌一特別企画展によせて一（山名康郎）／「原始林」と札幌（中山周三）／作歌活動五十年覚書（足立敏彦）／凍土の花（大塚陽子）／双肩一「北海道アララギ」の源流一（杉本晃一）／展示資料について二、三（田村哲三）／無垢な情熱の饗宴 一北海道青年歌人会シンポジウムについて一（菱川善夫）／主な短歌各賞受賞者一覧／北海道短歌誌一覧／北海道短歌誌一覧／北海道歌壇年表／主な出品資料／協力頂いた個人・機関
12. 『有島武郎生誕百二十年記念・第七回特別企画展 「有島武郎とヨーロッパ」』 1998年8月7日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道立文学館
収録：ごあいさつ／口絵・図版解説／「叛逆者・有島武郎」への出発（栗田廣美）／有島武郎生誕百二十年展と星座の会（高山亮二）／有島武郎の女性観を作品にみる（藪禎子）／「シャフハウゼン資料」解説と若干の補足説明（平原一良）／書簡・葉書翻訳文／展示資料リスト
13. 『北斗の印——吉田一穂』 1999年2月6日 編集・発行：吉田一穂生誕100年記念事業実行委員会／財団法人北海道文学館
収録：序にかえて（畑澤民之助 吉野浩次）／刊行に寄せて（小杉捷七）／吉田一穂の涅槃像（今井富士雄）／一穂回想（吉田八岑）／絶対詩人・吉田一穂（漆田邦裕）／吉田一穂の思い出（和田徹三）／吉田一穂の書と絵のこと（酒井忠康）／一穂らしさ（工

藤幸雄) / 吉田一穂・断片 (河邨文一郎) / 林檎園の憂愁——一穂と中也・あるいはふるさとの捨てかた (吉田美和子) / 詩「無の火」とその解説公開の思い出 (堀越義三) / 寄稿詩篇 (結氷期 (城戸朱里) / メタレン (瀬尾育生) / 恋する南 (野村喜和夫) / 海の、聖者。(一穂、ふ縷火等紀行) (工藤正広) / 「北」へのフォルテ (支倉隆子) / 消すことで現れたもの ——『稗子伝』前後—— (田村圭司) / 吉田一穂と北海道 (永井浩) / 孤絶の火 ——吉田一穂と現代詩—— (原子修) / 芭蕉と蕪村 ——吉田一穂をめぐって—— (嵩文彦) / 吉田一穂の「大谷短大講義録」について (笠井嗣夫) / 吉田一穂——子どもへのまなざし (大橋真由美) / 詩人の童話の可能性 (柴村紀代) / 「アメリカ」の吉田一穂 ——プランゲ文庫の資料から—— (武子和幸) / 詩的テキストの宇宙——吉田一穂 (野坂政司) / 吉田一穂、その望郷の強度 (高梁秀明) / 吉田一穂詩抄 / 吉田一穂略年譜 / 編集後記にかえて

14. 『特別企画展「夏目漱石と芥川龍之介」』 1999年8月7日 発行：北海道立文学館
収録：カラー版 / 夏目漱石 (三山居士と漱石 (江藤淳) / 現在にも生きている人物 (小島信夫) / 解説 (中島国彦) / 芥川龍之介 (「芋粥」と「蔵の中」と「外套」 (後藤明生) / 芥川らしさ (佐佐木幸綱) / 解説 (石割透) / 出品目録

15. 『企画展 VISUAL POETRY 2000 in 札幌 ～“^{トボス}視る詩”の場所へ～』 2000年2月5日 編集・発行：「VISUAL POETRY 2000 in 札幌」実行委員会 / (財)北海道文学館

収録：札幌《初》から《発》へ (高橋昭八郎) / ヴィジュアル・ポエトリーと言葉の前後左右裏表 (野坂政司) / 詩が純粹秩序を求めるときは (工藤正広) / Gratitude / 山口昌男 / 艾沢詳子 / 伊藤元之・上村弘雄 / 清水俊彦・高橋昭八郎 / 田名部信・中村恵一 / 支倉隆子・藤富保男 / 樋口雅山房 / 向井周太郎・ヤリタミサコ / 村上善男 / E. Miccini / M. Castellano / F. S. Dodaro / L. Pignotti / L. Caruso / A. Arias-Misson / J. Blaine / J. F. Bory / H. Chopin / B. Ferrand / R. Kostelanetz / S. Takahashi / K. P. Dencker / J. Linschinger / Sarenco / 松信雅子・下澤敏也 / あとがきにかえて

16. 『北海道立文学館特別企画展図録 挿絵と装幀の小宇宙 ～竹久夢二から川上澄生まで～』 2000年4月29日 編集・発行：北海道立文学館 / 財団法人北海道文学館
収録：挿絵と装幀の小宇宙 (カラー図録) (竹久夢二とブックデザイン / 書物愛のかたち) / 竹久夢二 / 梁川剛一 (エルム社の絵本) / 三岸好太郎・松本竣介 / 棟方志功 / 川上澄生 / 佐藤忠良 / 本をつくる (現代の特別装幀本 / 表紙ができるまで) / 挿絵をめぐって (山梨俊夫) / 絵に掘り出されるコトバ ～忠良先生と『原野にとぶ櫓』のこと～ (加藤多一) / 「挿絵と装幀の小宇宙から 一解説・解題・後記にかえて」 (平原一良) / 特別企画展協力者一覧

17. 『『北緯五十度』の詩人たち ～更級源蔵と豊かな交流圏～』 2000年8月12日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道立文学館

収録：《グラビア》『北緯五十度』の詩人たち ～更級源蔵と豊かな交流圏～／更級源蔵と眞壁仁の友情世界と「北緯五十度」の思想（斉藤たもち）／更級源蔵と『北緯五十度』（鳥居省三）／「北緯五十度」以後。断想—詩人・葛西暢吉について—（堀越義三）／更級源蔵と根室 —「流水」「花と内在」のころ—（岡本茂子）／詩史のなかの『北緯五十度』 —読解のための私註—（平原一良）／『北緯五十度』詩華集〈或る会合の後に—SとWにおくる詩・（猪狩満直）／漁村にて（思ひ出 二題）（竹内てるよ）／雨の中の見知らぬ少女に（眞壁仁）／叩き大工の謳歌（葛西暢吉）／日高山道の友に（渡辺茂）／ある時（草野心平）／出稼ぎの話（中島葉那子）／十一月の日記断片（二十三、二十六、二十七日）（更級源蔵）／仕事が終つて（加藤愛夫）／冬（十二月、一月、二月、三月）（更級源蔵）／母（更級葉那子）／坐棺（金井新作）／乾みみず（更級源蔵）／野良（同題ノ三）（眞壁仁）／生活その折々に（短歌）（猪狩満直）／穴（更級源蔵）／クルミのおもちや（中西悟堂）／帰り道・晩夏・秋風（尾崎喜八）／声・彼は語る（高村光太郎）／葡萄園にて（伊藤整）

18.『Visual Poetica 2001 in 札幌』 2001年3月17日 編集・発行：「Visual Poetica 2001 in 札幌」実行委員会／財団法人北海道文学館

収録：宇宙はいま 詩つつあるとき（高橋昭八郎）／新宿「風月」から40年余（村上善男）／ポエチカの自由度を唆す（工藤正廣）／Gratitude〈秋の日に（申東春）／MAIL-ART POEMS（Sarenco）／1） PARASITEN 2） ZEN GEN（Dencker,K.P.）／1）忘却 2）トーポリ（ポプラ） 3）プロフィール（Mikhailovich,Z.D.）／DIPHTHONGE + 2（Linschinger,J.）／覚醒の森—春（朝田千佳子）／海辺のレコード（麻生直子）／うぬぼれかがみ（池澤夏樹）／消 1 消 2（伊藤元之）／1）時の記憶「名句の音」 2）時の記憶「名句誕生」（上村弘雄）／非存在 交歓浮遊図（工藤正廣）／複製あるいは幽閉（熊谷ユリヤ）／水無月の記憶（小林重予 岡田哲也）／1）詩・篇 2）詩・篇（高橋昭八郎）／左手のための……（サ行の主題による変奏曲）（高橋世織）／invisible machine 1 invisible machine 2（田名部信）／1）種の起源に至る道のりで 2）人はカオスの中から生れた（中村恵一）／1）ARROW PROJECT（1） 2）ARROW PROJECT（2）（支倉隆子）／宮澤賢治「雨ニモマケズ」1, 2（畑中純）／詩人の木（原子修）／デクノボウ（樋口雅山房）／幻 1, 2（藤富保男）／「草原の祝祭」「イスタンブールの占いウサギ」「カワカマスのヴァイオリン」「ヤンとシメの物語」ほか（町田純）／颯（松信雅子 下澤敏也）／1）パピルスの碑 2）Text of Text 3）音象 AEIOU の起源 4）宇宙生成詩（向井周太郎）／1）赤倉山系鹽景分割 2）赤倉山系赤景分割（村上善男）／1）魯迅が愛した空間 2）K氏の肖像（山口昌男）／1）i/kick 2）heartbeat（ヤリタミサコ）／自然 環境と再生（米山将治）／041500（艾沢詳子）／Postscript（平原一良）

19.『特別企画展 「一〇〇年目の小熊秀雄 ～20世紀詩のアヴァンギャルド～」 2001

年 8 月 25 日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道立文学館

収録：小熊秀雄略年譜／《グラビア》一〇〇年目の小熊秀雄／ドキドキ驚かされつづけ
——稀有な詩人小熊秀雄（木島始）／芸術アヴァンギャルド・小熊秀雄 一道化姿の
“^{デヌウマン}どん詰まりからの反撃”（玉井五一）／小熊秀雄の妻つね子と『詩を読む会』のこと
（大堀普美子）／小熊秀雄と大学新聞（八子政信）／アイヌ口承文芸と小熊秀雄（青柳
文吉）／小熊秀雄作品集〈詩〔散文詩 海が恋しくなった／潮騒／【諷刺詩】伊太利の
左官屋／文壇諷刺詩〔志賀直哉へ／佐藤春夫へ〕／蹄鉄屋の歌／馬上の詩／ゴオルドラ
ツシュ／鶯の歌／俳優人物詩〔滝沢修論／宇野重吉論〕／日中往復はがき詩集（作品第
一～四番）／^{ちやんぢやんちゅうや}長長秋夜／女の強さを愛してゐる／愛は潜水艇のやうに／馬の糞茸／乾
杯／私の楽器の調子は／運命偶感／無題（遺稿）／親と子の夜（遺稿）／短歌〔札幌
詠草（抄）〕／俳句〔真つすぐな街〕／童話〔焼かれた魚／或る^{めをとうし}夫婦牛の話〕／エッセ
イ〔カレル・チャペックの人造人間を見る〕／小説〔徴発〕／「一〇〇年目の小熊秀雄」
展—読解の為の予備的考察（平原一良）

20. 『占領下日本の〈検閲〉考 一子供、出版、文化—』 2001年10月27日 編集：「占
領下の子ども文化〈1945～1949〉展」北海道店実行委員会 発行：財団法人北海道文学
館

収録：わたしの神話時代 一プランゲ文庫の時期ふたたび—（中川正文）／絵本『トリ
ノアパート』をめぐって 一発禁から発行許可へ—（谷暎子）／占領期・児童読み物の
あとがきから 一萱山の兎は萱山の兎—（柴村紀代）／ある戦後マンガの《出発》 一
帷子すすむ「日出ちゃん」をめぐって—（宮本大人）／本道出版ブームとプランゲ文庫
（平澤秀和）／占領期北海道刊行の雑誌 一百花繚乱の創刊—（出村文理）／識閲とし
ての1945年 一「あとがき」にかえて—（平原一良）

21. 『VISUAL POETRY 2002 in SAPPORO ^{plus} +』 2002年3月25日 編集：VISUAL
POETRY 2002 in SAPPORO + 実行委員会 発行：財団法人北海道文学館

収録：Gratitude 〈「三千への共振カイロ」（ご挨拶に代えて）（高橋昭八郎）〉／Essay
〈「ベンゼ、ゴムリンガーからデンカーへ」（上村弘雄）〉／Exhibitors 〈Cloth（朝田千
佳子）／Visual Poetry（J-F. ボリィ）／Visual Poetry（U. カレガ）／Visual Poetry
（K. P. デンカー）／Visual Poetry（J. ドンギユイ）／Visual Poetry（藤富保男）
／Plastic+poem（原子修）／Visual Poetry（支倉隆子）／Jomon art（猪風来）／Visual
Poetry（伊藤元之）／Plastic（M. ジャールスマ）／Mixed Media（景平洋子）／Visual
Poetry（上村弘雄）／Painting（カワシマトモエ）／Plastic（小林重予）／Visual Poetry
（工藤正廣）／Visual Poetry（J. シリンガー）／Painting（町田純）／Visual Poetry
（向井周太郎）／Mixed media（村上善男）／Visual Poetry（中村恵一）／Visual Poetry
（サンレコ）／Collage + photo + poem（柴橋伴夫）／Visual Poetry（清水俊彦）／Visual
Poetry（高橋昭八郎）／Visual Poetry（田名部信）／Visual Poetry（K. トウリンケヴ

イツ) / Drawing (山口昌男) / Visual Poetry (ヤリタミサコ) / Drawing (艾沢詳子) / 視覚詩関連年表 / Visual Poetry 2000 in SAPPORO データ / Visual Poetry 2001 in SAPPORO データ / Posscript (Coordinate and edit (平原一良))

22. 『寺山修司の 21 世紀』 2002 年 5 月 4 日 編集: 『寺山修司の 21 世紀』刊行委員会
発行: 財団法人北海道文学館

収録: 目つむりていても (寺山修司のノマディズム (山口昌男) / 網走に行くけど一緒に行く? (九條今日子) / 天上の足音、巨人の、……故寺山修司氏に (吉増剛造) / 「俺は 15 年しか生きられないんだ」 (横尾忠則) / 寺山修司の生まれかわりを探すプロジェクト (森崎偏陸) / 盗作 (荒木経惟) / 又、『雪』が降って来た (三上寛) / 世界の涯てまで連れてって (J. A. シーザー) / アナグラム修司学 (榎本 (バソン) 了壺) / 1977 年・夏 僕はサッポロにいた (稲葉憲仁) / 自称「天井桟敷イベント部員」として (大澤由喜) / 初めて寺山修司に会った日 (霜田千代麿) / アレ、ちょうだい (高橋章子) / 寺山修司の思い出 (細江英公) / 吾を統ぶ (修司考 ミス・ビードル号の赤い残影 (村上善男) / カウンター・パンチ (高取英) / 寺山修司という名の虚構 (長尾三郎) / 美への怨念—『新釈稲妻草紙』を読む— (神谷忠孝) / 春の水を祖国とよびて—世界を変える言葉のカー (菱川善夫) / 先駆的遊牧民 (小笠原賢二) / 十七音銀河系—寺山修司は何故、俳句を辞めたのか (西川徹郎) / わたしの内なる《寺山》イコノグラフィア (工藤正廣) / 寺山修司の《感情教育》 (栗坪良樹) / 五月の鷹 (十三の砂山) (田之倉稔) / 勝敗原理への根元的批判者 (今福龍太) / 血は立ったまま眠りを揺り動かす……わが 60 年代のテラヤマ体験 (笠井嗣夫) / Nachdichtung の傑作—寺山修司『ボクサー』と阪本順治『どついたらねん』— (中澤千磨夫) / 寺山修司という経験 (江藤茂博) / 先行者寺山修司 (堯原文和) / where?—wild side への帰還の問題 (田中綾) / 昏い祝祭 (平原一良) / 五月の鷹—寺山修司の俳句・短歌抄 50 (田中綾 選) / 目次 / あとがき

23. 『中沢茂 ——ひとりの賑やかさ——』 2002 年 6 月 29 日 編集・発行: (財) 北海道文学館

収録: はじめに / 写真グラビヤ / 『助命歎願』——文学的風土の創造——抄 (小笠原克) / 「中沢茂論」——自己精算の文学——抄 (鳥居省三) / 中沢さんの文章 (小松茂) / 中澤茂さん (澤田誠一) / 中沢茂の作品から (「助命歎願——落葉松顛末——」抄 / 「中沢原」抄 / 「紙飛行機」抄 / 「イロハの『ん』号」抄) / 中沢茂略年譜

24. 『特別企画展 大自然に抱擁されて… ～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～』 2002 年 8 月 1 日 編集: 財団法人北海道文学館 発行: 北海道立文学館

収録: 知里幸恵略年譜 / グラビア 大自然に抱擁されて… ～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～ / 知里幸恵のユーカラ (萩中美枝) / 『アイヌ神謡集』のおもしろさ (切替英雄) / 幼い頃の幸恵、女学生時代の幸恵 (青柳文吉) / 抄録「知里幸恵ノート」

- 〈Kamuikar (kamui chikap kamui) / Onne Pashkur ine? 年寄り鳥は何処へ行った? / Urekreku 謎 (抄)〉
25. 『林芙美子…北方への旅』 2003年7月10日 編集・発行：財団法人北海道文学館
 収録：林芙美子紀行短篇選〈江差追分／樺太への旅／摩周湖紀行—北海道の旅より—／幌内河畔／空の紀行リレー〉／林芙美子小論〈林芙美子と戦争—「戦争の崇高な美しさ」とは— (神谷忠孝) / グラビア 林芙美子の北海道・樺太 (サハリン) への旅 (構成 青柳文吉) / 林芙美子の北方への旅立ち (青柳文吉) / 林芙美子と作中人物 (岡本茂子) / 原点としての『蒼馬を見たり』 (平原一良)〉 / 凡例
26. 『函館—青森 海峡浪漫』 2003年11月3日 編集・発行：財団法人北海道文学館
 収録：口絵／第一部 《海峡浪漫》考〈海峡浪漫に寄せて (佐々木譲) / 東海歌を巡って —大森浜と蟹— (桜井賢治) / 青森県の文学 (齋藤三千政) / あの進藤に身を委ね (村上善男) / 海峡 —葛西善蔵と北海道— (神谷忠孝) / 海峡の女神 (工藤正廣)〉 / 第二部 《海峡浪漫》抄〈津軽海峡 (抄) (島崎藤村) / 雪をんな (葛西善蔵) / 雨雀自伝 (抄) (秋田雨雀) / 土にかへれ (抄) (鳴海要吉) / 北国物語 (抄) (船山馨) / 津軽・思ひ出 (抄) (太宰治) / 青函連絡船 (抄) (坂本幸四郎)〉 / 函館、そして青森へ (平原一良)
27. 『更級源蔵生誕一〇〇年 北の原野の物語』 2004年7月24日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道立文学館
 収録：《グラビヤ／解説》 / 更級源蔵詩抄 / 更級源蔵略年譜 / 詩的感性の行方 —— 管見・更級源蔵—— (平原一良) / 更級源蔵詩集『凍原の歌』の《戦争詩》をめぐって (青柳文吉)
28. 『企画展 仙華紙からの出発～雑誌に見る「戦後」の姿～』 2004年12月4日 主催：北海道立文学館 / (財)北海道文学館
 収録：いわゆる“札幌版”時代の娯楽よみもの系出版物 (平澤秀和) / 仙花紙からの出発～雑誌に見る「戦後」の姿～ / 企画展「仙花紙からの出発」出品リスト
29. 『北の風土の批評精神 発生と展開～風巻景次郎から小笠原克へ～』 2005年2月26日 編集・発行：財団法人北海道文学館
 収録：口絵 / 人文主義批評の開花 / 風巻景次郎と小笠原克 (菱川善夫) / 小笠原克さん寸描 (宇治土公三津子) / 批評的・郵便的な先導者 (日高昭二) / 出会いのとき (野坂幸弘) / 北海道における一九六〇年代の研究、評論 (神谷忠孝) / 小笠原活の仕事 (岡本茂子) / 資料編〈四十度圏の幻想 (風巻敬次郎) / 風巻敬次郎 小笠原克宛書簡 (一九五八年五月七日) / 小笠原克 中野重治宛書簡 (一九七一年三月五日) / 中野重治 小笠原克宛葉書 (一九七一年三月七日) / 小笠原克 中野重治宛書簡 (一九七一年三月十一日) / 小笠原克 西田静子宛書簡 (一九七一年三月十一日) / 小笠原克 中野重治宛書簡 (一九七一年六月八日) / 中野重治 小笠原克宛葉書 (一九七一年六月十一日) /

小笠原克 中野重治宛書簡（一九七一年八月三十一日）／中野重治 小笠原克宛書簡（一九七一年十月五日）／物故研究者 プロフィール／関連略年表／批評と研究の山並みを遠望する（平原一良）

目録

1. 『北海道関係文芸雑誌所蔵目録稿 昭和 55 年 12 月末現在』 1981 年 3 月 発行：北海道文学館事務所 目次無し
2. 『北海道関係詩書所蔵目録稿 昭和 56 年 12 月末現在』 1982 年 3 月 発行：北海道文学館事務所
収録：詩集／詩論・伝記など／高橋留治文庫〈詩集／訳詩集／詞華集／詩史／詩論／伝記・研究／詩誌／歌集／歌書詞華集／歌誌／歌論／句集／歳時記・雑／句誌〉
3. 『北海道関係句書所蔵目録稿 昭和 57 年 12 月現在』 1983 年 3 月 発行：北海道文学館事務所
収録：句集／合同句集／随筆／句論・研究／歳時記／川柳／文芸雑誌
4. 『北海道関係歌書所蔵目録稿 付. 文芸雑誌（追補 2） 昭和 60 年 12 月末現在』 1986 年 3 月 発行：北海道文学館事務局
収録：歌集／合同歌集／歌論・研究・随筆／文芸雑誌（追補 2）
5. 『高橋留治文庫 収蔵資料目録』 2000 年 3 月 30 日 編集・発行：財団法人北海道文学館／北海道立文学館
収録：例言／凡例／高橋留治略年譜／詩書収集閑話 高橋留治／第 1 部 高橋留治文庫総目録（分類別）／第 2 部 高橋留治文庫書籍目録（著者五十音順）
6. 『収蔵資料目録 久保栄資料目録』 2005 年 3 月 25 日 編集・発行：財団法人北海道文学館・北海道立文学館
収録：凡例／図版／久保栄資料について／久保栄略年譜／目録〈1 特別資料／2 図書（和書）／3 図書（洋書）／4 逐次刊行資料（雑誌）／5 資料番号一覧〉

紀要

1. 『北海道立文学館 紀要』
 - 1-1. 『1995 北海道立文学館 紀要』 第 1 号 1996 年 3 月 28 日 編集・発行：北海道立文学館
収録：発刊の辞（木原直彦）／船山馨一初期劇作とその周辺（永野曜一）／島木健作「住所録」の年（時期）特定に関する考察（田沢義公）／高橋留治遺品寄贈資料の概要 一昭和 62 年以降ミツ夫人よりの寄贈分一（小川眞智子）
2. 『資料情報と研究』
 - 2-1. 『2000 資料情報と研究』 2000 年 3 月 25 日 編集：財団法人北海道文学館 発

行：北海道立文学館

収録：本庄陸男作品年譜（八子政信編）／資料紹介〈本庄陸男「逆流」（青柳文吉）／八並誠一本庄陸男書簡（葉書八通）（青柳文吉）

2-2. 『2002 資料情報と研究』 2002年3月20日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道立文学館

収録：和田徹三旧蔵資料について（平原一良）／和田徹三旧蔵書籍解説（亀井志乃）／寒川光太郎小論～樺太庁博物館時代を中心に～（青柳文吉）／資料紹介 藤澤建夫寄託資料における楽譜手稿について（原田英明）／資料紹介 伊藤整の全集逸文について（小川靖子）／小林多喜二「故里の顔」自筆原稿をめぐって（宮坂頌子）

研究誌（シリーズ）

1. 『北海道文学ライブラリー』

1-1. 『船山馨——北の抒情』 1996年5月20日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道新聞社

収録：船山馨 文学散歩（朝倉賢）／船山馨 文学地図／評伝 船山馨（川西政明 川西阿貴）／主な作品から〈北国物語／稚情歌／見知らぬ橋／『北国物語』のこころ札幌／『石狩平野』のことなど／北海道の風物／創成川〉／船山馨の作品〈『私の絵本』／『北国物語』／『稚情歌』／『蘆荻』／『石狩平野』／『お登勢』／『蘆火野』／『茜いろの坂』／エッセイ・その他〉／船山馨の思い出〈船山馨のころ（八木義徳）／「見知らぬ橋」をめぐって（小松伸六）／『茜いろの坂』の周辺（原田康子）／船山馨先生のこと（渡辺淳一）／一枚の鏡（小笠原克）／酒と夢物語（八重樫實）〉／略年譜／主要著書一覧

1-2. 『渡辺淳一——ロマンの旅人』 1997年3月31日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道新聞社

収録：渡辺淳一文学アルバム【その1】／渡辺文学の魅力〈渡辺文学の魅力（川西政明）／札幌時代の渡辺文学（朝倉賢）〉／渡辺淳一文学アルバム【その2】／主な作品から〈阿寒に果つ／何処へ／死化粧／リラ冷えの街／流氷への旅／花埋み／冬の花火／君も雛罌粟われも雛罌粟／ひとひらの雪／うたかた〉／渡辺淳一文学アルバム【その3】／断想——ロマンの旅人〈渡辺淳一君の歌（中山周造）／医学生、渡辺淳一（河邨文一郎）／「くりま」同人 渡辺淳一（倉島齊）／折りおりの顔（藤堂志津子）／ふみ子の大きさ（俵万智）／つかず離れず、三十年（有馬千代子）／男の本質、女の本質（津川雅彦）／渡辺先生のこと（林真理子）〉／渡辺淳一文学地図／渡辺淳一略年譜／渡辺作品文庫一覧

1-3. 『三浦綾子 いのちへの愛』 1998年5月28日 編集：財団法人北海道文学館 発行：北海道新聞社

収録：三浦綾子文学アルバム／三浦綾子 文学散歩（東延江）／三浦綾子 文学地図
／祈りの軌跡——三浦綾子が描く北の大地の人間像（神谷奈保子）／翻訳されている
三浦文学の魅力（高野斗志美）／主な作品から『氷点』／『続氷点』／『塩狩峠』／
『泥流地帯』／『銃口』／三浦綾子を語る〈「妹」三浦綾子の断片（高坂百合子）／
三浦文学の魅力——「正義」と「理想」を求めて（黒古一夫）／記念文学館づくりを
通して（片山晴夫）／三浦綾子略年譜／三浦綾子作品文庫本一覧

研究誌

1. 『図録・日本文学百年のあゆみ』 1968年10月26日 編集：北海道文学館 発行：
富貴堂
収録：近代文学一〇〇年〈明治前期／明治後期／大正期／昭和戦前／戦後の文学〉／
PHOTO〈明治千期〔明治の開化と開花／逍遙と二葉亭／硯友社の人びと／露伴・一葉
『文学界』／うたびとの群／大衆との結びつき〕／明治後期〔新文学の胎動／自然主義
の作品群／自然主義の作家たち／漱石とその周囲／森鷗外／反自然主義〕／大正期〔白
樺派の諸作家／漱石と『新思潮』の作家たち／鷗外とその周辺／佐藤春夫その他／『奇
蹟』派の人びとなど／大正期の名詩集・名歌集〕／昭和戦前〔新感覚派の登場／芸術派
の人びと／プロレタリア文学の出発／弾圧に抗して／戦中の大家／戦時下＝順応と非
順応〕／戦後の文学〔灰燼の中から／戦後文学の登場／老作家よみがえる／みなぎる活
力／評論の季節／現代文学のカオス〕／主要文学者没年一覧
2. 『北海道文学地図』 1979年2月15日 編集：北海道文学館 発行：北海道新聞社
収録：北海道文学地図〈小説（戦前）地図／小説（戦後）地図／作家・評論家足跡図／
詩集地図／詩人足跡図／小説・詩碑地図／児童文学地図／児童文学者足跡図／歌集地図
／歌人足跡図／歌碑地図／句集地図／俳人足跡図／句碑地図／函館文学散歩／小樽文
学散歩／札幌文学散歩／旭川文学散歩／釧路文学散歩〉／北海道文学碑目録／北海道・
その文学風土（空知川の岸边（国木田独歩）／初めて見たる小樽（石川啄木）／北海道
に就いての印象（有島武郎）／祖国愛と郷土愛（中村武羅夫）／歴史のない国（岡田三
郎）／吹雪の味（森田たま）／故里の顔（小林多喜二）／文学的自叙伝（島木健作）／
草根木皮（本庄睦男）／札幌と新劇（久保栄）／故郷の風物（伊藤整）／積丹半島（吉
田一穂）／平原に育って（加藤愛夫）／熊牛原野（更科源蔵）／北海道の劣等感（八木
義徳）／北海道の作家達（船山馨）／ふるさとを想う（和田芳恵）／天塩の原野に沈む
月（武田泰淳）／北海道五世（原田康子）／北海道文学の系譜（亀井勝一郎）／あと
がき
3. 『北海道文学百景』 1987年5月30日 編集：北海道文学館 発行：共同文化社
収録：渡島・桧山地方〈津軽海峡〔宇野浩二／吉田一穂／館山専一・笠井信一／北光星・
園田夢蒼花〕／函館〔亀井勝一郎／鶴川章子／石川啄木・白山友正／大谷句佛・斎藤玄〕

／立待岬〔石川啄木／三吉良太郎／与謝野寛・福村洋子／岡本昼虹・福田紀伊〕／五稜郭〔丹羽文雄／小野連司／太田水穂・堀井美鶴／竹田磊石・阿部慧月〕／女子修道院〔三島由紀夫／片平庸人／村上清一・西村淑子／相葉有流・恩田秀子〕／駒ヶ岳・大沼〔李恢成／光城健悦／佐々木信綱・松谷一令／巖谷小波・野見山朱鳥〕／八雲〔鶴田知也／山本丞／石樽千亦・長谷川慎吾／松澤敏江・田川飛旅子〕／男子修道院〔南部修太郎／三木露風／吉植庄亮・竹内兎陽／阿波野青畝・松澤昭〕／松前〔岡田三郎／佐々木逸郎／佐藤俊雄・新蔵利男／青木郭公・武田檳榔子〕／江差〔綱淵謙錠／谷口良則／小森利夫・横田庄八／山岸巨狼・恩地樺雪〕／奥尻島〔木内宏／飯島右子／葛原繁・加賀谷ユミコ／千葉仁・島ふで女〕／胆振・日高地方〔洞爺湖・昭和新山〔新田次郎／石川一遼／与謝野晶子・高橋信子／臼田亜浪・長谷川かな女〕／室蘭〔葉山嘉樹／大場豊吉／波木凡平・酒本寿朔／山口青邨・石原舟月〕／登別温泉〔徳田一穂／堀井利雄／赤倉憲一・長谷川正治／高濱虚子・五十嵐播水〕／白老〔和田謹吾／小池栄寿／宇都野研・木村正雄／五十嵐播水・比良暮雪〕／樽前山〔火野葦平／津田遥子／笹原登喜雄・吉田乙丸／渡辺手寒・角川照子〕／苫小牧・勇払原野〔杉浦明平／浅野晃／林吉博・宮崎芳男／平井さち子・新藤紫〕／平取〔金田一京助／萱野茂／谷口三枝子・平松勤／新田汀花・小池次陶〕／静内〔宮本輝／向井豊昭／森竹竹市・山羊栄一郎／北光星・新妻博〕／襟裳岬〔開高健／草野心平／千代國一・芥子沢新之介／伊藤雪女・草皆白影子〕／後志地方〔羊蹄山〔有島武郎／枯木虎夫／吹田晋平・市川守国／塩野谷秋風・金谷信夫〕／ニセコ連峰〔深田久弥／入江旭／北見恂吉・山下秀之助／岡村浩村・古田冬草〕／岩内〔長田幹彦／沙良峰夫／橋本徳寿・青山ゆき路／泉天郎・佐藤十狼〕／雷電海岸〔水上勤／須田抄二／小田観蚩・西岡徳蔵／寺田京子・山岸巨狼〕／積丹半島〔幸田露伴／吉田一穂／椎名義光・湯本恵美子／野村泊月・鮫島交魚子〕／余市〔吉田十四雄／左川ちか／高橋和光・川上喜代一／鮫島交魚子・藤田湘子〕／小樽〔伊藤整／米谷祐司／西勝洋一・小田重子／渡辺白泉・三ッ谷謡村〕／小樽運河〔小林多喜二／萩原貢／増谷龍三・湯本竜／渡辺俳瞳・津田露木〕／石狩地方〔札幌〔和田芳恵／阿部保／佐々木千枝子・足立敏彦／石塚友二・木村敏男〕／赤レンガ〔岩野泡鳴／竹吉新一郎／土岐善麿・大平忠雄／山口誓子・飯田龍太〕／時計台〔森田たま／三浦栄／近藤芳美・鍋山隆明／秋元不死男・伊賀上泉〕／北海道大学〔船山馨／横山芳介／扇畑忠雄・魚住あらた／荻原井泉水・横道秀川〕／植物園〔渡辺淳一／佐藤一雄／辰田安隆・本間美鶴子／寺田京子・島恒人〕／大通公園〔澤田誠一／木内進／吉井勇・柳本志津子／松原地蔵尊・細谷源二〕／ススキモ〔小檜山博／松本一哉／吉田秋陽・東繁造／中村還一・勝又木風雨〕／藻岩・円山〔石森延男／桜庭幸雄／宮田益子・茂木健太郎／青木郭公・長谷部虎杖子〕／定山溪温泉〔高橋揆一郎／東延江／山下秀之助・酒匂親幸／花の本聴秋・石井露月〕／月寒〔正宗白鳥／藤原定／長沢美津・山名康郎／飯田龍太・高濱年尾〕／千歳空港〔有馬頼義／斉藤征義／石橋豊次郎・岡井隆／伊藤凍魚・吉村唯行〕／支笏湖〔夏堀正元／鈴見

健次郎／小国孝徳・遠藤秀子／嶋田一步・依田明倫〕／石狩平野〔中村武羅夫／小田邦雄／尾山篤二郎・伊東音次郎／富安風生・加倉井秋を〕／石狩川〔本庄睦男／坂本露夫／田辺杜詩花・宮西頼母／橋本夢道・成田千空〕／石狩河口〔寺久保友哉／館美保子／大森亮三・坂田資宏／中村草田男・三谷昭〕／野幌〔久保栄／奥保／手塚義隆・石丸幸男／久保二瓢・阿部みどり女〕／厚田〔子母沢寛／支部沈黙／小森利夫・宮崎芳男／近藤潤一・角川春樹〕／空知地方〈空知野〔寺島柁史／山内栄二／野田牧望・岩城三郎／正岡陽炎女・三輪不撓〕／長沼〔辻村もと子／中島葉那子／渡辺直吉・石川澄水／川端麟太・金崎葎杖〕／夕張〔外岡秀俊／浅野明信／鎌田一・細野陽子／水野波陣洞・古田冬草〕／岩見沢〔林芙美子／加藤愛夫／塚本光雄・吉田福太郎／園田夢蒼花・竹村茅雨〕／月形〔西野辰吉／坪松一郎／佐々木あや子・松川洋子／文挾夫左恵・粕谷草衣〕／歌志内・上砂川〔重兼芳子／国木田独歩／樋口賢治・甲斐理恵子／伊藤彩雪・勝又木風雨〕／滝川・新十津川〔平野直／林芙美子／藤森蝶二・樋口賢治／菊地滴翠・石黒白萩〕／空知川〔国木田独歩／朝香進一／平松勤・金子静光／栗林一石路・古澤太穂〕／上川・留萌地方〈神居古潭〔中山義秀／今野大力／九条武子・野村清／室積徂春・野見山朱鳥〕／旭川〔三浦綾子／小熊秀雄／島田修二・酒井広治／藤田旭山・高橋貞俊〕／春光台〔徳富蘆花／皆川庄五郎／中山勝・小林孝虎／金尾梅の門・高濱年尾〕／層雲峡〔木野工／西倉保太郎／松本五百子・三上省吾／飯田蛇笏・福田蓼汀〕／大雪山〔戸川幸夫／入江好之／宮柗二・金坂吉晃／石田雨圃子・遠藤梧逸〕／十勝岳〔佐藤喜一／加藤愛夫／西川青濤・江口源四郎／長谷川零餘子・大塚千々二〕／富良野〔倉本聰／時雨音羽／島木赤彦・山名薫人／牛島藤六・土岐鍊太郎〕／雄冬岬〔米村晃多郎／小柳透／辰野充子・中山周三／岡本昼虹・高田高〕／増毛〔吉村昭／柚木衆三／鳴海要吉・田村哲三／木村丁字・水見悠々子〕／留萌〔石原慎太郎／湯田克衛／橋本徳寿・三浦敏之／松橋英三・深谷雄大〕／名寄〔井上靖／酒井一郎／斎藤茂吉・小田観堂／牛島藤六・仲村参郎〕／天塩川〔飯塚朗／小山政明／土屋文明・中村洋吉／永田耕一郎・飴山実〕／天売・焼尻島〔有吉佐和子／更科源蔵／相良義重・玉田秀雄／小納迷人・笠松久子〕／十勝地方〈狩勝峠〔佐藤春夫／鈴見健次郎／斎藤茂吉・西村一平／河東碧梧桐・加藤楸邨〕／然別湖〔岡田喜秋／武田隆子／竹村まや・小島嘉雄／水原秋桜子・榛谷美枝子〕／十勝平野〔梶山季之／三谷木の実／深松芙士子・野原水嶺／松村蒼石・金子兜太〕／帯広〔福永武彦／牧野芳子／中城ふみ子・渡辺洪／井浦徹人・早川観谷〕／池田〔吉屋信子／小林小夜子／山口恵子・舟橋精盛／佐藤春夫・三宅草木〕／十勝川〔瀬戸内晴美／瀬尾明彦／寺師治人・安彦桂子／中島音路・内山筏三〕／十勝海岸〔上西晴治／佐藤春夫／大塚陽子・村上綾朗／矢田枯柏・伊藤柏翠〕／日高山脈〔坂本直行／森みつ／山名康郎・時田則雄／水野波陣洞・木村敏男〕／陸別・足寄〔司馬遼太郎／牧章造／土蔵培人・武田信義／天野宗軒・久保洋青〕／釧路・根室地方〈釧路〔中戸川吉二／永井浩／石川啄木・岡崎正之／皆吉爽雨・古舘曹人〕／弟子屈〔武者小路実篤／風山瑕生／

本間保・尾上紫舟／高濱虚子・飯田蛇笏〕／摩周湖〔八木義徳／更科源蔵／川村濤人・清水堅一／稲畑汀子・伊藤凍魚〕／屈斜路湖〔倉橋由美子／河邨文一郎／湊盤雄・高安国世／星野立子・久保田月鈴子〕／阿寒〔神近市子／秋谷豊／斎藤茂吉・戸塚新太郎／鈴木花蓑・加藤楸邨〕／根釧原野〔早川三代治／磯木雄介／渡辺民江・井口精一／角川源義・沖口遼々子〕／厚岸〔沢野久雄／竹内てるよ／土蔵培人・後藤直二／刀禰無句・鈴木青光〕／風蓮湖〔加賀乙彦／木津川昭夫／矢島京子・棚川音一／島恒人・田元北史〕／根室〔高見順／中沢茂／落合京太郎・北川頼子／新田汀花・高橋沐石〕／納沙布岬〔堀田善衛／原子修／佐藤佐太郎・管野美知子／古館曹人・斎藤青火〕／野付半島〔山本＝／中川悦子／石川保・西潟弘子／大町桂月・角川源義〕／羅臼〔武田泰淳／藤田光則／水口幾代・西里扶佐子／上村占魚・垣川西水〕／網走・宗谷地方〈知床〔瓜生卓造／渡辺茂／五味保義・武藤義友／高野素十・山田緑光〕／原生花園〔戸塚文子／中西梧堂／斎藤史・村田豊雄／石原舟月・嶋田摩耶子〕／網走〔島木健作／山室静／上田三四二・若山牧水／臼田垂浪・石川桂郎〕／能取岬〔田宮虎彦／東郷克郎／平野香・加藤克己／石原八束・伊藤彩雪〕／サロマ湖〔藤枝静男／渡辺茂／松村千代一・葛原妙子／高野素十・青葉三角草〕／紋別〔源氏鶏太／日塔聰／高田道子・岸孝子／斎藤玄・土岐鍊太郎〕／北見〔南部樹未子／岡田耀三／川田順・相良義重／唐笠何蝶・小松崎爽青〕／北オホーツク〔辻邦生／中野重治／猪股泰・青地繁／長谷川かな女・福田甲子雄〕／宗谷岬〔寒川光太郎／宮澤賢治／柴生田稔・中山信／岡崎古艸・森田峠〕／稚内〔古山高麗雄／新井章夫／宮田千恵・土屋文明／橋本鶏二・後藤軒太郎〕／サロベツ原野〔山本健吉／桜井勝美／村井宏・大久保興子／石原八束・永田耕一郎〕／利尻・礼文島〔大江健三郎／時雨音羽／太田青丘・中山周三／山口誓子・鈴木八駿郎〕／地方別文学地図〈渡島地方／桧山地方／胆振地方／日高地方／後志地方／石狩地方／空知地方／上川地方／留萌地方／十勝地方／釧路地方／根室地方／網走地方／宗谷地方〉／北海道文学主要論考／人名索引

4. 『北海道文学読本』

4-1. 『北海道文学読本〔小説・エッセー編〕』 1988年5月31日 編集：北海道文学館 発行：共同文化社

収録：同志田口の感傷（小林多喜二）／石狩川（第一章）（本庄睦男）／ほっちゃれ魚族（長見義三）／鳴海仙吉（一、二）（伊藤整）／漁夫画家（八木義徳）／凍原（船山馨）／雪女（和田芳恵）／雪の巣（原田康子）／姉妹（「小鳥」～「土産」）（畔柳二美）／長寿島（李恢成）／北海道と文学（島木健作）／私の文学経歴（抄）（亀井勝一郎）／自然のマントをじかに着て（中沢茂）／行人塚（澤田誠一）／萌える大草原（仔牛の死）（玉井裕志）／概説〈戦前（小笠原克）／戦後（神谷忠孝）〉／作者紹介

4-2. 『北海道文学読本〔詩・短歌・俳句編〕』 1988年5月31日 編集：北海道文学館 発行：共同文化社

収録：詩〈旅愁・鯨（吉田一穂）／雪明かり・落葉松の風（伊藤整）／鯨（鈴木政輝）／牧草地（加藤愛夫）／蒼鷺・雲（更科源蔵）／蹄鉄屋の歌（小熊秀雄）／航空兵ニツイテ（海老名礼太）／まんさくの花（竹内てるよ）／熊（向井夷希微）／焚火（伊東秀五郎）／人形讃歌（河邨文一郎）／知里真志保の詩（枯木虎夫）／思惟のみほとけ（森みつ）／夜と舗石（小柳透）／夜曲（坂井一郎）／崩壊（鈴見健次郎）／遠い日（新妻博）／草原にて・隣家（三谷木の実）／情夫論（羽田野幸子）／ソネット三（日塔聰）／大地の一隅 II（風山瑕生）／冬の獵人（佐々木逸郎）／投身（永井浩）／手袋（萩原貢）／あれは一つの太陽の（原子修）／牛（矢口以文）／朋友徳才（山川精）／雨（友田多喜雄）／海のある街にて（米谷祐司）／少年詩編（鷺谷峰雄）／彼は語る（高村光太郎）／曇り日のオホーツク海（北原白秋）／蕭やかなる時（三木露風）／吹雪の夜の会話（猪狩満直）／エリモ岬（草野心平）／北見の海岸（中野重治）／噴火湾（宮澤賢治）／安足間（百田宗治）／暁の原始林で（牧章造）／北方一（鷺巣繁男）／詩・概説〔戦前（佐々木逸郎）／戦後（永井浩）〕／短歌〈小田観蚩／山下秀之助／酒井廣治／宮崎芳男／中山周三／野原水嶺／芥子澤新之介／宮田益子／平松勤／北見恂吉／波木凡平／伊東音次郎／中城ふみ子／田辺杜詩花／相良義重／戸塚新太郎／小国孝徳／樋口賢治／中山勝／土蔵培人／水口幾代／矢島京子／西川青濤／川村濤人／岡崎正之／山名康郎／時田則雄／大塚陽子／小林孝虎／田村哲三／増谷龍三／石川啄木／土岐哀果／太田水穂／若山牧水／北原白秋／佐佐木信綱／与謝野晶子／斎藤茂吉／土屋文明／橋本徳寿／佐藤佐太郎／宮柊二／近藤芳美／吉井勇／高安国世／斎藤史／違星北斗／バチュラー八重子／古泉千樞／宇都野研／前田夕暮／短歌・概説（山名康郎）〉／俳句〈阿波野青畝／飯田蛇笏／飯田龍太／臼田亜浪／加藤楸邨／河東碧梧桐／高野素十／高濱虚子／中村草田男／野見山朱鳥／長谷川零餘子／水原秋櫻子／山口青邨／青木郭公／阿部慧月／天野宗軒／石田雨圃子／泉天郎／伊藤凍魚／牛島藤六／岡澤康司／勝又木風雨／金谷信夫／川端麟太／北光星／木村敏男／久保洋青／斎藤玄／鮫島摩耶子／新明紫明／杉野一博／園田夢蒼花／高橋貞俊／竹田凍光／寺田京子／唐笠何蝶／土岐鍊太郎／永井耕一郎／新田汀花／長谷部虎杖子／比良暮雪／深谷雄大／藤田旭山／古田冬草／細谷源二／水野波陣洞／矢田枯柏／山岸巨狼／山田緑光／横道秀川／俳句・概説（木村敏男）〉／作者紹介

5. 『知里幸恵「アイヌ神謡集」への道』 2003年9月24日 編集：財団法人北海道文学館／『知里幸恵『アイヌ神謡集』への道』刊行委員会 発行：東京書籍

収録：口絵／巻頭詩篇 いのち紡いで（戸塚美波子）／巻頭エッセイ 個人から神話へ——入口としての知里幸恵（池澤夏樹）／第一編 今に生きる知里幸恵〈自由の天地を求めて（知里むつみ）／幸恵さんからのメッセージ（計良智子）／幸恵の清しい詩 生誕百年によせて（小川早苗）／知里幸恵との出会い（加藤幸子）／知里幸恵おアイヌ民族の詩人たち（花崎皋平）／幸恵さんとみすゞさん（矢崎節夫）／生きる意味——知里

幸恵とキリスト教——（小野有五）／第二編 『アイヌ神謡集』を読む〈知里幸恵のユーカラ——語る文学と書く文学——（萩中美枝）／民族が子供に伝えるお話（富盛菊枝）／『アイヌ神謡集』をうたう（中本ムツ子）／『アイヌ神謡集』のアイヌ五をよみがえらせる（片山龍峯）／『神謡集』を面白く読むために（神谷忠孝）／動物たちと竜——『神謡集』の豊かな世界（矢口以文）／『アイヌ神謡集』と私（北道邦彦）／詩的共同体への祈り——『アイヌ神謡集』に——（原子修）／第三編 対話／コスモポリタンとしての幸恵、そしてアイヌ文化（山口昌男 小野有五）／第四編 アイヌ文化の広がり求めて〈喜びの文化（高田宏）／体の中のトキの音（加藤多一）／知里幸恵と二人の日本人（青柳文吉）／知里幸恵文学碑建立の思い出（荒井和子）／登別での墓参を通じて（中川悦子）／「登別」にあったこと（宮武紳一）／在天の幸恵よ……（山下敏明）／蘇る魂と「アイヌ文学」（相川公司）／山の名前・ぶらり思考（堀淳一）／編むということ——「あとがき」にかえて（平原一良）／イラスト・知里幸恵「手帳日誌」より（横山孝雄）／執筆者一覧／第五編 対訳 梟の神の自ら歌った謡「銀の滴降る降るまはりに」〈『神謡集』をアイヌ語で読もう（中川裕）／アイヌ語本文 *Kamuichikap kamui yaieyukar, “Shirokanipe ranran pishkan.”*・日本語訳（知里幸恵）／フランス語訳 *CHANT DE LA CHOUETTE*（津島佑子）／フランスの学生たちとともに（津島佑子）／英語訳 *Chant Sung by the Owl God Himself “Silver droplets falling, falling all around”*（サラ・ストロング）／アメリカで考える銀のしずく——「聞いていると優しい美しい感じが致します。」——（サラ・ストロング）／ロシア語訳 *Божья песня, пропетая с пантоммой Богиней-совой “сирокани пэранран писикан”*（工藤正廣 タチヤーナ・オルリャンスカヤ）／ロシア語訳の覚え書き（工藤正廣）／付編 知里幸恵 東京での一二九日（小野有五編）／知里幸恵略年譜

6. 『更級源蔵 滞京日記』 2004年7月23日 編集・発行：財団法人北海道文学館
 収録：口絵／目次／凡例／滞京日記 昭和二十年六月二十三日～八月十七日／付篇〈日高紀行／渡島紀行／十勝 大津・北見 網走・釧路 弟子屈紀行／北見紀行／渡島・檜山紀行／瀬棚・熊石・江差・奥尻旅行記／東京・東北紀行／解題（青柳文吉）〉／論考〈敗戦直前の東京の文学者達と更級源蔵 ——「滞京日記（昭和二十年）」の射程——（竹内清己）／そのとき、何を捉え何に捉えられたか（八子政信）／更級源蔵の位置（神谷忠孝）〉／更級源蔵略年譜／「滞京日記」翻刻余録（平原一良）

研究書

1. 『北欧叙事詩「カレワラ」の光彩 中野北溟の書作による神話世界』 1999年9月 著者：中野北溟 編集：北海道文学館 発行：『北欧叙事詩「カレワラ」の光彩』刊行委員会

事典

1. 『北海道文学大事典』 1985年10月30日 編集：北海道文学館 発行：北海道新聞社
収録：「北海道文学大事典」刊行の辞（北海道文学館）／北海道文学大事典執筆者／凡例／北海道文学大事典・人名編／北海道文学大事典・雑誌編／北海道文学大事典・事項編／北海道文学略年表（木原直彦編）／索引／編集後記

館報

1. 『北海道文学館報』
 - 1-1. 『北海道文学館報』 第1号 1967年6月27日 目次無し
収録：北海道文学館設立の趣意（北海道文学館）／意義ある難事業（伊藤整）／北海道文学館に賛成（中野重治）／北海道文学館設立について（更科源蔵）／経過報告など（木原直彦）／総会出席者名／北海道文学館規約／会員募集 ※原本未見
 - 1-2. 『北海道文学館報』 第2号 1967年9月15日 目次無し
収録：有島武郎文学展開催趣旨／有島武郎文学展御案内（山田昭夫）／受贈図書／受贈雑誌／寄付者名簿／文芸講演会の記／北海道文学館規約／会員募集／事務局日誌 ※原本未見
 - 1-3. 『北海道文学館報』 第3号 1968年3月30日 目次無し
収録：有島武郎文学展反省記（山田昭夫）／有島さんの書（石附忠平）／有島武郎文学展開催記念文芸講演会（沢田誠一）／詩人協会の現状と将来（入江好之）／道歌人会の現状と将来（相良義重）／悼・安住誠悦氏（小笠原克）／受贈図書／北海道俳句協会の現在と将来（伊藤彩雪）／相良氏の受賞（中山周三）／会員募集／受贈図書／受贈雑誌／資料・武者小路実篤から志賀直哉にあてた葉書／第二回（昭和四十三年度）総会ご案内／事務局日誌 ※原本未見
 - 1-4. 『北海道文学館報』 第4号 1968年10月1日 目次無し
収録：近代文学百年展／文学に見る北方風物展を觀て（加藤愛夫）／小熊秀雄詩碑と小熊秀雄賞のこと（谷口広志）／昭和43年度第二回総会の記（朝倉賢）／北海道文学館規約／文学の稚内このごろ（橋村隆志）／室蘭地方の文学状況について／バスによる文学散歩／会員募集／館章募集／寄贈のおねがい／原稿募集／事務局日誌 ※原本未見
 - 1-5. 『北海道文学館報』 第5号 1969年6月1日 目次無し
収録：夢いろいろ（中村還一）／近代文学百年展終わる／支部さんのこと（更科源蔵）／小樽行（小笠原克）／北海道旅の文学展（旭川地方の文学現況（佐藤喜一）／函館地方の文学状況（安東璋二）／名寄地方の文学昨今（富田正一）／文学館偶感（平山

広) / 釧路文学運動史・昭和編の出版記念祝賀会について (勝又光男) / 文化・教育のパイオニア (中村康) / 事務局日記 ※原本未見

1-6. 『北海道文学館報』 第6号 1969年9月20日 目次無し

収録: 昭和四十四年度 北海道文学館第三回総会の記 (豊島博男) / “旅の文学展”の感想 (比良信治) / 道俳壇ニュース (草皆白影子) / 道俳壇最近の動向 (相良義重) / 渡辺淳一氏の出発 (朝倉賢) / ひそかに思うこと (佐々木逸郎) / 「しりべし文学散歩」に参加して (大沢哲夫) / ドキュメント映画による文芸講座 好評裡に終了 / 資料寄贈のおねがい / 会員募集 / 事務局日誌 ※原本未見

1-7. 『北海道文学館報』 第7号 1970年4月20日 目次無し

収録: たてものとしての館 —高裁の建物など— (沢田誠一) / 日本の名詩集展を見る (能条伸樹) / 昨秋・富貴堂で「戦後のベストセラー展」を開く / 受贈図書 / 倉島斉の受賞 / 伊藤整氏の手紙 (坂下丹治) / 久我山の家 (北見恂吉) / 伊藤君の葬儀 (更科源蔵) / 第四回 (昭和四十五年度) 総会 / 事務局日誌 ※原本未見

1-8. 『北海道文学館報』 第8号 1970年10月20日 目次無し

収録: 「伊藤整・亀井勝一郎文学展」開催趣旨 / 伊藤整文学碑除幕式雑蔵 (武井静夫) / 会員募集 / 亀井勝一郎の文学碑 (木下順一) / 資料寄贈のおねがい / 伊藤性を偲ぶ文芸講演会 (牧野法郎) / 読書センターの現状 (入江好之) / 伊藤整・亀井勝一郎文学展開催記念北海道新聞文学賞贈呈記念記念文芸講演会 / 昭和45年度北海道文学館第四回総会略記 (小柳透) / 石狩川文学散歩の旅 感想にならない感想 (草皆白影子) / 「伊藤整・亀井勝一郎文学展」開催記念文学講演 / 事務局日誌 ※原本未見

1-9. 『北海道文学館報』 第9号 1971年5月20日 目次無し

収録: 記念文芸講演会の楽屋にて (和田謹吾) / 伊藤整・亀井勝一郎文学展〈青春の聴きを超えて (川辺為三) / 伊藤・亀井函館展のこと (鶴川章子) / 伊藤整・亀井勝一郎文学展にちなんで (おなしろう) / 伊藤・亀井展記念文芸講座を受講して 遅い目ざめであろうとも… (清野志保子) / 会員募集 / 北海道歌壇史の編纂 (相良義重) / 受贈図書 / 文化施設の整備 (宮崎芳男) / 事務局日誌 ※原本未見

1-10. 『北海道文学館報』 第10号 1971年11月10日 目次無し

収録: きたぐにに生きる詩魂と叙情 「北海道詩歌展」開催趣旨 (北海道文学館) / 「北海道に於ける現代詩の濫觴」のこと (佐々木逸郎) / 北海道文学館規約 / 昭和46年度 (第五回) 総会に出席して (寺田京子) / 胆振文学散歩馳へある記 (小柳透) / “後志文学の旅” 雑感 (木村真佐幸) / 会員募集 / 館章募集 / 資料寄贈のおねがい / 弔辞 宮田益子さん (沢田誠一) / 事務局日誌 / 受贈図書 ※原本未見

1-11. 『北海道文学館報』 第11号 1972年5月10日 目次無し

収録: 北海道詩歌展に就いての感 (小田観螢) / 詩歌展雑観 (大平忠雄) / 詩歌展てんまつ (木村敏男) / 展覧会心残りの記 (小柳透) / 川柳コーナーに参画して (斎藤

大雄) / 詩歌展のこと (坂田資宏) / 館章募集 / 「詩歌展」感想 (寺田京子) / 資料を作る (田村哲三) / 北海道詩歌展無妙記 (永井浩) / Show 的と学問的と (永平利夫) / 文学散歩予告 / 資料寄贈のおねがい / 事務局日誌 ※原本未見

1-12. 『北海道文学館報』 第 12 号 1972 年 11 月 1 日 目次無し

収録: 目で見える札幌文学散歩 / 「さとぼろ」懐古 (伊藤秀五郎) / 道南文学の旅 (広瀬龍一) / 私と北海道文学館総会 (倉島斉) / 資料寄贈のおねがい / 会員募集 / 石狩平原の手紙 (枯木虎夫) / 受贈図書 / 昭和 47 年度総会 / 館章募集 / 故草皆白影子氏の蔵書二一七冊寄贈さる / 事務局日誌 ※原本未見

1-13. 『北海道文学館報』 第 13 号 1973 年 8 月 1 日 目次無し

収録: 久保栄文学展 近代北海道の歩みとともに 開催趣旨 (北海道文学館) / 久保栄文学展実行要綱 (巨人の足跡をみる思い (沢田誠一) / 「札幌と新劇」のこと (佐々木逸郎) / 久保栄展・深く静かに潜航す (小笠原克) / 岷々たる絶壁「林檎園日記」勉強会に参加して (坂内弘治) / この秋、札幌に北方文学資料室開設さる / 清廉孤高の師を悼む 小田観螢先生の死 (増谷龍三) / 「目で見える札幌文学散歩」瞥見 (村田豊雄) / 受贈図書 / 資料寄贈のおねがい / 北海道文学館規約 / 第七回北海道文学館総会雑記 (高山亮二) / 『草皆白影子句集』について (木村敏男) / 事務局日誌 ※原本未見

1-14. 『北海道文学館報』 第 14 号 1974 年 8 月 30 日 目次無し

収録: 北海道女流文学展 / 北海道女流文学展開催記念行事 / 北海道にはじめての北方文学資料展示室開設さる (文学に見る札幌風物展開く / 記念行事も盛会裡に終る) / 昭和四十九年度 (第八回) 北海道文学館総会終る / 資料寄贈のおねがい / 山下秀之助先生をおもう (中山周三) / 大平忠雄氏のこと (山名康郎) / 「久保栄展」始末 (小笠原克) / 事務局の片隅から (古谷治子) / 林檎園日記に出演して (高木孔美子) / 久保栄文学展記念「林檎園日記」公園始末 (佐々木逸郎) / 会員募集 / 「日高・十勝文学の旅」雑感 (永沢茂子) / 北海道文学館規約 / 事務局日誌 ※原本未見

1-15. 『北海道文学館報』 第 15 号 1975 年 9 月 20 日 目次無し

収録: 戦後 30 年・北海道文学展 / 記念行事のご案内 (「網走まで」文学の旅” 雑感 (浅井省吾) / 北の詩魂 文学スライド「小田観螢人と作品」制作の記 (増谷隆三) / 小田観螢展を終えて (永平利夫) / 昭和 50 年度北海道文学歓送会記事 (小柳透) / 北海道文学館規約 / 北海道女流文学展を観て (石川貞子 山脇静子 石井美恵子) / 事務局日誌 / 資料寄贈のおねがい ※原本未見

1-16. 『北海道文学館報』 第 16 号 1976 年 8 月 14 日 目次無し

収録: 石狩川流域文学展 / 旭川展の意気込み (高野斗志美) / 「川柳に見る戦後の札幌」展より 時の流れと川柳の流れ (斎藤大雄) / 戦後三十年北海道文学展 (釧路) 始末 (鳥居省三) / 寺田京子さんを悼みて (平井さち子) / 森と湖の旅 (堺房子) /

北海道文学館規約／受贈図書／受贈雑誌／資料寄贈のおねがい／会員募集／事務局日誌 ※原本未見

1-17. 『北海道文学館報』 第 17 号 1977 年 3 月 1 日 目次無し

収録：“石狩川流域文学展”始末（小笠原克）／石狩川流域文学展・旭川展はじめおわり記（北けんじ）／石狩川吟行俳句大会記（木村敏男）／第十回総会／歌人・山下秀之助展の見どころ（中山周三）／受贈図書／受贈雑誌／北海道文学館規約／受贈資料／資料寄贈のおねがい／会員募集／道北文学の旅と私（若月玲子）／事務局日誌 ※原本未見

1-18. 『北海道文学館報』 第 18 号 1978 年 4 月 20 日 目次無し

収録：53 年の文学展ご案内／文学展・北の海〈《文学展・北の海》によせて（澤田誠一）／留萌展始末記（湯田克衛）／昭和五十二年度北海道文学館総会記事（島恒人）／札幌文学サークル展〈文学サークル展までのこと（山下和章）／展示に参加して（坂井悦子）〉／お礼を一言（田中和夫）／「札幌の文学サークル展」に参加して（小林倭子）／札幌・戦後演劇展〈「戦後・札幌演劇展」におもう（佐々木逸郎）／「札幌・戦後演劇展」記念座談会（佐々木逸郎）〉／寄贈図書／資料寄贈のおねがい／会員募集／事務局日誌 ※原本未見

1-19. 『北海道文学館報』 第 19 号 1979 年 4 月 30 日 目次無し

収録：館の拠点できる／五十四年度第一回展開く／現代北海道短歌展／ことしの文学展ご案内／「ほっかいどう児童文学展」報告記／児童文学の新しい潮（加藤多一）／資料寄贈のおねがい／札幌展を終えて（長野京子）／行事について（坪谷京子）／児童文学展にたずさわって 資料収集（広瀬ツル）／稚内展あれこれ（上原北郎）／稚内展を終えて（柴村紀代）／「さっぽろの俳句展」終る／「さっぽろの俳句展」終る俳句展から（木村敏男）〈俳句シンポジウムを終えて／「婦人俳句教室」を開いて／俳句ポスト〉／昭和五十三年度北海道文学館総会記事（島恒人）／「文学展・ふるさとの《窓》」始末 ふやら新書の 50 人のこと（和田義雄）／受贈図書／事務局日誌／会員募集／北海道歌人会創立 25 周年（永平利夫） ※原本未見

1-20. 『北海道文学館報』 第 20 号 1979 年 10 月 20 日 目次無し

収録：風土のなかの文学碑展／生きている文学碑（佐々木逸郎）／北海道の歌碑（坂田資宏）／北海道の句碑（島恒人）／昭和五十四年度（第 13 回）北海道文学館総会報告／「現代北海道短歌展」の記（永平利夫）／北海道現代短歌展を参観して（大塚陽子）／事務局日誌／会員募集／受贈図書等／資料寄贈のおねがい／北海道文学館規約 ※原本未見

1-21. 『北海道文学館報』 第 21 号 1980 年 7 月 10 日 目次無し

収録：「北海道・岬文学展」実施要領／風土のなかの文学碑展を展示して（小松瑛子）／風土のなかの文学碑展室蘭展会報／『文学碑展』の次に来るもの（高内智海）／文

学展ご案内／加藤さんの存在（更科源蔵）／現代北海道俳句展（島恒人）／二十五年を迎えた俳句協会（木村敏男）／「北海道・冬の文学展」を見て（及川はる子）／図像図書・雑誌等／収蔵資料について／事務局日誌／北海道文学館規約 ※原本未見

1-22. 『北海道文学館報』 第22号 1981年5月10日 目次無し

収録：「北海道関係文芸雑誌所蔵目録稿」できる／各地の文学近況（稚内地方（高津磨古刀）／北見地方（菅原政雄）／名寄地方（只木かほる））／雑誌《北方文芸》展（澤田誠一）／「石森延男児童文学展」のこと（和田義雄）／岬文学展に寄せて（佐藤梅子）／鮫島先生のこと（木村敏男）／青い皮袋 小柳透先生とのおわかれ（小松瑛子）／受贈図書・雑誌等／収蔵資料について／事務局日誌 ※原本未見

1-23. 『北海道文学館報』 第23号 1982年5月25日 目次無し

収録：「北海道・湖文学展」実施要領／“島木健作文学展”開催中（島木展を設営して（小笠原克））／「北海道関係詩書所蔵目録稿」できる（詩歌書との惜別（高橋留治）／秘蔵三、〇〇〇冊の重量感（瀬戸哲郎）／《峠文学展名寄店》のこと（加藤喜一）／「北海道文学全集展」を見て（木村真佐幸））／各地の文学状況（函館地方（安東璋二）／留萌地方（湯田克衛））／《弔辞》渡辺君を弔う（更科源蔵）／《逸文》早春記（伊藤整）／昭和五十六年度（第15回）北海道文学館総会報告／北海道文学館役員名簿／北海道文学館規約／受贈図書・雑誌等／収蔵資料について／哀悼／事務局日誌 ※原本未見

1-24. 『北海道文学館報』 第24号 1982年12月25日 目次無し

収録：この十五年（更科源蔵）（名と実と（和田謹吾）／亡くなった人々（相良義重）／回想の一つ（宮崎芳男）／源二にはもう会えない（園田夢蒼花）／感無量（小笠原克）／いつの間にか…（加藤多一）／雑感（木村敏男）／“札幌の文学・百年展”の頃（小松瑛子）／青写真（佐々木逸郎）／雪でも降ってくるように（澤田誠一）／北海道文学館の回想（島恒人）／北海道文学展のこと（中山周三）／裏方の感動（村井宏）／文学展で（和田義雄））／「中津川俊六全集」刊行さる／館のあゆみ／移動展がもたらしたもの（七年前のこと（鳥居省三）／石狩川流域文学展（佐藤喜一）／余震三つ四つ（湯田克衛）／児童文学展稚内展の思い出（上原北郎）／文学碑展から文学運動へ（かなまるよしあき）／「岬文学展」その後と問われて（中沢茂）／岬文学展名寄展その後（斎藤一郎））／文学展のかずかず（「島木健作文学展」を見て（佐藤晃）／「船山馨文学展」を見て（高野ケイ）／「北海道・湖文学展」雑感（坂井悦子）／成果大きい網走文学展 北海道“湖”文学展を開催して（疋田義久）／「鮫島交魚子、加藤愛夫文学展」を見て（宮西頼西））／各地の文学状況（旭川地区（高野斗志美）／室蘭地区（光城健悦）／網走地区（小池進））／哀悼（「すずらんは食えるか」後日談（神谷忠孝）／草原への訃 ああ吉田十四雄先生（玉井裕志））／総会報告 昭和五十七年度（第16回）北海道文学館総会報告／受贈図書・雑誌等／収蔵資料について／

事務局日誌／後記 ※原本未見

1-25. 『北海道文学館報』 第25号 1983年12月25日 目次無し

収録：歌一筋の生涯 一相良義重さん— (中山周三) / 市立小樽文学館 (薬師寺明) / 文学館設立運動 (旭川文学館設立を目ざして (谷口広志) / 未来への根拠地として 室蘭文学館設立運動のこと (かなまるよしあき) / 各地の文学状況 (苫小牧の文学状況 (菅井光夫) / 釧路の文学状況) / 文学館のかずかず (宮田益子回顧 (大久保興子) / 「大地と人間」の展示室 (萬正) / 大地と人間 帯広展に想う (千葉宣一) / 「にんげん坂本直行展」を見ての感想《北辛夷》(小田節子) / 「北ぐにの文学展」(東海林淳子) / 「八木義徳と北海道芥川賞作家展」(深海秀俊) / 各種年鑑情報 (30号を迎える「北海道詩集」(原子修) / 58年度版北海道短歌年鑑 (村井宏) / 北海道俳句年鑑の紹介 (山岸巨狼) / 昭和五十八年度版北海道川柳年鑑を出版して (斎藤大雄) / 札幌・旭山記念公園に寺田京子句碑を建立 (工藤欣弥) / 逸文 北海道文学界の現状 (伊藤整) / 総会報告 / 北海道文学館規約 / 収蔵資料について / 閲覧について / 哀悼 / 文学館取りつき書籍 / 受贈図書・雑誌等 / 事務局日誌 ※原本未見

1-26. 『北海道文学館報』 第26号 1985年12月25日 目次無し

収録：「北海道文学大事典」刊行 / 「地域文化功労賞受賞」 / 更科源蔵理事長死去 / 哀悼 更科源蔵理事長 (更科先生 (和田謹吾) / 弔辞 (佐々木逸郎) / 弔辞 (原田康子) / 更科理事長を送る (木原直彦) / 「北海道文学大事典」を読む (小松伸六) / 「北海道文学大事典」刊行の意義 (小田切進) / 「北海道文学大事典」(朝日新聞 昭和六十年十一月四日掲載) / 収蔵資料について / 譲原昌子の遺稿集があい次いで刊行 / 文学展のかずかず (「北海道児童文学全集展」に寄せて (廣瀬ツル) / 「北海道演劇資料展」をみて (東延江) / 北海道俳句協会創立三十周年記念 北海道俳句展 (島恒人) / 充実した資料が公表 にぎわう「北原白秋展」 / 文学にみる「北方風物」展 / 高橋留治文庫による「日本の名詩集展」二度目のキャプション (永井浩) / 各地の文学状況 (帯広地方の文学状況 (田村圭司) / '85・日高の文学 (堂本茂) / 追悼 (野原の小さな花を愛した 和田義雄さんを偲ぶ (渡辺ひろし) / 瀬戸哲郎さんの訃報) / 総会報告 / 功労者賞受賞の記 (西村信) / 事務局日誌 / 閲覧について / 受贈図書・雑誌等 / 哀悼 更科源蔵理事長 / 思ひ出・北海道 札幌のあの冬 (東京日日新聞・北海道権太版 昭 8.2.1) (宇野千代 東郷青児) ※原本未見

1-27. 『北海道文学館報』 第27号 1986年9月1日 目次無し

収録：存在感ある文学館を求めて (和田謹吾) / 総会報告 / 北海道文学館規約 / 「日本の文学館風景展」を見て (倉島齋) / 歌誌「原始林」四十周年記念展開かる / 有島武郎の旧邸復元・公開さる / 北海道詩集について (原子修) / 61年度版 北海道短歌年鑑 (村井宏) / 北海道俳句年鑑 (園田夢蒼花) / 難産をつづける「北海道川柳年鑑」(斎藤大雄) / 受贈図書・雑誌等 / 各地の文学状況 小樽の文学 (木ノ内洋二) / 哀

悼／閲覧について ※原本未見

1-28. 『北海道文学館報』 第28号 1987年5月30日 目次無し

収録：文学館二十年（和田謹吾）／一つの運動体（河西政明）／歩いてきた道（木原直彦）／私が選んだ秀作十首・十句／「石川啄木と野口雨情」文学風物展（鍋山隆明）／歌誌「原始林」四十周年記念展（島恒人）／石森延男と札幌の児童文学展 札幌の児童文学に「新しい流れ」を…（渡辺ひろし）／詩誌「核」三十周年記念展の展示を終えて（永井浩）／『北方論』から『凍土漂泊』まで（時田則雄）／開拓の村野旧有島家（木村敏男）／ヤムワッカナイにて（加藤多一）／受賞の人びと〈地域文化功労者表彰を受けて（河邨文一郎）／《北海道文化賞》受賞について（澤田誠一）／不易なものを見詰めて（田村哲三）／道文化奨励賞をいただいて（鳥居省三）／第20回北海道新聞文学賞受賞前後のこと（山川精）／北海道文学館総目次／受贈資料紹介／哀悼／北海道文学館20周年記念行事／事務局日誌／受贈図書 ※原本未見

1-29. 『北海道文学館報』 第29号 1987年8月30日

収録：館設立二十周年記念祝賀会アルバム／祝賀会の模様（西村信 佐々木逸郎 小笠原克）／祝賀会に出席して（戸田正彦 樋口游魚 只木かほる 小林金三 中村久子）／総会報告（工藤欣弥）／北海道文学館役員名簿／会員名簿／川端麟太先生を偲ぶ（間所祥司）／カーテン・コール（斎藤大雄）／館二十周年に想う（小松瑛子 園田夢蒼花 辻脇系一 永井浩 中山周三 宮崎芳男 村井宏 山名康郎）／詩誌「核」30周年記念展（木内進）／北海道文学百景（大河内昭爾）／旅ごころをそそる（久保田浩）／20周年記念の講座と文学散歩（神谷忠孝）／仕事の周辺（近藤潤一 菱川善夫 武井静夫 山下和章 吉田秋陽）／《全集逸文》懐しき札幌（武田泰淳）／わが雑誌を語る（狩野絵美子 高橋秀郎 青山ゆき路 堀川旦州）／近況報告／事務局日誌

1-30. 『北海道文学館報』 第30号 1988年5月10日

収録：館のいま／道立北海道文学館建設期成会の設立／道立北海道文学館建設期成会規約／役員名簿／基本構想／陳述書／二十周年記念展をみて（東延江）／俳誌『氷原帯』四十周年記念展の展示を終えて（鈴木光彦）／『氷原帯』創刊四十周年記念展を観て（富岡木之介）／「目で見る“風土と文学”展」好評のうちに終る／北海道歌人会創立三五周年記念展／和田理事長 同文化賞祝賀会の模様（神谷忠孝）／昭和六十二年各各種年鑑を読む（小海永二 村田俊秋 辻脇系一 桑野晶子）／仕事の周辺（笠原肇 倉島齊 柴村紀代 田村圭司 増谷龍三）／わが雑誌を語る（山田緑光 寺師治人 富田正一 田中和夫）／受賞の人びと（阿部慧月 岡本正敏 金谷信夫 熊谷政江 田辺愛子 玉井裕志 時田則雄 畑野信太郎 浜本美茶）／活性化について（木下史高）／各地の文学状況（樋口游魚 古澤勝則 春山希義 佐藤喜一 鳥居省三）／館編集・刊行物のご案内／牛になりたや（打木村治）／受贈図書／寄贈資料写真紹

介／事務局日誌

1-31. 『北海道文学館報』 第31号 1988年12月25日

収録：財団法人設立記念号／文学館の人格形成期（和田謹吾）／財団法人設立を記念して〈北海道文学館に寄せて（伊藤礼）／改めて横路知事の絶大な力を（小田切進）／文学館も観光コースに！（小松伸六）／文学の宝庫を守り育てる運動（夏堀正元）／一日も早い実現を（八木義徳）／文学の宝庫北海道（吉村昭）／財団法人北海道文学館設立趣意書／財団法人北海道文学館・顧問／財団法人北海道文学館役員名簿／財団法人化のための基金一覧／北海道文学館役員規程／会員名簿／第22回総会および臨時総会の記（富岡木之助）／道立北海道文学館建設期成会常任委員会報告／道立北海道文学館の建設／北海道文学館財団法人記念「近代日本の文豪—森鷗外展」を開催〈鷗外展に想う（木村真佐幸）／北海道歌人会創立三十五周年記念展を観て（今川美幸）／北海道新聞文学賞展を観て（小野規矩夫）／没後30年・久保栄文学展／わが雑誌を語る〈「季刊オリザ」（工藤正広）／詩誌「かばりあ」（堤寛治）／歌誌「宇波百合」（内田寛）／俳誌「雪華」（深谷雄大）／中山周三先生の北海道文化賞（田村哲三）／黒龍江省作家と交流（工藤欣弥）／受贈資料／展示室ご案内、寄付ご芳名ほか／受贈資料のうち一部写真紹介／事務局日誌／館のあゆみ（3）

1-32. 『北海道文学館報』 第32号 1989年6月10日

収録：第一回北海道文学集会 六月十七日に開催！！／パネルディスカッション 北海道文学館主催 現在を生きる姿勢を問う（草野ゆき子）／俳誌「葦牙」創刊七〇〇号記念展を観て（岡本正敏）／「胆振文学展」を終えて（野田克也）／藤堂志津子さん直木賞受賞祝賀会（東村有三）／稚内の文学状況（加藤多一）／わが雑誌を語る〈「札幌文学」（小松茂）／「パンと薔薇」（光城健悦）／「海鳴」（北見恂吉）／「樺の芽」（佐々木露舟）／森田たま生誕案内碑建つ／各種年鑑を読む（鶴川章子 杉本晃一 四方万里子 岡崎守）／受賞の人びと（斎藤大雄 高橋蘭 田中和夫 千田三四郎 中まり子 朴重鎬 平野香 深谷雄大 松井満沙志 松川洋子 山田緑光）／仕事の周辺（木内進 小林孝虎 菅原政雄）／この一冊〈中城ふみ子歌集「乳房喪失」（山名康郎）〉／一枚の写真〈われら海賊（園田夢蒼花）〉／近況報告／（財）北海道文学館処務規定／（財）北海道文学館資料利用規則／（財）北海道文学館資料利用料金一覧／道立図書館における北海道関係文学資料の収集・利用について（北海道立図書館北方資料室）／受贈資料の写真紹介（一部）／受贈雑誌最近号／受贈資料①②／平成元年度展示ご案内／宮崎芳男氏を悼む（山名康郎）／事務局日誌

1-33. 『北海道文学館報』 第33号 1989年11月14日

収録：作家生活二十五年記念 三浦綾子展開催／第一回北海道文学集会〈北方の文学と南方の文学（大河内昭爾）／第一回北海道文学集会によせて（石氏謙介）／大河内昭爾先生の御講演から（狩野絵美子）〉／平成元年度第二回理事会・第一評議員会／道

立北海道文学館建設期成会総会報告／陳述書／道立北海道文学館建設基本構想案／北海道女流作家第一号森田たま展開催〈残り火に震え（小田節子）〉／財団法人北海道文学館・顧問／財団法人北海道文学館役員名簿／団体会員名簿／個人会員名簿／石森延男生誕地案内板建つ／わが雑誌を語る〈「滝川文学」（吉田えいじ）／「環」（只木かほる）／「かぎろひ」（木村隆）／「柏林」（中嶋音路）〉／展示ご案内／受贈資料①②／年鑑を読む〈『北海道俳句協会年鑑』管見（島恒人）〉／住所の人びと（新明セツ子 谷崎眞澄 中田美栄子 松井鴉城夫）／仕事の周辺（勝又木風雨 吉井よう子）／この一冊〈あいぬ物語（長見義三）〉／一枚の写真〈写真にまつわる数々の思い出（八森虎太郎）〉／近況報告／受贈資料の写真紹介（一部）／北大図書館と文学書（秋月敏幸）／心残りすること（木内進）／事務局日誌

1-34. 『北海道文学館報』 第34号 1990年5月25日

収録：第二回北海道文学集会 六月九日に開催／北海道立文学館の設置調査費が計上される／作家生活二十五年記念三浦綾子展を開催す／感動した三浦綾子展の開会式（八柳鐵郎）／「三浦綾子展」旭川でも好評のうちに終る／三浦綾子展をお手伝いして（菅野叡子）／北海道川柳展を終えて（坪哲子）／川柳の心に触れ句への意欲わく（落合敏子）／「新十津川物語」展開催〈新十津川と私（川村たかし）〉／児童文学「新十津川物語」展開催にあたって（森紫朗）／受賞の人びと（今川美幸 笠松久子 小杉美恵 吉井よう子）／財団法人北海道文学館・顧問／財団法人北海道文学館役員名簿／仕事の周辺（安東璋二 笠原肇 辻脇系一）／年鑑を読む〈「北海道詩集」（塚田俊子）／「川柳年鑑」（櫛田礼文）〉／わが雑誌を語る〈『未完成』のこと（湯田克衛）／「俳海」の手前味噌（藤田旭山）〉／一枚の写真〈「お昇勢の碑」序幕（堂本茂）〉／この一冊〈「アイヌ民譚集」（佐藤喜一）〉／伊藤整文学賞に思う（井上一郎）／苫小牧市立中央図書館の文学コーナー／港の文学館の周辺（樋口游魚）／受贈資料／近況報告／平成二年度展示ご案内／北海道文学館の実現に向けて（神谷忠孝）／事務局日誌

1-35. 『北海道文学館報』 第35号 1990年10月31日

収録：北のロマンを奏でる一渡辺淳一文学展〈渡辺淳一文学展に寄せて（朝倉賢）〉／第二回北海道文学集会〈講演「私の北海道体験」（吉村昭）／文学集会の文学地図から（杉村暎子）／第二回北海道文学集会をばねに（千田三四郎）〉／「新十津川物語」展を見て（比良信治）／「新十津川物語」展にあたって（森紫朗）／文化情報誌展を企画して（西村信）／文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミンタラ」展に携って（芦口由紀）／「ニュースきょうどう・カムイミンタラ」展を終えて（三浦幸司）／北海道文学館移動展『石川啄木と野口雨情』（樋口游魚）／「新墾」六十年 偶感（坂田資宏）／歌誌「新墾」創刊六十周年を迎えて（大和谷慶一）／哀悼〈高倉新一郎先生（澤田誠一）／今井道雄会長を偲ぶ（河邨文一郎）〉／受賞の人びと（葛西幸子 斎藤邦男 高瀬白洋 辻脇系一 藤川碧魚）／仕事の周辺（大森亮三 窪田薫 小檜山

博 武田隆子 山内栄治) / わが雑誌を語る〈「蟹」(小村たか子) / 「あいどず」(永井浩) / 「北方短歌」(小林孝虎) / 「えぞにう」(鈴木青光) / 年鑑を読む〈「北海道短歌年鑑」(大家勤) / 「北海道俳句年鑑」(藤谷和子) / 一枚の写真〈「^{もず}百舌の巢戯曲研究会」(中沢茂) / 市立函館図書館における北海道文学関係・今日井作家関係の資料について / 近況報告 / 受贈資料の写真紹介(一部) / 所蔵資料紹介 / 受贈資料 / 平成二年度第一回理事会を開く / 平成二年度第二回理事会・第一回評議会開く / 境界ゆえに(工藤正広) / 事務局日誌

1-36. 『北海道文学館報』 第36号 1991年5月25日

収録：第三回北海道文学集会六月八日開催！！ / 北海道文学館設置検討委員会の報告書出る / 北のロマンを奏でる渡辺淳一文学展終る〈北へ“回帰する”作家—渡辺淳一文学展に思う(影山勲) / 同時代人としての感慨(土屋晴義) / 文学展 市町村文芸誌展—道東・道北編—を観て(川邊爲三) / 今秋来道六十年記念齋藤茂吉展開催 / 道立北海道文学館建設期成会総会報告 / 受賞の人びと(長見義三 甲斐ゆみ代 蒲生ゆかり 新藤一車 永田耕一郎 野江敦子) / 仕事の周辺(谷口亜岐夫 新妻博 日野田淡次 横田庄八) / 平成二年度第三回理事会報告 / 《覆刻》郷土文學に就て(早川三代治) / 井上靖と旭川(高野斗志美) / わが雑誌を語る〈「人間像」(針山和美) / 「核」(河邨文一郎) / 「岬」(増谷龍三) / 「青女」(新明紫明) / 平成二年度第四回理事会・第二回評議会報告 / 年鑑を読む『北海道詩集』(矢口以文) / 『北海道川柳年鑑』(石橋水絵) / 所蔵資料の写真紹介(一部) / この一冊〈詩集『第百階級』に思う(伊東廉) / 哀悼〈川村濤人氏の思い出(高橋和光) / 北見氏と三つの顔(武井静夫) / 藤田旭山翁を悼む(園田夢蒼花) / 旭川市立図書館の北海道文学関係・郷土作家の資料について / 近況報告 / 平成三年度展示ご案内 / 受贈資料 / 受贈雑誌最近号 / 館のあゆみ(4) / 事務局日誌

1-37. 『北海道文学館報』 第37号 1991年9月17日

収録：来道六十年記念 齋藤茂吉展〈齋藤茂吉と北海道(田村哲三) / 赤光(澤田誠一) / 来道六十年記念齋藤茂吉展出陳史料紹介 / 第三回北海道文学集会〈講演「樺太のこと千島のこと」(綱淵謙錠) / 綱淵文学の神髄(合田一道) / 持続と断念のはざま —市町村文芸誌展《道央・道南編》をみて—(いのうえ・ひょう) / 「文学展・花の歳時記」を観て(中川悦子) / 移動展「石森延男と室蘭の児童文学」を観て(厨川道子) / 平成三年度第一回理事会・評議員会報告 / 財団法人北海道文学館役員名簿 / 団体会員名簿・個人会員名簿 / 受賞の人びと(井出郁子 近藤潤一 谷口亜岐夫 渡会やよひ) / 仕事の周辺〈詩集出版をめぐる打ち明け話(大貫喜也) / 覆刻「北海道を訪れた文壇人」(渡邊茂) / わが雑誌を語る〈「北海文学」(園邊甲治) / 「北土」(吉田秋陽) / 「雪嶺」(星野松路) / 一枚の写真『夜汽車文学会の頃』(かなまる・よしあき) / この一冊〈芥川の童話豪華本(木野工) / 市立釧路図書館における北

海道文学関係・郷土の作家関係の資料について／年鑑を読む〈「北海道短歌年鑑」(大朝暁子)／「北海道俳句年鑑」(鈴木青光)〉／近況報告／北海道文学館所蔵 北海道市町村民文芸誌目録／受贈資料／哀悼 田上義也さんを悼む(河邨文一郎)／事務局日誌

1-38. 『北海道文学館報』 第38号 1992年5月1日

収録：第四回北海道文学集会五月二十三日開催／道立北海道文学館建設期成会総会報告／道立北海道文学館建設に係る道知事・道教育長への陳情／来道六十年記念 斎藤茂吉展終る〈斎藤茂吉展を観て(堀井美鶴)／一つの文学的な足取り 文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展(高橋ゆたか)〉／受賞の人びと(足立妙子 伊東廉 岡崎たけ子 岡澤康司 木村政子 高橋揆一郎 寺西百合 屋中京子 和田謹吾)／覆刻「発電所の思い出」(畔柳二美)／わが雑誌を語る〈「鷹」(吉川みず江)／「小樽詩話会」／「樹氷」(北見弟花)〉／年鑑を読む〈「北海道詩集」(畑野信太郎)／「北海道川柳年鑑」(佐藤正)〉／平成三年度第二回理事会・評議員会／この一冊〈私にとって大切な一冊 石上玄一郎「精神病学教室」(鳥居省三)〉／帯広市図書館における北海道文学及び郷土の作家関係の資料について／哀悼〈冬の雨(小松瑛子)／別れ・消えたうた(西村信)／逸郎さん、さようなら(木原直彦)／佐々木君(堀越義三)／やっぱり怖い、佐藤喜一先生(北けんじ)／渡辺ひろしさんを悼む(長野京子)〉／平成三年度第三回理事会報告／受贈資料／受贈資料写真紹介(一部)／近況報告／平成三年度第四回理事会・第三回評議員会報告／事務局日誌／平成四年度展示ご案内

1-39. 『北海道文学館報』 第39号 1992年9月21日

収録：文学館二十五年(和田謹吾)／北海道文学館設立二十五周年記念 北海道新聞社創立五十周年記念 「有島武郎と木田金次郎展」／北海道文学館設立二十五周年記念特集〈お祝いのことば(横路孝弘)／北海道文学館設立二十五周年に寄せて(桂信雄)／二十五周年を機に新たなはばたきを(北川日出治)／北海道文学館設立二十五周年記念に寄せて(堀寛)／北海道文学館の設立二十五周年記念号発刊に寄せて(伊東義郎)〉／この二十五年(中山周三 澤田誠一 木原直彦 西村信 小笠原克 神谷忠孝 木村敏男 工藤欣弥 島恒人 高橋揆一郎 田村哲三 村井宏 山名康郎 園田夢蒼花 富岡木之介)／北海道文学館に望むこと／わたしの一首・一句／展覧会一覧／第四回北海道文学集会〈講演「わが文学の北海道」(佐木隆三)／第四回北海道文学集会に参加して(大堀普美子)〉／北電文化誌フロンティア著名作家原稿展をみて(今井美嶺子)／移動展「花の歳時記」を観て(工藤進)／風景として、雪(佐藤梅子)／わが雑誌を語る〈「表現」(安東璋二)／「新凍土」(八巻春悟)／「氷原帯」(鈴木光彦)〉／受賞の人びと(大久保佐貴子 加藤多一 近藤潤一 中島三枝子 藤田民子 三国矢恵子)／北海道文学館会員規定／この一冊〈未知の微笑 塚本邦雄『水葬物語』(菱川善夫)〉／一枚の写真〈一枚の写真—そしてもう一枚のおまけ(新妻博)〉／年

鑑を読む〈「北海道短歌年鑑」(平野香)／「北海道俳句年鑑」(堤白雨)〉／平成四年度第一回理事会・評議員会報告／受贈資料／事務局日誌

1-40. 『北海道文学館報』 第40号 1993年5月17日

収録：第5回北海道文学集会 五月二十九日開催！／「有島武郎と木田金次郎展」終る／“有島の精神”を想う 「有島武郎・木田金次郎展」を観て(吉井よう子)／らいらっく文学賞展〈時の流れと共に(中村久子)〉／受賞の人びと(新井章夫 大塚陽子 河邨文一郎 北村巖 北村洪史 木村敏男 工藤欣弥 寺田文恵 中山周三 橋本末子 松橋英三 山内栄治 吉田典子 和田謹悟)／わたしの一首・一句／平成四年度第二回理事会報告／わが雑誌を語る〈「高栄文学」(菅原政雄)／「ソビア」(塚田俊子)／「辛夷」(時田則雄)／「道」(北光星)〉／平成四年度第三回理事会報告／年鑑を読む〈「北海道詩集」(小松瑛子)／「北海道川柳年鑑」(岡崎たけ子)〉／平成四年度第四回理事会・第二回評議員会報告／網走市立図書館における北海道文学及び郷土の作家関係の資料について／一枚の写真〈「雪の降る街を」(河精太)〉／受贈資料／有島武郎生誕一一五歿後七〇年有島記念館開館一五年記念事業について(高山亮二)／平成五年度展示ご案内／近況報告／会員規定／事務局日誌

1-41. 『北海道文学館報』 第41号 1993年8月5日

収録：没後二十五年・道立文学館建設着工記念 伊藤整文学展／道立近代文学館(仮称)新築工事いよいよ始まる／伊藤整文学展展示資料(一部)／第五回北海道文学集会〈講演「私の中の文学館運動」(紅野敏郎)／第五回北海道文学集会(中村嘉人)〉／受贈資料(一九九三年五月一日以降)／俳誌「アカシヤ」五〇〇号記念展を観て(堤白雨)／財団法人北海道文学館役員名簿／団体会員名簿・個人会員名簿／北海道文学館会員規定／受賞の人びと(上西晴治 北光星 西川紀野)／閲覧について／わが雑誌を語る〈「ひらく」(紫村紀代)／「グループ英」(堀井美鶴)／「葦牙」(山岸巨狼)／「川柳さっぽろ」(斎藤大雄)〉／新収資料の写真紹介(一部)／年鑑を読む〈「北海道短歌年鑑」(大川佐稚子)／「北海道俳句年鑑」(南利一)〉／この一冊〈暗い学的情熱—清水幾太郎『倫理学ノート』(鷲田小彌太)〉／一枚の写真〈カモカのオッチャンと田辺聖子さん(高橋実)〉／平成五年度第一回理事会・評議員会報告／市立北見図書館における北海道文学及び郷土の作家関係の資料について(市立北見図書館)／函館市文学館開館す！！(桜井健治)／長沼にて北海道女流文学展開催／生田原町オホーツク文学館開館／「北海道詩人協会創設40周年」と記念事業(永井浩)／近況報告／平成五年度第二回理事会報告／事務局日誌

1-42. 『北海道文学館報』 第42号 1994年6月1日

収録：文学館、姿現わす／全国各地に“個性派”続々 われらが北海道文学館独自性どう打ち出すか(木原直彦)／没後二十五年・道立文学館建設着工記念「伊藤整文学展」終わる／もっと読まれることを願いつつ「伊藤整文学展」を観る(平原一良)／

文学展示室「札幌文学散歩展」を観て（土田恵）／会場にあふれた詩人たちの息づかい「北海道詩人協会四十周年記念展」を見て（須田抄二）／平成五年度第三回理事会報告／受賞の人びと（岩間トキ 工藤正広 佐野良二 澤辺成徳 鈴木光彦 園田夢蒼花 高辻郷子）／わが雑誌を語る〈「原野の風」（長野京子）／「新墾」（足立敏彦）／「道産子」（塩見一釜）〉／年鑑を読む〈「北海道詩集」（佐々木新一）／「北海道川柳年鑑」（坪哲子）〉／平成五年度第四回理事会・第二回評議員会報告／一枚の写真〈気のおけない面々（風山瑕生）〉／文学館紹介〈旭川・井上靖記念館〉／各地の文学状況〈田中秀痴庵文庫展に（かなまるよしあき）／旭川市東鷹栖ゆかりの作家安部公房を偲ぶ展（山崎映二）〉／余市町図書館における北海道文学及び郷土の作家関係の資料について／道内文学館だより／受贈資料／近況報告／哀悼〈九島勝太郎さんのこと（富岡木之介）〉／（財）北海道文学館役員名簿／事務局日誌

1-43. 『北海道文学館報』 第43号 1994年9月16日

収録：第6回北海道文学集会 十月一日開催！／澤田誠一副理事長が職務代理者に／文学館理事会で建築中の文学館施設を見学／道立北海道文学館見取り図／北の歳時記展を観て（高橋笛美）／一文学展・札幌線沿線の旅— ノスタルジック札幌線（荒井良夫）／財団法人北海道文学館役員名簿／団体会員・個人会員名簿／受賞の人びと（天野暢子 小林和子 佐野農人 清水道子 新渡戸流木）／わが雑誌を語る〈「森の仲間」（玉川雄介）／「悪」（ふるやおさむ）／「川柳あきあじ」（越郷黙朗）〉／年鑑を読む〈「北海道短歌年鑑」（木村進）／「北海道俳句年鑑」（橋本裕）〉／北海道近代文学懇談会第一回集会報告／一枚の写真〈夢道よ麟太よ恭三よ（南利一）〉／この一冊〈明治期の北方児童文学（平山廣）〉／剣淵町・絵本の館（安宅撰）／平成六年度第一回理事会・評議員会／道内文学館だより／受贈資料／新収資料の写真紹介（一部）／展覧会一覧／近況報告／北海道文学館会員規定／事務局日誌

1-44. 『北海道文学館報』 第44号 1995年3月25日 目次無し

収録：新・理事長挨拶（澤田誠一）／（財）北海道文学館引っ越し完了す！／平成六年度第二回理事会／財団法人北海道文学館役員名簿／哀悼／和田謹吾理事長平成六年十一月十五日、逝去す 弔辞（木原直彦）／富岡木之助氏追悼 まぼろしの「あいまい坂」（北光星）／平成六年度第三回理事会／平成六年度第四回理事会・第二回評議員会／中島公園から／お菓子と文学（和田芳恵「掌の恋」より）（和田芳恵） ※原本未見

1-45. 『北海道文学館報』 第45号 1996年10月1日 目次無し

収録：館運営の基本と課題 相互交流の深まりを願って（小杉捷七）／理事会・評議員会報告／検討委員会がつけられました 今後の運営・事業の検討はじまる／木彫作品「火山灰地」登場 特別企画展「久保栄と北海道」／文芸おたのしみバザール 貴重本・珍本・発見のつどい 所蔵本提供のおねがい／北海道文学ライブラリー第一冊『船

山馨一北の抒情』を刊行／財団法人北海道文学館役員名簿／文学館職員紹介／行事案内／編集後記／お菓子と文学（開高健「最後の晚餐」より）（開高健） ※原本未見

1-46. 『北海道文学館報』 第46号 1997年3月31日

収録：李恢成氏講演会と著作展〈李恢成氏の講演を聴く（佐藤梅子）／平澤秀和氏講演会〉／本と人との交歓〈一文芸おたのしみバザールを手伝って一（小村たか子）／「文芸おたのしみバザール」報告とお礼〉／文学賞一受賞の人々〈北海道新聞文学賞を受賞して（平野温美）／北海道新聞短歌賞を受賞して（野田紘子）／感心と感動一北海道新聞俳句賞を受賞して一（高橋通火）〉／会員近況報告／各地の文学館情報／受贈資料のご紹介／仕事場の窓から（田村哲三）／会議報告（理事会・評議員会ほか）／文学館に寄せられたご意見を紹介します／北海道文学ライブラリー『渡辺淳一』を刊行／文学の夕べ「渡辺淳一講演会」／平成9年度の主な行事予定／編集後記

1-47. 『北海道文学館報』 第47号 1997年10月1日

収録：故更科源蔵氏の資料収集へ／更科さんのヨーロッパ（澤田誠一）／国際啄木学会釧路大会によせて（鳥居省三）／北海道の児童文学・文化を追い求める（谷暎子）／新着資料紹介／同人誌紹介『小樽詩話会』（田村英明）／『森林鉄道』（吉田典子）／川柳『オホーツク』（柳澤花王子）／俳句月刊誌『にれ』（木村敏男）／追悼 中沢茂 逝く（小笠原克）／仕事場の窓から（土合弘光）／資料寄贈お礼／会議報告（理事会・評議員会）／各地の文学館情報／平成9年度の主な行事予定／'97文芸おたのしみバザール（古書市）／催し物／ご利用案内／編集後記

1-48. 『北海道文学館報』 第48号 1998年7月1日

収録：第三回母と子の文学のつどい「絵本からとびだしたお友だち」／後志の啄木歌碑（武井静夫）／同人誌紹介〈「かぎろひ」（木村隆）／「森の仲間」（大西泰久）／「開かれた部屋」（野村明子）／「AMU」（小原廣子）〉／新着資料紹介／仕事場の窓から（中山周三）／文学賞一受賞の人々／収蔵庫より〈有島武郎書簡〉／資料受贈報告／有島生誕百二十年記念特別展 見どころ多い「有島武郎とヨーロッパ」／新文学館誕生〈三浦綾子記念文学館／渡辺淳一文学館〉／会議報告／顧問・参与・新評議員紹介／北海道ライブラリー『三浦綾子—いのちへの愛』完成／常設展展示替え《北海道の詩》／'98文芸おたのしみバザール（古書市）／平成10年度主な行事予定／耳より情報／編集後記

1-49. 『北海道文学館報』 第49号 1998年12月15日

収録：詩雑誌「北緯五十度」関係草稿を収蔵／寄稿（菅原政雄 丸山隆司）／有島武郎生誕120年記念事業 「音楽と朗読の夕べ」／「仕事場の窓から」（高野斗志美）／中村稔氏講演記録／同人誌紹介 「道」「札幌文学」「北海道児童文学」「道産子」／文学賞受賞の人々／古書市報告／行事予定 館日誌

1-50. 『北海道文学館報』 第50号 1999年7月1日

収録：館報五十号特集／簡易保険局内北海道文学館（澤田誠一）／館報を顧みて（木原直彦）／館報五十号に寄せて（河邨文一郎 高野斗志美 鳥居省三 西村信）／館報五十号に寄せて（二十八氏）／館の歩み／展覧会／追悼 館運営に御助力をいただいた方々／企画展「本庄睦男と『石狩川』」盛況裡に終了／会議報告／行事予定 館日誌

1-51. 『北海道文学館報』 第51号 1999年12月20日

収録：追悼〈中山周三氏（澤田誠一 山名康郎）／三浦綾子氏（高野斗志美 小檜山博）／八木義徳氏（木原直彦 かなまる・よしあき 小笠原克 小杉捷七）／和田徹三氏（千葉宣一）／小笠原克氏（澤田誠一 鳥居省三）〉／寄稿（時田則雄 今井富士雄）／館収蔵資料紹介〈詩誌「北緯五十度」詩稿／小林多喜二「故里の顔」復刻解題〉／受賞の人々／吉村昭、池澤夏樹講演会報告／同人誌紹介〈「パンと薔薇」「河 108」「新壘」「静内文芸」〉／館日誌 古書市報告

1-52. 『北海道文学館報』 第52号 2000年7月1日

収録：寄稿（東延江）／文学館通信（玉川薫）／仕事場の窓から（田中和夫）／同人誌紹介〈「蟹」「川柳さっぽろ」「広軌」「サイロ」〉／資料受贈報告／会議報告 新役員紹介／行事予定 館日誌

1-53. 『北海道文学館報』 第53号 2000年12月20日

収録：寄稿（園邊甲治）／文学館通信（光城健悦）／新着資料紹介〈「アサヒグラフ」（1932.1.20）小林多喜二〉／追悼〈西村信氏（澤田誠一 小杉捷七）／島恒人氏（木村敏男）／谷川哲三氏（山名康郎）〉／各地の文学館情報／同人誌紹介〈「全通北海道文学」「アカシヤ」「北海道アララギ」「錨地」〉／受賞の人々／賛助会員加入お礼とお願い／館日誌 行事予定

1-54. 『北海道文学館報』 第54号 2001年7月1日

収録：寄稿〈生誕百年記念の小熊秀雄展のこと（八子政信）〉／文学館通信（山崎英文）／特別企画展「夢の世界のおくりもの ～アンデルセン童話・絵本原画展～」はじまる／仕事場の窓から（加藤多一）／追悼〈北光星氏 園田夢蒼花氏（木村敏男）〉／同人誌紹介〈「山音文学」「原始林」「まほうのえんぴつ」「川柳こなゆき」〉／資料受贈報告／会議報告／新着資料紹介〈小熊秀雄のデッサン〉／行事予定 館日誌

1-55. 『北海道文学館報』 第55号 2001年12月20日

収録：エッセイ（澤田誠一）／文学館通信〈三浦綾子記念文学館（小泉雅代）〉／仕事場の窓から（木原直彦）／追悼〈高山亮二（前川公美夫）〉／同人誌紹介〈「花林」「川柳 時の風」「直線」「北海道民主文学」〉／資料受贈報告／受賞の人びと（工藤欣彌 宮田黄李夫 鈴木五郎 サイロの会）／新着資料紹介〈詩と版画の雑誌「さとぼろ」と掲載直筆稿〉／収蔵資料紹介〈本庄睦男直筆原稿〉／行事予定 館日誌 編集後記／後記 WEC／会議報告

- 1-56. 『北海道文学館報』 第56号 2002年7月1日
 収録：エッセイ〈「You と波打ち際（中沢茂寸描）」（小野規矩夫）／特別企画展〈「知里幸恵の大正九年～新聞記事を参考にしながら～」（青柳文吉）／ウィークエンド・カレッジ開講／仕事場の窓から（高橋明雄）／エッセイ〈「日・韓・台 詩人の交流『東アジア・詩のつどい』開く」（斉藤征義）／役員ごあいさつ（澤田誠一 小杉捷七 神谷忠孝 毛利正彦）／同人誌紹介〈「わたすげ」「旭川詩集」「木賊」「緒里尽」〉／資料受贈報告／会議報告／平成14年度行事予定／館日誌 編集後記
- 1-57. 『北海道文学館報』 第57号 2002年12月20日
 収録：（財）北海道文学館創立35周年特集／寄稿（神谷忠孝 澤田誠一）／（財）北海道文学館35周年に寄せて（27氏）／（財）北海道文学館の歩み／住所の人びと（木原直彦 木村敏男 鈴木光彦）／追悼〈高野斗志美氏（三浦光世）〉／文学館主・共催の展覧会／会議報告／資料受贈報告／行事予定 館日誌 編集後記
- 1-58. 『北海道文学館報』 第58号 2003年7月31日
 収録：寄稿〈「近藤潤一——微笑の奥に透明な《無》を炎やして「四輪会」のことなど」（菱川善夫）〉／寄稿〈「林芙美子と私」（中村久子）〉／仕事場の窓から（杉野一博）／追悼〈重森直樹（田中和夫）／堀越義三（古川善盛）〉／有島記念館「カインの末裔」碑建立／資料受贈報告／原田康子、小檜山博2氏が文学賞受賞／同人誌紹介〈「譚」「蒼原」「まゆ」「瑠璃」〉／会議報告／行事予定／館日誌
- 1-59. 『北海道文学館報』 第59号 2003年12月31日
 収録：寄稿〈「詩人・百田宗治の戦後——北海道に残したもの——」（永井浩）〉／寄稿〈「室蘭——文学運動半世紀」（かなまる・よしあき）〉／寄稿〈「函館——青森 海峡浪漫」展によせて（桜井健治）〉／小檜山博文学碑建立 第一回更科源蔵文学賞／受賞の人びと（原田康子 原子修 後藤軒太郎）／同人誌紹介〈「赤煉瓦」「北の詩人」「舩」「川柳あさひ」〉／資料受贈報告 会議報告 各地の文学館情報／行事予定／館日誌 編集後記
- 1-60. 『北海道文学館報』 第60号 2004年11月30日
 収録：寄稿〈「原始の森林にわけっていく気分 ——『更科源蔵全詩集』編集ノート——」（八子政信）〉／寄稿〈「昭和初期、伊藤整・更科源蔵の新資料」（神谷忠孝）〉／金山湖畔に「山名康郎歌碑」完成／原田康子氏に北海道功労賞／森一生氏に北海道文化奨励賞／決まる！ 北海道新聞文学賞・短歌賞・俳句賞／今こそ川柳だ 句集〈選評 斉藤大雄〉／4～10月の事業から／館内の配置が変わりました／常設展の一部を更新／東京で「火山灰地」展／これからの企画展・講演会など／ウィークエンド・カレッジ後期開講のご案内／寄稿〈「河邨文一郎さんところづくり会」（工藤欣彌）〉／TV収録に少し緊張／新役員に七氏／各地の文学館情報／資料受贈報告／『更科源蔵滞京日記』刊行ほか

2. 『サンクンガーデン』

2-1. 『サンクンガーデン』 第1号 1996年3月 目次無し

収録：北海道文学館開館にあたって（木原直彦）／小説原稿を送る無力感（高橋揆一郎）／第1回文芸セミナー 「近藤潤一の俳句」 講師 菱川善夫氏／第2回文芸セミナー 「船山馨の文学」 講師 神谷忠孝氏／展覧会・講演会〈北海道立文学館開館記念特別企画展 北の夜明け 一海峡を越えた探検家・紀行家たち一／所蔵品展 私の愛した抒情詩人たち 「高橋留治・詩集コレクションから」／常設展 一北海道文学の流れ一／文芸講演会 「金子光晴『兜の児』の詩学」 講師 河邨文一郎）／映画を書く（小檜山博）／私のラジオ時代（長野京子）／お知らせ

2-2. 『サンクンガーデン』 第2号 1996年9月 目次無し

収録：ごあいさつ（小杉捷七）／文学館の周辺（朝倉賢）／文芸講演会 俳句 一そのめぐり合い一 講師 星野紗一氏／文芸セミナー 中野重治と北海道の作家たち 講師 澤田誠一氏／展覧会〈特別企画展 北海道の俳句 一戦後50年の歩み一／たんけん文学館 手島圭三郎の絵本の世界／特別企画展 久保栄と北海道 一激動の時代を生きた劇作家の軌跡一／木堀作品「火山灰地」（米坂ヒデノリ作）を展示／「縄文の精子」に寄せて（工藤正広）／文学館のロビーの空／常設展示から 札幌農学校と有島武郎／INFORMATION〈所蔵品展 船山馨の文学世界／閲覧室をご利用ください／主な行事予定〉

2-3. 『サンクンガーデン』 第3号 1997年3月 目次無し

収録：文芸セミナー〈第2回文芸セミナー 小説ができるまで 講師 小檜山博氏）／常設展示から／第3回文芸セミナー 文学にみる北海道の女性たち 講師 藪禎子氏／第4回文芸セミナー 船山馨の文学資料をめぐって 講師 平原一良／所蔵品展 船山馨の文学世界／文芸映画上映会 フィルムレクチャー 講師 高橋世織氏／次回特別企画展 「森田たまと素木しづ」／文芸講演会 「久保栄回想」 講師 山下肇氏／薄命の作家、素木しづ（沖藤典子）／辻仁成インタビュー 発信基地としての文学館に期待／INFORMATION〈平成九年度の主な行事予定／閲覧室から／道内外の文学館の情報〉

2-4. 『サンクンガーデン』 第4号 1997年12月 目次無し

収録：文学館の周辺 星座の会とシャフハウゼン市（高山亮二）／教育普及事業〈文芸講演会 素木しづとその生き方 講師 沖藤典子氏／文芸セミナー 風土（北海道）と文学 一小熊秀雄・三浦綾子を中心に一 講師 黒古一夫氏／文芸セミナー ひとの知らない草の名を 一子ども、文学、音楽一 講師 松居スーザン氏／展覧会〈特別企画展 森田たまと素木しづ／たんけん文学館 北の大地の動物たち／特別企画展 青春と文学 一有島青少年文芸賞・絵画展と学校文芸誌の足跡をたどる一／所蔵品展 書簡に探る作家の素顔／室蘭の魅せられた魂たち（木村政子）／展覧会から 『エチ

ュード』とともに（早川平）／常設展 北海道文学の流れ／INDORMATION〈閲覧室をご利用ください／『会員の広場』 —賛助会加入のお誘い—／主な行事予定〉

2-5. 『サンクンガーデン』 第5号 1998年3月 目次無し

収録：ある日の買物から（辻脇系一）／文芸講演会 小説を書くとき 講師 見延典子氏／文芸セミナー 北海道の現代俳句 講師 園田夢蒼花氏／文芸セミナー 島木健作の書簡などを読む 講師 田澤義公／フィルム・レクチャー キューブリックと60年代の映像 講師 高橋世織氏／展覧会〈所蔵品展 書簡に探る作家の素顔／次回特別企画展 北海道の短歌／次回所蔵品展 吉田一穂とその時代／次回特別企画展 有島武郎とヨーロッパ／常設展 北海道文学の流れ ～「北海道の詩」展示替え～〉／次回たんけん文学館 夏休みファミリー文学館 親子で絵本づくり I／平成9年度収集資料紹介／平成9年度実施事業一覧／有島武郎と啓蒙のユートピア（中山昭彦）／閲覧室をご利用ください／主な行事予定／新刊紹介／展示案内板が新設されました！！／道内の主な文学館情報

2-6. 『サンクンガーデン』 第6号 1998年10月 目次無し

収録：有島武郎生誕120年記念事業 講座（第1回）「有島武郎のアメリカ」 講師 栗田廣美／展覧会〈夏休みファミリー文学館 「エッチングでさし絵や楽しいイラストづくり」／冬休みファミリー文学館 母と子の文学のつどい 「大井戸百合子・市場の風景 ～銅版画による絵本原画とさし絵展」／特別企画展 「北海道の短歌」／所蔵品展 「吉田一穂とその時代」／特別企画展 「有島武郎とヨーロッパ」〉／常設展 北海道文学の流れ／教育普及事業／閲覧室をご利用ください／Dr.シュペヒトの足跡—有島記念事業で来道—／Information〈図録紹介／道内文学情報／主な行事予定〉

2-7. 『サンクンガーデン』 第7号 1999年3月 目次無し

収録：地域文学館は何を目指すべきか（中村稔）／平成10年度 新着資料紹介／展覧会〈企画展・生誕100年記念 吉田一穂とその時代 —現代詩の極北をめざす—／母と子の文学のつどい・冬休みファミリー文学館 大井戸百合子・銅版画による絵本原画とさし絵展／常設展 北海道文学の流れ —「昭和前期」のコーナーから／次回企画展 本庄睦男と「石狩川」／次回特別展 夏目漱石と芥川龍之介／次回特別展《本》はどこに向かうのか ～活字本からデジタルへ～〉／～わくわく～ こどもランド／平成10年度実施事業一覧／閲覧室をご利用ください／アイヌの大地 ～札幌に住んで二年～（高橋康雄）／道内の主な文学館情報／主な行事予定／図書紹介 『北斗の印—吉田一穂』／特別展示室・講堂の利用について／北海道文学館賛助会員の募集について

2-8. 『サンクンガーデン』 第8号 1999年10月 目次無し

収録：「カレワラ……永遠のしらべ」／展覧会〈常設展 北海道文学の流れ／企画展 本

庄睦男と「石狩川」／特別企画展開催中 《本》はどこに向かうのか ～活字本からデジタルへ～／特別企画展 夏目漱石と芥川龍之介／夏休みファミリー文学館 ぼくもわたしも絵本作家／～わくわく～ こどもランド 99／紋別市率郷土博物館 企画展「本庄睦男と『紋別』」／当別伊達記念館 企画展「本庄睦男と『石狩川』」／えつらんしつのみつこから／講演会・セミナー・映像作品鑑賞他／映像作品鑑賞のつどい／道内文学館情報／（財）北海道文学館からのご案内／訃報／主な行事予定

2-9. 『サンクンガーデン』 第9号 2000年3月 目次無し

収録：ユカラとの出逢い 一書物をめぐる断章—（山口昌男）／平成11年度 新着資料紹介 ～詩誌「港」1～3 輯～／高橋留治文庫目録の刊行／EXHIBITION〈常設展 北海道文学の流れ／企画展 花咲く北の川柳／特別企画展 挿絵と装幀の小宇宙～竹久夢二から川上澄生まで～／特別企画展 「北緯五十度の」詩人たち ～更科源蔵と豊かな交流圏～〉／平成11年度展覧会事業／ファミリー文学館 親子で楽しい絵本づくり／絵本原画展 「絵本の館」のたからもの／～わくわく～ こどもランド 人形劇・パネルシアター・大型絵本読み聞かせ等／学芸員実習／閲覧室から／映像作品鑑賞のつどい／道内文学館情報／特覧室・講堂の利用／賛助会加入のお誘い／VISUAL POETRY 2000 in 札幌（野坂政司）／平成12年度の主な行事予定

2-10. 『サンクンガーデン』 第10号 2000年10月 目次無し

収録：これからもよろしくお願ひします／北海道立文学館5年間の軌跡（主な事業）／～開館5周年記念事業～〈特別講座 高橋揆一郎 ～次作朗読とトークのつどい～／映画上映会 第七官界彷徨 ～尾崎翠を探して～／フォーラム 現代詩と北海道～『北緯五十度』以後の詩をめぐって～／文芸講演会 昭和初期の文学状況から ～更科源蔵から小笠原克へ～ 講師 保昌正夫氏／特別講座 『北緯五十度』の詩篇を読む会 講師 工藤正広氏〉／常設展 北海道文学の流れ／特別企画展 挿絵と装幀の小宇宙／特別企画展 北緯五十度の詩人たち／寸感・国際芸術交流（河邨文一郎）／企画展 花咲く北の川柳／ファミリー文学館 絵本原画展 「絵本の館」のたからもの／企画展 版画に生きる大自然 ～手島圭三郎 北のいのちを彫る～／～わくわく～ こどもランド／文学館ウィークエンド・カレッジ／故中山周三さんの歌碑建立／道内文学館情報／閲覧室のみつこから／新作VTR「文学者胆法1」／主な行事予定／（財）北海道文学館から 一賛助会員加入のお誘い—

2-11. 『サンクンガーデン』 第11号 2001年3月 目次無し

収録：三つの出会い（工藤精一郎）／～常設展示室から～ 企画展「花咲く北の川柳展」と関連事業／企画展 映画ポスターにみる北海道の文学／特別企画展 夢の世界のおくりもの ～アンデルセン童話。絵本原画展～／特別企画展 100年目の小熊秀雄／企画展 占領下の子ども文化 プランゲ文庫資料展／企画展 健治を彫る 畑中純の版画世界／版画に生きる大自然 ～手島圭三郎 北のいのちを彫る～／ファミリ

一文学館／～わくわく～ こどもランド／映像作品／2001 年度文学館ウィークエンド・カレッジ／道内文学館情報／（財）北海道文学館から 賛助会員へのお誘い／文学館ホームページができました／閲覧室から／平成 13 年度 主な行事予定

2-12. 『サンクンガーデン』 第 12 号 2001 年 10 月 目次無し

収録：仮設インタビュー 畑中純氏に聞く／企画展 健治を彫る ～畑中純の版画世界～／一切の文学的権威とは無縁（山名康郎）／展覧会〈企画展 占領下の子ども文化 《1945～1949》展／企画展 Visual Poetica 2002 in 札幌+／企画展 映画ポスターにみる北海道の文学／特別企画展 夢の世界のおくりもの／特別企画展 100 年目の小熊秀雄／夏休みファミリー文学館／冬休みファミリー文学館／～わくわく～ こどもランド／ぶんがくかんたんけんクイズ！／閲覧室のすみっこから／好評展開中……文芸講演会、文芸セミナー／文学館ウィークエンド・カレッジのご案内／ご存じですか？ 文学館ホームページ／道内文学館情報／（財）北海道文学館から 賛助会加入のお誘い／主な行事予定

2-13. 『サンクンガーデン』 第 13 号 2002 年 3 月 目次無し

収録：「寺山修司展」に向けて（九條今日子）／特別企画展 寺や ms 封じ展 ～テラヤマ・ワールド きらめく闇の宇宙～／企画展 Visual Poetry 2002 in SAPPORO +／特別企画展 大自然に抱擁されて…… ～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～／企画展 中沢茂“ひとりの賑やかさ” ～根室と切りと芸術家たち～／企画展 谷川俊太郎展／企画展 東アジア読書展／企画展 イヌイト・アートの宇宙／平成一三年度展覧会事業、盛況裡に終了／ファミリー文学館／わくわくこどもランド／ウィークエンド・カレッジ（WEC） 5 月 25 日（土）から本年度前期開講／閲覧室のすみっこから／道内文学館情報／閲覧室からのお知らせ／新作ビデオ「文学者胆法 3」、四月上旬から放映／（財）北海道文学館から 一賛助会加入のお誘い／平成 14 年度行事予定

2-14. 『サンクンガーデン』 第 14 号 2002 年 11 月 目次無し

収録：見どころいっぱい… 谷川俊太郎展／金田一先生の涙（杉野目康子）／展示会での「出会い」 ～特別企画展「大自然に抱擁されて…」展示室より～／企画展 「イヌイト・アートの宇宙」 ～岩崎昌子の壁掛けコレクション展～／エッセイ 私の海外体験（神谷忠孝）／ウィークエンド・カレッジ 「絵本論」の講座を担当して（柴村紀代）／夏のファミリー文学館 夏休み文学道場／冬のファミリー文学館 「散歩しながらうたう唄 ～森雅之まんが原画展～」／～わくわく～ こどもランド／文学館ロビーコンサート／閲覧室からのお知らせ ～新着資料のご紹介～／賛助会加入のお誘いについて／特別展示室・講堂をお貸しします／主な行事予定（共催・支援事業含む）／道内文学館情報

2-15. 『サンクンガーデン』 第 15 号 2003 年 3 月

収録：特別寄稿〈俳句は風土への挨拶（木村敏男）〉／「生誕百年記念 林芙美子展」／「函館・青森・海峡浪漫」ほか特別企画展・企画展のご案内／「ファミリー文学館」ほか教育普及事業のご案内／「ウィークエンド・カレッジ」、「～わくわく～こどもランド」「14年度事業のまとめ」／「～閲覧室から～」 「その他の15年度事業」ほか

2-16. 『サンクンガーデン』 第16号 2004年3月

収録：平成16年度の特設企画展・企画展のご案内／寄稿「夢を紡ぐ」（神谷奈保子）／ファミリー文学館／ビデオ「文学者胆法5 木村敏男」完成／～わくわく～こどもランド／閲覧室からのお知らせ／映像作品鑑賞のつどい／開館時間・観覧料金等変更のお知らせ／その他16年度事業など

【07】三浦綾子記念文学館

図録

1. 『三浦綾子記念文学館図録』 1998年6月13日 編集：三浦綾子記念文学館 発行：財団法人三浦綾子記念文化財団
収録：刊行のことば（高野斗志美）／三浦綾子さんと私（木内綾）／作家の原風景／『氷点』誕生まで——／『氷点』／『氷点』ブームの時代背景／藤田邸のたたずまい——『氷点』の辻口病院のモデルとなった／三浦文学の魅力（黒古一夫）／雑貨店時代の三浦夫妻（川谷威郎）／『草のうた』／『石ころのうた』／愛読書と作文 女学校時代／『道ありき』／『この土の器をも』／闘病時代の綾子さん（越智一江）／三浦文学をたたえる（山田洋次）／創作のあしどり——／『ひつじが丘』／『細川ガラシャ夫人』／『銃口』／『塩狩峠』／『海嶺』／作品をめぐる風土——／『積木の箱』『果て遠き丘』／『青い棘』『泥流地帯』『あのポプラの上が空』／『草のうた』『母』／『天北原野』『自我の構図』／執筆とその周辺——／『千利休とその妻たち』／『ちいろば先生物語』／三浦文学の素顔にふれて（東延江）／クリスチャンとしての三浦綾子（志賀康裕）／三浦夫妻の日々／美しき夫婦愛（八柳洋子）／平凡でそして非凡な……。 （後藤憲太郎）／伝記小説の主人公たち——／西村久蔵／榎本保郎／五十嵐健治／矢嶋楯子／ジュニア小説と愛読書——／ジュニア小説の分野——／我が青春に出会った本——／三浦綾子年譜／三浦綾子著作目録一覧／市民運動の軌跡——（片山晴夫）／館内案内／謝辞（三浦光世）

研究誌

1. 『「氷点」を旅する』 2004年6月30日 編者：三浦綾子／三浦綾子記念文学館 発

行：北海道新聞社

収録：序 三浦綾子がつづるあらすじ／第一章 氷点とわたし（三浦綾子）〈私はなぜ氷点を書いたか／氷点あれこれ／応募作品と私／入選その後の一ヶ月〉／第二章 氷点を生んだ伴侶〈小説「氷点」に思う（三浦光世）／三浦文学の伴走者——三浦光世（高野斗志美）〉／第三章 愛に満ちた生涯——三浦綾子評伝（高野斗志美）／第四章 旅先からの手紙（三浦綾子）／第五章 その時代は氷点をどう読んだか〈「氷点」ブームの沸点をさぐる／「氷点」はなぜ読まれるか／「氷点」の罪「人類の血」に思い悩む／原罪について考える／小説「氷点」を終わって〉／第六章 今に生きる氷点〈現代における『氷点』《グランド・ゼロ》の時代の中で——（上出恵子）／文学館の中の氷点（斉藤傑）〉／初出一覧

作品

1. 『まっかなまっかな木』 2002年4月21日 文：三浦綾子 絵：岡本佳子 監修：三浦綾子記念文学館 発行：北海道新聞社 目次無し
2. 『綾子・光世 愛 つむいで』 2003年6月30日 著者：三浦綾子／三浦光世 監修：三浦綾子記念文学館 発行：北海道新聞社
収録：生／愛／悟／己／ことば

館報

1. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』
 - 1-1. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第1号 1998年5月15日 目次無し
収録：開館にあたって〈文学・文化の新しい拠点に（高野斗志美）／見本林と私（三浦綾子）〉／お祝いの言葉〈旭川の新しい名所（菅原功一）／三浦さんの生き方に共感呼ぶ（堀達也）／全国のみなさんに心からお礼申しあげます。（後藤憲太郎）〉／三浦綾子記念文学館ご案内／文学館スタッフ紹介／お知らせコーナー／編集後記
 - 1-2. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第2号 1999年1月25日 目次無し
収録：ごあいさつ（高野斗志美）／新刊の紹介／ごあいさつ——（菅原功一）／雪の文学館（後藤憲太郎）／『道ありき』にみられる短歌 写生とは、生を写すことである（片山晴夫）／【入館者現況】六万人にのぼる——一九九八年十一月末現在／展示の見どころ（1） 『氷点』の決定原稿まで——第三展示室（『氷点』の世界）（高野斗志美）／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から／「おだまき会」——文学館を支える／文学館で、ジョイントコンサート——ウィーン音大生と旭川医大生／お知らせコーナー／寄贈者名簿／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文

学館ご案内／編集後記

1-3. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第3号 1999年6月1日 目次無し

収録：開館一周を迎えて(三浦光世)／新刊の紹介／開館異臭年特別記念講演会「私と寅さん」(山田洋次)／山田洋次監督を迎えて(高野斗志美)／入館者状況——一九九八年度 新緑から萬緑へ(後藤憲太郎)／八柳洋子さんを悼む／展示の見どころ(2)——文学館の内と外 中央小ホール・第一展示室など(片山晴夫)／神威小学校七十周年記念誌への寄稿原稿『石ころのうた』に書き洩らしたことなど(三浦綾子)／解説(高野斗志美)／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から(2)／お知らせコーナー／新採用／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-4. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第4号 2000年12月15日 目次無し

収録：三浦綾子さんの人と文学(高野斗志美)／実行委員長挨拶(菅原功一)／三浦綾子さんを偲んで(堀達也 五十嵐広三 木内綾 宝田由和子)／弔電／「お礼の言葉」(三浦光世)／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から(3)(Eメール含む)／天国の綾子さんへ(後藤静子)／新刊の紹介／六月以降の事業・行事／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-5. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第5号 2000年3月25日 目次無し

収録：第一回 三浦綾子作文賞 一月十六日に表彰式行われる／エッセイの窓(1)〈見本林と文学館(三浦光世)〉／〔入館者状況〕入館者、オープン以来十万人をこえる——平成十一年十月十一日現在／心あたたまる花のたたずまい——入館者に好評／研究ノート〈三浦綾子という事件 ～三浦文学についての一考察～(上出恵子)／北島家からご芳志——文学館の発展のために／三浦綾子さんお疲れさまでした(李建華)／特別企画展 行われる 「HBCの放送番組に見る三浦綾子像」／三浦綾子さんの肉声が聞ける／一世紀の時きざんだストロブマツの年輪板——文学館に寄贈——／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から(4)(Eメール含む)／三浦光世さんの大阪講演に同行して(宮嶋裕子)／新刊の紹介／平成十一年度 三浦綾子記念文化財団事業・行事(十一月以降分)／寄贈者名簿／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-6. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第6号 2001年1月31日 目次無し

収録：三浦綾子文学碑 ——見本林に旭川市が建立 除幕式 二〇〇〇年十月十二日／エッセイの窓(2)〈偉大なる教師、自然(三浦光世)〉／開館二周年特別企画 三

浦綾子書名本展 ―妻から夫への感謝のことば― (二〇〇〇年六月十三日～十月十七日) 深い感動と大きな共感／〔入館者状況〕入館者、オープン以来 157,615 名を超える ～堅実な平成十二年度の歩み／第二回 (二〇〇〇年度) 三浦綾子作文賞 受賞者決定／二〇〇一年二月 東京オペラシティ「三浦綾子展」——三浦光世さんの講演も／『あさっての風』装幀原画 ——中西清治氏 文学館に／アンダルシアの深紅のバラ ——押し花を 松野順子氏／子供クリスマス会 ——にぎやかに三浦家で／ハンドベルコンサートが開催される／三浦綾子 没後一周年追悼講演会 ——旭川大雪クリスタルホール 「ひかりと愛といのち」 ——妻・綾子のありし日を語る—— 講師三浦光世氏／一周年追悼企画展「三浦綾子さん 永遠に ―当時の新聞記事より―」／エッセイ「雨はあした晴れるだろう」素描 (片山晴夫) / ボランティア研修旅行／平成十二年度 三浦綾子記念文化財団 三浦綾子記念文学館 事業・行事／寄贈品のお知らせ／新刊の紹介／お知らせコーナー／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-7. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 7 号 2001 年 7 月 13 日 目次無し

収録：開館三周年記念特別企画展はじまる 《三浦綾子 新聞小説『泥流地帯』の世界～人生の苦難を希望に変えた人々～》 ——六月十三日から十月十七日まで／エッセイの窓 (3) 〈自然への礼儀 (三浦光世)〉／リレー講座 III 《三浦綾子の人と作品》 始まる／「氷点 2001」放映決まる ―テレビ朝日で／エッセイ (旭川での三浦作品の上演など (菅野浩) / 第三回三浦綾子作文賞 十月三十一日締め切り／書評〈上出恵子『三浦綾子研究』を読む (片山晴夫)〉／ボランティア研修旅行 (後藤静子) / 開館三周年記念講演会 瀬戸内寂聴先生を迎えて／開館三周年記念特別企画 「三浦綾子新聞小説『泥流地帯』の世界 ～人生の苦難を希望に変えた人々～」開催にあたって (小泉雅代) / マップ「三浦綾子の『氷点』を歩く——旭川市が見本林に／寄贈品のお知らせ／新刊の紹介／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-8. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 8 号 2002 年 2 月 1 日 目次無し

収録：三浦綾子像 寄贈を受ける ——文学館に展示／三浦綾子像に寄せて (三浦光世) / 三浦綾子さん像 (佐藤忠良) / 開館三周年記念 瀬戸内寂聴氏講演会 盛会裡に終わる／エッセイの窓 (4) 〈創作秘話 (三浦光世)〉／エッセイ〈魂の結納 (工藤正廣)〉／開館三周年記念特別企画 「三浦綾子 新聞小説『泥流地帯』の世界 ～人生の苦難を希望に変えた人々～」を開催して 深い感動と大いなる希望 (小泉雅代) / 第三回三浦綾子作文賞は、次の作者と作品に贈られることになりました。／特定公益増進法人としての「賛助会員会費・寄付金」の税控除に関する認定申請について／

入館者状況 年度別入館者の報告と賛助会員についてのお願い（後藤憲太郎）／私たちの隣にも辻口家はある「氷点 2001」テレビ朝日で放送！／「ラーメン刑事」土曜ワイド劇場で放送！／平成 14 年度特別企画展のご案内 『道ありき』のころ 三浦綾子 一再生をとげた魂の軌跡—／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から（5）／寄贈品のお知らせ／まっかなまっかな木／新刊の紹介／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-9. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 9 号 2002 年 7 月 8 日 目次無し

収録：絵本「まっかなまっかな木」 —めざめた宝物—／エッセイの窓（5）〈特別企画展に寄せて（三浦光世）／開館四周年記念特別企画 『道ありき』のころ・三浦綾子 一再生をとげた魂の軌跡—開催（小泉雅代）／エッセイ〈“木はいいなあ”（加藤多一）／『まっかなまっかな木』出』記念原画展・講演会／（財）三浦綾子記念文化財団設立五周年記念事業並びに文学館維持運営事業に係わる寄附金・賛助会員拡大振興募金のご協力について／リレー講座 IV 《三浦綾子の人と作品》始まる／三浦綾子・『氷点』「名作をポケットに」にて放映 —BS ハイビジョン番組で—／入館者二十万人達成！／三浦綾子文学館の現況（後藤憲太郎）／『氷点』原画 —山岡みや子氏 文学館に寄贈／ミニコンサート開催／ボランティア研修旅行（後藤静子）／「感じたこと・考えたこと」——『思い出ノート』から（6）／新刊の紹介／寄贈品のお知らせ／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-10. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 10 号 2003 年 1 月 31 日 目次無し

収録：高野館長を偲ぶ会に（三浦光世）／高野斗志美山を偲んで〈高野斗志美山を偲ぶ言葉（菅原功一）／無題（三木毅）／高野斗志美三を偲ぶ（神谷忠孝）／高野斗志美先生の最後の言葉（後藤憲太郎）／弔電（堀達也）／弔電（五十嵐広三）／弔電（松前紀男）／お礼の言葉（高野信子）／館長業務をお引受けして（三浦光世）／エッセイの窓（6）〈視点と印象（三浦光世）〉／青少年に対する事業内容 開館四周年特別企画展 『道ありき』のころ・三浦綾子 生きる勇気と深い励まし（小泉雅代）／紙芝居『道ありき』 —文学館に寄贈— 脚本 升井純子氏 絵 高田ひろ子氏／絵画展 『ぼくたち、わたしたち、町の「文学館」を描きました。』 旭川市立神楽小学校 6 年生／第四回」（二〇〇二年度）三浦綾子作文賞 受賞者決定／その後の文学館（後藤憲太郎）／よみがえる作家の声 ～三浦綾子編～／—思い出ノート— ETV 二〇〇二 「つづられた三浦綾子へのメッセージ」／館長・三浦光世の『小さな講演会』／平成十四年度 三浦綾子記念文学館 第五回文学セミナー「三浦綾子を読む」／平成十五年度の事業・行事予定／新刊の紹介／寄贈品のお知らせ／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-11. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 11 号 2003 年 7 月 31 日 目次
無し

収録：開館五周年記念特別企画展 三浦綾子『氷点』 ～よみがえる名作～開催／エッセイの窓（7）〈「大学生との座談会」（三浦光世）〉／開館五周年企画〈特別記念講演会 星野富弘氏 「私の北極星」／『綾子・光世 愛 つむいで』出版〉／エッセイ〈「綾子さん召天三年半」——千里聖愛教会 三浦綾子文学記念室〉解説——（川谷威郎）／お知らせコーナー／退任・就任のごあいさつ〈退職にあたって（松尾幸人）／ごあいさつ（齊藤傑）／ごあいさつ（齋藤幹太）〉／夏の見本林と文学館（後藤憲太郎）／リレー講座Ⅴ 《三浦綾子の人と作品》／リレー講座に参加して 三浦文学理解のために（野中義孝）／第五回文学セミナー 「三浦綾子を読む」終了／オカリナコンサートを終えて（中山妙子）／ボランティア研修旅行（後藤静子）／寄贈品のお知らせ／新刊の紹介／賛助会員友の会のおさそい／三浦綾子記念文学館ご案内／編集後記

1-12. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 12 号 2004 年 2 月 10 日 目次
無し

収録：「氷点」40 年／エッセイの窓（8）〈五年越しのカレンダー（三浦光世）〉／氷点四〇・作家四〇周年記念事業／第六回文学セミナー 「三浦綾子を読む」一開催のお知らせ一／館長 三浦光世の『小さな講演会』一平成十六年開催日程のお知らせ一／開館五周年特別記念 星野富弘講演会「私の北極星」感動と優しさに大きな拍手！／星野富弘 in 旭川／第五回三浦綾子作文賞表彰式 一晴れやかな顔・顔・顔一／開館五周年特別企画展 「三浦綾子『氷点』 ～よみがえる名作～」を開催して（小泉雅代）／追悼 「高野斗志美展 ～その精神の軌跡～」を終えて／思い出ノートより／ホームページのご紹介／新刊の紹介／寄贈品のお知らせ／賛助会員友の会 会員募集／編集後記

1-13. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 13 号 2004 年 7 月 1 日 目次
無し

収録：氷点 40 周年・特集／氷点四〇周年記念特別展 「三浦綾子のすべて」展 はじまる 六月十三日（日）～十月十一日（月）／三浦文学は、なぜ 4,000 万部も売れ続けるのか 三浦綾子氷点 40 周年記念シンポジウム／第六回 三浦綾子作文賞作品募集！ 三浦綾子記念文化財団＝主催／特別展「氷点四〇」 ～そして三浦文学は始まった～を開催して（小泉雅代）／特別展報告 三浦綾子「ジュニア小説の世界」好評のうちに終了／第六回文学セミナー「三浦綾子を読む」終了／文学館から／賛助会員友の会 会員募集／編集後記

1-14. 『みほんりん 三浦綾子記念文学館 館報』 第 14 号 2005 年 2 月 1 日 目次
無し

収録：『氷点』四十周年をふり返って（三浦光世）／三浦綾子『氷点』四十周年記念シンポジウム 「三浦文学は、なぜ四〇〇〇万部も売れ続けるのか」 北海道新聞社・三浦綾子記念文学館主催／みんなの心の思い出ノート／文学散歩報告／三浦綾子『氷点』四十周年記念シンポジウム 「今『氷点』が問いかけるもの」 NHK 旭川放送局・三浦綾子記念文学館主催／『氷点』四十周年を祝う集い／『氷点』四十周年を記念し本を出版／三浦綾子『氷点』四十周年記念 森のコンサート／『氷点』、韓国でテレビ放映／オカリナコンサート開催／特別展報告／第六回リレー講座 「三浦綾子の人と作品」終了／第六回 三浦綾子作文賞表彰式／平成十七年（二〇〇五）年 「館長三浦光世の小さな講演会」開催日程／第七回文学セミナー 「三浦綾子を読む」一開催のお知らせ一／平成一七年度の事業・行事予定／新刊の紹介／寄贈品のお知らせ／賛助会員友の会 会員募集

【08】青森県近代文学館

図録

1. 『北の文脈—青森県の近代文学』 1994年3月22日 編集・発行：青森県近代文学館
収録：開館記念特別展「北の文脈——青森県の近代文学」開催にあたって／近代前史／明治期／大正期／昭和前期／展示資料／昭和後期／文学賞等受賞者一覧／青森県文学地図／青森県ゆかりの作家達／現在活躍中の作家達
2. 『青森県の近代文学』 1994年3月31日 編集・発行：青森県近代文学館
収録：ごあいさつ／青森県の誇る作家たち〈佐藤紅緑／秋田雨雀／葛西善蔵／福士幸次郎／石坂洋次郎／北村小松／北畠八穂／高木恭造／太宰治／今官一／寺山修司／三浦哲郎／長部日出雄〉／豊かな文学の土壌〈小説／言論／評論・研究／児童文学・戯曲／詩・川柳／俳句／短歌〉／ガラスケースの中の思い出と出会うために（九條今日子）／青森県文学地図 文学記念碑／青森県文学地図 生誕地・描かれた土地／青森県近代文学略年表／出品目録／編集後記
3. 『特別展 没後30年 北村小松展』 1994年7月20日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館
収録：1 生誕の地・八戸／2 文学の道へ／3 戯曲の世界／4 映画シナリオの世界／5 小説そして従軍／6 戦後の活躍／7 モダンボーイ「小松ちゃん」／8 小松の死 墳墓の地／9 北村小松著作年表／10 北村小松映画作品年表／11 北村小松年譜／12 資料翻刻「1923 ノート」抄／13 出品目録
4. 『特別展 北畠八穂展』 1994年10月25日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：1 ホクセのマコ／2 文学への芽生え／3 小説を書く—久彌との出会い／4 児童文学作家八穂の誕生／5 野間児童文芸賞受賞／6 詩人・小説家として／7 透きとおった人々—随筆の世界—／8 郷愁と八穂の死／9 北島八穂年譜／10 北島八穂著作年表／出品目録

5. 『特別展 「太宰治」』 1995年10月1日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：罪、誕生の時刻に在り —明治42年（当歳）～大正12年（14歳）—／二律背反の〈生〉 —大正12年（14歳）～昭和5年（21歳）—／左翼運動・義絶・心中未遂—昭和5年（21歳）～昭和7年（23歳）—／撰ばれてあることの恍惚と不安 —昭和8年（24歳）～昭和12年（28歳）—／火を噴きし山の跡 —昭和13年（29歳）～昭和20年（28歳）—／^{リベルタン}無頼派宣言 —昭和20年（36歳）～昭和21年（37歳）—／家庭の幸福は諸悪の本^{もと} —昭和21年（37歳）～昭和23年（39歳）—／各時代解説（相馬正一）／今にして思う（小野正文）／疎開中の太宰治（山中正津）／太宰治を思う（高橋彰一）／太宰治青森文学地図／資料紹介／初版本／書簡／遺品／遺品について（津島美知子）／太宰治文学記念碑／太宰治警^{エピグラム}句解説（長野隆）／太宰治略年譜（相馬正一）／主な出品物

6. 『特別展 「石坂洋次郎」』 1996年7月21日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：雪は白く、林檎は赤く —明治33年（当歳）～大正6年（17歳）—／学生結婚—大正7年（18歳）～大正13年（24歳）—／不安・模索・救済 —大正14年（25歳）～昭和13年（38歳）—／〈垣〉の外へ —昭和14年（39歳）～昭和20年（45歳）—／北奥羽風土記 —昭和21年（46歳）～昭和24年（49歳）／青春物というジャンル —昭和25年（46歳）～昭和39年（64歳）／ユートピアとしての性 —昭和40年（65歳）～昭和61年（86歳）—／各時代解説（森英一）／父の思い出（石坂信一）／横手時代の石坂先生（伊藤正）／父の背中（今泉広子）／石坂作品の「ねぶた」（芳賀日出男）／石坂洋次郎先生とご家族たち（芳賀日出男）／父と母の世界一周旅行（石坂信一）／資料紹介／装幀から見る石坂洋次郎の著書／石坂洋次郎による作品解説／石坂洋次郎 文学と人生／弘前一ゆかりの土地 I—／横手一ゆかりの土地 II—／東京他一ゆかりの土地 III—主要著作目録／石坂文学の映画化作品／石坂洋次郎略年譜（森英一）／主な出品物

7. 『特別展「北の夜明け—青森県の近代文学 明治期—」』 1997年7月18日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／青森県の近代文学 明治期 概観／旧派・啓蒙期の文学〈政治小説の雄編「佳人之奇遇」（高橋菊弥）／俳句〈木村横斜の俳句（新谷ひろし）／碧梧桐の来県と県俳壇（高橋菊弥）／短歌〈「明星」と青森県の歌人たち（加賀谷健三）／

「吾が胸の底の茲」について（竹浪和夫）／蘭菊会回覧雑誌から「東北」へ（加賀谷健三）／詩〈溝口春翠の新詩体（和井田勢津）／大塚甲山の位置付け（きしだみつお）〉／小説・戯曲・言論〈陸羯南と鳥谷部春汀の評論活動（江刺家均）〉／来県者とその作品〈石川啄木と野辺地〉／青森県の近代文学 明治期 俳句抄／青森県の近代文学 明治期 短歌抄／青森県の近代文学 明治期 詩抄／「文庫」と青森県の投稿者たち／青森県の近代文学 明治期 年表／主な出品資料／出品・協力者

8. 『私の詩が実る為に 一高木恭造没後十年特別展一』 1997年10月1日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：高木恭造の生涯〈少年期の夢／青春の揺籃／黄砂降るくに／詩人とアガペ医者／魔法の杖から／晩年／生涯解説（山田尚）／奉天と父（高木淳）／高木恭造作品の英訳について（中野道雄）〉／まるめろの世界（山田尚）／方言詩の系譜（坂口昌明）／現代詩・小説の世界（工藤正廣）／戯曲・朗読文の世界（高木保）／資料紹介／著作年表／主な出品物

9. 『思うまま 歌わしめよ 叫ばしめよ 青森の近代文学——短歌』 1998年5月22日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／明治期 「明星」の十哲 大井蒼梧（川村ちよ）／大正期 「創作」と県歌人（加賀谷健三）／口語歌の流れ 鳴海要吉の「新録」（川崎むつを）／昭和期（戦前） 「アスナロ」と「青森アララギ」（成田小五郎）／昭和期（戦後） 寺山修司と私—寺山がめぐった風景（梅内美華子）／青森県歌人懇話会（福士修二）／『新万葉集』と青森県の歌人 早逝の歌人松木静泉（工藤邦男）／青森県を訪れた主な歌人／主な歌碑（写真）／青森県文学地図（短歌）／年表（青森県の近代文学—短歌）／主な出品資料／出品・協力者

10. 『葛西善蔵没後七十年特別展 一作品の舞台を訪ねて一』 1998年10月1日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：父祖の地・弘前〈「われと遊ぶ子」「もぐる」と齋吉旅館／「少年の日」と五所川原／「無心に」と浪岡〉／第二の故郷・碓ヶ関〈「馬糞石」と碓ヶ関／「贖物」と唐牛／「父の葬式」と藏館村・仙遊館〉／北海道〈「雪をんな」と芦別／「雪をんな」と葛西の浪漫性（神谷忠孝）／「姉を訪ねて」と岩内〉／文学に賭けて・大洗〈「メケ鳥」〉／初期〈「奇蹟」の発刊／文壇登場「子をつれて」／「遊動円木」と奈良・江戸三／「不能者」と信州・別所温泉〉／中期 鎌倉・宝珠院時代〈「春」・「本来の面目」・「不良児」と鎌倉／「千人風呂」と伊豆山〉／後期〈西城館時代〔「椎の若葉」と西城館／「湖畔手記」と奥日光・湯本温泉〕／三宿時代〔「酔狂者の独白」と三宿〕〉／終焉（弔辞／墳墓／遺品／「林檎の花を見せてやりたい」（伊藤ゆう子）〉／著作／翻訳（研究）／葛西善蔵年譜／主な出品物

11. 『一佐藤紅緑没後50年特別展—花はくれない』 1999年7月23日 編集：青森県立

図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／父佐藤紅緑（佐藤愛子）／弥六のセガレ 明治7年（当歳）～明治26年（19歳）／青雲の志—陸羯南・正岡子規と出会い 明治26年（19歳）～明治39年（32歳）／劇作家・小説家紅緑誕生 明治39年（32歳）～大正元年（38歳）〈新派と紅緑（松本伸子）／ユーゴーの陣笠たらんと—紅緑の小説—（森英一）〉／新聞連載小説で人気沸騰 大正元年（38歳）～大正4年（41歳）／劇団「日本座」を率いて—三笠万里子との出会い 大正4年（41歳）～大正11年（48歳）／外遊—映画と紅緑 大正12年（49歳）～昭和元年（52歳）〈紅緑原作の映画化作品について（篠田功）〉／少年小説で一世を風靡 昭和2年（53歳）～昭和15年（66歳）〈「あゝ玉杯にうけて」（五十嵐康夫）〉／花紅柳緑—晩年の紅緑 昭和15年（66歳）～昭和24年（74歳）〈かくも違う父子 紅緑とハチロー（佐藤四郎）〉／佐藤紅緑と俳句（榎本一郎）／紅緑の俳句五十句抄（榎本一郎選）／紅緑遺墨／遺品／佐藤紅緑略年譜（小山内時雄編）／佐藤紅緑劇作・小説などの映画化作品（篠田功編）／主な出品物／出品・協力者

12. 『詩人福士幸次郎一生誕 110年特別展—』 1999年10月1日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／断定しては崩れ落ち（泉谷明）／『太陽の子』『展望』—福士幸次郎の詩的世界（佐藤伸宏）／福士幸次郎の評論（伊藤剛）／民俗の詩学に向けて—地方主義・日本音数律論・原日本考—（坂口昌明）／福士幸次郎 生涯（清藤碌郎）〈生い立ちから詩人へ 明治二十二年～明治四十四年（22歳）／詩壇進出とその活躍（一）／詩壇進出とその活躍（二） 大正元年（23歳）～大正十二年（34歳）／地方主義運動の展開（一）／地方主義運動の展開（二） 大正十三年（35歳）～大正十五年（37歳）／韻律学と古代研究 昭和二年（38歳）～昭和十九年（55歳）／晩年と死 昭和二十年（56歳）～昭和二十一年）／父のこと（井村弘子）／資料紹介／福士幸次郎年譜／主な出品物／出品・協力者

13. 『青森県児童文学のあゆみ展』 2000年7月22日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／日本の児童文学〔明治期〕 青森県の児童文学作家（羽仁もと子）〈『ネルの勇気』（西本鶏介）〉／日本の児童文学〔大正期〕 青森県の児童文学作家（秋田雨雀）〈『太陽と花園』（西本鶏介）〉／日本の児童文学〔昭和前期〕 青森県の児童文学作家（佐藤紅緑・加藤謙一）〈『あゝ玉杯に花うけて』（千葉寿夫）〉／日本の児童文学〔昭和後期〕 青森県の児童文学作家（北畠八穂・白木茂）〈『鬼を飼うゴロ』（佐藤幸子）〉／海外児童文学の名紹介者で名訳者だった白木茂先生（久米稔）／日本の児童文学〔現在〕 青森県の児童文学作家（鈴木喜代春・藤田博保）〈『十三湖のばば』は、生きていく（鈴木喜代春）／『情っぱりとシャモ』（藤田博保）〉／日本の児童文学（各時代解説）（西本鶏介）／青森県児童文学研究会／文人たちの児童文学／作品紹介／青

森県児童文学略年表／主な出品資料、出品・協力者

14. 『特別展「三浦哲郎芥川賞受賞四十年記念展」』 2000年9月29日 編集：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：生きる道を求めて 昭和6年（当歳）～昭和34年（28歳）／芥川賞受賞・三浦文学の開花 昭和35年（29歳）～昭和49年（43歳）／三浦文学の豊饒 昭和50年（44歳）～昭和58年（52歳）／三浦文学の結晶 昭和59年（53歳）～平成元年（58歳）／一尾の鮎を求めて 平成2年（59歳）～現在／各時代解説（工藤英寿）／忍ぶ川／拳銃と十五の短編／少年讃歌／作品解説（栗坪良樹）／白夜を旅する人々／じねんじょ／短篇集《モザイク》第1集・みちづれ／みのむし／作品解説（勝又浩）／資料紹介／文学の師・先輩・友の語る／畏友を語る（立花義康・音喜多勝・梅内敏浩）／三浦哲郎自筆年譜／主な出品物、出品・協力者

15. 『特別展「長部日出雄」』 2001年7月27日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：資料紹介／新聞記者をめざして〈弘前市第一大成国民学校（齊藤三千政）／弘前市立第三中学校（赤石宏）／青森県立弘前高等学校（小野雅俊）／早稲田大学（「早稲田学報」の頃）（大村彦次郎）〉／多彩な長部文学の魅力〈初期作品群について（大村彦次郎）／第69回直木賞を受賞す（大村彦次郎）／第30回芸術選奨文部大臣賞受賞作「鬼が来た 棟方志功伝」（工藤英寿）／第6回新田次郎文学賞受賞作「見知らぬ戦場」（工藤英寿）／多彩な文学活動〉／映画に魅せられて〈映画評論家として（丹野達弥）／小説『映画監督』などについて（丹野達弥）／映画「夢の祭り」（丹野達弥）〉／長部日出雄自筆年譜／主な出品物、出品・協力者

16. 『特別展「東青文学散歩」』 2001年10月5日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館

収録：開催にあたって／特別寄稿〈夜の雪道（吉村昭）／『爆弾圏』の頃（海渡英祐）／ぼたん雪（橋本忍）／故郷への道（田澤拓也）〉／作品・資料紹介／東青文学散歩（星野富一郎）〈概観／第一景 青森港・青森駅かいわい／第二景 旧青森歩兵第五連隊とその周辺 一雪中行軍関係一／第三景 旧歌舞伎座・堤川とその周辺／第四景 新町・青森県庁・安方・旧寺町とその周辺／第五景 合浦公園・旧制青森中学とその周辺／第六景 沖館・油川・三内・新城とその周辺／第七景 浅虫温泉駅とその周辺／第八景 酸ヶ湯・北八甲田とその周辺／第九景 東津軽郡平内町周辺／第十景 東津軽郡蓬田村周辺／第十一景 東津軽郡平舘村周辺／第十二景 東津軽郡蟹田町周辺／第十三景 東津軽郡今別町周辺 一襲月一／第十四景 東津軽郡三厩村周辺 一龍飛一〉／東青文学散歩・作品一覧／絵はがきと写真で見る東青文学散歩／東青の詩（中寒二）／東青の短歌（五十首）（福士修二）／東青の俳句（五十句）（新谷ひろし）／東青の川柳（五十句）（杉野草平）／東青の文学記念碑／東青文学散歩・年表／主な出品資料、出品・協力者

17. 『特別展「秋田雨雀展」』 2002年7月26日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館
 収録：開催にあたって／偉大な業績へ新しい解説を（工藤正廣）／資料紹介／生誕から小学校まで（山形敏英）／上京まで（山形敏英）／創作期まで（山形敏英）／家族とともに／故郷・黒石に帰って／秋田雨雀の詩について（清藤碌郎）／秋田雨雀と「みつばちの子」のこと（鈴木喜代春）／秋田雨雀の小説について（舘田勝弘）／秋田雨雀の戯曲について—追憶・凝視・戦闘—（千葉寿夫）／社会運動について（阿部誠也）／エスペラント運動について（阿部誠也）／白髪の雨雀先生はいつまでも（長内美那子）／雨雀先生の思い出（久保幸子）／思い出の地にて／秋田雨雀略年譜／主な出品資料、出品・協力者
18. 『特別展「青森県の近代文学・大正期」』 2002年10月4日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館
 収録：開催にあたって／雨雀・幸次郎・紅緑の再評価へ（紅野敏郎）／資料紹介／青森県の近代文学 大正期 概観（井上諭一）〈佐藤紅緑／秋田雨雀／葛西善蔵／福士幸次郎／佐々木千之 江渡狄嶺 薄田斬雲／石田三治 鳥谷部陽太郎〉／大正期の県内文壇 散文（井上諭一）／大正期の県内文壇 韻文（井上諭一）〈詩／短歌／俳句／川柳〉／昭和に向けて／青森県の近代文学 大正期 略年表／主な出品資料／出品協力者
19. 『特別展「今官一展」』 2003年7月25日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館
 収録：開催にあたって／なぜならば、私は詩人であるから——（今公恵）／資料紹介／今官一の生涯（工藤英寿）／恩人・友人を語る〈人生の師 福士幸次郎——福士幸次郎と今官一——（川崎むつを）／文学の師 横光利一——「キット Dance ヲ覚エマス」——（米田省三）／文学の友 太宰治——「魚服記」と太宰治（山田尚）〉／今官一の代表作（舘田勝弘）／今官一の思い出〈今官一先生との三年間（小野淳信）／今さんとの第一母国語（千葉寿夫）／詩誌「波」と共に（葛西美枝子）〉／今官一のゆかりの地／今官一略年譜／主な出品資料／出品・協力者
20. 『特別展「寺山修司展」』 2003年10月3日 編集・発行：青森県立図書館／青森県近代文学館
 収録：開催にあたって／寺山修司は誘惑しつづける（三浦雅士）／資料紹介／寺山修司の源流〈幼稚園時代の寺山修司（生誕から幼稚園まで）（稲田ヨシエ）／小学校時代の寺山修司（小学校時代）（寺山孝四郎）／影絵——中学時代の断片（中学校時代）（京武久美）／文芸に情熱傾ける（高等学校時代）（工藤英寿）〉／時代を疾走した寺山修司〈寺山修司 その仕事（小説・評論・随筆）（三上強二）／蜃気楼の階段を（詩・作詞）（山田尚）／寺山修司の俳句（短歌・俳句）（新谷ひろし）／寺山修司の演劇（演劇）（高木保）／映画「田園に死す」青森記録（映画・シナリオ）（北川達男）／競馬・スポーツ・

写真) / 寺山修司の思い出 「恐山」と寺山修司 —— 「虚構性」の背景にあるもの—— (九條今日子) / 寺山修司よ永遠に (文学碑・校歌など) / 寺山修司作品抄 (詩/短歌/俳句) / 寺山修司略年譜 / 主な出品資料、出品・協力者

21. 『特別展「陸羯南から鎌田慧へ」』 2004年7月16日 編集・発行：青森県立図書館 / 青森県近代文学館

収録：開催にあたって / 資料紹介 / ジャーナリズムの行方 一国益と民益一 (鎌田慧) / 陸羯南 陸羯南と新聞「日本」(小山文雄) / 鳥谷部春汀 人物月旦の雄 (高橋菊弥) / 佐藤紅緑 新聞記者・紅緑 一かれの少年小説のなかから一 (千葉寿夫) / 羽仁もと子 日本初女性記者とその弟 (松岡励子) / 坂田二郎 昭和史を追った50年 (和田満郎) / 澤田教一 「安全への逃避」(今城力夫) / 鎌田慧 努力しない天才ポライター「鎌田慧」(本多勝一) / 青森県新聞小史 (河西英通) / 青森県のジャーナリスト一覽 / 主な出品資料、出品・協力者

翻刻

1. 『資料集』

- 1-1. 『資料集 第一輯 有明淑の日記』 2000年2月15日 編集・発行：青森県立図書館 / 青森県近代文学館

収録：有明淑の日記 / 太宰治の「女生徒」と有明淑の日記 (相馬正一)

- 1-2. 『資料集 第二輯 太宰治・晩年の執筆メモ』 2001年8月31日 編集：青森県立図書館 / 青森県近代文学館

収録：太宰治・晩年の執筆メモ / 「太宰治・晩年の執筆メモ」の問題点 (安藤宏)

- 1-3. 『資料集 第三輯 太宰治・原稿『お伽草紙』と書簡』 2003年10月31日 編集・発行：青森県立図書館 / 青森県近代文学館

収録：『お伽草紙』原稿《写真版》 / 『お伽草紙』の詩と真実 —— その生原稿から見えて来るもの

館報

1. 『青森県近代文学館報』

- 1-1. 『青森県近代文学館報』 第1号 1994年3月22日

収録：開館にあたって / 文学館の果たすべき役割 / 開館を祝して / 津軽の文学宇宙の基地 / ガラスケースの中の思い出と出会うために / 「活彩あおもり」事業第一号となれ / 近代文学館の開館を祝して / 常設展示室を彩る作家たち / 開館記念特別展 / 図書・資料寄贈者ご芳名 / 開館までの歩み / 文学館案内

- 1-2. 『青森県近代文学館報』 第2号 1994年6月30日

収録：開館記念式、盛大に行われる / 資料・文献の保存について / 北村小松展に寄せ

て 三人娘の「父の思い出」／小松と牛原虚彦との出会い／八戸と北村小松／——近代文学の先行者——俳諧文学の開花と展開／収蔵資料紹介—北村小松書簡—／文学館協力者感謝状贈呈式挙行される

1-3. 『青森県近代文学館報』 第3号 1994年9月30日

収録：北村小松展、盛会のうちに閉幕／文学資料の展示について 一特集 北島八穂—／北島八穂とキリスト教／北島八穂童話集「耳のそこのさかな」雑感／さまざまな評価のなかで 一北島八穂の小説について—／野づら吹く風の匂に包まれて 一北島八穂の中野「津軽」—／収蔵資料紹介—北村小松書簡—／図書資料受入れ報告

1-4. 『青森県近代文学館報』 第4号 1994年12月26日

収録：原「あすならう」草稿など展示／文学碑めぐり／「北島八穂展」に寄せて／明治期の短歌誌「東北」について（上）／収蔵資料紹介〈北村小松書簡（三）／北島八穂書簡（一）〉／図書・資料受け入れ報告

1-5. 『青森県近代文学館報』 第5号 1995年3月30日

収録：常設展の一部展示替え／井上靖の弘前時代 一昭和五年—／明治末の短歌誌「東北」について（下）／青森県の文学シリーズ（1） 青森県の翻訳者／収蔵資料紹介〈文芸誌「秋水」と青森県（一）／北島八穂書簡（二）〉／図書・資料受け入れ報告

1-6. 『青森県近代文学館報』 第6号 1995年8月30日

収録：十月一日より特別展「太宰治」開催／特別展「下北と文学」特集〈俳誌「蘆光」／下北と鳴海要吉〉／収蔵資料展「若山牧水・和田山蘭展」に寄せて 父、和田山蘭のこと／収蔵資料紹介〈文芸誌「秋水」と青森県（続）／佐藤紅緑書簡（一）〉

1-7. 『青森県近代文学館報』 第7号 1996年3月25日

収録：新に「太宰治の万年筆」などを展示／太宰治からのはがき／関野準一郎の思い出／収蔵資料紹介〈佐藤紅緑書簡（二）／秋田雨雀書簡（一）〉／図書・資料受け入れ報告／特別展「太宰治」に八千三百人

1-8. 『青森県近代文学館報』 第8号 1996年9月20日

収録：十月一日より特別展「十和田湖をめぐる近代文学」開催／石坂文学を読み直す／俳誌「とくさ」について／収蔵資料紹介〈佐藤紅緑書簡（三）／秋田雨雀書簡（二）〉／図書・資料受け入れ報告／特別展「石坂洋次郎」盛況のうちに終わる

1-9. 『青森県近代文学館報』 第9号 1997年3月25日

収録：太宰治の作文ノート、寺山修司の“狂人教育”などを展示／ハチローと紅緑／収蔵資料展「秋田雨雀展」に寄せて／収蔵資料紹介〈太宰治草稿「お伽草紙」／石坂洋次郎草稿「マヨンの煙」／佐藤紅緑書簡（四）／秋田雨雀（三）〉／図書・資料受け入れ報告／特別展に大町桂月の遺族も

1-10. 『青森県近代文学館報』 第10号 1997年9月5日

収録：「私の詩が実る為に一高木恭造没後十年特別展—」開催／収蔵資料展「高木彬光

—推理小説の世界」に寄せて〈高木作品への新たなアプローチの期待／高木彬光展と父の思い出〉／進調査研究「北の夜明け—青森県の近代文学 明治期—」を見て／収蔵資料紹介〈秋田雨雀書簡（四）〉／図書・資料受入れ報告／特別展「北の夜明け—青森県の近代文学 明治期—」閉幕

1-11. 『青森県近代文学館報』 第11号 1998年3月25日

収録：寺山修司の原稿「奴婢訓」などを展示／「高木恭造没後十年特別展」に寄せて〈遠音耳に在り〉／収蔵資料展「今官一著作展」に寄せて〈少年官一を想う／待望の今官一著作展〉収蔵資料紹介〈秋田雨雀書簡（五）〉／図書・資料受入れ報告／「私の詩が実る為に一高木恭造没後十年特別展・詩のひとつとき」開催される

1-12. 『青森県近代文学館報』 第12号 1998年9月10日

収録：「葛西善蔵没後七十年特別展 —作品の舞台を訪ねて—」開催／「没後50年太宰治—弱さと優しさ」に寄せて〈父の幻影に包まれて…〉／特集「没後50年太宰治—弱さと優しさ」〈太宰治没後50年に憶う／太宰治—その弱さと優しさ／「満願」／私の『津軽』／津島家と小館家の縁／全国の桜桃忌／『人間失格』草稿／特別展「思うまま歌わしめよ叫ばしめよ—青森県の近代文学・短歌」閉幕

1-13. 『青森県近代文学館報』 第13号 1999年3月25日

収録：福士幸次郎草稿「有島武郎論」などを展示／「葛西善蔵没後70年特別展」に寄せて〈自筆原稿が伝える葛西善蔵／郷土教材の葛西善蔵／芦別と葛西善蔵〉／収蔵資料紹介〈秋田雨雀書簡（六）〉／図書・資料受入れ報告／小山内文学館長退任 新館長に鈴木健二氏

1-14. 『青森県近代文学館報』 第14号 1999年9月10日

収録：「詩人福士幸次郎生誕一一〇年特別展」開催／「佐藤紅緑没後50年特別展」特集／『少年讃歌』と私（佐藤きむ）／雑感・佐藤紅緑（北彰介）／佐藤紅緑書簡（福士幸次郎宛）／所蔵資料展 俳誌「暖鳥」に寄せて〈暖鳥を支えて（吹田登美子）／“ドアがあると…”（橘川まもる）〉／図書・資料受け入れ報告／「佐藤紅緑没後50年特別展」閉幕

1-15. 『青森県近代文学館報』 第15号 2000年3月25日

収録：「石坂洋次郎生誕一〇〇年記念展」開催／「詩人福士幸次郎生誕一一〇年特別展」に寄せて〈父の写真・母のこと／幸次郎と弦三…その出会いが「北秋」の作曲につながった〉／収蔵資料展「棟方志功の本」展に寄せて〈『大和し美し』—英と志功〉／収蔵資料紹介〈秋田雨雀書簡（七）〉／図書・資料受入れ報告／「詩人福士幸次郎生誕一一〇年特別展」閉幕

1-16. 『青森県近代文学館報』 第16号 2000年9月5日

収録：特別展「三浦哲郎芥川賞受賞四十年記念展」開催／特集「石坂洋次郎生誕百年記念展」〈「わが日わが夢」より 『わが日わが夢』と弘前／『わが日わが夢』／「青

い山脈」より [「青い山脈」とその時代／《青い山脈》誕生秘話／六助は]／「石中先生行状記」より [「石中先生行状記」／疎開時代の石坂洋次郎／「馬車物語」]／石坂洋次郎の人と文学より [石坂洋次郎の新聞小説／石坂家の食客たち／「石坂洋次郎の会」のあゆみ]

1-17. 『青森県近代文学館報』 第 17 号 2001 年 3 月 25 日

収録：特別展「長部日出雄展」開催／「三浦哲郎芥川賞受賞四十年記念展」に寄せて〈哲郎さんのこと／三浦文学と方言〉／「青森県児童文学のあゆみ展」に寄せて〈童心をゆさぶる特別展／童画と挿絵を描いて〉／図書資料受入れ報告／特別展「三浦哲郎芥川賞受賞四十年記念展」閉幕

1-18. 『青森県近代文学館報』 第 18 号 2001 年 9 月 30 日

収録：特別展「東青文学散歩」を開催す／特別展・長部日出雄展記念「対談と映画の会」を開催／収蔵資料展「津川武一・人と作品」に寄せて〈津川文学の源流／思い出すこと／夢ふくらんだ生い立ち〉／収蔵資料紹介〈秋田雨雀書簡(八)〉／収蔵資料展・特別展終了／『資料集 第二輯』刊行

1-19. 『青森県近代文学館報』 第 19 号 2002 年 3 月 25 日

収録：特別展「秋田雨雀展」開催／特別展「東青文学散歩」に寄せて〈倉光俊夫と青森県〉／特別展「東青文学散歩」記念〈ノンフィクション私論 一青森三部作をめぐる一〉／収蔵資料展「青森県の詩誌」に寄せて〈父桜庭芳露の思い出〉／収蔵資料紹介／図書・資料受け入れ報告／特別展「東青文学散歩」閉幕

1-20. 『青森県近代文学館報』 第 20 号 2003 年 3 月 25 日

収録：特別展「今官一展」開催／特別展「秋田雨雀展」に寄せて〈“雨雀山”登山口にて 2003 年〉／特別展「青森県の近代文学・大正期」に寄せて〈雑誌へのアクセス—時空を越える—〉／収蔵資料展「青森県の川柳誌」に寄せて〈まぼろしの「北貌」〉／特別展「秋田雨雀展」好評のうちに閉幕／特別展「青森県の近代文学・大正期」閉幕／図書・資料受け入れ報告／収蔵資料展「自筆が語る文人の心」／収蔵資料展「青森県の川柳誌」開催／収蔵資料展「青森県の川柳誌」記念大会開催

1-21. 『青森県近代文学館報』 第 21 号 2004 年 3 月 25 日

収録：特別展「陸羯南から鎌田慧へ 一青森県のジャーナリストの系譜—」開催／特別展「今官一展」に寄せて〈「まだ続いている今官一展」〉／特別展「寺山修司展」に寄せて〈寺山修司自筆歌集『咲耶姫』についての愚考〉／収蔵資料展「北畠八穂文庫展」に寄せて〈一文庫が開かれる時—〉／特別展「今官一展」好評のうちに閉幕／特別展「寺山修司展」大盛況で終了／図書・資料受け入れ報告／収蔵資料展「作家が語る青森県」閉幕／収蔵資料展「北畠八穂文庫展」開催

1-22. 『青森県近代文学館報』 第 22 号 2005 年 3 月 25 日

収録：「ミステリーの魔術師 一高木彬光没後十年特別展」開催／特別展「陸羯南から

鎌田慧へ ―青森県のジャーナリストの系譜―」に寄せて〈「津軽の殿様と馬肉 ～坂田二郎さんの思い出～」／「今晩はどんないい夢をみましたか」〉／特別展「陸羯南から鎌田慧へ ―青森県のジャーナリストの系譜―」閉幕／特集 青森県近代文学館十年のあゆみ〈「開館十年に寄せて」／「文学館開館まで」／「多謝、感謝」.「遙かなる高峰を仰いで」〉／収蔵資料展二回を開催

【09】弘前市立郷土文学館

館報

1. 『北の文脈ニュース』

- | | | | |
|------------------|------|------------|------|
| 1-1. 『北の文脈ニュース』 | 創刊号 | 1993年10月1日 | 目次無し |
| 1-2. 『北の文脈ニュース』 | 第2号 | 1993年12月1日 | 目次無し |
| 1-3. 『北の文脈ニュース』 | 第3号 | 1994年2月1日 | 目次無し |
| 1-4. 『北の文脈ニュース』 | 第4号 | 1994年4月1日 | 目次無し |
| 1-5. 『北の文脈ニュース』 | 第5号 | 1994年6月1日 | 目次無し |
| 1-6. 『北の文脈ニュース』 | 第6号 | 1994年8月1日 | 目次無し |
| 1-7. 『北の文脈ニュース』 | 第7号 | 1994年10月1日 | 目次無し |
| 1-8. 『北の文脈ニュース』 | 第8号 | 1994年12月1日 | 目次無し |
| 1-9. 『北の文脈ニュース』 | 第9号 | 1995年2月1日 | 目次無し |
| 1-10. 『北の文脈ニュース』 | 第10号 | 1995年4月1日 | 目次無し |
| 1-11. 『北の文脈ニュース』 | 第11号 | 1995年6月1日 | 目次無し |
| 1-12. 『北の文脈ニュース』 | 第12号 | 1995年8月1日 | 目次無し |
| 1-13. 『北の文脈ニュース』 | 第13号 | 1995年10月1日 | 目次無し |
| 1-14. 『北の文脈ニュース』 | 第14号 | 1995年12月1日 | 目次無し |
| 1-15. 『北の文脈ニュース』 | 第15号 | 1996年2月1日 | 目次無し |
| 1-16. 『北の文脈ニュース』 | 第16号 | 1996年4月1日 | 目次無し |
| 1-17. 『北の文脈ニュース』 | 第17号 | 1996年6月1日 | 目次無し |
| 1-18. 『北の文脈ニュース』 | 号外 | 1996年七夕 | 目次無し |
| 1-19. 『北の文脈ニュース』 | 第18号 | 1996年8月1日 | 目次無し |
| 1-20. 『北の文脈ニュース』 | 第19号 | 1996年10月1日 | 目次無し |
| 1-21. 『北の文脈ニュース』 | 第20号 | 1996年12月1日 | 目次無し |
| 1-22. 『北の文脈ニュース』 | 第21号 | 1997年2月1日 | 目次無し |
| 1-23. 『北の文脈ニュース』 | 第22号 | 1997年4月1日 | 目次無し |
| 1-24. 『北の文脈ニュース』 | 第23号 | 1997年6月1日 | 目次無し |

1-25.	『北の文脈ニュース』	第 24 号	1997 年 8 月 1 日	目次無し
1-26.	『北の文脈ニュース』	第 25 号	1997 年 10 月 1 日	目次無し
1-27.	『北の文脈ニュース』	第 26 号	1997 年 12 月 1 日	目次無し
1-28.	『北の文脈ニュース』	第 27 号	1998 年 2 月 1 日	目次無し
1-29.	『北の文脈ニュース』	第 28 号	1998 年 4 月 1 日	目次無し
1-30.	『北の文脈ニュース』	第 29 号	1998 年 6 月 1 日	目次無し
1-31.	『北の文脈ニュース』	第 30 号	1998 年 8 月 1 日	目次無し
1-32.	『北の文脈ニュース』	第 31 号	1998 年 10 月 1 日	目次無し
1-33.	『北の文脈ニュース』	第 32 号	1998 年 12 月 1 日	目次無し
1-34.	『北の文脈ニュース』	第 33 号	1999 年 2 月 1 日	目次無し
1-35.	『北の文脈ニュース』	第 34 号	1999 年 4 月 1 日	目次無し
1-36.	『北の文脈ニュース』	第 35 号	1999 年 6 月 1 日	目次無し
1-37.	『北の文脈ニュース』	第 36 号	1999 年 8 月 1 日	目次無し
1-38.	『北の文脈ニュース』	第 37 号	1999 年 10 月 1 日	目次無し
1-39.	『北の文脈ニュース』	第 38 号	1999 年 12 月 1 日	目次無し
1-40.	『北の文脈ニュース』	第 39 号	2000 年 2 月 1 日	目次無し
1-41.	『北の文脈ニュース』	第 40 号	2000 年 4 月 1 日	目次無し
1-42.	『北の文脈ニュース』	第 41 号	2000 年 6 月 1 日	目次無し
1-43.	『北の文脈ニュース』	第 42 号	2000 年 8 月 1 日	目次無し
1-44.	『北の文脈ニュース』	第 43 号	2000 年 10 月 1 日	目次無し
1-45.	『北の文脈ニュース』	第 44 号	2000 年 12 月 1 日	目次無し
1-46.	『北の文脈ニュース』	第 45 号	2001 年 2 月 1 日	目次無し
1-47.	『北の文脈ニュース』	第 46 号	2001 年 4 月 1 日	目次無し
1-48.	『北の文脈ニュース』	第 47 号	2001 年 7 月 1 日	目次無し
1-49.	『北の文脈ニュース』	第 48 号	2002 年 1 月 1 日	目次無し
1-50.	『北の文脈ニュース』	第 49 号	2002 年 7 月 15 日	目次無し
1-51.	『北の文脈ニュース』	第 50 号	2003 年 1 月 1 日	目次無し
1-52.	『北の文脈ニュース』	第 51 号	2003 年 7 月 1 日	目次無し
1-53.	『北の文脈ニュース』	第 52 号	2004 年 1 月 1 日	目次無し
1-54.	『北の文脈ニュース』	第 53 号	2004 年 7 月 1 日	目次無し
1-55.	『北の文脈ニュース』	第 54 号	2005 年 1 月 1 日	目次無し

【10】（財）石川啄木記念館

図録

1. 『平成七年度特別展図録 啄木と岩手日報』 1995年7月20日 編集：石川啄木記念館 発行：財団法人石川啄木記念館
収録：特別展開催にあたって／ごあいさつ／目次・凡例／はじめに／白羊会詠草／『草わかば』を評す／寸舌語／五月乃文壇／『ゴルキイ』を読み／夏がたり／ワグネルの思想／無題録／詩談一則／雑吟／西伯利亞の歌／樗牛会に就て／戦雲余録／洪民村より／閑天地／岩手県師範学校校友会雑誌を読む／古酒新酒／空中書／日曜通信／小春日／胃弱通信／百回通信／関連記事から／「岩手日報」掲載啄木作品と関連記事／おわりに
2. 『啄木と釧路 一心ときめく76日間』 1996年6月1日 編集：財団法人石川啄木記念館 発行：石川啄木生誕110年記念事業実行委員会
収録：口絵／ごあいさつ（工藤久徳）／ご挨拶（鰐淵俊之）／はじめに／石川啄木 釧路の七十六日間（日記）／啄木が生涯に出版した著書／年譜〈釧路の七十六日間／その生涯二十六年間〉／おわりに
3. 『平成8年度特別展資料目録 研究の足跡——岩城之徳博士所蔵研究資料から——』 1996年10月1日 編集：財団法人石川啄木記念館 発行：財団法人石川啄木記念館 目次無し
4. 『書簡に見る、胡堂と啄木 ～盛岡中学同窓生の便りから～』 2001年9月29日 編集・発行：野村胡堂・あらえびす記念館／財団法人石川啄木記念館 目次無し

研究誌

1. 『啄木歌ごよみ 一石川啄木生誕百十年記念刊行一』 1996年10月 企画・編集：財団法人石川啄木記念館 発行：財団法人石川啄木記念館
収録：啄木文学の原風景／プロローグ 夢を追った生涯／啄木略年表・プロフィール／啄木ゆかりの地／啄木の春／3月／4月／5月／啄木の夏／6月／7月／8月／啄木の秋／9月／10月／11月／啄木の冬／12月／1月／2月／思郷の人・啄木を旅する（増田れい子）／啄木歌ごよみ INDEX／あいさつ

研究書

1. 『私論・石川啄木 一思想と文学一』 1975年10月1日 著者：中島嵩 発行：盛岡啄木会 発売：石川啄木記念館
2. 『続 私論・石川啄木 一生活・思想・文学一』 1983年11月10日 著者：中島嵩 発行：石川啄木記念館

復刻

1. 『石川啄木記念館 名著復刻シリーズ』 2003年2月20日 企画・編集：財団法人石川啄木記念館 発行：財団法人石川啄木記念館
- 1-1. 『一握の砂』 1910年（明治43年）12月1日 著者：石川啄木 発行：東雲堂書店

館報

1. 『石川啄木記念館』
 - 1-1. 『石川啄木記念館』 第1号 1988年2月20日
収録：上野さんの遺族、啄木の絵葉書等寄贈／啄木研究の挑戦（小田切秀雄）／啄木生誕百年・その後（岩城之徳）／研究時評（太田登）／日報文芸賞（啄木賞） 第一は岩城之徳氏受賞（及川和哉）／提言・啄木文学の研究と顕彰 啄木の全体像をこそ！（天野仁）／各地の啄木会／提言—— 随時内容かえての特別企画（千葉瑞夫）啄木生誕百年記念 —その事業と行事（遊座昭吾）／企画展 牧水と啄木／記念館日記抄
 - 1-2. 『石川啄木記念館』 第2号 1988年8月20日
収録：就任にあたって（小綿實）／私の履歴書（岩城之徳）／岩城之徳著書一覧／主要出品の細説／最近の啄木研究書／岩手日報文学賞（啄木賞）第三回は遊座昭吾氏受賞（及川和哉）／追悼秋浜三郎展・啄木忌・啄木祭／記念館日記抄
 - 1-3. 『石川啄木記念館』 第3号 1989年3月15日
収録：就任にあたって（高橋薫）／吉田道子さんが寄稿／昭和から平成へ ——啄木研究史展その後（岩城之徳）／アルバム・岩城之徳啄木研究史展等／最近の啄木体験（平岡敏夫）／啄木研究における日中交流（林丕雄）／函館の地をたずねて（西川西三）／小天地時評 啄木研究の国際的状況 函館・関西の活動に注目（遊座昭吾）／別館展示／記念館日記抄
 - 1-4. 『石川啄木記念館』 第4号 1989年9月3日
収録：企画展 啄木と「明星」の人びと—与謝野晶子を中心に／啄木と晶子（入江春行）／啄木の世界（玉城徹）／岩手日報文学賞（啄木賞）・第四回は林丕雄氏受賞（及川和哉）／小天地時評 課題追求の著作・論文 研究の一転機・平成の幕開け（遊座昭吾）／啄木忌 啄木祭／記念館日記抄
 - 1-5. 『石川啄木記念館』 第5号 1990年9月20日 目次無し
収録：開館二十年を迎えて（高橋薫）／国際啄木学会／啄木を追悼する 与謝野鉄幹・晶子／特別寄稿 啄木の原風景・洪民を残せるか（近藤典彦）／開館特別展示 啄木をめぐる二十年の歩み（山本玲子）／記念館日記抄
 - 1-6. 『石川啄木記念館』 第6号 1991年11月1日
収録：国際啄木学会文庫が玉山村に／啄木と同じ目の高さ（太田登）／短歌大会・俳

句大会受賞者／特別展示「啄木、その生命の炎」(山本玲子)／啄木文学顕彰の現況(浅沼秀政)

1-7. 『石川啄木記念館』 第7号 1992年11月1日

収録：立花さだ子宛啄木絵はがき寄贈／特別寄稿 「私の啄木体験」(扇畑忠雄)／国際啄木学会台北大会／特別展示「レクイエム節子」展(山本玲子)／啄木祭／特別展示 啄木碑展／啄木の会活動状況／記念館日記抄

1-8. 『石川啄木記念館』 第8号 1994年1月1日

収録：石川啄木記念館に期待する(工藤久徳)／最近の啄木研究の展望(岩城之徳)／韓国の秋風 ～韓国日本学会主催の講演会に出席して(山本玲子)／人名辞典の節子(塩浦彰)／館長室より(高橋薫)／啄木学級に参加して(浜民夫／遊座英子)／特別展示 詩人〔啄木〕誕生90年 啄木とふるさと／第二回特別展示 啄木をめぐる人々／最近の寄贈資料／記念館日記抄

1-9. 『石川啄木記念館』 第9号 1995年2月1日

収録：新しき明日を信じて 一暗さ・貧しさからの脱却一(嶋千秋)／岩手日報と石川啄木(六岡康光)／ロシアよりの調査報告 一マカロフ提督像の前に佇みて一(戸塚隆子)／啄木から松本清張へ(岩城之徳)／地平線上の啄木 ——ヤセの断崖に立ちて——(山本玲子)／宇宙から来たタクボク(上田博)／平成六年度の特別展／啄木の書き残した本多竜 一私の就職先の東京支社長だった一(福田常雄)／諸行事のいろいろ／寄贈資料

1-10. 『石川啄木記念館』 第10号 1996年2月20日

収録：啄木生誕110年記念事業紹介(嶋千秋)／平成八年度 啄木生誕一一〇年記念事業から／岩城之徳先生の偉業をしのぶ／啄木記念館へのおたよりから 事実は小説より奇なり(福田常雄)／啄木を胸に抱いて(増田れい子)／平成7年度啄木学級の講演から

1-11. 『石川啄木記念館』 第11号 1997年3月31日 目次無し

収録：生誕祭／移動展 啄木と釧路展／啄木祭シンポジウム ——啄木の夢と青春——／特別展 啄木研究の足跡 ——故岩城之徳博士所蔵研究資料から——／啄木サミット／国際啄木学会／啄木学級／夢の家／石川啄木と仏訳の「日本現代詩集」(小野吉朗)／韓国における啄木短歌(韓基連)／館長日記／啄木と芸能 一斯ういふ習慣をば永久に保存したい一

1-12. 『石川啄木記念館』 第12号 1998年3月31日

収録：啄木と芸能—ミュージカル「娘義太夫の夢」／啄木と芸能—劇「長寿庵啄木」／寄稿 啄木起こし(及川和哉)／寄稿 啄木は盆踊り狂いだった(門屋光昭)／《特別展》啄木と芸能／寄稿 浜民盆踊りの復活(吉田光夫)／寄稿 与謝野晶子の封筒のこと(R・H)／岩城図書資料の行方／寄稿 啄木を追う旅(小松健一)／寄稿 洪

民訪問記（三浦哲朗）／平成十年度テーマ 花と啄木／地域に根ざした館活動（嶋千秋）／平成九年度の啄木生誕一一一年行事をふりかえって

1-13. 『石川啄木記念館』 第13号 1999年3月31日

収録：啄木であい道／館長日誌（嶋千秋）／特別寄稿 啄木記念館の楽しみ方（荻野洋）／講演 私の花物語（志賀かう子）／花と啄木／啄木祭シンポジウム／講演 啄木とその時代 ～岩手の文学風土～（赤澤義昭）／啄木展—明治村—

1-14. 『石川啄木記念館』 第14号 2000年3月31日

収録：この女の名は一／渋民からの爽やかな風（桜井健治）／啄木学級講演要旨 啄木の魅力 ～藤沢周平から見た啄木～（門屋光昭）／啄木学級東京講座／啄木祭／啄木とその時代／啄木生誕祭シンポジウム要旨「21世紀へ 啄木の伝言～教育論～」／仙台文学館開館一周年記念特別展「ことばの地平 —石川啄木と寺山修司—」（赤間亜生）／館長日誌（嶋千秋）

1-15. 『石川啄木記念館』 第15号 2001年3月31日

収録：杜陵三夜勿々の夢／寄稿 啄木を不平病と診断した 祖父・万沢医学士（万澤安央）／啄木学級講演要旨 人間は変わる（三好京三）／平成12年度 啄木祭～21世紀へ 啄木の伝言～／歌集『一握の砂』が発行された九十年の今／寄稿 渋民の面影2（花坂洋行）／館長日誌（嶋千秋）啄木学級東京講座

1-16. 『石川啄木記念館』 第16号 2002年3月31日

収録：経堂企画展「書簡に見る胡堂と啄木 ～森岡中学同窓生の便りから～」／啄木が見た宮古 ——富田先生と道又氏——（山本玲子）／床の間には勿来の関の一軸を（山本玲子）／啄木祭「故郷によせて～渋民日記より」／啄木学級ふるさと講座「啄木と現代」（赤坂憲雄）／寄稿 渋民の面影3（花坂洋行）／館長日誌（嶋千秋）

1-17. 『石川啄木記念館』 第17号 2003年3月31日

収録：新展示資料「啄木と英詩集『東海より』」／このごろの話題「啄木の恋文—一抹の潤い—（平山芳子宛書簡）」／下張りになっていた石川一禎関係文書／まぼろしの原稿と書簡 —後藤宙外と「魂よ沈め」—／荻原藤吉宛ハガキ／日戸村大絵図／新歌碑 船岡駅の歌碑／啄木と鹿角 ～詩「錦木塚」の舞台を訪ねて／スポット展示「啄木と海 ～海は常に動けり」／館長日誌（嶋千秋）

1-18. 『石川啄木記念館』 第18号 2004年3月31日

収録：富田小一郎先生と啄木追悼会／啄木学級東京講座のさわり（門屋光昭）／スポット展示 啄木と『スバル』（山本玲子）／啄木祭 ～啄木と尾崎豊／啄木とその時代②／ふるさとの橋に歌碑／パンの歌、美国の歌／今日のあなたに贈る 啄木のことば／館長日誌（嶋千秋）

記念誌（周年）

1. 『石川啄木記念館開館二十周年記念誌「啄木鳥」』 1990年5月1日 編者：二十周年記念誌「啄木鳥」編集委員会 発行：財団法人石川啄木記念館

【11】日本現代詩歌文学館

図録（常設展）

1. 『平成七年度・常設展「風の詩歌」^{うた}図録』 1995年4月18日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
2. 『平成8年度日本現代詩歌文学館常設展「水の旅」』 1996年3月19日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
3. 『平成9年度日本現代詩歌文学館常設展「火——存在と無と」』 1997年3月25日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
4. 『平成10年度日本現代詩歌文学館常設展「空・想像のかなたへ」』 1998年3月21日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
5. 『平成11年度日本現代詩歌文学館常設展 '99岩手インターハイ開催記念「スポーツと詩歌」』 1999年3月20日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
6. 『開館10周年 平成12年度日本現代詩歌文学館常設展 家族を問う』 2000年7月18日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
7. 『二〇〇一年度日本現代詩歌文学館常設展 応答せよ、感性。21世紀に贈る詩歌』 2001年3月15日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
8. 『2002年度常設展「子どもたちに贈る詩歌」』 2002年4月2日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
9. 『2003年度常設展 「働く人たちの詩歌—さあ、生きることを始めよう！—」』 2003年5月1日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
10. 『2004年度常設展 はるかなる響き—ことばが映す、ふるさと。』 2004年5月22日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
11. 『2005年度常設展 いのちの詩歌—きのう、きょう、あした』 2005年3月15日 編集・発行：日本現代詩歌文学館
収録：ご挨拶（篠弘）／出品作品／出品者索引／エッセイ

図録（企画展）

1. 『山口青邨生誕百年展』 1991年4月27日 編集協力：斎藤夏風／菅原多つを 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し

2. 『井上靖展—詩の世界』 1992年5月24日 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
3. 『“現代詩のフロンティア ——モダニズムの系譜”展』 1994年7月23日 編集：企画委員会 発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
4. 『“夕暮・牧水と自然主義歌人”展』 1995年10月28日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
5. 『“中村草田男の世界”展』 1996年11月5日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
6. 『没後30年 村上昭夫『動物哀歌』への道』 1997年10月10日 編集・発行：日本現代詩歌文学館
 収録：開催にあたって（扇畑忠雄）／村上昭夫の詩世界（相沢史郎）／深淵を渉る風（辻井喬）／村上昭夫さんの思い出（高橋克彦）／あいている椅子 生涯 写真／社会への視点・死と宗教への傾斜・宇宙性への到達・存在への問い（高橋昭八郎）／天に道あるごと（村上ふさ子）／村上昭夫の俳句50句（抄出・村上ふさ子）／「首輪」の時期の村上昭夫／村上昭夫と「死の眼鏡」（内川吉男）／劫初への旅人—村上昭夫の愛と祈り（北畑光男）／幻視の人《村上昭夫》—その作品の諸特性（水野るり子）／資料編①〈詩集『動物哀歌』一覧／詩集『動物哀歌』初出・掲載誌・発表機関一覧／作品掲載アンソロジー／詩集『動物哀歌』索引〉／資料編②〈年譜／著作目録／文献目録／文献補遺〉
7. 『日独ヴィジュアル・ポエトリー展』 1999年9月4日 編集：日独ヴィジュアル・ポエトリー展企画実行委員会 発行：日本現代詩歌文学館
 収録：言葉とイメージの海へ（扇畑忠雄）／日独ヴィジュアル・ポエトリー展「世界プロセスとしての身振り」（向井周太郎）／コンクリート・ポエトリーからヴィジュアル・ポエトリーへ—電子化された未来への展望—（クラウド・ペーター・デンカー）／ドイツ巡回展回顧—「日独ヴィジュアル・ポエトリー展」の前史として（上村弘雄）／ドイツ語圏作家 作品／日本人作家 作品／周辺の資料や試みの資料として／年譜・資料／作家一覧
8. 『開館10周年記念特別展 アララギの源流—蕨家資料を中心に—』 2000年5月27日 編集・発行：日本現代詩歌文学館
 収録：「原水」へのいざない——「アララギの源流」展に寄せて（扇畑忠雄）／開催に寄せて（蕨玲子）／はじめに（篠弘）／《I》和歌革新の時代——正岡子規の登場（藤岡武雄）／《II》根岸短歌会——「馬酔木」「アカネ」の創刊（藤岡武雄）／《III》アララギ創刊（本林勝夫）／《IV》アララギの展開——斎藤茂吉『赤光』とその周辺（本林勝夫）／《V》初期アララギの人々／主な出品資料／【参考資料】〈歌壇系統図（目地〜大正初期・根岸派以外）／歌壇系統図（明治〜大正初期・根岸派）／蕨真（蕨樞堂）〉
9. 『特別企画展 扇畑忠雄展——学と芸の総合——』 2003年3月22日 編集・発行：日本現代詩歌文学館

収録：ご挨拶（篠弘）／寄稿エッセイ〈扇畑忠雄さんのこと（近藤芳美）／わが親愛なる扇畑さん（小市巳世司）／扇畑先生の思い出（玉城徹）／「アララギ」そして「群山」（清水房雄）／最近の作品より（宮地伸一）／『中村憲吉』のことなど（本林勝夫）／稟質の学（中西進）／戦後ルネサンスは手弁当で（今入惇）／扇畑忠雄先生へのオマージュ（小海永二）／扇畑さんの人間性（斎藤茂太）／近詠・近影／I 二つの故郷——旅順から広島へ（徳山高明）／II 文学の出発——広島から京都へ（高橋宗伸）／III 仙台から東北のフィールドへ（高橋宗伸）／IV 東北から全国へ（佐々木民夫）／扇畑忠雄秀歌鑑賞（徳山高明・高橋宗伸）／扇畑忠雄自選五〇首 平成元年～十四年／扇畑忠雄略年譜／主な出品資料

10. 『一現代俳人による一俳句さくらまつり』 2004年3月23日 編集・発行：日本現代詩歌文学館

収録：ご挨拶（篠弘）／寄稿エッセイ〈桜どき（宇多喜代子）／帰らざればわが空席に散るさくら 中村苑子（黒田杏子）／嗚咽（星野椿）／桜の季語・抜粋 春／出品作品〈作者50音順索引〉／金星桜五十句（山下一海）／出品作品について

紀要

1. 『日本現代詩歌研究』

1-1. 『日本現代詩歌研究』 第1号 1994年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館

収録：刊行に寄せて（扇畑忠雄）／聖域としての詩歌（中西進）／萩原朔太郎と仏教音楽（菅邦男）／東北伝道の山村暮鳥——秋田・湯沢・仙台・平——（中村不二夫）／明治三十五年の歌壇——「明星」所載の鉄幹の見解を中心に——（島津忠夫）／展に聞こゆる——『赤光』再考——（小林孝夫）／高浜虚子論——闇を見据えた人間の文学——（宮坂静生）／戦時下の俳人たち——赤黄男・白泉・六林男を中心に——（川名大）／日本現代詩歌文学館コレクション資料紹介《I》

1-2. 『日本現代詩歌研究』 第2号 1996年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館

収録：新韻会の興亡（久保忠夫）／人間の悲劇（James R. Morita）／近代詩の美の考察（原子修）／「新桂園派」の消長——井上通泰・田山録弥・松岡国男の歌——（来嶋靖生）／「藤の花」連作の周辺——一九〇一年春の正岡子規——（中島国彦）／句集『白痴』の「もう一度後記」の謎——川端茅舎とキリスト教——（松浦敬親）／漱石の俳諧的世界（小室善弘）／日本現代詩歌文学館コレクション資料紹介《II》

1-3. 『日本現代詩歌研究』 第3号 1998年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館

収録：近代詩歌の誕生——与謝野晶子の『みだれ髪』（一九〇一年）における新体詩と和歌の伝統——（Leith Morton）／自動車と近代詩の交流（小関和弘）／詩集『思ひ出』その後——神話と制度——（國生雅子）／齊藤史『うたのゆくへ』論——ロマン主義の宣言——（菱川善夫）／鐵幹晶子とロセッティ（中皓）／R. H. Blyth

と俳句 ——外国人の俳句理解をめぐって——（井上暹）／写生から写生文へ ——美術理論応用の様相——（松井貴子）／日本現代詩歌文学館コレクション資料紹介《III》

1-4. 『日本現代詩歌研究』 第4号 2000年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館
収録：日本現代詩歌文学館 10周年記念巻頭座談会 日本の詩歌——世紀の歩みと未来（中村稔／安藤元雄／佐佐木幸綱／山下一海）／西脇順三郎の戦中、戦後 ——「淋しさ」の詩学をめぐって——（澤正宏）／立ちどまる旅 ——三好達治における口語四行詩の終焉——（國中治）／木村捨録の昭和史（三枝ニ之）／写生論再考（永田和宏）／二句一章の研究（宇都木水晶花）／其角堂機一著『発句作法指南』と正岡子規著『瀬祭書屋俳話』（復本一郎）／日本現代詩歌文学館資料紹介

1-5. 『日本現代詩歌研究』 第5号 2002年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館
収録：《特集》詩歌と時代——時代区分をめぐって——〈近代詩と現代詩の境域 ——『平戸廉吉詩集』を鏡として——（和田博文）／近代短歌の基点 ——私詩としての近代短歌——（篠弘）／「モダン都市」を視点として現代俳句史の起点について（川名大）／パイオニアとしての朔太郎 ——セセッションとの関わりを中心に——（徐載坤）／江南文三の《散文詩》をめぐって（橋浦洋志）／戦後「アララギ」の一考察——選歌欄のあり方をめぐって——（大島史洋）／窪田空穂と「気分」（内藤明）／未完なる「老い」 ——飯島晴子の俳句をめぐって——（權未知子）／高浜虚子の「人間探求派」評価 ——山本健吉評との比較検証——（中岡毅雄）／日本現代詩歌文学館資料紹介

1-6. 『日本現代詩歌研究』 第6号 2004年3月31日 発行者：日本現代詩歌文学館
収録：《対談》詩人として作家として（辻井喬／篠弘）／「蟲寺抄」考（阿毛久芳）／新教育課程と現代詩教育の課題 ——小・中・高を概観して（市村和久）／語り残された自我 ——葛原妙子論（川野里子）／斎藤茂吉と「逆白波」の歌（島田修三）／近代雑俳の展望 ——冠句・狂俳・淡路雑俳・肥後狂句・薩摩狂句（筑紫磐井）／西東三鬼論——物質に憑かれて（吉田裕）／日本現代詩歌文学館資料紹介

研究誌

1. 『没後 30年 村上昭夫の詩による歌曲（楽譜）』 1997年 発行：日本現代詩歌文学館 奥付無し

収録：村上昭夫の詩による作品〈前奏曲 I. II. III. / 歌曲 / 秋 / 遠い道 / 雪

2. 『井上靖 晩年の詩業 ——日本現代詩歌文学館を中心に』 1999年3月 監修：日本現代詩歌文学館 発行者：日本現代詩歌文学館

収録：追想 写真でつづる井上靖／序 「日本一だなあ」と独り言（井上ふみ）／心ニ波光在ニニ 漂う心の波光（林林）／奇縁一つ（扇畑忠雄）／井上靖に関する三章と弔

辞（大岡信）／人の組合わせが歴史をつくる（椎名素夫）／井上先生と文学館と私（相賀徹夫）／詩歌文学館へのご尽力の巨きさ・詩歌を永遠に（高橋盛吉）／井上先生と北上と（菊池啓治郎）／井上靖による夢の実現（篠弘）／父と星についての思い出（浦城いくよ）／渡り鳥（山崎隆芳）／井上靖氏のふだんの顔（石和鷹）／井上靖に捧げる 砂をあびる 幻書をひらく（白石かずこ）／詩眼 心眼（大野とくよ）／晩年の詩から（倉橋羊村）／井上西域詩と 林林先生（相沢史郎）／詩歌文学館賞をめぐる（仲木都富）／斎藤五郎市長とともに（川村鷹志）／夏油温泉の思い出（星野市右エ門）／それは風の記憶（高田尚和）／「追悼 井上靖展——詩の世界」記録（豊泉豪）／その詩集の完結・北天の星柱・その詩集の凜冽・詩歌文学館賞私記・メモワール・断片、死去まで（佐藤章）／資料編〈詩人として作家として（井上靖）／本当にすばらしいこと——東京総会でのあいさつ（井上靖）／日本現代詩歌文学館・詩歌文学館賞の集い〔司会として（相沢史郎）／一、はじめに（相賀徹夫）／一、詩歌文学館と振興会について（萩原廸夫）／一、詩歌文学館賞について（篠弘）／一、ご挨拶（井上靖）／一、お礼のことば（太田俊穂）／一、乾杯とご挨拶（山本健吉）／一、詩としての短歌（井上靖）／一、ご挨拶とお礼（斎藤五郎）／一、ご祝辞（井上農一）／一、ご祝辞（近藤芳美）／一、ご祝辞（山本太郎）〕／大きく育て詩歌文学館（井上靖・太田俊穂）／既に一万三〇〇〇点の資料 充実した施設へ全力（斎藤五郎）／ご挨拶（井上靖）／詩歌文学館賞一覧／詩歌文学館賞歴代選考委員／詩歌文学館賞歴代受賞者（受賞作）／全国井上靖文学館・記念館・記念室・主要文学碑 俯瞰図／あとがき

記録集

1. 『日本現代詩歌文学館報告書』

- 1-1. 『シンポジウム 現代短詩型文学の交差点 ―俳句と川柳の対話―』 1991年3月1日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
- 1-2. 『シンポジウム 現代短詩型文学の交差点 ―俳句と川柳の対話―』 1992年1月20日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
- 1-3. 『シンポジウム 現代短詩型文学の交差点 ―誌型の未来を問う―』 1992年12月15日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
- 1-4. 『フォーラム 世界の詩人シリーズ1 韓国の詩人は語る』 1994年1月15日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
- 1-5. 『フォーラム 世界の詩人シリーズ2 中国の詩人林林氏は語る』 1998年3月15日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し
- 1-6. 『フォーラム 世界の詩人シリーズ3 台湾の詩人は語る』 1998年10月31日 編集・発行：日本現代詩歌文学館 目次無し

2. 『詩歌文学館賞記念講演集』

2-1. 『詩歌の大河流れる』 1993年3月31日 監修：日本現代詩歌文学館振興会 発行：日本現代詩歌文学館振興会

収録：はしがき／第一回 詩歌文学館の集い 「詩人として 作家として」(井上靖)／第二回 詩歌文学館の集い 「歌とわたくし」(馬場あき子)／第三回 詩歌文学館の集い 「俳句と人生」(飯田龍太)／第四回 詩歌文学館の集い 「宮澤賢治と私」(三木卓)／第五回 詩歌文学館の集い 「わが俳句人生」(金子兜太)／詩歌文学館賞／詩歌文学館賞受賞作／詩歌文学館賞選考委員／あとがき

2-2. 『詩歌の大河流れる』 1994年3月31日 監修：日本現代詩歌文学館振興会 発行：日本現代詩歌文学館振興会

収録：はしがき／第六回 詩歌文学館の集い 「折口信夫の世界」(岡野弘彦)／第七回 詩歌文学館の集い 『「星闌干」から「孔子」』(小田切進)／第三回 詩歌文学館の集い 「俳句と現代」(沢木欣一)／詩歌文学館賞／詩歌文学館賞受賞作／詩歌文学館賞選考委員／詩歌の大河は流れて／日本現代詩歌文学館振興会趣意書／日本現代詩歌文学館設立発起人名簿／あとがき

復刻

1. 『日本現代詩歌文学館復刻シリーズ第1輯』 1990年5月18日 編集・発行：日本現代詩歌文学館

1-1. 『新体詩「野ばら」』 1907年(明治40年)7月3日 著者：豊田啓太郎(豊田玉菘) 発行：心聲社

館報

1. 『日本現代詩歌文学館』→『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』

1-1. 『日本現代詩歌文学館』 第1号 1985年1月1日

収録：本当にすばらしいこと(井上靖)／東京総会で誓い合い／全力をつくし計画を実現(斎藤五郎)／文学館運営審議会発足／文学館これまでの歩み／日本現代詩歌文学館趣意書／同役員名簿／慶光院芙沙子和無限(永坂田津子)／無限社から貴重資料寄贈／建設計画概要／基金・図書寄贈者名

1-2. 『日本現代詩歌文学館』 第2号 1985年7月20日

収録：大成功の「詩歌文学館の集い」／詩歌文学館賞を創設／最高顧問に山本健吉氏／初代館長に太田岩手放送会長／井上最高顧問を視察／評議員制度を設ける／寄贈資料早くも一万冊に／基金も続々全国から／いわて・詩・風土(北実三郎)／文学館の歩み②／北上に協力会が結成／北上のプロフィール②／基金、図書寄贈者名

1-3. 『日本現代詩歌文学館』 第3号 1986年3月26日

収録：初の詩歌文学館賞決まる／第一回贈賞式五月十日に／早期実現をと最終答申／

評議員制スタート／熱気あふれた東京の集い／盛大だった盛岡の集い／二万冊を越える資料が／みちのくに言霊の館を／文学館の歩み／基金・図書寄贈者名／第二回詩歌文学賞要項

1-4. 『日本現代詩歌文学館』 第4号 1987年1月5日

収録：ごあいさつ（高橋盛吉）／盛況だった贈賞式／北上文学サミットの話／この運動を協議／基本設計審議始まる／二年間で三万点の資料寄贈される／ライオンズが寄金／文学館のこれまでの歩み／基金・図書寄贈者名／第三回詩歌文学館賞募集

1-5. 『日本現代詩歌文学館』 第5号 1987年7月1日

収録：感動をよんだ贈賞式／文学館建設計画決まる／東北重点に評議員会議／各地で評議員会議続々／地元でも基金寄贈続く／資料・基金の協力お願い／寄贈資料だより／感動したの聲が圧倒的／北上の文芸掌史／文学館のこれまでの歩み／詩歌文学館賞募集／基金・図書寄贈者名

1-6. 『日本現代詩歌文学館』 第6号 1988年3月25日

収録：いよいよ文学館建設へ／5月21日、晴れの贈賞式／6万点を越えた寄贈資料／開館準備委員会始動へ／太田館長、斉藤顧問死去／各県で積極的協力を約束／地元資料発掘に乗り出す／全国二千誌に協力依頼／随想「北上は詩歌のぬくみ」／文学館の歩み／基金・図書寄贈者名

1-7. 『日本現代詩歌文学館』 第7号 1988年11月15日

収録：待望の文学館建設に着手／基金二億円超え、資料七万点に近づく／井上靖氏名誉館長に就任／開館準備委スタート／成功裡に終わった贈賞式／山本最高顧問死去／積極的支援を協議／副会長に菊池理事選任／アメリカの詩人も来訪／ギンズバーグ、ポエトリーイン東京協賛／啄木・賢治記念館だより／同人誌寄贈のお願い／文学館の歩み／新選考委員決まる／基金・図書寄贈者ご芳名

1-8. 『日本現代詩歌文学館』 第8号 1989年3月28日

収録：注目の文学館、八月に完成／モニュメントに舟越保武氏の彫刻／五月二十日、詩歌文学館賞贈賞式／新しい館長に扇畑忠雄氏／全国の協力者、一万人突破／精力的にブロック評議員会／運審会長に相沢史郎氏／エッセー、「富田碎花全詩集刊行にふれて」（浦田敬三）／討議からスケジュール作り／芥川賞・直木賞一〇〇回記念展／文学館の歩み／基金・図書寄贈者ご芳名／編集後記

1-9. 『日本現代詩歌文学館』 第9号 1989年10月20日

収録：待望の文学館、晴れの完成／盛況だった市民見学会／資料十万点に近づく／故山口青邨資料一括 文学館へ／馬場、村越氏晴れの受賞／平成元年度振興会理事会／まず山陰ブロックで評議員会／益金パーティや文学碑めぐり／エッセー「詩歌と心のシルクロードを築く」（あしみね・えいいち）／詩歌文学碑のある街づくり／文学館の

歩み／基金・図書寄贈者ご芳名

1-10. 『日本現代詩歌文学館』 第10号 1990年3月28日

収録：開館のごあいさつ（高橋盛吉）／「言霊の館」成る（扇畑忠雄）／お祝いのことば（瀬尾弘吉）／五月十八日落成式／沿革／施設の案内／記念企画展「現代詩と色彩」／利用、交通の案内／資料11万点、基金3億3千万円に／受賞の三氏決まる／各地で支援の体制／基金・図書寄贈者ご芳名

1-11. 『日本現代詩歌文学館』 第11号 1990年10月26日

収録：入館者三万人を突破／「世界の文学館になる」／成功だった「現代詩と色彩」／東北詩人の集い／萩原副会長死去／資料13万1千点を超える／随想〈思い出の一こまを（大野とくよ）〉／基金・図書寄贈者ご芳名／利用の案内／文学館報についてのお知らせ

1-12. 『日本現代詩歌文学館』 第12号 1991年3月1日

収録：名誉館長井上靖氏死去／北上市が県内第二の都市に／入館者五万人突破も間近か／第6回詩歌文学館賞贈賞式／振興会会員の皆様へお知らせ／北海道、長野で評議員会開く／資料14万5千点に達す／文学館建築が晴れの受賞／文学館の歩み／牧水、光太郎文学碑建立へ／公園の整備も順調／おらだづの詩歌学会開く／随想〈短文芸界のアキレス腱（田口麦彦）〉／基金・図書寄贈者ご芳名

1-13. 『日本現代詩歌文学館』 第13号 1991年10月26日

収録：エッセイ特集／井上靖さんの《昭和》（小田切進）／空穂・善磨との出会い（篠弘）／秋櫻子百年（倉橋羊村）／コーヒーの一气飲み（福中都生子）／盛況だった青邨展／日本歌人クラブ会長賞に窪田さん／井上靖著書約一千点 ほか／寄贈資料17万台に上る／相賀新体制でスタート／吉増氏に晴れの賞状／新選考委員決まる／山梨県評議員会／文学館の歩み／文学館行事ガイド／館報購読申しこみ

1-14. 『日本現代詩歌文学館』 第14号 1992年3月26日

収録：特別企画「追悼・井上靖展—その詩集」／第7回詩歌文学館の集い／第7回詩歌文学館賞受賞者決まる／「井上靖さんを偲ぶ会」／4年度文学館事業計画決まる／全国から視察続々と／山口青邨氏自宅の移転・復元へ／齋藤茂吉文学碑除幕／寄贈・收藏図書20万台へ／静岡、埼玉県評議員会開く／資料としてのマダム・ブランシュ／アンケート特集／おらだづの詩歌学会／文学館の歩み／館報の購読制／利用・交通の案内

1-15. 『日本現代詩歌文学館』 第15号 1992年10月22日

収録：盛況だった「追悼・井上靖展」／全国八会場で「井上靖展」／ついに寄贈・收藏資料20万台突破／実りゆたかな東北俳人の集い／シンポジウム「詩型の未来を問う」／俳句講座開講／現代詩研究国際ネットワーク発足／第7回詩歌文学館賞贈賞式／王效賢日中友好協会副会長ら来館／特集、現代短詩型文学の国際化の現状／近・現

代詩研究の国際化（相沢史郎）／短歌の国際化（河邨ハツエ）／俳句の国際化と交流（宇咲冬男）／ドイツ語圏の川柳（越郷黙朗）／名称「詩歌の森公園」と決まる／文学館の歩み／利用・交通の案内

1-16. 『日本現代詩歌文学館』 第16号 1993年3月26日

収録：巻頭エッセー（白石かずこ）／第8回詩歌文学館賞受賞者決まる／俳句講座開講／詩歌の森公園に山本健吉文学碑／山口青邨句碑も建立／振興会顧問小田切進氏死去／「詩型の未来を問う」報告書刊行／山本健吉直筆原稿寄贈される／寄贈資料 21万点に／エッセー（豊泉豪）／特別講演集刊行／93・おらだズの詩歌文学会開催／文学館で絵ハガキ販売／文学館の歩み／編集後記／館報購読の申し込み／利用・交通の案内

1-17. 『日本現代詩歌文学館』 第17号 1993年10月26日

収録：特集 特別資料／巻頭エッセー（菱川善夫）／好評だったテラヤマ・ワールド／感銘を与えた国際フォーラム／第八回詩歌文学館賞贈賞式／扇畑館長が「短歌研究賞」受賞／山本健吉文学碑除幕／「詩歌の大河流れる」好評／全国文学館・記念館情報／特集 特別資料点描〈山口青邨コレクション／池原魚眠洞資料／前田夕暮資料／原民喜直筆、井上靖写真／岩本修蔵資料、青邨邸復元〉／寄贈収蔵資料 23万台へ／文学館の歩み／文学館ガイド／利用、交通の案内

1-18. 『日本現代詩歌文学館』 第18号 1994年3月27日

収録：第九回詩歌文学館賞受賞者決まる／青邨宅公開は四月一日から／子規文学碑除幕／収蔵資料展で山頭火の短冊公開／ヒット商品となった特性原稿用紙／瀬尾振興会名誉会長ほか死去／寄贈収蔵資料 25万台へ近づく／モダニズム特集／エッセー「沈黙と絵画的饒舌」（村上善男）／同「詩の先物買い」（藤富保男）／同『「モダニズム」を警戒せよ！』（高橋昭八郎）／学芸員メモランダム／文学館収蔵書誌目録 モダニズム関係／文学館の歩み／出版物等のご紹介／利用、交通の案内

1-19. 『日本現代詩歌文学館』 第19号 1994年10月27日

収録：特別企画展「現代詩のフロンティア」／地域イベント「西馬音内盆踊り」好評／「詩・北から南から、方言詩の世界」／第9回詩歌文学館賞贈賞式／詩歌文学館賞新選考委員決まる／新たに一文箋、専用封筒販売、好評／振興会理事会、全国文学館情報／詩歌の森公園全完成 落成式／特集、岩手県詩人クラブ 40周年記念／岩手の詩展／エッセー（大坪孝二）／資料・岩手近代詩年表から／文学館の歩み／出版物等の案内／利用・交通の案内

1-20. 『日本現代詩歌文学館』 第20号 1995年3月27日

収録：第20回詩歌文学館賞受賞者決まる／資料 25万点を超える／20号記念エッセー、日中詩歌の懸け橋（菊池啓治郎）／文学館七年度事業／常設展「相聞歌の世界」／文学館報復刻本刊行／文学館協力会で記念文集刊行／思い出のスナップ集／詩人直

筆原稿収集、二百篇超える／関西大震災被災評議員から資料続々と／「岩手の詩展」年表、目録／全国文学館情報／資料収集よびかけ／新一文箋も好評／館報 20 号まで編んで／文学館の歩み／出版物などのご案内／館報購読希望の申し込み／利用、交通案内

1-21. 『日本現代詩歌文学館』 第 21 号 1995 年 10 月 27 日

収録：特別企画展、「夕暮・牧水と自然主義歌人展」全国歌人の集い／巨きな草田男資料寄贈、現代俳人 50 人のパネル写真、高柳重信資料も／扇畑忠雄著作集刊行される／「文学館短信」で情報発信／サトウハチロー記念館建設へ／資料 30 万台へ／第 10 回詩歌文学館贈賞式／文学館振興会理事会、文学館協力会総会／啄木・賢治生誕 110 年、100 年、多彩な記念行事・常設展「風の詩歌展」／滋賀、富山県で評議員会／エッセー、加藤克己「啄木短歌の永遠性」／全国文学館協議会活動始まる／文学館報復刻本ベストセラーに／全国文学館情報ファイル／編集後記／文学館の歩み／出版物等のご案内／利用、交通の案内

1-22. 『日本現代詩歌文学館』 第 22 号 1996 年 3 月 27 日

収録：第 11 回詩歌文学館賞受賞者決まる／贈賞式は 5 月 25 日、有馬氏の特別講演も／特別企画展など 8 年度事業決まる／広島、島根、山口三県で評議員会／サトウハチロー記念館オープン／盛会だった特別企画展と歌人の集い／近石真介一人語り／川村理事死去、「詩と思想」が文学館特集／特別資料が続々と（豊泉豪）／資料 32 万点超える／エッセー「宮沢賢治と世界性」（吉見正信）／アンケート特数／文学館の歩み／出版物等のご案内／利用、交通の案内

1-23. 『日本現代詩歌文学館』 第 23 号 1996 年 10 月 27 日

収録：特別企画展「中村草田男の世界」／第 1 回現代俳人の集い／エッセー、成田千空「思い出すこと」／文学館要覧ベストセラーに／世界詩人会議日本大会前橋で開かれる／サトウハチロー記念館オープン／啄木・賢治生誕記念、草笛と女義太夫／収集しよう 34 万点に／文学館短信／東北俳句大会／現代の俳人 50、橋本照嵩写真展／現代詩研究国際ネットワーク研究会／第 11 回詩歌文学館賞贈賞式／振興会平成八年度理事会／井上靖名誉館長遺族から資料寄贈／福井県から評議員会始まる／常設展は「水の旅」／全国文学館情報／文学館の歩み／出版物等のご案内／利用、交通の案内／特集 俳人主要収蔵資料

1-24. 『日本現代詩歌文学館』 第 24 号 1997 年 3 月 27 日

収録：第 12 回詩歌文学館賞受賞者決定／贈賞式は 5 月 24 日、白石氏の特別講演も／特別企画展など 9 年度事業決まる／徳島、高知、福岡などで評議員会／好評だった「中村草田男」展と、俳人の集い／扇畑館長が現代短歌対大賞、白石さん読売文学賞、高見順昭受賞／井上靖名誉館長七回忌を迎えて、出版／文学館短信／同人誌特集エッセー／黒田達也「ALMEE」40 年回顧／寺師治人「山脈」と中城ふみ子／森田峠「かつ

らぎ誌」とともに／文学館の歩み／出版物等の案内／利用、交通の案内

1-25. 『日本現代詩歌文学館』 第 25 号 1997 年 10 月 31 日

収録：「井上靖晩年の詩業」の出版好評／没後 30 年「村上昭夫動物哀歌への道」展／詩歌文学館賞新選考委員決まる／国際フォーラム「中国の詩人林林氏は語る」／韓国で詩歌学会開かれ、参加／エッセー「国際交流と世界現代詩人会館の創設を夢みるまで」（山口惣司）／文学館でホームページ開設へ／第 1 回現代柳人の集い／まず松山市で愛媛県評議員会開く／第 12 回詩歌文学館賞贈賞式／俳句セミナー開講／平成 9 年度振興会理事会／全国文学館協議会・資料、情報部会開かれる／「おかあさんの詩」全国コンクール／新評議員名簿発行／ついに寄贈収蔵資料 40 万点突破／全国文学館情報ファイル／文学館の歩み／出版物の案内／利用、交通の案内

1-26. 『日本現代詩歌文学館』 第 26 号 1998 年 3 月 27 日

収録：第 13 回詩歌文学館書受賞者決まる／贈賞式は 5 月 23 日、宗左近氏の特別講演も／特別寄稿「文学館の理念について」（中村稔）／全国文学館情報「日本現代詩歌研究」III 発行／特別企画展など 10 年度事業大綱／資料 42 万台へ ホームページ開設／おかあさんの詩 入賞決まり発表／詩歌の森公園吟行会／エッセー「一枚の写真―埴谷雄高のこと―」（藤一也）／大分、熊本、石川県で評議員会／平成 10 年度常設展展示目録／文学館の歩み／出版物の案内／利用、交通の案内

1-27. 『日本現代詩歌文学館』 第 27 号 1998 年 10 月 27 日

収録：「近・現代歌人展」開催／「歌人展に思いを寄せて」（藤岡武雄）／「辻仁成・詩を語る」／収蔵資料 44 万点に／大岡、金子、篠三氏常任理事に／加藤克己氏の「個性」創刊 45 周年／「台湾の詩人は語る」開く／「詩を楽しむ」講座開講／第 13 回詩歌文学館賞贈賞式／ロルカ生誕百周年展を開催／鹿児島県でまず評議員会／エッセー「ベンベロコ百三十号」（小田島重次郎）／第 2 回おかあさんの詩全国コンクール／こしも万葉講座／新荘四百原稿用紙制作、販売／全国文学館展示情報／編集後記／文学館の歩み／出版物の案内／利用、交通の案内

1-28. 『日本現代詩歌文学館』 第 28 号 1999 年 3 月 30 日

収録：第 14 回詩歌文学館賞受賞者決まる／贈賞式は 5 月 22 日、特別講演は春日井建氏／平成 11 年度事業が決まる／「日独ヴィジュアル・ポエトリー展」など／文学館実現の高橋市長引退／エッセー「雪華の旅」（三島敏子）／仙台文学館オープン／第 2 回おかあさんの詩コンクール／収蔵資料 45 万超える／関登久也資料・松崎徳勝コレクション（渋谷洋祐）／11 年度常設展「スポーツと詩歌」展示目録／文学館の歩み／出版物等、利用、交通の案内

1-29. 『日本現代詩歌文学館』 第 29 号 1999 年 10 月 28 日

収録：「日独ヴィジュアル・ポエトリー展」開く／全国紙にも載った「スポーツと詩歌」展／第 2 回現代歌人の集い／開館十周年記念誌など刊行計画進める／次々に「詩歌文

学講座」開講／伊藤市長文学館運協会理事長に／盛岡大学出張講座／エッセー「日本詩人クラブ五十周年に寄せて」(中村不二夫)／おかあさんの詩全国コンクール／長崎県評議員会開く／全国文学館展示情報／収蔵資料 50 万点に／収蔵資料・エッセンス〈詩人 檀一雄について〉／文学館の歩み／出版物、利用、交通の案内

1-30. 『日本現代詩歌文学館』 第 30 号 2000 年 3 月 28 日

収録：開館 10 周年を迎えて (扇畑忠雄)／収蔵資料 51 万点に。第 15 回詩歌文学館賞受賞者決まる／開館 10 周年記念事業は内容ゆたかに数々／10 周年アンケートを行なう／記念エッセー「井上靖研究会のこと」(金子秀夫)／井上靖研究会発足／愛知県評議員会開催により 47 都道府県を歩く／「日本現代詩歌研究」IV 号刊行／年譜、開館から 10 年の歩み／30 号まで復刻合本刊行へ／編集後記／出版物、利用、交通の案内

1-31. 『日本現代詩歌文学館』 第 31 号 2000 年 8 月 28 日

収録：開館十周年奇縁事業の数々成功のうちに終る／文学館の詩歌講座始まる／振興会理事会 新役員選出して充実した体制に／第 15 回詩歌文学館賞、受賞のことば選評を転載／常設展「家族を問う」図録から／文学館報年三回発行に／編集後記／出版物、利用、交通の案内

1-32. 『日本現代詩歌文学館』 第 32 号 2001 年 1 月 1 日

収録：日本現代詩歌研究センター建設へ／新館長に篠弘氏、扇畑館長退任／第 2 回現代俳句の集い 盛会に／詩歌文学館賞新選考委員決まる／宮城・山形・福島建評議員会開く／年ごとに充実の現代詩歌講座／エッセイ「田村隆一の詩と肖像」(白石かずこ)／全国文学館情報／収蔵資料 60 万台へ／編集後記／出版物／利用、交通の案内

1-33. 『日本現代詩歌文学館』 第 33 号 2001 年 4 月 20 日

収録：第 16 回詩歌文学館賞受賞者決まる／日本現代詩歌研究センター完成予想図／研究機能充実と開かれた文学館へ／大阪市で京都・兵庫三県評議員会開く／協力会で「流泉」4 号刊行／エッセイ「中村苑子素描」(倉橋羊村)／常設展「応答せよ、完成。— 21 世紀に贈る詩歌—」の図録から／編集後記／出版物／利用、交通の案内

1-34. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第 34 号 2002 年 3 月 31 日 目次無し

収録：新生文学館を目指して (篠弘)／文学館活動時評 1〈時期を得た好企画 —2001 年度常設展(柏崎驍二)〉／詩との出会い 1『石川啄木集』(菅原多つを)／連載〈一年生の詩・子どもの心 1 (鹿島和夫)〉／連載 現代詩展望 1〈現代詩の動向と三冊の雑誌(小海永二)〉／資料情報 2001.4~2001.12〈受入データ／主な購入資料／井上靖資料一括受託／一括受贈(日付は受領日)／所蔵資料総計(12 月末現在)／資料のご寄贈について／レファレンスについて〉／詩歌文学館はこう変わります みんなが楽しめる文学館をめざして／全国の川柳愛好家が交流 第二回現代柳人の集い／日本現代詩歌文学館振興会 評議員会／目録 2001.4~2001.12／後記

- 1-35. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第 35 号 2002 年 7 月 30 日 目次無し
収録：詩集公園（やなせたかし）／文学館活動時評 2〈小僧のみた文学館（安藤淳一）〉
／詩との出会い 2『海潮音』（中西洋子）／連載〈一年生の詩・子どもの心 2（鹿島
和夫）〉／連載 現代詩展望 2〈「研究」の意義（小海永二）〉／資料情報 2002.1～2002.5
〈受入データ／一括受贈（日付は受入完了日）／神谷瓦人文庫受贈／所蔵資料総数（5
月末現在）〉／平成 14 年度常設展 「子どもたちに贈る詩歌」／第 17 回詩歌文学館
賞贈賞式 井上靖記念室もオープン／日本現代詩歌文学館振興会 評議員会／評議員
動向（2002.1～5）／目録 2002.1～2002.5／後記
- 1-36. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第 36 号 2002 年 12 月 15 日 目次無し
収録：「極北の星」に望む（永井路子）／文学館活動時評 3〈開かれている門（斎藤夏
風）〉／詩との出会い 3〈「鶯のうへ」（高階杞一）〉／連載〈一年生の詩・子どもの心
3（鹿島和夫）〉／連載 現代詩展望 3〈詩の翻訳のこと（小海永二）〉／資料情報 2002.6
～2002.10〈受入データ／一括受贈（日付は受入完了日）／近藤芳美氏資料受贈／主
な購入資料（2002.1～10）／所蔵資料総数（10 月末現在）〉／資料のご寄贈について
／レファレンスについて／追悼 伊藤信吉〈もう秋（暮尾淳）〉／「井上靖記念室」開
設記念講演会 大岡信氏「井上靖の詩と歌」／日本現代詩歌文学館振興会 評議員会
／評議員動向（2002.6～10）／目録 2002.6～2002.10／後記
- 1-37. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第 37 号 2003 年 3 月 7 日 目次無し
収録：啄木と浪花ニンゲン（田辺聖子）／文学館活動時評 4〈遠くからすぐに届く詩
集（國中治）〉／詩との出会い 4〈白秋から小春へ（平井さち子）〉／連載〈一年生の
詩・子どもの心 4（鹿島和夫）〉／連載 現代短歌展望 1〈若い女性の歌について（大
島史洋）〉／資料情報 2002.11～2003.1〈受入データ／一括受贈／『昭和万葉集』関係
資料受贈／資料のご寄贈について／雑誌定期寄贈のお願い／レファレンスについて／
資料健作端末の設置について／インターネット配信について／所蔵資料総計（1 月末
現在）〉／扇畑忠雄先生について（徳山高明）／展示予告／日本現代詩歌文学館振興会
評議員会／評議員動向（2002.11～2003.1）／目録（2002.11～2003.1）／後記
- 1-38. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第 38 号 2003 年 7 月 1 日 目次無し
収録：セールスマンと詩（赤瀬川隼）／文学館活動時評 5〈またとない機会（小原麗
子）〉／詩との出会い 5〈川柳との出会い以前（江畑哲男）〉／連載〈一年生の詩・子
どもの心 5（鹿島和夫）〉／連載 現代短歌展望 2〈壮年の二人の歌集（大島史洋）〉
／資料情報 2003.2～5〈受入データ／一括受贈／石原八束氏資料受贈／主な購入資料
（2002.11～2003.5）／資料のご寄贈について／雑誌定期寄贈のお願い／レファレン
スについて／インターネット配信について／所蔵資料総計（5 月末現在）〉／第 18 回
詩歌文学館賞贈賞式／本年度常設展「働く人たちの詩歌」 さあ、生きることを始め

よう！／日本現代詩歌文学館振興会 役員・理事一覧／評議員動向（2003.2～5）／
目録 2003.2～5／後記

1-39. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第39号 2003年11月1日 目次無し
収録：詩歌集の序文（竹西寛子）／文学館活動時評6〈新しい試み 一教員対象俳句
講座一（深見けん二）〉／詩との出会い6『少年』（齋藤岳城）／連載〈一年生の詩・
子どもの心6（鹿島和夫）〉／連載 現代短歌展望3〈教師の歌—新刊歌集から（大島
史洋）〉／資料情報 2003.6～9〈受入データ／一括受贈／資料のご寄贈について／雑
誌定期寄贈のお願い／レファレンスについて／インターネット配信について／所蔵資
料総計（9月末現在）〉／開催予告〈第3回現代歌人の集い〉／詩のボクシング 岩手
大会／共催、後援、協賛事業など／日本現代詩歌文学館振興会 評議員会／評議員動
向（2003.6～9）／目録 2003.6～9／後記

1-40. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第40号 2004年3月5日 目次無し
収録：国語の力（西澤潤一）／文学館活動時評7〈大きな期待（小高賢）〉／詩との出
会い7『地球創世説』（和合亮一）／連載〈一年生の詩・子どもの心7（鹿島和夫）〉
／連載 現代俳句の動向1〈女性俳人の活躍（大串章）〉／資料情報 2003.10～2004.1
〈受入データ／一括受贈／インターネット配信について／資料のご寄贈について／雑
誌定期寄贈のお願い／レファレンスについて／所蔵資料総計（1月末現在）〉／第3回
現代歌人の集い／開催予告／日本現代詩歌文学館振興会 評議員会／評議員動向
（2003.10～2004.1）／目録 2003.10～2004.1／後記

1-41. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第41号 2004年7月1日 目次無し
収録：いくつもの（安水稔和）／文学館活動時評8〈時代の変化とともに（城戸朱理）〉
／詩との出会い8〈こどもの世界（大野風柳）〉／連載〈現代こどもの短歌1（池田は
るみ）〉／連載 現代俳句の動向2『十四事』と『鶉草紙』（大串章）／資料情報 2004.2
～5〈受入データ／一括受贈／所蔵資料総計（5月末現在）／雑誌定期寄贈のお願い／
資料のご寄贈について〉／特別企画展—現代俳人による— 俳句さくらまつり 終了
／第19回詩歌文学館賞贈賞式／本年度常設展 はるかなる響き 一ことばが映す、
ふるさと。／日本現代詩歌文学館振興会〈常任理事会／理事会／評議員会（神奈川・
静岡・山梨ブロック）／理事動向（2004.2～5）／評議員動向（2004.2～5）〉／目録
2004.2～5／後記

1-42. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第42号 2004年11月5日 目次無し
収録：うちのめされる（高橋源一郎）／文学館活動時評9〈宝の山の活用（小屋敷晶
子）〉／詩との出会い9〈初めての詩集（齋藤彰吾）〉／連載〈現代こどもの短歌2（池
田はるみ）〉／連載 現代俳句の動向3『五島高資句集』と『木の名前』（大串章）
／資料情報 2004.6～9〈受入データ／一括受贈／所蔵資料総計（9月末現在）／雑誌
定期寄贈のお願い／資料のご寄贈について〉／教員対象講座 俳句指導の方法 開催

／短歌実作講座 開講／「井上靖の作品から 一朗読 栗原小巻」／詩歌関係の文学賞 2004.6-9 発表分／日本現代詩歌文学館振興会〈評議員会（岡山・広島・山口ブロック）／評議員動向（2004.6～9）〉／目録 2004.6～9／刊行物ご案内／後記

- 1-43. 『詩歌の森 日本現代詩歌文学館館報』 第43号 2005年3月8日 目次無し
収録：詩のみなもと（栗津則雄）／文学館活動時評 10〈評議員会小見（倉橋羊村）〉
／詩との出会い 10〈詩と詩人との邂逅（佐藤岳俊）〉／連載〈現代こどもの短歌 3（池田はるみ）〉
／連載 現代詩時評 1〈詩の社会性と芸術性をめぐって（尾花仙朔）〉
／資料情報 2004.10～2005.1〈受入データ／一括受贈／所蔵資料総計（1月末現在）／雑誌定期寄贈のお願い／資料のご寄贈について／レファレンスについて〉
／展示予告
／「第三回現代俳人の集い」開催／詩歌関係の文学賞 2004.10-2005.1 発表分／日本現代詩歌文学館振興会〈評議員動向（2004.10～2005.1）／評議員会（報告・次号）〉
／目録 2004.10～2005.1／後記

館報（合本）

1. 『日本現代詩歌文学館・館報』 1995年3月30日 編集：佐藤章 発行：日本現代詩歌文学館／日本現代詩歌文学館振興会
収録：発刊のことば／第1号 昭和60年1月1日／第2号 昭和60年7月20日／第3号 昭和61年3月26日／第4号 昭和62年1月5日／第5号 昭和62年7月1日／第6号 昭和63年3月25日／第7号 昭和63年11月15日／第8号 平成元年3月28日／第9号 平成元年10月20日／第10号 平成2年3月28日／第11号 平成2年10月26日／第12号 平成3年3月1日／第13号 平成3年10月26日／第14号 平成4年3月26日／第15号 平成4年10月22日／第16号 平成5年3月26日／第17号 平成5年10月26日／第18号 平成6年3月27日／第19号 平成6年10月27日／第20号 平成7年3月27日／資料編 広報資料の数々／あとがき
2. 『日本現代詩歌文学館・館報』 2000年3月31日 編集：佐藤章 発行：日本現代詩歌文学館／日本現代詩歌文学館振興会
収録：第21号 平成7年10月27日／第22号 平成8年3月27日／第23号 平成8年10月27日／第24号 平成9年3月27日／第25号 平成9年10月31日／第26号 平成10年3月27日／第27号 平成10年10月27日／第28号 平成11年3月30日／第29号 平成11年10月28日／第30号 平成12年3月28日／あとがき

記念誌（周年）

1. 『日本現代詩歌文学館開館10周年記念 詩歌文学館ものがたり』 2000年5月27日 発行：日本現代詩歌文学館／日本現代詩歌文学館振興会 目次無し
収録：I 井上靖の情熱と人の輪〈①大いなる井上靖の存在 [「日本一だなあ」と独り言（井

上ふみ) / 奇縁一つ (扇畑忠雄) / 本当に素晴らしいこと (井上靖) / 詩人として 作家として (井上靖) / 井上先生と文学館と私 (相賀徹夫) / 井上靖による夢の実現 (篠弘) / 漂う心の波光 (林林 / 篠弘訳) / 弔辞 (大岡信) / 詩歌文学館へのご尽力の巨きさ (高橋盛吉) / 井上先生と北上と (菊池啓治郎) / ②「夢中落花」と山本健吉 [素晴らしい発想 (山本健吉) / 追憶 加藤楸邨] / II 言葉の草の根を育む (①川の流れを映す大地の景色 [みちのくに言霊の館 (松永伍一) / 『文学館感傷紀行』から一日本現代詩歌文学館 (中村稔)]) / III 文学館づくりの背景 (①瀬尾弘吉振興会会長実現のこと [人の組み合わせが歴史をつくる (椎名素夫)] / ②北上市長 斎藤五郎の行動力 [斎藤さんと北上の桜 (相賀徹夫) / 詩歌文学館の決断 (佐藤章) / 大いなる太陽、五郎さん (白石かずこ)] / ③文学館設立へ [みちのくに詩歌文学館 (萩原廸夫) / 建設運動はこうして始まった (佐藤章) / 北上にサハラあり (白石かずこ)] / ④初代館長に文人太田俊穂 [太田さんと文学館 (菊池啓治郎) / 詩歌文学館と太田さんの思い出 (萩原廸夫) / 北上に詩歌の館 (太田俊穂)] / ⑤創始期の頃 [この人あって…… (藤富保男)] / IV ポエジーの輝きとひろがり (①詩歌文学館賞 [詩歌文学鑑賞をめぐって (仲木都富)] / ②山口青邨、ふるさとへ [雑草園北上す (古館曹人)]) / 出典一覧

2. 『言葉のかなたへ』 2000年5月27日 発行：日本現代詩歌文学館

収録：新たな《時》を映して (日本現代詩歌文学館館長 扇畑忠雄) / 日本現代詩歌文学館開館十周年記念誌に寄せて (伊藤彬) / 開館十周年をお祝いして (相賀徹夫) / 十周年に寄せる詩歌 (十年に想ふ (篠弘) / 日常吟 (金子兜太) / 懐かしいんだよな 地球も (大岡信)) / メッセージ (無題 (有馬朗人) / 隠れ応援団 日本現代詩歌文学館の学芸活動に大きな声援を (門屋光昭) / 禁欲と自由 (黒井千次) / 詩歌専門の文学館として (高橋盛吉) / 日本現代詩歌文学館の未来に期待する (中村稔) / 見えないものたちの歌 (三善晃)) / 所蔵資料より / 詩歌文学館賞 / 特別企画展 / 企画展 / シンポジウム・フォーラム / 集い / 講座・セミナー / 研究紀要 / 社会教育 / 日本現代詩歌文学館概要 / 日本現代詩歌文学館 年表

3. 『写真が語る詩歌文学館』 2001年8月1日 発行：日本現代詩歌文学館 / 日本現代詩歌文学館振興会

収録：熱情を未来へと結ぶために (篠弘) / 詩歌の大河流れて 開館10周年記念行事 / 源流 発端から設立、開館までの動き / 流れを遥へと 10年のあゆみ / ひろく深い流れへ 日本現代詩歌文学館振興会 詩歌文学館賞 受賞作品小アンソロジー / 日本現代詩歌研究センター 井上靖記念室 詩歌図書室 / あとがき

【12】 仙台文学館

図録（常設展）

1. 『仙台文学館ガイドブック』 1999年3月28日 編集・発行：仙台文学館
収録：仙台文学館常設展示紹介〈I 新しき詩歌の時代／II 学都・仙台の青春群像／III 学都に集う／IV うたのことばに生きて〉／仙台文学館施設紹介／仙台文学館平面図／利用案内

図録（企画展）

1. 『開館記念特別展 夏目漱石展——「漱石文庫」の光彩——』 1999年3月27日 編集・発行：仙台文学館
収録：仙台駅頭の老夫妻への言付け（井上ひさし）／「漱石」—「明治」—「現代」（紅野敏郎）／「是は謡曲好きのものにて候」（半藤一利）／孤独な闘いの軌跡（小森陽一）／漱石と英国留学（富山太佳夫）／漱石と「恋愛結婚の物語」（水村美苗）／〔図版〕〈I 漱石と仙台／II 漱石の生涯／III 蔵書に見る漱石の横顔／IV 漱石の作品世界／V 漱石グラフィティ〉／「漱石文庫」の深層（菊田茂男）／「漱石文庫」の資料群（小田忠雄）／夏目漱石略年譜／夏目漱石著作年譜／出品資料目録／主要参考文献／協力者一覧
2. 『開館記念特別展 PART II みやぎの杜の文学者たち』 1999年5月24日 編集・発行：仙台文学館
収録：〔図版〕〈I 新しき詩歌の時代／II 学都・仙台の青春群像／III 学都に集う／IV うたのことばに生きて／みやぎの杜の文学者たち〔ことばの力／宮城ゆかりの文学者たち／寄贈コレクション／作品の舞台となったみやぎの地〕〉／仙台と「詩歌の曙」（扇畑忠雄）／図版目録／主要参考文献／協力者一覧
3. 『夏休み企画展「探検！こどもの本」図録』 1999年7月24日 編集・発行：仙台文学館
収録：I 子どもの本の歴史をたどる／II 東北の児童文学／III 子どもの本をたずねる
4. 『晩翠賞・晩翠児童賞 40周年記念 日本の詩一〇〇年の軌跡』 1999年9月25日 編集・発行：仙台文学館
収録：I 詩の系譜〈1. 明治——近代詩の夜明け〔新体詩の誕生／浪漫の開花／象徴詩の移入と展開／口語詩の発生〕／2. 大正——口語自由詩の展開〔大正デモクラシーの下で／朔太郎とその周辺／疾走する都市と言葉〕／3. 昭和（戦前）——現代詩の模索〔モダニズムの挑戦／プロレタリア詩の交流と衰退／混沌のなかの詩人たち／戦時下の詩〕／4. 昭和（戦後）——解き放たれる言葉たち〔戦後史の出発／広がりゆく詩／新たな詩のはじまり〕〉／II みやぎゆかり詩人〈落合直文／島崎藤村／土井晩翠／吉野臥城／山村暮鳥／白鳥省吾／木下杢太郎／富永太郎／尾形亀之助／石川善助〉／III 晩翠賞・晩翠児童賞の40年〈関係年表〉／「翻訳詩の系譜」（栗津則雄）／「モダニズム

の詩の展開」(澤正宏) / 「みやぎの詩人たち」(今入惇) / 「晩翠賞受賞の頃—私の詩的夜明け」(前原正治) / 「晩翠児童賞の四十年」(富田博)

5. 『開館一周年記念特別展 「ことばの地平—石川啄木と寺山修司—」』 2000年3月24日 編集・発行：仙台文学館

収録：ことばの地平—石川啄木と寺山修司 / さすらう詩人(井上ひさし) / 石川啄木と寺山修司の短歌 登場人物たち(佐佐木幸綱) / ふるさとの悲哀(三浦雅士) / 啄木と修司、17の共通点(小池光) / 石川啄木〈ことばの地平 / 生活者志願(関川夏央) / 現在、啄木をよむということ(佐藤通雅) / 飛翔するイメージ —啄木詩の魅力(木股知史) / 刹那刹那の生命の愛惜—作品と日記から見る人間・啄木—(山本玲子) / 展示会説(石川啄木の生涯、短歌、詩、小説、評論、新聞人) / 寺山修司〈ことばの地平 / 寺山修司—時代を創った表現者(栗坪良樹) / 寺山修司の短歌—『田園に死す』再読(岡井隆) / 断片のブルース—寺山修司のこと(京武久美) / 寺山修司のセリフ(萩原朔美) / 展示会説(寺山修司の生涯、俳句、短歌、詩、多面体、演劇・映画) / 石川啄木略年譜 / 寺山修司略年譜 / 主要展示資料

6. 『尾形亀之助展—「それからその次へ」』 2000年11月11日 編集・発行：仙台文学館

収録：亀之助と同時代の美術 / 第一章 亀之助の生きた時代〈尾形亀之助とその時代(鈴木貞美) / 大正から昭和の文学と亀之助(神谷忠孝) / 親交芸術のルツボとしての東京—本郷・音羽から上落合・東中野界限—(萬木康博) / ▼亀之助とその時代 / ▼亀之助の絵〉 / 第二章 亀之助の生涯〈父の思い出、母の思い出(鈴木溪) / 尾形ダンディズム(伊藤信吉) / 尾形亀之助・高村光太郎・宮沢賢治(堀切直人) / 尾形亀之助の「その次」(小笠原祥子) / ▼亀之助をめぐる人々 / ▼『玄土』 / 第三章 亀之助の作品世界『色ガラスの街』—亀之助とモダニズム詩—(澤正宏) / 『雨になる朝』の特質(栗津則雄) / うつろう魂(別役実) / 《尾形亀之助詩》の明滅(天沢退二郎) / 尾形作品の夢表現(秋元潔) / ▼『月曜』 / ▼亀之助と『亜』 / 亀之助寸感〈現代詩の青春(宗左近) / 尾形亀之助のこと(池内紀) / 亀殿の黄色(村上善男) / 二十世紀と尾形亀之助(今入惇) / 亀之助まんだら 「童心」論争にふれて(尾花仙朔) / 作品紹介 / 亀之助マップ / 尾形亀之助略年譜 / 主要展示資料

7. 『アンビシャス・ガール 相馬黒光展』 2001年3月31日 編集・発行：仙台文学館

収録：「アンビシャス・ガール」の足跡を訪ねて / アンビシャス・ガール〈サムライの娘星良い / 深き魂を求めて—女学校時代 / 田園生活の夢と破綻—穂高時代 / パン屋のお内儀 / 中村屋サロン / その後の黒光 / 相克は美なり…草馬黒光と芸術家たち(千田敬一) / 黒光とその周辺〈明治中期の女学生たち(斎藤美奈子) / 佐々木豊寿、信子と国木田独歩(小谷野敦) / インドカリーとロシアボルシチ —中村屋とボースとエロシエンコ(藤井省三) / 祖母、黒光のこと(相馬悌三) / 渴望する魂—若き黒光の「ア

ンビシャス」(本多真紀) / 黒光へのアプローチ 13 [佐々木豊寿 / 女学校 / 相馬愛蔵 / 著作 / 恋愛観 / 同時代評 / ファッション / 女性観 / 頭山満 / 魂の遍歴 / ヘッダ - ガーブル / 外国からの客人たち / 投稿欄] / 手紙に見る晩年の黒光 / 黒光ガイドブック / 草馬黒光略年譜 / おもな展示資料 / 協力者一覧

8. 『島崎藤村展 言葉につながるふるさと』 2002年3月31日 編集・発行：仙台文学館

収録：一、故郷馬籠の島崎家 / 二、遍歴の時代 / 三、夜明けの地仙台 / 四、詩から散文へ / 五、小説家・藤村 / 六、嵐の時代 / 七、『夜明け前』完成 / 山国の声(高田宏) / 藤村の光と影(十川信介) / 島崎藤村略年譜 / おもな展示資料

9. 『特別展 中原中也展 ～汚れつちまつた悲しみに…』 2002年9月7日 編集・発行：仙台文学館

収録：「中也・史の詩の世界」〈『山羊の歌』 / 『在りし日の歌』 / 未完詩篇〉 / 「富永太郎の芸術世界」 / 「中也の生涯」〈生い立ち～文学への目覚め / 三つの邂逅 / 模索の時代 / 結婚～死〉 / 「中也の交友」〈フランス詩への傾倒 / 富永太郎と中也 / 小林秀雄と中也 / 同人誌『白痴群』 / 大岡掌編と中也 / 富永太郎の生涯と芸術(仙台に学ぶ・上海へ・病そして死) / 富永・中原・小林——彼らの友情(中村稔) / 降る雪はいつまで(佐々木幹郎) / 中也と富永～フランス詩の受容(栗津則雄) / 詩人・富永太郎の出発(赤間叡生)〉 / 「作品」〈サーカス / 寒い夜の自画像 / 汚れつちまつた悲しみに…… / 浅の歌 / 夕照 / 一つのメルヘン / また来ん春…… / 骨 / 冬の長門峡 / 四行詩〉 / 中原中也略年譜 / 主要展示資料 / 主要参考文献

10. 『現代少年少女・童謡詩展図録』 2002年11月2日 企画・編集：群馬県立土屋文明記念文学館 発行：仙台文学館

収録：ポエムの国をひらくまで——出展作品をお招きするにあたって——(木暮正夫) / 少年少女詩〈1 雲(赤座憲久 安藤勇寿) / 2 すみのダンナ(秋川ゆみ 秋川ゆみ) / 3 白夜(びゃくや)(伊藤政弘 府川誠) / 4 朝やけ(江口あけみ 木暮健二郎) / 5 雪(大久保テイ子 村井宗二) / 6 たちあがれ(大洲秋登 やべみつのり) / 7 カラス(小沢千恵 とどろきちづこ) / 8 おかあさんの ねじばな(尾上尚子 渡辺有一) / 9 蝶(海沼松世 中村悦子) / 10 ちょう(柏木恵美子 小松修) / 11 こころの軌跡(加藤丈夫 曾我舞) / 12 北風に向かって(川端律子 中村悦子) / 13 夏の日(菊永謙 野村たかあき) / 14 みつけた(岸田衿子) / 15 口笛吹いて 他(北川幸比古 本間ちひろ) / 16 小鳥が一羽 されもない朝の庭で(北原悠子 新野めぐみ) / 17 てつがくのライオン(工藤直子 保手浜孝) / 18 かくれんぼ(黒柳啓子 大和田美鈴) / 19 あなたへ(小泉周二 辻友紀子) / 20 回転木馬(小泉房子 木暮健二郎) / 21 夏のおわりに(小松静江 尾崎曜子) / 22 こわれた いす(桜井信夫 おぼまこと) / 23 しゃくとりむし(宍倉さとし 篠崎三朗) / 24 ハガキ(島田陽子)

坪谷令子) / 25 砂漠の少年 (白根厚子 岡野和) / 26 こおろぎと空きカン (新川和江) / 27 すずめの木 (菅原優子 菅原史也) / 28 砂漠の樹 (高崎乃理子 井江栄) / 29 参観日 (たかはしけいこ 中釜浩一郎) / 30 生まれる (高橋忠治 牧村慶子) / 31 難破船 (土田明子 井江栄) / 32 しゃくとりむし (永窪綾子 永窪啓紀) / 33 君たち (畑島喜久生 坪谷令子) / 34 草 (はたちよしこ 菅原史也) / 35 きょうね (原田直友 岡本順) / 36 柿紅葉 (かきもみじ) (藤井則行 阿部はじめ) / 37 カエル (松谷みよ子) / 38 カタクリの花の咲くころ (宮前利保子 宮前あゆみ) / 39 さんぽねこ (山中利子 若山憲) / 40 うしさん うふふ (よしだていichi 篠原良隆) / 童謡詩 < 1 ほおずき ほおずき (青戸かいち こいでやすこ) / 2 黒い豹 (秋葉てる代 篠崎三朗) / 3 ありさんとぞうさんのこもりうた (うらさわこうじ 小松修) / 4 夏の思い出 (江間章子) / 5 バッタのうた (おうちやすゆき) / 6 大草原のキリン (小黒恵子 渡辺有一) / 7 たまごのなかで (神沢利子 神沢利子) / 8 たんぽぽすきよ (楠木しげお アリマ・ジュンコ) / 9 おはなしゆびさん (香山美子 渡辺有一) / 10 めだか (こやま峰子 とよたかずひこ) / 11 こゆび (こわせ・たまみ 大和田美鈴) / 12 サっちゃん (阪田寛夫) / 13 どうぶつえんのよる (佐藤雅子) / 14 木 (清水たみ子 府川誠) / 15 トマト (荘司武 曾我舞) / 16 おつかいありさん (関根榮一 おぼまこと) / 17 空と風のきっぷ (高木あきこ こいでやすこ) / 18 おかあさん (田中ナナ 安藤勇寿) / 19 ののはな (谷川俊太郎) / 20 さよならは いわないで (鶴岡千代子 大和田美鈴) / 21 鬼の子のうた (富永佳与子 野村たかあき) / 22 ことり (西村祐見子 牧村慶子) / 23 きんぎょのあぶく (のろさかん 阿部はじめ) / 24 せいび (武鹿悦子 篠崎三朗) / 25 ゾウ (まど・みちお まど・みちお) / 26 はるのコップ (三枝ますみ おぼまこと) / 27 どっこいしょ (みねぎしなつめ マリア・ジュンコ) / 28 おやすみなさい (宮田滋子 とよたかずひこ) / 29 ひとりじゃないからの子守歌 (宮中雲子) / 30 すずむし (矢崎節夫 尾崎曜子) / 31 豊年祭 (プール) (吉川安一 岡本順) / 32 ママとふたりのクリスマス (若谷和子 新野めぐみ) / 少年少女詩・詩人紹介 / 童謡詩・詩人紹介 / イラストレーション・画家紹介 (畑島喜久生) / 少年詩小史——「少年詩」の呼称を中心に (こわせ・たまみ) / 童謡の流れを追って / 展示詩集一覧

11.『花のいのちはみじかくて…… 林芙美子展 生誕 100 年記念』 2003 年 4 月 5 日 編集・発行：仙台文学館

収録：主催者挨拶 / 第一部 林芙美子の生涯 (放浪にはじまる——幼年時代 / たどりついた町——尾道の思春期 / 恋人を追って——東京漂流 I / 詩を書く日々——東京漂流 II / 作家でデビュー——『放浪記』ベストセラーに / 欧州をめざす——新しい体験を交友 / 【パリの芙美子の若き留学生たち】 / 巴里の恋——白井晟一との出会いと別れ / 小説家の自信——自伝的作風からの脱皮 / 戦争に向きあう——従軍作家、そして疎開 / 終戦

後の混乱を描く——流行作家の日々I／「浮雲」「めし」を書いて——流行作家の日々II
／生き急ぐように——突然の死)／第二部 芙美子をしのぶ〈遺愛の品々／映画・TV・
舞台〈《太鼓たたいて笛ふいて》前口上より(井上ひさし)〉／絵と書〈視点の低さ(川
本三郎)〉／家庭人として〈林芙美子さんの大いなる愛(太田治子)〉／著書のいろいろ
／来簡抄／記念館・文学碑案内／年譜／主な展示資料一覧

- 12.『曲軒作家生誕100年記念 聴く、観る 山本周五郎の世界展』 2003年9月6日 編
集・発行：仙台文学館

収録：曲軒作家 山本周五郎〈素顔の大衆作家／友人たち／孤高の大衆作家／周五郎の
一日)／「樞ノ木は残った」と二人の交流 山本周五郎と大池唯雄／周五郎原作の世界
／周五郎の軌跡／山本周五郎略年譜／山本周五郎略年譜／主な展示資料

- 13.『歌人原阿佐緒展 ——生きながら針に貫かれし蝶のごと…』 2003年11月8日 編
集・発行：仙台文学館

収録：うたの風景 ふるさと宮床の四季／原阿佐緒の生涯〈「白壁の家」のおごさん／
上京／歌人としての活躍／流転の日々／忘れられた歌よみ)／《カラー図版》 阿佐緒
の絵画・歌集・短冊・原稿・歌稿手帳／阿佐緒をめぐる人々〈歌人たちとの交流〔与謝
野一家との親交／三ヶ島葎子との友情／古泉千樫——恋を超えて／『アララギ』の師—
—斎藤茂吉と島木赤彦〕／仙台の文芸誌と阿佐緒〔『東北文芸』・『シャルル』・『玄土』]
／阿佐緒の短歌／「阿佐緒さんの思いで」(扇畑利枝)／「みちのくの山はかなしき」(小
野勝美)／「阿佐緒と葎子 魂の同行者として」(秋山佐和子)／資料紹介『玄土』の
仲間に宛てた阿佐緒の手紙／「阿佐緒の歌稿手帳から」(本多真紀)／原阿佐緒略年譜
／主要展示資料／主要参考文献

- 14.『開館5周年記念特別展 「宮沢賢治展 in センダード～永久の未完成」 2004年3
月31日 編集・発行：仙台文学館

収録：賢治の心象スケッチ／賢治の生涯〈生い立ち～盛岡中学時代／盛岡高等農林学校
時代～家出上京／花巻農学校教諭時代／羅須地人協会時代／療養～東北砕石工場～死)
／《カラー図版》〈賢治の絵画／賢治と音楽／サイエンティスト)／賢治と仙台〈賢治
が歩いた仙台／東北砕石工場の出張／詩人たちとの交流(石川善助との出会い・スズキ
ヘキと賢治・尾形亀之助と賢治)〉／井上ひさしの賢治—「イーハトーボの劇列車」／
賢治詩—受難のドキュメント —『春と修羅』の世界について(吉田文憲)／未発見の
賢治(高橋源一郎)／手紙と文学(千葉一幹)／賢治と縄文的想像力(野家啓一)／宮
澤賢治と東北砕石工場(佐藤通雅)／資料紹介「賢治をめぐる書簡」(赤間亜生)／図
版と解説(童話・詩草稿・書簡・手帳)／宮沢賢治略年譜／主な展示資料／主要参考文
献

- 15.『土井晩翠展～学者詩人の足跡』 2004年9月4日 編集・発行：仙台文学館

収録：光すゞしき夕月か ～土井晩翠展によせて～(原子朗)／随想『天地有情』(久

保忠夫) / 東北大学附属図書館所蔵「晩翠文庫」について (佐藤伸宏) / 展示資料一覧
/ 土井晩翠略年譜 / 主な著作・主要参考文献

16. 『おてんとさんの世界展～みやぎの子どもにみやぎの歌を～』 2005年1月15日 編集・発行：仙台文学館

収録：影絵の世界——『かげえのくに 山田重吉と七ツの子社作品集』より / 大正期の児童文学〈『赤い鳥』の誕生と東北の児童文学 / 富弥とへきの出会い～仙台の児童文化運動の始まり〉 / 動揺雑誌『おてんとさん』の誕生〈「おてんとさん社」創立 / 「おてんとさん社」を支えた詩人たち / 『おてんとさん』終刊後に発刊された雑誌〉 / 「おてんとさん社」から広がった活動〈「仙台児童文学倶楽部」の結成 / 「七ツの子社」創立とその活動 / NHK 仙台放送局のラジオ放送 / 子どもを育くむ若者たち / 戦後の児童文化運動 / 「おてんとさんの会」結成〉 / 『おてんとさん』を支えた二人——富弥とへき〈天江富弥の多彩な活動 / スズキへきと兄妹たち〉 / 『おてんとさん』ゆかりの文学碑 / 『おてんとさん』とみやぎの児童文化運動の足あと / 主な展示資料 / 主要参考文献

17. 『与謝野寛・晶子展』 2005年3月31日 編集・発行：仙台文学館

収録：第Ⅰ期 近代詩歌の扉をひらく〈近代詩歌の扉を開く—『明星』『スバル』の時代 / 寛・晶子、文学へのめざめとその出会い / 東京新詩社の設立～『明星』創刊 / 寛・晶子の作品世界 / 『明星』山脈の詩人たち / 『明星』終刊～『スバル』へ〉 / 第Ⅱ期 自立する女性へのまなざし〈女性の地位向上へ / 母性保護をめぐる論争 / 文化学院における女子教育 / 古典文学へのいざない / 寛・晶子、その夫婦愛・家族愛 / 「虎の鉄幹」から「紫の鉄幹」へ (逸見久美) / 好きと好き以上のもの —与謝野晶子の『源氏物語』礼讃の歌 (竹西寛子) / 『みだれ髪』のテニヲハ (小池光)〉 / 作品〈落合直文と与謝野寛 / 原阿佐緒と与謝野晶子 / 与謝野寛・晶子年譜 / 主要展示資料 / 主要参考文献

目録

1. 『仙台文学館所蔵資料目録〈書籍〉』 2003年3月31日 編集・発行：仙台文学館 目次無し
2. 『仙台文学館所蔵資料目録〈雑誌〉』 2005年3月31日 編集・発行：仙台文学館 目次無し
3. 『仙台文学館所蔵資料目録〈書画〉』 2005年3月31日 編集・発行：仙台文学館 目次無し

記録集

1. 『仙台文学館ブックレット』

1-1. 『仙台文学館ブックレット Vol.1 プレオープニング企画講演会 越境する言葉たち—科学と文学と—』 1998年10月18日 講師：瀬名秀明 編集・発行：仙台文学

館 目次無し

- 1-2. 『仙台文学館ブックレット Vol.2 対談「富永太郎—夭折詩人の残像—」』 1999年3月27日 講師：栗津則雄／安藤元雄 編集・発行：仙台文学館
収録：対談「富永太郎—夭折詩人の残像—」／対談で語られた詩いろいろ〈伸也の道士（富永太郎）／道士月夜の旅（日夏耿之助）／秋の悲歎（富永太郎）／即興（富永太郎）／横臥合掌（富永太郎）／竹（萩原朔太郎）／別れ（ランボー）／断片（富永太郎）／頌歌（富永太郎）／恥の歌（富永太郎）／遺産分配書（富永太郎）／信心（ランボー）／警戒（富永太郎）／橋の上の自画像（富永太郎）／鳥獸剥製所（富永太郎）／焦燥（富永太郎）〉
- 1-3. 『仙台文学館ブックレット Vol.3 プレオープニング企画 ことばの祭典——短歌と俳句へのいざない——』 1999年3月27日 講師：渡邊文雄 編集・発行：仙台文学館
収録：講演 旅でもらったその一言／ことばの祭典作品講評／ことばの祭典入選作品／事前応募部門 短歌 一般の部／事前応募部門 短歌 ジュニアの部／事前応募部門 俳句 一般の部／事前応募部門 俳句 ジュニアの部／青葉山吟行作品 短歌の部／青葉山吟行作品 俳句の部
- 1-4. 『仙台文学館ブックレット Vol.5 講演「仙台と私の文学」』 2000年3月31日 講師：佐伯一麦 編集・発行：仙台文学館 目次無し
- 1-5. 『仙台文学館ブックレット Vol.9 平成十一年 ことばの祭典——短歌・俳句・川柳へのいざない——』 2000年11月1日 編集・発行：仙台文学館
収録：講演「啄木短歌の魅力」（山本玲子）／ことばの祭典作品講評／ことばの祭典入選作品〈事前応募部門 [短歌 {一般の部／ジュニアの部} / 俳句 {一般の部／ジュニアの部}] / 川柳 {一般の部／ジュニアの部}] / 当日吟行部門 [短歌／俳句／川柳]〉
- 1-6. 『仙台文学館ブックレット Vol.8 講演「好きな詩あれこれ」』 2001年2月28日 講師：大岡信 編集・発行：仙台文学館 目次無し
- 1-7. 『仙台文学館ブックレット Vol.6 対談「漱石作品に見る人間と社会 ～『三四郎』『それから』『門』を中心として』 2001年3月31日 講師：関川夏央／森まゆみ 編集・発行：仙台文学館 目次無し
- 1-8. 『仙台文学館ブックレット Vol.7 講演 我が詩・我が歌 小さな川の流れのように』 2001年3月31日 講師：清水哲男 編集・発行：仙台文学館 目次無し
- 1-9. 『仙台文学館ブックレット Vol.10. 平成十二年 ことばの祭典——短歌・俳句・川柳へのいざない——』 2001年3月30日 編集・発行：仙台文学館
収録：講演「芭蕉と奥の細道」（相原一士）／ことばの祭典作品講評／ことばの祭典入選作品〈事前応募部門 [短歌 {一般の部／ジュニアの部} / 俳句 {一般の部／ジュニアの部}] / 川柳 {一般の部／ジュニアの部}] / 当日吟行部門 [短歌／俳句／川柳]〉

1-10. 『仙台文学館ブックレット Vol.11 鼎談「大衆性の行方 ——啄木・寺山から現代短歌へ——」』 2001年3月30日 講師：小池光／佐藤通雅／俵万智 編集・発行：仙台文学館 目次無し

1-11. 『仙台文学館ブックレット Vol.12 講演「日本文学盛衰史」』 2002年3月29日 講師：高橋源一郎 編集・発行：仙台文学館 目次無し

館報

1. 『仙台文学館ニュース』

1-1. 『仙台文学館ニュース』 創刊号 2002年3月31日 目次無し

収録：文化とは何か ―館報発刊にあたって― (井上ひさし) / シリーズ私の一冊 第一回〈シモーヌ・ヴェイユ著『労働と人生についての省察』(佐伯一美)〉 / 仙台文学館の展示品から〈藤村署名入りの『夜明け前』(庄司潤子) / 学芸委員資料ノート〈石川善助の四冊のノート〉 / 文学のある風景 第1回〈ブック・カフェ火星の庭〉 / ことばとその周辺 第一回〈読書交流誌『季刊 本も読みます』〉 / 文学館のイベントから / 今後の予定

1-2. 『仙台文学館ニュース』 第2号 2002年9月1日 目次無し

収録：無題 (井上ひさし) / シリーズ私の一冊 第二回〈アーデルベルト・フォン・シャミッソー作『影をなくした男』(扇忠雄)〉 / 仙台文学館の展示品から〈スズキヘキと天江富弥の似顔絵 (田中朋子) / 講演 特別展 島崎藤村展関連イベント『明治の文人達 藤村を中心に』(嵐山光三郎) / 文学のある風景 第2回〈せんだいメディアテーク オープンカフェ〉 / 学芸員資料ノート〈詩人・富永太郎の出発 (赤間亜生)〉 / ことばとその周辺 第二回〈読書グループ『ふんわり』〉 / 文学館のイベントから / 今後の予定

1-3. 『仙台文学館ニュース』 第3号 2003年3月1日 目次無し

収録：シリーズ私の一冊 第三回〈三島由紀夫著『春の雪 豊饒の海・第一巻』(小池真理子)〉 / 仙台文学館の展示品から〈藤野巖九郎写真 (庄司潤子) / 講演 特別展 中原中也展～汚れつちまつた悲しみに… 関連イベント〈「昭和初期の詩と青春——中原中也とその周辺」(三浦雅士)〉 / 講演 現代少年少女詩・童謡詩展 関連イベント〈「幼い子の文学から『小説・捨てていく話』まで」(松谷みよ子)〉 / 学芸員資料ノート〈詩人・富永太郎の出発 (二) ——草稿「夜の讃歌」をめぐって—— (赤間亜生)〉 / 文学のある風景 第3回〈NPO カフェ C7〉 / ことばとその周辺 第三回〈朗読グループ「みやびの会」〉 / 学芸室日記

1-4. 『仙台文学館ニュース』 第4号 2003年9月1日 目次無し

収録：無題 (井上ひさし) / シリーズ私の一冊 第四回〈井伏鱒二著『黒い雨』(伊集院静)〉 / 仙台文学館の展示品から〈原阿佐緒はがき (田中朋子)〉 / 講演 特別展 生

誕一〇〇年記念 林芙美子展～花のいのちはみじかくて 関連イベント〈「巴里の恋をめぐって」(今川英子)〉／友部正人コンサート／学芸員資料ノート〈島崎藤村の手紙——弟子・権藤誠子が残した資料から(本多真紀)〉／文学のある風景 第4回〈伊坂幸太郎の書齋〉／ことばとその周辺 第四回〈宮城県連句協会〉／学芸室日記

1-5. 『仙台文学館ニュース』 第5号 2004年3月31日 目次無し

収録：ささやかな儀式(井上ひさし)／シリーズ私の一冊 第五回〈オウィディウス著『転身物語』——詩人と神話と歴史(津島佑子)〉／仙台文学館の展示品から〈森林太郎(鷗外)に宛てた落合直文の書簡(複製)(本多真紀)〉／文学講演会〈「相剋の森～現代のマタギを追う～」(熊谷達也)〉／Edge in Sendai ～映画の言葉、詩の眼差し～／学芸員資料ノート〈賢治と善助をめぐる書簡(赤間亜生)〉／文学のある風景 第5回〈Bookish Café 悠々房〉／ことばとその周辺 第五回〈宮城県工業高校文芸部〉／学芸室日記

1-6. 『仙台文学館ニュース』 第6号 2004年9月30日 目次無し

収録：文学館の住人たち(井上ひさし)／シリーズ私の一冊 第六回〈アレクサンドル・デュマ著『三銃士』(佐藤賢一)〉／仙台文学館の展示品から〈土井晩翠筆ゲーテ箴言の書(軸装)(本多真紀)〉／講演 開館五周年記念「宮沢賢治展 in センダード～永久の未完成」関連イベント〈「賢治と東北」(赤坂憲雄)〉／「センダードの広場」／学芸員資料ノート〈野口雨情の書簡(田中朋子)〉／文学のある風景 第6回〈東北大学「魯迅の階段教室」〉／ことばとその周辺 第六回〈読書と読み聞かせグループ「おはなし倶楽部」〉／学芸室日記

1-7. 『仙台文学館ニュース』 第7号 2005年3月31日 目次無し

収録：紙人形(井上ひさし)／シリーズ私の一冊 第七回〈『与謝野晶子歌集』(道浦母都子)〉／仙台文学館の展示品から〈阿部次郎はがき(渡部直子)〉／文学サロン〈「小説家前夜～エンターテイメントをめざして～」(三浦明博)〉／「おてんとさんの世界展」関連イベント「さとう宗幸へきを語る」歌とトーク／学芸員資料ノート〈詩誌『L.S.M.』～若き詩人たちの足跡(赤間亜生)〉／文学のある風景 第7回〈佐伯一美が見つめた鉄塔〉／ことばとその周辺 第七回〈出版社「本の森」〉／学芸室日記

2. 『仙台文学館年報』

2-1. 『仙台文学館年報 平成10・11年度』 第1号 2000年3月31日 編集・発行：仙台文学館

収録：1. 展示〈常設展示 [I 新しき詩歌の時代／II 学都・仙台の青春群像／III 学都に集う／IV うたのことばに生きて]／企画展示 [平成9・10年度／開館記念特別展「夏目漱石展—「漱石文庫」の光彩—」／開館記念特別展 PART II 「みやぎの杜の文学者たち」／夏休み企画展「探検！こどもの本」／晩翠賞・晩翠児童賞 40周年記念特別展「日本の詩 100年の軌跡」／特別展「遠藤周作の世界—母なる神を求めて

一」／企画展「来て・見て・感じる 新収資料展」]／2. 収集保管〈収蔵資料の概要／寄贈資料／購入資料〉／3. 教育普及〈ことばの祭典／晩翠賞／その他のイベント／情報コーナー／印刷物・映像資料〉／4. 仙台文学館友の会／5. 組織・運営〈仙台文学館組織図・仙台文学館協議会〉／6. 利用状況〈月別観覧者数・月別講習室利用数〉／7. 条例・規則〈仙台文学館条例／仙台文学館条例施行規則〉

2-2. 『仙台文学館年報 平成 12 年度』 第 2 号 2001 年 3 月 31 日 編集・発行：仙台文学館

収録：1. 展示〈常設展示／企画展示 [1 周年記念特別展「ことばの地平—石川啄木と寺山修司」／企画展「東北帝国大学教授による 文人サロンの書画展」／夏休み企画展「こども文学館 えほんのひろば」／特別展「幻の童謡詩陣 金子みすゞの世界展」／特別展「尾形亀之助展—それから その次へ」／企画展「佐佐木俊郎展」]〉／2. 収集保管〈資料収集の指針・主な収蔵資料／寄贈資料・購入資料／資料複製・資料貸出・燻蒸〉／3. 教育普及〈ことばの祭典・詩のボクシング宮城大会／晩翠賞／情報コーナー・印刷物・映像資料等〉／4. 仙台文学館友の会／5. 組織・運営〈仙台文学館組織図・仙台文学館協議会〉／6. 利用状況〈月別観覧者数・月別講習室利用数〉／7. 施設概要／8. 条例・規則〈仙台文学館条例／仙台文学館施行規則〉

2-3. 『仙台文学館年報 平成 13 年度』 第 3 号 2002 年 10 月 1 日 編集・発行：仙台文学館 目次無し

2-4. 『仙台文学館年報 平成 14 年度』 第 4 号 2003 年 10 月 1 日 編集・発行：仙台文学館 目次無し

2-5. 『仙台文学館年報 平成 15 年度』 第 5 号 発行日不明 編集・発行：仙台文学館 目次無し

収録：1. 展示〈常設展示／企画展示 [特別展「生誕 100 年記念 林芙美子展～花のいのちはみじかくて」／企画展「近代文学に見る『源氏物語』展」／夏休み企画「こども文学館 えほんのひろば」／特別展「曲軒作家生誕 100 年記念 聴く、観る山本周五郎の世界展」／企画展「歌人 原阿佐緒～生きながら針に貫かれし蝶のごと…」／新春ロビー展「100 万人の年賀状展」／企画展「没後 100 年記念 落合直文の生涯と事績展」]〉／2. 収集保管〈資料収集の概要・主な収蔵資料／寄贈資料・購入資料〉／3. 普及啓発〈ことばの祭典、詩のボクシング宮城大会など／情報コーナー・刊行物など〉／4. 土井晩翠顕彰会／5. 仙台文学館友の会／6. 組織・運営〈仙台文学館組織図・仙台文学館運営協議会〉／7. 利用状況〈入館者状況など〉／8. 施設概要／9. 条例・規則など〈仙台文学館条例／仙台文学館条例施行規則／仙台文学館観覧料減免要領／仙台文学館使用量減免要領／仙台文学館運営協議会設置要項〉／10. 利用案内

【13】原阿佐緒記念館

館報

1. 『原阿佐緒記念館だより』

1-1. 『原阿佐緒記念館だより』 第1号 1991年4月1日 目次無し

収録：記念館だより発刊に当って（渡辺丈夫）／これまでの歩み——記念館日誌から——／ふるさとに思いを寄せて（原保美）／時代の先端行く擬洋風原阿佐緒記念館（坂田泉）／阿佐緒と私（扇畑利枝）／ふれあい広場／随想〈笹倉山の山頂で（堀籠健）／記念館に寄せられたうた／これからの行事予定／紹介します／あとがき

1-2. 『原阿佐緒記念館だより』 第2号 1991年10月1日 目次無し

収録：緑と歴史のむら“宮床”（木幡恒雄）／会長就任に当って（大須賀啓）／これまでの歩み——記念館日誌から—— H3・4～H3・9／おびじめ（伊達真美）／台ヶ森温泉の一夜（山野川辰治）／“阿佐緒”に魅せられて（橋本ひろみ）／ふれあい広場／記念館に寄せられたうた／お便り／阿佐緒記念館を訪ねて〈おいしかったお昼のひとつ（西川鯉紫寿）〉／あとがき

1-3. 『原阿佐緒記念館だより』 第3号 1992年5月31日 目次無し

収録：三周年目を迎えるにあたって（扇畑利枝）／二周年記念行事／これまでの歩み——記念館日誌から—— H3・10～H4・4／原阿佐緒記念館友の会設立総会／『自然と文学と歴史の里』づくりを（村山磐）／記念講演“阿佐緒雑感”より（小野勝美）／記念館に寄せられたうた／寄稿〈「あゝ原先生」（遠藤好江）〉／ふれあい広場〈原勇の絵（渡辺清）〉／かけがえのない遺産“宮床”（松本純一郎）／あとがき

1-4. 『原阿佐緒記念館だより』 第4号 1993年4月25日 目次無し

収録：渡辺丈夫前館長をたたえる（大須賀啓）／渡辺館長さん、ご苦労様でした／これまでの歩み——記念館日誌から—— H4・5～H5・3／二周年記念行事特集／大原富枝さん逸見久美さんを相継いでお迎えして（扇畑利枝）／阿佐緒と館長と私（神長敬治）／記念館に寄せられたうた／若い頃は本当にきれいだったね（青木とみゑ）／あとがき

1-5. 『原阿佐緒記念館だより』 第5号 1994年6月20日 目次無し

収録：“きこえます”先人の足音（木幡恒雄）／ご挨拶（安部定太郎）／これまでの歩み——記念館日誌から—— H5・4～H6・3／三周年記念行事／フルートの夕べ（小山正秀）／千葉県鋸南町町史編纂委員一行阿佐緒の生家へ（平成五年九月五日）／宮床から保田へ（平成六年二月十四・十五日）／阿佐緒への思い（扇畑利枝）／「感謝」（沼沢郁子）／出会い（鈴木京子）／記念館に寄せられたうた／白壁の家を訪れて（青井史）／これからの行事予定／あとがき

- 1-6. 『原阿佐緒記念館だより』 第6号 1996年12月1日 目次無し
収録：開館五種年記念式典プログラム／これまでの歩み ——記念館日誌から——
H6・4～H8・10／投稿 原阿佐緒と高清水（高橋小一）／友の会創立五周年を迎える
／阿佐緒の歌碑（君ヶ袋和夫）／あとがき／
- 1-7. 『原阿佐緒記念館だより』 第7号 1997年6月1日 目次無し
収録：宮床から三ヶ島へ（佐藤あさ子）／北から南から／投稿 原阿佐緒と高清水（そ
の二）（高橋小一）／記念館に寄せられた うた／これまでの歩み ——記念館日誌か
ら—— H8・11～H9・4／友の回記念誌『原阿佐緒のおもいで』発行／テレビ映画撮
影協力 美貌ゆえに波瀾の生涯『歌人・原阿佐緒の恋』／阿佐緒あの一ところに想う
（鈴木良夫）／あとがき
- 1-8. 『原阿佐緒記念館だより』 第8号 1998年2月1日 目次無し
収録：記念館にかかわるあれこれ ——原保美さんの急逝を悼んで——（扇畑利枝）
／北から南から／原阿佐緒記念館まもなく八周年を迎えて（大須賀啓）／記念館に寄
せられた うた／これまでの歩み ——記念館日誌から—— H9・5～H9・12／福島
の旅／墓碑銘 『事件記者』原保美さんの知られざる「少年時代」／企画展案内／ひ
な人形展示／保存棚完成／あとがき
- 1-9. 『原阿佐緒記念館だより』 第9号 1998年11月1日 目次無し
収録：東京での「原さんを偲ぶ会」に出席して（坐古悠輔）／記念館における原保美
さんを偲ぶ会／北から南から／これまでの歩み ——記念館日誌から—— H10・1
～H10・10／第一回 原阿佐緒記念館賞 贈呈式／原阿佐緒記念館賞（実施要項）／
記念館に寄せられた うた／企画展案内／雛人形展示／インターネット・ホームペー
ジ／あとがき
- 1-10. 『原阿佐緒記念館だより』 第10号 1999年7月1日 目次無し
収録：北から南から 全国文学館協議会会長 中村稔氏 来訪／これまでの歩み ——
記念館日誌から—— H10・11～H11・6／第二回原阿佐緒記念館賞 佳作／記念館
に寄せられた うた／展示案内／あとがき
- 1-11. 『原阿佐緒記念館だより』 第11号 2000年3月1日 目次無し
収録：一枚の新聞の切り抜き／北から南から／これまでの歩み ——記念館日誌から
—— H11・7～H11・12／第一回原阿佐緒賞短歌募集／記念館に寄せられた うた／
展示案内／これからの行事／あとがき
- 1-12. 『原阿佐緒記念館だより』 第12号 2000年7月1日 目次無し
収録：第五回企画展「阿佐緒ひと筋に——扇畑利枝展」／北から南から／これまでの
歩み ——記念館日誌から—— H12・1～H12・6／第一回『原阿佐緒賞』表彰式挙
行 大和町まほろばホールにおいて／第三回 原阿佐緒記念館賞贈呈式 記念館展示
室で和やかな温もりのなかで／原阿佐緒記念館 10年のあゆみ／これからの行事／あ

とがき

- 1-13. 『原阿佐緒記念館だより』 第 13 号 2001 年 3 月 1 日 目次無し
収録：原阿佐緒記念館に響いた古代の音色／ミュージカル『情炎の歌人・原阿佐緒』
の上演決定／仮題『永遠の原阿佐緒』上演準備中（鎌田順子）／北から南から／これ
までの歩み —— 記念館日誌から —— H12・7～H13・1／第 2 回原阿佐緒賞短歌募
集／まほろば大学 短歌教室学習経過／記念館に寄せられた うた／展示案内／これ
からの行事／あとがき
- 1-14. 『原阿佐緒記念館だより』 第 14 号 2001 年 7 月 1 日 目次無し
収録：第二回原阿佐緒賞が決定／北から南から／これまでの歩み —— 記念館日誌か
ら —— H13・2～H13・6／新倉涼子演奏会開催／情炎の歌人・原阿佐緒 泉ティ
ー 21 ホールにて盛大に上演／まほろば大学 平成 13 年度 短歌教室開催／展示案内／
これからの行事／あとがき
- 1-15. 『原阿佐緒記念館だより』 第 15 号 2002 年 3 月 1 日 目次無し
収録：阿佐緒が海を渡る！（貝山幸子）／短歌「原阿佐緒」優秀賞を受賞して／第 3
回原阿佐緒賞短歌募集／まほろば大学 平成 13 年度 第五回 坦懐教室開催／北か
ら南から／舞台「永遠の原阿佐緒」フランス上演報告／これまでの歩み —— 記念館
日誌から —— H13・7～H14・1／展示案内／これからの行事／あとがき
- 1-16. 『原阿佐緒記念館だより』 第 16 号 2002 年 9 月 1 日 目次無し
収録：第 3 回原阿佐緒賞は戎野ゆき子さんらが受賞／2002・8・11 河北新報朝刊 河
北歌壇記事より／北から南から／まほろば大学 短歌教室開催／これまでの歩み ——
—— 記念館日誌から —— H14・2～H14・7／展示案内／これからの行事／あとがき
- 1-17. 『原阿佐緒記念館だより』 第 17 号 2003 年 4 月 1 日 目次無し
収録：第四回原阿佐緒賞 = 応募締めきる = / 平成十四年度まほろば大学 短歌教室
受講生詠歌／北から南から／企画展「青鞥時代の歌人たち」／これまでの歩み ——
記念館日誌（H14・8～H15・3）から —— / 一弦の琴（新倉涼子）／展示案内／記念
館に寄せられた歌／寄贈図書・資料報告／これからの行事／あとがき
- 1-18. 『原阿佐緒記念館だより』 第 18 号 2003 年 9 月 1 日 目次無し
収録：原阿佐緒賞 入賞作品／第四回 原阿佐緒賞授賞式／平成 15 年度短歌教室開
校／ホームページリニューアルのお知らせ／小企画展 阿佐緒とファッション — 写
真に見る時代 — / これまでの歩み —— 記念館日誌《H14・4～H15・8》から —— /
七夕飾りつけ／友の会活動に思う（今野れう）／寄贈図書・資料報告／関連施設・展
覧会のお知らせ／あとがき
- 1-19. 『原阿佐緒記念館だより』 第 19 号 2004 年 4 月 1 日 目次無し
収録：吉村公 里帰りまつり／雛人形展示／まほろば大学短歌教室／企画展 阿佐緒
が生きた時代／阿佐緒のアルバム／寄贈図書・資料報告／「大和町 まほろば百選 ～

未来への伝言～ 第二刊 人物変」刊行のお知らせ／あとがき

1-20. 『原阿佐緒記念館だより』 第20号 2004年10月1日 目次無し

収録：第五回 原阿佐緒賞／原阿佐緒賞について／小企画展 天恵の歌／阿佐緒のアルバム／七夕飾り付け・除草作業／まほろば大学 短歌教室開講／寄贈図書・資料報告／企画展開催のお知らせ 原阿佐緒「母性と女性」 一故郷・子供・恋・自立一／あとがき

1-21. 『原阿佐緒記念館だより』 第21号 2005年3月1日 目次無し

収録：「記念館だよりが伝えてきたこと（清水善衛）／企画展 原阿佐緒『母性と女性』故郷 子供 恋 自立／まほろば大学 短歌教室 受講生作品紹介／阿佐緒のアルバム／寄贈図書・資料報告／雛人形展示／第六回原阿佐緒賞／あとがき

【14】（財）齋藤茂吉記念館

図録

1. 『齋藤茂吉記念館』 1991年 奥付無し 目次無し

目録

1. 『齋藤茂吉記念館主要資料目録』 1991年11月3日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：1 齋藤茂吉 色紙又は色紙大／2 齋藤茂吉 半折又は半折大／3 齋藤茂吉 扇面／4 齋藤茂吉 短冊／5 齋藤茂吉 原稿／6 齋藤茂吉 絵図／7 齋藤茂吉 書／8 齋藤茂吉 書簡／9 齋藤茂吉 遺品／10 齋藤茂吉 写真／11 齋藤茂吉 著書／12 齋藤茂吉 歌碑拓本／13 齋藤茂吉 歌碑写真／14 箱根強羅の勉強部屋遺品／15 その他齋藤茂吉関係／16 齋藤茂吉以外 色紙又は色紙大／17 齋藤茂吉以外 半折又は半折大／18 齋藤茂吉以外 短冊／19 齋藤茂吉以外 原稿／20 齋藤茂吉以外 絵図／21 齋藤茂吉以外 書／22 齋藤茂吉以外 書簡／23 佐原＝應に関するもの／24 出羽ヶ嶽文治郎に関するもの

研究誌

1. 『齋藤茂吉資料』 1965年7月1日 発行：齋藤茂吉記念館建設実行委員会 目次無し

研究書

1. 『齋藤茂吉伝』 1985年4月1日 著者：鈴木啓藏 発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1 人間・茂吉〈その幼少年のころ／上京とその文学的出発／医学と西洋文化志向／暗黒時代と愛国歌人／輝かしい晩年〉／2 作品・茂吉〈短歌作品概観／短歌作品各論／歌論・歌話／評伝・評釈／随筆／茂吉の書と絵／齋藤茂吉略歴／あとがき／参考文献

2. 『齋藤茂吉の添削と批評』 1987年12月21日 著者：鹿児島寿蔵 編集：齋藤茂吉記念館 発行：短歌研究社 目次無し

作品

1. 『山県内詠短歌叢書』『茂吉記念館叢書』

1-1. 『齋藤茂吉作品集 山形県内詠短歌叢書 第一編 茂吉記念館叢書 第一編』

1990年5月14日 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：叢書刊行のことば／短歌作品〈蔵王山 明 44 6首／故郷。瀬上。吾妻山 大 5 14首／三山参拝の歌 昭3 28首／三山参拝初途 昭5 7首／月山 昭5 9首／湯殿山 昭5 3首／笹小屋より羽黒 昭5 6首／最上川 昭5 5首／上山低徊 昭6 4首／秋の雲 昭6 3首／上ノ山滞在吟 昭9 5首／続上ノ山滞在吟 昭9 10首／上ノ山 昭9 4首／蔵王山上歌碑 昭9 1首／温海 昭15 4首／旅（湯の浜より加茂） 昭15 3首／酒田 昭15 5首／羽前 昭16 11首／大石田 昭17 4首／笹谷越え 昭17 16首／上ノ山小吟 昭17 14首／疎開漫吟（一） 昭20 8首／疎開漫吟（二） 昭20 16首／疎開漫吟（三） 昭20 13首／金瓶村小吟 昭20 12首／紅色の靄 昭21 6首／大石田漫吟 昭21 4首／春より夏 昭21 6首／黒滝向川寺 昭21 9首／しぐれ 昭21 4首／本沢村 昭22 3首／猿羽根峠 昭22 7首／次年子 昭22 3首／肘折 昭22 4首／酒田 昭22 6首／湯の浜 昭22 3首／湯田川 昭22 4首／春雲 昭23 3首／随縁五首 昭23 3首／芦角集へ 昭23 3首／冬の魚 昭26 3首／みちのく 昭26 4首〉／随筆（新道（念珠集より） 大 15／立石寺の蟬 昭7／最上川 昭13）／解題／短歌合計三〇〇首

1-2. 『土屋文明・五味保義・吉田正俊作品集 山形県内詠短歌叢書 第二編 茂吉記念館叢書 第二編』 1991年5月14日 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：叢書刊行のことば／短歌作品〈土屋文明集 [九月初旬羽前温海にあり 昭15 5首／鼠が関 昭15 15首／温海を思ふ 昭15 5首／象潟酒田 昭15 27首／板垣家子夫君に報せむとす 昭22 5首／大石田にて 昭23 25首／羽前松嶺城址 昭31 5首／みちのく六篇 置賜村山 昭40 22首／酒田 昭40 24首／東北を思ふ 昭47 1首／追悼結城大人 昭50 5首／結城哀草果七回忌 昭55 5首／計一四四首]／五味保義集 [金瓶 昭28 6首／大石田 昭28 5首／大石田再び 昭

28 11首／立石寺の秋 昭28 7首／雪の大石田 昭32 23首／金瓶にて 昭32
9首／最上川口 昭37 10首／羽黒山 昭37 6首／古口 昭37 4首／蔵王山 昭
38 7首／みちのく 昭38 23首／計一一一首]／吉田正俊集[もの憂し 昭39 1
首／さばさばする 昭55 1首／象潟・酒田 昭61 12首／計一四首]／文章〈最
初の記憶（土屋文明）〉／解題／山形県内略図

1-3. 『鹿児島壽蔵作品集 山形県内詠短歌叢書 第三編 茂吉記念館叢書 第三編』
1989年8月20日 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
収録：刊行のことば／短歌作品〈飛島渡行 大13 8首／最上川 昭20 10首／六
月六日結城哀草果氏を訪ふ 昭21 14首／大石田二藤部邸にて 昭21 8首／蔵王
山 昭24 23首／肘折の湯 昭28 13首／比々奈 昭31 5首／早春抄 昭31 2
首／「人形」著述の頃 昭41 2首／身辺早春 昭41 2首／蔵王高原 昭42 8
首／蔵王コマクサ平 昭42 10首／ウルグアイへ嫁ぐひとに 昭42 2首／茂吉記
念館成る 昭42 10首／蔵王山新冬 昭42 23首／酒田 昭45 49首／憶茂吉先
生 昭46 1首／昭和四十七年拾遺(二) 昭47 1首／上山市にて 昭49 4首／
羽黒山 昭50 18首／月山 昭50 2首／最上川下り 昭50 6首／上ノ山途次
昭51 8首／蔵王山即詠 昭51 7首／朱 昭51 1首／最上川詠補遺 昭53 04
首／随時随所(五) 昭54 1首／秋冬一束 昭54 1首／滴露(一) 昭55 2
首／飛島紀行吟 昭55 26首／雪海苔 昭56 5首／上山行 昭56 5首／折々に
昭56 3首〉／随想〈茂吉のふるさと上山へ—記念館の落成式に参列して—(鹿児島
壽蔵)／壽蔵歌碑について(鈴木啓蔵)／茂吉・壽蔵・道雄と私(鈴木啓蔵)〉／解題
／短歌合計二八四首

1-4. 『山形県内詠作品集 山形県内詠短歌叢書 第四編 茂吉記念館叢書 第四編』
1992年5月14日 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
収録：叢書刊行のことば／短歌作品〈扇畑忠雄集[大石田にて 昭21 6首／酒田に
て 昭27年 8首／最上川源流 昭42 6首／温海にて 昭43 6首／金瓶にて 昭
43 6首／南陽行 昭46 3首／銀山にて 昭48 4首／霧の鳥海山 昭49 6首／
最上川の舟下り 昭50 6首／羽黒山 昭51 6首／銀山温泉 昭53 6首／亀岡文
珠堂 昭54 6首／はなれ島 昭54 14首／蔵王晩春 昭55 7首／天童若松寺
昭55 7首／茂吉の集い 昭56 4首／磯の村 昭56 6首／鳥海山にて 昭57 6
首／飛島行 昭59 11首／慈恩寺 昭61 7首／白竜湖 昭61 5首／湯殿山 平
1 5首／五月最上川 平2 6首／計一四六首]／加藤淘綾集[出羽に入る 昭18
4首／山形行 昭20 7首／大石田近郊 昭20 3首／茂吉先生 昭20 3首／茂吉
先生病む 昭21 7首／大石田 昭21 4首／最上川 昭21 7首／聴禽書屋秋晴
昭21 4首／出羽浅春 昭22 7首／大石田 昭22 7首／六十里越 昭22 7首
／羽前堅苔澤 昭22 4首／追悼 昭28 4首／月山 昭28 4首／大石田 昭29

3首／蔵王山 昭29 4首／酒田 昭37 4首／鳥海山 昭42 10首／「アララギ」より 昭58 3首／「アララギ」より 昭59 4首／計一〇〇首〕／木股修集〔山寺立石寺 昭32 5首／羽前赤倉温泉 昭34 6首／山刀切峠 昭34 11首／大石田 昭34 16首／羽前 昭49 10首／菩提樹 昭49 9首／自問 昭50 1首／計五八首〕／小暮政次集〔酒田また男鹿 昭48 15首／酒田再び・鳥海山 昭49 20首／最上川の雨 昭49 10首／最上川など 昭54 5首／長井菖蒲園 昭57 10首／計六〇首〕／佐藤佐太郎集〔蔵王山 昭10 7首／金瓶 昭10 7首／最上川畔 昭12 23首／飛島 昭27 14首／火山（蔵王山・吾妻山） 昭39 13首／羽黒山 昭47 4首／大石田にて 昭47 6首／大河原にて 昭48 1首／計七五首〕／柴生田稔集〔北海道雑詠 北行 昭9 1首／「アララギ」より 昭25 1首／「アララギ」より 昭28 1首／山形 昭33 23首／「短歌研究」より 昭33 7首／おもかげ 昭33 2首／金瓶 昭34 5首／秋晴 昭34 1首／砂上の胡桃（三） 昭37 31首／「アララギ」より 昭37 1首／「アララギ」より 昭50 1首／計七四首〕／樋口賢治集〔月山 昭41 11首／池の洲 昭42 1首／白布高湯 昭42 1首／火口湖 昭49 8首／扇畑兄に 昭55 1首／計二七首〕／総計五四〇首〕／解題／山形県内略図

1-5. 『山形県内詠作品集 山形県内詠短歌叢書 第五編 茂吉記念館叢書 第五編』
 1993年5月14日 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
 収録：行書叢書刊行のことば／短歌作品〈板垣家子夫集〔雪旋風 昭21 4首／春疾風 昭21 4首／黒滝山 昭21 4首／堅苔沢 昭21 4首／瀬見温泉 昭21 4首／肘折温泉 昭22 3首／宮の浦 昭22 3首／甌岳登行 昭24 4首／山刀伐峠 昭28 3首／銀山温泉 昭30 4首／虹ヶ丘 昭31 4首／秋から冬に 昭33 3首／冬川 昭39 4首／羽黒山 昭39 3首／湧水 昭41 4首／関山峠 昭41 3首／白布峠 昭42 4首／最上川氾濫（一） 昭42 4首／下河原 昭54 3首／狐越え山道（I）（II） 昭55 4首／計七三首〕／犬飼藤八郎集〔昭和3年 4首／昭和4年 11首／昭和5年 17首／昭和6年 11首／昭和7年 5首／昭和8年 6首／計五四首〕／黒江太郎集〔二井宿村 昭11 3首／板谷峠 昭12 3首／鳥海 昭12 2首／堀田村金瓶 昭13 5首／蔵王高原 昭14 5首／板谷峠 昭15 2首／蔵王山麓 昭16 3首／最上川 昭21 2首／聴禽書屋 昭21 3首／念珠抄 昭22 6首／谿谷吟行 昭23 5首／玉庭村 昭24 3首／流動 昭24 4首／置賜湖盆 昭27 3首／続念珠抄 昭28 7首／最上川 昭36 3首／峠 昭48 2首／湯殿山 昭48 4首／白鳥 昭51 2首／本沢 昭51 3首／計七〇首〕／斎藤勇集〔飛島行 昭22 7首／小砂川・三崎 昭27 3首／ 昭27 3首／転石抄 昭37 4首／母川回帰 昭38 6首／羽黒の齋館 昭38 4首／白布の春 昭39 4首／落石抄 昭39 5首／中州の白鳥 昭40 3首／幻想瑠璃の壺 昭49 4首／落伏永泉

寺 昭54 3首／蔵王養鱒場 昭57 3首／濁流最上峡 昭59 4首／最上川一夜観音 昭59 2首／計五〇首]／須藤克三集 [北国の冬 4首／山寺 9首／帰郷 3首／一夜の帰省 2首／帰省篇(一) 昭11 3首／帰郷 昭12 9首／開拓地 5首／雪の開拓村 5首／崩さるる山 10首／計五〇首]／大道寺吉次集 [草餐 昭21 9首／茂吉先生歓迎宮内歌会 昭22 2首／春光 昭24 3首／深山村 昭24 2首／紬ぐ音 昭25 2首／最上川の築 昭25 2首／小国峡 昭25 3首／あかね 昭26 2首／春近き頃 昭26 2首／草岡西光寺 昭26 3首／朝日連山縦走 昭26 4首／飯豊山 昭27 3首／白龍湖 昭28 2首／姥湯温泉 昭28 3首／虹のうへの山 昭29 4首／大石田にて 昭30 2首／葉山の紅葉 昭32 2首／浮島 昭33 3首／銀山温泉 昭33 2首／祝瓶山 昭36 3首／白布温泉 昭39 3首／蔵王 昭42 3首／入院 昭43 2首／昭和四十四年詠 2首／昭和四十五年詠 2首／計七〇首]／松坂二郎集 [アララギ時代 昭5～16 11首／山塊時代 昭24～29 3首／赤光時代 昭30～35 10首／津軽行 昭37 2首／道東旅行 昭41 3首／酒田移居 昭44～46 2首／最上川吟行 昭48～50 3首／「米沢きたぐに」より 昭50～58 6首／きたぐに時代 昭51～58 10首／計五〇首]／結城哀草果集 [代掻馬 大3 2首／馬舎 大3 4首／をりをり 大4 2首／最上の秋(一) 大4 2首／寂念 大6 4首／暁の霜 大7 2首／雁戸山 昭5 4首／病床吟 昭8 4首／歌碑建立 昭9 4首／手術 昭13 4首／出羽三山 昭13 4首／エリカ 昭14 4首／斑雪 昭14 4首／空虚 昭17 2首／置賜(二) 昭21 3首／朝日連峰 昭25 11首／飯豊山塊 昭26 4首／雪崩れ 昭28 2首／斎藤茂吉先生を悼む 昭28 3首／生々 昭36 3首／覚悟 昭40 4首／山恒若く 昭47 2首／人間我に 昭48 2首／計八〇首]／結城健三集 [金峰神社 大14 4首／蔵王山登山 昭9 10首／羽黒山紀行 昭12 8首／最上川余情 昭23 4首／或る日の茂吉先生 昭23 4首／志津遊吟 昭33 4首／由良海岸 昭43 8首／笹谷峠 昭44 7首／栗子峠 昭45 4首／大日坊の晩秋 昭49 8首／湯殿山遊吟 昭57 12首／計七三首]／総計五七〇首)／解題／山形県内略図

2. 『齋藤茂吉歌集 白き山研究 齋藤茂吉記念館叢書』 1969年1月5日(2001年1月7日補訂版) 編集：財団法人齋藤茂吉記念館 発行：短歌研究社
収録：資料(写真・地図)／序(結城哀草果)／序(扇畑忠雄)／本文と成立／評釈／地名と人名(地名／人名)／各句索引／跋(『白き山研究』縁起(関良一)／『白き山研究』補訂版に寄せる(本林勝夫)／あとがき／補訂版あとがき ※収録内容は補訂版のものを記載。
3. 『従ひて巡りし丘——守谷誠二郎遺歌集』 1986年10月11日 編集：守谷誠二郎遺歌集編集委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
収録：守谷さん 序(齋藤茂太)／守谷誠二郎遺歌集／青苔集 自 昭和三十四年 至

昭和三十九年 一八二首〈ふるさと／秋の彼岸／蔵王の雪／浅春／引き水／庭石／紅花／いしぶみ／曼珠沙華／青苔／吉野山／挿芽の季／母の手紙／季のうつり／鈴のおと／蔵王登山／湖の村／湯殿山・羽黒山／帰郷〉／紅梅集 自 昭和四十年 至 昭和四十五年 一二九首〈行在所跡／友を悼む／牧場／山と湖／茂吉忌／間歇泉／雪つもる夜／京都／万葉の旅／茂吉記念館／山の湯／銀杏の実／筒鳥／紅梅／南青山〉／冬日集 自 昭和四十六年 至 昭和五十一年 一一三首〈天水桶／一年／冬／遠松風／亡き人を懐ふ／遠風の音／石原／冬日／あけくれ／赤彦五十年忌／蓮の広葉／浅草の歌碑／しめりたる道〉／芙蓉集 自 昭和五十二年 至 昭和五十七年 七五首〈冬の日々／涼しき庭／干柿／あかざの杖／一月・二月／芙蓉／赤芽柏／梅雨ぐもり／さち草／誕生日／藁焼く煙／祖母〉／齋藤茂吉追慕歌集詠草／守谷誠二郎日記抄／守谷夫妻略歴／編集後記——机辺の遺品に対しつつ——（鈴木啓藏）

創作集

1. 『齋藤茂吉追慕歌集』

- 1-1. 『齋藤茂吉追慕歌集 第一集』 1975年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集第一集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-2. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二集』 1976年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-3. 『齋藤茂吉追慕歌集 第三集』 1977年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-4. 『齋藤茂吉追慕歌集 第四集』 1978年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-5. 『齋藤茂吉追慕歌集 第五集』 1979年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-6. 『齋藤茂吉追慕歌集 第六集』 1980年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-7. 『齋藤茂吉追慕歌集 第七集』 1981年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-8. 『齋藤茂吉生誕百年記念 歌集 追慕（第八集）』 1982年5月14日 編集：齋藤茂吉生誕百年記念歌集「追慕」編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-9. 『没後三十周年 齋藤茂吉追慕歌集 第九集』 1983年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：上山市立齋藤茂吉記念館
- 1-10. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十集』 1984年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集編集委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-11. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十一集』 1985年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集

- 運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-12. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十二集』 1986年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-13. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十三集』 1987年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-14. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十四集』 1988年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-15. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十五集』 1989年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-16. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十六集』 1990年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-17. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十七集』 1991年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-18. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十八集』 1992年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-19. 『齋藤茂吉追慕歌集 第十九集』 1993年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌集
運営委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-20. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十集』 1994年5月14日 編集：第二十回記念齋藤
茂吉追慕全国大会実行委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-21. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十一集』 1995年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌
集編集委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-22. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十二集』 1996年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌
集編集委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-23. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十三集』 1997年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌
集編集委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-24. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十四集』 1998年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌
集編集委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-25. 『齋藤茂吉追慕歌集 第二十五集』 1999年5月14日 編集：齋藤茂吉追慕歌
集編集委員 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-26. 『齋藤茂吉記念歌集 第26集』 2000年5月14日 編集：齋藤茂吉記念歌集編
集委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-27. 『齋藤茂吉記念歌集 第27集』 2001年5月13日 編集：齋藤茂吉記念全国大
会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-28. 『齋藤茂吉生誕120年記念 齋藤茂吉記念歌集 第28集』
1-28-1. 『齋藤茂吉生誕120年記念 齋藤茂吉記念歌集 第28集』 2002年5月13

- 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-28-2.『齋藤茂吉生誕 120 年記念 齋藤茂吉記念歌集 第 28 集 児童・生徒作品集』
2002 年 5 月 13 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-29.『齋藤茂吉記念歌集 第 29 集』
- 1-29-1.『齋藤茂吉記念歌集 第 29 集』 2003 年 5 月 14 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-29-2.『齋藤茂吉記念歌集 第 29 集 児童・生徒作品集』 2003 年 5 月 14 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-30.『齋藤茂吉記念歌集 第 30 集』
- 1-30-1.『齋藤茂吉記念歌集 第 30 集』 2004 年 5 月 14 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 1-30-2.『齋藤茂吉記念歌集 第 30 集 児童・生徒作品集』 2004 年 5 月 14 日 編集：齋藤茂吉記念全国大会運営委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
- 2.『齋藤茂吉追慕全国大会吟行会作品集』
- 2-1.『歌集 経塚山』 1981 年 6 月 30 日 編集：齋藤茂吉記念館 発行：上山市／齋藤茂吉記念館
- 2-2.『歌集 萌黄の頃』 1983 年 7 月 16 日 編集：齋藤茂吉記念館 発行：上山市／齋藤茂吉記念館
- 2-3.『歌集 馬酔木の花』 1984 年 8 月 13 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-4.『歌集 猿羽根越』 1985 年 8 月 12 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-5.『歌集 最上峡』 1986 年 7 月 20 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-6.『歌集 文殊谷』 1987 年 7 月 15 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-7.『歌集 笹谷越え』 1988 年 7 月 15 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-8.『歌集 湯殿の山』 1989 年 8 月 25 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-9.『歌集 最上川三難所』 1990 年 7 月 15 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-10.『歌集 峡の空』 1991 年 6 月 30 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-11.『歌集 浅山』 1992 年 6 月 30 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-12.『歌集 佛の山』 1993 年 6 月 30 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-13.『歌集 塩野沢』 1995 年 7 月 10 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-14.『続 湯殿の山』 1996 年 7 月 25 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-15.『歌集 猿羽根峠』 1997 年 7 月 20 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-16.『歌集 山刀伐峠』 1998 年 7 月 20 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 2-17.『歌集 はざま路』 1999 年 7 月 20 日 編集・発行：(財) 齋藤茂吉記念館
- 3.『平成十六年度 齋藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集』 2005 年 3 月 15 日 編

集：財団法人斎藤茂吉記念館／山形県文化環境部文化振興課 発行：山形県／財団法人
斎藤茂吉記念館

館報

1. 『茂吉記念館だより』

1-1. 『茂吉記念館だより』 第1号 1998年9月

収録：創刊のあいさつ／寄稿「あはれあはれ日本語はなす君居たりけり」／スラヴィ
ク先生／館長随想①／収蔵資料から／短信／展示室から／出版案内

1-2. 『茂吉記念館だより』 第2号 1999年12月

収録：寄稿〈「呑牛について」／「師弟 山口茂吉日記について」〉／茂吉との出会い
／館長随筆／所蔵資料から／短信／出版案内／展示室から／ミュージアムショップか
ら

1-3. 『茂吉記念館だより』 第3号 2000年9月

収録：寄稿〈「斎藤先生の思い出 『春山』のころ」／「茂吉の一言」／「斎藤茂吉晩
年」〉／館長随筆／収蔵資料から／短信／出版案内／ミュージアムショップから

1-4. 『茂吉記念館だより』 第4号 2001年10月

収録：寄稿〈「蜻蛉のねむり —『小園』の一首をめぐって」／「私の惹かれる茂吉の
歌」／「親しみ、親しまれた茂吉先生」／歌集『白木山』所収歌初出 「鳥海山」(十
首)〉／館長随筆「伊勢の一日」／収蔵資料から／お知らせ／出版案内／短信／ミュ
ージアムショップから

1-5. 『茂吉記念館だより』 第5号 2002年12月

収録：寄稿〈「歌は下手に読め」／「最上川と疎開中の斎藤茂吉」／「静謐の絶唱—『小
園』・金瓶の時代」／「『いきほひ』『とどろき』の自筆原稿のこと」／「茂吉激走」
／館長随筆「差出人不明のハガキ」／出版案内／新しい収蔵資料から／短信

1-6. 『茂吉記念館だより』 第6号 2003年11月

収録：寄稿〈「木曾と中津川」／「佐久路散歩」／「笹谷越と歌碑行」／「聞き書き 上
山(金瓶)疎開中の茂吉」〉／館長随筆「『日本橋』の歌など」／出版案内／短信「新
展示施設(茂吉とその家族たち)ほか」

1-7. 『茂吉記念館だより』 第7号 2004年12月

収録：寄稿〈「茂吉の『吉』」／「蛇雑考」／「斎藤茂吉のふるさと賛歌」 —歌集『白
き山』を軸に一〉／館長随筆「ドラ焼きの歌『寒雲』の一首」／出版案内／収蔵資料
から／短信ほか

2. 『齋藤茂吉記念館の歴史』→『齋藤茂吉記念館年報』

2-1. 『齋藤茂吉記念館の歴史 一年報特集号1—』 第1号 1986年12月30日 著
者：鈴木啓蔵 発行：財団法人斎藤茂吉記念館

収録：とびら／口絵／市長あいさつ（永田亀昭）／理事長あいさつ（鈴木啓蔵）／一、記念館の設立まで〈1. 沿革／2. 設立の経緯／3. 記念館の建築〔(1) 建設地の選定／(2) 設計から施工まで／(3) 施設（建築・設備）／(4) 展示〕〉／二、開館〈事業報告 昭和42年度～昭和57年度まで〉／三、茂吉余慶／四、付録〈1. 諸規約／2. 各年度別入館者数一覧／3. 各年度別決算報告書〉／職員名簿／利用案内

2-2. 『齋藤茂吉記念館の歴史 一年報特集号2—』 第2号 1987年7月20日 著者：鈴木啓蔵 発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：とびら／口絵写真 17葉／巻頭言 齋藤茂吉記念館の法人移管後について（鈴木啓蔵）／一、財団法人齋藤茂吉記念館の設立〈1. 財団法人齋藤茂吉記念館の沿革（昭和58年度～昭和61年度）／2. 財団法人齋藤茂吉記念館設立までの経緯〔(1) 設立計画の概要／(2) 設立許可申請書／(3) 設立趣意書／(4) 設立発起人会議事録／(5) 財産の出捐について／(6) 財産目録／(7) 財産の出捐申込書／(8) 普通財産の貸付について／(9) 設立許可書／(10) 財団法人の登記完了〕〉／二、財団法人齋藤茂吉記念館の運営〈1. 事業報告（昭和58年度～昭和61年度まで）（昭和58年度～昭和61年度までの収支決算書と入館者状況一覧表）／2. 教育普及活動〔(1) 講演会／(2) 出版〕／3. 展示活動〔(1) 常設展示／(2) 特別企画展〕〉／三、第1回齋藤茂吉追慕全国大会記念講演記録〈『私の見た齋藤茂吉先生』（柴生田稔）〉／四、付録〈1. 昭和58年度以降 寄贈寄託者名簿／2. 財団法人齋藤茂吉記念館寄付行為〉／後記／職員名簿／利用案内

2-3. 『齋藤茂吉記念館の歴史 一年報特集号3—』 第3号 1988年8月30日 著者：鈴木啓蔵 発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：とびら／口絵写真 13葉／ごあいさつ（鈴木啓蔵）／（財）齋藤茂吉記念館の沿革／I （財）齋藤茂吉記念館事業報告〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉関係資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 学芸・文化の振興を図る啓発事業〕／2. 協力事業〔(1) 第21回茂吉忌合同歌会／(2) 各種団体の文化活動に対する調査資料貸与等の協力〕／3. 施設設備／4. 理事会・評議員会の経過報告／5. 役員などに関する事項〔昭和62年度有料入館者状況一覧表／昭和62年度公益事業（損益計算書）／昭和62年度職員構成及び事務分担表〕／6. 別項《事業報告》〔(1) 展示活動／(2) 教育普及活動〔ア、歌会／イ、講演会 講演『齋藤茂吉の人と文学』／ウ、出版活動〕〕〉／II （財）齋藤茂吉記念館消息／III （財）齋藤茂吉記念館と守谷誠二郎氏〈1. 故守谷誠二郎氏の私信掲載について／2. 遺歌集『従ひて巡りし丘』序文「守谷さん」（齋藤茂太）／3. 守谷誠二郎から鈴木啓蔵あての書簡集〉／IV 第三回齋藤茂吉追慕全国短歌大会記念講演の要約〈『齋藤茂吉の短歌の諸問題』（小暮政次）〉／付録〈資料状況一覧表〉／編集後記

2-4. 『齋藤茂吉記念館年報 一昭和63年度—』 第4号 1989年12月1日 編集・

発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 条例および規則〈1. 財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2. 財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〉／IV 施設設備の概要〈1. 建物／2. 設備〉／V 1年のあゆみ／VI 事業概要〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 第14回齋藤茂吉追慕全国大会／(5) 学芸・文化振興活動〕／2. 協力事業〔(1) 第22回茂吉忌合同歌会／(2) その他〕〉／VII 改修・増築工事関係〈1. 設計及び工事〔(1) 基本設計の趣旨／(2) 常設展示室の展示設計／(3) 起工式／(4) 改修・増築等に係る請負（委託）契約／(5) 工事の進捗状況〕／2. 設備概要（改修・増築後）〔(1) 空調設備／(2) 給排水衛生設備／(3) 防災設備／(4) 電気設備〕〉／VIII 昭和63年度有料入館者状況／IX 昭和63年度損益計算書／X 役員・職員に関する事項〈1. 理事会・職員に関する事項／2. 役員氏名／3. 職員構成と事務分掌〔(1) 職員構成／(2) 事務分掌〕〉／付録〈資料状況〔(1) 購入資料一覧／(2) 寄贈資料一覧／(3) 寄託資料一覧〕〉／編集後記

2-5. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成元年度一』 第5号 1990年8月1日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 寄附行為および管理規則〈1. 財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2. 財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〉／IV 施設設備の概要〈1. 建物／2. 設備〉／V 1年のあゆみ／VI 事業概要〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 普及活動（講演・講話等）／(5) 第15回齋藤茂吉追慕全国大会／(6) 第23回茂吉忌合同歌会／(7) 齋藤茂吉短歌文学賞の設定〕／2. 協力事業〔(1) 茂吉資料の貸与協力／(2) 各種団体の文化活動一般に対する協力〕〉／VII 改修・増築工事関係〈1. 建物関係／2. 展示関係／3. 建物の概要／4. 建築に関するデータ／5. 竣工式および祝賀会概要／6. みゆき公園園路こ線橋新設事業〉／VIII 平成元年度有料入館者状況／IX 平成元年度損益計算書／X 役員・職員に関する事項〈1. 理事会・評議員会の開催状況／2. 役員氏名／3. 職員構成と事務分掌〉／付録〈(1) 購入および寄贈資料一覧／(2) 寄贈一般図書一覧／(3) 寄託資料一覧／(4) 複製資料一覧〉／編集後記

2-6. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成2年度一』 第6号 1991年8月1日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 寄附行為および管理規則〈1. 財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2. 財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〉／IV 施設設備の概要〈1. 建物／2. 設備〉／V 1年のあゆみ／VI 事業概要〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 普及活動（講演・講話等）／(5) 第16回齋藤茂吉追慕全国大会／(6) 第24回茂吉忌合同

歌会／（7）齋藤茂吉短歌文学賞〕／2．協力事業〔（1）資料の貸出状況／（2）各種団体の文化活動一般に対する協力〕〕／VII 環境整備事業関係〈1．跨線橋工事関係／2．園路改修工事関係／3．新橋取付け通路並びに園路外灯工事関係／4．用地取得に伴う費用負担関係〕／VIII 入館者状況／IX 貸借対照表・損益計算書／X 役員・職員に関する事項〈1．理事会・評議員会の開催状況／2．役員氏名／3．職員構成と事務分掌〕／付録〈（1）新収蔵資料一覧／（2）寄贈図書一覧／（3）寄託資料一覧／（4）資料寄贈・寄託者名一覧〕／編集後記

2-7. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成3年度一』 第7号 1992年8月1日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 寄附行為および管理規則〈1．財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2．財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〕／IV 施設設備の概要〈1．建物／2．設備〕／V 1年の歩み／VI 事業概要〈1．主体事業〔（1）齋藤茂吉関係資料の収集とその調査研究／（2）展示活動／（3）出版活動／（4）普及活動／（5）第17回齋藤茂吉追慕全国大会／（6）第25回記念茂吉忌合同歌会／（7）齋藤茂吉短歌文学賞〕／2．協力事業〔（1）資料貸出状況／（2）各種団体の文化活動一般に対する協力〕〕／VII 周辺施設整備事業〈1．周辺施設整備工事の基本設計業務委託／2．進入路及び駐車場整備／3．用地取得に伴う費用負担〕／VIII 皇太子殿下啓関係／IX 入館者状況／X 貸借対照表・損益計算書／XI 役員・職員表〈1．理事会・評議員会の開催状況／2．役員氏名／3．職員構成と事務分掌〕／付録〈（1）新収蔵資料一覧／（2）寄贈図書一覧／（3）寄託資料一覧／（4）資料寄贈・寄託者名一覧〕

2-8. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成4年度一』 第8号 1993年8月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 寄附行為および管理規則〈1．財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2．財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〕／IV 施設設備の概要〈1．建物／2．設備〕／V 1年の歩み／VI 事業概要〈1．主体事業〔（1）齋藤茂吉関係資料の収集とその調査研究／（2）展示活動／（3）出版活動／（4）普及活動／（5）第18回齋藤茂吉追慕全国大会／（6）第26回記念茂吉忌合同歌会／（7）齋藤茂吉短歌文学賞〕／2．協力事業〔（1）資料貸出状況等について／（2）各種団体の文化活動に対する協力〕〕／VII 周辺施設整備事業／VIII 入館者状況／IX 貸借対照表・損益計算書／X 役員・職員に関する事項〈1．理事会・評議員会の開催状況／2．役員氏名／3．職員構成と事務分掌〕／付録〈（1）新収蔵資料一覧／（2）寄贈図書一覧／（3）寄託資料一覧／（4）雑誌・会報寄贈〕

2-9. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成5年度一』 第9号 1994年8月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 寄附行為および管理規則〈1. 財団法人齋藤茂吉記念館寄附行為／2. 財団法人齋藤茂吉記念館管理規則〉／IV 施設設備の概要〈1. 建物／2. 設備〉／V 1年の歩み／VI 事業概要〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉関係資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 普及活動／(5) 第19回齋藤茂吉追慕全国大会／(6) 第27回記念茂吉忌合同歌会／(7) 齋藤茂吉短歌文学賞(第4回)／(8) 財団法人齋藤茂吉記念館葬〕／2. 協力事業〔(1) 資料貸出等について／(2) 各種団体の文化活動に対する協力〕〉／VII 周辺施設整備事業／VIII 入館者状況／IX 貸借対照表・損益計算書／X 役員・職員に関する事項〈1. 理事会・評議員会の開催状況／2. 役員氏名／3. 職員構成と事務分掌〉／付録〈(1) 新収蔵資料一覧／(2) 寄贈図書一覧／(3) 寄託資料一覧／(4) 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-10. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成6年度一』 第10号 1995年8月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／I 沿革／II 運営方針／III 1年のあゆみ／IV 施設設備の概要〈1. 建物／2. 設備〉／V 事業概要〈1. 主体事業〔(1) 齋藤茂吉資料の収集とその調査研究／(2) 展示活動／(3) 出版活動／(4) 普及活動／(5) 齋藤茂吉追慕全国大会／(6) 齋藤茂吉短歌文学賞／(7) 第28回茂吉忌合同歌会／(8) 副理事長・館長葬儀〕／2. 協力事業〔(1) 茂吉関係資料の貸出等／(2) 各種団体の文化活動に対する協力〕〉／VI 周辺施設整備事業／VII 役員・評議員・職員に関する事項〈1. 理事会・評議員会の開催状況／2. 役員・評議員氏名／3. 職員構成と事務分掌〉／VIII 貸借対照表・損益計算書／IX 入館者状況／付録〈(1) 寄附行為および管理規則／(2) 新収蔵資料一覧／(3) 寄贈一般図書一覧／(4) 寄託資料一覧／(5) 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-11. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成7年度一』 第11号 1996年8月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 周辺施設整備事業／6. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展・特別展示及び企画展示〉／7. 資料収集・管理／8. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／9. 出版／10. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業〔第29回茂吉忌合同歌会／齋藤茂吉追慕全国大会／齋藤茂吉短歌文学賞〕〉／11. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌表〉／12. 貸借対照表・収支計算書／13. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 寄贈図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-12. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成8年度一』 第12号 1997年8月15日 編集・

発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 周辺施設整備事業／6. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展・特別展示及び企画展示〉／7. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／8. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／9. 出版／10. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業〔茂吉忌合同歌会／齋藤茂吉追慕全国大会／齋藤茂吉短歌文学賞〕〉／11. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌表〉／12. 貸借対照表・収支計算書／13. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 寄贈図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-13. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成9年度一』 第13号 1998年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展・特別展示・企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／7. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／8. 出版／9. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業（茂吉忌合同歌会・齋藤茂吉追慕全国大会・齋藤茂吉短歌文学賞）〉／10. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌表〉／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 寄贈図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-14. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成10年度一』 第14号 1999年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／7. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／8. 出版／9. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業（茂吉忌合同歌会・齋藤茂吉追慕全国大会・齋藤茂吉短歌文学賞）〉／10. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌〉／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 寄贈図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-15. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成11年度一』 第15号 2000年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／7. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／8. 出版／9. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業（茂吉忌合同歌会・斎藤茂吉追慕全国大会・斎藤茂吉短歌文学賞）〉／10. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌〉／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 寄贈図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-16. 『齋藤茂吉記念館年報 一平成12年度一』 第16号 2001年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／7. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／8. 出版／9. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業（茂吉忌合同歌会・斎藤茂吉追慕全国大会・斎藤茂吉短歌文学賞）〉／10. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌〉／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 新規図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-17. 『財団法人齋藤茂吉記念館年報 一平成3年度一』 第17号 2002年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資料収集／資料管理〉／7. 協力事業〈資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力〉／8. 出版／9. 普及活動〈講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業（茂吉忌合同歌会・斎藤茂吉追慕全国大会・斎藤茂吉短歌文学賞）〉／10. 役員・評議員・職員に関する事項〈理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌〉／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録〈1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 新規図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧〉

2-18. 『財団法人齋藤茂吉記念館年報 一平成14年度一』 第18号 2003年9月15日 編集・発行：財団法人齋藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示〈常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示〉／6. 資料収集・管理〈資

料収集／資料管理)／7. 協力事業(資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力)／8. 出版／9. 普及活動(講演・講話等／寄稿その他執筆活動／館内における活動／顕彰事業(茂吉忌合同歌会・斎藤茂吉追慕全国大会・斎藤茂吉短歌文学賞))／10. 役員・評議員・職員に関する事項(理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌)／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録(1. 寄附行為及び管理規則／2. 新規資料一覧／3. 新規図書一覧／4. 寄託資料一覧／5. 寄贈雑誌・会報一覧)

2-19. 『財団法人斎藤茂吉記念館年報 一平成15年度一』 第19号 2004年9月15日 編集・発行：財団法人斎藤茂吉記念館

収録：はじめに／1. 沿革／2. 運営方針／3. 1年のあゆみ／4. 施設設備の概要／5. 展示(常設展示／映像・音声展示／特別展示及び企画展示／斎藤茂吉没後50周年記念展示等事業)／6. 資料収集・管理(資料収集／資料管理)／7. 協力事業(資料の貸出・撮影・掲載に関する協力／各種団体の文化活動に対する協力)／8. 出版／9. 普及活動(講演・講話等／寄稿その他執筆活動／諸活動(館内における活動・優待入館券の発行・短歌普及拡大事業))／顕彰事業(茂吉忌合同歌会・斎藤茂吉記念全国大会・斎藤茂吉短歌文学賞))／10. 役員・評議員・職員に関する事項(理事会・評議員会の開催状況／役員・評議員氏名／職員構成と事務分掌)／11. 貸借対照表・収支計算書／12. 入館者状況／付録(1. 寄附行為及び管理規則／新規資料一覧／新規図書一覧／寄託資料一覧／寄贈雑誌・会報一覧)

記念誌(開館)

1. 『斎藤茂吉記念館建設実行委員会誌』 1984年7月20日 編集・発行：財団法人斎藤茂吉記念館

収録：序章／第一章 記念館建設のきざし 山形県内の茂吉顕彰運動(一、蔵王村議会のうごき／二、斎藤茂吉文化賞／三、市町村合併と金瓶部落／四、上山市の茂吉顕彰運動／五、山形市でのその後の動き)／第二章 斎藤茂吉記念館建設実行委員会発足以前(一、大久保山形市長の決意／二、上山市制施行十周年記念事業／三、建設運動の波ひろがる／四、谷口博士の御幸公園視察)／第三章 斎藤茂吉記念館建設実行委員会の設立(一、上山・山形両市中心の建設実行委員会／二、建設実行委員会の発足／三、上山協力会／四、実行委員会の事務所について)／第四章 記念館着工をむかえるまで(一、山形・上山両市議会における議論／二、苦難の記念館着工・試練の募金運動／三、着工前後)／第五章 竣工から開館まで(一、竣工式と内廷樹木の御下付／二、開館と管理運営)

記念誌（周年）

1. 『齋藤茂吉追慕全国大会『二十年の歴史』』 1994年12月15日 編集：第二十回記念齋藤茂吉追慕全国大会実行委員会 発行：財団法人齋藤茂吉記念館
収録：口絵写真／まえがき（清野源太郎）／目次／あいさつ〈第二十回追慕大会を迎えて〉（永田亀昭）／「第二十回大会に寄せて」（五十嵐忠一）／齋藤茂吉追慕全国大会「二十年の歴史」発刊によせて〈「二十年」（齋藤茂太）／「茂吉の墓」（近藤芳美）／「感謝の年」（北杜夫）／「自然への帰郷」（芳賀徹）／「所感」（清水房雄）／「小石」（齋藤史）／「茂吉とさん俵」（田村哲三）／「孫とバター」（結城健三）／「二十回を記念して（扇畑忠雄）」／大会の軌跡〈大会実施に向けて／第一回大会（昭和五十年）／第二回大会（昭和五十一年）／第三回大会（昭和五十二年）／第四回大会（昭和五十三年）／第五回大会（昭和五十四年）／第六回大会（昭和五十五年）／第七回大会（昭和五十六年）／第八回大会（昭和五十七年）／第九回大会（昭和五十八年）／第十回大会（昭和五十九年）／第十一回大会（昭和六十年）／第十二回大会（昭和六十一年）／第十三回大会（昭和六十二年）／第十四回大会（昭和六十三年）／第十五回大会（平成元年）／第十六回大会（平成二年）／第十七回大会（平成三年）／第十八回大会（平成四年）／第十九回大会（平成五年）／第二十回大会（平成六年）〉／大会の記録〈大会参加者数／追慕歌集出詠者及び出詠歌数／大会記念講演講師及び演題／記念講演以外に実施の講話・シンポジウム／大会記念品一覧／追慕歌集十集連続出詠者名簿／追慕歌集二十集連続出詠者名簿／吟行会作品集入賞者名簿／齋藤茂吉短歌文学賞／第二十回記念齋藤茂吉追慕全国大会実行委員会名簿／第二十回記念齋藤茂吉追慕全国大会実行委員会要綱／齋藤茂吉短歌楽譜〔「ゆふされば」／「蔵王山上」／「ひとつ螢」〕〉／あとがき

【15】いわき市立草野心平記念文学館

図録（常設展）

1. 『草野心平 常設展示図録』 1998年7月19日 編集：いわき市立草野心平記念文学館 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：ごあいさつ／常設展示案内／『第百階級』自筆原稿／草野心平の書／草野心平の絵／草野心平書誌／草野心平年譜／草野心平主要出版／協力者一覧
2. 『いわき市立草野心平記念文学館ガイドブック みる・感じる・つくる』 2001年3月3日 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：はじめに／草野心平の生涯〈天衣無縫な少年時代／青春時代／疾風怒濤の二十代／開花の時代／組成の時代／爛熟の時代／生の充溢期〉／常設展示室／私の中の流星群

／心平さんのしごとと居酒屋「火の車」／命名の達人／詩のモチーフ／教科書にのった心平さんの詩／心平さんがつくった校歌（いわき市内）／心平さんのふるさと

図録（企画展）

1. 『猪狩満直 企画展図録』 1998年7月19日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／長谷川由美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：ごあいさつ／詩集〈開墾地風景（未刊）／移住民／石炭のかけら（未刊）／農政調査百姓日記（未刊）／秋の通信／いわきの同人誌／北海道の同人誌〉／評論〈かなしいやつ（吉野せい）／猪狩満直と、時に直結する私 現代詩への要請（清水脩）／満直詩についての断片（佐藤久弥）／猪狩満直年譜／主な展示資料／参考文献
2. 『草野天平 企画展図録』 1998年12月12日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（渡邊芳一／大谷領子） 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：ごあいさつ／幼少時代／喫茶店「羅甸区」／詩作の道へ／『ひとつの道』／比叡山へ／松禅院での生活／高村光太郎賞受賞・詩碑建立／二程詩集〈ひとつの道／白経〉／自筆原稿／天平の書／私のふるさと（草野天平）／詩人といふ者（草野天平）／天平の誌と生涯（草野心平）／野辺の送り（草野梅乃）／父についての思い出（草野杏平）／棺の上に飾る写真（土門拳）／草野天平年譜／主な展示資料／参考文献
3. 『開館一周年記念特別企画展 宮沢賢治 一賢治と心平— 図録』 1999年7月3日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／矢吹裕美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：ごあいさつ（栗津則雄）／思ひ出（宮沢静六）／賢治と心平（入沢康夫）／西域と賢治・心平（金子民雄）／最初の賢治全集と心平さん（野々上慶一）／I 賢治がいた場所／II 賢治にふれる／III 賢治と心平の交流／IV 賢治と心平が響き合う／宮沢賢治略年譜／賢治・心平交流年譜／草野心平の賢治関係年譜／宮沢賢治展示資料目録／参考文献／協力者一覧
4. 『生誕百年記念—私は百姓女— 吉野せい展 図録』 1999年10月2日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（長谷川由美／塚本剛） 発行：いわき市立草野心平記念文学館
収録：ごあいさつ（栗津則雄）／母と梨と水石山と（吉野誠之）／胸に置かれた鎌 死んでなおしんじつに在るために（串田孫一）／吉野せいといわき〈誕生・少女時代／混沌との結婚・開墾生活／梨花の死／梨作りの生活／混沌の死／『暮鳥と混沌』／『涙をたらした神』ができるまで／二つの文学賞／『道』〉／作品〈涙をたらした神（吉野せい）／梨花（吉野せい）／私は百姓女（吉野せい）〉／吉野せい年譜／吉野せい書誌／参考文献／吉野せい賞受賞作品一覧／吉野せい展示資料目録／協力者一覧
5. 『童心の詩人 野口雨情 図録』 2000年7月1日 編集：いわき市立草野心平記念

文学館（渡邊芳一／矢吹裕美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（栗津則雄）／野口雨情の童謡（野口存彌）／野口雨情と野口家の人々（野口不二子）／「枯れすすき」（新藤兼人）／雨情の童謡における独自性（栗津則雄）／図版〈十五夜お月／七つの子／＝い目の人形／赤い靴／シヤボン玉／證城寺の狸囃）／児童文学の新時代／野口雨情の童話集／野口雨情の民謡集／野口雨情評論集／野口雨情をめぐる人物〈石川啄木／本居長世／中山晋平／北原白秋／西條八十〉／野口雨情の生い立ち／野口雨情童謡一覧／野口雨情年譜／展示資料一覧／参考文献／協力者一覧

6. 『三野混沌 図録』 2000年9月30日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／西山領子） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（館長 栗津則雄）／さいご（吉野せい）／阿武隈の雲（草野心平）／菊茸山のカーペンター（斎藤庸一）／三野混沌の生涯と作品〈誕生—磐城中学校／山村暮鳥との出会い／菊竹山開墾／早稲田大学高等学院／理想生活と苦悩の一週間／せいとの結婚／詩の講演会・三人の出会い／詩集『百姓』／詩集『開墾者』／梨花の死とその前後／詩集『或る品評会』／詩集『この主人は誰なのか解らない』／農地委員／「歷程」同人・『日本詩人全集』第九集／詩集『阿武隈の雲』／「否」と「氾濫」・「月刊いわき」／磐城平の同人誌〈「農夫」・「初芽」／「播種者」／「路傍詩」／「突」／「無軌道」／「海岸線」〉／三野混沌年譜／交流年譜／三野混沌書誌／三野混沌展展示資料目録／参考文献／協力者一覧

7. 『中原中也展 一中也と心平の青春交友— 図録』 2001年7月7日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（長谷川由美／矢吹裕美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ／心平と中也（佐々木幹郎）／中也・ヴェルレーヌ・ランボー（栗津則雄）／中原中也の生涯と作品〈誕生・少年時代／京都時代／状況／スルヤ／中也とフランス語／「白痴群」の頃／『山羊の歌』ができるまで／吾子よ吾子／『在りし日の歌』／中也と心平の青春交友〈『山羊の歌』装幀の頃／「歷程」をめぐって／中也からみた心平／心平からみた中也／中也の詩・心平の死〉／中原中也略年譜／中也・心平交流年譜／草野心平の中也関係年譜／展示資料目録／主要参考文献／協力者一覧

8. 『諸橋元三郎と文庫の歩み 三猿文庫展 図録』 2001年10月6日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／富岡真由美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（いわき市立草野心平記念文学館）／ごあいさつ（諸橋鑑一郎）／鼎談（諸橋元三郎／中柴光泰／蓬来信勇）／三猿文庫資料について（小野浩）／諸橋元三郎の生涯と三猿文庫の歩み〈誕生・幼少・旧制磐城中学校・早稲田大学時代／三猿文庫の始まり／郷土史家・諸根樟一への支援／水石と坂本隆蔵／名付け親・亜留行会／三猿文庫賞／交友／宮武外骨コレクション〉／雑誌創刊号／宮武外骨／いわきの新聞〈明治

時代の新聞／大正時代の新聞／昭和初期の新聞／戦時中の新聞／戦後の新聞／諸橋元三郎略年譜／雑誌創刊号目録／新聞（いわき地域）目録／主な展示資料／参考文献／協力者一覧

9. 『童画の世界 武井武雄展 図録』 2002年7月6日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／渡邊芳一） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ／私と三春（武井三春）／「はなこさんのゆめ」をめぐる（二木六徳）／武井武雄の生涯〈大きくなったら絵描きになります／洋画を研究するを以って目的となす／赤い屋根のアトリエ／童画家といふものになってしまった／こんなものを作ったよ／絶望と奮起／児童文化への貢献〉／武井武雄の童画・版画〈童画／イソップモノガタリ／木版画小品／榛の会／伝承木版／銅版画小品／銅版絵本『地上の祭』／銅版絵本『宇宙説』／武井武雄の刊本作品〈創作活動の広がり／草野心平の童話〉／武井武雄刊本作品目録／武井武雄年譜／展示資料目録／主要参考文献／協力者一覧

10. 『昭和戦前のいわき 詩風土の開花展 図録』 2002年10月5日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／渡邊芳一／長谷川由美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（栗津則雄）／いわきの詩風土と草野心平（方丈常久）／新発見資料磐城文芸運動史（高瀬勝男）／詩風土の開花〈詩の種子／「農夫」「初芽」／「播種者」／「天鵝絨」／路傍詩運動と「路傍詩」／詩の会と「乾杯群」「RRR」／「香車」「OMBRO」「暮鐘」「俺等の詩」「先駆」／「突」／「無軌道」／「喇叭」「一九三〇年」「サイレン」／「海岸線」／「Platanus」「磐城文芸新聞」／「表現人」／活版「指南車」と磐城文芸協会／「指南車」の短歌活動／論争と「指南車」終刊号／「みみず」「文芸村落」／「野麦」／離郷—いわきを見つめた詩人たち—〈猪狩満直／波立—／中野大次郎／草野心平〉／〈いわき〉地域発行詩誌目録／仮想『磐城平詩集』／〈いわき〉の詩人と詩誌発行年譜／〈いわき〉地域発行詩誌寄稿者一覧／主な展示資料一覧／主要参考文献／協力者一覧／付録 〈いわき〉詩誌変遷年表

11. 『高村光太郎・智恵子展』 2003年7月5日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／渡邊芳一／長谷川由美／大原郁子） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（栗津則雄）／光太郎と心平（栗津則雄）／光太郎と心平の往復書簡（北川太一）／草野心平の愛情（高村規）／高村光太郎死す（草野心平）／「光雲の子」光太郎〈誕生・幼少時代／東京美術学校／新詩社・篁碎雨／留学／帰国・琅扞洞〉／「真実に生きる」智恵子〈誕生・幼少時代／日本女子大学校／太平洋画会研究所・「青鞥」表紙絵〉／同棲同類〈出会い・結婚／詩集『道程』／アトリエでの同棲同類／「猛獣篇」・心平との出会い・詩人との交流〉／『智恵子抄』の時代〈智恵子実家の倒産・発病・自殺未遂／九十九里浜療養・ゼームス坂病院入院／紙絵・智恵子の死／詩集『智恵子抄』〉／山居七年と智恵子像〈戦時の詩作と山居七年／十和田湖畔の裸婦像・光太郎の死〉／

光太郎と心平の交友〈『第百階級』序文と同人詩誌／心平詩集の題字・『猛獣篇』／心平が編んだ光太郎作品集〉／光太郎と心平の往復書簡／光太郎・彫刻十個條／智恵子の紙絵／高村光太郎・智恵子と草野心平交流年譜／主な展示資料目録／主な参考文献／協力者一覧

12. 『「歷程」創刊同人展 図録』 2003年10月4日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／渡邊芳一／長谷川由美／大原郁子） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（栗津則雄）／「歷程」創刊同人をめぐって（栗津則雄）／初期「歷程」の詩史的位罫（入沢康夫）／「歷程」創刊同人（岡崎清一郎／尾形亀之助／草野心平／高橋新吉／中原中也／菱山修三／土方定一／逸見猶吉／宮沢賢治）／「歷程」の創刊前後／「歷程」創刊と同時代の詩誌／「歷程」戦前版（全26号）／「銅鑼」（全16号）／「学校」（全7号）／「歷程」創刊同人・「歷程」関連略年譜／主な展示資料目録／主な参考文献／協力者一覧

13. 『真尾倍弘・悦子展 たった二人の工場から 図録』 2004年7月10日 編集：いわき市立草野心平記念文学館（小野浩／長谷川由美） 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ごあいさつ（栗津則雄）／ふしぎなご縁（真尾悦子）／遠くにあつて想うこと（佐藤卓布）／思い出すまま（大森久光）／「くらしの随筆」（吉田隆司）／大いなる遺産（岡部明）／現代詩研究会と「氾濫」準備号／郷土雑誌「月刊いわき」／「月刊いわき」への反響／氾濫社時代の二人の活動／氾濫社発行の雑誌と書籍／詩人・真尾倍弘／作家・真尾悦子／現代詩研究会発行「氾濫」準備号・石城文化社発行「石城文化」／氾濫社発行「氾濫」／氾濫社発行「月刊いわき」／真尾倍弘・悦子夫妻年譜／主な展示資料目録／主な参考文献／協力者一覧

14. 『現代少年少女・童謡詩展 図録』 2004年12月21日 企画・編集：群馬県立土屋文明記念文学館 発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：ポエムの国をひらくまで——出展作品をお招きするにあたって——（木暮正夫）／少年少女詩〈1 雲（赤座憲久 安藤勇寿）／2 すみのダンナ（秋川ゆみ 秋川ゆみ）／3 白夜（びやくや）（伊藤政弘 府川誠）／4 朝やけ（江口あけみ 木暮健二郎）／5 雪（大久保テイ子 村井宗二）／6 たちあがれ（大洲秋登 やべみつのり）／7 カラス（小沢千恵 とどろきちづこ）／8 おかあさんの ねじばな（尾上尚子 渡辺有一）／9 蝶（海沼松世 中村悦子）／10 ちょう（柏木恵美子 小松修）／11 こころの軌跡（加藤丈夫 曾我舞）／12 北風に向かって（川端律子 中村悦子）／13 夏の日（菊永謙 野村たかあき）／14 み一つけた（岸田衿子）／15 口笛吹いて 他（北川幸比古 本間ちひろ）／16 小鳥が一羽 されもない朝の庭で（北原悠子 新野めぐみ）／17 てつがくのライオン（工藤直子 保手浜孝）／18 かくれんぼ（黒柳啓子

大和田美鈴) / 19 あなたへ (小泉周二 辻友紀子) / 20 回転木馬 (小泉房子 木暮健二郎) / 21 夏のおわりに (小松静江 尾崎曜子) / 22 こわれた いす (桜井信夫 おぼまこと) / 23 しゃくとりむし (宍倉さとし 篠崎三朗) / 24 ハガキ (島田陽子 坪谷令子) / 25 砂漠の少年 (白根厚子 岡野和) / 26 こおろぎと空きカン (新川和江) / 27 すずめの木 (菅原優子 菅原史也) / 28 砂漠の樹 (高崎乃理子 井江栄) / 29 参観日 (たかはしけいこ 中釜浩一郎) / 30 生まれる (高橋忠治 牧村慶子) / 31 難破船 (土田明子 井江栄) / 32 しゃくとりむし (永窪綾子 永窪啓紀) / 33 君たち (畑島喜久生 坪谷令子) / 34 草 (はたちよしこ 菅原史也) / 35 きょうね (原田直友 岡本順) / 36 柿紅葉 (かきもみじ) (藤井則行 阿部はじめ) / 37 カエル (松谷みよ子) / 38 カタクリの花の咲くころ (宮前利保子 宮前あゆみ) / 39 さんぽねこ (山中利子 若山憲) / 40 うしさん うふふ (よしだていichi 篠原良隆) / 童謡詩 <1 ほおずき ほおずき (青戸かいち こいでやすこ) / 2 黒い豹 (秋葉てる代 篠崎三朗) / 3 ありさんとぞうさんのこもりうた (うらさわこうじ 小松修) / 4 夏の思い出 (江間章子) / 5 バッタのうた (おうちやすゆき) / 6 大草原のキリン (小黒恵子 渡辺有一) / 7 たまごのなかで (神沢利子 神沢利子) / 8 たんぼぼすきよ (楠木しげお アリマ・ジュンコ) / 9 おはなしゆびさん (香山美子 渡辺有一) / 10 めだか (こやま峰子 とよたかずひこ) / 11 こゆび (こわせ・たまみ 大和田美鈴) / 12 サッチャン (阪田寛夫) / 13 どうぶつえんのよる (佐藤雅子) / 14 木 (清水たみ子 府川誠) / 15 トマト (荘司武 曾我舞) / 16 おつかいありさん (関根榮一 おぼまこと) / 17 空と風のきっぷ (高木あきこ こいでやすこ) / 18 おかあさん (田中ナナ 安藤勇寿) / 19 ののはな (谷川俊太郎) / 20 さよならは いわないで (鶴岡千代子 大和田美鈴) / 21 鬼の子のうた (富永佳与子 野村たかあき) / 22 ことり (西村祐見子 牧村慶子) / 23 きんぎょのあぶく (のろさかん 阿部はじめ) / 24 せいび (武鹿悦子 篠崎三朗) / 25 ゾウ (まど・みちお まど・みちお) / 26 はるのコップ (三枝ますみ おぼまこと) / 27 どっこいしょ (みねぎしなつめ マリア・ジュンコ) / 28 おやすみなさい (宮田滋子 とよたかずひこ) / 29 ひとりじゃないからの子守歌 (宮中雲子) / 30 すずむし (矢崎節夫 尾崎曜子) / 31 豊年祭 (プール) (吉川安一 岡本順) / 32 ママとふたりのクリスマス (若谷和子 新野めぐみ) / 少年少女詩・詩人紹介 / 童謡詩・詩人紹介 / イラストレーション・画家紹介 / 少年詩小史——「少年詩」の呼称を中心に (畑島喜久生) / 童謡の流れを追って (こわせ・たまみ) / 展示詩集一覧

館報

1. 『いわき市立草野心平記念文学館』

1-1. 『いわき市立草野心平記念文学館』 創刊号 1998年9月30日

- 収録：一九九八年七月十九日開館／アートパフォーマンス／開館記念講演会「草野心平の人と作品」(粟津則雄)／市内・近郊の文学館・美術館情報／庭園管理協力会結成／入場者一万人達成／文学シアター／展示鑑賞会／猪狩満直展／心平に捧げる詩入賞者／草野天平展／参加者募集のお知らせ／アートパフォーマンス
- 1-2. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第2号 1999年3月31日
収録：展示鑑賞会講演「満直詩の世界」(佐藤久弥)／企画展記念講演「松禅院と天平」(草野梅乃)／市内・近郊の文学館・美術館情報／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-3. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第3号 1999年10月30日
収録：開館一周年記念『宮沢賢治展—賢治と心平—』特集／対談『宮沢賢治の世界』(入沢康夫 吉増剛造)／『宮沢賢治展』関連企画／市内・近郊の文学館・美術館情報／これからの企画案内
- 1-4. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第4号 2000年3月31日
収録：「吉野せい展」記念談話の会／「菊竹山にて 母との思い出」／「吉野せい展」関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内／市内・近郊の文学館・美術館情報
- 1-5. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第5号 2000年10月31日
収録：企画展「童心の詩人 野口雨情」開催〈文学散歩／童謡レコード鑑賞会／記念対談「野口雨情と湯本」／童謡コンサート「童心をうたう」／記念講演会「音楽会からみた野口雨情」〉／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-6. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第6号 2001年3月31日
収録：記念対談「三野混沌」とその時代／企画展「三野混沌展」関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-7. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第7号 2001年10月31日
収録：企画展「中原中也展」／記念朗読講演会「中也の世界」／企画展「中原中也展」関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-8. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第8号 2002年3月31日
収録：記念講演 雑誌創刊号をめぐって(紅野敏郎)／記念対談 諸橋元三郎と三猿文庫(坂本昌蔵 里見庫男)／これからの企画案内
- 1-9. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第9号 2002年10月31日
収録：企画展「武井武雄展」／企画講演会「十番目の弟子」／企画展「武井武雄展」関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-10. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第10号 2003年3月31日
収録：企画展「昭和戦前のいわき 詩風土の開花」／講演会「いわきの詩風土と草野心平」／企画展「詩風土の開花」関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内
- 1-11. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第11号 2003年10月30日

収録：講演会「高村光太郎と草野心平の往復書簡」／企画展関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内

1-12. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第12号 2004年3月31日

収録：企画展『『歷程』創刊同人展』記念対談「詩を歩く、詩と歩く」（長田弘 和合亮一）／文学館ニュース

1-13. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第13号 2004年10月30日

収録：企画展「真尾倍弘・悦子展」記念講演会／「編集者からみた氾濫社と真尾夫妻のしごと」（松本昌次）／企画展関連催し／文学館ニュース／これからの企画案内

1-14. 『いわき市立草野心平記念文学館』 第14号 2005年3月31日

収録：企画展「現代少年少女詩・童謡詩展」記念講演会「子どもと詩を考える」（木暮正夫）／追悼 橋本千代吉／企画展関連の催し・文学館ニュース／平成17年度の企画展案内

2. 『いわき市草野心平記念館年報』

2-1. 『いわき市草野心平記念館年報第1号 【平成10年度】』 2000年3月31日 編集・発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／施設の概要〉／2. 常設展示〈展示の構成／展示資料目録／文学プラザ〉／3. 企画展事業報告〈(1)【農民詩人／開墾の詩 猪狩満直展】〔展示内容／展示資料一覧〕／(2)【ひとつの道 草野天平展】〔草野天平について／展示内容／展示資料一覧〕〉／4. 開館記念事業報告〈(1) 開館記念講演【草野心平の人と作品】（栗津則雄）／(2) 文学シアター【草野心平と「蛙」の詩】（入沢康夫）〉／5. その他の事業報告〈詩作講座／文学散歩／アートパフォーマンス事業／ボランティア講座／出版物〉／6. 資料概況及び運営管理〈資料概況（資料収集状況）／運営管理（文学館日誌抄／組織および職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／利用状況）〉

2-2. 『いわき市草野心平記念館年報第2号 【平成11年度】』 2001年3月3日 編集・発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／施設の概要〉／2. 常設展示〈展示の構成／展示資料目録／文学プラザ〉／3. 企画展事業報告〈(1)【第1回所蔵品展「草野心平の字」】〔展示内容／展示資料一覧〕／(2)【宮沢賢治展】〔宮沢賢治について／展示内容／展示資料一覧／関連行事〕／(3)【吉野せい展】〔吉野せいについて／展示内容／展示資料一覧／関連行事〕〉／4. 企画展関連事業報告〈(1) 文学シアター【銀河鉄道の夜】（ますむら・ひろし）／(2) 講演【吉野せいと農民文学】（津曲篤子）〉／5. その他の事業報告〈詩作講座／文学散歩／アートパフォーマンス事業／出版物〉／6. 資料概況及び運営管理〈資料概況（資料収集状況）／運営管理（文学館日誌抄／組織および職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／利用状況）〉

2-3. 『いわき市草野心平記念館年報第3号 【平成12年度】』 2002年1月25日 編集・発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／施設の概要〉／2. 常設展示〈展示の構成／展示資料目録／文学プラザ〉／3. 企画展事業報告〈(1)【第2回所蔵品展「草野心平年次詩集」】[展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(2)【野口雨情展】[野口雨情について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(3)【三野混沌展】[三野混沌について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]〉／4. 企画展関連事業報告〈(1)講演【年次詩集の刊行をめぐって】(晒名昇)／(2)講演【詩と現代】(辻井喬)／(3)講演【天平をめぐって】(栗津則雄)〉／5. その他の事業報告〈詩作講座／文学散歩／アートパフォーミング事業／出版物〉／6. 資料概況及び運営管理〈資料概況(資料収集状況)／運営管理(文学館日誌抄／組織及び職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／利用状況)〉

2-4. 『いわき市草野心平記念館年報第4号 平成13年度』 2002年5月31日 編集・発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／施設の概要〉／2. 常設展示〈展示の構成／展示資料目録／文学プラザ〉／3. 企画展事業報告〈(1)【第3回所蔵品展「草野心平の画」】[展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(2)【中原中也展】[中原中也について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(3)【三猿文庫展】[三猿文庫について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(4)【作家の年賀状展】[展示資料一覧]／(5)【没後50年記念 草野天平と松禅院】[展示資料一覧／関連行事]／(6)【新収蔵品展】[展示資料一覧／関連行事]〉／4. 企画展関連事業報告〈(1)講演【草野心平の画】(栗津則雄)／(2)講演【詩人と書物】(清水徹)〉／5. その他の事業報告〈詩作講座／館長講座／文学散歩／アートパフォーミング事業／実技教室／出版物／資料整理〉／6. 資料概況及び運営管理〈資料概況(資料収集状況)／運営管理(文学館日誌抄／組織及び職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／利用状況)〉

2-5. 『いわき市草野心平記念館年報第5号 平成14年度』 2003年12月10日 編集・発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／施設の概要〉／2. 常設展示〈展示の構成／展示資料目録／文学プラザ〉／3. 企画展事業報告〈(1)【第4回所蔵品展「草野心平への手紙」】[展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(2)【武井武雄展】[武井武雄について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(3)【詩風土の開花展】[いわきの詩風土について／展示内容／展示資料一覧／関連行事]／(4)【火の車展】[「火の車」と草野心平について／展示資料一覧／関連行事]／(5)【銅鑼展】[「銅鑼」と草野心平について／展示資料一覧]／(6)【新収蔵品展】[展示内容／展示資料一覧]

／関連行事〕／4. その他の事業報告〈詩作講座／文学散歩／アートパフォーマンス事業／出版物／資料整理〉／5. 資料概況及び運営管理〈資料概況（資料収集状況）／運営管理（文学館日誌抄／組織及び職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／利用状況）〉

2-6. 『いわき市草野心平記念館年報第6号 平成15年度』 2004年12月10日 編集：発行：いわき市立草野心平記念文学館

収録：1. 施設の概要〈設置の目的／沿革／文学館の概要／生家の概要〉／2. 文学館常設展示〈展示の構成／展示資料目録〉／3. 文学館 文学プラザ／4. 草野心平生誕100年記念事業報告〈(1) 草野心平16回忌 心平を語る会／(2) 【草野心平とふるさと展】〔展示内容／展示資料一覧／関連行事〕／(3) 【高村光太郎・智恵子展】〔高村光太郎・智恵子と草野心平／展示内容／展示資料一覧／関連行事〕／(4) 【「歷程」創刊同人展】〔「歷程」創刊と9人の創刊同人／展示内容／展示資料一覧／関連行事〕／草野心平生家オープニングセレモニー／「心平詩といわき」写真展／心平ゆかりの地探訪ウォーキング／心平生誕朗読会／谷川俊太郎講演会／第6回詩の発表会／フラメンコの詩／詩の噴火祭／第26回吉野せい賞記念講演会／朗読祭〉／5. その他の事業報告〈詩作講座／アートパフォーマンス事業／出版物／資料整理〉／6. 資料概況及び運営管理〈資料概況（資料収集状況）／運営管理（文学館日誌抄／組織及び職員／いわき市立草野心平記念文学館条例・施行規則／文学館利用状況／生家利用状況）〉

【16】郡山市こおりやま文学の森資料館

図録（常設展）

1. 『こおりやま文学の森資料館常設展示図録』 2001年3月20日 発行：こおりやま文学の森資料館

収録：あいさつ／目次・凡例／郡山文学資料館〈郡山近代・現代文学年譜／石井研堂／高山樗牛／鈴木善太郎／諏訪三郎／中山義秀／真船豊／東野辺薫／宮本百合子／久米正雄／文学の背景／マルチメディア〉／郡山市久米正雄記念館〈久米正雄記念館／久米邸見取図（一階）／久米邸見取図（二階）／久米邸面白雑学／久米正雄が愛用した品々／久米正雄 花の交友録〉／施設案内／施設内風景／久米正雄句碑／協力者一覧／利用ガイド

図録（企画展）

1. 『企画展「久米正雄と鎌倉文士たち」展示図録』 2000年7月1日 発行：こおりやま文学の森資料館

- 収録：ごあいさつ／展示品紹介／久米正雄〈久米正雄略歴／久米正雄の文学／代表的著作・映画化された久米文学／鎌倉での活躍〉／鎌倉文士とは／川端康成／里見弴／大佛次郎／小林秀雄／高見順／永井龍男／中山義秀／鎌倉文庫／協力者
2. 『企画展「久米三汀の世界」—俳人久米正雄と親交を深めた人々—』 2000年10月14日 発行：郡山市こおりやま文学の森資料館
収録：あいさつ（塩谷郁夫）／目次・凡例／I 三汀誕生〈三汀以前／俳人三汀の誕生／久米正雄「船垢も風乾きして柳散る」／群峰吟社〉／II 新傾向俳句の麒麟児〈郡山を訪れた俳人達／新傾向の胎動／上京と出会い／一題百句／久米正雄「魚城移るにや寒月の波のさざら」／牧唄〉／III 文人俳句〈師と友／華やかしき時／暗き時代の中で／返り花／久米正雄「兄よりも禿げて春日に脱ぐ帽子」／戦終わりにて／春の雪／久米正雄「ハルノユキ ヒトゴトナラズ キエニケリ」／久米正雄 碑一覧〉／「三汀と群峰吟社」（塩谷郁夫）／出品資料一覧／参考・引用文献／協力者一覧／奥付
3. 『企画展「宮本百合子と郡山」展示パンフレット』 2001年7月14日 発行：こおりやま文学の森資料館
収録：ごあいさつ／展示品紹介／安積開拓と中條政恒／百合子誕生／百合子の文学／宮本百合子略年譜／展示資料リスト／協力者一覧
4. 『企画展「郡山の劇作家たち」』 2001年10月20日 発行：こおりやま文学の森資料館
収録：ごあいさつ（塩谷郁夫）／目次／凡例／翻訳劇の貢献者（鈴木善太郎）／先駆けの才人（久米正雄）／孤高の劇作家（真船豊）／出品資料一覧／協力者一覧
5. 『没後50年記念「久米正雄展」』 2002年7月13日 発行：こおりやま文学の森資料館
収録：ごあいさつ／目次・凡例／学生徒歩旅行「盛岡より東京まで」について／俳人としての久米／劇作家としての久米／小説家としての久米〈新思潮時代／第四次「新思潮」の同人たち／通俗小説時代〉／児童文学者としての久米／翻訳家・作詞家としての久米／報道記者としての久米／リーダーとしての久米／社交家としての久米／趣味人としての久米／久米正雄略年譜／展示リスト／協力者一覧
6. 『企画展「映像に残された文士たち」』 2002年10月19日 発行：こおりやま文学の森資料館
収録：ごあいさつ（中野英二）／円本時代と「現代日本文学巡礼」フィルム／徳富蘇峰／広津柳浪／広津和郎／岡本綺堂／上司小剣／久米正雄／芥川龍之介／佐藤春夫／藤森成吉／小山内薫／武者小路実篤／菊池寛／徳田秋声／近松秋江／墓参〈尾崎紅葉／有島武郎／国木田独步／夏目漱石／島村抱月〉／出品資料一覧／協力者一覧
7. 『企画展「挿絵と装幀の世界 竹久夢二」』 2003年7月26日 発行：こおりやま文学の森資料館

収録：ごあいさつ（中野英二）／【第一会場（文学資料館）】〈コマ絵—方寸の中の志／雑誌に寄せた詩画／本に描き刻まれた詩／文士達との交わり／楽曲と歌謡の中の詩／画に込めた詩と賛に書かれた想い／日記と最後の詩〉／【第二会場（久米正雄記念館）】〈福島県と竹久夢二と郡山／竹久夢二と久米正雄／主な出品資料／引用文献一覧／協力者／参考文献〉

8. 『企画展 良斎と研堂 展示パンフレット』 2003年10月18日 発行：こおりやま文学の森資料館

収録：目次・凡例／ごあいさつ／良斎の生涯／良斎の著作／良斎の門人たち／安積良斎略年譜／御代田豊と研堂／研堂と故郷／少年雑誌／漂流記／理科読み物／明治事物起源／飽くなき探求心／研堂の良斎研究／石井研堂略年譜／展示リスト／協力者

9. 『企画展 児童文学の世界 展示パンフレット』 2004年7月17日 発行：こおりやま文学の森資料館

収録：目次・凡例／ごあいさつ／児童文学のあけぼの〈高橋太華／石井研堂／原抱一庵／高山樗牛〉／児童文学雑誌の隆盛〈「赤い鳥」／「金の船」「金の星」／「おとぎの世界へ」〉／大衆的児童文学へ〈「少年倶楽部」／昭和期の作家たち〉／現代の児童文学／寄稿「児童文学同人誌活動の動向」（最上二郎）／展示リスト／協力者一覧

10. 『企画展「子規・碧梧桐と郡山の俳人達」』 2004年10月9日 発行：こおりやま文学の森資料館

収録：ごあいさつ（中野英二）／目次 凡例／子規来郡「はて知らずの記」／郡峰吟社結成（第一次群峰）／碧梧桐行脚「三千里」／群峰吟社再び（第二次群峰）／主な出品資料／協力者一覧

受賞作品集

1. 『三汀賞入選句集』

1-1. 『こおりやま文学の森資料館 第二回三汀賞入選句集』 2001年12月 発行：こおりやま文学の森資料館

1-2. 『こおりやま文学の森資料館 第三回三汀賞入選句集』 2002年12月 発行：こおりやま文学の森資料館

1-3. 『こおりやま文学の森資料館 第四回三汀賞入選句集』 2003年12月 発行：こおりやま文学の森資料館

1-4. 『こおりやま文学の森資料館 第五回三汀賞入選句集』 2005年1月 発行：こおりやま文学の森資料館

館報

1. 『こおりやま文学の森通信』

1-1. 『こおりやま文学の森通信』	創刊号	2000年9月30日	目次無し
1-2. 『こおりやま文学の森通信』	第2号	2001年3月10日	目次無し
1-3. 『こおりやま文学の森通信』	第3号	2001年6月15日	目次無し
1-4. 『こおりやま文学の森通信』	第4号	2001年9月10日	目次無し
1-5. 『こおりやま文学の森通信』	第5号	2002年3月28日	目次無し
1-6. 『こおりやま文学の森通信』	第6号	2002年6月20日	目次無し
1-7. 『こおりやま文学の森通信』	第7号	2002年9月20日	目次無し
1-8. 『こおりやま文学の森通信』	第8号	2003年3月14日	目次無し
1-9. 『こおりやま文学の森通信』	第9号	2003年6月20日	目次無し
1-10. 『こおりやま文学の森通信』	第10号	2003年9月20日	目次無し
1-11. 『こおりやま文学の森通信』	第11号	2004年3月24日	目次無し
1-12. 『こおりやま文学の森通信』	第12号	2004年6月22日	目次無し
1-13. 『こおりやま文学の森通信』	第13号	2004年9月22日	目次無し
1-14. 『こおりやま文学の森通信』	第14号	2005年3月1日	目次無し

【17】古河文学館

図録

1. 『和田芳恵展』 1999年10月23日 編集・発行：古河文学館
 収録：はじめに——監修のことば（保昌正夫）／Ⅰ 『暗い流れ』から『自伝抄』へ〈和田芳恵君と私の一生（小島政二郎）／エロスの対談（瀬戸内寂聴）／馬小屋の闇（丸谷才一）〉／Ⅱ 編集者・和田芳恵〈編集者時代（川口松太郎）／編集者としての和田芳恵（吉田時善）／和田さんの苦勞（大村彦次郎）／「日本小説」のころ（和田静子）〉／Ⅲ 作家・和田芳恵〈和田さんへの親近感（佐多稲子）／和田芳恵氏の本領（吉行淳之介）／和田さんを偲ぶ（阿部昭）／和田さんの色（中上健次）／小説の色と香り（田久保英夫）／和田芳恵さんのこと（水上勉）／和佐芳恵追想（島村利正）／作中人物の影（八木義徳）／和田芳恵の文学（野口富士男）／和田さんのこと（山本健吉）〉／Ⅳ 一葉研究者・和田芳恵〈「一葉日記」解説（竹西寛子）／うかがいたかったこと（前田愛）〉／弔辞 昭和五十二年十月十一日（山本健吉／井上靖／松本清張／高塚千秀／野口富士男）／葬儀委員長挨拶（丹羽文雄）／父の思い出（吉岡陽子）／和田芳恵氏と古河（永井路子）／和田芳恵「わたしの一冊」（佐伯彰一氏他三十二氏）／Ⅴ 資料〔年譜（保昌正夫）／主な展示資料・協力者一覧〕
2. 『近代説話展一文壇に新風を起こした文藝雑誌一』 2000年10月21日 編集・発行：古河文学館

収録：はじめに——監修のことば（清原康正）／Ⅰ 文芸雑誌『近代説話』（発刊のころ（寺内大吉）／三たび「近代説話」について（司馬遼太郎）／近代説話とぼく（清水正二郎）／『近代説話』のころ（尾崎秀樹）／大衆文学・同人誌めぐり（斎藤芳樹）／斎藤芳樹さん追悼（伊藤桂一）／かれらの顔（黒岩重吾）／逃れる（辻井喬）／『近代説話』同窓会（永井路子）／近代説話について（大村彦次郎）／鼎談『近代説話』の頃（伊藤桂一／尾崎秀樹／永井路子））／Ⅱ 『近代説話』の主な同人達（寺内大吉〔同世代の作家たち—寺内大吉—（尾崎秀樹）／寺内大吉さんのこと（伊藤桂一）〕／司馬遼太郎〔あの頃のこと（黒岩重吾）／近代説話の頃（辻井喬）〕／清水正二郎（胡桃沢耕史）〔追悼・胡桃沢耕史—「近代説話」のころ（伊藤桂一）／胡桃沢耕史とモデルたち（永井路子）〕／尾崎秀樹〔「真」を追求した評論家（黒岩重吾）／原点を中心とする複層（清原康正）〕／伊藤桂一〔伊藤桂一—もう一つの戦後文学（勝又浩）／対談 ノモンハン—兵卒と将校・下士官（司馬遼太郎／伊藤桂一）〕／黒岩重吾〔頑強な文骨（寺内大吉）／現代から古代を見通す目（清原康正）〕／永井路子〔私の内なる作家たち—永井路子—（和田芳恵）／永井路子——「炎環」他（尾崎秀樹）〕／辻井喬〔辻井喬のこと（平林敏彦）〕）／Ⅲ 資料（『近代説話』総目次／編集後記より／主な展示資料／『近代説話』執筆者一覧・協力者一覧

3. 『子どもの本の世界展 20世紀から21世紀への贈り物』 2001年4月7日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：財団法人神奈川文学振興会／古河文学館

収録：開催にあたって／楽しみな21正規（佐藤さとる）／子供だった時も母であった時も……（佐野洋子）／秘密の切符（江國香織）／世紀とジャンルを越えて（山下洋輔）／第Ⅰ部 「子どもの本の世界」へ扉をひらく 20世紀前半（上笙一郎）〈カラー図版／夢と幻想の童話（上笙一郎）／子どもの日常と童話（上笙一郎）／雑誌の世界 子どもの夢と日常（上笙一郎）／童謡・詩Ⅰ 童心をうたう（三木卓）〉／第Ⅱ部 「子どもの本の世界」を求めて 20世紀後半（佐藤宗子）〈カラー図版／子どもの日常の物語（佐藤宗子）／もう一つの世界の物語（佐藤宗子）／絵本という王国（司修）／童謡・詩Ⅱ ことばと音の遊び（三木卓）〉／主な出品資料／出品・協力者／作品年表

4. 『小林久三展—社会派推理作家の軌跡—』 2002年10月19日 編集・発行：古河文学館

収録：はじめに——監修のことば（権田萬治）／夢の残骸（小林久三）／青雲の同志（特別寄稿）（森村誠一）／Ⅰ 遅れてきた映画青年（おれは田舎のヒッチコック（小林久三）／知性のあるプロフェッショナル（高沢雅夫）／映画人と作家の分岐点（中正之））／Ⅱ 推理作家へ ～乱歩賞受賞～（社会派推理作家としての原点（権田萬治）／映画マンらしい映像小説（藤井謙一郎）／第20回江戸川乱歩賞選評（佐野洋／多岐川恭／角田喜久雄／中島河太郎／松本清張）／受賞の言葉（小林久三））／Ⅲ 社会派推理作家の軌跡（誠司サスペンス小説の秀作（権田萬治）／社会派ミステリーの「鬼才」（郷

原宏) / 「零の戒厳令」は二度読める(市山辰巳) / IV むくろ草紙の世界 ~描かれた古河~ (問題性豊かな歴史推理の力作(権田萬治) / 原風景の中の古河(小林久三) / 活字の狩人(高橋昭) / V 資料・年譜(主な作品・脚本 / 小林久三略年譜 / 主な展示資料 / 協力者)

5. 『子供の王国 絵本黄金時代展 コドモノクニに集まった画家たち』 2003年3月15日 編集: 多摩美術大学美術館 / アートプランニングレイ 発行: アートプランニングレイ 主催: 古河市 / 古河教育委員会 / 多摩美術大学美術館 / 盛岡市 / 盛岡市教育委員会 協力: 多摩美術大学美術館 / 古河歴史博物館 / 古河文学館 / 鷹見本雄

収録: 童画は子供の天国だ(仙仁司) / 出版・編集サイドから見た『コドモノクニ』(鷹見本雄) / お母様方へ / 童画の世界の子どもと大人(中村悦子) / 『コドモノクニ』の執筆者たち / 『コドモノクニ』表紙いろいろ / 武井武雄 / 深沢省三 / 初山滋 / 岡本帰一 / 川上四郎 / 村山知義 / 清水良雄 / 絵雑誌に活躍した作家たち / 『コドモノクニ』と私(森本哲朗) / 『コドモノクニ』——最初の読書体験(中村稔) / 時代背景——関東大震災 第二次世界大戦 / いつかきた道(初山斗作) / 年譜 / 作家解説 / 出品リスト

6. 『永井路子展』 2003年10月17日 編集・発行: 古河文学館

収録: ためらいつつも、いま…… / (インタビュー) 編集者時代(永井路子 / 大村彦次郎) / 第一部 文壇に新風をもたらす歴史小説(解説(縄田一夫) / 永井路子さんと鎌倉(石井進) / 道長像の「まこと」(山中裕) / (対談) 鎌倉武士と一所懸命(司馬遼太郎 / 永井路子)) / 第二部 豊穡な史伝文学の世界(解説(磯貝勝太郎) / 名作の舞台 奈良西の京 唐招提寺(石井則孝) / 過去を見る眼(川村二郎) / 「雲と風と」解説(赤松大庵)) / 第三部 異議あり通説(解説(清原康正) / 永井路子さんと女性史研究(田端康子) / 女性史の通説くつがえす(尾崎秀樹)) / 第四部 私の中の永井路子(「四人会」と「近代説話」(伊藤桂一) / 動乱期の武士像(中村稔) / ネジー本(杉本苑子) / 永井路子さんのこと(小林久三)) / 第五部 資料編(サンデー毎日懸賞小説・直木賞・女流文学賞・吉川英治文学賞 選評 / 作品目録 / 略年譜 / 永井路子アルバム / 主な展示資料・協力者)

7. 『武井武雄「刊本作品」の世界』 2004年10月22日 編集・発行: 古河文学館

収録: 武井先生との歳月(永井路子) / 刊本作品展の開催にあたって(武井三春) / 刊本作品 / 刊本作品専用本箱 / 刊本作品詩文抄 / 刊本作品友の会関係資料 / 武井武雄略年譜 / 刊本作品・専用本箱一覧 / 展示協力・凡例

【18】 田山花袋記念文学館

図録

1. 『田山花袋記念館』 1987年3月(1998年3月 第2刷) 発行：館林市教育委員会文化振興課
収録：カラー図版／展示解説〈ふるさと／文学者花袋／ありし日の花袋〉／田山花袋略年譜／協力者 他
2. 『田山花袋記念館開館記念特別展 島崎藤村と花袋 ―自然主義文学の双璧―』 1987年7月18日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／島崎藤村 ―そのおいたち―／藤村◆花袋 ―その交友―／島崎藤村◆田山花袋関連年譜／展示資料目録／
3. 『田山花袋記念館特別展 ふるさとにいきる花袋 ―伝えられた品々―』 1987年11月1日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／ふるさとと花袋／ふるさとの友人／ふるさとを描く／ふるさとの中に―伝えられた品々―／展示資料目録／協力者
4. 『田山花袋記念館特別展 ―花袋と友人作家― 国木田独歩展』 1988年7月10日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／国木田独歩／国木田独歩 ―おいたちと青春―／独歩と花袋 ―文学とともに―／独歩の文学 ―自然観と運命観―／永遠に ―独歩をとりまく人々―／国木田独歩◆田山花袋関連年譜／展示資料目録／協力者・協力機関
5. 『田山花袋記念館特別展 ―作品と背景― 「田舎教師」とその時代』 1989年3月19日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／作品「田舎教師」／「田舎教師」とその舞台／小林三季^{さんき}／羽生と青縞／「田舎教師」とモデルたち／小林秀三^{ひでぞう}／建福寺と太田王^{ぎょくめい} 茗^{みろく}／弥勒^{みろく}高等小学校／明治時代の小学校／主人公の死／日露戦争と日本／花袋と「田舎教師」／展示資料目録／協力者・協力機関
6. 『田山花袋記念館特別展 ―花袋とその弟子― 白石実三展』 1989年11月3日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／白石実三 そのおいたち／花袋との出会い／文壇とのかかわり／弟子から見た花袋／白石実三略年譜／展示資料目録／協力者
7. 『田山花袋記念館特別展 ―作品と背景― 代表作『蒲団』とその周辺』 1990年3月25日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／『蒲団』とモデルたち／『蒲団』と時代背景／自然主義文学と『蒲団』／展示資料目録／協力者・協力機関
8. 『田山花袋記念館特別展 ―北信濃の村― 作品『重右衛門の最後』とその舞台』 1990年7月22日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し
収録：はじめに／作品の背景／モデル重右衛門／花袋と洋書／赤塩と花袋／『重右衛門

の最後』と自然主義文学／『重右衛門の最後』に関するおもな評論／展示資料目録／協力者・協力機関

9. 『田山花袋記念館 新収蔵資料展』 1991年4月28日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／ふるさと館林と花袋／棚倉の和歌／西洋文学と花袋／展示資料目録／資料提供者

10. 『田山花袋記念館第8回特別展 —もう一人の『蒲団』のモデル— 永代静雄展』 1991年11月3日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／代表作『蒲団』／『蒲団』のモデルとして／『蒲団』以後の静雄と美知代／新聞記者 永代静雄／伝書鳩とともに／晩年の永代静雄／永代静雄の思い出〈父を語る（永代＝一）／伯父 永代静雄の思い出（永代喜久子）／母から聞いた話（永代喜久子）〉／永代静雄略年譜／永代静雄典資料一覧／協力者・協力機関

11. 『田山花袋記念館5周年記念特別展 柳田國男と田山花袋 —不撓の絆—』 1992年10月24日 発行：館林市教育委員会文化振興課／田山花袋記念館 目次無し

収録：はじめに／柳田國男／和歌との出会い／紅葉会の仲間たち／詩と恋／『抒情詩』の背景／「うた」の別れ／西欧文学と自然主義／『遠野物語』の誕生／二人の旅／花袋の死／柳田民俗学の確立／晩年の花袋先生（柳田為正）／柳田國男と田山花袋 —空白の蜜月を埋める書簡—（後藤総一郎）／柳田國男と田山花袋 —「小民」思想を中心に—（小林一郎）／柳田國男・田山花袋関連年譜／「柳田國男と田山花袋」展示資料目録

12. 『田山花袋記念館第10回特別展 山荘にひろりみて —富士見高原の花袋—』 1993年10月14日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／富士見高原の花袋／柳田國男の来訪／富士見高原滞在中の花袋／富士見の青年たちとの交流／高遠への旅／絵島／父花袋の思い出—瑞穂氏の作品から／展示資料一覧／協力者・協力機関

13. 『田山花袋記念館第11回特別展 徳田秋声と田山花袋 —自然主義文学の軌跡—』 1994年10月15日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／十千万堂塾時代—花袋との出会い—／生まれたる自然派／生誕50年祝賀会／花袋の死／自然主義の建て直し／徳田秋声・田山花袋関連年譜／展示資料一覧／協力者・協力機関

14. 『田山花袋記念館第12回特別展 —挿絵画家— 宮川春汀』 1995年10月28日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／おいたちから上京まで／錦絵画家・宮川春汀の誕生／文人たちとの交流 —花袋との出会い—／渥美半島を舞台にした花袋の作品／挿絵画家としての活躍／愛娘の死／宮川春汀・田山花袋関連年譜／展示資料目録／協力者・協力機関

15. 『田山花袋記念館第13回特別展 前田晁と花袋 —「文章世界」が結んだ絆—』 1996

年 10 月 5 日 編集：館林市教育委員会文化振興課 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念館）

収録：はじめに／前田晁略歴／口絵／館林を訪れた晁／上京／花袋との出会い——「文章世界」の創刊——／晁の作品・著書／作家たちとの交流／『陥穽』の翻訳／花袋との交流／花袋の死／晩年の晁／前田晁・田山花袋関連年譜／前田晁・田山花袋比較年譜／前田晁「田山さんの事」／田山花袋「ゴンクウルの『陥穽』」／展示資料一覧／協力者・協力機関

16.『開館 10 周年記念特別展 自然主義作家展 —花袋・藤村・秋声・泡鳴・白鳥—』 1997 年 10 月 25 日 発行：館林市教育委員会文化振興課

収録：はじめに／口絵／田谷花袋〈外国文学と自然主義／龍土会〉／島崎藤村〈自然主義を支えた評論家たち／モデル問題〉／徳田秋声／岩野泡鳴／正宗白鳥／自然主義作家関連年譜／展示資料一覧／協力者・協力機関／参考文献

17.『第十五回特別展 池田永治の世界 —花袋著書の装幀を軸に一』 1998 年 10 月 17 日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／池田永治の世界 —花袋との出会いとその業績（丸山幸子）／花袋著書の装幀／花袋との交流／洋画／漫画／俳画／池田永治年譜／池田永治作品一覧／展示資料一覧／協力者・協力機関

18.『第 16 回田山花袋記念館特別展 小杉放菴と近代文学 —独歩・花袋との親交—』 1999 年 10 月 16 日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：はじめに／小杉放菴（未醒） 1881～1964／国木田独歩 1871～1908／田山花袋 1871～1930／独歩・花袋との出会い —文壇との接点／花袋と未醒の旅 —それぞれの芸術／独歩氏の一面（抄）（小杉未醒）／花袋老今昔（小杉放菴）／湊の杉田氏の別荘（田山花袋）／耶馬溪紀行（抄）（田山花袋）／小杉放菴略年譜／展示資料／その他の参考文献／協力者・協力機関

19.『田山花袋没後七十年記念特別展 「時は過ぎゆく」をめぐって —明治維新と田山家の五十年—』 2000 年 10 月 21 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念館）

収録：はじめに／「時は過ぎゆき」あらすじ／「時は過ぎゆき」に描かれた人々／田山家と館林藩／戊辰戦争と明治維新／廃藩と士族の没落／寒香園の開墾／岡谷繁実と実弥登／近代化の波／花袋にとっての「時は過ぎゆき」／「時は過ぎゆく」関連地図／花袋の「時は過ぎゆく」のこと（田山瑞穂）／「時は過ぎゆき」関連年譜／展示資料一覧／参考文献／協力者・協力機関

20.『第 16 回国民文化祭・ぐんま 2001 記念特別展 群馬の俳句 連歌（連句）・俳諧・俳句 —その軌道と心—』 2001 年 10 月 13 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館）

収録：はじめに／「連句」って何？／群馬最古の連歌（連句）／江戸時代の俳諧／館林の俳諧・俳句／荒井閑窓とその周辺／鎌田正憲と「館林連句」／松本夜詩夫「館林俳壇の三俳人追悼」／前山巨峰と「ぬかるみ」／群馬ゆかりの俳人たち／原ザイン館林の俳句・連句／館林の句碑マップ／「群馬の俳句」関連年表／《付録》連句の巻き方／松本夜詩夫「東毛連句資料」より／展示資料一覧／参考文献・協力者・協力機関

21. 『開館 15 周年記念企画展 花袋と柳田國男 ―國男の手紙と花袋の作品―』 2002 年 4 月 20 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館） 目次無し
収録：はじめに／二人の出会いと和歌／恋の詩人／國男をモデルにした花袋の作品／晩年の交友／柳田國男をモデルにした小説／柳田國男・田山花袋関連年譜／展示資料リスト／協力者・協力機関

22. 『開館 15 周年記念特別展 花袋とふるさと』 2002 年 10 月 26 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館） 目次無し
収録：はじめに／幼き頃のスケッチ ―少年時代に見た風景―／ふるさとの友と／昔の家を見に ―変わりゆくふるさと―／河そひの春 ―花袋の赤岩滞在一―／新しい芽 ―琴寿との出会い―／ふるさとに伝わる品々／「花袋とふるさと」関連年譜／「花袋とふるさと」文学散歩地図／館林を舞台にした小説・童話／展示資料一覧／協力者・協力機関

23. 『特別展 花袋と与謝野晶子 ―その恋愛観―』 2003 年 11 月 15 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館） 目次無し
収録：はじめに／明治時代の女性たち／晶子の恋愛観／与謝野晶子略年譜／花袋の恋愛観／近代化と女性の自立／文学そして異性観／明治時代以降の女性をめぐる社会の動き／展示資料一覧／参考文献／協力者・協力機関

24. 『田山花袋記念文学館特別展 花袋著書の装幀と挿絵 ―程原コレクションを軸に一』 2004 年 10 月 15 日 発行：館林市教育委員会文化振興課（田山花袋記念文学館） 目次無し
収録：はじめに／程原コレクションの概要／花袋著書の装幀と挿絵／近代挿絵の歩みと花袋著書／花袋と交流のあった画家たち／花袋著書の装幀の変遷／装幀と挿絵の役割／展示資料リスト／協力者・協力機関／参考文献／凡例

目録

1. 『田山花袋記念館 収蔵資料目録 I』 1989 年 3 月 31 日 編集・発行：田山花袋記念館

収録：凡例／田山家受入資料の概要／田山家受入資料 [T] 〈1. 書簡類 [T11 書簡 {(1) 花袋宛書簡／(2) 花袋差出書簡／(3) 田山家関係書簡／(4) その他} / T12 名刺 / T13 その他] / 2. 作品類 [T21 書 {(1) 和歌 / (2) 漢詩 / (3) その他} / T22 原稿

{(1) 小説類／(2) 和歌／(3) 漢詩}／T23 発表資料 {(1) 著書切抜／(2) 新聞切抜}／T24 その他}／3. 書籍 [T31 洋書／T32 雑誌／T33 花袋著書／T34 その他]／4. 記録資料 [T41 花袋関係記録 {(1) 日記・手帳類／(2) 卒業証書類／(3) 契約証書類／(4) その他}／T42 田山家記録／T43 地図／T44 その他]／5. 遺品 [T51 使用品／T52 その他]／6. 写真 [T61 写真／T62 その他]／一般受入資料 [D] 〈D11 書簡／D12 作品類 [(1) 書 (和歌)／(2) 書 (漢詩)／(3) 原稿 (小説他)／(4) その他]／D13 書籍・出版物 [(1) 雑誌／(2) 花袋著書／(3) その他]／D14 記録資料／D15 遺品類／D16 写真／D17 その他〉／おわりに

2. 『田山花袋記念館 収蔵資料目録 II』 1998年3月31日 編集・発行：田山花袋記念館

収録：凡例／田山家受入資料 [T] 〈1. 書簡類 [T11 書簡 {(1) 花袋宛書簡／(2) 花袋差出書簡／(3) 田山家関係書簡／(4) その他}／T12 名刺]／2. 作品類 [T21 書 {(1) 和歌／(2) 漢詩／(3) その他}／T22 原稿 {(1) 小説類／(2) 和歌／(3) 漢詩}／T23 発表資料 {(1) 著書切抜／(2) 新聞切抜}／T24 その他 {(1) 書画・美術資料／(2) 田山家関係者作品／(3) その他}]／3. 書籍・出版物 [T31 洋書／T32 雑誌 {(1) 花袋生前 (花袋蔵書)／(2) 花袋没後 (田山家蔵書)／(3) 研究紀要 (田山家蔵書)}／T33 花袋著書 {(1) 花袋生前の単行本／(2) 花袋没後の単行本／(3) 花袋生前の合著／(4) 花袋没後の合著／(5) 花袋全集／(6) 教科書／(7) その他}／T34 花袋蔵書 (花袋生前) {(1) 単行本・個人全集／(2) 叢書・体系類}／T35 田山家蔵書 {(1) 単行本・個人全集／(2) 叢書・体系類}／T36 その他の出版物]／4. 記録資料 [T41 花袋関係記録 {(1) 日記・手帳類／(3) 契約証書類／(4) その他}／T42 田山家関係記録／T43 地図／T44 その他]／5. 遺品 [T51 花袋使用品／T52 その他]／6. 写真 [T61 写真／T62 その他]／一般受入資料 [D] 〈D11 書簡 {(2) 花袋差出／(4) その他}／D12 作品類 [(1) 書 (和歌類)／(2) 書 (漢詩類)／(3) 原稿 (小説他)／(4) その他 (他作家作品)／(5) 発表資料]／D13 書籍・出版物 [(1) 雑誌／(2) 花袋著書 {①花袋著書 (生前の単行本)／②花袋著書 (没後の単行本)／③花袋著書 (生前の合著)／④花袋著書 (没後の合著)／⑤花袋著書 (全集)／⑥花袋著書 (教科書)}]／(3) その他 {①他作家著書 (単行本・個人全集)／②他作家著書 (叢書・体系類)／③その他の出版物}]／D14 記録資料／D15 遺品類 [(1) 花袋・田山家遺品／(2) その他]／D16 写真／D17 その他／D18 コレクション資料 [(1) 岩永コレクション]〉／おわりに

紀要

1. 『田山花袋記念館研究紀要』

1-1. 『田山花袋記念館研究紀要』 創刊号 1989年3月

収録：花袋と短歌 —「浦の塩貝」輪講の問題点— (小林一郎)／花袋と短歌 —紅

葉会結成の時期とその同人—(丸山幸子)／藤村の花袋宛未発表書簡(宇田川昭子)
／田山花袋の学歴—その正式な記述について—(長谷川吉弘)／田山花袋の生年月
日—表記方法をめぐる諸問題—(田山花袋記念館)

1-2. 『田山花袋記念館研究紀要』 第2号 1990年3月

収録：花袋と短歌—「浦の塩貝」輪講の問題点(二)—(小林一郎)／田山花袋の
昭和期評論(沢豊彦)／花袋と短歌—師松浦辰男について—(丸山幸子)／「田山
家受入資料」の再整理(一)(宮内俊介)／田山花袋の妻宛書簡(一)—明治三十
六年～三十七年—(宇田川昭子)／花袋「不惑」時代の羽生行と作品—明治四十四
年～大正六年の日記から—(長谷川吉弘)

1-3. 『田山花袋記念館研究紀要』 第3号 1991年3月

収録：花袋と短歌(三)—「浦の塩貝輪講」(第三回)の問題点—(小林一郎)／「速
成学館」時代の花袋の一側面—武井米蔵「京遊日記」を中心として(小林一郎)／
〔附記〕武井米蔵「京遊日記」について(田山花袋記念館)／花袋と短歌—松浦辰男
の歌論(一)—「詠歌十訓」の成立について—(丸山幸子)／《資料翻刻》「短編故
家井」(T22(1)1)(宮内俊介)／田山花袋の妻宛書簡(二)—明治三十八年～大
正二年—(宇田川昭子)／館林の少年詩人田山汲古とその周辺覚え書き—「城沼四
時雑詠」(稿本)を中心として—(平沢禎二)／北信から新潟への旅の目的と意味—
日記と作品を視座に—(長谷川吉弘)

1-4. 『田山花袋記念館研究紀要』 第4号 1992年3月

収録：花袋と短歌(四)—「浦の塩貝輪講」(第四回)の問題点—(小林一郎)／花
袋と短歌—松浦辰男の歌論(二)—「歌話」(寒香園叢書所収)を中心—to—(丸山幸
子)／田山家受入資料の再整理(二)(宮内俊介)／《資料翻刻》「千山万水」(T22(1)
5)(宮内俊介)／田山花袋の妻宛書簡(三)—大正二年～十一年—(宇田川昭子)
／主人公の変容—『野の花』とその周辺—(小島規子)／日光医王院滞在中の花袋 1
—大正二年五月～十月の動静—(長谷川吉弘)／故岩永胖氏旧蔵田山花袋関係資料に
ついて(田山花袋記念館)

1-5. 『田山花袋記念館研究紀要』 第5号 1993年3月

収録：花袋と短歌(五)—「浦の塩貝輪講」(第五回)の問題点—(小林一郎)／発
禁本『燈影』校異(沢豊彦)／花袋と短歌—松浦辰男の歌論(三)—稿本「五番歌
結」について—(丸山幸子)／田山花袋の妻宛書簡(四)—大正十二年～昭和三年
—(宇田川昭子)／日光医王院滞在中の花袋 2—大正二年五月～十月の動静—(長
谷川吉弘)／柳田國男関係新収蔵資料について(田山花袋記念館)

1-6. 『田山花袋記念館研究紀要』 第6号 1994年3月

収録：『明治三十七年懷中日記』と『第二軍従征日記』とを巡って—花袋と鷗外の関
係を中心—to—(小林一郎)／花袋と短歌—有栖川宮家家人・松浦辰男—(丸山幸子)

- ／《資料翻刻》花袋宛・近松秋江書簡（宮内俊介）／田山花袋の家族宛書簡（一） — 明治二十六年～二十七年—（宇田川昭子）／富士見山荘滞在中の花袋 1 —大正五年六月～九月の動静—（長谷川吉弘）／田山花袋の名取烟浪宛書簡（田山花袋記念館）
- 1-7. 『田山花袋記念館研究紀要』 第7号 1995年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・和歌原稿—（丸山幸子）／《資料翻刻》「東北地方紀行文」（T22（1）34）（宮内俊介）／田山花袋の家族宛書簡（二） —明治二十八年～三十一年—（宇田川昭子）／『廃駅』論（小林敏一）／花袋年譜の修正 —挙式日・「婚姻届」の證人—（長谷川吉弘）／〔資料紹介〕田山花袋（汲古）著作「城沼四時雜詠」（一）（田山花袋記念館）
- 1-8. 『田山花袋記念館研究紀要』 第8号 1996年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・和歌集（T22（2）31）—（丸山幸子）／《資料翻刻》「秋の夕」（宮内俊介）／田山花袋の家族宛書簡（三） —明治三十七年～昭和三年—（宇田川昭子）／富士見山荘滞在中の花袋 2 —大正五年六月～九月の動静—（長谷川吉弘）／〔資料紹介〕田山汲古（花袋）著作漢詩集「城沼四時雜詠」（二）（田山花袋記念館）／田山花袋の姉について —夭折した二人の姉—（田山花袋記念館）
- 1-9. 『田山花袋記念館研究紀要』 第9号 1997年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・「知流紅葉上」—（丸山幸子）／《資料翻刻》「ひとつの鴉」（宮内俊介）／《資料翻刻》「くちはな」（宮内俊介）／田山花袋の書簡 —大町桂月、前田晁、白石実三宛—（宇田川昭子）／柳田国男宛ての田山花袋書簡（石井正己）／〔資料紹介〕田山花袋（汲古）著作「城沼四時雜詠」（三）（田山花袋記念館）
- 1-10. 『田山花袋記念館研究紀要』 第10号 1998年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・紅葉会詠草—（丸山幸子）／《資料翻刻》「云ひ得ぬ秘密」（宮内俊介）／田山花袋の書簡 —江見水蔭、伊原敏郎、坪谷善四郎、杉田恭介宛—（宇田川昭子）／花袋最晩年の島崎藤村宛書簡 —藤村記念館蔵「まくらもと二」—（田山花袋記念館）
- 1-11. 『田山花袋記念館研究紀要』 第11号 1999年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・「歌会記事」、「歌集其二」—（丸山幸子）／《資料翻刻》「猫の児同様」（宮内俊介）／田山花袋の書簡 —白竹サダ、横田地巴、松本清太郎、浅井かく宛—（宇田川昭子）／田山花袋と塩原・那須 —塩原を訪れた年月の推測と大正七年五月の那須・塩原の旅（長谷川吉弘）／〔資料紹介〕花袋の満鮮旅行中の漢詩について（田山花袋記念館）
- 1-12. 『田山花袋記念館研究紀要』 第12号 2000年3月
 収録：花袋と短歌 —翻刻・T22（2）33～39—（丸山幸子）／《資料翻刻》岡田美知代「女学生の恋物語」（宮内俊介）／田山花袋の書簡 —川上眉山、瀧田樗陰、新田静湾他宛—（宇田川昭子）／〔資料紹介〕飯田代子氏関係資料について —書簡資料

を中心として—（田山花袋記念館）

1-13. 『田山花袋記念館研究紀要』 第13号 2001年3月

収録：花袋と短歌 —明治二十六年夏、信州山水村赤塩にて—（丸山幸子）／田山花袋の書簡 —伊原敏郎、杉田恭助、有島生馬、太田玉茗宛—（宇田川昭子）／笑う花袋・怒る柳田 —近代日本のある神話的相克劇—（川島健二）／〔資料紹介〕花袋の小林力雄宛書簡（田山花袋記念館）

1-14. 『田山花袋記念館研究紀要』 第14号 2002年3月

収録：田山花袋の書簡 —前田晁宛—（宇田川昭子）／花袋と短歌 —武井米蔵著「京遊日記 全」・翻刻篇—（丸山幸子）／岡谷繁實と『時は過ぎゆく』（工藤三壽男）／『白い薔薇』復刻・注釈（長谷川吉弘）／「田山花袋記念館研究紀要」掲載論文一覧（田山花袋記念文学館）

1-15. 『田山花袋記念館研究紀要』 第15号 2002年3月

収録：《資料翻刻》田山花袋「新作 山かげ」（宮内俊介）

1-16. 『田山花袋記念館研究紀要』 第16号 2003年3月

収録：田山花袋の書簡 —薄田泣菫宛—（宇田川昭子）／田山花袋「山上の雷死」論のための序説 —近代化への懐疑と不遇への眼差し—（市川浩昭）／花袋と短歌（武井米蔵著「京遊日記」） —東京速成学館をめぐる諸問題—（丸山幸子）／田山花袋の新体詩（田山花袋記念文学館）

1-17. 『田山花袋記念館研究紀要』 第17号 2004年3月

収録：岡田美那の花袋宛書簡 —蒲団の行方—（宇田川昭子）／花袋と短歌（武井米蔵著「京遊日記」） —交友内容とその発展—（丸山幸子）／田山花袋の原稿料 「酒悲詩瘦録」（田山花袋記念文学館蔵、雑記帳）を資料として（一）単行本、共編・合著集、紀行文の稿料（高橋博美）／田山花袋と銚子 —「年譜」記載外の銚子旅行—（長谷川吉弘）／田山花袋「ネギー束」論のための序説（市川浩昭）／『歸國』及びその周辺をめぐる一考察（工藤三壽男）

1-18. 『田山花袋記念館研究紀要』 第18号 2005年3月

収録：田山花袋「ネギー束」とチェーホフ「ねむい」 —花袋のチェーホフ受容の一側面—（市川浩昭）／田山花袋の原稿料 「酒悲詩瘦録」（田山花袋記念文学館蔵、雑記帳）を資料として（二）新聞小説、翻訳小説、雑誌小説の稿料（高橋博美）／花袋と短歌 —交友内容とその発展—（丸山幸子）／真山孝治の花袋宛書簡（一）（宇田川昭子）／〔資料紹介〕太田玉茗の死と花袋の書簡（田山花袋記念文学館）

研究誌

1. 『文化財総合調査 館林市指定文化財 田山花袋旧居 —保存修理（茅葺屋根葺替え）調査報告書—』 2000年3月31日 発行：館林市教育委員会文化振興課

収録：第1章 田山花袋旧居〈第1節 田山花袋旧居の地理的・歴史的環境／第2節 田山花袋旧居の歴史的概観 [1. 田山家入居以前の屋敷地／2. 田山家時代／3. 田山家以後]／第3節 田山花袋旧居の文化財指定 [1. 文化財指定の経緯／2. 田山花袋旧居の移築の経緯と指定項目の変更]／第4節 田山花袋旧居の移築と旧居跡地の活用 [1. 田山花袋旧居移築保存工事／2. 田山花袋旧居後整備事業]／第5節 移築後の田山花袋旧居の構造と規模〉／第2章 田山花袋旧居保存修理調査報告（茅葺屋根葺替えの記録）〈第1節 田山花袋旧居保存修理工事 [1. 工事の概要／2. 保存修理工事の仕様概要]／第2節 茅葺屋根葺替えの記録 [1. はじめに／2. 屋根の構造／3. 屋根葺きの道具／4. 葺替えの工程／5. 下屋根葺替え]〉／参考文献

作品

1. 『薄月』 1982年10月1日 著者：田山花袋 編集・発行：館林市教育委員会
収録：短編小説 薄月（田山花袋）／「薄月」解説（昭和五七年五月）（贅田太二郎）〈一 「薄月」の体裁・その他／二 飯田代子について／三 「薄月」の内容／四 飯田代子に取材した作品／五 結びのことば
2. 『姉』 1984年10月31日 著者：田山花袋 編集・発行：館林市教育委員会文化振興課
収録：姉／解説 姉（長谷川吉弘）
3. 『田山花袋作品集』
 - 3-1. 『田山花袋作品集1 梅雨のころ』 1997年11月25日 著者：田山花袋 編集・発行：館林市教育委員会文化振興課
収録：はじめに／梅雨のころ／路の話／金魚／田山花袋／作品について
 - 3-2. 『田山花袋作品集2 幼き日のスケッチ』 1997年11月25日 著者：田山花袋 編集・発行：館林市教育委員会文化振興課
収録：はじめに／秋の旅／姉／幼き日のスケッチ／田山花袋／作品について

翻刻

1. 『田山花袋記念館研究叢書』
 - 1-1. 『田山花袋記念館研究叢書 第一巻 田山花袋宛柳田国男書簡集』 1991年12月25日 編集：館林市教育委員会文化振興課編 発行：館林市
収録：口絵／序／目次・凡例／概要 田山花袋宛柳田国男書簡の概観／研究篇 田山花袋と柳田国男 一花袋宛書簡の世界一（小林一郎）〈第一章 柳田（松岡）国男と田山花袋の青春 一明治二十五年より明治三十三年まで一 [明治二十五年——「紅葉会」入会と出会い／明治二十六年——振興の深まり／明治二十七年——日光への旅／明治二十八年——柳田と「恋」／明治二十九年——父母の死と銚子滞在／明治三十年——

「恋」と「友情」の狭間／明治三十一年——親交の広がり／伊良湖滞在／明治三十二年——「うた」の別れ／明治三十三年——それぞれの転機】／第二章 柳田国男の「現実直視」の様相 —明治三十四年より明治四十一年まで— [明治三十四年——「柳田家」への入籍／明治三十五年——「友情」のあかし／明治三十六年——役人生活と文壇／明治三十七年——日露戦争と柳田の結婚／明治三十八年——「龍土会」への広がり／明治三十九年——『破戒』をめぐる二人の評／明治四十年——柳田の『蒲団』評／明治四十一年——九州への旅と独歩の死]／第三章 柳田国男と田山花袋との文学上の分裂 —明治四十二年より大正二年まで— [明治四十二年——『北国紀行』の旅と花袋の『生』／明治四十三年～大正二年——柳田と花袋の分岐点]／第四章 柳田国男と田山花袋の関係の復調 —大正三年より昭和五年まで— [大正三年——熊野路の旅／大正四年——柳田の充実と花袋の下降／大正五年——復調の兆し／大正六年——支那旅行と柳田の失策／大正七年・八年——柳田への批判と九州の旅／大正九年——東北の旅と朝日新聞記者／大正十年——沖縄からヨーロッパへ／大正十一年——二度目の渡欧／大正十二年——西洋芸術へのアプローチ／大正十三年～昭和五年——山北民俗学の確立と花袋の死]／第五章 年代不詳の書簡／研究編 注)／資料編 (明治二十五年／明治二十六年／明治二十七年／明治二十八／明治二十九年／明治三十年／明治三十一年／明治三十二年／明治三十三年／明治三十四年／明治三十五年／明治三十六年／明治三十七年／明治三十八年／明治三十九年／明治四十年／明治四十一年／明治四十二年／明治四十三年／大正三年／大正四年／大正五年／大正六年／大正八年／大正九年／大正十年／大正十一年／大正十二年／昭和五年／年代不詳)／柳田国男書簡 (田山花袋宛) 一覧表／柳田国男書簡関連年譜／附記 太田玉茗宛松岡国男書簡について／執筆者略歴／解説調査・編集組織ならびに協力者・協力機関／あとがき

1-2. 『田山花袋記念館研究叢書 第二巻 『蒲団』をめぐる書簡集』 1993年3月25日 編集：館林市教育委員会文化振興課 発行：館林市

収録：口絵／序／目次・凡例／概説 『蒲団』をめぐる書簡の概観／研究編 『蒲団』『縁』をめぐる書簡集 (小林一郎) (第一章 『蒲団』『妻』をめぐる書簡群 [1 岡田ミチヨと花袋の出会い (ミチヨ入門まで) —明治三十六年七月から三十七年一月まで— {(1) ミチヨの入門依頼／(2) 花袋の返事／(3) 入門許可／(4) 上京の準備}／2 岡田ミチヨの入門と花袋の日露戦争従軍 —明治三十七年二月から十二月まで— {(1) ミチヨの上京／(2) 花袋の日露戦争従軍／(3) 戦地上陸／(4) ミチヨの浅井家への転居／(5) ミチヨの帰省／(6) 帰国後の花袋とミチヨ}／3 永代静雄との出会いと『蒲団』の展開 —明治三十八年一月から三十九年二月まで {(1) 「百合の花」の絵ハガキ／(2) ミチヨの帰省まで／(3) 静養中のミチヨと花袋の書簡／(4) ミチヨと永代の出会い／(5) ミチヨ上京の際の“事件”／(6) 永代の上京／(7) ミチヨの両親と花袋との書簡／(8) 永代の苦悩／(9) ミチヨ帰国／(10)

年代不詳の永代の書簡}} / 第二章 『縁』制作への背景 [1 岡田ミチヨ帰国後の展開 —明治三十九年二月から四十年九月まで— {(1) 帰国後のミチヨ / (2) 永代の早稲田入学 / (3) 花袋の上下町訪問 / (4) 花袋の代々木への転居 / (5) ミチヨの決意} / 2 『蒲団』の発表とその波紋 —明治四十年九月から十二月まで— {(1) 『蒲団』発表 / (2) 「去りゆく女」と「新しい女」——飯田代子との出会い} / 3 『縁』をめぐる書簡群 —明治四十一年から四十四年まで {(1) ミチヨ再々上京 / (2) 国木田独歩の死と九州旅行 / (3) ミチヨの失踪 / (4) 結婚・千鶴子誕生} / 4 『縁』以後の岡田ミチヨと永代静雄 —大正四年、六年— / 5 その他の書簡] / 第三章 まとめ / 研究編 注) / 資料編 (A 田山花袋書簡 (岡田美知代宛) / B 岡田美知代書簡 (田山花袋宛) / C 永代静雄書簡 (岡田美知代宛) / D その他の書簡 / 原稿) / 『蒲団』をめぐる書簡一覧表 / 『蒲団』をめぐる書簡関連年譜 / 執筆者略歴 / 解説調査・編集組織ならびに協力者・協力機関 / あとがき

1-3. 『田山花袋記念館研究叢書 第三巻 花袋周辺作家の書簡集 一』 1994年3月25日 編集：館林市教育委員会文化振興課 発行：館林市

収録：口絵 / 序 / 目次・凡例 / 研究編 (小林一郎) (田山花袋宛 江見水蔭書簡 [無名の花袋を支えた小説家・江見水蔭 / 1 花袋の入門と交友の深まり / 2 片瀬、神戸への転居 / 3 水蔭・花袋の分岐点 / 4 年代不詳の書簡] / 田山花袋宛 高瀬文淵書簡 [無名の花袋を支えた評論家・高瀬文淵 / 1 花袋との出会いと「小桜緘」の発行 / 2 兄の死と「新文壇」の発行 / 3 文淵と花袋の岐路 / 4 晩年の文淵] / 田山花袋宛 松浦辰男書簡 [無名の花袋を支えた歌人・松浦辰男 / 1 『芳宜の下葉』の刊行と日光訪問 / 2 『萩の古枝』の刊行と花袋の白露戦争従軍 / 3 晩年の松浦と『松楓集』の刊行] / 田山花袋宛 太田玉茗書簡 [花袋を支えた義兄・太田玉茗 / 1 新体詩創作期の玉茗 / 2 一身田への赴任 / 3 建福寺着任後の玉茗 / 4 年代不詳の書簡] / 田山花袋宛 国木田独歩書簡 [同伴作家・国木田独歩 / 1 二人の日光滞在と『抒情詩』の刊行 / 2 執筆活動期の独歩 / 3 闘病生活と妻の書簡] / 田山花袋宛 川上眉山書簡 [無名の花袋を支えた小説家・川上眉山 / 1 花袋との出会い / 2 結婚後の生活と死] / 田山花袋宛 小栗風葉書簡 [同伴作家・小栗風葉 / 1 自然主義文学への目覚め / 2 戸塚への転居と風葉・花袋の分岐点 / 3 豊橋隠退後の風葉 / 4 年代不詳の書簡] / 田山花袋宛 近松秋江書簡 [花袋に親炙した作家・近松秋江 / 1 大貫ますとの出会いと別れ / 2 関西への隠退 / 3 結婚後の秋江 / 4 年代不詳の書簡] / まとめにかえて) / 資料編 (A 江見水蔭書簡 (田山花袋宛) / B 高瀬文淵書簡 (田山花袋宛) / C 松浦辰男書簡 (田山花袋宛) / D 太田玉茗書簡 (田山花袋宛) / E 国木田独歩書簡 (田山花袋宛) / F 川上眉山書簡 (田山花袋宛) / G 小栗風葉書簡 (田山花袋宛) / H 近松秋江書簡 (田山花袋宛)) / 花袋周辺作家書簡一覧表 / 花袋周辺作家書簡関連年譜 / 執筆者略歴 / 解説調査・編集組織ならびに協力者・協力機関 / あ

とがき

1-4.『田山花袋記念館研究叢書 第四巻 花袋周辺作家の書簡集 二』 1995年3月25日 編集：館林市教育委員会文化振興課 発行：館林市

収録：口絵／序／目次・凡例／研究編（小林一郎）〈田山花袋宛宮崎湖処子書簡〔抒情派の詩人・宮崎湖処子／1 花袋との出会いと『抒情詩』の刊行／2 宗教活動の中で／3 年代不明の書簡〕／田山花袋宛蒲原有明書簡〔象徴派の詩人・蒲原有明／1 二人の出会いと「龍土会」への広がり／2 詩作の中止／3 年代不明の書簡〕／田山花袋宛薄田泣菫書簡〔象徴派の詩人・薄田泣菫／1 花袋との出会い／2 新聞記者としての活躍〕／田山花袋宛長谷川天溪書簡〔花袋を支えた評論家・長谷川天溪／1 花袋との出会い／2 ヨーロッパ留学中の書簡／3 晩年の交流／4 年代不明の書簡〕／田山花袋宛岩野泡鳴書簡〔同伴作家・岩野泡鳴／1 評論家時代／2 自然主義作家としての泡鳴〕／田山花袋宛前田木城書簡〔花袋を支えた作家・前田木城／1 花袋との出会いと博文館での活躍／2 『陥穽』の翻訳／3 「花袋全集」の刊行／4 年代不明の書簡〕／田山花袋宛上司小剣書簡〔花袋に親炙した作家・上司小剣／1 新聞記者時代の小剣／2 晩年の花袋との交流〕／田山花袋宛徳田秋声書簡〔同伴作家・徳田秋声／1 二人の出会いと自然主義文学の確立／2 生誕五十年を迎えて〕／田山花袋宛水野仙子書簡〔早世の女弟子・水の仙子／1 花袋への入門／2 結婚後の仙子／3 年代不詳の書簡〕／田山花袋宛中村星湖書簡〔花袋に親炙した作家・中村星湖／1 「早稲田文学」での活躍／2 文学の転換とフランス留学／3 年代不明の書簡〕／田山花袋宛相馬御風書簡〔花袋に親炙した作家・相馬御風／1 「早稲田文学」での活躍／2 糸魚川退隠後の御風／3 年代不明の書簡〕／資料編〈A 宮崎湖処子書簡（田山花袋宛）／B 蒲原有明書簡（田山花袋宛）／C 薄田泣菫書簡（田山花袋宛）／D 長谷川天溪書簡（田山花袋宛）／E 岩野泡鳴書簡（田山花袋宛）／F 前田木城書簡（田山花袋宛）／G 上司小剣書簡（田山花袋宛）／H 徳田秋声書簡（田山花袋宛）／I 水野仙子書簡（田山花袋宛）／J 中村星湖書簡（田山花袋宛）／K 相馬御風書簡（田山花袋宛）〉／花袋周辺作家書簡一覧表／花袋周辺作家書簡関連年譜／執筆者略歴／解説調査・編集組織ならびに協力者・協力機関／あとがき

1-5.『田山花袋記念館研究叢書 第五巻 田山花袋宛書簡集 一花袋周辺百人の書簡一』 1996年3月25日 編集：館林市教育委員会文化振興課 発行：館林市

収録：口絵／序／目次・凡例／概説 田山花袋宛書簡の概要／書簡および解説〈A 作家・出版関係者〔1 有島武郎／2 生田葵山／3 石橋思案／4 泉鏡花／5 今井邦子／6 巖谷小波／7 太田春山／8 大橋乙羽／9 大橋新太郎／10 大町桂月／11 岡田三郎／12 岡村千秋／13 岡本かの子／14 岡本曙紅／15 尾崎紅葉／16 小山内薫／17 葛西善蔵／18 片山天弦／19 加藤武雄／20 加藤雄吉／21 加能作次郎／22 河井醉茗／23 川口松太郎／24 川俣馨一／25 菊池寛／26 桐生悠々

／27 国木田収二／28 窪田空穂／29 幸田露伴／30 神津猛／31 小杉天外／32 小寺健吉・菊子／33 後藤宙外／34 斎藤弔花／35 坂本石創／36 桜井俊行／37 佐佐木信綱／38 佐藤義亮／39 佐藤紅緑／40 里見淳／41 島村抱月／42 白石実三・下子／43 関口鎮雄／44 遅塚麗水／45 千葉亀雄／46 坪内逍遙／47 坪谷水哉／48 戸川貞雄／49 戸川秋骨／50 中川恭次郎／51 中沢臨川／52 中村武羅夫／53 鳴海要吉／54 西村渚山／55 西村醉夢／56 新田静湾／57 野口米次郎／58 秦豊吉／59 服部嘉香／60 馬場孤蝶／61 広津和郎／62 藤沢清造／63 細田源吉／64 本間久雄／65 正宗白鳥／66 松崎天民／67 松波治郎／68 松原至文／69 松村琴荘／70 真山青果／71 三上於菟吉／72 水守亀之助／73 三宅周太郎／74 村松梢風／75 森鷗外／76 山崎直方／77 与謝野鉄幹／78 吉江孤雁／79 米川正夫／80 若山牧水〕／B 画家〔1 有島生馬／2 池田永治／3 大下藤次郎／4 小杉未醒〕／5 小林一意／6 小室翠雲／7 中沢弘光／8 橋本邦助／9 丸山晚霞／10 宮川春江／11 三宅克巳／12 森田恒友〕／C 家族・その他〔1 伊藤四郎／2 神田アイ／3 照尊院／4 進藤長作／5 田山先蔵／6 田山富弥／7 田山実弥登／8 野島金八郎〕〕／田山花袋宛書簡一覧表／監修者・執筆者／解説調査・編集組織ならびに協力者・協力機関／あとがき

館報

1. 『田山花袋記念館 年報』

1-1. 『田山花袋記念館 年報 2』 1991年3月31日 発行：館林市教育委員会文化振興課

収録：主要事業一覧／特別展／映像記録／名誉館長田山瑞穂氏を偲んで／田山花袋没後60年記念シンポジウム／田山花袋記念館研究双書発刊／新収蔵資料／資料収集／事業費／入館者数

1-2. 『田山花袋記念館 年報 3』 1995年3月31日 発行：館林市教育委員会文化振興課

収録：主要事業一覧／特別展／普及／資料収集／特別利用／入館者数／事業費

1-3. 『田山花袋記念館 年報 4』 1998年3月31日 発行：館林市教育委員会文化振興課

収録：主要事業一覧／特別展／普及／資料収集／特別利用／入館者数／事業費／施設案内

1-4. 『田山花袋記念館 年報 5』 2001年3月31日 発行：館林市教育委員会文化振興課 目次無し

収録：主要事業一覧／特別展／普及／資料収集／特別利用／入館者数／事業費／施設案内

- 1-5. 『田山花袋記念文学館 年報 6』 2005年3月 発行：館林市教育委員会文化振興課／田山花袋記念文学館 目次無し
収録：年度別入館者数／特別展／普及事業／特別利用／資料収集／館名変更について／事業費／施設概要／案内図／お問合せ

【19】群馬県立土屋文明記念文学館

図録（常設展）

1. 『土屋文明 ひとすじの道』 1998年3月31日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：土屋文明 ひとすじの道〈榛名山●誕生・創造性を育んだ幼年期・写実主義短歌との出会い／ふゆくさ●歌人たちとの出会い・若き文豪たちとの出会い・教育者土屋文明／アララギ●現実凝視の表現者として・選歌者として・アララギの仲間たち／万葉散策●万葉ゆかりの地への散策・万葉集研究／山下水●疎開地吾妻・文学復興への動き／青南の日々●歌壇の最長老・草木との会話・終りなき時／評論◆弱者と共に一土屋文明の歌一（伊藤安治）／短歌の世界〈三大和歌集／近世短歌資料／歌物語・歌仙絵・百人一首・かるた資料／明治以降の歌人資料／著名人の短歌資料／評論◆和歌・短歌の魅力（有川美亀男）〉

図録（企画展）

1. 『開館記念展 写生の歌人五人』 1996年7月11日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：ごあいさつ（伊藤信吉）／開館記念展「写生の歌人五人」〈序論■近代文学としての短歌（平岡敏夫）／序論■写生をめぐる五歌人一子規・左千夫・赤彦・茂吉・迢空一（本林勝夫）／●正岡子規 [エッセイ■式の《見て》つくった歌（佐佐木幸綱）／I 子規・和歌との出会い／II 子規・短歌革新／III 子規・根岸短歌会]／●伊藤左千夫 [エッセイ■左千夫の歌（清水房雄）／I 左千夫・子規の継承者として／II 左千夫・歌友、門人との交流]／●島木赤彦 [エッセイ■島木赤彦（近藤芳美）／I 赤彦・アララギと共に／II 赤彦・関係書画作品]／●斎藤茂吉 [エッセイ■乙女とドラ焼き一茂吉の囑目詠（三枝昂之）／I 茂吉・「実相観入」の歌人として／II 茂吉・生活]／●釈迢空 [エッセイ■文明と迢空（岡野弘彦）／I 歌人 迢空／II 学者 信夫]／資料目録〉／付録 I 常設展〈●土屋文明一ひとすじの道 [榛名山▲誕生・創造性を育んだ幼年期・写実主義短歌との出会い／ふゆくさ▲歌人たちとの出会い・若き文豪たちとの出会い・教育者土屋文明／アララギ▲現実凝視の表現者として・選歌者として・アララ

ぎの仲間たち／万葉散策▲万葉ゆかりの地への散策・万葉集研究／山下水▲疎開地吾妻・文学復興への動き／青南の日々▲歌壇の最長老・草木との会話・終りなき時／評論■弱者と共に一土屋文明の歌一（伊藤安治）／●短歌の世界〔三大和歌集／近世短歌資料／歌物語・歌仙絵・百人一首・かるた資料／明治以降の歌人資料／著名人の短歌資料／評論■和歌・短歌の魅力（有川美亀男）〕／付録Ⅱ 特別展〈●群馬ゆかりの文学〔「大調和」関係資料／「表現」関係資料／「おち栗」関係資料／山村暮鳥／大手拓次／伊藤信吉／佐藤緑葉／吉野秀雄／村上鬼城／長谷川零余子／高柳重信／相葉有流／崔華国／評論■群馬の文学その一断面一大正期の若き歌人・詩人たちの遺産（関俊治）〕〉

2. 『第2回企画展 山村暮鳥・大手拓次』 1996年10月5日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：山村暮鳥〈伝道師／愛用品の数々／著書・掲載雑誌・関係原稿〉／大手拓次〈「I 詩人へ」「II 少年愛」「III 師・詩友」より／「IV 広告部社員」「V 創作」「VI 薔薇の詩人」より／「VII 訳詩家拓次」「VIII 死その後」より〉／資料提供者・協力者／御案内・ひとこと（伊藤信吉）／序論 私の中の詩人たち（伊藤信吉）／山村暮鳥〈暮鳥 群馬／暮鳥 東北／暮鳥 水戸・大洗／そして雲になった〉／大手拓次〈拓次——詩人へ／少年愛——葉山和歌雄／師・詩友——北原白秋・萩原朔太郎・室生犀星・大木淳夫／拓次——広告部社員／拓次——創作／拓次——薔薇の詩人／訳詩家拓次——異国の香／拓次——死その後〉／解説■山村暮鳥（和田義昭）／山村暮鳥略年譜／山村暮鳥資料目録／解説■「象徴詩人 大手拓次」（斎田朋雄）／大手拓次略年譜／大手拓次資料目録／使用参考文献／あとがき

3. 『第3回企画展 會津八一・吉野秀雄』 1997年6月1日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：御案内 ひとこと（伊藤信吉）／序論 會津八一と吉野秀雄（伊狩章）／一部〈會津八一〔俳人八朔郎／奈良／早稲田／短歌／書／新潟〕／吉野秀雄〔八一と秀雄／書／遺品／作品〕〉／二部〈會津八一〔會津八一肖像／俳人八朔郎／奈良／早稲田／短歌／書／新潟〕／吉野秀雄〔吉野秀雄肖像／誕生／喀血『病牀歌集 天井凝視』／編集者—吉野藤一／秋艸道人／秀雄とうた—『苔徑集』／秀雄とうた—『早梅集』／妻 はる—「創元」／妻 登美子—『寒蟬集』秀雄とうた—『寒蟬集』／秀雄とうた—『晴陰集』／秀雄とうた—『含紅集』／文士との交流／教え子／秀雄—死—〕〉／解説 會津八一論 その現代的意味（来嶋靖生）／解説 吉野秀雄の歌境（片山貞美）／随筆①〈ある日の會津八一（湊八枝）／師 吉野秀雄の思い出（宮崎甲子衛）〉／會津八一略年譜／吉野秀雄略年譜／會津八一資料目録／吉野秀雄資料目録／随筆②〈會津先生との思い出（小柳マサ）／兄の思い出・伯父吉野秀雄をめぐって（金井和子 金井道夫）〉／使用参考文献／あとがき／奥付

4. 『第4回企画展 第21回県民芸術祭参加 室生犀星・草野心平 風雷の二詩人 大正

の叙情小曲と昭和の詩的アナキズム』 1997年10月4日 編集・発行：群馬県立土屋
文明記念文学館

収録：御案内 ひとつ／序論 風来者の詩的往来（伊藤信吉）／一部 室生犀星（I
利根の砂山／II 朔太郎との邂逅／III 詩人・作家として）／二部 草野心平（I 明日
は天気だ！／II 「学校」—詩的アナキズムの交友／III 群馬・点々／IV ジグザグロ
ード／高村光太郎書簡）／三部 解説・略年譜・資料目録・随筆（解説「犀星先生の横
顔」（中村真一郎）／略年譜「室生犀星」／資料目録「室生犀星」／随筆「父を語る」（室
生朝子）／随筆「無償の愛」（新保千代子）／解説「草野心平」（栗津則夫）／略年譜「草
野心平」／資料目録「草野心平」／随筆「父の流儀」（草野雷）／随筆「心平と光太郎」
（北川太一）／参考文献／あとがき

5. 『第4回特別展 現代百人一首』 1998年2月11日 編集・発行：群馬県立土屋文明
記念文学館

収録：百花の早い春（伊藤信吉）／資料提供者・協力者／「現代百人一首」を選んで（馬
場あき子）／I 自筆・現代百人一首（齋藤史／近藤芳美／長澤美津／窪田章一郎／木暮
政次／香川進／山本友一／扇畑忠雄／中野菊夫／岡部桂一郎／加藤克巳／清水房雄／
千代國一／森岡貞香／小市巳世司／田谷鋭／宮英子／武川忠一／安永露子／佐藤志満
／宮地伸一／築地正子／塚本邦雄／吉野昌夫／岩田正／岡野弘彦／山中智恵子／前登
志夫／長澤一作／富小路禎子／春日真木子／尾崎左永子／岡井隆／馬場あき子／島田
修二／蒔田さくら子／高嶋健一／雨宮雅子／高瀬一誌／田井隆一／来嶋靖生／石川不
二子／篠弘／稲葉京子／小野興二郎／大滝貞一／松坂弘／奥村晃作／小中英之／佐佐
木幸綱／春日井建／濱田康敬／辺見じゅん／大河原惇行／藤井常世／玉井清弘／高野
公彦／黒木三千代／福島泰樹／伊藤一彦／三枝昂之／大島史洋／小高賢／沖ななも／
日高堯子／久々湊盈子／河野裕子／時田則雄／香川ヒサ／永田和宏／小池光／道浦母
都子／佐伯裕子／花山多佳子／真鍋正男／大下一真／阿木津英／山田富士郎／島田修
三／永井陽子／今野寿美／松平盟子／栗木京子／小島ゆかり／坂井修一／加藤治郎／
水原紫二／米川千嘉子／谷岡亜紀／大塚寅彦／俵万智／荻原裕幸／穂村弘／早川志織
／辰巳泰子／梅内美華子）／II 歌の背景（齋藤史／近藤芳美／長澤美津／窪田章一郎
／木暮政次／香川進／山本友一／扇畑忠雄／中野菊夫／岡部桂一郎／加藤克巳／清水
房雄／千代國一／森岡貞香／小市巳世司／田谷鋭／宮英子／武川忠一／安永露子／佐
藤志満／宮地伸一／築地正子／塚本邦雄／吉野昌夫／岩田正／岡野弘彦／山中智恵子
／前登志夫／長澤一作／富小路禎子／春日真木子／尾崎左永子／岡井隆／馬場あき子
／島田修二／蒔田さくら子／高嶋健一／雨宮雅子／高瀬一誌／田井安曇／水野昌雄／
大塚陽子／石田比呂志／石本隆一／来嶋靖生／石川不二子／篠弘／稲葉京子／小野興
二郎／大滝貞一／松坂弘／奥村晃作／小中英之／佐佐木幸綱／春日井建／濱田康敬／
辺見じゅん／大河原惇行／藤井常世／玉井清弘／高野公彦／黒木三千代／福島泰樹／

伊藤一彦／三枝昂之／大島史洋／小高賢／沖ななも／日高堯子／久々湊盈子／河野裕子／時田則雄／香川ヒサ／永田和宏／小池光／道浦母都子／佐伯裕子／花山多佳子／真鍋正男／大下一真／阿木津英／山田富士郎／島田修三／永井陽子／今野寿美／松平盟子／栗木京子／小島ゆかり／坂井修一／加藤治郎／水原紫＝／米川千嘉子／谷岡亜紀／大塚寅彦／俵万智／荻原裕幸／穂村弘／早川志織／辰巳泰子／梅内美華子）／III 解説 資料目録〈〔解説〕現代短歌の魅力（篠弘）／展示資料目録／あとがき〉

6. 『第5回企画展 金子兜太・高柳重信 一戦後俳句の光彩』 1998年5月30日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：上州地縁において 御案内ひとこと（伊藤信吉）／〔序論〕金子兜太と高柳重信——俳句史的に（平井照敏）／金子兜太100句抄／〔金子兜太作家論〕金子兜太の世界（安西篤）／高柳重信80句抄／〔高柳重信作家論〕高柳重信の俳句（宇多喜代子）／コラム・金子兜太と高柳重信／金子兜太（1）〈I 『生長』の時代——終戦・復員まで／コラム・生長の日々／II 社会性俳句の時代——俳句前衛のオピニオン／金子兜太と「海程」／コラム・社会性俳句の日々／III 定住漂泊の時代——熊谷へ／IV 金子兜太の現在——天人合一の世界へ／金子兜太の群馬〉／高柳重信（1）〈I 彷徨の文学——『前略十年』／コラム・自筆句集『冬蠅』後記／II 多行形式の創造——『落子』から『遠耳父母』／コラム・「薔薇」俳壇閑談／III-1 多行形式の熟成——『山海集』『日本海軍』／III-2 もう一人の高柳重信——『山川蟬夫句集』／金子兜太（2）◆カラー〈I 『生長』の時代——終戦・復員まで／II 社会性俳句の時代——俳句前衛のオピニオン／III 定住漂泊の時代——熊谷へ／IV 金子兜太の現在——天人合一の世界へ／金子兜太の中国〉／高柳重信（2）◆カラー〈I 彷徨の文学——『前略十年』／II 多行形式の創造——『落子』から『遠耳父母』／III-1 多行形式の熟成——『山海集』『日本海軍』／III-2 もう一人の高柳重信——『山川蟬夫句集』／コラム俳句・金子兜太の群馬〉／金子兜太随想〈金子兜太の魅力（原子公平）／居候から見た兄（金子洗三）〉／高柳重信随想〈俳句という偽書—高柳重信の世界—（高橋龍）／パパの泣き方（高柳落子）〉／金子兜太略年譜／高柳重信略年譜／金子兜太◎資料目録／高柳重信◎資料目録／コラム俳句・高柳重信の群馬／あとがき

7. 『第5回特別展 高橋元吉の世界』 1998年7月19日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：高橋元吉詩所感 書簡の交友（川崎洋）／なつかしい父（高橋通乃）／生きている枝の^{しな}撓う堅さ——高橋元吉の詩に思う——（関俊治）／光をともしもの（梁瀬和男）／詩人の筆跡——暮春には春服既に成り——（岡田芳保）／文人のおもかげ（伊藤信吉）／高橋元吉詩抄／『黄裳雑記』抄／元吉・書画の庭／元吉アルバム／高橋元吉略年譜／高橋元吉豆辞典

8. 『第6回企画展 桐生ルネッサンス —坂口安吾・南川潤・朝田晃彦—』 1998年10

月4日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：上州・桐生で ご案内に代えて（伊藤信吉）／坂口安吾〈総論 もう、どこへも行かない安吾（若月忠信）／I 光を覆うものなし（1）[告発（1）]／II 桐生巷談（1）[安吾と潤（1）／書上邸／歴史家／桐生便り（1）／秀吉／虚無の空間]／III 安吾一死一／カラー／I 光を覆うものなし（2）[告発（2）]／II 桐生巷談（2）[安吾と潤（2）／信長／桐生便り（2）]／IV あちらこちら命がけ[遺品]／随筆 坂口安吾氏の柔和な眼差し—昭和二十七年（一九五二）の夏の日—（久保田穰）／随筆「桐生通信」（坂口綱男）／昭和文学小説百選（昭和29年）／南川潤〈総論 桐生を愛し、故郷とした南川潤（朝倉稔）／I 美しい街（1）[文化の日燃ゆ／小説の職人（1）]／II 新しい泉（1）[上毛文藝會／桐生倶楽部／桐生文化学院／社会運動／映画]／III 潤—死—（1）／IV 創造（1）[芸術／幸福]／カラー／I 美しい街（2）[小説の職人（2）／潤と安吾]／II 新しい泉（2）[友／「緑地帯」／桐生倶楽部青年部]／III 潤—死—（2）／IV 創造（2）／随筆 たぐいなき善意の人（小池久雄）／随筆 潤・安吾・うらおぼえ（秋山克也）／南川と坂口（大井広介）／朝田晃彦〈総論 同人誌「猿」と朝田晃彦（森猛）／I 出発（1）[作家賞／「塔」／「猿」]／II 秀医秀談（1）[ラバウルと航海／上州（1）]／III 力試さん[俳人／茶道研究／画家・演奏家]／IV 断想片々[遺品]／カラー／I 出発（2）[安吾／潤]／II 秀医秀談（2）[直木賞候補／上州（2）]／随筆 朝田さんと桐生（服部文男）／随筆 思い出の片々（朝田雪子）／坂口安吾略年譜／南川潤略年譜／朝田晃彦略年譜／坂口安吾資料一覧／南川潤資料一覧／朝田晃彦資料一覧／参考文献／あとがき

9. 『第7回企画展 生誕百年記念 萩原恭次郎とその時代』 1999年6月5日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：御案内ひとこと（伊藤信吉）／前半生・後半生の生涯（伊藤信吉）〈カラー [I 抒情の歌声（1）／II 都にゆきたし（1）／III 疾風怒濤の時代（1）／IV 詩的アナーキズム「断片」の世界へ（1）／V 「クロポトキンを中心にした芸術の研究」（1）／VI 「亜細亜に巨人あり」（1）／VII 汝は山河と共に（1）]／モノクロ [I 抒情の歌声（2）／II 都にゆきたし（2）／III 疾風怒濤の時代（2）／IV 詩的アナーキズム「断片」の世界へ（2）／V 「クロポトキンを中心にした芸術の研究」（2）／VI 「亜細亜に巨人あり」（2）／VII 汝は山河と共に（2）]／地をインクにして空に刻んだ詩人たち—二〇年代半ばのフランス詩を読んで—（飯島耕一）／萩原恭次郎（金井和郎）／むかしばなし恭次郎ノート（川浦三四郎）／手紙往来一回きり（暮尾淳）／元総社の二詩人—萩原恭次郎と伊藤信吉—（梁瀬和男）／萩原恭次郎略年譜／萩原恭次郎展示資料目録／参考文献／あとがき

10. 『第8回企画展 図録 土屋文明と斎藤喜博』 1999年10月3日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：御案内ひとこと（伊藤信吉）／総論 斎藤喜博における短歌と教育（横須賀薫）

／人間に学ぶもの—文明と喜博—(堀江厚一)／I 喜博 文明との出会い・アララギ〈①川そいの村にて／②アララギ入会／③『福田みゑ歌集』〉／II 文明 川戸にて〈①『山下水』・『自然泉』／②疎開地吾妻にて／③東京帰住／〉／III 文明・喜博 「ケノクニ」創刊・地方文化への貢献〈①「ケノクニ」創刊／②歌会・吟行会、地方文化への貢献〉／IV 文明・喜博 師弟の交わり・文学者たちとの交流〈①文明を師として／②文学者たちとの交流〉／V 喜博 数々の著作・遺品／随筆〈川戸の二日(大塚正巳)／斎藤喜博先生の思ひ出(金井朝忠)／文明先生と喜博先生の思い出(内田一枝)／土屋文明と斎藤喜博(都丸九一)〉／土屋文明略年譜／斎藤喜博略年譜／展示資料目録／参考文献／あとがき

11. 『One Hundred Contemporary Japanese Haiku For The Year 2000』 2000 年
Editor : The Gunma Prefectural Museum of Literature / Masami Hayashi
Publisher : The Gunma Prefectural Museum of Literature

12. 『「2000 年百人一句」図録』 2000 年 2 月 11 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：ご案内 ひとこと(伊藤信吉)／開催にあたって(扇畑忠雄)／ごあいさつ(永畑道子)／選者のことば(夏石番矢)／凡例／I 自筆百人一句・英訳俳句〈時間[阿部完市／夏石番矢／島谷征良／柿本多映／五島高資]／地霊[藤田湘子／大屋達治／田中裕明／久保純夫／高野ムツオ]／海[中島偉夫／稲畑汀子／松本恭子／正木ゆう子／森公一]／山[森澄雄／能村研三／中原道夫／小澤實／遠藤秀子]／そら[加藤郁乎／鈴木六林男／福田甲子雄／増田まさみ／吉田透思朗]／家族[松澤昭／宇多喜代子／鳴戸奈菜／齋藤慎爾／熊谷愛子]／たべもの[佐藤鬼房／黒田杏子／西村和子／糸大八／浅井慎平]／ころこ[古沢太穂／金子兜太／鎌倉佐弓／大木あまり／鈴木伸一]／からだ[桂信子／伊丹三樹彦／和田耕三郎／大西健司／佐藤文子]／性[八木三日女／三橋敏雄／まつもとかずや／竹中宏／江里昭彦]／旅[飴山實／小川双々子／上田日差し／倉橋羊村／水野真由美]／死[有馬朗人／中村苑子／平井照敏／宇佐美魚目／飯島晴子]／色彩[高橋龍／大峯あきら／林桂／星野一郎／中村雅樹]／音[津沢マサ子／澁谷道／金田咲子／市野記余子／五十嵐研三]／水[和田悟朗／瀬戸青天城／対馬康子／金子晋／大坪重治]／火[伊丹公子／能村登四郎／大井恒行／山本洋子／相原左義長]／動物[安井浩司／西川徹郎／金子皆子／鮫島康子／森田智子]／虫[後藤比奈夫／寺井谷子／鳥居美智子／池田澄子／宗田安正]／植物[鍵和田 = 子／伊藤淳子／茨木和生／五島エミ／森田緑郎]／固有名詞[澤好摩／坪内稔典／石寒太／松本勇二／佐藤清美]／《コラム》英語の俳句と日本語の俳句(木村聡雄)／II 句の背景・俳人略歴〈時間[阿部完市／夏石番矢／島谷征良／柿本多映／五島高資]／地霊[藤田湘子／大屋達治／田中裕明／久保純夫／高野ムツオ]／海[中島偉夫／稲畑汀子／松本恭子／正木ゆう子／森公一]／山[森澄雄／能村研三／中原道夫／小澤實／遠藤秀子]／そら[加藤郁乎／

鈴木六林男／福田甲子雄／増田まさみ／吉田透思朗〕／家族〔松澤昭／宇多喜代子／鳴戸奈菜／齋藤慎爾／熊谷愛子〕／たべもの〔佐藤鬼房／黒田杏子／西村和子／糸大八／浅井慎平〕／こころ〔古沢太穂／金子兜太／鎌倉佐弓／大木あまり／鈴木伸一〕／からだ〔桂信子／伊丹三樹彦／和田耕三郎／大西健司／佐藤文子〕／性〔八木三日女／三橋敏雄／まつもとかずや／竹中宏／江里昭彦〕／旅〔飴山實／小川双々子／上田日差し／倉橋羊村／水野真由美〕／死〔有馬朗人／中村苑子／平井照敏／宇佐美魚目／飯島晴子〕／色彩〔高橋龍／大峯あきら／林桂／星野一郎／中村雅樹〕／音〔津沢マサ子／澁谷道／金田咲子／市野記余子／五十嵐研三〕／水〔和田悟朗／瀬戸青天城／対馬康子／金子晋／大坪重治〕／火〔伊丹公子／能村登四郎／大井恒行／山本洋子／相原左義長〕／動物〔安井浩司／西川徹郎／金子皆子／鮫島康子／森田智子〕／虫〔後藤比奈夫／寺井谷子／鳥居美智子／池田澄子／宗田安正〕／植物〔鍵和田＝子／伊藤淳子／茨木和生／五島エミ／森田緑郎〕／固有名詞〔澤好摩／坪内稔典／石寒太／松本勇二／佐藤清美〕／《略歴》翻訳・ブックデザイン・フォトグラフ〕／III 解説・目録〈(解説) 現代俳句の特色と作品世界の広がり(夏石番矢)／(目録)／「2000年百人一句」資料〉／IV 英訳付録〈Commentary／Characteristics of Contemporary／Japanese Haiku (by Ban'ya Natsuishi／Translated by Sumiko Yabe)／One Hundred Contemporary Japanese Haiku for The Year 2000／The Haiku Poets: Short Biographies (Translated by Toshio Kimura)〉

13. 『第9回企画展 図録 佐藤緑葉と伴に——若山牧水・白石実三・田中辰雄』 2000年6月3日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：ご案内に代えて「桑並木の街で」(伊藤信吉)／「四人の往来とその文学」(伊藤信吉)／緑葉と伴に——〈I 生地と文学〔足跡／山地農村の郷土色《自然主義左派》〕／II 早稲田大学・牧水・実三〔緑葉と早稲田／友人・若山牧水／友人・白石実三〕／III 三浦半島〔緑葉と久里浜／夭折の創作歌人田中辰雄／牧水と久里浜〕／IV 文壇往来〔創作者として、編集者として…「創作」／創作者として、編集者として…「近代藝術」／都市的作品・新散文詩運動・翻訳〕／V 社会主義的往来〔「おち栗」／「近代思想」／「生活と藝術」／緑葉—社会的著作〕／VI 緑葉・学究生活以後〔疎開／教育者緑葉／東都にて・晩年まで〕／資料編〈牧水と緑葉(伊藤一彦)／白石実三と佐藤緑葉(宇田川昭子)／牧水・緑葉・辰雄 三浦半島を中心に(青木栄治)／明治・大正、ある日・ある時〔「百草行」(佐藤緑葉)／「電車は一直線に」(白石実三)／「早稲田の一夜」(田中辰雄)〕／略年譜〔佐藤緑葉／若山牧水／白石実三／田中辰雄〕／展示資料目録／参考図書／編集後記
14. 『第10回企画展 図録 世界の俳句がやってくる —世界俳句フェスティバル 2000 招致展』 2000年10月22日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：ご案内ひとこと(伊藤信吉)／「世界俳句フェスティバル2000」主催者挨拶(瀧

口進) / 「世界俳句フェスティバル 2000 と世界俳句協会創立会議に参加して」(夏石番矢) / I 「世界俳句フェスティバル 2000」報告〈プログラム／開催要項／会場風景／研究発表・会議／吟行・句会／コンクール三部門《俳句業績》《世界俳句》《俳句評論》〉 / II 代表的海外俳人紹介 / III 「世界俳句フェスティバル 2000」参加俳人・参加俳句〈参加海外俳人紹介／参加作品紹介／インタラクティブ・フォト俳句／「2000年百人一句」カリグラフィー20／正岡子規国際俳句賞／浅野修作品〉 / IV 海外の俳句の状況〈日航財団「世界こどもハイクコンテンス」／海外俳句年表〉 / 展示資料目録／参考図書／編集後記

15. 『第 11 回企画展 20 世紀の群馬の戦争文学』 2001 年 6 月 1 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：ご案内に代えて 語り継ぐ八月一戦争考(伊藤信吉) / 20 世紀の群馬の戦争文学 / 萩原朔太郎の戦争文学・作品集(伊藤信吉) / I 萩原朔太郎の戦争文学〈陸軍軍楽隊(戸山学校)入隊希望／日清戦争を描く／日露戦争の体験／大正デモクラシーと軍縮の時代の中で／日中戦争始まる〉 / 下仁田戦争 日清戦争 日露戦争 高崎歩兵十五連帯 / II 下仁田戦争〈下仁田戦争／下仁田戦争の文学(島崎藤村・吉村昭・村上成之)〉 / III 日清戦争〈日清戦争／日清戦争の文学(田山花袋・湯浅半月・内村鑑三)〉 / IV 日露戦争〈日露戦争／日露戦争の文学(内村鑑三・田山花袋) / 田山花袋と日露戦争(渡邊正彦) / 日清戦争の文学(山村暮鳥・綿貫六助・山口寒水・白石実三)〉 / V 高崎歩兵十五連帯〈高崎歩兵十五連帯／十五連帯ゆかりの作家たち(新井紀一・小野忠孝)〉 / 大正デモクラシーとシベリア出兵 満州事変・日中戦争・太平洋戦争 / VI 大正デモクラシーとシベリア出兵〈大正時代の幕開け(白石実三・根岸正吉) / 第一次世界大戦勃発(佐藤緑葉・内村鑑三) / シベリア出兵と軍縮の時代(伊藤信吉・萩原恭次郎・飯島貞・高橋辰二)〉 / VII 満州事変・日中戦争(林柳波・萩原恭次郎・福田昭太郎・土屋文明 他) / VIII 太平洋戦争〈太平洋戦争始まる(生方たつゑ・土屋文明・伊藤信吉 他) / 九軍神発表(高村光太郎) / タイ・ビルマ(泰緬鉄道)方面(清水寥人・森田丈夫) / ニューギニア・ラバウル・オーストラリア・ウェーク島方面(浅田晃彦・半田義弘之・住谷磐根) / 文学報国会 / 銃後(土屋文明・伏島たき子・おのちゅうこう・大木雄二) / 空襲(司修・根岸俊男) / 敗戦(高柳重信・吉野秀雄・高村光太郎) / 前橋空襲(司修) / 国民感情と短歌(佐伯裕子) / 群馬の戦争文学史年表 / 20 世紀群馬の戦争文学 資料目録 / 参考図書 編集後記

16. 『第 16 回特別展 図録 「夏の宝箱—小原玲・堀田あけみ作品展」』 2001 年 7 月 20 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：アザラシ／シロクマ／プレリードッグ／マナティ

17. 『第一二回企画展 現代少年少女詩・童謡詩展図録』 2001 年 10 月 14 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：ごあいさつ「水ぐるま」（伊藤信吉）／ポエムの国をひらくまで——出展作品をお招きするにあたって——（木暮正夫）／少年少女詩〈1 雲（赤座憲久 安藤勇寿）／2 すみのダンナ（秋川ゆみ 秋川ゆみ）／3 白夜（びゃくや）（伊藤政弘 府川誠）／4 朝やけ（江口あけみ 木暮健二郎）／5 雪（大久保テイ子 村井宗二）／6 たちあがれ（大洲秋登 やべみつのり）／7 カラス（小沢千恵 とどろきちづこ）／8 おかあさんの ねじばな（尾上尚子 渡辺有一）／9 蝶（海沼松世 中村悦子）／10 ちょう（柏木恵美子 小松修）／11 こころの軌跡（加藤丈夫 曾我舞）／12 北風に向かって（川端律子 中村悦子）／13 夏の日（菊永謙 野村たかあき）／14 み一つけた（岸田衿子）／15 口笛吹いて 他（北川幸比古 本間ちひろ）／16 小鳥が一羽 されもない朝の庭で（北原悠子 新野めぐみ）／17 てつがくのライオン（工藤直子 保手浜孝）／18 かくれんぼ（黒柳啓子 大和田美鈴）／19 あなたへ（小泉周二 辻友紀子）／20 回転木馬（小泉房子 木暮健二郎）／21 夏のおわりに（小松静江 尾崎曜子）／22 こわれた いす（桜井信夫 おぼまこと）／23 しゃくとりむし（宍倉さとし 篠崎三朗）／24 ハガキ（島田陽子 坪谷令子）／25 砂漠の少年（白根厚子 岡野和）／26 こおろぎと空きカン（新川和江）／27 すずめの木（菅原優子 菅原史也）／28 砂漠の樹（高崎乃理子 井江栄）／29 参観日（たかはしけいこ 中釜浩一郎）／30 生まれる（高橋忠治 牧村慶子）／31 難破船（土田明子 井江栄）／32 しゃくとりむし（永窪綾子 永窪啓紀）／33 君たち（畑島喜久生 坪谷令子）／34 草（はたちよしこ 菅原史也）／35 きょうね（原田直友 岡本順）／36 柿紅葉（かきもみじ）（藤井則行 阿部はじめ）／37 カエル（松谷みよ子）／38 カタクリの花の咲くころ（宮前利保子 宮前あゆみ）／39 さんぼねこ（山中利子 若山憲）／40 うしさん うふふ（よしだていいち 篠原良隆）／童謡詩〈1 ほおずき ほおずき（青戸かいち こいでやすこ）／2 黒い豹（秋葉てる代 篠崎三朗）／3 ありさんとぞうさんのこもりうた（うらさわこうじ 小松修）／4 夏の思い出（江間章子）／5 バッタのうた（おうちやすゆき）／6 大草原のキリン（小黒恵子 渡辺有一）／7 たまごのなかで（神沢利子 神沢利子）／8 たんぽぽすきよ（楠木しげお アリマ・ジュンコ）／9 おはなしゆびさん（香山美子 渡辺有一）／10 めだか（こやま峰子 とよたかかずひこ）／11 こゆび（こわせ・たまみ 大和田美鈴）／12 サっちゃん（阪田寛夫）／13 どうぶつえんによる（佐藤雅子）／14 木（清水たみ子 府川誠）／15 トマト（荘司武 曾我舞）／16 おつかいありさん（関根榮一 おぼまこと）／17 空と風のきっぷ（高木あきこ こいでやすこ）／18 おかあさん（田中ナナ 安藤勇寿）／19 ののはな（谷川俊太郎）／20 さよならは いわないで（鶴岡千代子 大和田美鈴）／21 鬼の子のうた（富永佳与子 野村たかあき）／22 ことり（西村祐見子 牧村慶子）／23 きんぎょのあぶく（のろさかん 阿部はじめ）／24 せいのび（武鹿悦子 篠崎三朗）／25 ゾウ（まど・みちお まど・みちお）／26 はるのコップ（三枝ますみ お

- ぼまこと) / 27 どっこいしょ (みねぎしなつめ マリア・ジュンコ) / 28 おやすみなさい (宮田滋子 とよたかずひこ) / 29 ひとりじゃないからの子守歌 (宮中雲子) / 30 すずむし (矢崎節夫 尾崎曜子) / 31 豊年祭 (プール) (吉川安一 岡本順) / 32 ママとふたりのクリスマス (若谷和子 新野めぐみ) / 少年少女詩・詩人紹介 / 童謡詩・詩人紹介 / イラストレーション・画家紹介 / 少年詩小史——「少年詩」の呼称を中心に (畑島喜久生) / 童謡の流れを追って (こわせ・たまみ) / 展示詩集一覧
18. 『「武尊の青春 江口きちの世界」図録』 2002年2月8日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：御案内ひとこと (伊藤信吉) / 江口きち女と「女性時代」のえにし (島本融) / I 生い立ち〈家族 / 川場尋常高等小学校 [「恩師 田村晴子」 / 「恩師 林卓爾」] / II 沼田時代〈中田屋裁縫所 / 沼田郵便局勤務 / 母の死〉 / III 歌人江口きち〈「女性時代」詩友 / 直筆短歌 / 女流歌人として / 交友関係 [「友人宛書簡に見るきち」] / IV 銀嶺への足あと〈死への準備 / 歌人の死 / 死後 [「歌集及び書簡集等」] / 江口たきの生涯) / 直筆資料 (日記・手記・断簡・歌帖) / 江口きちと短歌 (大井恵夫) / 私と江口きち女 (岸大洞) / 江口きち略年譜 / 展示資料目録 / 参考図書・編集後記
19. 『第13回企画展 図録 白石実三とその時代』 2002年4月27日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：ご案内ひとこと (伊藤信吉) / 実三とその時代 (I 誕生 / II 早稲田大学 [早稲田と実三 / 早稲田の師 / 早稲田の友人] / III 結婚・二人の師 [結婚 / 二人の師—花袋と藤村] / IV 作家 [自然主義的作品 / 軍隊生活 / 教員生活 / 『返らぬ過去』 / 武蔵野 / 大衆小説] / V 編集者 [富山房 / 博文館 / 早稲田出版部] / VI 実三と群馬の人々 [浦野芳雄 / 生方敏郎 / 綿貫六助 / 松村琴荘 / 村上鬼城 / 平井晩村 / 土屋文明 / 山村暮鳥 / 清水暉吉 / 里見五山] / VII 遺品) / 資料篇〈白石実三の魅力 (紅野敏郎) / 白石実三と自然主義文学 (平岡敏夫) / 白石実三の生涯 (宇田川昭子) / 実三書誌年譜 (宇田川昭子編) / 実三略年譜 / 展示資料目録 / 参考資料 / 編集後記
20. 『第19回特別展「紙芝居展」 紙芝居がやって来た』 2002年7月20日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：館主口上 (伊藤信吉) / 紙芝居=日本から世界へ (上笙一郎) / 1 紙芝居の源流—「覗きからくり」・「写し絵」・「立ち絵」— / 2 街頭紙芝居—「平絵」(現在の紙芝居)の出現— / 3 宗教紙芝居—教育紙芝居の始発— / 4 「幼稚園紙芝居」—用字教育を目的として— / 5 戦争へ、戦争へ—メディアとしての紙芝居 / 6 戦後民主主義—色彩を取り戻した紙芝居— / 7 「黄金バット」再び—街頭紙芝居の復活— / 8 世界へ羽ばたけ—日本生まれの文化財— / 紙芝居年表 (石山幸弘編) / 参考文献
21. 『第14回企画展 石川啄木展 一時代を駆け抜けた天才—』 2002年10月12日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：石川啄木（中村稔）／I 啄木の生涯（渋民村の神童／青春の盛岡／惨憺たる東京生活／再起・年少天才詩人誕生／盛岡で新婚生活／日本一の代用教員／北海道漂泊 函館・札幌・小樽・釧路／作家失格・新しい啄木の誕生／大逆事件と『一握の砂』／晩年の輝き／群馬県と啄木）／II 啄木詩歌の世界（詩集『あこがれ』／「黄草集」ノート／「ローマ字日記」／歌集『一握の砂』／詩稿ノート「呼子と口笛」／歌集『悲しき玩具』）／III 資料編（古い啄木像から新しい啄木像へ（近藤典彦）／高橋城司における谷静湖と啄木（高橋良雄）／石川啄木略年譜／展示資料目録

22. 『第 20 回特別展 図録 中島周介・土屋文明 木草の交わり―「中島周介旧蔵資料」展』 2002 年 12 月 6 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：中島周介とその周辺 一 一 恩師・会津八一、妻・郁子（中島周介 [歌人・中島周介／植物愛好家／被爆体験]／恩師・会津八一／妻・郁子 [郁子・歌人との交流 {郁子と窪田空穂／郁子と岡麓／郁子と島木赤彦／郁子と中村憲吉／郁子と斎藤茂吉}]）／中島周介とその周辺 二 一 アララギ歌人との交流（師・中村憲吉 [憲吉・周介宛書簡／憲吉・直筆短歌／憲吉の死]／周介と斎藤茂吉 [茂吉・直筆短歌／茂吉・周介宛書簡]／その他の交流 [古泉千樞／鹿兒島寿蔵]）／中島周介と土屋文明 一 その周辺（歌を通して [文明・直筆短歌]／植物を通して [文明書簡に見る・木草の交わり（戦前・戦中）／文明書簡に見る・木草の交わり（戦後）／仲介者・福田寛]／周介の死）／資料編（「追憶 中島周介先生」（福田寛）／「回想 中島周介さん」（扇畑忠雄）／周介・歌会参加記録／周介・「アララギ」掲載短歌／郁子短歌掲載雑誌一覧／周介略年譜／郁子略年譜／展示資料目録／編集後記／参考図書

23. 『第 21 回特別展「群馬の俳人」図録』 2003 年 2 月 16 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：「群馬の俳人」生涯図・講演会のお知らせ・資料提供者・協力者／展示館系俳人系統図／「群馬の俳人と俳句の流れ」（中里麦外）／群馬の俳人（天野桑古／新井閑窓／磯部草丘（尺山子）／浅香甲陽／村越化石／金子晃典／倉田萩郎／長谷川歌男／高橋香山／関口雨亭／村上蛸魚／浦野芳雄／村上鬼城／田島武夫／金子刀水／植村婉外／楠部南崖／岡本癖三酔／倉田素商／植村占魚／清水寥人／松野自得／長谷川零余子／岩崎楽石／前山巨峰／相葉有流／堀口星眠／須田優子／高柳重信／竹内雲人／田角瑞芳／阿部米太郎／坂本七郎（波之）／町田一草／九貫十中花／小川安夫）／県内及び関係俳誌の紹介／展示資料目録／編集後記・参考図書

24. 『第 15 回企画展 図録 伊藤信吉展 一追悼・上州烈風の詩人一 伊藤信吉 その文学的軌跡 詩と評論』 2003 年 10 月 3 日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：「いつものように ご案内ひとこと」／「伊藤信吉さんと私」／「前橋市街図」／伊藤信吉 その文学的軌跡 詩と評論／第一部 誕生～第 2 詩集『上州』直前（I ふるさとの風にふかれて [①群馬郡元総社村／②父・美太郎／③生地点]）／II 詩人誕生

[①文学的めざめ {愛読書／投稿詩人／朔太郎との邂逅}／③同人誌への参加／④状況・詩的自立を目指して／⑤帰郷・詩的アナキズムへ／⑥再上京・『学校詩集』刊行]／III プロレタリア文学運動の中で [①プロレタリア詩人・伊藤信吉／②「ナップ」編集実務へ／③妻・松山達枝／④運動からの脱落]／IV 第一詩集『故郷』／V 文学評論への道 [①上毛新聞記者／②筆名を使って／③第一評論集『島崎藤村の文学』／④宇都宮時代／⑤評論家として／⑥戦争時・三篇]／VI 新しい時代の中で [①花開くサークル詩／②詩へのいざない・『現代詩の鑑賞』他／③近代詩研究／④回想《邂逅の詩人たち》]／紀行 詩のふるさとへ／詩人研究 I・オリオン三星の詩人／詩人研究 II・郷土詩人)／第2部 第2詩集『上州』～評論「室生犀星」(I 詩集『上州』～信吉、再出発のうた一／II 詩集『天下末年』—社会的性質の詩—／III 上州方言への思い／IV 俳人信吉／V 憂愁・赤煉瓦／VI 老年諧謔／VII 無名文人への照射 [①上州大逆事件の歌人／②上州近代の作家・佐藤緑葉／③日本追放の詩人たち]／VIII 文学館館長として／IX 最後の評論「室生犀星」)／伊藤信吉論・参考資料／展示資料目録／編集後記・参考文献

25.『群馬文学全集刊行記念 第25回特別展 群馬の歌人 —近代短歌の豊穡な展開—』

2004年2月1日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：「群馬の歌人」生涯図／関連行事・資料提供協力者・協力者／歌人系統図／群馬近代短歌の中から（有川美亀男）／群馬の歌人（村上成之／土屋文明／斎藤喜博／狩野登美次／田島武夫／素像泰一郎／阿部鳩雨／大澤雅休／藤岡林城／神保冷平／吉田緑泉／角田蒼穂／中澤豊三郎／住谷三郎／中曾根白史／生方たつゑ／萩原朔太郎／小見可憐／北原放二／木下謙吉／田中辰雄／高草木暮風）／群馬の新短歌（佐々木靖章）（大槻三好／吉野秀雄／江口きち／石田マツ／福田貂太郎）／群馬の歌人たち（井田金次郎）／群馬歌人歌誌略年譜／展示資料目録／編集後記

26.『第16回企画展 群馬県文学全集刊行記念 群馬の詩人 —近現代詩の革新地から—』

2004年10月2日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：群馬の近代詩人生涯図／群馬の近代詩人系統図／群馬詩史における時代的燃焼（梁瀬和男）／群馬の詩人（湯浅半月／田山花袋／萩原朔太郎／大手拓次／長沢三郎／岡田刀水士／佐藤緑葉／山村暮鳥／小山茂市／石坂斐三／神保治人／高橋元吉／松井好夫／清水房之丞／天野静子／森千魁／東宮七男／萩原恭次郎／豊田勇／塩野筈三／坂本七郎／横地正次郎／大島友次郎／吉本孝一／新島栄治／根岸正吉／高橋辰二／伊藤信吉／北上健／高瀬豊二／佐藤正二／清水暉吉／おの・ちゅうこう／降旗足穂／今井善一郎／豊田一男／木村次郎／除村一学／梁田ぱく／島田利夫／富岡啓二／中沢清／長澤延子／桜井哲夫／小林弘明／越一人／梁瀬和男／真下章／長谷川安衛／久保田穰／大橋政人）／群馬の詩人たち（久保田穰）／東毛の詩誌と詩人（長谷川安衛）／解題（真下章）／群馬の詩人たち（大橋政人）／群馬詩誌略年譜／展示資料目録／編集後記／関連行事・資料提供協力者・協力者

目録

1. 『阿部米太郎文庫目録 —「おち栗」「東北評論」関係資料—』 1998年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：原稿類／自筆類／書簡類 封書／書簡類 葉書／書簡類 その他／印刷物／視聴覚資料／遺品類／その他
2. 『日根野徳二文庫目録—「大調和」関係資料— 石田文四郎文庫目録—「表現」関係資料—』 1999年1月11日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：特別資料〈1. 原稿類／2. 自筆類／3. 書簡類 封書／4. 書簡類 葉書／5. 書簡類 名刺／6. 書画類／7. 印刷物〉／図書〈1 哲学（哲学、倫理学、宗教）／2 歴史（歴史、伝記、地理、紀行）／3 社会科学（民俗）／5 技術（建築学）／6 産業（林業）／7 芸術（美術、演劇、諸芸）／8 言語／9 文学〔日本文学（910）〔詩歌（911）／和歌（911.1）／俳句（911.3）／詩（911.5）／歌謡（911.6）／戯曲（912）／小説、物語（913）／近代小説（913.6）／評論（914）／日記、紀行、書簡（915）／作品集（918）〕／外国文学（920～）〕／雑誌
3. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 相葉有流文庫 資料目録』 1999年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：特別資料〈1 原稿類〔100 原稿／140 原稿本〕／2 自筆類〔200 書簡／210 メモ／220 ノート類／230 一括資料／240 冊子類〕／3 書簡類〔300 封書／310 葉書／320 名詞〕／4 書画類〔400 短冊／410 色紙／420 まくり／450 掛軸〕／5 印刷物〔500 一枚物／510 絵葉書／520 パンフレット／530 新聞／540 冊子／590 その他〕／6 視聴覚〔600 写真／620 録音テープ／640 冊子〕／7 遺品〔730 賞罰／740 旧蔵品／750 文書／770 家族資料／790 その他〕／図書〈0 総記〔020 図書、書誌学／040 一般論文集、講演集／050 逐次刊行物／060 団体、博物館／070 新聞、ジャーナリズム／080 叢書、全集／081 日本語〕／1 哲学〔110 哲学各論／120 東洋思想／121 日本思想／122 中国思想・中国哲学／126 インド思想／130 西洋哲学／140 心理学／150 倫理学、道徳／160 宗教／170 神道／180 仏教／181 仏教教理、仏教哲学／182 仏教史／183 経典／184 法話・説教集／185 寺院／186 仏会／188 各宗／190 キリスト教〕／2 歴史〔210 日本史〔通史（210.1）／原始時代、考古学（210.2）／古代（210.3）／中世史（210.4）／近世史（210.5）／近代史（210.6）／昭和時代（210.7）〕／213 関東地方／214 北陸地方／219 九州地方／220 アジア史／230 ヨーロッパ史／250 北アメリカ史／280 伝記／290 地理、地誌、紀行／291 日本／292 アジア／293 ヨーロッパ／295 北アメリカ〕／3 社会科学〔310 政治／320 法律／330 経済／350 統計／360 社会学・社会問題／370 教育／380 風俗習慣、民俗学／389 文化人類学／391 戦争〕

／4 自然科学（数学・地学・植物・医学等）／5 工学（建築学・家政学等）／6 産業（農業・商業・交通等）／7 芸術 [710 彫刻／720 絵画／750 工芸／760 音楽／770 演劇／780 体育, スポーツ／790 諸芸, 娯楽]／8 言語／9 文学 [910 日本文学／911 詩歌 {和歌 (911.1)／万葉集 (911.12)／古代 (911.13)／中世 (911.14)／近世 (911.15)／近代 (911.16)／俳句 (911.3)／俳諧史, 俳人伝・研究 (911.302)／辞典 (911.303)／論文集, 評論集, 講演集, 俳話, 評釈, 鑑賞 (911.304)／団体 (911.306)／研究法, 指導法, 作句法, 作句用書, 歳時記 (911.307)／叢書, 全集, 選集 (911.308)／松尾芭蕉 (911.32)／元禄期 (911.33)／安永・天明期 (911.34)／文化・文政・天保期 (911.35)／近代 (911.36)／俳人伝・研究 (911.362)／複数作家の句集 (911.367)／個人句集 (911.368)／近代連句 (911.38)／詩 (911.5)}／912 戯曲／913 小説, 物語／914 評論／915 日記, 紀行, 書簡／916 ルポルタージュ／918 作品集／919 漢詩文, 日本漢文学／920 中国文学／930 英米文学／940 ドイツ文学／950 フランス文学／970 イタリア文学／980 ロシア文学]／(國書／洋書)／雑誌

4. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 土屋文明文庫 資料目録』 2000年3月24日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：特別資料〈1 原稿類 [100 原稿]／2 自筆類 [210 メモ／230 一括資料]／3 書簡類 [300 封書／310 葉書／390 その他]／4 書画類 [410 色紙／420 まくり／430 カルタ／450 掛軸]／5 印刷物 [500 一枚もの／520 パンフレット類／530 新聞／540 冊子／590 その他]／6 視聴覚 [610 録画資料／620 録音資料]／7 遺品類 [700 用具／710 調度／720 衣類／730 賞罰／740 旧藏品／790 その他]／9 その他〉／(図書)〈0 総記 [020 図書, 書誌学／030 百科事典／040 一般論文集／050 逐次刊行物／070 ジャーナリズム, 新聞／080 叢書, 全集／081 日本語／082 中国語]／1 哲学 [120 東洋思想／121 日本思想／130 西洋哲学／140 心理学／150 倫理学, 道徳／160 宗教／170 神道／180 仏教／190 キリスト教]／2 歴史 [210 日本史 {通史 (210.1)／原始時代, 考古学 (210.2)／古代 (210.3)／中世史 (210.4)／近世史 (210.5)／近代史 (210.6)／昭和時代 (210.7)}／212 東北地方／213 関東地方／215 中部地方／216 近畿地方／217 中国地方／219 九州地方／220 アジア史／280 伝記／288 系譜, 家史／289 個人伝記／290 地理, 地誌, 紀行／291 日本 {東北地方 (291.2)／関東地方 (291.3)／北陸地方 (291.4)／中部地方 (291.5)／近畿地方 (291.6)／中国地方 (291.7)／九州地方 (291.9)／292 アジア}／3 社会科学 [310 政治／320 法律／330 経済／360 社会／370 教育／374 学校経営・管理／375 教育課程, 学習指導／376 初等・中等教育／377 大学／380 風俗習慣, 民俗学／382 風俗史, 民族誌／383 衣食住の習慣／386 年中行事／388 伝説, 民話／389 民族学, 文化人類学]／4 自然科学 [440 天文学／449 暦学／450 地球科学, 地学／459 鉱物学／460 生物化学／468 生態学／

470 植物学／471 一般植物学／472 植物地理. 植物誌／474 菌類／479 被子植物
 ／480 動物学／490 医学]／5 技術(工学, 家政学)／6 産業[610 農業／620
 園芸／640 畜産業／647 みつばち／650 林業／660 水産業／666 水産増殖・養殖
 業／670 商業／680 運輸. 交通]／7 芸術[702 芸術史. 美術史／703 書誌／706
 団体／708 叢書. 全集／709 芸術政策／710 彫刻／720 絵画／740 写真／750
 工芸／760 音楽／770 演劇／780 スポーツ. 体育]／8 言語[810 日本語／811
 音声. 音韻. 文字／813 辞典／815 文法. 語法／816 作文. 文体／820 中国語／
 830 英語]／9 文学[910 日本文学{日本文学史(910.2)／古代(910.23)／中世
 (910.24)／近世(910.25)／近代(910.26)／作家の伝記及び作家研究(910.268)
 ／文芸家《列伝》(910.28)／辞典(910.3)／評論. 随筆. 雑著(910.4)／逐次刊行
 物(910.5)／叢書. 全集(910.8)}／911 詩歌{詩歌史(911.02)／エッセイ(911.04)
 ／叢書. 全集(911.08)／和歌(911.1)／和歌史. 歌人伝(911.102)／参考図書(911.103)
 ／歌論. 歌話(911.104)／歌会(911.106)／作歌法(911.107)／叢書. 合集(911.108)
 ／記紀歌謡(911.11)／万葉集(911.12)／書誌. 索引(911.121)／作家研究(911.122)
 ／辞典(911.123)／評釈. 注釈. 語訳(911.124)／特殊研究(911.125)／外国語訳
 (911.129)／古代(911.13)／中世(911.14)／近世(911.15)／近代(911.16)／
 歌人伝・研究(911.162)／複数作家の歌集(911.167)／個人歌集(911.168)／俳句
 (911.3)／松尾芭蕉(911.32)／元禄期(911.33)／近代(911.36)／個人句集(911.368)
 ／近代連句(911.38)川柳(911.4)／詩(911.5)／歌謡(911.6)}／912 戯曲／913
 小説. 物語／914 評論／915 日記. 書簡. 紀行／916 ルポルタージュ／918 作品
 集{中世(918.4)／近代(918.6)／個人全集(918.68)}／919 漢詩文. 日本漢文学
 ／920 中国文学／930 英米文学／940 ドイツ文学／950 フランス文学／980 ロ
 シア文学]／國書[1 總記{I 圖書／IV 隨叢}／4 言語{VI 辭書}／5 文學{I
 國文／II 漢文／III 和歌}／7 歴史{II 日本史}／8 地理{II 日本地誌}／9
 政治・法制{IV 法令}／15 藝術{I 總記}]／漢籍[1 經部{IV 詩類／VI 春
 秋類／X 小學類}／2 史部{I 正史類／X 時令類／XI 地理類／XIII 政書類／
 XIV 書目類／XV 金石類}／3 子部{II 儒家類／VI 醫家類／X 雜家類／XI 類
 書類／XII 小説家類／XIII 釋家類／XIV 道家類}／4 集部{II 別集類／III 總
 集類／IV 詩文評類／V 詞曲類}／5 叢書類{I 雜叢類／輯佚類}／6 新學之部]
 ／洋書]／雜誌

5. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 佐藤緑葉 資料目録 森田素夫文庫 資料目録 浅
 田晃彦文庫 資料目録』 2000年5月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：I. 特別資料〈1 原稿類[100 原稿／110 原稿束]／2 自筆類[210 一枚物
 ／220 ノート／240 冊子]／3 書簡類[300 封書／310 葉書／360 書簡類／370
 書簡卷]／5 印刷物[500 一枚物／520 パンフレット類／540 冊子]／6 視聴覚

- [640 冊子] / 7 遺品類 [740 旧蔵品] / II. 図書 <(1) 佐藤緑葉の著作 / (2) 佐藤緑葉に関する研究図書> / III. 雑誌 <(1) 佐藤緑葉の著作掲載誌 / (2) 緑葉研究掲載誌> / IV. 緑葉研究 / V. 関連資料
6. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 平井照敏文庫 資料目録』 2001年12月27日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：I. 図書 <0 総記 / 1 哲学 / 2 歴史 / 3 社会科学 / 4 自然科学 / 5 工学 / 6 産業 / 7 芸術 / 8 言語 / 9 文学 / 911 詩歌 [和歌 (911.1) / 万葉集 (911.12) / 古代 (911.13) / 中世 (911.14) / 近世 (911.15) / 近代 (911.16) / 個人歌集 (911.168) / 歌合 (911.18) / 連歌 (911.2) / 俳句 (911.3) / 俳諧史. 俳人伝・研究 (911.302) / 辞典 (911.303) / 論文集. 評論集. 講演集. 俳話. 評釈. 鑑賞 (911.304) / 逐次刊行物 (911.306) / 団体 (911.306) / 研究法. 指導法. 作句法. 作句用書. 歳時記 (911.307) / 叢書. 全集. 選集 (911.308) / 芭蕉以前 (911.31) / 松尾芭蕉 (911.32) / 元禄期 (911.33) / 安永・天明期 (911.34) / 文化・文政・天保期 (911.35) / 近代 (911.36) / 俳人伝・研究 (911.362) / 複数作家の句集 (911.367) / 個人句集 (911.368) / 近代連句 (911.38) / 川柳. 狂句 (911.4) / 詩 (911.5) / 詩史. 詩人伝・研究 (911.52) / 個人詩集 (911.56) / 複数作家の詩集 (911.568) / 児童詩. 童謡 (911.58) / 歌謡 (911.6)] / 912 戯曲 / 913 小説. 物語 / 914 評論 / 915 日記. 紀行. 書簡 / 916 ルポルタージュ / 917 箴言. アフォリズム. 寸言 / 918 作品集 / 919 漢詩文. 日本漢文学 / 920 中国文学 / 930 英米文学 / 940 ドイツ文学 / 950 フランス文学 / 960 スペイン文学 / 970 イタリア文学 / 980 ロシア文学 / 990 その他の諸文学> / II. 雑誌 / III. 海外出版物 / IV. 特別資料
7. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 山村暮鳥 資料目録 大手拓次 資料目録』 2002年6月30日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：I. 特別資料 <1 原稿類 [100 原稿] / 2 自筆類 [220 ノート] / 3 書簡類 [300 封書 / 310 葉書 / 320 名刺] / 4 書画類 [450 掛軸] / 5 印刷物 [500 一枚物 / 510 絵葉書 / 530 新聞 / 540 冊子 / 590 その他] / 6 視聴覚 [600 写真 / 640 冊子] / 7 遺品類 [700 用具 / 720 衣類 / 740 旧蔵品 / 760 葬儀関係 / 770 家族資料]> / II. 図書 <(1) 山村暮鳥の著作 / (2) 山村暮鳥研究及び作品掲載図書> / III. 雑誌 <(1) 山村暮鳥の著作掲載誌 / (2) 暮長剣級掲載誌> / IV. 関連資料 / V. 視聴覚資料
8. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 高橋元吉文庫 資料目録』 2002年11月15日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：特別資料 <3 書簡類 / 4 書画類> / 雑誌
9. 『群馬県立土屋文明記念文学館蔵 八木保太郎文庫 資料目録』 2004年9月8日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：I. 図書／II. 雑誌／III. 特別資料

紀要

1. 『風 文学紀要』

1-1. 『風 文学紀要』 第1号 1997年 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：序として（伊藤信吉）／「阿部家使用」の傍らに（伊藤信吉）〈飯塚林朔・幸徳秋水手帳の近衛兵／工藤六太郎・資金調達依頼の調書〉／土屋文明の新資料について（塩崎猛雄）／大手拓次詩稿（林政美）／吉野秀雄 高橋元吉宛書簡（一）（神保昇一）／教育普及活動の実践と課題（堀口茂樹）／文学館におけるボランティアの導入について（実践報告と課題）（住谷一水）

1-2. 『風 文学紀要』 第2号 1998年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：タマにはオタクラ 巻頭妄言（伊藤信吉）／阿部家資料の基礎報告—貴重な資料を有効に利用していただくために—（小池明子 吉田佳代子 渡辺綾子）／草野心平の前橋時代概観—猪狩満直宛書簡翻刻を中心に— 付 高村光太郎「赤城書簡」翻刻（石山幸弘）／土屋文明の資料について（塩崎猛雄）／吉野秀雄 高橋元吉宛書簡（二）（神保昇一）／大手拓次「二つの祈り」詩稿（林政美）／本館における資料整理の方法と情報提供システムについて（今井恵子）／アメリカ・カナダの博物館ボランティアの活動視察報告と提言（平俊夫）

1-3. 『風 文学紀要』 第3号 1999年3月24日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：土屋文明の資料について（塩崎猛雄）／吉野秀雄 高橋元吉宛書簡（三）（神保昇一）／高橋元吉とその周辺—書簡翻刻その他—（石山幸弘）／大手拓次詩日記「薔薇を飾る」（一）（林政美）／紹介 天野桑古家集と版木（伊藤信吉）／月例文芸講座の実施状況と課題（堀口茂樹）／特別資料の整理方法について（今井恵子 吉田佳代子）

1-4. 『風 文学紀要』 第4号 2000年3月24日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：紹介 田中辰雄 夭折した歌人・作家（伊藤信吉）／斎藤喜博宛土屋文明書簡等について（塩崎猛雄）／大手拓次詩日記「薔薇を飾る」（二）（林政美）／土田富士ノート（一）（神保昇一）／萩原恭次郎とその時代（一）—大正六・七年「日記」翻刻・養子縁組の周辺—（石山幸弘）／文学館における普及活動について（藤井節男 渡邊松男 矢野幸彦）

1-5. 『風 文学紀要』 第5号 2001年6月15日 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：暮鳥・上州アヴァンギャルドの回顧（伊藤信吉）／萩原恭次郎とその時代（二）
—「萩原恭次郎習作ノートA」翻刻—（石山幸彦）／土田富士ノート（二）（神保昇一）
／大手拓次詩日記「薔薇を飾る」（三）（田口信孝）／海外への俳句の広がり—海外俳
人へのアンケートより（田口信孝）／久米正雄宛土屋文明書簡について（本多勝）／
文学館における普及活動について（藤井節男 渡邊松男 矢野幸彦）

1-6. 『風 文学紀要』 第6号 2002年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学
館

収録：牧水の歌（大正八年 前橋・榛名の旅にて）（神保昇一）／大手拓次詩日記「薔
薇を飾る」（四）（田口信孝）／歌人江口きちについて—特別展「武尊の青春—江口き
ちの世界」を終えて—（本多勝）／大逆事件の飛沫（一） 阿部米太郎旧蔵資料「新
村忠雄 阿部米太郎宛書簡 翻刻」（石山幸弘）

1-7. 『風 文学紀要』 第7号 2003年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学
館

収録：石川啄木寄稿の群馬の雑誌—「野の花」「暁聲」「野より」（田口信孝）／新収蔵
資料「土屋文明 岡田^{ただし}眞宛書簡」について（本多勝）／岡本癖三酔葉書翻刻（唐澤
龍三）／大逆事件の飛沫（二） 阿部米太郎旧蔵資料「長加部寅吉・遠藤友四郎書簡
翻刻」（石山幸弘）

1-8. 『風 文学紀要』 第8号 2004年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学
館

収録：日露戦争従軍作家と歌人（伊藤信吉）／「土屋文明 岡田^{ただし}眞宛書簡」につい
て（二）（本多勝）／総合誌「黎明」と文芸誌「山と川」（田口信孝）／村上成之『歌
集 翠微』草稿翻刻（唐澤龍三）／大逆事件の飛沫（三） 阿部米太郎旧蔵資料「茂
木一次書簡」翻刻（石山幸弘）

1-9. 『風 文学紀要』 第9号 2005年3月31日 発行：群馬県立土屋文明記念文学
館

収録：「土屋文明 岡田^{ただし}眞宛書簡」について（三）（本多勝）／大手拓次散文稿「井
戸の不思議」・「墓の行方」（田口信孝）／岡本癖三酔の世界（唐澤龍三）／大逆事件の
飛沫（四） 山本耕造覚え書き・坂梨春水書簡翻刻（石山幸弘）

研究誌（シリーズ）

1. 『く土屋文明記念館リブレ』 塙新書』

1-1. 『歌人 土屋文明—ひとすじの道— 塙新書 72』 1996年6月30日 編者：土屋
文明記念文学館 発行：塙書房／白石タイ

収録：はじめに（平岡敏夫）／一 榛名山—明治二十三年から明治四十二年—（後
藤直二）／二 『ふゆくさ』の頃—青年期から壮年期へ—（清水房雄）／三 ア

ララギ——壮年期の文明——（本林勝夫）／四 万葉散策——文明の強烈な執念——
（宮地伸一）／五 山下水——疎開地吾妻——（吉田漱）／六 青南の日々（小市巴
世司）／付 土屋文明略年譜

1-2.『群馬の作家たち 〈土屋文明記念館リブレ〉 塙新書 74』 1998年6月30日 編
者：土屋文明記念文学館 発行：塙書房／白石タイ

収録：はじめに（伊藤信吉）／凡例／韻文編〈一詩一 [湯浅半月（半田喜作）／高村
光太郎（和田義昭）／山村暮鳥（和田義昭）／平井晩村—薄倅の民謡詩人—（小保方
康行）／北原白秋（和田義昭）／萩原朔太郎（梁瀬和男）／大手拓次—近代詩成立の
象徴詩人—（斎田朋雄）／新島栄治（長谷川安衛）／室生犀星（和田義昭）／佐藤惣
之助（長谷川安衛）／根岸正吉（小山和郎）／小山茂市—恩師・山村暮鳥との共生—
（松田孝夫）／高橋元吉（関俊治）／田中冬二（愛敬浩一）／東宮七男（関俊治）／
磯貝雲峰（半田喜作）／萩原恭次郎（長谷川安衛）／岡田刀水士（梁瀬和男）／清水
房之丞（長谷川安衛）／草野心平（佐藤房儀）／豊田勇（梁瀬和男）／高橋辰二—農
民詩人の多彩な生涯—（斎田朋雄）／伊藤信吉（佐藤房儀）／横地正次郎（寺島珠雄）
／吉本幸一（長谷川安衛）／崔華國（小山和郎）／真下章（小山和郎）]／一俳句一 [村
上鬼城（中里麦外）／正岡子規（平岡敏夫）／倉田萩郎（中里麦外）／岡本癖三醉（中
里麦外）／長谷川零余子（中里麦外）／松野自得（中里麦外）／水原秋櫻子（平井照
敏）／加藤楸邨（平井照敏）／相葉有流（中里麦外）／石田波郷（平井照敏）／上村
占魚（中里麦外）／村越化石—心眼明眸の俳人—（林桂）／高柳重信—俳句尽忠の人—
（林桂）／堀口星眠（平井照敏）]／一短歌一 [村上成之（大井恵夫）／与謝野晶子
—歌の旅と上州の山河（持谷靖子）／長塚節（福田秀夫）／會津八一（若月忠信）／
竹久夢二（井田金次郎）／須藤泰一郎（関口克巳）／大沢雅休（上村房江）／土屋文
明（大井恵夫）／阿部鳩雨（岸大洞）／原三郎（大井恵夫）／角田蒼穂（大井恵夫）
／吉野秀雄（上村房江）／生方たつゑ—心の支えを歌に求めて—（案田順子）／狩野
登美次（大塚正巳）／外所芳得（樋口秀次郎）／斎藤喜博（関口克巳）／江口きち（田
嶋一郎）／滝沢亘（三枝昂之）／石田マツ（岸大洞）]／散文編〈一小説一 [幸田露
伴（平岡敏夫）／徳富蘆花（鶴殿昭）／田山花袋（渡邊正彦）／島崎藤村（神田重幸）
／綿貫六助（田嶋一郎）／志賀直哉（町田榮）／山口寒水（大井恵夫）／中沢静雄（佐
野進）／佐藤緑葉（福田久賀男）／谷崎潤一郎（渡邊正彦）／白石実三（渡邊正彦）
／新井紀一（佐野進）／生方敏郎（岸大洞）／橋外男（福原太一）／横光利一（渡邊
正彦）／和田伝（柳井久雄）／群司次郎正（福原太一）／坂口安吾（若月忠信）／太
宰治（渡邊正彦）／半田義之（上村房江）／南川潤（若月忠信）／浅田晃彦（森猛）
／小瀧和子（田嶋一郎）／萩原葉子（松本鶴雄）／清水寥人（清水昇）／永岡慶之助
（小西敬次郎）／黒井千次（松本鶴雄）／司修—影の核心—（岡田芳保）／豊田有恒
（小西敬次郎）／高斎正（小西敬次郎）／金井美恵子（松本鶴雄）／南木佳士（松本

鶴雄)] /—随筆— [エルウィン・フォン・ベルツ (木暮金太夫) /木暮理太郎 (長谷川安衛) /ブルーノ・タウト (水原徳言) /佐藤垢石 (大井恵夫)] /—評論— [塚越停春 (平岡敏夫) /阿部真之助 (大塚正巳) /羽仁五郎 (塚越靖久) /田中純一郎 (関俊治) /市川為雄 (関俊治) /百目鬼恭三郎 (小西敬次郎)] /—児童— [石原和二郎 (関口克巳) /松美佐雄 (福原太一) /林柳波 (岸大洞) /大木雄二 (福原太一) /青柳花明 (関口克巳) /おの・ちゅうこう—望郷の詩人— (池田恵一) /木暮正夫 (宮下全司)] /—脚本— [大島萬世 (長谷川安衛) /八木保太郎 (関俊治) /小栗康平—川沿いのつぶやき— (岡田芳保)] /—思想— [新島襄 (半田喜作) /柏木義円 (半田喜作) /内村鑑三 (新藤二郎) /住谷天来 (上村房江) /高島素之 (岩根承成)] /作家索引 (五十音順) /執筆一覧 (五十音順) /あとがき

1-3. 『佐藤緑葉の文学——上州近代の作家—— 〈土屋文明記念文学館リブレ〉 塙新書 75』 1999年3月16日 著者：伊藤信吉 発行：塙書房/白石タイ

収録：上州近代の作家——序言として〈桑並木の街で/山地の町・海辺の村 若山牧水・佐藤緑葉・そして田中辰雄〉/作家道程とその作品〈山地農村の郷土色 自然主義文学左派の作品 [「舊知己」 元教員のおでん屋老人/「秋」 明治年代末期農村の若衆の生態/「寂寥」 生地近くでの教員体験から/「河がらす」 零落無頼・泥酔男の生きざま/「渡り鳥」 行路病者・行き倒れの死の惨劇/「芋の子」 乞食ふう親子の生死の哀れ] /都市的作品をめぐって [月島二号地 異国情緒と工業地帯と/三号地造成 生と死の想念の点綴/過労死 印刷工の死と作者の思い/都市勤労者 十年余の新聞社体験] /詩集『塑像』について/新散文詩への道 [『創作』誌上での文学運動/未完作品集のこと] /長篇『黎明』の前後/佐藤緑葉論〈時代閉塞の谷間で『トルストイの思想と文学』をめぐって/反戦小説の翻訳 『近代思想』寄稿とその社会主義的往来/二人の革命家像 大杉栄、荒畑寒村を主体とする作品〉/覚え書/佐藤緑葉 執筆・発表作品目録 (伊藤信吉編) /佐藤緑葉 主要著作目録 (福田久賀男編) /佐藤緑葉 略年譜 (福田久賀男編)

研究誌

1. 『ぐんまの文学ガイド』 1998年3月30日 編集：上毛新聞社 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：カラーグラビア/群馬の文人たち〈萩原朔太郎/大手拓次・山村暮鳥/萩原恭次郎・伊藤信吉/高橋元吉・岡田刀水士・崔華國/室生犀星・草野心平/平井晩村・東宮七男・根岸正吉/高村光太郎・尾崎喜八/石原和二郎・おのちゅうこう・林柳波/土屋文明/吉野秀雄・村上成之/江口きち・生方たつゑ・大沢雅林/若山牧水・竹久夢二・与謝野晶子/村上鬼城・上村占魚/相葉有流・高柳重信/長谷川零余子・村越化石/田山花袋/島崎藤村・佐藤緑葉/志賀直哉・徳富蘆花/坂口安吾・南川潤/萩原葉子・浅

田晃彦・森田素夫／司修・金井美恵子・南木佳士）／文学館ガイド（群馬県立土屋文明記念文学館／前橋文学館／竹久夢二伊香保記念館・徳富蘆花記念文学館／田山花袋記念館・鬼城草庵（村上鬼城資料館）／生方記念文庫・三国路紀行文学館）／年表

2. 『群馬文学年表』 2003年4月7日 監修：伊藤信吉 編集：林桂／梁瀬和男／井田金次郎／久保田穰／滝沢友子 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：群馬文学年表（プレ文学年表／戦前篇／戦後篇）／付録（文芸誌一覧／文学賞受賞者一覧／文学館展示一覧／文学者生没年一覧）

研究書

1. 『私の村ことば 伊藤信吉方言メモ』 2002年11月30日 編集：飯塚薫 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：あ／い／う／え／お／か／き／く／け／こ／さ／し／す／せ／そ／た／ち／つ／て／と／な／に／ぬ／ね／の／は／ひ／ふ／へ／こ／ま／み／む／め／も／や／ゆ／よ／ら／り／る／ろ／わ

全集

1. 『群馬文学全集』
1-1. 『群馬文学全集第一巻 田山花袋』 1999年2月24日 監修：伊藤信吉 編者：平岡敏夫 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：小説〈田舎教師／時は過ぎゆく／一平卒／兄／祖父母／一家の主人／河ぞひの家〉／紀行・随筆〈昔の家を見に／草津から伊香保まで／関東平野の雪／湖のほとり／雪の伊香保〉／田山花袋・人とその時代〈田山花袋全集に寄す（島崎藤村）／田山花袋といふ人（窪田空穂）／田山花袋氏の想ひ出（西村眞次）／文學維新運動の第一人者（菊池寛）／『定本花袋全集』第六巻・解説（中村白葉）／解説（平岡敏夫）／年譜・主要著作目録（渡邊正彦編）
1-2. 『群馬文学全集第二巻 土屋文明』 1999年1月30日 監修：伊藤信吉 編者：小市巳世司 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
収録：短歌〈ふゆくさ／山谷州／山下水／往還集 抄／六月風 抄／少安集 抄／山の間の霧より 抄／葦菁集 抄／自流泉 抄／青南集 抄／続青南集 抄／続々青南集 抄／青南後集 抄／青南後集以後 抄〉／随筆・評論〈羊歯の芽〔羊歯の芽／信濃の六年／写生から出て写生まで〕／日本紀行／萬葉集上野国歌私注〉／土屋文明・人とその時代〈「ふゆくさ」讀後（芥川龍之介）／文明短歌の秘密をさぐる（其一）／（山本有三 山宮允 土屋文明 小野昌繁）／中国を歩いて（加藤楸邨）／高崎につながる思出あれこれ（土屋文明）／解説（小市巳世司）／年譜・著作目録（伊藤安治編）

- 1-3. 『群馬文学全集第三巻 村上鬼城 長谷川零余子』 1999年3月20日 監修：伊藤信吉 編者：林桂 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：村上鬼城〈俳句『鬼城句集』(大正六年版・全) {新年／春／夏／秋／冬}／『鬼城句集』(大正十五年版・抄) {新年／春／夏／秋／冬}／『続鬼城句集』(昭和八年版・抄) {新年／春／夏／秋／冬}／稿本「第三鬼城句集」(昭和十三年版・全) {新年／春／夏／秋／冬}／稿本「第三鬼城句集」以後／補遺}／随筆・評論等 [諸君は如何なる縁にて我新俳句を作り始めたるか／長さ一町の間を寫生せよ／十年間／雪の下／死んで行く人／杉風論／少林山普茶吟行の記／並榎村舎之記]／村上鬼城・人とその時代 [村上鬼城(高濱虚子)／序(大須賀乙字)／村上鬼城(日野草城)／鬼城翁の人と藝術(前田普羅)]／解説(林桂)／年譜・書誌(林桂編)}／長谷川零余子〈俳句『雑草』(大正十三年版・全) {明治三十八年／明治三十九年／明治四十年／明治四十一年／明治四十二年／明治四十三年／明治四十四年／明治四十五年・大正元年／大正二年／大正三年／大正四年／大正五年／大正六年／大正七年／大正八年／大正九年／大正十年／大正十一年／大正十二年／大正十三年}／『零余子句集第二』(昭和七年版・全) {大正十三年／大正十四年／大正十五年／臺灣遊草／拾遺／昭和二年／昭和三年}]／小説・評論等 [はしがき『自然へ避難して』／刑事部屋／子規俳句集／解雇されるまで／東海道徒歩旅行の記／立體俳句論]／長谷川零余子・人とその時代 [長谷川零余子(高濱虚子)／長谷川零余子と私(飯田蛇笏)]／解説(林桂)／年譜・書誌(林桂編)}
- 1-4. 『群馬文学全集第四巻 山村暮鳥』 1999年9月22日 監修：伊藤信吉 編者：和田義昭 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：詩〈三人の處女 [SAGESSE {I 創造の悲哀／II 性慾と靈智／III 聲}／光／ほろびゆくもの／理性の廢園／愛／かげ／風景]／聖三稜玻璃／風は草木にささやいた [I／II／III／IV／V／VI／VII／VIII／IX／X]／梢の巢にて／雲／黒鳥集より [I 黒鳥集 {1／2／3／4／5／6／7／8／9／10}]／月夜の牡丹 [月夜の牡丹／ある時／月の匂ひ／名刺／日向の林檎]／土の精神／万物節 [1／2／3／4]}／評論・随筆〈噫、開獄の日／淺薄なる現実肯定を嗤ふ／道／反面自伝／伊香保とはどんなところか／赤城山／雪の淺間}／山村暮鳥・人とその時代〈聖ぷりずみずとに与ふ(室生犀星)／消息(室生犀星)／日本に於ける未來派の詩とその解説(萩原朔太郎)／消息(萩原朔太郎)／手紙(萩原朔太郎)／初めて會つた日(多田不二)／ねこ柳と山村さん(大關五郎)／一つの回想／暮鳥さんと私(江渡狄嶺)／覚え書き(草野心平)}／解説(和田義昭)／年譜・著書目録(神保昇一編)
- 1-5. 『群馬文学全集第五巻 萩原朔太郎』 1999年3月8日 監修：伊藤信吉 編者：那珂太郎 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：詩〈月に吠える [序(北原白秋)／序／詩集例言／竹とその哀傷／雲雀料理／

悲しい月夜／くさつた蛤／さびしい情慾／見知らぬ犬／長詩二篇／跋 健康の都市
 （室生犀星）／再版の序］／青猫〔序／凡例／幻の寢臺／憂鬱なる櫻／さびしい青猫
 ／閑雅な食慾／意志と無明／艶めける靈魂／附録 自由詩のリズムに就て〕／蝶を夢
 む〔蝶を夢む（詩集前篇）／松葉に光る（詩集後篇）／散文詩（四篇）〕／「青猫」以
 後〔第一書房版萩原朔太郎詩集より／新潮社版現代詩人全集萩原朔太郎集より〕／純
 情小曲集〔珍しいものをかくしてゐる人への序文（室生犀星）／自序／出版に際して
 ／愛憐詩篇／郷土望景詩／郷土望景詩の後に／跋（萩原恭次郎）〕／氷島／宿命〔散文
 詩／附録 散文詩自註〕／習作集（愛憐詩篇ノート）〔習作集第八卷（一九一三、四）
 より／習作集第九集（一九一三、九）より〕／拾遺詩篇〔拾遺詩篇より／散文詩・詩
 的散文より〕／未発表詩篇〔未発表詩篇より／原稿散逸詩篇より〕／虹を追ふひと 對
 話詩〕／小説〈猫町／ウォーソン夫人の黒猫／日清戦争異聞〉／エッセイ〈石段上り
 の街／田舎居住者から／田舎から都會へ／都會と田舎／追憶／非論理的性格の悲哀／
 身邊雜記（都會へ來てから）／秋日漫談（私の郷土）／青猫スタイルの用意に就いて
 ／日本詩歌の象徴主義／絃情詩物語／或る詩人の生活記録／田舎に歸りて／詩壇に出
 た頃／青猫を書いた頃／我が故郷を語る／「氷島」の詩語について／自轉車日記／郷
 土人の氣風／異邦人としての郷土詩人 ——大手拓次について——／現代と詩精神／
 早春三日／郷愁の詩人 與謝蕪村〕／萩原朔太郎・人とその時代〔『萩原朔太郎全集』
 覚え書（伊藤信吉）／萩原朔太郎年譜の形成（伊藤信吉）／萩原朔太郎年譜の完了（伊
 藤新吉）／対談 朔太郎の新しい貌（那珂太郎・大岡信）〕／解説（那珂太郎 伊藤信
 吉）／年譜・著書目録（佐藤房儀編）

1-6. 『群馬文学全集第六卷 大手拓次 岡田刀水士』 2000年10月20日 監修：伊
 藤信吉 編者：飯島耕一／梁瀬和男 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明
 記念文学館

収録：大手拓次〈詩〔初期詩篇／文語詩 九月の悲しみ より／宿命の雪 より／散
 文詩／翻訳詩〕／評論・日記等〔試論等／雜纂／書簡／日記〕／大手拓次・人とその
 時代〔『藍色の墓』の詩人に（北原白秋）／大手拓次君の詩と人物（萩原朔太郎）／墓
 の足跡—拓次の生涯—（逸見享）〕／解説（飯島耕一）／年譜・著書目録（林桂編）〕
 ／岡田刀水士〈詩〔初期詩篇／詩集『桃李の路』より／詩集『谷間』より／朗読詩集
 『純情の鏡』より／詩集『幻影哀歌』より／詩集『灰色の螢』より／遺稿詩集『憂愁
 の蘭』より〕／岡田刀水士・人とその時代〔岡田刀水士君のこと（草野心平）／一つ
 の終末点（伊藤信吉）〕／解説（梁瀬和男）／年譜・著書目録（梁瀬和男編）〕

1-7. 『群馬文学全集第七卷 佐藤緑葉 白石實三 田中辰雄』 2000年6月11日 監
 修：伊藤信吉 編者：伊藤信吉／渡邊正彦 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土
 屋文明記念文学館

収録：佐藤緑葉〈詩集『塑像』より〔序文／十月の朝／秋／白壁／七つの帕の舞／『美

はしきエレン』／窓の夕陽／水禽の群／静なる日／山の雪／Blank Mind／斷片／画廊にて／歸るみち／Dilemma／地下鉄』／散文詩〔塑像／街の荒野／Mrs K-の眼／少年の家出／黒い帆の船／工場より歸る群集／日向ぼっこ／灯の街へ／幼い芽／廣い國へ／ある男の死〕／小説〔薔知己／秋／櫂の樹蔭／潮沫／河がらす／渡り鳥／光の底／青い夜と花／煙／寂しき朝／安息日の朝の鐘／白い墓／無爲の打破〕／評論・隨筆〔早稲田時代の牧水／若山牧水と上信地方の自然／田山花袋について／五月／月島の渡しを越えて／靄降る夜／都會情調の斷片／トルストイの藝術／人間屠殺所／露西亞の戦争文學／散文詩の燃焼點／丹下先生へ〕／解説（伊藤信吉）／年譜・執筆・發表作品目録（伊藤信吉編）／白石實三〈小説〔春の街へ／冬の妙義／蓄音機の聲／養家／返らぬ過去（抄）／兵舎生活／外科室の患者／某上等兵の死／曠野の死／嘉一君の墓／二人の不良教師／母の骨〕／隨想・書簡〔故國の山水／秋の武藏野／藤村と花袋と／書簡〕／人とその時代〔櫻川町より 抄（島崎藤村）／白石實三君の『返らぬ過去』（加能作次郎）〕／解説（渡邊正彦）／年譜・著作目録（宇田川昭子編）／田中辰雄〈短歌〔海の渚の歌／海へ／部屋のぬくもり／海辺／創作詠草／無題／海の風と東京／森の奥の巢／盲目の馬／死ぬべき生命〕／散文詩〔夜の港と啞の娘と〕／小説〔墮落／仕事〕／人とその時代〔逝ける田中辰雄君を憶ふ（佐藤緑葉）〕／解説（伊藤信吉）／年譜（伊藤信吉編）

- 1-8. 『群馬文学全集第八巻 高橋元吉 東宮七男 福田貂太郎』 2001年11月15日
 監修：伊藤信吉 編者：川崎洋／久保田穰／伊藤信吉 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：高橋元吉〈詩〔『遠望』／『耽視る』より／『耶律』／『草裡 I』／『草裡 II』〕／高橋元吉・人とその時代〔文人のおもかげ（伊藤信吉）／高橋元吉さんのこと（吉野秀雄）／高橋元吉氏と「遠望」（萩原朔太郎）〕／解説（川崎洋）／年譜（梁瀬和男編）／東宮七男〈詩〔『魚鷹』より／『遍羅』より／『空の花』より〕／私と恭次郎／父の思い出（東宮不二夫）／解説（久保田穰）／年譜・著書目録（久保田穰編）〕／福田貂太郎〈『いくさのにはの人通り』より／出征あとさき／上州画家の戦場歌（伊藤信吉）／年譜に代えて（伊藤信吉編）

- 1-9. 『群馬文学全集第九巻 吉野秀雄 江口きち 生方たつゑ』 2000年2月2日 監修：伊藤信吉 編者：篠弘 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館
 収録：吉野秀雄〈短歌〔定本歌集 苔径集 より／定本歌集 定本歌集 早梅集より／定本歌集 寒蟬集（全）／定本歌集 晴陰集 より／定本歌集 含紅集 より〕／隨筆〔病床隨筆／創業者吉野藤作の話／横好きの美術／平凡の充実—わが母を語る—／幼な日の正月料理／織物の思ひ出／古い友だち／富岡の思ひ出／少年の頃／草津の湯畑／上州無智亦無才／草津湯治音咄／とっておきの話—少年・旅の一夜—／私と仏

教一親鸞・良寛・盤珪—／生活のなかの仏教／冬と望郷と／『福翁自伝』の思ひ出
 ／吉野秀雄・人とその時代〔死と隣あわせ —吉野秀雄の散文—（和田芳恵）／吉野
 秀雄氏の文芸（宮柊二）／解説（篠弘）／年譜・著書目録（神保昇一編）／江口き
 ち〈短歌〔武尊の麓（全）／『筐底の歌』（もう一つの遺詩歌集）〕／日記・手紙〔日
 記—昭和十三年／妹たきへの手紙／宮田弥右衛門氏への手紙〕／江口きち・人とその
 時代〔『江口きちの生涯』—「その死後」より（島本久恵）／『武尊の麓』序文の一部
 （河井醉茗）〕／解説（篠弘）／年譜・著作目録（塩崎猛雄編）／生方たつゑ〈短歌
 〔春盡きず より／雪の音譜（全）／白い風の中で より／北を指す より／野分の
 やうに（全）／ひとりの手紙 より〕／散文〔奈落のなか／ひとすじの途／ランプと
 法師温泉／やっちゃんと岩魚／尾瀬に生きる／らくがき／こんにやくの花／坂のある
 町〕／生方たつゑ・人とその時代〔（生方たつゑの歌集研究『春盡きず』『浅紅』『雪の
 音譜』） 鮮烈な歌風の転換（大西民子）／（生方たつゑの歌集研究『青粧』『白い風
 の中で』『火の系譜』） 華麗な心象風景の展開（馬場あき子）／（生方たつゑの人と
 作品） 『野分のやうに』以後（山本健吉）〕／解説（篠弘）／年譜・著書目録（塩崎
 猛雄編）〕

1-10. 『群馬文学全集第十巻 萩原恭次郎 根岸正吉』 1999年6月23日 監修：伊藤信吉 編者：荒川洋治／小山和郎 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：萩原恭次郎〈詩〔初期短篇より／死刑宣告（全）／断片（全）／『断片』前後
 詩篇より／「もうろくづきん」以後詩篇（全）〕／評論・随筆〔詩人について／郷土に
 おける文学・芸術運動について／クロボトキンを中心にした芸術の研究／芸術論など〕
 ／萩原恭次郎・人とその時代〔萩原恭次郎の二詩集（萩原朔太郎）／「谷」を中心に
 （壺井繁治）／彼はいつ死んだ（秋山清）／農的メビウスの輪（伊藤信吉）／恭次
 郎ノート（川浦三四郎）〕／解説（荒川洋治）／年譜・著書目録（石山幸弘編）／根
 岸正吉〈詩〔『どん底で歌ふ』より／『どん底で歌ふ』未収録詩〕／散文〔貧弱なる労
 働者／伊太利の社会運動（伊井敬）／マラテスタに就て—伊井敬君の教を乞ふ—／国
 際非軍備主義大会に就いて／メーデーの記〕／根岸正吉・人とその時代〔N・正吉さ
 んの印象（近藤真柄）／N・正吉の妹（岩藤雪夫）／あとさきの思い出（伊藤公敬）
 ／兄、N・正吉のこと（古河柳）／私の『どん底で歌ふ』小史（伊藤信吉）／根岸正
 吉の詩と『どん底で歌ふ』（丸田淳一）〕／解説（小山和郎）／年譜（丸田淳一編）〕

1-11. 『群馬文学全集第十一巻 伊藤信吉 司修』 2001年9月30日 監修：伊藤信吉 編者：暮尾淳／岡田芳保 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：伊藤信吉〈上州おたくら—私の方言詩集〔今昔ら—めん唄／風花や塩の道／
 おでんや燈火／老言や駄目の花／逆さことばの夜〕／風色の望郷歌／上州の空の下

より [眼中の句／老年の秋、点々／組合製糸群馬社／私の塩の道／激怒する浅間見物記]／解説(暮尾淳)／年譜(梁瀬和男編)／対談 伊藤信吉・司修 ——郷愁さそう煉瓦／花びら百一年目)／司修(小説[汽車喰われ／二子山から見た景色／砂の花／戦時羅災証明書／湖の底／鳥ヶ首／ニセアカシア／鳥子／芒ヶ原／影について／幽霊／純情歌]／エッセイ[戦争と美術 より{画家の良心／抵抗の画家批判}／僕の広瀬川]／司修・人と作品[司修さんのこと(水上勉)／詩の中へ旅する司修(小川国夫)／新しい望土望景詩(伊藤信吉)／司さんの自由自在(小栗康平)]／解説(岡田芳保)／年譜(岡田芳保編))

1-12.『群馬文学全集第十二巻 群馬の歌人』 2002年11月25日 監修:伊藤信吉 編者:有川美亀男 編集制作:川島書店 発行:群馬県立土屋文明記念文学館
収録:村上成之(歌集『翠微』／記憶を辿りて／人の歌論に答ふる書／父を語る(村上廉)／「夜雨寒蛩」(自筆句稿)抄／日向ぼっこ／草笛／俳人村上炳魚(林桂)／解説(有川美亀男))／須藤泰一郎(歌集『瑞垣』／歌集『言霊』／足曳庵雑筆／古歌禮讃／解説(有川美亀男))／大澤雅林(歌集『平原』／平原拾遺／兄大澤雅林を想う(大澤勇)／黄昏的那須野にて／芭露まで／解説(有川美亀男))／群馬の詩人(小見可憐／藤岡林城／角田蒼穂／萩原朔太郎／阿部鳩雨／北原放二／石田マツ／高草小暮風／中澤豊三郎／住谷三郎／吉田緑泉／斎藤喜博／田島武夫／中曾根白史／大槻三好／狩野登美次／木下謙吉／神保冷平／各解説(有川美亀男)／群馬の歌人(十八人)・略歴(井田金次郎)／群馬短歌史 群馬の短歌(井田金次郎))

1-13.『群馬文学全集第十三巻 群馬の俳人』 2002年1月25日 監修:伊藤信吉 編者:林桂 編集制作:川島書店 発行:群馬県立土屋文明記念文学館
収録:高柳重信(俳句[『前略十年』／『落子』／『伯爵領』／『罪囚植民地』／『蒙塵』／『遠耳父母』／『山海修集』／『日本海軍』／『山川蟬夫句集』／「日本海軍・補遺」／「山川蟬夫句集以後」]／随筆・評論[蟬／戸田町の正月／句集『落子』の頃／「書き」つつ「見る」行為]／人とその時代[架空の摂理(三好行雄)／高柳重信「黒彌撒」考(神田秀夫)／様式主義の司祭(磯田光一)]／年譜・著書目録(林桂編))／上村占魚(俳句[『鮎』抄／『球磨』／『霧積』／『一火』抄／『萩山』抄／『橡の木』抄／『石の森』抄／『天上の宴』抄／『かのえさる』抄／『自問』抄／『放眼』抄／『玄妙』抄]／随筆[徳富蘆花三十五周忌／わたしの選んだ道／お目玉の勲章／榛名湖某日／上州下仁田／草津白根／わが来し方]／人とその時代[『鮎』跋(松本たかし)／葱(橋本夢道)／愛する占魚よ(小島政二郎)／編集後記(高柳重信)]／年譜・著書目録(林桂編))／村越化石(俳句[『獨眼』／『山国抄』／『端座』抄／『筒鳥』抄／『石と杖』抄／『八十八夜』抄]／随筆[山間にて／ダルマと雪／山中雑記(巢立鳥)／回想]／人とその時代[作家と「場」(大野林火)／称赞『山国抄』(平畑静塔)]／年譜・著書目録(林桂編)／解説(林桂))／群馬の俳人(天野桑古／荒

井閑窓／倉田萩郎／岩崎楽石／植村婉外／岡本癖三醉／竹内雲人／町田一草／高橋香山／浅香甲陽／長谷川歌男／須田優子／関口雨亭／金子刀水／磯辺草丘／坂本波之／倉田素商／阿部米太郎／松野自得／楠部南崖／前山巨峰／九貫十中花／小川安夫／田角瑞芳／相葉有流／金子晃典／堀口星眠／解説（林桂）

1-14.『群馬文学全集第十四巻 群馬の詩人』 2003年3月31日 監修：伊藤信吉 編者：伊藤信吉 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：湯浅半月／内村鑑三／田山花袋／新島栄治／高橋辰二／横地正次郎／坂本七郎／塩野筈三／大島友治郎／吉本孝一／松井好夫／清水房之丞／横堀真太郎／森千魁／おの・ちゅうこう／長澤三郎／清水暉吉／降旗足穂／今井善一郎／豊田勇／豊田一男／小山茂一／神保治人／天野静子／石坂斐三／北上健／高瀬豊二／佐藤正二／石原和三郎／平井晚村／青柳花明／橋本暮村／林柳波／木村次郎／除村一学／梁田ぼく／長澤延子／富岡啓二／中沢清／島田利夫／桜井哲夫／小林弘明／越一人／梁瀬和男／真下章／長谷川安衛／久保田穰／大橋政人／上州近代の詩人たち（伊藤信吉）／伊藤信吉編集メモより／群馬・戦後詩壇の動き（久保田穰）

1-15.『群馬文学全集第十五巻 群馬ゆかりの歌句小説』 2001年3月15日 監修：伊藤信吉 編者：積俊治／林桂 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：小説（関俊治編）〈幸田露伴 [酔興記]／木下尚江 [乞食]／徳富蘆花 [不如帰（抄）]／或る不如帰体験（関俊治）／自然と人生（抄）—自然に對する五分時—]／島崎藤村 [下仁田の宿屋]／下仁田戦争を偲ぶ詩塚（関俊治）]／吉村昭 [天狗争乱（抄）]／森鷗外 [羽鳥千尋]／志賀直哉 [焚火／赤城にて或日／「焚火」のころ一座談]／谷崎潤一郎 [小さな王国]／横光利一 [榛名]／橋外男 [ある小説家の思い出（抄）]／吉川英治 [石を耕す男]／岡本綺堂 [磯部のやどり]／井伏鱒二 [普門院の和尚さん]〉／紀行文（関俊治編）〈吉江狐雁 [赤城山]／寺田寅彦 [伊香保]／菊池寛 [利根川の旅]／尾崎一雄 [赤城行]〉／短歌（関俊治編）〈与謝野鉄幹／平野萬里／石井柏亭／与謝野晶子／太田水穂／長塚節／斎藤茂吉／若山牧水／前田夕暮／竹久夢二／木下利玄／島木赤彦／古泉千櫨／山崎斌／橋田東声／佐佐木信綱／会津八一／橋本徳寿／五味保義／川田順／窪田空穂／前田透／解説（上村房江）〉／俳句（林桂編）〈内藤鳴雪／正岡子規／河東碧梧桐／高浜虚子／松根東洋城／臼田亜浪／大須賀乙字／荻原井泉水／富安風生／前田普羅／長谷川かな女／室生犀星／久保田万太郎／佐藤春夫／水原秋桜子／高野素十／栗林一石路／阿波野青畝／中村汀女／秋元不死男／星野立子／大野林火／中村草田男／瀧春一／加藤楸邨／平畑静塔／松本たかし／赤城さかえ／中島斌雄／石橋辰之助／石田波郷／金子兜太／解説（林桂）〉／「小説」「紀行文」解題とあとがき（関俊治）

1-16.『群馬文学全集第十六巻 群馬ゆかりの詩歌小説』 2000年3月15日 監修：

伊藤信吉 編者：伊藤信吉 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：詩歌〈風来・滞留の詩人〔室生犀星〕／正覺坊の空・富岡製糸〔北原白秋〕／赤城・利根・吾妻を往く〔高村光太郎／尾崎喜八〕／風来・居住の詩人〔草野心平〕／詩的アナキズムの系流に〔逸見猶吉／小野十三郎／岡本潤／緒方昇／寺島珠雄／大江満雄〕／上州各地を綴り合わせて〔田中冬二／福永武彦／高田敏子／松木千鶴〕／上州の詩人たちへの声〔三好達治／丸山薫／田中克己／中山省三郎／笹沢美明〕／風土再見の二詩人〔西脇順三郎／崔華國〕／栃木の詩人たち〔岡崎清一郎／岡安恒武／手塚武／大滝清雄〕／解説（伊藤信吉）／小説〈野上弥生子〔草分／山姥／神様／野上彌生子の世界（十三）（瀬沼茂樹）／解説—北軽井沢開拓の作家（伊藤信吉）〕／坂口安吾〔女剣士／花咲ける石／漂流記／安吾武者修行 馬庭念流訪問記（エッセイ）／幕はおりた（エッセイ）／人の親となりて（エッセイ）／随筆集『明日は天気になれ』より／解説『女剣士』の屋敷（安岡章太郎）〕／南川潤〔窓ひらく季節／美しい村／桐生の安吾さん（エッセイ）／面会謝絶（浅田晃彦）／温かい文学碑（浅田晃彦）／解説—二作家の桐生来往と死（伊藤信吉）〕／黒井千次〔夢のいた場所／第二の青春（エッセイ）／解説—伊勢崎の工場（伊藤信吉）〕／収録しなかった作品のこと（伊藤信吉）〕

1-17. 『群馬文学全集第十七巻 群馬の作家・上』 2002年3月30日 監修：伊藤信吉 編者：渡邊正彦 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：綿貫六助〈戦争／随想 軍隊生活から文壇へ〉／山口寒水こおりきりにんぶ かたみ〈氷採人夫／筐の時計／山口寒水宛 江見水蔭書簡／随想 新聞社の内幕／随想 地方新聞社の内幕／随想 懸下新聞記者瓢堂と蒼波／随想 退社の辞／香山遊記（田山花袋）〕／中澤静雄〈二人の厄介者〉／倉田潮〈蝕まれたる魂／盲目の鶯／焼饅頭／酒（井伏鱒二）／倉田潮に関する誤り（井伏鱒二）〕／新井紀一〈怒れる高村軍曹／山の誘惑／煽動／祖父の墓／新井紀一をいたむ（山田清三郎）／生方敏郎〈散文詩 親と子／散文詩 鳥と人／散文詩 城／散文詩（ラフオンテーンに眞似て） 朋友 無給／散文詩 巻煙草と死刑／蚤／随想 春の花／随想 自然と人と書物／随想 山雨到る／随想 故郷の春・旅の春／随想 山花集を読む／随想 教育勅語御下賜に因みて半世紀前を顧みる／『人のアラ世間のアラ』・序（坪内逍遙）〕／大木雄二〈短歌 秋風哀吟／童話 野火／童話 可愛い敵奴／童話 いわしが水におぼれた話／童話 くまの行くみち／随想 赤城山の感傷／随想 『月夜の馬車』はしがき／解説（渡邊正彦）〕／付編〈藤森成吉〔戯曲 磔茂左衛門／沼田領階級闘争史略（田村榮太郎）／解説（伊藤信吉）〕〕

1-18. 『群馬文学全集第十八巻 群馬の作家・下』 2002年8月28日 監修：伊藤信吉 編者：木内宏 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：清水寥人〈機関士ナポレオンの退職／牡丹雪／オレンジ色の灯／金鵒勲章／特

設鉄道隊（『泰緬鉄道』序章）／浅田晃彦（乾坤独算民／オレンジの皮／童話の眼／友情無頼）／森田素夫（冬の神／秋怨圖／秘曲／修羅少女）／小瀧和子（秋風／りんどう）／萩原博志（ある中年の顔／白い塔）／澤隆吉（廃道）／松山達枝（赤い襟章）／解説（木内宏）

1-19.『群馬文学全集第十九巻 現代作家集』 2001年1月30日 監修：伊藤信吉 編者：萩原朔美 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：萩原葉子（蕁麻の家／父・萩原朔太郎より〔訪客／放送のとき／タバコとソフトのこと／ある夜のこと／父のくせ／父の枕元／「上毛三山」について／小学校三年のとき〕）／金鶴泳（石の道／冬の光／鑿／土の悲しみ）／金井美恵子（二つの死／アルゴス／年齢について／木の箱）／南木佳士（ダイヤモンドダスト／ニジマスを釣る／井戸の神様／家族／上州人と信州人）／豊田有恒（渡り廊下／虚空の柩／大蛇となつて、敵を追い払った上毛野の田道／元祖嬪天下の謎／宝塔山古墳、蛇穴山古墳）／木内宏（夏の焰／峠／ひぐらし／通夜の追分）／解説・死という河（萩原朔美）

1-20.『群馬文学全集第二十巻 思想・評論 随筆 滞在日記・紀行 群馬文学年表』 2003年3月26日 監修：伊藤信吉 編者：藤井浩 編集制作：川島書店 発行：群馬県立土屋文明記念文学館

収録：思想・評論（新島襄〔青春時代〕／内村鑑三〔私は上州人である／上州の夏／故郷と人格／日記（抄）／二人の世界人（保田与重郎）／内村鑑三忌に寄せて（上村占魚）／内村鑑三書翰解説（萩原進）〕／住谷天来〔廢刊之辭〕／住谷悦治〔拷問の話／萩原朔太郎氏の詩の獨譯〕／高島素之〔資本論を了へて〕／羽仁五郎〔桐生市民の子〕／斎藤近衛〔風に抗する葦——実録哲学館事件〕）／随筆（佐藤垢石〔わが童心〕／猪谷六合雄〔闇夜の山下り／雷／人間、この不思議なもの／志賀高原にて（高田宏）〕）／滞在日記・紀行（エルウィン・フォン・ベルツ〔日記（抄）〕／ブルーノ・タウト〔対照／日記（抄）／タウトの文學（藤島亥治郎）〕／若山牧水〔みなかみ紀行〕）／解説（藤井浩）／群馬文学年表（プレ群馬文学年表／戦前／戦後／芸誌一覧／文学賞等受賞者一覧／文学館主要展示会一覧／文学者生没年一覧）

受賞作品集

1.『お話ランド創作童話賞作品集（第28回特別展「みんなおいでよお話ランドへ 木暮正夫子どもの本ワールド」開催記念）』 2004年7月25日 編集・発行：群馬県立土屋文明記念文学館

館報

1.『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』

1-1.『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第1号 1997年7月11日

収録：開館満一年の日に（伊藤信吉）／伊藤信吉館長の懐しさ（中村真一郎）／土屋文明と群馬の精神風土（中村稔）／伊藤信吉先生のこと（萩原葉子）／父のふるさとの地に（小市草子）／平成8年度講座・講演会／文学館で会いましょう（荒川洋治）／開館までの歩み／啄木の日記から（司修）／開館までの歩み／開館にあたっての催し／平成8年度事業報告／平成9年度事業予定／読者の声

1-2. 『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第2号 1998年6月1日

収録：土屋文明の古歌鑑賞寸感（大岡信）／「館長日記」抄（伊藤信吉）／中国人とウーロン茶（阿辻哲次）／保渡田の四季（平井照敏）／榛名を眺めつつ（永井路子）／文明書齋と欄の花（塩崎猛雄）／「コメーピョウ」—造園学の本（石山幸弘）／文学館と博物館の狭間で（林政美）／お形見の帯（神保昇一）／平成9年度 事業報告／平成10年度 主な展示活動／来館者の声等

1-3. 『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第3号 1999年1月29日

収録：展示の妙（竹西寛子）／『群馬文学全集』のこと 最初の四巻の送り出しに当たって（伊藤信吉）／群馬文学全集—文明と郷土（小市巳世司）／「自然主義文学のふるさと」碑—田山花袋『重右衛門の最後』にふれて（平岡敏夫）／「群馬文学全集」中の「萩原朔太郎」篇を編集して（那珂太郎）／鬼城・零余子と現代俳句（林桂）／三つの原風景（川崎洋）／平成10年度に行われた館の催事／群馬文学全集／これからの主な事業のお知らせ

1-4. 『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第4号 2000年3月31日

収録：初めての訪問（黒井千次）／もの言う自然（馬場あき子）／世界俳句の祝祭の年、二〇〇〇年（夏石番矢）／秀雄・たつゑとの出会い 『群馬文学全集』第九巻の余話（篠弘）／広野の人 白石實三（渡邊正彦）／群馬文学全集／スノードロップ（塩崎猛雄）／11年度に行われた館の催事等／12年度の主な事業のお知らせ

1-5. 『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第5号 2001年3月31日

収録：卓上のカステラ（谷川健一）／ふるさとの裏山（南木佳士）／人浚い（萩原葉子）／拓次とボードレール（飯島耕一）／宮崎の若山牧水賞（伊藤一彦）／「世界俳句フェスティバル2000」出展記（田口信孝）／群馬文学全集／平成12年度に行われた館の催事／平成13年度の主な事業のお知らせ

1-6. 『群馬県立土屋文明記念文学館 文学館通信』 第6号 2004年3月31日 目次無し

【20】徳富蘆花記念文学館

図録

1. 『徳富蘆花記念文学館図録 蘆花の生涯』 1997年9月1日 発行：徳富蘆花記念文学館
収録：蘆花の生涯〈プロローグ／1 生い立ち／2 同志社時代／3 民友社時代／4 千歳村粕谷／5 伊香保へ／6 蘆花を偲んで／7 徳富蘆花年譜〉／資料編〈徳富蘆花記念文学館施設案内／企画展回顧〉

館報

1. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』→『徳富蘆花記念文学館館報 不如歸通信』
 - 1-1. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』 第1号 1992年11月15日
収録：館報創刊にあたって（富澤孝明）／三周年を迎えて（深井正昭）／館報発刊に寄せて（富野暉一郎）／蘆花夫人の思い出（徳富敬太郎）／熊本から伊香保の文学館を訪ねて（野水一郎）／館報発刊に寄せて（浅原健）／文学館への期待—実証と想像の楽しみ—（吉田正信）／開館三周年に寄せて（滋野敬淳）／フェノロサ夫妻の見た明治日本のリゾート（村形明子）／徳富蘆花記念文学館の魅力（福田秀一）／地方の記念館に寄せて（古泉時）／伊香保の師弟——新島襄と徳富蘆花（河野仁昭）／特設展の魅力（和田義昭）／蘆花と伊香保（千明三右エ門）／『蘆花日記』未公刊日記抄録①／企画展回顧／喫茶室ノートより／編集後記
 - 1-2. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』 第2号 1993年10月15日
収録：一開館五周年—「蘆花特別展」開催／好評だった『中原中也展』／蘆花・後閑さん・全集（紅野敏郎）／蘇った寺山修司（九條今日子）／『不如帰』題名考（吉田正信）／中野好夫と語る（徳富敬太郎）／『思出の記』と『不如帰』（平岡敏夫）／「書票展」を回顧して（内田市五郎）／「書票の魅力」展の思い出（関根丞治）／蘆花の死刑廃止論（浅原健）／『蘆花日記』未公刊日記抄録②／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノート／編集後記
 - 1-3. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』 第3号 1994年11月15日
収録：一日本無頼派作家の系譜 I—「太宰 治展」開催／二つの全集—中原中也と大岡昇平（吉田熙生）／入隊前夜—太宰治の思い出—（桂英澄）／徳富健次郎と伊香保（吉田正信）／伊香保行（小池善明）／残された肖像—「蘇峰宛書簡目録」—（高野静子）／意外な言葉（野原一夫）／蘆花の雅号について（原田種成）／伊香保の名筆（無記名）／蛙とほととぎす（福田百合子）／無頼派の文学（相馬正一）／ある日、津軽から（小野正文）／『蘆花日記』未公刊日記抄録③／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノートより／編集後記
 - 1-4. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほととぎす通信』 第4号 1995年10月15日

収録：企画展《日本無頼派作家の系譜》最終回「小田作之助展」開催／蘇峰が語る蘆花—「蘇峰日記」より—（徳富敬太郎）／蘆花の記憶（桶谷秀昭）／「蘆花日記」を読む（尾崎秀樹）／特別展示—蘆花と大逆事件—（浅原軒）／織田作と私の間（青山光二）／父の戦争（田中光二）／《無頼派》と呼ばれた坂口安吾（関井光男）／祖父の柳行李（壇ふみ）／『蘆花日記』未公刊日記抄録④／喫茶室ノート／編集後記

1-5. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほとゝぎす通信』 第5号 1996年12月15日

収録：企画展「浅草の文学」展 開催／徳富蘆花と新島襄（松山義則）／新編蘆花全集の刊行を願う（吉田正信）／或る一枚の色紙（横内甲子吉）／蘆花記念館を訪ねて（中村稔）／「恐ろしき一夜」—徳富記念館を再訪して—（平岡敏夫）／浪子幻想—太宰治と温泉（矢島道弘）／小泉八雲 来京百年に寄せて（小泉時）／《蘆花書簡》明治三十九年より／喫茶室ノートより／編集後記

1-6. 『徳富蘆花記念文学館館報 ほとゝぎす通信』 第6号 1997年12月15日

収録：一没後七十年—「蘆花特別展」開催／「弟・徳富蘆花」刊行余話（徳富敬太郎）／長崎に建設される記念館によせて（遠藤順子）／『思出の記』の思い出（山崎朋子）／ちょっとした縁^{えにし}（河竹登志夫）／『不如帰』はなぜ売れたのか（山折哲雄）／思い返すこと（十返千鶴子）／波高き大正十三年—『太平洋を中にして』の意味—（中村青史）／ニューヨークの展覧会（渡辺保）／《蘆花書簡》明治三十九年より／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノートより／編集後記

1-7. 『徳富蘆花記念文学館館報 不如帰通信』 第7号 1999年3月15日

収録：雛（小中陽太郎）／三題ばなし（出久根達郎）／春の旅（桂英澄）／蘆花の「雑木林」（高田宏）／蘆花がトルストイに逢った場所（米原万里）／少年蘆花が遊んだ川（河野仁昭）／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノートより

1-8. 『徳富蘆花記念文学館館報 不如帰通信』 第8号 2000年3月15日

収録：明治の重さ（黒井千次）／若い人はどうかな（阿刀田高）／いつの日か、伊香保キャンプ（逢坂剛）／汚れなき（出久根達郎）／黎庶昌と伊香保（石田肇）／『思出の記』の魅力（吉田正信）／本が一番（新保悦司）／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノートより

1-9. 『徳富蘆花記念文学館館報 不如帰通信』 第9号 2001年1月15日

収録：蘆花あれこれ（清水基吉）／『不如帰』のこと（近藤富枝）／大海の出日（平川祐弘）／徳富蘆花か徳富芦花か（福田秀一）／會津八一と坂口安吾のこと（皆川喜代弘）／雑木林とガス（川本三郎）／徳富蘆花関係施設の案内／喫茶室ノートより

1-10. 『徳富蘆花記念文学館館報 不如帰通信』 第10号 2002年1月25日

収録：「國民之友」「國民新聞」と蘇峰・蘆花（長谷川泉）／『自然と人生』の思い出（直木孝次郎）／「謀反論」「として蘆花の短歌（岡井隆）／新劇派「不如帰」（笠原信夫）／愚痴れるトルストイ（野口武彦）／遠藤清子と伊香保（尾形明子）／短歌大

【21】水と緑と詩のまち前橋文学館

図録（常設展）

1. 『萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館 常設展示図録』 1993年12月1日 発行：萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館
収録：あいさつ／展示風景〈朔太郎展示室／近代文学展示室〉／観覧ガイド／朔太郎展示室〈ぎたる弾く人／追憶の群像／抒情と憤怒／郷愁の日々／忘れえぬ人々〉／近代文学展示室〈平井晩村／山村暮鳥／高橋元吉／萩原恭次郎／佐藤垢石／東宮七男／伊藤信吉／室生犀星／北原白秋／草野心平／前橋と俳句・前橋と短歌／赤城と文学・描かれた前橋〉／常設展示目録／資料提供・協力者一覧／利用案内

図録（企画展）

1. 『萩原朔太郎・室生犀星の交流』 1993年9月3日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：特別寄稿（室生朝子）／出会いまで〈萩原朔太郎／室生犀星〉／朔太郎と犀星の交流〈大正2～4年／大正5～6年／大正7～9年／大正10～11年／大正12～昭和2年／昭和3～7年／昭和8～11年／昭和12～17年〉／愛用品／資料提供・協力者一覧／編集にあたって
2. 『詩情の画家 南城一夫の世界』 1993年9月3日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館 目次無し
3. 『谷川俊太郎』 1994年1月22日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：原稿から『二十億光年の孤独』[三好達治の序詩／二十億光年の孤独／ネロ／父・徹三の評価／諸家からの礼状]／『62のソネット』[世界が私を愛してくれるので]／『うつむく青年』[五つの感情]／『ことばあそびうた』[かっぱ／だって／十ぴきのねずみ]／『夜中に台所でぼくはきみに話しかけたかった』[芝生]／『定義』[メートル原器に関する引用]／『空に小鳥がいなくなった日』[空に小鳥がいなくなった日]／諸家からの礼状／一九三一—一九九三〈〇—二一歳・一九三一—一九五二[幼年時代／小学校時代／中学・高校時代]／『二十億光年の孤独』のころ／父]／二二—六二歳・一九五三—一九九三)／著作年譜／“世界”と詩人／あとがきに代えて
4. 『司修 描くことと書くこと』 1994年7月23日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：司修さんのこと（水上勉）／郷土展望・前橋・朔太郎〈新しい郷土展望詩（伊藤信吉）／地面の底の顔（司修）〉／年少の頃／フィールド〈絵画―前橋・赤羽・自由美術／絵画―大野五郎／戦争／本／諸家からの書簡／小説・エッセイ／彷徨―旅〉／司修展（松谷みよ子）／絵画・スケッチ／著作／著作年譜／あとがき

5. 『前橋文学館特別企画展図録 静謐の画家 清水刀根の世界』 1994年10月22日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館 目次無し

6. 『清水哲男 『喝采』から『夕日に赤い帆』まで』 1995年1月21日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：展覧会に際して（清水哲男）／俳人・清水哲男（大串章）／清水哲男の詩（辻征夫）／ラジオとビールに日が暮れて（大多田純）／『喝采』から『夕日に赤い帆』まで／幼い頃／少年／日記／詩／稲作挿話／『喝采』の周辺／詩集・著作など／詩的漂流 家族／詩的漂流／ポエムズ／解題

7. 『現代前橋美術作家展』 1995年7月1日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：洋画〈有村真鑑 一人の刻／伊佐昇 私風景 B／井田秋雄 榛名南麓風景／岩崎孝 教室への階段／岩崎義治 中尊寺／金井民子 花と実 III／狩野守 オルフェウス／北爪三男 君不去記／久保繁造 辻音楽師／渋谷光典 闘牛士／高橋晴人 遺跡発掘／田中恒 膝とも談合／東宮不二夫 夜の旗／富澤秀文 華北中秋／茂木紘一 御開帳の日〉／日本画〈沢野潔 幽谷／塩原榛峰 能羽衣／竹島静子 石垣／鶴牧華明 はにわ〉／彫刻〈千本木康亘 ツイストリング〉／陶芸〈平尾峰春 灰釉四方皿〉／染色〈今井ひさ子 雨情／小島孝子 金のがちょう（グリム童話より）〉／タペストリー〈前田勝利 夕刻の風〉

8. 『伊藤信吉 近代詩・現代詩そして郷土詩の途』 1995年11月18日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：伊藤信吉展に寄せて（伊藤信吉）／無題（川崎洋）／西ん家のその子信吉からっ風（司修）／伊藤信吉氏の著作に沿って（梁瀬和男）／幼少年期〈生地・元総社／西ん家の信ちゃん／日々の頃／元総社・前橋・上州〉／詩人として～前橋時代／詩人として～東京時代／評論への道／忘れ得ぬ人々〈萩原朔太郎／萩原恭次郎／草野心平／中野重治／室生犀星／高村光太郎〉／書家からの書簡／二度目の第一詩集～『上州』から／著作／著作リスト／解題

9. 『吉原幸子 『幼年連禱』から『発光』まで』 1996年1月27日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：受賞の言葉（吉原幸子）／吉原さんと詩集『発光』（那珂太郎）／吉原さんの笑顔（新川和江）／生い立ち〈幼年期／少女期／女学校～高等学校／大学～劇団四季〉／詩集から〈『幼年連禱』・『夏の墓』／『オンディーヌ』／『昼顔』／『夢あるいは…』

- ／『花のもとにて春』／『発光』／書家からの書簡〈「現代詩ラ・メール」〉／著作／舞台／お祝いのことば（清水哲男）／年譜／著作・活動リスト／解題
10. 『その詩、その画 22年 生の軌跡 あかりをともし者 中沢清展』 1996年4月27日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：岡田刀水土／清水刀根／山田桂三／久保田穰／岩崎孝／詩／年譜／アルバム／解題／関係資料リスト
11. 『生誕110年記念 萩原朔太郎 一抒情の光彩一』 1996年8月22日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：四詩集の縁辺（伊藤信吉）／突然変異と音楽（萩原葉子）／萩原朔太郎・その詩的連峰（梁瀬和男）／『月に吠える』以前／『月に吠える』／『青猫』／『純情小曲集』／『水島』／完成の目覚め、創造への揺籃^{ようらん}／詩集のアート 装幀と挿画／萩原朔太郎略年譜（前橋文学館編）／解題
12. 『心象の画家 近藤嘉男の世界』 1996年11月16日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館 目次無し
13. 『辻征夫 『学校の思い出』から『俳諧辻詩集』まで』 1997年2月1日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：夢の大きさ（辻征夫）／夢の中の日常（多田道太郎）／迷路のふるさと（小沢信男）／迷子の詩学（清水哲男）／一九三九～一九八一・『落日』まで〈幼少年期／学生時代／一九六三年以後〉／一九八二～一九九六・詩集から〈『かっぜのひきかた』から『河口眺望』まで／『俳諧辻詩集』／余白句会から／著作など／「小酒館」から／『絵本摩天楼物語』／書家からの書簡／「その大きな樹の下で」／編集後記
14. 『福田貂太郎 画と書と文と』 1997年7月5日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館 目次無し
15. 『生誕100年 詩人・東宮七男 一その文学運動の軌跡一』 1997年9月6日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：寄稿「父の思い出」（東宮不二夫）／鼎談「詩人・東宮七男の軌跡を語る」（関俊治 梁瀬和男 久保田穰）／詩集から／揺籃^{らん}時代／自由詩への目覚め／アヴァンギャルド運動／満州／戦後の文学運動／東宮七男年譜／伊藤信吉が語る東宮七男／思い出／書家からの書簡／解題／凡例
16. 『渋沢孝輔 『場面』から『行き方知れず抄』まで』 1998年3月7日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：寒い寒い時代からの半世紀（渋沢孝輔）／寄稿「交友の記」（田中清光）／信州から東京へ／寄稿「螺旋の人」（財部鳥子）／「XXX」から「行き方知れず抄」まで／寄稿「渋沢孝輔の人と作品」（栗津則雄）／詩論・評論活動／詩集・詩画集／鑑賞／年譜／編集後記・凡例

17. 『沈黙の語り部 ——まえばしの文学碑——』 1998年7月11日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：解説「まえばしの文学碑」／第1章 広瀬川・敷島公園・前橋公園・前橋こども公園の碑〈広瀬川河畔緑地／文学友情の碑／萩原朔太郎賞受賞記念碑／敷島公園／前橋公園／前橋こども公園文学の小道／参考資料〉／第2章 寺社境内・学校などの碑〈中央竹／南部（上・下川淵地区）／北東部（芳賀・桂萱地区）／南西部（元総社・東地区）／東部（永明・城南地区）〉／第3章 庭先にたたずむ碑（個人宅）／参考文献／索引／協力者一覧／凡例
18. 『生誕110年 『たぬき汁』の随筆家 佐藤垢石 一つり人のこころの文学—』 1998年9月26日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：寄稿「父の思い出」（福島秀子）／寄稿「垢石翁のこと」（小口修平）／おいたち〈故郷・前橋／学生時代／記者時代／放浪／記者に復帰、そして退職／退社後の生活／『たぬき汁』以降〉／随筆『たぬき汁』／著作目録／釣り・酒・その他〈釣り／社会人時代の釣り／つり人社／釣の道／酒／食／旅／友人〉／略年譜・著作目録／編集後記・凡例
19. 『財部鳥子 『わたしが子供だったころ』から『烏有の人』まで』 1999年3月6日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：詩鑑賞／受賞の言葉／受賞記念インタビュー／寄稿〈「財部鳥子の『烏有の人』」（入沢康夫）／「巫女のように」（新藤涼子）／「青空が目の隅に住む詩人」（阿部日奈子）〉／エッセイ・評論／詩の履歴書／童話／自筆年譜／編集後記
20. 『筆墨のかがやき 米倉大鎌展図録』 1999年10月9日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館 目次無し
21. 『安藤元雄 『秋の鎮魂』から『めぐりの歌』まで』 2000年3月4日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：「晴れがましさとやましき」（安藤元雄）／寄稿「恥ずかしそうな微笑」（清水徹）／生い立ち 一九三四～〈幼少期／中学・高校時代／大学時代／詩作の中断と再開／パリ時代〉／詩集から〈「初秋」／「煤」／「鳥」／「この街のほろびるとき」／「夜の音」／「カドミウム・グリーン」〉／寄稿『めぐりの歌』の意味（岩成達也）／寄稿「よみがえる悲歌」（新井豊美）／「百年の帳尻」／インタビュー・詩作について／エッセーほか／詩集・装幀／『船と その歌』／「坐る」／翻訳／自筆年譜／解題
22. 『小説家 萩原葉子 自分との出合い』 2000年8月5日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：遅い出発であるが（萩原葉子）／寄稿（机の前の張り紙（萩原朔美）／自己を通して人間存在の本質を見抜く（川村湊）／魔法の変身をとげた奇跡の人（瀬戸内寂聴）／I 作家としての出発点〈『父・萩原朔太郎』まで／コラム●前橋／小説家として／コ

ラム●室生犀星・三好達治) /II 小説の世界〈長篇…蕁麻の家・三部作/コラム●福永武彦・宇野千代/短篇・連作ほか/取材/父との対決/コラム●森茉莉・池田満寿夫) /III 書いて、創って、踊る〈出発に年齢はない/ダンス/オブジェ) /『木馬館』から/著作〈小説/エッセイほか) /著作リスト/年譜/解題

23.『江代充 『公孫樹』から『梢にて』まで』 2001年3月3日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：第8回萩原朔太郎賞『梢にて』(江代充) /故郷・藤枝市にて/生き立ち(記(江代充) /藤枝時代/広島時代/東京時代) /沈黙の静謐さ(白石かずこ) /「梢にて」讃歌(粕谷栄市) /うしろで、エシロと聞いて(中村鐵太郎) /詩集から〈『公孫樹』/『昇天 貝殻敷』/『みおのお舟』/『白V字 セルの小径』/『黒球』/『梢にて』) /年譜/編集後記

24.『田村隆一 —My Way of Life—』 2001年8月4日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：寄稿〈「ほかに能なし」(田村美佐子) /「田村隆一展に寄せて」(飯島耕一) /「マイ・ウェイ・オブ・ライフ」(新倉俊一) /幼少年時代/学生時代/戦争時代/残された品々/詩作/酒/作品から(雑誌の編集/旅—アメリカ①/旅—アメリカ②/クリスティーとダール/朔太郎と前橋) /編集後記

25.『町田康 —言葉の生まれる瞬間—』 2002年12月20日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：受賞作『土間の四十八滝』をめぐって〈作品紹介/対談「詩人」追放に抗して(町田康 富岡多恵子) /インタビュー&作品「早寝して、遠くへ」/受賞記念講演「詞と詩の距離(DJスタイル)」/展示から「土間の出現」/「供花」と町蔵時代(エッセエ「ワイルドサイドに立て」(町田町蔵) /詩集解説(福田和也) /戯曲「SWEET HOME」より(柳美里) /エッセエ「R 或は K は……」(町田町蔵) /ロック訳詞・オマージュ詩(町田町蔵) /草稿) /散文の世界〈小説解説(筒井康隆) /展示から「町田康作品風景」(逆柱いみり・画) /町田康 略歴/スナップ写真

26.『萩原朔太郎と郷土詩人たち —郷土が結んだ詩人の絆—』 2002年10月19日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：萩原朔太郎と郷土詩人たち —郷土が結んだ詩人の絆—/上州詩人出身地図・生没表/短歌時代の交友(平井晩村) /詩の最初の知己(山村暮鳥) /「イメージオブジェ」(萩原葉子) /白秋旗下の三羽鴉(大手拓次) /「萩原朔太郎と高橋元吉」(梁瀬和男) /高貴なる厭世思想(高橋元吉) /烈風の中に立ちて(萩原恭次郎) /「郷土」への想い(伊藤信吉) /「萩原朔太郎と上州詩人」(佐々木靖章) /傾倒と模索(東宮七男) /桃李の路(岡田刀水土) /「上州詩人」と朔太郎(清水房之丞) /ナワノレンの酒場で(おのちゅうこう) /交流年譜/編集後記・奥付

27. 『入沢康夫 —入沢康夫のバックグラウンド—』 2003年9月15日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：萩原朔太郎賞を受賞して（入沢康夫）／I 風土 —その1—〈寄稿「地霊のささやき」（田野倉康一）〉／II 詩を書き始めたころに愛読して、その影響が後々まで残った詩人たち〈寄稿「人はどうやって詩人になるか」（安藤元雄）〉／III 宮澤賢治と草野心平〈寄稿「宮澤賢治と草野心平」（吉田文憲）〉／詩集／IV 象徴主義と超現実主義〈寄稿「象徴主義と超現実主義」（野崎欽）〉／V 風土 —その2—〈寄稿「入沢康夫と出雲」（宇野邦一）〉／凡例・協力者一覧
28. 『高橋元吉 —内から見えてくるもの—』 2004年2月7日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：寄稿 ◎祖父 元吉のこと（高橋里枝子）／I 若き日、思想の形成・詩作のはじまり〈解説 ◎萩原朔太郎・高橋元吉と『白樺』（梁瀬和男）／思想の形成・詩作のはじまり／朔太郎との交流〔朔太郎の元吉観・元吉の朔太郎観／往復書簡／『月に吠える』／「秋」・『遠望』／後年〕〉／II 詩の世界〈寄稿 ◎高橋元吉断想（清水哲男）／『遠望』／『耽視』／『耶律』／草裡／高田博厚〉／III 人間像〈煥乎堂／群馬の文学活動の推進者として／吉野秀雄／文人・元吉／書・画／愛用の品々〉／詩集・散文集／年譜
29. 『四元康祐 —詩のなかの自画像—』 2004年9月4日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：詩のなかの自画像（四元康祐）／寄稿〈四元さんの新しさ（谷川俊太郎）／母語の「現場」を遠く離れた異郷の周縁から（田原）／インタビュー／I 『笑うバグ』一九九一〈『笑うバグ』の周辺／インタビュー〉／II 『世界中年会議』二〇〇二〈『世界中年会議』の周辺／インタビュー〉／III 『喋みの午後』二〇〇三〈解説 にぎやかな詩稿たち（榎木伸明）／「喋みの午後」の推移／『喋みの午後』の背景／『喋みの午後』の舞台／「薄情」を読む／インタビュー〉／IV 『ゴールデンアワー』「声の曲馬団」二〇〇四〈『ゴールデンアワー』／声の曲馬団／インタビュー〉／ノート／四元康祐 フォト・ギャラリー／フォト・ポエム／四元康祐自筆履歴／あとがきにかえて・凡例・協力者一覧
30. 『前橋が生んだ現代小説家 —司修・豊田有恒・樋口有介が描いた前橋と作品—』 2005年2月5日 編集・発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：◎豊田有恒〈エッセイ「化石化したユートピア、前橋」／豊田作品①「渡り廊下」より／豊田作品②「虚空の枢」より／豊田作品③「歴史的事実」より／著作リスト〉／◎樋口有介〈エッセイ「前橋という町」／樋口作品①『風少女』より／樋口作品②『八月の舟』より／著作リスト〉／◎司修〈エッセイ「公園の椅子」／司作品①「ニセアカシア」より／司作品②「汽車喰われ」より／司作品③「幽霊」より／著作リスト〉／○横山秀夫インタビュー／前橋市ゆかりの作家の平成以降の主な小説

研究誌

1. 『「朔太郎と私」—現代人に息づく詩人像—』 1995年7月30日 編集・発行：水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：I〈読んで爽快、朔太郎（榊原和俊）／風のごとくに（古澤保代）／“詩”という名の恐怖（葵ゆかこ）／「まだ上州の山は見えずや」（宮崎潤一）／『朔太郎のうた』（森田静子）／私の朔太郎（印南正）／脱イメージ（千代原真智子）／まだあの夜汽車に乗っていますか？（倉持早苗）／自画像としての朔太郎（實廣慶三）／晩学のころ（熊坂曠作）／ぎたる弾くひと（嘉多村拓）／「ここの家の主人は……」（立川千年）／朔太郎の故郷—前橋（石井善子）／朔太郎の世界と私（島田正巳）／私のなかの朔太郎（水野ひかる）／朔太郎のいきどほり（小島義徳）／ダルマ（村島朋枝）／破滅の文学（片山子之助）／朔太郎と私（米倉巖）／朔太郎の感覚の鋭さに感銘（伊藤岳央）／朔太郎と古典詩歌（金子可宏）／十五歳の春、図書館で（清水光雄）／思い出すこと（岡部宇一郎）／まだ山科は過ぎずや（森秀人）／モダンボーイ、サクタロー（藤島康）／朔太郎と私（末松信吾）／朔太郎と私（一見敏男）／朔太郎と私（立花直）／詩人幻想—敷島公園逍遙—（丸山昌兵）／上州人朔太郎の感性（文日学）／朔太郎の作品から学んだこと（石川清文）／朔太郎の体臭と遺産（冬園節）／朔太郎と山形（高橋英司）／猫町の身分証明書（小林義彦）／朔太郎による私のふるさと慕情（寺下昌子）／明るい朔太郎（野口直紀）／『猫町』の彼方へ（浅山泰美）／朔太郎と名曲《影を抱いて》のこと（澤本行央）／詩人の名（蔵屋敷孝子）／朔太郎—はみだした抒情—（高市順一郎）

／II〈時の輪の小瓶（村田和夫）／私の朔太郎体験（杉田悦子）／朔太郎と私—そしてフランス（竹内正枝）／朔太郎と私（西崎昌）／朔太郎の詩に吠える（松下奈津実）／美と醜を超えて（松本好勝）／私の郷愁（種村好美）／詩の授業「竹」（佐々木人美）／「愛憐」の「きつと」（斎須俊一）／朔太郎と私（石田利夫）／僕の「竹」（中村英俊）／自意識との格闘が生んだ孤独感（澤正宏）／苛烈な真実（柏木義高）／永遠の飢渴感（大橋裕一）／久遠の詩人よ（ほしひかる）／萩原朔太郎様（橋本恵美）／救済（佐藤省象）／沈黙の絵画（樋口健司）／恋を恋する人（常賀晶子）／前橋に朔太郎跡を訪ねて（大西亮）／朔太郎とY男と私（本多幸男）／朔太郎の寂寥（山田隆男）／詩の行方（梶本純平）／朔太郎と私—詩の感想—（加藤雅章）／萩原朔太郎「殺人事件」から（堺恵美子）／広瀬川と私（沼田健）／朔太郎と私（山崎広光）／口語自由詩の手品師（大江豊）／出会い（室賀敦朗）／しなやかな夢追人（佐々木京子）／もう一人の朔太郎（村井芽梨）／わが朔太郎詩（たなかよしゆき）／哀しい生き方（田部田富夫）／朔太郎と私の命の叫び（加藤三奈）／朔太郎と山口マオとアレルギーの私（琴天音）／『詩の原理』再読（相川祐一）／写真の中の朔太郎（市根井裕美）／詩人朔太郎にとって故郷とは何だったのだろうか—「郷土望景詩」をめぐる—（栗原勝）／朔太郎氏に魅せられ

た遠き日（神尾みゆき）／朔太郎と郵便局（横堀由美子）／III〈あこがれ、こがれた寝台（小林京子）／この限りなく優しきもの（佐竹新）／『青猫』の“女”たち（金指章）／朔太郎とマンドリン（今井理充）／朔太郎一家と私（森泉賢吾）／虹と二児（大澤幸子）／柳川から見た朔太郎（愛敬浩一）／『青猫』と朔太郎の精神（小澤詠子）／朔太郎と私（柿村うた子）／回想（清水正之）／教室の中の朔太郎（堤敏夫）／石もて蛇を殺すごとく（田代芙美子）／朔太郎の笑顔（福本直美）／朔太郎と私（西間木美恵子）／朔太郎の魂（籬谷慎二）／朔太郎と私（久保木宗一）／数学は最高の美である（吉澤茂）／懺悔への誘い（中山由美）／もうひとつの郷愁（藤本貞之）／朔太郎氏の作品について（中間雅美）／我が青春の（横山佳代子）／ボウタイとマンドリン—異邦人の肖像（藤本宗利）／朔太郎と女性、そして私（小楠かおり）／朔太郎と私（矢嶋俊雄）／朔太郎と私（阪本めぐみ）／憧憬（竹花修子）／ふらんすの遠さ—旅をすること（大塚弓子）／不思議な望遠鏡（長谷川定男）／朔太郎の見つめるもの（奥山恵子）／私の青春・萩原朔太郎（小坂教心）／朔太郎の四つの詩（岩田赳夫）／朔太郎との出会い（根本玲子）／萩原朔太郎と私（松島励路）／『詩の原理』私見（臂泰雄）／俳句に見る萩原朔太郎の詩精神（桑子栄作）／朔太郎と私（寺西一郎）／朔太郎に誘われて（新井啓子）／朔太郎は私の青春（鎌田正之）／IV〈伯父の思い出（大場英子）／大伯父 朔太郎（松岡淑子）／生と死、そして「孤独」の慟哭の中から（小野間千枝子）／まだ上州の山は見えずや（山田弘子）／—前橋の夕陽に—（室橋隆）／朔太郎の妹（佐々木欽三）／広瀬川（小阪和子）／光る地面に竹が生え、青だけが生え、…（斎藤彩子）／もっと世界へ、萩原朔太郎（篠ヶ谷久美子）／朔太郎と私—主観と客観（今田晃一）／無上のひととき（深沢栄）／萩原朔太郎—その作品と人柄の魅力（丹治豊）／朔太郎の「晩年」と私（小曾戸明子）／アンバランスの巨人にひかれて（宮本経祥）／真ん中の朔太郎（古益繪子）／萩原朔太郎と八木重吉（中川秀夫）／「内部」にいる人間（田中利幸）／『絶望の逃走』に思う（小関路彦）／朔太郎の世界（前田ゆきの）／消毒薬とバイ菌（菅谷昌子）／こころ（岩井育子）／前橋の匂い（赤岩摩弥）／朔太郎と出会って（平川俊功）／朔太郎と私（鶴田裕子）／モノクロームの世界（朔太郎と私）（ひらのしゅうや）／朔太郎と私（美堂正義）／私の卒業論文（大重道子）／ロマンチストの定義（新郷光加）／のすたるぢや（高橋知義）／旅上・旅情（菅邦男）／朔太郎と私（沢田真奈）／「郷土望景詩」に寄せて（稲垣美鈴）／朔太郎と「都市」と私（脇博道）／私のなかの朔太郎（上田早智子）／朔太郎の時代（三沢直子）／青い色に魅せられて—朔太郎と私—（重野薫）／猫町との邂逅（中村共子）／ジャガールブルーと朔太郎（森下由美子）／朔太郎と私（堀亜紀）／詩へ通じる道 朔太郎と私（陸文＝）／V〈合唱曲への疑問と解答（神田彰久）／朔太郎と私—あやめ香水（大木裕子）／『猫町』への妄想（工藤直）／「さびしい人格」に寄せて（中村健）／ふるさとと朔太郎（浦部節子）／実行された自殺観（今井章）／萩原朔太郎様（野村佳子）／発行する魂（大橋聡子）／詩人と

して（佃秀樹）／吠えてばかりいないで、朔太郎さん（谷口訓子）／朔太郎と私（羽鳥正志）／夢（小川由美）／“遺伝”の犬との出会い（木下圭子）／朔太郎と私（内田壽）／色と萩原朔太郎（鈴木麻由美）／竹と人生と向上心（鶴飼月子）／朔太郎（石山幸弘）／英語で朔太郎（鶴田恭子）／萩原朔太郎の作品についての感想（宇佐美信行）／『黒い猫』と私（鈴木百合香）／萩原朔太郎のダンス（長谷川泰三）／柔らかな生命力（中一真子）／朔太郎の音楽と私（松浦豊吉）／私の心に残っている朔太郎（角田惇）／朔太郎について（光石規子）／萩原朔太郎と私（渡邊禎二）／朔太郎と私（寒河江真）／『無からの抗争』のこと（大塚善一）／“黒い風琴”に寄せて（三村都菜子）／わが青春の一冊（井上美栄子）／朔太郎と私（須藤幸子）／朔太郎と私（如月寛）／朔太郎と私（狩野美恵子）／朔太郎と横顔と私と（北七帆）／憤怒といとおしさの意味（須永光美）／拝啓 懐かしい詩へ（堀内美千子）／ますくなるもの……（鈴木一夫）／朔太郎と私（澁澤洋典）／朔太郎と私（木村哲藏）／詩人の変身（滝沢久美）／監修のことば〈「私の朔太郎」小感（伊藤信吉）／小感（那珂太郎）／朔太郎体験と世代（関俊治）／多様な「私」の視線（梁瀬和男）〉／あとがき

館報

1. 『前橋文学館報』

1-1. 『前橋文学館報』 第1号 1995年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：何よりも親しみやすい館報に（加藤鶴男）／館収蔵資料から／寄稿 川のある町（清水哲男）／特集 詩人という名の私 ～第5回前橋文学館アートステージ谷川俊太郎トークから／report 前橋文学館開館からのあゆみ〈事業の報告／広瀬河畔日録／学芸員の窓／新収蔵資料の紹介〉／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館ご利用案内

1-2. 『前橋文学館報』 第2号 1995年8月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：力作200編『朔太郎と私』を発売（加藤鶴男）／館収蔵資料から／寄稿 新しい山村暮鳥詩集『おうい雲よ』（北川幸比古）／特集1 朔太郎と私 ～第23回朔太郎忌講演から（那珂太郎）／特集2 詩と詩人にふれて ～小・中学校の文学館見学／report 〈4月～7月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介／学芸員の窓〉／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館ご利用案内

1-3. 『前橋文学館報』 第3号 1996年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：松谷さんと司さん（加藤鶴男）／館収蔵資料から／寄稿 「眠る男」と朔太郎

(正津勉) / 特集 「ふるさとの文学を語る」伊藤信吉・加賀美幸子トーク ～第 25 回前橋文学館アートステージより～ / report (8 月～2 月の事業 / 広瀬河畔日録 / 新収蔵資料の紹介 / 学芸員の窓) / 群馬文学情報 / 友の会から / 来館者の声 / これからの催し物案内 / 編集後記 / 前橋文学館ご利用案内

1-4. 『前橋文学館報』 第 4 号 1996 年 8 月 10 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：ことし七月、八月、九月……、文学館 (加藤鶴男) / 館収蔵資料から / 寄稿 献呈署名の古い自著 (伊藤信吉) / 特集 詩歌における東と西 ～第 28 回前橋文学館アート・ステージから (高橋睦郎) / report (3 月～7 月の事業 / 広瀬河畔日録 / 新収蔵資料の紹介) / 群馬文学情報 / 友の会から / 来館者の声 / これからの催し物案内 / 編集後記 / 前橋文学館利用案内

1-5. 『前橋文学館報』 第 5 号 1996 年 12 月 28 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：歩み着実 “詩のまち” (加藤鶴男) / 資料は語る / 特集 詩と山の遍歴 ～第 16 回世界詩人会議日本大会’96 前橋協賛 第 31 回前橋文学館アート・ステージから (秋谷豊) / report (7 月～12 月の事業 / 広瀬河畔日録 / 新収蔵資料の紹介) / 学芸員の窓 / 群馬文学情報 / 友の会から / 来館者の声 / これからの催し物案内 / 編集後記 / 前橋文学館利用案内

1-6. 『前橋文学館報』 第 6 号 1997 年 3 月 30 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：田中恭吉の挿絵原画など (加藤鶴男) / 資料は語る / 寄稿 自転車と海 (辻征夫) / 特集 1 詩人の一語 ～第 33 回前橋文学館アート・ステージから (大沢博) / 特集 2 第 7 回文学館講座より ～受講者の声 / report (1 月～3 月の事業 / 広瀬河畔日録 / 新収蔵資料の紹介) / 学芸員の窓 (1・2) / 群馬文学情報 / 友の会から / 来館者の声 / 平成 9 年度企画展示案内 / 編集後記 / 前橋文学館利用案内

1-7. 『前橋文学館報』 第 7 号 1997 年 6 月 30 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：特別企画展、異色の展示物 (加藤鶴男) / 資料は語る / 寄稿 個展開催とダンス (萩原葉子) / 特集 文学の現在 ～第 38 回前橋文学館アート・ステージから (秋山駿) / report (4 月～6 月の事業 / 新収蔵資料の紹介 / 広瀬河畔日録) / 学芸員の窓 / 群馬文学情報 / 友の会から / 来館者の声 / 平成 9 年度企画展示案内 / 編集後記 / 前橋文学館利用案内

1-8. 『前橋文学館報』 第 8 号 1997 年 12 月 31 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：好著一冊。文学館に向ける熱いまなざし (加藤鶴男) / 資料は語る / 寄稿 私

の萩原朔太郎体験から（中村稔）／特集 詩人大手拓次の実像 ～第 39 回前橋文学館アート・ステージから（斎田朋雄）／report〈6月～12月の事業／新収蔵資料の紹介／広瀬河畔日録〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-9. 『前橋文学館報』 第 9 号 1998 年 3 月 31 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：うた詠みになれる可能性（加藤鶴男）／資料は語る／特集 渋沢孝輔の位置 ～第 47 回前橋文学館アート・ステージから～（栗津則雄）／report〈1月～3月の事業／新収蔵資料の紹介／広瀬河畔日録〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／平成 10 年度催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-10. 『前橋文学館報』 第 10 号 1998 年 9 月 30 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：ごあいさつ—開館五周年に寄せて—（早部賢一郎）／資料は語る／寄稿 朔太郎とポルトガル（横木徳久）／特集 拓本の歴史とその取り方 ～第 49 回前橋文学館アート・ステージから（阿久津宗二）／report〈4月～9月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-11. 『前橋文学館報』 第 11 号 1999 年 3 月 31 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：文学館のこれから（金子紘一）／資料は語る／特殊 1 開館 5 周年の歩み ～「5 周年の歩み」展より／特集 2 初心者のための楽しい俳句教室 ～第 11 回文学館講座より（中里麦外）／report〈10月～3月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／平成 11 年度企画展示案内（予定）／編集後記／前橋文学館利用案内

1-12. 『前橋文学館報』 第 12 号 1999 年 9 月 9 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：アメリカにおける朔太郎展と市民の国際交流（早部賢一郎）／資料は語る／特集 1 朔太郎の故郷 ～第 27 回朔太郎忌より（宗左近）／特集 2 能の中の美術館 ～第 56 回アート・ステージより（布施英利）／report〈4月～8月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-13. 『前橋文学館報』 第 13 号 1999 年 12 月 28 日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：「恭次郎生誕百年記念のつどい」（金子紘一）／資料は語る／特集 「詩人という井戸」 ～第 7 回萩原朔太郎賞記念イベント・特別講演より（安藤元雄）／report

〈9月～12月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-14. 『前橋文学館報』 第14号 2000年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：未来への期待（早部賢一郎）／資料は語る／特集 朔太郎詩の解説 ～第14回文学館講座から（横木徳久）／report〈1月～3月の事業／新収蔵資料の紹介／広瀬河畔日録〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／平成12年度催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-15. 『前橋文学館報』 第15号 2000年7月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：萩原恭次郎の詩稿について（金子紘一）／資料は語る／特集 「朔太郎の郷愁について」 ～第28回朔太郎忌 記念講演より（辻井喬）／report〈4月～7月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-16. 『前橋文学館報』 第16号 2000年11月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：萩原朔太郎賞に新風（早部賢一郎）／資料は語る／特集 「夭折の詩人たち」 ～第62回アートステージより（久保田穰）／report〈8月～11月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-17. 『前橋文学館報』 第17号 2001年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：文学館の当面する課題から（金子紘一）／資料は語る／特集 詩と絵画と、そして忘れえぬ人々 ～第67回アートステージから（北爪三男）／report〈12月～3月の事業／新収蔵資料の紹介／広瀬河畔日録／学芸員の窓〉／群馬文学情報／友の会から／平成13年度催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-18. 『前橋文学館報』 第18号 2001年7月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：市民に親しまれる文学館をめざして（桜井直紀）／資料は語る／特集 「狂気と日本文学 一朔太郎への一視点」 ～第29回朔太郎展より（三浦雅士）／report〈4月～7月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-19. 『前橋文学館報』 第19号 2001年11月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：第9回萩原朔太郎賞選考会議から贈呈式を経ての所感（桜井直紀）／資料は語る／特集 「現代詩における『梢にて』の位置 ～第68回アートステージより（江代充 平出隆）／report〈8月～11月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-20. 『前橋文学館報』 第20号 2002年3月3日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：一年を省みて（桜井直紀）／資料は語る／特集 「現代詩・私・未来」 ～第71回アートステージより（新井啓子 井上敬二 大橋政人 富澤智）／report〈12月～3月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／平成14年度催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-21. 『前橋文学館報』 第21号 2002年7月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：館長に就任して（江原範和）／資料は語る／特集 「詩をかくということ」 ～第72回アートステージより（真下章 小山和郎）／report〈4月～7月の事業／広瀬河畔日録／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-22. 『前橋文学館報』 第22号 2002年11月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：今、文学館に求められるもの（久保木宗一）／資料は語る／特集 「朔太郎への関心」 ～第30回朔太郎忌より（高橋英夫）／Report〈8月～11月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-23. 『前橋文学館報』 第23号 2003年3月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：この一年を振り返って（江原範和）／資料は語る／特集 「萩原朔太郎と上州詩人」 ～第74回アートステージより（佐々木靖章）／Report〈12月～3月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／来館者の声／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

1-24. 『前橋文学館報』 第24号 2003年9月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館

収録：文学館に着任して（大塚健）／資料は語る／特集 「萩原朔太郎雑感——「浦」について ～萩原朔太郎論のための試み～」 第31回朔太郎忌より（中村稔）／Report〈4月～9月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から

- 1-25.『前橋文学館報』 第25号 2004年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：文学館開設十周年の年を振り返って（江原範和）／資料は語る／特集 「詩と現実、あるいは五つの告白」 第11回萩原朔太郎賞記念講演より（四元康祐）／Report 〈10月～3月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から
- 1-26.『前橋文学館報』 第26号 2004年9月30日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：水と緑と詩のまち前橋文学館の館長に就任して（瀬下和通）／資料は語る／特集 「朔太郎と口語自由詩」 第32回朔太郎忌より（近藤洋太）／Report 〈4月～9月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から
- 1-27.『前橋文学館報』 第27号 2005年3月31日 発行：萩原朔太郎記念水と緑と詩のまち前橋文学館
収録：「氷島」の著者（瀬下和通）／資料は語る／特集 対談「孤立と連帯」 第78回アートステージより（四元康祐 小池昌代）／Report 〈10月～3月の事業／広瀬河畔日録（抄）／新収蔵資料の紹介〉／学芸員の窓／群馬文学情報／友の会から／これからの催し物案内／編集後記／前橋文学館利用案内

【23】さいたま文学館

図録

- 1.『【開館記念特別展】埼玉の文学 企画展示室 埼玉の豊かな文学風土』 1997年12月 発行：さいたま文学館 目次無し
収録：県南地域／県西地域／県北地域／県東地域／さいたまを描いた文学者たち〈壺井栄／井伏鱒二／斎藤茂吉／若山牧水／千家元麿／石田波郷〉／展示資料目録
- 2.『〔企画展図録〕直木賞作家・安藤鶴夫展 マルチタレント「アンツル」さんの世界』 1998年4月14日 編集・発行：さいたま文学館
収録：I 『巷談 本牧亭』の世界／II マルチタレント「アンツル」さん／III 桶川時代／安藤鶴夫・略年譜／安藤鶴夫・主要著作年譜／小説『不二』について／小説『不二』／協力者・協力機関
- 3.『企画展図録 加藤克巳の世界 “伝統と革新”の新人』 1998年8月4日 編集・発行：さいたま文学館
収録：加藤克巳略年譜・主要著作目録／I 第一歌集『螺旋階段』への道／II 「新歌人

集団」結成／III 「近代」「個性」の創刊と逍空賞受賞／IV “伝統と革新”の歌人—
その軌跡—

4. 『企画展 国木田独歩『武蔵野』発表一〇〇年記念「武蔵野の文学」展』 1998年9月15日 編集・発行：さいたま文学館
収録：序章 武蔵野の原風景〈『伊勢物語』『枕草子』『太平記』『江戸名所図会』〉／I 国木田独歩『武蔵野』の世界〈「東都近郊図』『武蔵野』初出雑誌 初版本 各社文庫版／『あひづき』『欺かざるの記』『植村正久メモ』『或女』〉／武蔵野を描いた同時代の文学〔山田美妙『武蔵野』／徳富蘆花『自然と人生』〕／独歩と埼玉〔『第三者』／太田玉茗 田山花袋 竹越三叉〕／II 武蔵野を彩る文学〈秋 三ヶ島葎子 大岡昇平 小田嶽夫／冬 高濱虚子 斎藤俳小星 中谷孝雄／春 石島雉子郎／夏 中西悟堂 山口青邨 長谷川秋子／平林寺〔田山花袋『東京近郊一日の行楽』／上林暁『野の禅寺』／川端茅舎『華厳』〕／武蔵野の今〔秋谷豊『残照の武蔵野』／銀林みのる『鉄塔武蔵野線』／永倉万治『武蔵野 S 町物語』〕〉／展示資料目録／協力者・協力機関一覧
5. 『【企画展図録】近代埼玉の女性文学 一時代の表現者たち一』 1999年1月5日 編集・発行：さいたま文学館
収録：第I部 女性文学者の見た近代〈1 文学を取り戻した女性たち〔明治時代〕／2 デモクラシーの世をむかえて〔大正時代〕／3 激動の時代を生きる〔昭和～終戦まで〕〉／第II部 魂の叫びを文学に託して—五人の女性文学者—〈1 杉浦翠子／2 三ヶ島葎子／3 長谷川かな女／4 北川千代／5 大谷藤子〉／《コラム》公認女医第一号・荻野吟子と「女學雑誌」／主要参考文献
6. 『企画展 塙保己一と『群書類従』』 1999年4月13日 編集・発行：さいたま文学館
収録：I 塙保己一の生涯〈塙保己一略年譜／荻野氏・塙氏系図（抄）〉／II 『群書類従』の刊行〈一 『群書類従』の刊行／二 出版事業家としての塙保己一〉／III 塙保己一を描いた文学作品／【特別寄稿】〈『保己一を支えた家族の中の女性たち』（花井泰子）／『今に生きる塙保己一～その心と業績から学ぶもの～』（斎藤政雄）〉
7. 『【企画展図録】森村誠一の証明～現代社会の Reporter』 1999年8月1日 編集・発行：さいたま文学館
収録：巻頭書き下しエッセイ『我が作品風土としての埼玉』／I 森村誠一の足跡〈1 熊谷時代／2 ホテルマン時代／3 作家生活三十年〉／II 生きていく証^{あかし}としての創作活動〈1 推理小説／2 『証明』三部作／3 歴史・時代小説／4 ノンフィクション／5 エッセイ／6 作品の中の埼玉／コラム 多彩な活動と交遊〉／略年譜／著書目録／森村誠一ミステリー地図／協力者・協力機関一覧
8. 『企画展 大宮公園と文学者たち』 1999年12月14日 編集・発行：さいたま文学館

- 収録：I 大宮公園のあゆみ〈江戸から明治へ／明治から大正へ／昭和から現在へ〉／II 大宮公園と文学者たち〈正岡子規／陸羯南・浅井忠／永井荷風／国木田独歩／森鷗外／正宗白鳥／寺田寅彦／田山花袋／高濱虚子／太宰治〉
9. 『企画展 詩でつづる埼玉の風土 ——埼玉を表現した詩人の心——』 2000年4月11日 目次無し
10. 『企画展 金子兜太の世界』 2000年8月1日 編集・発行：さいたま文学館
収録：I 俳句の世界へ 秩父に生まれ育って／II 「前衛俳句の旗手」と呼ばれて一日銀之俳諧一／III 俳句専念一俳諧自由・天人合一一／略年譜／主要著作目録／自選五〇句
11. 『企画展 埼玉の児童文学 —「中学生文学」の作家たち—』 2000年12月9日 編集・発行：さいたま文学館
収録：I 埼玉の児童文学雑誌／II 「中学生文学」の二十三年／III 「中学生文学」の作家たち／特別寄稿1 「中学生文学」を飾った作家と作品(西沢正太郎)／特別2 「中学生文学」刊行の思い出(岡本啓二)／「中学生文学」総目次(抄)／「中学生文学賞」受賞者・受賞作品一覧／協力者・協力機関
12. 『企画展 埼玉の時代・歴史小説』 2001年4月17日 編集・発行：さいたま文学館
収録：I 小説化された秩父事件／II 埼玉ゆかりの時代小説／III 埼玉ゆかりの歴史小説
13. 『企画展 文と絵との出会い —装釘と挿絵—』 2001年9月15日 編集・発行：さいたま文学館
収録：開催にあたって／目次・例言／I 小村雪岱の人となり—〈そうていの字義と雪岱の装釘／挿絵画家としての業績／舞台装置家としての業績／コラム 九九九会に集いし人々〉／II 埼玉ゆかりの文学者たち—その作品にみる装釘と挿絵—〈①武者小路実篤・千家元麿と白樺派の影響を受けた画家たち／②歌人・加藤克巳と画家・瑛九／③文と絵—その数多き出会い— [(1) 詩人・蔵原伸二郎と版画家・棟方志功／(2) 児童文学者・北川千代と画家・竹久夢二、露谷虹児／(3) 埼玉ゆかりの文学者—その作品にみる装釘と挿絵—]〉／展示資料目録／主要参考文献／小村雪岱作品目録(岩城邦男・編)
14. 『テーマ展 少年少女雑誌の世界 ～戦前・戦中期～』 2002年1月19日 発行：さいたま文学館 目次無し
収録：開催にあたって／I. 「少女号」と童謡詩陣・清水かつら／II. 少年少女雑誌のいろいろ／テーマ展「少年少女雑誌の世界」展示資料目録
15. 『企画展 「加藤楸邨と埼玉一芹の根も棄てざりし妻と若かりき—」』 2002年4月27日 編集・発行：さいたま文学館

- 収録：開催にあたって／I 春日部時代—俳句との邂逅—／II 加藤楸邨—巨人の足跡—
／加藤楸邨略年譜／加藤楸邨第一句集『寒雷』（抄）／展示資料一覧
16. 『開館五周年記念特別展「近世埼玉の文人たち」』 2002年9月21日 編集・発行：
さいたま文学館
収録：開催にあたって／第I部 埼玉ゆかりの文人たち／コラム1「小説になった近世
の文人」／第II部 俳諧の流行と結社の活動／展示資料目録／主要参考文献／コラム2
「川島堤の桜と文学」
17. 『テーマ展「文学 VS マンガ—表現のバリエーション—」』 2003年1月18日 発行：
さいたま文学館 目次無し
収録：I ストーラー・マンガの誕生と子どもたち／II 埼玉ゆかりのマンガを読む〈マ
ンガから見た文学（山本おさむ）／「生きるそのこと」—山本おさむ『どんぐりの家』
—（木坂涼）／夕日と土ぼこりの風土から—梶原・園田『赤き血のイレブン』—（天沼
春樹）／寂しい詩情—つげ義春『枯野の宿』—（川本三郎）／III マンガ化された埼
玉の人物／IV マンガ化された埼玉ゆかりの文学作品〈もう一つの創作（北村薫）〉／V
世界にひろがる日本のマンガ／テーマ展「文学 VS マンガ—表現のバリエーション—」
展示資料一覧（抄）
18. 『企画展 宮沢賢治と「アザリア」の友たち』 2003年4月6日 編集・発行：さい
たま文学館
収録：開催にあたって／パート1 「賢治さん」ってどんなひと？—宮澤賢治・人と作
品—／パート2 「アザリア」が結んだ友情 —賢治さんと三人の友—／「今に生きる
『賢治さん』のメッセージ」（宮澤和樹）／「銀河鉄道の切符代」（保阪庸夫）／「宮沢
賢治の青春」（萩原昌好）／展示資料目録
19. 『企画展図録 万葉漫遊 ～さいたま万葉文学史～』 2003年9月20日 編集・発
行：さいたま文学館
収録：開催にあたって／『万葉集』の世界へ／「東歌」の原風景／「防人歌」の原風景
／特別寄稿 I 「東歌と東アジアの歌垣世界」（辰巳正明）／埼玉ゆかりの万葉集研究者／
特別寄稿 II 「万葉歌の表記と万葉仮名」（沖森卓也）／展示資料一覧／埼玉ゆかりの万
葉歌／県内の万葉歌碑一覧／協力者・協力機関
20. 『テーマ展 雑誌に見る 100年前 —「文芸倶楽部」とその時代—』 2004年1月
24日 発行：さいたま文学館 目次無し
収録：開催にあたって／I 博文館と「文芸倶楽部」〈「文芸倶楽部」について／博文館の
さまざまな雑誌／『田舎教師』と博文館の雑誌〉／II 100年前の最新号／展示資料目
録
21. 『企画展図録 Sweet Memories 埼玉ゆかりの子どもの本』 2004年4月24日 編
集・発行：さいたま文学館

収録：開催にあたって／I 子どもの本の時代の幕開け～「おとぎ話」の世界～／II 「童話」の登場／III 今も読みつがれる子どもの本／IV 次代を育てた人々〈瀬田貞二／石井桃子／井野川潔と早船ちよ〉／特別寄稿「新しい子どもの文学が生まれた頃」（神宮輝夫）／コラム「きかんしゃ やえもん」を描いて～岡部冬彦先生にインタビュー～／展示資料一覧／トピック／協力者・協力機関

22. 『企画展図録 『東京近郊 一日の行楽』 一花袋が選んだ癒しの旅一』 2004年10月2日 編集・発行：さいたま文学館

収録：開催にあたって／I 少年花袋と栗橋の鉄橋／II 博文館入社と紀行文／III 近郊散策者の伴侶—『東京の近郊』と『一日の行楽』—／IV 『東京近郊 一日の行楽』に描かれた埼玉／V 紀行文への想い 御休所／再録『東京近郊 一日の行楽』から「鉢形城址」／特別寄稿1 「近郊への視線—江戸から東京へ—」（樋口忠彦）／特別寄稿2 「田山花袋と紀行文」（宇田川昭子）／展示資料一覧

23. 『テーマ展 ～文学館セレクション～ 書跡が語る文学者の素顔』 2005年1月22日 編集・発行：さいたま文学館 目次無し

収録：開催にあたって／秋山正香／石坂養平／北川冬彦／渋谷定輔／杉浦翠子／中西悟堂／長沼依山／水原秋桜子／展示資料一覧

目録

1. 『さいたま文学館収集資料目録』 1998年3月 編集・発行：さいたま文学館資料情報課 目次無し

収録：特殊資料編／図書資料編／雑誌編

2. 『永井荷風資料目録』 1999年3月 編集・発行：さいたま文学館

収録：永井荷風コレクション〈図書編／雑誌編／特殊資料編〉／永井荷風研究資料〈図書編／雑誌編／特殊資料編〉

研究誌

1. 『[開館記念誌] 埼玉の文学』 1997年11月（2000年3月 第2版） 編集・発行：さいたま文学館

収録：第一章●『田舎教師』の世界／第二章●埼玉ゆかりの文学者たち〈埼玉の小説〔中島敦／三上於菟吉／豊田三郎／安藤鶴夫／武者小路実篤／大谷藤子／深沢七郎／宇野信夫〕／埼玉の評論／埼玉の詩〔蔵原伸二郎／岡本潤／神保光太郎〕／埼玉の短歌〔三ヶ島葎子／岡本潤／鹿児島壽藏〕／埼玉の俳句〔長谷川かな女／加藤楸邨〕／埼玉の川柳／埼玉の児童文学〔北川千代／打木村治〕〉／第三章●永井荷風コレクション／第四章●埼玉の豊かな文学風土〈早船ちよ／佐藤紅緑／石井桃子／正岡子規／森鷗外／大西民子／大木実／高柳重信／清水かつら／国木田独歩独／千家元麿／三島由紀夫／田中

冬二／坂口安吾／与謝野晶子／土屋文明／北川冬彦／壺井栄／幸田露伴／若山牧水／尾崎喜八／城山三郎／島村利正／斎藤茂吉／渡辺淳一／宮沢賢治／井伏鱒二／高濱虚子／土岐善麿／石田波郷／水原秋桜子／三好達治／野口富士男／一色次郎／秩父事件と埼玉／塙保己一と『群書類従』／埼玉の古典文学〔『万葉集』／『平家物語』／『太平記』／『奥の細道』〕／埼玉の文学碑（関田史郎）／明日の埼玉文学〔加藤克巳／金子兜太／中村稔／森村誠一〕／協力者一覧

文芸雑誌

1. 『文芸埼玉』

- 1-1. 『文芸埼玉』 第58号 1997年12月26日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-2. 『文芸埼玉』 第59号 1998年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-3. 『文芸埼玉』 第60号 1998年12月22日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-4. 『文芸埼玉』 第61号 1999年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-5. 『文芸埼玉』 第62号 1999年12月21日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-6. 『文芸埼玉』 第63号 2000年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-7. 『文芸埼玉』 第64号 2000年12月21日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-8. 『文芸埼玉』 第65号 2001年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-9. 『文芸埼玉』 第66号 2001年12月22日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-10. 『文芸埼玉』 第67号 2002年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-11. 『文芸埼玉』 第68号 2002年12月25日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-12. 『文芸埼玉』 第69号 2003年6月30日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館
- 1-13. 『文芸埼玉』 第70号 2003年12月24日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：埼玉県教育委員会／さいたま文学館

1-14. 『文芸埼玉』 第 71 号 2004 年 6 月 30 日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：
埼玉県教育委員会／さいたま文学館

1-15. 『文芸埼玉』 第 72 号 2004 年 12 月 24 日 編集：文芸埼玉編集委員会 発行：
埼玉県教育委員会／さいたま文学館

※第 1 号（1968 年 11 月 3 日）～第 57 号（1997 年 6 月 27 日）までは、「文芸埼玉編集委員会」が編集を担当し、「埼玉県教育委員会」が発行を行っていた。さいたま文学館開館に伴い、第 58 号以降に、さいたま文学館が共同発行者として参加するようになった。

館報

1. 『館報』

1-1. 『館報（平成 9 年度）』 第 1 号 1998 年 3 月 31 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 施設概要／3 図書室概要／4 展示室概要〈(1) 展示室の概要／
(2) 埼玉ゆかりの主な文学者〉／5 資料収集〈(1) 資料収集状況／(2) 資料収集方針〉／6 平成 9 年度事業概要〈(1) 普及事業／(2) 「文芸埼玉」作品募集／(3) 埼玉文芸賞／(4) 特別展（企画展）〉／7 平成 10 年度事業予定〈(1) 普及事業／(2) 企画展開催〉／8 管理運営〈(1) 運営協議会等／(2) 組織及び職員／(3) 利用者数／(4) 予算概要〉／9 資料〈(1) 開館記念式典挨拶等／(2) 設置までの経緯〉／10 例規集〈(1) さいたま文学館条例／(2) さいたま文学館管理規則／(3) 財団法人けやき文化財団寄附行為（抄）〉／11 日誌（抄）／12 利用案内・地図

1-2. 『館報（平成 10 年度）』 第 2 号 1999 年 3 月 31 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 施設概要／3 図書室概要／4 展示室概要〈(1) 展示室の概要／
(2) 埼玉ゆかりの主な文学者〉／5 資料収集概要／6 平成 10 年度事業概要〈(1) 普及事業／(2) 「文芸埼玉」作品募集／(3) 埼玉文芸賞／(4) 企画展開催〉／7 平成 11 年度事業計画〈(1) 普及事業／(2) 企画展開催〉／8 管理運営〈(1) 運営協議会等／(2) 組織及び職員／(3) 利用者数／(4) 予算概要〉／9 資料〈(1) さいたま文学館条例／(2) さいたま文学館管理規則／(3) 財団法人けやき文化財団寄附行為（抄）／(4) 資料収集方針〉／5 埼玉文芸賞受賞者一覧〉／10 運営報告及び日誌〈(1) 運営報告／(2) 平成 10 年度日誌（抄）〉／11 利用案内・地図

1-3. 『館報（平成 11 年度）』 第 3 号 2000 年 3 月 31 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 条例・規則等〈(1) さいたま文学館条例／(2) さいたま文学館管理規則／(3) 財団法人けやき文化財団寄附行為（抄）〉／3 施設概要／4 文学図書室／5 文学展示室〈(1) 展示室の概要／(2) 埼玉ゆかりの主な文学者〉／6 資料収集概要／7 平成 11 年度事業概要〈(1) 普及事業／(2) 「文芸埼玉」作品募集（第 62 回）／(3) 埼玉文芸賞（第 31 回）／(4) 企画展開催〉／8 平成 12 年度事業計

画〈(1) 普及事業／(2) 企画展開催〉／9 管理運営〈(1) 運営協議会等／(2) 組織及び職員／(3) 利用者数／(4) 予算概要〉／10 運営報告及び日誌〈(1) 運営報告／(2) 平成 11 年度日誌(抄)〉／11 利用案内・地図

1-4. 『館報 (平成 12 年度)』 第 4 号 2001 年 3 月 31 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 条例・規則等〈(1) さいたま文学館条例／(2) さいたま文学館管理規則／(3) 財団法人けやき文化財団寄附行為(抄)〉／3 施設概要／4 文学図書室／5 文学展示室〈(1) 展示室の概要／(2) 埼玉ゆかりの主な文学者〉／6 資料収集概要／7 平成 12 年度事業概要〈(1) 普及事業／(2) 「文芸埼玉」作品募集(第 64 回)／(3) 埼玉文芸賞(第 32 回)／(4) 企画展開催〉／8 平成 13 年度事業計画〈(1) 普及事業／(2) 企画展等開催〉／9 管理運営〈(1) 運営協議会等／(2) 組織及び職員／(3) 利用者数／(4) 予算概要〉／10 運営報告及び日誌〈(1) 運営報告／(2) 平成 12 年度日誌(抄)〉／11 利用案内・地図

1-5. 『館報 (平成 13 年度)』 第 5 号 2002 年 4 月 1 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 条例・規則等〈1 さいたま文学館条例／2 さいたま文学館管理規則／3 財団法人けやき文化財団寄附行為(抄)〉／3 施設概要／4 文学図書室／5 文学展示室〈1 展示室の概要／2 埼玉ゆかりの主な文学者〉／6 資料収集概要／7 平成 13 年度事業概要〈1 普及事業／2 「文芸埼玉」作品募集(第 66 回)／3 埼玉文芸賞(第 33 回)／4 企画展示事業〉／8 平成 14 年度事業計画〈1 普及事業／2 企画展示事業〉／9 管理運営〈1 運営協議会等／2 組織及び職員／3 利用者数／4 予算概要〉／10 運営報告及び日誌〈1 運営報告／2 平成 13 年度日誌(抄)〉／11 利用案内・地図

1-6. 『館報 (平成 14 年度)』 第 6 号 2003 年 4 月 1 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 条例・規則等〈1 さいたま文学館条例／2 さいたま文学館管理規則／3 財団法人けやき文化財団寄附行為(抄)〉／3 施設概要／4 文学図書室／5 文学展示室〈1 展示室の概要／2 埼玉ゆかりの主な文学者〉／6 資料収集概要／7 平成 14 年度事業概要〈1 普及事業／2 「文芸埼玉」作品募集(第 68 回)／3 埼玉文芸賞(第 34 回)／4 企画展示事業〉／8 平成 15 年度事業計画〈1 普及事業／2 企画展示事業〉／9 管理運営〈1 運営協議会等／2 組織及び職員／3 利用者数／4 予算概要〉／10 運営報告及び日誌〈1 運営報告／2 平成 14 年度日誌(抄)〉／11 利用案内・地図

1-7. 『館報 (平成 15 年度)』 第 7 号 2004 年 4 月 1 日 発行：さいたま文学館
収録：1 沿革／2 条例・規則等〈1 さいたま文学館条例／2 さいたま文学館管理規則／3 財団法人けやき文化財団寄附行為(抄)〉／3 施設概要／4 文学図書室／5 文学展示室〈1 展示室の概要／2 埼玉ゆかりの主な文学者〉／6 資料収集概要／7 平成 15 年度事業概要〈1 普及事業／2 「文芸埼玉」作品募集(第 70 回)／3

埼玉文芸賞（第 35 回）／4 企画展示事業）／8 平成 16 年度事業計画（1 普及事業／2 企画展示事業）／9 管理運営（1 運営協議会等／2 組織及び職員／3 利用者数／4 予算概要）／10 運営報告及び日誌（1 運営報告／2 平成 15 年度日誌（抄））／11 利用案内・地図

記念誌（開館）

1. 『埼玉県立近代文学館（仮称）及び桶川市民ホール（仮称）基本計画』 1993 年 3 月
発行：埼玉県教育委員会／桶川市
2. 『埼玉県立近代文学館（仮称）及び桶川市民ホール（仮称） 建築設計協議の記録』 1994 年 3 月 発行：埼玉県／桶川市
収録：はじめに／建築設計協議の概要／作品集〈最優秀作品 [TAK 建築都市計画研究所（柳澤孝彦）]／ヒアリング対象 [伊東豊雄建築設計事務所（伊東豊雄）／設計組織アルモフ（竹山聖）／日総建（渡辺一郎）／前川建築設計事務所（田中清雄）]／参加作品 [アール・アイ・エー（石岡紘一郎）／アルコム（船越徹）／石本建築事務所（阿佐見昭彦）／出江建築事務所（出江寛）／浦辺設計（松村慶三）／大字根建築設計事務所（大字根弘司）／岡田新一設計事務所（岡田新一）／桂建築設計事務所（吉川孝男）／楠山建築設計事務所（久寿米木泰宣）／黒川紀章建築都市設計事務所（岡崎一詩）／佐藤総合計画（河田一栄）／大栄建築事務所（亀山慎一郎）／日本設計（鎌田整二）／丹羽英二建築事務所（古澤功）／藤木隆男建築研究所（藤木隆男）／松田平田（佐藤明）／山下和正建築研究所（山下和正）／山下設計（高橋栄一）／山本理頭設計工場（山本理頭）]〕／コンペ参加要領／基本計画抜粋／質疑応答書／審査講評
3. 『さいたま文学館 [施設案内]』 1999 年 発行：さいたま文学館
収録：開館までの経緯／施設概要／文学活動施設／文学図書室／文学展示室／桶川市民ホール／その他の施設など／利用案内

【24】文京区立鷗外記念本郷図書館

図録

1. 『森鷗外をめぐる百枚の葉書』 1992 年 7 月 9 日 編集：森鷗外記念会 発行：文京区教育委員会
収録：ごあいさつ（富田誠一）／序文解説（長谷川泉）／森鷗外略年譜／一、日清戦争まで（渡独以前 [1 依田学海 明治十七年八月十日]／池端花園町時代 [2 落合直文 明治二十二年六月九日]／千駄木町五十七番地（猫の家）時代 [3 幸田露伴 明治二十三年十月二十九日]／4 尾崎紅葉 明治二十三年十一月二十二日]／5 山田美妙 明

治二十四年三月十日／6 岡倉天心 明治二十四年三月三日／7 川上眉山 明治二十五年一月一日〕／二、日清日露戦間〈めさまし草時代〔8 正岡子規 明治二十九年二月一日／9 斎藤緑雨 明治二十九年二月二十日／10 幸田延 明治二十九年三月二日／11 森田思軒 明治二十九年八月三十一日／12 饗庭篁村 明治三十年一月一日／13 井上通泰 明治三十年八月十二日〕／小倉時代〔14 正岡子規 明治三十四年一月一日／15 森篤次郎 明治三十四年七月十九日／16 大村西崖 明治三十四年十一月二十一日〕／万年草時代〔17 平田秃木 明治三十六年一月十七日／18 巖谷小波 明治三十六年四月十六日／19 尾崎紅葉 明治三十六年六月二十四日〕〕／三、日露戦争〈森鷗外日露戦争便り〔20 森鷗外 明治三十七年三月二十二日／21 森鷗外 明治三十七年十一月二十日／22 森鷗外 明治三十七年十二月十八日／23 日 森鷗外 明治三十八年一月十一日／24 第二回紅葉祭記念 明治三十八年一月十一日／25 賀古鶴所 明治三十七年十二月三十一日／26 森鷗外 明治三十八年三月五日／27 小山内薫 明治三十八年二月二十七日／28 伊井蓉峯 明治三十八年三月二十五日／29 森鷗外 明治三十八年三月三十日（3枚 1/3・2/3・3/3）／30 雅劇第一回開園記念 明治三十八年四月二十九日〕

2. 『所蔵資料図録 第1集「写真」(全) 写真でたどる森鷗外の生涯—生誕140周年記念—』 2002年12月27日 編集：文京区立鷗外記念本郷図書館 発行：文京区教育委員会

収録：御挨拶（中村満吉）／1. 幼年の頃 文久2年（1862）～明治6年（1873）／2. 東大から軍へ 明治7年（1874）～明治16年（1883）／3. ドイツ留学 明治17年（1884）～明治21年（1888）／4. 啓蒙の時代 明治22年（1889）～明治21年（1898）／5. 小倉時代 明治32年（1899）～明治35年（1902）／6. 日露戦争の頃 明治35年（1902）～明治41年（1908）年／7. 盛んな創作活動 明治42年（1909）～大正4年（1915）／8. 栄光の晩年 大正5年（1916）～大正11年（1922）／「鷗外記念本郷図書館収蔵写真資料の意義」（山崎一穎）／鷗外年譜／所蔵写真目録／参考文献一覧／写真コラム〈写真台紙／鷗外の交友関係／観潮楼の書生たち／森於菟／その後の観潮楼〉

3. 『所蔵資料図録 第2集「手回品・生前記念品・家蔵品ほか」 鷗外愛用の品々』 2004年1月19日 編集：文京区立鷗外記念本郷図書館 発行：文京区教育委員会

収録：序に代えて／1 文具／2 印／3 身回品／4 絵画／5 書／「遺品に見る森鷗外の生涯と時代」（中井義幸）／「森鷗外思慮目録」対照表／参考文献

目録

1. 『森鷗外展陳列目録』 1964年11月 目次無し

収録：手廻り品記念品など／鷗外原稿／日本美術史資料／額／掛軸／色紙／家族関係／手記／楽譜、作詞／日記／鷗外題簽地図／医学、衛生学、解剖学、軍関係著書／審美学

画学著書／文学著作梗概の部／鷗外作品掲載の雑誌／蔵書残物（その他は東大図書館鷗外文庫）／雑／墓碑／初版本その他／書簡／写真／雑／はがき／図書

2. 『森鷗外関係蔵書目録』 1965年3月

収録：第一部 鷗外著作の部〈1. 全集・選集／2. 単行本／3. 内容の一部として収録されたもの／4. 翻訳書／5. 雑誌所載／6. 主要雑誌〉／第二部 鷗外研究書等の部〈1. 単行本／2. 内容の一部として収録されたもの／3. パンフレット抜刷類／4. 雑誌所載／5. 鷗外に関する特集雑誌／6. シナリオ臺本／7. 書誌〉

3. 『鷗外記念室蔵書目録』 1969年3月31日 編集：鷗外記念本郷図書館 発行：文京区立鷗外記念本郷図書館

収録：鷗外著作〈A-1. 全集・選集／A-2. 単行本／A-3. 内容の一部として収録されたもの／A-4. 翻訳書／A-5. 雑誌所載／A-6. 主要雑誌／A-7. その他〉／鷗外研究書等〈B-1. 単行本／B-2. 内容の一部として収録されたもの／B-3. パンフレット抜刷類／B-4. 雑誌所載／B-5. 特集雑誌／B-6. シナリオ／B-7. 書誌・目録／B-8. その他〉

4. 『鷗外研究文献目録 ‘77～’80』 1981年3月 編集・発行：鷗外記念本郷図書館

収録：1 鷗外著作／2 鷗外論／3 作品論／4 他作家との比較論／5 歴史小説論／6 詩歌論／7 手記・書簡・日記／8 外国文学／9 評論・思潮／10 演劇／11 医学／12 伝記／13 ドイツ留学／14 小倉／15 史跡・記念事業

5. 『鷗外記念室蔵書目録 1980年（昭和55年）版』 1981年3月31日 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館

収録：1. 鷗外著書（附・鷗外蔵書）〈A. 鷗外著書（A）（生前発行）／C. 序文・跋等のあるもの／D. 全集・選集／E. 鷗外著書（B）（没後発行）／F. 雑誌（A）（生前発行）／G. 蔵書残部〉／2. 親族著書／3. 鷗外研究書／4. 雑誌（B）（没後発行）／5. 研究紀要／6. 教科書／7. 芸能／8. スクラップ／9. 雑

6. 『鷗外遺品目録（増補版）』 1981年6月1日 発行：文京区立鷗外記念本郷図書館

収録：I 鷗外記念品〈一、手回品／二、生前記念品／三、没後記念品／四、家藏品／五、写真／六、記念事業関係〉／II 鷗外自筆原稿類〈一、小説・戯曲／二、詩歌／三、考證／四、評論・随筆／五、手記・記録／六、日記／七、書・図表・墓表／八、雑・題簽等／九、賀古鶴所筆記／十、遺言状〉／III 家族関係／IV 賀古鶴所文書／V 雑／VI 書簡（封書）〈一、鷗外自筆のもの／二、家族より鷗外宛のもの／三、知人関係より鷗外宛のもの／四、家族間交信のもの／五、家族より知人宛のもの／六、知人関係より家族宛のもの／七、鷗外知人間交信のもの〉／VII 書簡（はがき）〈一、鷗外自筆のもの／二、家族より鷗外宛のもの／三、知人関係より鷗外宛のもの／四、知人関係より鷗外宛奇書のもの／五、家族間交信のもの〉

7. 『鷗外記念室蔵書目録 1981年（昭和56年）版』 1982年3月 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館

- 収録：1 鷗外著書／2 親族著書／3 鷗外研究書／4 雑誌／5 研究紀要／6 教科書／8 スクラップ／9 雑
8. 『鷗外記念室蔵書目録 1982年（昭和57年）版』 1983年3月 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館
収録：1. 鷗外著書／2. 親族著書／3. 鷗外研究書／4. 雑誌／5. 研究紀要／7. 芸能／8. スクラップ／9. 雑
9. 『鷗外研究文献目録 1977年～1981年』 1983年3月 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館
収録：1 鷗外著作／2 鷗外論／3 作品論／4 他作家との比較論／5 歴史小説論／6 詩歌論／7 手記・書簡・日記／8 外国文学／9 評論・思潮／10 演劇／11 医学／12 伝記／13 ドイツ留学／14 九州／15 史跡・記念事業／参考〈1 「森鷗外記念会通信」内容細目／2 主要鷗外研究文献目録〉
10. 『森鷗外資料目録 1984年（昭和59年）版』 1985年3月1日 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館
収録：図書資料〈1. 鷗外著書（附・鷗外蔵書）[A. 鷗外著書（A）（生前発行）／C. 序文・跋等のあるもの／D. 全集・選集／E. 鷗外著書（B）（没後発行）／F. 雑誌（A）（生前発行）／G. 蔵書残部]／2. 親族著書／3. 鷗外研究書／4. 雑誌（B）（没後発行）／5. 研究紀要／6. 教科書／7. 芸能／8. スクラップ／9. 雑]／遺品資料〈I 鷗外記念品 [1. 手回品／2. 生前記念品／3. 没後記念品／4. 家蔵品／5. 記念事業関係]／II 写真 [1. 鷗外写真／2. 鷗外家族・知人関係／3. 鷗外史跡・記念事業]／III 鷗外自筆原稿類 [1. 小説・戯曲／2. 詩歌／3. 考證／4. 評論・随筆／5. 手記・記録／6. 日記／7. 書・図表・墓表／8. 雑・題簽等／9. 賀古鶴所筆記／10. 遺言状]／IV 家族関係／V 賀古鶴所文書／VI 雑／VII 書簡（封書）[1. 鷗外自筆のもの／2. 家族より鷗外宛のもの／3. 知人関係より鷗外宛のもの／4. 家族間交信のもの／5. 家族より知人宛のもの／6. 知人関係より家族宛のもの／7. 鷗外知人間交信のもの]／VIII 書簡（はがき）[1. 鷗外自筆のもの／2. 家族より鷗外宛のもの／3. 知人関係より鷗外宛のもの／4. 知人関係より鷗外宛奇書のもの／5. 家族間交信のもの]〉
11. 『森鷗外資料目録 1990年（平成2年）版』 1991年3月1日 編集発行：文京区立鷗外記念本郷図書館
収録：図書資料〈1. 鷗外著書（附・鷗外蔵書）[A. 鷗外著書（A）（生前発行）／C. 序文・跋等のあるもの／D. 全集・選集／E. 鷗外著書（B）（没後発行）／F. 雑誌（A）（生前発行）／G. 蔵書残部]／2. 親族著書／3. 鷗外研究書／4. 雑誌（B）（没後発行）／5. 研究紀要／6. 教科書／7. 芸能／8. スクラップ／9. 雑]／遺品資料〈I 鷗外記念品 [1. 手回品／2. 生前記念品／3. 没後記念品／4. 家蔵品／5. 記念事業関係]／II 写真 [1. 鷗外写真／2. 鷗外家族・知人関係／3. 鷗外史跡・記念事業]／III 鷗

外自筆原稿類 [1. 小説・戯曲／2. 詩歌／3. 考證／4. 評論・随筆／5. 手記・記録／6. 日記／7. 書・図表・墓表／8. 雑・題簽等／9. 賀古鶴所筆記／10. 遺言状]／IV 家族関係／V 賀古鶴所文書／VI 雑／VII 書簡（封書）[1. 鷗外自筆のもの／2. 家族より鷗外宛のもの／3. 知人関係より鷗外宛のもの／4. 家族間交信のもの／5. 家族より知人宛のもの／6. 知人関係より家族宛のもの／7. 鷗外知人間交信のもの]／VIII 書簡（はがき）[1. 鷗外自筆のもの／2. 家族より鷗外宛のもの／3. 知人関係より鷗外宛のもの／4. 知人関係より鷗外宛奇書のもの／5. 家族間交信のもの]

12. 『森鷗外資料目録 平成 13 年（2001 年）版』 2001 年 3 月 編集・発行：文京区立鷗外記念本郷図書館

収録：図書資料〈1. 鷗外著書（附・鷗外蔵書）[A. 鷗外著書（生前発行）／A. 鷗外著書（独文）／C. 序文・跋等のあるもの／D. 全集・選集／E. 鷗外著書（没後発行）／E. 鷗外著書（外国語）／F. 雑誌（生前発行）／G. 蔵書残部／G. 蔵書残部（外国語）]／2. 親族著書／3. 鷗外研究書／鷗外研究書（外国語）／4. 逐次刊行物（没後発行）／雑誌（外国語）／5. 研究紀要／6. 教科書／7. 芸能／8. スクラップ／9. 雑〕／遺品資料〈I 鷗外記念品 [1. 手回品／2. 生前記念品／3. 没後記念品／4. 家藏品／5. 記念事業関係]／II 写真 [1. 鷗外写真／2. 鷗外家族・知人関係／3. 鷗外史跡・記念事業]／III 鷗外自筆原稿類 [1. 小説・戯曲／2. 詩歌／3. 考證／4. 評論・随筆／5. 手記・記録／6. 日記／7. 書・図表・墓表／8. 雑・題簽等／9. 賀古鶴所筆記／10. 遺言状]／IV 家族関係／V 賀古鶴所文書／VI 雑／VII 書簡（封書）[1. 鷗外自筆／2. 家族より鷗外宛／3. 知人関係より鷗外宛／4. 家族間交信／5. 家族より知人宛／6. 知人関係より家族宛／7. 鷗外知人間交信]／VIII 書簡（はがき）[1. 鷗外自筆／2. 家族より鷗外宛／3. 知人関係より鷗外宛／4. 知人関係より鷗外宛寄書のもの／5. 家族間交信／6. 家族より知人宛／7. 知人より家族宛／8. 知人関係より家族宛寄書／9. 知人間交信／10. その他]

【25】（財）海音寺潮五郎記念館

研究誌

1. 『「文学建設」誌総目次』 1980 年 9 月 30 日 監修：中澤＝夫 編者：財団法人海音寺潮五郎記念館 発行：財団法人海音寺潮五郎記念館

収録：刊行の辞（中澤＝夫）／昭和十四年（一一十二号）／昭和十五年（一一十二号）／昭和十六年（一一十二号 [七号休刊]）／昭和十七年（一一十二号）／昭和十八年（一九号）／「文学建設」誌同人名（氏名変動の月のみ）

館報

1. 『海音寺潮五郎記念館誌』

1-1. 『海音寺潮五郎記念館誌』 創刊号 1980年10月1日 編集：中澤＝夫 発行：末富千樞

収録：文学建設総目次刊行／対談 文学建設と海音寺文学（中澤＝夫／尾崎秀樹）／海音寺の最初の時代小説 「うたかた草紙」について（磯貝勝太郎）／鹿児島県立図書館に新設された海音寺文庫コーナー／遺稿整理作業より ザラ紙に書かれた「一本の樞」

1-2. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第2号 1981年3月15日 編集：中澤＝夫 発行：末富千樞

収録：文学・歴史の研究に対する助成金決定／対談 文学建設と海音寺文学（中澤＝夫／尾崎秀樹）／短篇「武者気質」と長篇小説「風雲」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎の生家（中澤＝夫）／海音寺潮五郎生誕の碑完成／海音寺さんちのおじさん（今井通子）

1-3. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第3・4号 1982年3月15日 編集：中澤＝夫 発行：末富千樞

収録：歴史と文学研究〈系図買と偽系図（中澤＝夫）／歴史と児童文学（中澤＝夫）／歴史の虚像と実像（浜田泰三／中澤＝夫）／旅と講（中澤＝夫）／隠れ念仏と隠れキリシタン（中澤＝夫）／日本紀元と改暦事件（中澤＝夫）／定飛脚とお七里（中澤＝夫）〉／「千石鶉」と「意地」（磯貝勝太郎）／南島史学会第十回大会報告／片隅の応援団（萱原宏一）

1-4. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第5号 1983年3月15日 編集：中澤＝夫 発行：末富千樞

収録：文化講演会開催／歴史と文学研究〈侠客とやくざ（中澤＝夫）／八幡船考（中澤＝夫）／大奥の女中（中澤＝夫）／遊女の変遷（中澤＝夫）／鏡の謎（中澤＝夫）／御朱印船（中澤＝夫）〉／短篇「大老堀田正俊」（磯貝勝太郎）／那須記念館アルバム／個性のある衣服の好み（岡戸武平）

1-5. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第6号 1985年12月15日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：文化講演会開催〈宝暦治水 もっと薩摩の誇りに（杉本苑子）／二人西郷 南洲と北洲の接点研究（尾崎秀樹）〉／直木賞受賞作品「天正女合戦」（磯貝勝太郎）／文化教養講座／改装された東京事務所アルバム／海音寺先生の後押（胡桃沢耕史）

1-6. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第7号 1986年11月1日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：文学・歴史研究へ助成金／「武道伝来記」について（磯貝勝太郎）／海音寺潮

五郎寸描（萱原宏一）／私のお守り（石坂浩二）

1-7. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第8号 1988年2月10日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：文化講演会特集〈幕末に生きる 生麦事件の真相（網淵謙錠）／生きていた秀頼（尾崎秀樹）／女性史の窓から 底辺女性史（山崎朋子）／離島の南洲（尾崎秀樹）／記念碑的な長編「本朝女風俗」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 一／蝦夷山桜の旅（安達瞳子）／

1-8. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第9号 1989年3月10日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：昭和63年度文化講演会〈九州と海（白石一郎）／海と日本文学（尾崎秀樹）／戦前の長編傑作「柳沢騒動」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 二／海音寺先生の紋付（半田富久）

1-9. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第10号 1990年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成元年度文化講演会〈東西雑感（司馬遼太郎）／海音寺潮五郎と歴史文学（尾崎秀樹）／「茶道太閤記」について（磯貝勝太郎）／平成元年度の特別事業／海音寺潮五郎著書目録稿 三／思い出の日々（川野黎子）

1-10. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第11号 1991年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成二年度文化講演会〈桜田門外ノ変について（吉村昭）／一八六二年上海 一幕末の日中交流一（尾崎秀樹）／短編「千石角力」について（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 四／日本の銀杏の源流（木村久邇典）

1-11. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第12号 1992年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成三年度文化講演会〈私の文学と人生（瀬戸内寂聴）／太平記の世界（尾崎秀樹）／好短篇「雪山を攀ずる人々」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 五／あの飛翔の頃（伊藤文八郎）

1-12. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第13号 1993年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成四年度文化講演会〈人間は最高の風景（村松友=）／元禄事件 一海音寺著五郎文学にふれて一（尾崎秀樹）／長編現代小説「風霜」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 六／愛刀をぬきてながむる夜のくだち（佐々正）

1-13. 『海音寺潮五郎記念館誌』 第14号 1994年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成五年度文化講演会〈体験に学ぶ（渡辺淳一）／江戸開城 一南洲と海舟の

歴史的会見について―（尾崎秀樹）／稀覯本『花咲くもの』（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 七／暗夜に霜の落つる如く（藤掛寅七）

1-14.『海音寺潮五郎記念館誌』 第15号 1995年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成六年度文化講演会〈小説の裏側（津村節子）／大菩薩峠の世界 一中里介 山没後五十年―（尾崎秀樹）／最初の中国ものの短編「崑崙の魔術師」（磯貝勝太郎）／海音寺潮五郎著書目録稿 八／日本歴史の「語り部」にと（牧野観壽）

1-15.『海音寺潮五郎記念館誌』 第16号 1996年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成七年度文化講演会〈私と戦場小説（伊藤桂一）／圓長の遺産（尾崎秀樹）／海音寺先生と司馬さん（萱原宏）／海音寺潮五郎著書目録稿 九／「日本歴史を散歩する」について（末永勝介）

1-16.『海音寺潮五郎記念館誌』 第17号 1997年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成八年度文化講演会〈カオスの近代説話（寺内大吉）／司馬遼太郎の世界（尾崎秀樹）／伊勢と海音寺潮五郎（矢野憲一）／特別展 海音寺潮五郎／海音寺潮五郎著書目録稿 十

1-17.『海音寺潮五郎記念館誌』 第18号 1998年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成九年度文化講演会〈文学と志（早乙女貢）／「歴史小説の原点」（尾崎秀樹）／「文士」寸描（秋吉茂）／「かごしま近代文学館」オープン／「作家への道 困難多く」（末富千樞）／海音寺潮五郎著書目録稿 十一

1-18.『海音寺潮五郎記念館誌』 第19号 1999年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：平成十年度文化講演会〈日本の剣豪（津本陽）／忠臣蔵の虚実（尾崎秀樹）／焼酎五合（寺岡善男）／文化教養講座閉講／海音寺潮五郎著書目録稿 十二

1-19.『海音寺潮五郎記念館誌』 第20号 2001年3月31日 編集：瀬戸口忍 発行：末富千樞

収録：文化講演会〈考えるヒント（阿刀田高）／海音寺潮五郎と司馬遼太郎（磯貝勝太郎）／母のやさしさ（澤地久枝）／海音寺文学と琉球・アジア（原口泉）／豊かな島（山本修巳）／海音寺潮五郎著書目録稿 十三

1-20.『海音寺潮五郎記念館誌』 第21号 2002年3月31日 編集：茂木まや子 発行：末富千樞

収録：生誕百年記念特集〈宵越しの金は持たず（末富千樞）／西郷どんの夢をみた（寺師慶子）／未発表小説「戦袍日記」原稿発見／海音寺潮五郎著書目録稿 十四

1-21.『海音寺潮五郎記念館誌』 第22号 2003年12月31日 編集:茂木まや子 発行:末富千樞

収録:文化講演会〈幕末薩摩と変革の力(原口泉)〉/特集 直木賞選評再録一/「歴史読本」と海音寺先生(高橋千劔破)/碑めぐり 一

1-22.『海音寺潮五郎記念館誌』 第23号 2004年8月31日 編集:茂木まや子 発行:末富千樞

収録:文化講演会〈国語教育絶対論(藤原正彦)〉/特集 直木賞選評再録二/海音寺家の思い出(臼井勝美)/碑めぐり 二

【26】(財)世田谷文学館

図録(常設展)

- 1.『文学のまち 世田谷 世田谷文学館常設展示案内』 1995年3月30日 発行:世田谷文学館 監修:進藤純孝 編集:世田谷文学館 制作:トータルメディア開発研究所
収録:あいさつ/プロローグ〈自然の中で/世田谷文学入門[世田谷にゆかりの文学者/世田谷文学入門]〉/世田谷文学風土記〈田園都市せたがや[烏山—農村の風景/砧—武蔵野の風景/玉川—多摩川の風景]〉/新東京せたがや[北沢—街の風景/世田谷—くらしの風景] /せたがや文学マップ/ムットーニのからくり劇場/エピローグ〈ビデオブース/映像コーナー〉/施設案内/協力者一覧/利用案内/常設展示場のご案内
- 2.『世田谷ゆかりの作家たち』 1995年3月30日 発行:世田谷文学館 編集:生田美秋/大塚正基/土井正光 監修:進藤純孝/槌田満文
収録:文学風土としての世田谷(世田谷文学館館長 佐伯彰一)/世田谷文学マップ〈烏山—農村の風景/砧—武蔵野の風景/玉川—多摩川の風景/世田谷—くらしの風景/北沢—街の風景〉/「世田谷」を描いた独歩・花袋・牧水—大八車・場末の町・初恋の歌/素顔の作家たち—『文学館ライブラリー』でご覧になれます/作家プロフィール〈烏山地域[徳富蘆花/賀川豊彦/大宅壮一/伊藤整/笹沢美明や高須梅溪ら]/砧地域[柳田国男/野村胡堂/北原白秋/野上弥生子/武者小路実篤/平塚らいてう/西條八十/中河与一/横溝正史/大岡昇平/福永武彦/水上勉/色川武大/大江健三郎/「野鳥の会」の中西悟堂ら]/玉川地域[志賀直哉/吉田紘二郎/宮本百合子/石坂洋次郎/石川達三/江間章子/安岡章太郎/吉行淳之介/「湖畔の宿」の佐藤惣之助ら]/世田谷地域[葛西善蔵/青野李吉/高群逸枝/海野十三/芹沢光治良/徳永直/壺井栄/小栗虫太郎/海音寺潮五郎/中野重治/島木健作/林芙美子/平林たい子/山本健吉/井上靖/中島敦/佐藤愛子/寺山修司/太子堂に酔茗・紅緑ら]/北沢地域[斎藤茂吉/竹久夢二/萩原朔太郎/長与善郎/白井喬二/広津和郎/

宇野千代／横光利一／石川淳／三好達治／中村汀女／中山義秀／網野菊／中村草田男
 ／三好十郎／阿部知二／深田久弥／森茉莉／加藤楸邨／坂口安吾／山岡荘八／植草甚
 一／田村泰次郎／椎名麟三／杉森久英／田中英光／梅崎春生／中村真一郎／遠藤周作
 ／井上光晴／北杜夫／森瑤子／安倍能成・奥野信太郎ら〕／世田谷文学コラム〈海野・
 小栗・木々の共同編集 ——「探偵トリオ」が創刊した同人誌「シュピオ」／実篤・八
 十・冬彦らも寄稿 ——上馬で誕生・四六号まで続いた詩誌「無限」／五人の直木賞作
 家誕生 ——世田谷でスタートした同人誌「近代説話」／『氷壁』で誕生した「かえる
 会」 ——井上靖を中心に「穂高」に憧れた文化人たち／「文芸映画」のメッカ ——
 四八坪からスタートした「東宝・砧撮影所」／文学の清治主義に挑戦 ——「世田谷ト
 リオ」と呼ばれた評論家集団／「双梅居」の水守亀之助 ——酒汲み交わし下宿学生と
 文学談義／野間宏『暗い絵』を連載 ——北沢で創刊された総合誌「黄蜂」／若き日の
 俊才育んだ町 ——代沢・経堂／成城などに見る文人交友録／貴重な文学遺跡「恒春園」
 ——明治の面影残す蘆花邸と雑木林・竹林／「信仰と実践」の生涯を展示 ——上北沢
 の「賀川豊彦記念・松沢資料館」／日本最大の「雑誌図書館」 ——四六万冊の雑誌を
 保有する「大宅壮一文庫」／「庭」の思い出刻んだ文学碑 ——経堂の「財団法人・海
 音寺潮五郎記念館」／近代文学資料の宝庫 ——昭和女子大学の「近代文庫」「光葉博
 物館」／写真提供・協力者／作家名索引

図録（企画展）

1. 『横溝正史と「新青年」の作家たち』 1995年3月30日 編集：世田谷文学館／小池
 智子／瀬川ゆき 発行：世田谷文学館
 収録：新ジャンル誕生の現場（佐伯彰一）／横溝正史と「新青年」の作家たち／探偵小
 説の開会——「新青年」前夜〈「新青年」前夜（鈴木貞美）／江戸川乱歩——闘わない
 巨人（新保博久）／「大衆文芸」と「新青年」（谷口基）／横溝正史の世界〈横溝正史
 の世界（中島河太郎）／父・横溝正史と世田谷（横溝亮一）／横溝正史と「新青年」の
 編集者たち（浜田雄介）／「新青年」の作家たちとその世界〈雑誌「新青年」の作家
 たちと世界（川崎賢子）／「日本SFの父」海野十三（横田順彌）／海野十三と日本SF
 のパイオニアたち（長山靖生）／小栗虫太郎論——「黒死館殺人事件」を読むために——
 （増田順子）／「新青年」から出発した文体の実験者たち——夢野久作、小栗虫太郎、
 久生十蘭（川崎賢子）／「新青年」——異才と鬼才の系譜（山下武）／「新青年」の
 時代〈都市大衆文化の再発見（鈴木貞美）／江戸川乱歩と昭和のミステリージャンル（浜
 田雄介）／「新青年」関連年表／主要参考文献／「新青年」関連作家略歴／協力者一
 覧／おもな出品資料
2. 『『日本百名山』の深田久弥と山の文学展』 1995年8月30日 編集：世田谷文学館
 ／矢野進／生田美秋／中垣理子／斎藤慈子 発行：世田谷文学館

収録：「名山」と日本人（佐伯彰一）／『日本百名山』の深田久弥と山の文学展（カラー図版）／プロローグ 九山山房の世界〈世田谷の家・九山山房の日々（藤原一晃）／父が「百名山」を書いた頃、世田谷・松原の暮らし（深田森太郎）〉／第一部 幼年時代、ルーツを探る〈ふるさとの山々——深田久弥のルーツを探る（近藤信行）〉／第二部 同人から作家デビューへ〈山と文学の青春——文壇登場のころ（近藤信行）〉／第三部 『日本百名山』の世界〈『日本百名山』とその周辺（近藤信行）／『日本百名山』の誕生（大森久雄）〉／第四部 「ヒマラヤ」から「シルクロード」へ〈深田久弥のヒマラヤ（雁部貞夫）／深田さんとシルクロードの旅（長澤和俊）／ヒマラヤからシルクロードへ（近藤信行）〉／第五部 山の文学・山の名著〈山と文学（福田安年）／魅力的な山岳書の古典（水野勉）〉／第六部 年譜・出品資料〈年譜——深田久弥の足跡（中馬敏隆 堀込静香）／主な出品資料／協力者一覧〉

3. 『坂口安吾展』 1996年4月5日 編集：世田谷文学館／齋藤直子／菊地香／生田美秋／齋藤慈子 発行：世田谷文学館

収録：安吾文学のイキの良さ（佐伯彰一）／安吾復活（奥野健男）／遺品アルバム／プロローグ 世田谷代用教員時代〈代用教員時代の坂口安吾（齋藤直子）／インタビュー 代用教員時代の教え子——齋藤定男さんに聞く（聞き手 菊池宗孝／齋藤直子）〉／一、自伝的小説でたどる生涯〈自伝的小説で辿る生涯（奥野健男）／安吾のふるさと（新井満）／実らなかった安吾と津世子の恋（近藤富枝）／安吾逍遙——新潟篇 安吾トライアングルの風景（若月忠信）／安吾逍遙——関東篇 安吾不連続線（池内紀）〉／二、安吾の作品世界〈1 小説〔安吾の作品世界——小説（村上護）／「白痴」——純愛小説としての「白痴」（川本三郎）／「櫻の森の満開の下」（野田秀樹）／「風博士」と「蛸博士」——ドビュッシーとサティのあいだで揺れた安吾（秋山邦晴）〕／2 評論・エッセイ〔安吾の作品世界——評論・エッセイ（奥野健男）／「墮落論」（尾崎秀樹）／「日本文化私観」——現代にこそ生きる安吾のドグマ（石原慎太郎）〕／3 推理小説〔安吾の作品世界——推理小説（村上護）／「不連続殺人事件」（久間十義）〕／4 歴史小説・文明批評〔安吾の作品世界——歴史小説・文明批評（村上護）／「安吾巷談」——その魅力とは？（秋山駿）／「歴史探偵」としての安吾（川村湊）〕〉／三、追想・安吾〈安吾のいる風景（文と写真 坂口綱男）／「彼は誰？」（坂口綱男）／アンケート 安吾へのオマージュ（飯島耕一 荻野アンナ 佐々木幹郎 佐藤忠男 清水邦夫 杉森久英 司修 出口裕弘 手塚眞 ロジャー・パルバース）〉／四、資料編〈年譜——坂口安吾（若月忠信）／主要出品資料一覧／協力者一覧〉

4. 『映画と世田谷』 1996年7月5日 編集：世田谷文学館／矢野進／小池智子／齋藤慈子 発行：世田谷文学館

収録：ごあいさつ／映画と世田谷（佐藤忠男）／プロローグ〔映画雑誌〕／映画雑誌（武藤康史）／第一部〔映画と文学〕〈衣笠貞之助／映画と文学の出会い（上野昴志）〉／第

二部〔東宝・砧撮影所〕〈東宝映画黄金時代を助監督として生きて（高瀬昌弘）／《P.C.L.の時代》／《戦時下の撮影所》／山中貞雄／ポスターギャラリー／《占領下の映画界—東宝争議》／第三部〔映画の黄金時代〕／第四部〔テレビの時代へ〕／世田谷映画人マップ（砧地域）〈世田谷の映画人たち（川本三郎）／山本嘉次郎／黒澤明／マキノ雅広／稲垣浩／成瀬巳喜男／豊田四郎、杉江敏男／渡辺邦男／中川信夫／本多猪四郎／円谷英二／谷口千吉、岡本喜八／市川崑）／協力者一覧

5. 『「青鞥」と「女人芸術」 ～時代をつくった女性たち展』 1996年10月9日 編集：世田谷文学館／菊地香／齋藤直子／生田美秋／豊田美穂 発行：世田谷文学館

収録：フシギな先駆者（佐伯彰一）／近代女性文学と「青鞥」「女人芸術」（村松定孝）／「青鞥」と「女人芸術」——時代をつくった女性たち展（カラー図版）／「青鞥」前史〈明治の女性と文学（菊地香）〉／「青鞥」誕生〈「青鞥」解説（渡邊澄子）／平塚らいてう（小林登美枝）／平塚らいてうと夏目漱石（佐々木英昭）／紅吉尾竹一枝と「番紅花」（渡邊澄子）〉／「女人芸術」の時代〈「女人芸術」（尾形明子）／長谷川時雨がのこしたもの（岩橋邦枝）／インタビュー 望月百合子さんに聞く 私の出会った“新しい女”たち、そして世田谷のこと（聞き手 齋藤尚子／菊地香）〉／「青鞥」・「女人芸術」の周辺〈与謝野晶子（渡邊澄子）／田村俊子（渡邊澄子）／岡本かの子（岩淵宏子）／野上弥生子（渡邊澄子）／神近市子（折井美耶子）／伊藤野枝（井手文子）／吉屋信子（田辺聖子）／宮本百合子（中條百合子）（岩淵宏子）／平林たい子（岩淵宏子）／円地文子（上田文子）（尾形明子）／尾崎翠（稲垣眞美）／佐多稲子（窪川稲子）（尾形明子）／大谷藤子と矢田津世子（近藤富枝）／「青鞥」から「女人芸術」げ（紅野敏郎）／アンケート 私の心惹かれる「青鞥」「女人芸術」ゆかりの作家・作品（巖谷大 大原富枝 川本三郎 三枝和子 萩原葉子 森田誠吾）〉／世田谷と女性作家〈マップ 世田谷ゆかりの寄稿者たち／近代史を彩る先駆者たち——世田谷ゆかりの女性作家群像（大塚正基）〉／近代女性文学略年表（渡邊澄子）／おもな出品資料／「青鞥」・「女人芸術」寄稿女性作家一覧／協力者一覧

6. 『生誕百年記念 芹沢光治良展』 1997年4月25日 編集：世田谷文学館／小池智子／矢野進／生田美秋／豊田美穂／南剛 発行：世田谷文学館

収録：思い出のなかの芹沢さん（佐伯彰一）／芹沢さんの人柄について（中村真一郎）／もっとも尊敬される作家の生涯——芹沢光治良展によせて（大江健三郎）／生い立ち・青春・結婚／逆境の底での合点（進藤純孝）／コラム・沼津 虚構への憧れ——沼津中学時代の芹沢光治良（鈴木吉雄）／留学・療養・帰国／強靱な観察の目（進藤純孝）／コラム・パリ 巴里（生田美秋）／作家への途／作家への道（井上謙）／芹沢光治良、その文壇登場——デビュー作「ブルジョア」の周辺（十重田裕一）／愛と死の根っ子に（進藤純孝）／コラム・中野 一高性のサロン（芹沢文子 岡玲子）／コラム・軽井沢疎開時代の芹沢光治良（大藤敏行）／先生とお風呂（矢代静一）／大作への準備と国際

的活動／大作への準備と国際的活動（羽鳥徹哉）／コラム・ペンクラブ 日本ペンクラブと芹沢光治良（稲垣真美）／芹沢先生が示されたヒント（ドエルシテッド露子）／『人間の運命』をめぐって（村上光彦）／『人間の運命』をめぐり（柴田徳衛）／芹沢文学とファンタジー——「神シリーズ」をめぐって（小峰和子）／芹沢ペンクラブ会長の憶ひ出（阿川弘之）／芹沢光治良氏の思い出（渡辺邦彦）／芹沢先生が残した言葉（高野悦子）／コラム・三宿 三宿時代の芹沢光治良／芹沢文学の世界 日本文学の中の芹沢文学（大岡信）／芹沢文学の世界 世界文学における芹沢さん（中村真一郎）／資料編〈芹沢光治良 略年譜（鈴木吉雄編）／芹沢光治良 主要著作目録（鈴木春雄編）／主要出品資料リスト〉

7. 『時代小説のヒーローたち展』 1997年10月18日 編集：世田谷文学館／齋藤直子／生田美秋／豊田美穂／南剛／西山直子 発行：世田谷文学館
収録：「時代小説」のフシギな魅力（佐伯彰一）／日本の大衆文学——成立まで（尾崎秀樹）／第Ⅰ部 ヒーローの誕生〈図版／前史からヒーローの誕生（尾崎秀樹）／白井喬二（尾崎秀樹）〉／第Ⅱ部 ヒーロー列伝〈図版〉／戦乱のヒーロー〔天下をめざしたヒーロー〕〈解説 戦乱のヒーロー（尾崎秀樹）／コラム 戦国・風塵のヒーロー（中島誠）／コラム映画史 天下をめざしたヒーロー 信長・秀吉・家康（高瀬昌弘）〉／戦乱のヒーロー〔武将列伝〕〈解説 武将列伝（縄田一男）／コラム 上杉謙信と武田信玄（桶谷秀昭）／コラム映画史 戦乱のヒーローたち 馬と鎧と武将たち（高瀬昌弘）〉／剣のヒーロー〈解説 剣のヒーロー（尾崎秀樹）／コラム 狐剣（小島英熙）／コラム映画史 剣のヒーロー 宮本武蔵と椿三十郎（高瀬昌弘）〉／幕末・維新のヒーロー〈解説 幕末・維新のヒーロー（縄田一男）／コラム 幕末・維新のヒーローたち（早乙女貢）／コラム映画史 幕末／維新のヒーローたち 鞍馬天狗と近藤勇（高瀬昌弘）〉／仇討・騒動のヒーロー〈解説 仇討・騒動のヒーロー（尾崎秀樹）／コラム 仇討愚見（池宮彰一郎）／コラム映画史 仇討ちのヒーロー 忠臣蔵アラカルト（高瀬昌弘）〉／市井・股旅・白浪のヒーロー〈解説 市井・股旅・白浪のヒーロー（縄田一男）／コラム 江戸の風景と人情（常磐新平）／コラム映画史 長谷川伸・稲垣浩のこと（市川久夫）〉／ニヒルなヒーロー〈解説 ニヒルなヒーロー（尾崎秀樹）／コラム 堀田隼人（清原康正）／コラム映画史 ニヒルなヒーロー 丹下左膳、机龍之助そして眠狂四郎（高瀬昌弘）〉／明朗型のヒーロー〈解説 明朗型のヒーロー（尾崎秀樹）／コラム 菅田平野（清原康正）／コラム映画史 明朗型ヒーロー 旗本退屈男とニヒルな主人公たち（高瀬昌弘）〉／捕物帖のヒーロー〈解説 捕物帖のヒーロー（縄田一男）／コラム 捕物帖の江戸っ子（半藤一利）／コラム映画史 捕物帖のヒーロー（永田哲朗）〉／第Ⅲ部 時代小説の周辺〈時代小説と映画（永田哲朗）／時代小説と挿絵・装幀（植田満文）／時代小説と演劇（渡辺保）／時代小説と音楽（菅野由弘）／時代小説に書かれた女性（梅本育子）〉／第Ⅳ部 戦後時代小説のヒーロー〈図版／解説 戦後時代小説

説のヒーロー（縄田一男）／アンケート わたしの好きな時代小説作家—この人この作品〈「吉川英治」（吉川英明）／「山岡荘八」（杉田幸三）／「海音寺潮五郎」（磯貝勝太郎）／「池波正太郎」（宮部みゆき）／「子母澤寛」（童門冬二）／「司馬遼太郎」（谷沢永一）／「山本周五郎」（木村久邇典）／「柴田錬三郎」（秋山駿）／「大佛次郎」（福島行一）／「野村胡堂」（泡坂妻夫）／「隆慶一郎」（寺田博）／「藤沢周平」（向井敏）〉／第Ⅴ部 資料編〈年譜（縄田一男）／主要出品資料一覧／協力者一覧〉

- 8.『遠藤周作展』 1998年4月24日 編集：世田谷文学館／矢野進／生田美秋／南剛 発行：世田谷文学館

収録：同世代として——「遠藤日記」の魅力——（佐伯彰一）／遠藤周作展（カラー図版）／プロローグ「心あたたかな医療を求めて」〈「心あたたかな医療」を求めて（山崎章郎）／「心温かな医療」に思う（村松静子）／ベッドという名の舞台（遠藤龍之介）〉／第1部「生き立ち——洗礼体験・文学のめざめ」〈生き立ちから文学の目覚め（三浦朱門）／遠藤さんのフランス留学（井上洋治）〉／第2部「世田谷在住時代——作家デビュー・第三の新人」〈遠藤周作の世田谷時代（安岡章太郎）／限りなく居場所をもとめて（進藤純孝）／松原時代の思い出（遠藤順子）〉／第3部「二つの顔——遠藤周作と狐狸庵山人」〈狐狸庵と遠藤（三浦朱門）／キリスト教文学の視点から読む遠藤作品（上総英郎）／歴史小説の視点から読む遠藤作品（高橋千劔破）／狐狸庵山人とマブゼ共和国（北杜夫）〉／第4部「われわれは何処から来て何処へ行くのか」〈『深い河』創作の裏側（加藤宗哉）／『深い河』を読む（ヴァン・C・ゲッセル）／『深い河』を読む（瀬戸内寂聴）／『深い河』を読む（アルフォンス・デーケン）／『深い河』を読む（山折哲雄）／『深い河』を読む（湯浅泰雄）〉／年譜／主な出品資料／協力者一覧

- 9.『池田満寿夫の世界 —美術と文学の饗宴』 1998年8月22日 編集：世田谷文学館／小池智子 発行：世田谷文学館 目次無し

- 10.『吉行淳之介展』 1998年10月16日 編集：世田谷文学館／齋藤直子／生田美秋 発行：世田谷文学館

収録：好天の夏日（安岡章太郎）／車中の対話——屈折したモダニスト（佐伯彰一）／吉行淳之介の面目（小島信夫）／Ⅰ 生き立ち・終戦・文壇へ〈誕生から文壇に出るまで（山本容朗）／生ひ立ち（吉行あぐり）／「葦」のころ（鈴木重生）／「世代」のころ（中村稔）〉／Ⅱ 《第三の新人》時代〈「第三の新人」前後（三浦朱門）／あの頃（進藤純孝）／吉行の失敗（近藤啓太郎）／『男と女の子』から『闇のなかの祝祭』へ（大久保房男）／吉行淳之介とエイスケ（神谷忠孝）／吉行淳之介のヘンリー・ミラー訳（中田耕治）／不思議な興奮——吉行淳之介訳『好色一代男』（後藤明生）〉／Ⅲ 世田谷時代〈『砂の上の植物群』から『暗室』へ（川村二郎）／対談の名手（山藤章二）／吉行文学とドビュッシー、パウル・クレー（生田美秋）／『夕暮まで』（菅野昭正）／吉行淳之介の魅力（阿川弘之）／理屈の通らぬ男（中沢けい）／吉行さんの魅力（村上龍）

／葉萸（宮城まり子）／IV 資料〈年譜（青山毅 山崎行雄）／主要出品資料一覧）
／協力者一覧

11. 『川端康成生誕 100 年記念 横光利一と川端康成展』 1999 年 4 月 24 日 編集：世田谷文学館／小池智子／生田美秋 発行：世田谷文学館

収録：作家の友情（佐伯彰一）／横光利一の生い立ちと青春／川端康成の生い立ちと青春／第一章 新感覚派時代の横光・川端〈横光利一と川端康成との出会い——菊池寛という存在（保昌正夫）／横光利一の《新感覚派》時代（栗坪良樹）／川端康成の新感覚派時代・作品と評論（羽鳥徹哉）／横光、川端と「文芸時代」——生命主義の展開と切斷（鈴木貞美）／モダニズム芸術と新感覚派（小森陽一）／新感覚派映画聯盟（十重田裕一）／第二章 「文学の神様」・横光利一〈「文学の神様」横光利一 『機械』から『旅愁』へ、『微笑』まで（保昌正夫）／横光利一の戯曲（大笹吉雄）／横光利一の俳句（清水基吉）／横光利一の欧州体験（今橋映子）／横光利一と現実（辻邦生）／わたしの横光利一体験（吉本隆明）／忘れられない人（小島信夫）／佐野繁次郎と横光利一についての覚書〉／第三章 「雨過山房」の思い出〈「雨過山房」に集まった人たち（井上謙）／インタビュー わが師・横光利一——八木義徳氏に聞く（聞き手 生田美秋）／思い出す儘に（横光象三）／北沢の家の思い出（横光佑典）／「文学の神様」と二人の子息たち（江間章子）／横光利一弔辭（川端康成）／第四章 川端文学の抒情と非情『雪国』まで（～戦前）（川端香男里）／川端康成と古賀春江（酒井忠康）／第五章 「君の後を生きて行く」—川端文学のひろがり〈川端文学のひろがり（川端香男里）／批評かとしての川端（E・G・サイデンステッカー）／川端康成と私（田久保英夫）／生の気分と死の気分（秋山駿）／川端文学の映像化（武藤康史）／横光利一・川端康成略年譜（羽鳥徹哉編）／《横光利一と川端康成展》出品自筆資料一覧／Kawabata as a Critic（E. G. Seidensticker）

12. 『瀧口修造と武満徹展』 1999 年 12 月 7 日 編集：矢野進／生田美秋／竹田由美 発行：世田谷文学館

収録：ジャンルを越えた友情（佐伯彰一）／カラー図版／資料／瀧口修造・武満徹 往復書簡／瀧口修造・武満徹 略年譜／出品資料一覧／協力者一覧

13. 『世田谷文学館開館 5 周年記念 井上靖展』 2000 年 4 月 29 日 編集：世田谷文学館／菊地香／生田美秋 発行：世田谷文学館

収録：「作家以前」の井上さん（佐伯彰一）／井上靖先生とシルクロードの旅（平山郁夫）／プロローグ 遥かなる敦煌へ／一、幼き日のこと〈井上靖の自伝的小説について（藤沢全）〉／二、青春放浪・文学へのめざめ〈詩人との出会い（新川和江）〉／三、文壇デビュー『氷壁』のことなど（近藤信行）／四、西域憧憬〈井上さんのこと（陳舜臣）〉／五、史と詩の旅〈井上さんのおつきあい（庄野潤三）〉／六、井上靖のシルクロード・アルバム —昭和四十八年（一九七三年） イランへの旅—（井上靖）／七、

世田谷の日々〈父の価値観（井上修一）〉／八、井上靖 新発見資料〈未発表初期作品
草稿解説（曾根博義）／新発見資料翻刻 1 [昇給綺談（澤木信乃（井上靖））]／新発見
書簡（十二通）の示すもの 一無名作家から芥川賞作家への道一（濱川勝彦）／新発見
資料翻刻 2 [竹本辰夫あて井上靖書簡]／年譜（曾根博義編）／主な出品自筆資料／協
力者一覧

14. 『世田谷文学館 開館 5 周年記念 北杜夫展』 2000 年 9 月 23 日 編集：世田谷文
学館／中垣理子／生田美秋／藤田尚子 発行：世田谷文学館

収録：世田谷と私（北杜夫）／北文学の「規格外れ」の『正統性』（佐伯彰一）／第 I
部 作家「北杜夫」の誕生〈辻邦生と北杜夫（辻佐保子）〉／第 II 部 詩と真実—『幽
霊』（あの頃の北杜夫（佐藤愛子）／『幽霊』の著者を探して（なだいなだ）／北杜夫
『幽霊』を読む（デニス・キーン））／第 III 部 どくとるマンボウ大活躍—「どくとる
マンボウ」シリーズ〈どくとるマンボウの誕生（宮脇俊三）／北杜夫さんの一人二役（井
上ひさし）〉／第 IV 部 小説の勝利—『楡家の人びと』『楡家の人びと』の年（小林信
彦）／『楡家の人びと』をめぐって—文体論の立場から—（原子朗）／『楡家の人びと』
と南の年代記（野谷文昭）／第 V 部 父そして母—「茂吉」四部作『母の影』（北杜
夫）と「楡基一郎」（斎藤茂太）／マンボウ先生のお人柄（阿川弘之）／第 VI 部 北
杜夫の世田谷〈国交樹立（畑正憲）〉／資料／略年譜（斎藤国夫 編）／主要著書目録
（斎藤国夫 編）／主な直筆出品資料

15. 『沢木耕太郎の旅展』 2001 年 2 月 24 日 編集：菊地香 発行：世田谷文学館 目
次無し

16. 『佐藤愛子展』 2001 年 4 月 28 日 編集：世田谷文学館／中垣理子／生田美秋 発
行：世田谷文学館

収録：愛子展、お恥ずかしい（佐藤愛子）／『愛子』から『血脈』へ（佐伯彰一）／第
一章 我がはらからよ—『血脈』（鎮魂の書（大村彦次郎）／『血脈』を読む—稀
有の大河小説（長部日出雄））／第二章 ここにひとりの少女がいる —『愛子』『戦
いすんで日が暮れて』『幸福の絵』（佐藤愛子の眼《女性・性と老い》）／キップのいい愛
子さん（北杜夫）／怒りのユーモア（なだいなだ）／第三章 現代社会を描き出す—
『スニョンの一生』『風の光景』『風の行方』（佐藤愛子の眼《戦争》）／佐藤愛子の対
位法—その社会的視点のおもしろさの秘密—（原子朗）／第四章 生きる為の力
杖—ユーモア小説・エッセイ（佐藤さんの怒笑骨（野坂昭如）／剛毅とやさしみ（田
辺聖子）／佐藤さんのエッセイ（群ようこ）／佐藤愛子の眼《子育て・教育》／凜とし
て（岩橋邦枝））／第五章 我がマドンナ佐藤愛子（佐藤愛子さんを好きなことが、私
の誇りである。（うつみ宮土理）／佐藤さんの招待（美輪明宏）／佐藤さんと私（津村
節子））／世田谷にくらす／資料編／佐藤愛子略年譜（神田由美子編）／主な出品資料

17. 『没後三十年 志賀直哉展』 2001 年 10 月 6 日 編集・発行：世田谷文学館

収録：志賀さんの「フシギ」(佐伯彰一)／第一章 生い立ち(類なき物語作者(出久根達郎)／志賀直哉・父と子のいる風景(池内輝男))／第二章 「白樺」の頃(『清平衛と瓢箪』と『真鶴』(関川夏央)／受け身の感度——『豊年虫』の磁力(紅野謙介))／第三章 『暗夜行路』完成の頃(『暗夜行路』小論(生井知子)／志賀直哉先生と父の思い出(龍田慶子))／第四章 世田谷新町の頃(新町の頃の思い出——主として生き物について(志賀直吉)／志賀直哉と宮本百合子——近さと差異と(江種満子))／第五章 芸術家たちの交友(見通しの文学(篠沢秀夫))／第六章 晩年の生活(三千通の古手紙(阿川弘之))／資料編(年譜(監修・阿川弘之)／主な出品資料)

18. 『追悼 山田風太郎展』 2002年4月20日 編集：世田谷文学館／中垣理子／生田美秋 発行：世田谷文学館

収録：風太郎さんの「崩壊感覚」(佐伯彰一)／第一章 山田風太郎《図鑑》(「文学」の力量を実証した作家(関川夏央)／風太郎さんと「戦争」(西義之))／第二章 『戦中派虫けら日記』『戦中派不戦日記』(医学生 山田誠也(安西功)／当事者の眼(橋本治))／第三章 ミステリー・伝奇小説(シャーロッキアン(?) 山田風太郎(新保博久)／風太郎ミステリーの魅力(皆川博子)／山田風太郎、デビュー期作品論(平岡正明))／第四章 時代小説——「忍法帖」シリーズ(風太郎忍法帖の戦後(縄田一男)／忍法帖の魅力(細谷正充))／第五章 歴史伝奇小説——明治小説・室町物(妖人伝から明治もの、そして中世へ(縄田一男)／明治伝奇小説を読む(木田元))／第六章 風太郎の愛した作家たち(三軒茶屋の『風さん』(原田裕)／父なる乱歩と母のない子ら——乱歩・正史・彬光らとの交流記(新保博久))／資料編(山田風太郎執筆年譜(日下三蔵・編)／主な出品自筆資料)

19. 『昔話と昔話絵本の世界展』 2002年7月6日 編集：世田谷文学館／生田美秋／齋藤直子 発行：世田谷文学館 目次無し

20. 『没後二十年 西脇順三郎展』 2002年9月28日 編集・発行：世田谷文学館

収録：西脇さんのフシギ——時空を駆け抜けたサンボ(佐伯彰一)／第一章 詩——西脇順三郎記念室(近代詩の諧謔——西脇の詩に近づくヒントとして(飯島耕一)／西脇順三郎へのオマージュ(井上輝雄／江森國友／北川徹／城戸朱里／白石かずこ／多田智満子／那珂太郎／野村喜和夫／平出隆／福田陸太郎／藤富保男／安水稔和))／第二章 絵画——空想美術館(西脇順三郎の絵(飯田善國))／第三章 旅——世田谷 奥の細道(幻影の人と旅(新倉俊一))／第四章 草花——空想植物園(『あざみの衣』『じゅんさいとすずき』より)／西脇順三郎へのオマージュ(伊藤勲／加藤郁乎／関口篤／松田幸雄))／第五章 西脇文庫——空想ライブラリー(西脇順三郎晩年の比較言語学(四方田犬彦)／西脇順三郎へのオマージュ(入沢康夫／大岡信／金田弘／窪田般彌／新川和江／鶴岡喜久／萩原葉子／ホセヤ・ヒラタ／メアリ・ド・ラケウィルツ／吉増剛造))／資料編(西脇順三郎年譜(新倉俊一・編)／主な出品資料)

21. 『椎名誠ずんがずんが展』 2003年1月11日 編集：世田谷文学館／齋藤直子 発行：世田谷文学館 目次無し

22. 『没後20年 寺山修司の青春時代展』 2003年4月26日 編集・発行：世田谷文学館

収録：寺山修司との有縁無縁（佐伯彰一）／図版・オマージュ〈I章 生い立ち 世田谷下馬・「天井棧敷」設立まで／寺山修司へのオマージュ I（石川不二子／杉山正樹／萩原朔美／松永伍一／山田太一／横尾忠則）／II章 俳句 便所より青空見えて啄木忌／寺山修司へのオマージュ II（阿部完市／小沢實／齋藤慎爾／高野ムツオ／坪内稔典／夏石番矢／黛まどか／皆吉司／遠藤若狭男／宗田安正／筑紫磐井／深谷雄大）／III章 短歌 むせぶごとく萌ゆる雑木の林にて友よ多喜二の詩を口ずさめ／寺山修司へのオマージュ III（高野公彦／塚本邦雄／永田和宏／藤井常世／喜多昭夫／篠弘／林あまり／堀江典子）／IV章 詩 きらめく季節に・たれがあのかをうたったか・つかのまの僕に・過ぎてゆく時よ／寺山修司へのオマージュ IV（新井豊美／加藤郁乎／白石かずこ／西岡光秋／長谷川龍生／八木忠栄／吉田文憲）／V章 青春時代の手紙／寺山修司へのオマージュ V（秋元潔／川島一夫／工藤春男／木場田秀俊／須永かず子／林俊博／福島胖／前川博／松井牧歌／松岡耕作／丸谷たき子／橘川まもる／京武久美）／不世出のダ・ヴィンチ的天才（長部日出雄）／寺山修司の青春（山口昌男）／寺山修司からの手紙（九條今日子）／寺山修司との出会いと訣れ—半世紀前の手紙の束を前にして（山形健次郎）／修司俳句雑感（新谷ひろし）／寺山修司の俳句（仙田洋子）／俳句の毒（清水哲男）／自己覚醒の発射装置—寺山修司の短歌（菱川善夫）／資料編〈寺山修司年譜（白石征編）／主な出品資料

23. 『没後一〇年 安部公房展』 2003年9月27日 編集・発行：世田谷文学館

収録：世界文学のなかの「公房・安部」（佐伯彰一）／日本文学のなかの安部公房（ドナルド・キーン）／宮武学級—奉天千代田小学校時代の公房（三重野康）／安部公房の少年時代—奉天千代田小学校・奉天第二中学校（児玉久雄）／対談 戦後の芸術シーンと安部公房（針生一郎 中原祐介 安部ねり）／食虫植物の捕虫器—安部公房の初期作品（加藤弘一）／「顔」から「世界内面空間」へ—安部公房の中期作品（三浦雅士）／「内なる境界」とクレオール—安部公房の後期作品（沼野充義）／もぐら作家からのメッセージ（小山鉄郎）／『飛ぶ男』—繭の内側（近藤一弥）／安部公房とチェコの読者（ヴラスタ・ヴィンケルヘーフォロヴァー）／終わることなき風景のなかで—安部公房を偲んで（ハイディ・フォン・ボーン）／安部文学の本質（E・G・サイデンステッカー）／安部公房—グローバルな社会のための作家（ウィリアム・カリー）／資料図版〈第一部 初期—詩作から小説へ 1943—1957／第二部 中期—プロットの展開 1958—1968／第三部 後期—構造の実験 1969—1993／安部公房撮影作品／世田谷文学館での展示風景〉／資料編〈略年譜／主な出品資料リスト〉

24. 『池波正太郎の世界展』 2004年4月24日 編集・発行：世田谷文学館
 収録：「長谷川平蔵」との出会い（佐伯彰一）／プロローグ 青春忘れもの〈池波文学のバックボーン（縄田一男）〉／第Ⅰ章 戯曲から小説へ〈直木賞受賞まで（大村彦次郎）／発酵の長い時間（常盤新平）〉／第Ⅱ章 鬼平登場〈《鬼平犯科帳》——長谷川平蔵の発見（八尋舜石）／三大シリーズの魅力（筒井ガンコ堂）／池波作品の挿絵を描いてきて（中一弥）／「鬼平」と共に生きた私の三十年（高瀬昌弘）〉／第Ⅲ章 戦国と幕末〈池波正太郎の時代小説——三大シリーズ以外を軸として——（縄田一男）／『真田太平記』——池波正太郎と真田の地（久間十義）〉／第Ⅳ章 絵筆の楽しみ〈正太郎少年、文人画家になる（矢吹伸彦）／池波正太郎の旅 江戸・東京・パリ（海野弘）／熟成されて芳醇な映画観（長部日出雄）／池波正太郎の食の世界（重金敦之）／エピローグ いとしの風景〈郷愁にとどめないで（山本一力）〉／資料編〔施設紹介 池波正太郎記念文庫／〔施設紹介 池波正太郎真田太平記館〕／池波正太郎略年譜（木村行伸）／主な出品資料
25. 『生誕120年 詩人画家・竹久夢二展』 2004年10月9日 編集・発行：世田谷文学館
 収録：夢二、康成そして久允（佐伯彰一）／状況学生・夢二の夢——コマ絵・文学と絵画の間で——（山田俊幸）／序章 夢二デビュー／第Ⅰ章 流行画家へ〈夢二と同時代の美術（酒井忠康）／夢二の遍歴——京都二年坂から本郷菊坂へ（近藤富枝）〉／第Ⅱ章 夢二と文学〈夢二の詩歌（尾崎左永子）／夢二の短歌（宮内淳子）／夢二と古典文学『新訳絵入伊勢物語』をめぐって（気谷誠）〉／第Ⅲ章 世田谷時代〈少年山荘——世田谷時代の交流・望月百合子ほか（渡辺勲）／夢二のアメリカと翁久允（逸見久美）／竹久夢二と三人の追悼文（瀬木慎一）／私の輪廻転生物語（久世光彦）〉／資料編〈「美術と文芸」「柳屋」掲載の夢二の歌・句／竹久夢二年譜（谷口朋子編）／主な出品資料

目録

1. 『横溝正史旧蔵資料目録』

- 1-1. 『横溝正史旧蔵資料目録』 2004年3月2日 編集：世田谷文学館学芸課資料情報担当 発行：世田谷文学館
 収録：謝辞／『横溝正史旧蔵資料目録』刊行によせて（佐伯彰一）／横溝正史という謎（新保博久）／目次／凡例／目録〈1. 図書〔(1) 和書〔1 横溝正史著書／2 一般書／3 海外文学（翻訳）〕／(2) 洋書〕／2. 雑誌〔(1) 和雑誌／(2) 洋雑誌〕／3. 原稿〔(1) 横溝正史原稿〕／4. 書簡〔(1) 江戸川乱歩書簡／(2) 西田政治書簡〕〉／図書書名索引
- 1-2. 『横溝正史あて江戸川乱歩書簡』 編集：世田谷文学館 付属 CD-ROM
 収録：昭和16年11月23日／昭和[21]年4月15日推定／昭和21年4月23日／昭

和年 21 月 5 日 3 / 昭和 22 年 2 月 26 日 / 昭和 22 年 3 月 30 日 / 昭和 22 年 5 月 16 日
/ 昭和 22 年 5 月 25 日 / 昭和 22 年 11 月 27 日 / 昭和 23 年 1 月 30 日 / 昭和 23 年 5
月 11 日 / 昭和[23]年 7 月 3 日推定 / 昭和[23]年 7 月 4 日推定 / 昭和[24]年 4 月 22 日
推定 / 昭和[25]年 12 月 8 日 / 昭和 28 年 10 月 6 日 / 昭和 29 年 10 月 13 日 / 昭和 29
年 10 月 9 日 / 昭和 32 年 6 月 25 日 / 昭和 32 年 8 月 18 日 / 昭和 33 年 11 月 20 日 /
昭和 35 年 11 月 27 日 / 昭和 40 年 1 月 22 日 / 奥付

文芸雑誌

1. 『文芸せたがや』

- 1-1. 『文芸せたがや』 第 15 号 1996 年 4 月 1 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋 /
菊地香 発行：世田谷文学館
- 1-2. 『文芸せたがや』 第 16 号 1997 年 4 月 1 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋 /
土井正光 / 菊地香 発行：世田谷文学館
- 1-3. 『文芸せたがや』 第 17 号 1998 年 4 月 1 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋 /
土井正光 / 菊地香 発行：世田谷文学館
- 1-4. 『文芸せたがや』 第 18 号 1999 年 4 月 1 日 編集：生田美秋 / 菊地香 発行：
世田谷文学館
- 1-5. 『文芸せたがや』 第 19 号 2000 年 4 月 1 日 編集：生田美秋 / 矢後浩 発行：
世田谷文学館
- 1-6. 『文芸せたがや』 第 20 号 2001 年 2 月 16 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋
/ 矢後浩 発行：世田谷文学館
- 1-7. 『文芸せたがや』 第 21 号 2002 年 2 月 16 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋
/ 矢後浩 発行：世田谷文学館
- 1-8. 『文芸せたがや』 第 22 号 2003 年 2 月 15 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋
/ 矢後浩 発行：世田谷文学館
- 1-9. 『文芸せたがや』 第 23 号 2004 年 2 月 7 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋 /
赤城秀子 発行：世田谷文学館
- 1-10. 『文芸せたがや』 第 24 号 2005 年 3 月 12 日 編集：世田谷文学館 / 生田美秋
/ 赤城秀子 発行：世田谷文学館

※第 1 号（1982 年 3 月）～第 14 号（1995 年 4 月）までは、「世田谷区総務部文化事業
課」（後に「世田谷区総務部文化課文化事業係」に改称）が編集を担当し、「世田谷区」
が発行を行っていた。世田谷文学館開館に伴い、第 15 号以降の編集・発行が文学館に
委ねられた。

館報

1. 『世田谷文学館』 → 『世田谷文学館ニュース』

1-1. 『世田谷文学館』 第1号 1995年7月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈魅力ある文学空間を ジャンルを超えた試みが必要（青野聰 佐伯彰一）〉／この一冊1（絹谷幸二）／寄贈図書・資料のご報告 平成3年～平成7年3月31日／いわむらかずお絵本原画展 雑木林のファンタジー〈雑木林と私（いわむらかずお）〉／絵本のリアリティ（上條喬久）／自然や動物を見つめるやさしい目（酒井京子）／動物の目の高さから（岸井美恵子）／話題のコーナー・制作者物語〈ムットーニのからくり劇場（武藤政彦）〉／『文学のまち・世田谷』制作にあたって（箕浦洋行）／7月～96年1月 世田谷文学館カレンダー／開館からの“あゆみ”

1-2. 『世田谷文学館』 第2号 1995年11月1日 目次無し

収録：館長の作家対談（水上勉 佐伯彰一）／中川李枝子 絵本の世界展〈四〇年も前のこと（中川李枝子）〉／中川さんの作品と私（斎藤惇夫）／中川李枝子 年譜／『いやいやえん』誕生の頃（石井桃子）／ロングセラーの秘密（太刀川正子）／話題のコーナー・カタログ物語〈常設展示案内『文学のまち世田谷』〉／『世田谷ゆかりの作家たち』／《横溝正史と「新青年」の作家たち》展図録／《『日本百名山』の深田久弥と山の文学展》図録〉／世田谷文学館の“あゆみ”／11月～96年3月 世田谷文学館カレンダー／第一回収蔵品展 『蝦原コレクション』にみる世田谷の詩人／寄贈図書・資料のご報告 平成7年4月1日～9月30日

1-3. 『世田谷文学館』 第3号 1996年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈主節の青鞥をいくマイペースの長距離ランナー（松浦理英子 佐伯彰一）〉／この一冊2（長谷川陽子）／平成7年度 世田谷文学賞入選者発表／話題のコーナー〈新収蔵資料紹介 「黒死館殺人事件」の原稿（中島河太郎）〉／「文芸せたがや」創刊15周年記念号 発売中／世田谷文学館の“あゆみ”／1996年4月～7月 世田谷文学館カレンダー／寄贈図書・資料のご報告 平成7年10月1日～平成8年3月1日

1-4. 『世田谷文学館』 第4号 1996年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈世紀末、よみがえる安吾 その魅力をさぐる（荻野アンナ 佐伯彰一）〉／この一冊3（澤登翠）／話題のコーナー〈投稿 世田谷と私（中込純次）〉／世田谷文学館のあゆみ《4》／1996年8月～11月 世田谷文学館カレンダー／寄贈図書・資料のご報告 平成8年3月1日～7月7日

1-5. 『世田谷文学館』 第5号 1996年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈亡き友の思いを小説に 一伝記のつらさ、おもしろさ（辻井喬 佐伯彰一）〉／この一冊4／舞踏と文学 ——土方巽と作家との交流——〈文学と土方巽の舞踏 一限りなく豪華な時——（元藤ニ子）〉／土方巽略年譜／交流のあった作

家たち／土方巽と文学（倉林靖）／話題のコーナー〈情報募集 文学碑おしえてください〉／世田谷文学館のあゆみ《5》／1996年12月～97年3月 世田谷文学館カレンダー／寄贈図書・資料のご報告 平成8年7月8日～10月20日

1-6. 『世田谷文学館』 第6号 1997年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈美しく豊かで複雑な、それゆえに荒ぶる日本列島の自然（高田宏 佐伯彰一）〉／この一冊5（大須賀勇）／当館収蔵品のご紹介（1）〈「キネマ旬報」〉／寄贈図書・資料のご報告 平成8年10月21日～平成9年3月31日／展示室から 第1回〈ムットーニのからくり劇場〉／この一言／話題のコーナー〈文学賞のこのごろ〉／インフォメーション／1997年4月～7月 世田谷文学館カレンダー／生誕百年記念 芹沢光治良展 ——人間主義^{ユマニスム}を貫いた国際派作家

1-7. 『世田谷文学館』 第7号 1997年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈絶対愛のような恋は、かなりエゴイスチックな人間にしかできない（渡辺淳一 佐伯彰一）〉／この一冊6（大森一樹）／当館収蔵品のご紹介（2）〈世田谷松原『小松庵』の庵主 馬場一郎氏旧蔵資料について〉／寄贈図書・資料のご報告 平成9年4月1日～6月30日／展示室から 第2回〈若林一探偵作家たちの友情〉／この一言／話題のコーナー〈世田谷文学賞募集締め切り迫る！〉／インフォメーション／1997年8月～11月 世田谷文学館カレンダー／時代小説のヒーローたち展

1-8. 『世田谷文学館』 第8号 1997年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈近代に日本人が置き忘れてきたもの ——時代小説の魅力をさぐる（桶谷秀昭 佐伯彰一）〉／この一冊7（中村桂子）／当館収蔵品のご紹介（3）〈文壇つれづれ語り 新藤純孝氏旧蔵資料について〉／寄贈図書・資料のご報告 平成9年7月1日～9月30日／世田谷文学館事業実績／展示室から 第3回〈成城地域・砦一映画のメッカ〉／展示室から 番外篇〈クローズアップ—ゆかり作家発見！〉／話題のコーナー〈拝啓 世田谷文学館——最近の来館者アンケートから〉／インフォメーション／この一言／1997年12月～98年3月 世田谷文学館カレンダー／世田谷文学館第3回収蔵品展 文人の書画展《夏目漱石・小林勇…》

1-9. 『世田谷文学館』 第9号 1998年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈映画と文学のフシギな関係（蓮實重彦 佐伯彰一）〉／平成9年度 世田谷文学賞入賞者発表／当館収蔵品のご紹介（4）〈作家たちの世田谷新町での交流〉／寄贈図書・資料のご報告 平成9年10月1日～平成10年1月31日／展示室から 第4回〈代田—日常の中で〉／展示室から 番外篇〈ビデオケース〉／この一言／インフォメーション／1998年4月～7月 世田谷文学館カレンダー／遠藤周作展

1-10. 『世田谷文学館ニュース』 第10号 1998年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈フシギな父と息子の関係（北杜夫 佐伯彰一）〉／この一冊 8
（池辺晋一郎）／当館収蔵品のご紹介 5〈ひろがる寄贈の輪 あるいは「コシャマイ
ン記」をめぐる〉／展示室から 第 5 回〈せたがや文学マップ〉／平成十年度世田
谷文学賞佐品募集／平成 9 年度事業一覧／展示室／催し物／1998 年 8 月-11 月 世田
谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-11. 『世田谷文学館ニュース』 第 11 号 1998 年 12 月 1 日 目次無し

収録：館長の作家対談〈これからの文学館（中村稔 佐伯彰一）〉／この一冊 9（沢田
としき）／当館収蔵品のご紹介 6〈一枚の切抜から 一森茉莉と『ドッキリチャンネル』〉／第 4 回収蔵品展 「懐しの童謡・歌謡の世界——北原白秋・西條八十」／
クローズアップ・コーナー〈衣裳デザインにみる映画の魅力 一衣裳デザイナー柳生
悦子の仕事〉／遠藤周作と「エスプリ」をめぐる 一遠藤周作発 島崎通夫宛書
簡について（島朝夫）／ライブラリー・ニュース 第 1 回／展示室から 第 6 回〈映
像コーナー〉／1998 年 12 月-1999 年 3 月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展
案内

1-12. 『世田谷文学館ニュース』 第 12 号 1999 年 4 月 1 日 目次無し

収録：館長の作家対談〈佐藤家の血脈（佐藤愛子 佐伯彰一）〉／この一冊 10（石山
修武）／当館収蔵品のご紹介 7〈『鰻原コレクション』 一詩誌「無限」に関する資料
一〉／資料寄贈のご報告 平成 10 年 11 月 1 日-平成 11 年 2 月 28 日／「川端康成生
誕一〇〇年記念 横光利一と川端康成展」によせて 北沢の家の思い出（横光祐典）
／平成 10 年度 世田谷文学賞入選者発表／今年度の展覧会／ライブラリー・ニュー
ス 第 2 回／「世田谷文学館友の会」へのお誘い／1999 年 4 月-7 月 世田谷文学館
カレンダー／近隣の文学展案内

1-13. 『世田谷文学館ニュース』 第 13 号 1999 年 8 月 1 日 目次無し

収録：館長の作家対談〈遅れてきた「新感覚派」（島田雅彦 佐伯彰一）〉／この一冊
11（島尾伸之）／当館収蔵品のご紹介 8〈一白井喬二関連資料より〉／資料寄贈の
ご報告 平成 11 年 3 月 1 日-平成 11 年 6 月 30 日／ライブラリー・ニュース 第 3
回 ～同人誌について～／「黒澤明の仕事」展／「瀧口修造と武満徹」展／平成 11
年度 世田谷文学賞 作品募集／平成 10 年度事業一覧／展覧会／イベント／1999 年
8 月-11 月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-14. 『世田谷文学館ニュース』 第 14 号 1999 年 12 月 1 日 目次無し

収録：館長の作家対談〈シュペルヴェイルから出発して、小説で自由になった。（飯島
耕一 佐伯彰一）〉／資料寄贈のご報告 平成 11 年 7 月 1 日-平成 11 年 11 月 11 日／
当館収蔵品のご紹介 9〈三好達治 瀧口武士宛はがき〉／ライブラリー・ニュース
第 4 回 ～懐かしの日本映画を AV コーナーで～／写真展『シャーロック・ホームズ
の倫敦』／こどものひろば／世田谷文学館文学カレッジ／火曜講座 伊藤洋子の絵本

読み聞かせ講座／木曜講座 山県喬の文学散歩講座／金曜講座 高瀬監督と『鬼平犯科帳』の神髄を探る／土曜講座 高田千鶴子・酒本美登里の絵本キャラクター創作講座／映画監督小林正樹の世界展 世田谷文学館第5回収蔵品展／第一回世田谷フィルムフェスティバル／1999年12月-2000年3月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-15. 『世田谷文学館ニュース』 第15号 2000年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈詩を書きながら、昔からの日本語で書かれた詩歌の伝統にうまくつながらないというのが一番の苦勞でしたね（谷川修太郎 佐伯彰一）〉／この一冊12（水嶋一江）／当館収蔵品のご紹介10〈一吉行淳之介 佐賀章生追悼文「ああ佐賀」原稿一〉／資料寄贈のご報告 平成11年11月12日-平成12年2月29日／ライブラリー・ニュース 第5回 ～ライブラリーで文学散歩を～／平成11年度 世田谷文学賞入選者発表／今年度の展覧会／世田谷文学館 開館5周年を迎えて（佐伯彰一）／催し物／絵本展／写真展／ジャンルを越えた企画展／コレクションについて／「開館5周年記念 井上靖展」によせて 父の価値観（井上修一）／2000年4月-7月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-16. 『世田谷文学館ニュース』 第16号 2000年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈初めて北京へ行ったときに、即座に万葉集のことを考えました。（リービ英雄 佐伯彰一）〉／この一冊13（イチハラヒロコ）／当館収蔵品のご紹介11〈幻の女性詩誌「女人詩」^{にょにんし} 一詩人・方等^{ほうとう}みゆき関連資料一〉／資料寄贈のご報告 平成12年3月1日-平成12年6月30日／谷川俊太郎 絵本の仕事展／北杜夫展／平成12年度 世田谷文学賞 作品募集／平成11年度事業一覧／展覧会／文学サロン／夏休みこども文学館／こどものひろば／移動文学館／第1回世田谷フィルムフェスティバル／文学カレッジ／文学散歩／2000年8月-11月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-17. 『世田谷文学館ニュース』 第17号 2000年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈脚本家の作劇術はすべて捨て去る（池宮彰一郎 佐伯彰一）〉／この一冊14（高山辰雄）／当館収蔵品のご紹介12〈星の文学者・野尻抱影資料〉／資料受贈報告 平成12年7月1日-平成12年10月31日／平成11年度の収蔵品について／世田谷ゆかりの作家たち一寄贈資料を中心として／沢木耕太郎の旅展／「こどものひろば」と《絵本コーナー》によろこそ／世田谷文学館文学カレッジ／第2回世田谷フィルムフェスティバル／2000年12月-2001年3月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-18. 『世田谷文学館ニュース』 第18号 2001年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈短篇小说は「竹の節目」（吉村昭 佐伯彰一）〉／この一冊15／当館収蔵品のご紹介13〈松野一夫 「黒死館殺人事件」挿絵原画〉／資料受贈報告

平成12年11月1日-平成13年2月28日／移動文学館 名作への橋渡し ー大切な少年少女期のためにー／佐藤愛子展／村上康成 絵本の世界展／平成13年度の展覧会／平成12年度 世田谷文学賞入賞者発表／『文芸せたがや』20号刊行／世田谷文学館ホームページのご案内／2001年4月-7月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-19. 『世田谷文学館ニュース』 第19号 2001年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈誰も見ていない通過地点に面白いものがある。(堀江敏幸 佐伯彰一)〉／この一冊16(湯川れい子)／当館の収蔵品のご紹介14〈武満徹 瀧口修造あて書簡〉／資料受贈報告 平成13年3月1日-5月31日／没後三十年 志賀直哉展／第三回世田谷フィルムフェスティバル 「ゴジラ寄託記念 アポロ以前ー日本SF映画の黎明期ー」／平成13年度 世田谷文学賞 作品募集／平成12年度事業一覧／展覧会／文学サロン／夏休みこども文学館／こどものひろば／移動文学館／文学散歩／サロン俳句会／文学カレッジ／2001年8月-11月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-20. 『世田谷文学館ニュース』 第20号 2001年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈ただ単に懐かしいって言っているんじゃない。ノスタルジーは、現代に対する警告でもある。(久世光彦 佐伯彰一)〉／この一冊17(青池保子)／当館の収蔵品のご紹介15〈大川悦生関連民話資料〉／資料受贈報告 平成13年6月1日-9月30日／平成12年度の収蔵品について／ゴジラ寄託記念「SF映画資料展」／中村太郎写真展 宮沢賢治幻想紀行／コレクションによる企画展 江戸川乱歩と横溝正史・大藪春彦・仁木悦子／世田谷文学館文学カレッジ／若い読者のための文学講座／2001年12月-2002年3月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-21. 『世田谷文学館ニュース』 第21号 2002年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈想像で恋愛はふくらみ、恋愛小説も生まれる。(川上弘美 佐伯彰一)〉／この一冊18(大林宣彦)／当館の収蔵品のご紹介16〈脚本家・岩間芳樹 テレビ、ラジオ台本〉／資料受贈報告 平成13年10月1日-平成14年1月31日／文学館で会える 世田谷文学館ライブラリーのご案内／追悼 山田風太郎展／昔話と昔話絵本の世界展／平成14年度の展覧会／平成13年度 世田谷文学賞入賞者発表／『文芸せたがや』21号刊行／【世田谷文学館友の会へのお誘い】 誰でも・いつでも・どこでも・楽しい学びの場を！／2002年4月-7月 世田谷文学館カレンダー／近隣の文学展案内

1-22. 『世田谷文学館ニュース』 第22号 2002年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈緻密な考証を重ね、小説から歴史の真実が見えてくる(逢坂剛 佐伯彰一)〉／この一冊19(浅井慎平)／当館の収蔵品のご紹介17〈井上靖 山本健吉あて書簡(昭和二十七年七月二十二日付) ー山本健吉旧蔵資料よりー〉／資

料受贈報告 平成14年2月1日-5月31日/没後20年 西脇順三郎展 ～なぜ私はダンテを読みながら深沢に住む人々の生垣を 徘徊しなければならないのか~/第四回世田谷フィルムフェスティバル 「ニッポン・ミュージカル映画の世界—美術監督・村木忍の仕事を中心に—」/平成14年度 世田谷文学賞 作品募集/平成13年度事業一覧/常設展示新設(8月3日土曜日より常設) 「日本ハードボイルド文学の先駆者—大藪春彦の世界」/第一回 世田谷文学週刊/第16回 柳田國男ゆかりサミット/「探検!!せたがやスタンプラリー」/2002年8月-11月 世田谷文学館カレンダー/近隣の文学展案内

1-23. 『世田谷文学館ニュース』 第23号 2002年12月1日 目次無し

収録:館長の作家対談<「劇場の神様」に見守られ、見えてきた日本のよさ(原田宗典 佐伯彰一)>/この一冊20(上杉祥三)/当館の収蔵品のご紹介18<東宝映画ポルトガル語版台本>/資料受贈報告 平成14年6月1日-9月30日/平成13年度の収蔵品について/第四回世田谷フィルムフェスティバル 「ニッポン・ミュージカル映画の世界 —美術監督・村木忍の仕事を中心に」/世田谷文学館文学カレッジ/第二回 若い特赦のための文学講座/椎名誠ずんがずんが展——旅で見たこと考えてきたこと/平成14年度コレクション展 「プロレタリア作家の世田谷—その文学と交友」/2002年12月-2003年3月 世田谷文学館カレンダー/近隣の文学展案内

1-24. 『世田谷文学館ニュース』 第24号 2003年4月1日 目次無し

収録:館長の作家対談<語りの文学を蘇らせて、小説を復活させたい(長部日出雄 佐伯彰一)>/この一冊21(林家木久蔵)/当館収蔵品のご紹介19<「新青年」—江戸川乱歩、横溝正史を生んだモダン雑誌>/資料受贈報告 平成14年10月1日-平成15年1月31日/せたがや文化財団発足!/せたがや文化財団設立記念事業 没後二十年 寺山修司の青春時代展/スイスの絵本画家 フィッシャー、ホフマン展/平成十四年度 世田谷文学賞入賞者発表/『文芸せたがや』22号刊行/【文学館友の会への誘い】 いつでも・どこでも・誰でも・楽しい学びの場を!/2003年4月-2003年7月 世田谷文学館カレンダー/近隣の文学展案内

1-25. 『世田谷文学館ニュース』 第25号 2003年8月1日 目次無し

収録:館長の作家対談<<夫婦作家>の生活から、「智恵子」が見えてきた(津村節子 佐伯彰一)>/この一冊22(松尾スズキ)/当館収蔵品のご紹介20<作家誕生の物語—北杜夫『幽霊』(自費出版)>/資料受贈報告 平成15年2月1日-5月31日/没後10年 安部公房展 安部公房を蘇らせたい(佐伯彰一)/第五回世田谷フィルムフェスティバル 「映画俳優・三船敏郎」/平成14年度事業一覧/土曜ジュニア文学館2003/「夏休み せたがや スタンプラリー」/世田谷文学週間/平成十五年度 世田谷文学賞 作品募集/2003年8月-11月 世田谷文学館カレンダー/近隣の文学展案内

1-26. 『世田谷文学館ニュース』 第26号 2003年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈命の危機の問題の取材対象は、外にあるわけではない。自分の心の中に問いつづけることが、ノンフィクションを深みに導いていく—（柳田邦男 佐伯彰一）〉／当館収蔵品のご紹介 21〈杉森久英 処女小説「猿」草稿〉／資料受贈報告 平成15年6月1日-9月30日／平成14年度の収蔵品について／写真展「クマのプーさんと魔法の森へ」／平成15年度コレクションによる企画展「画家と作家の暮らし—さまざまな愛のかたち」／世田谷文学館文学カレッジ／土曜ジュニア文学館2003／ミュージアムショップからのご案内／2003年12月-2004年3月 世田谷文学館カレンダー／せたがや文化財団の催し物／近隣の文学展案内

1-27. 『世田谷文学館ニュース』 第27号 2004年4月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈社会に関心がないというより、その先にあることの方に感心がある（保坂和志 佐伯彰一）〉／この一冊 23（大橋歩）／当館収蔵品のご紹介 22〈映画スチール 秦大三氏旧蔵資料〉／資料受贈報告 平成15年10月1日-平成16年1月31日／再び、文学館で会える 知っておくと役立つ、ライブラリー利用法／池波正太郎の世界展／佐野洋子 絵本の世界展／平成16年度 年間カレンダー／平成十五年度 世田谷文学賞入賞者発表／『文芸せたがや』23号刊行／【文学館友の会へのお誘い】 いつでも・どこでも・誰でも・楽しい学びの場を！／2004年4月-7月 世田谷文学館カレンダー／せたがや文化財団の催し物／近隣の文学展案内

1-28. 『世田谷文学館ニュース』 第28号 2004年8月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈文体が明るくなって、楽に書いている こういう風には書かなきゃいけないと思った（青山光二 佐伯彰一）〉／この一冊 24（熊谷喜八）／当館収蔵品のご紹介 23〈山田風太郎 ミステリーの礎を築いた世田谷時代〉／資料受贈報告 平成16年2月1日-5月31日／生誕120年 詩人画家・竹久夢二展／コレクションによる企画展「よみがえる横溝正史」／平成15年度事業一覧／土曜ジュニア文学館2004／世田谷文学週間／平成16年度 世田谷文学賞 作品募集／2004年8月-11月 世田谷文学館カレンダー／せたがや文化財団の催し物／近隣の文学展案内

1-29. 『世田谷文学館ニュース』 第29号 2004年12月1日 目次無し

収録：館長の作家対談〈この戦争の前までは、江戸の名残がずいぶんと残っていたんですよ。（平岩弓枝 佐伯彰一）〉／この一冊 25（横溝亮一）／当館収蔵品のご紹介 24〈文芸誌「人間」関連資料〉／資料受贈報告 平成16年6月1日-9月30日／平成15年度の収蔵品について／区内在住の書家による「第24回 世田谷の書展」／第6回世田谷フィルムフェスティバル 「生誕一〇〇年 映画監督・成瀬巳喜男」展／生誕一〇〇年 映画監督・成瀬巳喜男 第6回世田谷フィルムフェスティバル／世田谷文学館文学カレッジ2005／土曜ジュニア文学館／2004年12月-2005年3月 世田谷文学館カレンダー／せたがや文化財団の催し物／近隣の文学展案内

【27】立原道造記念館

図録

1. 『開館記念特別展「ふるさとの夜に寄す」』 1997年3月29日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館
収録：ごあいさつ（鹿野琢見 堀多恵子）／施設案内／I 文学と建築の生涯を巡る交游〈詩人・建築家としてのふるさと／建築の生涯を巡る交游／文学の生涯を巡る交游／風土としてのふるさと／生育の場としてのふるさと／解説〉／II 青きモダニストの試み〈向ヶ丘弥生の青春／詩と散文精神の胚胎／詩集『日曜日』の生成／「日曜日」の世界の展開／一高時代略年譜／解説〉／立原道造年譜／出展リスト／出品者・協力者 役職員／後記
2. 『秋期企画展「立原道造と『四季』の詩人たち」』 1997年10月2日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館
収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／立原道造と堀辰雄と『四季』（堀多恵子）／『四季』—知性と感性のありか—／立原道造と『四季』の詩人たち I／《村ぐらし》紀行—詩と散文の変奏—／立原道造と『四季』の詩人たち II／詩人の出発—評論「風立ちぬ」—／ソネット（十四行詩）の世界／立原道造『四季』初出作品年表／暮春嘆息—『四季』からのレクイエム—／主な出品リスト／後記
3. 『立原道造パステル画展 I』 1998年1月4日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館 目次無し
4. 『開館一周年記念特別展「立原道造と生田勉—建築へのメッセージ—」』 1998年3月29日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館
収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／立原道造の親友だった生田勉さん（堀多恵子）／立原道造と生田勉／立原君のこと（小場晴夫）／立原の友人たちの絆／建築学教室での日々／それぞれの卒業／建築家・立原道造の一年間／生田勉の建築評論活動／生田勉の建築設計活動／東大教養学部教授・生田勉／生田勉関係年譜／主な出品リスト
5. 『立原道造の“SOMMER HAUS” ——浅間山麓で育まれた作品世界——』 1998年7月2日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館 目次無し
6. 『「優しき歌」の世界 立原道造と水戸部アサイ 没後六〇年記念特別展』 1999年3月27日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館
収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／カラー版／立原さんとアサイさん（堀多恵子）〈水戸部アサイ／療養所にて／石本建築事務所にて／石本事務所の立原君とアサイさん（武基雄）／石本喜久治東京邸新築工事設計図／石本建築事務所での最期の仕事と遺された住

宅スケッチをめぐって（佐々木宏）／遺された住宅スケッチ）／立原が生前に刊行した二冊の詩集／堀辰雄編 詩集「優しき歌」〈「新生」の歌声（安藤元雄）／「優しき歌」定稿／「優しき歌」下書・初稿等／「優しき歌」と同時期の作品）／水戸部アサイ宛書簡／参考資料〈療養所にて（水戸部アサイ）／後記（堀辰雄）／優しき歌—立原道造の追憶—（中村真一郎）〉／立原道造年譜／主な出品リスト／出品者・協力者・役職員／『「優しき歌」の世界』の題字デザインについて（白井敬尚）／展示にあたって（宮本則子）／後記

7. 『夏季企画展 立原道造・建築家への志向』 1999年7月1日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／ごあいさつ（堀多恵子）／建築衛生學と建築装飾意匠に就ての小さい感想（立原道造）／新たに発見された立原道造の建築論—講義ノオトとの関連およびその背景（佐々木宏）／写真で綴る建築家への志向／小場晴夫氏の書齋から新たに発見された建築論文（宮本則子）／主な出品リスト／出品者・協力者／後記

8. 『没後六〇年記念京都展 立原道造展—「優しき歌」の世界—』 1999年10月23日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／ごあいさつ（田中周二・堀多恵子）／展示内容のご紹介〈第一章 立原道造の生涯〔立原道造略年譜〕／第二章 「優しき歌」の世界〔立原道造と水戸部アサイ／詩集「優しき歌」／立原道造と水戸部アサイ〕／第三章 建築家への志向／第四章 パステル画に描いた青春の日々／第五章 立原道造と京都〔一九三六年（昭11）秋の滞在／一九三八年（昭13）冬の滞在〕／特別展示 生前に刊行された二冊の詩集／特別展示 立原道造の手書・手製詩集〉／主な出品リスト／出品者・協力者／後記

9. 『立原道造と堀辰雄—往復書簡を中心として— 開館三周年記念特別展』 2000年3月25日 編集：立原道造記念館研究資料室 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ（鹿野琢見）／カラー口絵／立原道造と堀辰雄（田中清光）／開かれた窓／対話することへの模索〈立原道造の「風立ちぬ」と堀辰雄（堀多恵子）／色鉛筆で考えた思想／立原道造の評論「風立ちぬ」／レクイエム〈魂を鎮める歌／『立原道造全集』のこと（小山正孝）〉／「四季」という温床（鈴木亨）／参考資料〈目次／立原道造の作品／堀辰雄の作品〉／立原道造・堀辰雄略年譜／出品者・協力者・役職員／主な出展リスト／後記（宮本則子）

10. 『立原道造と小場晴夫—大学時代の友として— 秋企画展』 2001年10月4日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ／カラー口絵〈立原道造が遺した小場晴夫宛書簡／立原道造が遺した建築スケッチ／小場晴夫が後世に伝えた「建築家・立原道造」〉／立原道造と小場晴夫（鈴木博之）／立原と小場（石黒徳衛）／立原道造と小場晴夫の「新創会」（渡会正彦）

／立原道造が遺した小場晴夫宛書簡 全六四通／建築学科での日々／参考資料〈参考資料目次／『建築』再刊第一号 収録作品から／『新建築』第一六卷第四号掲載 立原道造追悼特集の全容／小場晴夫が語る立原道造／補遺〔新資料〕〉／立原道造略年譜／主な出展リスト／出品者・協力者・役職員／後記（宮本則子）

11. 『立原道造と杉浦明平—往復書簡を中心として— 開館五周年記念特別展』 2002年3月30日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ／カラー口絵〈立原道造・杉浦明平往復書簡／杉浦明平著『少年歌集1931』〔新資料〕〉／ひたむきな青春の営み（鈴木亨）／立原道造と杉浦明平の往復書簡を読む（宇佐美斉）／立原道造と杉浦明平の往復書簡 全一〇五通／参考資料〈参考資料目次／杉浦明平『少年歌集1931』〔新資料〕の全容／『未成年』と立原道造・杉浦明平／杉浦明平が語る立原道造〉／杉浦明平略年譜／立原道造略年譜／主な出展リスト／出品者・協力者・役職員／後記（宮本則子）

復刻

1. 『詩集「さふらん」』

1-1. 『詩集「さふらん」』 2000年3月29日 著者：立原道造 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館 制作：朗文堂

1-2. 『詩集「さふらん」 刊行覚書』 2000年3月29日

収録：刊行覚書（宮本則子）

2. 『復刻版『四季』立原道造追悼号』

2-1. 『復刻版『四季』立原道造追悼号』 2003年3月29日 発行：立原道造記念館 制作：二玄社

2-2. 『復刻版『四季』立原道造追悼号 刊行覚書』 2003年3月29日

収録：《復刻版『四季』立原道造追悼号》について（宮本則子）

館報

1. 『立原道造記念館』

1-1. 『立原道造記念館』 創刊準備号 1996年1月28日 編集：錦織政晴／宮本則子／西嶋佐千子 発行：立原道造記念館設立準備室

収録：立原道造記念館開館へ／立原道造記念館計画について（江黒家成）／ご挨拶（立原肇裕）／立原道造記念館建設にあたって（鹿野琢見）／着任のことば（西嶋佐千子）／第一期工事に際して（錦織政晴）／日月抄（宮本則子・西嶋佐千子）

1-2. 『立原道造記念館』 創刊準備2号 1997年1月29日 編集：錦織政晴／宮本則子／西嶋佐千子 発行：立原道造記念館

収録：開館に向けて（錦織政晴）／記念館第一期工事竣工写真（江黒家成設計）／主

な収蔵品—遺品・自筆資料から—（宮本則子）／着任のことば（青木麻美）／開館記念特別展「ふるさとの夜に寄す」（西嶋佐千子）／開館予告・開館前夜祭コンサート案内

1-3. 『立原道造記念館』 創刊号 1997年3月29日 編集：宮本則子／西嶋佐千子／青木麻美 発行：立原道造記念館

収録：開館に当たって〈ごあいさつ（堀多恵子）／ごあいさつ（鹿野琢見）／ごあいさつ（小場晴夫）／ごあいさつ（立原肇裕）〉／道造忌によせて（生田テル）／道造の習作について（国友則房）／立原研究に福音（佐藤實）／永遠の青春、立原道造（杉浦明平）／思い出（杉山平一）／長崎まで旅行をした立原君（武基雄）／詩と音楽（田中清光）／永遠の青年（土井治）／魚の話（豊田泉太郎）／立原道造感想（中村真一郎）／立原道造—森鷗外—川端康成（長谷川泉）／開館によせて（深沢龍一）／あひみてののちの（三井為友）／雪の朝の別れ（山崎剛太郎）／製図室の立原さん 一後輩の思い出（吉武=水）／主な収蔵品 —『萱草に寄す』のカット—（宮本則子）／開館にあたって思うこと（錦織政晴）／後記（西嶋佐千子・青木麻美・宮本則子）

1-4. 『立原道造記念館』 第2号 1997年6月29日 編集：宮本則子／西嶋佐千子／青木麻美 発行：立原道造記念館

収録：開館記念特別展「ふるさとの夜に寄す」を開催中（錦織政晴）／来館者の声—アンケートから—／主な収蔵品から —草稿「綴方」と「水晶の十字架」—（宮本則子）／寄贈資料紹介／日月抄／秋季企画展予告

1-5. 『立原道造記念館』 第3号 1997年9月29日 編集：宮本則子／西嶋佐千子／青木麻美 発行：立原道造記念館

収録：立原道造と堀辰雄と『四季』（堀多恵子）／立原と私（杉山平一）／立原道造と『四季』派の詩人たち —私的回想として（中村真一郎）／立原道造雑記 I 遠い思い出 II 立原道造記念館訪問記（郡司良夫）／主な収蔵品 —水戸部アサイ宛の書簡から—（宮本則子）／新春企画展予告／後記

1-6. 『立原道造記念館』 第4号 1997年12月29日 編集：宮本則子／西嶋佐千子／青木麻美 発行：立原道造記念館

収録：幼友達の道造（伊藤憲治）／五月のそよ風をゼリーにして（篠原資明）／三中生立原道造 その1 絵画部（岡田孝一）／主な収蔵品 —『その日その日』昭和五年日記—（宮本則子）／二つの展示を終えて —来館者の声に応えて—（西嶋佐千子）／開館一周年記念特別展示予告／後記

1-7. 『立原道造記念館』 第5号 1998年3月29日 編集：宮本則子／青木麻美 発行：立原道造記念館

収録：牟礼の家（生田テル）／結晶体のリリシズム —生田勉の建築空間にみる—（山下泉）／立原道造への個人的思い（鈴木博之）／これからも道造さんとおつきあいさ

させていただきます（津村泰範）／立原君の思い出—昭和一三年舞鶴で—（波江貞夫）
／〔補記〕（宮本則子）

1-8. 『立原道造記念館』 第6号 1998年6月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ—夏季展によせて—（堀多恵子）／あの頃の軽井沢（豊田泉太郎）
／三中生立原道造 その2 談話部（岡田孝一）／着任のことば（岩村裕子）／日月抄（三）（研究資料室）／寄贈資料等紹介・後記・秋季企画展予告（宮本則子）

1-9. 『立原道造記念館』 第7号 1998年9月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：ごあいさつ—秋季企画展によせて—（堀多恵子）／立原設計の「サナトリウム」
について（佐々木宏）／「風に寄せて」二詩の典雅・巧緻（長谷川泉）／主な収蔵品—詩稿「風に寄せて」—（宮本則子）／秋季企画展「憩ひ—昔僕が夢を美しいと信じた頃…」／寄贈資料等紹介・後記・新春企画展予告

1-10. 『立原道造記念館』 第8号 1998年12月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：雑草のたわごと（石黒徳衛）／三中生立原道造 その3 学友会（岡田孝一）
／新春企画展「立原道造パステル画展 II」（堀多恵子）／ボランティアとして（勝美知代子）／後記・没後六〇年記念特別展示予告（宮本則子）

1-11. 『立原道造記念館』 第9号 1999年3月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：立原さんとアサイさん（堀多恵子）／「新生」の歌声（安藤元雄）／石本事務所
の立原君とアサイさん（武基雄）／石本建築事務所での最後の仕事と遺された住宅
スケッチをめぐる（佐々木宏）／主な収蔵品—『萱草に寄す』のカット（続）—（宮
本則子）／『「優しき歌」の世界』の題字デザインについて（白井敬尚）／後記・夏季
企画展予告（宮本則子）

1-12. 『立原道造記念館』 第10号 1999年6月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：新たに発見された立原道造の建築論 —講義ノオトとの関連およびその背景
（抄）（佐々木宏）／小場晴夫氏の書斎から 新たに発見された建築論文（宮本則子）
／道造の原風景・日本橋（一）（渡邊俊夫）／日月抄（四）（研究資料室）／後記・秋
季企画展予告（宮本則子）

1-13. 『立原道造記念館』 第11号 1999年9月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：麥書房刊『絵入版 春のごろつき』（長谷川泉）／三中生立原道造 その4 遺
品から（岡田孝一）／秋季企画展のご案内 立原道造の“物語”—「春のごろつき」

を中心として—／日月抄（五）（研究資料室）／寄贈資料等紹介・後記・展示予告（宮本則子）

1-14. 『立原道造記念館』 第12号 1999年12月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：京都の詩人建築家（宇佐美斉）／京都展へ（上野裕介）／「出会いの人」立原道造（河村寧子）／京都展への想い（高野聡）／京都展によせて（津村泰範）／立原道造展によせて（植村貞澄）／道造の原風景・日本橋（二）（渡邊俊夫）／新春企画展のご案内・後記・展示予告（宮本則子）

1-15. 『立原道造記念館』 第13号 2000年3月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：立原道造と堀辰雄（田中清光）／立原道造の「風立ちぬ」と堀辰雄（堀多恵子）／『立原道造全集』のこと（小山正孝）／「四季」という温床（鈴木亨）／後記・出版案内（宮本則子）

1-16. 『立原道造記念館』 第14号 2000年6月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：出色の図録——立原道造と堀辰雄展に寄せて——（佐藤實）／うれしい刊行 詩集『さふらん』復刻版について（佐藤忍）／三中生立原道造 その5 博物部（岡田孝一）／日月抄 六（研究資料室）／後記・秋季企画展予告（宮本則子）

1-17. 『立原道造記念館』 第15号 2000年9月29日 編集：宮本則子／青木麻美／岩村裕子 発行：立原道造記念館

収録：立原君に献げるレクイエム（渡會正彦）／夕菅の原（生田テル）／立原道造へ近づいた道 —ある外国人の個人的体験—（ローザ・ヴナー）／立原道造記念館との出会い（佐藤友美）／展示案内「立原道造・建築家への志向 II」・後記・新春企画展予告（宮本則子）

1-18. 『立原道造記念館』 第16号 2000年12月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：道造の原風景・日本橋（三）（渡邊俊夫）／いまどきの建築学生からみた立原道造（佐々暁生）／着任のことば（神林由貴子）／出版予告「国文学解釈と感傷」別冊『立原道造』／寄贈資料等紹介／日月抄 七（研究資料室）／後記・開館四周年記念特別展予告（宮本則子）

1-19. 『立原道造記念館』 第17号 2001年3月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：「鮎の歌」の初稿の示すもの（安藤元雄）／立原道造とイベール、ザイツェフ（國中治）／「国文学解釈と鑑賞」別冊『立原道造』総目次／開館四周年記念特別展案内／後記・夏季企画展予告（宮本則子）

- 1-20. 『立原道造記念館』 第 18 号 2001 年 6 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：透明な皮膜 言語と視覚形象の饗宴にむけて——（片塩二郎）／私の中の立原道造 —「国文学解釈と鑑賞」別冊『立原道造』を読んで—（布川鴉）／寄贈資料等紹介／日月抄 八（研究資料室）／夏季企画展のご案内・後記・秋季企画展のご案内（宮本則子）
- 1-21. 『立原道造記念館』 第 19 号 2001 年 9 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：小場晴夫と立原道造（鈴木博之）／初源へのまなざし 立原道造とハンス・カロッサー『指導と信徒』の一節について—（小泉美佳）／立原道造紀行（一） —江古田・東京市立療養所跡—（星川幸洋）／秋季企画展のご案内・後記・新春企画展のご案内（宮本則子）
- 1-22. 『立原道造記念館』 第 20 号 2001 年 12 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：三中生立原道造 その 6 修学旅行記（岡田孝一）／立原道造紀行（二） —日本橋—（星川幸洋）／立原道造と小場晴夫—展示・図録を見ての雑感（津村泰範）／新春企画展のご案内・主な出展リスト（研究資料室）／後記・開館五周年記念特別展示のご案内（宮本則子）
- 1-23. 『立原道造記念館』 第 21 号 2002 年 3 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：ひたむきな青春の営み ——杉浦明平の『少年歌集 1931』をめぐって（鈴木亨）／立原道造と杉浦明平の往復書簡を読む（宇佐美斉）／展示図録『立原道造と杉浦明平』のご紹介／後記・英訳立原道造詩集『OF DAWN, OF DUSK』のご紹介／秋季企画展予告（宮本則子）
- 1-24. 『立原道造記念館』 第 22 号 2002 年 6 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：幾星霜をへて冬から春へ（木島始）／『少年歌集 1931』の頃 —《歌人》杉浦明平と立原道造—（若杉美智子）／立原道造紀行（三） —碓氷峠と軽井沢—（星川幸洋）／寄贈資料等紹介／日月抄 九（研究資料室）／後記（宮本則子）
- 1-25. 『立原道造記念館』 第 23 号 2002 年 9 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館
収録：新たに公開される立原道造の設計図面（鈴木博之）／付記（宮本則子）／秋季企画展「立原道造・建築家への志向 III」のご案内・後記・新春企画展予告（宮本則子）
- 1-26. 『立原道造記念館』 第 24 号 2002 年 12 月 29 日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：小山正孝君のこと（鈴木亨）／立原道造とモダニズム（朴洪仁）／また新たな立原ワールド展観の記（津村泰範）／新資料「蛙ノート（仮称）」雑感（宇佐美斉）／開館六周年記念特別展「立原道造と『四季』」予告・新春企画展「立原道造パステル画展 VI」のご案内・後記（宮本則子）

1-27. 『立原道造記念館』 第25号 2003年3月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：遺稿 素描——立原さんのこと（小山正孝）／青年立原道造の晩年／復刻版刊行のご紹介 『四季』立原道造追悼号／開館六周年記念特別展〈「立原道造と『四季』I」主な出展リスト／「立原道造と『四季』II」展示予告〉／後記（宮本則子）

1-28. 『立原道造記念館』 第26号 2003年6月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：風信子忌講演録「立原道造と堀辰雄」（竹内清己）／風信子忌に寄す（引田充子）／開館六周年記念特別展のご案内 「立原道造と『四季』II 堀辰雄没後五〇年に寄せて」主な出展リスト／後記・秋季企画展予告（宮本則子）

1-29. 『立原道造記念館』 第27号 2003年9月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：小山家から発見された立原道造の学生時代の課題図面（鈴木博之）／秋季企画展のご案内・主な出展リスト 「立原道造・建築家への志向 IV —新たに発見された設計図を中心として—」／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別展予告・後記（宮本則子）

1-30. 『立原道造記念館』 第28号 2003年12月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：美術教育から見た道造の絵（横澤茂夫）／立原道造の「成績物綴込帳」と日記（小山正見）／養徳幼稚園（岡田孝一）／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別展／「立原道造の生涯と作品 I」のご案内・主な出展リスト・「立原道造の生涯と作品 II」予告・後記（宮本則子）

1-31. 『立原道造記念館』 第29号 2004年3月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：特集「立原道造生誕九〇年・没後六五年・開館七周年」に寄せて —その—
〈はじめに（宮本則子）／生誕九十年（谷川俊太郎）／立原道造について（大岡信）／追悼文を読んで追悼する（財部鳥子）／高原の白面詩人（倉橋羊村）／もし出会っていたら…（山崎剛太郎）／道造詩の朗読とそのかわり（佐岐えりぬ）／立原道造記念館 開館七周年に寄せて（小林秀雄）／変革志望（佐藤實）／同時代人立原道造（郷原宏）／立原道造記念館を設計した絵黒家成のこと（佐々木宏）／ヒアシンスハウス—夢の継承—（永峰富一）〉／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別

展「立原道造の生涯と作品 II」のご案内・主な出展リスト・「立原道造の生涯と作品 III」予告・後記（宮本則子）

1-32. 『立原道造記念館』 第30号 2004年6月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：特集「立原道造生誕九〇年・没後六五年・開館七周年」に寄せて —その二—
〈立原道造の故郷（加藤周一）／開館七周年に寄せて（中村稔）／鳥の巣とヒアシンスハウス（中川志郎）／しあわせな病気（立原えりか）／「光を奪へ！」——立原道造のたたかい（鈴木亨）／水引草に風が立ち（相馬正一）／^{のぼさう}新創会の軌跡（渡会正彦）／ひとこと（圓子哲雄）／着任のことば（菅原真由美）／着任のことば（吉田美恵子）〉
／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別展「立原道造の生涯と作品 III」のご案内・主な出展リスト「立原道造の生涯と作品 IV」予告・後記（宮本則子）

1-33. 『立原道造記念館』 第31号 2004年9月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：特集「立原道造生誕九〇年・没後六五年・開館七周年」に寄せて —その三—
〈立原道造と信濃追分（加賀乙彦）／神保光太郎先生と別所沼（木津川昭夫）／ひとこと（村上光彦）／生誕九十年に寄せて（宇佐美斉）／この安らぎの館で（松永伍一）／手紙の話（八木憲爾）／遺稿 生と死のはざままで（生田テル）／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別展「立原道造の生涯と作品 IV」のご案内／展示した承会（佐藤實）／主な出展リスト・後記・「立原道造の生涯と作品 V」予告（宮本則子）

1-34. 『立原道造記念館』 第32号 2004年12月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：特集「立原道造生誕九〇年・没後六五年・開館七周年」に寄せて —その四—
〈立原道造没後六十五年（田中清光）／立原道造の奥行（辻井喬）／風信子忌のご報告（二〇〇四年三月二七日開催）〈講演録 立原道造（栗津則男）〉／別所沼公園内に竣工したヒアシンスハウスのご紹介／立原生誕九〇年・没後六五年・開館七周年記念特別展「立原道造の生涯と作品 V」のご案内・主な出展リスト・後記・「立原道造が求めた^{かたち}形象」予告（宮本則子）

1-35. 『立原道造記念館』 第33号 2005年3月29日 編集：宮本則子 発行：立原道造記念館

収録：特集「立原道造生誕九〇年・没後六五年・開館七周年」に寄せて —その五—
〈立原さんと会っていた頃（杉山平一）／ルフランのパステル（清水茂）／道造マトリックス（野村喜和夫）／九人目の王（坂口昌明）〉／立原道造の詩とその視覚^{かたち}形象の形成（片塩二郎）／開館八周年記念特別展「立原道造が求めた^{かたち}形象」のご案内・主な出展リスト・後記・夏季企画展予告（宮本則子）

【28】（財）田端文士村記念館

図録

1. 『池田勇八 生誕 110 周年記念彫刻展』 1996 年 9 月 編集：財団法人北区文化振興財団 発行：財団法人北区文化振興財団／田端文士村記念館 目次無し

研究誌

1. 『古い田端を語る会』 第 1 集 1985 年 3 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：まえがき（渡辺進）／芥川龍之介の手紙／古い田端を語る会／田端は…（室生朝子）／追憶の断片（芥川瑠璃子）／ふるさと田端（吉田渉）／姉妹（近藤富枝）／至聖林（広瀬淳雄）／あとがき（清水栄一）
2. 『田端ゆかりの文化人』 第 2 集 1985 年 7 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：田端図書館の新設／田端文士村とは「地図」／田端文士村（芸術家）〈板谷波山／香取秀真／小杉放庵／吉田三郎／堆朱楊成／小穴隆一／浜田庄司／池田勇八／柚木久田／山本鼎〉／田端文士村（文士）〈芥川龍之介／室生犀星／萩原朔太郎／下島勲／窪川鶴次郎〉／田端文士村の主な年表／あとがき（広瀬哲夫）
3. 『田端の思い出』 第 3 集 1986 年 2 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：室生犀星の書簡／田端文士村写真展／少年僧の弁（中井英夫）／私の滝一時台（柚木沙弥郎）／柚木久太作品集／田端の思い出（内藤淳一郎）／内藤春治（経歴）／内藤春治作品集／田端の思い出（高宮千鶴）／池田勇八作品集／田端讃歌（竹村民郎）／第 1 号原稿依頼の諸先生の経歴ご紹介（室生朝子／吉田渉／芥川瑠璃子／廣瀬淳雄／近藤富枝）／あとがき（笹岡栄四郎）／表紙の説明
4. 『芥川龍之介入門』 第 4 集 1986 年 4 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館 目次無し
収録：芥川龍之介の手紙／芥川龍之介の文学 ——芥川龍之介入門・母を呼ぶ声——（平岡敏夫）〈1. 出生／2. 田端の家／3. 「尾形了齋覚え書」と「杜子春」 ——母を呼ぶ声（1）／4. 「少年」 ——母を呼ぶ声（2）／5. 「点鬼簿」の母〉／あとがき
5. 『父を語る』 第 5 集 1986 年 12 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：小杉放庵の書簡／田端文士村写真展／田端拾遺（小杉一雄）／小杉放庵作品集／父を語る（田中磐）／香取秀真作品集／父を語る（國方秀男）／国方林三（経歴）／父・

- 20 代堆朱楊成の想出（堆朱鶴子）／20 代堆朱楊成作品集／岳父針重敬喜のこと（渡部一郎）／針重敬喜（経歴）／あとがき／表紙の説明
6. 『犀星と私』 第 6 集 1987 年 3 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館 目次無し
収録：犀星と私（室生朝子）／あとがき（笹岡栄四郎）
7. 『大衆に愛された作家・趣味人たち』 第 7 集 1987 年 12 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：田端図書館所蔵の品／田端文士村展示会から／山手樹一郎と田端（井口朝生）／押川春浪の短い 14 年 —伯父の回想—（押川昌一）／「天然自笑軒」 —宮崎直次郎—（小林素次）／父と酒 —父・小山栄達の思い出—（小山治男）／田端時代の山本鼎（山本太郎）／あとがき（笹岡栄四郎）
8. 『女流 5 人、今は昔 —田端周辺を偲ぶ—』 第 8 集 発行年月日不明 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：室生犀星の掛軸／芥川龍之介の書簡／田端の頃の思い出（田坂ゆたか）／父・吉田白嶺（草間雅子）／母らいてうと幼い日のわたし（築添曙生）／幻の画家・池田蕉園（松浦あき子）／大森・馬込村時代（萩原葉子）／あとがき（鈴木玲子）／編集室から（石井正孝）／「田端文士村」冊子編集に携って（武部富雄）
9. 『田端文士村 ——室生犀星生誕百年特集——』 第 9 集 1989 年 3 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：日本のモンマントル・田端と室生犀星／往時の名残をとどめる「田端の坂道六景」／対談「犀星の素顔を語る」（中村真一郎／室生朝子）／犀星生誕の地・金沢を訪ねて／年譜「犀星・七十二年の生涯」／田端図書館所蔵の室生犀星資料／あとがき（鈴木玲子）／挿入詩〈小景異情その二／生きている崖／春さき／道草／自分の生い立ち／小景異情その一＊犀川〉
10. 『田端文士村 ——よみがえる田端のありし日——』 第 10 集 1990 年 3 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：文学の坂（近藤富枝）／こころ豊かなふれあいの里《多彩な人材にあふれた田端》／田端ゆかりの人々《絢爛たる人間模様》 —文士篇—／スラストマップ・文士村散策《ゆかりの地を訪ねて》／田端ゆかりの人々《絢爛たる人間模様》 —美術家篇—／日本の文化をリードした田端《明治・大正期の文士村年表》／あとがき（鈴木玲子）
11. 『田端文士村 実業家・鹿島龍蔵と文士・芸術家たち』 第 11 集 1991 年 3 月 編集：東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：はじめに 「目に浮かぶ田端村のありし日」（鹿島次郎）／田端在住の美術人すべてと親しかった——「田端文士村のパトロン鹿島龍蔵」／対談：嗣ぐ子・鹿島次郎氏夫妻と語る 「うちのオヤジは道楽息子でしたから」／寄贈品紹介／鹿島家所蔵の美術

品 「若き田端人たちの息吹」／あとがき（村野壽生）

12. 『田端文士村 田端文士・芸術家村探訪〈資料編〉』 第12集 1992年3月 編集：
東京都北区立田端図書館 発行：東京都北区立中央図書館
収録：生誕一〇〇年を記念して 「芥川龍之介展」各地で開催／1992年改訂 「田端文
士・芸術家村年表」／ガイドマップ 「田端文士・芸術家村散策」／田端図書館所蔵 「文
士・芸術家村関係資料」／あとがき（遊座通男）

館報

1. 『田端文士村記念館だより』

- 1-1. 『田端文士村記念館だより』 第1号 1995年3月15日 目次無し
収録：しおりの表紙絵（内藤淳一郎）／資料寄贈者（田端文士村記念館受入分）／久
保田万太郎のこと（近藤富枝）／中身のない手紙／編集後記
- 1-2. 『田端文士村記念館だより』 第2号 1995年8月25日 目次無し
収録：「何と言わりよと」（内藤淳一郎）／資料寄贈者／室生とみ子さんのこと（広瀬
淳雄）／所蔵品紹介／編集後記
- 1-3. 『田端文士村記念館だより』 第3号 1996年2月10日 目次無し
収録：谷田川の話（内藤淳一郎）／資料寄贈者／「東京ゆかりの文学者たち一大正一」
展／「文士村雑感」 一板谷先生・室生犀星さんと父との出会い—（吉田渉）／所蔵
品紹介／編集後記
- 1-4. 『田端文士村記念館だより』 第4号 1996年8月20日 目次無し
収録：香取正彦と田端（内藤淳一郎）／田端ひととき散歩／講演会報告 —「谷根千
と田端」—（森まゆみ）／資料寄贈者／所蔵品紹介／田端と本所（桶谷秀昭）／「池
田勇八 生誕一一〇周年記念彫刻展」／芥川龍之介の児童文学の世界（金子達英）／
編集後記
- 1-5. 『田端文士村記念館だより』 第5号 1997年3月25日 目次無し
収録：田端ひととき散歩（内藤淳一郎）／所蔵品紹介／芥川龍之介と小島政二郎（高
井有一）／日の目を見る資料 龍之介の書簡七通全集に／資料寄贈者／小杉放庵の記
念館 今秋 日光にオープン／編集後記
- 1-6. 『田端文士村記念館だより』 第6号 1997年11月25日 目次無し
収録：瀧井孝作と田端（内藤淳一郎）／芥川二代と私（中村真一郎）／所蔵品紹介 『大
雅堂瀟湘八景扇面小皿』／編集後記
- 1-7. 『田端文士村記念館だより』 第7号 1998年3月25日 目次無し
収録：寺内萬治郎の田端時代（内藤淳一郎）／——老後を田端で—— 中村真一郎氏
逝く／堀辰雄をめぐる（黒井千次）／所蔵品紹介 〈『芥川龍之介書簡』 澄江老人か
ら魚眠洞御主人へ〉／編集後記

- 1-8. 『田端文士村記念館だより』 第8号 1998年9月25日 目次無し
収録：芥川龍之介と小野八重三郎（内藤淳一郎）／香取家の工房火災と芥川（関口安義）／所蔵品紹介〈鑄金『狐』〉／資料寄贈者／編集後記
- 1-9. 『田端文士村記念館だより』 第9号 1999年3月25日 目次無し
収録：羽目を外した芥川（内藤淳一郎）／佐多稲子と山田順子（秋山駿）／所蔵品紹介『万歳』 池田輝方 池田蕉園／資料寄贈者／編集後記
- 1-10. 『田端文士村記念館だより』 第10号 2000年3月25日 目次無し
収録：特集・《田端ひととき散歩》 ～コース三巡を記念して～／映画の中の芥川龍之介 ～もう一つの映像～（庄司達也）／表紙写真紹介／資料寄贈者紹介／活動報告／今年は龍年／編集後記
- 1-11. 『田端文士村記念館だより』 第11号 2000年9月25日 目次無し
収録：石の上にも三年（大谷渉）／「岩田専太郎夫妻と私」（鹿児島成恵）／表紙写真紹介／活動報告／《田端ひととき散歩》／資料寄贈者紹介／編集後記
- 1-12. 『田端文士村記念館だより』 第12号 2001年3月25日 目次無し
収録：より身近な施設を目指して（大谷渉）／記念館概要／紹介内容・資料等／講演会／企画展／《田端ひととき散歩》／定期行物／ホール／「田端は私の学校だった」（近藤富枝）／表紙写真紹介／活動報告／《田端ひととき散歩》／資料寄贈者紹介／編集後記

【30】（財）日本近代文学館

図録（企画展）

- 『日本近代文学館創立記念 近代文学史展』 1963年10月1日 編集：日本近代文学館近代文学史展編集委員会 発行：財団法人日本近代文学館／毎日新聞社
収録：文学史展にあたって（上田常隆）／あいさつ（高見順）／近代文学史展に寄せて（大佛次郎）／意義ある大事業（川端康成）／文学研究と資料（久松潜一）／編集側から（稲垣達郎）／展望〈I 近代文学の曙（塩田良平）／II 近代文学の成熟（吉田精一）／III 近代文学の発展（稲垣達郎）／IV 昭和の文学（小田切進）／V 現代の文学（瀬沼茂樹 平野謙）／VI 近代の演劇（山田肇）／☆詩歌（木俣修）／図版／図版解説
- 『生誕百年記念 二葉亭四迷展』 1964年12月11日 主催：日本近代文学館／朝日新聞社 会場：京王百貨店 目次無し
- 『生誕百年記念 四大文豪展 紅葉・露伴・漱石・子規』 1966年3月8日 主催：日本近代文学館／読売新聞社 会場：上野・松坂屋 目次無し
- 『高見順』 1966年9月21日 主催：毎日新聞社／財団法人日本近代文学館 発行：

毎日新聞社 目次無し

5. 『トルストイ展』 1966年11月11日 主催：財団法人日本近代文学館／朝日新聞社／東京都／大阪市 東京会場：日本近代文学館／東京都立近代文学博物館 大阪会場：大阪市立美術館 発行：朝日新聞東京本社 目次無し
6. 『日本近代文学館開館記念 近代文学名作展』 1967年9月22日 主催：毎日新聞社／日本近代文学館 会場：日本近代文学館 目次無し
7. 『川端康成展——その芸術と生涯——』 1972年10月15日 主催：財団法人日本近代文学館 発行：財団法人日本近代文学館
収録：川端康成展の開催にあたって（小田切進）／川端さんの眼（井上靖）／雪国抄（解説 藤田圭雄）／十六歳の日記 伊豆の踊子（解説 長谷川泉）〈生い立ち／茨城中学時代／状況・一高時代／東大時代／「文芸時代」—「感情装飾」／「伊豆の踊子」〉浅草紅団 雪国（解説 瀬沼茂樹）〈浅草時代／「新人才華」—川端康成の見出した作家達／「禽獣」時代／「雪国」前後／戦争のころ〉／千羽鶴 山の音（解説 進藤純孝）〈敗戦—菊池寛・横光利一らとの死別／鎌倉文庫／友人・先輩の死／「千羽鶴」「山の音」／「私の信条」「月下の門」／「みづうみ」まで／文化勲章受章／「眠れる美女」「古都」「片腕」など〉／世界の中の川端康成（解説 川端香男里）〈ノーベル文学賞受賞／海外の評価／国際ペン大会／ハワイ大学／台湾・韓国行きなど〉／書斎 愛蔵品（解説 北條誠）／川端康成（山本健吉）／年譜／出品協力者
8. 『日本近代文学館創立十五周年記念 現代の作家三〇〇人展 ——仮名垣魯文から戦後作家まで——』 1977年6月9日 主催：財団法人日本近代文学館／毎日新聞社 会場：伊勢丹新宿店 発行：財団法人日本近代文学館
収録：館の創設に尽くした人たち——「前史」の五年を偲ぶ——（小田切進）／「現代の作家三〇〇人展」に寄せて（平岡敏夫）／文学館創立十五周年に寄せて〈ささやかな協力（川口松太郎）／開館十周年（尾崎一雄）／父祖の哀歌（桑原武夫）／大きな役割——十歳の近代文学館——（井上靖）／もっと利用を（大岡昇平）／お礼とお願（竹西寛子）〉／図版と解説〈カラー版／I 明治（稲垣達郎）／II 大正（紅野敏郎）／III 昭和（保昌正夫）／IV 戦後（瀬沼茂樹）／V 日本近代文学館の歩み〉
9. 『芥川龍之介 没後五十年記念展』 1977年7月1日 主催：財団法人日本近代文学館 会場：日本近代文学館展示ホール 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
10. 『アルバム 太宰治』 1978年6月 主催：財団法人日本近代文学館 会場：日本近代文学館展示ホール 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
11. 『アルバム 有島武郎』 1979年11月1日 主催：財団法人日本近代文学館 会場：日本近代文学館展示ホール 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
12. 『歿後十年 志賀直哉』 1981年9月12日 編集：志賀直哉展編集委員会 主催：日本近代文学館／西武美術館 会場：西武美術館 発行：西武美術館

収録：歿後十年展にあたって（尾崎一雄）／志賀さんのこと（中川一政）／志賀さんの油絵（藤枝静男）／里見さんの弔詞（阿川弘之）／我孫子時代と直哉（坂上弘）／志賀文学の現代性（高橋英夫）／図版・年譜〈生い立ち——麻布三河台／「白樺」の創刊——尾道・松江・赤城／「城の崎にて」「和解」「赤西蠣太」——我孫子の生活／「暗夜行路」の完成へ——京都・奈良時代／「暗夜行路」以後——世田谷新町／晩年——熱海大洞台・渋谷常磐松／志賀直哉美術館——旧蔵品と装画）／出品目録／出品協力者

13. 『日本近代文学館創立二十周年記念 近代文学展 秘蔵文庫・コレクション特別公開』

1982年6月10日 発行：財団法人日本近代文学館

収録：二十周年記念展にあたって（小田切進）／二十年の歩み（井上靖）／文学館創立二十周年に寄せて〈二十周年におもう（佐多稲子）／創立二十周年に寄せて（石川達三）／創立二十周年記念展に寄せて（山本健吉）／文学の「正倉院」（松本清張）／二十年とそれ以後××年（埴谷雄高）／あこのころの思い出（村上元三）／遙かな道程 着実な歩み（大岡信）／二十年の館のしごと〉／図版と解説〈カラー版／百首屏風（与謝野鉄幹・晶子コレクション）（木俣修）〉／名作の原稿〈非活字の世界（稲垣達郎）〉／文庫・コレクション〈貴重な文庫・蒐集品の宝庫（瀬沼茂樹）／文学館の原点（紅野敏郎）／漱石資料について（夏目漱石特別コーナー）（吉田精一）／フランススの顔（有島武郎コレクション）（遠藤祐）／時空を越えた対話（芥川龍之介文庫）（福田清人）／福地桜痴資料／藤沢衛彦文庫／池辺三山資料／池上浩山人収集明治俳書文庫／小杉天外文庫／小栗風葉資料／野村胡堂文庫／井上琢為文庫／和田芳恵文庫／長井金風コレクション／菰池佐一郎収集森鷗外文庫／鈴木茂三郎収集社会文庫／石川啄木・土岐善麿コレクション／上司小剣資料／大町桂月文庫／麻田駒之助コレクション／中村武羅夫コレクション／佐佐木信綱文庫／与謝野鉄幹・晶子コレクション／夏目漱石特別コーナー／坂元雪鳥資料／松根東洋城資料／津田清楓書簡コレクション／赤木桁平コレクション／有島武郎コレクション／有島生馬コレクション／島崎藤村資料／大貫晶川資料／橘弘一郎収集谷崎潤一郎文庫／谷崎潤一郎文庫／植松壽樹文庫／島木赤彦書簡資料／尾山篤二郎書簡コレクション／内海信之文庫／三木露風文庫／平戸廉吉文庫／松原至大文庫／渋沢青花コレクション／中里介山文庫／笹本寅文庫／田中貢太郎コレクション／式場隆三郎文庫／芥川龍之介文庫／宇野浩二文庫／北川桃雄文庫／石井柏亭文庫／川端康成文資料／片岡鉄平資料／岡本一平・かの子資料／鏝田研一文庫／山田正文庫／水野葉舟資料／網野菊書簡コレクション／関口良雄文庫／深尾須磨子文庫／三好達治書簡資料／丸山薫文庫／安藤一郎文庫／小熊秀雄資料／火野葦平資料／亀井勝一郎文庫／高見順文庫／伊藤整文庫／辻野久憲資料／池田小菊書簡コレクション／品川力文庫／長谷川時雨資料／原民喜資料／丸岡明文庫／広津和郎松川事件資料／中島健蔵文庫／高橋和巳文庫／新聞小説の原稿（毎日新聞社寄贈）／芥川賞・直木賞受賞作品〈芥川賞・直木賞の足跡（保昌正夫）〉／近代文学館の二十年〈館の歩み（略年表）〉／

展覧資料の寄贈・寄託者一覧)

14. 『歿後三十五年 横光利一展』 1982年12月11日 主催：日本近代文学館／西武美術館 会場：西武美術館／西武百貨店高槻店
収録：モーニングの野球（永井龍男）／横光さんの笑顔（今日出海）／昭和文学の軌跡を魁ける第一人者（瀬沼茂樹）／眼に浮かぶ風貌（大岡昇平）／横光氏の位置——昭和の門口で（中村光夫）／巴里の横光さん（岡本太郎）／幾つかの寸言（八木義徳）／死の直前（森敦）／横光利一の今日における意味（中村真一郎）／初の展覧（小田切進）／横光利一再考——「唯物論」の可能性について（磯田光一）／月明り（横光象三）／第一部 明治31年～昭和2年（井上謙）／第二部 昭和3年～10年（保昌正夫）／第三部 昭和11年～22年（栗坪良樹）／図版・年譜〈第一部 明治31年～昭和2年〔生いたち／三重県立三中時代／習作投稿時代／新感覚派・「文芸時代」〕／第二部 昭和3年～10年〔「上海」前後／「機械」「寝園」／「紋章」「家族会議」「純粹小説論」〕／第三部 昭和11年～22年〔欧州への旅／「旅愁」の時代／疎開・敗戦・「夜の靴」／死〕／遺愛品・追悼誌紙・全集など〕／出品目録／出品協力者
15. 『生誕百年 武者小路実篤と白樺美術展』 1984年5月12日 編集：武者小路実篤と白樺美術展編集委員会 主催：日本近代文学館／西武美術館 発行：西武美術館
収録：展覧にあたって（小田切進）／一時期（稲垣達郎）／善美の人（瀬沼茂樹）／存在の意味（本多秋五）／挿話（串田孫一）／武者小路実篤と新しき村（渡辺貫二）／パパの日日（武者小路辰子）／「いないよ」の精神（大津山国夫）／「白樺」と美術（匠秀夫）／部門解説（第一部～第五部）（紅野敏郎）／武者小路実篤年譜（中川孝）／図版・年譜〈文学部門〔第一部 生立ちから『荒野』前後／第二部 「白樺」の時代——『お目出たき人』『その妹』『友情』『人間万歳』／第三部 《新しき村》の建設と生長／第四部 昭和の足跡——『愛慾』『井原西鶴』『愛と死』『真理先生』／第五部 仙川時代〕／美術部門〔白樺をめぐる大正美術〔「白樺」と大正美術／白樺主催の展覧会／草土社・フェウザン会／白樺美術館・白樺演劇社〕／「白樺」と西洋美術／「白樺」周辺の画家たち／武者小路実篤コレクション〕〕／出品目録 出品協力者
16. 『図録 野上弥生子展 ——その百年の生涯と文学——』 1985年5月30日 主催：社団法人日本文藝家協会／社団法人日本ペンクラブ／日本女流文学者会／財団法人日本近代文学館 会場：新宿伊勢丹美術館 発行：財団法人日本近代文学館
収録：野上弥生子展の開催にあたって ——自由な生き方をつらぬく——（小田切進）／野上展に寄せて〈一つの挿話（山本健吉）／野上先生のこと（井上靖）／超女流文学者（河野多恵子）〉／野上さんを偲んで〈野上夫人追悼（谷川徹三）／野上弥生子先生に捧げる弔辞（宇野千代）／時代を生きた作家（佐多稲子）／埋められない空虚（大岡昇平）／野上先生の文学世界（芝木好子）／先生と時の流れ（緑川亨）／生産的好奇心のかたまり（大岡信）／二重に同時代人としての（大江健三郎）／「落人日記」から（野

上素一)〉／解説〈野上弥生子の世界(瀬沼茂樹)〔「真知子」／「迷路」／「秀吉と利休」／「森」〕〉／図版〈第一部 ふるさと臼杵の風土と文化／第二部 明治女学校から「青鞥」の頃／第三部 漱石と漱石山脈の人びと、臼川(豊一郎)／第四部 「海神丸」その他一大正時代一／第五部 「真知子」から「迷路」一昭和前期一／第六部 「秀吉と利休」から「森」へ一昭和後期一／第七部 北軽井沢・山荘の生活)／略年譜／出品目録／出品協力者

17. 『日本近代文学館創立二十五周年記念 夏目漱石展』 1987年5月28日 発行：財団法人日本近代文学館

収録：館創立二十五周年記念 夏目漱石展にあたって(小田切進)／夏目漱石—その思想と文学(瀬沼茂樹)／図版〈カラー版／第一部 生い立ち・学生の頃／第二部 松山と熊本の時代／第三部 英国留学／第四部 作家漱石の誕生 —「吾輩は猫である」「坊っちゃん」など一／第五部 「三四郎」「それから」「門」の時代／第六部 「こゝろ」「道草」から「明暗」へ／書画の世界)／夏目漱石略年譜／漱石展に寄せて〈漱石と私(水上勉)／観察と構築の才(小川国夫)／卒論は漱石論(大岡信)／『道草』断片(江藤淳)／淋しいという基調音(井上ひさし)〉／文学館の二十五年／忘れられないこと—二十五年を振りかえって—(井上靖)／文学館創立二十五周年に寄せて〈四半世紀の喜び(瀬沼茂樹)／感想(福田清人)／二十五周年に際して(山本健吉)／着実な歩みをつづけて(松本清張)／蔭の力(村上元三)／心苦しさふたたび(野口富士男)／情熱と一致協力が実って(巖谷大四)／ある個人的な感想(楠本憲吉)／日本の文学を守るために(遠藤周作)／漱石複製版事件のことなど(中村稔)／「文学展」定着(紅野敏郎)／複製山脈——雑誌複製と名著複製(保昌正夫)〉／館の歩み(略年表)／館収蔵の文庫・コレクション一覧／展覧会、講座・講演会、刊行物一覧／出品目録／出品協力者

18. 『太宰治展 東京展』 1988年5月28日 編集：奥野健男／小田切進／野原一夫／野平健一／相馬正一 発行：財団法人日本近代文学館

収録：開催にあたって(小田切進)／なぜ今日、太宰治展か(奥野健男)／「走れメロス」について(中沢けい)／新風土記叢書「津軽」について(相馬正一)／恋と革命(矢代静一)／「晩年」「人間失格」(増田みず子)／「人間失格」について(野原一夫)／カラー図版／津軽の風土と太宰治／生い立ちと習作期／地下運動のころ／「晩年」・排除と反抗／原稿生活者／「アカルサハ、ホロビノ姿デアラウカ」／「ヴィヨンの妻」と「斜陽」／人間失格／主な出品物／出品者・協力者

19. 『女性作家十三人展』 1988年10月20日 発行：財団法人日本近代文学館

収録：長く心の糧に —初の豪華女性作家展—(小田切進)／女性作家十三人展に寄せて〈落ついて仕事を(宇野千代)／なつかしい思い(佐多稲子)／鮮烈な個性の展覧会(河野多恵子)／時の流れの中で(永井路子)／筆蹟(澤地久枝)〉／解説(奥野健男)

紅野敏郎 保昌正夫 熊坂敦子 小田切進) / カラー版女性作家十三人展 / 女性作家のあゆみ / 樋口一葉〈異才 (大庭みな子)〉 / 与謝野晶子〈わが眷恋の歌人 (田辺聖子)〉 / 田村俊子〈田村俊子のこと (瀬戸内晴美)〉 / 野上弥生子〈野上弥生子先生 (大原富枝)〉 / 岡本かの子〈岡本かの子と私 (津島佑子)〉 / 宮本百合子〈「三月の第四日曜」 (竹西寛子)〉 / 平林たい子〈絶品の日本語 (山田詠美)〉 / 林芙美子〈林芙美子と私 (岩橋邦枝)〉 / 円地文子〈妖の人—円地文子— (杉本苑子)〉 / 壺井栄〈再検証と再解釈 (落合恵子)〉 / 有吉佐和子〈有吉さんのこと (平岩弓枝)〉 / 宇野千代〈人生の手本 (萩原葉子)〉 / 佐多稲子〈無垢な目のはたらき (木崎さと子)〉 / わたしの好きな作品 (アンケート) (巖谷大四 桶谷秀昭 小田切秀雄 楠本憲吉 黒井千次 後藤明生 佐伯彰一 佐々木基一 篠田一士 杉森久英 瀬沼茂樹 高橋英夫 中野孝次 野口富士男 福田清人 水上勉 吉村昭 吉行淳之介) / 現代の女性作家 106 人 / 「女性の時代」に贈る (吉野平八郎)

20. 『芥川賞・直木賞 100 回記念展』 1989 年 3 月 10 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 / 財団法人日本文学振興会

収録：第 100 回受賞パーティから / 昭和 10 年 菊池寛は宣言した / 平成元年 1 月 勢揃いした両賞選考委員たち / 芥川賞受賞作初版本全コレクション / 直木賞受賞作初版本全コレクション / 受賞作品の冒頭の肉筆原稿 / 作家の愛蔵品 人それぞれに / 正賞時計ものがたり / 昭和の文学をリードした両賞の足跡 / 候補作はこうして誕生する / 作家の「忙中閑アリ」 / 芥川賞・直木賞歴代選考委員一覧 / 芥川賞・直木賞受賞作家と候補作全リスト 《付》目で見ると昭和史 / おめでとう 第 100 回受賞者 / 歴代受賞パーティから / 雑記帳

21. 『日本近代文学館創立 30 周年 没後 20 年 川端康成展 生涯と芸術—「美しい日本の私」』 1992 年 5 月 14 日 発行：財団法人日本近代文学館

収録：川端康成展にあたって (小田切進) / 川端康成展に寄せて〈ヘルデルリンの「ヒューペーリオン」 (長谷川泉) / ありがたく思う (水上勉) / 「不朽の文学」 (E・G・サイデンステッカー) / 川端康成の人と作品の豊醇さに触れるために (瀬戸内寂聴) / 出遭い (大庭みな子) / あのときの川端さんの気持 (江藤淳) / 構成にあたって—「読書、旅、交友」をキーワードに (川端香男里) / カラー版 / 第一部 「十六歳の日記」—母・祖父・ふるさと〈解説 (長谷川泉) / 日記が貴重で面白い (小田切進) / 第二部 「伊豆の踊子」—文壇登場〈解説 (紅野敏郎) / 出発期の読書 (羽鳥徹哉) / 「狂った一頁」のこと (高野悦子) / 第三部 「浅草紅団」—と死の風景〈解説 (保昌正夫) / 落ちついた生活をしたみた川端さん (宇野千代) / 浅草のカジノ・フォーリー (関井光男) / 第四部 「雪国」—冬・戦争の足音〈解説 (高橋英夫) / 明るい交遊 (堀多恵子) / 川端文学と古典 (竹西寛子) / 第五部 「千羽鶴」「山の音」—鎌倉の春秋〈解説 (平山城児) / 師と友の死 (栗坪良樹) / 川端康成と鎌倉 (巖谷大四) / 第六

部 「古都」「美しさと哀しみと」—永遠の美〈解説（進藤純孝）／死の前後（藤田圭雄）〉／カラー版／第七部 世界の中の川端康成〈解説（辻邦生）／翻訳・ノーベル賞・世界文学（オクナー深山信子）〉／川端康成文学賞の人々／私の一編〈「雪国」の存在（野口富士男）／「山の音」（大江健三郎）／「花のワルツ」を（林京子）／掌小説の一つ（田久保英夫）／「夜のさいころ」など（丸谷オ一）／「禽獣」（大庭みな子）／妖気に酔う（三浦哲郎）〉／川端康成略年譜／出品目録／出品者・協力者／文学館の三十年〈事始めの日々—館運動発足の頃のこと—（小田切進）／文学館創立三十周年に寄せて〔樹木と土壌（黒井千次）／創立三十周年（高橋英夫）／専門図書館の重要性（高階秀爾）／自由追求の三十年（埴谷雄高）／歴史は今日からはじまる（三浦朱門）／茫々三十年（中村稔）／三十年、短くて、長い歴史（大岡信）〕／慶祝三十周年（赤松大麓 秋山虔 秋山駿 粟津則雄 市古貞次 猪野謙二 巖谷大四 V・ヴィンケルヘーフェロヴァー 江藤淳 遠藤周作 大江健三郎 相賀徹夫 奥平康弘 オクナー深山信子 奥野健男 桶谷秀昭 尾崎秀樹 加賀乙彦 如月小春 北杜夫 木下順二 清岡卓行 金田一春彦 河野多恵子 後藤明生 小山弘志 篠崎セウコ 渋川驍 渋沢孝輔 清水勝 鈴木貞美 関根榮郷 高野昭 竹盛天雄 田中健五 千葉宣一 陳舜臣 辻井喬 鶴見俊輔 寺田博 遠山一行 十川信介 中沢けい 長洲一二 中村清 中村真一郎 中森蒔人 中山和子 布川角左衛門 野口富士男 萩原葉子 長谷川泉 服部敏幸 羽鳥徹哉 原卓也 潘徳延 平山郁夫 福田清人 増田みず子 村上元三 安江良介 安川定男 山口昌男 吉田熙生 吉本隆明 吉行淳之介 渡辺一民）／吉田文庫の内と外（浅井清）／瀬沼さんと文庫のこと（保昌正夫）／塩田良平文庫に想う（本多浩）／憶い出すこと（芥川瑠璃子）／トルストイ展のことなど（久保忠夫）／自分の詩史の再生（伊藤信吉）／雑誌複刻版に思う（川西政明）／女性作家十三人展（河野多恵子）／複刻版の出版史的意味（高橋英夫）／稲垣文庫から一冊（紅野敏郎）／講師控室（小島信夫）／館の歩み（略年表）／文庫・コレクション、展覧会、刊行物、講座・講演会一覧

22. 『毎日新聞創刊一二〇年記念 日本近代文学館創立三〇年記念 井上靖展——文学の軌跡と美の世界』 1992年9月3日 編集：毎日新聞社／財団法人日本近代文学館 発行：毎日新聞社

収録：あいさつ（小池唯夫 小田切進）／監修者のことば〈井上靖の文学・人としての井上さん（小田切進）／井上さんを想う（河北倫明）〉／井上靖展に寄せて〈井上さんとの旅（東山魁夷）／思無邪（司馬遼太郎）／井上靖先生の思い出（平山郁夫）／生涯をつらぬくもの（大江健三郎）／井上先生の励まし（小沢征爾）〉／ともに過した靖との六十年を顧みて（井上ふみ）／井上靖の文学（大岡信）／井上靖と美術（高階秀爾）／カラー版／I 生い立ち—旭川、湯ヶ島、浜松、三島、沼津／II 文学放浪—金沢、福岡、京都、大阪／III 芥川賞受賞 新しい作家の出現—「猟銃」「闘牛」など／IV 「氷

壁」の成功—新聞小説の世界／V 果てしなきロマン—「天平の薨」「敦煌」／VI 詩の世界—『北国』から『星欄干』まで／VII 日本ペンの成果—核状況下における文学…国際ペン東京大会／VIII 井上靖と中国 シルクロードの旅／IX 「おろしや国酔夢譚」から「孔子」へ／X ある日ある時（井上先生の幼少期（北杜夫）／詩から生れる（八木義徳）／井上靖さんと芥川賞（上林吾郎）／清新な肌合い（高橋英夫）／井上靖ロマンの世界（辻邦生）／井上さんの詩の世界（辻井喬）／国際ペン大会と井上さん（三好徹）／中国の人々との友情（千田是也）／心情に沿った叙情へ（E・G・サイデンステッカー）／ザックバラんな人柄（浦城幾世）／井上靖略年譜／井上靖と創造美術（冬岳、潮（山本丘人）／樹蔭、八仙花、蓮、池（上村松篁）／秋田のマリヤ、軍鶏（福田豊四郎）／裸婦、二人（広田多津）／礁（沢宏毅）／水禽屏風（吉岡堅二）／浮游（向井久万）／鳥、そよ風、みみづく（稗田一穂）／母の誕生日（岩崎鐸）／五条坂（石本正）／原始時代、潮と鹿、草原（加山又造）／冬（野崎貢）／庭四題・晩春の庭、月の夜（平川敏夫）／愉しき仲間 I（工藤甲人）／解説（草薙奈津子）／出品目録／出品者・協力者

23. 『日本近代文学館 創立 35 周年・開館 30 周年記念展 時を超えて——漱石、芥川、川端』 1998 年 1 月 29 日 編集：中村真一郎／中村稔／黒井千次／紅野敏郎／保昌正夫

収録：漱石、芥川、川端展にのぞんで（中村真一郎）／カラー版／夏目漱石（三山居士と漱石（江藤淳）／現在にも生きている人物（小島信夫）／解説（中島国彦）／芥川龍之介（「芋粥」と「蔵の中」と「外套」（後藤明生）／芥川らしさ（佐佐木幸綱）／解説（石割透）／川端康成（「哀愁」に始まる（竹西寛子）／「眠れる美女」（佐伯彰一）／解説（羽鳥徹哉）／読み継がれる作家たち（解説（保昌正夫）／生き続ける文学の場／文学展の発端と現在（紅野敏郎）／日本近代文学館の現状と未来（中村稔）／館の歩み（略年表）／出品目録

図録（展覧会会期後発行）

1. 『日本近代文学図録』 1964 年 11 月 1 日 編集：日本近代文学館／高見順／稲垣達郎／木俣修／瀬沼茂樹 発行：高木金之助／毎日新聞社

収録：刊行のことば（高見順 伊藤整）／序（大仏次郎 川端康成 久松潜一）／近代文学のあけぼの（慶応から明治へ／開花の小説／学問のすゝめ／明治初期の文化人・聖書と聖歌／ジャーナリズムの発生／続き物—通俗小説の発生／翻訳小説／自由民権時代／政治小説／黙阿弥・円朝・漢詩人／新時代の文学／蘇峰・雪嶺・キリスト教文学／硯友社／紅露のころ／新体韻文／新声社時代の鷗外／「文学界」と透谷／明治文学と古典／一葉の世界／閨秀作家たち／少年文学・大衆小説／日清戦争のころ）／近代文学の成熟（後期硯友社とその周辺／少年文学と家庭小説／「帝国文学」の人々／日本のここ

ろ／詩歌の時代／自然と人生／社会主義思想の展開／自然主義の時代／写生の流れ／生活のうた／反自然主義の人々／頽唐の流れ／近代文学の発展（明治から大正へ／白樺派／耽美派／「青鞥」の人々／大正期の評論・翻訳 I／「奇蹟」の人々／「冬の時代」／大正期の詩歌／明治文学の成熟／「新思潮」の人々／大正中期の作家たち／大正期の評論・翻訳 II／「白樺」の周辺／民衆芸術論・労働文学／大正デモクラシー／児童文学／私小説・心境小説／大正から昭和へ）／昭和の文学（「種蒔く人」とその周辺／アヴァンギャルド／新感覚派／新しい同人雑誌時代／「文芸戦線」の活動／芥川の死など／ナップの成立／ナップからコップへ／「女人芸術」その他／新興芸術派／クォーターリーなど／芸術派の作品／大衆文学／ナルプ解体・転向文学／文芸復興期／「人民文庫」の作家／「日本浪漫派」の発端／児童文学／日華事変下の文学／短歌・俳句）／戦後の文学（戦中から戦後へ／大家の復活／中堅作家の活動／無頼派（新戯作派）の登場／戦後派の台頭／「新日本文学」／「近代文学」／朝鮮動乱前後／女流作家たち／チャタレー裁判・松川裁判／さまざまな評論／第三の新人／「太陽の季節」以後／文学の現況／批評家の発言／日本文学と世界／詩・短歌・俳句／大衆文学／児童文学／日本近代文学館）／近代の演劇（洋風劇場の出現／文芸協会／芸術座／自由劇場／戯曲の誕生／歌舞伎の新人たち／「演劇新潮」と新劇協会／築地小劇場／プロレタリア演劇／新協・新築地／芸術派／戦中戦後の新劇）／解説（近代文学のあけぼの／近代文学の成熟／近代文学の発展／昭和の文学／戦後の文学／近代の演劇）／あとがき（稲垣達郎）／人名索引／事項索引

2. 『定本図録 川端康成』 1973年4月16日 編集：財団法人日本近代文学館 監修：財団法人川端康成記念会 発行：世界文化社

収録：刊行のことば（井上靖）／序章（肖像／『伊豆の踊子』自筆墨書原稿 復元／『山の音』自筆原稿 復元／ノーベル賞受賞記念揮毫 秋空一鶴／鎌倉長谷居宅全景）／編年体 川端康成の芸術と生涯（凡例／幼少の頃／中学時代／一高・東大時代／新感覚派・『伊豆の踊子』／『浅草紅團』・『禽獣』まで／『雪國』・信州の旅／戦争の頃／敗戦／『千羽鶴』・『山の音』／国際ペン大会・その他／夕日炎炎／各国語訳川端文学装幀集）／書作品集（遺愛の文具／書についてのエッセイ／書簡の筆蹟／落款集／掲載書作品目次／作品集）／愛翫の美術品／川端康成年譜／『定本図録 川端康成』の刊行にあたって（小田切進）／索引

3. 『図説 太宰治』 2000年5月10日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：筑摩書房

収録：第1章 生い立ち（1 津軽と風土／2 百姓と貴族／3 生い立ち／4 文学志望）／第2章 恍惚と不安（1 高校時代／2 小山初代との出会い／3 マルキシズム／4 モダニズム／5 心中事件／6 転校の時代／7 作家デビュー）／第3章 混沌と再生（1 芥川賞騒動／2 『晩年』の出版／3 パビナール中毒／4 デカダンスから再生へ

／5 石原家の人びと／6 三鷹時代／《間奏 1》／第 4 章 ナショナリズムのはざまで
〈1 開戦前後／2 旺盛な創作活動／3 大東亜の文学者〉／第 5 章 空襲と疎開の時
代〈1 津軽へ／2 疎開時代／3 「戦後」への決意／《間奏 2》〉／第 6 章 「人間失
格」への道〈1 無頼派として／2 「斜陽」／3 「人間失格」／4 「グッド・バイ」
／《間奏 3》〉／第 7 章 死とその周辺〈1 玉川上水／2 受け継ぐ人びと〉／太宰治略
年譜／解説（安藤宏）／協力者一覧

目録

1. 『日本近代文学館所蔵資料目録』

- 1-1. 『高見順文庫概要 日本近代文学館所蔵資料目録 1』 1977 年 5 月 25 日 編集：
財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／I 原稿・草稿／II 高見順宛諸家書簡／III 図
書（概要）／IV 雑誌（概要）／V その他の資料
- 1-2. 『芥川龍之介文庫目録 日本近代文学館所蔵資料目録 2』 1977 年 7 月 1 日 編
集：財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／概要／凡例／洋書／和漢書 I—III／特別資料
- 1-3. 『野村胡堂文庫概要 日本近代文学館所蔵資料目録 3』 1978 年 3 月 30 日 編
集：財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／I 図書（概要）／II 雑誌（概要）／III その
他の資料／IV 各地の野村胡堂旧蔵資料について
- 1-4. 『式場隆三郎文庫目録 一日本近代文学館所蔵資料目録 4—』 1979 年 5 月 31 日
編集：財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／凡例／白樺派関係図書（附・参考）／白樺派関
係以外の図書（概要）／雑誌（概要）／その他特別資料（概要）
- 1-5. 『鈴木茂三郎収集 社会文庫目録』 1982 年 6 月 10 日 発行人：小田切進 編集
人：稲垣達郎 発行所：財団法人日本近代文学館編
収録：はじめに（理事長 小田切進）／解説／凡例／I 特別資料／II 図書／III 雑
誌・新聞／索引
- 1-6. 『日本近代文学館所蔵資料目録 6 橘弘一郎収集 谷崎潤一郎文庫目録』 1982
年 9 月 25 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／著書／関係図書／雑誌（概要）／その他の資料
（概要）
- 1-7. 『日本近代文学館所蔵資料目録 7 津田青楓書簡コレクション目録』 1982 年 10
月 25 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-8. 『日本近代文学館所蔵資料目録 8 池上浩山人収集 明治俳書文庫目録』 1982

- 年 12 月 3 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／図書／雑誌／特別資料
- 1-9. 『日本近代文学館所蔵資料目録 9 赤木桁平コレクション目録』 1983 年 2 月 1 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-10. 『日本近代文学館所蔵資料目録 10 原民喜資料目録』 1983 年 3 月 3 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-11. 『日本近代文学館所蔵資料目録 11 植松壽樹文庫目録』 1983 年 5 月 17 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／図書／特別資料／雑誌・新聞／追補
- 1-12. 『日本近代文学館所蔵資料目録 12 菰池佐一郎収集 森鷗外文庫目録』 1984 年 9 月 25 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解説／凡例／特別資料／図書／雑誌・新聞
- 1-13. 『日本近代文学館所蔵資料目録 13 島崎藤村資料目録』 1985 年 4 月 10 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-14. 『日本近代文学館所蔵資料目録 14 有島武郎・生馬コレクション目録』 1985 年 11 月 10 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解題／凡例／有島武郎資料〈原稿／有島武郎書簡〔家族・親族宛／ティルダ宛 I・II（ティルダ筆写書簡）／その他宛〕／有島武郎宛書簡／その他の書簡／日記・手帖／ノート／筆墨／絵画／図書・パンフレット／切抜き・雑誌／写真／その他の資料〉／有島生馬資料〈原稿／有島生馬書簡／有島生馬宛書簡／その他の書簡／図書／その他の資料〉
- 1-15. 『日本近代文学館所蔵資料目録 15 樋口一葉コレクション目録』 1986 年 4 月 20 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
収録：刊行にあたって（小田切進）／解題／凡例／原稿／書簡〈樋口一葉宛／その他〉／遺品・その他
- 1-16. 『日本近代文学館所蔵資料目録 16 石川啄木・土岐善麿コレクション目録』 1986 年 10 月 10 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：石川啄木・土岐善麿コレクションについて（小田切進）／解題／凡例／石川啄木資料〈原稿／書簡／写真／その他の資料〉／土岐善麿資料〈原稿／筆墨・メモ／書簡〔土岐善麿宛／その他〕／図書・雑誌〔土岐善麿著書／生活と芸術叢書／雑誌〕／その他の資料〉／付・当コレクション外の土岐善麿著書
- 1-17. 『日本近代文学館所蔵資料目録 17 品川力文庫目録 I 特別資料編』 1987 年 5 月 30 日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：品川力文庫目録に寄せて（小田切進）／解題／原稿／書簡〈品川力書簡／品川力宛書簡／その他の書簡〉／その他の資料

- 1-18.『日本近代文学館所蔵資料目録 18 宇野浩二文庫目録』 1988年3月30日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はじめに（小田切進）／解題／凡例／特別資料〈原稿／宇野浩二宛書簡／日記・メモ／切抜き／印刷物／その他の資料〉／図書〈宇野浩二著書／旧蔵書（概要）
- 1-19.『日本近代文学館所蔵資料目録 19 池辺三山コレクション目録』 1989年6月12日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「池辺三山コレクション目録」に寄せて（小田切進）／解題／凡例／原稿／書簡〈池辺三山書簡／池辺三山宛書簡／その他の書簡〉／自筆文書／筆墨・絵画／写真／図書／その他の資料
- 1-20.『日本近代文学館所蔵資料目録 20 吉田精一文庫目録』 1990年5月10日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「吉田精一文庫目録」に寄せて（小田切進）／凡例／著書／図書／雑誌
- 1-21.『日本近代文学館所蔵資料目録 21 湯浅光雄収集 新詩社文庫目録』 1991年10月1日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
- 1-22.『日本近代文学館所蔵資料目録 22 塩田良平文庫目録』 1991年11月1日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「塩田良平文庫目録」に寄せて（小田切進）／凡例／特別資料／図書 著書〈I（明治期以降）／II（近世以前）〉／雑誌
- 1-23.『日本近代文学館所蔵資料目録 23 太宰治文庫目録』 1992年6月19日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-24.『日本近代文学館所蔵資料目録 24 稲垣達郎文庫目録』 1995年5月31日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「稲垣達郎文庫目録」に寄せて（紅野敏郎）／凡例／図書／雑誌／その他（演劇・映画関係資料）
- 1-25.『日本近代文学館所蔵資料目録 25 瀬沼茂樹文庫目録』 1997年8月14日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「瀬沼茂樹文庫目録」に寄せて（紅野敏郎）／凡例／特別資料／図書／雑誌
- 1-26.『日本近代文学館所蔵資料目録 26 萩原朔太郎コレクション目録』 1999年3月31日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：原稿／自筆楽譜／文書／写真／印刷物
- 1-27.『日本近代文学館所蔵資料目録 27 佐多稲子文庫目録』 2002年9月25日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：「佐多稲子目録」に寄せて（常務理事・図書資料委員長 紅野敏郎）／凡例／特別資料〈原稿・草稿・創作メモなど／書簡〔佐多稲子書簡／佐多稲子宛書簡〕／日記／自筆文書／書画／切抜き／印刷物〔演劇パンフレット／映画パンフレット／その他印

刷物（伊原美好編）／文書／写真（五十嵐福子編）／AV資料／遺品／解題〔書簡（長谷川啓）／日記（矢澤美佐紀）〕／図書／解題（小林裕子）

1-28.『日本近代文学館所蔵資料目録 28 高橋和巳文庫目録』 2002年11月3日 編集・発行：財団法人日本近代文学館

収録：はじめに（紅野敏郎）／凡例／特別資料／図書 I／図書 II

2.『日本近代文学館 所蔵主要雑誌目録』

2-1.『日本近代文学館 所蔵雑誌目録稿 昭和46年12月現在』 1972年7月31日 編集：財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し

2-2.『日本近代文学館 所蔵主要雑誌目録 昭和56年4月現在』 1981年9月21日 発行人：財団法人日本近代文学館 目次無し

2-3.『日本近代文学館 所蔵主要雑誌目録 1990年版』 1989年12月5日 編集・発行：財団法人日本近代文学館 目次無し

記録集

1.『日本の近代文学』 1964年11月25日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社

収録：序文（伊藤整）／北村透谷と「文学界」（勝本清一郎）／国木田独歩と民友社（中島健蔵）／明治の女流作家たち（塩田良平）／与謝野晶子と新詩社（木俣修）／正岡子規と「ホトトギス」（楠本憲吉）／自然主義について（中村光夫）／内村鑑三と正宗白鳥（亀井勝一郎）／森鷗外と「スバル」（成瀬正勝）／夏目漱石と門下たち（稲垣達郎）／永井荷風と谷崎潤一郎（杉森久英）／志賀直哉（臼井吉見）／有島武郎と大正文学（瀬沼茂樹）／芥川龍之介（吉田精一）／朔太郎・春夫・犀星・辰雄・達治（中野重治）／横光利一と新感覚派・（伊藤整）／小林多喜二とプロレタリア文学（平野謙）／私小説作家たち（山本健吉）／戦後文学をめぐって（本多秋五）／年表／人名索引

2.『日本の近代文学・人と作品』 1965年12月20日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社

収録：序（伊藤整）／浮雲・二葉亭四迷（稲垣達郎）／みだれ髪・与謝野晶子（塩田良平）／破戒・島崎藤村（平野謙）／海潮音・上田敏（吉田精一）／雁・森鷗外（勝本清一郎）／悲しき玩具・石川啄木（木俣修）／道草 明暗・夏目漱石（江藤淳）／腕くらべ・永井荷風（福田清人）／或る女・有島武郎（瀬沼茂樹）／暗夜行路・志賀直哉（尾崎一雄）／藪の中・芥川龍之介（成瀬正勝）／伸子・宮本百合子（小田切秀雄）／伊豆の踊子と雪国・川端康成（中村光夫）／蟹工船・小林多喜二（佐々木基一）／旅愁・横光利一（川上徹太郎）／菜穂子・堀辰雄（中村真一郎）／細雪・谷崎潤一郎（伊藤整）／人間失格・太宰治（臼井吉見）／著者略歴／人名索引

3. 『日本近代文学史』 1966年12月25日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：序（伊藤整）／日本文学史における近代（伊藤整）／近代文学の出発期（木村毅）／坪内逍遙と二葉亭四迷（中村光夫）／硯友社とその周辺（福田清人）／浪漫主義の思潮（成瀬正勝）／日清戦後の文学（塩田良平）／近代詩の成立、和歌・俳句の革新（木俣修）／日本の自然主義文学（吉田精一）／反自然主義（臼井吉見）／鷗外と漱石（江藤淳）／第一次大戦後の文学（小田切秀雄）／白樺派の運動（本多秋五）／プロレタリア文学（稲垣達郎）／新感覚派と新興芸術派（瀬沼茂樹）／私小説・心境小説（佐々木基一）／昭和十年代の文学（平野謙）／戦後の文学（磯田光一）／大衆文学（尾崎秀樹）／年表／人名索引
4. 『日本の近代詩』 1967年12月20日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：序（伊藤整）／新体詩から初期浪漫主義（吉田精一）／浪漫主義の開花（猪野謙二）／明星派（木俣修）／象徴派の詩人（安東次男）／詩人としての啄木（小田切秀雄）／北原白秋と木下杢太郎（野田宇太郎）／萩原朔太郎と室生犀星（伊藤整）／佐藤春夫と堀口大学（大岡信）／中野重治とプロレタリア詩（伊藤信吉）／高村光太郎・作品と生涯（草野心平）／三好達治と中原中也（丸山薫）／西脇順三郎と金子光晴（田村隆一）／『詩と詩論』をめぐる詩人たち（村野四郎）／堀辰雄と四季派（中村真一郎）／『コギト』『日本浪漫派』とその周辺（神保光太郎）／宮澤賢治と『歷程』の詩人たち（山本太郎）／戦後の詩壇（木原孝一）／戦後詩の方向（篠田一士）／詩年表／人名索引
5. 『日本近代文学と外国文学』 1969年2月10日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：序／漱石とイギリス文学（中野好夫）／鷗外の西欧の理解（長谷川泉）／ゾラの理論と日本の自然主義（中島健蔵）／藤村と大陸文学（笹淵友一）／ゲーテ、トーマス・マンと日本近代文学（山下肇）／近代演劇の発展とシェークスピア（福田恆在）／白樺派の人道主義（瀬沼茂樹）／近代詩とサンボリズム（篠田一士）／ドストエフスキーの摂取（埴谷雄高）／荷風とフランス文学（高橋邦太郎）／龍之介と西洋文学（中村真一郎）／純一郎の摂取した外国文学（太田三郎）／戦後の性の意識（伊藤整）／実存主義について（白井浩司）／真実とフィクション（高橋和巳）／私と外国文学・一（小島信夫）／私と外国文学・二（遠藤周作）／私と外国文学・三（阿部知二）／主要翻訳年表／主要翻訳全集類一覧／人名索引
6. 『現代文学と古典』 1970年1月25日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：序（塩田良平）／古典と現代（久松潜一）／日本近代文学と古典（小田切秀雄）／漱石・鷗外と漢文学（中村光夫）／島崎藤村と古典（三好行雄）／与謝野晶子と新古

今集（木俣修）／西鶴と近代文学（暉峻康隆）／永井荷風と江戸文学（成瀬正勝）／佐藤春夫と上田秋成（島田謹二）／芥川龍之介とキリシタン文学（吉田精一）／谷崎潤一郎と源氏物語（円地文子）／室生犀星・堀辰雄と「蜻蛉日記」（中村真一郎）／斎藤茂吉と万葉集（柴生田稔）／折口信夫と万葉集（山本健吉）／太宰治とお伽草紙（奥野健男）／川端康成と古典（塩田良平）／三島由紀夫の古典主義文学（磯田光一）／「月並み」のことなど（丸谷オ一）／私の中の古典（江藤淳）／古典に取材した近代文学作品等に関する年表

7. 『現代世界文学と日本』 1971年2月5日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：序（塩田良平）／現代世界の芸術・音楽（遠山一行）／現代世界の芸術・美術（大岡信）／演劇の東と西（渡辺守章）／文芸批評の新しい方法（佐伯彰一）／戦後文学のありかた（中島健蔵）／文学と自由（原卓也）／ビート文学からヒッピー文化へ（諏訪優）／「言葉の富」ということ（清水徹）／四七年グループをめぐって（川村二郎）／反戦の詩（長谷川四郎）／平和と戦争（小田切秀雄）／人間・歴史・戦争（阿川弘之）／性とエロティシズム（沢野久雄）／日常と性（小島信夫）／カミュにおける肉体と自然（中村光夫）／ユダヤ系作家の文学（邦高忠二）／黒人文学（橋本福夫）／世界文学の方向（大橋健三郎）／国際社会の中の文学（磯田光一）
8. 『日本文学の戦後』 1972年5月10日 編者：財団法人日本近代文学館 発行：読売新聞社
収録：はじめに（小田切進）／日本文学における「戦後」（小田切秀雄）／私小説の作家（平野謙）／明治・大正の作家（中村光夫）／「民主主義」派作家（佐々木基一）／批評における戦後（磯田光一）／昭和十年代作家の「戦後」（1）（浅見淵）／昭和十年代作家の「戦後」（2）（奥野健男）／第一次戦後派（1）（秋山駿）／第一次戦後は（2）（白井健三郎）／戦後の大衆文学（尾崎秀樹）／第三の新人（進藤純孝）／戦後の川端康成（山本健吉）／戦後の演劇（中村雄二郎）／三島由紀夫の文学（佐伯彰一）／マス・コミと文学（瀬沼茂樹）／戦後の詩人（栗津則雄）／昭和三十年代以後の文学（小島信夫）／「戦後」と現代（篠田一士）／戦後日本文学年表（保昌正夫）

事典

1. 『日本近代文学大事典』

- 1-1. 『日本近代文学大事典 第一巻』 1977年11月18日 編者：日本近代文学館／小田切進 発行所：講談社
収録：人名 あ～け
- 1-2. 『日本近代文学大事典 第二巻』 1977年11月18日 編者：日本近代文学館／小田切進 発行所：講談社

収録：人名 こ～な

1-3. 『日本近代文学大事典 第三巻』 1977年11月18日 編者：日本近代文学館／
小田切進 発行所：講談社

収録：人名 に～わ

1-4. 『日本近代文学大事典 第四巻』 1977年11月18日 編者：日本近代文学館／
小田切進 発行所：講談社

収録：事項

1-5. 『日本近代文学大事典 第五巻』 1977年11月18日 編者：日本近代文学館／
小田切進 発行所：講談社

収録：新聞・雑誌

1-6. 『日本近代文学大事典 第六巻』 1978年3月15日 編者：日本近代文学館／小
田切進 発行所：講談社

収録：叢書・文学全集・合著集総覧／叢書・文学全集・合著集総覧索引／近代出版側
面史／発売禁止主要書目解題／主要文学賞一覧／旧国名・件名対照図／昭和五二年四
月以降の死歿者一覧／あとがき

2. 『日本近代文学名著事典』 1982年5月15日 編者：日本近代文学館 刊行：財団法人
日本近代文学館／ほるぷ出版

収録：「日本近代文学名著事典」刊行のことば／執筆者一覧／凡例／近代文学史展望／
名著解題〈福澤諭吉訳述 頭書大全世界国尽／仮名垣魯文 牛店雑談安愚楽鍋／福澤諭
吉 学問のすゝめ／成島柳北 柳橋新誌／川島忠之助訳 新説八十日間世界一周／戸
田欽堂 民権演義情海波瀾／外山正一・矢田部良吉・井上哲次郎訳著 新体詩抄初編／
三遊亭円朝演述 怪談牡丹燈籠／坪内逍遙 一読三歎 当世書生氣質／坪内逍遙 小
説神髓／湯浅半月 十二の石塚／末広鉄腸 雪中梅／二葉亭四迷 新編浮雲／山田美
妙 夏木立／尾崎紅葉 二人比丘尼色懺悔／北村透谷 楚囚之詩／幸田露伴 風流仏
／巖谷小波 こがね丸／北村透谷 蓬萊曲／斎藤緑雨 かくれんぼ／若松賤子訳 小
公子／幸田露伴 小説尾花集／正岡子規 瀬祭書屋俳話／内田魯庵 文学者となる法
／内村鑑三 余は如何にして基督信徒となりし乎／高山樗牛 滝口入道／宮崎湖処子
編 抒情詩／島崎藤村 若菜集／尾崎紅葉 金色夜叉／土井晩翠 天地有情／徳富蘆
花 不如帰／徳富蘆花 自然と人生／国木田独歩 武蔵野／与謝野鉄幹 紫／与謝野
晶子 みだれ髪／島崎藤村 落梅集／森鷗外訳 即興詩人／石川啄木 あこがれ／蒲
原有明 春鳥集／窪田空穂 まひる野／夏目漱石 吾輩ハ猫デアル／上田敏訳 海潮
音／国木田独歩 運命／島崎藤村 破戒／伊藤左千夫 野菊の墓／薄田泣菫 白羊宮
／広津柳浪 河内屋／夏目漱石 鶉籠／鈴木三重吉 千代紙／森鷗外 うた日記／正
宗白鳥 紅塵／蒲原有明 有明集／高浜虚子 鶏頭／泉鏡花 高野聖／島崎藤村 春
／北原白秋 邪宗門／永井荷風 ふらんす物語／夏目漱石 三四郎／三木露風 廢園

/ 田山花袋 田舎教師 / 土岐哀果 NAKIWARAI / 若山牧水 別離 / 岩野泡鳴 耽溺
 / 柳田国男 遠野物語 / 吉井勇 酒ほがひ / 石川啄木 一握の砂 / 武者小路実篤 お
 目出たき人 / 北原白秋 思ひ出 / 谷崎潤一郎 刺青 / 徳田秋声 黴 / 長塚節 土 / 石
 川啄木 悲しき玩具 / 岩野泡鳴 発展 / 志賀直哉 留女 / 北原白秋 桐の花 / 森鷗外
 青年 / 永井荷風訳著 珊瑚集 / 北原白秋 東京景物詩及其他 / 斎藤茂吉 赤光 / 竹久
 夢二 どんたく / 木下利玄 銀 / 泉鏡花 日本橋 / 夏目漱石 こゝろ / 高村光太郎
 道程 / 森鷗外 雁 / 徳田秋声 あらくれ / 永井荷風 すみだ川 / 河東碧梧桐 碧梧桐
 句集 / 田山花袋 時は過ぎゆく / 里見弴 善心悪心 / 萩原朔太郎 月に吠える / 芥川
 龍之介 羅生門 / 志賀直哉 大津順吉 / 長与善郎 項羽と劉邦 / 永井荷風 腕くらべ
 / 志賀直哉 夜の光 / 武者小路実篤 新しき村の生活 / 室生犀星 抒情小曲集 / 有島
 武郎 生れ出る悩み / 樋口一葉 真筆版たけくらべ / 佐藤春夫 病める薔薇 / 芥川龍
 之介 傀儡師 / 葛西善蔵 子をつれて / 有島武郎 或女 / 宇野浩二 蔵の中 / 室生犀
 星 性に眼覚める頃 / 広津和郎 作者の感想 / 菊池寛 藤十郎の恋 / 島木赤彦 氷魚
 / 小川未明 赤い蠟燭と人魚 / 佐藤春夫 殉情詩集 / 浜田広介 椋鳥の夢 / 中勘助
 銀の匙 / 吉村冬彦 冬彦集 / 萩原朔太郎 青猫 / 武者小路実篤 或る男 / 宮沢賢治
 春と修羅 / 近松秋江 黒髪 / 野上弥生子 海神丸其他 / 山本有三 同志の人々 / 宮沢
 賢治 注文の多い料理店 / 真山青果 平将門 / 釈迢空 海やまのあひだ / 幸田露伴
 幽秘記 / 堀口大学 月下の一群 / 萩原恭次郎 死刑宣告 / 川端康成 感情装飾 / 葉
 山嘉樹 海に生きる人々 / 伊藤整 雪明りの路 / 横光利一 春は馬車に乗って / 川端
 康成 伊豆の踊子 / 岸田国土 チロルの秋 / 滝井孝作 無限抱擁 / 芥川龍之介 侏儒
 の言葉 / 宮本百合子 伸子 / 小林多喜二 蟹工船 / 谷崎潤一郎 蓼喰ふ虫 / 徳永直
 太陽のない街 / 水原秋桜子 葛飾 / 井伏鱒二 夜ふけと梅の花 / 林芙美子 放浪記 /
 川端康成 浅草紅団 / 三好達治 測量船 / 横光利一 機械 / 梶井基次郎 檸檬 / 小林
 秀雄 文芸評論 / 中野重治 中野重治詩集 / 谷崎潤一郎 盲目物語 / 堀辰雄 聖家族
 / 谷崎潤一郎 春琴抄 / 太宰治 晩年 / 高見順 故旧忘れ得べき / 永井荷風 = 東綺
 譚 / 立原道造 萱草に寄す / 川端康成 雪国 / 高浜虚子 五百句 / 中原中也 在りし
 日の歌 / 堀辰雄 風立ちぬ / 坪田譲治 子供の四季 / 高見順 如何なる星の下に / 山
 本有三 新篇路傍の石 / 志賀直哉 暗夜行路 / 坂口安吾 日本文化私観 / 徳田秋声
 縮図 / 作家別索引 / 作品別索引 / 年表 / 図版 (カラー口絵 / 収録初版本表紙)

3. 『日本近代文学大事典 机上版』 1984年10月24日 編者：日本近代文学館 発行：講談社

収録：カラーアルバム 文学の旅 / 文学資料アルバム / 『日本近代文学大事典』机上版
 の刊行にさいして (小田切進) / 『日本近代文学大事典』刊行の辞 (小田切進) / 人名
 項目 あ〜わ / 現代文学 (小説=昭和五〇年代の文学 (磯田光一) / エンターテインメ
 ント=文学のマスコミ化 (尾崎秀樹) / 評論=世代の交代と批評の多元化 (佐伯彰一)

／詩＝現代詩の十年（大岡信）／短歌＝短歌の現況（上田三四二）／俳句＝俳句の十年間（村山故郷）／戯曲＝戯曲十年私史（渡辺保）／児童文学＝児童文学十年の歩み（西本鶏介）／ノンフィクション＝ノンフィクションの誕生（春名徹）／文学研究＝文学研究の十年（三好行雄）／（現代文学人名一覽）／日本近代の新聞・雑誌〈明治の新聞・雑誌（稲垣達郎）／大正の雑誌（紅野敏郎）／昭和（戦前・戦中）の雑誌（小田切進）／昭和（戦後・現代）の雑誌（保昌正夫）〉／文学便覧・案内〈文学賞・その種類と性格（瀬沼茂樹）／主要文学賞一覽（編集部編）／日本の文学館・記念館（小田切進）〉／日本近代文学略年表（小田切進編）／リテラリー・フォーラム〈マイナーが影響を持つ時代（川本三郎）／国語問題（丸谷才一）／サルトルからマルクスまで（篠田一士）／一九八〇年代の中心（奥野健男）／核状況下の文学（川西政明）／“大学紛争”と新世代（三浦雅士）／文学者二世・三世（巖谷大四）／ヴィジュアル文化の隆盛（川本三郎）／“軽薄短小”の時代（前田愛）／女流文学の時代（川西政明）／批評の“新しい波”（三浦雅士）／在日朝鮮人文学（川西政明）／ノンフィクション作家の輩出（植田康夫）／エンターテインメントの新傾向（武蔵野次郎）／スペース・オペラとニューウェーブと近未来（山野浩一）／ミステリー・ブームの背景（権田萬治）／松川・チャタレイ・サド・四畳半（小笠原克）／戦後の論争（古林尚）／文学者忌（巖谷大四）〉／昭和五九年七月以降の死没者／あとがき（稲垣達郎）

作品

1. 『作家のエッセイ』

1-1. 『本の置き場所——作家のエッセイ 1』 1997年12月10日 編者：日本近代文学館 発行：小学館

収録：古本・震災・戦災（尾崎一雄）／歴史の書と文学（丹羽文雄）／筆蹟その他のこと——近代詩展一面——（大岡信）／「読書する怠け者」（小松伸六）／われ等の歩み（白井喬二）／「家庭小説」あれこれ（和田芳恵）／書庫の立ち話（土岐善麿）／いい知恵はないか（中野重治）／本の置き場所（安岡章太郎）／藤村詩集の変容過程（磯田光一）／思いつくことなど（小島信夫）／「若い人」執筆のころ（石坂洋次郎）／生きた心地もなかった合評会（坂上弘）／苦勞の連続だった経営（新庄嘉章）／戦後の《早稲田文学》（後藤明生）／文学研究ということの胡散臭さ（高橋義孝）／全集のこと（河野多恵子）／この頃のこと、草野心平『凹凸』について（金子光晴）／ロシア史再読（原卓也）／四書との訣別（島尾敏雄）／一冊だけの書物（日野啓三）／紙の洪水（阿部昭）／昭和十年代についての感想（佐々木基一）／切抜帖（富安風邪生）／サンタンヌ病院の図書室（加賀乙彦）／文体にもっと重きを（福原麟太郎）／思い出二つ（高井有一）／亡父の作品集（吉行淳之介）／《銅鑼》の複製に就いて（草野心平）／詩集の傷み（伊藤信吉）／銀月の忍術（滑川道夫）／私のごく初期の詩集

について（北川冬彦）／蔵書の始末（三好徹）／凍港（山口誓子）／遅い午後の教室（黒井千次）／「文学者」という画像（吉本隆明）／《未成年》のこと（杉浦明平）／《荒地》創刊から廃刊まで（鮎川信夫）／《方舟》の夢（中村真一郎）／《白痴群》第六号のこと（中村稔）／朱書きの文字（広津桃子）／万引寸前（岩田宏）／一枚の版画（中田耕治）／自然の本質（中里恒子）／思い出すことなど（河盛好蔵）／古本屋（木下順二）／批評家の蔵書（佐伯彰一）／青春の書（窪田般彌）／愛蔵書（阪田寛夫）／神田須田町の付近（澁澤龍彦）／《マヴォ》のこと（田河水泡）／《女人芸術》の思い出（城夏子）／《椎の木》の頃（江間章子）／戦後派のころ（杉森久英）／現場風景——図書資料委員会——（紅野敏郎）／《キネマ旬報》（筒井康隆）／読み返しの効用（阿刀田高）／旅順の大谷コレクション（陳舜臣）／《文體》の空間（川西政明）／正字旧假名文化の話（岡井隆）／「尾崎翠」と出会って（加藤幸子）／長谷川時雨の日記（岩橋邦枝）（書を焚いて暖を取る（奥本大三郎）／春浅き日に（堀多恵子）／走りすぎるものととどまるもの（石井桃子）／ある和刻本のこと（丸谷才一）／本と標本（養老孟司）／さと、もう一冊（宇佐美英治）／*「作家のエッセイ 1」あとがき（中村真一郎）

1-2. 『人生の僅かな時間—作家のエッセイ 2』 1998年1月10日 編者：財団法人
日本近代文学館 発行：小学館

収録：横光・川端・片岡時代（石川達三）／逍遙先生（承前）最初の印象など（稲垣達郎）／言海に漂う（開高健）／秦豊吉、水野仙子の書簡（吉田精一）／慈眼寺の墓（芥川比呂志）／志賀さんの思い出（桑原武夫）／わが同人誌歴（田村泰治郎）／二人の文士（三木卓）／水曜会と元禄屋敷界限——《三田文学》を繰りながら（庄野誠一）／最後の城主の死（前田愛）／虚子と浜人と私（阿波野青畝）／父との話（高浜年尾）／《GGPG》の思い出（稲垣足穂）／石井潤との四十余年（保昌正夫）／宇野浩二先生の「字」（水上勉）／中村白葉を悼む（臼井吉見）／有島生馬氏の想いで（本多秋五）／志賀直哉氏と上司海雲氏（藤枝静男）／言葉と人間性（小川国夫）／朝の時間（城山三郎）／伊藤整君のこと（谷川徹三）／萩焼の茶碗（庄野潤三）／ことしの山桜（立原正秋）／作家回想（坪田譲治）／人生の僅かな時間（高橋英夫）／蘆花歿後五十年（中野好夫）／没後三十年のメロディ（長谷川四郎）／東京の一夜（小野十三郎）／尚江の周辺（中野孝次）／獲物を待ちつつ（井上ひさし）／子規の硯（加藤楸邨）／笹本寅さんのこと（福田清人）／故郷の味（李恢成）／志賀さんのこと（中川一政）／里見さんの弔詞（阿川弘之）／水彩画家（瀬沼茂樹）／眼に浮ぶ風貌（大岡昇平）／幾つかの寸言（八木義徳）／モーニングの野球（永井龍男）／師・小津安二郎と父・里見淳——酒席のふたり（山内静夫）／挿話（串田孫一）／大切な人を失う（小田切進）／夢をめぐって（辻邦生）／大垣ゆき（司馬遼太郎）／一つの挿話（山本健吉）／三好達治さんのこと（宗左近）／長谷川伸の一面（村上元三）／四十年前

の鮎川——月刊《荒地》のころ（北村太郎）／今、なぜ俊子か（瀬戸内晴美）／渡辺一夫世界の拵がり（大江健三郎）／隅田川遊歩（田久保英夫）／草野心平の怒り（粒来哲蔵）／似て非なるもの（藤沢周平）／川端康成展を見て（永井路子）／駒場の春（井上靖）／井上先生の励まし（小澤征爾）／これからの伝記（山田風太郎）／牧水と独歩（佐佐木幸綱）／約束（村松友視）／謙譲のころ（稲畑汀子）／上林暁企画展のこと（大原富枝）／気になりはじめる（金子兜太）／夜食の空腹感（黒岩重吾）／無口さ（連城三紀彦）／*「作家のエッセイ2」あとがき（高橋英夫）

復刻（図書）

1. 『名著復刻全集 近代文学館 ——明治後期——』 1968年9月10日 編集：名著復刻全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：東京連合印刷 発売：図書月販
 - 1-1. 『海潮音』 1905年（明治38年）10月13日 著者：上田敏 発行：本郷書院
 - 1-2. 『春鳥集』 1905年（明治38年）7月4日 著者：蒲原隼雄（蒲原有明） 発行：本郷書院
 - 1-3. 『まひる野』 1905年（明治38年）9月20日 著者：窪田通治（窪田空穂） 発行：鹿鳴社
 - 1-4. 『吾輩ハ猫デアル』
 - 1-4-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年（明治38年）10月6日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店
 - 1-4-2. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 1906年（明治39年）11月4日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店
 - 1-4-3. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 1907年（明治40年）5月19日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店
 - 1-5. 『白羊宮』 1906年（明治39年）5月7日 著者：薄田淳介（薄田泣菫） 発行：金尾文淵堂
 - 1-6. 『破戒』 1906年（明治39年）3月25日 著者：島崎春樹（島崎藤村） 発行：私家版
 - 1-7. 『野菊の墓』 1906年（明治39年）4月5日 著者：伊藤幸次郎（伊藤左千夫） 発行：俳書堂
 - 1-8. 『千代紙』 1907年（明治40年）4月1日 著者：鈴木三重吉 発行：俳書堂
 - 1-9. 『紅塵』 1907年（明治40年）9月22日 著者：正宗白鳥 発行：彩雲閣
 - 1-10. 『鶏頭』 1908年（明治41年）1月1日 著者：高濱清（高濱虚子） 発行：春陽堂
 - 1-11. 『田舎教師』 1909年（明治42年）10月20日 著者：田山花袋 発行：左久

良書房

- 1-12. 『ふらんす物語』 1909年(明治42年)3月25日 著者：永井荷風 発行：博文館
- 1-13. 『邪宗門』 1909年(明治42年)3月15日 著者：北原白秋 発行：易風社
- 1-14. 『廢園』 1909年(明治42年)9月5日 著者：三木露風 発行：光華書房
- 1-15. 『耽溺』 1910年(明治43年)5月1日 著者：岩野泡鳴 発行：易風社
- 1-16. 『遠野物語』 1910年(明治43年)6月14日 著者：柳田國男 発行：聚精堂
- 1-17. 『一握の砂』 1910年(明治43年)12月1日 著者：石川啄木 発行：東雲堂書店
- 1-18. 『別離』 1910年(明治43年)4月10日 著者：若山牧水 発行：東雲堂書店
- 1-19. 『酒ほがひ』 1910年(明治43年)9月7日 著者：吉井勇 発行：昴發行所
- 1-20. 『思ひ出』 1911年(明治44年)6月5日 著者：北原白秋 発行：東雲堂書店
- 1-21. 『刺青』 1911年(明治44年)12月10日 著者：谷崎純一郎 発行：初山書店
- 1-22. 『おめでたき人』 1911年(明治44年)2月13日 著者：武者小路實篤 発行：洛陽堂
- 1-23. 『徽』 1912年(明治45年)1月7日 著者：徳田秋聲 発行：新潮社
- 1-24. 『土』 1912年(明治45年)5月15日 著者：長塚節 発行：春陽堂
- 1-25. 『赤光』 1913年(大正2年)10月15日 著者：齊藤茂吉 発行：東雲堂書店
- 1-26. 『道程』 1914年(大正3年)10月25日 著者：高村光太郎 発行：抒情詩社
- 1-27. 『雁』 1915年(大正4年)5月15日 著者：森林太郎(森鷗外) 発行：初山書店
- 1-28. 『夏目漱石自筆原稿 永日小品・山鳥』 著者：夏目漱石
- 1-29. 『日本文士階級鑑 文藝新聞社刊』 発行：文藝新聞社
- 1-30. 『名著複刻全集 近代文学館 作品解題 ——明治後期——』 1968年9月10日 編集：名著複刻全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：図書月販
- 収録：明治後期展望(吉田精一)／上田敏・海潮音(吉田精一)／蒲原有明・春鳥集(野田宇太郎)／窪田空穂・まひる野(武川忠一)／夏目漱石・吾輩は猫である(荒正人)／蒲田泣菫・白羊宮(松村緑)／島崎藤村・破壊(瀬沼茂樹)／伊藤左千夫・野菊の墓(福田清人)／鈴木三重吉・千代紙(福田清人)／正宗白鳥・紅塵(和田謹吾)／高浜虚子・鶏頭(福田清人)／田山花袋・田舎教師(川副国基)／永井荷風・ふらんす物語(成瀬正勝)／北原白秋・邪宗門(木俣修)／三木露風・廢園(古川清彦)／岩野泡鳴・耽溺(野口富士男)／柳田国男・遠野物語(山本健吉)／石川啄木・一握の砂(岩城之徳)／若山牧水・別離(木俣修)／吉井勇・酒ほがひ(木俣修)／

北原白秋・思ひ出（木俣修）／谷崎潤一郎・刺青（伊藤整）／武者小路実篤・お目出たき人（稲垣達郎）／徳田秋声・黴（伊藤整）／長塚節・土（小田切進）／齊藤茂吉・赤光（木俣修）／高村光太郎・道程（北川太一）／森鷗外・雁（成瀬正勝）／夏目漱石・永日小品（山鳥）自筆原稿（吉田精一）／文芸新聞社・日本文士階級鑑（伊藤整）／複製製作の概要（編集部）／明治後期年表

2. 『名著複製全集 近代文学館 ——明治前期——』 1968年12月10日 編集：名著複製全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：東京連合印刷 発売：図書月販

2-1. 『頭書大全 世界國盡』

2-1-1. 『頭書大全 世界國盡 卷一 亞細亞洲』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-1-2. 『頭書大全 世界國盡 卷二 阿非利加洲』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-1-3. 『頭書大全 世界國盡 卷三 歐羅巴洲』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-1-4. 『頭書大全 世界國盡 卷四 北亞米利加洲』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-1-5. 『頭書大全 世界國盡 卷五 南亞米利加洲 大洋洲』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-1-6. 『頭書大全 世界國盡 卷六 附録』 1869年（明治2年） 著者：福澤諭吉 発行：慶応義塾蔵版

2-2. 『牛店雑談 安愚楽鍋』

2-2-1. 『牛店雑談 安愚楽鍋 初編』 1871年（明治4年） 著者：假名垣魯文 発行：誠之堂

2-2-2. 『牛店雑談 安愚楽鍋 二編上』 1871年（明治4年） 著者：假名垣魯文 発行：誠之堂

2-2-3. 『牛店雑談 安愚楽鍋 二編下』 1871年（明治4年） 著者：假名垣魯文 発行：誠之堂

2-2-4. 『牛店雑談 安愚楽鍋 三編上』 1871年（明治4年） 著者：假名垣魯文 発行：誠之堂

2-2-5. 『牛店雑談 安愚楽鍋 三編下』 1871年（明治4年） 著者：假名垣魯文 発行：誠之堂

2-3. 『新説 八十日間世界一周』

2-3-1. 『新説 八十日間世界一周 前編』 1878年（明治11年）5月31日 著者：シユルヴェルス 訳者：川島忠之助 発行：丸屋善七／山中市兵衛／慶応義塾出版

社

2-3-2. 『新説 八十日間世界一周 後編』 1880年(明治13年)6月24日 著者：
シユルヴェルス 訳者：川島忠之助 発行：丸屋善七／山中市兵衛／慶應義塾出版
社

2-4. 『民権演義 情海波瀾』 1880年(明治13年)6月 著者：戸田欽堂 発行：聚
星館

2-5. 『怪談 牡丹燈籠』

2-5-1. 『怪談 牡丹燈籠 第壹編』 1984年(明治17年)7月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-2. 『怪談 牡丹燈籠 第貳編』 1984年(明治17年)7月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-3. 『怪談 牡丹燈籠 第参編』 1984年(明治17年)8月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-4. 『怪談 牡丹燈籠 第四編』 1984年(明治17年)8月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-5. 『怪談 牡丹燈籠 第五編』 1984年(明治17年)8月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-6. 『怪談 牡丹燈籠 第六編』 1984年(明治17年)9月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-7. 『怪談 牡丹燈籠 第七編』 1984年(明治17年)7月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-8. 『怪談 牡丹燈籠 第八編』 1984年(明治17年)7月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-9. 『怪談 牡丹燈籠 第九編』 1984年(明治17年)7月 演述：三遊亭圓朝
発行：東京稗史出版社

2-5-10. 『怪談 牡丹燈籠 第十編』 1984年(明治17年)10月 演述：三遊亭圓
朝 発行：東京稗史出版社

2-5-11. 『怪談 牡丹燈籠 第拾壹編』 1984年(明治17年)10月 演述：三遊亭
圓朝 発行：東京稗史出版社

2-5-12. 『怪談 牡丹燈籠 第拾貳編』 1984年(明治17年)12月 演述：三遊亭
圓朝 発行：東京稗史出版社

2-5-13. 『怪談 牡丹燈籠 第拾参編』 1984年(明治17年)12月 演述：三遊亭
圓朝 発行：東京稗史出版社

2-6. 『小説神髓』

2-6-1. 『小説神髓 第壹冊』 1885年(明治18年)9月 著者：坪内雄藏(坪内逍

- 遙) 発行：松月堂
- 2-6-2. 『小説神髓 第二冊』 1885年(明治18年)9月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-3. 『小説神髓 第三冊』 1885年(明治18年)9月26日 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-4. 『小説神髓 第四冊』 1886年(明治19年)3月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-5. 『小説神髓 第五冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-6. 『小説神髓 第六冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-7. 『小説神髓 第七冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-8. 『小説神髓 第八冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-6-9. 『小説神髓 第九冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 2-7. 『浮雲』
- 2-7-1. 『浮雲 第一篇』 1887年(明治20年)6月 著者：二葉亭四迷 発行：金港堂
- 2-7-2. 『浮雲 第二篇』 1888年(明治21年)2月 著者：二葉亭四迷 発行：金港堂
- 2-8. 『楚囚之詩』 1889年(明治22年)4月9日 著者：北村門太郎(北村透谷) 発行：春祥堂
- 2-9. 『風流佛』 1889年(明治22年)9月23日 著者：幸田露伴 発行：吉岡書籍店
- 2-10. 『こがね丸』 1891年(明治24年)1月3日 著者：漣山人(巖谷小波) 発行：博文館
- 2-11. 『癩祭書屋俳話』 1893年(明治26年)5月21日 著者：癩祭書屋主人(正岡子規) 発行：日本新聞社
- 2-12. 『かくれんぼ』 1891年(明治24年)7月5日 著者：齋藤緑雨 発行：春陽堂
- 2-13. 『HOW I BECAME A CHRISTIAN: Out of My Diary.』 1895年(明治28年)5月10日 著者：内村鑑三 発行：警醒社書店
- 2-14. 『瀧口入道』 1895年(明治28年)9月20日 著者：和田篤太郎(高山樗牛) 春陽堂
- 2-15. 『たけくらべ』 1918年(大正7年)11月23日 著者：樋口邦子(樋口一葉)

- 発行：博文館
- 2-16. 『若菜集』 1897年（明治30年）8月29日 著者：島崎春樹（島崎藤村） 春陽堂
- 2-17. 『小公子』 1891年（明治24年）10月28日 著者：フランシス・バーネット
訳者：巖本嘉志子（若松しづ子） 発行：女學雜誌社
- 2-18. 『抒情詩』 1987年（明治30年）4月29日 編者：宮崎八百吉（宮崎湖處子）
発行：民友社
- 2-19. 『天地有情』 1899年（明治32年）4月7日 著者：土井林吉（土井晚翠） 発行：博文館
- 2-20. 『不如歸』 1900年（明治33年）1月15日 著者：蘆花（徳富蘆花） 発行：民友社
- 2-21. 『自然と人生』 1900年（明治33年）8月18日 著者：徳富健次郎（徳富蘆花）
発行：民友社
- 2-22. 『みだれ髪』 1901年（明治34年）8月15日 著者：鳳昌子（與謝野晶子） 発行：東京新詩社／伊藤文友館
- 2-23. 『紫』 1901年（明治34年）4月3日 著者：與謝野寛（與謝野鉄幹） 発行：東京新詩社
- 2-24. 『武藏野』 1901年（明治34年）3月11日 著者：國木田哲夫（國木田獨歩）
発行：民友社
- 2-25. 『金色夜叉』
- 2-25-1. 『金色夜叉前編』 1898年（明治31年）7月6日 著者：紅葉山人（尾崎紅葉） 発行：春陽堂
- 2-25-2. 『金色夜叉中編』 1899年（明治32年）1月1日 著者：紅葉山人（尾崎紅葉） 発行：春陽堂
- 2-25-3. 『金色夜叉後編』 1900年（明治33年）1月1日 著者：尾崎徳太郎（尾崎紅葉） 発行：春陽堂
- 2-25-4. 『金色夜叉續篇』 1902年（明治35年）4月28日 著者：尾崎徳太郎（尾崎紅葉） 発行：春陽堂
- 2-25-5. 『續續金色夜叉』 1903年（明治36年）6月12日 著者：尾崎徳太郎（尾崎紅葉） 発行：春陽堂
- 2-26. 『即興詩人』
- 2-26-1. 『即興詩人上』 1902年（明治35年）9月1日 著者：森林太郎訳（森鷗外）
発行：春陽堂
- 2-26-2. 『即興詩人下』 1902年（明治35年）9月1日 著者：森林太郎訳（森鷗外）
発行：春陽堂

- 2-27. 『河内屋』 1906年(明治39年)6月1日 著者:廣津直人(廣津柳浪) 発行:春陽堂
- 2-28. 『高野聖』 1908年(明治41年)2月20日 著者:泉鏡花 発行:國光社
- 2-29. 『學問のすゝめ』 1971年(明治4年)12月 著者:福澤諭吉/木幡篤次郎 発行:慶應義塾出版局
- 2-30. 『當世書生氣質』 1885年(明治18年)6月 著者:坪内雄藏(坪内逍遙) 発行:晚青堂
- 2-31. 『名著複刻全集 近代文学館 作品解題 ——明治前期——』 1968年12月10日 編集:名著複刻全集・編集委員会 刊行:財団法人日本近代文学館 製作・進行:図書月販
- 収録:明治前期展望(塩田良平)/福澤諭吉・頭書大全世界國盡(富田正文)/假名垣魯文・牛店雜談安愚樂鍋(塩田良平)/川島忠之助訳・新説八十日間世界一周(川島順平)/戸田欽堂・民権演義情海波瀾(大久保利謙)/三遊亭圓朝・怪談牡丹燈籠(越智治雄)/坪内逍遙・小説神髓(稲垣達郎)/二葉亭四迷・浮雲(稲垣達郎)/北村透谷・楚囚之詩(小田切秀雄)/幸田露伴・風流佛(成瀬正勝)/巖谷小波・こがね丸(福田清人)/正岡子規・獺祭書屋俳話(楠本憲吉)/斎藤綠雨・かくれんぼ(吉田精一)/内村鑑三・余は如何にして基督信徒となりし乎(南原繁)/高山樗牛・瀧口入道(成瀬正勝)/樋口一葉・真筆版たけくらべ(塩田良平)/島崎藤村・若菜集(瀬沼茂樹)/若松賤子訳・小公子(塩田良平)/宮崎湖處子・抒情詩(関良一)/土井晩翠・天地有情(笹淵友一)/徳富蘆花・不如歸(木村毅)/徳富蘆花・自然と人生(佐藤勝)/與謝野晶子・みだれ髪(木俣修)/與謝野鉄幹・紫(木俣修)/國木田獨步・武蔵野(中島健蔵)/尾崎紅葉・金色夜叉(塩田良平)/森鷗外訳・即興詩人(山室静)/廣津柳浪・河内屋(岡保生)/泉鏡花・高野聖(村松貞孝)/福澤諭吉・學問のすゝめ(富田正文)/坪内逍遙・當世書生氣質(稲垣達郎)/複刻製作の概要(編集部)/明治前期年表(編集部)
3. 『名著複刻全集 近代文学館 ——大正期——』 1969年4月10日 編集:名著複刻全集・編集委員会 刊行:財団法人日本近代文学館 製作・進行:図書月販
- 3-1. 『悲しき玩具』 1912年(明治45年)6月20日 著者:石川一(石川啄木) 発行:東雲堂書店
- 3-2. 『桐の花』 1913年(大正2年)1月25日 著者:北原白秋 発行:東雲堂書店
- 3-3. 『どんたく』 1913年(大正2年)11月5日 著者:竹久夢二 発行:實業之日本社
- 3-4. 『こゝろ』 1914年(大正3年)9月20日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:岩波書店
- 3-5. 『銀』 1914年(大正3年)5月26日 著者:木下利玄 発行:洛陽堂

- 3-6. 『善心悪心』 1916年（大正5年）11月15日 著者：里見弴 発行：春陽堂
- 3-7. 『羅生門』 1917年（大正6年）5月23日 著者：芥川龍之介 発行：阿蘭陀書房
- 3-8. 『月に吠える』 1917年（大正6年）2月15日 著者：萩原朔太郎 発行：感情詩社／白日社出版部
- 3-9. 『腕くらべ』 1917年（大正6年） 著者：永井荷風 発行：私家版
- 3-10. 『夜の光』 1918年（大正7年）1月16日 著者：志賀直哉 発行：新潮社
- 3-11. 『生れ出る悩み』 1918年（大正7年）9月12日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 3-12. 『抒情小曲集』 1918年（大正7年）9月10日 著者：室生犀星 発行：文武堂書店
- 3-13. 『新しき村の生活』 1918年（大正7年）8月10日 著者：武者小路實篤 発行：新潮社
- 3-14. 『病める薔薇』 1918年（大正7年）11月28日 著者：佐藤春夫 発行：天佑社
- 3-15. 『或女』
- 3-15-1. 『或女』 1919年（大正8年）3月23日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 3-15-2. 『或女（後編）』 1919年（大正8年）6月16日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 3-16. 『藏の中』 1919年（大正8年）12月24日 著者：宇野浩二 発行：聚英閣
- 3-17. 『子をつれて』 1919年（大正8年）3月1日 著者：葛西善藏 発行：新潮社
- 3-18. 『氷魚』 1920年（大正9年）6月15日 著者：島木赤彦 発行：岩波書店
- 3-19. 『作者の感想』 1920年（大正9年）3月20日 著者：廣津和郎 発行：聚英閣
- 3-20. 『藤十郎の戀』 1920年（大正9年）4月10日 著者：菊地寛 発行：新潮社
- 3-21. 『殉情詩集』 1921年（大正10年）7月12日 著者：佐藤春夫 発行：新潮社
- 3-22. 『赤い燭燭と人魚』 1921年（大正10年）5月19日 著者：小川未明 発行：天佑社
- 3-23. 『銀の匙』 1921年（大正10年）12月10日 著者：中勘助 発行：岩波書店
- 3-24. 『椋鳥の夢』 1921年（大正10年）8月26日 著者：濱田廣介 発行：新生社
- 3-25. 『項羽と劉邦』 1922年（大正11年）6月5日 著者：長與善郎 発行：新潮社
- 3-26. 『青猫』 1923年（大正12年）1月26日 著者：萩原朔太郎 発行：新潮社
- 3-27. 『冬彦集』 1923年（大正12年）1月25日 著者：寺田寅彦 発行：岩波書店
- 3-28. 『黒髪』 1924年（大正13年）7月15日 著者：近松秋江 発行：新潮社
- 3-29. 『春と修羅』 1924年（大正13年）4月20日 著者：宮澤賢治 発行：關根書店

- 3-30. 『注文の多い料理店』 1924年（大正13年）12月1日 著者：宮澤賢治 発行：杜陵出版部／東京光原社
- 3-31. 『海神丸其他』 1924年（大正13年）9月15日 著者：野上彌生子 発行：改造社
- 3-32. 『譯詩集月下の一群』 1925年（大正14年）9月17日 著者：堀口大學 発行：第一書房
- 3-33. 『自選歌集 海やまのあひだ』 1925年（大正14年）5月30日 著者：釋迢空 発行：改造社
- 3-34. 『平將門』 1925年（大正14年）3月12日 著者：眞山青果 発行：新潮社
- 3-35. 『老人 自筆原稿』 著者：志賀直哉
- 3-36. 『名著複刻全集 近代文学館 作品解題 ——大正期——』 1969年4月10日 編集：名著複刻全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：図書月販
収録：大正期展望（瀨沼茂樹）／石川啄木・悲しき玩具（久保田正文）／北原白秋・桐の花（木俣修）／竹久夢二（長田幹雄）／夏目漱石・こゝろ（小田切進）／木下利玄・銀（木俣修）／里見弴・善心悪心（野口富士男）／芥川龍之介・羅生門（三好行雄）／萩原朔太郎・月に吠える（伊藤信吉）／永井荷風・腕くらべ（成瀬正勝）／志賀直哉・夜の光（紅野敏郎）／有島武郎・生れ出る悩み（安川定男）／室生犀星・抒情小曲集（中野重治）／武者小路實篤・新しき村の生活（紅野敏郎）／佐藤春夫・病める薔薇（高田瑞穂）／有島武郎・或女（瀨沼茂樹）／宇野浩二・藏の中（渋川驍）／葛西善藏・子をつれて（浅見淵）／島木赤彦・氷魚（久保田正文）／廣津和郎・作者の感想（稲垣達郎）／菊池寛・藤十郎の戀（藤木宏幸）／佐藤春夫・殉情詩集（井上靖）／小川未明・赤い蠟燭と人魚（上笙一郎）／中勘助・銀の匙（福田清人）／濱田廣介・椋鳥の夢（滑川道夫）／長與善郎・項羽と劉邦（岩淵兵七郎）／萩原朔太郎・青猫（篠田一士）／寺田寅彦・冬彦集（谷沢永一）／近松秋江・黒髪（吉田精一）／宮澤賢治・春と修羅（中村稔）／宮澤賢治・注文の多い料理店（恩田逸夫）／野上彌生子・海神丸其他（瀨沼茂樹）／堀口大學・月下の一群（河盛好藏）／釋迢空・海やまのあひだ（山本健吉）／眞山青果・平將門（秋庭太郎）／志賀直哉・老人（自筆原稿）（遠藤祐）／複刻制作の概要（編集部）／大正期年表
4. 『名著複刻全集 近代文学館 ——昭和期——』 1969年9月10日 編集：名著複刻全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：図書月販
- 4-1. 『感情裝飾』 1926年（大正15年）6月15日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 4-2. 『海に生くる人々』 1926年（大正15年）10月18日 著者：葉山嘉樹 発行：改造社
- 4-3. 『春は馬車に乗って』 1927年（昭和2年）1月12日 著者：横光利一 発行：

改造社

- 4-4. 『伊豆の踊子』 1927年（昭和2年）3月20日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 4-5. 『無限抱擁』 1927年（昭和2年）9月20日 著者：瀧井孝作 発行：改造社
- 4-6. 『侏儒の言葉』 1927年（昭和2年）12月6日 著者：芥川龍之介 発行：文藝春秋社出版部
- 4-7. 『伸子』 1928年（昭和3年）3月3日 著者：中條百合子（宮本百合子） 発行：改造社
- 4-8. 『蟹工船 日本プロレタリア作家叢書第二篇』 1929年（昭和4年）9月25日 著者：小林多喜二 発行：戦旗社
- 4-9. 『葛飾』 1930年（昭和5年）4月1日 著者：水原豊（水原秋櫻子） 発行：馬酔木發行所
- 4-10. 『夜ふけと梅の花』 1930（昭和5年）4月3日 著者：井伏鱒二 発行：新潮社
- 4-11. 『放浪記 新鋭文學叢書』 1930年（昭和5年）7月3日 著者：林芙美子 発行：改造社
- 4-12. 『測量船』 1930年（昭和5年）12月20日 著者：三好達治 発行：第一書房
- 4-13. 『檸檬』 1931年（昭和6年）5月15日 著者：梶井基次郎 発行：武藏野書院
- 4-14. 『チロルの秋』 1927年（昭和2年）6月15日 著者：岸田國士 発行：第一書房
- 4-15. 『文芸評論』 1931年（昭和6年）7月10日 著者：小林秀雄 発行：白水社
- 4-16. 『中野重治詩集』 1931年（昭和6年）10月5日 著者：中野重治 発行：ナツプ出版部
- 4-17. 『春琴抄』 1933年（昭和8年）12月10日 著者：谷崎潤一郎 発行：創元社
- 4-18. 『蓼喰う蟲』 1936年（昭和11年）6月15日 著者：谷崎潤一郎 発行：創元社
- 4-19. 『晩年』 1936年（昭和11年）6月25日 著者：太宰治 発行：砂小屋書房
- 4-20. 『溍東綺譚』 1937年（昭和12年）4月 著者：永井壯吉（永井荷風） 発行：永井壯吉（永井荷風）
- 4-21. 『萱草に寄す』 1937年（昭和12年）5月12日 著者：立原道造 発行：風信子叢書刊行所
- 4-22. 『雪國』 1937年（昭和12年）6月12日 著者：川端康成 発行：創元社
- 4-23. 『五百句』 1937年（昭和12年）6月17日 著者：高濱虚子 発行：改造社
- 4-24. 『風立ちぬ』 1938年（昭和13年）4月10日 著者：堀辰雄 発行：野田書房
- 4-25. 『在りし日の歌』 1938年（昭和13年）4月15日 著者：中原中也 発行：創元社

- 4-26. 『子供の四季』 1938年(昭和13年)8月11日 著者：坪田讓治 発行：新潮社
- 4-27. 『如何なる星の下に』 1940年(昭和15年)4月27日 著者：高見順 発行：新潮社
- 4-28. 『新篇 路傍の石』 1941年(昭和16年)8月1日 著者：山本有三 発行：岩波書店
- 4-29. 『暗夜行路』 1943年(昭和18年)11月19日 著者：志賀直哉 発行：座右寶刊行會
- 4-30. 『日本文化私観』 1943年(昭和18年)12月5日 著者：坂口安吾 発行：文體社
- 4-31. 『縮圖』 1946年(昭和21年)7月10日 著者：徳田秋聲 発行：小山書店
- 4-32. 『夜明け前(序章の(一)) 自筆原稿』 著者：島崎藤村
- 4-33. 『名著複刻全集 近代文学館 作品解題 ——昭和期——』 1969年9月10日
 編集：名著複刻全集・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・進行：図書月販
 収録：昭和期展望(瀬沼茂樹) / 川端康成・感情裝飾(山本健吉) / 葉山嘉樹・海に生くる人々(小田切進) / 横光利一・春は馬車に乗って(保昌正夫) / 川端康成・伊豆の踊子(長谷川泉) / 瀧井孝作・無限抱擁(浅見淵) / 芥川龍之介・侏儒の言葉(吉田精一) / 宮本百合子・伸子(本多秋五) / 小林多喜二・蟹工船(小田切進) / 水原秋櫻子・葛飾(楠本憲吉) / 井伏鱒二・夜ふけと梅の花(浅見淵) / 林芙美子・放浪記(和田芳恵) / 三好達治・測量船(村野四郎) / 梶井基次郎・檸檬(高田瑞穂) / 岸田國士・チロルの秋(磯貝英夫) / 小林秀雄・文藝評論(小笠原克) / 中野重治・中野重治詩集(小田切秀雄) / 谷崎潤一郎・春琴抄(円地文子) / 谷崎潤一郎・蓼喰ふ蟲(佐伯彰一) / 太宰治・晩年(奥野健男) / 永井荷風・溼東綺譚(成瀬正勝) / 立原道造・萱草に寄す(猪野謙二) / 川端康成・雪國(中村光夫) / 高濱虚子・五百句(加藤楸邨) / 堀辰雄・風立ちぬ(佐々木基一) / 中原中也・在りし日の歌(大岡昇平) / 坪田讓治・子供の四季(藤田圭雄) / 高見順・如何なる星の下に(小田切進) / 山本有三・新篇路傍の石(高橋健二) / 志賀直哉・暗夜行路(安岡章太郎) / 坂口安吾・日本文化私観(奥野健男) / 徳田秋聲・縮圖(稲垣達郎) / 島崎藤村・夜明け前(自筆原稿)(瀬沼茂樹) / 複刻制作の概要(編集部) / 昭和期年表(編集部) / あとがき(稲垣達郎)
5. 『新選 名著複刻全集 近代文学館』 1970年4月10日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版 印刷：共同印刷
- 5-1. 『學問のすゝめ』 1971年(明治4年)12月 著者：福澤諭吉 / 木幡篤次郎 発行：慶應義塾出版局

- 5-2. 『當世書生氣質』 1885年(明治18年)6月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：晚青堂
- 5-3. 『浮雲』
- 5-3-1. 『浮雲 第一編』 1887年(明治20年)6月 著者：二葉亭四迷 発行：金港堂
- 5-3-2. 『浮雲 第二編』 1888年(明治21年)2月 著者：二葉亭四迷 発行：金港堂
- 5-4. 『二人比丘尼 色懺悔』 1889年(明治22年)4月1日 著者：尾崎紅葉 発行：吉岡書籍店
- 5-5. 『小説 尾花集』 1892年(明治25年)10月3日 著者：幸田露伴 発行：青木嵩山堂
- 5-6. 『若菜集』 1897年(明治30年)8月29日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：春陽堂
- 5-7. 『武藏野』 1901年(明治34年)3月11日 著者：國木田哲夫(國木田獨歩) 発行：民友社
- 5-8. 『みだれ髪』 1901年(明治34年)8月15日 著者：鳳晶子(與謝野晶子) 発行：東京新詩社／伊藤交友館
- 5-9. 『海潮音』 1905年(明治38年)10月13日 著者：上田敏 発行：本郷書院
- 5-10. 『吾輩ハ猫デアル』
- 5-10-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年(明治38年)10月6日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店
- 5-10-2. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 1906年(明治39年)11月4日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店
- 5-10-3. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 1907年(明治40年)5月19日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店
- 5-11. 『破戒』 1906年(明治39年)3月25日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：私家版
- 5-12. 『野菊の墓』 1906年(明治39年)4月5日 著者：伊藤幸次郎(伊藤左千夫) 発行：俳書堂
- 5-13. 『田舎教師』 1909年(明治42年)10月20日 著者：田山花袋 発行：左久良書房
- 5-14. 『一握の砂』 1910年(明治43年)12月1日 著者：石川啄木 発行：東雲堂書店
- 5-15. 『お目出たき人』 1911年(明治44年)2月13日 著者：武者小路實篤 発行：洛陽堂

- 5-16. 『思ひ出』 1911年(明治44年)6月5日 著者:北原白秋 発行:東雲堂書店
- 5-17. 『刺青』 1911年(明治44年)12月10日 著者:谷崎潤一郎 発行:初山書店
- 5-18. 『土』 1912年(明治45年)5月15日 著者:長塚節 発行:春陽堂
- 5-19. 『赤光』 1913年(大正2年)10月15日 著者:齊藤茂吉 発行:東雲堂書店
- 5-20. 『こゝろ』 1914年(大正3年)9月20日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:岩波書店
- 5-21. 『道程』 1914年(大正3年)10月25日 著者:高村光太郎 発行:抒情詩社
- 5-22. 『雁』 1915年(大正4年)5月15日 著者:森林太郎(森鷗外) 発行:初山書店
- 5-23. 『すみだ川』 1915年(大正4年)9月25日 著者:永井壯吉(永井荷風) 発行:初山書店
- 5-24. 『あらくれ』 1915年(大正4年)9月15日 著者:徳田秋聲 発行:新潮社
- 5-25. 『羅生門』 1917年(大正6年)5月23日 著者:芥川龍之介 発行:阿蘭陀書房
- 5-26. 『大津順吉』 1917年(大正6年)6月7日 著者:志賀直哉 発行:新潮社
- 5-27. 『生れ出る悩み』 1918年(大正7年)9月12日 著者:有島武郎 発行:叢文閣
- 5-28. 『たけくらべ』 1918年(大正7年)11月23日 著者:樋口邦子(樋口一葉) 発行:博文館
- 5-29. 『赤い燧燭と人魚』 1921年(大正10年)5月19日 著者:小川未明 発行:天佑社
- 5-30. 『殉情詩集』 1921年(大正10年)7月12日 著者:佐藤春夫 発行:新潮社
- 5-31. 『青猫』 1923年(大正12年)1月26日 著者:萩原朔太郎 発行:新潮社
- 5-32. 『注文の多い料理店』 1924年(大正13年)12月1日 著者:宮澤賢治 発行:杜陵出版部/東京光原社
- 5-33. 『伊豆の踊子』 1927年(昭和2年)3月20日 著者:川端康成 発行:金星堂
- 5-34. 『蟹工船』 1929年(昭和4年)9月25日 著者:小林多喜二 発行:戦旗社
- 5-35. 『測量船』 1930年(昭和5年)12月20日 著者:三好達治 発行:第一書房
- 5-36. 『風立ちぬ』 1938年(昭和13年)4月10日 著者:堀辰雄 発行:野田書房
- 5-37. 『新篇 路傍の石』 1931年(昭和16年)8月1日 著者:山本有三 発行:岩波書店
- 5-38. 『新選 名著複刻全集 近代文学館 一作品解題』 1970年4月10日 編集:名著複刻全集編集委員会 刊行:財団法人日本近代文学館 製作:ほるぷ出版 印刷:共同印刷

収録：近代文学史展望（瀬沼茂樹）／作品解題（福澤諭吉・学問のすゝめ（富田正文）／坪内逍遙・一読三歎 当世書生氣質（稲垣達郎）／二葉亭四迷・新編 浮雲（稲垣達郎）／尾崎紅葉／二人比丘尼 色懺悔（福田清人）／幸田露伴・小説 尾花集（塩田良平）／島崎藤村・若菜集（瀬沼茂樹）／国木田独歩・武蔵野（中島健蔵）／与謝野晶子・みだれ髪（木俣修）／上田敏・海潮音（吉田精一）／夏目漱石・吾輩ハ猫デアル（荒正人）／島崎藤村・破戒（瀬沼茂樹）／伊藤左千夫・野菊の墓（福田清人）／田山花袋・田舎教師（川副国基）／石川啄木・一握の砂（岩城之徳）／武者小路実篤・お目出たき人（稲垣達郎）／北原白秋・思ひ出（木俣修）／谷崎潤一郎・刺青（伊藤整）／長塚節・土（小田切進）／齊藤茂吉・赤光（木俣修）／夏目漱石・こゝろ（小田切進）／高村光太郎・道程（北川太一）／森鷗外・雁（成瀬正勝）／永井荷風・すみだ川（成瀬正勝）／徳田秋声・あらくれ（吉田精一）／芥川龍之介・羅生門（三好行雄）／志賀直哉・大津順吉（稲垣達郎）／有島武郎・生れ出る悩み（安川定男）／樋口一葉・真筆版 たけくらべ（塩田良平）／小川未明・赤い蠟燭と人魚（上笙一郎）／佐藤春夫・殉情詩集（井上靖）／萩原朔太郎・青猫（篠田一士）／宮沢賢治・注文の多い料理店（恩田逸夫）／川端康成・伊豆の踊子（長谷川泉）／小林多喜二・蟹工船（小田切進）／三好達治・測量船（村野四郎）／堀辰雄・風立ちぬ（佐々木基一）／山本有三・新篇路傍の石（高橋健二）／年表・編集部／複製制作の概要（編集部）

6. 『特選 名著複製全集 近代文学館』 1971年5月10日 編集：特選名著複製全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 販売：図書月販 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷

6-1. 『柳橋新誌』

6-1-1. 『柳橋新誌 完』 1884年（明治7年）4月 著者：成島柳北 発行：奎章閣

6-1-2. 『柳橋新誌二編 全』 1884年（明治7年）2月 著者：成島柳北 発行：奎章閣

6-2. 『新體詩抄 初編』 1882年（明治15年）8月 撰者：外山正一／矢田部良吉／井上哲治郎 発行：丸家善七

6-3. 『十二の石塚』 1885年（明治18年）10月10日 著者：湯浅吉郎（湯浅半月） 発行：自家版

6-4. 『雪中梅』

6-4-1. 『雪中梅 上編』 1886年（明治19年）8月27日 著者：末廣重恭（末廣鐵腸） 発行：博文堂

6-4-2. 『雪中梅 下編』 1886年（明治19年）11月30日 著者：末廣重恭（末廣鐵腸） 発行：博文堂

6-5. 『夏木立』 1888年（明治21年）8月20日 著者：山田武太郎（山田美妙） 発行：金港堂

- 6-6. 『蓬萊曲』 1891年(明治24年)5月29日 著者:北村門太郎(北村透谷) 発行:養眞堂
- 6-7. 『文學者となる法』 1894年(明治27年)4月15日 著者:宮澤俊三(内田魯庵) 発行:右文社
- 6-8. 『落梅集』 1901年(明治34年)8月25日 著者:島崎春樹(島崎藤村) 発行:春陽堂
- 6-9. 『あこがれ』 1905年(明治38年)5月3日 著者:石川啄木 発行:小田島書房
- 6-10. 『鶉籠』 1907年(明治40年)1月1日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:春陽堂
- 6-11. 『歌日記』 1907年(明治40年)9月15日 著者:森林太郎(森鷗外) 発行:春陽堂
- 6-12. 『NAKIWARAI』 1910年(明治43年)4月 著者:土岐善麿(土岐哀果) 発行:ローマ字ひろめ會
- 6-13. 『發展』 1912年(明治45年)7月1日 著者:岩野泡鳴 発行:實業之世界社
- 6-14. 『留女』 1913年(大正2年)1月1日 著者:志賀直哉 発行:洛陽堂
- 6-15. 『珊瑚集』 1913年(大正2年)4月20日 著者:永井荷風 発行:初山書店
- 6-16. 『東京景物詩』 1913年(大正2年)7月1日 著者:北原白秋 発行:東雲堂書店
- 6-17. 『日本橋』 1914年(大正3年)9月18日 著者:泉鏡花 発行:千章館
- 6-18. 『碧梧桐句集』 1916年(大正5年)2月5日 著者:大須賀續 発行:俳書堂
- 6-19. 『傀儡師』 1933年(大正8年)1月15日 著者:芥川龍之介 発行:新潮社
- 6-20. 『性に眼覚める頃』 1934年(大正9年)1月5日 著者:室生犀星 発行:新潮社
- 6-21. 『同志の人々』 1924年(大正13年)11月15日 著者:山本有三 発行:新潮社
- 6-22. 『死刑宣告』 1925年(大正14年)10月18日 著者:萩原恭次郎 発行:長隆舎書店
- 6-23. 『雪明りの路』 1926年(大正15年)12月1日 著者:伊藤整 発行:椎の木社
- 6-24. 『太陽のない街』 1929年(昭和4年)12月4日 著者:徳永直 発行:戦旗社
- 6-25. 『浅草紅團』 1930年(昭和5年)12月5日 著者:川端康成 発行:先進社
- 6-26. 『機械』 1931年(昭和6年)4月10日 著者:横光利一 発行:白水社
- 6-27. 『聖家族』 1932年(昭和7年)2月20日 著者:堀辰雄 発行:江川書房
- 6-28. 『盲目物語』 1932年(昭和7年)2月5日 著者:谷崎潤一郎 発行:中央公

論社

- 6-29. 『故舊忘れ得べき』 1936年(昭和11年)10月20日 著者：高見順 発行：人民社
- 6-30. 『東京方眼圖』 1909年(明治42年)8月15日 著者：森林太郎(森鷗外) 発行：春陽堂
- 6-31. 『特選 名著複刻全集 近代文学館 一作品解題』 1971年7月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 販売：図書月販 製作：ほるぷ出版/東京連合印刷
- 収録：展望〈近代文学の夜明け前〉/作品解題〈成島柳北・柳橋新誌(塩田良平)/外山正一他編・新體詩抄 初編(吉田精一)/湯淺半月・十二の石塚(佐藤泰正)/末廣鐵腸・雪中梅(越智治雄)/山田美妙・夏木立(塩田良平)/北村透谷・蓬莱曲(小田切秀雄)/内田魯庵・文學者となる法(瀬沼茂樹)/島崎藤村・落梅集(瀬沼茂樹)/石川啄木・あこがれ(久保田正文)/夏目漱石・鶉籠(小田切進)/森鷗外・うた日記(三好行雄)/土岐哀果・NAKIWARAI(木俣修)/岩野泡鳴・發展(川副国基)/志賀直哉・留女(紅野敏郎)/永井荷風・珊瑚集(河盛好藏)/北原白秋・東京景物詩及其他(木俣修)/泉鏡花・日本橋(成瀬正勝)/河東碧梧桐・碧梧桐句集(大須賀乙字選)(楠本憲吉)/芥川龍之介・傀儡師(吉田精一)/室生犀星・性に眼覚める頃(和田芳恵)/山本有三・同志の人々(福田清人)/萩原恭次郎・死刑宣告(壺井繁治)/伊藤整・雪明りの道(瀬沼茂樹)/徳永直・太陽のない街(小田切進)/川端康成・淺草紅團(長谷川泉)/横光利一・機械(保昌正夫)/堀辰雄・聖家族(佐々木基一)/谷崎潤一郎・盲目物語(酒井森之助)/高見順・故舊忘れ得べき(渋川驍)/森鷗外(立案)・東京方眼圖(稲垣達郎)/近代文学史年表(編集部)/複刻制作の概要(編集部)/あとがき
7. 『精選 名著複刻全集 近代文学館』 1972年6月10日 編集：精選名著複刻全集近代文学館・編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：図書月販 製作：ほるぷ出版/東京連合印刷
- 7-1. 『小説神髓』
- 7-1-1. 『小説神髓 第壹冊』 1885年(明治18年)9月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-2. 『小説神髓 第二冊』 1885年(明治18年)9月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-3. 『小説神髓 第三冊』 1885年(明治18年)9月26日 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-4. 『小説神髓 第四冊』 1886年(明治19年)3月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂

- 7-1-5. 『小説神髓 第五冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-6. 『小説神髓 第六冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-7. 『小説神髓 第七冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-8. 『小説神髓 第八冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-1-9. 『小説神髓 第九冊』 1886年(明治19年)4月 著者：坪内雄藏(坪内逍遙) 発行：松月堂
- 7-2. 『金色夜叉』
- 7-2-1. 『金色夜叉前編』 1898年(明治31年)7月6日 著者：紅葉山人(尾崎紅葉) 発行：春陽堂
- 7-2-2. 『金色夜叉中編』 1899年(明治32年)1月1日 著者：紅葉山人(尾崎紅葉) 発行：春陽堂
- 7-2-3. 『金色夜叉後編』 1900年(明治33年)1月1日 著者：尾崎徳太郎(尾崎紅葉) 発行：春陽堂
- 7-2-4. 『金色夜叉續篇』 1902年(明治35年)4月28日 著者：尾崎徳太郎(尾崎紅葉) 発行：春陽堂
- 7-2-5. 『續續金色夜叉』 1903年(明治36年)6月12日 著者：尾崎徳太郎(尾崎紅葉) 発行：春陽堂
- 7-3. 『自然と人生』 1900年(明治33年)8月18日 著者：徳富健次郎(徳富蘆花) 発行：民友社
- 7-4. 『運命』 1906年(明治39年)3月18日 著者：國木田哲夫(國木田獨歩) 発行：左久良書房
- 7-5. 『有明集』 1908年(明治41年)1月1日 著者：蒲原有明 発行：易風社
- 7-6. 『高野聖』 1908年(明治41年)2月20日 著者：泉鏡花 発行：左久良書房
- 7-7. 『春』 1908年(明治41年)10月18日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：私家版
- 7-8. 『邪宗門』 1909年(明治42年)3月15日 著者：北原白秋 発行：易風社
- 7-9. 『三四郎』 1909年(明治42年)5月13日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 7-10. 『徼』 1912年(明治45年)1月7日 著者：徳田秋聲 発行：新潮社
- 7-11. 『悲しき玩具』 1912年(明治45年)6月20日 著者：石川一(石川啄木) 発行：東雲堂書店

- 7-12. 『青年』 1913年（大正2年）2月10日 著者：森鷗外 発行：初山書店
- 7-13. 『時は過ぎゆく』 1916年（大正5年）9月5日 著者：田山花袋 発行：新潮社
- 7-14. 『月に吠える』 1917年（大正6年）2月15日 著者：萩原朔太郎 発行：感情詩社／白日社出版部
- 7-15. 『腕くらべ』 1917年（昭和6年）12月 著者：荷風（永井荷風） 発行：十里香館
- 7-16. 『夜の光』 1918年（大正7年）1月16日 著者：志賀直哉 発行：新潮社
- 7-17. 『病める薔薇』 1918年（大正7年）11月28日 著者：佐藤春夫 発行：天佑社
- 7-18. 『或女』
- 7-18. 『或女（前編）』 1919年（大正8年）3月23日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 7-18. 『或女（後編）』 1919年（大正8年）6月16日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 7-19. 『或る男』 1923年（大正12年）11月28日 著者：武者小路實篤 発行：新潮社
- 7-20. 『春と修羅』 1924年（大正13年）4月20日 著者：宮澤賢治 発行：關根書店
- 7-21. 『幽秘記』 1925年（大正14年）6月20日 著者：幸田成行（幸田露伴） 発行：改造社
- 7-22. 『感情裝飾』 1926年（大正15年）6月15日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 7-23. 『海に生くる人びと』 1926年（大正15年）10月18日 著者：葉山嘉樹 発行：改造社
- 7-24. 『春は馬車に乗って』 1927年（昭和2年）1月12日 著者：横光利一 発行：改造社
- 7-25. 『侏儒の言葉』 1927年（昭和2年）12月6日 著者：芥川龍之介 発行：文藝春秋社出版部
- 7-26. 『伸子』 1928年（昭和3年）3月3日 著者：中條百合子（宮本百合子） 発行：改造社
- 7-27. 『放浪記』 1930年（昭和5年）7月3日 著者：林芙美子 発行：改造社
- 7-28. 『檸檬』 1931年（昭和6年）5月15日 著者：梶井基次郎 発行：武蔵野書院
- 7-29. 『春琴抄』 1933年（昭和8年）12月10日 著者：谷崎潤一郎 発行：創元社
- 7-30. 『晩年』 1936年（昭和11年）6月25日 著者：太宰治 発行：砂小屋書房
- 7-31. 『在りし日の歌』 1938年（昭和13年）4月15日 著者：中原中也 発行：創

元社

7-32. 『如何なる星の下に』 1940年(昭和15年)4月27日 著者：高見順 発行：新潮社

7-33. 『東京芸者の一日』 発行年月日不明 著者：ジョルジュ・ピゴール 発行元不明

7-34. 『精選 名著複刻全集 近代文学館 一作品解題』 1972年6月10日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷

収録：近代文学史展望(瀬沼茂樹)／作品解題〈坪内逍遙・小説神髓(稲垣達郎)／尾崎紅葉・金色夜叉(塩田良平)／徳富蘆花・自然と人生(佐藤勝)／國木田獨歩・運命(福田清人)／蒲原有明・有明集(野田宇太郎)／泉鏡花・高野聖(村松定孝)／島崎藤村・春(三好行雄)／北原白秋・邪宗門(木俣修)／夏目漱石・三四郎(猪瀬謙二)／徳田秋聲・懺(伊藤整)／石川啄木・悲しき玩具(久保田正文)／森鷗外・青年(澁川驍)／田山花袋・時は過ぎゆく(野口富士男)／萩原朔太郎・月に吠える(伊藤信吉)／永井荷風・腕くらべ(成瀬正勝)／志賀直哉・夜の光(紅野敏郎)／佐藤春夫・病める薔薇(高田瑞穂)／有島武郎・或女(瀬沼茂樹)／武者小路實篤・或る男(稲垣達郎)／宮澤賢治・春と修羅(中村稔)／幸田露伴・幽祕記(篠田一士)／川端康成・感情装飾(山本健吉)／葉山嘉樹・海に生くる人びと(小田切進)／横光利一・春は馬車に乗って(保昌正夫)／芥川龍之介・侏儒の言葉(吉田精一)／宮本百合子・伸子(本多秋五)／林芙美子・放浪記(和田芳恵)／梶井基次郎・檸檬(高田瑞穂)／谷崎潤一郎・春琴抄(円地文子)／太宰治・晩年(奥野健男)／中原中也・在りし日の歌(大岡昇平)／高見順・如何なる星の下に(小田切進)／ジョルジュ・ピゴール・東京芸者の一日(匠秀夫)／近代文学史年表(編集部)／複刻制作の概要(編集部)／あとがき(稲垣達郎)

8. 『名著複刻 漱石文学館』 1975年11月15日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 販売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷

8-1. 『吾輩ハ猫デアル』

8-1-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年(明治38年)10月6日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店

8-1-2. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 夏目金之助(夏目漱石) 1906年(明治39年)11月4日 大倉書店／服部書店

8-1-3. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 夏目金之助(夏目漱石) 1907年(明治40年)5月19日 大倉書店／服部書店

8-2. 『漾虚集』 1906年(明治39年)5月17日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店

8-3. 『鶉籠』 1907年(明治40年)1月1日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：

大倉書店

- 8-4. 『文學論』 1907年（明治40年）5月7日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店
- 8-5. 『虞美人艸』 1908年（明治41年）1月1日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-6. 『草合』 1908年（明治41年）9月15日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-7. 『文學評論』 1909年（明治42年）3月16日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-8. 『三四郎』 1909年（明治42年）5月13日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-9. 『それから』 1910年（明治43年）1月1日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-10. 『四篇』 1910年（明治43年）5月15日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-11. 『門』 1911年（明治44年）1月1日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-12. 『切抜帖より』 1911年（明治44年）8月18日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-13. 『彼岸過迄』 1912年（大正元年）9月15日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：春陽堂
- 8-14. 『社會と自分』 1913年（大正2年）2月5日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：實業之日本社
- 8-15. 『行人』 1914年（大正3年）1月7日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店
- 8-16. 『こゝろ』 1914年（大正3年）9月20日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店
- 8-17. 『硝子戸の中』 1915年（大正4年）3月28日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店
- 8-18. 『道草』 1915年（大正4年）10月10日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店
- 8-19. 『明暗』 1917年（大正6年）1月26日 著者：故夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店
- 8-20. 『漱石俳句集』 1917年（大正6年）11月10日 著者：故夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店

- 8-21. 『漱石詩集』 1919年(大正8年)6月15日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:岩波書店
- 8-22. 『英文學形式論』 1924年(大正13年)9月15日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:岩波書店
- 8-23. 『木屑録』 1933年(昭和8年)3月15日 著者:夏目金之助(夏目漱石) 発行:岩波書店
- 8-24. 『名著複刻 漱石文学館 解説』 1975年11月15日 編集:名著複刻全集編集委員会 刊行:財団法人日本近代文学館 販売:ほるぷ 製作:ほるぷ出版/東京連合印刷
- 収録:漱石と現代〈白鳥と漱石(中村光夫) / 永遠に新しく、不思議な作家(中野好夫) / 漱石と現代 一わたしの経験から一(小田切秀雄) / 漱石と現代(江藤淳) / 概説〈漱石の人と文学 一夏目漱石小照一(稲垣達郎) / 作品解題〈吾輩ハ猫デアル(瀬沼茂樹) / 濛虚集(小田切進) / 鶉籠(福田清人) / 文学論(吉田精一) / 虞美人艸(渋川驍) / 草合(猪野謙二) / 文学評論(佐伯彰一) / 三四郎(三好行雄) / それから(佐々木基一) / 四篇(紅野敏郎) / 門(小島信夫) / 切抜帖より(相馬庸郎) / 彼岸過迄(佐藤泰正) / 社会と自分(奥野健男) / 行人(磯田光一) / こゝろ(江藤淳) / 硝子戸の中(木俣修) / 道草(内田道雄) / 明暗(荒正人) / 漱石俳句集(飯田龍太) / 漱石詩集 印譜附(山本健吉) / 英文學形式論(篠田一士) / 木屑録 附解説・訳文(長谷川泉) / 漱石本の装幀(原弘) / 漱石の印象〈漱石の百面相(津田清楓) / 漱石の印象(荻原井泉水) / 先生との出会い(藤浪和子) / 思い出の断章(野上彌生子) / 夏目漱石略年譜(編集部) / 複刻製作の概要(編集部) / あとがき(稲垣達郎)
9. 『名著複刻 芥川龍之介文学館』 1977年7月1日 編集:名著複刻全集編集委員会 刊行:財団法人日本近代文学館 総発売元:ほるぷ 製作:ほるぷ出版/東京連合印刷
- 9-1. 『羅生門』 1917年(大正6年)5月23日 著者:芥川龍之介 発行:阿蘭陀書房
- 9-2. 『煙草と悪魔』 1917年(大正6年)11月10日 著者:芥川龍之介 発行:新潮社
- 9-3. 『鼻』 1918年(大正7年)7月8日 著者:芥川龍之介 発行:春陽堂
- 9-4. 『傀儡師』 1919年(大正8年)1月15日 著者:芥川龍之介 発行:新潮社
- 9-5. 『影燈籠』 1920年(大正9年)1月28日 著者:芥川龍之介 発行:春陽堂
- 9-6. 『夜來の花』 1921年(大正10年)3月14日 著者:芥川龍之介 発行:新潮社
- 9-7. 『將軍』 1922年(大正11年)3月15日 著者:芥川龍之介 発行:新潮社
- 9-8. 『點心』 1922年(大正11年)5月20日 著者:芥川龍之介 発行:金星堂
- 9-9. 『邪宗門』 1922年(大正11年)11月13日 著者:芥川龍之介 発行:春陽堂

- 9-10. 『春服』 1923年（大正12年）5月18日 著者：芥川龍之介 発行：春陽堂
- 9-11. 『黄雀風』 1924年（大正13年）7月18日 著者：芥川龍之介 発行：新潮社
- 9-12. 『百艸』 1924年（大正13年）9月17日 著者：芥川龍之介 発行：新潮社
- 9-13. 『支那游記』 1925年（大正14年）11月3日 著者：芥川龍之介 発行：改造社
- 9-14. 『梅・馬・鶯』 1926年（大正15年）12月25日 著者：芥川龍之介 発行：新潮社
- 9-15. 『湖南の扇』 1927年（昭和2年）6月20日 著者：芥川龍之介 発行：文藝春秋社出版部
- 9-16. 『澄江堂句集』 発行年月日不明 著者：芥川龍之介 発行：私家版
- 9-17. 『侏儒の言葉』 1927年（昭和2年）12月6日 著者：芥川龍之介 発行：文藝春秋社出版部
- 9-18. 『西方の人』 1929年（昭和4年）12月20日 著者：芥川龍之介 発行：岩波書店
- 9-19. 『大導寺信輔の半生』 1930年（昭和5年）1月15日 著者：芥川龍之介 発行：岩波書店
- 9-20. 『文藝的な、余りに文藝的な』 1931年（昭和6年）7月5日 著者：芥川龍之介 発行：岩波書店
- 9-21. 『澄江堂遺珠』 1933年（昭和8年）3月20日 著者：芥川龍之介 発行：岩波書店
- 9-22. 『地獄変』 1936年（昭和11年）4月20日 著者：芥川龍之介 発行：野田書房
- 9-23. 『名著複刻 芥川龍之介文学館 解説』 1977年7月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷
- 収録：概説〈芥川龍之介の生涯と文学（吉田精一）〉／作品解題〈羅生門（猪野謙二）／煙草と悪魔（紅野敏郎）／鼻（瀨沼茂樹）／傀儡師（三好行雄）／影燈籠（高田瑞穂）／夜来の花（福田清人）／将軍（浅井清）／点心（川副国基）／邪宗門（長野誉一）／春服（進藤純孝）／黄雀風（磯田光一）／百艸（久保田正文）／支那游記（福田宏年）／梅・馬・鶯（木俣修）／湖南の扇（小島信夫）／澄江堂句集（楠本憲吉）／侏儒の言葉（小田切進）／西方の人（饗庭孝男）／大道寺信輔の半生（篠田一士）／文芸的な、余りに文芸的な（秋山駿）／澄江堂遺珠（奥野健男）／地獄変（野田宇太郎）〉／芥川の本（稲垣達郎）／芥川のこと（回想）〈思い出す目顔（小島政二郎）／芥川龍之介（佐多稲子）〉／芥川龍之介作品年表（森本修）／複刻制作の概要（編集部）／あとがき（稲垣達郎）

10. 『名著複刻 詩歌文学館〈連翹セット〉』 1980年4月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷
- 10-1. 『楚囚之詩』 1889年(明治22年)4月9日 著者：北村門太郎(北村透谷) 発行：春祥堂
- 10-2. 『於母影』 1889年(明治22年)8月2日 著者：森林太郎(森鷗外) 発行：民友社
- 10-3. 『天地有情』 1899年(明治32年)4月7日 著者：土井林吉(土井晚翠) 発行：博文館
- 10-4. 『抒情詩』 1901年(明治34年)4月29日 編者：宮崎八百吉(宮崎湖處子) 発行：民友社
- 10-5. 『戀衣』 1904年(明治37年)12月19日 著者：山川登美子／増田まさ子(増田雅子)／與謝野晶子 発行：本郷書院
- 10-6. 『まひろ野』 1905年(明治38年)9月20日 著者：窪田空穂 発行：鹿鳴社
- 10-7. 『白羊宮』 1906年(明治39年)5月7日 著者：薄田淳介(薄田泣菫) 発行：金尾文淵堂
- 10-8. 『海の聲』 1908年(明治41年)7月18日 著者：若山繁(若山牧水) 発行：生命社
- 10-9. 『廢園』 1909年(明治42年)9月5日 著者：三木露風 発行：光華書房
- 10-10. 『酒ほがひ』 1910年(明治43年)9月7日 著者：吉井勇 発行：昂發行所
- 10-11. 『桐の花』 1913年(大正2年)1月25日 著者：北原白秋 発行：東雲堂書店
- 10-12. 『馬鈴薯の花』 1913年(大正2年)7月1日 著者：久保田俊彦(島木赤彦)／中村憲吉 発行：東雲堂書店
- 10-13. 『どんたく』 1913年(大正2年)11月5日 著者：竹久夢二 発行：實業之日本社
- 10-14. 『虚子句集』 1915年(大正4年)10月24日 著者：高濱虚子 発行：植竹書院
- 10-15. 『抒情小曲集』 1918年(大正7年)9月10日 著者：室生犀星 発行：文武堂書店
- 10-16. 『紅玉』 1919年(大正8年)7月3日 著者：木下利玄 発行：玄文社
- 10-17. 『ダダイスト新吉の詩』 1923年(大正12年)2月15日 著者：高橋新吉 編者：辻潤 発行：中央美術社
- 10-18. 『譯詩集月下の一群』 1925年(大正14年)9月17日 著者：堀口大學 発行：第一書房

- 10-19. 『詩集検温器と花』 1926年（大正15年）10月20日 著者：北川冬彦 発行：ミスマル社
- 10-20. 『春のことぶれ』 1930年（昭和5年）1月10日 著者：折口信夫（釋迢空） 発行：梓書房
- 10-21. 『葛飾』 1930年（昭和5年）4月1日 著者：水原豊（水原秋櫻子） 発行：馬酔木發行所
- 10-22. 『中野重治詩集』 1931年（昭和6年）10月5日 著者：中野重治 発行：ナツ出版部
- 10-23. 『山廬集』 1932年（昭和7年）12月21日 著者：飯田武治（飯田蛇笏） 発行：雲母社
- 10-24. 『萱草に寄す』 1937年（昭和12年）5月12日 著者：立原道造 発行：風信子叢書刊行所
- 10-25. 『無車詩集』 1941年（昭和16年）4月3日 著者：武者小路實篤 発行：甲鳥書林
- 10-26. 『名著複刻 詩歌文学館〈連翹セット〉 解説』 1980年4月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京聯合印刷
収録：はじめに（小田切進）／概説〈日本近代詩の歴史（山本健吉）〉／作品解説〈北村透谷・楚囚之詩（小田切秀雄）／宮崎湖処子編・抒情詩（福田清人）／土井晩翠・天地有情（猪野謙二）／山川登美子 増田雅子 与謝野晶子・恋衣（石丸久）／窪田空穂・まひる野（窪田章一郎）／薄田泣菫・白洋宮（久保田正文）／若山牧水・海の声（武川忠一）／三木露風・廢園（佐藤泰正）／吉井勇・酒ほがひ（吉田精一）／北原白秋・桐の花（木俣修）／島木赤彦 中村憲吉・馬鈴薯の花（近藤芳美）／竹久夢二・どんたく（長田幹雄）／高浜虚子・虚子句集（大野林火）／室生犀星・抒情小曲集（奥野健男）／木下利玄・紅玉（紅野敏郎）／高橋新吉・ダダイスト新吉の詩（辻潤編）（清水康夫）／堀口大學訳・月下の一群（河盛好蔵）／北川冬彦・検温器と花（保昌正夫）／釈迢空・春のことぶれ（岡野弘彦）／水原秋櫻子・葛飾（能村登四郎）／中野重治・中野重治詩集（小田切進）／飯田蛇笏・山廬集（石原八束）／立原道造・萱草に寄す（吉田熙生）／武者小路実篤・無車詩集（稲垣達郎）／森 鷗外訳・於母影（瀬沼茂樹）／《連翹セット》ノート（稲垣達郎）／近代詩歌略年表（編集部）／複刻制作の概要（編集部）／あとがき（稲垣達郎）
11. 『名著複刻 詩歌文学館〈山茶花セット〉』 1980年12月20日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 11-1. 『新體梅花詩集』 1991年（明治24年）3月10日 著者：中西幹男（中西梅花） 発行：博文館

- 11-2. 『若菜集』 1897年(明治30年)8月29日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：春陽堂
- 11-3. 『みだれ髪』 1901年(明治34年)8月15日 著者：鳳昌子(與謝野晶子) 発行：東京新詩社／伊東文友館
- 11-4. 『叙景詩』 1902年(明治35年)1月1日 選者：尾上柴舟／金子薫園 発行：新聲社
- 11-5. 『海潮音』 1903年(明治38年)10月13日 訳者：上田敏 発行：本郷書院
- 11-6. 『孔雀船』 1906年(明治39年)5月5日 著者：伊良子漬白 発行：左久良書房
- 11-7. 『子規句集』 1909年(明治42年)6月20日 著者：正岡子規 編輯：高浜清／河東乘五郎 発行：俳書堂／初山書店
- 11-8. 『一握の砂』 1910年(明治43年)12月1日 著者：石川啄木 発行：東雲堂書店
- 11-9. 『思ひ出』 1911年(明治44年)6月5日 著者：北原白秋 発行：東雲堂書店
- 11-10. 『赤光』 1913年(大正2年)10月15日 著者：齋藤茂吉 発行：東雲堂書店
- 11-11. 『道程』 1914年(大正3年)10月25日 著者：高村光太郎 発行：抒情詩社
- 11-12. 『沙羅の木』 1915年(大正4年)9月5日 著者：森林太郎(森鷗外) 発行：阿蘭陀書房
- 11-13. 『轉身の頌』 1917年(大正6年)12月10日 著者：日夏耿之介 発行：光風館書店
- 11-14. 『自分は見た』 1918年(大正7年)5月15日 著者：千家元麿 発行：玄文社
- 11-15. 『殉情詩集』 1921年(大正10年)7月12日 著者：佐藤春夫 発行：新潮社
- 11-16. 『青猫』 1923年(大正12年)1月26日 著者：萩原朔太郎 発行：新潮社
- 11-17. 『ふゆくさ』 1925年(大正14年)2月28日 著者：土屋文明 発行：古今書院
- 11-18. 『道芝』 1927年(昭和2年)5月20日 著者：久保田万太郎 発行：友善堂
- 11-19. 『軍艦茉莉』 1929年(昭和4年)4月18日 著者：安西冬衛 発行：厚生閣書店
- 11-20. 『測量船』 1929年(昭和5年)12月20日 著者：三好達治 発行：第一書房
- 11-21. 『凍港』 1932年(昭和7年)5月15日 著者：山口誓子 発行：素人社書屋
- 11-22. 『山羊の歌』 1934年(昭和9年)12月10日 著者：中原中也 発行：文圃

堂書店

- 11-23. 『琅玕』 1935年(昭和10年)3月10日 著者：中勘助 発行：岩波書店
- 11-24. 『鮫』 1937年(昭和12年)8月5日 著者：金子光晴 発行：人民社
- 11-25. 『體操詩集』 1939年(昭和14年)12月20日 著者：村野四郎 発行：アオイ書房
- 11-26. 『名著複刻 詩歌文学館〈山茶花セット〉 解説』 1980年12月20日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 収録：はじめに(小田切進)／概説〈日本の近代詩(吉田精一)〉／作品解説〈中西梅花・新体梅花詩集(前田愛)／島崎藤村・若菜集(瀬沼茂樹)／与謝野晶子・みだれ髪(石丸久)／尾上柴舟 金子薫園 選・叙景詩(岡保生)／上田敏訳・海潮音(安田保雄)／伊良子清白・孔雀船(三好行雄)／正岡子規・子規句集(高浜虚子 河東碧梧桐 編)(村山古郷)／石川啄木・一握の砂(猪野謙二)／北原白秋・思ひ出(木俣修)／斎藤茂吉・赤光(本林勝夫)／高村光太郎・道程(北川太一)／森鷗外・沙羅の木(竹盛天雄)／日夏耿之介・転身の頌(窪田般彌)／千家元麿・自分は見た(紅野敏郎)／佐藤春夫・殉情詩集(井上靖)／萩原朔太郎・青猫(伊藤信吉)／土屋文明・ふゆくさ(米田利昭)／久保田万太郎・道芝(安住敦)／安西冬衛・軍艦茉莉(篠田一士)／三好達治・測量船(中村稔)／山口誓子・凍港(飯田龍太)／中原中也・山羊の歌(大岡昇平)／中勘助・琅玕(本多浩)／金子光晴・鮫(清岡卓行)／村野四郎・体操詩集(原崎孝)〉／《山茶花セット》ノート(稲垣達郎)／近代詩歌略年表(編集部)／複刻制作の概要(編集部)／あとがき(稲垣達郎)
12. 『名著複刻 詩歌文学館〈石楠花セット〉』 1981年12月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 12-1. 『新體詩抄 初編』 1882年(明治15年)8月 撰者：外山正一／矢田部良吉／井上哲治郎 発行：丸家善七
- 12-2. 『十二の石塚』 1885年(明治18年)10月10日 著者：湯浅吉郎(湯浅半月) 私家版
- 12-3. 『蓬萊曲』 1891年(明治24年)5月29日 著者：北村門太郎(北村透谷) 発行：養眞堂
- 12-4. 『落梅集』 1901年(明治34年)8月25日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：春陽堂
- 12-5. 『竹の里歌』 1904年(明治37年)11月13日 著者：正岡子規 編輯：高浜清(高浜虚子) 発行：俳書堂
- 12-6. 『あこがれ』 1905年(明治38年)5月3日 著者：石川啄木 発行：小田島書房

- 12-7. 『うた日記』 1907年(明治40年)9月15日 著者：森林太郎(森鷗外) 発行：春陽堂
- 12-8. 『NAKIWARAI』 1910年(明治43年)4月 著者：土岐善麿(土岐哀果) 発行：ローマ字ひろめ會
- 12-9. 『珊瑚集』 1913年(大正2年)4月20日 訳著者：永井荷風 発行：初山書店
- 12-10. 『碧梧桐句集』 1916年(大正5年)2月5日 著者：河東碧梧桐 選者：大須賀乙字 発行：俳書堂
- 12-11. 『愛の詩集』 1918(大正7年)1月1日 著者：室生犀星 発行：感情詩社
- 12-12. 『砂金』 1919年(大正8年)6月28日 著者：西條八十 発行：尚文堂書店
- 12-13. 『食後の唄』 1919年(大正8年)12月10日 著者：木下杢太郎 発行：アラ、ギ発行所
- 12-14. 『南京新唱』 1924年(大正13年)12月15日 著者：会津八一 発行：春陽堂
- 12-15. 『死刑宣告』 1925年(大正14年)10月18日 著者：萩原恭次郎 発行：長隆舎書店
- 12-16. 『雪明りの路』 1926年(大正15年)12月1日 著者：伊藤整 発行：椎の木社
- 12-17. 『蒼馬を見たり』 1929年(昭和4年)6月15日 著者：林芙美子 発行：南宋書院
- 12-18. 『平戸廉吉詩集』 1931年(昭和6年)12月12日 著者：平戸廉吉 発行：平戸廉吉詩集刊行會
- 12-19. 『帆・ランプ・鷗』 1932年(昭和7年)12月5日 著者：丸山薫 発行：第一書房
- 12-20. 『Ambarvalia』 1933年(昭和8年)9月20日 著者：西脇順三郎 発行：椎の木社
- 12-21. 『氷島』 1934年(昭和9年)6月1日 著者：萩原朔太郎 発行：第一書房
- 12-22. 『川端茅舎句集』 1934年(昭和9年)10月4日 著者：川端茅舎 発行：玉藻社
- 12-23. 『小熊秀雄詩集』 1935年(昭和10年)5月25日 著者：小熊秀雄 発行：耕進社
- 12-24. 『堀辰雄詩集』 1940年(昭和15年)10月25日 著者：堀辰雄 発行：山本書店
- 12-25. 『古代感愛集』 1945年(昭和20年) 著者：稗迢空 発行：=青磁社
- 12-26. 『名著複刻 詩歌文学館〈石楠花セット〉解説』 1981年12月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製

作：ほるぷ出版

収録：はじめに（小田切進）／概説〈近代短歌の史的展望（木俣修）〉／作品解説〈外山正一 矢田部良吉 井上哲治郎 訳著・新体詩抄 初編（稲垣達郎）／湯浅半月・十二の石塚（浅井清）／北村透谷・蓬萊曲（佐藤善也）／島崎藤村・落梅集（三好行雄）／正岡子規・竹の里歌（久保田正文）／石川啄木・あこがれ（岩城之徳）／森鷗外・うた日記（長谷川泉）／土岐哀果・NAKIWARAI（分銅惇作）／永井荷風訳著・珊瑚集（野口富士男）／河東碧梧桐（大須賀乙字選）・碧梧桐句集（福田清人）／室生犀星・愛の詩集（山室静）／西條八十・砂金（吉田精一）／木下杢太郎・食後の唄（野田宇太郎）／会津八一・南京新唱（宮川寅雄）／萩原恭次郎・死刑宣言（磯田光一）／伊藤整・雪明りの路（瀬沼茂樹）／林芙美子・蒼馬を見たり（小笠原克）／平戸廉吉・平戸廉吉詩集（千葉宣一）／丸山薫・帆・ランプ・鷗（安西均）／西脇順三郎・Ambarvalia（鮎川信夫）／萩原朔太郎・氷島（伊藤信吉）／川端茅舎・川端茅舎句集（石原八束）／小熊秀雄・小熊秀雄詩集（小田切秀雄）／堀辰雄・堀辰雄詩集（佐々木基一）／釈迦空・古代感愛集（加藤守雄）／《石楠花セット》ノート（稲垣達郎）／近代詩歌略年表（編集部）／複製制作の概要（編集部）／あとがき（稲垣達郎）

13. 『名著複刻 詩歌文学館〈紫陽花セット〉』 1983年8月30日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

13-1. 『逍遙遺稿』

13-1-1. 『逍遙遺稿 正編』 1895年（明治28年）11月16日 著者：中野重太郎（中野逍遙） 編者：宮本正貫／小柳司氣太 発行：不破信一郎

13-1-2. 『逍遙遺稿 外編』 1895年（明治28年）11月16日 著者：中野重太郎（中野逍遙） 編者：宮本正貫／小柳司氣太 発行：不破信一郎

13-2. 『春夏秋冬』

13-2-1. 『春夏秋冬 春之部』 1901年（明治34年）5月25日 編輯：高浜清（高浜虚子） 発行：ほととぎす発行所

13-2-2. 『春夏秋冬 夏之部』 1902年（明治35年）5月15日 編輯：高浜清（高浜虚子） 発行：俳書堂／文淵堂

13-2-3. 『春夏秋冬 秋之部』 1902年（明治35年）9月7日 編輯：高浜清（高浜虚子） 発行：俳書堂

13-2-4. 『春夏秋冬 冬之部』 1903年（明治36年）1月12日 編輯：高浜清（高浜虚子） 発行：俳書堂

- 13-3. 『おもひ草』 1903年（明治36年）10月30日 著者：佐々木信綱 発行：博文館

13-4. 『有明集』 1908年（明治41年）1月1日 著者：蒲原有明 発行：易風社

13-5. 『闇の盃盤』 1908年（明治41年）4月8日 著者：岩野美衛（岩野泡鳴） 発

- 行：日高有倫堂
- 13-6. 『邪宗門』 1909年（明治42年）3月15日 著者：北原白秋 発行：易風社
- 13-7. 『相聞』 1910年（明治43年）3月25日 著者：與謝野寛 発行：明治書院
- 13-8. 『悲しき玩具』 1912年（明治45年）6月20日 著者：石川一（石川啄木） 発行：東雲堂書店
- 13-9. 『聖三稜玻璃』 1915年（大正4年）12月10日 著者：山村暮鳥 発行：にんぎよ詩社
- 13-10. 『月に吠える』 1917年（大正6年）2月15日 著者：萩原朔太郎 発行：感情詩社／白日社出版部
- 13-11. 『鬼城句集』 1917年（大正6年）4月17日 著者：村上鬼城 発行：中央出版協會
- 13-12. 『月光とピエロ』 1919年（大正8年）1月1日 著者：堀口大學 発行：靱山書店
- 13-13. 『春と修羅』 1924（大正13年）4月20日 著者：宮澤賢治 発行：關根書店
- 13-14. 『秋の瞳』 1925年（大正14年）8月1日 著者：八木重吉 発行：新潮社
- 13-15. 『大空』 1926年（大正15年）6月20日 著者：尾崎放哉 編者：荻原井泉水 発行：春秋社
- 13-16. 『海の聖母』 1926年（大正15年）11月15日 著者：吉田一穂 発行：金星堂
- 13-17. 『富永太郎詩集』 1927年（昭和2年）8月20日 著者：故富永太郎 編者：村井康男 発行：富永次郎
- 13-18. 『草野心平詩集』 1928年（昭和3年）11月9日 著者：草野心平 発行：銅鑼社
- 13-19. 『折柴句集』 1931年（昭和6年）8月5日 著者：瀧井孝作 発行：やぼんな書房
- 13-20. 『わがひとに與ふる哀歌』 1935年（昭和10年）10月5日 著者：伊東靜雄 発行：コギト發行所
- 13-21. 『石田波郷句集』 1935年（昭和10年）11月25日 著者：石田波郷 発行：沙羅書店
- 13-22. 『藍色の墓』 1936年（昭和11年）12月30日 著者：大手拓次 発行：アルス
- 13-23. 『在りし日の歌』 1938年（昭和25年）4月15日 著者：中原中也 発行：創元社
- 13-24. 『賛美のうた』 発行年月日不明 編者：J・C・デヴィソン／H・スタウト 発行元不明 米国コーネル大学所蔵

13-25. 『名著複刻 詩歌文学館〈紫陽花セット〉 解説』 1983年8月30日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

収録：はじめに（小田切進）／概説〈近代俳句の史的展望（村山古郷）〉／作品解説〈中野逍遙・逍遙遺稿（宮本正貫 小柳司気太 編）（前田愛）／正岡子規 河東碧梧桐 高浜虚子 選・春夏秋冬（福田清人）／佐佐木信綱・思草（新聞進一）／蒲原有明・有明集（野田宇太郎）／岩野泡鳴・闇の盃盤（中村光夫）／北原白秋・邪宗門（高田瑞穂）／与謝野寛・相聞（武川忠一）／石川啄木・悲しき玩具（小田切進）／山村暮鳥・聖三稜玻璃（小海永二）／萩原朔太郎・月に吠える（那珂太郎）／村上鬼城・鬼城句集（大須賀乙字編）（楠本憲吉）／堀口大學・月光とピエロ（平田文也）／宮沢賢治・春と修羅（中村稔）／秋の瞳・八木重吉（佐藤泰正）／尾崎放哉・大空（荻原井泉水編）（渋川驍）／吉田一穂・海の聖母（篠田一士）／富永太郎・富永太郎詩集（吉田熙生）／草野心平・第百階級（山本太郎）／瀧井孝作・折柴句集（保昌正夫）／伊東静雄・わがひとに与ふる哀歌（富士正晴）／石田波郷・石田波郷句集（井本農一）／大手拓次・藍色の墓（原子朗）／中原中也・在りし日の歌（大岡昇平）／J・C・デヴィソン H・スタウト 編・賛美のうた（原恵）／《紫陽花セット》ノート（稲垣達郎）／近代詩歌略年表（編集部）／複刻制作の概要（編集部）／あとがき（稲垣達郎）

14. 『種田山頭火句集 複刻版』 1983年12月1日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：ほるぷ出版

14-1. 『鉢の子』 1932年（昭和7年）6月20日 著者：種田山頭火 発行：三宅酒壺洞

14-2. 『草木塔』 1933年（昭和8年）11月28日 著者：種田山頭火 発行：其中庵三八九會

14-3. 『山行水行』 1935年（昭和10年）2月21日 著者：種田山頭火 発行：其中庵三八九會

14-4. 『雑草風景』 1936年（昭和11年）2月21日 著者：種田山頭火 発行：杖社

14-5. 『柿の葉』 1937年（昭和12年）8月5日 著者：種田山頭火 発行：大山澄太

14-6. 『孤寒』 1939年（昭和14年）1月25日 著者：種田山頭火 発行：杖社

14-7. 『鴉（雀）』 1940年（昭和15年）7月25日 著者：種田山頭火 発行：大山澄太

14-8. 『「種田山頭火句集」複刻版解説』 1983年12月1日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：ほるぷ出版

収録：はじめに（小田切進）／思い出〈山頭火句集についての思い出（大山澄太）／海路（うなじ）（近木黎々火）〉／解説〈経本仕立山頭火句集について（瓜生敏一）〉／複刻について（編集部）

15. 『名著初版本複製珠玉選』

15-1. 『名著初版本複製珠玉選①』 1984年7月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

15-1-1. 『吾輩ハ猫デアル』

15-1-1-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年（明治38年）10月6日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店

15-1-1-2. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 1906年（明治39年）11月4日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店

15-1-1-3. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 1907年（明治40年）5月19日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店

15-1-2. 『名著初版本複製珠玉選 『吾輩ハ猫デアル』解説』 1984年7月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（瀬沼茂樹）／複製の制作について

15-2. 『名著初版本複製珠玉選②』 1984年9月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

15-2-1. 『羅生門』 1917年（大正6年）5月23日 著者：芥川龍之介 発行：阿蘭陀書房

15-2-2. 『傀儡師』 1919年（大正8年）1月15日 著者：芥川龍之介 発行：新潮社

15-2-3. 『侏儒の言葉』 1927年（昭和2年）12月6日 著者：芥川龍之介 発行：文藝春秋社出版部

15-2-4. 『名著初版本複製珠玉選 『羅生門』解説』 1984年9月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（三好行雄）／複製の制作について

15-2-5. 『名著初版本複製珠玉選 『傀儡師』解説』 1984年9月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（吉田精一）／複製の制作について

15-2-6. 『名著初版本複製珠玉選 『侏儒の言葉』解説』 1984年9月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（小田切進）／複製の制作について

15-3. 『名著初版本複製珠玉選③』 1984年10月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

15-3-1. 『刺青』 1911年（明治44年）10月20日 著者：谷崎潤一郎 発行：初山書店

15-3-2. 『春琴抄』 1933年（昭和8年）12月10日 著者：谷崎潤一郎 発行：創

元社

- 15-3-3. 『名著初版本複刻珠玉選 『刺青』解説』 1984年10月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（保昌正夫）／複刻の制作について
- 15-3-4. 『名著初版本複刻珠玉選 『春琴抄』解説』 1984年10月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（円地文子）／複刻の制作について
- 15-4. 『名著初版本複刻珠玉選④』 1984年11月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-4-1. 『若菜集』 1987年（明治30年）8月29日 著者：島崎春樹（島崎藤村）
発行：春陽堂
- 15-4-2. 『落梅集』 1901年（明治34年）8月25日 著者：島崎春樹（島崎藤村）
発行：春陽堂
- 15-4-3. 『破戒』 1906年（明治39年）3月25日 著者：島崎春樹（島崎藤村） 発行：上田屋
- 15-4-4. 『名著初版本複刻珠玉選 『若菜集』解説』 1984年11月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（猪野謙二）／複刻の制作について
- 15-4-5. 『名著初版本複刻珠玉選 『落梅集』解説』 1984年11月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（三好行雄）／複刻の制作について
- 15-4-6. 『名著初版本複刻珠玉選 『破戒』解説』 1984年11月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（瀬沼茂樹）／複刻の制作について
- 15-5. 『名著初版本複刻珠玉選⑤』 1984年12月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-5-1. 『於母影』 1989年（明治22年）8月2日 訳者：森鷗外 発行：民友社
- 15-5-2. 『雁』 1915年（大正4年）5月15日 著者：森林太郎（森鷗外） 発行：
初山書店
- 15-5-3. 『沙羅の木』 1915年（大正4年）9月5日 著者：森林太郎（森鷗外） 発行：阿蘭陀書房
- 15-5-4. 『東京方眼図』 1909年（明治42年）8月15日 著者：森林太郎（森鷗外）
発行：春陽堂
- 15-5-5. 『名著初版本複刻珠玉選 『於母影』解説』 1984年12月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

- 収録：刊行のことば／解説（久保忠夫）／複製の制作について
- 15-5-6. 『名著初版本複製珠玉選 『雁』解説』 1984年12月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（桶谷秀昭）／複製の制作について
- 15-5-7. 『名著初版本複製珠玉選 『沙羅の木』解説』 1984年12月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（竹盛天雄）／複製の制作について
- 15-5-8. 『名著初版本複製珠玉選 『東京方眼図』解説』 1984年12月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（稲垣達郎）／複製の制作について
- 15-6. 『名著初版本複製珠玉選⑥』 1985年1月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-6-1. 『邪宗門』 1909年（明治42年）3月15日 著者：北原白秋 発行：易風社
- 15-6-2. 『思ひ出』 1911年（明治44年）6月5日 著者：北原白秋 発行：東雲堂書店
- 15-6-3. 『東京景物詩及其他』 1913年（大正2年）7月1日 著者：北原白秋 発行：東雲堂書店
- 15-6-4. 『名著初版本複製珠玉選 『邪宗門』解説』 1985年1月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（高田瑞穂）／複製の制作について
- 15-6-5. 『名著初版本複製珠玉選 『思ひ出』解説』 1985年1月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（石丸久）／複製の制作について
- 15-6-6. 『名著初版本複製珠玉選 『東京景物詩及其他』解説』 1985年1月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（紅野敏郎）／複製の制作について
- 15-7. 『名著初版本複製珠玉選⑦』 1985年2月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-7-1. 『あこがれ』 1905年（明治38年）5月3日 著者：石川啄木 発行：小田島書房
- 15-7-2. 『一握の砂』 1910年（明治43年）12月1日 著者：石川啄木 発行：東雲堂書店
- 15-7-3. 『悲しき玩具』 1912年（明治45年）6月20日 著者：石川一（石川啄木） 発行：東雲堂書店

- 15-7-4. 『名著初版本複刻珠玉選 『あこがれ』解説』 1985年2月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（久保田正文）／複刻の制作について
- 15-7-5. 『名著初版本複刻珠玉選 『一握の砂』解説』 1985年2月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（岩城之徳）／複刻の制作について
- 15-7-6. 『名著初版本複刻珠玉選 『悲しき玩具』解説』 1985年2月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（小田切進）／複刻の制作について
- 15-8. 『名著初版本複刻珠玉選⑧』 1985年3月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-8-1. 『月に吠える』 1917年（大正6年）2月15日 著者：萩原朔太郎 発行：感情詩社／白日社出版部
- 15-8-2. 『青猫』 1923年（大正12年）1月26日 著者：萩原朔太郎 発行：新潮社
- 15-8-3. 『氷島』 1934年（昭和9年）6月1日 著者：萩原朔太郎 発行：第一書房
- 15-8-4. 『名著初版本複刻珠玉選 『月に吠える』解説』 1985年3月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（那珂太郎）／複刻の制作について
- 15-8-5. 『名著初版本複刻珠玉選 『青猫』解説』 1985年3月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（篠田一士）／複刻の制作について
- 15-8-6. 『名著初版本複刻珠玉選 『氷島』解説』 1985年3月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（伊藤信吉）／複刻の制作について
- 15-9. 『名著初版本複刻珠玉選⑨』 1985年4月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-9-1. 『春と修羅』 1924年（大正13年）4月20日 著者：宮澤賢治 発行：關根書店
- 15-9-2. 『注文の多い料理店』 1924年（大正13年）12月1日 著者：宮澤賢治 発行：杜陵出版部／東京光原社
- 15-9-3. 『風の又三郎』 1939年（昭和14年）12月20日 著者：宮澤賢治 発行：羽田書店
- 15-9-4. 『名著初版本複刻珠玉選 『春と修羅』解説』 1985年4月20日 刊行：

- 財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（中村稔）／複製の制作について
- 15-9-5. 『名著初版本複製珠玉選 『注文の多い料理店』解説』 1985年4月20日
刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（福田清人）／複製の制作について
- 15-9-6. 『名著初版本複製珠玉選 『風の又三郎』解説』 1985年4月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（山室静）／複製の制作について
- 15-10. 『名著初版本複製珠玉選⑩』 1985年5月20日 編集：財団法人日本近代文学館
刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-10-1. 『感情装飾』 1926年（大正15年）6月15日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 15-10-2. 『伊豆の踊子』 1927年（昭和2年）3月20日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 15-10-3. 『浅草紅團』 1930年（昭和5年）12月5日 著者：川端康成 発行：先進社
- 15-10-4. 『名著初版本複製珠玉選 『感情装飾』解説』 1985年5月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（山本健吉）／複製の制作について
- 15-10-5. 『名著初版本複製珠玉選 『伊豆の踊子』解説』 1985年5月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（長谷川泉）／複製の制作について
- 15-10-6. 『名著初版本複製珠玉選 『浅草紅團』解説』 1985年5月20日 刊行：
財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（保昌正夫）／複製の制作について
- 15-11. 『名著初版本複製珠玉選⑪』 1985年6月20日 編集：財団法人日本近代文学館
刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版
- 15-11-1. 『留女』 1913年（大正2年）1月1日 著者：志賀直哉 発行：洛陽堂
- 15-11-2. 『夜の光』 1918年（大正7年）1月16日 著者：志賀直哉 発行：新潮社
- 15-11-3. 『名著初版本複製珠玉選 『留女』解説』 1985年6月20日 刊行：財団法人日本近代文学館
製作：ほるぷ出版
収録：刊行のことば／解説（稲垣達郎）／複製の制作について
- 15-11-4. 『名著初版本複製珠玉選 『夜の光』解説』 1985年6月20日 刊行：財団法人日本近代文学館
製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（紅野敏郎）／複製の制作について

15-12. 『名著初版本複製珠玉選⑫』 1985年7月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

15-12-1. 『珊瑚集』 1913年（大正2年）4月20日 著者：永井荷風 発行：靱山書店

15-12-2. 『すみだ川』 1915年（大正4年）9月25日 著者：永井壯吉（永井荷風） 発行：靱山書店

15-12-3. 『腕くらべ』 1917年（大正6年）12月 著者：荷風（永井荷風） 発行：私家版

15-12-4. 『名著初版本複製珠玉選 『珊瑚集』解説』 1985年7月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（野口富士男）／複製の制作について

15-12-5. 『名著初版本複製珠玉選 『すみだ川』解説』 1985年7月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（前田愛）／複製の制作について

15-12-6. 『名著初版本複製珠玉選 『腕くらべ』解説』 1985年7月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（磯田光一）／複製の制作について

15-13. 『名著初版本複製珠玉選⑬』 1985年8月20日 編集：財団法人日本近代文学館 刊行：財団法人日本近代文学館 発売：ほるぷ 製作：ほるぷ出版

15-13-1. 『道草』 1915年（大正4年）10月10日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店

15-13-2. 『明暗』 1917年（大正6年）1月26日 著者：故夏目金之助（夏目漱石） 発行：岩波書店

15-13-3. 『名著初版本複製珠玉選 『道草』解説』 1985年8月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（内田道雄）／複製の制作について

15-13-4. 『名著初版本複製珠玉選 『明暗』解説』 1985年8月20日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：ほるぷ出版

収録：刊行のことば／解説（小田切秀雄）／複製の制作について

16. 『名著複製 漱石小説文学館』 1984年9月20日 編集：名著複製全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷

16-1. 『吾輩ハ猫デアル』

16-1-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年（明治38年）10月6日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店

- 16-1-2. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 1906年(明治39年)11月4日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 著者：大倉書店／服部書店
- 16-1-3. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 1907年(明治40年)5月19日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店
- 16-2. 『濛虚集』 1906年(明治39年)5月17日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店／服部書店
- 16-3. 『鶉籠』 1907年(明治40年)1月1日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店
- 16-4. 『虞美人艸』 1908年(明治41年)1月1日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-5. 『草合』 1908年(明治41年)9月15日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-6. 『三四郎』 1909年(明治42年)5月13日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-7. 『それから』 1910年(明治43年)1月1日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-8. 『四篇』 1910年(明治43年)5月15日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-9. 『門』 1911年(明治44年)1月1日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-10. 『彼岸過迄』 1912年(大正元年)9月15日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 16-11. 『行人』 1914年(大正3年)1月7日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：大倉書店
- 16-12. 『こゝろ』 1914年(大正3年)9月20日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：岩波書店
- 16-13. 『道草』 1915年(大正4年)10月10日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：岩波書店
- 16-14. 『明暗』 1917年(大正6年)1月26日 著者：故夏目金之助(夏目漱石) 発行：岩波書店
- 16-15. 『名著複刻 漱石小説文学館 解説』 1984年9月20日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京連合印刷
- 収録：「名著複刻 漱石小説文学館」の刊行にあたって(小田切進)／漱石と現代(白鳥と漱石(中村光夫)／永遠に新しく、不思議な作家(中野好夫)／漱石と現代 —

わたしの経験から— (小田切秀雄) / 漱石と現代 (江藤淳) / 概説〈漱石の人と文学—夏目漱石小照— (稲垣達郎) / 作品解題〈吾輩ハ猫デアル (瀬沼茂樹) / 濛虚集 (小田切進) / 鶉籠 (福田清人) / 虞美人艸 (渋川驍) / 草合 (猪野謙二) / 三四郎 (三好行雄) / それから (佐々木基一) / 四篇 (紅野敏郎) / 門 (小島信夫) / 彼岸過迄 (佐藤泰正) / 行人 (磯田光一) / こゝろ (江藤淳) / 道草 (内田道雄) / 明暗 (荒正人) / 漱石本の装幀 (原弘) / 漱石の印象〈漱石の百面相 (津田清楓) / 漱石の印象 (荻原井泉水) / 先生との出会い (藤浪和子) / 思い出の断章 (野上彌生子) / 夏目漱石略年譜 (編集部) / 複製製作の概要 (編集部)

17. 『秀選 名著複製全集 近代文学館』 1984年12月1日 編集：名著複製全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版／東京 連合印刷

17-1. 『牛店雑談 安愚楽鍋』

17-1-1. 『牛店雑談 安愚楽鍋 初編』 発行日不明 著者：假名垣魯文 発行元不明

17-1-2. 『牛店雑談 安愚楽鍋 貳編 上』 発行日不明 著者：假名垣魯文 発行元不明

17-1-3. 『牛店雑談 安愚楽鍋 貳編 下』 発行日不明 著者：假名垣魯文 発行元不明

17-1-4. 『牛店雑談 安愚楽鍋 三編 上』 発行日不明 著者：假名垣魯文 発行元不明

17-1-5. 『牛店雑談 安愚楽鍋 三編 下』 発行日不明 著者：假名垣魯文 発行元不明

17-2. 『新説 八十日間世界一周』

17-2-1. 『新説 八十日間世界一周 前編』 1878年(明治11年)5月31日 著者：シユルヴェルス 訳者：川島忠之助 私家版

17-2-2. 『新説 八十日間世界一周 後編』 1880年(明治13年)6月24日 著者：シユルヴェルス 訳者：川島忠之助 私家版

17-3. 『風流佛』 1889年(明治22年)9月23日 著者：露伴(幸田露伴) 発行：吉岡書籍店

17-4. 『不如歸』 1900年(明治33年)1月15日 著者：蘆花生(徳富蘆花) 発行：民友社

17-5. 『即興詩人』

17-5-1. 『即興詩人上』 1902年(明治35年)9月1日 訳者：森林太郎(森鷗外) 発行：春陽堂

17-5-2. 『即興詩人下』 1902年(明治35年)9月1日 訳者：森林太郎(森鷗外) 発行：春陽堂

- 17-6. 『遠野物語』 1910年(明治43年)6月14日 著者：柳田國男 発行：聚精堂
- 17-7. 『千曲川のスケッチ』 1912年(大正元年)12月20日 著者：島崎春樹(島崎藤村) 発行：左久良書房
- 17-8. 『三四郎 それから 門』 1914年(大正3年)4月15日 著者：夏目金之助(夏目漱石) 発行：春陽堂
- 17-9. 『異端者の悲み』 1917年(大正6年)9月15日 著者：谷崎潤一郎 発行：阿蘭陀書房
- 17-10. 『友情』 1920年(大正9年)4月20日 著者：武者小路實篤 発行：以文社
- 17-11. 『文藝評論』 1931年(昭和6年)7月10日 著者：小林秀雄 発行：白水社
- 17-12. 『溼東綺譚』 1937年(昭和12年)4月 著者：永井壯吉(永井荷風) 発行：私家版
- 17-13. 『雪國』 1937年(昭和12年)6月12日 著者：川端康成 発行：創元社
- 17-14. 『暗夜行路』 1943年(昭和18年)11月19日 著者：志賀直哉 発行：座右寶刊行會
- 17-15. 『水虎晚帰之図』 1922年(大正11年)頃 著者：芥川龍之介 自筆紙本
- 17-16. 『秀選 名著複刻全集 近代文学館 作品解題』 1984年12月1日 刊行：財団法人日本近代文学館 編集：名著複刻全集編集委員会 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版/東京連合印刷
- 収録：「秀選 名著複刻全集 近代文学館」について(小田切進)/近代文学史展望(瀬沼茂樹)/作品解題(仮名垣魯文・牛店雑談安愚楽鍋(稲垣達郎)/川島忠之助訳・新説八十日間世界一周(川島順平)/幸田露伴・風流仏(前田愛)/徳富蘆花・不如帰(浅井清)/森鷗外訳・即興詩人(山室静)/柳田国男・遠野物語(山本健吉)/島崎藤村・千曲川のスケッチ(三好行雄)/夏目漱石・三四郎 それから 門(小田切進)/谷崎潤一郎・異端者の悲み(保昌正夫)/武者小路実篤・友情(福田清人)/小林秀雄・文芸評論(小笠原克)/永井荷風・溼東綺譚(磯田光一)/川端康成・雪国(中村光夫)/志賀直哉・暗夜行路(安岡章太郎)/芥川龍之介・水虎晚帰之図(紅野敏郎)/年表(編集部)/複刻制作の概要(編集部)

18. 『複刻版 自筆歌集「ソライロノハナ」』

- 18-1. 『複刻版 自筆歌集「ソライロノハナ」』 1985年10月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版/東京連合印刷
- 18-2. 『複刻版 自筆歌集「ソライロノハナ」解説』 1985年10月1日 編集：名著複刻全集編集委員会 刊行：財団法人日本近代文学館 総発売元：ほるぷ 製作：ほるぷ出版/東京連合印刷
- 収録：複刻にあたって(小田切進)/「ソライロノハナ」発見(萩原葉子)/解題

19. 『名著初版本複製 太宰治文学館』 1992年6月19日 刊行：財団法人日本近代文学館
- 19-1. 『晩年』 1936年（昭和11年）6月25日 著者：太宰治 発行：砂子屋書房
- 19-2. 『虚構の彷徨、ダス・ゲマイネ』 1937年（昭和12年）6月1日 著者：太宰治
発行：新潮社
- 19-3. 『二十世紀旗手』 1937年（昭和12年）7月20日 著者：太宰治 発行：版画
荘
- 19-4. 『愛と美について』 1939年（昭和14年）5月20日 著者：太宰治 発行：竹
村書房
- 19-5. 『女生徒』 1939年（昭和14年）7月20日 著者：太宰治 発行：砂子屋書房
- 19-6. 『皮膚と心』 1940年（昭和15年）4月20日 著者：太宰治 発行：竹村書房
- 19-7. 『女の決闘』 1940年（昭和15年）6月15日 著者：太宰治 発行：河出書房
- 19-8. 『東京八景』 1941年（昭和16年）5月3日 著者：太宰治 発行：實業之日本
社
- 19-9. 『新ハムレット』 1941年（昭和16年）7月2日 著者：太宰治 発行：文藝春
秋社
- 19-10. 『千代女』 1941年（昭和16年）8月25日 著者：太宰治 発行：筑摩書房
- 19-11. 『駄込み訴へ』 1942年（昭和17年）1月1日 著者：太宰治 発行：月曜荘
私版
- 19-12. 『風の便り』 1942年（昭和17年）4月16日 著者：太宰治 発行：利根書
房
- 19-13. 『正義と微笑』 1942年（昭和17年）6月10日 著者：太宰治 発行：錦城
出版社
- 19-14. 『女性』 1942年（昭和17年）6月30日 著者：太宰治 発行：博文館
- 19-15. 『信天翁』 1942年（昭和17年）11月15日 著者：太宰治 発行：昭南書房
- 19-16. 『富嶽百景』 1943年（昭和18年）1月10日 著者：太宰治 発行：新潮社
- 19-17. 『右大臣實朝』 1943年（昭和18年）9月25日 著者：太宰治 発行：錦城
出版社
- 19-18. 『佳日』 1944年（昭和19年）8月20日 著者：太宰治 発行：肇書房
- 19-19. 『津軽』 1944年（昭和19年）11月15日 著者：太宰治 発行：小山書店
- 19-20. 『新釋諸國噺』 1945年（昭和20年）1月27日 著者：太宰治 発行：生活
社
- 19-21. 『惜別』 1945年（昭和20年）9月5日 著者：太宰治 発行：朝日新聞社
- 19-22. 『お伽草紙』 1945年（昭和20年）10月25日 著者：太宰治 発行：筑摩書
房

- 19-23. 『パンドラの匣』 1946年（昭和21年）6月5日 著者：太宰治 発行：河北新報社
- 19-24. 『薄明』 1946年（昭和21年）11月20日 著者：太宰治 発行：新紀元社
- 19-25. 『冬の花火』 1947年（昭和22年）7月5日 著者：太宰治 発行：中央公論社
- 19-26. 『ヴィヨンの妻』 1947年（昭和22年）8月5日 著者：太宰治 発行：筑摩書房
- 19-27. 『斜陽』 1947年（昭和22年）8月5日 著者：太宰治 発行：新潮社
- 19-28. 『人間失格』 1948年（昭和23年）7月25日 著者：太宰治 発行：筑摩書房
- 19-29. 『櫻桃』 1948年（昭和23年）7月25日 著者：太宰治 発行：實業之日本社
- 19-30. 『如是我聞』 1948年（昭和23年）11月10日 著者：太宰治 発行：新潮社
- 19-31. 『地主一代』 1949年（昭和24年）4月15日 著者：太宰治 発行：八雲書店
- 19-32. 『細胞文藝』 創刊號 第1巻第1號 1928年（昭和3年）5月1日 発行：細胞文藝社
- 19-33. 『名著初版本復刻 太宰治文学館 解説書』 1992年6月19日 刊行：財団法人日本近代文学館
収録：『名著初版本復刻 太宰治文学館』の刊行にあたって（小田切進）／評伝・太宰治（奥野健男）／太宰と現代〈一枚の葉の輝き（黒井千次）／言葉の感情教育（高橋英夫）〉／思い出〈「学生群」の頃（石上玄一郎）／太宰治さん（木山みさを）／太宰治の死（竹之内静雄）／酒席の太宰治（野原一夫）〉／解題（関井光男 鳥居邦朗 保昌正夫 長篠康一郎 相馬正一）／太宰治 略年譜（曾根博義）／復刻版制作にあたって（編集部）
20. 『初版本復刻 近代文学の名作』
- 20-1. 『初版本復刻 近代文学の名作 1』 2002年10月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-1-1. 『吾輩ハ猫デアル』 1905年（明治38年）10月6日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店
- 20-1-2. 『生れ出る悩み』 1918年（大正7年）9月12日 著者：有島武郎 発行：叢文閣
- 20-2. 『初版本復刻 近代文学の名作 2』 2002年11月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-2-1. 『吾輩ハ猫デアル 中編』 1906年（明治39年）11月4日 著者：夏目金

- 之助（夏目漱石） 著者：大倉書店／服部書店
- 20-2-2. 『武藏野』 1901年（明治34年）3月11日 著者：國木田哲夫（國木田獨歩） 発行：民友社
- 20-3. 『初版本複刻 近代文学の名作 3』 2002年12月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-3-1. 『吾輩ハ猫デアル 下編』 1907年（明治40年）5月19日 著者：夏目金之助（夏目漱石） 発行：大倉書店／服部書店
- 20-3-2. 『おめでたき人』 1911年（明治44年）2月13日 著者：武者小路實篤 発行：洛陽堂
- 20-4. 『初版本複刻 近代文学の名作 4』 2003年1月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-4-1. 『羅生門』 1917年（大正6年）5月23日 著者：芥川龍之介 発行：阿蘭陀書房
- 20-5. 『初版本複刻 近代文学の名作 5』 2003年2月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-5-1. 『刺青』 1911年（明治44年）12月10日 著者：谷崎潤一郎 発行：初山書店
- 20-6. 『初版本複刻 近代文学の名作 6』 2003年3月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-6-1. 『伊豆の踊子』 1927年（昭和2年）3月20日 著者：川端康成 発行：金星堂
- 20-6-2. 『大津順吉』 1917年（大正6年）6月7日 著者：志賀直哉 発行：新潮社
- 20-7. 『初版本複刻 近代文学の名作 7』 2003年4月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-7-1. 『雁』 1915年（大正4年）5月15日 著者：森林太郎（森鷗外） 発行：初山書店
- 20-8. 『初版本複刻 近代文学の名作 8』 2003年5月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷
- 20-8-1. 『注文の多い料理店』 1924年（大正13年）12月1日 著者：宮澤賢治 発行：杜陵出版部／東京光原社
- 20-8-2. 『赤い燭燭と人魚』 1921年（大正10年）5月19日 著者：小川未明 発行：天佑社
- 20-9. 『初版本複刻 近代文学の名作 9』 2003年6月1日 編集刊行：財団法人日本近代文学館 制作：ほるぷ出版 印刷製本：共同印刷

- 20-9-1. 『風立ちぬ』 1938年(昭和13年)4月10日 著者:堀辰雄 発行:野田書房
- 20-10. 『初版本複製 近代文学の名作 10』 2003年7月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-10-1. 『破戒』 1906年(明治39)年3月25日 著者:島崎春樹(島崎藤村) 発行:自家版
- 20-11. 『初版本複製 近代文学の名作 11』 2003年8月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-11-1. 『田舎教師』 1909年(明治42年)10月20日 著者:田山花袋 発行:左久良書房
- 20-12. 『初版本複製 近代文学の名作 12』 2003年9月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-12-1. 『蟹工船 日本プロレタリア作家叢書第二篇』 1929年(昭和4年)9月25日 著者:小林多喜二 発行:戦旗社
- 20-12-2. 『野菊の墓』 1906年(明治39)年4月5日 著者:伊藤幸次郎(伊藤左千夫) 発行:俳書堂
- 20-13. 『初版本複製 近代文学の名作 13』 2003年10月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-13-1. 『新篇 路傍の石』 1941年(昭和16年)8月1日 著者:山本有三 発行:岩波書店
- 20-14. 『初版本複製 近代文学の名作 14』 2003年11月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-14-1. 『土』 1912年(明治45年)5月15日 著者:長塚節 発行:春陽堂
- 20-15. 『初版本複製 近代文学の名作 15』 2003年12月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-15-1. 『小説 尾花集』 1892年(明治25年)10月3日 著者:幸田露伴 発行:青木嵩山堂
- 20-15-2. 『すみだ川』 1915年(大正4年)9月25日 著者:永井壯吉(永井荷風) 発行:靄山書店
- 20-16. 『初版本複製 近代文学の名作 16』 2004年1月1日 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷
- 20-16-1. 『晩年』 1936年(昭和11年)6月25日 著者:太宰治 発行:砂小屋書房
- 20-17. 『初版本複製 近代文学の名作 16』 発行年月日不明 編集刊行:財団法人日本近代文学館 制作:ほるぷ出版 印刷製本:共同印刷

収録：吾輩ハ猫デアル（上編）・夏目漱石〈感想——『猫』の出現について（竹盛天雄）〉
 ／生れ出る悩み・有島武郎〈北国の冬と芸術家の出現（加賀乙彦）〉／吾輩ハ猫デアル
 中編・夏目漱石〈小説家漱石の誕生（大岡信）〉／武蔵野・国木田独歩〈目覚めの後に
 （松山巖）〉／吾輩ハ猫デアル 下編・夏目漱石〈「吾輩ハ猫デアル」の謎（高橋源一
 郎）〉／おめでたき人・武者小路実篤〈「女に餓える」自分の「向日性」（紅野敏郎）〉
 ／羅生門・芥川龍之介〈知的に構築された多彩な人間模様（海老沢英次）〉／刺青・谷
 崎潤一郎〈代表作のひとつとしての「刺青」（河野多恵子）〉／伊豆の踊子・川端康成
 〈「伊豆の踊り子」一素直との対面（竹西寛子）〉／大津順吉・志賀直哉〈志賀直哉の
 貌（吉村昭）〉／雁・森鷗外〈過ぎさりし夢（森まゆみ）〉／注文の多い料理店・宮沢
 賢治〈『注文の多い料理店』の自筆訂正本（入沢康夫）〉／赤い燭燭と人魚・小川未明
 〈燭燭の明かり（池内紀）〉／風立ちぬ・堀辰雄〈生きることの意味を求めて（池内輝
 雄）〉／破戒・島崎藤村〈『破戒』に成立まで（井出孫六）〉／田舎教師〈立志青年の陰
 面（十川信介）〉／蟹工船・小林多喜二〈『蟹工船』という閉域（川村湊）〉／野菊の墓・
 伊藤左千夫〈永遠のテーマ—少年少女の悲恋（中村稔）〉／新篇 路傍の石・山本有三
 〈未完の完結（出久根達郎）〉／土・長塚節〈孤高の達成——長塚節「土」に寄せて（立
 松和平）〉／小説 尾花集・幸田露伴〈露伴からの問いかけ（中野三敏）〉／すみだ川・
 永井荷風〈幻影の風景（川本三郎）〉／晩年・太宰治〈巧言令色の真（三浦雅士）〉

21. 『複製版 武蔵野全三冊』 2004年9月1日 監修：日本近代文学館 発行：雄松堂
 出版

21-1. 『武蔵野第一編』 1992年（明治25年）3月23日 発行：今古堂 発売：金櫻
 堂

21-2. 『武蔵野第二編』 1992年（明治25年）4月17日 発行：今古堂 発売：金櫻
 堂

21-3. 『武蔵野第三編』 1992年（明治25年）7月23日 発行：今古堂 発売：金櫻
 堂

21-4. 『複製版「武蔵野」解説 付総目次』 2004年9月1日 監修：日本近代文学館
 発行：雄松堂出版

復刻（雑誌）

1. 『「文藝時代」複製版』 1967年5月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近
 代文学館

1-1. 『文藝時代』 創刊号 大正13年10月号 1924年（大正13年）10月1日

1-2. 『文藝時代』 第1巻第2号 大正13年11月号 1924年（大正13年）11月1
 日

1-3. 『文藝時代』 第1巻第3号 大正13年12月号 1924年（大正13年）12月1

- 日
- 1-4. 『文藝時代』 第2卷第1號 大正14年新年號 1925年(大正14年)1月1日
- 1-5. 『文藝時代』 第2卷第2號 大正14年2月號 1925年(大正14年)2月1日
- 1-6. 『文藝時代』 第2卷第3號 大正14年3月號 1925年(大正14年)3月1日
- 1-7. 『文藝時代』 第2卷第4號 大正14年4月號 1925年(大正14年)4月1日
- 1-8. 『文藝時代』 第2卷第5號 大正14年5月號 1925年(大正14年)5月1日
- 1-9. 『文藝時代』 第2卷第6號 大正14年6月號 1925年(大正14年)6月1日
- 1-10. 『文藝時代』 第2卷第7號 大正14年7月號 1925年(大正14年)7月1日
- 1-11. 『文藝時代』 第2卷第8號 大正14年8月號 1925年(大正14年)8月1日
- 1-12. 『文藝時代』 第2卷第9號 大正14年9月號 1925年(大正14年)9月1日
- 1-13. 『文藝時代』 第2卷第10號 大正14年10月號 1925年(大正14年)10月1日
- 1-14. 『文藝時代』 第2卷第11號 大正14年11月號 1925年(大正14年)11月1日
- 日
- 1-15. 『文藝時代』 第2卷第12號 大正14年12月號 1925年(大正14年)12月1日
- 1-16. 『文藝時代』 第3卷第1號 大正15年1月號 1926年(大正15年)1月1日
- 1-17. 『文藝時代』 第3卷第2號 大正15年2月號 1926年(大正15年)2月1日
- 1-18. 『文藝時代』 第3卷第3號 大正15年3月號 1926年(大正15年)3月1日
- 1-19. 『文藝時代』 第3卷第4號 大正15年4月號 1926年(大正15年)4月1日
- 1-20. 『文藝時代』 第3卷第5號 大正15年5月號 1926年(大正15年)5月1日
- 1-21. 『文藝時代』 第3卷第6號 大正15年6月號 1926年(大正15年)6月1日
- 1-22. 『文藝時代』 第3卷第7號 大正15年7月號 1926年(大正15年)7月1日
- 1-23. 『文藝時代』 第3卷第8號 大正15年8月號 1926年(大正15年)8月1日
- 1-24. 『文藝時代』 第3卷第9號 大正15年9月號 1926年(大正15年)9月1日
- 1-25. 『文藝時代』 第3卷第10號 大正15年10月號 1926年(大正15年)10月1日
- 1-26. 『文藝時代』 第3卷第11號 大正15年11月號 1926年(大正15年)11月1日
- 日
- 1-27. 『文藝時代』 第3卷第12號 大正15年12月號 1926年(大正15年)12月1日
- 1-28. 『文藝時代』 第4卷第1號 昭和2年新年號 1927年(昭和2年)1月1日
- 1-29. 『文藝時代』 第4卷第2號 昭和2年2月號 1927年(昭和2年)2月1日
- 1-30. 『文藝時代』 第4卷第3號 昭和2年3月號 1927年(昭和2年)3月1日
- 1-31. 『文藝時代』 第4卷第4號 昭和2年4月號 1927年(昭和2年)4月1日

1-32. 『解説 「文藝時代」 複刻版 別冊』 1967年5月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館

収録：「文藝時代」創刊当時（川端康成）／「文藝時代」の頃（今東光）／新感覚派と既成作家打倒（諏訪三郎）／創刊の前後（福岡益雄）／解説（伊藤整）／解題（瀬沼茂樹）／細目

2. 『「四季」複刻版』 1967年11月20日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館

2-1. 『四季』 季刊第1冊 1933年春

2-2. 『四季』 季刊第2冊 1933年夏

2-3. 『四季』 創刊號 昭和9年10月號 1934年（昭和9年）10月15日

2-4. 『四季』 第2號 昭和9年12月號 1934年（昭和9年）11月20日

2-5. 『四季』 第3號 昭和10年1月號 1934年（昭和9年）12月20日

2-6. 『四季』 第4號 昭和10年2月號 1935年（昭和10年）1月25日

2-7. 『四季』 第5號 昭和10年3月號 1935年（昭和10年）2月20日

2-8. 『四季』 第6號 昭和10年4月號 1935年（昭和10年）3月20日

2-9. 『四季』 第7號 昭和10年5月號 1935年（昭和10年）4月20日

2-10. 『四季』 第8號 昭和10年6月號 1935年（昭和10年）5月20日

2-11. 『四季』 第9號 昭和10年7月號 1935年（昭和10年）6月20日

2-12. 『四季』 第10號 昭和10年8月號 1935年（昭和10年）8月25日

2-13. 『四季』 第11號 昭和10年10月號 1935年（昭和10年）9月5日

2-14. 『四季』 第12號 昭和10年11月號 1935年（昭和10年）10月5日

2-15. 『四季』 第13號 昭和10年12月號 1935年（昭和10年）11月5日

2-16. 『四季』 第14號 昭和11年1月號 1935年（昭和10年）12月10日

2-17. 『四季』 第15號 昭和11年2月號 1936年（昭和11年）2月10日

2-18. 『四季』 第16號 昭和11年春季號 1936年（昭和11年）3月10日

2-19. 『四季』 第17號 昭和11年5月號 1936年（昭和11年）4月10日

2-20. 『四季』 第18號 昭和11年6月號 1936年（昭和11年）5月10日

2-21. 『四季』 第19號 昭和11年7月號 1936年（昭和11年）6月10日

2-22. 『四季』 第20號 昭和11年初秋號 1936年（昭和11年）8月7日

2-23. 『四季』 第21號 昭和11年10月號 1936年（昭和11年）9月20日

2-24. 『四季』 第22號 昭和11年11月號 1936年（昭和11年）10月20日

2-25. 『四季』 第23號 昭和12年1月號 1936年（昭和11年）12月10日

2-26. 『四季』 第24號 昭和12年2月號 1937年（昭和12年）1月20日

2-27. 『四季』 第25號 昭和12年3月號 1937年（昭和12年）2月20日

2-28. 『四季』 第26號 昭和12年5月號 1937年（昭和12年）4月20日

2-29.	『四季』	第 27 號	昭和 12 年 6 月號	1937 年 (昭和 12 年) 5 月 20 日
2-30.	『四季』	第 28 號	昭和 12 年 7 月號	1937 年 (昭和 12 年) 6 月 20 日
2-31.	『四季』	第 29 號	昭和 12 年 8 月號	1937 年 (昭和 12 年) 7 月 20 日
2-32.	『四季』	第 30 號	昭和 12 年 10 月號	1937 年 (昭和 12 年) 9 月 20 日
2-33.	『四季』	第 31 號	昭和 12 年 11 月號	1937 年 (昭和 12 年) 10 月 20 日
2-34.	『四季』	第 32 號	昭和 12 年 12 月號	1937 年 (昭和 12 年) 12 月 20 日
2-35.	『四季』	第 33 號	昭和 13 年 1 月號	1938 年 (昭和 13 年) 12 月 20 日
2-36.	『四季』	第 34 號	昭和 13 年 2 月號	1938 年 (昭和 13 年) 1 月 20 日
2-37.	『四季』	第 35 號	昭和 13 年 4 月號	1938 年 (昭和 13 年) 3 月 20 日
2-38.	『四季』	第 36 號	昭和 13 年 5 月號	1938 年 (昭和 13 年) 4 月 20 日
2-39.	『四季』	第 37 號	昭和 13 年 6 月號	1938 年 (昭和 13 年) 5 月 20 日
2-40.	『四季』	第 38 號	昭和 13 年 7 月號	1938 年 (昭和 13 年) 6 月 20 日
2-41.	『四季』	第 39 號	昭和 13 年 8 月號	1938 年 (昭和 13 年) 7 月 20 日
2-42.	『四季』	第 40 號	昭和 13 年 10 月號	1938 年 (昭和 13 年) 9 月 20 日
2-43.	『四季』	第 41 號	昭和 13 年 11 月號	1938 年 (昭和 13 年) 10 月 20 日
2-44.	『四季』	第 42 號	昭和 13 年 12 月號	1938 年 (昭和 13 年) 11 月 20 日
2-45.	『四季』	第 43 號	昭和 14 年 1 月號	1938 年 (昭和 13 年) 12 月 20 日
2-46.	『四季』	第 44 號	昭和 14 年 2 月號	1939 年 (昭和 14 年) 1 月 20 日
2-47.	『四季』	第 45 號	昭和 14 年春季號	1939 年 (昭和 14 年) 2 月 20 日
2-48.	『四季』	第 46 號	昭和 14 年 5 月號	1939 年 (昭和 14 年) 4 月 20 日
2-49.	『四季』	第 47 號	昭和 14 年 7 月號	1939 年 (昭和 14 年) 5 月 20 日
2-50.	『四季』	第 48 號	昭和 14 年 8 月號	1939 年 (昭和 14 年) 6 月 20 日
2-51.	『四季』	第 49 號	昭和 14 年 9 月號	1939 年 (昭和 14 年) 8 月 20 日
2-52.	『四季』	第 50 號	昭和 14 年 11 月號秋季號	1939 年 (昭和 14 年) 9 月 20 日
2-53.	『四季』	第 51 號	昭和 15 年秋季號	1940 年 (昭和 15 年) 9 月 15 日
2-54.	『四季』	第 52 號	昭和 15 年 12 月號	1940 年 (昭和 15 年) 11 月 25 日
2-55.	『四季』	第 53 號	昭和 16 年 1 月號	1940 年 (昭和 15 年) 12 月 25 日
2-56.	『四季』	第 54 號	昭和 16 年 2 月號	1941 年 (昭和 16 年) 1 月 25 日
2-57.	『四季』	第 55 號	昭和 16 年 3 月號	1941 年 (昭和 16 年) 2 月 25 日
2-58.	『四季』	第 56 號	昭和 16 年 4 月號	1941 年 (昭和 16 年) 3 月 25 日
2-59.	『四季』	第 57 號	昭和 16 年 5 月號	1941 年 (昭和 16 年) 4 月 25 日
2-60.	『四季』	第 58 號	昭和 16 年 6 月號	1941 年 (昭和 16 年) 6 月 25 日
2-61.	『四季』	第 59 號	昭和 16 年 7 月號	1941 年 (昭和 16 年) 7 月 25 日
2-62.	『四季』	第 60 號	昭和 16 年初秋號	1941 年 (昭和 16 年) 8 月 25 日
2-63.	『四季』	第 61 號	昭和 17 年 1 月號	1941 年 (昭和 16 年) 12 月 27 日

- 2-64. 『四季』 第 62 號 昭和 17 年 2 月號 1942 年 (昭和 17 年) 1 月 27 日
 2-65. 『四季』 第 63 號 昭和 17 年 3 月號 1942 年 (昭和 17 年) 2 月 27 日
 2-66. 『四季』 第 64 號 昭和 17 年 4 月號 1942 年 (昭和 17 年) 3 月 27 日
 2-67. 『四季』 第 65 號 昭和 17 年 5 月號 1942 年 (昭和 17 年) 4 月 27 日
 2-68. 『四季』 第 66 號 昭和 17 年初夏號 1942 年 (昭和 17 年) 6 月 27 日
 2-69. 『四季』 第 67 號 昭和 17 年 9 月號 1942 年 (昭和 17 年) 8 月 27 日
 2-70. 『四季』 第 68 號 昭和 17 年 10 月號 1942 年 (昭和 17 年) 9 月 27 日
 2-71. 『四季』 第 69 號 昭和 17 年 11 月號 1942 年 (昭和 17 年) 10 月 27 日
 2-72. 『四季』 第 70 號 昭和 17 年 12 月號 1942 年 (昭和 17 年) 11 月 27 日
 2-73. 『四季』 第 71 號 昭和 18 年 1 月號 1942 年 (昭和 17 年) 12 月 27 日
 2-74. 『四季』 第 72 號 昭和 18 年 2 月號 1943 年 (昭和 18 年) 1 月 27 日
 2-75. 『四季』 第 73 號 昭和 18 年春季號 1943 年 (昭和 18 年) 3 月 27 日
 2-76. 『四季』 第 74 號 昭和 18 年 5 月號 1943 年 (昭和 18 年) 4 月 27 日
 2-77. 『四季』 第 75 號 昭和 18 年 6 月號 1943 年 (昭和 18 年) 5 月 27 日
 2-78. 『四季』 第 76 號 昭和 18 年 7 月號 1943 年 (昭和 18 年) 6 月 27 日
 2-79. 『四季』 第 77 號 昭和 18 年 8 月號 1943 年 (昭和 18 年) 7 月 27 日
 2-80. 『四季』 第 78 號 昭和 18 年 9 月號 1943 年 (昭和 18 年) 8 月 27 日
 2-81. 『四季』 第 79 號 昭和 18 年 10 月號 1943 年 (昭和 18 年) 9 月 27 日
 2-82. 『四季』 第 80 號 昭和 18 年 冬季號 1943 年 (昭和 18 年) 11 月 27 日
 2-83. 『四季』 第 81 號 終刊號 1944 年 (昭和 19 年) 6 月 27 日
 2-84. 『解説 「四季」 複刻版別冊』 1967 年 11 月 20 日 編集：小田切進 発行：財
 団法人日本近代文学館
 収録：「四季」 発足の頃など (丸山薫) / 「四季」 複刻の意味するもの (神保光太郎)
 / 麦藁帽子の感覚 (田中冬二) / 「四季」 解説 (伊藤信吉) / 細目 (全八十三冊)

3. 『「文藝戦線」 複刻版』 1968 年 3 月 25 日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館

- 3-1. 『文藝戦線』 第 1 卷第 1 號 創刊號 1924 年 (大正 13 年) 6 月 10 日
 3-2. 『文藝戦線』 第 1 卷第 2 號 1924 年 (大正 13 年) 7 月 1 日
 3-3. 『文藝戦線』 第 1 卷第 3 號 1924 年 (大正 13 年) 8 月 1 日
 3-4. 『文藝戦線』 第 1 卷第 4 號 9 月創作號 1924 年 (大正 13 年) 9 月 1 日
 3-5. 『文藝戦線』 第 1 卷第 5 號 10 月號 1924 年 (大正 13 年) 10 月 1 日
 3-6. 『文藝戦線』 第 1 卷第 6 號 1924 年 (大正 13 年) 11 月 1 日
 3-7. 『文藝戦線』 第 1 卷第 7 號 1924 年 (大正 13 年) 12 月 1 日
 3-8. 『文藝戦線』 第 2 卷第 1 號 新年號 1925 年 (大正 14 年) 1 月 1 日
 3-9. 『文藝戦線』 第 2 卷第 2 號 6 月號 1925 年 (大正 14 年) 6 月 1 日

- 3-10. 『文藝戰線』 第2卷第3號 7月號 1925年(大正14年)7月1日
3-11. 『文藝戰線』 第2卷第4號 8月號 1925年(大正14年)8月1日
3-12. 『文藝戰線』 第2卷第5號 9月號 1925年(大正14年)9月1日
3-13. 『文藝戰線』 第2卷第6號 10月號 1925年(大正14年)10月1日
3-14. 『文藝戰線』 第2卷第7號 11月號 1925年(大正14年)11月1日
3-15. 『文藝戰線』 第2卷第8號 12月號 1925年(大正14年)12月1日
3-16. 『文藝戰線』 第3卷第1號 新年號 1926年(大正15年)1月1日
3-17. 『文藝戰線』 第3卷第2號 2月號 1926年(大正15年)1月[2月]1日
3-18. 『文藝戰線』 第3卷第3號 1926年(大正15年)3月1日
3-19. 『文藝戰線』 第3卷第4號 1926年(大正15年)4月1日
3-20. 『文藝戰線』 第3卷第5號 1926年(大正15年)5月1日
3-21. 『文藝戰線』 第3卷第6號 1926年(大正15年)6月1日
3-22. 『文藝戰線』 第3卷第7號 1926年(大正15年)7月1日
3-23. 『文藝戰線』 第3卷第8號 1926年(大正15年)8月1日
3-24. 『文藝戰線』 第3卷第9號 1926年(大正15年)9月1日
3-25. 『文藝戰線』 第3卷第10號 1926年(大正15年)9月[10月]1日
3-26. 『文藝戰線』 第3卷第11號 1926年(大正15年)11月1日
3-27. 『文藝戰線』 第3卷第12號 1926年(大正15年)12月1日
3-28. 『文藝戰線』 第4卷第1號 1927年(大正16年)1月1日
3-29. 『文藝戰線』 第4卷第2號 1927年(昭和2年)2月1日
3-30. 『文藝戰線』 第4卷第3號 1927年(昭和2年)3月1日
3-31. 『文藝戰線』 第4卷第4號 1927年(昭和2年)4月1日
3-32. 『文藝戰線』 第4卷第5號 1927年(昭和2年)5月1日
3-33. 『文藝戰線』 第4卷第6號 1927年(昭和2年)6月1日
3-34. 『文藝戰線』 第4卷第7號 1927年(昭和2年)7月1日
3-35. 『文藝戰線』 第4卷第8號 1927年(昭和2年)8月1日
3-36. 『文藝戰線』 第4卷第9號 1927年(昭和2年)9月1日
3-37. 『文藝戰線』 9月臨時增刊號 1927年(昭和2年)9月12日
3-38. 『文藝戰線』 第4卷第10號 1927年(昭和2年)10月1日
3-39. 『文藝戰線』 第4卷第11號 1927年(昭和2年)11月1日
3-40. 『文藝戰線』 第4卷第12號 1927年(昭和2年)12月1日
3-41. 『文藝戰線』 第5卷第1號 1928年(昭和3年)1月1日
3-42. 『文藝戰線』 第5卷第2號 1928年(昭和3年)2月1日
3-43. 『文藝戰線』 第5卷第3號 1928年(昭和3年)3月1日
3-44. 『文藝戰線』 第5卷第4號 1928年(昭和3年)4月1日

3-45. 『文藝戦線』 第5巻第5号 1928年(昭和3年)5月1日

3-46. 『解説 「文藝戦線」 複製版別冊』 1968年3月25日 編集：伊藤整 発行：
財団法人日本近代文学館

収録：八号までの『文藝戦線』(金子洋文)／夢のような気が(山田清三郎)／同人た
れかれのグリンプス(佐々木孝丸)／『文藝戦線』の思い出(平林たい子)／四つの
こと(中野重治)／田口憲一のことなど(平野謙)／解説(稲垣達郎)／細目

4. 『「赤い鳥」複製版』

4-1. 『「赤い鳥」複製版』 1968年11月20日 編集：小田切進 発行：財団法人日本
近代文学館

4-1-1. 『赤い鳥』 第1巻第1号 1918年(大正7年)7月1日

4-1-2. 『赤い鳥』 第1巻第2号 1918年(大正7年)8月1日

4-1-3. 『赤い鳥』 第1巻第3号 1918年(大正7年)9月1日

4-1-4. 『赤い鳥』 第1巻第4号 1918年(大正7年)10月1日

4-1-5. 『赤い鳥』 第1巻第5号 1918年(大正7年)11月1日

4-1-6. 『赤い鳥』 第1巻第6号 1918年(大正7年)12月1日

4-1-7. 『赤い鳥』 第2巻第1号 1919年(大正8年)1月1日

4-1-8. 『赤い鳥』 第2巻第2号 特別号 1919年(大正8年)1月15日

4-1-9. 『赤い鳥』 第2巻第3号 1919年(大正8年)3月1日

4-1-10. 『赤い鳥』 第2巻第4号 1919年(大正8年)4月1日

4-1-11. 『赤い鳥』 第2巻第5号 1919年(大正8年)5月1日

4-1-12. 『赤い鳥』 第2巻第6号 1919年(大正8年)6月1日

4-1-13. 『赤い鳥』 第3巻第1号 1919年(大正8年)7月1日

4-1-14. 『赤い鳥』 第3巻第2号 1919年(大正8年)8月1日

4-1-15. 『赤い鳥』 第3巻第3号 1919年(大正8年)9月1日

4-1-16. 『赤い鳥』 第3巻第4号 1919年(大正8年)10月1日

4-1-17. 『赤い鳥』 第3巻第5号 1919年(大正8年)11月1日

4-1-18. 『赤い鳥』 第3巻第6号 1919年(大正8年)12月1日

4-1-19. 『赤い鳥』 第4巻第1号 1920年(大正9年)1月1日

4-1-20. 『赤い鳥』 第4巻第2号 1920年(大正9年)2月1日

4-1-21. 『赤い鳥』 第4巻第3号 1920年(大正9年)3月1日

4-1-22. 『赤い鳥』 第4巻第4号 1920年(大正9年)4月1日

4-1-23. 『赤い鳥』 第4巻第5号 1920年(大正9年)5月1日

4-1-24. 『赤い鳥』 第4巻第6号 1920年(大正9年)6月1日

4-1-25. 『赤い鳥』 第5巻第1号 1920年(大正9年)7月1日

4-1-26. 『赤い鳥』 第5巻第2号 1920年(大正9年)8月1日

4-1-27.	『赤い鳥』	第5巻第3號	1920年（大正9年）9月1日
4-1-28.	『赤い鳥』	第5巻第4號	1920年（大正9年）10月1日
4-1-29.	『赤い鳥』	第5巻第5號	1920年（大正9年）11月1日
4-1-30.	『赤い鳥』	第5巻第6號	1920年（大正9年）12月1日
4-1-31.	『赤い鳥』	第6巻第1號	1921年（大正10年）1月1日
4-1-32.	『赤い鳥』	第6巻第2號	1921年（大正10年）2月1日
4-1-33.	『赤い鳥』	第6巻第3號	1921年（大正10年）3月1日
4-1-34.	『赤い鳥』	第6巻第4號	1921年（大正10年）4月1日
4-1-35.	『赤い鳥』	第6巻第5號	1921年（大正10年）5月1日
4-1-36.	『赤い鳥』	第6巻第6號	1921年（大正10年）6月1日
4-1-37.	『赤い鳥』	第7巻第1號	1921年（大正10年）7月1日
4-1-38.	『赤い鳥』	第7巻第2號	1921年（大正10年）8月1日
4-1-39.	『赤い鳥』	第7巻第3號	1921年（大正10年）9月1日
4-1-40.	『赤い鳥』	第7巻第4號	1921年（大正10年）10月1日
4-1-41.	『赤い鳥』	第7巻第5號	1921年（大正10年）11月1日
4-1-42.	『赤い鳥』	第7巻第6號	1921年（大正10年）12月1日
4-1-43.	『赤い鳥』	第8巻第1號	1922年（大正11年）1月1日
4-1-44.	『赤い鳥』	第8巻第2號	1922年（大正11年）2月1日
4-1-45.	『赤い鳥』	第8巻第3號	1922年（大正11年）3月1日
4-1-46.	『赤い鳥』	第8巻第4號	1922年（大正11年）4月1日
4-1-47.	『赤い鳥』	第8巻第5號	1922年（大正11年）5月1日
4-1-48.	『赤い鳥』	第8巻第6號	1922年（大正11年）6月1日
4-1-49.	『赤い鳥』	第9巻第1號	1922年（大正11年）7月1日
4-1-50.	『赤い鳥』	第9巻第2號	1922年（大正11年）8月1日
4-1-51.	『赤い鳥』	第9巻第3號	1922年（大正11年）9月1日
4-1-52.	『赤い鳥』	第9巻第4號	1922年（大正11年）10月1日
4-1-53.	『赤い鳥』	第9巻第5號	1922年（大正11年）11月1日
4-1-54.	『赤い鳥』	第9巻第6號	1922年（大正11年）12月1日
4-1-55.	『赤い鳥』	第10巻第1號	1923年（大正12年）1月1日
4-1-56.	『赤い鳥』	第10巻第2號	1923年（大正12年）2月1日
4-1-57.	『赤い鳥』	第10巻第3號	1923年（大正12年）3月1日
4-1-58.	『赤い鳥』	第10巻第4號	1923年（大正12年）4月1日
4-1-59.	『赤い鳥』	第10巻第5號	1923年（大正12年）5月1日
4-1-60.	『赤い鳥』	第10巻第6號	1923年（大正12年）6月1日
4-1-61.	『赤い鳥』	第11巻第1號	1923年（大正12年）7月1日

- 4-1-62. 『赤い鳥』 第11巻第2号 1923年(大正12年)8月1日
 4-1-63. 『赤い鳥』 第11巻第3号 1923年(大正12年)9月1日
 4-1-64. 『赤い鳥』 第11巻第4号 1923年(大正12年)11月1日
 4-1-65. 『赤い鳥』 第12巻第1号 1924年(大正13年)1月1日
 4-1-66. 『赤い鳥』 第12巻第2号 1924年(大正13年)2月1日
 4-1-67. 『赤い鳥』 第12巻第3号 1924年(大正13年)3月1日
 4-1-68. 『赤い鳥』 第12巻第4号 1924年(大正13年)4月1日
 4-1-69. 『赤い鳥』 第12巻第5号 1924年(大正13年)5月1日
 4-1-70. 『赤い鳥』 第12巻第6号 1924年(大正13年)6月1日
 4-1-71. 『赤い鳥』 第13巻第1号 1924年(大正13年)7月1日
 4-1-72. 『赤い鳥』 第13巻第2号 1924年(大正13年)8月1日
 4-1-73. 『赤い鳥』 第13巻第3号 1924年(大正13年)9月1日
 4-1-74. 『赤い鳥』 第13巻第4号 1924年(大正13年)10月1日
 4-1-75. 『赤い鳥』 第13巻第5号 1924年(大正13年)11月1日
 4-1-76. 『赤い鳥』 第13巻第6号 1924年(大正13年)12月1日

4-1-77. 『解説 「赤い鳥」複製版 別冊 I』 1968年11月20日 編集：小田切進
 発行：財団法人日本近代文学館

収録：『赤い鳥』総論(福田清人)／『赤い鳥』の童話(関英雄)／『赤い鳥』の
 童謡と音楽(藤田圭雄)／『赤い鳥』の童話劇(富田博之)／『赤い鳥』の綴方・
 児童自由詩(滑川道夫)／『赤い鳥』の童画と児童画(上笙一郎)／複製版につい
 て

4-2 『「赤い鳥」複製版』 1969年2月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近
 代文学館

- 4-2-1. 『赤い鳥』 第14巻第1号 1925年(大正14年)1月1日
 4-2-2. 『赤い鳥』 第14巻第2号 1925年(大正14年)2月1日
 4-2-3. 『赤い鳥』 第14巻第3号 1925年(大正14年)3月1日
 4-2-4. 『赤い鳥』 第14巻第4号 1925年(大正14年)4月1日
 4-2-5. 『赤い鳥』 第14巻第5号 1925年(大正14年)5月1日
 4-2-6. 『赤い鳥』 第14巻第6号 1925年(大正14年)6月1日
 4-2-7. 『赤い鳥』 第15巻第1号 1925年(大正14年)7月1日
 4-2-8. 『赤い鳥』 第15巻第2号 1925年(大正14年)8月1日
 4-2-9. 『赤い鳥』 第15巻第3号 1925年(大正14年)9月1日
 4-2-10. 『赤い鳥』 第15巻第4号 1925年(大正14年)10月1日
 4-2-11. 『赤い鳥』 第15巻第5号 1925年(大正14年)11月1日
 4-2-12. 『赤い鳥』 第15巻第6号 1925年(大正14年)12月1日

4-2-13.	『赤い鳥』	第 16 卷第 1 號	1926 年 (大正 15 年) 1 月 1 日
4-2-14.	『赤い鳥』	第 16 卷第 2 號	1926 年 (大正 15 年) 2 月 1 日
4-2-15.	『赤い鳥』	第 16 卷第 3 號	1926 年 (大正 15 年) 3 月 1 日
4-2-16.	『赤い鳥』	第 16 卷第 4 號	1926 年 (大正 15 年) 4 月 1 日
4-2-17.	『赤い鳥』	第 16 卷第 5 號	1926 年 (大正 15 年) 5 月 1 日
4-2-18.	『赤い鳥』	第 16 卷第 6 號	1926 年 (大正 15 年) 6 月 1 日
4-2-19.	『赤い鳥』	第 17 卷第 1 號	1926 年 (大正 15 年) 7 月 1 日
4-2-20.	『赤い鳥』	第 17 卷第 2 號	1926 年 (大正 15 年) 8 月 1 日
4-2-21.	『赤い鳥』	第 17 卷第 3 號	1926 年 (大正 15 年) 9 月 1 日
4-2-22.	『赤い鳥』	第 17 卷第 4 號	1926 年 (大正 15 年) 10 月 1 日
4-2-23.	『赤い鳥』	第 17 卷第 5 號	1926 年 (大正 15 年) 11 月 1 日
4-2-24.	『赤い鳥』	第 17 卷第 6 號	1926 年 (大正 15 年) 12 月 1 日
4-2-25.	『赤い鳥』	第 18 卷第 1 號	1927 年 (大正 16 年) 1 月 1 日
4-2-26.	『赤い鳥』	第 18 卷第 2 號	1927 年 (昭和 2 年) 2 月 1 日
4-2-27.	『赤い鳥』	第 18 卷第 3 號	1927 年 (昭和 2 年) 3 月 1 日
4-2-28.	『赤い鳥』	第 18 卷第 4 號	1927 年 (昭和 2 年) 4 月 1 日
4-2-29.	『赤い鳥』	第 18 卷第 5 號	1927 年 (昭和 2 年) 5 月 1 日
4-2-30.	『赤い鳥』	第 18 卷第 6 號	1927 年 (昭和 2 年) 6 月 1 日
4-2-31.	『赤い鳥』	第 19 卷第 1 號	1927 年 (昭和 2 年) 7 月 1 日
4-2-32.	『赤い鳥』	第 19 卷第 2 號	1927 年 (昭和 2 年) 8 月 1 日
4-2-33.	『赤い鳥』	第 19 卷第 3 號	1927 年 (昭和 2 年) 9 月 1 日
4-2-34.	『赤い鳥』	第 19 卷第 4 號	1927 年 (昭和 2 年) 10 月 1 日
4-2-35.	『赤い鳥』	第 19 卷第 5 號	1927 年 (昭和 2 年) 11 月 1 日
4-2-36.	『赤い鳥』	第 19 卷第 6 號	1927 年 (昭和 2 年) 12 月 1 日
4-2-37.	『赤い鳥』	第 20 卷第 1 號	1928 年 (昭和 3 年) 1 月 1 日
4-2-38.	『赤い鳥』	第 20 卷第 2 號	1928 年 (昭和 3 年) 2 月 1 日
4-2-39.	『赤い鳥』	第 20 卷第 3 號	1928 年 (昭和 3 年) 3 月 1 日
4-2-40.	『赤い鳥』	第 20 卷第 4 號	1928 年 (昭和 3 年) 4 月 1 日
4-2-41.	『赤い鳥』	第 20 卷第 5 號	1928 年 (昭和 3 年) 5 月 1 日
4-2-42.	『赤い鳥』	第 20 卷第 6 號	1928 年 (昭和 3 年) 6 月 1 日
4-2-43.	『赤い鳥』	第 21 卷第 1 號	1928 年 (昭和 3 年) 7 月 1 日
4-2-44.	『赤い鳥』	第 21 卷第 2 號	1928 年 (昭和 3 年) 8 月 1 日
4-2-45.	『赤い鳥』	第 21 卷第 3 號	1928 年 (昭和 3 年) 9 月 1 日
4-2-46.	『赤い鳥』	第 21 卷第 4 號	1928 年 (昭和 3 年) 10 月 1 日
4-2-47.	『赤い鳥』	第 21 卷第 5 號	1928 年 (昭和 3 年) 11 月 1 日

- 4-2-48. 『赤い鳥』 第21巻第6号 1928年（昭和3年）12月1日
- 4-2-49. 『赤い鳥』 第22巻第1号 1929年（昭和4年）1月1日
- 4-2-50. 『赤い鳥』 第22巻第2号 1929年（昭和4年）2月1日
- 4-2-51. 『赤い鳥』 第22巻第3号 1929年（昭和4年）3月1日
- 4-2-52. 『解説 「赤い鳥」復刻版 別冊 2』 1969年2月15日 編集：小田切進
発行：財団法人日本近代文学館
収録：三重吉二面（小島政二郎）／鈴木三重吉を想う（清水良雄）／三重吉さんの
来訪（西條八十）／晩酌一升（坪田譲治）／『赤い鳥』回顧（近衛秀麿）／『赤い
鳥』の挿絵を描いて（深沢省三）／『赤い鳥』復刊の頃（与田準一）／投稿した頃
（巽聖歌）／赤い鳥賞（木俣修）／懐かしいあの頃（前島とも）／父と『赤い鳥』
と私（鈴木珊吉）／三重吉おじさま（北原隆太郎）／清水先生の思い出（甲斐信枝）
- 4-3 『「赤い鳥」復刻版』 1969年3月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近
代文学館
- 4-3-1. 『赤い鳥』 第1巻第1号 1931年（昭和6年）1月1日
- 4-3-2. 『赤い鳥』 第1巻第2号 1931年（昭和6年）2月1日
- 4-3-3. 『赤い鳥』 第1巻第3号 1931年（昭和6年）3月1日
- 4-3-4. 『赤い鳥』 第1巻第4号 1931年（昭和6年）4月1日
- 4-3-5. 『赤い鳥』 第1巻第5号 1931年（昭和6年）5月1日
- 4-3-6. 『赤い鳥』 第1巻第6号 1931年（昭和6年）6月1日
- 4-3-7. 『赤い鳥』 第2巻第1号 1931年（昭和6年）7月1日
- 4-3-8. 『赤い鳥』 第2巻第2号 1931年（昭和6年）8月1日
- 4-3-9. 『赤い鳥』 第2巻第3号 1931年（昭和6年）9月1日
- 4-3-10. 『赤い鳥』 第2巻第4号 1931年（昭和6年）10月1日
- 4-3-11. 『赤い鳥』 第2巻第5号 1931年（昭和6年）11月1日
- 4-3-12. 『赤い鳥』 第2巻第6号 1931年（昭和6年）12月1日
- 4-3-13. 『赤い鳥』 第3巻第1号 1932年（昭和7年）1月1日
- 4-3-14. 『赤い鳥』 第3巻第2号 1932年（昭和7年）2月1日
- 4-3-15. 『赤い鳥』 第3巻第3号 1932年（昭和7年）3月1日
- 4-3-16. 『赤い鳥』 第3巻第4号 1932年（昭和7年）4月1日
- 4-3-17. 『赤い鳥』 第3巻第5号 1932年（昭和7年）5月1日
- 4-3-18. 『赤い鳥』 第3巻第6号 1932年（昭和7年）6月1日
- 4-3-19. 『赤い鳥』 第4巻第1号 1932年（昭和7年）7月1日
- 4-3-20. 『赤い鳥』 第4巻第2号 1932年（昭和7年）8月1日
- 4-3-21. 『赤い鳥』 第4巻第3号 1932年（昭和7年）9月1日
- 4-3-22. 『赤い鳥』 第4巻第4号 1932年（昭和7年）10月1日

4-3-23.	『赤い鳥』	第4巻第5號	1932年(昭和7年)11月1日
4-3-24.	『赤い鳥』	第4巻第6號	1932年(昭和7年)12月1日
4-3-25.	『赤い鳥』	第5巻第1號	1933年(昭和8年)1月1日
4-3-26.	『赤い鳥』	第5巻第2號	1933年(昭和8年)2月1日
4-3-27.	『赤い鳥』	第5巻第3號	1933年(昭和8年)3月1日
4-3-28.	『赤い鳥』	第5巻第4號	1933年(昭和8年)4月1日
4-3-29.	『赤い鳥』	第5巻第5號	1933年(昭和8年)5月1日
4-3-30.	『赤い鳥』	第5巻第6號	1933年(昭和8年)6月1日
4-3-31.	『赤い鳥』	第6巻第1號	1933年(昭和8年)7月1日
4-3-32.	『赤い鳥』	第6巻第2號	1933年(昭和8年)8月1日
4-3-33.	『赤い鳥』	第6巻第3號	1933年(昭和8年)9月1日
4-3-34.	『赤い鳥』	第6巻第4號	1933年(昭和8年)10月1日
4-3-35.	『赤い鳥』	第6巻第5號	1933年(昭和8年)11月1日
4-3-36.	『赤い鳥』	第6巻第6號	1933年(昭和8年)12月1日
4-3-37.	『赤い鳥』	第7巻第1號	1934年(昭和9年)1月1日
4-3-38.	『赤い鳥』	第7巻第2號	1934年(昭和9年)2月1日
4-3-39.	『赤い鳥』	第7巻第3號	1934年(昭和9年)3月1日
4-3-40.	『赤い鳥』	第7巻第4號	1934年(昭和9年)4月1日
4-3-41.	『赤い鳥』	第7巻第5號	1934年(昭和9年)5月1日
4-3-42.	『赤い鳥』	第7巻第6號	1934年(昭和9年)6月1日
4-3-43.	『赤い鳥』	第8巻第1號	1934年(昭和9年)7月1日
4-3-44.	『赤い鳥』	第8巻第2號	1934年(昭和9年)8月1日
4-3-45.	『赤い鳥』	第8巻第3號	1934年(昭和9年)9月1日
4-3-46.	『赤い鳥』	第8巻第4號	1934年(昭和9年)10月1日
4-3-47.	『赤い鳥』	第8巻第5號	1934年(昭和9年)11月1日
4-3-48.	『赤い鳥』	第8巻第6號	1934年(昭和9年)12月1日
4-3-49.	『赤い鳥』	第9巻第1號	1935年(昭和10年)1月1日
4-3-50.	『赤い鳥』	第9巻第2號	1935年(昭和10年)2月1日
4-3-51.	『赤い鳥』	第9巻第3號	1935年(昭和10年)3月1日
4-3-52.	『赤い鳥』	第9巻第4號	1935年(昭和10年)4月1日
4-3-53.	『赤い鳥』	第9巻第5號	1935年(昭和10年)5月1日
4-3-54.	『赤い鳥』	第9巻第6號	1935年(昭和10年)6月1日
4-3-55.	『赤い鳥』	第10巻第1號	1936年(昭和10年)7月1日
4-3-56.	『赤い鳥』	第10巻第2號	1936年(昭和10年)8月1日
4-3-57.	『赤い鳥』	第10巻第3號	1936年(昭和10年)9月1日

- 4-3-58. 『赤い鳥』 第10巻第4號 1936年(昭和10年)10月1日
 4-3-59. 『赤い鳥』 第10巻第5號 1936年(昭和10年)11月1日
 4-3-60. 『赤い鳥』 第10巻第6號 1936年(昭和10年)12月1日
 4-3-61. 『赤い鳥』 第11巻第1號 1936年(昭和11年)1月1日
 4-3-62. 『赤い鳥』 第11巻第2號 1936年(昭和11年)2月1日
 4-3-63. 『赤い鳥』 第11巻第3號 1936年(昭和11年)3月1日
 4-3-64. 『赤い鳥』 第11巻第4號 1936年(昭和11年)4月1日
 4-3-65. 『赤い鳥』 第11巻第5號 1936年(昭和11年)5月1日
 4-3-66. 『赤い鳥』 第11巻第6號 1936年(昭和11年)6月1日
 4-3-67. 『赤い鳥』 第12巻第1號 1936年(昭和11年)7月1日
 4-3-68. 『赤い鳥』 第12巻第2號 1936年(昭和11年)8月1日
 4-3-69. 『赤い鳥』 第12巻第3號 1936年(昭和11年)10月1日
 4-3-70. 『解説 「赤い鳥」復刻版 別冊 3』 1969年3月15日 編集：小田切進
 発行：財団法人日本近代文学館
 収録：『赤い鳥』研究文献目録／『赤い鳥』作者別索引〈童話／童謡／童話劇／随想〉

5. 『「青空」復刻版』 1970年6月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館

- 5-1. 『青空』 第1巻第1號 創刊號 1925年(大正14年)1月1日
 5-2. 『青空』 第1巻第2號 2月號 1925年(大正14年)2月20日
 5-3. 『青空』 第1巻第3號 3月號 1925年(大正14年)3月12日
 5-4. 『青空』 第1巻第4號 1925年(大正14年)6月1日
 5-5. 『青空』 第1巻第5號 1925年(大正14年)7月1日
 5-6. 『青空』 第1巻第6號 1925年(大正14年)8月1日
 5-7. 『青空』 第1巻第7號 1925年(大正14年)9月15日
 5-8. 『青空』 第1巻第8號 1925年(大正14年)10月15日
 5-9. 『青空』 第2巻[第1巻]第9號 1925年(大正14年)11月5日
 5-10. 『青空』 第1巻第10號 1925年(大正14年)12月5日
 5-11. 『青空』 第2巻第1號 1926年(大正15年)1月1日
 5-12. 『青空』 第2巻第2號 1926年(大正15年)2月1日
 5-13. 『青空』 第2巻第3號 1926年(大正15年)3月1日
 5-14. 『青空』 第2巻第4號 1926年(大正15年)4月1日
 5-15. 『青空』 第2巻第5號 1926年(大正15年)5月1日
 5-16. 『青空』 第2巻第6號 1926年(大正15年)6月1日
 5-17. 『青空』 第2巻第7號 1926年(大正15年)7月1日

- 5-18. 『青空』 第2巻第8號 1926年（大正15年）8月1日
- 5-19. 『青空』 第2巻第9號 1926年（大正15年）9月1日
- 5-20. 『青空』 第2巻第10號 1926年（大正15年）10月1日
- 5-21. 『青空』 第2巻第11號 1926年（大正15年）11月1日
- 5-22. 『青空』 第2巻第12號 1926年（大正15年）12月1日
- 5-23. 『青空』 第3巻第1號 1927年（大正16年）1月1日
- 5-24. 『青空』 第3巻第2號 1927年（昭和2年）2月1日
- 5-25. 『青空』 第3巻第3號 1927年（昭和2年）3月1日
- 5-26. 『青空』 第3巻第4號 1927年（昭和2年）4月1日
- 5-27. 『青空』 第3巻第5號 1927年（昭和2年）5月1日
- 5-28. 『青空』 第3巻第6號 1927年（昭和2年）6月1日
- 5-29. 『解説 「青空」復刻版 別冊』 1970年6月15日 編集人：小田切進 発行所：財団法人日本近代文学館
収録：復刻にさいして（中谷孝雄）／「青空」回想の一スポット（北川冬彦）／「青空」の仲間（飯島正）／解説（紅野敏郎）／人名索引
6. 『「辻馬車」復刻版』 1970年6月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
- 6-1. 『辻馬車』 第1號 1925年（大正14年）3月1日
- 6-2. 『辻馬車』 第2號 1925年（大正14年）4月1日
- 6-3. 『辻馬車』 第3號 1925年（大正14年）5月1日
- 6-4. 『辻馬車』 第4號 1925年（大正14年）6月1日
- 6-5. 『辻馬車』 第5號 1925年（大正14年）7月1日
- 6-6. 『辻馬車』 第6號 1925年（大正14年）8月1日
- 6-7. 『辻馬車』 第7號 1925年（大正14年）9月1日
- 6-8. 『辻馬車』 第8號 1925年（大正14年）10月1日
- 6-9. 『辻馬車』 第9號 1925年（大正14年）11月1日
- 6-10. 『辻馬車』 第10號 1925年（大正14年）12月1日
- 6-11. 『辻馬車』 第11號 1926年（大正15年）1月1日
- 6-12. 『辻馬車』 第12號 1926年（大正15年）2月1日
- 6-13. 『辻馬車』 第13號 1926年（大正15年）3月1日
- 6-14. 『辻馬車』 第14號 第2巻第4號 1926年（大正15年）4月1日
- 6-15. 『辻馬車』 第15號 第2巻第5號 1926年（大正15年）5月1日
- 6-16. 『辻馬車』 第16號 第2巻第6號 1926年（大正15年）6月1日
- 6-17. 『辻馬車』 第17號 第2巻第7號 1926年（大正15年）7月1日
- 6-18. 『辻馬車』 第18號 第2巻第8號 1926年（大正15年）8月1日

- 6-19. 『辻馬車』 第19號 第2卷第9號 1926年(大正15年)9月1日
- 6-20. 『辻馬車』 第20號 第2卷第10號 1926年(大正15年)10月1日
- 6-21. 『辻馬車』 第21號 第2卷第11號 1926年(大正15年)11月1日
- 6-22. 『辻馬車』 第22號 第2卷第12號 1926年(大正15年)12月1日
- 6-23. 『辻馬車』 第23號 第3卷第1號 1927年(大正16年)1月1日
- 6-24. 『辻馬車』 第24號 第3卷第2號 1927年(昭和2年)2月1日
- 6-25. 『辻馬車』 第25號 第3卷第3號 1927年(昭和2年)3月1日
- 6-26. 『辻馬車』 第26號 第3卷第4號 1927年(昭和2年)4月1日
- 6-27. 『辻馬車』 第27號 第3卷第5號 1927年(昭和2年)5月1日
- 6-28. 『辻馬車』 第28號 第3卷第6號 1927年(昭和2年)6月1日
- 6-29. 『辻馬車』 第29號 第3卷第7號 1927年(昭和2年)7月1日
- 6-30. 『辻馬車』 第30號 第3卷第8號 1927年(昭和2年)8月1日
- 6-31. 『辻馬車』 第31號 第3卷第9號 1927年(昭和2年)9月1日
- 6-32. 『辻馬車』 第32號 第3卷第10號 1927年(昭和2年)10月1日
- 6-33. 『解説 「辻馬車」復刻版 別冊』 1970年6月15日 編集人：小田切進 発行所：財団法人日本近代文学館
収録：「辻馬車」の思い出(藤沢桓夫)／青い文学的果実(神崎清)／「辻馬車」のころ(小野勇)／藤沢桓夫を中心に(長沖一)／解題(瀬沼茂樹)／人名索引
7. 『「文学」復刻版』 1970年6月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
- 7-1. 『文学』 第1號 1929年(昭和4年)10月1日
- 7-2. 『文学』 第2號 1929年(昭和4年)11月1日
- 7-3. 『文学』 第3號 1929年(昭和4年)12月1日
- 7-4. 『文学』 第4號 1930年(昭和5年)1月1日
- 7-5. 『文学』 第5號 1930年(昭和5年)2月1日
- 7-6. 『文学』 第6號 1930年(昭和5年)3月1日
- 7-7. 『解説 「文学」復刻版 別冊』 1970年6月15日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
収録：編集同人のこと(深田久弥)／「文学」のこと(阿部知二)／「文学」発行の頃(福田清人)／解題(小田切進)／人名索引
8. 『「ARS」復刻版』 1970年12月10日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
- 8-1. 『ARS』 第1卷第1號 1915年(大正4年)4月1日
- 8-2. 『ARS』 第1卷第2號 1915年(大正4年)5月1日
- 8-3. 『ARS』 第1卷第3號 1915年(大正4年)6月1日

- 8-4. 『ARS』 第1巻第4号 1915年（大正4年）7月1日
- 8-5. 『ARS』 第1巻第5号 1915年（大正4年）8月1日
- 8-6. 『ARS』 第1巻第6号 1915年（大正4年）9月1日
- 8-7. 『ARS』 第1巻第7号 1915年（大正4年）10月1日
- 8-8. 『解説 『ARS』 複刻版 別冊』 1970年12月10日 編集：小田切進 発行：
財団法人日本近代文学館
収録：白秋と私（矢野峰人）／阿蘭陀書房の頃（北原義雄）／未生の頃の想出（山本
太郎）／『ARS』が出るまで（村野次郎）／解説（木俣修）／細目
9. 『「奇蹟」複刻版』 1970年12月10日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文
学館／塩田良平
- 9-1. 『奇蹟』 第1巻第1号 9月号 1912年（大正元年）9月1日
- 9-2. 『奇蹟』 第1巻第2号 10月号 1912年（大正元年）10月5日
- 9-3. 『奇蹟』 第1巻第3号 11月号 1912年（大正元年）11月1日
- 9-4. 『奇蹟』 第1巻第4号 12月号 1912年（大正元年）12月1日
- 9-5. 『奇蹟』 第2巻第1号 新年号 1912年（大正2年）1月1日
- 9-6. 『奇蹟』 第2巻第2号 2月号 1912年（大正2年）2月1日
- 9-7. 『奇蹟』 第2巻第3号 3月号 1912年（大正2年）3月1日
- 9-8. 『奇蹟』 第2巻第4号 4月号 1912年（大正2年）4月1日
- 9-9. 『奇蹟』 第2巻第5号 5月号 1912年（大正2年）5月1日
- 9-10. 『解説 『奇蹟』 複刻版 別冊』 1970年12月10日 編集：小田切進 発行：
財団法人日本近代文学館／塩田良平
収録：『奇蹟』の思い出（谷崎精二）／舟木重雄のこと（舟木重信）／『奇蹟』と広津
和郎（平野謙）／相馬泰三（加太こうじ）／『奇蹟』解説（紅野敏郎）／細目
10. 『「プロレタリア文学」複刻版』 1972年1月25日 編集：小田切進 発行：財団法
人日本近代文学館
- 10-1. 『プロレタリア文学』 創刊号 1932年（昭和7年）1月1日
- 10-2. 『プロレタリア文学』 2月号 1932年（昭和7年）2月1日
- 10-3. 『プロレタリア文学』 3月号 1932年（昭和7年）3月1日
- 10-4. 『プロレタリア文学』 4月号 1932年（昭和7年）4月1日
- 10-5. 『プロレタリア文学』 臨時増刊号 1932年（昭和7年）4月25日
- 10-6. 『プロレタリア文学』 5月号 1932年（昭和7年）5月1日
- 10-7. 『プロレタリア文学』 6月号 1932年（昭和7年）6月1日
- 10-8. 『プロレタリア文学』 臨時増刊号 1932年（昭和7年）6月20日
- 10-9. 『プロレタリア文学』 7月号 1932年（昭和7年）7月1日
- 10-10. 『プロレタリア文学』 8月号 1932年（昭和7年）8月1日

- 10-11. 『プロレタリア文学』 9月號 1932年(昭和7年)9月10日
- 10-12. 『プロレタリア文学』 10月號 1932年(昭和7年)10月16日
- 10-13. 『プロレタリア文学』 11月號 1932年(昭和7年)11月7日
- 10-14. 『プロレタリア文学』 12月號 1932年(昭和7年)12月12日
- 10-15. 『プロレタリア文学』 1月號 1933年(昭和8年)1月1日
- 10-16. 『プロレタリア文学』 2月號 1933年(昭和8年)2月1日
- 10-17. 『プロレタリア文学』 4・5合併號 1933年(昭和8年)5月1日
- 10-18. 『プロレタリア文学』 9月號 1933年(昭和8年)9月5日
- 10-19. 『プロレタリア文学』 10月號 1933年(昭和8年)11月15日
- 10-20. 『解説 『プロレタリア文学』復刻版 別冊』 1972年1月25日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
収録：『プロレタリア文学』の時代(壺井繁治)／三〇年代、三一年代の一つの問題(中野重治)／生硬に激しかった時(佐多稲子)／中條百合子の作品(平野謙)／解題(小田切進)／人名索引
11. 『「ほととぎす」復刻版』 1972年4月25日 編集：小田切進 発行：財団法人日本近代文学館
- 11-1. 『ほととぎす』 第1號 1897年(明治30年)1月15日
- 11-2. 『ほととぎす』 第2號 1897年(明治30年)2月15日
- 11-3. 『ほととぎす』 第3號 1897年(明治30年)3月15日
- 11-4. 『ほととぎす』 第4號 1897年(明治30年)4月30日
- 11-5. 『ほととぎす』 第5號 1897年(明治30年)5月30日
- 11-6. 『ほととぎす』 第6號 1897年(明治30年)6月30日
- 11-7. 『ほととぎす』 第7號 1897年(明治30年)7月30日
- 11-8. 『ほととぎす』 第8號 1897年(明治30年)8月30日
- 11-9. 『ほととぎす』 第9號 1897年(明治30年)9月30日
- 11-10. 『ほととぎす』 第10號 1897年(明治30年)10月30日
- 11-11. 『ほととぎす』 第11號 1897年(明治30年)11月30日
- 11-12. 『ほととぎす』 第12號 1897年(明治30年)12月30日
- 11-13. 『ほととぎす』 第13號 1898年(明治31年)1月30日
- 11-14. 『ほととぎす』 第14號 1898年(明治31年)2月28日
- 11-15. 『ほととぎす』 第15號 1898年(明治31年)3月30日
- 11-16. 『ほととぎす』 第16號 1898年(明治31年)4月30日
- 11-17. 『ほととぎす』 第17號 1898年(明治31年)5月30日
- 11-18. 『ほととぎす』 第18號 1898年(明治31年)6月30日
- 11-19. 『ほととぎす』 第19號 1898年(明治31年)7月30日

11-20. 『ほととぎす』 第20号 1898年(明治31年)8月30日

11-21. 『解説『ほととぎす』(松山版)複製版 別冊』 1972年4月25日 編集:小田切進 発行:財団法人日本近代文学館

収録:松山版『ほととぎす』をめぐって(久保田正文) / 子規と極堂(松井利彦) / 『ほととぎす』創刊の前後(楠本憲吉) / 笹啼の初音になりし頃のこと(深川正一郎) / 『ホトトギス』と虚子(高浜年尾) / 松山版『ほととぎす』読後(富安風生) / 解説(福田清人) / 細目 / 人名索引

12. 『「ホトトギス」複製版』

12-1. 『「ホトトギス」複製版』 1972年10月30日 編集:瀬沼茂樹 発行:財団法人日本近代文学館

12-1-1. 『ホトトギス』 第2巻第1号 1898年(明治31年)10月10日

12-1-2. 『ホトトギス』 第2巻第2号 1898年(明治31年)11月10日

12-1-3. 『ホトトギス』 第2巻第3号 1898年(明治31年)12月10日

12-1-4. 『ホトトギス』 第2巻第4号 1899年(明治32年)1月10日

12-1-5. 『ホトトギス』 第2巻第5号 1899年(明治32年)2月10日

12-1-6. 『ホトトギス』 第2巻第6号 1899年(明治32年)3月10日

12-1-7. 『ホトトギス』 第2巻第7号 1899年(明治32年)4月20日

12-1-8. 『ホトトギス』 第2巻第8号 1899年(明治32年)5月10日

12-1-9. 『ホトトギス』 第2巻第9号 1899年(明治32年)6月20日

12-1-10. 『ホトトギス』 第2巻第10号 1899年(明治32年)7月20日

12-1-11. 『ホトトギス』 第2巻第11号 1899年(明治32年)8月10日

12-1-12. 『ホトトギス』 第2巻第11号 [12号] 1899年(明治32年)9月10日

12-1-13. 『ホトトギス』 第3巻第1号 1899年(明治32年)10月10日

12-1-14. 『ホトトギス』 第3巻第2号 1899年(明治32年)11月10日

12-1-15. 『ホトトギス』 第3巻第3号 1899年(明治32年)12月10日

12-1-16. 『ホトトギス』 第3巻第4号 1900年(明治33年)1月10日

12-1-17. 『ホトトギス』 第3巻第5号 1900年(明治33年)3月10日

12-1-18. 『ホトトギス』 第3巻第6号 1900年(明治33年)4月10日

12-1-19. 『ホトトギス』 第3巻第7号 1900年(明治33年)5月30日

12-1-20. 『ホトトギス』 第3巻第8号 臨時増刊号 1900年(明治33年)6月25日

12-1-21. 『ホトトギス』 第3巻第9号 1900年(明治33年)7月10日

12-1-22. 『ホトトギス』 第3巻第10号 1900年(明治33年)7月30日

12-1-23. 『ホトトギス』 第3巻第11号 1900年(明治33年)9月7日

- 12-1-24. 『ホトトギス』 第3巻第12號 1900年(明治33年)9月30日
- 12-1-25. 『ホトトギス』 第4巻第1號 1900年(明治33年)10月30日
- 12-1-26. 『ホトトギス』 第4巻第2號 1900年(明治33年)11月20日
- 12-1-27. 『ホトトギス』 第4巻第3號 1900年(明治33年)12月15日
- 12-1-28. 『ホトトギス』 第4巻第4號 1901年(明治34年)1月31日
- 12-1-29. 『ホトトギス』 第4巻第5號 1901年(明治34年)2月28日
- 12-1-30. 『ホトトギス』 第4巻第6號 1901年(明治34年)3月20日
- 12-1-31. 『ホトトギス』 第4巻第7號 1901年(明治34年)4月25日
- 12-1-32. 『ホトトギス』 第4巻第8號 1901年(明治34年)5月31日
- 12-1-33. 『ホトトギス』 第4巻第9號 1901年(明治34年)6月30日
- 12-1-34. 『ホトトギス』 第4巻第10號 1901年(明治34年)7月31日
- 12-1-35. 『ホトトギス』 第4巻第11號 1901年(明治34年)8月31日
- 12-1-36. 『ホトトギス』 第4巻第12號 1901年(明治34年)9月20日
- 12-1-37. 『ホトトギス』 第5巻第1號 1901年(明治34年)10月30日
- 12-1-38. 『ホトトギス』 第5巻第2號 1901年(明治34年)11月30日
- 12-1-39. 『ホトトギス』 第5巻第3號 1901年(明治34年)12月15日
- 12-1-40. 『ホトトギス』 第5巻第4號 1902年(明治35年)1月1日
- 12-1-41. 『ホトトギス』 第5巻第5號 1902年(明治35年)2月10日
- 12-1-42. 『ホトトギス』 第5巻第6號 1902年(明治35年)3月10日
- 12-1-43. 『ホトトギス』 第5巻第7號 1902年(明治35年)4月20日
- 12-1-44. 『ホトトギス』 第5巻第8號 1902年(明治35年)5月20日
- 12-1-45. 『ホトトギス』 第5巻第9號 1902年(明治35年)6月30日
- 12-1-46. 『ホトトギス』 第5巻第10號 1902年(明治35年)7月30日
- 12-1-47. 『ホトトギス』 第5巻第11號 1902年(明治35年)9月20日
- 12-1-48. 『ホトトギス』 第5巻第12號 1902年(明治35年)10月10日
- 12-2. 『「ホトトギス」複製版』 1973年1月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人
日本近代文学館
- 12-2-1. 『ホトトギス』 第6巻第1號 1902年(明治35年)10月25日
- 12-2-2. 『ホトトギス』 第6巻第2號 1902年(明治35年)11月15日
- 12-2-3. 『ホトトギス』 第6巻第3號 1902年(明治35年)12月10日
- 12-2-4. 『ホトトギス』 第6巻第4號 子規追悼集 1902年(明治35年)12月27
日
- 12-2-5. 『ホトトギス』 第6巻第5號 1903年(明治36年)1月25日
- 12-2-6. 『ホトトギス』 第6巻第6號 1903年(明治36年)2月15日
- 12-2-7. 『ホトトギス』 第6巻第7號 1903年(明治36年)3月13日

- 12-2-8. 『ホトトギス』 第6巻第8號 1903年(明治36年)4月15日
- 12-2-9. 『ホトトギス』 第6巻第9號 1903年(明治36年)5月20日
- 12-2-10. 『ホトトギス』 第6巻第10號 1903年(明治36年)6月20日
- 12-2-11. 『ホトトギス』 第6巻第11號 1903年(明治36年)7月15日
- 12-2-12. 『ホトトギス』 第6巻第12號 1903年(明治36年)8月15日
- 12-2-13. 『ホトトギス』 第6巻第13號 1903年(明治36年)9月25日
- 12-2-14. 『ホトトギス』 第7巻第1號 1903年(明治36年)10月20日
- 12-2-15. 『ホトトギス』 第7巻第2號 1903年(明治36年)11月20日
- 12-2-16. 『ホトトギス』 第7巻第3號 1903年(明治36年)12月20日
- 12-2-17. 『ホトトギス』 第7巻第4號 1904年(明治37年)1月10日
- 12-2-18. 『ホトトギス』 第7巻第5號 1904年(明治37年)2月10日
- 12-2-19. 『ホトトギス』 第7巻第6號 1904年(明治37年)3月10日
- 12-2-20. 『ホトトギス』 第7巻第7號 1904年(明治37年)4月10日
- 12-2-21. 『ホトトギス』 第7巻第8號 1904年(明治37年)5月10日
- 12-2-22. 『ホトトギス』 第7巻第9號 1904年(明治37年)6月10日
- 12-2-23. 『ホトトギス』 第7巻第10號 1904年(明治37年)7月10日
- 12-2-24. 『ホトトギス』 第7巻第11號 1904年(明治37年)8月10日
- 12-2-25. 『ホトトギス』 第7巻第12號 1904年(明治37年)9月10日
- 12-3. 『「ホトトギス」復刻版』 1973年3月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人
日本近代文学館
- 12-3-1. 『ホトトギス』 第8巻第1號 1904年(明治37年)10月10日
- 12-3-2. 『ホトトギス』 第8巻第2號 1904年(明治37年)11月10日
- 12-3-3. 『ホトトギス』 第8巻第3號 1904年(明治37年)12月10日
- 12-3-4. 『ホトトギス』 第8巻第4號 1905年(明治38年)1月1日
- 12-3-5. 『ホトトギス』 第8巻第5號 1905年(明治38年)2月10日
- 12-3-6. 『ホトトギス』 第8巻第6號 1905年(明治38年)3月10日
- 12-3-7. 『ホトトギス』 第8巻第7號 1905年(明治38年)4月1日
- 12-3-8. 『ホトトギス』 第8巻第8號 1905年(明治38年)5月10日
- 12-3-9. 『ホトトギス』 第8巻第9號 1905年(明治38年)6月10日
- 12-3-10. 『ホトトギス』 第8巻第10號 臨時増刊號 1905年(明治38年)7月1
日
- 12-3-11. 『ホトトギス』 第8巻第11號 1905年(明治38年)7月10日
- 12-3-12. 『ホトトギス』 第8巻第12號 1905年(明治38年)8月10日
- 12-3-13. 『ホトトギス』 第8巻第13號 1905年(明治38年)9月10日
- 12-3-14. 『ホトトギス』 第9巻第1號 1905年(明治38年)10月10日

- 12-3-15. 『ホトトギス』 第9巻第2号 1905年(明治38年)11月10日
- 12-3-16. 『ホトトギス』 第9巻第3号 1905年(明治38年)12月10日
- 12-3-17. 『ホトトギス』 第9巻第4号 1906年(明治39年)1月1日
- 12-3-18. 『ホトトギス』 第9巻第5号 1906年(明治39年)2月10日
- 12-3-19. 『ホトトギス』 第9巻第6号 1906年(明治39年)3月10日
- 12-3-20. 『ホトトギス』 第9巻第7号 1906年(明治39年)4月1日
- 12-3-21. 『ホトトギス』 第9巻第8号 1906年(明治39年)5月1日
- 12-3-22. 『ホトトギス』 第9巻第9号 1906年(明治39年)6月1日
- 12-3-23. 『ホトトギス』 第9巻第10号 1906年(明治39年)7月1日
- 12-3-24. 『ホトトギス』 第9巻第11号 1906年(明治39年)8月1日
- 12-3-25. 『ホトトギス』 第9巻第12号 1906年(明治39年)9月1日
- 12-3-26. 『解説「ホトトギス」複製版 別冊』 1973年3月25日 編集：瀬沼茂樹
発行：財団法人日本近代文学館
収録：三家素描—正岡子規・高浜虚子・河東碧梧桐(山本健吉)／夏目漱石とその
門下達(瀬沼茂樹)／「ホトトギス」と写生文(福田清人)／「ホトトギス」の俳
人たち(松井利彦)／「ホトトギス」の挿絵(匠秀夫)／明治のころ(荻原井泉水)
／大正時代の「ホトトギス」(水原秋桜子)／「ホトトギス」執筆者名簿(明治期)
- 12-4. 『「ホトトギス」複製版』 1973年5月25日 編集人：瀬沼茂樹 発行：財団法人
日本近代文学館
- 12-4-1. 『ホトトギス』 第10巻第1号 1906年(明治39年)10月1日
- 12-4-2. 『ホトトギス』 第10巻第2号 1906年(明治39年)11月1日
- 12-4-3. 『ホトトギス』 第10巻第3号 1906年(明治39年)12月1日
- 12-4-4. 『ホトトギス』 第10巻第4号 1907年(明治40年)1月1日
- 12-4-5. 『ホトトギス』 第10巻第5号 1907年(明治40年)2月1日
- 12-4-6. 『ホトトギス』 第10巻第6号 1907年(明治40年)3月1日
- 12-4-7. 『ホトトギス』 第10巻第7号 1907年(明治40年)4月1日
- 12-4-8. 『ホトトギス』 第10巻第8号 1907年(明治40年)5月1日
- 12-4-9. 『ホトトギス』 第10巻第9号 1907年(明治40年)6月1日
- 12-4-10. 『ホトトギス』 第10巻第10号 1907年(明治40年)7月1日
- 12-4-11. 『ホトトギス』 第10巻第11号 1907年(明治40年)8月1日
- 12-4-12. 『ホトトギス』 第10巻第12号 1907年(明治40年)9月1日
- 12-4-13. 『ホトトギス』 第11巻第1号 1907年(明治40年)10月1日
- 12-4-14. 『ホトトギス』 第11巻第2号 1907年(明治40年)11月1日
- 12-4-15. 『ホトトギス』 第11巻第3号 1907年(明治40年)12月1日
- 12-4-16. 『ホトトギス』 第11巻第4号 1908年(明治41年)1月1日

- 12-4-17. 『ホトトギス』 第11巻第5号 1908年(明治41年)2月1日
- 12-4-18. 『ホトトギス』 第11巻第6号 1908年(明治41年)3月1日
- 12-4-19. 『ホトトギス』 第11巻第7号 1908年(明治41年)4月1日
- 12-4-20. 『ホトトギス』 第11巻第8号 1908年(明治41年)5月1日
- 12-4-21. 『ホトトギス』 第11巻第9号 1908年(明治41年)6月1日
- 12-4-22. 『ホトトギス』 第11巻第10号 1908年(明治41年)7月1日
- 12-4-23. 『ホトトギス』 第11巻第11号 1908年(明治41年)8月1日
- 12-4-24. 『ホトトギス』 第11巻第12号 1908年(明治41年)9月1日
- 12-4. 『「ホトトギス」複製版』 1973年7月25日 編集人：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 12-5-1. 『ホトトギス』 第12巻第1号 1908年(明治41年)10月1日
- 12-5-2. 『ホトトギス』 第12巻第2号 1908年(明治41年)11月1日
- 12-5-3. 『ホトトギス』 第12巻第3号 1908年(明治41年)12月1日
- 12-5-4. 『ホトトギス』 第12巻第4号 1909年(明治42年)1月1日
- 12-5-5. 『ホトトギス』 第12巻第5号 1909年(明治42年)2月1日
- 12-5-6. 『ホトトギス』 第12巻第6号 1909年(明治42年)3月1日
- 12-5-7. 『ホトトギス』 第12巻第7号 1909年(明治42年)4月1日
- 12-5-8. 『ホトトギス』 第12巻第8号 1909年(明治42年)5月1日
- 12-5-9. 『ホトトギス』 第12巻第9号 1909年(明治42年)6月1日
- 12-5-10. 『ホトトギス』 第12巻第10号 1909年(明治42年)7月1日
- 12-5-11. 『ホトトギス』 第12巻第11号 1909年(明治42年)8月1日
- 12-5-12. 『ホトトギス』 第12巻第12号 1909年(明治42年)9月1日
- 12-5-13. 『ホトトギス』 第13巻第1号 1909年(明治42年)10月1日
- 12-5-14. 『ホトトギス』 第13巻第2号 1909年(明治42年)11月1日
- 12-5-15. 『ホトトギス』 第13巻第3号 1909年(明治42年)12月1日
- 12-5-16. 『ホトトギス』 第13巻第4号 1910年(明治43年)1月1日
- 12-5-17. 『ホトトギス』 第13巻第5号 1910年(明治43年)2月1日
- 12-5-18. 『ホトトギス』 第13巻第6号 1910年(明治43年)3月1日
- 12-5-19. 『ホトトギス』 第13巻第7号 1910年(明治43年)4月1日
- 12-5-20. 『ホトトギス』 第13巻第8号 定期増刊第1冊 1910年(明治43年)4月25日
- 12-5-21. 『ホトトギス』 第13巻第9号 1910年(明治43年)5月1日
- 12-5-22. 『ホトトギス』 第13巻第10号 1910年(明治43年)6月1日
- 12-5-23. 『ホトトギス』 第13巻第11号 定期増刊第2冊 1910年(明治43年)6月25日

- 12-5-24. 『ホトトギス』 第13巻第12号 1910年(明治43年)7月1日
- 12-5-25. 『ホトトギス』 第13巻第13号 1910年(明治43年)8月1日
- 12-5-26. 『ホトトギス』 第13巻第14号 1910年(明治43年)9月1日
- 12-6. 『「ホトトギス」複製版』 1973年9月25日 編集人：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 12-6-1. 『ホトトギス』 第14巻第1号 1910年(明治43年)10月1日
- 12-6-2. 『ホトトギス』 第14巻第2号 1910年(明治43年)11月1日
- 12-6-3. 『ホトトギス』 第14巻第3号 増刊第3冊 1910年(明治43年)11月15日
- 12-6-4. 『ホトトギス』 第14巻第4号 1910年(明治43年)12月1日
- 12-6-5. 『ホトトギス』 第14巻第5号 1911年(明治44年)1月1日
- 12-6-6. 『ホトトギス』 第14巻第6号 1911年(明治44年)2月1日
- 12-6-7. 『ホトトギス』 第14巻第7号 1911年(明治44年)3月1日
- 12-6-8. 『ホトトギス』 第14巻第8号 1911年(明治44年)4月1日
- 12-6-9. 『ホトトギス』 第14巻第9号 1911年(明治44年)4月18日
- 12-6-10. 『ホトトギス』 第14巻第10号 1911年(明治44年)5月1日
- 12-6-11. 『ホトトギス』 第14巻第11号 1911年(明治44年)6月1日
- 12-6-12. 『ホトトギス』 第14巻第12号 1911年(明治44年)7月1日
- 12-6-13. 『ホトトギス』 第14巻第13号 1911年(明治44年)8月1日
- 12-6-14. 『ホトトギス』 第14巻第14号 1911年(明治44年)9月1日
- 12-6-15. 『ホトトギス』 第15巻第1号 1911年(明治44年)10月10日
- 12-6-16. 『ホトトギス』 第15巻第2号 1911年(明治44年)11月1日
- 12-6-17. 『ホトトギス』 第15巻第3号 1911年(明治44年)12月1日
- 12-6-18. 『ホトトギス』 第15巻第4号 1912年(明治45年)1月1日
- 12-6-19. 『ホトトギス』 第15巻第5号 1912年(明治45年)2月1日
- 12-6-20. 『ホトトギス』 第15巻第6号 1912年(明治45年)3月1日
- 12-6-21. 『ホトトギス』 第15巻第7号 1912年(明治45年)4月1日
- 12-6-22. 『ホトトギス』 第15巻第8号 1912年(明治45年)5月5日
- 12-6-23. 『ホトトギス』 第15巻第9号 1912年(明治45年)6月1日
- 12-6-24. 『ホトトギス』 第15巻第10号 1912年(明治45年)7月1日
- 12-6-25. 『ホトトギス』 第15巻第11号 1912年(大正元年)8月3日
- 12-6-26. 『ホトトギス』 第15巻第12号 1912年(大正元年)9月1日
13. 『「白痴群」複製版』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 13-1. 『白痴群』 創刊号 1929年(昭和4年)4月1日

- 13-2. 『白痴群』 第2号 1929年(昭和4年)7月1日
- 13-3. 『白痴群』 第3号 1929年(昭和4年)9月1日
- 13-4. 『白痴群』 第4号 1929年(昭和4年)11月1日
- 13-5. 『白痴群』 第5号 1930年(昭和5年)1月1日
- 13-6. 『解説 「白痴群」復刻版 別冊』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：あやふやな記憶(古谷綱武)／中原中也との出会いと別れ(関口隆克)／思い出(河上徹太郎)／「白痴群」と中原中也(中村稔)／解説(大岡昇平)／執筆者索引
14. 『「文科」復刻版』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 14-1. 『文科』 第1輯 1931年(昭和6年)10月1日
- 14-2. 『文科』 第2輯 1931年(昭和6年)11月1日
- 14-3. 『文科』 第3輯 1931年(昭和6年)12月25日
- 14-4. 『文科』 第4輯 1932年(昭和7年)3月3日
- 14-5. 『解説 「文科」復刻版 別冊』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「文科」の頃(稲垣足穂)／牧野信一や稲垣足穂(衣巻省三)／坂口安吾と「文科」(奥野健男)／解説(保昌正夫)／執筆者索引
15. 『「山繭」復刻版』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 15-1. 『山繭』 第1号 1924年(大正13年)12月1日
- 15-2. 『山繭』 第2号 1925年(大正14年)1月1日
- 15-3. 『山繭』 第3号 1925年(大正14年)2月1日
- 15-4. 『山繭』 第4号 1925年(大正14年)3月5日
- 15-5. 『山繭』 第5号 1925年(大正14年)4月1日
- 15-6. 『山繭』 第6号 1925年(大正14年)5月1日
- 15-7. 『山繭』 第7号 1925年(大正14年)6月1日
- 15-8. 『山繭』 第8号 1925年(大正14年)9月5日
- 15-9. 『山繭』 第9号 1925年(大正14年)11月5日
- 15-10. 『山繭』 第10号 1926年(大正15年)3月1日
- 15-11. 『山繭』 第11号 1926年(大正15年)6月5日
- 15-12. 『山繭』 第12号 1926年(大正15年)7月15日
- 15-13. 『山繭』 第2巻第1号 1926年(大正15年)9月1日
- 15-14. 『山繭』 第2巻第2号 1926年(大正15年)10月1日

- 15-15. 『山繭』 第2卷第3號 1926年(大正15年)11月1日
15-16. 『山繭』 第2卷第4號 1926年(大正15年)12月1日
15-17. 『山繭』 第2卷第5號 1927年(大正16年)1月1日
15-18. 『山繭』 第2卷第6號 1927年(大正16年)2月1日
15-19. 『山繭』 第2卷第7號 1927年(大正16年)3月1日
15-20. 『山繭』 第2卷第8號 1927年(大正16年)5月1日
15-21. 『山繭』 第2卷第9號 1927年(大正16年)6月1日
15-22. 『山繭』 第2卷第10號 1927年(大正16年)7月15日
15-23. 『山繭』 第2卷第11號 1927年(大正16年)8月15日
15-24. 『山繭』 第2卷第12號 1927年(大正16年)10月15日
15-25. 『山繭』 第3卷第1號 1928年(大正17年)1月1日
15-26. 『山繭』 第3卷第2號 2月號 1928年(大正17年)2月1日
15-27. 『山繭』 第3卷第3號 3月號 1928年(大正17年)3月1日
15-28. 『山繭』 第3卷第4號 4月號 1928年(大正17年)4月1日
15-29. 『山繭』 第3卷第5號 5月號 1928年(大正17年)5月1日
15-30. 『山繭』 第3卷第6號 6月號 1928年(大正17年)6月1日
15-31. 『山繭』 第3卷第7號 7月號 1928年(大正17年)7月1日
15-32. 『山繭』 第3卷第8號 8月號 1928年(大正17年)8月1日
15-33. 『山繭』 第3卷第9號 10月號 1928年(大正17年)10月1日
15-34. 『山繭』 第3卷第10號 11月號 1928年(大正17年)11月1日
15-35. 『山繭』 第3卷第11號 12月號 1928年(大正17年)12月1日
15-36. 『山繭』 第4卷第1號 2月號 1929年(大正18年)2月1日
15-37. 『解説 「山繭」複刻版 別冊』 1974年1月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：
財団法人日本近代文学館

収録：追想(滝口修造)／思い出(河上徹太郎)／解説(小久保実)／執筆者索引

16. 『「青年文学」複刻版』 1975年2月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

- 16-1. 『青年文学』 第1號 1891年(明治24年)3月6日
16-2. 『青年文学』 第2號 1891年(明治24年)4月26日
16-3. 『青年文学』 第3號 1891年(明治24年)6月5日
16-4. 『青年文学』 第4號 1891年(明治24年)7月5日
16-5. 『青年文学』 第1 1891年(明治24年)11月15日
16-6. 『青年文学』 第2 1891年(明治24年)12月20日
16-7. 『青年文学』 第3 1892年(明治25年)1月17日
16-8. 『青年文学』 第4 1892年(明治25年)2月21日

- 16-9. 『青年文学』 第5 1892年(明治25年)3月20日
- 16-10. 『青年文学』 第6 1892年(明治25年)4月24日
- 16-11. 『青年文学』 第7 1892年(明治25年)5月15日
- 16-12. 『青年文学』 第8 1892年(明治25年)6月15日
- 16-13. 『青年文学』 第9 1892年(明治25年)7月15日
- 16-14. 『青年文学』 第10 1892年(明治25年)8月15日
- 16-15. 『青年文学』 第11 1892年(明治25年)9月15日
- 16-16. 『青年文学』 第12號 1892年(明治25年)10月15日
- 16-17. 『青年文学』 第13號 1892年(明治25年)11月15日
- 16-18. 『青年文学』 第14號 1892年(明治25年)12月15日
- 16-19. 『青年文学』 第15號 1893年(明治26年)1月15日
- 16-20. 『青年文学』 第16號 1893年(明治26年)2月20日
- 16-21. 『青年文学』 第17號 1893年(明治26年)3月20日
- 16-22. 『解説 「青年文学」復刻版 別冊』 1975年2月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「青年文学」と国木田独歩(中島健蔵)／国木田独歩と「青年文学」(福田清人)／文学史上の「青年文学」(小田切秀雄)／解説(稲垣達郎)／「青年文学」目次
17. 『人間』復刻版』 1975年2月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 17-1. 『人間』 創刊特別號 1919年(大正8年)11月10日
- 17-2. 『人間』 1月倍大號 1920年(大正9年)1月1日
- 17-3. 『人間』 2月號 1920年(大正9年)2月1日
- 17-4. 『人間』 4月特別號 1920年(大正9年)4月1日
- 17-5. 『人間』 5月號 1920年(大正9年)5月15日
- 17-6. 『人間』 6月號 1920年(大正9年)6月15日
- 17-7. 『人間』 7月號 1920年(大正9年)7月15日
- 17-8. 『人間』 9月號 1920年(大正9年)9月15日
- 17-9. 『人間』 11月號 1920年(大正9年)11月1日
- 17-10. 『人間』 1月特別號 1921年(大正10年)1月1日
- 17-11. 『人間』 2月號 1921年(大正10年)2月1日
- 17-12. 『人間』 3月號 1921年(大正10年)3月1日
- 17-13. 『人間』 4月號 1921年(大正10年)4月1日
- 17-14. 『人間』 5月號 第3卷第5號 1921年(大正10年)5月1日
- 17-15. 『人間』 6月號 第3卷第6號 1921年(大正10年)6月1日
- 17-16. 『人間』 7月號 第3卷第7號 1921年(大正10年)7月1日

- 17-17. 『人間』 8月號 第3卷第8號 1921年(大正10年)8月1日
- 17-18. 『人間』 9月號 第3卷第9號 1921年(大正10年)9月1日
- 17-19. 『人間』 10月號 第3卷第10號 1921年(大正10年)10月1日
- 17-20. 『人間』 11月號 第3卷第11號 1921年(大正10年)11月1日
- 17-21. 『人間』 1月號 第4卷第1號 1922年(大正11年)1月1日
- 17-22. 『人間』 2月號 第4卷第2號 1922年(大正11年)2月1日
- 17-23. 『人間』 3月號 第4卷第3號 1922年(大正11年)3月1日
- 17-24. 『人間』 6月號 第4卷第6號 1922年(大正11年)6月1日
- 17-25. 『解説 「人間」復刻版 別冊』 1975年2月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館／小田切進
収録：不死鳥(里見弴)／「人間」を語る(聞き書き)(里見弴／聞き手 紅野敏郎)／僕と雑誌「人間」(金子光晴)／処女作「父」の回想(瀧井孝作)／解説(紅野敏郎)／執筆者索引
18. 『「文學界」復刻版』 1975年2月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 18-1. 『文學界』 第1卷第1號 創刊號 1933年(昭和8年)10月1日
- 18-2. 『文學界』 第1卷第2號 11月號 1933年(昭和8年)11月1日
- 18-3. 『文學界』 第1卷第3號 12月號 1933年(昭和8年)12月1日
- 18-4. 『文學界』 第2卷第1號 1月號 1934年(昭和9年)1月1日
- 18-5. 『文學界』 第2卷第1號 2月號 1934年(昭和9年)2月1日
- 18-6. 『文學界』 第1卷第1號 復活號 1934年(昭和9年)6月1日
- 18-7. 『文學界』 第1卷第2號 7月號 1934年(昭和9年)7月1日
- 18-8. 『文學界』 第1卷第3號 8月號 1934年(昭和9年)8月1日
- 18-9. 『文學界』 第1卷第4號 9月號 1934年(昭和9年)9月10日
- 18-10. 『文學界』 第2卷第1號 1月號 1935年(昭和10年)1月1日
- 18-11. 『文學界』 第2卷第2號 2月號 1935年(昭和10年)2月1日
- 18-12. 『文學界』 第2卷第3號 3月號 1935年(昭和10年)3月1日
- 18-13. 『文學界』 第2卷第4號 4月號 1935年(昭和10年)4月1日
- 18-14. 『文學界』 第2卷第5號 5月號 1935年(昭和10年)5月1日
- 18-15. 『文學界』 第2卷第6號 6月號 1935年(昭和10年)6月1日
- 18-16. 『文學界』 第2卷第8號 8月號 1935年(昭和10年)8月1日
- 18-17. 『文學界』 第2卷第8號 9月號 1935年(昭和10年)9月1日
- 18-18. 『文學界』 第2卷第9號 10月號 1935年(昭和10年)10月1日
- 18-19. 『文學界』 第2卷第10號 11月號 1935年(昭和10年)11月1日
- 18-20. 『文學界』 第3卷第1號 1月號 1936年(昭和11年)1月1日

- 18-21. 『文學界』 第3卷第2號 2月號 1936年(昭和11年)2月1日
- 18-22. 『文學界』 第3卷第3號 3月號 1936年(昭和11年)3月1日
- 18-23. 『文學界』 第3卷第4號 4月號 1936年(昭和11年)4月1日
- 18-24. 『文學界』 第3卷第5號 5月號 1936年(昭和11年)5月1日
- 18-25. 『文學界』 第3卷第6號 6月號 1936年(昭和11年)6月1日
- 18-26. 『解説 「文学界」復刻版 別冊』 1976年6月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「文学界」創刊の頃(林房雄)／「文学界」の思い出(河上徹太郎)／文芸時評執筆の頃(中村光夫)／「文学界」創刊の思い出(田中直樹)／文圃堂内輪話(野々上慶一)／解説(小田切進)／執筆者索引
19. 『「鷗」復刻版』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 19-1. 『鷗』 第1輯 1934年(昭和9年)4月11日
- 19-2. 『鷗』 第2輯 1934年(昭和9年)7月1日
- 19-3. 『解説 「鷗」復刻版 別冊』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「鷗」創刊の頃(尾崎一雄)／「鷗」刊行の頃の思い出(古谷綱武)／「鷗」発行の頃(古谷綱正)／解説(奥野健男)
20. 『「文藝市場」復刻版』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館／小田切進
- 20-1. 『文藝市場』 第1巻第1號 1925年(大正14年)11月1日
- 20-2. 『文藝市場』 第1巻第2號 1925年(大正14年)12月1日
- 20-3. 『文藝市場』 第2巻第1號 1926年(大正15年)1月1日
- 20-4. 『文藝市場』 第2巻第2號 1926年(大正15年)2月1日
- 20-5. 『文藝市場』 第2巻第3號 1926年(大正15年)3月1日
- 20-6. 『文藝市場』 4月倍大號 1926年(大正15年)4月1日
- 20-7. 『文藝市場』 5月新緑號 1926年(大正15年)5月1日
- 20-8. 『文藝市場』 6月特輯號 1926年(大正15年)6月1日
- 20-9. 『文藝市場』 夏季倍大號 1926年(大正15年)7月1日
- 20-10. 『文藝市場』 8月號 1926年(大正15年)8月1日
- 20-11. 『文藝市場』 9月號 1926年(大正15年)9月1日
- 20-12. 『文藝市場』 10月號 1926年(大正15年)10月1日
- 20-13. 『文藝市場』 11月號 1926年(大正15年)11月1日
- 20-14. 『文藝市場』 12月號 1926年(大正15年)12月1日
- 20-15. 『文藝市場』 1月號 1927年(大正16年)1月1日

- 20-16. 『文藝市場』 2月號 1927年(昭和2年)2月1日
- 20-17. 『文藝市場』 3月號 1927年(昭和2年)3月1日
- 20-18. 『文藝市場』 4月號 1927年(昭和2年)4月1日
- 20-19. 『文藝市場』 5月號 1927年(昭和2年)5月1日
- 20-20. 『解説 「文藝市場」復刻版 別冊』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：梅原北明と「文芸市場」(金子洋文)／「文芸市場」のころ(村山知義)／父・梅原北明(梅原正紀)／解説(瀬沼茂樹)／執筆者索引
21. 『「よしあし草」「関西文學」復刻版』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：日本近代文学館
- 21-1. 『よしあし草』 第1巻第1號 1897年(明治30年)7月18日
- 21-2. 『よしあし草』 第1巻第2號 1897年(明治30年)9月25日
- 21-3. 『よしあし草』 第1巻第3號 1897年(明治30年)11月20日
- 21-4. 『よしあし草』 第2巻第1號 1898年(明治31年)1月26日
- 21-5. 『よしあし草』 第2巻第2號 1898年(明治31年)3月26日
- 21-6. 『よしあし草』 第6號 1898年(明治31年)6月
- 21-7. 『よしあし草』 第7號 1898年(明治31年)7月31日
- 21-8. 『よしあし草』 第8號 1898年(明治31年)8月27日
- 21-9. 『よしあし草』 第9號 1898年(明治31年)11月3日
- 21-10. 『よしあし草』 第2巻第10號 1898年(明治31年)12月20日
- 21-11. 『よしあし草』 第10號 1899年(明治32年)1月25日
- 21-12. 『よしあし草』 第11號 1899年(明治32年)2月25日
- 21-13. 『よしあし草』 第12號 1899年(明治32年)3月25日
- 21-14. 『よしあし草』 第13號 1899年(明治32年)4月25日
- 21-15. 『よしあし草』 第14號 1899年(明治32年)5月25日
- 21-16. 『よしあし草』 第15號 1899年(明治32年)6月25日
- 21-17. 『よしあし草』 第16號 1899年(明治32年)7月25日
- 21-18. 『よしあし草』 第17號 1899年(明治32年)8月25日
- 21-19. 『よしあし草』 第18號 1899年(明治32年)9月20日
- 21-20. 『よしあし草』 第19號 1899年(明治32年)10月25日
- 21-21. 『よしあし草』 第20號 1899年(明治32年)11月29日
- 21-22. 『よしあし草』 第21號 1899年(明治32年)12月27日
- 21-23. 『よしあし草』 第22號 1900年(明治33年)1月28日
- 21-24. 『よしあし草』 第23號 1900年(明治33年)2月20日
- 21-25. 『よしあし草』 第24號 1900年(明治33年)3月20日

- 21-26. 『よしあし草』 第25号 1900年(明治33年)4月30日
- 21-27. 『よしあし草』 第26号 1900年(明治33年)6月15日
- 21-28. 『関西文学』 第27号 1900年(明治33年)8月10日
- 21-29. 『関西文学』 第28号 1900年(明治33年)9月10日
- 21-30. 『関西文学』 第29号 1900年(明治33年)10月10日
- 21-31. 『関西文学』 第30号 1900年(明治33年)11月10日
- 21-32. 『関西文学』 第31号 1900年(明治33年)12月10日
- 21-33. 『関西文学』 第32号 1901年(明治34年)2月20日
- 21-34. 『初がすみ』 1901年(明治34年)1月2日
- 21-35. 『解説 「よしあし草」「関西文学」復刻版 別冊』 1976年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：日本近代文学館
収録：酔茗書庫より(島本久恵)／小林天眠と堀部靖文(藤田福夫)／明治浪華騒壇(谷澤永一)／「よしあし草」「関西文学」の解題(明石利代)／解説(小島吉雄)／目次
22. 『「新興文学」復刻版』 1977年10月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 22-1. 『新興文学』 創刊号 1922年(大正11年)11月1日
- 22-2. 『新興文学』 12月号 第1巻第2号 1922年(大正11年)12月1日
- 22-3. 『新興文学』 新年特大号 大正12年3月号 1923年(大正12年)1月1日
- 22-4. 『新興文学』 3月号 大正12年3月号 1923年(大正12年)3月1日
- 22-5. 『新興文学』 4月号 階級藝術確立号 1923年(大正12年)4月1日
- 22-6. 『新興文学』 5月号 既成文壇破壊号 1923年(大正12年)5月1日
- 22-7. 『新興文学』 6月号 階級文壇白熱号 1923年(大正12年)6月1日
- 22-8. 『新興文学』 7月号 新傾向藝術号 1923年(大正12年)7月1日
- 22-9. 『新興文学』 8月号 新進作家号 1923年(大正12年)8月1日
- 22-10. 『解説 「新興文学」復刻版 別冊』 1977年10月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「新興文学」が世に出るまで(山田清三郎)／「新興文学」当時の追想(伊藤=)／「新興文学」と日本的爆発性(金子洋文)／解説(西田勝)
23. 『「銅鑼」復刻版』 1978年3月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 23-1. 『銅鑼』 第1号 1925年(大正14年)4月
- 23-2. 『銅鑼』 第2号 1925年(大正14年)5月
- 23-3. 『銅鑼』 第3号 1925年(大正14年)
- 23-4. 『銅鑼』 第4号 1925年(大正14年)9月8日

- 23-5. 『銅鑼』 第5號 1925年（大正14年）10月27日
- 23-6. 『銅鑼』 第6號 1926年（大正15年）1月1日
- 23-7. 『銅鑼』 第7號 1926年（大正15年）8月1日
- 23-8. 『銅鑼』 第8號 1926年（大正15年）
- 23-9. 『銅鑼』 第9號 1926年（大正15年）12月1日
- 23-10. 『銅鑼』 第10號 1927年（昭和2年）2月21日
- 23-11. 『銅鑼』 第11號 1927年（昭和2年）6月1日
- 23-12. 『銅鑼』 第12號 1927年（昭和2年）9月1日
- 23-13. 『銅鑼』 第13號 1928年（昭和3年）2月1日
- 23-14. 『銅鑼』 第14號 1928年（昭和3年）3月10日
- 23-15. 『銅鑼』 第15號 1928年（昭和3年）5月1日
- 23-16. 『銅鑼』 第16號 1928年（昭和3年）6月1日
- 23-17. 『解説 「銅鑼」復刻版 別冊』 1978年3月1日 編集：瀬沼茂樹 発行：
財団法人日本近代文学館
収録：銅鑼に就いての私的回想（草野心平）／私の「銅鑼時代」（小野十三郎）／解説
——次代からの回想（伊藤信吉）／「銅鑼」細目
24. 『『赤い鳥』復刻版』 1979年2月10日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代
文学館
- 24-1. 『赤い鳥』 第1巻第1號 1918年（大正7年）7月1日
- 24-2. 『赤い鳥』 第1巻第2號 1918年（大正7年）8月1日
- 24-3. 『赤い鳥』 第1巻第3號 1918年（大正7年）9月1日
- 24-4. 『赤い鳥』 第1巻第4號 1918年（大正7年）10月1日
- 24-5. 『赤い鳥』 第1巻第5號 1918年（大正7年）11月1日
- 24-6. 『赤い鳥』 第1巻第6號 1918年（大正7年）12月1日
- 24-7. 『赤い鳥』 第2巻第1號 1919年（大正8年）1月1日
- 24-8. 『赤い鳥』 第2巻第2號 特別號 1919年（大正8年）1月15日
- 24-9. 『赤い鳥』 第2巻第3號 1919年（大正8年）3月1日
- 24-10. 『赤い鳥』 第2巻第4號 1919年（大正8年）4月1日
- 24-11. 『赤い鳥』 第2巻第5號 1919年（大正8年）5月1日
- 24-12. 『赤い鳥』 第2巻第6號 1919年（大正8年）6月1日
- 24-13. 『赤い鳥』 第3巻第1號 1919年（大正8年）7月1日
- 24-14. 『赤い鳥』 第3巻第2號 1919年（大正8年）8月1日
- 24-15. 『赤い鳥』 第3巻第3號 1919年（大正8年）9月1日
- 24-16. 『赤い鳥』 第3巻第4號 1919年（大正8年）10月1日
- 24-17. 『赤い鳥』 第3巻第5號 1919年（大正8年）11月1日

24-18.	『赤い鳥』	第3巻第6號	1919年（大正8年）12月1日
24-19.	『赤い鳥』	第4巻第1號	1920年（大正9年）1月1日
24-20.	『赤い鳥』	第4巻第2號	1920年（大正9年）2月1日
24-21.	『赤い鳥』	第4巻第3號	1920年（大正9年）3月1日
24-22.	『赤い鳥』	第4巻第4號	1920年（大正9年）4月1日
24-23.	『赤い鳥』	第4巻第5號	1920年（大正9年）5月1日
24-24.	『赤い鳥』	第4巻第6號	1920年（大正9年）6月1日
24-25.	『赤い鳥』	第5巻第1號	1920年（大正9年）7月1日
24-26.	『赤い鳥』	第5巻第2號	1920年（大正9年）8月1日
24-27.	『赤い鳥』	第5巻第3號	1920年（大正9年）9月1日
24-28.	『赤い鳥』	第5巻第4號	1920年（大正9年）10月1日
24-29.	『赤い鳥』	第5巻第5號	1920年（大正9年）11月1日
24-30.	『赤い鳥』	第5巻第6號	1920年（大正9年）12月1日
24-31.	『赤い鳥』	第6巻第1號	1921年（大正10年）1月1日
24-32.	『赤い鳥』	第6巻第2號	1921年（大正10年）2月1日
24-33.	『赤い鳥』	第6巻第3號	1921年（大正10年）3月1日
24-34.	『赤い鳥』	第6巻第4號	1921年（大正10年）4月1日
24-35.	『赤い鳥』	第6巻第5號	1921年（大正10年）5月1日
24-36.	『赤い鳥』	第6巻第6號	1921年（大正10年）6月1日
24-37.	『赤い鳥』	第7巻第1號	1921年（大正10年）7月1日
24-38.	『赤い鳥』	第7巻第2號	1921年（大正10年）8月1日
24-39.	『赤い鳥』	第7巻第3號	1921年（大正10年）9月1日
24-40.	『赤い鳥』	第7巻第4號	1921年（大正10年）10月1日
24-41.	『赤い鳥』	第7巻第5號	1921年（大正10年）11月1日
24-42.	『赤い鳥』	第7巻第6號	1921年（大正10年）12月1日
24-43.	『赤い鳥』	第8巻第1號	1922年（大正11年）1月1日
24-44.	『赤い鳥』	第8巻第2號	1922年（大正11年）2月1日
24-45.	『赤い鳥』	第8巻第3號	1922年（大正11年）3月1日
24-46.	『赤い鳥』	第8巻第4號	1922年（大正11年）4月1日
24-47.	『赤い鳥』	第8巻第5號	1922年（大正11年）5月1日
24-48.	『赤い鳥』	第8巻第6號	1922年（大正11年）6月1日
24-49.	『赤い鳥』	第9巻第1號	1922年（大正11年）7月1日
24-50.	『赤い鳥』	第9巻第2號	1922年（大正11年）8月1日
24-51.	『赤い鳥』	第9巻第3號	1922年（大正11年）9月1日
24-52.	『赤い鳥』	第9巻第4號	1922年（大正11年）10月1日

24-53. 『赤い鳥』 第9巻第5號 1922年（大正11年）11月1日
24-54. 『赤い鳥』 第9巻第6號 1922年（大正11年）12月1日
24-55. 『赤い鳥』 第10巻第1號 1923年（大正12年）1月1日
24-56. 『赤い鳥』 第10巻第2號 1923年（大正12年）2月1日
24-57. 『赤い鳥』 第10巻第3號 1923年（大正12年）3月1日
24-58. 『赤い鳥』 第10巻第4號 1923年（大正12年）4月1日
24-59. 『赤い鳥』 第10巻第5號 1923年（大正12年）5月1日
24-60. 『赤い鳥』 第10巻第6號 1923年（大正12年）6月1日
24-61. 『赤い鳥』 第11巻第1號 1923年（大正12年）7月1日
24-62. 『赤い鳥』 第11巻第2號 1923年（大正12年）8月1日
24-63. 『赤い鳥』 第11巻第3號 1923年（大正12年）9月1日
24-64. 『赤い鳥』 第11巻第4號 1923年（大正12年）11月1日
24-65. 『赤い鳥』 第12巻第1號 1924年（大正13年）1月1日
24-66. 『赤い鳥』 第12巻第2號 1924年（大正13年）2月1日
24-67. 『赤い鳥』 第12巻第3號 1924年（大正13年）3月1日
24-68. 『赤い鳥』 第12巻第4號 1924年（大正13年）4月1日
24-69. 『赤い鳥』 第12巻第5號 1924年（大正13年）5月1日
24-70. 『赤い鳥』 第12巻第6號 1924年（大正13年）6月1日
24-71. 『赤い鳥』 第13巻第1號 1924年（大正13年）7月1日
24-72. 『赤い鳥』 第13巻第2號 1924年（大正13年）8月1日
24-73. 『赤い鳥』 第13巻第3號 1924年（大正13年）9月1日
24-74. 『赤い鳥』 第13巻第4號 1924年（大正13年）10月1日
24-75. 『赤い鳥』 第13巻第5號 1924年（大正13年）11月1日
24-76. 『赤い鳥』 第13巻第6號 1924年（大正13年）12月1日
24-77. 『赤い鳥』 第14巻第1號 1925年（大正14年）1月1日
24-78. 『赤い鳥』 第14巻第2號 1925年（大正14年）2月1日
24-79. 『赤い鳥』 第14巻第3號 1925年（大正14年）3月1日
24-80. 『赤い鳥』 第14巻第4號 1925年（大正14年）4月1日
24-81. 『赤い鳥』 第14巻第5號 1925年（大正14年）5月1日
24-82. 『赤い鳥』 第14巻第6號 1925年（大正14年）6月1日
24-83. 『赤い鳥』 第15巻第1號 1925年（大正14年）7月1日
24-84. 『赤い鳥』 第15巻第2號 1925年（大正14年）8月1日
24-85. 『赤い鳥』 第15巻第3號 1925年（大正14年）9月1日
24-86. 『赤い鳥』 第15巻第4號 1925年（大正14年）10月1日
24-87. 『赤い鳥』 第15巻第5號 1925年（大正14年）11月1日

24-88.	『赤い鳥』	第 15 卷第 6 號	1925 年 (大正 14 年) 12 月 1 日
24-89.	『赤い鳥』	第 16 卷第 1 號	1926 年 (大正 15 年) 1 月 1 日
24-90.	『赤い鳥』	第 16 卷第 2 號	1926 年 (大正 15 年) 2 月 1 日
24-91.	『赤い鳥』	第 16 卷第 3 號	1926 年 (大正 15 年) 3 月 1 日
24-92.	『赤い鳥』	第 16 卷第 4 號	1926 年 (大正 15 年) 4 月 1 日
24-93.	『赤い鳥』	第 16 卷第 5 號	1926 年 (大正 15 年) 5 月 1 日
24-94.	『赤い鳥』	第 16 卷第 6 號	1926 年 (大正 15 年) 6 月 1 日
24-95.	『赤い鳥』	第 17 卷第 1 號	1926 年 (大正 15 年) 7 月 1 日
24-96.	『赤い鳥』	第 17 卷第 2 號	1926 年 (大正 15 年) 8 月 1 日
24-97.	『赤い鳥』	第 17 卷第 3 號	1926 年 (大正 15 年) 9 月 1 日
24-98.	『赤い鳥』	第 17 卷第 4 號	1926 年 (大正 15 年) 10 月 1 日
24-99.	『赤い鳥』	第 17 卷第 5 號	1926 年 (大正 15 年) 11 月 1 日
24-100.	『赤い鳥』	第 17 卷第 6 號	1926 年 (大正 15 年) 12 月 1 日
24-101.	『赤い鳥』	第 18 卷第 1 號	1927 年 (大正 16 年) 1 月 1 日
24-102.	『赤い鳥』	第 18 卷第 2 號	1927 年 (昭和 2 年) 2 月 1 日
24-103.	『赤い鳥』	第 18 卷第 3 號	1927 年 (昭和 2 年) 3 月 1 日
24-104.	『赤い鳥』	第 18 卷第 4 號	1927 年 (昭和 2 年) 4 月 1 日
24-105.	『赤い鳥』	第 18 卷第 5 號	1927 年 (昭和 2 年) 5 月 1 日
24-106.	『赤い鳥』	第 18 卷第 6 號	1927 年 (昭和 2 年) 6 月 1 日
24-107.	『赤い鳥』	第 19 卷第 1 號	1927 年 (昭和 2 年) 7 月 1 日
24-108.	『赤い鳥』	第 19 卷第 2 號	1927 年 (昭和 2 年) 8 月 1 日
24-109.	『赤い鳥』	第 19 卷第 3 號	1927 年 (昭和 2 年) 9 月 1 日
24-110.	『赤い鳥』	第 19 卷第 4 號	1927 年 (昭和 2 年) 10 月 1 日
24-111.	『赤い鳥』	第 19 卷第 5 號	1927 年 (昭和 2 年) 11 月 1 日
24-112.	『赤い鳥』	第 19 卷第 6 號	1927 年 (昭和 2 年) 12 月 1 日
24-113.	『赤い鳥』	第 20 卷第 1 號	1928 年 (昭和 3 年) 1 月 1 日
24-114.	『赤い鳥』	第 20 卷第 2 號	1928 年 (昭和 3 年) 2 月 1 日
24-115.	『赤い鳥』	第 20 卷第 3 號	1928 年 (昭和 3 年) 3 月 1 日
24-116.	『赤い鳥』	第 20 卷第 4 號	1928 年 (昭和 3 年) 4 月 1 日
24-117.	『赤い鳥』	第 20 卷第 5 號	1928 年 (昭和 3 年) 5 月 1 日
24-118.	『赤い鳥』	第 20 卷第 6 號	1928 年 (昭和 3 年) 6 月 1 日
24-119.	『赤い鳥』	第 21 卷第 1 號	1928 年 (昭和 3 年) 7 月 1 日
24-120.	『赤い鳥』	第 21 卷第 2 號	1928 年 (昭和 3 年) 8 月 1 日
24-121.	『赤い鳥』	第 21 卷第 3 號	1928 年 (昭和 3 年) 9 月 1 日
24-122.	『赤い鳥』	第 21 卷第 4 號	1928 年 (昭和 3 年) 10 月 1 日

24-123. 『赤い鳥』 第 21 卷第 5 號 1928 年 (昭和 3 年) 11 月 1 日
24-124. 『赤い鳥』 第 21 卷第 6 號 1928 年 (昭和 3 年) 12 月 1 日
24-125. 『赤い鳥』 第 22 卷第 1 號 1929 年 (昭和 4 年) 1 月 1 日
24-126. 『赤い鳥』 第 22 卷第 2 號 1929 年 (昭和 4 年) 2 月 1 日
24-127. 『赤い鳥』 第 22 卷第 3 號 1929 年 (昭和 4 年) 3 月 1 日
24-128. 『赤い鳥』 第 1 卷第 1 號 1931 年 (昭和 6 年) 1 月 1 日
24-129. 『赤い鳥』 第 1 卷第 2 號 1931 年 (昭和 6 年) 2 月 1 日
24-130. 『赤い鳥』 第 1 卷第 3 號 1931 年 (昭和 6 年) 3 月 1 日
24-131. 『赤い鳥』 第 1 卷第 4 號 1931 年 (昭和 6 年) 4 月 1 日
24-132. 『赤い鳥』 第 1 卷第 5 號 1931 年 (昭和 6 年) 5 月 1 日
24-133. 『赤い鳥』 第 1 卷第 6 號 1931 年 (昭和 6 年) 6 月 1 日
24-134. 『赤い鳥』 第 2 卷第 1 號 1931 年 (昭和 6 年) 7 月 1 日
24-135. 『赤い鳥』 第 2 卷第 2 號 1931 年 (昭和 6 年) 8 月 1 日
24-136. 『赤い鳥』 第 2 卷第 3 號 1931 年 (昭和 6 年) 9 月 1 日
24-137. 『赤い鳥』 第 2 卷第 4 號 1931 年 (昭和 6 年) 10 月 1 日
24-138. 『赤い鳥』 第 2 卷第 5 號 1931 年 (昭和 6 年) 11 月 1 日
24-139. 『赤い鳥』 第 2 卷第 6 號 1931 年 (昭和 6 年) 12 月 1 日
24-140. 『赤い鳥』 第 3 卷第 1 號 1932 年 (昭和 7 年) 1 月 1 日
24-141. 『赤い鳥』 第 3 卷第 2 號 1932 年 (昭和 7 年) 2 月 1 日
24-142. 『赤い鳥』 第 3 卷第 3 號 1932 年 (昭和 7 年) 3 月 1 日
24-143. 『赤い鳥』 第 3 卷第 4 號 1932 年 (昭和 7 年) 4 月 1 日
24-144. 『赤い鳥』 第 3 卷第 5 號 1932 年 (昭和 7 年) 5 月 1 日
24-145. 『赤い鳥』 第 3 卷第 6 號 1932 年 (昭和 7 年) 6 月 1 日
24-146. 『赤い鳥』 第 4 卷第 1 號 1932 年 (昭和 7 年) 7 月 1 日
24-147. 『赤い鳥』 第 4 卷第 2 號 1932 年 (昭和 7 年) 8 月 1 日
24-148. 『赤い鳥』 第 4 卷第 3 號 1932 年 (昭和 7 年) 9 月 1 日
24-149. 『赤い鳥』 第 4 卷第 4 號 1932 年 (昭和 7 年) 10 月 1 日
24-150. 『赤い鳥』 第 4 卷第 5 號 1932 年 (昭和 7 年) 11 月 1 日
24-151. 『赤い鳥』 第 4 卷第 6 號 1932 年 (昭和 7 年) 12 月 1 日
24-152. 『赤い鳥』 第 5 卷第 1 號 1933 年 (昭和 8 年) 1 月 1 日
24-153. 『赤い鳥』 第 5 卷第 2 號 1933 年 (昭和 8 年) 2 月 1 日
24-154. 『赤い鳥』 第 5 卷第 3 號 1933 年 (昭和 8 年) 3 月 1 日
24-155. 『赤い鳥』 第 5 卷第 4 號 1933 年 (昭和 8 年) 4 月 1 日
24-156. 『赤い鳥』 第 5 卷第 5 號 1933 年 (昭和 8 年) 5 月 1 日
24-157. 『赤い鳥』 第 5 卷第 6 號 1933 年 (昭和 8 年) 6 月 1 日

24-158. 『赤い鳥』 第6巻第1號 1933年(昭和8年)7月1日
24-159. 『赤い鳥』 第6巻第2號 1933年(昭和8年)8月1日
24-160. 『赤い鳥』 第6巻第3號 1933年(昭和8年)9月1日
24-161. 『赤い鳥』 第6巻第4號 1933年(昭和8年)10月1日
24-162. 『赤い鳥』 第6巻第5號 1933年(昭和8年)11月1日
24-163. 『赤い鳥』 第6巻第6號 1933年(昭和8年)12月1日
24-164. 『赤い鳥』 第7巻第1號 1934年(昭和9年)1月1日
24-165. 『赤い鳥』 第7巻第2號 1934年(昭和9年)2月1日
24-166. 『赤い鳥』 第7巻第3號 1934年(昭和9年)3月1日
24-167. 『赤い鳥』 第7巻第4號 1934年(昭和9年)4月1日
24-168. 『赤い鳥』 第7巻第5號 1934年(昭和9年)5月1日
24-169. 『赤い鳥』 第7巻第6號 1934年(昭和9年)6月1日
24-170. 『赤い鳥』 第8巻第1號 1934年(昭和9年)7月1日
24-171. 『赤い鳥』 第8巻第2號 1934年(昭和9年)8月1日
24-172. 『赤い鳥』 第8巻第3號 1934年(昭和9年)9月1日
24-173. 『赤い鳥』 第8巻第4號 1934年(昭和9年)10月1日
24-174. 『赤い鳥』 第8巻第5號 1934年(昭和9年)11月1日
24-175. 『赤い鳥』 第8巻第6號 1934年(昭和9年)12月1日
24-176. 『赤い鳥』 第9巻第1號 1935年(昭和10年)1月1日
24-177. 『赤い鳥』 第9巻第2號 1935年(昭和10年)2月1日
24-178. 『赤い鳥』 第9巻第3號 1935年(昭和10年)3月1日
24-179. 『赤い鳥』 第9巻第4號 1935年(昭和10年)4月1日
24-180. 『赤い鳥』 第9巻第5號 1935年(昭和10年)5月1日
24-181. 『赤い鳥』 第9巻第6號 1935年(昭和10年)6月1日
24-182. 『赤い鳥』 第10巻第1號 1936年(昭和10年)7月1日
24-183. 『赤い鳥』 第10巻第2號 1936年(昭和10年)8月1日
24-184. 『赤い鳥』 第10巻第3號 1936年(昭和10年)9月1日
24-185. 『赤い鳥』 第10巻第4號 1936年(昭和10年)10月1日
24-186. 『赤い鳥』 第10巻第5號 1936年(昭和10年)11月1日
24-187. 『赤い鳥』 第10巻第6號 1936年(昭和10年)12月1日
24-188. 『赤い鳥』 第11巻第1號 1936年(昭和11年)1月1日
24-189. 『赤い鳥』 第11巻第2號 1936年(昭和11年)2月1日
24-190. 『赤い鳥』 第11巻第3號 1936年(昭和11年)3月1日
24-191. 『赤い鳥』 第11巻第4號 1936年(昭和11年)4月1日
24-192. 『赤い鳥』 第11巻第5號 1936年(昭和11年)5月1日

- 24-193. 『赤い鳥』 第11巻第6号 1936年(昭和11年)6月1日
24-194. 『赤い鳥』 第12巻第1号 1936年(昭和11年)7月1日
24-195. 『赤い鳥』 第12巻第2号 1936年(昭和11年)8月1日
24-196. 『赤い鳥』 第12巻第3号 1936年(昭和11年)10月1日
24-197. 『「赤い鳥」複製版 解説・執筆者索引』 1979年2月10日 編集：瀬沼茂樹
発行：財団法人日本近代文学館

収録：刊行にあたって(小田切進)／解説〈「赤い鳥」総論(福田清人)／「赤い鳥」の童話(関英雄)／「赤い鳥」の童謡と音楽(藤田圭雄)／「赤い鳥」の童謡劇(富田博之)／「赤い鳥」の綴方・児童自由詩(滑川道夫)／「赤い鳥」の児童出版美術(上笙一郎)／最近の研究文献について(鳥越信)／「赤い鳥」の思い出(三重吉二面(小島政二郎)／鈴木三重吉を想う(清水良雄)／三重吉さんの来訪(西條八十)／晩酌一升(坪田穰治)／「赤い鳥」回顧(近衛秀麿)／「赤い鳥」の挿絵を描いて(深沢省三)／「赤い鳥」復刊の頃(与田準一)／投稿した頃(巽聖歌)／赤い鳥賞(木俣修)／懐しいあの頃(前島とも)／父と「赤い鳥」と私(鈴木珊吉)／三重吉おじさま(北原隆太郎)／清水先生の思い出(甲斐信枝)／この複製版について／執筆者索引

25. 『「新生」複製版』 1980年11月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

- 25-1. 『新生』 創刊号 1945年(昭和20年)11月1日
25-2. 『新生』 第1巻第2号 1945年(昭和20年)12月1日
25-3. 『新生』 第2巻第1号 1946年(昭和21年)1月1日
25-4. 『新生』 第2巻第2号 1946年(昭和21年)2月1日
25-5. 『新生』 第2巻第3号 1946年(昭和21年)3月1日
25-6. 『新生』 第2巻第4号 1946年(昭和21年)4月1日
25-7. 『新生』 第2巻第5号 1946年(昭和21年)5月1日
25-8. 『新生』 第2巻第6号 1946年(昭和21年)6月1日
25-9. 『新生』 第2巻第7号 1946年(昭和21年)7月1日
25-10. 『新生』 第2巻第8号 1946年(昭和21年)8月1日
25-11. 『新生』 第2巻第9号 1946年(昭和21年)9月1日
25-12. 『新生』 増刊小説特輯第2号 1946年(昭和21年)10月15日
25-13. 『新生』 第2巻第10号 1946年(昭和21年)11月1日
25-14. 『新生』 第2巻第12号 1946年(昭和21年)12月1日
25-15. 『新生』 第3巻第1号 1947年(昭和22年)1月1日
25-16. 『新生』 第3巻第2・3月合併号 1946年(昭和21年)3月1日
25-17. 『「新生」複製版 別冊解説』 1980年11月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財

団法人日本近代文学館

収録：新生 青山虎之助君 藪枯（里見淳）／「新生」の表紙（中川一政）／「新生」
創刊の頃（小島政二郎）／「新生」の創刊（青山虎之助）／宇野先生の二十一年頃（水
上勉）／解説（瀬沼茂樹）／「新生」細目

26. 『「世代」複製版』 1980年11月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代
文学館

- 26-1. 『世代』 第1巻第1号 創刊号 1946年（昭和21年）7月1日
26-2. 『世代』 第1巻第2号 第2号 1946年（昭和21年）8月1日
26-3. 『世代』 第1巻第3号 第3号 1946年（昭和21年）9月1日
26-4. 『世代』 第1巻第4号 10月号 1946年（昭和21年）10月1日
26-5. 『世代』 第1巻第5号 11月号 1946年（昭和21年）11月1日
26-6. 『世代』 第1巻第6号 12月号 1946年（昭和21年）12月1日
26-7. 『世代』 第2巻第1号 [奥付は第2巻第8号] 9月号 1947年（昭和22
年）9月1日 [奥付は1947年（昭和22年）6月1日]
26-8. 『世代』 第2巻第10・11号 10・11月号 1974年（昭和22年）11月1日 [奥
付は1947年（昭和22年）12月1日]
26-9. 『世代』 第2巻第1号 1月号 1947年（昭和22年）12月1日
26-10. 『世代』 第2巻第2・3号 2・3月号 [奥付は1月号] 1948年（昭和23年）
2月25日
26-11. 『世代』 再刊第1号 11号 発行年月日不明
26-12. 『世代』 再刊第2号 12号 1951年（昭和26年）3月25日
26-13. 『世代』 再刊第3号 13号 1951年（昭和26年）7月1日
26-14. 『世代』 第14号 1951年（昭和26年）12月1日
26-15. 『世代』 第15号 1952年（昭和27年）3月1日
26-16. 『世代』 第16号 1952年（昭和27年）7月1日
26-17. 『世代』 第17号 1953年（昭和28年）2月1日
26-18. 『「世代」複製版 別冊解説』 1980年11月25日 編集：瀬沼茂樹 発行：財
団法人日本近代文学館
収録：「世代」の人脈（中村稔）／「世代」初期の思い出（いいだもも）／錆びついた
記憶の箱をこじあけて……（矢牧一宏）／思い出は夢に似て（小川徹）／休刊まで（都
留晃）／解説——ある世代の展開（磯田光一）／「世代」細目

27. 『「近代文学」複製版』 1981年3月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近
代文学館／小田切進

- 27-1. 『近代文学』 第1巻第1号 1946年（昭和21年）1月10日
27-2. 『近代文学』 第1巻第2号 1946年（昭和21年）2月20日

- 27-3. 『近代文学』 第1卷第3號 1946年(昭和21年)4月15日
- 27-4. 『近代文学』 第1卷第4號 1946年(昭和21年)6月20日
- 27-5. 『近代文学』 第1卷第5號 1946年(昭和21年)9月1日
- 27-6. 『近代文学』 第1卷第6號 10月號 1946年(昭和21年)10月1日
- 27-7. 『近代文学』 第1卷第7號 11・12月合併號 1946年(昭和21年)12月1日
- 27-8. 『近代文学』 第2卷第1號 1947年(昭和22年)1月1日
- 27-9. 『近代文学』 第2卷第2號 2・3月合併號 1947年(昭和22年)3月1日
- 27-10. 『近代文学』 第2卷第3號 4月號 1947年(昭和22年)4月20日
- 27-11. 『近代文学』 第2卷第4號 6月號 1947年(昭和22年)6月1日
- 27-12. 『近代文学』 第2卷第5號 7月號 1947年(昭和22年)7月1日
- 27-13. 『近代文学』 第2卷第6號 9月號 1947年(昭和22年)9月1日
- 27-14. 『近代文学』 第2卷第7號 10月號 1947年(昭和22年)10月1日
- 27-15. 『近代文学』 第2卷第8號 11月號 1947年(昭和22年)11月1日
- 27-16. 『近代文学』 第2卷第9號 12月號 1947年(昭和22年)12月1日
- 27-17. 『近代文学』 第3卷第1號 1月號 1948年(昭和23年)1月1日
- 27-18. 『近代文学』 第3卷第2號 2月號 1948年(昭和23年)2月1日
- 27-19. 『近代文学』 第3卷第3號 3月號 1948年(昭和23年)3月1日
- 27-20. 『近代文学』 第3卷第4號 4月號 1948年(昭和23年)4月1日
- 27-21. 『近代文学』 第3卷第5號 5月號 1948年(昭和23年)5月1日
- 27-22. 『近代文学』 第3卷第6號 6月號 1948年(昭和23年)6月1日
- 27-23. 『近代文学』 第3卷第7號 7月號 1948年(昭和23年)7月1日
- 27-24. 『近代文学』 第3卷第8號 8月號 1948年(昭和23年)8月1日
- 27-25. 『近代文学』 第3卷第9號 9月號 1948年(昭和23年)9月1日
- 27-26. 『近代文学』 第3卷第10號 10月號 1948年(昭和23年)10月1日
- 27-27. 『近代文学』 第3卷第11號 11月號 1948年(昭和23年)11月1日
- 27-28. 『近代文学』 第3卷第12號 12月號 1948年(昭和23年)12月1日
- 27-29. 『近代文学』 第4卷第1號 1月號 1949年(昭和24年)1月1日
- 27-30. 『近代文学』 第4卷第2號 2月號 1949年(昭和24年)2月1日
- 27-31. 『近代文学』 第4卷第3號 3月號 1949年(昭和24年)3月1日
- 27-32. 『近代文学』 第4卷第4號 4月號 1949年(昭和24年)4月1日
- 27-33. 『近代文学』 第4卷第5・6號 5・6月號 1949年(昭和24年)6月1日
- 27-34. 『近代文学』 第4卷第7號 7月號 1949年(昭和24年)7月1日
- 27-35. 『近代文学』 第4卷第8號 8月號 1949年(昭和24年)8月1日
- 27-36. 『近代文学』 第4卷第9・10號 10月號 1949年(昭和24年)10月1日

- 27-37. 『近代文学』 第4巻第11号 11月号 1949年（昭和24年）11月1日
 27-38. 『近代文学』 第4巻第12号 12月号 1949年（昭和24年）12月1日
 27-39. 『近代文学』 第5巻第1号 1月号 1950年（昭和25年）1月1日
 27-40. 『近代文学』 第5巻第2号 2月号 1950年（昭和25年）2月1日
 27-41. 『近代文学』 第5巻第3・4号 4月号 1950年（昭和25年）4月1日
 27-42. 『近代文学』 第5巻第5号 5月号 1950年（昭和25年）5月1日
 27-43. 『近代文学』 第5巻第6号 6月号 1950年（昭和25年）6月1日
 27-44. 『近代文学』 第5巻第7号 8月号 1950年（昭和25年）8月1日
 27-45. 『近代文学』 第5巻第8号 特別号 1950年（昭和25年）8月10日
 27-46. 『『近代文学』複製版 解説・細目・執筆者索引』 1981年3月20日 編集：
 瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館／小田切進
 収録：「近代文学」の思い出・解説〈近代文学と私の立場〉（山室静）／雑誌「近代文学」のこと（藤枝静男）／回憶（本多秋五）／平野謙と荒正人（埴谷雄高）／「近代文学」八雲書店時代（久保田正文）／復活としての第二の青春（佐々木基一）／一つの側面（小田切秀雄）／「近代文学」のかかわり（島尾敏雄）／荒正人のこと（平田次三郎）／「文学者」という画像（吉本隆明）／「近代文学」と私（日野啓三）／解説（伊藤成彦）／「近代文学」細目／「近代文学」執筆者索引

28. 『「作品」複製版』

- 28-1. 『「作品」複製版』 1981年4月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 28-1-1. 『作品』 第1巻第1号 1930年（昭和5年）5月1日
 28-1-2. 『作品』 第1巻第2号 1930年（昭和5年）6月1日
 28-1-3. 『作品』 第1巻第3号 1930年（昭和5年）7月1日
 28-1-4. 『作品』 第1巻第4号 1930年（昭和5年）8月1日
 28-1-5. 『作品』 第1巻第5号 1930年（昭和5年）9月1日
 28-1-6. 『作品』 第1巻第6号 1930年（昭和5年）10月1日
 28-1-7. 『作品』 第1巻第7号 1930年（昭和5年）11月1日
 28-1-8. 『作品』 第1巻第8号 1930年（昭和5年）12月1日
 28-1-9. 『作品』 第2巻第1号 9号 1931年（昭和6年）1月1日
 28-1-10. 『作品』 第2巻第2号 10号 1931年（昭和6年）2月1日
 28-1-11. 『作品』 第2巻第3号 11号 1931年（昭和6年）3月1日
 28-1-12. 『作品』 第2巻第4号 12号 1931年（昭和6年）4月1日
 28-1-13. 『作品』 第2巻第5号 13号 1931年（昭和6年）5月1日
 28-1-14. 『作品』 第2巻第6号 14号 1931年（昭和6年）6月1日
 28-1-15. 『作品』 第2巻第7号 15号 1931年（昭和6年）7月1日

- 28-1-16. 『作品』 第2巻第8号 16号 1931年(昭和6年)8月1日
- 28-1-17. 『作品』 第2巻第9号 17号 1931年(昭和6年)9月1日
- 28-1-18. 『作品』 第2巻第10号 18号 1931年(昭和6年)10月1日
- 28-1-19. 『作品』 第2巻第11号 19号 1931年(昭和6年)11月1日
- 28-1-20. 『作品』 第2巻第12号 20号 1931年(昭和6年)12月1日
- 28-1-21. 『作品』 第3巻第1号 21号 1932年(昭和7年)1月1日
- 28-1-22. 『作品』 第3巻第2号 22号 1932年(昭和7年)2月1日
- 28-1-23. 『作品』 第3巻第3号 23号 1932年(昭和7年)3月1日
- 28-1-24. 『作品』 第3巻第4号 24号 1932年(昭和7年)4月1日
- 28-1-25. 『作品』 第3巻第5号 25号 1932年(昭和7年)5月1日
- 28-1-26. 『作品』 第3巻第6号 26号 1932年(昭和7年)6月1日
- 28-1-27. 『作品』 第3巻第7号 27号 1932年(昭和7年)7月1日
- 28-1-28. 『作品』 第3巻第8号 28号 1932年(昭和7年)8月1日
- 28-1-29. 『作品』 第3巻第9号 29号 1932年(昭和7年)9月1日
- 28-1-30. 『作品』 第3巻第10号 30号 1932年(昭和7年)10月1日
- 28-1-31. 『作品』 第3巻第11号 31号 1932年(昭和7年)11月1日
- 28-1-32. 『作品』 第3巻第12号 32号 1932年(昭和7年)12月1日
- 28-1-33. 『「作品」複製版 解説・執筆者索引』 1981年4月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：雑誌「作品」について(谷川徹三)／「作品」の思い出(生島遼一)／思い出(古谷綱武)／私が「作品」にプルーストを訳していたころ(井上究一郎)／むかしの「作品」(中村光夫)／解説(保昌正夫)／「作品」執筆者索引
- 28-2. 『「作品」複製版』 1981年10月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 28-2-1. 『作品』 第4巻第1号 33号 1933年(昭和8年)1月1日
- 28-2-2. 『作品』 第4巻第2号 34号 1933年(昭和8年)2月1日
- 28-2-3. 『作品』 第4巻第3号 35号 1933年(昭和8年)3月1日
- 28-2-4. 『作品』 第4巻第4号 4月号 1933年(昭和8年)4月1日
- 28-2-5. 『作品』 第4巻第5号 5月号 1933年(昭和8年)5月1日
- 28-2-6. 『作品』 第4巻第6号 6月号 1933年(昭和8年)6月1日
- 28-2-7. 『作品』 第4巻第7号 7月号 1933年(昭和8年)7月1日
- 28-2-8. 『作品』 第4巻第8号 8月号 1933年(昭和8年)8月1日
- 28-2-9. 『作品』 第4巻第9号 9月号 1933年(昭和8年)9月1日
- 28-2-10. 『作品』 第4巻第10号 10月号 1933年(昭和8年)10月1日
- 28-2-11. 『作品』 第4巻第11号 11月号 1933年(昭和8年)11月1日

- 28-2-12. 『作品』 第4卷第12號 12月號 1933年(昭和8年)12月1日
- 28-2-13. 『作品』 第5卷第1號 1月號 1934年(昭和9年)1月1日
- 28-2-14. 『作品』 第5卷第2號 2月號 1934年(昭和9年)2月1日
- 28-2-15. 『作品』 第5卷第3號 3月號 1934年(昭和9年)3月1日
- 28-2-16. 『作品』 第5卷第4號 4月號 1934年(昭和9年)4月1日
- 28-2-17. 『作品』 第5卷第5號 5月號 1934年(昭和9年)5月1日
- 28-2-18. 『作品』 第5卷第6號 6月號 1934年(昭和9年)6月1日
- 28-2-19. 『作品』 第5卷第7號 7月號 1934年(昭和9年)7月1日
- 28-2-20. 『作品』 第5卷第8號 8月號 1934年(昭和9年)8月1日
- 28-2-21. 『作品』 第5卷第9號 9月號 1934年(昭和9年)9月1日
- 28-2-22. 『作品』 第5卷第10號 10月號 1934年(昭和9年)10月1日
- 28-2-23. 『作品』 第5卷第11號 11月號 1934年(昭和9年)11月1日
- 28-2-24. 『作品』 第5卷第12號 12月號 1934年(昭和9年)12月1日
- 28-3. 『「作品」複刻版』 1982年3月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 28-3-1. 『作品』 第6卷第1號 1月號 57號 1935年(昭和10年)1月1日
- 28-3-2. 『作品』 第6卷第2號 2月號 58號 1935年(昭和10年)2月1日
- 28-3-3. 『作品』 第6卷第3號 3月號 59號 1935年(昭和10年)3月1日
- 28-3-4. 『作品』 第6卷第4號 4月號 60號 1935年(昭和10年)4月1日
- 28-3-5. 『作品』 第6卷第5號 5月號 61號 1935年(昭和10年)5月1日
- 28-3-6. 『作品』 第6卷第6號 6月號 62號 1935年(昭和10年)6月1日
- 28-3-7. 『作品』 第6卷第7號 7月號 63號 1935年(昭和10年)7月1日
- 28-3-8. 『作品』 第6卷第8號 8月號 64號 1935年(昭和10年)8月1日
- 28-3-9. 『作品』 第6卷第9號 9月號 65號 1935年(昭和10年)9月1日
- 28-3-10. 『作品』 第6卷第10號 10月號 66號 1935年(昭和10年)10月1日
- 28-3-11. 『作品』 第6卷第11號 11月號 67號 1935年(昭和10年)11月1日
- 28-3-12. 『作品』 第6卷第12號 12月號 68號 1935年(昭和10年)12月1日
- 28-3-13. 『作品』 第7卷第1號 1月號 69號 1936年(昭和11年)1月1日
- 28-3-14. 『作品』 第7卷第2號 2月號 70號 1936年(昭和11年)2月1日
- 28-3-15. 『作品』 第7卷第3號 3月號 71號 1936年(昭和11年)3月1日
- 28-3-16. 『作品』 第7卷第4號 4月號 72號 1936年(昭和11年)4月1日
- 28-3-17. 『作品』 第7卷第5號 5月號 73號 1936年(昭和11年)5月1日

- 28-3-18. 『作品』 第7巻第6号 6月号 74号 1936年(昭和11年)6月1日
- 28-3-19. 『作品』 第7巻第7号 7月号 75号 1936年(昭和11年)7月1日
- 28-3-20. 『作品』 第7巻第8号 8月号 76号 1936年(昭和11年)8月1日
- 28-3-21. 『作品』 第7巻第9号 9月号 77号 1936年(昭和11年)9月1日
- 28-3-22. 『作品』 第7巻第10号 10月号 78号 1936年(昭和11年)10月1日
- 28-3-23. 『作品』 第7巻第11号 11月号 79号 1936年(昭和11年)11月1日
- 28-3-24. 『作品』 第7巻第12号 12月号 80号 1936年(昭和11年)12月1日
29. 『「荒地」複製版』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 29-1. 『荒地』 第1巻第1号 9月号 1947年(昭和22年)9月1日
- 29-2. 『荒地』 第1巻第2号 10月号 1947年(昭和22年)10月1日
- 29-3. 『荒地』 第1巻第3号 11月号 1947年(昭和22年)11月5日
- 29-4. 『荒地』 第1巻第4号 12月号 1947年(昭和22年)12月5日
- 29-5. 『荒地』 第2巻第1号 1月号 1948年(昭和23年)1月5日
- 29-6. 『荒地』 第2巻第2号 6月号 1948年(昭和23年)6月5日
- 29-7. 『「荒地」複製版 別冊解説』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：荒地、そして今……(西村孝次) / 「荒地」の思い出(中桐雅夫) / 創刊から廃刊まで(鮎川信夫) / 雑誌「荒地」の発刊まで(三好豊一郎) / まっ暗な渋谷の夜(田村隆一) / 解説——二十代の「荒地」(飯島耕一)
30. 『「序曲」複製版』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 30-1. 『序曲』 第1輯 1948年(昭和23年)12月1日
- 30-2. 『「序曲」複製版 別冊解説』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「序曲」のこと(埴谷雄高) / 「序曲」にまつわる(寺田透) / 創刊の事情(杉森久英) / “序曲”の時(志村孝夫) / 解説(紅野敏郎)
31. 『「方舟」複製版』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
- 31-1. 『方舟』 第1号 創刊号 1948年(昭和23年)7月1日
- 31-2. 『方舟』 第2号 1948年(昭和23年)9月25日
- 31-3. 『「方舟」複製版 別冊解説』 1981年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団

法人日本近代文学館

収録：「方舟」の人々（白井健三郎）／「方舟」の夢（中村真一郎）／「方舟」の頃（窪田啓作）／「方舟」と『方舟叢書』のこと（坂本一亀）／解説——「マチネ・ポエティック」の運動（小久保実）

32. 『複刻 日本の雑誌』 1982年5月 編輯：日本近代文学館 刊行：講談社

32-1. 『複刻 日本の雑誌 A』

32-1-1. 『西洋雑誌』 巻1 1867年（慶応3年）10月

32-1-2. 『民間雑誌』 第1編 1874年（明治7年）2月

32-1-3. 『明六雑誌』 第1號 1874年（明治7年）3月

32-1-4. 『同人社文學雑誌』 第1號 1876年（明治9年）7月

32-1-5. 『六合雑誌』 第1號 1880年（明治13年）10月11日

32-1-6. 『東洋學藝雑誌』 第1號 1881年（明治14年）10月

32-1-7. 『政理叢談』 第1號 1882年（明治15年）2月20日

32-2. 『複刻 日本の雑誌 C』

32-2-1. 『東京經濟雑誌』 第1號 1879年（明治12年）1月29日

32-2-2. 『中央學術雑誌』 第1號 1885年（明治18年）3月10日

32-2-3. 『出版月評』 第1號 1887年（明治20年）8月25日

32-2-4. 『日本人』 第1號 1888年（明治21年）4月3日

32-2-5. 『日本評論』 第1號 1890年（明治23年）3月8日

32-2-6. 『太陽』 第1號 1895年（明治28年）1月5日

32-2-7. 『東洋經濟新報』 第1號 1895年（明治28年）11月15日

32-2-8. 『東京獨立雑誌』 第1號 1898年（明治31年）6月10日

32-2-9. 『婦人畫報』 第1巻第1號 1905年（明治38年）7月1日

32-2-10. 『新紀元』 第1號 1905年（明治38年）11月10日

32-2-11. 『青鞜』 第1巻第1號 1911年（明治44年）9月1日

32-2-12. 『トルストイ研究』 第1號 1916年（大正5年）9月1日

32-2-13. 『我觀』 第1號 1923年（大正12年）10月15日

32-2-14. 『婦人朝日』 2月號 1937年（昭和12年）2月

32-2-15. 『りべらる』 創刊號 1946年（昭和21年）1月1日

32-3. 『複刻 日本の雑誌 D』

32-3-1. 『新佛教』 第1巻第1號 1900年（明治33年）7月1日

32-3-2. 『女學世界』 第1巻第1號 1901年（明治34年）1月5日

32-3-3. 『獨立評論』 第1號 1903年（明治36年）1月1日

32-3-4. 『女子文壇』 第1巻第1號 1905年（明治38年）1月1日

32-3-5. 『婦人世界』 第1號 1906年（明治39年）1月3日

- 32-3-6. 『講談俱樂部』 第1號 1911年(明治44年)11月5日
32-3-7. 『郷土研究』 第1巻第1號 1913年(大正2年)3月10日
32-3-8. 『思潮』 創刊號 1917年(大正6年)5月1日
32-3-9. 『社會問題研究』 第1冊 1919年(大正8年)1月20日
32-3-10. 『女性』 第1巻第1號 5月號 1922年(大正11年)5月1日
32-3-11. 『文藝春秋』 1月創刊號 1923年(大正12年)1月1日
32-3-12. 『苦樂』 第1巻第1號 1924年(大正13年)1月1日
32-3-13. 『戦旗』 創刊號 1928年(昭和3年)5月5日
32-3-14. 『面白半分』 1號 1929年(昭和4年)6月1日
32-3-15. 『女性時代』 創刊號 1930年(昭和5年)11月1日
32-3-16. 『セルパン』 5月創刊號 1931年(昭和6年)5月1日
- 32-4. 『複刻 日本の雑誌 E』
- 32-4-1. 『女學学雑誌』 第1號 1885年(明治18年)7月20日
32-4-2. 『國之友』 第1號 1887年(明治20年)2月
32-4-3. 『女鑑』 第1號 1891年(明治24年)8月8日
32-4-4. 『家庭雑誌』 第1號 1892年(明治25年)9月19日
32-4-5. 『學の燈』 第1號 1897年(明治30年)3月15日
32-4-6. 『家庭の友』 第1巻第1號 1903年(明治36年)4月3日
32-4-7. 『雄辯』 第1號 1910年(明治43年)2月1日
32-4-8. 『婦女界』 第1巻第1號 1910年(明治43年)3月1日
32-4-9. 『近代思想』 10月號 1912年(大正元年)10月1日
32-4-10. 『我等』 創刊紀元節號 1919年(大正8年)2月11日
32-4-11. 『解放』 創刊號 1919年(大正8年)6月1日
32-4-12. 『新青年』 第1巻第1號 1920年(大正9年)1月1日
32-4-13. 『現代』 創刊號 1920年(大正9年)10月1日
32-4-14. 『婦人くらぶ』 創刊號 1920年(大正9年)10月1日
- 32-5. 『複刻 日本の雑誌 F』
- 32-5-1. 『令女界』 第1巻第1號 1922年(大正11年)4月1日
32-5-2. 『キング』 第1巻第1號 1925年(大正14年)1月1日
32-5-3. 『大衆文藝』 第1巻第1號 1926年(大正15年)1月1日
32-5-4. 『經濟往來』 創刊號 1926年(大正15年)3月5日
32-5-5. 『女人藝術』 創刊號 1928年(昭和3年)7月1日
32-5-6. 『祖國』 第1巻第1號 創刊號 1928年(昭和3年)10月1日
32-5-7. 『文學時代』 創刊號 1929年(昭和4年)5月1日
32-5-8. 『犯罪科學』 5月創刊號 1930年(昭和5年)6月1日

- 32-5-9. 『文藝春秋オール讀物號』 第1巻第1號 1931年(昭和6年)4月1日
- 32-6. 『複刻 日本の雑誌 G』
- 32-6-1. 『プロレタリア文化』 第1巻第1號 1931年(昭和6年)12月5日
- 32-6-2. 『日の出』 第1巻第1號 1932年(昭和7年)8月1日
- 32-6-3. 『唯物論研究』 創刊號 1932年(昭和7年)11月1日
- 32-6-4. 『人物評論』 創刊號 1933年(昭和8年)3月1日
- 32-6-5. 『話』 4月創刊號 1933年(昭和8年)4月1日
- 32-6-6. 『世界文化』 第1年第1號 1935年(昭和10年)2月1日
- 32-6-7. 『新女苑』 第1巻第1號 1937年(昭和12年)1月1日
- 32-7. 『複刻 日本の雑誌 H』
- 32-7-1. 『知性』 創刊號 1938年(昭和13年)5月1日
- 32-7-2. 『世界』 創刊號 1946年(昭和21年)1月1日
- 32-7-3. 『展望』 第1號 創刊號 1946年(昭和21年)1月1日
- 32-7-4. 『世界評論』 創刊號 1946年(昭和21年)2月1日
- 32-7-5. 『思想の科學』 創刊號 1946年(昭和21年)5月15日
- 32-7-6. 『小説新潮』 9月創刊號 1947年(昭和22年)9月1日
- 32-7-7. 『心』 第1巻第1號 1948年(昭和23年)7月1日
- 32-7-8. 『文藝往來』 第1巻第1號 1949年(昭和24年)1月1日
- 32-7-9. 『文藝春秋』 第23巻第4號 1945年(昭和20年)10月1日
- 32-7-10. 『文藝春秋』 第32巻第19號 臨時増刊號 1954年(昭和29年)12月5日
- 32-8. 『複刻 日本の雑誌 解説』 1982年6月1日 編集：財団法人日本近代文学館
発行：講談社
- 収録：「複刻 日本の雑誌」の刊行にあたって(小田切秀雄)／概説〈人間性の解放へ(中村光夫)／現代日本を創ったもの——「雑誌文化論」(大河内一男)〉／雑誌随想〈「詩と詩論」その他(井上靖)／明治の雑誌との付き合い(隅谷三喜男)／雑誌と私(吉田精一)／雑誌の思い出——小、中学生のころ——(山本健吉)／雑誌と人とのめぐりあい——「上毛教会月報」、「新人」、「新紀元」など——(武田清子)／中本雑誌——明治の雑誌から——(稲垣達郎)／立読み半生の記(松本清張)〉／雑誌解説〈西洋雑誌(西田長寿)／民間雑誌(土橋俊一)／明六雑誌(大久保利謙)／同人社文學雑誌(十川信介)／穎才新誌(前田愛)／於東京繪 團團珍聞(浅井清)／芳譚雑誌(岡保生)／日本一誌 驥尾團子(興津要)／東京經濟雑誌(田口親)／六合雑誌(川合道雄)／東洋學藝雑誌(中島国彦)／政理叢談(土方和雄)／中央學術雑誌(中島国彦)／女學雑誌(佐藤善也)／國民之友(竹盛天雄)／哲學會雑誌(哲學雑誌)(桂寿一)／以良=女(山田有策)／出版月評(畑有三)／日本人(鹿野政直)

／風俗畫報（槌田満文）／日本評論（大内三郎）／女鑑（熊坂敦子）／家庭雜誌（栗林秀雄）／太陽（紅野敏郎）／東洋經濟新報（松尾尊二）／學の燈（學燈）（劍持武彦）／労働世界（松尾洋）／東京獨立雜誌（佐藤泰正）／新佛教（杉崎俊夫）／女學世界（杉本邦子）／獨立評論（野山嘉正）／家庭の友（婦人之友）（田中夏美）／平民新聞（松尾洋）／女子文壇（杉本邦子）／東京パツク（匠秀夫）／婦人畫報（杉本邦子）／新紀元（松尾洋）／婦人世界（熊坂敦子）／雄辯（石崎等）／婦女界（田中夏美）／青鞜（中山和子）／講談俱樂部（武蔵野次郎）／近代思想（松尾洋）／郷土研究（相馬庸郎）／トルストイ研究（柳富子）／思潮（石崎等）／社會問題研究（高橋彦博）／我等（高橋彦博）／解放（高橋彦博）／新青年（中島河太郎）／現代（石割透）／婦人くらぶ（婦人俱樂部）（田中夏美）／令女界（橋詰静子）／女性（大屋幸世）／文藝春秋（保昌正夫）／我觀（中島国彦）／苦樂（附 別冊附録）（浦西和彦）／キング（尾崎秀樹）／大衆文藝（尾崎秀樹）／經濟往來（高橋春雄）／戰旗（小田切秀雄）／女人芸術（尾形明子）／祖國（和泉あき）／文學時代（保昌正夫）／面白半分（浅井清）／犯罪科學（保昌正夫）／女性時代（相馬文子）／オール讀物（郡司勝義）／セルパン（福田清人）／プロレタリア文化（西田勝）／日の出（磯貝勝太郎）／唯物論研究（小田切秀雄）／人物評論（井口一男）／話（井口一男）／世界文化（平林一）／新女苑（大塚豊子）／婦人朝日（尾形明子）／知性（稲垣真美）／新生（磯田光一）／世界（猪野謙二）／展望（三好行雄）／世界評論（小田切秀雄）／思想の科學（高島通敏）／小説新潮（巖谷大四）／心（紅野敏郎）／文藝往來（栗坪良樹）／附録〈ザ・ジャパン・パンチ（酒井忠康）／旬刊朝日（週刊朝日）（浅井清）／文藝春秋 戦後復刊第一號（保昌正夫）／りべらる（山本明）／文藝春秋 漫画読本（井口一男）／近代雜誌略年表（編集部）／復刻制作にあたって（編集部）／あとがき（稲垣達郎）

33. 『「地上巡礼」復刻版』 1983年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

33-1. 『地上巡礼』 第1巻第1號 1914年（大正3年）9月1日

33-2. 『地上巡礼』 第1巻第2號 1914年（大正3年）10月1日

33-3. 『地上巡礼』 第1巻第3號 1914年（大正3年）11月1日

33-4. 『地上巡礼』 第1巻第4號 1914年（大正3年）12月1日

33-5. 『地上巡礼』 第2巻第1號 1915年（大正4年）1月1日

33-6. 『地上巡礼』 第2巻第2號 1915年（大正4年）3月1日

33-7. 『「地上巡礼」復刻版 別冊解説』 1983年5月30日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

収録：「地上巡礼」創刊まで（久保忠夫）／刺戟的な瞬間（渋沢孝輔）／巡礼詩社と「地上巡礼」一解説にかえて一（野田宇太郎）／「地上巡礼」細目

34. 『「文體」復刻版』 1983年7月12日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文

学館

34-1. 『文體』 復刊第1號 1947年(昭和22年)12月20日

34-2. 『文體』 第2號 1948年(昭和23年)5月30日

34-3. 『文體』 第3號 1948年(昭和23年)12月15日

34-4. 『文體』 第4號 1949年(昭和24年)7月10日

34-5. 『「文體」復刻版 別冊解説』 1983年7月12日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

収録：文體について(宇野千代)／思い出すことなど(河盛好蔵)／「文體」と「智慧の環」(庄野誠一)／「文體」の思い出(金澤誠)／解説(小田切進)／「文體」細目

35. 『「文藝公論」復刻版』 1985年6月10日 編集：瀬沼茂樹 発行：日本近代文学館

35-1. 『文藝公論』 第1巻第1號 1927年(昭和2年)1月1日

35-2. 『文藝公論』 第1巻第2號 1927年(昭和2年)2月1日

35-3. 『文藝公論』 第1巻第3號 1927年(昭和2年)3月1日

35-4. 『文藝公論』 第1巻第4號 1927年(昭和2年)4月1日

35-5. 『文藝公論』 第1巻第5號 1927年(昭和2年)5月1日

35-6. 『文藝公論』 第1巻第6號 1927年(昭和2年)6月1日

35-7. 『文藝公論』 第1巻第7號 1927年(昭和2年)7月1日

35-8. 『文藝公論』 第1巻第8號 1927年(昭和2年)8月1日

35-9. 『文藝公論』 第1巻第9號 1927年(昭和2年)9月1日

35-10. 『文藝公論』 第1巻第10號 1927年(昭和2年)9月[10月]1日

35-11. 『文藝公論』 第1巻第11號 1927年(昭和2年)11月1日

35-12. 『文藝公論』 第1巻第12號 1927年(昭和2年)12月1日

35-13. 『文藝公論』 第2巻第1號 1928年(昭和3年)1月1日

35-14. 『文藝公論』 第2巻第2號 1928年(昭和3年)2月1日

35-15. 『文藝公論』 第2巻第3號 1928年(昭和3年)3月1日

35-16. 『文藝公論』 第2巻第4號 1928年(昭和3年)4月1日

35-17. 『文藝公論』 第2巻第5號 1928年(昭和3年)5月1日

35-18. 『「文藝公論」復刻版 別冊解説』 1985年6月10日 編集：瀬沼茂樹 発行：日本近代文学館

収録：解説・「文藝公論」と橋爪健(小田切進)／「文藝公論」執筆者索引

36. 『「歷程」復刻版』 1985年10月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

36-1. 『歷程』 第1巻第1號 1935年(昭和10年)5月1日

36-2. 『歷程』 3月創刊號 1936年(昭和11年)3月5日

- 36-3. 『歷程』 4月號 1936年(昭和11年)4月5日
- 36-4. 『歷程』 第1號 1936年(昭和11年)10月1日
- 36-5. 『歷程』 第2號 1936年(昭和11年)11月1日
- 36-6. 『歷程』 4月號 1939年(昭和14年)4月10日
- 36-7. 『歷程』 第7號 1939年(昭和14年)7月1日
- 36-8. 『歷程』 第8號 1939年(昭和14年)9月10日
- 36-9. 『歷程』 第9號 1939年(昭和14年)11月10日
- 36-10. 『歷程』 第10號 1940年(昭和15年)1月20日
- 36-11. 『歷程』 第11號 1940年(昭和15年)4月15日
- 36-12. 『歷程』 第12號 1940年(昭和15年)7月8日
- 36-13. 『歷程』 第13號 1940年(昭和15年)11月20日
- 36-14. 『歷程』 第14號 1941年(昭和16年)4月20日
- 36-15. 『歷程』 第15號 1941年(昭和16年)7月10日
- 36-16. 『歷程』 第16號 1941年(昭和16年)9月10日
- 36-17. 『歷程』 第17號 1942年(昭和17年)4月1日
- 36-18. 『歷程』 第18號 1942年(昭和17年)6月25日
- 36-19. 『歷程』 第19號 1942年(昭和17年)9月1日
- 36-20. 『歷程』 第20號 1943年(昭和18年)2月1日
- 36-21. 『歷程』 第21號 1943年(昭和18年)4月1日
- 36-22. 『歷程』 第22號 1943年(昭和18年)6月1日
- 36-23. 『歷程』 第23號 1943年(昭和18年)8月1日
- 36-24. 『歷程』 第24號 1943年(昭和18年)10月1日
- 36-25. 『歷程』 第25號 1943年(昭和18年)12月1日
- 36-26. 『歷程』 第26號 1944年(昭和19年)3月1日
- 36-27. 『『歷程』復刻版 別冊解説』 1985年10月20日 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：「歷程」復刻について(岡崎清一郎)／「歷程」について(高橋新吉)／「歷程」回想(草野心平)／高村光太郎の単書と「歷程」(三ツ村繁蔵)／解説・全二十六冊の年月(伊藤信吉)／「歷程」執筆者索引
37. 『『マヴォ』復刻版』 1991年3月15日 編集・発行：財団法人日本近代文学館／小田切進
- 37-1. 『マヴォ』 第1號 1924年(大正13年)7月1日
- 37-2. 『マヴォ』 第2號 1924年(大正13年)8月1日
- 37-3. 『マヴォ』 第3號 1924年(大正13年)9月1日
- 37-4. 『マヴォ』 第4號 1924年(大正13年)10月1日

37-5. 『マヴォ』 第5号 1925年(大正14年)6月24日

37-6. 『マヴォ』 第6号 1925年(大正14年)7月18日

37-7. 『マヴォ』 第7号 1925年(大正14年)8月24日

37-8. 『「マヴォ」複製版 別冊解説』 1991年3月15日 編集・発行：財団法人日本近代文学館／小田切進

収録：念願の「MAVO」複製 ——爆弾的な、破天荒の暴れ者だった——(小田切進)／「マヴォ」の詩的変革(伊藤信吉)／思い出の「マヴォ」(住谷磐根)／マヴォの思い出(村山知義)／「マヴォ」のこと(田河水泡)／解説 時代に生き、時代を超えた《マヴォ》(萬木康博)／解説 全英文学史の溶岩塔 ——マヴォの美と思想の地平線(千葉宣一)／この複製版について／「マヴォ」細目

38. 『「文藝通信」複製版』 1992年5月30日 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店

38-1. 『文藝通信』 第1巻第1号 10月創刊号 1933年(昭和8年)10月1日

38-2. 『文藝通信』 第1巻第2号 11月号 1933年(昭和8年)11月1日

38-3. 『文藝通信』 第1巻第3号 12月号 1933年(昭和8年)12月1日

38-4. 『文藝通信』 第2巻第1号 1月号 1934年(昭和9年)1月1日

38-5. 『文藝通信』 第2巻第2号 2月号 1934年(昭和9年)2月1日

38-6. 『文藝通信』 第2巻第3号 3月号 1934年(昭和9年)3月1日

38-7. 『文藝通信』 第2巻第4号 4月号 1934年(昭和9年)4月1日

38-8. 『文藝通信』 第2巻第5号 5月号 1934年(昭和9年)5月1日

38-9. 『文藝通信』 第2巻第6号 6月号 1934年(昭和9年)6月1日

38-10. 『文藝通信』 第2巻第7号 7月号 1934年(昭和9年)7月1日

38-11. 『文藝通信』 第2巻第8号 8月号 1934年(昭和9年)8月1日

38-12. 『文藝通信』 第2巻第9号 9月号 1934年(昭和9年)9月1日

38-13. 『文藝通信』 第2巻第10号 10月号 1934年(昭和9年)10月1日

38-14. 『文藝通信』 第2巻第11号 11月号 1934年(昭和9年)11月1日

38-15. 『文藝通信』 第2巻第12号 12月号 1934年(昭和9年)12月1日

38-16. 『文藝通信』 第3巻第1号 新年特輯号 1935年(昭和10年)1月1日

38-17. 『文藝通信』 第3巻第2号 2月号 1935年(昭和10年)2月1日

38-18. 『文藝通信』 第3巻第3号 3月号 1935年(昭和10年)3月1日

38-19. 『文藝通信』 第3巻第4号 4月号 1935年(昭和10年)4月1日

38-20. 『文藝通信』 第3巻第5号 5月特輯号 1935年(昭和10年)5月1日

38-21. 『文藝通信』 第3巻第6号 6月号 1935年(昭和10年)6月1日

38-22. 『文藝通信』 第3巻第7号 7月号 1935年(昭和10年)7月1日

38-23. 『文藝通信』 第3巻第8号 8月号 1935年(昭和10年)8月1日

- 38-24. 『文藝通信』 第3巻第9号 9月号 1935年(昭和10年)9月1日
- 38-25. 『文藝通信』 第3巻第10号 10月号 1935年(昭和10年)10月1日
- 38-26. 『文藝通信』 第3巻第11号 11月号 1935年(昭和10年)11月1日
- 38-27. 『文藝通信』 第3巻第12号 12月号 1935年(昭和10年)12月1日
- 38-28. 『文藝通信』 第4巻第1号 新年特輯号 1936年(昭和11年)1月1日
- 38-29. 『文藝通信』 第4巻第2号 2月号 1936年(昭和11年)2月1日
- 38-30. 『文藝通信』 第4巻第3号 3月号 1936年(昭和11年)3月1日
- 38-31. 『文藝通信』 第4巻第4号 4月号 1936年(昭和11年)4月1日
- 38-32. 『文藝通信』 第4巻第5号 5月号 1936年(昭和11年)5月1日
- 38-33. 『文藝通信』 第4巻第6号 6月号 1936年(昭和11年)6月1日
- 38-34. 『文藝通信』 第4巻第7号 7月号 1936年(昭和11年)7月1日
- 38-35. 『文藝通信』 第4巻第8号 8月号 1936年(昭和11年)8月1日
- 38-36. 『文藝通信』 第4巻第9号 9月号 1936年(昭和11年)9月1日
- 38-37. 『文藝通信』 第4巻第10号 10月号 1936年(昭和11年)10月1日
- 38-38. 『文藝通信』 第4巻第11号 11月号 1936年(昭和11年)11月1日
- 38-39. 『文藝通信』 第4巻第12号 12月号 1936年(昭和11年)12月1日
- 38-40. 『文藝通信』 第5巻第1号 新年特輯号 1937年(昭和12年)1月1日
- 38-41. 『文藝通信』 第5巻第2号 2月号 1937年(昭和12年)2月1日
- 38-42. 『文藝通信』 第5巻第3号 3月号 1937年(昭和12年)3月1日
- 38-43. 『文藝通信総目次・執筆者索引 「文藝通信」複製版別冊』 1992年5月30日
 編集・解説：小田切進 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店
 収録：解題 戦争前夜の文壇の抵抗(小田切進) / 「文藝通信」の頃〈登竜門だった雑誌(渋川驍) / 自由人菊池寛の夢(佐藤碧子) / 『文藝通信』の魅力(福田清人) / 文藝通信総目次 / 文藝通信執筆者索引

複製(マイクロ)

1. 『近代文学館』

1-1. 『マイクロ版 近代文学館1「新潮」』

1-1-1. 『マイクロ版 近代文学館1「新潮」』 1977年10月1日 刊行：財団法人日本近代文学館

※第1巻第1号(明治37年5月5日)から第42年第3号(昭和20年3月1日)までの490冊を収録。

1-1-2. 『新潮総目次・執筆者索引 マイクロ版 近代文学館1「新潮」別冊』 1977年10月1日 編集・解説：小田切進 刊行：財団法人日本近代文学館 製作：発売：八木書店

- 1-2. 『マイクロ版 近代文学館 2「解放」』
- 1-2-1. 『マイクロ版 近代文学館 2「解放」』 1982年8月15日 刊行：財団法人日本近代文学館
- ※第1巻第1号（大正8年6月1日）から第5巻第9号（大正12年9月1日）までの第一次52冊、通巻15号第3巻第3号（大正14年7月1日）から第7巻第2号（昭和3年1月1日）までの第二次108冊、計160冊を収録。
- 1-2-2. 『解放総目次・執筆者索引 マイクロ版 近代文学館 2「解放」別冊』 1982年8月15日 編集・解説：小田切進 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店
- 1-3. 『マイクロ版 近代文学館 3「文章世界」』
- 1-3-1. 『マイクロ版 近代文学館 3「文章世界」』 1986年2月28日 刊行：財団法人日本近代文学館
- ※第1巻第1号（明治39年3月15日）から第16巻第12号（大正10年12月1日）までの216冊を収録。
- 1-3-2. 『文章世界総目次・執筆者索引 マイクロ版 近代文学館 3「文章世界」別冊』 1986年2月28日 編集・解題：紅野敏郎 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店
- 1-4. 『マイクロ版 近代文学館 4「新小説」』
- 1-4-1. 『マイクロ版 近代文学館 4「新小説」』 1989年11月30日 刊行：財団法人日本近代文学館
- ※第1巻（明治22年1月）から第2年第3巻（明治23年6月）までの第一期28冊、第1年代1巻（明治29年7月）から第31年代11号（大正15年11月）までの第二期371冊、継続雑誌（改題『黒潮』）の第32年第1号（昭和2年1月）から第33年第3号（昭和2年3月）までの3冊、計402冊を収録。
- 1-4-2. 『新小説総目次・執筆者索引 マイクロ版 近代文学館 4「新小説」別冊』 1989年11月30日 編集・解題：稲垣達郎／紅野敏郎 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店
- 1-5. 『マイクロ版 近代文学館 5「文章倶楽部」』
- 1-5-1. 『マイクロ版 近代文学館 5「文章倶楽部」』 1995年3月31日 刊行：財団法人日本近代文学館
- ※第1年第1号（大正5年5月1日）から第14年第4号（昭和4年4月1日）までの155冊を収録。
- 1-5-2. 『文章倶楽部総目次・執筆者索引 マイクロ版 近代文学館 5「文章倶楽部」別冊』 1995年3月31日 編集・解説：保昌正夫 刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店

1-6. 『CD-ROM 版 近代文学館 6「太陽」』

1-6-1. 『CD-ROM 版 近代文学館 6「太陽」』 1999 年 12 月 20 日 刊行：財団法人
日本近代文学館

※第 1 号（明治 28 年 1 月 1 日）から第 34 卷第 2 号（昭和 3 年 2 月 5 日）までの
531 冊を収録。

1-6-2. 『太陽総目次・執筆者索引 CD-ROM 版 近代文学館 6「太陽」別冊』 1999
年 12 月 20 日 編集・刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：八木書店

1-7. 『DVD 版 近代文学館 7「文芸倶楽部 明治篇」』

1-7-1. 『DVD 版 近代文学館 7「文芸倶楽部 明治篇」』 2005 年 3 月 31 日 刊行：
財団法人日本近代文学館

※第 1 編（明治 28 年 1 月 25 日）から第 18 卷第 16 号（大正元年 12 月 1 日）まで
の 284 冊を収録。

1-7-2. 『文芸倶楽部 明治篇 総目次 DVD 版 近代文学館 7「文芸倶楽部 明治篇」
別冊』 2005 年 3 月 31 日 編集・刊行：財団法人日本近代文学館 製作・発売：
八木書店

複製（色紙）

1. 『日本文学色紙全集』 1968 年 8 月 24 日 編者：日本近代文学館 発行：講談社 目
次無し

複製（原稿）

1. 『複製 近代文学手稿 100 選』

1-1. 『複製 近代文学手稿 100 選』 1994 年 11 月 21 日 編者：財団法人日本近代文
学館 編集委員：中村真一郎／黒井千次／大岡信／紅野敏郎 発行者：渡邊隆男 発
行所：二玄社

1-2. 『複製 近代文学手稿 解説・解題』 1994 年 11 月 21 日 編者：財団法人日本
近代文学館 発行者：渡邊隆男 発行所：二玄社
収録：解説（紅野敏郎）／解題

2. 『夏目漱石原稿「道草」 全三巻』 2004 年 3 月 22 日 監修：財団法人日本近代文学
館 発行：二玄社

2-1. 『夏目漱石原稿「道草」 上巻』 2004 年 3 月 22 日 監修：財団法人日本近代文
学館 発行：二玄社

収録：第一回／第二回／第三回／第四回／第五回／第六回／第七回／第八回／第九回
／第十回／第十一回／第十二回／第十三回／第十四回／第十五回／第十六回／第十七
回／第十八回／第十九回／第二十回／第二十一回／第二十二回／第二十三回／第二十

四回／第二十五回／第二十六回／第二十七回／第二十八回／第二十九回／第三十回／第三十一回／第三十二回／第三十三回／第三十四回／第三十五回

2-2. 『夏目漱石原稿「道草」 中巻』 2004年3月22日 監修：財団法人日本近代文学館 発行：二玄社

収録：第三十六回／第三十七回／第三十八回／第三十九回／第四十回／第四十一回／第四十二回／第四十三回／第四十四回／第四十五回／第四十六回／第四十七回／第四十八回／第四十九回／第五十回／第五十一回／第五十二回／第五十三回／第五十四回／第五十五回／第五十六回／第五十七回／第五十八回／第五十九回／第六十回／第六十一回／第六十二回／第六十三回／第六十四回／第六十五回／第六十六回／第六十七回／第六十八回／第六十九回

2-3. 『夏目漱石原稿「道草」 下巻』 2004年3月22日 監修：財団法人日本近代文学館 発行：二玄社

収録：第七十回／第七十一回／第七十二回／第七十三回／第七十四回／第七十五回／第七十六回／第七十七回／第七十八回／第七十九回／第八十回／第八十一回／第八十二回／第八十三回／第八十四回／第八十五回／第八十六回／第八十七回／第八十八回／第八十九回／第九十回／第九十一回／第九十二回／第九十三回／第九十四回／第九十五回／第九十六回／第九十七回／第九十八回／第九十九回／第百回／第百回一／第百二回

2-4. 『夏目漱石原稿「道草」別冊』 2004年3月22日 監修：財団法人日本近代文学館 発行：二玄社

収録：原稿で読む『道草』（十川信介）

翻刻

1. 『近代文学研究資料叢書』

1-1. 『近代文学研究資料叢書 I 「新潮」作家論集』

1-1-1. 『近代文学研究資料叢書 I 「新潮」作家論集 上巻』 1971年10月25日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：財団法人日本近代文学館

収録：人物月旦〈夏目漱石論（明治四三年七月）〔森鷗外／内田魯庵／××××／戸川秋骨／佐藤紅緑／馬場孤蝶／徳田秋江／門下某氏〕／島崎藤村論（明治四三年八月）〔岩野泡鳴・／生田長江／馬場孤蝶／戸川秋骨／徳田秋江／蒲原有明／片山天弦／後藤宙外〕／田山花袋論（明治四三年九月）〔岩野泡鳴／徳田秋江／蒲原有明／内田魯庵／小杉天外／後藤宙外／江見水蔭／水野素舟〕／早稻田派論（明治四三年十月）〔岩野泡鳴／生田長江／徳田秋聲／蒲原有明／内田魯庵／後藤宙外／阪本文泉子／森鷗外〕／森鷗外論（明治四十三年十一月）〔井上通康／馬場孤蝶／小山内薫／賀古鶴所／蒲原有明／與謝野寛／高濱虚子／相馬御風／内田魯庵／小杉天

外] / 眞山青果論 (明治四四年二月) / [馬場孤蝶 / 徳田秋聲 / 徳田秋江 / 相馬御風 / 正宗白鳥 / 小杉天外 / 後藤宙外 / ××××] / 現代作家の研究 (明治四四年十一月) [徳田秋聲氏の小説・生田長江 / 藤村花袋兩氏に對する感想・金子筑水 / 藤村の技巧と花袋の人生觀・小杉天外 / 正宗白鳥君の藝術・水野葉舟 / 藝術家らしき藝術家永井荷風氏・中村星湖 / 青果君の將來・相馬御風 / 森田草平氏の作品に就いて・三島霜川 / 葉舟氏と薫氏・蒲原有明 / 未明氏と三重吉氏との長所及び缺點・片山天弦 / 風葉氏が現在の地位・徳田秋江 / 鷗外、漱石兩先生・馬場孤蝶 / 作家に對する注文・伊井蓉峯 / 鏡花君の進むべき道・佐藤紅緑 / 天外、宙外兩君の作風・樋口龍峽 / 虛子氏に對する雜感・近松丑之助 / 小劍氏と星湖氏・動阪の人] / 現代作家月旦 (眞山青果氏を論ず・生田長江 (明治四五年一月) / 藝術家としての永井荷風氏・相馬御風 (明治四五年二月)) / 明治の重なる文學者の新研究 (國木田獨歩 (明治四五年一月) [獨歩の創作的態度と其の自然觀・相馬御風 / 批評家としての獨歩・吉江孤雁 / 作品と其の人格・蒲原有明] / 二葉亭四迷 (明治四五年二月) [新文藝に及ぼせる樗牛の影響・近松秋江 / 青年時代に受けたる樗牛の感化・相馬御風 / 樗牛の性格の半面] / 北村透谷 (明治四五年四月) [過渡時代の情熱のある思想家・馬場孤蝶 / 透谷のインフルエンス・秋田雨雀] / 田村とし子論 (大正二年三月) [新しき女としての女史・森田草平 / 藝術家としての才分と素質・相馬御風 / 女優としての技量・中村吉藏 / 半生の經歷とその性格・樋口かつみ子 / 家庭の人としての女史・無名氏 / 人として又藝術家として・徳田秋聲] / 新人月旦 (相馬御風論 (大正三年六月) [徳田秋聲 / 生田長江 / 岩野泡鳴 / 徳田秋江 / 中村星湖 / 小川未明 / 秋田雨雀] / 森田草平 (大正三年七月) [鈴木三重吉 / 田村俊子 / 相馬御風 / 近松秋江 / 生田長江 / 生方敏郎 / 馬場孤蝶] / 徳田秋江論 (大正三年八月) [内田魯庵 / 相馬御風 / 水野葉舟 / 徳田秋聲] / 新進作家と其作品 (大正三年九月) [夏目漱石 / 徳田秋聲 / 相馬御風 / 北原白秋 / 鈴木三重吉 / 中村星湖 / 大杉榮 / 近松秋江 / 小川未明 / 本間久雄 / 長谷川天溪 / 中澤臨川 / 野上白川 / 前田晁 / 田村俊子 / 中村吉藏 / 上司小劍 / 片山伸] / 小川未明論 (大正三年十月) [徳田秋聲 / 正宗白鳥 / 片山伸 / 岩野泡鳴 / 中村星湖 / 相馬御風] / 人物新論 (武者小路實篤論・江馬修 (大正四年四月) / 近松秋江論・生田春月 (大正四年五月) / 作家論特輯 (大正四年六月) [岩野泡鳴氏を論ず・大杉榮 / 片山伸氏を論ず・加藤朝鳥 / 田中王堂氏を論ず・奥榮一 / 阿部次郎氏を論ず・生田春月 / 相馬御風氏を論ず・清水柳三郎 / 中澤臨川氏を論ず・安成貞雄 / 生田長江氏を論ず・荒川義英 / 伊藤野枝氏を論ず・中村孤月 / 大杉榮氏を論ず・生方敏郎] / 新進十家の藝術 (大正五年三月) [引つくるめて皆新進作家・上司小劍 / 六家に對して・安倍能成 / 多少讀んで居る人・谷崎潤一郎 / 眞面目の力・堺利彦 / 吉田氏と豊島氏と谷崎氏と・吉江孤雁 / 段違ひの作家・久米正雄 / 老大家連よりも・生田長江 / 十家に對する短評・柴田

勝衛／武者小路氏の藝術・三井甲之／東京者の悲哀・久保田万太郎／里見弴の作・有島生馬／神経衰弱の描寫・加藤朝鳥／特色ある一人として・秋田雨雀／立體的な書方でなくては・近松秋江／感じたところを・武林夢想庵／伸びる作家と伸びない作家・赤木桁平／大體に通ずる特徴・加能作次郎／新生面を開く可き人々・中村星湖／尚ほ精讀の上で・小川未明／三氏の特徴・石坂養平／一寸した感想・本間久雄／志賀直哉氏の一作・生方敏郎／諸家の未來に注意せよ・島田青峰／豊島氏の將來・後藤末雄／それらの特質・中村孤月／讀んでる人・小山内薫／新進女流作家三氏の傾向（大正五年五月）[器用性な素木しづ子・森田草平／お滋さんの傾向・岩野泡鳴／小野美智子氏作品・上司小劍／武者小路實篤論（大正五年十月）[武者小路氏の『燃えざる火』・廣津和郎／武者小路君の特色・秋田雨雀／戯曲家としての武者小路氏・菊池寛／個性の生眞面目な力・豊島與志雄／武者小路氏の作劇上の技巧・秦豊吉／武者小路氏の位置・加藤朝鳥／強い男か弱い男か・加藤一夫]／作家論特輯（大正六年一月）[里見弴氏を論ず・谷崎精二／豊島與志雄氏を論ず・久米正雄／長與善郎氏を論ず・赤木桁平／谷崎清二氏を論ず・豊島與志雄／江馬修氏を論ず・廣津和郎／相馬泰三氏を論ず・生田清平／野上彌生子氏を論ず・加藤朝鳥／芥川龍之介氏を論ず・加藤武雄／有島生馬氏を論ず・秦豊吉／武者小路實篤氏を論ず・三井甲之]／問題文藝論（大正四年九月）[問題文藝の意義・生田長江／總ゆる問題は自己の生活にあり・小川未明／問題は深さに依って生ず・近松秋江／問題文藝に就いての對話・相馬御風]／當來文藝の基調たらんとする人道主義に對する批判（大正五年十一月）[當來の文藝としての人道主義・森田草平／恐ろしい言葉！・江馬修／人道主義私見・加藤一夫／人道主義の定義・廣津和郎／『人道主義』と『米の飯』・中村星湖／「人道主義」に就て・武者小路實篤]／最近の問題となれる民衆藝術及び其の論議に對する考察と批判（大正七年六月）[民衆藝術の根本問題・三井甲之／民衆藝術の意義・赤木桁平／應用された藝術・石坂養平／先ず民衆の意義を決定せよ・江口渙／民衆的精神とは何ぞや・前田晁／「民衆のため」といふ意味・野上豊一郎]

1-1-2.『近代文学研究資料叢書 I 「新潮」作家論集 中巻』 1971年10月25日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：財団法人日本近代文学館

収録：人の印象〈島崎藤村氏の印象（大正六年二月）[小諸で初めて・小山内薫／辛い孤獨の生活・田山花袋／静かさと深さ・有島生馬／島崎さんの言葉・正宗得三郎／島崎先生の演説・中村星湖／美しい青年・秋田雨雀]／谷崎潤一郎氏の印象（大正六年三月）[谷崎君の正體・後藤末雄／私たちの少年時代・谷崎清二／生一本の江戸ッ兒・長田幹彦／谷崎氏に關する『雜談二三』・瀧田樗陰／旗本の次男の様な扮装・吉井勇／谷崎の人と作品・木村莊太]／徳田秋聲氏の印象（大正六年四年）[秋聲さんと白足袋・上司小劍／父のやうな感じの人・素木しづ／燦銀のやうな感

じ・鈴木三重吉／氣分の上品な人・田村俊子／冷淡な寫實家・野上白川／パンの會の時初めて・久保田万太郎／田村俊子氏の印象（大正六年四月）〔女優であった時から・徳田秋聲／技巧と性質と並び到る・森田草平／私の見た俊子さん・岡田八千代／人見知りをする女・近松秋江／軟らかで艶つばい・鈴木悦／鞆皮のやうな感じ・長田幹彦〕／武者小路實篤氏の印象（大正六年六月）〔繊軟な新體と強い眼・有島生馬／弱さから來る強さ・長與善郎／寂しい感じのする人・江馬修／直接會はない前から・水野仙子／武者小路君のユーモア・里見弴／複雑な印象の中から・木村莊太〕／里見弴氏の印象（大正六年七月）〔「伊吾」に對する思ひ出・園池公致／白足袋と疊附の下駄・盛岡夏子／技巧性の濃厚なこと・田中純／小がらかな色の白い人・久保田万太郎／目に浮ぶ小さい後姿・木下利玄／爽やかで輕快な言葉・近松秋江〕／田山花袋氏の印象（大正六年八月）〔大膽不敵が羨ましい・上司小劍／不機嫌な顔と々の顔・前田晁／眼鏡越しのこはい眼・水野仙子／大きな感じの田舎者・加能作次郎／感情家の花袋氏・岩野泡鳴／或る處で或る女の批評・中村星湖〕／有島武郎氏の印象（大正六年九月）〔極めて人間的なる人・足助素一／ノーブルな性質の人・長與善郎／兄さんのやうな感じ・小山内薫／教師としての武郎氏・XYZ／達觀した聖者風・尾島菊子／札幌時代の有島君・吹田順助〕／芥川龍之介氏の印象（大正六年十月）〔隠れたる一中節の天才・久米正雄・敏感で伶俐な都會人・豊島與志雄／印象的な唇と左手の本・菊池寛／理智的な冷たい感じ・後藤末雄／勉強家で多能の人・松岡讓／口の邊の子供らしさ・谷崎潤一郎〕／志賀直哉氏の印象（大正六年十一月）〔神經はなかゝゝ暴君・武者小路實篤／藝術的な重苦しい魅力・廣津和郎／快活な楽しい話好き・新城和一／人と作品とがそつくり・佐藤春夫／非常に動物好きな人・砥上常雄／氣分で生きて行く人・有島武郎〕／上司小劍氏の印象（大正六年十二月）〔小劍氏に對する親しみ・徳田秋聲／無抵抗主義の遂行者・土岐哀果／責任を好まない人・前田晁／收まり方が早すぎる・堺利彦／大正文壇の畿内奉行・近松秋江〕／有島生馬氏の印象（大正七年一月）〔南國に生れた熱血兒・島崎藤村／家庭に於ける氏と逸話・三島章道／厭味のない上品な人・鈴木三重吉／生馬さんは現代人・尾島菊子／表裏のない直截な人・馬場孤蝶／感覺の鋭敏な近代人・正宗得三郎〕／永井荷風氏の印象（大正七年二月）〔江戸趣味の第一人者・内田魯庵／飽く迄強い心の持主・久保田万太郎／純然たる都會の詩人・小澤愛罔／才分の豊かなる人・近松秋江／前に出ると頭が下がる・水上瀧太郎／その日常生活と作品・井川滋〕／長與善郎氏の印象〔眞面目で一國な性質・長與又郎／涙脆く豊かな同情心・千家元麿／力強い個性と大きな愛・新城和一／憂鬱な犯し難い表情・安倍能成／初めて會つた時の事・木村莊八／本當のことの分る男・武者小路實篤〕／北原白秋氏の印象（大正七年四月）〔性格は非常に複雑だ・長田秀雄／我慢の強い忍耐力・室生犀星／ふつくりとした人柄・萩原朔太郎／妻の觀たる北原白秋・北原

章子／玲瓏珠のごとき人格・吉井勇／子供のやうなお洒落・水野葉舟］／豊島興志雄氏の印象（大正七年五月）〔希臘の彫刻的な顔・新關良三／洗練された風貌・菊池寛／果して顔が好いか・谷崎潤一郎／人の好い公卿悪・芥川龍之介／伶俐巧で而も冷靜・後藤末雄／眉目清秀の容貌・江口渙／初めて會つた頃・久米正雄］／正宗白鳥氏の印象（大正七年六月）〔白鳥氏と識つてから・上司小劍／容易に得難い現代人・武林無想庵／第一印象及び其の他・中村星湖／幼い時分の幽な印象・正宗得三郎／中々快活なお喋り・徳田秋聲］／片上伸氏の印象（大正七年七月）〔高く秀でたひろい額・前田晁／一學生の見た片上氏・加能作次郎／十年前の昔話・中村吉藏／近代的な敏感者・谷崎精二／洋行前と洋行後と・秋田雨雀／圓に三角的な人・本間久雄］／吉井勇氏の印象（大正七年八月）〔ほろりとなる一面・北原白秋／吉井君に似合ふ服装・久保田万太郎／酒席に於ける吉井氏・近松秋江／強く冷たい理性の人・小笠原長幹／大變早起きをする人・長田秀雄］／久米正雄氏の印象（大正七年九月）〔悲劇のない非凡人・豊島興志雄／男らしい立派な風貌・上野山清貢／通俗小説を書く覺悟・後藤末雄／俳人三汀としての彼・江口渙／學生時代の久米正雄・菊池寛］／生田長江氏の印象（大正七年十月）〔演説振りと長唄の夕・堺利彦／彼はアイロニストか・野上豊一郎／女に對した時の態度・らいてう／無類の善人長江夫人・近松秋江／利口で且つへまな人・岩野泡鳴］／小山内薫氏の印象（大正七年十一月）〔山の手から下町へ・島崎藤村／演劇改革者として・秋田雨雀／好い意味の「田舎者」・吉井勇／藏書家で又讀書家・蒲原有明／幼い時からのこと・岡田八千代／弱くさうして善良・久保田万太郎］／岩野泡鳴氏の印象（大正七年十二月）〔岩野君と其の作品・徳田秋聲／行届いた深切な心・荒木滋子／氣が弱く存外臆病・近松秋江／獨存的なる優強者・蒲原有明／猪突的な生活態度・生田長江］／菊池寛氏の印象（大正八年一月）〔兄貴のやうな心持・芥川龍之介／善良な人間の匂ひ・豊島興志雄／人格に垢が溜らぬ・江口渙／力強さと粘りつ氣・柴田勝衛／同性戀愛の宣傳者・久米正雄］／廣津和郎氏の印象（大正八年二月）〔ずばらで然し正直・谷崎精二／神經質な少年時代・中村吉藏／荷車を曳つぱつて・相馬泰三／好い意味の苦勞人・葛西善藏／道德家で苦勞性で・宇野浩二］／小川未明氏の印象（大正八年三月）〔少年時代の思い出・相馬御風／子供らしい神經家・岩野泡鳴／病的の黴菌恐怖家・近松秋江／趣味のエゴイスト・田中純／強い感情の所有者・坪田讓治／「漂浪兒」の出た當時・中村星湖］／葛西善藏氏の印象（大正八年四月）〔聰明で而も怠け者・徳田秋聲／原始的哲人の面影・舟木重雄／よく動く可愛い目玉・宮地嘉六／……が、困つた人だ・相馬泰三／東北人の地方色・谷崎精二／「正直爺さん」の強み・廣津和郎］／若山牧水氏の印象（大正八年五月）〔「どうでもしなはれ」・北原白秋／十數年來の友として・福永輓歌／深淵のまへに立ちて・若山喜志子／寂しい旅人の如き人・越前翠村／「俺は永劫を信ずるよ」・平賀春郊／十年一

日といふ感じ・土岐哀果] / 佐藤春夫氏の印象 (大正八年六月) [佐藤春夫君と私
 と・谷崎潤一郎 / 驚くべき早熟の男・生田春月 / 何よりも先に詩人・芥川龍之介 /
 思ひだすがまゝに・奥榮一 / 一人の親友として・與謝野晶子 / 即興詩人として・生
 田長江] / 相馬泰三氏の印象 (大正八年七月) [一月十九日夜の事・中村星湖 / 理
 知的に整つた人・葛西善藏 / 相馬君の獨り占ひ・秋庭敏彦 / 堅い殻を持つた貝・谷
 崎精二 / 美醜に対する感覺・舟木重信] / 久保田万太郎氏の印象 (大正八年八月)
 [禿げ上がつてゐる額・里見弴 / 眞個に蒲焼見たよう・近松秋江 / 一家をなした
 堂々さ・田中純 / 江戸の素町人の面影・久米正雄 / 暗い路次の好きな人・吉井勇]
 / 谷崎精二氏の印象 (大正八年九月) [愛すべき律義者なり・葛西善藏 / 非變人の
 名の取消し・宇野浩二 / 性質の違つた兄と弟・谷崎潤一郎 / 外見には暢氣で快活・
 細田源吉 / よく調和の取れた人・舟木重雄 / 秀才然として勉強家・廣津和郎] / 藤
 森成吉氏の印象 (大正八年十月) [純粹な感じのする人・片上伸 / 或場合には喧嘩
 早い・舟木重信 / まれに見る立派な人・宮地嘉六 / 浸みつく様な優しさ・宇野喜代
 之介 / ぬつとした様な感じ・阿部次郎] / 江口渙氏の印象 (大正八年十一月) [陰
 影に富んだ性格・芥川龍之介 / 犬屬的性情の人物・佐藤春夫 / 奥さんなどに丁寧・
 中戸川吉二 / 五百羅漢のお化け・宇野浩二 / 外見を裏切る弱氣・佐佐木茂索] / 中
 村星湖氏の印象 (大正八年十二月) [十分支度の出來た人・島崎藤村 / 苟くもしな
 い慎重さ・前田晁 / 善良さと小心さと・岡本かの子 / 感動の人、眞摯の人・岡田三
 郎 / 田舎出の武士の感じ・秋田雨雀 / 物事を重大視する癖・田山花袋] / 舟木重信
 氏の印象 (大正九年一月) [總べてが將來にあり・舟木重雄 / 善良なる紳士として・
 谷崎精二 / 今の彼に言ひたい事・宇野喜代之介 / 意志強い人生の信者・關口次郎 /
 花ならば蕾の若武者・宇野浩二 / 直ぐに二つのことが・相馬泰三] / 宇野浩二氏の
 印象 (大正九年二月) [人の好い古狐の感じ・廣津和郎 / 思ひ込まれる質の男・葛
 西善藏 / 一首不思議な分泌物・鍋井克之 / 足音が大きいやうだ・大木雄三 / 黒くて、
 玄人で、苦勞人・生田春月 / モンスタアの正體?・谷崎精二] / 千家元麿氏の飲酒
 雄 (大正九年三月) [残酷性が皆無な人・武者小路實篤 / 景色の中の思ひ出・木村
 莊太 / 藝術品のやうな顔・伊藤彌太 / 美しくて凄いもの・佐藤惣之助 / 天才的鋭感
 ある男・木村莊八 / 「心」の印象 イム・プレジヨニスト 家一眞の民衆作家・長興善郎] / 加能作次郎
 氏の印象 (大正九年四月) [『旨い物が喰ひたい!』・中村星湖 / 素朴な味を持つ作
 家・田中純 / 女と交際が出來ない・小寺菊子 / 嘘の云へない正直さ・吉田絃二郎 /
 感情の洗練された人・小川未明 / 嘔みしめて出る滋味・片山伸] / 中戸川吉二氏の
 印象 (大正九年五月) [「人間」と「新思潮」の私生兒・久米正雄 / 「坊ちゃん魂」
 の持主・吉井勇 / よく眼鏡を毀す人・田中純 / 胸裡を表情する眼・南部修太郎 / 一
 首の業病がある・野村治輔 / 初對面の日のこと・里見弴] / 吉田絃二郎氏の印象 (大
 正九年六月) [悲み深く愛博き人・加能作次郎 / 美しき世界の所有者・内藤濯 / 一

人で淋しがる人・宮島新三郎／教師らしくない點・水谷勝／絃ちゃんの輝く眼・野村一意／内部にひそむ熱性・片山伸／室生犀星氏の印象（大正九年七月）[淋しく、靜かに、冷く、重く、然も樂し・佐藤春夫／渠に云ひたいこと・藤澤清造／大樹の花・室生君・佐藤惣之助／變態性慾の現はれ・百田宗治／本能の中からの聲・福士孝次郎］／南部修太郎氏の印象（大正九年八月）[射前丈は正しいが・菊池寛／美しい顔の持主・中戸川吉二／彼の押しの強さ・小島政二郎／「しやけ」の鼻曲り・井汲清治／顔や姿は三田育ち・久米正雄／彼の長所十八・芥川龍之介］／田中純氏の印象（大正九年九月）[典型的な二黒の寅・久米正雄／ゑらがりて世間話？・羽太銳治／評判がよくなつた・中戸川吉二／初めて酒を飲んだ頃・中川章三／夫には理想的の人・山田たづ子／『まあ、さう怒るなよ』・吉井勇］／宮地嘉六氏の印象（大正九年十月）[神經の上の苦勞人だ・高島素之／度々面喰はせられる・藤森成吉／餘りに優しい弱い心・宮嶋資夫／眞劍で生一本な性格・中澤靜雄／お互ひに持久の工夫・葛西善藏］／吉江孤雁氏の印象（大正九年十月）[あの大きな眼球で・中村星湖／巴里に於る思ひ出・三島章道／終始一貫努力の人・西條八十／一味の深刻な影が・前田晁／歸朝してからの彼・片上伸］／近松秋江氏の印象（大正九年十二月）[感じ方見方が自然・徳田秋聲／元氣が續くやうに・田中純／くさやの好きな人・池田孝次郎／秋江先生三道樂のこと・吉井勇／事務の才に驚いた・上司小劍]

1-1-3.『近代文学研究資料叢書 I 「新潮」作家論集 下巻』 1971年10月25日 編集：財団法人日本近代文学館 発行：財団法人日本近代文学館

収録：文壇新人論（芥川龍之介氏を論ず・田中純（大正八年一月）／有島武郎論・福士幸次郎（大正八年二月）／菊池寛論・南部修太郎（大正八年三月）／志賀直哉論・廣津和郎（大正八年四月）／佐藤春夫論・柳澤健（大正八年五月）／廣津和郎論・宮島新三郎（大正八年六月）／葛西善藏論・宇野浩二（大正八年七月）／久米正雄論・小島政二郎（大正八年九月）／千家元麿論・木村莊太（大正八年十月）／宇野浩二論・舟木重信（大正八年十一月）／加能作次郎論・加藤武雄（大正八年十二月）／藤森成吉論・木村毅（大正九年三月）／長興善郎論・南部修太郎（大正九年五月）／舟木重信論・廣津和郎（大正九年七月）／室生犀星論・藤森淳三（大正九年八月）／福士幸次郎論・増田篤夫（大正九年九月）／中戸川吉二論・三宅周太郎（大正九年十月）／吉田絃二郎論・平林初之輔（大正九年十一月））／人間隨筆（最近の芥川龍之介氏（大正十二年十一月）[大學教授にして見たい・菊池寛／澄江子・放庵未醒／彼を知る迄・宇野浩二／間抜けなとこのない人・佐藤春夫／創作の苦心と文人趣味・瀧田哲太郎／龍之介先生・小穴隆一／一昨日の話・佐佐木茂索／我鬼窟から澄江堂へ・久米正雄／今夏の芥川氏・岡本かの子］／最近の久米正雄氏（大正十三年一月）[大好きな久米君・里見弴／一家の風格が出来た・芥川龍之介／得戀の勇者・田中純／弱氣の悟道・菊池寛／闊達で愉快的な感じ・近松秋江／新

婚以後の彼・直木三十三／日進月歩の久米正雄・中戸川吉二／久米君の結婚・徳田秋聲／普通の交際にて識れる久米氏・岡本一平] /最近の谷崎潤一郎氏（大正十三年二月）[舞踏場にて・久米正雄／變化に富んだ表情・今東光／美慾と解脱とチーズ・岡本一平／遠くからみた谷崎君・里見弴／往時を基調にして・岡本かの子／紅薔薇の様なネクタイ・芥川龍之介／鮎子ちゃんは怖がらない・中戸川吉二／衣、食、住、踊り・田中純] /最近の佐藤春夫氏（大正十三年三月）[當流の艶隠者・日夏耿之介／唯一つの異例・諏訪三郎／勉めよや春夫！・辻潤／鸚鵡の一件・稻垣足穂／この前に會つた時・木蘇穀／佐藤の誤解・芥川龍之介／詩人訪問・岡本一平／今東光の話では…・久米正雄／佐藤春夫の印象・宇野浩二] /最近の菊池寛氏（大正十三年四月）[印象五つ・豊島興志雄／わが對蹠人・小島政二郎／若い者を甘やかせる・川端康成／新聞記者時代・千葉龜雄／雜司ヶ谷問答・岡本一平／客觀描寫・横光利一／淋しさう・石濱金作／將棋の師匠・岡榮一郎／信賴すべき人物・廣津和郎／印象二三・加能作次郎] /最近の里見弴氏（大正十三年五月）[わが愛讀作家・菊池寛／里見さん・岡田八千代／お邸育ちの通人・佐藤春夫／「自己嫌惡」の造語者・三宅周太郎／里見さんの手紙・佐佐木茂索／まごゝろの話・岡本一平／里見弴氏の印象・宇野浩二／をとゝしの年尾・久保田万太郎] /最近の久保田万太郎氏（大正十三年六月）[微笑笑・芥川龍之介／貝殻追放・水上瀧太郎／久保田先生・岡田八千代／昔、五十錢貰ひました・佐藤春夫／或る夜の酒・岡村柿紅／久保田万太郎君・長田秀雄／苦吟力行の人・藤澤清造／足袋のこと・牧野信一／ほんとの話・久米正雄／罪のない矛盾・岡本一平] /最近の廣津和郎氏（大正十三年七月）[廣津君について・武者小路實篤／平民宰相和郎・葛西善藏／汁粉とチーズ・片岡鐵兵／本體は人生派の藝術家・舟木重雄／大きな鬼門・横光利一／藝術社にて・岡本一平／蔭口をかく・三上於菟吉／斷片・加能作次郎／餓鬼大將・佐佐木茂索／廣津と私・宇野浩二] /最近の宇野浩二氏（大正十三年八月）[陰性卯の白・久米正雄／一二のこと・三宅周太郎／出世の前後・谷崎精二／サムソンの髪・片岡鐵兵／格さんと食慾・芥川龍之介／宇野君の人と作と・木蘇穀／文傑おとまりの肩・永瀬義郎／宇野氏斷片・佐佐木茂索／宇野君と僕・葛西善藏／負けるが勝・廣津和郎／寢床の上の作家・岡本一平] /最近の牧野信一氏（大正十三年九月）[彼に関する覚え書・水守龜之助／いろいろ・中戸川吉二／小説を作る家・宇野浩二／牧野斷片・佐佐木茂索／社會的性能？・葛西善藏／意見の無い子・岡本一平／初對面の日・久保田万太郎／ムニ・久米正雄] /最近の近松秋江氏（大正十三年十月）[近松氏の精進・廣津和郎／情痴の勇者・三上於菟吉／その傑作「疑惑」・正宗白鳥／現代の落柿舎主人・上司小劍／涼床の或る夜・長田幹彦／秋の雨、若き妻の病氣、白足袋・岡本一平] /最近の葛西善藏氏（大正十三年十一月）[彼と酌酊・谷崎精二／いゝところは黙殺する・諏訪三郎／彼は「道」を持つてゐる・三上於菟吉／余の倅に就いて・

牧野信一／酒中の仙善藏・水守龜之助／善藏管見・宇野浩二／葛西氏の瞥見印象・岡本一平〕／新進作家の人と作との印象〈佐佐木茂索氏の印象（大正十五年四月）〔剛才人と柔才人と・芥川龍之介／モタとタキシ・川崎備寛／ポーチの前の彼・小島政二郎／寂しさを知る・藤森淳三／茂索君と私・片岡鐵兵／船は出た・久米正雄〕／犬養健氏の印象（大正十五年四月）〔好もしき人柄——小ぢんまりしすぎる作風・佐藤春夫／純な眼、正直な口・古川實／一休に扮した犬養君・瀧井孝作／魂の冒険を望む・水守龜之助〕／小島政二郎氏の印象（大正十五年五月）〔小説家小島政二郎氏・水上瀧太郎／銀座での感じ・間宮茂輔／十四年の交りを通して・南部修太郎／小島斷片・佐佐木茂索／小島先生・加宮貴一／思ひつくまゝ・久保田万太郎〕／牧野信一氏の印象（大正十五年五月）〔語を寄す「渚」の作者・久保田万太郎／大人びたかれ・長谷川浩三／牧野君のこと一二・葛西善藏／牧野君の身上・藤森淳三／手品師牧野・淺原六朗／彼と私と・水守龜之助〕／横光利一氏の印象（大正十五年六月）〔横光利一君の素描・今東光／横光君斷片・佐佐木茂索／彼の一面・中河輿一／横光利一雜觀・川端康成／四角と腹・片岡鐵兵／「鬼の面」・岡田三郎〕／宇野千代氏の印象（大正十五年六月）〔千代さんと云ふ人・間宮茂輔／未完成である・尾崎士郎／宇野女史素描・木蘇穀／一面識觀・岡田三郎／不思議な縁・久米正雄〕／中條百合子氏の印象（大正十五年六月）〔自由な動き方・三宅やす子／作についてのみ・堀木克三／お作品に就きて・吉屋信子／作品を透して見る・加能作次郎〕／文壇諸家年譜（大正五年一月～太守尾七年十二月、十年一月～九月）〈夏目漱石／徳田秋聲／森田草平／小川未明／鈴木三重吉／相馬御風／昇曙夢／徳田秋江／田山花袋／岩野泡鳴／生田長江／谷崎潤一郎／中村星湖／本間久雄／長田幹彦／野上白川／田村俊子／稻毛詛風／上司小劍／吉江孤雁／小栗風葉／中村吉藏／吉井勇／金子薫園／秋田雨雀／高濱虚子／與謝野晶子／阿部次郎／加藤朝鳥／江馬修／若山牧水／安成貞雄／三井甲之／泉鏡花／里見弴／島崎藤村／有島生馬／豊島興志雄／加藤一夫／小山内薫／久保田万太郎／武者小路實篤／長興善郎／石坂養平／赤木桁平／廣津和郎／谷崎精二／芥川龍之介／馬場孤蝶／土岐哀果／久米正雄／小宮豊隆／三木露風／北原白秋／前田夕暮／福士幸次郎／楠山正雄／有島武郎／沼波瓊音／永井荷風／片山伸／前田晁／長田秀雄／野口米次郎／江口渙／菊池寛／加能作次郎／野村愛正／吉田絃二郎／川路柳虹／藤森成吉／生田春月／室生犀星／細田源吉／中條百合子／中戸川吉二／白鳥省吾／島田清次郎／西條八十／宮地嘉六／南部修太郎〉

1-2. 『近代文学研究資料叢書(2) 森鷗外・夏目漱石・三木露風未発表書簡集』 1972年8月10日 編集：財団法人日本近代文学館図書資料委員会 発行：財団法人日本近代文学館

収録：はしがき／凡例／森鷗外篇〈明治二十三年／明治三十年／明治三十二年／明治

三十三年／明治三十六年／明治三十七年／明治三十八年／明治三十九年／明治四十年
／明治四十三年／明治四十五年／大正元年／大正三年／大正四年／大正五年／大正六
年／大正七年／大正八年／大正九年／大正十年／年次未詳／附・森峰子）／夏目漱石
篇（明治四十年／明治四十三年／明治四十四年／明治四十五年／大正三年／大正四年）
／三木露風篇（明治三十七年／明治三十八年／明治四十年／明治四十一年／明治四十
二年／明治四十三年／明治四十四年／明治四十五年／大正二年／大正三年／大正四年
／大正十三年／大正十五年）／解題（森鷗外篇・夏目漱石篇（竹盛天雄）／三木露風
篇（古川清彦）／附・三木露風篇内容索引）／宛名別書簡索引

1-3. 『近代文学研究資料叢書（3） 朝日文藝欄（夏目漱石編集）』 1973年9月10日
編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

収録：はしがき／朝日文藝欄（明治四十二年（十一月二十五日より）／明治四十三年
／明治四十四年（十月十二日まで））／解説（吉田精一）／執筆者索引

1-4. 『近代文学研究資料叢書（4） 有島武郎未刊原稿 かんかん蟲 他二編』 1973
年9月10日 著者：有島武郎 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

収録：はしがき（稲垣達郎）／かんかん蟲／慶長武士／此孤墳／附・此孤墳批評欄／
解説（瀬沼茂樹）

1-5. 『近代文学研究資料叢書（5） 二葉亭四迷』 1975年3月1日 編者：坪内逍遙
／内田魯庵 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館

収録：長谷川辰之助君 小傳／終焉紀事附埋葬紀／著書略目／略年譜／竹馬の友たり
し長谷川君（中村達太郎）／同窓同社の記（土屋元作）／高谷塾時代の交友（西源四
郎）／三十年來の交友（太田黒重五郎）／舊外國語学學校時代（藤村義苗）／精神と
身軀と權衡を失したる人（平生鈞三郎）／語學校時代の長谷川氏（未だ素志を貫く能
はざりし薄倖の人）（吉益外起四郎）／神經質の理想家（鈴木要三郎）／容易に獲易か
らざる赤誠の人（中澤房則）／長谷川二葉亭氏の追懷（矢崎鎮四郎）／憂國の志士と
しての長谷川君（日向利兵衛）／文壇以外の長谷川君（鈴木於菟平）／失敗したる經
世家としての長谷川君（山下房太郎）／海軍省勤務中の長谷川氏（岡次郎）／海軍省
時代（芥川晁孝）／長谷川先生の面影（井田幸平）／長谷川先生（羽中田諄策）／長
谷川先生の教授法（北島常晴）／長谷川辰之助先生の東京外國語學校教授時代（股野
貫之）／噫長谷川辰之介君（佐々木安五郎）／對露西亞の長谷川君（大庭柯公）／二
葉亭先生追想録（松原岩五郎）／追懷一片（徳富蘇峯）／長谷川君を懷ふ（宮島大八）
／我が知る長谷川君（戸水寛人）／東露及滿洲に於ける長谷川君（佐波武雄）／北
京警務學堂に於ける長谷川君（警世家としての同人の半面）（阿部精一）／二葉亭主人
と朝日新聞（池邊吉太郎）／朝日に於ける二葉亭四迷（弓削田精一）／露都に於ける
二葉亭先生（柏木秋江）／露西亞に於ける長谷川氏（夏秋龜一）／眞人長谷川辰之助
君（横山源之助）／長谷川君の性格（坪内逍遙）／長谷川辰之助氏（森林太郎）／長

谷川二葉亭氏を悼む（島崎藤村）／謎の人二葉亭（昇曙夢）／長谷川君（饗庭篁村）／長谷川君と余（夏目漱石）／長谷川氏を懐ふ（戸川秋骨）／二葉亭四迷君（田山花袋）／二葉亭四迷君（山田美妙）／二葉亭氏（岩野泡鳴）／二葉亭君（岡野知十）／時勢の感化（後藤宙外）／編輯局の二葉亭主人（杉村縦横）／『あひびき』に就て（蒲原有明）／長谷川二葉亭を輓す（朝比奈知泉）／二葉亭氏（正宗白鳥）／威厳と温籍の人（西村醉夢）／二葉亭先生（物集芳子）／長谷川先生（物集和子）／四迷先生の翻譯に關する追憶（小山田薫）／二葉亭氏（神山順次）／眞率の人（島田三郎）／二葉亭四迷子逝く（長谷川天溪）／二葉亭四迷君を懐ふ（桑原謙藏）／二葉亭論二則（島村抱月）／長谷川二葉亭氏（徳田秋江）／言語躰の文章と浮雲（幸田露伴）／長谷川君の政治趣味（高淵文淵）／著作に關する計畫（西本翠蔭）／二葉亭の一生……回顧二十年（内田魯庵）

※1909年（明治42年）8月1日に、坪内逍遙・内田魯庵著にて易風社より刊行されたものの復刻。

- 1-6. 『近代文学研究資料叢書（6） 風雲集』 1975年3月1日 著者：島村抱月／後藤宙外／井原青々園 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館
収録：雲の巻（抱月著）〈西鶴論／音樂美の價值／『伊達競阿國劇場』を觀て所謂夢幻劇を論ず／悲劇と人生觀／『不言不語』を讀みて所觀を記す／『新浦島』を評す／新躰詩の形に就いて／絢爛と平淡／戦争後の國文學／詩人と實驗／氣韻生動／變化の統一と想の化現〉／月の巻（宙外著）〈美妙、紅葉、露伴の三作家を評す〔序論及び義妙論の梗概／尾崎紅葉氏を評す／幸田露伴氏を評す〕／『戀八卦柱曆』を讀みて所感を述ぶ／おさんと茂兵衛／批評法のさまざま／露伴が『あがりがま』を讀みて／弦齋著『櫻の御所』／『片ゑくぼ』に就きて／性格と方輪者／小説界の前途／性格に就きて疑者に答ふ／再び性格を論じて歸休庵に答ふ／小説と片輪者／思ひ出づるまゝ／筆まかせ／觀念小説／『ひとり寐』を評す／『雲の袖』を評す〉／花の巻（青々園著）〈馬琴の小説史／當世後言／明治廿七年の梨園／十八大通／『東海道四谷怪談』／團十郎の熊谷／近松と沙翁との同事異文／『忠臣藏』の型／市川團洲と其の技藝〉

※1900年（明治33年）4月28日に、島村抱月・後藤宙外・井原青々園著にて春陽堂より刊行されたものの復刻。

- 1-7. 『落葉のはきよせ』 1976年3月1日 著者：二葉亭四迷 編集：瀬沼茂樹 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し

- 1-8. 『近代文学研究資料叢書（8） 日本からの手紙 日本近代文学館所蔵 滞独時代 森鷗外宛 1886-1888』 1983年4月30日 編集・発行：財団法人日本近代文学館
収録：はしがき（稲垣達郎）／凡例／一 森篤次郎 明治二十年推三月九日／ 森 明治二十年推月日／二 森篤次郎 明治二十年推三月十八日／三 森キミ 明治二十年推三月中旬／四 森静男 明治二十年四月三日／五 森篤次郎 明治二十年推四月四

日／六 森篤次郎 明治二十年四月推／七 森静男 明治二十年推四月二十二日／八
森篤次郎 明治二十年推四月二十三日／九 森静男 明治二十年推五月一日／一〇
森篤次郎 明治十九年推六月三〇日／一一 森静男 明治十九年七月十七日／一二
森篤次郎 明治十九年推七月十七日／一三 森潤三郎 明治十九年七月十七日／一四
石黒忠憲 明治十九年推七月九日／一五 森静男 明治十九年八月十七日／一六 森
篤次郎 明治十九年八月推／一七 森静男 明治十九年八月一日／一八 森篤次郎
明治十九年推八月一日／一九 森キミ 明治十九年推／二〇 森篤次郎・潤三郎 明
治十九年推／二一 森篤次郎 明治十九年推八月十七日／二二 石坂惟寛 明治十九
年推八月二日／二三 森静男 明治十九年九月一日／二四 森篤次郎 明治十九年九
月推／二五 森静男 明治十九年九月二十二日／二六 森篤次郎 明治十九年推九月
二十二日／二七 森静男 明治十九年推十月十九日／二八 森篤次郎 明治十九年十
月二十日／二九 森静男 明治十九年十月九日／三〇 森篤次郎 明治十九年推九月
十日／三一 森潤三郎 明治十九年推九月十日／三二 森静男 明治十九年十一月十
日／三三 森篤次郎 明治十九年推十一月八日／三四 賀古鶴所 明治十九年推十一
月二十一日／三五 森静男 明治十九年推十一月二十一日／三六 森篤次郎 明治十
九年十一月推／三七 森静男 明治十九年推十二月十日／三八 森篤次郎 明治十九
年推十二月十日／番外一／三九 森静男 明治十九年十二月二十九日／番外二／四〇
森篤次郎 明治十九年推十二月二十九日／四一 森静男 明治二十年一月六日／四二
森篤次郎 明治二十年一月六日／四三 吳秀三 明治二十年一月七日／四四 森静男
明治二十年推二月一日／四五 森静男 明治二十年推二月九日／四六 森篤次郎 明
治二十年推二月十日／四七 森キミ 明治二十年二月推九日／四八 森静男 明治二
十年二月二十二日／四九 森篤次郎 明治二十年推二月二十二日／五〇 森キミ 明
治二十年二月二十一日推／五一 森静男 明治二十年推三月七日／五二 森静男 明
治二十年三月十八日／五三 森篤次郎 明治二十年推三月／エルンスト・ツィール訳
詩／第二冊扉／五四 森静男 明治二十年五月十一日／五五 森篤次郎 明治二十年
推五月十三日／五六 森キミ 明治二十年推／五七 森静男 明治二十年六月一日／
五八 森篤次郎 明治二十年推／番外三／五九 森静男 明治二十年推五月二十二日
／六〇 森キミ 明治二十年六月推／六一 森篤次郎 明治二十年推六月二十日／六
二 森静男 明治二十年推六月二十日／六三 森静男 明治二十年七月八日／六四
森篤次郎 明治二十年推七月九日／番外四／六五 吳秀三 明治二十年七月推／六六
小池正直 明治二十年推五月二十七日／六七 森静男 明治二十年七月二十九日／六
八 森篤次郎 明治二十年七月二十九日／六九 森キミ 明治二十年七月推／七〇
森キミ 明治二十年八月推／番外五／七一 森篤次郎 明治二十年八月十八日推／七
二 森静男 明治二十年八月十七日／七三 森篤次郎 明治二十年推八月二十七日／
七四 森キミ 明治二十年八月推／七五 森静男 明治二十年推八月二十七日／七六

森篤次郎 明治二十年推八月十七日／七七 森静男 明治二十年推八月二十日／七八
 森静男 明治二十年推九月七日／七九 森篤次郎 明治二十年推八月二十八日／八〇
 森キミ 明治二十年推／八一 森静男 明治二十年九月二十六日／八二 森篤次郎
 明治二十年推九月二十八日／八三 小池正直 明治二十年推九月二十一日／八四 小
 池正直 明治二十年推十月五日／八五 森静男 明治二十年十月七日／八六 永松東
 海 明治二十年九月二十四日／八七 永松東海 明治二十年九月十一日／八八 森静
 男 明治二十年推十月十七日／八九 森篤次郎 明治二十年推十月十七日／九〇 森
 篤次郎 明治二十年推十月六日／九一 森キミ 明治二十年推九月六日／九二 森静
 男 明治二十年十一月二十七日／九三 森静男 明治二十年推十一月十八日／番外六
 ／九四 森篤次郎 明治二十年推十一月二十九日／九五 森静男 明治二十年推十二
 月九日／九六 森篤次郎 明治二十年推十二月九日／九七 森静男 明治二十一年一
 月五日／九八 森キミ 明治二十一年推一月五日／九九 森篤次郎 明治二十一年
 一月四日／一〇〇 森静男 明治二十一年一月十七日／一〇一 森静男 明治二十一
 年推一月二十七日／一〇二 森静男 明治二十一年推二月九日／一〇三 森静男 明
 治二十一年推二月二十一日／一〇四 森篤次郎 明治二十一年推一月十七日／一〇五
 森篤次郎 明治二十一年推一月二十七日／一〇六 森篤次郎 明治二十一年推二月九
 日／一〇七 森篤次郎 明治二十一年推二月二十一日／一〇八 森キミ 明治二十一
 年二月推／一〇九 森キミ 明治二十一年推二月二十一日／一一〇 小池正直 明治
 二十一年一月十六日／一一一 森キミ 明治二十一年推九月二十七日／一一二 森静
 男 明治二十一年推三月二十三日／一一三 森篤次郎 明治二十一年推三月二十三日
 ／一一四 石坂惟寛 明治二十一年推三月十七日／一一五 森静男 明治二十一年推
 五月八日／一一六 森静男 明治二十一年推四月三日／一一七 森篤次郎 明治二十
 一年推四月三日／一一八 森篤次郎 明治二十一年推五月九日／一一九 小金井良精
 明治二十一年推四月十一日／一二〇 緒方惟準 明治二十一年推四月九日／一二一
 緒方収二郎 明治二十一年推四月十日／番外七／解題（竹盛天雄）／差出人別書簡索
 引／人名索引／医学用語対訳表／鷗外滞在当時のドイツ略地図

1-9. 『近代文学研究資料叢書（9） 國民新聞 國民文學欄』 1983年5月30日 編
 集・発行：財団法人日本近代文学館

収録：はしがき（稲垣達郎）／國民文學欄（明治四十一年（十月一日より）／明治四
 十二年／明治四十三年／明治四十四年／明治四十五年（七月二十五日まで））／野上白
 川「赤門前」／解説（瀬沼茂樹）／執筆者・欄名索引

2. 『日本近代文学館資料叢書〔第I期〕 文学者の日記』

2-1. 『長与善郎 生田長江 生田春月』 1999年5月12日 著者：長与善郎／生田長
 江／生田春月 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：長与善郎〈侃孤独語集／好き嫌伊爾生玖留者の記／五月女集〉／生田長江〈紀

州旅日記〉／生田春月〈淀江日記〉／解説

2-2. 『星野天知』 1999年7月30日 著者：星野天知 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：星野天知自叙伝〈幼少年時代／青壮年時代／壮年時代 上／壮年時代 下／初老時代／老年時代／解説

2-3. 『長谷川時雨 深尾須磨子』 1999年11月15日 著者：長谷川時雨／深尾須磨子 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：長谷川時雨の日記〈〔第Ⅰ部〕大正十年一月／〔第Ⅱ部〕大正十年九月／〔第Ⅲ部〕大正十年十一月／〔第Ⅳ部〕大正十一年七月・九月／〔第Ⅴ部〕雑録〉／深尾須磨子日記〈昭和十四年三月一十二月／昭和二十年二月／昭和二十年八月一昭和二十一年五月／一九四八年六月一一九四九年三月〉／解説

2-4. 『宇野浩二 (1)』 2000年1月30日 著者：宇野浩二 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：宇野浩二日記〈昭和五年／昭和六年〉／解説

2-5. 『宇野浩二 (2)』 2000年8月31日 著者：宇野浩二 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：宇野浩二日記〈昭和七年〉／解説

2-6. 『池辺三山 (1)』 2001年8月31日 著者：池辺三山 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：第三次東京行ノ紀／西帰記／新聞記者の地位／「阿濃津紀行」／「浪華日記」／死ニ訖ルマデ渝ルコトナケン（外邦ト帝国論）／古照軒先生遺稿序／西帰録／雑婚論／経綸大要（交信会主旨宣言）／朝鮮論／家信消息文集（一）

2-7. 『池辺三山 (2)』 2002年5月31日 著者：池辺三山 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：西航記 明治二十五年前編／交信会解散理由書／西航記／洋航途上消息／英国紀行日記／欧羅巴漫遊日記／手帳／解説

2-8. 『池辺三山 (3)』 2003年8月8日 著者：池辺三山 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：家信消息文集（二）〈帰朝後消息（明治二十八年）／南清紀行消息（明治三十四年）／明治三十六年消息／明治四十一年消息〉／第一日記（明治三十五年）／第二日記（明治三十六年）／第三日記（明治三十七年）／第四日記（明治三十八年）／第五日記（明治三十九年）／第六日記（明治四十二年）／池辺吉太郎氏談筆記（未定稿）／手帳（三）／解説

3. 『愛の手紙 文学者の様々な愛のかたち』

3-1. 『愛の手紙 文学者の様々な愛のかたち』 2002年4月20日 編者：財団法人日

本近代文学館 発行：青土社

収録：《愛の手紙》について／第1部 愛する人へ〈北村透谷から石坂ミナへ／半井桃水から樋口一葉へ／田村俊子から岡田八千代へ／萩原朔太郎から馬場ナカへ／島木赤彦から今井邦子へ／深尾須磨子から平戸廉吉へ／島崎藤村から加藤静子へ／谷崎潤一郎から根津松子へ／斎藤茂吉から永井ふさ子へ／立原道造はら若林つやへ／太宰治から山崎富栄へ〉／第2部 妻へ〈福地桜痴からさとへ／二葉亭四迷から柳子へ／夏目漱石から鏡子へ／有島武郎から安子へ／大町桂月から長へ／芥川龍之介から文へ／室生犀星からとみ子へ／高見順から秋子へ／加藤道夫から治子へ／川口松太郎から愛子へ〉／第3部 家族へ〈森静男から長男鷗外へ／池辺三山から弟穂三郎へ／樋口虎之助から妹一葉へ／萩原朔太郎から従兄栄次へ／岡本かの子から兄大貫雪之助へ／与謝野晶子から子供たちへ／里見弴から兄有島武郎へ／有島武郎から母幸子へ／平戸廉吉から姉岡村文子へ／芥川龍之介から子供たちへ／長谷川時雨から妹春子へ〉／収録文学者・「愛の手紙」一覧／解説執筆者／掲載資料寄贈・寄託者、協力者

3-2.『愛の手紙 友人・子弟篇』 2003年11月20日 編集：日本近代文学館 発行：青土社

収録：《愛の手紙》友人・子弟篇について／思慕と信頼 樋口一葉から半井桃水へ／一葉の「応接間」 樋口一葉〈冬ごもりのたきもの 星野天知／雪のふる日は浮れこそすれ 馬場孤蝶／すみれの花かざすサツフオの君 平井禿木／裏表のなき処御きかせ 被下度 戸川秋骨／作家は必ず孤立すべきもの 斎藤緑雨／樋口さんが男だったら 泉鏡花〉／友情とはげまし 泉鏡花から小杉天外へ／男と見て大兄に伝ふ 二葉亭四迷から池辺三山へ／手紙にみる言葉への信頼 夏目漱石《『煤烟』事件の余波の中で 森田草平／未知の若者の作品を読んで 内田百閒／「旧態を一変」、再び「朝日」へ 池辺三山／春の光をたよりに 津田青楓／新世代の文学者への励まし 芥川龍之介〉／ひろく、ふかく、おのがじしに 佐佐木信綱〈えせ歌幾首よむともかひなし 川田順／先生の御力にて……石が玉になるやうに 柳原白蓮／雑誌のためでなくこのわたくしのために御覧下さいまし 片山広子／手紙も「白樺原稿用紙」を用いて 木下利玄／先生は私の大恩人様 九條武子〉／文学者も漱石の様に成つて仕舞えば… 津田青楓〈グルーズの女は何ものにや 高浜虚子／あの花を 鈴木三重吉／貧乏といふ事は傑作の一つの条件かもしれない 寺田寅彦／自由と清新さと美しさを 小宮豊隆〉／また、尻子玉を取りに参りましょう 芥川龍之介から小穴隆一、佐佐木茂索へ／心足らひ居り候 与謝野晶子から有島武郎へ／昔のまゝの君に接する気持がした 志賀直哉から有島生馬へ／タバコやめるのは実によきこと 斎藤茂吉から芥川龍之介、宇野浩二へ／いよいよ僕の個人雑誌を出す 萩原朔太郎から室生犀星へ／三好達治の志と友情 三好達治から桑原武夫へ／『智恵子抄』の背景 高村光太郎から水野葉舟へ／新人才華発見の名手 川端康成から北条民雄へ／抵抗の灯と内なる戦争責任の苦渋

宮本百合子・佐多稲子から徳永直へ／女の友情・男の友情 田村俊子・中野重治から佐多稲子へ／自称の弟子へ 谷崎潤一郎から川口松太郎へ／楸邨の人間性 加藤楸邨から安東次男へ／夢のよう、嬉しくて叫びたい感じ 野上弥生子から大岡昇平へ／弔辞と追悼と〈友よ安らかに眠れ！ 菊池寛から芥川龍之介へ／この短い弔辞は……横光利一から片岡鉄兵へ／自死した同志への哀悼 木下順二から加藤道夫へ／百花の王 川端康成から谷崎潤一郎〉／収録文学者・「愛の手紙」一覧／解説執筆者／掲載資料寄贈・寄託者、協力者

4. 『日本近代文学館資料叢書〔第Ⅱ期〕 文学者の手紙』

4-1. 『日本近代文学館資料叢書〔第Ⅱ期〕 文学者の手紙 6 高見順 秋子との便り、知友との便り』 2004年2月23日 高見順他著 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：凡例／第一部〈第一章 高見順から秋子へ／第二章 秋子から高見順へ〉／第二部〈第一章 高見順から知友へ／第二章 知友から高見順へ／第二部収録書簡一覧〉／解説〈(第一部第一章・第二部第一章)——高見順書簡、明滅する感情の軌跡(十重田裕一)／(第一部第二章)——《文士の妻》の明暗(宮内淳子)／(第二部第二章)——来簡から見えてくるもの(竹内栄美子)〉／高見順文庫について

4-2. 『日本近代文学館資料叢書〔第Ⅱ期〕 文学者の手紙 2 「白樺」の人びと 有島(武郎・生馬・里見淳)三兄弟を軸に』 2004年6月30日 著者：有島武郎他 編者：財団法人日本近代文学館 発行：博文館新社

収録：第一章 有島武郎の手紙〈有島武／有島幸子／有島家／有島壬生馬／宛先不明書簡／佐藤隆三・山内英夫・有島行郎／有島安子〉／第二章 有島武郎の手紙〈足助素一／森本厚吉／吹田順助／成瀬無極／早川三代治／原久米太郎／岩瀬重五郎／橋浦泰雄／中川一政／山本行雄／有島安子／瀬川たま・瀬川すゑ／佐藤志げり／竹崎峰子／宮沢美穂子／浅井みつゐ／清田信子／望月百合子／兼巻あい／斉藤京子／小椋正直／福原廣吉／早川辰郎／福士貞吉／本庄夏／猿山秋湖／清水強／川波栗吉／近藤政寛／垣内武二〉／第三章 有島生馬の手紙〈有島家／有島武／有島武郎／三宅周太郎／江口渙／石光葆／尾山篤二郎／川口松太郎／濱本浩／土岐善麿／米川正夫〉／第四章 有島生馬宛の手紙〈志賀直哉／島崎藤村／竹久夢二／谷崎潤一郎／安田靉彦／木村莊八／武者小路実篤／呉茂一／木田金次郎／安井曾太郎／山本鼎／石井柏亭／神西清／三浦直介／佐藤春夫／瀬沼茂樹／山内義雄／神原泰／長田幹彦／本多秋五／深沢紅子／東山魁夷／鈴木信太郎／露谷虹児／森雅之／林幹子〔林武夫人〕〉／第五章 里見淳の手紙〈池崎忠孝／有島生馬／有島生馬・信子・暁子／志賀直哉〉／筆墨篇／解説〈本巻編集にあたって(紅野敏郎)／有島武郎の手紙(山田俊治)／有島武郎宛の手紙(山田俊治)／有島生馬の手紙(町田榮)／有島生馬宛の手紙(紅野敏郎)／里見淳の手紙(紅野敏郎)／有島武郎・生馬コレクションについて／【参考】有島武郎一族系図〉

館報

1. 『日本近代文学館ニュース』

- 1-1. 『日本近代文学館ニュース』 第1号 1963年1月1日 発行：財団法人日本近代文学館設立準備会 目次無し
- 1-2. 『日本近代文学館ニュース』 第2号 1963年4月5日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-3. 『日本近代文学館ニュース』 第3号 1963年8月1日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-4. 『日本近代文学館ニュース』 第4号 1964年4月15日 発行：財団法人日本近代文学館（事務局） 目次無し
- 1-5. 『日本近代文学館ニュース』 第5号 1964年11月2日 発行：財団法人日本近代文学館（事務局） 目次無し
- 1-6. 『日本近代文学館ニュース』 第6号 1965年3月25日 発行：財団法人日本近代文学館（事務局） 目次無し
- 1-7. 『日本近代文学館ニュース』 第7号 1965年8月15日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-8. 『日本近代文学館ニュース』 第8号 1967年4月11日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-9. 『日本近代文学館ニュース』 第9号 1967年8月10日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-10. 『日本近代文学館ニュース』 第10号 1968年3月7日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-11. 『日本近代文学館ニュース』 第11号 1968年11月1日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し
- 1-12. 『日本近代文学館ニュース』 第12号 1969年4月27日 発行：財団法人日本近代文学館 目次無し

2. 『図書館委員会週報』

- 2-1. 『図書館委員会週報』 第1号 1964年5月6日 目次無し
- 2-2. 『図書館委員会週報』 第2号 1964年5月15日 目次無し
- 2-3. 『図書館委員会週報』 第3号 1964年5月22日 目次無し
- 2-4. 『図書館委員会週報』 第4号 1964年 月日不明 目次無し
- 2-5. 『図書館委員会週報』 第5号 1964年6月18日 目次無し
- 2-6. 『図書館委員会週報』 第6号 1964年6月26日 目次無し
- 2-7. 『図書館委員会週報』 第7号 1964年7月24日 目次無し

- 2-8. 『図書館委員会週報』 第8号 1964年8月7日 目次無し
- 2-9. 『図書館委員会週報』 第9号 1964年8月14日 目次無し
- 2-10. 『図書館委員会週報』 第10号 1964年8月21日 目次無し
- 2-11. 『図書館委員会週報』 第11号 1964年8月28日 目次無し
- 2-12. 『図書館委員会週報』 第12号 1964年9月11日 目次無し
3. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』
- 3-1. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第1号 1965年9月 目次無し
- 3-2. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第2号 1965年10月 目次無し
- 3-3. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第3号 1965年11月 目次無し
- 3-4. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第4号 1965年12月 目次無し
- 3-5. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第5号 1966年1月 目次無し
- 3-6. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第6号 1966年2月3日 目次無し
- 3-7. 『日本近代文学館 図書館委員会月報』 第7号 1966年4月5日 目次無し
4. 『児童文学文庫ニュース』
- 4-1. 『児童文学文庫ニュース』 第1号 1967年7月15日
- 4-2. 『児童文学文庫ニュース』 第2号 1968年4月15日
5. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』
- 5-1. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第1号 1968年9月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-2. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第2号 1968年11月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-3. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第3号 1969年1月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-4. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第4号 1969年3月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-5. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第5号 1969年5月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-6. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第6号 1969年7月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-7. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第6号別冊 1969年7月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-8. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第7号 1969年9月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-9. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第8号 1969年11月1日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し

- 5-10. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 8 号別冊 1969 年 11 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-11. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 9 号 1970 年 1 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-12. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 9 号別冊 1970 年 1 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-13. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 10 号 1970 年 3 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-14. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 11 号 1970 年 5 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-15. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 11 号別冊 1970 年 5 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-16. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 12 号 1970 年 7 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-17. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 12 号別冊 1970 年 7 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-18. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 13 号 1970 年 9 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-19. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 14 号 1970 年 11 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-20. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 14 号別冊 1970 年 11 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-21. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 15 号 1971 年 1 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-22. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 15 号別冊 1971 年 1 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
- 5-23. 『日本近代文学館 図書・資料委員会ニュース』 第 16 号 1971 年 3 月 1 日 発行：日本近代文学館図書資料委員会 目次無し
6. 『日本近代文学館』
- 6-1. 『日本近代文学館』 第 1 号 1971 年 5 月 15 日
収録：古本・震災・戦災（尾崎一雄）／啄木六十回忌におもう（岩城之徳）／父と娘と友（紅野敏郎）／片岡鉄平の未発表原稿（神谷忠孝）／「大石誠之助の情歌」（国岡彬一）／「改造」の大震災号（恩田逸夫）／「社会文庫展」特集〈社会文庫の事（小田切進）／社会文庫の思い出（山本正弘）／幸徳秋水資料（神崎清）／田岡嶺雲の書簡（西田勝）／荒畑寒村に関して（堀切利高）

6-2. 『日本近代文学館』 第2号 1971年7月15日

収録：文学賞のこと（坪田譲治）／雑誌「BONJOUR」紹介（助川徳是）／宇野浩二宛書簡について（渋川驍）／岡本かの子の書簡（岩崎呉夫）／故園晩秋（牛山百合子）／吉野秀雄の手紙（品川力）／図書・資料受入報告（紅野敏郎）／「芥川龍之介展」特集〈芥川龍之介未発表書簡（吉田精一）／芥川龍之介、書画・筆墨（久保田正文）／「百合」と「二本芽の百合」（三好行雄）／芥川龍之介伝記資料（森本修）／芥川龍之介旧蔵書（柳富子）〉

6-3. 『日本近代文学館』 第3号 1971年9月15日

収録：歴史の書と文学（丹羽文雄）／坂口安吾の家系（伊狩章）／大和田健樹の『明治文学史』（磯貝英夫）／中野重治の「福井の家」（小笠原克）／外山正一の日記（柳生四郎）／葉山嘉樹の書簡と小林多喜二の「蟹工船」の原稿（手塚英孝）／赤木桁平宛諸家書簡（稲垣達郎）／『阿公全集』（畑有三）／書物の中の「間隙」（中島国彦）／三宅幾三郎の本（紅野敏郎）／佐佐木俊郎の本（高橋春雄）／図書・資料受入報告（保昌正夫）

6-4. 『日本近代文学館』 第4号 1971年11月15日

収録：地方の近代文学館（中村真一郎）／電話で、手紙の文献はなくなる（荒垣秀雄）／小泉八雲の資料（太田三郎）／宮本百合子＝網野菊宛書簡（相馬文子）／作品社の本（保昌正夫）／秋声の交友（徳田一穂）／図書・資料受入報告（紅野敏郎）／「樋口一葉展」特集〈樋口一葉展について（塩田良平）／猪場毅のこと（和田芳恵）／「唯いさゝか」の文章観（松坂俊夫）／易占の観た一葉（塚田満江）／樋口一葉宛書簡目録 抜粋〉

6-5. 『日本近代文学館』 第5号 1972年1月15日

収録：故塩田理事長追悼（久松潜一 福田清人 成瀬正勝 本多浩）／横光・川端・片岡時代（石川達三）／「新潮」編集二十数年の断章（楢先勤）／谷崎潤一郎の著書を中心に（平山城児）／寄託された藤村関係の資料（川副国基）／「近代詩展」特集〈近代詩雑感（伊藤信吉）／近代詩と美術（野田宇太郎）／内海信之関係資料について（古川清彦）／詩集『呪文』（窪田般弥）／詩人と風土（境忠一）〉

6-6. 『日本近代文学館』 第6号 1972年3月15日

収録：筆蹟その他のこと（大岡信）／武者小路さんの反戦時（小田切進）／ソヴィエトの文学者の博物館（巖谷大四）／プラハのスク図書館（いぬいとみこ）／横光さんのこと（水島治男）／『世界古今名婦鑑』について（辻橋三郎）／朔太郎の「自筆ノート」（久保忠夫）／静座の波紋と中村屋（渋沢青花）／信綱宛木下利玄の手紙（日笠祐二）／雑誌の複製について（古林尚）／図書資料受入報告／近代詩展出品目録（抜粋）／維持会・館の会会員名簿

6-7. 『日本近代文学館』 第7号 1972年5月15日

収録：故川端名誉館長追悼(小田切進 久松潜一 稲垣達郎 瀬沼茂樹 福田清人 奥野健男 藤田圭雄 岡本太郎 北条誠 長谷川泉 保昌正夫)／松山版『ほととぎす』(安東次男)／図書・資料受入れ報告／「島崎藤村展」特集〈藤村生誕百周年に際して(瀬沼茂樹)／島崎藤村(山室静)／藤村と音楽(渋川驍)／舞台の「夜明け前」(村山知義)／「夜明け前ノート」のこと(玉井乾介)〉

6-8. 『日本近代文学館』 第8号 1972年7月15日

収録：「書物を持つ喜び」(小松伸六)／私信と原稿(遠藤周作)／評論の世代(野口富士男)／白崎礼三詩集について(富士正晴)／熊沢復六の文学理論翻訳書(谷沢永一)／古村達「美しき墓表」(竹盛天雄)／結城素章「芸文家墓所誌」資料(石井潤)／「大衆文学の歩み展」特集〈大正デモクラシーと大衆文学(木村毅)／われらの歩み(白井喬二)／端境期に生きる(杉本苑子)／長谷川伸と新鷹会(村上元三)／「家庭小説」あれこれ(和田芳恵)／大衆文学のおもしろさ(尾崎秀樹)〉

6-9. 『日本近代文学館』 第9号 1972年9月15日

収録：文士と色紙(飯沢匡)／日記と手紙(瀬戸内晴美)／桜痴研究のてがかり(前田愛)／「火野葦平」展始末(劉寒吉)／三木露風書簡(安部宙之介)／私小説作家の小説観ひとつ(大森澄雄)／《回想》第一書房のころ(三浦逸雄)／牧水記念館(大悟法利雄)／「所蔵雑誌目録」のこと(小田切進)／「川端康成展」特集(北条誠 川端香男里 長谷川泉 平山城児 進藤純孝)／図書・資料受入報告

6-10. 『日本近代文学館』 第10号 1972年11月15日

収録：赤字・黒字(三浦朱門)／中国の姿(中島健蔵)／「川端康成展」をみて(生方たつゑ)／「俳人展」雑感(石原八束)／『雑誌目録稿』私見(千葉宣一)／風雨楼主人・緒方流水(山田博光)／北条民雄宛川端康成書簡(光岡良二)／「近代作家展」特集〈逍遙先生(稲垣達郎)／花袋と自然主義作家(小林一郎)／回覧雑誌「学生倶楽部」(高田瑞穂)／小林多喜二の初期—雑誌「クラルテ」—(紅野敏郎)／堀辰雄の詩「病」(菊地弘)／図書資料受入報告

6-11. 『日本近代文学館』 第11号 1973年1月15日

収録：書庫の立ち話(土岐善麿)／郭沫若文庫のこと(斎藤秋男)／言海に漂う(開高健)／明治文学史の図式(成瀬正勝)／逍遙先生(稲垣達郎)／秦豊吉、水野仙子の書簡(吉田精一)／北海道文学館現状(更科源蔵)／新編『子規全集』待望論(蒲池文雄)／緒方流水の著書(谷沢永一)／「雑誌展」特集〈文学と文学雑誌(瀬沼茂樹)／「白痴群」細目・補遺(大岡昇平)／大衆雑誌私感(中島河太郎)／雑誌雑感(栗津則雄)／「若草」と「やぼんな」と(保昌正夫)〉／図書・資料受入報告

6-12. 『日本近代文学館』 第12号 1973年3月15日

収録：いい知恵はないか(中野重治)／『茂吉全集』再刊に際して(藤岡武雄)／アメリカの若い友人たち(田村隆一)／研究余録(その二)(成瀬正勝)／「詩と詩論」

その他(春山行夫)／夢二展の肉筆大看板(長田幹雄)／短信(網野菊 稲垣真美 安藤靖彦)／「児童文学展」特集〈文学館と児童図書(福田清人)／藤沢衛彦氏のコレクション(藤田圭雄)／児童文学の現状(鳥越信)／『宝島』の翻訳書(白木茂)／児童文学の研究書(上笙一郎)〉／図書・資料受入報告

6-13. 『日本近代文学館』 第13号 1973年5月15日

収録：創立十周年に際して(小田切進)／創立十周年によせて(久松潜一 川口松太郎 尾崎一雄 小林勇 草野心平 今日出海 吉川幸次郎 高木健夫 舟橋聖一 佐多稲子 丹羽文雄 円地文子 石川達三 沢村三木男 木俣修 山本健吉 吉田精一 平野謙 埴谷雄高 猪野謙二 巖谷大四 阿川弘之 江藤淳 奥野健男 篠田一士 秋山虔)／かたちがつくまで(稲垣達郎)／文学館のこれから(瀬沼茂樹)／図書資料委員会(紅野敏郎)／文学館十年の歩み(略年譜)

6-14. 『日本近代文学館』 第14号 1973年7月15日

収録：慈眼寺の墓(芥川比呂志)／「種蒔く人文庫」開き(金子洋文)／本野置き場所(安岡章太郎)／研究余録(3)(成瀬正勝)／未発表書簡から(野村尚吾)／子規の押韻新体詩(松居利彦)／鉄湯の娘(一色次郎)／「近代作家原稿展」特集〈原稿の価値は無限である(荒正人)／宇野浩二の原稿(渋谷駿)／「若い詩人の肖像」の原稿(曾根博義)／朔太郎の原稿のこと(原崎孝)／原稿用紙と原稿(八木福次郎)〉

6-15. 『日本近代文学館』 第15号 1973年9月15日

収録：思いつくことなど(小島信夫)／一葉全集のこと(和田芳恵)／藤村詩集の変容課程(磯田光一)／研究余録(その四)(成瀬正勝)／星湖の文学魂(望月百合子)／短信〈断想(佐藤泰正)／地域の研究会(角田敏郎)〉／所蔵資料紹介〈芥川龍之介書簡(一)〉／「佐佐木信綱展」特集〈佐佐木信綱博士の業績(久松潜一)／「心の花」の歩み(五島茂)／行動の人佐佐木信綱(窪田章一郎)／新詩会のことなど(新聞進一)／『思草』編集資料雑感(佐佐木幸綱)〉／図書・資料受入報告

6-16. 『日本近代文学館』 第16号 1973年11月15日

収録：志賀さんの思い出(桑原武夫)／『定本虚子全集』の刊行(和田茂樹)／詩人展のこと(村野四郎)／天知宛禿木書簡(成瀬正勝)／わが同人誌歴(田村泰次郎)／『近代文学大事典』の一斑(稲垣達郎)／新聞の文芸欄(明治期)(浅井清)／生田春月の覚書(渡辺睦三)／短信〈五年間の歩み(新保千代子)／「内容見本」は屑の山か(清水基吉)／文学と風土(小山内時雄)／久保栄展開催(小笠原克)〉／所蔵資料紹介〈芥川龍之介龍之介書簡(二)／室生犀星書簡〉

6-17. 『日本近代文学館』 第17号 1974年1月15日

収録：小田切進君のこと(中野好夫)／『安部知二全集』刊行(福田久賀男)／二人の文士(三木卓)／成瀬常務理事の死を悼む(福田清人 木俣修 前田愛)／長谷川時雨氏と「女人芸術」(熱田優子)／短信(田村のり子 森本修)／所蔵資料紹介〈芥

川龍之介書簡（三）／「早稲田文学」と「三田文学」展特集〈二つの大学と文学（小田切秀雄）／原典を繰る大切さ（和田謹吾）／水曜会と元禄屋敷界限（庄野誠一）／「三田文学」と私（石坂洋次郎 坂上弘）／「早稲田文学」と私（新庄嘉章 後藤明生）〉

6-18. 『日本近代文学館』 第18号 1974年3月15日

収録：文学研究の胡散臭さ（高橋義孝）／芹沢・井上文学館の開館（野村尚吾）／赤毛のバリ娘（野口武彦）／研究余録「新泉奇談」の謎（村松定孝）／回想「GGPG」の思い出（稲垣足穂）／短信〈作次郎のことなど（坂本政親）／郷土文学館への夢（和田健）／所蔵資料紹介〈芥川（4）菊地・書簡〉／明治期「ホトトギス」展特集〈「ホトトギス」と写生文（福田清人）／虚子と浜人と私（阿波野青畝）／「ホトトギス」と三重吉など（井本農一）／父との話（高濱年尾）／「ホトトギス」の俳人たち（松井利彦）

6-19. 『日本近代文学館』 第19号 1974年5月15日

収録：パリの遠近（辻邦生）／俳句文学館について（水原秋桜子）／かの子の写真（瀬戸内晴美）／研究余録〈宮嶋資夫「無題」再説（森山重雄）〉／回想〈思い出の詩人たち（壺井繁治）〉／短信〈群馬の新刊紹介（勝山功）／和喜蔵没後半世紀（渋谷定輔）／卒業論文の傾向から（神谷忠孝）／追悼〈石井さんのこと（稲垣達郎）／石井潤との四十年（保昌正夫）〉／寄贈資料のなかから〈近代短歌の豊庫（武川忠一）／『新戯曲十篇』など（藤木宏幸）〉／虚子覚書（真下五一）／所蔵資料紹介〈小杉天外宛書簡（一）〉

6-20. 『日本近代文学館』 第20号 1974年7月15日

収録：宇野先生の「字」（水上勉）／中村星湖氏の印象（吉田精一）／同時代人の自伝（佐伯彰一）／研究余録〈荷風の茶目（秋庭太郎）〉／新劇資料室を（松本克平）／短信〈朔太郎記念館の事など（萩原葉子）／人間の罪と死の問題（佐々木啓一）〉／広津和郎・宇野浩二展特集〈たぐいまれな友情（渋谷駿）／断片一父和郎について（広津桃子）／宇野さんの思い出（頼尊清隆）〉／所蔵資料紹介〈織田作之助書簡／広津和郎書簡〉

6-21. 『日本近代文学館』 第21号 1974年9月15日

収録：中村白葉を悼む（臼井吉見）／「近代文学の流れ」展について（奥野健男）／全集のこと（河野多恵子）／研究余録〈注釈の大切さと先達の教え（川副国基）〉／回想〈「文章世界」の投書家から（木村毅）〉／短信〈ある遺稿集のこと（木村幸雄）〉／「近代日本農民文学史考」のこと（山田清三郎）／昭和初期文学展特集〈昭和初期文学の性格（磯貝英夫）／アヴァンギャルド運動とは（村山知義）／昭和初期の同人雑誌（野口富士男）／「明治文学」から「近代文学」へ（酒井森之介）／プロレタリア文学の資料蒐集（和泉あき）〉／所蔵資料紹介〈広津和郎書簡（二）〉

6-22. 『日本近代文学館』 第22号 1974年11月15日

収録：この頃のこと、草野心平『凹凸』について（金子光晴）／雑感—堀辰雄展を終えて—（堀多恵子）／文庫のことなど（竹西寛子）／研究余録〈白秋と歌之介（木俣修）〉／回想〈五十年前の出世著作（木村毅）〉／『漱石文学全集』を完結して（荒正人）／大阪出版文化史発掘（谷沢永一）／短信〈山蘭主宰の「東北」（明石利代）／三木露風となか夫人（家森長治郎）／『葉舟選集』その他（北川太一）／北海道文学館のこと（木原直彦）／有島生馬氏の思い出（本多秋五）／生馬氏の著作に憶う（紅野敏郎）／所蔵資料紹介〈広津和郎書簡（三）／小杉天外宛書簡（二）〉／図書・資料受入れ報告

6-23. 『日本近代文学館』 第23号 1975年1月15日

収録：佐々醒雪のこと（木下順二）／「吉川英治展」を観て（松島栄一）／ロシヤ史再読（原卓也）／研究余話（2）〈白秋と佐野学（木俣修）〉／蔵書の中から〈三冊の稀観本（河盛好蔵）〉／近代文学 挿絵と装幀展特集〈挿絵と文学と（尾崎秀樹）／文学書と美術（野田宇太郎）／明治の挿絵（匠秀夫）／挿絵と装幀にまつわる回想（原弘）〉／短信〈酔茗十年忌に（島本久恵）／気になること、二つ（相馬庸郎）〉／所蔵資料紹介〈小杉天外宛書簡（三）／正岡子規書簡（二）〉／図書・資料受入れ報告

6-24. 『日本近代文学館』 第24号 1975年3月15日

収録：用済みの原稿（布川角左衛門）／芥川・直木賞展を観て（山本容朗）／四書との訣別（島尾敏雄）／研究余話（3）〈白秋と直哉（木俣修）〉／蔵書の中から（杉森久英）／短信〈『やちまた』の補正（足立卷一）／「日本キリスト教詩集」編集のことなど（宮野光男）〉／白樺派の作家展特集〈「白樺」周辺誌（稲垣達郎）／志賀直哉氏と上司海雲氏（藤枝静男）／『芳舟遺稿』一式場文庫より—（紅野敏郎）／有島武郎資料の紹介（遠藤祐）／武者小路先生の原稿（中川孝）／武者小路さんと反戦詩扁額（小牧近江）〉／所蔵資料紹介〈若山牧水書簡（一）〉

6-25. 『日本近代文学館』 第25号 1975年5月15日

収録：西鶴最晩年の書簡（暉峻康隆）／十周年の明治村（野田宇太郎）／言葉と人間性（小川国夫）／研究余話（4）〈「赤い鳥」初期の挿話（木俣修）〉／蔵書の中から〈福士の『展望』など（富士正晴）〉／短信〈『記録九州文学』の出版（原田種夫）／『現代の女流文学』と女流文学者会のこと（中村佐喜子）／犀星の生家と雨宝院（本多浩）／「労農文学」のこと（浦西和彦）〉／回想〈「控へ帳」の頃の記憶（中野重治）〉／寄贈資料のなかから〈詩誌「GALA」のこと（窪田般彌）／小剣研究の手掛りに（中山和子）〉／所蔵資料紹介〈若山牧水書簡ほか〉

6-26. 『日本近代文学館』 第26号 1975年7月15日

収録：五月の荒旅（草野心平）／高見順さんのこと（小田切進）／一冊だけの書物（日野啓三）／研究余録〈「短檠」と宇野（渋川驍）〉／短信〈北村ミナ宛書簡草稿のこと

(佐藤善也) / いわき平の星 (真壁仁) / 蔵書の中から (肉筆物 (庄司浅水)) / 文学と旅展特集 (文学と旅のイメージ (福田清人) / 山と文学 (串田孫一) / 情感の地誌 (伊藤信吉) / 紀行文学の位相 (和田謹吾) / 文学と旅と写真 (大竹新助)) / 所蔵資料紹介 (小剣・晶子・秋江、風葉・青果・秋声書簡)

6-27. 『日本近代文学館』 第27号 1975年9月15日

収録：伊藤整君のこと (谷川徹三) / 伊藤整展特集 (伊藤整展について (瀬沼茂樹) / 伊藤整追憶 (福田清人) / 伊藤整の実験と理論 (奥野健男) / その生涯—展示にそって— (曾根博義編)) / 朝の時間 (城山三郎) / 研究余録 (2) (「処女文壇」とハイネ詩訳 (渋川驍) / 短信 (お貞さんとの寄寓先 (大津山国夫) / 近代文学館の思い出 (津島佑子)) / 図書資料受入れ報告 / 所蔵資料紹介 (大町桂月、与謝野鉄幹、石川啄木書簡)

6-28. 『日本近代文学館』 第28号 1975年11月15日

収録：漱石・鷗外の用語索引 (岩淵悦太郎) / 紙の洪水 (阿部昭) / 木曾小兵衛宛樋口則義書簡 (和田芳恵) / 『魯敏遜漂行紀略』のことなど (井出孫六) / 橘弘一郎文庫について (一) (庄司浅水) / 短信 (「八王子市名誉市民滝井孝作展」 (島村利正) / 本と旅 (吉行理恵)) / 「漱石文学館」刊行にちなんで (漱石と現代 (中村光夫) / 漱石、絵と本 (稲垣達郎) / 下関・鹿児島・熊本・博多 (荒正人) / 漱石文学館の特徴) / 図書・資料受入報告 / 所蔵資料紹介 (鉄幹・晶子書簡)

6-29. 『日本近代文学館』 第29号 1976年1月15日

収録：幻の秘蔵本 (杉捷夫) / 与謝野晶子展に寄せて (新聞進一) / 萩焼の茶碗 (庄野潤三) / 研究余録 (1) (漱石研究余滴 (吉田精一)) / 橘弘一郎文庫について (二) (庄司浅水) / 短信 (「書誌」と「書誌の書誌」と (関良一) / 資料を求めて (牧羊子)) / 故山田正一氏のこと (森山重雄) / 明治三十年代文学展特集 (小杉天外のこと (岡保生) / 明治三十年代の詩歌 (松村緑) / 二十世紀の開幕・前後 (松島栄一)) / 藤村書簡五点 (中山和子) / 図書・資料受入報告 / 所蔵資料紹介 (島崎藤村書簡)

6-30. 『日本近代文学館』 第30号 1976年3月15日

収録：書物について (村上元三) / 子規と漱石展 (和田茂樹) / 古雑誌のこと (渡辺一民) / 舟橋聖一常務理事の死を悼む (北條誠 福田清人 巖谷大四) / 研究余録 (「士三日見ずんば」 (吉田精一)) / 俳書にふれて (柳生四郎) / 罌紙に書かれた手記 (秋山清) / 短信 (加藤介春の未刊詩稿 (境忠一) / 『明治文学書目』以後 (紅野敏郎) / 雑況 (高野斗志美)) / 二葉亭一等資料の複製 (小田切秀雄) / 図書・資料受入れ報告 / 所蔵資料紹介 (藤村・泡鳴書簡)

6-31. 『日本近代文学館』 第31号 1976年5月15日

収録：過去を手さぐる (船山馨) / 俳句文学館開館に当って (大野林火) / ことしの山桜 (立原正秋) / 久松潜一名誉顧問の死を悼む (小田切進 円地文子 福田清人)

／研究余録〈漱石研究をめぐっての断片（猪野謙二）〉／蔵書の中から〈鷗外の鈴木宛書簡（吉野俊彦）〉／「よしあし草」と「関西文学」（小島吉雄）／短信〈千曲川にゆく（吉増剛造）〉／旧作再見（大江賢次）／明治前期文学展特集〈明治から江戸へ（木村毅）〉／明治前期の装本（前田愛）／大日本民権家一覧表（飛鳥井雅道）／展示ホールから〉／所蔵資料紹介〈蘇峰宛露伴書簡〉

6-32. 『日本近代文学館』 第32号 1976年7月15日

収録：作家回想（坪田譲治）／川端康成「資料館」（川端香男里）／ロワール河のほとり（饗庭孝男）／研究余録〈「澀江抽斎」の発表月日（長谷川泉）〉／蔵書の中から〈ロレンスの本（西村孝次）〉／短信（亀井秀雄 首藤基澄）／文庫・記念館〈茂吉記念館（木俣修）〉／昭和十年代文学展特集〈昭和十年代について（佐々木基一）〉／私と同時時代の人々（丹羽文雄）／私の昭和十年代（野口富士男）／喩的時代の砂金掘り（小笠原克）／二つの資料に見る言論の不幸（国岡彬一）／所蔵資料紹介〈泡鳴・三重吉書簡〉

6-33. 『日本近代文学館』 第33号 1976年9月15日

収録：切抜帖（富安風生）／有島武郎の新全集編纂について（瀬沼茂樹）／複製本讃歌（小堀桂一郎）／研究余録〈微視の中から（和田謹吾）〉／文士の手紙（大久保房男）／短信（佐々木雅発 椋鳩十）／啄木記念館と啄木文庫（久保田正文）／大正の文学展特集〈展示ホールから／泡鳴遺言集など（榎本隆司）／大正デモクラシーの時代（橋川文三）〉／所蔵資料紹介〈夢二・孝四郎書簡〉

6-34. 『日本近代文学館』 第34号 1976年11月15日

収録：日本児童文化館閉館記（福田清人）／魯迅没後四十年を記念する魯迅展（藤堂明保）／サンタンヌ病院の図書室（加賀乙彦）／研究余録〈アンデルセンの初訳者（滑川道夫）〉／蔵書の中から〈私の蔵書（鈴木敏夫）〉／短信（北園克衛 田辺耕一郎）／太田三郎常務理事を悼む（瀬沼茂樹）／吉川英治記念館（尾崎秀樹）／回想 昔の仲間（藤沢桓夫）／深尾文庫訪問記（新川和江）／所蔵資料紹介〈夢二・孝四郎書簡〉

6-35. 『日本近代文学館』 第35号 1977年1月15日

収録：文体にもっと重きを（福原麟太郎）／雑誌「戦旗」の複製版刊行について（佐多稲子）／休業札のもとで（倉橋由美子）／北条誠常務理事の死を悼む（小田切進 八木義徳）／パリの文学記念館「バルザックの家」（稲生永）／古新聞と切抜帳と（高木健夫）／短信（原子朗 上笙一郎）／研究余録〈近代作家における友好の一典型（高田瑞穂）〉／明治後期文学展特集〈「椋鳥」の表情（竹盛天雄）〉／校正刷贅言（山田晃）／内田魯庵の『抜萃帳』展示ホールから（畑有三）／所蔵資料紹介〈孝四郎書簡（三）〉

6-36. 『日本近代文学館』 第36号 1977年3月15日

収録：大きな役割（井上靖）／利用状況の推移と現状・所蔵文庫／さらに新しい気持ちで（小田切進）／創立十五周年・開館十周年によせて（野上弥生子 今日出海 福田

清人 石川達三 木俣修 山本健吉 松本清張 埴谷雄高 中村光夫 野間省一 野口富士男 荒正人 水上勉 楠本憲吉 中森時人 江藤淳 大岡信) / 文学館の将来の問題 (瀬沼茂樹) / 受贈あれこれ (稲垣達郎) / 文学史展一斑 (紅野敏郎) / 館刊行物のこと (保昌正夫) / 十五年の歩み (略年表)

6-37. 『日本近代文学館』 第37号 1977年5月15日

収録: 近代文学館創立十五周年 (中島健蔵) / 館資料の基礎となる『高見順文庫概要』に寄せて (小田切進) / 思い出二つ (高井有一) / 創立十五周年・開館十周年によせて (小島吉雄 布川角左衛門 河盛好蔵 杉捷夫 佐多稲子 円地文子 藤田圭雄 和田芳恵 吉田精一 村上元三 巖谷大四 中村真一郎 小島直記 進藤純孝 木田宏 三好行雄 奥野健男 篠田一士 尾崎秀樹 谷沢永一) / 研究余録 (1) 『活石伝』の成立 (瀬沼茂樹) / 「種蒔く人文庫」について (金子洋文) / 菊池寛記念会館 (藤木宏幸) / 「現代の作家三〇〇人展」 (紙上紹介)

6-38. 『日本近代文学館』 第38号 1977年7月15日

収録: 三〇〇人展終わる (二面記事) / 「芥川文学館」「芥川文庫目録」刊行、寄贈あいつぐ (三面記事) / 館の誇り—「芥川龍之介文庫目録」に寄せて— (小田切進) / 白樺と美術 (匠秀夫) / 蔵書の中から〈本との交信 (山本道子)〉 / 「名著複刻 芥川龍之介文学館」没後五十年「芥川龍之介展」特集〈芥川文学との五十年 (吉田精一) / 大正文学研究会と芥川 (川副国基) / 人生の僅かな時間 (高橋英夫) / 芥川の読書 (饗庭孝男) / 「ひよつとこ」下書断片 (稲垣達郎) / 「芥川龍之介展」 (紙上紹介)

6-39. 『日本近代文学館』 第39号 1977年9月15日

収録: 「新潮」マイクロ版完成、芥川展終る、風葉資料一括受贈 (二面記事) / 蘆花没後五十年 (中野好夫) / 亡父の作品集 (吉行淳之介) / 「白樺」勉強継続中—武者小路実篤展に寄せて— (紅野敏郎) / 研究余録 (2) 〈脚気菌 (瀬沼茂樹)〉 / 没後三十年「幸田露伴展」特集〈露伴瑣言 (稲垣達郎) / 露伴復活 (山本健吉) / 達人・幸田露伴翁 (木村毅) / 出会い (篠田一士) / 露伴・鷗外の都市論 (前田愛) / 「幸田露伴展」 (紙上紹介) / 図書・資料受入れ報告

6-40. 『日本近代文学館』 第40号 1977年11月15日

収録: 露伴展終る、「土」の原稿など寄贈される (記事) / 和田芳恵常務理事を悼む〈和田芳恵氏を憶う (野口富士男)〉 / 『日本近代文学大事典』特集〈気が遠くなるようなしごと (小田切進) / 『近代文学大事典』の特色 (紙上紹介) / 「大事典」の編集を終えて (稲垣達郎) / 文学辞典の歴史 (瀬沼茂樹) / 「叢書」のことなど (紅野敏郎) / 無名戦士の復権に喜び (中島和夫) / マイクロ・フィルムの時代—「新潮」マイクロ版を喜ぶ— (荒正人) / 図書資料受入報告

6-41. 『日本近代文学館』 第41号 1978年1月15日

収録: 15年の集積をふまえて (小田切進) / 本のこと (中里恒子) / 『日本近代文学

大事典』特集〈寿岳文章 中島健蔵 福田清人 新庄嘉庄 渋川驍 高木健夫 木俣修 山本健吉 吉田精一 中村光夫 足立巻一 小田切進 田村隆一 三好行雄 奥野健男 槌田満文 赤松大麓 平岡篤頼 谷沢永一 大岡信 前田愛 紀田順一郎 中島国彦〉／「銅鑼」の複製に就いて(草野心平)／「新興文学」の位置(中山和子)／研究余録(3)〈英国医学(瀬沼茂樹)〉／蔵書の中から〈わが蔵書(竹西寛子)〉／回想『田村俊子とわたし』の周辺(丸岡秀子)／ブックトラック〈PR誌の今昔(保昌正夫)〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈宮本百合子書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-42. 『日本近代文学館』 第42号 1978年3月15日

収録：『日本近代文学大事典』特集(高橋賢次 河盛好蔵 田中千禾夫 高橋義孝 猪野謙二 佐々木基一 秋山ちえ子 尾崎秀樹 鳥越信 松永伍一 小玉晃一 磯田光一 浅井清 木原直彦 助川徳是)／感謝一刊行を終えて一(稲垣達郎)／研究余録(4)〈唾峰生(瀬沼茂樹)〉／原「風葉資料集」(岡保生)／名著複製全集から(稲垣達郎)／野村胡堂文庫のこと(小田切進)／蔵書の中から〈ある古本屋(山田風太郎)〉／文化団体の会報(井ロ一男)／駒場の四季／所蔵資料紹介〈抱月・花袋書簡〉

6-43. 『日本近代文学館』 第43号 1978年5月15日

収録：平野謙常務理事の死を悼む(瀬沼茂樹 小島信夫 小田切進)／没後三十年「太宰治展」特集〈豪華な展覧(小田切進)／哀願のメロディ(臼井吉見)／太宰治のこと(中谷孝雄)／映像の太宰治(伊馬春部)／没後三十年の太宰治(奥野健男)／太宰治とキリスト教(饗庭孝男)／「斜陽」執筆中のインタビュー記事(鳥居邦郎)／太宰治の芥川受容(相馬正一)／「太宰治展」(展示資料紹介)／関良一氏の死を悼む(紅野敏郎)／名著複製全集から(2)(稲垣達郎)／個人研究雑誌の紹介(栗坪良樹)／駒場の四季／図書資料受入れ報告

6-44. 『日本近代文学館』 第44号 1978年7月15日

収録：没後三十年のメロディ(長谷川四郎)／よごして返して(綱淵謙錠)／評議員改選される／圧倒的な出版社の図書寄贈〈館運動を支える出版社から65パーセントが〉／研究余録(5)〈糾える縄(瀬沼茂樹)〉／蔵書の中から(酒井悌)／名著複製全集から(3)『金色夜叉』(稲垣達郎)／ブックトラック〈蔵書票の変遷(八木福次郎)〉／駒場の四季／丸岡明旧蔵書より(今村忠純)／文庫・記念館〈有島記念館(山田昭夫)〉／所蔵資料紹介〈渋沢青花書簡(一)〉／図書・資料受入れ報告

6-45. 『日本近代文学館』 第45号 1978年9月15日

収録：文学者の虚像(三浦朱門)／館役員名簿／蔵書の中から『日本の蔵書印』(紀田順一郎)／研究余録(6)〈艶聞(瀬沼茂樹)〉／文庫・記念館〈キリスト教社会問題研究所(辻橋三郎)〉／名著複製全集から④『武蔵野』(稲垣達郎)／ブックトラック〈上演パンフレット(藤木宏幸)〉／駒場の四季／芥川龍之介の書き入れ(三好行雄)／所蔵資料紹介〈渋沢宛書簡(二)ほか〉／図書・資料受入れ報告

6-46. 『日本近代文学館』 第46号 1978年11月15日

収録：東京の一夜（小野十三郎）／蔵書の中から〈佐喜雄と夢声（三国一朗）〉／漱石資料について（稲垣達郎）／研究余録（7）〈有島武郎全集（瀬沼茂樹）〉／文庫・記念館〈大佛次郎記念館（藤田圭雄）〉／藤沢衛彦文庫について（福田清人）／長井金風関係の資料（山崎一穎）／ブックトラック〈明治の東京地誌（植田満文）〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈渋沢宛書簡（三）／谷崎書簡（二）／秋江書簡（二）ほか〉／図書・資料受入れ報告

6-47. 『日本近代文学館』 第47号 1979年1月15日

収録：書庫の中で（沢野久雄）／「アンドレ・マルローと永遠の日本」展とピカソ（中原泰）／尚江の周辺（中野孝次）／ひとこと〈贋金づくり（近藤信行）〉／「赤い鳥」複製版刊行にあたって〈芸術の広い領域で画期の役割（小田切進）／「赤い鳥」の作家たち（藤田圭雄）／「赤い鳥」の研究書など（福田清人）／「赤い鳥」の画家たち（深沢省三）／「赤い鳥」とわたし（森三郎）〉／秋声関係資料の充実（野口富士男）／文庫・記念館〈小樽文学館瞥見（小笠原勝）〉／異例の歴史をもつ資料（小田切秀雄）／ブックトラック〈図書館誌瞥見（相馬文子）〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈漱石資料ほか〉

6-48. 『日本近代文学館』 第48号 1979年3月20日

収録：文学館の複製版はこうして作られる／寝酒（山室静）／「岡本一平・かの子展」によせて（岡本太郎）／書簡類の扱い（吉村昭）／本の置き場（平岡篤頼）／研究余録〈或る投稿時代（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈本との縁（小島直記）〉／文庫記念館〈霞城館（家森長治郎）〉／寄贈資料の中から〈三木なか氏寄贈雑誌の中から（三浦仁）／高橋和巳旧蔵書をかいまみて（飯倉照平）〉／ブック・トラック〈紀要という存在（中島国彦）〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈水野仙子書簡（二）〉

6-49. 『日本近代文学館』 第49号 1979年5月25日

収録：土岐善麿氏から書簡六百十六通／日本索引家協会について（石井紀子）／詩集の傷み（伊藤信吉）／銀月の忍術（滑川道夫）／音の時代が（篠弘）／研究余録〈原田氏のこと（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈親譲りの本（稲垣真美）〉／文庫・記念館〈堺利彦記念館（近藤真柄）〉／ブック・トラック〈蔵書の中の蔵書印（八木福次郎）〉／駒場の四季／名著複製全集から⑤〈装幀・版面にあふれる気品（稲垣達郎）〉／所蔵資料紹介〈水野仙子書簡（三）ほか〉／図書・資料受入れ報告

6-50. 『日本近代文学館』 第50号 1979年7月15日

収録：中国作家代表団来館、評議員会開く、五十三年度利用状況（記事）／中島健蔵理事追悼（小田切進）／複製いろは（保昌正夫）／複製と造本（藤森善貢）／川副国基を喪う（稲垣達郎）／軍艦どんたく（阿川弘之）／おそろしい詩集（堺誠一郎）／研究余録〈ラ・ペルウスその他（瀬沼茂樹）〉／「日本近代文学館」主要目次／蔵書の

中から〈旅への洗礼的書物（岡田喜秋）〉／文庫・記念館〈魯迅の故居と記念館（尾崎秀樹）〉／ブック・トラック〈地方文学史・文学研究瞥見（曾根博義）〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈生田春月書簡（二）ほか〉／図書・資料受入れ報告

6-51. 『日本近代文学館』 第51号 1979年9月20日

収録：寄贈・寄託あいつぐほか（二面記事）／本二題（寿岳文章）／児童文学展について（福田清人）／万年筆（津村節子）／期待一つ（堀切利高）／研究余録〈利と表題（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈中勘助の手紙（渡辺外喜三郎）〉／文庫・記念館〈北京図書館（尾崎秀樹）〉／名著複刻全集から〈『田舎教師』後版経緯（稲垣達郎）〉／ブック・トラック〈比較文学の各種雑誌・機関誌（小玉晃一）〉／駒場の四季〈宗願寺さんの本（保昌正夫）〉／所蔵資料紹介〈芥川龍之介資料〉／図書・資料受入れ報告

6-52. 『日本近代文学館』 第52号 1979年11月15日

収録：館の誇り（小田切進）／「詩歌文学館」刊行決まる（二面記事）／中野重治追悼（小田切進）／獲物を待ちつつ（井上ひさし）／追悼、恩田逸夫さん（紅野敏郎）／リーダイ事件の意味（中村稔）／「有島武郎展」特集（里見弴 谷川徹三 芹沢光治良 本多秋五 安川定男 遠藤祐 山田昭夫 小玉晃一 西垣勤 宮野光男 紅野敏郎 有島暁子 瀬沼茂樹）／所蔵資料紹介〈有島武郎書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-53. 『日本近代文学館』 第53号 1980年1月15日

収録：貴重資料の寄贈あいつぐ（二面記事）／金芝河氏に対する一考察（曾野綾子）／ひとこと〈なつのえん（吉岡実）〉／研究余録〈佐々木豊寿の一面（瀬沼茂樹）〉／名著複刻全集から〈『破戒』一私家版（稲垣達郎）〉／蔵書の中から〈座右の詩集あれこれ（更科源蔵）〉／文庫・記念館〈杳太郎・白秋の記念館（野田宇太郎）〉／長谷川時雨関係資料（紅野敏郎）／中島健蔵地図コレクション（槌田満文）／ブック・トラック（富士田元彦）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈有島武郎書簡（二）〉／図書・資料受入れ報告

6-54. 『日本近代文学館』 第54号 1980年3月15日

収録：「詩歌文学館」の刊行によせて〈故郷の風光（桑原武夫）〉／初版本への愛着（竹西寛子）／近代日本の詩の総体（大岡信）／上質の芳香は“現場”に（井上ひさし）／久しく熱望され、熱望しつづけたもの（小田切進）／粒選りで体系的に（稲垣達郎）／随想〈澄江堂の幻（中井英夫）〉／北海道文学館の近況（木原直彦）／蔵書から〈「半秋」について（石丸久）〉／文庫・記念館〈馬籠の春（大竹新助）〉／寄贈資料紹介〈子規の硯（加藤楸邨）〉／ブック・トラック（深井人詩）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈小山内薫書簡（一）〉／図書・資料受入れ報告

6-55. 『日本近代文学館』 第55号 1980年5月15日

収録：随想〈私のごく初期の詩集について（北川冬彦）〉／追悼・土岐善麿先生（冷水

茂太) / 近大芸術家の書展 (奥平英雄) / ひとつこと (「紙」と「本」と (則武三雄)) / 「詩歌文学館」の発足 (木股修) / 研究余録 (代作 (瀬沼茂樹)) / 蔵書の中から (わが愛読書 (吉田謙吉)) / 相馬御風資料室のこと (相馬文子)) / 寄贈資料紹介 (一四ノート (野口碩)) / ブック・トラック (人名を追って) / 駒場の四季 (遺愛品の中から) / 所蔵資料紹介 (小山内薫書簡 (二)) / 図書・資料受入報告

6-56. 『日本近代文学館』 第56号 1980年7月15日

収録: 随想 (笹本寅さんのこと (福田清人)) / ある奇妙な一時期 (飯島耕一)) / 研究余録 (自戒の弁 (瀬沼茂樹)) / 蔵書から (ジャケットなど (湯浅光雄)) / ひとつこと (一人の作家 (木全圓壽)) / 文庫・記念館 (成田図書館 (旭寿山)) / 寄贈図書紹介 (河上肇書簡 (一海知義)) / ブック・トラック (図書館の工夫) / 駒場の四季 (遺愛品の中から) / 所蔵資料紹介 (小山内薫書簡 (三)) / 図書・資料受入れ報告 / 著作権関係のお尋ね

6-57. 『日本近代文学館』 第57号 1980年9月15日

収録: 随想 (蔵書の始末 (三好徹)) / ひとつこと (漱石断想 (小坂晋)) / 研究余録 (年譜雑感 (瀬沼茂樹)) / 蔵書から (『牧歌』など (矢内原伊作)) / 文庫・記念館 (雨雀記念館 (小山内時雄)) / 寄贈資料紹介 (上田敏原稿と荷風の欄外書入れ (竹盛天雄)) / 「火の鳥」 (尾形明子)) / ブック・トラック (利用と保存) / 駒場の四季 (遺愛品の中から) / 所蔵資料紹介 (斎藤茂吉書簡 (一)) / 芥川龍之介資料 / 図書・資料受入れ報告 / 著作権関係のお尋ね

6-58. 『日本近代文学館』 第58号 1980年11月15日

収録: 随想 (凍港 (山口誓子)) / ひとつこと (私の悩み (今井田勲)) / 蔵書から (父祖の稿本類 (足立巻一)) / 「新生」「世代」複製によせて (宇野先生の二十一年頃 (水上勉)) / 「世代」の思い出 (中村稔)) / 名著から (『破戒』 (稲垣達郎)) / 文庫・記念館 (雨情記念館 (野口存彌)) / ブック・トラック (参考図書のメッカ) / 駒場の四季 (筆墨——冬の詩歌 I) / 所蔵資料紹介 (斎藤茂吉書簡 (二)) / 芥川龍之介資料 (二)) / 図書・資料受入れ報告 / 著作権関係のお尋ね

6-59. 『日本近代文学館』 第59号 1981年1月15日

収録: 随想 (自由学園祭ののびやかさ (山本太郎)) / 《山茶花セット》によせて (吉田精一) / 文庫・記念館 (夢二美術館 (長田幹雄)) / 蔵書から (辞書の思い出 (外山滋比古)) / 寄贈資料紹介 (長塚節の「土」草稿について (大戸三千枝)) / 短信 (『農民哀史』ノート (松永伍一)) / 有明資料のこと (渋谷孝輔) / 図書館めぐりのこと (平田次三郎)) / 駒場の四季 (筆墨——新年の詩歌) / 所蔵資料紹介 (斎藤茂吉書簡 (三)) / 芥川龍之介資料 (三)) / 図書・資料受入れ報告 / 著作権関係のお尋ね

6-60. 『日本近代文学館』 第60号 1981年3月15日

収録: 随想 (遅い午後の教室 (黒井千次)) / 研究余録 (雪嶺漫歩 (瀬沼茂樹)) / 「近

代文学」複製によせて〈回憶（本多秋五）／平野謙と荒正人（埴谷雄高）／「文学者」という画像（吉本隆明）〉／蔵書の中から〈井上勤の翻訳書（富士川英郎）〉／文庫・記念館〈プランゲ文庫（上）（奥泉栄三郎）〉／寄贈資料紹介〈浅見淵の綴じこみ（保昌正夫）〉／名著から〈書かでもの記（稲垣達郎）〉／短信〈資料集め（大悟法利雄）〉／地方雑誌の発掘（千葉三郎）／滝井さんの小曲（唐井清六）〉／駒場の四季〈筆墨——春の詩歌 I〉／所蔵資料紹介〈相馬泰三書簡ほか〉／図書・資料受入れ報告

6-61. 『日本近代文学館』 第 61 号 1981 年 5 月 15 日

収録：随想〈「近代文学」について訂正二つ（埴谷雄高）〉／研究余録〈峯山のことなど（瀬沼茂樹）〉／「作品」複製によせて〈むかしの「作品」（中村光夫）〉／雑誌「作品」について（谷川徹三）／思い出（古谷綱武）〉／蔵書の中から『煩悶記』（野間光辰）〉／文庫・記念館〈プランゲ文庫（下）（奥泉栄三郎）〉／寄贈資料紹介〈原民喜関係資料紹介（佐々木基一）〉／短信〈辻野久憲のこと（井上究一朗）〉／資料が生き返った（大谷晃一）／原民喜展に寄せて（小海永二）〉／駒場の四季〈筆墨——夏の詩歌 I〉／所蔵資料紹介〈生田春月・室生犀星書簡／芥川龍之介資料〉／図書・資料受入れ報告

6-62. 『日本近代文学館』 第 62 号 1981 年 7 月 15 日

収録：随想〈「未成年」のこと（杉浦明平）〉／研究余録〈続峯山のこと（瀬沼茂樹）〉／「荒地」「方舟」「序曲」複製によせて〈創刊から廃刊まで（鮎川信夫）〉／「方舟」の夢（中村真一郎）／創刊の事情（杉森久英）〉／蔵書の中から〈犀星の『抒情小曲集』（結城信一）〉／文庫・記念館〈山田文庫（桑原三郎）〉／寄贈資料紹介〈鉄兵寄書帖（高橋春雄）〉／名著から〈『伊豆の踊子』前記（稲垣達郎）〉／短信〈本と漱石（熊坂敦子）〉／中島健蔵の独歩体験（北野昭彦）／雑誌「現代文学」のこと（立石伯）〉／駒場の四季〈筆墨——奈津の詩歌 II〉／所蔵資料紹介〈室生犀星書簡／芥川龍之介資料〉／図書・資料受入れ報告

6-63. 『日本近代文学館』 第 63 号 1981 年 9 月 15 日

収録：随想〈故郷の味（李恢成）〉／日本近代文学館役員名簿／「志賀直哉展」特集〈志賀さんのこと（中川一政）〉／歿後十年（尾崎一雄）／志賀さんの油絵（藤枝静男）／里見さんの弔辞（阿川弘之）〉／研究余録〈水彩画家（上）（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈宮嶋資夫「恨なき殺人」（森本修）〉／文庫・記念館〈稽古館など（相馬正一）〉／寄贈資料紹介〈藤村旧蔵書（十川信介）〉／短信〈「北国新聞」などを閲覧して（本多浩）〉／『立原正秋』を刊行（白川正芳）／「黒田騒動」の原流（原田種夫）〉／駒場の四季〈筆墨——秋の詩歌 I〉／所蔵資料紹介〈志賀直哉書簡／芥川龍之介書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-64. 『日本近代文学館』 第 64 号 1981 年 11 月 15 日

収録：「白痴群」第六号のこと（中村稔）／稀な充実した展覧——志賀直哉展を終えて——

(小田切進) / 寄贈資料紹介 (安藤一郎旧蔵資料 (中桐雅夫) / 水野葉舟日記 (山田清吉)) / 研究余録 (水彩画家 (下) (瀬沼茂樹)) / 蔵書の中から (仙花紙本を眺める (駒田信二)) / 山梨大学近代文学文庫 (野山嘉正) / 短信 (久生十蘭論のために (中野美代子) / 太宰治の犯罪小説 (山内祥史) / 地方文学のこと (市川為雄)) / 駒場の四季 (筆墨一冬の詩歌 II) / 所蔵資料の紹介 (伊藤整書簡 / 室生犀星書簡 / 芥川龍之介資料) / 図書・資料受入れ報告

6-65. 『日本近代文学館』 第 65 号 1982 年 1 月 15 日

収録: 随想 (演出と脚色の横暴 (飯沢匡)) / 役員・職員名簿 / 《石楠花セット》によせて (福田清人) / 研究余録 (井上巽軒 (瀬沼茂樹)) / 蔵書的那珂から (情死考 (岩井良樹)) / 館収蔵・文庫コレクション (1) (啄木=善麿コレクション) / 文庫・記念館 (三国町郷土資料館 (坂本政親)) / 短信 (資料の背後 (伊良子正) / 収集資料の別効用 (山中恒) / 『郡虎彦全集』との出会い (田中美代子)) / 駒場の四季 (作家の年賀状) / 所蔵資料紹介 (堺利彦書簡 / 有島武郎書簡 / 芥川龍之介資料) / 図書・資料受入れ報告

6-66. 『日本近代文学館』 第 66 号 1982 年 3 月 15 日

収録: 図遅う (朱書きの文字 (広津桃子)) / 「近代文学」複製によせて (二つの期待 (久保田正文) / “メイン・カレント” (小田切秀雄)) / 研究と六 (徳田一穂の遺託 (瀬沼茂樹)) / 蔵書の中から (茨城文学の資料など (柳生四郎)) / 館収蔵文庫・コレクション (2) (鈴木茂三郎蒐集=社会文庫) / 文庫・記念館 (佐佐木信綱記念館 (佐々木文綱)) / 短信 (マイナー・ポエト (近藤東) / 宮本百合子展にて (川口朗) / 五万部出た詩集 (安藤元雄)) / 駒場の四季 (春の詩歌) / 所蔵資料紹介 (堺利彦書簡 / 相馬御風書簡 / 芥川龍之介資料) / 図書資料受入れ報告 / 会員名簿

6-67. 『日本近代文学館』 第 67 号 1982 年 5 月 25 日

収録: 二十年の歩み (井上靖) / これまでの 20 年・これからの 10 年 (小田切進) / 近代文学館の現状 (特集記事) (創立二十周年に憶う (瀬沼茂樹) / 雑誌複製について (福田清人) / 創立二十周年に寄せて (石川達三) / ふた音 (木股修) / 研究資料叢書について (吉田精一) / あのころの思い出 (村上元三) / 走馬燈のように…… (巖谷大四) / 寄贈の恵み (紅野敏郎) / 文学の「正倉院」(松本清張) / 複製事業の大切さ (保昌正夫) / 新しい形の図書館をめざして (三好行雄) / 大海の水をバケツで…… (中村稔) / 上野の杜から駒場まで (稲垣達郎)) / 近代文学展 (紙上紹介) / 投書 (野口富士男) / 著作権者たずね人

6-68. 『日本近代文学館』 第 68 号 1982 年 7 月 15 日

収録: 記事 (「近代文学展」終わる / 五十七年度評議員会報告ほか / 『社会文庫目録』を刊行) / 随想 (この頃思うこと (堀多恵子)) / 研究余録 (片山潜の一面 (瀬沼茂樹)) / 新しい『社会文庫目録』 (小田切秀雄) / 文庫・記念館 (プランゲ文庫 (続) (奥泉

栄三郎) / 蔵書の中から〈万引寸前(岩田宏)〉 / 館収蔵文庫・コレクション (3) 〈中島健蔵文庫〉 / 短信〈「近代文学展」を観て(森本修) / 川端康成記念館の資料について(川端香男里) / 復刻の館外(関英雄)〉 / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介〈相馬御風書簡 / 入沢涼月書簡 / 有本芳水書簡〉 / 図書・資料受入れ報告

6-69. 『日本近代文学館』 第69号 1982年9月15日

収録: 随想〈一枚の版画(中田耕治)〉 / 蔵書の中から〈陸海軍戦争画集(針生一郎)〉 / 有島暎子さんの死を悼む(瀬沼茂樹) / 文庫・記念館〈堺市立図書館安西冬衛文庫の周辺(杉山平一)〉 / 館収蔵文庫・コレクション (4) 〈藤沢衛彦文庫〉 / 芥川龍之介文庫—フランス文学関係図書(倉智恒夫) / 短信〈瓢箪で腹を切る(山崎一穎) / 書き込み本(石崎等) / 「近代文学展」を見て(太田登)〉 / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介〈有本芳水書簡 / 高村光太郎書簡〉 / 図書・資料受入れ報告

6-70. 『日本近代文学館』 第70号 1982年11月15日

収録: 「横光利一展」特集(永井龍男 今日出海 瀬沼茂樹 小田切進 大岡昇平 中村光夫 岡本太郎 八木義徳 森敦 中村真一郎 保昌正夫) / 随想〈小熊夫人の思い出(木島始)〉 / 館収蔵文庫・コレクション (5) 〈宇野浩二文庫〉 / 蔵書の中から〈カフカのことなど(中井正文)〉 / 短信〈びわの実学校葬(前川康男) / 和田利夫「けいろく通信」のこと(杉野要吉) / 国際条約加入に向かう韓国の著作権法(安宇植)〉 / 駒場の四季 / 文庫・記念館〈賀川豊彦記念松沢資料館(賀川純基)〉 / 所蔵資料紹介〈有本芳水書簡〉 / 図書・資料受入れ報告

6-71. 『日本近代文学館』 第71号 1983年1月15日

収録: 図遅う〈自然の本質(中里恒子) / 萩原朔太郎と菊田一夫(久保忠夫)〉 / 研究余録〈大衆文学談義(瀬沼茂樹)〉 / 蔵書の中から〈愛蔵の書(土岐雄三)〉 / 館収蔵文庫・コレクション (6) 〈池辺三山文庫〉 / 文庫・記念館〈西條八十文庫のこと(上村直己)〉 / 短信〈詩誌「亜」の復刻について(木村久邇典) / 蛇殺しのこと(月村敏行) / ある選集の思い出(山田有策)〉 / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介〈横光利一書簡 / 有本芳水書簡 / 芥川龍之介資料〉 / 図書・資料受入れ報告

6-72. 『日本近代文学館』 第72号 1983年3月15日

収録: 随想〈パリのふたつの展覧会(稲生永)〉 / 文庫・記念館〈イーハトヴから銀河の彼方まで(天沢退二郎)〉 / 研究余録〈森本厚吉(瀬沼茂樹)〉 / 蔵書の中から〈雑誌「やまびこ」(窪田章一郎)〉 / 『日本からの手紙』特集(稲垣達郎達郎 小堀桂一郎 長谷川泉) / 館収蔵文庫・コレクション (7) 〈深尾須磨子、山田正一、笹本寅文庫〉 / 和田文庫から(保昌正夫) / インドネシアの日本文学研究(神谷忠孝) / 短信〈横光利一展を観て(山崎國紀) / 「春は馬車に乗つて」の頃の逗子(石井欣之助) / 文学論ノートのこと(内田道雄)〉 / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介〈有島武郎、生馬書簡〉 / 図書・資料受入れ報告

6-73. 『日本近代文学館』 第73号 1983年5月15日

収録：木股修常務理事の死を悼む（小田切進 福田清人）／随想〈朝鮮語のこと（吉野弘）〉／研究余録（26）〈桑木兄弟（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈河田＝『奥能登紀行』（串田孫一）〉／『國民新聞國民文學欄』特集（瀬沼茂樹 福田清人 中島国彦）／館収蔵文庫・コレクション〈松根東洋城資料、小杉天外文庫〉／文庫・記念館〈有島生馬記念館について（匠秀夫）〉／短信〈日高昭二 鼓直 唐井清六〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈有島生馬書簡／芥川龍之介資料〉／図書・資料受入れ報告

6-74. 『日本近代文学館』 第74号 1983年7月5日

収録：随想〈猫の季節（萩原葉子）〉／蔵書の中から『日本俳書体系』（安住敦）／研究余録〈明治十六年の読書論（瀬沼茂樹）〉／文庫・記念館〈村上霽月旧邸について（蒲池文雄）〉／「地上巡礼」「文体」の刊行に当たって（野田宇太郎 河盛好蔵）／館収蔵文庫・コレクション（9）〈長井金風コレクション／亀井勝一郎文庫〉／短信（笠原伸夫 伊藤ルイ 宮坂覚）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈有島生馬書簡／池辺三山書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-75. 『日本近代文学館』 第75号 1983年9月15日

収録：随想〈水（大庭みな子）〉／蔵書の中から〈実用と楽しみの間（大谷晃一）〉／研究余録〈奇人伝（瀬沼茂樹）〉／文庫・記念館〈コーネル大学図書館ワッソンコレクション（J・H・コール）〉／《紫陽花セット》について／館収蔵文庫・コレクション（10）〈浜本浩コレクション／島木赤彦書簡資料〉／短信（寺園司 関口安義 大屋幸世）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈池辺三山書簡（二）〉／図書・資料受入れ報告

6-76. 『日本近代文学館』 第76号 1983年11月15日

収録：随想〈祖母とおとぎ話（三浦綾子）〉／蔵書の中から〈敗戦直後の古書（川村二郎）〉／研究余録〈野村隈畔（瀬沼茂樹）〉／『種田山頭火句集』の刊行に寄せて（山本健吉 瀬戸内晴美）／文庫・記念館〈徳富蘇峰記念館（榎一雄）〉／館収蔵文庫・コレクション（11）〈麻田駒之助コレクション／福地桜痴資料〉／短信（佐藤昭夫 木村一信 辻淳）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈池辺三山書簡（三）〉／徳田秋声書簡（一）〉／図書・資料受入れ報告

6-77. 『日本近代文学館』 第77号 1984年1月15日

収録：随想〈古本屋（木下順二）〉／蔵書の中から〈灰の山と漂流（栗田勇）〉／研究余録〈厨川白村の『狂犬』（瀬沼茂樹）〉／その時〈加藤道夫君との出会い（西川正身）〉／館収蔵文庫・コレクション（12）〈渋沢青花コレクション／松原至大文庫／網野菊・池田小菊書簡コレクション〉／寄贈資料紹介〈「赤羽巖穴資料巻」について（松尾章一）〉／短信（今井泰子 千葉俊二 玉井敬之）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈徳田秋声・志賀直哉・豊島与志雄・細田源吉書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-78. 『日本近代文学館』 第78号 1984年3月15日

収録：随想〈批評家の蔵書（佐伯彰一）〉／文庫・記念館〈グリム兄弟博物館（高橋健二）〉／その時〈一枚の写真（和田健）〉／蔵書の中から〈アルス版『四季全集』……など（桶谷秀昭）〉／研究余録『荒野』（瀬沼茂樹）／寄贈資料紹介〈「永井荷風文庫」拝見（竹盛天雄）〉／館収蔵文庫・コレクション〈三好達治書簡資料／上司小剣資料〉／駒場の四季／所蔵資料紹介〈真山青果書簡／室生犀星書簡／芥川龍之介資料〉／図書・資料受入れ報告

6-79. 『日本近代文学館』 第79号 1984年5月15日

収録：「武者小路実篤と白樺美術展」特集（稲垣達郎 本多秋五 串田孫一）／随想〈青春の書（窪田般彌）〉／蔵書の中から〈明治期ミル伝とその原本（由良君美）〉／研究余録〈モダニズム辞典（瀬沼茂樹）〉／その時〈師・小津安二郎と父・里見弴（山内静夫）〉／館収蔵文庫・コレクション〈坂元雪鳥資料〉／文庫・記念館〈わらべうたつづりの館 サトウハチロー記念館（宮中雲子）〉／寄贈資料紹介〈中里迪弥の蔵書の事ども（伊藤和也）〉／短信（荻久保泰幸 畑実 松本徹）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈武者小路実篤書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-80. 『日本近代文学館』 第80号 1984年7月15日

収録：吉田精一常務理事の死を悼む（稲垣達郎 瀬沼茂樹）／随想〈愛読書（阪田寛夫）〉／研究余録『いざさらば』（瀬沼茂樹）／その時〈臍を嚙る（勝目梓）〉／館収蔵文庫・コレクション（15）〈三木露風文庫／内海信之文庫〉／文庫・記念館〈松山市立子規記念博物館（和田茂樹）〉／寄贈資料紹介〈江口渙旧蔵資料を見る（石割透）〉／短信（秦行正 みなもとごろう 桑原三郎）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈織田作之助書簡／三好達治書簡／大岡昇平書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-81. 『日本近代文学館』 第81号 1984年9月15日

収録：追悼 今日出海・野間省一〈大切な人を失う（小田切進）〉／随想〈夢をめぐって（辻邦生）〉／研究余録『牡丹刷毛』（瀬沼茂樹）／その時〈「GALA」と「火の玉子」周辺（白石かずこ）〉／蔵書の中から〈佐藤春夫『車塵集』と会津八一（峯村幸造）〉／寄贈資料紹介〈平戸廉吉文庫の周辺（千葉宣一）〉／館収蔵文庫・コレクション（16）〈小栗風葉資料／尾山篤二郎書簡コレクション／田中貢太郎コレクション〉／短信（東郷克美 飛高隆夫 木谷喜美枝）／駒場の四季／所蔵資料紹介〈織田作之助書簡〉／図書・資料受入れ報告

6-82. 『日本近代文学館』 第82号 1984年11月15日

収録：随想〈神田須田町の付近（澁澤龍彦）〉／蔵書の中から〈秋艸道人『南京新唱』『村莊雑事』のことなど（大河内昭爾）〉／研究余録『名流漫画』（瀬沼茂樹）／『森鷗外文庫目録』刊行にちなんで〈「時代や」さんの『家蔵鷗外書目』など（稲垣達郎）〉／文庫・記念館〈倫敦漱石記念館について（熊坂敦子）〉／その時〈「ユリシイズ」初訳の頃の思い出（永松定）〉／館収蔵文庫・コレクション〈片岡鉄兵資料／石井柏亭文

庫) / 成島柳北資料と大島隆一 (白井慎) / 短信 (剣持武彦 町田栄 中野嘉一 千葉宣一) / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介 (織田作之助書簡) / 図書・資料受入れ報告

6-83. 『日本近代文学館』 第 83 号 1985 年 1 月 1 日

収録: 随想 (大垣ゆき (司馬遼太郎)) / 蔵書の中から (わたしの大切な本 (大原富枝)) / 研究余録 (新声社の義挙 (瀬沼茂樹)) / その時 (「マヴォ」のこと (田河水泡)) / 館収蔵文庫 (水野葉舟資料) / 寄託資料紹介 (大貫晶川資料について (今川英子)) / 短信 (和田茂樹 嘉部嘉隆 千葉三郎) / 駒場の四季 / 所蔵資料紹介 (織田作之助書簡) / 図書・資料受入れ報告

6-84. 『日本近代文学館』 第 84 号 1985 年 3 月 15 日

収録: 随想 (まゆ毛で見れば (岡部伊都子)) / 追悼・石川達三常務理事 (館の実現をよろこぶ (小田切進)) / 蔵書の中から (『テニスン詩集』のこと (高階秀爾)) / 研究余録 (日露戦争の慰問短篇集 (瀬沼茂樹)) / その時 (エルンスト・トラウの思い出 (千田是也)) / 寄贈資料紹介 (伊藤整文庫の現況 (曾根博義)) / ベルリンの鷗外記念館開館に寄せて (祖母しげ子と虫明の小父 (森真章)) / 館収蔵文庫・コレクション (北川桃雄文庫 / 長谷川時雨資料) / 短信 (角田敏郎 柘植光彦 千葉俊二) / 所蔵資料紹介 (織田作之助書簡)

6-85. 『日本近代文学館』 第 85 号 1985 年 5 月 20 日

収録: 館と野上さんのこと (小田切進) / 野上弥生子展特集 ((谷川徹三 山本健吉 井上靖 河野多恵子 瀬沼茂樹 大岡昇平 宇野千代 佐多稲子) / 野上展の会場から) / 随想 (三好達治さんのこと (宗左近)) / その時 (「女人芸術」の思い出 (城夏子)) / 寄贈資料紹介 (漱石書簡によせて (秋山日出子)) / 短信 (橋浦兵一 鷲只雄 五十嵐康夫) / 所蔵資料紹介 (織田作之助書簡)

6-86. 『日本近代文学館』 第 86 号 1985 年 7 月 15 日

収録: 野上展レセプション出席者 / 役員・評議員名簿 / 随想 (一冊の小著から (永井路子)) / 追悼・川口松太郎監事 (大きな力に (小田切進)) / 蔵書の中から (賢治と光太郎 (北川太一)) / 吉田精一文庫について (三好行雄)) / 研究余録 (『奇人正人』 (瀬沼茂樹)) / その時 (私の「セルパン」時代 (春山行夫)) / 「近代音楽館」の構想 (遠山一行)) / 寄贈資料紹介 (長田秀雄関係資料 (藤木宏幸)) / 漱石書簡あれこれ (長谷川仁)) / 短信 (藤井公明 玉村周 阿毛久芳) / 所蔵資料紹介 (木下杢太郎書簡)

6-87. 『日本近代文学館』 第 87 号 1985 年 9 月 15 日

収録: 随想 (返却されぬ原稿 (遠藤周作)) / 蔵書の中から (ある総括 (保高みさ子)) / 研究余録 (春の波濤 (瀬沼茂樹)) / その時 (「風」での出発 (渋谷駿)) / 「文藝公論」の位置 (磯田光一)) / 寄贈資料紹介 (文学館の三山資料 (池辺一朗)) / 館収蔵文庫・コレクション (丸山薫文庫 / 丸岡明文庫) / 短信 (岡田弘子 鈴木貞美 金子昌夫) / 所蔵資料紹介 (木下杢太郎書簡 / 長田秀雄宛書簡 / 田岡嶺雲書簡)

6-88. 『日本近代文学館』 第 88 号 1985 年 11 月 15 日

収録：随想〈記念館への案内（武者小路辰子）〉／蔵書の中から〈柳田・白鳥・推理小説（中島河太郎）〉／「歷程」複製に寄せて（渋沢孝輔）／その時〈「椎の木」の（江間章子）〉／文庫・記念館〈八木重吉記念館（田中清光）〉／寄贈資料紹介〈有島武郎旧蔵『草の葉』について（小玉晃一）〉／館収蔵文庫・コレクション〈田岡典夫関係資料〉／短信〈山本二郎 小笠原克 木本至〉／所蔵資料紹介〈田岡嶺雲書簡／田中貢太郎書簡／佐々木味津三宛書簡〉

6-89. 『日本近代文学館』 第 89 号 1986 年 1 月 1 日

収録：館収蔵文庫・コレクション一覧／随想〈名前の誤記（中村真一郎）〉／研究余録〈『楽天録』（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈「源氏物語」の注釈書など（秋山虔）〉／寄贈資料紹介〈結城信一の犀星本コレクションなど（保昌正夫）〉／その頃〈故都追憶（飯塚朗）〉／「四季」編集のことども（鈴木亨）／文庫・記念館〈熊本近代文学館（中村青史）〉／館収蔵文庫・コレクション〈平戸廉吉文庫〉／短信〈倉智恒夫 山田朝一 中尾務〉／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-90. 『日本近代文学館』 第 90 号 1986 年 3 月 15 日

収録：随想〈長谷川伸の一面（村上元三）〉／蔵書の中から〈愛書家失格（渡辺一民）〉／研究余録〈或る系譜（瀬沼茂樹）〉／その頃〈苦の時代（永瀬清子）〉／『現代日本名家落款印譜集成上・下』に寄す（楠元憲吉）／寄贈資料紹介〈小栗風葉資料との再会（小中陽太郎）〉／館収蔵文庫・コレクション〈佐々木味津三資料／菊田一夫資料〉／その頃の三重吉先生（与田準一）／短信〈昆豊 柳瀬信明 助川徳是〉／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-91. 『日本近代文学館』 第 91 号 1986 年 5 月 15 日

収録：随想〈死蔵すべきではない（大岡昇平）〉／日本現代文学の影響（日野啓三）／研究余録〈栗本鋤雲（瀬沼茂樹）〉／蔵書の中から〈父の「遺書」（江川卓）〉／「文章世界」蒐集記ほか（大屋幸世）／その頃〈陽と蔭（望月百合子）〉／館収蔵文庫・コレクション〈安藤一郎文庫〉／寄贈資料紹介〈「大学評論」について（高原二郎）〉／短信〈北川太一 高山亮二 岡保生〉／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-92. 『日本近代文学館』 第 92 号 1986 年 7 月 15 日

収録：随想〈文学館い貰ってほしいお手紙（与田義賢）〉／蔵書の中から〈『商用通語』のことなど（亀井秀雄）〉／研究余録〈『額の男』など（瀬沼茂樹）〉／その頃〈昭和一ケタの頃（福田清人）〉／一葉資料の貴重な情報（野口碩）／寄贈資料紹介〈佐佐木信綱宛て中野逍遙書簡（村山吉廣）〉／館収蔵文庫・コレクション〈与謝野寛・晶子コレクション〉／短信〈原田種夫 鶴岡善久 池内輝雄〉／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-93. 『日本近代文学館』 第 93 号 1986 年 9 月 15 日

収録：つねに館の中心に（小田切進）／特集・追悼稲垣達郎常務理事（瀬沼茂樹 福田清人 渋川驍 山本健吉 窪田章一郎 本多秋五 野口富士男 猪野謙二 巖谷大四 河竹登志夫 三好行雄 熊坂敦子 磯田光一 藤木宏幸 中島国彦 紅野敏郎 保昌正夫 竹盛天雄 中島和夫）／太宰治が匿名小説を書いたころ（久保喬）／その頃〈戦後派のころ（杉森久英）〉／「雪溪を踏めり一步づつ」（望月たかし）／短信（中島可一郎 島本融 藤木宏幸）／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-94. 『日本近代文学館』 第94号 1986年11月15日

収録：随想〈書物の縁（寿岳文章）〉／蔵書の中から〈『詠歌辞典』（佐佐木幸綱）〉／研究余録〈「漾虚集」と「行人」（瀬沼茂樹）〉／その頃〈複製版の効用（佐々木基一）〉／文学館との出会い（テッドファウラー）／文庫・記念館〈川端康成文学館（川端香男里）〉／館収蔵文庫・コレクション〈江口渙コレクション〉／短信（伊狩章 菊地弘 満田郁夫）／所蔵資料紹介〈佐々木味津三宛書簡〉

6-95. 『日本近代文学館』 第95号 1987年1月1日

収録：二十五年の道のり（小田切進）／随想〈未知の創作者（埴谷雄高）〉／創立二十五周年特集①〈しだいに資料充実／現場風景（紅野敏郎）／利用者の一人として（植田満文）〉／蔵書の中から〈土方久元の遺稿集（尾崎宏次）〉／研究余録〈『現代百人豪』（瀬沼茂樹）〉／その頃〈四十年前の鮎川（北村太郎）〉／文庫・記念館〈石川近代文学館新装開館（新保千代子）〉／『東京帝国大学一覧』（久保忠夫）／短信（嘉部嘉隆 村上あや 土合弘光）

6-96. 『日本近代文学館』 第96号 1987年3月15日

収録：創立二十五周年特集②〈無から有を生みだしたこの四半世紀（瀬沼茂樹）〉／館の歩み（略年表）／展覧会／講座・講演会／刊行物／展覧会会戦（保昌正夫）／複製の恩恵（高橋英夫）／名著複製のこと

6-97. 『日本近代文学館』 第97号 1987年5月15日

収録：二十五周年に寄せて（井上靖）／創立二十五周年特集③（小田切進 瀬沼茂樹 河盛好蔵 品川力 福田清人 山本健吉 松本清張 村上元三 野口富士男 巖谷大四 中村真一郎 紅野敏郎 遠山一行 楠元憲吉 遠藤周作 保昌正夫 河野多恵子 中村稔 尾崎秀樹 竹西寛子）／夏目漱石展特集（猪野謙二 小島信夫 佐藤泰正 水上勤 小川国夫 大岡信 桶谷秀昭 黒井千次 江藤淳 井上ひさし）／会場から（石崎等 熊坂敦子 中島国彦）

6-98. 『日本近代文学館』 第98号 1987年7月20日

収録：漱石展レセプションなごやかに／役員・評議員名簿／随想〈四季への句稿と「鼻」の手紙（飯島耕一）〉／蔵書の中から〈「キネマ旬報」（筒井康隆）〉／研究余録〈『新写生文』（瀬沼茂樹）〉／文化への貢献（串田孫一）／寄贈資料紹介〈太宰治文庫（奥野健男）〉／その頃〈「近代文学」と『死霊』の校合（立石伯）〉／北海道文学館二十年（木

原直彦) / 所蔵資料紹介 (北原白秋書簡)

6-99. 『日本近代文学館』 第 99 号 1987 年 9 月 12 日

収録: 北京の文学館—中国現代文学館をたずねる (小田切進) / 随想 (読み返しの効用 (阿刀田高)) / 蔵書の中から (《今日の詩人双書》など (北川透)) / 研究余録 (宮崎湖処子 (瀬沼茂樹)) / その頃 (「作品」十年 (保昌正夫)) / 寄贈資料紹介 (小穴隆一宛書簡から芥川龍之介あれこれ (菊地弘)) / 館収蔵文庫・コレクション (佐佐木信綱文庫) / 稲垣さんの本 (紅野敏郎) / 所蔵資料紹介 (鷗外・敏・武郎・白秋書簡)

6-100. 『日本近代文学館』 第 100 号 1987 年 11 月 15 日

収録: 創刊百号にあたって (果たしてきた大きな役割 (小田切進)) / 随想 (旅順の大谷コレクション (陳舜臣)) / 蔵書の中から (小川未明『雪の線路を歩いて』など (入沢康夫)) / 研究余録 (発売禁止 (瀬沼茂樹)) / その頃 (「四季」そのとらえにくさ (小久保実)) / 館収蔵文庫・コレクション (毎日新聞小説原稿コレクション) / 所蔵資料紹介 (魯庵・牧水・朔太郎書簡) / 「館報」五十一～百号主要目次

6-101. 『日本近代文学館』 第 101 号 1988 年 1 月 1 日

収録: 随想 (今、なぜ俊子か (瀬戸内晴美)) / 蔵書の中から (不思議な色合いのゾーン (村松友視)) / 研究余録 (夏目漱石書簡一通 (瀬沼茂樹)) / その頃 (「文體」の空間 (川西政明)) / 寄贈資料紹介 (新田潤資料について (渋川驍)) / 館収蔵文庫・コレクション (川口松太郎文庫 / 石川達三資料) / 短信 (森真章 永野賢 越野格) / 所蔵資料紹介 (芥川龍之介・岡本かの子書簡)

6-102. 『日本近代文学館』 第 102 号 1988 年 3 月 15 日

収録: 随想 (万年筆あれこれ (中野孝次)) / 蔵書の中から (在りし日のマラルメ著作 (菅野昭正)) / 研究余録 (比較文学の推移 (瀬沼茂樹)) / その頃 (「文文科」と「鷗」 (助川徳是)) / 文庫・記念館 (布川文庫のこと (布川角左衛門)) / 寄贈資料紹介 (米川正夫資料について (米川哲夫)) / 館収蔵文庫・コレクション (伊藤整文庫) / 短信 (黒木清次 室生朝子 野中涼) / 所蔵資料紹介 (芥川龍之介・佐藤春夫・林芙美子書簡)

6-103. 『日本近代文学館』 第 103 号 1988 年 5 月 15 日

収録: 太宰治・東京展特集 (出品主要資料一覧 / 「斜陽」や「人間失格」の原稿など (小田切進)) / 渡辺一夫世界の広がり (大江健三郎) / 随想 (編集者の伝記 (種村季弘)) / 蔵書の中から (今は特になし (邦光史郎)) / 研究余録 (或る死生観 (瀬沼茂樹)) / 所蔵資料紹介 (佐藤春夫・林芙美子書簡)

6-104. 『日本近代文学館』 第 104 号 1988 年 7 月 15 日

収録: 随想 (隅田川遊歩 (田久保英夫)) / 蔵書の中から (小説はカス本 (森村誠一)) / その頃 (「山繭」観望 (磯貝英夫)) / 寄贈資料紹介 (竹柏園遺文 (林大)) / 文庫・記念館 (沼津市若山牧水記念館 (藤岡武雄)) / 館収蔵文庫・コレクション (広津和郎

文庫) / 短信 (高山亮二 磯崎嘉治 池田浩士) / 所蔵資料紹介 (佐藤春夫・林不忘書簡)

6-105. 『日本近代文学館』 第 105 号 1988 年 9 月 25 日

収録: つねに館運動の中心に (小田切進) / 女性作家十三人展特集 (落つて仕事を (宇野千代) / なつかしい思い (佐多稲子) / 鮮烈な個性の展覧会 (河野多恵子) / 時の流れの中で (永井路子) / 筆蹟 (澤地久枝) / 長く心の糧に (小田切進) / 会場から) / 随想 (美しき湾口、灰白き声 (吉増剛造)) / 蔵書の中から (久米邦武の『米欧回覧実記』 (芳賀徹)) / 所蔵資料紹介 (田村俊子・宮本百合子書簡)

6-106. 『日本近代文学館』 第 106 号 1988 年 11 月 15 日

収録: 女性作家十三人展を観て (息づく情熱 (森万紀子)) / 随想 (過善症のこと (山田稔)) / 蔵書の中から (いわゆる『三十卷全集』 (小沼文彦)) / その頃 (「地上巡礼」について (明石利代)) / 寄贈資料紹介 (土岐善麿宛ての空穂書簡 (窪田章一郎)) / 文庫・記念館 (ある地域文学館の発足 (山本遺太郎)) / 館収蔵文庫・コレクション (大町桂月文庫 / 高田保文庫) / 短信 (逆井尚子 入谷清久 稲村徹元) / 所蔵資料紹介 (田村俊子・佐藤春夫書簡)

6-107. 『日本近代文学館』 第 107 号 1989 年 1 月 1 日

収録: 随想 (小説の中の会話 (吉村昭)) / 蔵書の中から (『プルチネッラ喜劇集』の象徴的価値 (中村雄二郎)) / 館の《近代文学雑誌複刻版から (「辻馬車」の転遷 (小関和弘)) / 寄贈資料紹介 (上田敏資料について (安田保雄)) / 文庫・記念館 (谷崎潤一郎記念館 (谷崎松子)) / 館収蔵文庫・コレクション (和田芳恵文庫 / 井上琢為文庫) / 短信 (菊池明 津田孝 仙仁司) / 所蔵資料紹介 (田村俊子・西田幾多郎書簡)

6-108. 『日本近代文学館』 第 108 号 1989 年 3 月 15 日

収録: 芥川賞・直木賞 100 回記念展特集 (村上元三 芝木好子 八木義徳 吉行淳之介 水上勉 杉本苑子 小田切進 河野多恵子 永井路子 津村節子 大庭みな子 古井由吉 上林吾郎 森敦 藤本義一 村松友視) / 随想 (草野心平の怒り (粒来哲蔵)) / 追悼大岡昇平常務理事 (小田切進) / 蔵書の中から (大岡龍男のこと (徳永康元)) / 寄贈資料紹介 (平林たい子の資料 (戸田房子)) / 文庫・記念館 (新宿歴史博物館 (熊坂敦子)) / 所蔵資料紹介 (西田幾多郎・吉川英治書簡)

6-109. 『日本近代文学館』 第 109 号 1989 年 5 月 15 日

収録: 随想 (天寿 (黒岩重吾)) / 蔵書の中から (「雲南植物志」のこと (山田宗睦)) / 館の近代文学雑誌複刻版から (「よしあし草」「関西文学」を開きながら…… (玉井敬之)) / 寄贈資料紹介 (実物資料による見事な三山全集 (中島国彦)) / 瀬沼茂樹文庫から (河合靖峯) / 文庫・記念館 (遅筆堂文庫 (松坂俊夫)) / 館収蔵文庫・コレクション (緒方収二郎書簡コレクション / 中村武羅夫コレクション / 渡辺陸三コレクション) / 短信 (浅倉雅彦 陸川博 渡辺一民) / 所蔵資料紹介 (伊藤整書簡)

6-110. 『日本近代文学館』 第110号 1989年7月14日

収録：随想〈修験の桜（岡野弘彦）〉／芥川賞・直木賞展大阪展を観て〈自覚なくミーハーで（藤堂志津子）〉／蔵書の中から〈私と三つのイプセン全集（原千代海）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「方舟」複刻版を前にして（川口朗）〉／寄贈資料紹介〈西川先生の蔵書の行方（渡辺利雄）〉／文庫・記念館〈野田宇太郎文学資料館（昆豊）〉／館収蔵文庫・コレクション〈岩淵兵七郎収集長与善郎文庫／渋沢秀雄書簡コレクション〉／短信（上笙一郎 大倉宏 入江春行）／所蔵資料紹介〈坪内逍遙・饗庭篁村書簡〉

6-111. 『日本近代文学館』 第111号 1989年9月15日

収録：随想〈万年筆（木崎さと子）〉／蔵書の中から〈鏡花本二、三（笠原伸夫）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「プロレタリア文学」（林淑美）〉／文庫・記念館〈自由民権資料館（色川大吉）〉／寄贈資料紹介〈石光葆資料について（渋川驍）／「新小説」を繰る（紅野敏郎）〉／館収蔵文庫・コレクション〈萩原朔太郎コレクション／長田秀雄コレクション〉／短信（三村武 天児直美 佐藤方哉）／所蔵資料紹介〈坪内逍遙・竹久夢二・吉川英治書簡〉

6-112. 『日本近代文学館』 第112号 1989年11月15日

収録：随想〈爆発する魂の詩（渋沢孝輔）〉／蔵書の中から〈中国の風俗図巻（中野美代子）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈気運の中の「新興文学」（高橋春雄）〉／寄贈資料紹介〈近松秋江資料について（中尾務）〉／文庫・記念館〈會津八一記念館（長島健）〉／館収蔵文庫・コレクション〈結城信一コレクション／熱田優子コレクション〉／短信（新保千代子 黒田徹 池内輝雄）／所蔵資料紹介〈坪内逍遙・竹久夢二・吉川英治書簡〉

6-113. 『日本近代文学館』 第113号 1990年1月1日

収録：随想〈老マスオさん（田村隆一）〉／蔵書の中から〈書齋の風景（山口昌男）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「ARS」について（本多浩）〉／文庫・記念館〈山梨県立文学館（三好行雄）〉／寄託資料紹介〈百首屏風に想う（与謝野光）〉／館収蔵文庫・コレクション〈川端康成文庫〉／短信（三好京三 武田洋二 井上正）／所蔵資料紹介〈坪内逍遙・武者小路実篤・吉川英治書簡〉

6-114. 『日本近代文学館』 第114号 1990年3月15日

収録：随想〈中江兆民の面白さ（夏堀正元）〉／大久保さんの死を悼む（小田切進）／蔵書の中から〈「明治大正史 言論篇」（奥平康弘）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「世代」の大空位時代と再刊一号（大野正男）〉／目録は有難きかな（上笙一郎）／最近の寄贈資料から〈上司小剣宛書簡について（片岡美佐子）／幸徳秋水と現代（松尾章一）〉／館収蔵文庫コレクション〈大島隆一コレクション／赤木健介文庫〉／短信（榎菌高雄 平野勝重 萬木康博）／所蔵資料紹介〈武者小路実篤・長谷川如是閑書簡〉

6-115. 『日本近代文学館』 第 115 号 1990 年 5 月 15 日

収録：随想〈正字旧假名文化の話（岡井隆）〉／蔵書の中から〈移動ライブラリ（多田智満子）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「四季」断感（野山嘉正）〉／文庫・記念館〈日本現代詩歌文学館（扇畑忠雄）〉／「吉田精一文庫目録」（浅井清）／寄贈資料紹介〈坂本一亀コレクション（川西政明）〉／短信（武者小路辰子 落合雄三 鳥居邦朗）／所蔵資料紹介〈齋藤緑雨・馬場孤蝶・武者小路実篤・長谷川如是閑書簡〉

6-116. 『日本近代文学館』 第 116 号 1990 年 7 月 15 日

収録：随想〈基準ということ（中沢けい）〉／蔵書の中から〈挿絵の楽しみ（川本三郎）〉／元気だった三好さん（小田切進）／館の近代文学雑誌複刻版から〈「文芸公論」の都市モダニズム（関井光男）〉／文庫・記念館〈石川啄木記念館（遊座昭吾）〉／最近の受贈資料から〈松村泰太郎氏旧蔵資料をめぐって（保昌正夫）〉／館収蔵文庫・コレクション〈西川正身文庫／佐藤清コレクション〉／短信（仲程昌徳 長谷川敬 関田英里）／所蔵資料紹介〈武者小路実篤・太宰治書簡〉

6-117. 『日本近代文学館』 第 117 号 1990 年 9 月 15 日

収録：随想〈似て非なるもの（藤沢周平）〉／蔵書の中から〈「明星」復刻（尾崎左永子）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「荒地詩集 一九五一年版」のこと（小海永二）〉／文庫・記念館〈田山花袋記念館（小林一郎）〉／寄贈資料紹介〈藤村操関係資料について（平岩昭三）〉／館収蔵文庫・コレクション〈平林たい子文庫／稲垣鷹穂・直子文庫〉／短信（吉野壮児 仙賀松雄 小林安司）／所蔵資料紹介〈和辻哲郎書簡〉

6-118. 『日本近代文学館』 第 118 号 1990 年 11 月 15 日

収録：随想〈アグール（塚本邦雄）〉／蔵書の中から〈パリの本（出口裕弘）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈現代と「近代文学」（黒古一夫）〉／文庫・記念館〈昭和女子大学近代文庫（杉本邦子）〉／最近の受贈資料から〈川並秀雄文庫の啄木コレクション（太田登）〉／館収蔵文庫・コレクション〈鏑田研一文庫／内田フミエ文庫〉／短信（工藤進 能宗正和 袖井林二郎）／所蔵資料紹介〈武者小路実篤・和辻哲郎・太宰治書簡〉

6-119. 『日本近代文学館』 第 119 号 1991 年 1 月 1 日

収録：随想〈柘榴百子（黒井千次）〉／蔵書の中から〈詩集「悪魔の貞操」のこと（吉原幸子）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈「新生」の思い出（橋本迪夫）〉／文庫・記念館〈三田文学ライブラリー（松村友視）〉／寄贈資料紹介〈萩原朔太郎関係資料（安川定男）〉／館収蔵文庫・コレクション〈紅塵亭収集永井荷風文庫／大賀渡収集吉井勇コレクション〉／短信（藤平春男 真鍋俊照 宮沢雄造）／所蔵資料紹介〈和辻哲郎・近松秋江書簡〉

6-120. 『日本近代文学館』 第 120 号 1991 年 3 月 15 日

収録：館の大きな力に（小田切進）／随想〈自分史文学賞（佐木隆三）〉／蔵書の中か

ら「道」の井筒俊彦先生（丸山圭三郎）／「マヴォ」の複製に寄せて〈思い出の「マヴォ」（住谷磐根）／「マヴォ」の詩的変革（伊藤信吉）／文庫・記念館〈台東区立一葉記念館（野口碩）／寄贈資料紹介〈久保田米斎の日記（菊池明）／館収蔵文庫・コレクション〈山本有三文庫／沖本常吉コレクション／関口良雄文庫〉／短信（森茂樹 下口弘 高野静子）／所蔵資料紹介〈谷崎潤一郎・近松秋江書簡〉

6-121. 『日本近代文学館』 第121号 1991年5月15日

収録：随想〈「尾崎翠」と出会って（加藤幸子）／蔵書の中から〈虚室神霊は舞う（草森伸一）／「マヴォ」と爆弾（池田浩士）／文庫・記念館〈津和野町立郷土館（森澄泰文）／寄贈資料紹介〈直木三十五映画時代の手紙（磯貝勝太郎）／館収蔵文庫・コレクション〈芥川賞直木賞原稿コレクション／上田敏コレクション〉／短信（吉田漑生 藤野幸雄 伊藤大仁）／所蔵資料紹介〈白秋・俊子・野枝・秋江・達治書簡〉

6-122. 『日本近代文学館』 第122号 1991年7月15日

収録：随想〈私の書いている歴史小説（村田喜代子）／蔵書の中から〈なぜか、どぎまぎさせられる（米川良夫）／雑誌「マヴォ」の輪郭（五十殿利治）／文庫・記念館〈盛岡市先人記念館（浦田敬三）／寄贈資料紹介〈生田長江日記（牛山百合子）／館収蔵文庫・コレクション〈美土路昌一コレクション、速記文庫〉／短信（村山亜土 本間千枝子 山口和子）／所蔵資料紹介〈啄木・荷風・俊子・朔太郎・恭次郎書簡〉

6-123. 『日本近代文学館』 第123号 1991年9月15日

収録：湯浅さんと新詩社文庫（久保忠夫）／随想〈学生とワープロ（三田誠広）／蔵書の中から〈学際学的渾沌（若桑みどり）／感の近代文学雑誌複製版から〈「文学界」という「文学」の「世界」（藤井淑禎）／文庫・記念館〈ホイットマン生誕の家、終焉の地（小玉晃一）／館収蔵文庫・コレクション〈渡辺一夫文庫、杉田直樹文庫〉／短信（鳥越文蔵 柳瀬信明 小峰仁作）／所蔵資料紹介〈寛詩稿、寛・桂月・俊子・潤書簡〉

6-124. 『日本近代文学館』 第124号 1991年11月9日

収録：塩田良平文庫特別披露に寄せて〈塩田さんを偲ぶ（福田清人）／塩田良平追憶（暉峻康隆）／塩田良平文庫の公開によせて（板垣弘子）／随想〈長谷川時雨の日記（岩橋邦枝）／蔵書の中から〈ほんの二、三冊（加藤典洋）／感の近代文学雑誌複製版から〈「作品」の複製版について（山敷和男）／文庫・記念館〈ランボー記念館（稲生永）／短信（北川太一 中島国彦 高橋忠治）／所蔵資料紹介〈寛・明子・美妙・夢二・武郎・介山・逍遙書簡〉

6-125. 『日本近代文学館』 第125号 1992年1月1日

収録：三十年の集積を生かして（小田切進）／創立三十周年特集①〈館収蔵文庫・コレクション一覧（浅井清 紅野敏郎 保昌正夫 本多浩）／館の歩み（略年表）／所蔵資料紹介〈川端康成書簡〉

- 6-126. 『日本近代文学館』 第 126 号 1992 年 3 月 15 日
収録：創立三十周年特集②〈展覧会、刊行物、講座・講演会 [記録／随想 (河野多恵子 芥川瑠璃子 久保忠夫 伊藤信吉 高橋英夫 川西政明 小島信夫)]〉／所蔵資料紹介〈川端康成書簡〉
- 6-127. 『日本近代文学館』 第 127 号 1992 年 5 月 15 日
収録：創立三十周年特集③〈事始めの日々 (小田切進)〉／三十周年に寄せて (黒井千次 高橋英夫 高階秀爾 埴谷雄高 三浦朱門 中村稔 大岡信)／慶祝三十周年(六十七氏)／川端康成展特集〈開会のことば (小田切進 中江利忠)／川端展に寄せて (長谷川泉 水上勉 サイデンステッカー 瀬戸内寂聴 大庭みな子 江藤淳)／会場から その生涯と芸術〉
- 6-128. 『日本近代文学館』 第 128 号 1992 年 7 月 15 日
収録：随想〈ご褒美旅行 (高橋揆一郎)〉／川端康成展を見て (永井路子)／蔵書の中から〈ベケットを思い出しながら (高橋康也)〉／「太宰治文庫目録」によせて (D・キーン)／館の近代文学雑誌複製版から〈「山繭」散見 (鶴岡善久)〉／文庫・記念館〈大原富枝文学館 (山下伸男)〉／短信 (廣重聰 加藤穂高 伴薫)／所蔵資料紹介〈川端康成書簡〉
- 6-129. 『日本近代文学館』 第 129 号 1992 年 9 月 3 日
収録：井上靖展特集〈監修者のことば (小田切進 河北倫明)〉／井上展によせて (東山魁夷 司馬遼太郎 平山郁夫 大江健三郎 小澤征爾 八木義徳)／会場から 文学の軌跡と美の世界)／蔵書の中から〈印度童話集そのほか (古橋信孝)〉／所蔵資料紹介〈徳田秋声・横光利一・川端康成書簡〉
- 6-130. 『日本近代文学館』 第 130 号 1992 年 11 月 15 日
収録：随想〈B 面の作家一田沢稲舟 (三枝和子)〉／蔵書の中から〈恐るべき愛憎の書 (嶋岡晨)〉／井上靖展を見て (高野昭)／館の近代文学雑誌複製版から〈「歷程」戦前版を読んで (原崎孝)〉／文庫・記念館〈姫路文学館 (橘川真一)〉／寄贈資料紹介〈草村北星日記 (野々山三枝)〉／短信 (宮坂覺 高山亮二 遊座昭吾)／所蔵資料紹介〈福地桜痴・大町桂月・徳田秋声書簡〉
- 6-131. 『日本近代文学館』 第 131 号 1993 年 1 月 10 日
収録：随想〈虫の虜と二度めの個展 (萩原葉子)〉／蔵書の中から〈書を焚いて暖を取る (奥本大三郎)〉／館の近代文学雑誌複製版から〈「プロレタリア文学」の問いかけるもの (中山和子)〉／文庫・記念館〈北海道文学館 (木原直彦)〉／寄贈資料紹介〈父・仲木貞一の資料 (仲木都富)〉／作家別館収蔵資料〈石川啄木 (一)〉／短信 (小林一郎 中村良之 野口武久)／所蔵資料紹介〈上田敏・大町桂月書簡・芥川龍之介書簡・自筆メモ〉
- 6-132. 『日本近代文学館』 第 132 号 1993 年 3 月 15 日

収録：就任の辯（中村真一郎）／小田切進理事長追悼特集（水上勉 大岡信 中野孝次 中島和夫 渡辺一民 福田清人 黒井千次 紅野敏郎 保昌正夫 尾崎秀樹）／随想〈消えてゆく京福電鉄（津村節子）〉／蔵書の中から〈汚れた本（高田宏）〉／作家別館収蔵資料〈石川啄木（二）〉／所蔵資料紹介〈菊池寛書簡〉

6-133. 『日本近代文学館』 第133号 1993年5月15日

収録：随想〈春浅き日に（堀多恵子）〉／蔵書の中から〈春風千里（小西甚一）〉／館の近代文学雑誌複刻版から〈昭和「文学界」私記（小笠原克）〉／文庫・記念館〈東京ゲーテ記念館（粉川哲夫）〉／寄贈資料紹介〈手沢本を通して見た中里介山とトルストイ（柳富子）〉／作家別館収蔵資料〈石川啄木（三）〉／短信（桜井健治 小林輝治 高室有子）／所蔵資料紹介〈大町桂月・上田敏・菊池寛書簡〉

6-134. 『日本近代文学館』 第134号 1993年7月15日

収録：随想〈原稿を燃す話（阿川弘之）〉／蔵書の中から〈消滅の運命（阿部良雄）〉／閲覧室〈今に生き続ける戦中の詩誌（牟礼慶子）〉／文庫・記念館〈関西大学図書館大阪文芸資料（浦西和彦）〉／館蔵資料紹介〈熱田優子コレクション（尾形明子）〉／館蔵資料から＝作家別〈芥川龍之介（一）〉／短信（玉川薫 槌田満文）／所蔵資料紹介〈大町桂月・菊池寛・高村光太郎・吉田一穂書簡〉

6-135. 『日本近代文学館』 第135号 1993年9月15日

収録：新連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈手製本（吉田知子）〉／蔵書の中から〈あまりにも小さな《出会い》（網淵謙錠）〉／閲覧室〈「セルパン」の謎（長谷川郁夫）〉／文庫・記念館〈大宅壮一文庫（末永勝介）〉／館蔵資料紹介〈兆民著「続一年有半」（井田進也）〉／館蔵資料から＝作家別〈芥川龍之介（二）〉／短信（伊藤和也 井上奈緒）／未発表資料紹介〈内田魯庵・室生犀星・中野重治書簡〉

6-136. 『日本近代文学館』 第136号 1993年11月15日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈文学賞審査の季節に（大城立裕）〉／蔵書の中から〈大正の文士、夭逝哀れ（宇佐美承）〉／閲覧室〈金木犀の香る部屋で（木下長宏）〉／文庫・記念館〈イプセン研究センターと博物館（毛利三彌）〉／館蔵資料紹介〈小田切進文庫のこと（保昌正夫）〉／館蔵資料から＝作家別〈芥川龍之介（三）〉／短信（鈴木貞美 海老井英次）／未発表資料紹介〈島崎藤村・室生犀星・中野重治書簡〉

6-137. 『日本近代文学館』 第137号 1994年1月1日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈メディアの功罪（夏樹静子）〉／蔵書の中から〈ぼろぼろ「源氏物語」（馬場あき子）〉／閲覧室〈川路柳虹「塵溜」をめぐって（野口存彌）〉／文庫・記念館〈文化遺産としての明治新聞雑誌文庫（三谷太一郎）〉／館蔵資料紹介〈母の手紙（森藤子）〉／館蔵資料から＝作家別〈芥川龍之介（四）〉／短信（福田百合子 安宅峰子）／未発表資料紹介〈藤村・直哉書簡〉

6-138. 『日本近代文学館』 第 138 号 1994 年 3 月 15 日

収録：連載〈近代文学館の夢（中村真一郎）〉／随想〈これからの伝記（山田風太郎）〉
／文学館の野口さん（保昌正夫）／蔵書の中から〈祖父の遺しもの（平出隆）〉／文庫・
記念館〈ヘミングウェイ博物館（今村楯夫）〉／館蔵資料紹介〈紅葉と信綱（岡保生）〉
／維持会入会のお願い／維持会員のひとこと（八氏）／館蔵資料から＝作家別〈芥川
龍之介（五）〉／短信（小山内時雄 中野和夫）／未発表資料紹介〈与謝野晶子書簡〉

6-139. 『日本近代文学館』 第 139 号 1994 年 5 月 15 日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈僻村学校のこと（高橋治）〉
／蔵書の中から〈私の聖域（安西篤子）〉／閲覧室〈朱耀翰と川路柳虹（任展慧）〉／
文庫・記念館〈大阪国際児童文学館の春（斎藤寿始子）〉／館蔵資料紹介〈岡本一平の
手紙（清水勲）〉／館蔵資料から＝作家別〈夏目漱石（一）〉／短信（新倉俊一）／未
発表資料紹介〈与謝野晶子・志賀直哉書簡〉

6-140. 『日本近代文学館』 第 140 号 1994 年 7 月 15 日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈或る舞いのこと（赤江瀑）〉
／館の未来のために（中村稔）／文庫・記念館〈マン記念館（北杜夫）〉／蔵書の中か
ら〈「ジョイ・ストリート」との出会い（神宮輝夫）〉／閲覧室〈雑誌「青年文」との
語り（畑有三）〉／館蔵資料紹介〈最後の写真（伊吹和子）〉／館蔵資料から＝作家
別〈夏目漱石（二）〉／短信（青木芳男 鈴木ななえ）／未発表資料紹介〈尾崎紅葉、
大杉栄、河東碧梧桐、与謝野晶子書簡〉

6-141. 『日本近代文学館』 第 141 号 1994 年 9 月 15 日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈アメリカのマルチメディア出
版（紀田順一郎）〉／蔵書の中から〈断章二つ（大西巨人）〉／閲覧室〈平戸廉吉のこ
と（羽鳥徹哉）〉／文庫・記念館〈お茶の水図書館（高森二夫）〉／館蔵資料紹介〈「赤
い鳥」作家別原稿料ランク（宮崎芳彦）〉／館蔵資料から＝作家別〈夏目漱石（三）〉
／短信（倉和男 森德行）／未発表資料紹介〈尾崎紅葉・岩野泡鳴・与謝野晶子書簡〉

6-142. 『日本近代文学館』 第 142 号 1994 年 11 月 15 日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈牧水と独歩（佐々木幸綱）〉
／蔵書の中から〈三島由紀夫の夏の光（鹿島茂）〉／閲覧室〈岡本綺堂と林不忘（浅子
逸男）〉／文庫・記念館〈三康図書館（永濱薩男）〉／館蔵資料紹介〈広津和郎の日記
について（橋本迪夫）〉／館蔵資料から＝作家別〈夏目漱石（四）〉／短信（松本徹）
／未発表資料紹介〈尾崎紅葉・与謝野晶子・山本宣治書簡〉

6-143. 『日本近代文学館』 第 143 号 1995 年 1 月 1 日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈約束（村松友視）〉／蔵書の中
から〈なつかしきもの二、三（佐藤泰正）〉／閲覧室〈玫瑰珠結社（小島千加子）〉
／文庫・記念館〈陳輝と平西烈士記念館（秋吉久紀夫）〉／館蔵資料紹介〈「蜂起」よ

せがき帳（菅井幸雄）／館蔵資料から＝作家別〈島崎藤村（一）〉／短信（守分勉 新藤純孝）／未発表資料紹介〈尾崎紅葉・宇野浩二書簡〉

6-144. 『日本近代文学館』 第144号 1995年3月15日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／「声のライブラリー」（中村稔）／随想〈走りすぎるものととどまるもの（石井桃子）〉／蔵書の中から〈“攘夷”に燃えた国（工藤幸雄）〉／閲覧室〈「文藝倶楽部」のことなど（林廣親）〉／文庫・記念館〈折口博士記念古代研究所（海老沢泰久）〉／館蔵資料紹介〈田岡典夫「映画日記」（鹿野政直）〉／館蔵資料から＝作家別〈島崎藤村（二）〉／短信（庄司衛 三橋透）／未発表資料紹介〈宇野浩二書簡〉

6-145. 『日本近代文学館』 第145号 1995年5月15日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈謙譲のこころ（稲畑汀子）／蔵書の中から〈寄せ書きのある『ハムレット』（河竹登志夫）〉／閲覧室〈幻の雑誌「333」（曾根博義）〉／文庫・記念館〈ツヴェターエヴァとナボコフの記念館（沼野充義）〉／マイクロ版『文章倶楽部』（保昌正夫）／館蔵資料紹介〈九九九〉の「出席簿」（松村友視）〉／館蔵資料から＝作家別〈島崎藤村（三）〉／短信（松田智雄 荒川明子）／未発表資料紹介〈成島柳北書簡ほか〉

6-146. 『日本近代文学館』 第146号 1995年7月15日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／声のライブラリー（佐々木幹郎）／協議会が発足して（木原直彦）／随想〈上林暁企画展のこと（大原富枝）〉／福田さんを偲ぶ（紅野敏郎）／蔵書の中から〈石のさゝやき（松山巖）〉／閲覧室〈「閲覧目的」の周辺から（小尾俊人）〉／蔵するところ深く（竹盛天雄）／館蔵資料から＝作家別〈国木田独歩〉／短信（川合千鶴子 佐々木靖章）／未発表資料紹介〈谷崎潤一郎・伊東静雄・結城哀草果・富士正晴書簡〉

6-147. 『日本近代文学館』 第147号 1995年9月15日

収録：連載〈近代文学館への夢（中村真一郎）〉／随想〈柊の垣根（佐伯一麦）〉／蔵書の中から〈幻の白秋からポオまで（中藺栄助）〉／閲覧室〈女性誌から満州国への回路（川崎賢子）〉／文庫・記念館〈広島原爆資料室の収集状況（好村富士彦）〉／館蔵資料から＝作家別〈室生犀星（一）〉／短信（西朗夫 J・シュタルフ）／館蔵資料紹介〈中川一政書簡について（山田幸男）〉／未発表資料紹介〈中川一政書簡、幸徳秋水宛ほか社会文庫書簡〉

6-148. 『日本近代文学館』 第148号 1995年11月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち（中村真一郎）〉／随想〈たばこのこと（河野多恵子）〉／蔵書の中から〈瀧井孝作全集（岡松和夫）〉／閲覧室〈私の提案（郡司勝義）〉／文庫・記念館〈早稲田大学図書館（松下眞也）〉／館蔵資料紹介〈奥平英雄氏寄贈の高村光太郎書について（北川太一）〉／館蔵資料から＝作家別〈室生犀星（二）〉／短信（井

上弘子) / 未発表資料紹介 (平戸廉吉、深尾須磨子、堺利彦、会津八一書簡)

6-149. 『日本近代文学館』 第 149 号 1996 年 1 月 1 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (日韓文学シンポ in 松江 (久間十義)) / 蔵書の中から (わる和刻本のこと (丸谷才一)) / 閲覧室 (津軽の文学者 (長部日出雄)) / 文庫・記念館 (熊本近代文学館 (永畑道子)) / 館蔵資料紹介 (魯迅の自注原稿 (尾崎秀樹)) / 館蔵資料から=作家別 (室生犀星 (三)) / 短信 (A・ドーリン) / 未発表資料紹介 (深尾須磨子・富田碎花・武者小路実篤書簡)

6-150. 『日本近代文学館』 第 150 号 1996 年 3 月 15 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (忘れていた (笙野頼子)) / 蔵書の中から (本と標本 (養老孟司)) / 閲覧室 (二つの総目次 (武藤康史)) / 館蔵資料紹介 (北川民次・村山知義の絵本原画 (上笙一郎)) / 軽視したくない近代秀作一幕劇 (川和孝) / 館蔵資料から=作家別 (太宰治 (一)) / 短信 (井上康明 山根對助) / 未発表資料紹介 (深尾須磨子書簡ほか)

6-151. 『日本近代文学館』 第 151 号 1996 年 5 月 15 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (気になりはじめる (金子兜太)) / 蔵書の中から (『怖るべき子供たち』 (柄折久美子)) / 閲覧室 (中間小説の発生期 (大村彦次郎)) / 文庫・記念館 (富士正晴記念館 (廣重聰)) / 館蔵資料紹介 (石垣綾子日記 (本間千枝子)) / 館蔵資料から=作家別 (太宰治 (二)) / 短信 (橘川真一) / 未発表資料紹介 (吉植庄亮、草野心平書簡)

6-152. 『日本近代文学館』 第 152 号 1996 年 7 月 15 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (大きな小事典 (荒川洋治)) / 蔵書の中から (家蔵「大学章句抄」のこと (林望)) / 和巳の原稿についての思い出 (高橋たか子) / 文庫・記念館 (青森県近代文学館 (小山内時雄)) / 安部公房を記念する (V・ヴィンケルヘーフェロヴァー) / 館蔵資料から=作家別 (太宰治 (三)) / 短信 (塩見曠) / 未発表資料紹介 (里見弴書簡)

6-153. 『日本近代文学館』 第 153 号 1996 年 9 月 15 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (ゴッホ再訪 (栗津則雄)) / 蔵書の中から (持たざるの記 (工藤美代子)) / 閲覧室 (「氷島」をめぐる (阿毛久芳)) / 文庫・記念館 (東京都写真美術館 (塚本尚弘)) / 館蔵資料紹介 (飲酒日記 (向井豊昭)) / 館蔵資料から=作家別 (樋口一葉 (一)) / 短信 (鎌田邦義) / 未発表資料紹介 (里見弴書簡)

6-154. 『日本近代文学館』 第 154 号 1996 年 11 月 15 日

収録: 連載 (忘れられた作家たち (中村真一郎)) / 随想 (中国囲碁旅行 (伊藤礼)) / 蔵書の中から (あと、もう一冊 (宇佐美英治)) / 閲覧室 (日本近代作家の朝鮮・満州描写について (オクナー深山信子)) / 文庫・記念館 (中原中也記念館 (福田百合子))

／館蔵資料紹介〈樋口一葉あて書簡(野口碩)〉／館蔵資料から＝作家別〈樋口一葉(二)〉
／短信(保昌正夫 森德行)／未発表資料紹介〈相馬御風、大田洋子書簡〉

6-155. 『日本近代文学館』 第155号 1997年1月1日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／活字と肉筆のあいだ(十川信介)
／随想〈夜食の空腹感(黒岩重吾)〉／蔵書の中から〈柳成龍の「懲毖録」(角田房子)〉
／閲覧室〈窪田空穂の身の上相談(来嶋靖生)〉／文庫・記念館〈宮沢賢治イーハトー
ブ館(原子朗)〉／館蔵資料から＝作家別〈樋口一葉(三)〉／短信(明定義人)／未
発表資料紹介〈魚住折蘆・岡鬼太郎・寺田寅彦書簡〉

6-156. 『日本近代文学館』 第156号 1997年3月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／随想〈ムッとした気分(藤堂志津
子)〉／蔵書の中から〈“功德”の一冊(森川達也)〉／小野十三郎のひそめた思い(寺
島珠雄)／館蔵資料紹介〈岸田国土資料から(原千代海)〉／文庫・記念館〈国文学研
究資料館(北村啓子)〉／館蔵資料から＝作家別〈樋口一葉(四)〉／短信(佐々木央)
／未発表資料紹介〈岡田八千代・田村俊子・吉植庄亮書簡〉

6-157. 『日本近代文学館』 第157号 1997年5月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／随想〈時代の雰囲気(桶谷秀昭)〉
／蔵書の中から〈消えてゆく蛍火(河島英昭)〉／閲覧室〈百年前の雑誌の愛読者にな
る(金井景子)〉／文学館職員研修講座に参加して(鈴木定子 遠山光嗣)／34回目
を迎える夏の文学教室(保昌正夫)／館蔵資料から＝作家別〈萩原朔太郎(一)〉／短
信(糸川英穂)／未発表資料紹介〈岡本一平・深田久弥・唐木順三書簡〉

6-158. 『日本近代文学館』 第158号 1997年7月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／随想〈無口さ(連城三紀彦)〉/
蔵書の中から〈正岡子規忌記念画帖(久保田正文)〉／「明暗」の原稿を見て(末次エ
リザベート)／文庫・記念館〈軽井沢高原文庫(大藤敏行)〉／館蔵資料紹介〈菊田一
夫との出逢い(千秋実)〉／館蔵資料から＝作家別〈萩原朔太郎(二)〉／短信(水沢
勉)／未発表資料紹介〈岡本一平書簡〉

6-159. 『日本近代文学館』 第159号 1997年9月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／随想〈砂漠の中に火を見たか(福
島泰樹)〉／蔵書の中から〈二つのファウスト(矢川澄子)〉／閲覧室〈《雑草原》の夢
の果て(大橋毅彦)〉／文庫・記念館〈フランス国立図書館の変貌(今橋映子)〉／館
蔵資料紹介〈瀬沼茂樹さんのこと(曾根博義)〉／館蔵資料から＝作家別〈萩原朔太郎
(三)〉／短信(中藪英助)／未発表資料紹介〈長谷川時雨書簡〉

6-160. 『日本近代文学館』 第160号 1997年11月15日

収録：連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎)〉／随想〈詩集への礼状(新川和江)〉
／蔵書の中から〈おチビのテレーズ(池内紀)〉／館蔵資料紹介〈作品生成の秘密(石

割透) / 文庫・記念館〈世界の文学館と文学博物館学(中川成美) / 創立 35 周年特集〈作家の蔵書(中村真一郎) / 人と人との出会い(高橋英夫) / 短信(才津芳久山形邦彦) / 未発表資料紹介〈長谷川時雨・塩田良平・神崎清書簡)

6-161. 『日本近代文学館』 第 161 号 1998 年 1 月 1 日

収録: 連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎) / 随想〈図録のミスなど(伊藤信吉) / 蔵書の中から〈昭和の文学的青春(饗庭孝男) / 館蔵資料紹介〈三点の荷風(サイデンステッカー) / 創立 35 周年記念展特集(中村真一郎 江藤淳 小島信夫 後藤明生 佐佐木幸綱 竹西寛子 佐伯彰一 黒井千次 紅野敏郎 中村稔) / 展示解説(中島国彦 石割透 羽鳥徹哉 保昌正夫)

6-162. 『日本近代文学館』 第 162 号 1998 年 3 月 15 日

収録: 連載〈忘れられた作家たち(中村真一郎) / 中村真一郎理事長追悼(加藤周一堀多恵子 中村稔 加賀乙彦 大岡信 黒井千次) / 随想〈東京の大雪(清水義徳) / 蔵書の中から〈探し探した一冊(山崎朋子) / 緩慢な時間とサロンの楽しさ(坪内祐三) / 人に逢う(中山和子) / 短信(田中久徳) / 未発表資料紹介〈田中貢太郎・中西悟堂書簡)

6-163. 『日本近代文学館』 第 163 号 1998 年 5 月 15 日

収録: 連載〈豊かな日本近代文学館の未来を目指して(中村稔) / 随想〈犬(宮尾登美子) / 蔵書の中から〈雑本の魅力(横田順彌) / 「声のライブラリー」によせて / 声の鏡(斎明寺以玖子) / 文庫・記念館〈東京子ども図書館(松岡享子) / 館蔵資料紹介〈加藤道夫資料を見る(川本三郎) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(一) / 短信(稗田正) / 未発表資料紹介〈中西悟堂・野尻抱影書簡)

6-164. 『日本近代文学館』 第 164 号 1998 年 7 月 15 日

収録: 随想〈太宰治の口述筆記(野原一夫) / 蔵書の中から〈「窄き門(日高敏隆) / 閲覧室〈「マヴォ」複製のこと(林淑美) / 文庫・記念館〈北海道立文学館(平原一良) / 館蔵資料紹介〈特異な原稿 横光利一の戦後版「花花」(保昌正夫) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(二) / 短信(小野浩) / 未発表資料紹介〈中西悟堂・野尻抱影書簡)

6-165. 『日本近代文学館』 第 165 号 1998 年 9 月 15 日

収録: 新連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈阿呆な話(小林恭二) / 蔵書の中から〈本は家族(近藤富枝) / 館蔵資料紹介〈片岡鉄兵コレクション追加新資料(曾根博義) / 文庫・記念館〈鎌倉文学館(清水基吉) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(三) / 短信(熊埜御堂義明) / 未発表資料紹介〈尾崎翠・矢田津世子・野尻抱影書簡)

6-166. 『日本近代文学館』 第 166 号 1998 年 11 月 15 日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈図書館の顔(高

井有一) / 蔵書の中から〈「歩行」の載った『文学クオリティ』(稲垣眞美) / 館蔵資料紹介〈「新思潮」(第四次) 関係新資料(関口安義) / 文庫・記念館〈「若草物語」の故郷(谷林眞理子) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(四) / 短信(福島さとみ) / 未発表資料紹介〈矢田津世子・野尻抱影書簡〉

6-167. 『日本近代文学館』 第167号 1999年1月1日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈正月と五季(鷹羽狩行) / 蔵書の中から〈紙袋と段ボール(荻野アンナ) / 館蔵資料紹介〈あの日のまつり(森禮子) / 閲覧室〈ラビリンスをさまよう愉しさ(樋信子) / 文庫・記念館〈土屋文明記念文学館(平俊夫) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(五) / 短信(工藤正義) / 未発表資料紹介〈矢田津世子・宇野浩二・野尻抱影書簡〉

6-168. 『日本近代文学館』 第168号 1999年3月15日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈川端康成の詩と解釈(秦恒平) / 蔵書の中から〈見落された小型文庫本(武田勝彦) / 川端康成生誕百年に寄せて(川端香男里) / 日本近代文学館資料叢書の刊行について(中村稔) / 長与善郎日記(紅野敏郎) / 生田長江・春月日記(曾根博義) / 館蔵資料紹介〈軍宣伝部陸軍嘱託高間芳雄(大井靖夫) / 資料紹介〈川端康成書簡〉

6-169. 『日本近代文学館』 第169号 1999年5月15日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈滝口修造さんに会った夜(三木卓) / 蔵書の中から〈蔵書のない学者(大野晋) / 「太宰治の20世紀」展の編集にあたって(安藤宏) / 文庫・記念館〈復元された太宰治の生家(相馬正一) / 不思議な縁(萩原葉子) / 館蔵資料紹介〈佐多稲子さんの手紙(長谷川啓) / 短信(嘉藤美代子) / 資料紹介〈川端康成・野尻抱影書簡〉

6-170. 『日本近代文学館』 第170号 1999年7月15日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈おろかな魔物は直進する(池澤夏樹) / 蔵書の中から〈偉そうな資料(藤本ひとみ) / 川端康成生誕百年記念展など(羽鳥徹哉) / 時宜を得た企画展(林英澄) / 文庫・記念館〈三浦綾子記念文学館(高野斗志美) / 館蔵資料紹介〈大岡昇平「在りし日の歌」の原稿(吉田瀬生) / 館蔵資料から=作家別〈福地桜痴(六) / 短信(大藤敏行) / 資料紹介〈宇野浩二書簡〉

6-171. 『日本近代文学館』 第171号 1999年9月15日

収録: 連載〈随想—文学館序説のエスキスのために(中村稔) / 随想〈露とこたへて(皆川博子) / 蔵書の中から〈「塔」と「館」と「蔵」(樋口覚) / 「文学者の日記」〈星野天知自叙伝(十川信介) / 「長谷川時雨日記」の意味するもの(池内輝雄) / 深尾須磨子(佐藤健一) / 今年の夏の文学教室(保昌正夫) / 文庫・記念館〈つよい感慨をこめて(佐伯彰一) / 短信(牧野式子) / 資料紹介〈宇野浩二・林芙美子書簡〉

6-172. 『日本近代文学館』 第 172 号 1999 年 11 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／追悼 三人の理事（黒井千次）／随想〈青空・もんしろちょう（別役実）〉／蔵書の中から〈「旅と伝説」合本（松谷みよ子）〉／館蔵資料紹介〈加速する筆の跡（紅野謙介）〉／「文学者の日記」〈文学、美術、音楽、そして……（田澤基久）〉／文庫・記念館〈寺山修司記念館（寺山孝四郎）〉／閲覧室〈『定本横光利一全集補巻』刊行に際して（十重田裕一）〉／短信（井上康明）／資料紹介〈宇野浩二・小栗風葉書簡〉

6-173. 『日本近代文学館』 第 173 号 2000 年 1 月 1 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈看板はもったけれど（大沢在昌）〉／蔵書の中から〈「百扇帖」のこと（窪田般彌）〉／「太陽」CD-ROM 版特集〈「太陽」の異版（青木稔弥）〉／写真たちの構成するタブロー（金子明雄）／「太陽」総目次の新時代性（佐久間保明）／生まれ変わる「太陽」（高橋修）／「太陽」目次欄の肩書（竹松良明）／「太陽」がいっぱい（和田敦彦）／短信（山本知行）／資料紹介〈小栗風葉・野尻抱影書簡〉

6-174. 『日本近代文学館』 第 174 号 2000 年 3 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈乱読耽読（池宮彰一郎）〉／蔵書の中から〈クリヴィッキーが残したもの（逢坂剛）〉／館蔵資料紹介〈宮本百合子とジェンダー（岩淵宏子）〉／「桐の花」再版本の位置（久保忠夫）／文庫・記念館〈ドイツ近代文学資料館（中村朝子）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（七）〉／短信（小山内時雄 紅野敏郎）／資料紹介〈志賀直哉・高見順書簡〉

6-175. 『日本近代文学館』 第 175 号 2000 年 5 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈三十年（坂上弘）〉／蔵書の中から〈戯曲との出会い（大笹吉雄）〉／閲覧室〈最近の台湾文学研究（河原功）〉／文庫・記念館〈彩の国 文学の彩り（中島和夫）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（八）〉／維持会員から（大村彦次郎 太田登 生田美秋）／短信（満田郁夫）／資料紹介〈高見順書簡（二）〉

6-176. 『日本近代文学館』 第 176 号 2000 年 7 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈河盛好蔵における文学者の現場への執着（清岡卓行）〉／蔵書の中から〈全共闘世代に貸してある（亀井秀雄）〉／館蔵資料紹介〈深尾須磨子を偲ぶ（十返千鶴子）〉／文庫・記念館〈草野心平記念文学館（栗津則雄）〉／短信（荒川登 保昌正夫）／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（九）〉／資料紹介〈高見順書簡（三）〉

6-177. 『日本近代文学館』 第 177 号 2000 年 9 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈八月雑感（林京子）〉／蔵書の中から〈二つの夏子もの（藤井淑禎）〉／館蔵資料紹介〈『衛生新篇』

の訂正稿（宗像和重）／文庫・記念館〈松本清張記念館（藤井康栄）〉 短信（青山和人）／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（十）〉／資料紹介〈高見順書簡（四）〉

6-178. 『日本近代文学館』 第 178 号 2000 年 11 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈熱帯雨林のパヴィリオン（野口武彦）〉／蔵書の中から〈私の宝物（牛山百合子）〉／本文を作るといふこと（山田俊治）／「文学者の日記」〈池辺三山資料集（中丸宣明）〉／文庫・記念館〈立原道造記念館（安藤元雄）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（十一）〉／短信（林淑美）／資料紹介〈高見順・秋子書簡〉

6-179. 『日本近代文学館』 第 179 号 2001 年 1 月 1 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈少しの春（竹西寛子）〉／蔵書の中から〈折口本二、三（藤井貞和）〉／館蔵資料紹介〈「別れたる妻に送る手紙」の書き損じ原稿（石崎等）〉／豊饒なる泉鏡花（佐伯順子） 文庫・記念館〈高知県立文学館（嶋岡晨）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（十二）〉／短信（菅野俊之）／資料紹介〈高見順書簡・安藤一郎宛書簡〉

6-180. 『日本近代文学館』 第 180 号 2001 年 3 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈「作家になりたい症候群」（小池真理子）〉／蔵書の中から〈「詩集」という「蔵書」の条件（小田久郎）〉／館蔵資料紹介〈若林つやと日本浪漫派の人々（堀江朋子）〉／朝鮮へのこだわり（渡辺一民）／文庫・記念館〈阪急学園池田文庫（須田千里）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（十三）〉／資料紹介〈高見順・秋子書簡・安藤一郎宛書簡〉

6-181. 『日本近代文学館』 第 181 号 2001 年 5 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈大阪弁ひとつ（岩阪恵子）〉／蔵書の中から〈尾道の『触背美学』（坪内稔典）〉／館蔵資料紹介〈豌豆はおいしかった（林藍子）〉／モダニズム詩誌の調査（和田博文／文庫・記念館〈虚子記念文学館（稲畑汀子）〉／館蔵資料紹介＝作家別〈福地桜痴（十四）〉／資料紹介〈与謝野晶子・寛書簡〉

6-182. 『日本近代文学館』 第 182 号 2001 年 7 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈武蔵野再訪（海野弘）〉／蔵書の中から〈沖縄への「招待」（澤地久枝）〉／探しもの（村野晃一）／絵の中の文学（宮内淳子）／文庫・記念館〈石田波郷記念館（星野麥丘人）〉／館蔵資料から〈雑誌「東京パック」〉／資料紹介〈与謝野晶子・寛書簡〉

6-183. 『日本近代文学館』 第 183 号 2001 年 9 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈表札ドロボーさまへ（佐岐えりぬ）〉／蔵書の中から〈二冊の短編小説論（青山南）〉／裾野の文学（小田三月）／『下田歌子著作集資料篇』の刊行にあたって（板垣弘子）／文庫・記

念館〈文学館が出来るまで—遠藤周作文学館—（遠藤順子）〉／スイスの有島・ティルダ展に参加して（高山亮二）／資料紹介〈高見順書簡〉

6-184. 『日本近代文学館』 第184号 2001年11月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈空しい自戒（平岡篤頼）〉／蔵書の中から〈弘川での授かりもの（堀場清子）〉／館蔵資料紹介〈野上さんの処女作（宇田健）〉／村山知義とグロス、柳瀬正夢と魯迅（竹内栄美子）／文庫・記念館〈ふくやま文学館（磯貝英夫）〉／館蔵資料から〈雑誌「東京パック」〉／資料紹介〈高見順・秋子〉

6-185. 『日本近代文学館』 第185号 2002年1月1日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈非暴力こそが勇氣（宮内勝典）〉／蔵書の中から〈日夏耿之介コレクション（井村君江）〉／館蔵資料紹介〈絶筆「めし」について（今川英子）〉／青山、志賀家墓所のことなど（町田榮）／文庫・記念館〈爆発空間—岡本太郎記念館（岡本敏子）〉／館蔵資料から〈雑誌「エポック」とその前後〉／資料紹介〈小宮豊隆書簡〉

6-186. 『日本近代文学館』 第186号 2002年3月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈人生はお化けよりもこわい（大岡玲）〉／蔵書の中から〈冬の虹（柳田邦男）〉／館蔵資料紹介〈ロマン・ロランから片山敏彦へ（安川定男）〉／岡本綺堂の処女作／文庫・記念館〈新聞と文学—日本新聞博物館（春原昭彦）〉／館蔵資料から〈吉田一穂、戦時下の絵本〉／短信／資料紹介〈小宮豊隆書簡〉

6-187. 『日本近代文学館』 第187号 2002年5月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／創立四〇周年記念特集〈座談会 文学館四〇年の歩み（紅野敏郎 保昌正夫 曾根博義）〉／文学・青春展／会員名簿

6-188. 『日本近代文学館』 第188号 2002年7月15日

収録：創立四〇周年を迎えて（中村稔）／創立四〇周年記念特集②〈アンケート日本近代文学館の今後に望む（二十六氏）〉／館の歩み（略年表）／『愛の手紙』近代文学の木蔭から（木崎さと子）／東京都近代文学博物館の閉館をめぐって（槌田満文）／資料紹介〈小宮豊隆書簡〉

6-189. 『日本近代文学館』 第189号 2002年9月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／創立四〇周年記念特集〈座談会 文学館の今後の課題（中村稔 黒井千次 十川信介）〉／高橋和巳文庫紹介

6-190. 『日本近代文学館』 第190号 2002年11月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈「山口茂吉日

記」を読む（三枝昂之）／蔵書の中から〈因果な商売（松浦寿輝）／佐多稲子文庫も黒くの刊行に寄せて〈初めてお目に掛かった頃（中野武彦）／日本近代文学館誕生の「神話」と真実（西田勝）／ジュロン抑留所に於けるガリ版新聞・週刊誌（田中眞澄）／詩集『静物』のこと（吉岡陽子）／資料紹介〈小宮豊隆書簡〉

6-191. 『日本近代文学館』 第191号 2003年1月1日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）／随想〈読書に目覚めた頃（藤田宜永）／蔵書の中から〈「劇場」としての本棚（井波律子）／高橋和巳文庫目録の刊行に寄せて〈青春期の同志、高橋和巳（小松左京）／文庫・記念館〈司馬遼太郎記念館の出発（上村洋行）／福永武彦による近代日本小説二十選（清水徹）／館蔵資料紹介＝作家別〈高村光太郎（一）〉／資料紹介〈小宮豊隆・木下利玄書簡〉

6-192. 『日本近代文学館』 第192号 2003年3月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）／保昌正夫常務理事追悼（中村稔 紅野敏郎 中島和夫 槌田満文 竹盛天雄 曾根博義 栗坪良樹 十和田裕一 倉和男）／随想〈シュウカツ（桐野夏生）／蔵書の中から〈本を読むこと 本を持つこと（粕谷一希）／館蔵資料紹介〈谷崎潤一郎「人魚の嘆き」「青塚氏の話」原稿（千葉俊二）／未発表資料紹介〈木下利玄書簡〉

6-193. 『日本近代文学館』 第193号 2003年5月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）／随想〈子どもの詩の魅力（川崎洋）／蔵書の中から〈東洋の満月（青柳いづみこ）／「実事」のディサレー（ロバート キャンベル）／文庫・記念館〈かごしま近代文学館の昨今（石田忠彦）／館蔵資料紹介＝作家別〈高村光太郎（二）〉／駒場の四季〈与謝野寛・晶子展〉／雑誌の遡及入力を終えて／資料紹介〈木下利玄・小栗風葉書簡〉

6-194. 『日本近代文学館』 第194号 2003年7月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）／随想〈ゴルフと小説（小川洋子）／蔵書の中から〈理想の翻訳書（柴田元幸）／知里幸恵展（加藤幸子 小野有五）／館蔵資料紹介〈椿実とその資料（佐藤秀明）／文庫・記念館〈中野重治文庫覚え書（定道明）／館蔵資料紹介＝作家別〈高村光太郎（三）〉／未発表資料紹介〈小栗風葉書簡〉

6-195. 『日本近代文学館』 第195号 2003年9月15日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）／随想〈人生の出口（梁石日）／蔵書の中から〈たましいを運ぶ舟（道浦母都子）／「文学者の手紙」刊行に寄せて〈刊行のことば（中村稔）／高見順の手紙（宮内淳子）／文庫・記念館〈埴谷島尾記念文学資料館のこれから（若松丈太郎）／館蔵資料紹介〈織田作之助「俗臭」「可能性の文学」など（稲垣眞美）／雑誌「近代文学」が終わるころ（田代裕）／資料紹介〈小栗風葉・小山内薫・滝田樗陰書簡〉

6-196. 『日本近代文学館』 第 196 号 2003 年 11 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈字を書く（阿木津英）〉／蔵書の中から〈小さなアンソロジー（亀井俊介）〉／「文学者の日記」完結に寄せて〈意外なことの発見（色川大吉）〉／近代文学と木版口絵（山田奈々子）／文庫・記念館〈お礼と一葉と記念館（原田依子）〉／館蔵資料紹介〈父の残したペン 徳永直文庫に寄せて（徳永街子）〉／資料紹介〈与謝野晶子書簡、小田嶽夫宛青野秀吉・浅見淵書簡〉

6-197. 『日本近代文学館』 第 197 号 2004 年 1 月 1 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈幻の「少年探偵団・海外篇」（田中芳樹）〉／蔵書の中から〈開かれたオンラインの辞典と文学全集（松本侑子）〉／「愛の手紙 友人・師弟篇」を読んで（皆川博子）／能成のアヌンチヤタ、操のフラミア（須田喜代次）／文庫・記念館〈古河文学館のこと（粕谷栄市）〉／館蔵資料紹介〈水野葉舟資料（大塚英志）〉／短信（横山むつみ）／資料紹介〈小田嶽夫宛諸家書簡〉

6-198. 『日本近代文学館』 第 198 号 2004 年 3 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／藤木宏幸の存在感（紅野敏郎）／随想〈固有性についてのメモ（財部鳥子）〉／蔵書の中から〈心中本（佐藤賢一）〉／「文学者の手紙」刊行に寄せて〈「白樺」傍流の重さ（紅野敏郎）〉／久保田米斎への新たな光（今橋映子）／特別研究員となって〈三ヶ月の研究（ラウラ・テストヴェルデ）〉／資料紹介〈小田嶽夫宛井上友一郎・井伏鱒二書簡〉

6-199. 『日本近代文学館』 第 199 号 2004 年 5 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈O 先生のこと（藤野千夜）〉／蔵書の中から〈本の行方（辻佐保子）〉／「漱石原稿『道草』」刊行に寄せて〈自筆原稿で読むスリリングな体験（中島国彦）〉／嵯峨の祇王寺とパウエル中井木菟麿の夢（中村悦子）／文庫・記念館〈大阪ゆかりの作家・三人の文庫（森田俊雄）〉／館蔵資料紹介〈豊田正子の寄贈資料（中谷いずみ）〉／短信（山口泰子）／資料紹介〈小田嶽夫宛諸家書簡〉

6-200. 『日本近代文学館』 第 200 号 2004 年 7 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈小説の原石（増田みず子）〉／蔵書の中から〈初心の読書（野崎歓）〉／泉鏡花作「辰巳巷談」の上演（吉田昌志）／文庫・記念館〈徳島県立文学書道館のこと（板東哲夫）〉／「太宰治文庫」の原稿調査を終えて（安藤宏）／書庫の片隅で〈「道化の華」と「即興詩人」〉／資料紹介〈小田嶽夫宛諸家書簡〉

6-201. 『日本近代文学館』 第 201 号 2004 年 9 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために（中村稔）〉／随想〈言葉の友釣り

(堀江敏幸) / サイトで作家のデータベースを作ろう (張競) / 没後百年記念チェー
ホフ展について (川端香男里) / チェホフあれこれ (別役実) / 文庫・記念館〈動態
としての仙台文学館 (佐藤通雅) / 館蔵資料紹介〈大町桂月と一枚の写真 (中沢けい) /
／短信 (国正道夫) / 資料紹介〈小田嶽夫宛諸家書簡 / 美土路昌一宛諸家書簡)

6-202. 『日本近代文学館』 第 202 号 2004 年 11 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために (中村稔) / 随想〈不感症 (乃南
アサ) / 蔵書の中から〈背文字のない書物 (中野三敏) / 没後百年記念チェーホフ
展を終えて (柳富子) / 使える！ 文庫資料について (川崎賢子) / 文庫・記念館〈中
国現代文学館 (傳光明) / 館蔵資料紹介〈戦中・戦後の芥川比呂志宛書簡 / 素晴ら
しい一日 (杉原悦子) / 資料紹介〈美土路昌一宛諸家書簡 / 若月紫蘭宛書簡)

6-203. 『日本近代文学館』 第 203 号 2005 年 1 月 1 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために (中村稔) / 随想〈残るものは何？
(佐藤愛子) / 蔵書の中から〈四十年前の「桜の園」 (北村薫) / 婦人雑誌から見え
てくるもの (与那覇恵子) / 文庫・記念館〈世田谷文学館 (生田美秋) / 漱石と一度
だけ会った父 (美土路脩一) / 館蔵資料紹介〈佐佐木信綱宛片山広子書簡について (吉
川豊子) / 資料紹介〈美土路昌一宛諸家書簡 / 若月紫蘭宛諸家書簡)

6-204. 『日本近代文学館』 第 204 号 2005 年 3 月 15 日

収録：連載〈随想—文学館序説のエスキスのために (中村稔) / 随想〈児玉隆也が書
きたかった「メルヘン」 (関川夏央) / 蔵書の中から〈松山文雄著「ハンセンエホン
誰のために」 (上笙一郎) / 「文藝倶楽部」を繰る楽しみ (紅野敏郎) / 文庫・記念
館〈川内まごころ文学館 (山内静夫) / 館蔵資料紹介〈「同居人荷風」の贈りもの (竹
盛天雄) / 写真データの公開にあたって / 短信 (志賀紀雄) / 資料紹介〈若月紫蘭、
小田嶽夫宛諸家書簡)

記念誌 (開館)

1. 『日本近代文学館 設立の趣意』 1963 年 4 月 7 日 編集・発行：財団法人日本近代
文学館

収録：明日の日本文化への本質的な貢献を (高見順) / ほぎこと (佐佐木信綱) / こん
どの機会に (谷崎潤一郎) / 私の希望 (久松潜一) / 次の時代のために (本間久雄) /
広く各界の援助を (阿部真之助) / 作家が受けた迫害の資料をも (石川達三) / 子孫の
ために (源氏鶏太) / 鏡花由縁の宿 (貝塚茂樹) / 書物を大切にしよう (村上元三) /
屑本図書館 (福原麟太郎) / 私の生原稿 (丹羽文雄) / 年来の渴望 (窪田空穂) / 文学
館 (大佛次郎) / 詞華集「神来」に就いて (矢野峰人) / 偶感 (三好達治) / 近代文学
館への期待 (中島健蔵) / ひとこと (広津和郎) / 感想 (里見弴) / 望むこと二つ (平
林たい子) / 文学史のために (成瀬正勝) / 弦斎の“日の出島” (久保田万太郎) / 一

つの記憶（芹沢光治良）／江湖の理解と協力とを（舟橋聖一）／日本の誇り（川端康成）
／多くの人の力によって（伊藤整）／経過報告・事業計画（小田切進）

【31】俳句文学館

目録

1. 『俳句文学館蔵書目録』

1-1. 『俳句文学館蔵書目録』 1978年1月10日 編集：沢木欣一 発行：草間時彦
収録：凡例／単行本の部／合同句集の部／全集の部／歳時記の部／辞典の部／あとがき／俳句文学館ご案内

1-2. 『俳句文学館蔵書目録 追補』 1980年10月5日 編集：村山古郷 発行：草間時彦

収録：凡例／単行本の部／合同句集の部／全集の部／歳時記の部／辞典の部／外国俳書の部／あとがき／俳句文学館ご案内

1-3. 『俳句文学館蔵書目録 3』 1983年12月1日 編集：村沢夏風 発行：草間時彦

収録：凡例／単行本の部／合同句集の部／全集の部／歳時記の部／辞典の部／外国俳書の部／俳句文学館ご案内

1-4. 『俳句文学館蔵書目録 4』 1988年4月20日 編集：村沢夏風 発行：草間時彦

収録：凡例／単行本の部／合同句集の部／全集の部／歳時記の部／辞典の部／外国俳書の部／俳句文学館ご案内

1-5. 『俳句文学館蔵書目録 外国語俳書編』 2003年6月20日 編集：俳人協会国際部 発行：社団法人俳人協会

収録：凡例／英語書目：著者のアルファベット順／英語書目：書名のアルファベット順／諸外国語書目（除く英語・中国語）：著者のアルファベット順／諸外国語書目（除く英語・中国語）：書名のアルファベット順／中国語書目：著者のアルファベット順／中国語書目：書名のアルファベット順／外国語雑誌／奥付

2. 『俳句文学館俳誌目録』

2-1. 『俳句文学館俳誌目録 昭和53年7月1日現在』 1978年11月10日 編集：岡田日郎／鈴木忠太 発行：社団法人俳人協会 目次無し

2-2. 『俳句文学館俳誌目録 1984年版』 1985年5月10日 編集：村沢夏風 発行：社団法人俳人協会 目次無し

2-3. 『俳句文学館俳誌目録 1989年版』 1990年9月15日 編集：岡田日郎／鈴木

忠太 発行：社団法人俳人協会 目次無し

紀要

1. 『俳句文学館紀要』

1-1. 『俳句文学館紀要』 第1号 1980年9月30日 編者：沢木欣一 発行：社団法人俳人協会

収録：まえがき／子規と拓川（室岡和子）／宮城野の露一瀾水と奥羽百文会一（橋田憲明）／静岡新俳句黎明史（田中あきら）／芭蕉と明治の虚子（丹羽康碩）／子規・虚子その明暗（松村幸一）／『評釈』のなかの秋桜子と素十（亀井新一）／大須賀乙字が名和三幹竹に送った手紙（村山古郷）

1-2. 『俳句文学館紀要』 第2号 1982年9月1日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会

収録：子規・虚子の日本美 ——天然写生——（松井利彦）／正岡子規の俳句開眼への過程（和田克司）／「子規子の死」とその前後（橋田憲明）／碧梧桐と虚子 ——「連句論」をめぐる——（栗田靖）／俳体詩「尼」評釈（小室善弘）／村上鬼城の世界 ——鬼城俳句にあらわれたる月——（松本旭）／渡辺水巴研究の一視点 ——様式美とその超克——（檜野子草）／長谷川素逝の「開眼」（豊田都峰）／運座考 ——句会の発生とその歴史——（村山和夫）／アメリカの小学校読本に現われた俳句（佐藤和夫）／新資料紹介（オランダ・フローニンゲン大学音声学研究所の俳句翻訳／碧梧桐・月斗の書簡）／あとがき（香西照雄）

1-3. 『俳句文学館紀要』 第3号 1984年6月1日 編者：香西照雄 発行：宮下翠舟 発行所：社団法人俳人協会

収録：内藤鳴雪の生涯 ——子規との関係にふれて——（畠山淳）／日本派俳句運動の信濃への伝播の上京 ——松声会概況——（宮坂静生）／「アカネ」の俳句活動（室岡和子）／横浜時代の前田善羅（飯島晴子）／渡辺水巴と久保田万太郎（檜野子草）／川端茅舎と小野房子 ——逝く秋や茅舎浄土を守る一人 房子（赤坂六郎）／評伝「楠目橙黄子」（松本澄江）／久保栄の俳句（西田もつぐ）／林火研究序論 ——晩年の特質について——（関森勝夫）／ドイツ語圏における俳句受容 ——おもに西ドイツを中心として——（加藤慶二）／執筆者略歴／あとがき（香西照雄）

1-4. 『俳句文学館紀要』 第4号 1986年7月10日 編者：香西照雄 発行：社団法人俳人協会

収録：尾崎紅葉の俳句 ——秋聲會と子規——（小瀬千恵子）／鈴木三重吉と漱石 ——その俳句的性格——（藤田真木子）／石井露月と安藤和風 ——秋田地方俳壇の一断面——（千葉三郎）／大須賀乙字と斎藤茂吉 ——写生説を中心に——（宇都木水晶花）／秋元不死男の俳論 ——「俳句もの説」を中心に——（庄中健吉）／草田男

- と原爆（林昌華）／ブラジルの俳諧（増田秀一）／新資料紹介〈茅舎遺品資料について（岩下鱧）／高濱虚子未発表書簡（松井利彦）〉／執筆者略歴／あとがき（香西照雄）
- 1-5. 『俳句文学館紀要』 第5号 1988年8月20日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会
- 収録：特別寄稿 芭蕉の句と杜甫の詩（李芒／訳・鈴木義昭）／『寒水落木』一面（松村幸一）／阪本四方太（室岡和子）／更に高く深きもの——『普羅句集』の作品（阿部誠文）／茅舎のことば（岩下鱧）／『旅愁』における日本的なもの——横光利一の俳句観（西田玄）／戦後の国語教科書に見られる俳句の変遷（柴田奈美）／季節感の東と西（須原和男）／フランスへ俳句はどのようにデビューしたか——ポール・ルイ・クーシューの翻訳を中心に（夏石番矢）／執筆者略歴／あとがき（村田脩）
- 1-6. 『俳句文学館紀要』 第6号 1990年10月20日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会
- 収録：特別寄稿 漢詩・俳句・漢俳（朱實）／内藤鳴雪の半生（松井幸子）／松瀬青々を再評価する（堀古蝶）／三高俳句会と虚子・三重吉・草城（藤田真木子）／国語教科書に対する虚子の発言（柴田奈美）／太宰文学と俳句（槍田良枝）／ドイツ語俳句—最近状況の小報告（坂西八郎）／フランスにおける俳句の容変（田中敦子）／フランスの俳句の簡単な概説（パトリック・ブランシュ／訳・山中美枝子）／芝不器男と関係諸俳誌（細井啓司）／執筆者略歴／あとがき（村田脩）
- 1-7. 『俳句文学館紀要』 第7号 1992年9月1日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会
- 収録：「季題」「季語」の発生について（筑紫磐井）／漱石と子規——『夢十夜』の「第六夜」を中心に——（柴田奈美）／俳句、もうひとつの近代——草田男と茅舎——（小室善弘）／草田男は逝くの虚と実と（有富光英）／リルケと俳句（柴田依子）／執筆者略歴／あとがき（村田脩）
- 1-8. 『俳句文学館紀要』 第8号 1994年8月1日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会
- 収録：伝統的季題論の探求——昭和十年代季題研究の体系化と吟味——（筑紫磐井）／高濱虚子の俳論にみる多重表現（阿部誠文）／初心時代の小沢青柚子——その短歌から俳句への軌跡——（細井啓司）／鈴木花簑を支えた永井賓水の俳句生涯（伊藤敬子）／村上「渚の会」と種田山頭火の来訪（長谷川耿子）／市川一男の口語俳句（室岡和子）／くれなゐの座布団——続石橋秀野の初期俳句——（西田もとつぐ）／新資料紹介〈河東碧梧桐書簡（栗田靖）〉／海外編〈ルーマニアのハイク（イオン・コドレスク／加藤耕子訳）／ブラジルにおけるハイカイの近況（増田秀一）／俳句の翻訳に就て——もう一人の子規——（松井貴子）〉／執筆者略歴／あとがき（村田脩）
- 1-9. 『俳句文学館紀要』 第9号 1996年10月20日 編者：村田脩 発行：社団法人

人俳人協会

収録：明治七年・太陽暦歳時記の誕生（筑紫磐井）／キメラの国の俳句 中国東北部（旧満州国）俳句史序説（西田もとつぐ）／『ホトトギス』と嶋田青峰（細井啓司）／水原秋櫻子の「文藝上の眞」（七田谷まりうす）／『石楠』の人達—その句風とサンボリズムの詩—（阿部弘子）／虚子と深川正一郎（望月稔）／海外編〈イタリアの俳句／H・ハミッチュによる俳句の翻訳と創作 ドイツ語俳句への一つの提言（尾関英正）／ブラジルにおけるハイカイの季語（増田秀一）〉／執筆者略歴／あとがき（村田脩）

1-10. 『俳句文学館紀要』 第10号 1998年11月1日 編者：村田脩 発行：社団法人俳人協会

収録：季感・季題・季語 一大須賀乙字説と山本健吉説を中心に—（宇都木水晶花）／季語の成立過程とその意義 —近代俳句に至るまで—（吉開さつき）／長塚節の俳句 —節の写生歌「秋冬雑詠」に対する碧梧桐批評との関係において—（戸垣東人）／陸軍幼年学校における俳句教育（執木龍）／霧晴れて—天逝の俳人飛鳥田=無公—（山本つぼみ）／欧露抑留句集『大枯野』について（阿部誠文）／昭和医専の水原秋櫻子（守屋昭俊）／『葛飾』の序文 —秋櫻子の俳句の原点—（風間圭）／海外編〈ドイツ人学生の俳句体験（アニカ・ライヒ／佐藤和夫訳）／ロラン・バルトと俳句（柳田寛）〉／執筆者略歴／あとがき（村田脩）

1-11. 『俳句文学館紀要』 第11号 2000年10月15日 編者：今瀬剛一 発行：社団法人俳人協会

収録：英語ハイク論考（星野恒彦）／子規の絶筆——糸瓜三句について——（柴田奈美）／子規没後の「ホトトギス」と中村不折（松井貴子）／漱石の『草枕』は蕪村俳諧の類作なのか ——森本哲郎の推論に反論する——（秋山敬）／秋櫻子文学の萌芽——句文集『南風』の示唆するもの——（風間圭）／加藤楸邨三部作「寒雷」「颱風眼」「穂高」の意義（岡崎桂子）／占魚俳句の色彩（茂木連葉子）／俳句の読解指導——高等学校の教室現場から——（依田善郎）／言葉への意識を高める「歳時記作り」「の実践研究 ——単元「五年一組版・歳時記を作ろう」——（本澤淳子）／執筆者略歴／あとがき（今瀬剛一）

1-12. 『俳句文学館紀要』 第12号 2002年10月1日 編者：今瀬剛一 発行：社団法人俳人協会

収録：季語「山笑ふ」の初出と典拠について（安田充年）／「筑波山縁起」考——秋櫻子にとって連作とは何か——（風間圭）／杉田久女と筑紫——『万葉集』および紀紀の伝承を中心に（坂本宮尾）／吉田一穂における詩と俳句の問題 ——白鳥・現極論・芭蕉（吉田裕）／占魚俳句の構図と抒情の系譜（茂木連葉子）／戦時中の小学校における俳句教育（執木龍）／現代ギリシャ俳句考察 ——ホメロス、サッフォーと

芭蕉の出会い——（石田啓）／未完成作品としてのスケッチ ——写生との融合と解離（松井貴子）／執筆者略歴／『俳句文学館紀要』詩筆要項／あとがき（今瀬剛一）

1-13. 『俳句文学館紀要』 第13号 2004年10月1日 編者：今瀬剛一 発行：社団法人俳人協会

収録：子規と文明の利器「汽車」の素材の新しさ（柴田奈美）／前田普羅の横浜時代の懊悩（金谷洋次）／秋櫻子の王朝物とその方法 —芥川龍之介との比較から—（風間圭）／阿波野青畝論 —音を見た俳人—（浅田光喜）／「俳句は文学ではない」の一考察 —句集『鶴の眼』の周辺—（岡崎桂子）／季語「治鬻酒」の典拠と現代的意味について（太田文萌）／【新資料紹介】〈「三千里」旅中の碧梧桐書簡三通 —浅虫・根室・旭川—（栗田やすし）／クーシュー来日百年 —フランスへの俳句紹介者の軌跡—（柴田依子）／執筆者略歴／『俳句文学館紀要』執筆要項／あとがき（今瀬剛一）

研究誌（シリーズ）

1. 『吟行案内シリーズ』

1-1. 『大和吟行案内』 1987年9月30日 著者代表：森田峠 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

1-2. 『京都吟行案内 吟行案内シリーズ (2)』 1987年7月25日 著者代表：桂樟蹊子 編集：森田峠 発行：社団法人俳人協会

1-3. 『武蔵野吟行案内 吟行案内シリーズ (3)』 1989年7月30日 著者代表：山崎ひさを 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

1-4. 『大阪吟行案内 吟行案内シリーズ (4)』 1991年1月15日（1995年9月10日増補改訂版） 著者代表：茨木和生 編集：後藤比奈夫 発行：社団法人俳人協会

1-5. 『東京吟行案内 吟行案内シリーズ (5)』 1991年10月1日 著者代表：山崎ひさを 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

1-6. 『秩父武蔵吟行案内 吟行案内シリーズ (6)』 1992年1月15日 著者代表：岡田日郎 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

1-7. 『東海吟行案内 吟行案内シリーズ (7)』 1991年12月20日（1993年4月30日増補改訂版） 著者代表：村上冬燕 発行：社団法人俳人協会

1-8. 『横浜・川崎吟行案内 吟行案内シリーズ (8)』 1992年9月10日 著者代表：中戸川朝人 発行：社団法人俳人協会

1-9. 『奥多摩・甲斐路吟行案内 吟行案内シリーズ (9)』 1992年9月30日 著者代表：椎橋清翠／小島千架子 発行：社団法人俳人協会

1-10. 『兵庫吟行案内 吟行案内シリーズ (10)』 1993年5月5日（1997年12月5日増補改訂版） 著者代表：江川虹村 編集：後藤比奈夫 発行：社団法人俳人協会

- 1-11. 『湘南鎌倉吟行案内 吟行案内シリーズ (11)』 1993年7月10日 (1998年6月1日改訂第二版) 著者代表：草間時彦 発行：社団法人俳人協会
- 1-12. 『芭蕉吟行案内 吟行案内シリーズ (12)』 1993年10月12日 著者代表：丸山しげる 発行：社団法人俳人協会
- 1-13. 『房総吟行案内 吟行案内シリーズ (13)』 1994年4月15日 著者代表：伊藤白潮 発行：社団法人俳人協会
- 1-14. 『越佐吟行案内 吟行案内シリーズ (14)』 1996年4月25日 著者代表：板津堯 発行：社団法人俳人協会
- 1-15. 『茨城吟行案内 吟行案内シリーズ (15)』 1997年1月15日 著者代表：神原栄二 発行：社団法人俳人協会
- 1-16. 『小田急沿線吟行案内 吟行案内シリーズ (16)』 1999年3月20日 著者代表：山崎ひさを 編集：杉森与志生 発行：社団法人俳人協会
- 1-17. 『栃木吟行案内 吟行案内シリーズ (17)』 1999年7月10日 著者代表：水沼三郎 発行：社団法人俳人協会
- 1-18. 『若丹吟行案内 吟行案内シリーズ (18)』 1999年8月5日 著者代表：浜明史 編集：森田峠 発行：社団法人俳人協会
- 1-19. 『南九州吟行案内 吟行案内シリーズ (19)』 2001年1月31日 著者代表：大岳水一路／橋本草郎 発行：社団法人俳人協会
- 1-20. 『加賀・能登吟行案内 吟行案内シリーズ (20)』 2001年9月25日 著者代表：泉紫像 発行：社団法人俳人協会
- 1-21. 『伊豆吟行案内 吟行案内シリーズ (21)』 2002年5月20日 著者代表：園部雨汀 編集：里川水章 発行：社団法人俳人協会
- 1-22. 『近江吟行案内 吟行案内シリーズ (22)』 2002年8月30日 著者代表：相良哀楽 編集：岩城久治 発行：社団法人俳人協会
- 1-23. 『三重吟行案内 吟行案内シリーズ (23)』 2003年8月31日 著者代表：宮田正和 編集：石井いさお 発行：社団法人俳人協会
- 1-24. 『愛知吟行案内 吟行案内シリーズ (24)』 2003年9月30日 著者代表：塚腰杜尚 編集：塚腰杜尚 発行：社団法人俳人協会
- 1-25. 『紀の国吟行案内 吟行案内シリーズ (25)』 2003年12月20日 著者代表：茨木和生 編集：茨木和生 発行：社団法人俳人協会
- 1-26. 『岩手吟行案内 吟行案内シリーズ (26)』 2004年8月30日 著者代表：菅原多つを 編集：工藤節朗 発行：社団法人俳人協会
- 1-27. 『広島吟行案内 吟行案内シリーズ (27)』 2004年10月30日 著者代表：林徹 編集：林徹 発行：社団法人俳人協会

研究誌

1. 『俳句への一步 ～俳句指導の方法～』 1997年7月1日 編集：夏季指導講座実行委員会 発行：社団法人俳人協会

収録：はじめに（松崎鉄之介）／第一章 俳句とは（序にかえて）／第二章 俳諧・俳句の歴史〈一、近世（俳諧史）／二、近代（俳句史）〉／第三章 俳句の約束〈一、定型詩／二、季節・季感・季語〉／第四章 何をどう詠むか〈一、俳句の素材〔（一）写生／（二）題詠（兼題・席題）〕／二、俳句の表現の特徴〔（一）俳句の構造／（二）表現形式〔（1）切字／（2）切れ／（3）二句一章／（4）一句一章／（5）調べ（リズム）〕／（三）表現の方法〔（1）即物／（2）人事〕〕／三、実作の試み〔1 写生（描写）と説明／2 絵画（映像）的／3 臨場感／4 平明／5 比喩／6 圧縮・省略〕〕／第五章 理解と鑑賞〈芭蕉・蕪村・一茶・子規・虚子・鬼城・蛇笏・石鼎・秋櫻子・誓子・素十・草田男・たかし・茅舎・汀女・久女・多佳子・三鬼・楸邨・波郷・万太郎・龍太・澄雄・狩行〉／第六章 指導の実際（指導と句会）〈一、小学校（高学年）／二、中学校／三、高等学校〉／資料〈一、学校図書館に備えたい資料／一、代表句一覧〉／あとがき

2. 『創刊号物語』

- 2-1. 『創刊号物語』 1998年11月25日 編者：社団法人俳人協会 発行：邑書林

収録：序（松崎鉄之介）／ホトトギス／俳星／懸葵／木太刀／層雲／洪柿／雲母／曲水／獅子吼／同人／京鹿子／ぬかご／桔槔／熊野／山茶花／辛夷／九年母／獺祭／漁火／早春／ゆく春／若葉／さいかち／若竹／馬酔木／城／かつらぎ／玉藻／夏草／水明／愛吟／初雁／十和田／儼れ／越船／櫂／糸瓜／其桃／駒草／龍巻／京大俳句／うまや／俳句研究／桐の葉／旅と俳句／暖流／火星／白堊／自鳴鐘／葦牙／鶴／春光／麦秋／虎落笛／みどり／ぬかるみ／青樹／寒雷／壺／冬野／紫／夏爐／ひいらぎ／せゝらぎ／いそな／アカシヤ／きりんそう（現・かまつか）／火屋／花鳥／春燈／濱／ひまわり／笛／あざみ／えぞうに／廻廊／南風／花野／花蜜柑／松笛／みすゞ／風／雪解／穂高／野火／海坂／花藻／麥／柿／慶大俳句／俳句饗宴／萬緑／俳句人／風鈴／あとがき（山崎ひさを）／収録俳誌一覧

- 2-2. 『創刊号物語』 1998年12月20日 編者：社団法人俳人協会 発行：邑書林

収録：序（松崎鉄之介）／雷鳥／季節／林宛／霜林／木の実／風化／夕風／鳴／黒姫／りんどう／貝寄風／天狼／七曜／諷詠／勾玉／連句かつらぎ／樗／三重俳句／原人／砂丘／山火／俳句文学／みそさざい／琴座／雨月／懸巢／白燕／氷海／青玄／氷原帯／裸子／椎の実／東虹／雲海／くらげ／群蜂／やまびこ／緑野／早苗／青門／河鹿／環礁／椿／双葉／みちのく／道標／天街／俳句ポエム／夏炉／運河／好日／菜殻火／夜盗派／赤楊の木／蘇鉄／故郷／うぐいす／ざぼん／春嶺／胡桃／花守／青芝／ひまわり／青／子午線／冬草／岬／河原／藍／恵那／白魚火／草紅葉／流水群／都庁俳句／胴／年輪／ももすもも／枳の芽／未刊現実／河／岬／向日葵／風雪／百花／五葉

秀／風土／松籟／脈／秋／若菜野／れもん／海程／宮城野／さざなみ／あとがき（山崎ひさを）／収録俳誌一覧

2-3. 『創刊号物語』 1999年1月20日 編者：社団法人俳人協会 発行：邑書林

収録：鷹／地平／天籟通信／航標／春耕／小鹿／円／麻／あした／沖／草苑／杉／花曜／圭／蘭／菘／桑海／風濤／蛙／握手／槓／泉／椎／波／琅^ニ／黄鐘／雪／浮野／雪華／岳／狩／星／山曆／木語／笹／山繭／朝／麓／青山／未来図／雉／くるみ／群青／蜻蛉／愛媛若葉／斧／小熊座／風の道／斧／屋根／耕／響／対岸／門／方円／童子／秀／あじろ／港／櫂／萩／幡／天為／藍生／扉／槐／雉子／白炎／遠嶺／氷室／海嶺／季／たかな／草の花／白露／四葩／百鳥／築港／ぐろっけ／銚／天佰／円虹

3. 『学校教育と俳句』

3-1. 『学校教育と俳句』 2001年3月1日 発行：社団法人俳人協会

収録：あいさつ（松崎鉄之介）／はじめに（学校教育における俳句検討委員会）／小学校「教科書俳句」その現状と提言／中学校「教科書俳句」その現状と提言／入試問題における「俳句」の問題点／資料〈一、小・中学校の俳句／二、小・中学校に示す俳人の作品例／三、「資料集」の用語・説明の問題／四、小・中学校の俳句指導実践研究論文／あとがき

3-2. 『学校における俳句指導 一国語教師のアンケートによる実態と考察一』 2001年10月1日 発行：社団法人俳人協会

収録：はじめに／一 どこが教えにくいのか〈1 季語／2 定型（五・七・五）／3 切れ字（や・かな等）／4 区切れ（俳句に初句切れはあるか）／5 内容の理解・解釈／6 鑑賞文の指導／7 実作指導／8 その他〉／二 資料集はどのように利用されているのか／三 教科書の俳句を考える／四 教えにくい句とは／五 教科書に残してほしい句・教えやすい句とは／六 新学習指導要領に基づく新教科書における俳句教材／あとがき

記録集

1. 『俳句を語る』 1996年2月25日 編集：社団法人俳人協会 発行：梅里書房

収録：さくらを語る（大野林火）／虫を語る（阿波野青畝）／軽井沢の夏（中村草田男）／須磨・布引と芭蕉（山口誓子）／創作活動ロングラン（山口青邨）／鎌倉の思い出（星野立子）／俳句と旅（井本農一）／正月を語る（中村汀女）／風土を語る（平畑静塔）／伊賀に帰って（橋本鶏二）／十和田湖を語る（増田手古奈）／来し方を語る（石塚友二）／生きる証しの俳句（山口草堂）／極楽俳句（遠藤梧逸）／正月の縁（及川貞）／師友を語る（福田蓼汀）／句心・写心（岩宮武二）／俳壇史連載秘話（村山古郷）／新春を語る（安住敦）／愛樹と俳句（瀧春一）／自然を語る（右城暮石）／“虹もの”の憶い出（伊藤柏翠）／悠悠対談（山口誓子 阿波野青畝）／来し方を語る（澤木欣一）

／俳句に惚れて九十四歳（門脇白風）／わが俳句人生（西村公鳳）／青春・恋・俳句（鈴木真砂女）／人生・俳句・妻（長谷川双魚）／初期時代を語る（百合山羽公）／五十七歳の喜寿（米田一穂）／高浜家のお正月（高木晴子）／初心時代その他（野呂春眠）／虚子との出会い（木村蕪城）／いのちの俳句（野澤節子）／懐かしき丹波の味（細見綾子）／四人の俳句の師（石井桐陰）／素踊りの心（能村登四郎）／不易流行と軽み（桂樟蹊子）／無欲の俳句人生（桜木俊晃）／パリの四季（小池文子）／関西俳句の芸と余情（後藤比奈夫）／伝統の中の新しさ（林翔）／青森の自然と俳句風土（成田千空）／関西支部創立のころ（森田峠 見市六冬）／愛知支部創立のころ（村上冬燕）／協会三十年の思い出（成瀬櫻桃子 皆川盤水）／さくらを語る（草間時彦）／滝を語る（有馬簫子）／高浜虚子再発見（高木晴子 上野章子 川崎展宏）／文人俳句（清水基吉）／梓月と梨葉（木下子龍）／連衆の俳句（古館曹人）／角川源義を語る（吉田鴻司）／新季語の発掘を（松崎鉄之介）／花鳥諷詠を語る（清崎敏郎）／書と俳句の接点（町春草）／古典に学ぶ（下村梅子）／俳句国際交流（内田園生）／父・桜坡子と「雨月」（大橋敦子）／皆吉爽雨を語る（井沢正江）／英米俳句の現在と未来（佐藤和夫）／事務局長時代（宮下翠舟）／聞き手・司会略歴／あとがき（山崎ひさを）

事典

1. 『入門歳時記』

1-1. 『入門歳時記 角川小辞典 30』 1980年5月20日 監修：大野林火 編集：俳句文学館 発行：角川書店

1-2. 『入門歳時記 ハンディ版』 1984年4月20日 監修：大野林火 変種：俳句文学館 発行：角川書店

2. 『俳人協会会員名鑑』

2-1. 『俳人協会会員名鑑』 1982年12月10日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

2-2. 『俳人協会会員名鑑 平成元年』 1989年10月10日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

2-3. 『俳人協会会員名鑑 平成六年』 1994年12月10日 編集：成瀬櫻桃子 発行：社団法人俳人協会

2-4. 『俳人協会会員名鑑 平成十一年』 1999年1月15日 編集：成瀬櫻桃子 発行：社団法人俳人協会

2-5. 『俳人協会会員名鑑 平成十六年』 2004年10月30日 編集：水原春郎 発行：社団法人俳人協会

作品（シリーズ）

1. 『自註現代俳句シリーズ 第一期』

- 1-1. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (1) 細見綾子集』 1976年10月5日 著者：
細見綾子 発行：社団法人俳人協会
- 1-2. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (2) 鷹羽狩行集』 1976年10月10日 著者：
鷹羽狩行 発行：社団法人俳人協会
- 1-3. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (3) 皆吉爽雨集』 1976年11月20日 著者：
皆吉爽雨 発行：社団法人俳人協会
- 1-4. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (4) 野沢節子集』 1976年11月20日 著者：
野沢節子 発行：社団法人俳人協会
- 1-5. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (5) 平畑静塔集』 1976年12月15日 著者：
平畑静塔 発行：社団法人俳人協会
- 1-6. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (6) 森田峠集』 1976年12月20日 著者：
森田峠 発行：社団法人俳人協会
- 1-7. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (7) 水原秋櫻子集』 1977年2月10日 著
者：水原秋櫻子 発行：社団法人俳人協会
- 1-8. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (8) 阿部みどり集』 1977年2月10日 著
者：阿部みどり 発行：社団法人俳人協会
- 1-9. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (9) 石塚友二集』 1977年4月10日 著者：
石塚友二 発行：社団法人俳人協会
- 1-10. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (10) 橋本鶏二集』 1978年1月10日 著
者：橋本鶏二 発行：社団法人俳人協会
- 1-11. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (11) 富安風生集』 1978年1月10日 著
者：富安風生 発行：社団法人俳人協会
- 1-12. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (12) 山口青邨集』 1979年4月25日 著
者：山口青邨 発行：社団法人俳人協会
- 1-13. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (13) 福田蓼汀集』 1977年9月1日 著者：
福田蓼汀 発行：社団法人俳人協会
- 1-14. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (14) 成瀬櫻桃子集』 1977年7月1日 著
者：成瀬櫻桃子 発行：社団法人俳人協会
- 1-15. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (15) 上田五千石集』 1978年3月10日 著
者：上田五千石 発行：社団法人俳人協会
- 1-16. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (16) 宮津昭彦集』 1977年5月10日 著
者：宮津昭彦 発行：社団法人俳人協会
- 1-17. 『自註現代俳句シリーズ 第一期 (17) 篠田悌二郎集』 1977年8月1日 著

- 者：篠田悌二郎 発行：社団法人俳人協会
- 1-18.『自註現代俳句シリーズ 第一期(18) 後藤比奈夫集』 1977年4月10日 著者：後藤比奈夫 発行：社団法人俳人協会
- 1-19.『自註現代俳句シリーズ 第一期(19) 相生垣瓜人集』 1977年5月10日 著者：相生垣瓜人 発行：社団法人俳人協会
- 1-20.『自註現代俳句シリーズ 第一期(20) 岸風三樓集』 1979年3月1日 著者：岸風三樓 発行：社団法人俳人協会
- 1-21.『自註現代俳句シリーズ 第一期(21) 香西照雄集』 1977年7月1日 著者：香西照雄 発行：社団法人俳人協会
- 1-22.『自註現代俳句シリーズ 第一期(22) 木村蕪城集』 1977年12月1日 著者：木村蕪城 発行：社団法人俳人協会
- 1-23.『自註現代俳句シリーズ 第一期(23) 岸田稚魚集』 1977年8月1日 著者：岸田稚魚 発行：社団法人俳人協会
- 1-24.『自註現代俳句シリーズ 第一期(24) 原裕集』 1978年4月25日 著者：原裕 発行：社団法人俳人協会
- 1-25.『自註現代俳句シリーズ 第一期(25) 百合山羽公集』 1977年10月1日 著者：百合山羽公 発行：社団法人俳人協会
- 1-26.『自註現代俳句シリーズ 第一期(26) 柴田白葉女集』 1977年9月1日 著者：柴田白葉女 発行：社団法人俳人協会
- 1-27.『自註現代俳句シリーズ 第一期(27) 阿波野青畝集』 1977年2月1日 著者：阿波野青畝 発行：社団法人俳人協会
- 1-28.『自註現代俳句シリーズ 第一期(28) 山口誓子集』 1979年6月5日 著者：山口誓子 発行：社団法人俳人協会
- 1-29.『自註現代俳句シリーズ 第一期(29) 大野林火集』 1978年4月25日 著者：大野林火 発行：社団法人俳人協会
- 1-30.『自註現代俳句シリーズ 第一期(30) 清崎敏郎集』 1978年3月10日 著者：清崎敏郎 発行：社団法人俳人協会
- 2.『自註現代俳句シリーズ 第二期』
- 2-1.『自註現代俳句シリーズ 第二期(1) 安住敦集』 1980年4月15日 著者：安住敦 発行：社団法人俳人協会
- 2-2.『自註現代俳句シリーズ 第二期(2) 井沢正江集』 1978年10月20日 著者：井沢正江 発行：社団法人俳人協会
- 2-3.『自註現代俳句シリーズ 第二期(3) 石原舟月集』 1978年12月20日 著者：石原舟月 発行：社団法人俳人協会
- 2-4.『自註現代俳句シリーズ 第二期(4) 右城暮石集』 1979年6月20日 著者：

- 右城暮石 発行：社団法人俳人協会
- 2-5.『自註現代俳句シリーズ 第二期(5) 遠藤梧逸集』 1978年8月20日 著者：
遠藤梧逸 発行：社団法人俳人協会
- 2-6.『自註現代俳句シリーズ 第二期(6) 小原菁々子集』 1979年9月1日 著者：
小原菁々子 発行：社団法人俳人協会
- 2-7.『自註現代俳句シリーズ 第二期(7) 及川貞集』 1978年9月25日 著者：
及川貞 発行：社団法人俳人協会
- 2-8.『自註現代俳句シリーズ 第二期(8) 大橋敦子集』 1979年2月1日 著者：
大橋敦子 発行：社団法人俳人協会
- 2-9.『自註現代俳句シリーズ 第二期(9) 岡田日郎集』 1978年9月25日 著者：
岡田日郎 発行：社団法人俳人協会
- 2-10.『自註現代俳句シリーズ 第二期(10) 岡本眸集』 1979年7月20日 著者：
岡本眸 発行：社団法人俳人協会
- 2-11.『自註現代俳句シリーズ 第二期(11) 加倉井秋を』 1981年12月20日 著
者：加倉井秋を 発行：社団法人俳人協会
- 2-12.『自註現代俳句シリーズ 第二期(12) 桂樟蹊子集』 1978年8月20日 著
者：桂樟蹊子 発行：社団法人俳人協会
- 2-13.『自註現代俳句シリーズ 第二期(13) 亀井糸游集』 1979年3月1日 著者：
亀井糸游 発行：社団法人俳人協会
- 2-14.『自註現代俳句シリーズ 第二期(14) 北野民夫集』 1980年12月1日 著
者：北野民夫 発行：社団法人俳人協会
- 2-15.『自註現代俳句シリーズ 第二期(15) 小林康治集』 1978年10月20日 著
者：小林康治 発行：社団法人俳人協会
- 2-16.『自註現代俳句シリーズ 第二期(16) 斎藤玄集』 1978年7月15日 著者：
斎藤玄 発行：社団法人俳人協会
- 2-17.『自註現代俳句シリーズ 第二期(17) 沢木欣一集』 1980年7月1日 著者：
沢木欣一 発行：社団法人俳人協会
- 2-18.『自註現代俳句シリーズ 第二期(18) 下村梅子集』 1979年3月1日 著者：
下村梅子 発行：社団法人俳人協会
- 2-19.『自註現代俳句シリーズ 第二期(19) 菖蒲あや集』 1981年1月20日 著
者：菖蒲あや 発行：社団法人俳人協会
- 2-20.『自註現代俳句シリーズ 第二期(20) 進藤一考集』 1982年4月20日 著
者：進藤一考 発行：社団法人俳人協会
- 2-21.『自註現代俳句シリーズ 第二期(21) 鈴木真砂女集』 1979年5月20日 著
者：鈴木真砂女 発行：社団法人俳人協会

- 2-22. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (22) 田村了咲集』 1978年8月20日 著者：田村了咲 発行：社団法人俳人協会
- 2-23. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (23) 高木晴子集』 1978年12月20日 著者：高木晴子 発行：社団法人俳人協会
- 2-24. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (24) 龍岡晋集』 1978年11月20日 著者：龍岡晋 発行：社団法人俳人協会
- 2-25. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (25) 千代田葛彦集』 1980年2月10日 著者：千代田葛彦 発行：社団法人俳人協会
- 2-26. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (26) 徳永山冬子集』 1979年5月20日 著者：徳永山冬子 発行：社団法人俳人協会
- 2-27. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (27) 中山純子集』 1979年4月1日 著者：中山純子 発行：社団法人俳人協会
- 2-28. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (28) 西村公鳳集』 1978年11月20日 著者：西村公鳳 発行：社団法人俳人協会
- 2-29. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (29) 西本一都集』 1978年7月15日 著者：西本一都 発行：社団法人俳人協会
- 2-30. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (30) 能村登四郎集』 1979年7月20日 著者：能村登四郎 発行：社団法人俳人協会
- 2-31. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (31) 野見山ひふみ集』 1979年3月1日 著者：野見山ひふみ 発行：社団法人俳人協会
- 2-32. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (32) 古舘曹人集』 1979年8月20日 著者：古舘曹人 発行：社団法人俳人協会
- 2-33. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (33) 星野立子集』 1978年9月25日 著者：星野立子 発行：社団法人俳人協会
- 2-34. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (34) 星野麥丘人集』 1978年11月20日 著者：星野麥丘人 発行：社団法人俳人協会
- 2-35. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (35) 堀口星眠集』 1979年4月1日 著者：堀口星眠 発行：社団法人俳人協会
- 2-36. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (36) 松崎鉄之介集』 1978年12月20日 著者：松崎鉄之介 発行：社団法人俳人協会
- 2-37. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (37) 村松蒼石集』 1978年10月20日 著者：村松蒼石 発行：社団法人俳人協会
- 2-38. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (38) 村越化石集』 1979年2月1日 著者：村越化石 発行：社団法人俳人協会
- 2-39. 『自註現代俳句シリーズ 第二期 (39)』 未刊

- 2-40.『自註現代俳句シリーズ 第二期 (40) 山田みづえ集』 1978年7月15日 著者：山田みづえ 発行：社団法人俳人協会
- 3.『自註現代俳句シリーズ 第三期』
- 3-1.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (1) 赤松＝子集』 1981年2月1日 著者：赤松＝子 発行：社団法人俳人協会
- 3-2.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (2) 磯貝碧蹄館集』 1981年6月1日 著者：磯貝碧蹄館 発行：社団法人俳人協会
- 3-3.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (3)』 未刊
- 3-4.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (4) 上野章子集』 1981年2月15日 著者：上野章子 発行：社団法人俳人協会
- 3-5.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (5) 浦野芳南集』 1980年12月1日 著者：浦野芳南 発行：社団法人俳人協会
- 3-6.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (6) 江口竹亭集』 1980年6月1日 著者：江口竹亭 発行：社団法人俳人協会
- 3-7.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (7) 大島民郎集』 1982年2月15日 著者：大島民郎 発行：社団法人俳人協会
- 3-8.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (8) 大竹きみ江集』 1980年11月1日 著者：大竹きみ江 発行：社団法人俳人協会
- 3-9.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (9) 勝又一透集』 1980年8月1日 著者：勝又一透 発行：社団法人俳人協会
- 3-10.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (10) 加藤三七子集』 1983年4月1日 著者：加藤三七子 発行：社団法人俳人協会
- 3-11.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (11) きくちつねこ集』 1981年3月25日 著者：きくちつねこ 発行：社団法人俳人協会
- 3-12.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (12) 京極杜藻集』 1980年11月1日 著者：京極杜藻 発行：社団法人俳人協会
- 3-13.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (13) 草間時彦集』 1981年8月1日 著者：草間時彦 発行：社団法人俳人協会
- 3-14.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (14) 近藤一鴻集』 1981年2月1日 著者：近藤一鴻 発行：社団法人俳人協会
- 3-15.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (15) 貞弘衛集』 1981年5月1日 著者：貞弘衛 発行：社団法人俳人協会
- 3-16.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (16) 佐野まもる集』 1980年12月1日 著者：佐野まもる 発行：社団法人俳人協会
- 3-17.『自註現代俳句シリーズ 第三期 (17) 下村ひろし集』 1981年3月25日 著者：下村ひろし 発行：社団法人俳人協会

- 者：下村ひろし 発行：社団法人俳人協会
- 3-18.『自註現代俳句シリーズ 第三期(18) 下村非文集』 1980年9月1日 著者：
下村非文 発行：社団法人俳人協会
- 3-19.『自註現代俳句シリーズ 第三期(19) 瀧春一集』 1980年6月1日 著者：
瀧春一 発行：社団法人俳人協会
- 3-20.『自註現代俳句シリーズ 第三期(20) 瀧澤伊代集』 1980年11月20日 著
者：瀧澤伊代 発行：社団法人俳人協会
- 3-21.『自註現代俳句シリーズ 第三期(21) 津田清子集』 1982年8月10日 著
者：津田清子 発行：社団法人俳人協会
- 3-22.『自註現代俳句シリーズ 第三期(22) 殿村菟統子集』 1981年1月1日 著
者：殿村菟統子 発行：社団法人俳人協会
- 3-23.『自註現代俳句シリーズ 第三期(23) 鳥羽とほる集』 1980年7月1日 著
者：鳥羽とほる 発行：社団法人俳人協会
- 3-24.『自註現代俳句シリーズ 第三期(24) 中西舗土集』 1980年7月1日 著者：
中西舗土 発行：社団法人俳人協会
- 3-25.『自註現代俳句シリーズ 第三期(25) 長谷川双魚集』 1981年1月20日 著
者：長谷川双魚 発行：社団法人俳人協会
- 3-26.『自註現代俳句シリーズ 第三期(26) 林翔集』 1981年11月5日 著者：
林翔 発行：社団法人俳人協会
- 3-27.『自註現代俳句シリーズ 第三期(27) 原コウ子集』 1980年9月1日 著者：
原コウ子 発行：社団法人俳人協会
- 3-28.『自註現代俳句シリーズ 第三期(28) 平井さち子集』 1980年6月1日 著
者：平井さち子 発行：社団法人俳人協会
- 3-29.『自註現代俳句シリーズ 第三期(29) 深見けん二集』 1981年1月1日 著
者：深見けん二 発行：社団法人俳人協会
- 3-30.『自註現代俳句シリーズ 第三期(30) 福本鯨洋集』 1980年8月1日 著者：
福本鯨洋 発行：社団法人俳人協会
- 3-31.『自註現代俳句シリーズ 第三期(31) 細川加賀集』 1981年10月15日 著
者：細川加賀 発行：社団法人俳人協会
- 3-32.『自註現代俳句シリーズ 第三期(32) 皆川盤水集』 1981年6月1日 著者：
皆川盤水 発行：社団法人俳人協会
- 3-33.『自註現代俳句シリーズ 第三期(33) 宮下翠舟集』 1981年9月20日 著
者：宮下翠舟 発行：社団法人俳人協会
- 3-34.『自註現代俳句シリーズ 第三期(34) 村上しゆら集』 1981年1月1日 著
者：村上しゆら 発行：社団法人俳人協会

- 3-35. 『自註現代俳句シリーズ 第三期 (35) 村田脩集』 1981年9月20日 著者：
村田脩 発行：社団法人俳人協会
- 3-36. 『自註現代俳句シリーズ 第三期 (36) 村山古郷集』 1980年11月1日 著
者：村山古郷 発行：社団法人俳人協会
- 3-37. 『自註現代俳句シリーズ 第三期 (37) 八木林之助集』 1982年5月10日 著
者：八木林之助 発行：社団法人俳人協会
- 3-38. 『自註現代俳句シリーズ 第三期 (38)』 未刊
- 3-39. 『自註現代俳句シリーズ 第三期 (39) 吉田鴻司集』 1980年1月15日 著
者：吉田鴻司 発行：社団法人俳人協会
4. 『自註現代俳句シリーズ 第四期』
- 4-1. 『自註現代俳句シリーズ 第IV期 (1) 青柳志解樹集』 1992年11月20日 著
者：青柳志解樹 発行：社団法人俳人協会
- 4-2. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (2) 阿部慧月集』 1981年6月20日 著者：
阿部慧月 発行：社団法人俳人協会
- 4-3. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (3) 雨宮昌吉集』 1981年11月25日 著者：
雨宮昌吉 発行：社団法人俳人協会
- 4-4. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (4) 有馬朗人集』 1984年8月30日 著者：
有馬朗人 発行：社団法人俳人協会
- 4-5. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (5) 五十嵐播水集』 1982年9月10日 著
者：五十嵐播水 発行：社団法人俳人協会
- 4-6. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (6) 石井桐陰集』 1981年7月20日 著者：
石井桐陰 発行：社団法人俳人協会
- 4-7. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (7) 市村究一郎集』 1982年4月1日 著者：
市村究一郎 発行：社団法人俳人協会
- 4-8. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (8) 伊藤柏翠集』 1982年11月20日 著者：
伊藤柏翠 発行：社団法人俳人協会
- 4-9. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (9) 伊藤通明集』 1983年1月25日 著者：
伊藤通明 発行：社団法人俳人協会
- 4-10. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (10) 今井つる女集』 1982年2月15日 著
者：今井つる女 発行：社団法人俳人協会
- 4-11. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (11) 岩下ゆう二集』 1982年2月1日 著
者：岩下ゆう二 発行：社団法人俳人協会
- 4-12. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (12) 有働亨集』 1985年11月20日 著者：
有働亨 発行：社団法人俳人協会
- 4-13. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (13) 大津希水集』 1981年11月5日 著

- 者：大津希水 発行：社団法人俳人協会
- 4-14. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (14) 岡田貞峰集』 1982年9月10日 著者：岡田貞峰 発行：社団法人俳人協会
- 4-15. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (15) 岡部六弥太集』 1982年6月1日 著者：岡部六弥太 発行：社団法人俳人協会
- 4-16. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (16) 小原啄葉集』 1983年1月25日 著者：小原啄葉 発行：社団法人俳人協会
- 4-17. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (17) 神尾季羊集』 1983年8月25日 著者：神尾季羊 発行：社団法人俳人協会
- 4-18. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (18) 神尾久美子集』 1982年2月15日 著者：神尾久美子 発行：社団法人俳人協会
- 4-19. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (19) 神蔵器集』 1982年6月1日 著者：神蔵器 発行：社団法人俳人協会
- 4-20. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (20) 菊池麻風集』 1981年10月15日 著者：菊池麻風 発行：社団法人俳人協会
- 4-21. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (21)』 未刊
- 4-22. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (22) 古賀まり子集』 1982年11月20日 著者：古賀まり子 発行：社団法人俳人協会
- 4-23. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (23) 兒王南草集』 1982年1月15日 著者：兒王南草 発行：社団法人俳人協会
- 4-24. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (24) 佐野美智集』 1982年6月15日 著者：佐野美智 発行：社団法人俳人協会
- 4-25. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (25) 猿橋統流子集』 1982年3月15日 著者：猿橋統流子 発行：社団法人俳人協会
- 4-26. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (26) 清水基吉集』 1981年9月1日 著者：清水基吉 発行：社団法人俳人協会
- 4-27. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (27)』 未刊
- 4-28. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (28) 鈴木栄子集』 1982年7月20日 著者：鈴木栄子 発行：社団法人俳人協会
- 4-29. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (29) 角田拾翠集』 1981年9月1日 著者：角田拾翠 発行：社団法人俳人協会
- 4-30. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (30) 高島筭雄集』 1983年6月10日 著者：高島筭雄 発行：社団法人俳人協会
- 4-31. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (31) 高橋沐石集』 1982年10月20日 著者：高橋沐石 発行：社団法人俳人協会

- 4-32. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (32)』 未刊
- 4-33. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (33)』 未刊
- 4-34. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (34) 土山紫牛集』 1981年8月1日 著者：
土山紫牛 発行：社団法人俳人協会
- 4-35. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (35) 那須乙郎集』 1982年6月1日 著者：
那須乙郎 発行：社団法人俳人協会
- 4-36. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (36) 成瀬正俊集』 1981年6月20日 著者：
成瀬正俊 発行：社団法人俳人協会
- 4-37. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (37) 林昌華集』 1981年11月25日 著者：
林昌華 発行：社団法人俳人協会
- 4-38. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (38) 林徹集』 1982年11月20日 著者：
林徹 発行：社団法人俳人協会
- 4-39. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (39) 原柯城集』 1982年4月1日 著者：
原柯城 発行：社団法人俳人協会
- 4-40. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (40) 樋笠文集』 1981年12月10日 著者：
樋笠文 発行：社団法人俳人協会
- 4-41. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (41) 平井照敏集』 1983年3月15日 著者：
平井照敏 発行：社団法人俳人協会
- 4-42. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (42) 福原十王集』 1981年10月15日 著者：
福原十王 発行：社団法人俳人協会
- 4-43. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (43) 星野紗一集』 1982年2月1日 著者：
星野紗一 発行：社団法人俳人協会
- 4-44. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (44) 細見しゅこう集』 1982年6月15日 著者：
細見しゅこう 発行：社団法人俳人協会
- 4-45. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (45) 本多静江集』 1981年9月1日 著者：
本多静江 発行：社団法人俳人協会
- 4-46. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (46) 松本旭集』 1982年4月20日 著者：
松本旭 発行：社団法人俳人協会
- 4-47. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (47) 三浦恒礼子集』 1982年3月15日 著者：
三浦恒礼子 発行：社団法人俳人協会
- 4-48. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (48) 皆川白陀集』 1984年7月20日 著者：
皆川白陀 発行：社団法人俳人協会
- 4-49. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (49)』 未刊
- 4-50. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (50) 村上冬燕集』 1981年7月20日 著者：
村上冬燕 発行：社団法人俳人協会

- 4-51. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (51) 村沢夏風集』 1981年12月10日 著者：村沢夏風 発行：社団法人俳人協会
- 4-52. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (52) 八木沢高原集』 1982年2月1日 著者：八木沢高原 発行：社団法人俳人協会
- 4-53. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (53) 山崎ひさを集』 1982年5月10日 著者：山崎ひさを 発行：社団法人俳人協会
- 4-54. 『自註現代俳句シリーズ 第四期 (54) 吉野義子集』 1983年10月25日 著者：吉野義子 発行：社団法人俳人協会
5. 『自註現代俳句シリーズ 第五期』
- 5-1. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (1) 秋澤猛集』 1986年2月25日 著者：秋澤猛 発行：社団法人俳人協会
- 5-2. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (2) 朝倉和江集』 1987年7月5日 著者：朝倉和江 発行：社団法人俳人協会
- 5-3. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (3) 有馬籌子集』 1987年10月1日 著者：有馬籌子 発行：社団法人俳人協会
- 5-4. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (4)』 未刊
- 5-5. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (5) 伊藤敬子集』 1987年5月10日 著者：伊藤敬子 発行：社団法人俳人協会
- 5-6. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (6) 宇咲冬男集』 1987年1月15日 著者：宇咲冬男 発行：社団法人俳人協会
- 5-7. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (7) 大串章集』 1986年8月20日 著者：大串章 発行：社団法人俳人協会
- 5-8. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (8) 大嶽青児集』 1988年3月5日 著者：大嶽青児 発行：社団法人俳人協会
- 5-9. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (9) 大場美夜子集』 1987年4月5日 著者：大場美夜子 発行：社団法人俳人協会
- 5-10. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (10) 岡井省二集』 1987年10月10日 著者：岡井省二 発行：社団法人俳人協会
- 5-11. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (11) 鍵和田=子集』 1989年1月25日 著者：鍵和田=子 発行：社団法人俳人協会
- 5-12. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (12)』 未刊
- 5-13. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (13) 角川照子集』 1986年7月1日 著者：角川照子 発行：社団法人俳人協会
- 5-14. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (14)』 未刊
- 5-15. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (15) 黒田櫻の園集』 1986年5月15日 著者：

- 者：黒田櫻の園 発行：社団法人俳人協会
- 5-16. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (16)』 未刊
- 5-17. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (17) 澤田緑生集』 1987年3月10日 著者：澤田緑生 発行：社団法人俳人協会
- 5-18. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (18)』 未刊
- 5-19. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (19)』 未刊
- 5-20. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (20) 竹腰八柏集』 1987年12月20日 著者：竹腰八柏 発行：社団法人俳人協会
- 5-21. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (21) 田中水桜集』 1986年8月1日 著者：田中水桜 発行：社団法人俳人協会
- 5-22. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (22) 辻田克巳集』 1986年10月25日 著者：辻田克巳 発行：社団法人俳人協会
- 5-23. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (23) 角田独峰集』 1986年4月1日 著者：角田独峰 発行：社団法人俳人協会
- 5-24. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (24) 新田祐久集』 1986年5月25日 著者：新田祐久 発行：社団法人俳人協会
- 5-25. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (25) 檜紀代集』 1986年6月15日 著者：檜紀代 発行：社団法人俳人協会
- 5-26. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (26)』 未刊
- 5-27. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (27) 村上杏史集』 1986年4月25日 著者：村上杏史 発行：社団法人俳人協会
- 5-28. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (28) 山本古瓢集』 1986年11月10日 著者：山本古瓢 発行：社団法人俳人協会
- 5-29. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (29) 米谷静二集』 1986年1月25日 著者：米谷静二 発行：社団法人俳人協会
- 5-30. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (30) 嶋田一步集』 1987年2月25日 著者：嶋田一步 発行：社団法人俳人協会
- 5-31. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (31) 嶋田摩耶子集』 1987年2月25日 著者：嶋田摩耶子 発行：社団法人俳人協会
- 5-32. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (32) 西山小鼓子集』 1986年9月25日 著者：西山小鼓子 発行：社団法人俳人協会
- 5-33. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (33) 原田青児集』 1988年8月1日 著者：原田青児 発行：社団法人俳人協会
- 5-34. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (34) 細谷鳩舎集』 1988年7月15日 著者：細谷鳩舎 発行：社団法人俳人協会

- 5-35. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (35) 山下喜子集』 1986年11月25日 著者：山下喜子 発行：社団法人俳人協会
- 5-36. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (36) 井上雪集』 1988年1月1日 著者：井上雪 発行：社団法人俳人協会
- 5-37. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (37) 茨木和生集』 1988年1月25日 著者：茨木和生 発行：社団法人俳人協会
- 5-38. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (38) 門脇白風集』 1987年9月15日 著者：門脇白風 発行：社団法人俳人協会
- 5-39. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (39) 川畑火川集』 1987年11月5日 著者：川畑火川 発行：社団法人俳人協会
- 5-40. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (40) 向野楠葉集』 1988年6月25日 著者：向野楠葉 発行：社団法人俳人協会
- 5-41. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (41) 斎藤夏風集』 1989年8月10日 著者：斎藤夏風 発行：社団法人俳人協会
- 5-42. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (42) 品川鈴子集』 1988年11月25日 著者：品川鈴子 発行：社団法人俳人協会
- 5-43. 『自註現代俳句シリーズ 第五期 (43) 鈴木白祇集』 1995年8月20日 著者：鈴木白祇 発行：社団法人俳人協会
- 5-44. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (44) 高木良多集』 1988年7月25日 著者：高木良多 発行：社団法人俳人協会
- 5-45. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (45) 高久田橙子集』 1988年9月10日 著者：高久田橙子 発行：社団法人俳人協会
- 5-46. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (46) 永田耕一郎集』 1988年2月25日 著者：永田耕一郎 発行：社団法人俳人協会
- 5-47. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (47) 長谷川久々子集』 1987年11月20日 著者：長谷川久々子 発行：社団法人俳人協会
- 5-48. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (48)』 未刊
- 5-49. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (49) 畠山譲二集』 1988年11月25日 著者：畠山譲二 発行：社団法人俳人協会
- 5-50. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (50) 晝間槐秋集』 1990年4月20日 著者：晝間槐秋 発行：社団法人俳人協会
- 5-51. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (51) 藤井亘集』 1988年2月10日 著者：藤井亘 発行：社団法人俳人協会
- 5-52. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (52) 堀磯路集』 1988年5月25日 著者：堀磯路 発行：社団法人俳人協会

- 5-53. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (53)』 未刊
- 5-54. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (54) 宮岡計次集』 1988年4月10日 著者：宮岡計次 発行：社団法人俳人協会
- 5-55. 『自註現代俳句シリーズ 第五期 (55) 山上樹実雄集』 1997年7月20日 著者：山上樹実雄 発行：社団法人俳人協会
- 5-56. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (56) 山本歩禪集』 1987年12月1日 著者：山本歩禪 発行：社団法人俳人協会
- 5-57. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (57) 蓮田紀枝子集』 1988年2月1日 著者：蓮田紀枝子 発行：社団法人俳人協会
- 5-58. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (58) 高井北杜集』 1988年12月10日 著者：高井北杜 発行：社団法人俳人協会
- 5-59. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (59) 瀧佳杖集』 1988年5月10日 著者：瀧佳杖 発行：社団法人俳人協会
- 5-60. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (60) 向笠和子集』 1988年11月25日 著者：向笠和子 発行：社団法人俳人協会
- 5-61. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (61) 伊藤白潮集』 1988年6月20日 著者：伊藤白潮 発行：社団法人俳人協会
- 5-62. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (62) 今泉貞風集』 1988年8月15日 著者：今泉貞風 発行：社団法人俳人協会
- 5-63. 『自註現代俳句シリーズ 第Ⅴ期 (63) 宇野稔子集』 1988年11月20日 著者：宇野稔子 発行：社団法人俳人協会
6. 『自註現代俳句シリーズ 第六期』
- 6-1. 『自註現代俳句シリーズ 六期 (1) 本宮鼎三集』 1989年6月20日 著者：本宮鼎三 発行：社団法人俳人協会
- 6-2. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (2) 藪内柴火集』 1989年7月10日 著者：藪内柴火 発行：社団法人俳人協会
- 6-3. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (3) 長倉閑山集』 1989年8月3日 著者：長倉閑山 発行：社団法人俳人協会
- 6-4. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (4) 平本くらら集』 1989年7月20日 著者：平本くらら 発行：社団法人俳人協会
- 6-5. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (5) 河北斜陽集』 1989年7月20日 著者：河北斜陽 発行：社団法人俳人協会
- 6-6. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (6) 野崎ゆり香集』 1989年9月25日 著者：野崎ゆり香 発行：社団法人俳人協会
- 6-7. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (7) 若木一朗集』 1989年9月10日 著者：

- 若木一朗 発行：社団法人俳人協会
- 6-8. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (8) 小川齊東語集』 1989年9月25日 著者：小川齊東語 発行：社団法人俳人協会
- 6-9. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (9) 杉本寛集』 1989年9月15日 著者：杉本寛 発行：社団法人俳人協会
- 6-10. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (10) 塩崎緑集』 1989年10月20日 著者：塩崎緑 発行：社団法人俳人協会
- 6-11. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (11) 藤井艸眉子集』 1989年10月15日 著者：藤井艸眉子 発行：社団法人俳人協会
- 6-12. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (12) 田中芥子集』 1989年10月25日 著者：田中芥子 発行：社団法人俳人協会
- 6-13. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (13) 宮田正和集』 1989年11月15日 著者：宮田正和 発行：社団法人俳人協会
- 6-14. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (14) 向山隆峰集』 1989年10月20日 著者：向山隆峰 発行：社団法人俳人協会
- 6-15. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (15) 多田薙石集』 1989年11月25日 著者：多田薙石 発行：社団法人俳人協会
- 6-16. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (16) 山口速集』 1989年12月10日 著者：山口速 発行：社団法人俳人協会
- 6-17. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (17) 加藤憲曠集』 1989年12月15日 著者：加藤憲曠 発行：社団法人俳人協会
- 6-18. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (18) 河府雪於集』 1989年11月25日 著者：河府雪於 発行：社団法人俳人協会
- 6-19. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (19) 保坂伸秋集』 1990年1月15日 著者：保坂伸秋 発行：社団法人俳人協会
- 6-20. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (20) 江口千樹集』 1990年2月15日 著者：江口千樹 発行：社団法人俳人協会
- 6-21. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (21) 浅野正集』 1989年12月10日 著者：浅野正 発行：社団法人俳人協会
- 6-22. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (22) 小林鹿郎集』 1990年2月15日 著者：小林鹿郎 発行：社団法人俳人協会
- 6-23. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (23) 玉出雁梓幸集』 1990年3月15日 著者：玉出雁梓幸 発行：社団法人俳人協会
- 6-24. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (24) 関森勝夫集』 1990年3月15日 著者：関森勝夫 発行：社団法人俳人協会

- 6-25. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (25) 平間真木子集』 1990年3月25日 著者：平間真木子 発行：社団法人俳人協会
- 6-26. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (26) 小笠原男集』 1990年3月25日 著者：小笠原男 発行：社団法人俳人協会
- 6-27. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (27) 町春草集』 1990年4月3日 著者：町春草 発行：社団法人俳人協会
- 6-28. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (28) 神原栄二集』 1990年5月15日 著者：神原栄二 発行：社団法人俳人協会
- 6-29. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (29) 松本澄江集』 1990年6月20日 著者：松本澄江 発行：社団法人俳人協会
- 6-30. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (30) 荒井正隆集』 1990年6月20日 著者：荒井正隆 発行：社団法人俳人協会
- 6-31. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (31) 八染藍子集』 1990年7月20日 著者：八染藍子 発行：社団法人俳人協会
- 6-32. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (32) 松村紅花集』 1990年8月15日 著者：松村紅花 発行：社団法人俳人協会
- 6-33. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (33) 今瀬剛一集』 1990年7月20日 著者：今瀬剛一 発行：社団法人俳人協会
- 6-34. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (34) 落合水尾集』 1990年8月20日 著者：落合水尾 発行：社団法人俳人協会
- 6-35. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (35) 山崎寥村集』 1990年8月30日 著者：山崎寥村 発行：社団法人俳人協会
- 6-36. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (36) 井桁白陶集』 1990年9月5日 著者：井桁白陶 発行：社団法人俳人協会
- 6-37. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (37) 土生重次集』 1990年9月20日 著者：土生重次 発行：社団法人俳人協会
- 6-38. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (38) 鈴木鷹夫集』 1990年10月5日 著者：鈴木鷹夫 発行：社団法人俳人協会
- 6-39. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (39) 白岩三郎集』 1990年10月15日 著者：白岩三郎 発行：社団法人俳人協会
- 6-40. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (40) 新倉矢風集』 1990年11月10日 著者：新倉矢風 発行：社団法人俳人協会
- 6-41. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (41) 羽部洞然集』 1990年11月20日 著者：羽部洞然 発行：社団法人俳人協会
- 6-42. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (42) 町田しげき集』 1991年1月10日 著者：町田しげき 発行：社団法人俳人協会

- 者：町田しげき 発行：社団法人俳人協会
- 6-43. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (43) 須磨佳雪集』 1991年3月18日 著者：須磨佳雪 発行：社団法人俳人協会
- 6-44. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (44) 大岳水一路集』 1991年4月23日 著者：大岳水一路 発行：社団法人俳人協会
- 6-45. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (45) 小島千架子集』 1991年4月20日 著者：小島千架子 発行：社団法人俳人協会
- 6-46. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (46) 今井杏太郎集』 1991年6月20日 著者：今井杏太郎 発行：社団法人俳人協会
- 6-47. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (47) 米田双葉子集』 1991年6月15日 著者：米田双葉子 発行：社団法人俳人協会
- 6-48. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (48) 池田秀水集』 1991年8月25日 著者：池田秀水 発行：社団法人俳人協会
- 6-49. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (49) 廣瀬ひろし集』 1991年11月5日 著者：廣瀬ひろし 発行：社団法人俳人協会
- 6-50. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (50) 鳥居美智子集』 1991年12月10日 著者：鳥居美智子 発行：社団法人俳人協会
- 6-51. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (51) 大牧広集』 1992年1月30日 著者：大牧広 発行：社団法人俳人協会
- 6-52. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (52) 石田小坡集』 1992年3月10日 著者：石田小坡 発行：社団法人俳人協会
- 6-53. 『自註現代俳句シリーズ 第六期 (53) 倉田春名集』 1992年3月20日 著者：倉田春名 発行：社団法人俳人協会
7. 『自註現代俳句シリーズ 第七期』
- 7-1. 『自註現代俳句シリーズ 七期 (1) 峰尾北兎集』 1992年5月10日 著者：峰尾北兎 発行：社団法人俳人協会
- 7-2. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (2) 木下子龍集』 1992年9月20日 著者：木下子龍 発行：社団法人俳人協会
- 7-3. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (3) 宇都木水晶花集』 1992年10月20日 著者：宇都木水晶花 発行：社団法人俳人協会
- 7-4. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (4) 松本進集』 1992年10月25日 著者：松本進 発行：社団法人俳人協会
- 7-5. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (5) 小松崎爽青集』 1992年11月15日 著者：小松崎爽青 発行：社団法人俳人協会
- 7-6. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (6) 藤岡筑邨集』 1992年12月10日 著者：

- 藤岡筑邨 発行：社団法人俳人協会
- 7-7.『自註現代俳句シリーズ 第七期(7) 梶山千鶴子集』 1992年12月20日 著者：梶山千鶴子 発行：社団法人俳人協会
- 7-8.『自註現代俳句シリーズ 第七期(8) 志村さゝを集』 1993年6月10日 著者：志村さゝを 発行：社団法人俳人協会
- 7-9.『自註現代俳句シリーズ 第七期(9) 笠原古畦集』 1993年6月15日 著者：笠原古畦 発行：社団法人俳人協会
- 7-10.『自註現代俳句シリーズ 第七期(10) 飯塚田鶴子集』 1993年7月15日 著者：飯塚田鶴子 発行：社団法人俳人協会
- 7-11.『自註現代俳句シリーズ 第七期(11) 千葉仁集』 1993年7月10日 著者：千葉仁 発行：社団法人俳人協会
- 7-12.『自註現代俳句シリーズ 第七期(12) 舘岡沙織集』 1993年7月1日 著者：舘岡沙織 発行：社団法人俳人協会
- 7-13.『自註現代俳句シリーズ 第七期(13) 堀古蝶集』 1993年8月25日 著者：堀古蝶 発行：社団法人俳人協会
- 7-14.『自註現代俳句シリーズ 第七期(14) 三田きえ子集』 1993年8月15日 著者：三田きえ子 発行：社団法人俳人協会
- 7-15.『自註現代俳句シリーズ 第七期(15) 鳥越すみこ集』 1993年9月10日 著者：鳥越すみこ 発行：社団法人俳人協会
- 7-16.『自註現代俳句シリーズ 第七期(16) 近藤實集』 1993年9月20日 著者：近藤實 発行：社団法人俳人協会
- 7-17.『自註現代俳句シリーズ 第七期(17) 薄多久雄集』 1993年10月15日 著者：薄多久雄 発行：社団法人俳人協会
- 7-18.『自註現代俳句シリーズ 第七期(18) 長田等集』 1993年10月10日 著者：長田等 発行：社団法人俳人協会
- 7-19.『自註現代俳句シリーズ 第七期(19) 小川原嘘師集』 1993年11月10日 著者：小川原嘘師 発行：社団法人俳人協会
- 7-20.『自註現代俳句シリーズ 第七期(20) 関成美集』 1993年11月10日 著者：関成美 発行：社団法人俳人協会
- 7-21.『自註現代俳句シリーズ 第七期(21) 小谷舜花集』 1993年11月10日 著者：小谷舜花 発行：社団法人俳人協会
- 7-22.『自註現代俳句シリーズ 第七期(22) 佐藤公子集』 1993年12月20日 著者：佐藤公子 発行：社団法人俳人協会
- 7-23.『自註現代俳句シリーズ 第七期(23) 伊藤トキノ集』 1993年12月10日 著者：伊藤トキノ 発行：社団法人俳人協会

- 7-24. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (24) 長谷川耿子集』 1994年2月25日 著者：長谷川耿子 発行：社団法人俳人協会
- 7-25. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (25) 岩崎健一集』 1994年6月10日 著者：岩崎健一 発行：社団法人俳人協会
- 7-26. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (26) 中村明子集』 1994年6月10日 著者：中村明子 発行：社団法人俳人協会
- 7-27. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (27) 木田千女集』 1994年9月10日 著者：木田千女 発行：社団法人俳人協会
- 7-28. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (28) 伊藤てい子集』 1994年8月20日 著者：伊藤てい子 発行：社団法人俳人協会
- 7-29. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (29) 鈴木貞雄集』 1994年9月10日 著者：鈴木貞雄 発行：社団法人俳人協会
- 7-30. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (30) 吉田紫乃集』 1994年9月10日 著者：吉田紫乃 発行：社団法人俳人協会
- 7-31. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (31) 日美清史集』 1994年10月10日 著者：日美清史 発行：社団法人俳人協会
- 7-32. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (32) 行方寅次郎集』 1994年11月10日 著者：行方寅次郎 発行：社団法人俳人協会
- 7-33. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (33) 岡澤康司集』 1994年11月20日 著者：岡澤康司 発行：社団法人俳人協会
- 7-34. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (34) 下鉢清子集』 1994年11月20日 著者：下鉢清子 発行：社団法人俳人協会
- 7-35. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (35) 鳥井おさむ集』 1994年10月20日 著者：鳥井おさむ 発行：社団法人俳人協会
- 7-36. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (36) 椎橋清翠集』 1994年12月10日 著者：椎橋清翠 発行：社団法人俳人協会
- 7-37. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (37) 大澤ひろし集』 1994年12月20日 著者：大澤ひろし 発行：社団法人俳人協会
- 7-38. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (38) 河合未光集』 1995年6月1日 著者：河合未光 発行：社団法人俳人協会
- 7-39. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (39) 岩崎照子集』 1995年8月10日 著者：岩崎照子 発行：社団法人俳人協会
- 7-40. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (40) 佐久間慧子集』 1996年1月7日 著者：佐久間慧子 発行：社団法人俳人協会
- 7-41. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (41) 木内怜子集』 1996年3月1日 著者：

- 木内怜子 発行：社団法人俳人協会
- 7-42. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (42) 荒木忠男集』 1996年3月20日 著者：荒木忠男 発行：社団法人俳人協会
- 7-43. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (43) 渡辺恭子集』 1996年3月20日 著者：渡辺恭子 発行：社団法人俳人協会
- 7-44. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (44) 高崎武義集』 1996年4月10日 著者：高崎武義 発行：社団法人俳人協会
- 7-45. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (45) 都筑智子集』 1996年3月26日 著者：都筑智子 発行：社団法人俳人協会
- 7-46. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (46) 山田春生集』 1996年5月14日 著者：山田春生 発行：社団法人俳人協会
- 7-47. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (47) 竹中碧水史集』 1996年5月20日 著者：竹中碧水史 発行：社団法人俳人協会
- 7-48. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (48) 加藤耕子集』 1996年6月25日 著者：加藤耕子 発行：社団法人俳人協会
- 7-49. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (49) 棚山波朗集』 1996年6月25日 著者：棚山波朗 発行：社団法人俳人協会
- 7-50. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (50) 下田稔集』 1996年7月10日 著者：下田稔 発行：社団法人俳人協会
- 7-51. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (51) 高木時子集』 1996年7月20日 著者：高木時子 発行：社団法人俳人協会
- 7-52. 『自註現代俳句シリーズ 第七期 (52) 井本農一集』 1999年2月20日 著者：井本農一 発行：社団法人俳人協会
8. 『自註現代俳句シリーズ 第八期』
- 8-1. 『自註現代俳句シリーズ 八期 (1) 小川笹舟集』 1996年8月10日 著者：小川笹舟 発行：社団法人俳人協会
- 8-2. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (2) 岬雪夫集』 1996年8月20日 著者：岬雪夫 発行：社団法人俳人協会
- 8-3. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (3) 渡邊千枝子集』 1996年9月20日 著者：渡邊千枝子 発行：社団法人俳人協会
- 8-4. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (4) 阪本謙二集』 1996年11月20日 著者：阪本謙二 発行：社団法人俳人協会
- 8-5. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (5) 小島左京集』 1996年10月20日 著者：小島左京 発行：社団法人俳人協会
- 8-6. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (6) 嶋田麻紀集』 1996年10月25日 著者：

- 嶋田麻紀 発行：社団法人俳人協会
- 8-7.『自註現代俳句シリーズ 第八期(7) 西嶋あさ子集』 1996年11月20日 著者：西嶋あさ子 発行：社団法人俳人協会
- 8-8.『自註現代俳句シリーズ 第八期(8) 吉原一暁集』 1996年11月25日 著者：吉原一暁 発行：社団法人俳人協会
- 8-9.『自註現代俳句シリーズ 第八期(9) 泉田秋碩集』 1996年12月20日 著者：泉田秋碩 発行：社団法人俳人協会
- 8-10.『自註現代俳句シリーズ 第八期(10) 上田和子集』 1996年11月20日 著者：上田和子 発行：社団法人俳人協会
- 8-11.『自註現代俳句シリーズ 第八期(11) 久保千鶴子集』 1997年2月10日 著者：久保千鶴子 発行：社団法人俳人協会
- 8-12.『自註現代俳句シリーズ 第八期(12) 内田園生集』 1997年3月28日 著者：内田園生 発行：社団法人俳人協会
- 8-13.『自註現代俳句シリーズ 第八期(13) 里川水章集』 1997年5月20日 著者：里川水章 発行：社団法人俳人協会
- 8-14.『自註現代俳句シリーズ 第八期(14) 吉田松籟集』 1997年6月20日 著者：吉田松籟 発行：社団法人俳人協会
- 8-15.『自註現代俳句シリーズ 第八期(15) 阿部誠文集』 1997年9月9日 著者：阿部誠文 発行：社団法人俳人協会
- 8-16.『自註現代俳句シリーズ 第八期(16) 藤本安騎生集』 1997年7月20日 著者：藤本安騎生 発行：社団法人俳人協会
- 8-17.『自註現代俳句シリーズ 第八期(17) 石飛如翠集』 1997年8月1日 著者：石飛如翠 発行：社団法人俳人協会
- 8-18.『自註現代俳句シリーズ 第八期(18) 天休翼集』 1997年8月10日 著者：天休翼 発行：社団法人俳人協会
- 8-19.『自註現代俳句シリーズ 第八期(19) 小野恵美子集』 1997年8月15日 著者：小野恵美子 発行：社団法人俳人協会
- 8-20.『自註現代俳句シリーズ 第八期(20) 森田かずや集』 1997年9月1日 著者：森田かずや 発行：社団法人俳人協会
- 8-21.『自註現代俳句シリーズ 第八期(21) 藤木俱子集』 1997年9月17日 著者：藤木俱子 発行：社団法人俳人協会
- 8-22.『自註現代俳句シリーズ 第八期(22) 宮武章之集』 1997年9月20日 著者：宮武章之 発行：社団法人俳人協会
- 8-23.『自註現代俳句シリーズ 第八期(23) 板谷芳浄集』 1997年9月15日 著者：板谷芳浄 発行：社団法人俳人協会

- 8-24. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (24) 山中英子集』 1997年10月15日 著者：山中英子 発行：社団法人俳人協会
- 8-25. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (25) 中村将晴集』 1997年10月15日 著者：中村将晴 発行：社団法人俳人協会
- 8-26. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (26) 延平いくと集』 1997年10月20日 著者：延平いくと 発行：社団法人俳人協会
- 8-27. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (27) 奈良文夫集』 1997年10月25日 著者：奈良文夫 発行：社団法人俳人協会
- 8-28. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (28) 加藤燕雨集』 1997年11月10日 著者：加藤燕雨 発行：社団法人俳人協会
- 8-29. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (29) 土屋巴浪集』 1997年11月20日 著者：土屋巴浪 発行：社団法人俳人協会
- 8-30. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (30) 西村和子集』 1997年12月15日 著者：西村和子 発行：社団法人俳人協会
- 8-31. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (31) 阿部幽水集』 1997年12月10日 著者：阿部幽水 発行：社団法人俳人協会
- 8-32. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (32) 桜井青路集』 1997年12月20日 著者：桜井青路 発行：社団法人俳人協会
- 8-33. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (33) 金田志津枝集』 1997年12月18日 著者：金田志津枝 発行：社団法人俳人協会
- 8-34. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (34) 小倉英男集』 1998年2月10日 著者：小倉英男 発行：社団法人俳人協会
- 8-35. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (35) 桜庭梵子集』 1998年3月20日 著者：桜庭梵子 発行：社団法人俳人協会
- 8-36. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (36) 江川虹村集』 1998年2月1日 著者：江川虹村 発行：社団法人俳人協会
- 8-37. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (37) 澤村昭代集』 1998年2月20日 著者：澤村昭代 発行：社団法人俳人協会
- 8-38. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (38) 上野さち子集』 1998年3月10日 著者：上野さち子 発行：社団法人俳人協会
- 8-39. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (39) 山田孝子集』 1998年3月25日 著者：山田孝子 発行：社団法人俳人協会
- 8-40. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (40) 板津堯集』 1998年3月25日 著者：板津堯 発行：社団法人俳人協会
- 8-41. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (41) 手塚七木集』 1998年4月20日 著者：

- 者：手塚七木 発行：社団法人俳人協会
- 8-42. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (42) 三嶋隆英集』 1998年5月10日 著者：三嶋隆英 発行：社団法人俳人協会
- 8-43. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (43) 鈴木良戈集』 1998年5月7日 著者：鈴木良戈 発行：社団法人俳人協会
- 8-44. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (44) 金箱戈止夫集』 1998年5月25日 著者：金箱戈止夫 発行：社団法人俳人協会
- 8-45. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (45) 有吉桜雲集』 1998年6月20日 著者：有吉桜雲 発行：社団法人俳人協会
- 8-46. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (46) 宮脇白夜集』 1998年7月10日 著者：宮脇白夜 発行：社団法人俳人協会
- 8-47. 『自註現代俳句シリーズ 八期 (47) 池内けい吾集』 1998年7月20日 著者：池内けい吾 発行：社団法人俳人協会
- 8-48. 『自註現代俳句シリーズ 第八期 (48) 小川かん紅集』 1998年7月20日 著者：小川かん紅 発行：社団法人俳人協会
- 8-49. 『自註現代俳句シリーズ 八期 (49) 前野雅生集』 1998年8月20日 著者：前野雅生 発行：社団法人俳人協会
- 8-50. 『自註現代俳句シリーズ 八期 (50) 小山祐司集』 1998年9月10日 著者：小山祐司 発行：社団法人俳人協会
9. 『自註現代俳句シリーズ 第九期』
- 9-1. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (1) 千田一路集』 1998年10月10日 著者：千田一路 発行：社団法人俳人協会
- 9-2. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (2) 村山秀雄集』 1998年10月5日 著者：村山秀雄 発行：社団法人俳人協会
- 9-3. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (3) 青木重行集』 1998年10月25日 著者：青木重行 発行：社団法人俳人協会
- 9-4. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (4) 今村泗水集』 1998年11月10日 著者：今村泗水 発行：社団法人俳人協会
- 9-5. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (5) 尾亀清四郎集』 1998年11月15日 著者：尾亀清四郎 発行：社団法人俳人協会
- 9-6. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (6) 川村紫陽集』 1998年11月10日 著者：川村紫陽 発行：社団法人俳人協会
- 9-7. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (7) 杉良介集』 1998年12月20日 著者：杉良介 発行：社団法人俳人協会
- 9-8. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (8) 太田寛郎集』 1998年12月20日 著者：

- 太田寛郎 発行：社団法人俳人協会
- 9-9. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (9) 橋本草郎集』 1999年1月6日 著者：橋本草郎 発行：社団法人俳人協会
- 9-10. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (10) 伊東宏晃集』 1999年1月20日 著者：伊東宏晃 発行：社団法人俳人協会
- 9-11. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (11) 稲富義明集』 1999年2月20日 著者：稲富義明 発行：社団法人俳人協会
- 9-12. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (12) 阿部子峽集』 1999年3月10日 著者：阿部子峽 発行：社団法人俳人協会
- 9-13. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (13) 菊地凡人集』 1999年3月20日 著者：菊地凡人 発行：社団法人俳人協会
- 9-14. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (14) 栗田やすし集』 1999年3月20日 著者：栗田やすし 発行：社団法人俳人協会
- 9-15. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (15) 落合美佐子集』 1999年4月8日 著者：落合美佐子 発行：社団法人俳人協会
- 9-16. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (16) 行沢雨晴集』 1999年4月10日 著者：行沢雨晴 発行：社団法人俳人協会
- 9-17. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (17) 阿部ひろし集』 1999年4月8日 著者：阿部ひろし 発行：社団法人俳人協会
- 9-18. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (18) 松本翠集』 1999年5月10日 著者：松本翠 発行：社団法人俳人協会
- 9-19. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (19) 山口超心鬼集』 1999年5月10日 著者：山口超心鬼 発行：社団法人俳人協会
- 9-20. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (20) 松山足羽集』 1999年5月20日 著者：松山足羽 発行：社団法人俳人協会
- 9-21. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (21) 上野療集』 1999年6月1日 著者：上野療 発行：社団法人俳人協会
- 9-22. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (22) 小林輝子集』 1999年7月10日 著者：小林輝子 発行：社団法人俳人協会
- 9-23. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (23) 川澄祐勝集』 1999年7月20日 著者：川澄祐勝 発行：社団法人俳人協会
- 9-24. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (24) 滝沢幸助集』 1999年12月5日 著者：滝沢幸助 発行：社団法人俳人協会
- 9-25. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (25) 八牧美喜子集』 1999年12月10日 著者：八牧美喜子 発行：社団法人俳人協会

- 9-26. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (26) 鈴木しげを集』 2000年2月10日 著者：鈴木しげを 発行：社団法人俳人協会
- 9-27. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (27) 火村卓造集』 2000年3月15日 著者：火村卓造 発行：社団法人俳人協会
- 9-28. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (28) 有馬ひろこ集』 2000年3月15日 著者：有馬ひろこ 発行：社団法人俳人協会
- 9-29. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (29) 内山芳子集』 2000年2月25日 著者：内山芳子 発行：社団法人俳人協会
- 9-30. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (30) 岡本まち子集』 2000年4月15日 著者：岡本まち子 発行：社団法人俳人協会
- 9-31. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (31) 太田文萌集』 2000年4月10日 著者：太田文萌 発行：社団法人俳人協会
- 9-32. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (32) 河野邦子集』 2000年4月10日 著者：河野邦子 発行：社団法人俳人協会
- 9-33. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (33) 中谷五秋集』 2000年4月15日 著者：中谷五秋 発行：社団法人俳人協会
- 9-34. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (34) 黛執集』 2000年5月10日 著者：黛執 発行：社団法人俳人協会
- 9-35. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (35) 角光雄集』 2000年5月30日 著者：角光雄 発行：社団法人俳人協会
- 9-36. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (36) 鈴木節子集』 2000年5月20日 著者：鈴木節子 発行：社団法人俳人協会
- 9-37. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (37) 大星たかし集』 2000年6月12日 著者：大星たかし 発行：社団法人俳人協会
- 9-38. 『自註現代俳句シリーズ 九期 (38) 櫛原希伊子集』 2000年7月5日 著者：櫛原希伊子 発行：社団法人俳人協会
- 9-39. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (39) 高橋さえ子集』 2000年7月15日 著者：高橋さえ子 発行：社団法人俳人協会
- 9-40. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (40) 大北たきを集』 2000年7月10日 著者：大北たきを 発行：社団法人俳人協会
- 9-41. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (41) 中川須美子集』 2000年7月20日 著者：中川須美子 発行：社団法人俳人協会
- 9-42. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (42) 和田祥子集』 2000年8月5日 著者：和田祥子 発行：社団法人俳人協会
- 9-43. 『自註現代俳句シリーズ 第九期 (43) 高橋克郎集』 2000年7月20日 著者：

- 者：高橋克郎 発行：社団法人俳人協会
- 9-44.『自註現代俳句シリーズ 第九期(44) つじ加代子集』 2000年8月12日 著者：つじ加代子 発行：社団法人俳人協会
- 9-45.『自註現代俳句シリーズ 第九期(45) 中川忠治集』 2000年9月4日 著者：中川忠治 発行：社団法人俳人協会
- 9-46.『自註現代俳句シリーズ 第九期(46) 藤井囿彦集』 2000年9月5日 著者：藤井囿彦 発行：社団法人俳人協会
- 9-47.『自註現代俳句シリーズ 第九期(47) 福永鳴風集』 2000年9月1日 著者：福永鳴風 発行：社団法人俳人協会
- 9-48.『自註現代俳句シリーズ 第九期(48) 甲斐すず江集』 2000年9月20日 著者：甲斐すず江 発行：社団法人俳人協会
- 9-49.『自註現代俳句シリーズ 九期(49) 福井隆子集』 2000年10月20日 著者：福井隆子 発行：社団法人俳人協会
- 9-50.『自註現代俳句シリーズ 九期(50) 永島理江子集』 2000年10月8日 著者：永島理江子 発行：社団法人俳人協会
- 10.『自註現代俳句シリーズ 第十期』
- 10-1.『自註現代俳句シリーズ 第十期(1) 山崎秋穂集』 2000年12月10日 著者：山崎秋穂 発行：社団法人俳人協会
- 10-2.『自註現代俳句シリーズ 第十期(2) 村山砂田男集』 2000年12月52日 著者：村山砂田男 発行：社団法人俳人協会
- 10-3.『自註現代俳句シリーズ 第十期(3) 照井せせらぎ集』 2000年12月20日 著者：照井せせらぎ 発行：社団法人俳人協会
- 10-4.『自註現代俳句シリーズ 第十期(4) 伊藤京子集』 2000年12月20日 著者：伊藤京子 発行：社団法人俳人協会
- 10-5.『自註現代俳句シリーズ 第十期(5) 茂里正治集』 2001年1月15日 著者：茂里正治 発行：社団法人俳人協会
- 10-6.『自註現代俳句シリーズ 第十期(6) 太田土男集』 2001年2月10日 著者：太田土男 発行：社団法人俳人協会
- 10-7.『自註現代俳句シリーズ 第十期(7) 河合照子集』 2001年3月25日 著者：河合照子 発行：社団法人俳人協会
- 10-8.『自註現代俳句シリーズ 第十期(8) 北光星集』 2001年3月5日 著者：北光星 発行：社団法人俳人協会
- 10-9.『自註現代俳句シリーズ 第十期(9) 戸恒東人集』 2001年4月1日 著者：戸恒東人 発行：社団法人俳人協会
- 10-10.『自註現代俳句シリーズ 第十期(10) 富田みのる集』 2001年4月30日 著

- 者：富田みのる 発行：社団法人俳人協会
- 10-11. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (11) 石崎径子集』 2001年6月5日 著者：石崎径子 発行：社団法人俳人協会
- 10-12. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (12) 毛塚静枝集』 2001年6月15日 著者：毛塚静枝 発行：社団法人俳人協会
- 10-13. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (13) 有山八洲彦集』 2001年10月1日 著者：有山八洲彦 発行：社団法人俳人協会
- 10-14. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (14) 林十九桜集』 2001年7月15日 著者：林十九桜 発行：社団法人俳人協会
- 10-15. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (15) 中尾杏子集』 2001年9月10日 著者：中尾杏子 発行：社団法人俳人協会
- 10-16. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (16) 塩川雄三集』 2001年9月20日 著者：塩川雄三 発行：社団法人俳人協会
- 10-17. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (17) 石川文子集』 2001年10月15日 著者：石川文子 発行：社団法人俳人協会
- 10-18. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (18) 澤田早苗集』 2001年11月10日 著者：澤田早苗 発行：社団法人俳人協会
- 10-19. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (19) 醍醐育宏集』 2001年11月20日 著者：醍醐育宏 発行：社団法人俳人協会
- 10-20. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (20) 松本千鶴子集』 2001年12月8日 著者：松本千鶴子 発行：社団法人俳人協会
- 10-21. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (21) 島村正集』 2001年11月8日 著者：島村正 発行：社団法人俳人協会
- 10-22. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (22) 二宮貢作集』 2001年12月5日 著者：二宮貢作 発行：社団法人俳人協会
- 10-23. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (23) 田中英子集』 2002年1月10日 著者：田中英子 発行：社団法人俳人協会
- 10-24. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (24) 和久田隆子集』 2002年1月15日 著者：和久田隆子 発行：社団法人俳人協会
- 10-25. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (25) 北見さとり集』 2002年2月15日 著者：北見さとり 発行：社団法人俳人協会
- 10-26. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (26) 仁尾正文集』 2002年2月15日 著者：仁尾正文 発行：社団法人俳人協会
- 10-27. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (27) 多賀谷榮一集』 2002年2月5日 著者：多賀谷榮一 発行：社団法人俳人協会

- 10-28. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (28) 関口祥子集』 2002年3月15日 著者：関口祥子 発行：社団法人俳人協会
- 10-29. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (29) 佐野鬼人集』 2002年3月20日 著者：佐野鬼人 発行：社団法人俳人協会
- 10-30. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (30) 高岡すみ子集』 2002年4月27日 著者：高岡すみ子 発行：社団法人俳人協会
- 10-31. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (31) 山尾玉藻集』 2002年4月20日 著者：山尾玉藻 発行：社団法人俳人協会
- 10-32. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (32) 伊藤いと子集』 2002年5月25日 著者：伊藤いと子 発行：社団法人俳人協会
- 10-33. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (33) 小松まつ子集』 2002年6月15日 著者：小松まつ子 発行：社団法人俳人協会
- 10-34. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (34) 早川とも集』 2002年6月20日 著者：早川とも 発行：社団法人俳人協会
- 10-35. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (35) 田中敦子集』 2002年9月30日 著者：田中敦子 発行：社団法人俳人協会
- 10-36. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (36) 影島智子集』 2002年10月20日 著者：影島智子 発行：社団法人俳人協会
- 10-37. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (37) 樽沼清子集』 2002年12月25日 著者：樽沼清子 発行：社団法人俳人協会
- 10-38. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (38) 小林俊彦集』 2002年12月20日 著者：小林俊彦 発行：社団法人俳人協会
- 10-39. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (39) 小西敬次郎集』 2003年1月20日 著者：小西敬次郎 発行：社団法人俳人協会
- 10-40. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (40) 那須敦男集』 2003年1月10日 著者：那須敦男 発行：社団法人俳人協会
- 10-41. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (41) 市野沢弘子集』 2003年2月25日 著者：市野沢弘子 発行：社団法人俳人協会
- 10-42. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (42) 上原白水集』 2003年3月21日 著者：上原白水 発行：社団法人俳人協会
- 10-43. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (43) 針ヶ谷隆一集』 2003年3月20日 著者：針ヶ谷隆一 発行：社団法人俳人協会
- 10-44. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (44) 茂惠一郎集』 2003年4月20日 著者：茂惠一郎 発行：社団法人俳人協会
- 10-45. 『自註現代俳句シリーズ 第十期 (45) 坂口匡夫集』 2003年5月20日 著者：

- 坂口匡夫 発行：社団法人俳人協会
- 10-46. 『自註現代俳句シリーズ 十期 (46) 小林波留集』 2003年3月7日 15 著者：小林波留 発行：社団法人俳人協会
- 10-47. 『自註現代俳句シリーズ 十期 (47) 立半青紹集』 2003年7月17日 著者：立半青紹 発行：社団法人俳人協会
- 10-48. 『自註現代俳句シリーズ 十期 (48) 立石萌木集』 2003年9月10日 著者：立石萌木 発行：社団法人俳人協会
- 10-49. 『自註現代俳句シリーズ 十期 (49) 石原透集』 2003年9月20日 著者：石原透 発行：社団法人俳人協会
- 10-50. 『自註現代俳句シリーズ 十期 (50) 谷口忠男集』 2003年10月10日 著者：谷口忠男 発行：社団法人俳人協会
11. 『自註現代俳句シリーズ 第11期』
- 11-1. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (1) 山崎羅春集』 2003年10月25日 著者：山崎羅春 発行：社団法人俳人協会
- 11-2. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (2) 泉紫像集』 2003年11月30日 著者：泉紫像 発行：社団法人俳人協会
- 11-3. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (3) 岡崎桂子集』 2003年11月30日 著者：岡崎桂子 発行：社団法人俳人協会
- 11-4. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (4) 成田清子集』 2003年12月15日 著者：成田清子 発行：社団法人俳人協会
- 11-5. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (5) 行方克巳集』 2003年12月25日 著者：行方克巳 発行：社団法人俳人協会
- 11-6. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (6) 坂本タカ女集』 2004年2月15日 著者：坂本タカ女 発行：社団法人俳人協会
- 11-7. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (7) 喜多みき子集』 2004年3月1日 著者：喜多みき子 発行：社団法人俳人協会
- 11-8. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (8) 本宮哲郎集』 2004年6月9日 著者：本宮哲郎 発行：社団法人俳人協会
- 11-9. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (9) 関口恭代集』 2004年7月10日 著者：関口恭代 発行：社団法人俳人協会
- 11-10. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (10) 黒坂紫陽子集』 2004年7月20日 著者：黒坂紫陽子 発行：社団法人俳人協会
- 11-11. 『自註現代俳句シリーズ 第11期 (11) 雨宮きぬよ集』 2004年9月20日 著者：雨宮きぬよ 発行：社団法人俳人協会
12. 『自註現代俳句シリーズ 続編』

- 12-1. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (1) 草間時彦集』 1998年9月10日 著者：草間時彦 発行：社団法人俳人協会
- 12-2. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (2) 森田峠集』 1999年11月25日 著者：森田峠 発行：社団法人俳人協会
- 12-3. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (3) 岸田稚魚集』 1985年4月1日 著者：岸田稚魚 発行：社団法人俳人協会
- 12-4. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (4) 山崎ひさを集』 1998年12月15日 著者：山崎ひさを 発行：社団法人俳人協会
- 12-5. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (5) 後藤比奈夫集』 1984年11月5日 著者：後藤比奈夫 発行：社団法人俳人協会
- 12-6. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (6) 大島民郎集』 2000年8月20日 著者：大島民郎 発行：社団法人俳人協会
- 12-7. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (7) 鷹羽狩行集』 1987年9月1日 著者：鷹羽狩行 発行：社団法人俳人協会
- 12-8. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (8) 宮津昭彦集』 2002年7月5日 著者：宮津昭彦 発行：社団法人俳人協会
- 12-9. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (9) 関森勝夫集』 1999年1月20日 著者：関森勝夫 発行：社団法人俳人協会
- 12-10. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (10) 松崎鉄之介集』 1999年6月10日 著者：松崎鉄之介 発行：社団法人俳人協会
- 12-11. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (11) 皆川盤水集』 2001年9月5日 著者：皆川盤水 発行：社団法人俳人協会
- 12-12. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (12) 星野麥丘人集』 2003年9月18日 著者：星野麥丘人 発行：社団法人俳人協会
- 12-13. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (13)』 未刊
- 12-14. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (14)』 未刊
- 12-15. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (15) 山田みづえ集』 1984年9月15日 著者：山田みづえ 発行：社団法人俳人協会
- 12-16. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (16)』 未刊
- 12-17. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (17) 岡田日郎集』 1993年12月10日 著者：岡田日郎 発行：社団法人俳人協会
- 12-18. 『自註現代俳句シリーズ 続編 (18) 古館曹人集』 1994年2月20日 著者：古館曹人 発行：社団法人俳人協会
13. 『脚註名句シリーズ I』
- 13-1. 『脚註名句シリーズ I (1) 秋元不死男集』 1984年2月25日 著者：秋元

- 不死男 脚註者：秋元阿喜 発行：社団法人俳人協会
- 13-2. 『脚註名句シリーズ I (2) 飯田蛇笏集』 1985年10月15日 著者：飯田蛇笏 脚註者：丸山哲郎 発行：社団法人俳人協会
- 13-3. 『脚註名句シリーズ I・(3) 石川桂郎集』 1994年12月10日 著者：石川桂郎 編者：手塚美佐 発行：社団法人俳人協会
- 13-4. 『脚註名句シリーズ I (4) 石田波郷集』 1984年5月5日 著者：石田波郷 脚註者：村沢夏風 発行：社団法人俳人協会
- 13-5. 『脚註名句シリーズ I (5) 大橋櫻坡子集』 1984年9月10日 著者：大橋櫻坡子 編者：大橋敦子 発行：社団法人俳人協会
- 13-6. 『脚註名句シリーズ I (6) 角川源義集』 1994年8月10日 著者：角川源義 編者：吉田鴻司 発行：社団法人俳人協会
- 13-7. 『脚註名句シリーズ I (7) 河野静雲集』 1985年2月25日 著者：河野静雲 脚註者：小原菁々子 発行：社団法人俳人協会
- 13-8. 『脚註名句シリーズ I (8) 後藤夜半集』 1984年10月5日 著者：後藤夜半 脚註者：後藤比奈夫 発行：社団法人俳人協会
- 13-9. 『脚註名句シリーズ I (9) 西東三鬼集』 1994年4月20日 著者：西東三鬼 編者：鈴木六林男 発行：社団法人俳人協会
- 13-10. 『脚註名句シリーズ I (10) 相馬遷子集』 1984年6月25日 著者：相馬遷子 脚註者：堀口星眠 発行：社団法人俳人協会
- 13-11. 『脚註名句シリーズ I (11) 橋本多佳子集』 1985年9月25日 著者：橋本多佳子 脚註者：橋本美代子 発行：社団法人俳人協会
- 13-12. 『脚註名句シリーズ I (12) 長谷川かな女集』 1995年3月10日 著者：長谷川かな女 編者：星野紗一 発行：社団法人俳人協会
- 13-13. 『脚註名句シリーズ I (13) 中村草田男集』 1990年3月10日 著者：中村草田男 編者：宮脇白夜 発行：社団法人俳人協会
- 13-14. 『脚註名句シリーズ I (14) 野村喜舟集』 1985年1月12日 著者：野村喜舟 脚註者：阿片瓢郎 発行：社団法人俳人協会
- 13-15. 『脚註名句シリーズ I (15) 水原秋櫻子集』 1987年11月5日 著者：水原秋櫻子 脚註者：徳田千鶴子 発行：社団法人俳人協会
- 13-16. 『脚註名句シリーズ I・(16) 富安風生集』 1995年8月10日 著者：富安風生 編者：清崎敏郎 発行：社団法人俳人協会
- 13-17. 『脚註名句シリーズ I (17) 星野立子集』 1986年3月3日 著者：星野立子 編者：星野椿 発行：社団法人俳人協会
- 13-18. 『脚註名句シリーズ I (18) 大野林火集』 1990年2月15日 著者：大野林火 脚註者：松崎鉄之介 発行：社団法人俳人協会

- 13-19. 『脚註名句シリーズ I (19) 岸風三樓集』 1990年11月20日 著者：岸風三樓 脚註者：周藤愛子 発行：社団法人俳人協会
- 13-20. 『脚註名句シリーズ I (20) 山口青邨集』 1989年12月1日 著者：山口青邨 編者：古舘曹人 発行：社団法人俳人協会
- 13-21. 『脚註名句シリーズ I (21) 福田蓼汀集』 1990年5月10日 著者：福田蓼汀 脚註者：岡田日郎 発行：社団法人俳人協会
- 13-22. 『脚註名句シリーズ I (22) 皆吉爽雨集』 1992年8月31日 著者：皆吉爽雨 編者：伊沢正江 発行：社団法人俳人協会
- 13-23. 『脚註名句シリーズ I (23) 安住敦集』 1994年7月8日 著者：安住敦 編者：成瀬櫻桃子 発行：社団法人俳人協会
- 13-24. 『脚註名句シリーズ I (24) 阿波野青畝集』 2000年4月10日 著者：阿波野青畝 脚註者：森田峠 発行：社団法人俳人協会

作品

1. 『四季随筆』

- 1-1. 『四季随筆〈春〉』 1977年4月25日 編集：社団法人俳人協会 発行：東京美術
 収録：早春〈紅梅（水原秋櫻子）／軒端の梅（安住敦）／西行法師・茶椀（阿波野青畝）／久しぶりに外出した父・ほか（星野立子）／立春（岸田稚魚）／富士川ダシ（上田五千石）／義仲寺の春（齋藤兼輔）／春諸題（皆吉爽雨）／雪解（渡辺千枝子）／沖縄の春（古舘曹人）／身辺小記（勝又一透）／仲春〈若狭より奈良へ（山口誓子）／蝶（石川桂郎）／蕪村の句碑（原コウ子）／年齢不問（岡本眸）／芽吹く道（加倉井秋を）／多佳子と雛の句（橋本美代子）／流し雛（大橋敦子）／春のカケス（土岐鍊太郎）／牡丹の芽（能村登四郎）／復活祭（古賀まり子）／曼殊院（鳥羽とほる）／春暁（堀口星眠）／桃間に合わず（相馬遷子）／黄色い花（五所平之助）／庭の中の記（山口青邨）／晩春〈三鬼の鉦（角川源義）／四月八日虚子忌（石田波郷）／吉備路・桃の花など（岸風三樓）／磯遊び（清崎敏郎）／雀々亭異変（小林清之介）／花菜明り他一題（稲垣きくの）／ふるさとにて（木村蕪城）／おにぎりの味（大場美夜子）／花ちるや（石井桐陰）／天女の泪（鳥越すみこ）／花吹雪（中村汀女）／さくらうぐい（細見綾子）／蛙声・三十年の花（中村草田男）／淡墨桜（大野林火）／里川の花・ほか（富安風生）／日記抄（水原秋櫻子）
- 1-2. 『四季随筆〈夏〉』 1977年8月5日 編集：社団法人俳人協会 発行：東京美術
 収録：初夏〈雑魚いろいろ（富安風生）／ビールの話（草間時彦）／終獵日の前後（渡辺夏舟）／粽（宮下翠舟）／三露（井沢正江）／隅田川（笠原てい子）／三社祭（杉本寛）／薔薇（不破博）／芭蕉玉巻く（辺見京子）／田植どき（本多静江）／「青葉

集」のこと（山田みづえ）／内灘（井上雪）／栃本（福田蓼汀）／青葉（中村草田男）／仲夏〈鮎の一生（水原秋櫻子）／鶺鴒（岸風三樓）／朴の花（石田あき子）／ボルネオの守宮・蟹（橋本風車）／螢（鷹羽狩行）／リサ（渡辺千枝子）／河童（吉田洋一）／螢放生（石川昌子）／霧島（福永耕二）／山女魚・ほか（桂樟蹊子）／鞍馬の竹伐り（鈴木白紙）／ほととぎす（細見綾子）／目くら（中村草田男）／目傘（中村汀女）／晩夏〈蟬と蠨螂（山口青邨）／夏雑記（堀口星眠）／夏の日（鈴木真砂女）／飛魚（佐野まもる）／滝（右城暮石）／組上（龍岡晋）／昆虫二題（小林清之介）／信濃路晩夏（木下子龍）／曇日記（星野立子）／青花紙（大野林火）／終戦の夏（皆吉爽雨）／長崎へ（山口誓子）／赤富士（富安風生）

1-3. 『四季随筆〈秋〉』 1977年11月5日 編集：社団法人俳人協会 発行：東京美術

収録：初秋〈七夕（阿部みどり女）／小諸二題（星野立子）／佃島残暑（岩崎健一）／新津松阪（石塚友二）／水引草の家（斎藤夏風）／精霊流し・ほか一題（下村ひろし）／私の八月十五日（秋元不死男）／木槿（吉野義子）／旧盆すぎ（黒田櫻の園）／秋二題（浦野芳南）／星月夜（米谷静二）／ローマを訪ねて（阿波野青畝）／仲秋〈邯鄲（富安風生）／秋草（山口青邨）／北海道瞥見記（大島民郎）／灯火親し（宮津昭彦）／萩（西山誠）／栗の生り年（皆川白陀）／虫の雑記帳（柳田静爾楼）／屋根石（池上樵人）／十五夜ご用心（牛山一庭人）／仏の眼鹿の眼（野沢節子）／秩父の名月（堀古蝶）／老の秋（相生垣瓜人）／葉けいとう（柴田白葉女）／秋夜点綴（平井さち子）／九月尽（村山古郷）／椎の実をもらった（阿波野青畝）／晩秋〈豊年踊（水原秋櫻子）／修学院離宮（星野立子）／菊供養（安住敦）／天高し（香西照雄）／雁（大串章）／晩秋の古寺を訪ねて（野見山朱鳥）／菊と下町（石川桂郎）／秋祭（大竹きみ江）／神代酒（百合山羽公）／秋祭のあと（宮野小提灯）／酒欲り時（神蔵器）／島路山（橋本鶏二）／宇陀の阿騎野（下村梅子）／父の還暦（根岸善雄）／赤いベレー帽（福田蓼汀）／山村秋深く（富安風生）

1-4. 『四季随筆〈冬〉』 1977年12月15日 編集：社団法人俳人協会 発行：東京美術

収録：初冬〈宝篋印塔（星野立子）／輪祭（野口里井）／冬の蓑虫（鍵岡勉）／私の植物誌（赤堀秋荷）／単独行（小野宏文）／綿虫（成瀬櫻桃子）／霜月（鳥羽とほる）／鉄砲（米沢吾亦紅）／冬の虫（松村蒼石）／霰降るころ（有働亨）／「つめたいのね」（吉田洋一）／鳩（能村登四郎）／遊行寺の一寸火（角川源義）／近所界限（富安風生）／仲冬〈望岳行（水原秋櫻子）／雪吊（中西舗土）／「十二月八日の便り」（大場美夜子）／鳴滝の大根焚（但馬美作）／巴里の雪（立花豊子）／冬山（橋本鶏二）／名塩紙（森田峠）／雪のはなし（山下寿美）／冬の泉（小林波留）／冬の夜の（稲垣きくの）／路地の冬（菖蒲あや）／水行（角田拾翠）／ふるさとの師走（西村公鳳）

／モンマルトルの綿菓子（小池文子）／暮の虚子庵（大橋櫻坡子）／晩冬〈雪の旅（阿波野青畝）／冬の散歩道（秋元不死男）／八代の鶴（那須乙郎）／馬櫓（新明紫明）／高遠の冬（皆川盤水）／小木の宿（岸田稚魚）／暗い裸婦像（加藤三七子）／寒牡丹（宮井港青）／雪（町春草）／雪月夜（斎藤兼輔）／伊良湖岬（野澤節子）／鶴の旅（赤松＝子）／雪を降らす話（中火臣）／冬杣（松崎鉄之介）／山鳥到来（山口青邨）〉

2. 『俳人協会大会作品集』 1986年4月1日 編集：森田峠 発行：社団法人俳人協会
3. 『俳句カレンダー鑑賞』 2001年10月5日 編者：社団法人俳人協会 発行：梅里書房

収録：はじめに（松崎鉄之介）／一月の句／二月の句／三月の句／四月の句／五月の句／六月の句／七月の句／八月の句／九月の句／十月の句／十一月の句／十二月の句／作者名索引／執筆者名索引／あとがき（岡田日郎）

全集

1. 『現代俳句選集』

- 1-1. 『現代俳句選集 第一集』 1964年11月15日 編集：大野林火 発行：社団法人俳人協会
- 1-2. 『現代俳句選集 第二集』 1967年11月15日 編集：角川源義 発行：社団法人俳人協会
- 1-3. 『現代俳句選集 第三集』 1970年10月30日 編集：角川源義 発行：社団法人俳人協会
- 1-4. 『現代俳句選集 第四集』 1973年11月1日 編集：香西照雄 発行：社団法人俳人協会
- 1-5. 『現代俳句選集 第五集』
 - 1-5-1. 『現代俳句選集 第五集 上』 1977年6月1日 編集：香西照雄 発行：社団法人俳人協会
 - 1-5-2. 『現代俳句選集 第五集 下』 1977年6月1日 編集：香西照雄 発行：社団法人俳人協会
- 1-6. 『現代俳句選集 第六集』
 - 1-6-1. 『現代俳句選集 第六集 上』 1980年7月1日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会
 - 1-6-2. 『現代俳句選集 第六集 下』 1980年7月1日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会
- 1-7. 『現代俳句選集 第七集』 1984年10月30日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会

- 1-8. 『現代俳句選集 第八集』 1987年10月1日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会
2. 『俳人協会新人賞作品集』
- 2-1. 『俳人協会新人賞作品集』 1987年9月15日 編集：社団法人俳人協会 発行：永田書房
- 2-2. 『俳人協会新人賞作品集（第二集）』 1997年10月30日 編集：社団法人俳人協会 発行：永田書房
3. 『季題別現代俳句選集』
- 3-1. 『季題別現代俳句選集 平成五年』 1993年1月20日 編集：原裕 発行：社団法人俳人協会
- 3-2. 『季題別現代俳句選集 平成九年』 1997年1月30日 編集：成瀬櫻桃子 発行：社団法人俳人協会
- 3-3. 『季題別現代俳句選集 平成十三年』 2001年4月1日 編集：斎藤夏風 発行：社団法人俳人協会

館報

1. 『俳人協会々報』 → 『俳人協會會報』 → 『俳人協會々報』 → 『俳句文学館』
- 1-1. 『俳人協会々報』 第1号 1962年5月 目次無し
- 1-2. 『俳人協会々報』 第2号 1962年7月 目次無し
- 1-3. 『俳人協会々報』 第3号 1963年2月 目次無し
- 1-4. 『俳人協会々報』 第4号 1963年7月 目次無し
- 1-5. 『俳人協会々報』 第5号 1963年10月 目次無し
- 1-6. 『俳人協会々報』 第6号 1964年2月 目次無し
- 1-7. 『俳人協会々報』 第7号 1964年5月 目次無し
- 1-8. 『俳人協会々報』 第8号 1964年7月 目次無し
- 1-9. 『俳人協会々報』 第9号 1964年12月 目次無し
- 1-10. 『俳人協會會報』 第10号 1965年2月 目次無し
- 1-11. 『俳人協會會報』 第11号 1965年4月 目次無し
- 1-12. 『俳人協會會報』 第12号 1965年7月 目次無し
- 1-13. 『俳人協會會報』 第13号 1965年9月 目次無し
- 1-14. 『俳人協會會報』 第14号 1966年1月 目次無し
- 1-15. 『俳人協會會報』 第15号 1966年3月 目次無し
- 1-16. 『俳人協會會報』 第16号 1966年5月 目次無し
- 1-17. 『俳人協會會報』 第17号 1966年7月 目次無し
- 1-18. 『俳人協會會報』 第18号 1966年11月 目次無し

1-19.	『俳人協會會報』	第 19 号	1967 年 1 月 15 日	目次無し
1-20.	『俳人協會會報』	第 20 号	1967 年 3 月 1 日	目次無し
1-21.	『俳人協會會報』	第 21 号	1967 年 5 月 1 日	目次無し
1-22.	『俳人協會會報』	第 22 号	1967 年 8 月	目次無し
1-23.	『俳人協會會報』	第 23 号	1968 年 1 月	目次無し
1-24.	『俳人協會會報』	第 24 号	1968 年 3 月	目次無し
1-25.	『俳人協會會報』	第 25 号	1968 年 6 月 1 日	目次無し
1-26.	『俳人協會會報』	第 26 号	1968 年 9 月 1 日	目次無し
1-27.	『俳人協會會報』	第 27 号	1969 年 2 月 1 日	目次無し
1-28.	『俳人協會會報』	第 28 号	1969 年 7 月 1 日	目次無し
1-29.	『俳人協會會報』	第 29 号	1969 年 11 月 1 日	目次無し
1-30.	『俳人協會會報』	第 30 号	1970 年 2 月 1 日	目次無し
1-31.	『俳人協會會報』	第 31 号	1970 年 3 月 15 日	目次無し
1-32.	『俳人協會々報』	第 32 号	1970 年 6 月 15 日	目次無し
1-33.	『俳人協會々報』	第 33 号	1970 年 10 月 1 日	目次無し
1-34.	『俳人協會々報』	第 34 号	1970 年 12 月 1 日	目次無し
1-35.	『俳人協會々報』	第 35 号	1971 年 2 月 20 日	目次無し
1-36.	『俳人協會々報』	第 36 号	1971 年 7 月 20 日	目次無し
1-37.	『俳人協會々報』	第 37 号	1971 年 8 月 20 日	目次無し
1-38.	『俳人協會々報』	第 38 号	1971 年 9 月 20 日	目次無し
1-39.	『俳人協會々報』	第 39 号	1971 年 10 月 20 日	目次無し
1-40.	『俳人協會々報』	第 40 号	1971 年 12 月 20 日	目次無し
1-41.	『俳人協會々報』	第 41 号	1972 年 1 月 20 日	目次無し
1-42.	『俳人協會々報』	第 42 号	1972 年 3 月 20 日	目次無し
1-43.	『俳人協會々報』	第 43 号	1972 年 5 月 20 日	目次無し
1-44.	『俳人協會々報』	第 44 号	1972 年 6 月 20 日	目次無し
1-45.	『俳人協會々報』	第 45 号	1972 年 8 月 20 日	目次無し
1-46.	『俳人協會々報』	第 46 号	1972 年 10 月 20 日	目次無し
1-47.	『俳人協會々報』	第 47 号	1973 年 2 月 10 日	目次無し
1-48.	『俳人協會々報』	第 48 号	1973 年 3 月 20 日	目次無し
1-49.	『俳人協會々報』	第 49 号	1973 年 5 月 10 日	目次無し
1-50.	『俳人協會々報』	第 50 号	1973 年 6 月 20 日	目次無し
1-51.	『俳人協會々報』	第 51 号	1973 年 8 月 1 日	目次無し
1-52.	『俳人協會々報』	第 52 号	1973 年 9 月 1 日	目次無し
1-53.	『俳人協會々報』	第 53 号	1973 年 11 月 1 日	目次無し

- 1-54. 『俳人協會々報』 第 54 号 1974 年 2 月 1 日 目次無し
1-55. 『俳人協會々報』 第 55 号 1974 年 3 月 1 日 目次無し
1-56. 『俳人協會々報』 第 56 号 1974 年 5 月 1 日 目次無し
1-57. 『俳人協會々報』 第 57 号 1974 年 7 月 1 日 目次無し
1-58. 『俳人協會々報』 第 58 号 1974 年 9 月 1 日 目次無し
1-59. 『俳人協會々報』 第 59 号 1974 年 12 月 1 日 目次無し
1-60. 『俳人協會々報』 第 60 号 1975 年 2 月 1 日 目次無し
1-61. 『俳人協會々報』 第 61 号 1975 年 4 月 1 日 目次無し
1-62. 『俳人協會々報』 第 62 号 1975 年 7 月 1 日 目次無し
1-63. 『俳人協會々報』 第 63 号 1975 年 8 月 1 日 目次無し
1-64. 『俳人協會々報』 第 64 号 1975 年 9 月 15 日 目次無し
1-65. 『俳人協會々報』 第 65 号 1975 年 11 月 1 日 目次無し
1-66. 『俳人協會々報』 第 66 号 1975 年 12 月 1 日 目次無し
1-67. 『俳人協會々報』 第 67 号 1976 年 2 月 1 日 目次無し
1-68. 『俳人協會々報』 第 68 号 1976 年 4 月 15 日 目次無し
1-69. 『俳人協會々報』 第 69 号 1976 年 6 月 1 日 目次無し
1-70. 『俳人協會々報』 第 70 号 1976 年 8 月 20 日 目次無し
1-71. 『俳人協會々報』 第 71 号 1976 年 10 月 20 日 目次無し
1-72. 『俳人協會々報』 第 72 号 1976 年 12 月 10 日 目次無し
1-73. 『俳人協會々報』 第 73 号 1977 年 3 月 10 日 目次無し
1-74. 『俳人協會々報』 第 74 号 1977 年 5 月 20 日 目次無し
1-75. 『俳句文学館』 第 75 号 1977 年 7 月 5 日 目次無し
1-76. 『俳句文学館』 第 76 号 1977 年 8 月 5 日 目次無し
1-77. 『俳句文学館』 第 77 号 1977 年 9 月 5 日 目次無し
1-78. 『俳句文学館』 第 78 号 1977 年 10 月 5 日 目次無し
1-79. 『俳句文学館』 第 79 号 1977 年 11 月 5 日 目次無し
1-80. 『俳句文学館』 第 80 号 1977 年 12 月 5 日 目次無し
1-81. 『俳句文学館』 第 81 号 1978 年 1 月 1 日 目次無し
1-82. 『俳句文学館』 第 82 号 1978 年 2 月 5 日 目次無し
1-83. 『俳句文学館』 第 83 号 1978 年 3 月 5 日 目次無し
1-84. 『俳句文学館』 第 84 号 1978 年 4 月 5 日 目次無し
1-85. 『俳句文学館』 第 85 号 1978 年 5 月 5 日 目次無し
1-86. 『俳句文学館』 第 86 号 1978 年 6 月 5 日 目次無し
1-87. 『俳句文学館』 第 87 号 1978 年 7 月 5 日 目次無し
1-88. 『俳句文学館』 第 88 号 1978 年 8 月 5 日 目次無し

- 1-89. 『俳句文学館』 第 89 号 1978 年 9 月 5 日 目次無し
1-90. 『俳句文学館』 第 90 号 1978 年 10 月 5 日 目次無し
1-91. 『俳句文学館』 第 91 号 1978 年 11 月 5 日 目次無し
1-92. 『俳句文学館』 第 92 号 1978 年 12 月 5 日 目次無し
1-93. 『俳句文学館』 第 93 号 1979 年 1 月 5 日 目次無し
1-94. 『俳句文学館』 第 94 号 1979 年 2 月 5 日 目次無し
1-95. 『俳句文学館』 第 95 号 1979 年 3 月 5 日 目次無し
1-96. 『俳句文学館』 第 96 号 1979 年 4 月 5 日 目次無し
1-97. 『俳句文学館』 第 97 号 1979 年 5 月 5 日 目次無し
1-98. 『俳句文学館』 第 98 号 1979 年 6 月 5 日 目次無し
1-99. 『俳句文学館』 第 99 号 1979 年 7 月 5 日 目次無し
1-100. 『俳句文学館』 第 100 号 1979 年 8 月 5 日 目次無し
1-101. 『俳句文学館』 第 101 号 1979 年 9 月 5 日 目次無し
1-102. 『俳句文学館』 第 102 号 1979 年 10 月 5 日 目次無し
1-103. 『俳句文学館』 第 103 号 1979 年 11 月 5 日 目次無し
1-104. 『俳句文学館』 第 104 号 1979 年 12 月 5 日 目次無し
1-105. 『俳句文学館』 第 105 号 1980 年 1 月 5 日 目次無し
1-106. 『俳句文学館』 第 106 号 1980 年 2 月 5 日 目次無し
1-107. 『俳句文学館』 第 107 号 1980 年 3 月 5 日 目次無し
1-108. 『俳句文学館』 第 108 号 1980 年 4 月 5 日 目次無し
1-109. 『俳句文学館』 第 109 号 1980 年 5 月 5 日 目次無し
1-110. 『俳句文学館』 第 110 号 1980 年 6 月 5 日 目次無し
1-111. 『俳句文学館』 第 111 号 1980 年 7 月 5 日 目次無し
1-112. 『俳句文学館』 第 112 号 1980 年 8 月 5 日 目次無し
1-113. 『俳句文学館』 第 113 号 1980 年 9 月 5 日 目次無し
1-114. 『俳句文学館』 第 114 号 1980 年 10 月 5 日 目次無し
1-115. 『俳句文学館』 第 115 号 1980 年 11 月 5 日 目次無し
1-116. 『俳句文学館』 第 116 号 1980 年 12 月 5 日 目次無し
1-117. 『俳句文学館』 第 117 号 1981 年 1 月 5 日 目次無し
1-118. 『俳句文学館』 第 118 号 1981 年 2 月 5 日 目次無し
1-119. 『俳句文学館』 第 119 号 1981 年 3 月 5 日 目次無し
1-120. 『俳句文学館』 第 120 号 1981 年 4 月 5 日 目次無し
1-121. 『俳句文学館』 第 121 号 1981 年 5 月 5 日 目次無し
1-122. 『俳句文学館』 第 122 号 1981 年 6 月 5 日 目次無し
1-123. 『俳句文学館』 第 123 号 1981 年 7 月 5 日 目次無し

1-124.	『俳句文学館』	第 124 号	1981 年 8 月 5 日	目次無し
1-125.	『俳句文学館』	第 125 号	1981 年 9 月 5 日	目次無し
1-126.	『俳句文学館』	第 126 号	1981 年 10 月 5 日	目次無し
1-127.	『俳句文学館』	第 127 号	1981 年 11 月 5 日	目次無し
1-128.	『俳句文学館』	第 128 号	1981 年 12 月 5 日	目次無し
1-129.	『俳句文学館』	第 129 号	1982 年 1 月 5 日	目次無し
1-130.	『俳句文学館』	第 130 号	1982 年 2 月 5 日	目次無し
1-131.	『俳句文学館』	第 131 号	1982 年 3 月 5 日	目次無し
1-132.	『俳句文学館』	第 132 号	1982 年 4 月 5 日	目次無し
1-133.	『俳句文学館』	第 133 号	1982 年 5 月 5 日	目次無し
1-134.	『俳句文学館』	第 134 号	1982 年 6 月 5 日	目次無し
1-135.	『俳句文学館』	第 135 号	1982 年 7 月 5 日	目次無し
1-136.	『俳句文学館』	第 136 号	1982 年 8 月 5 日	目次無し
1-137.	『俳句文学館』	第 137 号	1982 年 9 月 5 日	目次無し
1-138.	『俳句文学館』	第 138 号	1982 年 10 月 5 日	目次無し
1-139.	『俳句文学館』	第 139 号	1982 年 11 月 5 日	目次無し
1-140.	『俳句文学館』	第 140 号	1982 年 12 月 5 日	目次無し
1-141.	『俳句文学館』	第 141 号	1983 年 1 月 5 日	目次無し
1-142.	『俳句文学館』	第 142 号	1983 年 2 月 5 日	目次無し
1-143.	『俳句文学館』	第 143 号	1983 年 3 月 5 日	目次無し
1-144.	『俳句文学館』	第 144 号	1983 年 4 月 5 日	目次無し
1-145.	『俳句文学館』	第 145 号	1983 年 5 月 5 日	目次無し
1-146.	『俳句文学館』	第 146 号	1983 年 6 月 5 日	目次無し
1-147.	『俳句文学館』	第 147 号	1983 年 7 月 5 日	目次無し
1-148.	『俳句文学館』	第 148 号	1983 年 8 月 5 日	目次無し
1-149.	『俳句文学館』	第 149 号	1983 年 9 月 5 日	目次無し
1-150.	『俳句文学館』	第 150 号	1983 年 10 月 5 日	目次無し
1-151.	『俳句文学館』	第 151 号	1983 年 11 月 5 日	目次無し
1-152.	『俳句文学館』	第 152 号	1983 年 12 月 5 日	目次無し
1-153.	『俳句文学館』	第 153 号	1984 年 1 月 5 日	目次無し
1-154.	『俳句文学館』	第 154 号	1984 年 2 月 5 日	目次無し
1-155.	『俳句文学館』	第 155 号	1984 年 3 月 5 日	目次無し
1-156.	『俳句文学館』	第 156 号	1984 年 4 月 5 日	目次無し
1-157.	『俳句文学館』	第 157 号	1984 年 5 月 5 日	目次無し
1-158.	『俳句文学館』	第 158 号	1984 年 6 月 5 日	目次無し

1-159.	『俳句文学館』	第 159 号	1984 年 7 月 5 日	目次無し
1-160.	『俳句文学館』	第 160 号	1984 年 8 月 5 日	目次無し
1-161.	『俳句文学館』	第 161 号	1984 年 9 月 5 日	目次無し
1-162.	『俳句文学館』	第 162 号	1984 年 10 月 5 日	目次無し
1-163.	『俳句文学館』	第 163 号	1984 年 11 月 5 日	目次無し
1-164.	『俳句文学館』	第 164 号	1984 年 12 月 5 日	目次無し
1-165.	『俳句文学館』	第 165 号	1985 年 1 月 5 日	目次無し
1-166.	『俳句文学館』	第 166 号	1985 年 2 月 5 日	目次無し
1-167.	『俳句文学館』	第 167 号	1985 年 3 月 5 日	目次無し
1-168.	『俳句文学館』	第 168 号	1985 年 4 月 5 日	目次無し
1-169.	『俳句文学館』	第 169 号	1985 年 5 月 5 日	目次無し
1-170.	『俳句文学館』	第 170 号	1985 年 6 月 5 日	目次無し
1-171.	『俳句文学館』	第 171 号	1985 年 7 月 5 日	目次無し
1-172.	『俳句文学館』	第 172 号	1985 年 8 月 5 日	目次無し
1-173.	『俳句文学館』	第 173 号	1985 年 9 月 5 日	目次無し
1-174.	『俳句文学館』	第 174 号	1985 年 10 月 5 日	目次無し
1-175.	『俳句文学館』	第 175 号	1985 年 11 月 5 日	目次無し
1-176.	『俳句文学館』	第 176 号	1985 年 12 月 5 日	目次無し
1-177.	『俳句文学館』	第 177 号	1986 年 1 月 5 日	目次無し
1-178.	『俳句文学館』	第 178 号	1986 年 2 月 5 日	目次無し
1-179.	『俳句文学館』	第 179 号	1986 年 3 月 5 日	目次無し
1-180.	『俳句文学館』	第 180 号	1986 年 4 月 5 日	目次無し
1-181.	『俳句文学館』	第 181 号	1986 年 5 月 5 日	目次無し
1-182.	『俳句文学館』	第 182 号	1986 年 6 月 5 日	目次無し
1-183.	『俳句文学館』	第 183 号	1986 年 7 月 5 日	目次無し
1-184.	『俳句文学館』	第 184 号	1986 年 8 月 5 日	目次無し
1-185.	『俳句文学館』	第 185 号	1986 年 9 月 5 日	目次無し
1-186.	『俳句文学館』	第 186 号	1986 年 10 月 5 日	目次無し
1-187.	『俳句文学館』	第 187 号	1986 年 11 月 5 日	目次無し
1-188.	『俳句文学館』	第 188 号	1986 年 12 月 5 日	目次無し
1-189.	『俳句文学館』	第 189 号	1987 年 1 月 5 日	目次無し
1-190.	『俳句文学館』	第 190 号	1987 年 2 月 5 日	目次無し
1-191.	『俳句文学館』	第 191 号	1987 年 3 月 5 日	目次無し
1-192.	『俳句文学館』	第 192 号	1987 年 4 月 5 日	目次無し
1-193.	『俳句文学館』	第 193 号	1987 年 5 月 5 日	目次無し

1-194.	『俳句文学館』	第 194 号	1987 年 6 月 5 日	目次無し
1-195.	『俳句文学館』	第 195 号	1987 年 7 月 5 日	目次無し
1-196.	『俳句文学館』	第 196 号	1987 年 8 月 5 日	目次無し
1-197.	『俳句文学館』	第 197 号	1987 年 9 月 5 日	目次無し
1-198.	『俳句文学館』	第 198 号	1987 年 10 月 5 日	目次無し
1-199.	『俳句文学館』	第 199 号	1987 年 11 月 5 日	目次無し
1-200.	『俳句文学館』	第 200 号	1987 年 12 月 5 日	目次無し
1-201.	『俳句文学館』	第 201 号	1988 年 1 月 5 日	目次無し
1-202.	『俳句文学館』	第 202 号	1988 年 2 月 5 日	目次無し
1-203.	『俳句文学館』	第 203 号	1988 年 3 月 5 日	目次無し
1-204.	『俳句文学館』	第 204 号	1988 年 4 月 5 日	目次無し
1-205.	『俳句文学館』	第 205 号	1988 年 5 月 5 日	目次無し
1-206.	『俳句文学館』	第 206 号	1988 年 6 月 5 日	目次無し
1-207.	『俳句文学館』	第 207 号	1988 年 7 月 5 日	目次無し
1-208.	『俳句文学館』	第 208 号	1988 年 8 月 5 日	目次無し
1-209.	『俳句文学館』	第 209 号	1988 年 9 月 5 日	目次無し
1-210.	『俳句文学館』	第 210 号	1988 年 10 月 5 日	目次無し
1-211.	『俳句文学館』	第 211 号	1988 年 11 月 5 日	目次無し
1-212.	『俳句文学館』	第 212 号	1988 年 12 月 5 日	目次無し
1-213.	『俳句文学館』	第 213 号	1989 年 1 月 5 日	目次無し
1-214.	『俳句文学館』	第 214 号	1989 年 2 月 5 日	目次無し
1-215.	『俳句文学館』	第 215 号	1989 年 3 月 5 日	目次無し
1-216.	『俳句文学館』	第 216 号	1989 年 4 月 5 日	目次無し
1-217.	『俳句文学館』	第 217 号	1989 年 5 月 5 日	目次無し
1-218.	『俳句文学館』	第 218 号	1989 年 6 月 5 日	目次無し
1-219.	『俳句文学館』	第 219 号	1989 年 7 月 5 日	目次無し
1-220.	『俳句文学館』	第 220 号	1989 年 8 月 5 日	目次無し
1-221.	『俳句文学館』	第 221 号	1989 年 9 月 5 日	目次無し
1-222.	『俳句文学館』	第 222 号	1989 年 10 月 5 日	目次無し
1-223.	『俳句文学館』	第 223 号	1989 年 11 月 5 日	目次無し
1-224.	『俳句文学館』	第 224 号	1989 年 12 月 5 日	目次無し
1-225.	『俳句文学館』	第 225 号	1990 年 1 月 5 日	目次無し
1-226.	『俳句文学館』	第 226 号	1990 年 2 月 5 日	目次無し
1-227.	『俳句文学館』	第 227 号	1990 年 3 月 5 日	目次無し
1-228.	『俳句文学館』	第 228 号	1990 年 4 月 5 日	目次無し

1-229.	『俳句文学館』	第 229 号	1990 年 5 月 5 日	目次無し
1-230.	『俳句文学館』	第 230 号	1990 年 6 月 5 日	目次無し
1-231.	『俳句文学館』	第 231 号	1990 年 7 月 5 日	目次無し
1-232.	『俳句文学館』	第 232 号	1990 年 8 月 5 日	目次無し
1-233.	『俳句文学館』	第 233 号	1990 年 9 月 5 日	目次無し
1-234.	『俳句文学館』	第 234 号	1990 年 10 月 5 日	目次無し
1-235.	『俳句文学館』	第 235 号	1990 年 11 月 5 日	目次無し
1-236.	『俳句文学館』	第 236 号	1990 年 12 月 5 日	目次無し
1-237.	『俳句文学館』	第 237 号	1991 年 1 月 5 日	目次無し
1-238.	『俳句文学館』	第 238 号	1991 年 2 月 5 日	目次無し
1-239.	『俳句文学館』	第 239 号	1991 年 3 月 5 日	目次無し
1-240.	『俳句文学館』	第 240 号	1991 年 4 月 5 日	目次無し
1-241.	『俳句文学館』	第 241 号	1991 年 5 月 5 日	目次無し
1-242.	『俳句文学館』	第 242 号	1991 年 6 月 5 日	目次無し
1-243.	『俳句文学館』	第 243 号	1991 年 7 月 5 日	目次無し
1-244.	『俳句文学館』	第 244 号	1991 年 8 月 5 日	目次無し
1-245.	『俳句文学館』	第 245 号	1991 年 9 月 5 日	目次無し
1-246.	『俳句文学館』	第 246 号	1991 年 10 月 5 日	目次無し
1-247.	『俳句文学館』	第 247 号	1991 年 11 月 5 日	目次無し
1-248.	『俳句文学館』	第 248 号	1991 年 12 月 5 日	目次無し
1-249.	『俳句文学館』	第 249 号	1992 年 1 月 5 日	目次無し
1-250.	『俳句文学館』	第 250 号	1992 年 2 月 5 日	目次無し
1-251.	『俳句文学館』	第 251 号	1992 年 3 月 5 日	目次無し
1-252.	『俳句文学館』	第 252 号	1992 年 4 月 5 日	目次無し
1-253.	『俳句文学館』	第 253 号	1992 年 5 月 5 日	目次無し
1-254.	『俳句文学館』	第 254 号	1992 年 6 月 5 日	目次無し
1-255.	『俳句文学館』	第 255 号	1992 年 7 月 5 日	目次無し
1-256.	『俳句文学館』	第 256 号	1992 年 8 月 5 日	目次無し
1-257.	『俳句文学館』	第 257 号	1992 年 9 月 5 日	目次無し
1-258.	『俳句文学館』	第 258 号	1992 年 10 月 5 日	目次無し
1-259.	『俳句文学館』	第 259 号	1992 年 11 月 5 日	目次無し
1-260.	『俳句文学館』	第 260 号	1992 年 12 月 5 日	目次無し
1-261.	『俳句文学館』	第 261 号	1993 年 1 月 5 日	目次無し
1-262.	『俳句文学館』	第 262 号	1993 年 2 月 5 日	目次無し
1-263.	『俳句文学館』	第 263 号	1993 年 3 月 5 日	目次無し

1-264.	『俳句文学館』	第 264 号	1993 年 4 月 5 日	目次無し
1-265.	『俳句文学館』	第 265 号	1993 年 5 月 5 日	目次無し
1-266.	『俳句文学館』	第 266 号	1993 年 6 月 5 日	目次無し
1-267.	『俳句文学館』	第 267 号	1993 年 7 月 5 日	目次無し
1-268.	『俳句文学館』	第 268 号	1993 年 8 月 5 日	目次無し
1-269.	『俳句文学館』	第 269 号	1993 年 9 月 5 日	目次無し
1-270.	『俳句文学館』	第 270 号	1993 年 10 月 5 日	目次無し
1-271.	『俳句文学館』	第 271 号	1993 年 11 月 5 日	目次無し
1-272.	『俳句文学館』	第 272 号	1993 年 12 月 5 日	目次無し
1-273.	『俳句文学館』	第 273 号	1994 年 1 月 5 日	目次無し
1-274.	『俳句文学館』	第 274 号	1994 年 2 月 5 日	目次無し
1-275.	『俳句文学館』	第 275 号	1994 年 3 月 5 日	目次無し
1-276.	『俳句文学館』	第 276 号	1994 年 4 月 5 日	目次無し
1-277.	『俳句文学館』	第 277 号	1994 年 5 月 5 日	目次無し
1-278.	『俳句文学館』	第 278 号	1994 年 6 月 5 日	目次無し
1-279.	『俳句文学館』	第 279 号	1994 年 7 月 5 日	目次無し
1-280.	『俳句文学館』	第 280 号	1994 年 8 月 5 日	目次無し
1-281.	『俳句文学館』	第 281 号	1994 年 9 月 5 日	目次無し
1-282.	『俳句文学館』	第 282 号	1994 年 10 月 5 日	目次無し
1-283.	『俳句文学館』	第 283 号	1994 年 11 月 5 日	目次無し
1-284.	『俳句文学館』	第 284 号	1994 年 12 月 5 日	目次無し
1-285.	『俳句文学館』	第 285 号	1995 年 1 月 5 日	目次無し
1-286.	『俳句文学館』	第 286 号	1995 年 2 月 5 日	目次無し
1-287.	『俳句文学館』	第 287 号	1995 年 3 月 5 日	目次無し
1-288.	『俳句文学館』	第 288 号	1995 年 4 月 5 日	目次無し
1-289.	『俳句文学館』	第 289 号	1995 年 5 月 5 日	目次無し
1-290.	『俳句文学館』	第 290 号	1995 年 6 月 5 日	目次無し
1-291.	『俳句文学館』	第 291 号	1995 年 7 月 5 日	目次無し
1-292.	『俳句文学館』	第 292 号	1995 年 8 月 5 日	目次無し
1-293.	『俳句文学館』	第 293 号	1995 年 9 月 5 日	目次無し
1-294.	『俳句文学館』	第 294 号	1995 年 10 月 5 日	目次無し
1-295.	『俳句文学館』	第 295 号	1995 年 11 月 5 日	目次無し
1-296.	『俳句文学館』	第 296 号	1995 年 12 月 5 日	目次無し
1-297.	『俳句文学館』	第 297 号	1996 年 1 月 5 日	目次無し
1-298.	『俳句文学館』	第 298 号	1996 年 2 月 5 日	目次無し

1-299.	『俳句文学館』	第 299 号	1996 年 3 月 5 日	目次無し
1-300.	『俳句文学館』	第 300 号	1996 年 4 月 5 日	目次無し
1-301.	『俳句文学館』	第 301 号	1996 年 5 月 5 日	目次無し
1-302.	『俳句文学館』	第 302 号	1996 年 6 月 5 日	目次無し
1-303.	『俳句文学館』	第 303 号	1996 年 7 月 5 日	目次無し
1-304.	『俳句文学館』	第 304 号	1996 年 8 月 5 日	目次無し
1-305.	『俳句文学館』	第 305 号	1996 年 9 月 5 日	目次無し
1-306.	『俳句文学館』	第 306 号	1996 年 10 月 5 日	目次無し
1-307.	『俳句文学館』	第 307 号	1996 年 11 月 5 日	目次無し
1-308.	『俳句文学館』	第 308 号	1996 年 12 月 5 日	目次無し
1-309.	『俳句文学館』	第 309 号	1997 年 1 月 5 日	目次無し
1-310.	『俳句文学館』	第 310 号	1997 年 2 月 5 日	目次無し
1-311.	『俳句文学館』	第 311 号	1997 年 3 月 5 日	目次無し
1-312.	『俳句文学館』	第 312 号	1997 年 4 月 5 日	目次無し
1-313.	『俳句文学館』	第 313 号	1997 年 5 月 5 日	目次無し
1-314.	『俳句文学館』	第 314 号	1997 年 6 月 5 日	目次無し
1-315.	『俳句文学館』	第 315 号	1997 年 7 月 5 日	目次無し
1-316.	『俳句文学館』	第 316 号	1997 年 8 月 5 日	目次無し
1-317.	『俳句文学館』	第 317 号	1997 年 9 月 5 日	目次無し
1-318.	『俳句文学館』	第 318 号	1997 年 10 月 5 日	目次無し
1-319.	『俳句文学館』	第 319 号	1997 年 11 月 5 日	目次無し
1-320.	『俳句文学館』	第 320 号	1997 年 12 月 5 日	目次無し
1-321.	『俳句文学館』	第 321 号	1998 年 1 月 5 日	目次無し
1-322.	『俳句文学館』	第 322 号	1998 年 2 月 5 日	目次無し
1-323.	『俳句文学館』	第 323 号	1998 年 3 月 5 日	目次無し
1-324.	『俳句文学館』	第 324 号	1998 年 4 月 5 日	目次無し
1-325.	『俳句文学館』	第 325 号	1998 年 5 月 5 日	目次無し
1-326.	『俳句文学館』	第 326 号	1998 年 6 月 5 日	目次無し
1-327.	『俳句文学館』	第 327 号	1998 年 7 月 5 日	目次無し
1-328.	『俳句文学館』	第 328 号	1998 年 8 月 5 日	目次無し
1-329.	『俳句文学館』	第 329 号	1998 年 9 月 5 日	目次無し
1-330.	『俳句文学館』	第 330 号	1998 年 10 月 5 日	目次無し
1-331.	『俳句文学館』	第 331 号	1998 年 11 月 5 日	目次無し
1-332.	『俳句文学館』	第 332 号	1998 年 12 月 5 日	目次無し
1-333.	『俳句文学館』	第 333 号	1999 年 1 月 5 日	目次無し

1-334.	『俳句文学館』	第 334 号	1999 年 2 月 5 日	目次無し
1-335.	『俳句文学館』	第 335 号	1999 年 3 月 5 日	目次無し
1-336.	『俳句文学館』	第 336 号	1999 年 4 月 5 日	目次無し
1-337.	『俳句文学館』	第 337 号	1999 年 5 月 5 日	目次無し
1-338.	『俳句文学館』	第 338 号	1999 年 6 月 5 日	目次無し
1-339.	『俳句文学館』	第 339 号	1999 年 7 月 5 日	目次無し
1-340.	『俳句文学館』	第 340 号	1999 年 8 月 5 日	目次無し
1-341.	『俳句文学館』	第 341 号	1999 年 9 月 5 日	目次無し
1-342.	『俳句文学館』	第 342 号	1999 年 10 月 5 日	目次無し
1-343.	『俳句文学館』	第 343 号	1999 年 11 月 5 日	目次無し
1-344.	『俳句文学館』	第 344 号	1999 年 12 月 5 日	目次無し
1-345.	『俳句文学館』	第 345 号	2000 年 1 月 5 日	目次無し
1-346.	『俳句文学館』	第 346 号	2000 年 2 月 5 日	目次無し
1-347.	『俳句文学館』	第 347 号	2000 年 3 月 5 日	目次無し
1-348.	『俳句文学館』	第 348 号	2000 年 4 月 5 日	目次無し
1-349.	『俳句文学館』	第 349 号	2000 年 5 月 5 日	目次無し
1-350.	『俳句文学館』	第 350 号	2000 年 6 月 5 日	目次無し
1-351.	『俳句文学館』	第 351 号	2000 年 7 月 5 日	目次無し
1-352.	『俳句文学館』	第 352 号	2000 年 8 月 5 日	目次無し
1-353.	『俳句文学館』	第 353 号	2000 年 9 月 5 日	目次無し
1-354.	『俳句文学館』	第 354 号	2000 年 10 月 5 日	目次無し
1-355.	『俳句文学館』	第 355 号	2000 年 11 月 5 日	目次無し
1-356.	『俳句文学館』	第 356 号	2000 年 12 月 5 日	目次無し
1-357.	『俳句文学館』	第 357 号	2001 年 1 月 5 日	目次無し
1-358.	『俳句文学館』	第 358 号	2001 年 2 月 5 日	目次無し
1-359.	『俳句文学館』	第 359 号	2001 年 3 月 5 日	目次無し
1-360.	『俳句文学館』	第 360 号	2001 年 4 月 5 日	目次無し
1-361.	『俳句文学館』	第 361 号	2001 年 5 月 5 日	目次無し
1-362.	『俳句文学館』	第 362 号	2001 年 6 月 5 日	目次無し
1-363.	『俳句文学館』	第 363 号	2001 年 7 月 5 日	目次無し
1-364.	『俳句文学館』	第 364 号	2001 年 8 月 5 日	目次無し
1-365.	『俳句文学館』	第 365 号	2001 年 9 月 5 日	目次無し
1-366.	『俳句文学館』	第 366 号	2001 年 10 月 5 日	目次無し
1-367.	『俳句文学館』	第 367 号	2001 年 11 月 5 日	目次無し
1-368.	『俳句文学館』	第 368 号	2001 年 12 月 5 日	目次無し

1-369.	『俳句文学館』	第 369 号	2002 年 1 月 5 日	目次無し
1-370.	『俳句文学館』	第 370 号	2002 年 2 月 5 日	目次無し
1-371.	『俳句文学館』	第 371 号	2002 年 3 月 5 日	目次無し
1-372.	『俳句文学館』	第 372 号	2002 年 4 月 5 日	目次無し
1-373.	『俳句文学館』	第 373 号	2002 年 5 月 5 日	目次無し
1-374.	『俳句文学館』	第 374 号	2002 年 6 月 5 日	目次無し
1-375.	『俳句文学館』	第 375 号	2002 年 7 月 5 日	目次無し
1-376.	『俳句文学館』	第 376 号	2002 年 8 月 5 日	目次無し
1-377.	『俳句文学館』	第 377 号	2002 年 9 月 5 日	目次無し
1-378.	『俳句文学館』	第 378 号	2002 年 10 月 5 日	目次無し
1-379.	『俳句文学館』	第 379 号	2002 年 11 月 5 日	目次無し
1-380.	『俳句文学館』	第 380 号	2002 年 12 月 5 日	目次無し
1-381.	『俳句文学館』	第 381 号	2003 年 1 月 5 日	目次無し
1-382.	『俳句文学館』	第 382 号	2003 年 2 月 5 日	目次無し
1-383.	『俳句文学館』	第 383 号	2003 年 3 月 5 日	目次無し
1-384.	『俳句文学館』	第 384 号	2003 年 4 月 5 日	目次無し
1-385.	『俳句文学館』	第 385 号	2003 年 5 月 5 日	目次無し
1-386.	『俳句文学館』	第 386 号	2003 年 6 月 5 日	目次無し
1-387.	『俳句文学館』	第 387 号	2003 年 7 月 5 日	目次無し
1-388.	『俳句文学館』	第 388 号	2003 年 8 月 5 日	目次無し
1-389.	『俳句文学館』	第 389 号	2003 年 9 月 5 日	目次無し
1-390.	『俳句文学館』	第 390 号	2003 年 10 月 5 日	目次無し
1-391.	『俳句文学館』	第 391 号	2003 年 11 月 5 日	目次無し
1-392.	『俳句文学館』	第 392 号	2003 年 12 月 5 日	目次無し
1-393.	『俳句文学館』	第 393 号	2004 年 1 月 5 日	目次無し
1-394.	『俳句文学館』	第 394 号	2004 年 2 月 5 日	目次無し
1-395.	『俳句文学館』	第 395 号	2004 年 3 月 5 日	目次無し
1-396.	『俳句文学館』	第 396 号	2004 年 4 月 5 日	目次無し
1-397.	『俳句文学館』	第 397 号	2004 年 5 月 5 日	目次無し
1-398.	『俳句文学館』	第 398 号	2004 年 6 月 5 日	目次無し
1-399.	『俳句文学館』	第 399 号	2004 年 7 月 5 日	目次無し
1-400.	『俳句文学館』	第 400 号	2004 年 8 月 5 日	目次無し
1-401.	『俳句文学館』	第 401 号	2004 年 9 月 5 日	目次無し
1-402.	『俳句文学館』	第 402 号	2004 年 10 月 5 日	目次無し
1-403.	『俳句文学館』	第 403 号	2004 年 11 月 5 日	目次無し

- 1-404. 『俳句文学館』 第 404 号 2004 年 12 月 5 日 目次無し
 1-405. 『俳句文学館』 第 405 号 2005 年 1 月 5 日 目次無し
 1-406. 『俳句文学館』 第 406 号 2005 年 2 月 5 日 目次無し
 1-407. 『俳句文学館』 第 407 号 2005 年 3 月 5 日 目次無し

記念誌（周年）

1. 『俳人協会二十五年小史』 1987 年 2 月 26 日 編集：草間時彦 発行：社団法人俳人協会
 収録：はじめに（安住敦）／昭和三十六年／昭和三十七年／昭和三十八年／昭和三十九年／昭和四十年／昭和四十一年／昭和四十二年／昭和四十三年／昭和四十四年／昭和四十五年／昭和四十六年／昭和四十七年／昭和四十八年／昭和四十九年／昭和五十年／昭和五十一年／昭和五十二年／昭和五十三年／昭和五十四年／昭和五十五年／昭和五十六年／昭和五十七年／昭和五十八年／昭和五十九年／昭和六十年／昭和六十一年／あとがき（岡田日郎）
2. 『俳人協会二十五年の歩み』 1987 年 2 月 26 日 編集：草間時彦 発行：社団法人俳人協会 目次無し
3. 『俳人協会三十年小史』 1991 年 10 月 7 日 編集：草間時彦 発行：社団法人俳人協会
 収録：はじめに（澤木欣一）／昭和三十六年／昭和三十七年／昭和三十八年／昭和三十九年／昭和四十年／昭和四十一年／昭和四十二年／昭和四十三年／昭和四十四年／昭和四十五年／昭和四十六年／昭和四十七年／昭和四十八年／昭和四十九年／昭和五十年／昭和五十一年／昭和五十二年／昭和五十三年／昭和五十四年／昭和五十五年／昭和五十六年／昭和五十七年／昭和五十八年／昭和五十九年／昭和六十年／昭和六十一年／昭和六十二年／昭和六十三年／平成元年／平成二年／あとがき（岡田日郎）／資料〈俳人協会賞・新人賞・評論賞一覧／全国俳句大会・関西俳句大会一覧／収蔵図書の推移・会員数の推移／定款〉
4. 『俳人協会三十五年小史（追補編）』 1996 年 4 月 25 日 編集：鷹羽狩行 発行：社団法人俳人協会
 収録：はじめに（松崎鉄之介）／平成二年追加事項／平成三年／平成四年／平成五年／平成六年／平成七年／あとがき（岡田日郎）／資料〈俳人協会賞・新人賞一覧／評論賞・新人賞一覧／俳句大会一覧／全国俳句大会・関西俳句大会一覧／収蔵図書の推移・会員数の推移／社団法人・俳人協会・定款〉
5. 『俳人協会四十年小史』 2001 年 6 月 1 日 編集：鷹羽狩行 発行：社団法人俳人協会
 収録：はじめに（松崎鉄之介）／昭和三十六年／昭和三十七年／昭和三十八年／昭和三十九年

十九年／昭和四十年／昭和四十一年／昭和四十二年／昭和四十三年／昭和四十四年／昭和四十五年／昭和四十六年／昭和四十七年／昭和四十八年／昭和四十九年／昭和五十年／昭和五十一年／昭和五十二年／昭和五十三年／昭和五十四年／昭和五十五年／昭和五十六年／昭和五十七年／昭和五十八年／昭和五十九年／昭和六十年／昭和六十一年／昭和六十二年／昭和六十三年／平成元年／平成二年／平成三年／平成四年／平成五年／平成六年／平成七年／平成八年／平成九年／平成十年／平成十一年／平成十二年／あとがき（岡田日郎）／定款

6. 『俳人協会の歩み ——記録で綴る四十年——』 2001年9月30日 編集：社団法人俳人協会 発行：梅里書房

収録：はじめに（松崎鉄之介）／1 俳人協会の四十年を振り返る〈(1) 四十周年を迎えて——その一《語る》（澤木欣一）／(2) 四十周年を迎えて——その二《語る》（草間時彦）／(3) 四十周年を迎えて——その三《語る》（水原春郎 有働亨）／(4) 四十周年を迎えて——その四《語る》（森田峠 後藤比奈夫）／(5) 四十周年を迎えて——その五《語る》（松崎鉄之介 鷹羽狩行）〉／2 俳人協会の設立と歩み〈(1) 俳人協会清規／(2) 俳人協会の設立について（安住敦）／経過報告（安住敦）／(3) 先生方の尽力（長谷川浪々子）／(4) 協会規約改正案の審議（岸風山樓）／俳人協会規約／(5) 十年の回顧（水原秋櫻子）／(6) 二十周年式典挨拶（大野林火）／(7) 二十五年を振り返って《座談会》（山崎ひさを 草間時彦 見市六冬 岡田日郎）／(8) 三十周年式典式辞（澤木欣一）／(9) 協会三十年の思い出《語る》（成瀬櫻桃子 皆川盤水）／(10) 三十五周年式典挨拶（松崎鉄之介）／(11) 創立三十五周年を迎えて《座談会》（鷹羽狩行 草間時彦 岡田日郎 井沢正江 森田峠）〉／3 関西支部〈(1) 関西俳句講演会（岸風山樓）／(2) 第一回関西俳句大会（見市六冬）／(3) 関西支社発足（西矢籟史）／(4) 関西支部の十五年《座談会》（森田峠 米沢吾亦紅 浦野芳南 見市六冬）／(5) 関西事務所開設／(6) 関西事務所開設記念会（塩川雄三）／(7) 残された大きなもの（辻田克巳）／(8) 米沢吾亦紅の功績（羽田岳水）／(9) 思い出（浦野芳南）／(10) 関西支部創立のころ《語る》（森田峠 見市六冬）／(11) 関西俳句の芸と余情《語る》（後藤比奈夫）／(12) 関西俳句講座（森田峠）／(13) 関西事務所長のころ（野村慧二）〉／4 各地支部〈(1) 北海道支部（堤白雨 新明紫明 菊地滴翠）／(2) 青森県支部（吉田敏夫 桜庭梵子）／(3) 岩手県支部（菅原多つを）／(4) 宮城県支部（小島左京）／(5) 秋田県支部（安藤五百枝）／(6) 山形県支部（阿部子峽）／(7) 福島県支部（道山昭爾）／(8) 茨城県支部（嶋田麻紀）／(9) 栃木県支部（中島大三郎 岡部誠）／(10) 群馬県支部（吉田銀葉）／(11) 埼玉県支部（樽沼けい一 河野邦子）／(12) 千葉県支部（上田溪水）／(13) 山梨県支部（加賀美子 麓志村昭八）／(14) 長野県支部（東福寺碧水）／(15) 新潟県支部（山崎羅春）／(16) 富山県支部（中坪達哉）／(17) 石川県支部（泉紫像）／(18) 福井県支部（岩永草溪）

／ (19) 岐阜県支部 (藤田真木子) ／ (20) 静岡県支部 (本宮鼎三) ／ (21) 愛知県支部 (塚越杜尚 澤田緑生) ／ (22) 三重県支部 (宮田正和) ／ (23) 岡山県支部 (大倉祥男) ／ (24) 広島県支部 (結城一雄) ／ (25) 鳥取県支部 (由木みのる) ／ (26) 山口県支部 (迫田白庭子) ／ (27) 徳島県支部 (滝佳杖) ／ (28) 香川県支部 (石塚郷花) ／ (29) 愛媛県支部 (上原白水) ／ (30) 高知県支部 (岩村牙童) ／ (31) 福岡県支部 (河野頼人) ／ (32) 佐賀県支部 (筒井塔子) ／ (33) 長崎県支部 (森宏二) ／ (34) 熊本県支部 (富永小谷) ／ (35) 大分県支部 (柿添ひと志) ／ (36) 宮崎県支部 (神尾季羊) ／ (37) 鹿児島県支部 (森重昭) 〉／5 俳句文学館の建設 〈(1) 俳句文学館建設計画に関する経過報告 (角川源義) ／ (2) は幾分学館用地決定す (松崎鉄之介) ／ (3) 俳句文学館に期待するもの (水原秋櫻子) ／ (4) 俳句文学館のこと (富安風生) ／ (5) 俳句文学館建設と風生先生 (山崎ひさを) ／ (6) 秋櫻子先生と協会と私 (有働亨) ／ (7) 功労者・角川源義 [壮名なる夢 (古館曹人) ／思い出すこと (角川照子) ／文学館建設と角川先生 (小島千架子) ／先師の夢 (吉田鴻司)] ／ (8) 俳句文学館建設の意義 (今泉貞鳳) ／ (9) 文学館建設の思い出 (中火臣) ／ (10) 両手で受けるものを (古館曹人) ／ (11) 俳句文学館ご案内 (草間時彦) ／ (12) 俳句文学館の竣工 (村田脩) ／ (13) これからが大変 (山本健吉) 〉／6 俳句文学館図書室 〈(1) 閲覧開始まで [句集・俳誌の御寄贈についてのお願い／見たい俳誌 (村山古郷) ／整理作業急ピッチ (榎本欣一) ／御挨拶とお願い (澤木欣一)] ／ (2) 感動の図書室開き (村田脩) ／ (3) 俳句文学館への期待 (小田切秀雄) ／ (4) 図書室の利用とお願い (澤木欣一) ／ (5) 図書室開設まで (村山古郷) ／ (6) 村山古郷先生のこと (澤村昭代) ／ (7) 充実する図書・資料 [相つぐ図書寄贈 (村山古郷) ／渴望の古典資料 (宮岡計治) ／「馬酔木」揃う (村山古郷) ／「ホトトギス」が揃いました／虚子と四 S の合同揮毫の句幅を購入] ／ (8) 執筆カードを新設 (村沢夏風) ／ (9) 十周年記念会 (岡田日郎) ／ (10) 広くなった閲覧室／ (11) 図書室勤務の思い出 [図書室のこと (村沢夏風) ／図書室勤務の頃 (上田日差子) ／図書室草創のころ (田中敦子) ／図書室のこと (鈴木忠太)] ／ (12) 三万人目の図書閲覧者 (吉野洋子) ／ (13) 図書室と私《語る》 (村沢夏風) 〉／7 俳人協会賞 〈(1) 俳人協会賞規約／俳人協会賞潜行についての覚書／ (2) 新人賞設置に期待するもの (岡田日郎) ／ (3) 俳人協会評論賞を設定／解説 (草間時彦) ／ (4) 俳人協会評論賞を語る《座談会》 (岡田日郎 鷹羽狩行 草間時彦 平井照敏) ／ (5) 俳人協会賞受賞者の横顔 [石川桂郎 (石塚友二) ／西東三鬼 (西東きく枝) ／小林康治 (秋元不死男) ／千代田葛彦 (石川桂郎) ／鷹羽狩行 (上田五千石) ／磯貝碧蹄館 (作間正雄) ／稲垣きくの (野沢節子) ／菖蒲あや (松原地蔵尊) ／及川貞 (小沢満佐子) ／上田五千石 (鷹羽狩行) ／相馬遷子 (堀口星眠) ／石田あき子 (山田みづえ) ／林翔 (福永耕二) ／岡本眸 (長谷川浪々子) ／岸田稚魚 (八木林之助) ／成瀬櫻桃子 (山崎ひさを) ／村越化石 (林翔) ／赤松＝子 (井沢正江) ／中山純子 (細見綾子) ／山田みづえ

(野沢節子) / 堀口星眠 (大島民郎) / 鈴木真砂女 (稲垣きくの) / 下村ひろし (西谷孝) / 殿村菟絲子 (古賀まり子) / 古館曹人 (斎藤夏風) / 細川加賀 (八木林之助) / 橋本鶏二 (早崎明) / 古賀まり子 (渡邊千枝子) / 松崎鉄之介 (杉本寛) / 鷺谷七菜子 (山上樹実雄) / 加倉井秋を (丸山しげる) / 馬場移公子 (林翔) / 森田峠 (岩崎照子) / 有馬朗人 (黒田杏子) / 成田千空 (橋本風車) / 村沢夏風 (星野麥丘人) / 平井さち子 (林昌華) / 深見けん二 (古館曹人) / 青柳志解樹 (尾林朝太) / 岡田日郎 (都筑智子) / 皆川盤水 (棚山波朗) / 中原道夫 (正木ゆう子) / 綾部仁喜 (後藤眞吉) / 吉田鴻司 (佐川広治) / 黒田杏子 (暉峻桐雨) / 山上樹実雄 (熊澤やすお) / 星野麥丘人 (中谷五秋) / 小原啄葉 (菅原多つを) / 清崎敏郎 (鈴木貞雄) / 宮津昭彦 (伊藤京子) / 加藤三七子 (後藤比奈夫) / 石田勝彦 (綾部仁喜) / 今井杏太郎 (鳥居三朗) / 本宮哲郎 (矢澤彦太郎) / 林徹 (宮田正和)] / 8 国際交流 <(1) 外国人俳人初来館 (有働亨) / (2) 国際部 [国際部誕生 (佐藤和夫) / 思い出 (佐藤和夫)] / (3) 第一回訪中団 [中国詩人と交流 (大野林火) / 俳人協会訪中団に参加して (井本農一) / 訪中印象 (岸風三樓) / 訪中印象 (細見綾子) / 中国大陸旅行 (堀古蝶) / 訪中遊行の旅 (杉本寛)] / (4) 中国から友好訪日団 (山田みづえ) / (5) 日中友好牡丹俳句大会 [第一回大会 (木内彰志) / 牡丹俳句大会の歴史 (杉良介)] / (6) 第四回訪中を終えて (森田峠) / (7) 日米親善俳句シンポジウム (宮岡計次) / (8) 日仏ハイクシンポジウム / (9) 日独俳句交流 [念願の日独俳句大会 (加藤耕子) / 日独俳句交歓の旅 (渡辺勝) / 貢献者・荒木忠男大使 (草間時彦)] / (10) 英国で「俳句の世界」大会 (星野恒彦) / (11) 日伊ハイクシンポジウム (関森勝夫) / (12) 中日俳句・漢俳交流会 (宮津昭彦) / (13) 米・加ハイク詩人来館 (星野恒彦)] / 9 年の花 <(1) 「年の花」前史 [俳句“赤い羽根” (岸風三樓) / 老人福祉施設慰問句会計画 / 福祉委員会について (大野林火)] / (2) 「年の花」創刊 [発刊の辞 (大野林火) / 創刊「年の花」に寄せて (富安風生) / 年老いて学ぶ楽しさ (水原秋櫻子)] / (3) 福祉委員会の現況 (鈴木白祇) / (4) 年の花委員会の歩み (松崎鉄之介) / (5) 「年の花」を語る《座談会》(三ヶ尻湘風 大野林火 鈴木白祇 西矢籟史 中村春芳 小林康治 松崎鉄之介 遠藤正年) / (6) 「年の花」休刊 (山崎ひさを) / (7) 「年の花」関係者懇談会 (小林京子) / (8) 「年の花」の歴史 (小島千架子)] / 10 全国俳句大会、その他 <(1) 第一回全国俳句大会 [俳壇初めての全国俳句大会 (香西照雄) / 思い出の8ミリフィルム (山崎ひさを) / 忍冬亭 (山田みづえ) / 受賞の感慨いまでも (平間真木子)] / (2) 全国俳句大会の裏方 [大会の思い出など (西山誠) / 受賞者係 (小宮山政子)] / (3) 各地の俳句大会 [第一回九州俳句大会 (坂牧周祐) / 第一回東海俳句大会 (村上冬燕) / 第一回四国俳句大会 (五十嵐朗)] / (4) 懇親吟行会 [第一回懇親吟行会の記 (皆川白陀) / 金沢懇親吟行会の記 (高島筍雄) / 各地懇親吟行会実施基準] / (5) 自然と親しむ会 [野草に親しむ俳句会記 (和田暖泡) / 野鳥に親しむ俳句会の記 (野村洛美) / 第一回関西の自然

に親しむ会の記（中島和昭〕／（6）花と緑の運動について（鷹羽狩行）／（7）花と緑の吟行会〔第一回吟行会（井上閑子）／吟行会再開（川上良子）／花と緑の吟行会の歴史（杉良介）〕／（8）花と緑の連載エッセイ（片山由美子）／（9）俳句大賞〔「俳句大賞」を制定／俳句大賞制定の意義（鷹羽狩行）〕／11 俳句講座〈（1）俳句講座の歩み（山崎ひさを）／（2）初期のころの俳句講座（成瀬櫻桃子）／（3）俳句初学講座（岡本眸）／（4）「この人と語る」所感（木村蕪城）／（5）夏期俳句指導講座〔夏期講座の開設（里川水章）／貢献者・香西照雄氏（村田脩）〕／（6）古典講座／（7）協会三十周年記念春季講座（永方裕子）／（8）現代俳句講座の開講（茨木和生）／（9）静岡県立大学俳句講座（関森勝夫）／（10）夏期俳句指導講座《小学校》（下鉢清子）／（11）夏休み親子俳句教室（下鉢清子）〕／12 展覧会・展示会〈（1）俳句色紙短冊展〔第一回俳句色紙短冊展／色紙短冊展の思い出（有賀辰見）／色紙短冊展——大阪（森田峠）／色紙短冊展——京都（桂樟蹊子 津久間松翁）／色紙短冊チャリティー展（山崎ひさを）／「奥の細道」三百年記念色紙短冊展（小島千架子）／十年振りの協会色紙展（宮津昭彦）〕／（2）俳句文学館所蔵品展〔東京——朝日ギャラリー（上谷昌憲）／山形——山寺芭蕉記念館（長谷川耿子）／静岡——伊勢丹アートホール（本宮鼎三）／伊丹——柿衛文庫（大石悦子）〕／（3）俳人協会回顧展〔水原秋櫻子展（岡田貞峰）／大野林火展（中戸川朝人）／中村草田男展（成田千空）／安住敦展（西嶋あさ子）／阿波野青畝展（池田和行）／皆吉爽雨展（古川白雨）／中村汀女展（渡辺満千子）／角川源義展（小島健）〕〕／13 思い出の人〈（1）角川源義〔角川源義君を悼む（水原秋櫻子）／背景角川源義様（古館曹人）〕／（2）秋元不死男〔葬送記／弔辞（水原秋櫻子）／おやじさん（秋元近史）／秋元不死男先生（皆川盤水）〕／（3）水原秋櫻子〔水原名誉会長逝く／弔辞（大野林火）／秋櫻子先生哀悼（村山古郷）／葬儀記（手島靖一）／弔句（諸家）／百日祭の儀（古賀まり子）／水原秋櫻子先生のこと（古賀まり子）〕／（4）岸風三樓〔弔辞（大野林火）／弔辞（安住敦）／岸風三樓先生を偲ぶ（柴田白葉女）〕／（5）大野林火〔大野林火会長逝去／弔辞（安住敦）／弔辞（平畑静塔）／大野林火氏を悼む（井本農一）／萩明り（野沢節子）／人に宏、己に厳（鈴木白祇）／葬送貴（宮津昭彦）／大野林火先生のこと（松崎鉄之介）〕／（6）皆吉爽雨〔弔辞（阿波野青畝）／弔辞（安住敦）／追悼（福田蓼汀）／郷党の縁（上田五千石）／皆吉爽雨先生の思い出（井沢正江）〕／（7）中村草田男〔中村草田男顧問逝く（樽沼けい一）／弔辞（安住敦）／草田男氏を悼む（高木晴子）／痛恨の詞（平畑静塔）〕／（8）福田蓼汀〔弔辞（澤木欣一）／瞳の奥（深見けん二）／一廉の男・蓼汀さん（有働亨）〕／（9）安住敦〔安住敦氏逝去／弔辞（澤木欣一）／安住さんのこと（草間時彦）／温情厚き安住先生（鈴木真砂女）／安住敦先生の思い出（成瀬櫻桃子）／安住敦の顔〕／（10）宮下翠舟〔宮下翠舟氏を悼む（草間時彦）〕／（11）清崎敏郎〔清崎敏郎氏を悼む（大島民郎）〕〕／14 俳人協会の出版物（その一）〈（1）俳句カレンダー〔カレンダー委員会の発足（轡田進）〕／昭

和四十九年度版の編集を終えて(村田脩)／カレンダーのデザイン(荒井正隆)／(2) カレンダー製作秘話《座談会》(山崎ひさを 西田正 藤江満男)／(3) 自註現代俳句シリーズ[第Ⅰ期全三十巻が完結／第一回の刊行(細見綾子)／校正のこと(岡田鉄)／自註「第Ⅱ期」発売／自註「第Ⅲ期」人選決まる]／(4) 自註句集シリーズの刊行と編集[自註句集刊行のころ(宮下翠舟)／編集に携わって(宇都木水晶花)]／(5) 脚註名句シリーズ[刊行始まる(村山古郷)／『秋元不死男集』に寄せて(平畑静塔)]／(6) 吟行案内シリーズ[大和吟行案内(原裕)／京都吟行案内(桂樟蹊子)／武蔵野吟行案内(宮岡計次)／奥多摩甲斐路吟行案内(小島千架子)／芭蕉吟行案内(沖鷗潮)／房総吟行案内(上田溪水)／越佐吟行案内(宇都木水晶花)／茨城吟行案内(里川水章)／小田急沿線吟行案内(杉森与志生)／栃木吟行案内(鶴見一石子)／若狭吟行案内(土田祈久男)]／(7) 『武蔵野吟行案内』編集うらばなし《座談会》(山崎ひさを 宮岡計次 丸山しげる 深見けん二)／(8) 入門歳時記[『入門歳時記』ができるまで(佐川広治)／欲張った企画(村田脩)／動物部門を担当(樋笠文)／季語を生かした例句(北澤瑞史)／歳時記と入門書を兼ねる(鍵和田＝子)／植物部門を担当(島谷征良)／例句選びについて(宮下翠舟)]／(9) その他の刊行物(『俳句いろはかるた』／『四季随筆』／「奥の細道」版画絵葉書／『俳句を語る』(鷹羽狩行)／『俳句への一步』(西嶋あさ子)／『創刊号物語』(鷹羽狩行)／『学校教育と俳句』(西嶋あさ子))／15 俳人協会の出版物(その二)〈(1) 現代俳句選集について《座談会》(山崎ひさを 草間時彦 原裕)／(2) 現代俳句選集刊行の歩み[遂に成る合同句集／合同句集中間報告(香西照雄)／『第一集』読後(井本農一)／『第二集』を読んで(宮津昭彦)／『第四集』編集完了(池上樵人)／『第五集』編集を終えて(長倉閑山)／選集編集のころ(岩崎健一)／俳句選集発刊のこと(岡田日郎)／貢献者・原裕さんのこと(山崎ひさを)]／(3) 『第七集』の編集を終えて《座談会》(北澤瑞史 原裕 大網信行 小野恵美子 岡入万寿子 小島千架子)／(4) 季題別俳句選集を語る《座談会》(山崎ひさを 宇都木水晶花 樽沼けい一 松村武雄 沖鷗潮 池田秀水 相川やす志)／(5) 俳人協会会員名鑑[『会員名鑑』の活用を(原裕)／俳壇半世紀の縮図(大網信行)／会員相互の便覧的役割(岡入万寿子)／『俳人協会会員名鑑2』(宇都木水晶花)]／(6) 俳人協会賞作品集[関係各位に感謝(村山古郷)／編集・刊行を終えて(牧瀬蟬之助)／人材を俳壇に(能村登四郎)]／(7) 俳句文学館紀要[『第一号』を刊行／『第四号』を刊行(村沢夏風)／『第十一号』を刊行(今瀬剛一)／『俳句文学館紀要』の変遷(岡田日郎)]／(8) 『俳句文学館紀要』これからの課題《座談会》(岡田日郎 村田脩 星野恒彦 山下一海)／(9) 俳句文学館蔵書目録[『第一集』を発刊／『俳誌目録』完成／『蔵書目録4』(村沢夏風)]／16 協会事務局の歩み〈(1) 俳句文学館建設前史[事務所の変遷(岡田日郎)／「俳人協会日誌」抜粋(清水径子)／眼目ビルのころ(都筑智子)／新事務所開きの記(岡田日郎)／鳥森ビルの思い出(畠山譲二)

／鳥森ビルの頃（都筑智子）／新橋・鳥森のころ（山崎ひさを）／事務局のある日（小島千架子）]／(2) 俳人協会会報・俳句文学館[創刊当時の思い出（安住敦）／協会報の編集（林昌華）／俳人協会会報の編集（轡田進）／改題に当たって（安住敦）／会報改題のころ（山崎ひさを）／会報三百号を迎えて（吉野洋子）／「俳句文学館」の編集①（里川水章）／「俳句分学館」の編集②（嶺治雄）]／(3) コンピューター時代に向かって[和室の思い出（館岡沙織）／「編集室から」抜粋／俳人協会電算化の実情（小野恵美子）／俳句コンピューターシステム（山崎ひさを）／俳句データベース（斎藤夏風）／コンピューター導入から十年（井越芳子）／ホームページを開設（宮津昭彦）]／あとがき（山崎ひさを）／俳人協会・俳句文学館要覧／俳人協会役員在任期間一覧

【32】調布市武者小路実篤記念館

図録（常設展）

1. 『調布市武者小路実篤記念館』 1985年10月28日 発行：調布市教育委員会 編集：調布市武者小路実篤記念館
収録：開館にあたって（金子佐一郎 橋本利男）／慶祝（小田切進）／泉（上田慶之助）／頌（嘉門安雄）／一つの存在（武者小路辰子）／所蔵品カラー版／心／道／美〈西洋美術／東洋美術／日本美術〉／愛〈実篤絵画／実篤文学〉／真〈白樺／新しき村／仙川時代〉／和／此人は歩いた（中川一政）／年譜／所蔵品目録／協力者
2. 『調布市武者小路実篤記念館（改訂版）』 1986年7月1日 発行：調布市教育委員会 編集：調布市武者小路実篤記念館
収録：はじめに／記念館ゾーン平面図／所蔵品カラー図版／心／道／美〈西洋美術／東洋美術／日本美術〉／愛〈実篤絵画／実篤文学〉／真〈白樺／新しき村／仙川時代〉／和／此人は歩いた（中川一政）／年譜／所蔵品目録／協力者
3. 『武者小路実篤記念館 図録』 1994年5月12日 発行：調布市武者小路実篤記念館
収録：はじめに／「満八十になって」より／口絵写真／館内見取り図／実篤の生涯／文学の世界／美の世界／白樺の活動／新しき村の活動／仙川時代／武者小路実篤略年譜／協力者一覧

図録（企画展）

1. 『特別展 「友情 志賀直哉と実篤」』 1986年4月26日 発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：志賀直哉と武者小路（紅野敏郎）／出会い／白樺の創刊／我は我 君は君／書画・愛蔵品／直哉略年譜／実篤略年譜

2. 『「美に向かって」 ―実篤が愛した美の世界―』 1986年10月25日 発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：武者さんのこと（中川一政）／愛蔵品／実篤書画／展示目録
3. 『特別展 「愛と死」』 1987年4月25日 発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：ながく消えることのない感動 ―特別展「愛と死」に寄せて―（小田切進）／愛と死／お目出たき人／友情／欧米旅行／人生論／「愛と死」が原作の映画作品／「愛と死」出版リスト／展示目録／展示協力
4. 『特別展 「装幀・さし絵」展』 1987年10月24日 発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：装幀心境（抄）（中川一政）／装幀の美／劉生装幀本／実篤装幀本／『童話劇三篇』さし絵／『井原西鶴』さし絵／特別展協力者
5. 『特別展「戯曲と演劇」』 1988年4月29日 発行：調布市武者小路実篤記念館 監修：祖父江昭二 目次無し
収録：武者小路戯曲の魅力（抄）（宇野重吉）／実篤と戯曲／大正新劇運動の中で／新しき村の演劇活動／戦後から現在へ／時代とテーマ ～サンプル：「その妹」の変遷／作者と演者／武者小路実篤作品上演年表（昭和63年4月現在）／展示協力者
6. 『〈特別展〉新しき村70年の歩み』 1988年10月29日 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：山と山とが（大津山国夫）／《新しき村の提唱》／《土地》／《村の生活》／《村の経済》／《大水路》／《大きな転機》／《'88・日向新しき村》／《東の村創立》／《経済の自活》／《新たな発展》／《'88・新しき村》／《村外会員》／《芸術活動》出版・印刷／《芸術活動》美術／実篤と《新しき村》／新しき村略年譜／武者小路実篤略年譜／協力者名
7. 『〈特別展〉「中川一政と武者小路実篤」』 1989年4月29日 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：武者小路さん（中川一政）／出会い／装幀・さし絵／中川一政の世界／実篤の世界／中川一政略年譜／武者小路実篤略年譜／協力者
8. 『特別展「羽の生えた言葉 実篤の詩」』 1989年10月28日 編集：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：実篤の詩が呼びかけたもの（荒川洋治）／羽の生えた言葉／出発点／美術讃歌／自然讃歌／人間讃歌／誕生日に際して／終着点／実篤の詩集／特別展協力者
9. 『特別展「白樺の文学」』 1990年4月28日 編集：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：すばらしく、輝かしい功績 ―武者小路実篤と『白樺』がのこしたもの―（小田

切進) / 『白樺』創刊前後資料について(紅野敏郎) / 白樺運動のうねり(今井信雄) / 志賀直哉と武者小路実篤(三田誠広) / 学習院時代 / 十四日会 / “雑誌熱”から「荒野」へ / 回覧雑誌「望野」 / 回覧雑誌「麦」 / 回覧雑誌「桃園」 / 回覧雑誌「白樺」へ / 『白樺』創刊 / 特集号 / 白樺演劇社 / 白樺叢書 / 白樺衛星誌 / 我孫子時代 / 鵜沼時代 / 十周年 / 終刊 / 白樺同人 / 展示目録 / 『白樺』関係略年譜 / 特別展協力者 / 展示目録凡例

10. 『特別展「白樺の美術」』 1990年10月27日 編集: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 「白樺」と大正期の美術(島田康寛) / 『白樺』のその後について(河野通明) / プロローグ ~ 『白樺』創刊前~ / 『白樺』創刊 ~ 誌上美術館~ / 『白樺』とロダン / 白樺主催展覧会とゆかりの作家たち / 白樺美術館 / 『白樺』以後 ~ 同人たちの美意識~ / 白樺主催美術展覧会リスト / 展示目録 / 特別展協力者

11. 『特別展「一筋の道 ~ 実篤の文学性会」』 1991年6月8日 編集: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 夢見る人(本多秋五) / 文学への傾倒 / 習作時代 / 『白樺』創刊 / 『白樺』時代 / 新しき村 / 『白樺』以後 / 伝記小説 / 昭和前期 / 山谷ものの世界 / 雑感 / 誌 / 美術論 / 人生論 / 自伝 / 全集 / 特別展協力者

12. 『特別展「実篤と伊豆」』 1991年10月19日 発行: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 伊豆の思い出(武者小路辰子) / 伊豆との出会い / 「愛と死」とその時代 / 絵画制作 / 実篤と伊豆 / 「実篤と伊豆」関係年譜 / 展示協力者

13. 『特別展「描かれた実篤像」』 1994年5月12日 発行: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 実篤像によせて(武者小路辰子) / 謝辞 / 実篤を語る / 描かれた実篤 / 自らを描く・語る

14. 『特別展『画道三昧』』 1994年10月22日 発行: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 新しき村美術館(渡辺貫二) / 美を求める心 / 新しき村讃

15. 『特別展「或る男~武者小路実篤の生涯~」』 1995年4月29日 発行: 調布市武者小路実篤記念館 目次無し

収録: 生立ち / 習作時代 / 『白樺』 / 新しき村 / 『白樺』終刊から昭和 / 牟礼時代 / 仙川の生活 / 引用文献 / 展覧会協力

16. 『開館十周年記念特別展「第二の誕生」~岸田劉生と実篤~』 1995年10月28日 発行: 調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷: 便利堂 目次無し

収録: 実篤と劉生の出会い — 劉生の「第二の誕生」について — (東珠樹) / 第二の誕

生 出会い／二人の制作活動／装幀の美／和而不同 それぞれの道／劉生の思い出／謝辞

17. 『特別展 ほくろの呼鈴——実篤と家族』 1996年4月27日 発行：調布市武者小路実篤記念館 目次無し
収録：価値あるもの（武者小路辰子）／生きることは不思議／新しき村へ／家族を得る／パパの日常／お祖父ちゃんの日々／夫婦二人／老いを見詰めて／引用文献／展覧会協力
18. 『秋の特別展 美を求めて 一白樺同人が愛した美術』 1996年10月26日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：白樺派の美術（武者小路讓）／白樺の美術／志賀直哉（明治16年～昭和46年）／武者小路実篤（明治18年～昭和51年）／柳宗悦（明治22年～昭和36年）／児島喜久雄（明治20年～昭和25年）／長与善郎（明治21年～昭和36年）／謝辞
19. 『特別展「沈黙の世界」 ～実篤と画家たちとの交友～』 1997年4月26日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：沈黙の世界（福島さとみ）／梅原龍三郎／中川一政／林武／村上華岳／熊谷守一／武者小路実篤／謝辞
20. 『特別展「書信往来 ～志賀直哉との六十年」』 1997年10月25日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：書信往来（伊藤陽子）／親友以前／習作時代／絶交の危機／志賀の結婚／我孫子／新しき村への支援／実篤全集の刊行／互いの作品について／実篤の失業時代／それぞれの欧米旅行／『心』をめぐって／変わらぬ友情／謝辞
21. 『特別展 神奈川近代文学館収蔵 中川孝収集 實篤文庫』 1998年4月25日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：中川孝収集 實篤文庫（伊藤陽子）／始まり——新しき村会員として／記録と収集／図書／雑誌／原稿／執筆切抜／實篤文庫／書画／印刷物／関連切抜／編集・出版／調和社版『武者小路実篤著作集』／新潮社版『武者小路実篤全集』／拾遺——実朝とともに／中川孝略年譜／付記／謝辞
22. 『特別展 新しき村 80年』 1998年10月31日 1998年10月31日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：歲月 ～新しき村 80年～（福島さとみ）／第1部 新しき村の運動～日向新しき村の建設〈新しき村の提唱／新しき村創設／村の生活／村への支援／日向時代の実篤／実篤の離村、昭和初期／自己を生かす ～日向の村で生活した人たち／村外会員の活動 ～芸術・文化活動／転機〉／第2部 新しき村に生きる～東の村創設から六十年〈東の村創設／新たな出発／経済の自活／自他共生を求めて／支部活動 記念祭／新しき村讃／現在の新しき村／謝辞

23. 『春の特別展「絵皿・看板・包装紙」 ～街にあふれた実篤展～』 1999年4月24日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：街にあふれた実篤（伊藤陽子）／かざる 複製画・カレンダー／夢の生活 豊かさを求めて／いろいろ 生活の中のあれこれ／イメージの結晶 キャラクター商品化／こんなところにも／変化の中で 実篤の位置／お店の顔に 看板・包装紙／関連年表／主要参考文献／謝辞
24. 『平成十一年度秋の特別展 写真に見る「実篤とその時代」—I 大正期まで—』 1999年10月30日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：写真に見る「実篤とその時代」 —「近代」をめぐって—（福島さとみ）／生い立ち／学習院初等・中等学科／学習院高等学科／同人誌時代・文学へ／『白樺』創刊のころ／白樺時代・大正期／『白樺』終刊／新しき村の建設／離村、そして東京へ／参考文献／謝辞／協力者
25. 『特別展 1910年、『白樺』創刊』 2000年4月29日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：一九一〇年という年 ～『白樺』誕生の背景～（武者小路讓）／彼らが育った明治／助走／回覧雑誌から白樺へ／1910年という年／白樺同人／『白樺』の軌跡／終刊／『白樺』関連年表／凡例／謝辞／出品・協力
26. 『平成12年度 秋の特別展 「白樺—美術への扉」』 2000年10月28日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：白樺—美術への扉 —『白樺』の美術紹介—（福島さとみ）／『白樺』創刊前後／美術紹介／白樺とロダン／白樺主催美術展／新しい美術の流れ～ゆかりの画家たち／白樺美術館設立運動／『白樺』終刊／参考文献／謝辞／出品・協力
27. 『特別展「武者小路実篤の抽出しの中身～東京都寄贈資料を中心に」』 2001年4月27日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：武者小路実篤の抽出しの中身 ～東京都寄贈資料を中心に（伊藤陽子）／円熟の日々〈文化界の長老として／画家・実篤／文学の到達点〉／美術と暮らす／古い手紙の束から〈文士への歩み／『白樺』創刊／初恋・お目出たき人・世間知らず／夏目漱石への思い／『白樺』群像／変わらぬ友情〉／凡例／謝辞／出品・協力
28. 『平成一三年度 秋の特別展 写真に見る「実篤とその時代」—II 昭和二～二〇年—』 2001年10月27日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：風貌 ～写し出された背景～（福島さとみ）／《昭和の幕開け》円本から失業時代／失業時代／画家として／《欧米旅行》／《新たな展開》／《東の村設立》日向の村から東の村へ／《父として》普段着の実篤／《戦争中の実篤》／《昭和二〇年》／主要参考文献／謝辞／協力者

- 29.『平成14年度春の特別展 「描くということ」 ～白樺同人、絵画への軌跡～』 2002年4月27日 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集・印刷：便利堂 目次無し
収録：描くということ ～白樺同人、絵画への軌跡（伊藤陽子）／学習院の図画教育／『白樺』を描く／絵画の軌跡〈有島生馬（壬生馬）／里見弴／児島喜久雄／志賀直哉／長与善郎／武者小路実篤〉／参考文献／謝辞／出品・協力
- 30.『平成14年度 秋の特別展 「仙川の家」』 2002年10月26日 発行：調布市武者小路実篤記念館 企画・編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団 制作：便利堂 目次無し
収録：仙川の家 ～生きる喜び～（福島さとみ）／自然—植物・湧水—／遺跡（実篤公園遺跡）・空から見た周辺の移り変わり／仙川へ／仙川の家／仙川の暮らし／文学活動／美術活動／新しき村／仙川と実篤／終の住み処／参考文献／謝辞／出品・協力
- 31.『初恋・親友・そして夢へ 自伝『或る男』の青春』 2003年4月26日 発行：調布市武者小路実篤記念館 企画・編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団 制作：便利社 目次無し
収録：「或る男」原稿を巡って～武者小路実篤の青春（伊藤陽子）／「或る男」発表／実篤と『改造』／学習院スクールライフ／初恋／お貞さん／トルストイを知る／親友を得る／精神の目覚める頃／夢の実現／「或る男」完結／参考文献／謝辞／出品・協力
- 32.『平成十五年度 秋の特別展 「思索の描写 河野通勢と実篤」』 2003年10月25日 発行：調布市武者小路実篤記念館 企画・編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団 制作：便利社 目次無し
収録：「思索の描写」（福島さとみ）／美術の世界へ／素描／油彩（明治～大正期）／聖書画／版画／大正から昭和へ／装幀・挿絵〈実篤作品を飾る／井原西鶴〉／昭和十年以降／河野通勢と実篤／主な参考文献／謝辞／出品・協力
- 33.『平成十六年春の特別展 「日記に読む実篤」』 2004年4月17日 発行：調布市武者小路実篤記念館 企画・編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団 制作：便利社 目次無し
収録：日記に読む実篤（伊藤陽子）／実篤の日記〈彼の青年時代／気まぐれ日記／欧米旅行日記／稲住み日記〉／友人たちの日記〈志賀直哉／木下利玄／長与善郎／木村荘八／岸田劉生／河野通勢〉／参考文献／謝辞／出品・協力
- 34.『平成十六年秋の特別展 「ポスターの美 実篤はどう伝えられてきたか」』 2004年10月23日 発行：調布市武者小路実篤記念館 企画・編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団 制作：便利社 目次無し
収録：「ポスターの美」 ～ポスターに見る実篤～（福島さとみ）／白樺／大調和美術展覧会／演劇／新しき村／出版／映画／個展／実篤のイメージ／参考文献／謝辞／出品・協力

目録

1. 『調布市武者小路実篤記念館 所蔵品目録 1990年』 1991年3月31日 編集／発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：ごあいさつ／口絵／凡例／美術品〈武者小路実篤作品／武者小路実篤愛蔵品／その他の作家〉／原稿〈武者小路実篤作品／他者原稿〉／書簡〈武者小路実篤書簡／武者小路実篤宛書簡／その他〉／文書〈自筆文書／公文書・その他〉／図書〈武者小路実篤著作物〔単行本（あ〜わ行）／個人選集・全集類／外国語訳本／志賀コレクション〕／他者著作物／合著〔単行本／叢書・文学体系類〕／雑誌〈一般（あ〜ら行）／新しき村機関誌〉／梅原コレクション〈図書（実篤単行本）／図書（太著者・合著）／図書（洋書）／雑誌／印刷物・その他〉／印刷物〈出版関係／展覧会関係／演劇関係／白樺関係／新しき村関係／その他〉／映像・音声〈写真／映像／音声〉／愛用品／雑／寄贈者・委託者一覧

研究誌

1. 『実篤公園植物誌』 2005年3月 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：はじめに（調布市教育委員会教育長 榎本和男）／例言／春〈春の便り／ひさかき・非桧／せんりょう・千両・草珊瑚／まんりょう・万両／ふくじゅそう・福寿草／つばき・椿／もうそうちく・孟宗竹／うめ・梅／こぶし・辛夷／かたくり・片栗／おおばのいのもとそう・大葉井口辺草／しゅんらん・春蘭／たちつぼすみれ・立壺莖／さくら・桜／はんのき・榛の木／あせび・馬酔木／ひゅうがみずき・日向水木／ひいらぎなんてん・柊南天／えいざんすれみ・叡山莖／すほうちく・蘇方竹／汝、佳き名の草々〉／夏〈風薫り、緑溢れる実篤公園の今／ふじ・藤／しゃが・射干／あじさい・紫陽花／はなしょうぶ・花菖蒲／なつつばき・夏椿／ねむのき・合歓の木／ひまわり・向日葵／あおぎり・梧桐／かくれみの・隠蓑／ほうちゃくそう・宝鐸草／ひとつば・一つ葉／しゅろのはな・棕櫚の花／えごのき・えごの木／きょうがのこ・京鹿子／なんてん・南天／くちなし・梔子／ねこのめそう・猫の目草〉／秋〈晩秋詩情／くず・葛／ざくろ・石榴／きつねのかみそり・狐の荊／しい・椎／こなら・小檜／むくのき・棕の木／かき・柿／いろはもみじ・伊呂波楓／むくげ・木槿／にしきぎ・錦木／れんげしょうま・蓮華升麻／やぶらん・藪蘭／けやき・檉／やまもみじ・山紅葉／ゆず・柚子／きちじょうそう・吉祥草／はぎ・萩／さるとりいばら・山帰来〉／冬〈実篤の目・実篤の夢／わびすけ・侘助／つわぶき・石蓐／やつで・八手・金剛／かんあおい・寒葵・杜衛／さざんか・山茶花／シンビジュウム／りゅうのひげ・龍の鬚／ちゃのはな・茶の花／あおきのみ・青木の実／くまざさ・隈笹／やぶそてつ・藪蘇鉄／りょうめんしだ・両面羊歯／しろだも・白だも〉／実篤公園・実篤記念館植物マップ／あとがき／実篤公園植物誌制作者一覧／

索引

記録集

1. 『講演記録集』

1-1. 『講演記録集 一九八五年—一九八七年度』 1989年3月31日 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：はじめに／凡例／開館式挨拶〈中川一政氏／井上靖氏／武者小路辰子氏／志賀直吉氏／小田切進氏〉／講演記録〈「志賀直哉と実篤」(紅野敏郎)／「白樺時代の実篤」(萬木康博)／「このごろの愛と友情」(山田太一氏)／「父・実立つの思い出」(武者小路辰子)〉

1-2. 『講演記録集 第二集』 1992年 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：はじめに／凡例／特別展「新しき村七十年の歩み」〈シンポジウム「武者小路実篤と新しき村」[基調講演「武者小路実篤と新しき村」(大津山国夫)／「コミュニケーションの系譜からみた新しき村運動」(今防人)／「新しき村の精神と生活 ～七〇周年に明日を想う～」(渡辺貫二)／質疑応答)／「日向の村の生活」(松田省吾)／特別展「中川一政と武者小路実篤」〈「中川一政と武者さん」(山田幸男)／「私の中の中川一政と武者小路実篤」(高橋玄洋)〉

1-3. 『講演記録集 第三集』 1992年 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：はじめに／凡例／特別展「羽の生えた言葉～実篤の詩～」〈「実篤の詩と現代」(荒川洋治)〉／特別展「白樺の文学」〈「偉大な実篤の芸術」(小田切進)／「志賀直哉と武者小路実篤」(三田誠広)〉／特別展「白樺の美術」〈「『白樺』と大正期の美術」(島田康寛)／「『白樺』のその後に就いて」(河野通明)〉／特別展「一筋の道～実篤の文学世界～」〈「武者小路実篤の文学」(本多秋五)〉

1-4. 『講演記録集 第四集 一九九一年秋～一九九六年秋』 1997年 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：特別展「実篤と伊豆」〈「ギャラリー・トーク」(渡辺聖代／武者小路辰子)〉／開館10周年記念特別展「第二の誕生 ～岸田劉生と武者小路実篤～」〈「岸田劉生と実篤」(東珠樹)〉／特別展「ほくろの呼鈴 ～実篤と家族～」〈「娘から見た父・実篤」(武者小路辰子)〉／特別展「美を求めて ～白樺同人が愛した美術～」〈「美の変遷 ～『白樺』より今日まで～」(柳宗理)〉

創作集

1. 『らくがき帳『心の譜』』 1989年3月 編集：調布市武者小路実篤記念館

2. 『「実篤のいる空間」創作文集』 1989年6月 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

館報

1. 『館報 武者小路実篤記念館』

1-1. 『館報 武者小路実篤記念館』 1987年3月31日 創刊号 編集・発行：調布市
武者小路実篤記念館

収録：館報創刊のごあいさつ（教育長 橋本利男）／記念館を訪れて（武者小路辰子）
／武者の後期実篤記念館 開館／特別展 友情 志賀直哉と実篤／特別展 美に向か
って 一実篤が愛した美の世界—／事業報告 昭和60年10月～昭和62年2月／「友
の会」の発足について／展示案内

1-2. 『館報 武者小路実篤記念館』 1987年9月30日 第2号 編集・発行：調布市
武者小路実篤記念館

収録：特別展 愛と死／特別展「愛と死」記念講演「このごろの愛と友情」（講師 山
田太一）／実篤の「愛（蔵）品」（武者小路讓）／『荒野』（学芸員 伊藤陽子）／清
春白樺美術館・芸術村見学会同行記／地下通路（長谷川路子）／展示案内

1-3. 『館報 武者小路実篤記念館』 1988年3月31日 第3号 編集・発行：調布市
武者小路実篤記念館

収録：特別展 装幀・さし絵展／開館二周年記念講演「父・実篤の思い出」／アンケ
ート結果報告／「日向新しき村」調査から／実篤さんと仙川と新しき街（青野友太郎）
／新収蔵品から／「ある青年の夢」原稿（第4幕欠）／実篤公園十周年・記念館三周
年 記念事業のお知らせ／昭和63年度《友の会》入会のご案内／“らくがき帳”か
ら／記念館発行 資料のお知らせ／特別展「戯曲と演劇」／展示案内

1-4. 『館報 武者小路実篤記念館』 1988年10月29日 第4号 編集・発行：調布
市武者小路実篤記念館

収録：武者小路実篤記念館三年の歩み／三周年に（武者小路辰子）／躍進する武者小
路実篤記念館（渡辺貫二）／次のわたしの願い——市長さん、市の皆さんへの提案—
—（小田切進）／二百字提言／開園十周年・開館三周年記念事業のお知らせ／実篤公
園が新しくオープンしました／特別展「戯曲と演劇」記念講演 「武者小路先生と私」
～講演と「その妹」舞台の試演～／「伊豆長岡より見た富士」／「日向新しき村」調
査から／特別展「新しき村70年の歩み展」／展示案内

1-5. 『館報 武者小路実篤記念館』 1989年3月31日 第5号 編集・発行：調布市
武者小路実篤記念館

収録：特別展 新しき村70年の歩み／レポート 特別展・開館三周年 記念イベン
ト／特別展「新しき村七〇年の歩み」に寄せて（渡辺兼次郎）／事後レポート“実篤
と新しき村” 仙川フォーラム'88／公園の四季と旧実篤邸が見ごろです／「実篤のいる
空間」のお知らせ／「一人の男」原稿（部分）（学芸員 伊藤陽子）／「記念館と私」

(村上豊) / 新収蔵品から / 特別展「中川一政と武者小路実篤」 / 展示案内

1-6. 『館報 武者小路実篤記念館』 1989年10月1日 第6号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：特別展 中川一政と武者小路実篤 / 記念講演会 / 見学会レポート / 寄稿 武者小路実篤と中川一政の最初の出会い (山田幸男) / 収蔵品から / 実篤のいる空間審査結果 / 「古稀帖」 / 「特別展」 「羽の生えた言葉 実篤の詩」 展 / 展示案内

1-7. 『館報 武者小路実篤記念館』 1990年3月31日 第7号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：特別展記念講演会「実篤の詩と現代」 / 旧実篤邸の公開 / 平成元年度の活動から / 「墨の世界」展を終えて / 同人誌時代の原稿 / 新収蔵品から / 記念館の将来計画について / 特別展 白樺の文学 — 『白樺』 創刊80年 — / 展示案内

2. 『美愛眞』

2-1. 『美愛眞』 2001年9月30日 創刊号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「実篤に挑戦」 / 創刊にあたって〈実篤の精神を生かす時 (調布市長 吉尾勝征) / 心から感謝を込めて (武者小路実篤三女 武者小路辰子)〉 / インフォメーション / レポート / 友の会 / コラム 「小田切さんとシンビジウム」 (元館長・当館専門員 堀公彦) / 作品鑑賞「大愛」 / 実篤関連情報・資料受贈報告 / 整備計画 / 所蔵資料から 『荒野』

2-2. 『美愛眞』 2002年3月31日 第2号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「武者小路実篤資料が再び仙川の地へ」 / インフォメーション / レポート / コラム「四半世紀を過ぎて」 (当館顧問・和光大学名誉教授 武者小路讓) / 作品鑑賞『人間万歳』 / 実篤関連情報・資料受贈報告 / 友の会 / 所蔵資料から「南瓜」

2-3. 『美愛眞』 2002年9月30日 第3号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「旧実篤邸、永く残していくために」 / インフォメーション / レポート / コラム「実篤さんと新しき街・せんがわ」 (実篤記念館友の会会長・せんがわまちニティ情報センター代表 青野友太郎) / 作品鑑賞『或る男』 / 実篤関連情報・資料受贈報告・人事異動・公園の整備について / 所蔵資料から『回覧同人誌時代の詩稿』

2-4. 『美愛眞』 2003年3月31日 第4号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「実篤作品に親しむ」 / インフォメーション / レポート /

コラム「生きろ生きろ」(千葉大学名誉教授 大津山国夫) / 作品鑑賞『母と子』 / 実篤関連情報・資料受贈報告・来館者 30 万人突破・通称ウグイス本名メジロ / 所蔵資料から『カチカチ山・花咲翁』

2-5. 『美愛眞』 2003 年 10 月 1 日 第 5 号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「実篤記念館のサポーター」 / インフォメーション / レポート / コラム「伝えたい実篤先生の心」(調布市長 長友貴樹) / 作品鑑賞『友情』 / 実篤関連情報・資料受贈報告・平成 15 年度事業計画・友の会 / 所蔵資料から『トルストイ伝筆写ノート』 / 利用案内

2-6. 『美愛眞』 2004 年 3 月 31 日 第 6 号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース 「実篤から広がる幅広い蔵書」 / インフォメーション / これからの催し・秋の特別展レポート / コラム「調布市民の誇るべき実篤記念館」(日本近代文学館理事長・全国文学館協議会会長 中村稔) / 作品鑑賞『土地』 / 実篤関連情報・資料受贈報告 / 実篤記念館・実篤公園の案内標識の整備報告 / 所蔵資料から河野通勢画『風景』

2-7. 『美愛眞』 2004 年 10 月 1 日 第 7 号 編集・発行：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース「市内各中学校図書室に実篤コーナー設置」 / インフォメーション(秋の特別展・これからの催し) / レポート(春の特別展・催しものから) / コラム「武者小路実篤先生宅の思い出」(財団法人「新しき村」理事長 石川清明) / 作品鑑賞「童話劇『かちかち山と花咲翁』」 / 実篤関連情報・資料受贈報告 / 人事異動 / 実篤記念館・実篤公園整備事業 / 友の会 / 所蔵資料から「ある青年の夢」原稿

2-8. 『美愛眞』 2005 年 3 月 31 日 第 8 号 発行：調布市武者小路実篤記念館 編集：調布市武者小路実篤記念館運営事業団

収録：トピックニュース「身近な、親しみのある文化施設として」 / インフォメーション(春の特別展・これからの催し) / レポート(秋の特別展・催しものから) / コラム「さびつかない志をこれからも…」(神奈川文学振興会・元事務局長、評議員 倉和男) / 作品鑑賞「愛と死」 / 実篤関連情報・資料受贈報告ほか / 平成 16 年度実篤公園整備工事ほか / 友の会 / 所蔵資料から

記念誌(開館)

1. 『調布市武者小路実篤記念館 [施設要覧]』 1994 年 5 月 12 日 発行：調布市武者小路実篤記念館

収録：はじめに / 沿革 / 事業概要 / 館内案内図 / 建物概要 / 設備概要 / 内部仕上 / 外部

【33】(財) 吉川英治記念館

図録

1. 『吉川英治 歴史小説の世界 —— 壮大なるロマンの魅力』 1992年10月15日 発行：吉川英治記念館

収録：巻頭解説〈大衆とともに歩んだ吉川英治の文学的遺産（尾崎秀樹）〉／求道のロマン——『宮本武蔵』の世界〈解説〔人生の指針を求めて読み継がれる国民文学の一典型（清原康正）／著者の「自作を語る」〕／私と『宮本武蔵』〔お通に触れない武蔵（糠沢和夫）／映画「カラテ・キッド」にも生き続ける武蔵（白井佳夫）／吉川英治ってえば、もう「宮本武蔵」だ（柳家小さん）／わがままな読者——映画を観て読んだ『宮本武蔵』（南原幹雄）〕／名場面・名台詞〔巖流島〕／映画・舞台の『宮本武蔵』〔大先輩が演じ継いできた宮本武蔵、その中の一人になれたのはまさに役者冥利（高橋英樹）／姉が渡してくれた『宮本武蔵』には赤い傍線がいっぱい引いてあった（福田義之）〕〉／希望のロマン——『新書太閤記』の世界〈解説〔戦時下の国民に夢と希望を与えた庶民英雄・秀吉（縄田一男）／著者の「自作を語る」〕〉／権力のロマン——『私本太平記』の世界〈解説〔人間研究の最大の教科書『私本太平記』（松本昭）／著者の「自作を語る」〕／私と『私本太平記』〔そこにむき出しの日本人がいる（鈴木健二）／楠木に注がれた作者の愛情（武田鉄也）／人間の運命の不思議さを滔々と謳いあげる『私本太平記』（宮部みゆき）〕／名場面・名台詞〔後醍醐天皇の終焉〕／映画・舞台の『私本太平記』〔慶びとプレッシャーの中で演じた映像界第一号の“尊氏”（真田広之）／大河ドラマ開始から二十九年。やっと実現した、歴史小説最期の宝（一柳邦久）〕／私と『新書太閤記』〔組織の中での人間の物語（佐々淳行）／人生に目を開かせてくれた『新書太閤記』（鳶信彦）／戦争の暗雲垂れ込める中での無二の友（赤瀬川隼）〕〉／無常のロマン——『新・平家物語』の世界〈解説〔“時の流れ”を主人公に描いた敗亡の美学（磯貝勝太郎）／著者の「自作を語る」〕／私と『新・平家物語』〔清盛に体現された平家の運（小林恭三）／日本人にとっての「永遠の書」（三波春夫）／わたしに人生を教えてくれた『新・平家物語』（小杉健治）〕／名場面・名台詞〔壇ノ浦〕／映画・舞台の『新・平家物語』〔機織りの練習だけで一週間。楽しくも、たいへんだった“時子”（久我美子）／吉川先生の、登場人物への愛情が製作意欲をかき立てる（清水満）〕〉／運命のロマン——『三国志』『新・水滸伝』の世界〈解説〔戦乱の中国大陸を駆け抜けた群像を現代によみがえらせた吉川『三国志』／著者の「自作を語る」〕／新しい息吹で、日本の「水

滸伝」に生まれ変わった中国の古典（立間祥介）／私と『三国志』[中国史の最初のイメージを形づくった『三国志』（粕谷一希）／小学校六年生の時、興奮しながら読了（佐々木毅）／『諸葛孔明』で吉川三国志の宿題を提出（陳舜臣）／映画・舞台の『三国志』／歴史のロマン——その他の歴史小説の世界（解説 [史実を彩るあまたの歴史小説たち（城塚朋和）]）／私と『神州天馬侠』[竹童少年の親を求めて“続編”を自作（辻真先）]／映画・舞台の「その他の歴史小説」

2. 『武蔵からバガボンドへ「吉川英治展」』 2001年5月29日 編集：吉川英治記念館
／毎日新聞社 発行：毎日新聞社
収録：凡質を孜孜と研く剣豪（関川夏央）／まぼろしの水心居（杉本苑子）／『武蔵』の調味料（吉川英明）／口絵／I、吉川英治 エンターテインメントワールド／II、人間、吉川英治／III、吉川英治からのメッセージ／吉川英治略年譜／吉川英治賞（文学賞／文学新人賞／文化賞）／主な出品資料

目録

1. 『吉川英治小説作品目録』

- 1-1. 『吉川英治小説作品目録』 1987年9月7日 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会 目次無し
1-2. 『吉川英治小説作品目録』 改訂版 1992年9月7日 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会 目次無し

作品

1. 『続川柳・詩歌集』 1997年9月7日 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会
収録：俳句・川柳／短歌・その他／解説「作家以前の吉川英治—川柳家・吉川雉子郎」（城塚朋和）

復刻

1. 『江の島物語（初期作品集）』 1990年9月7日 著者：吉川英治 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会
1-1. 『江の島物語 初期作品集』 1977年2月1日 著者：吉川英治 編集：六興出版内吉川英治文庫刊行会 発行：講談社
2. 『折々の記』 1990年9月7日 著者：吉川英治 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会
2-1. 『折々の記』 1977年6月1日 著者：吉川英治 編集：六興出版内吉川英治文庫刊行会 発行：講談社

3. 『川柳・詩歌集』 1990年9月7日 著者：吉川英治 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会
- 3-1. 『川柳・詩歌集』 1977年8月1日 著者：吉川英治 編集：六興出版内吉川英治文庫刊行会 発行：講談社
4. 『草思堂随筆 窓辺雑草』 1990年9月7日 著者：吉川英治 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会
- 4-1. 『草思堂随筆 窓辺雑草』 1977年7月1日 著者：吉川英治 編集：六興出版内吉川英治文庫刊行会 発行：講談社

館報

1. 『草思道だより』
- 1-1. 『草思道だより』 第1巻第1号 1992年3月1日
収録：発刊の言葉（吉川文子）／吉川先生と私（杉本健吉）／生誕百年記念行事について／記念館史（1）〈開館から第一回英治忌まで〉／収蔵品紹介（1） 「概要」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／吉川英治を知るこの十五冊／吉川英治関連記事／庭園案内「遊歩道」 ※原本未見
- 1-2. 『草思道だより』 第1巻第2号 1992年6月1日
収録：平成四年度吉川英治賞決定／受賞者の言葉／記念館史（2）〈昭和五四年秋より五六年末まで〉／収蔵品紹介（2） 額「読書随所浄土」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／吉川さんの情味（萱原宏一）／吉川先生と石頭和尚のミイラ（松本昭）／庭園案内「椎の樹」 ※原本未見
- 1-3. 『草思道だより』 第1巻第3号 1992年9月1日
収録：英治忌特別展 「吉川英治・趣味の世界」／生誕百年記念展続報／新収蔵資料「日章旗」／記念館史（3） 昭和五七年春より五八年末まで／収蔵品紹介（3）〈額「山川皆我師」〉／川柳・詩歌集から（吉川英明）／取材旅行こぼれ話（小川薫）／ある日の追憶（木村伸）／庭園案内「母屋・書斎」／追悼・扇谷正造氏／扇谷さんご夫妻（吉川文子） ※原本未見
- 1-4. 『草思道だより』 第1巻第4号 1992年12月1日
収録：「吉川英治の世界展」開幕／実習を終えて（新井里江子）／川柳・詩歌集から（吉川英明）／記念館史（4）〈昭和五九年一月～一二月〉／収蔵品紹介（4） 軸装「長恨歌」／庭園案内「長屋門ほか」／先生と『長恨歌』（田中義一）／吉川先生と夫・升田幸三のこと（升田静尾）／新収蔵資料「原稿 太閤記」 ※原本未見
- 1-5. 『草思道だより』 第2巻第1号 1993年3月1日
収録：生誕百年記念展開幕／記念館史（5）〈昭和六〇年一月～六一年一二月〉／鈴木健二の吉川英治スペシャル／収蔵品紹介（5） 軸装「宮本武蔵生地の図」／川柳・

詩歌集から（吉川英明）／家宝（矢野晃一）／庭園案内「大仏殿瓦」／平成四年度新刊書から ※原本未見

1-6. 『草思道だより』 第2巻第2号 1993年6月1日

収録：平成五年度吉川英治賞決定／受賞者の言葉／記念館史（6）〈昭和六二年より六三年末まで〉／収蔵品紹介（6）額「身を浅く思ひ世を深く思ふ」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／新収蔵資料『新・平家物語』挿絵原画／庭園案内「石人・五輪塔」／鈴木健二の吉川英治スペシャル（2） ※原本未見

1-7. 『草思道だより』 第2巻第3号 1993年9月1日

収録：北京で「日本画家・杉本健吉展」／英治忌特別展／新収蔵資料「近藤浩一路画『太閤記』」／記念館史（7）〈平成元年一月～二年末〉／収蔵品紹介（7）軸装「木曾街道・お通の図」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／熟読五十四年（山本容朗）／青梅と吉川英治①／鈴木健二の吉川英治スペシャル（3） ※原本未見

1-8. 『草思道だより』 第2巻第4号 1993年12月1日

収録：高松市で「吉川英治展」／新収蔵資料「宮本武蔵執筆ノート」／記念館史（8）〈平成三年および総括〉／収蔵品紹介（8）軸装「柳亭図 興君一夕話」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／草思堂の三年（大塚光幸）／青梅と英治②「吉野公民館」／ラジオスケッチ「原爆の子と吉川さん」 ※原本未見

1-9. 『草思道だより』 第3巻第1号 1994年3月1日

収録：随筆「梅村漫筆」／収蔵品紹介（9）軸装「白梅紅梅図」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／吉川先生を追慕して（野村栄）／青梅と英治③「万年橋碑文」／資料集（一）「吉川英治舞台上演作品一覧①」／菊池寛記念館「吉川英治の世界展」 ※原本未見

1-10. 『草思道だより』 第3巻第2号 1994年6月1日

収録：平成六年度吉川英治賞決定／受賞の言葉／収蔵品紹介（10）軸装「清盛塚図 君よ今昔の感如何」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／ゴルフをご一緒して（益田桑子）／資料集（二）「吉川英治舞台上演作品一覧②」／青梅と吉川英治④「梅花賞」 ※原本未見

1-11. 『草思道だより』 第3巻第3号 1994年9月1日

収録：三国志紀行——蜀漢の旅①／川柳・詩歌集から（吉川英明）／英治忌特別展／青梅と英治⑤「秩父多磨国立公園指定に一役」／資料集（三）「吉川英治舞台化作品一覧③」／南方から帰る吉川さんと共に（横山隆一）／「宮本武蔵」——舞台こぼれ話（島田正吾）／収蔵品紹介（11）絵皿「茄子の図」 ※原本未見

1-12. 『草思道だより』 第3巻第4号 1994年12月1日

収録：三国志紀行——蜀漢の旅②／収蔵品紹介（12）軸装「門 やさしい むつかしい」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／戦後版「新書太閤記」出版と GHQ（青木

武) / 資料集 (四) 「吉川英治舞台化作品一覧④」 / 青梅と英治⑥「俳句で地元と交流」
※原本未見

1-13. 『草思道だより』 第4巻第1号 1995年3月1日

収録：三国志紀行——蜀漢の旅③ / 収蔵品紹介 (13) 軸「梅の香や四十初惑と思ひしに」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 五四年目の手紙 (不破哲三) / 資料集 (五) 「吉川英治舞台化作品一覧⑤」 / 青梅と英治⑦「戦後の再出発に奥多摩を描く」 / 新収蔵資料「軸『離』」 ※原本未見

1-14. 『草思道だより』 第4巻第2号 1995年6月1日

収録：平成七年度吉川英治賞決定 / 受賞の言葉 / 資料集 (六) 「吉川英治舞台化作品一覧⑥」 / ビデオ吉川英治『三国志』紀行 / 三国志紀行——蜀漢の旅④ / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 収蔵品紹介 (14) 「チェリオ引退記念風呂敷」 ※原本未見

1-15. 『草思道だより』 第4巻第3号 1995年9月1日

収録：英治忌特別展のお知らせ / 収蔵品紹介 (15) 軸装「あめつちのふしぎ ありがたし飯ありぬ」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 三国志紀行——蜀漢の旅⑤ / 吉川英治の思い出——特別編 / 資料集 (七) 「吉川英治舞台化作品一覧⑦」 ※原本未見

1-16. 『草思道だより』 第4巻第4号 1995年12月1日

収録：三国志紀行——蜀漢の旅⑥ / 収蔵品紹介 (16) 軸装「不達不入」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 吉川英治先生の思い出 (原福太郎) / 資料集 (八) 「吉川英治舞台上演作品一覧⑧」 ※原本未見

1-17. 『草思道だより』 第5巻第1号 1996年3月1日

収録：随筆「牛乳と英語」 (吉川英治) / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 軽井沢 (今泉弘子) / 収蔵品紹介 (17) 軸装「野菜図 深泥亦国恩」 / 三国志紀行——蜀漢の旅⑦ / 資料集 (九) 「吉川英治舞台上演作品一覧⑨」 ※原本未見

1-18. 『草思道だより』 第5巻第2号 1996年6月1日

収録：平成八年度吉川英治賞決定 / 受賞のことば / 収蔵品紹介 (18) 軸装「春の御文庫」 / 家長の顔 (秋山ちえ子) / 三国志紀行——蜀漢の旅⑧ / 川柳・詩歌集から (吉川英明) ※原本未見

1-19. 『草思道だより』 第5巻第3号 1996年9月1日

収録：吉川英治賞の三〇年展 / 吉川英治賞全受賞者一覧 / 収蔵品紹介 (19) 軸装「帰る雁見たか日本のうらおもて」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) ※原本未見

1-20. 『草思道だより』 第5巻第4号 1996年12月1日

収録：吉川英治賞三〇年記念講演会と特別展 / アイメイトとともに (塩屋賢一) / 三国志紀行——蜀漢の旅⑨ / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 博物館実習で感じたこと / 田中さんの思い出 (吉川文子) / 収蔵品紹介 (20) 軸装「奈良へ来ても 伊勢路に来ても 見れば見とれぬ 母ある人の母伴ふを」 ※原本未見

- 1-21. 『草思道だより』 第6巻第1号 1997年3月1日
収録：吉川英治記念館開館二〇周年／第三〇回吉川英治文化賞記念講演会／三国志紀行——蜀漢の旅⑩／兄・吉川英治（吉川晋）／収蔵品紹介（21） 軸装「桜の園」／川柳・詩歌集から（吉川英明） ※原本未見
- 1-22. 『草思道だより』 第6巻第2号 1997年6月1日
収録：平成九年度吉川英治賞決定／受賞のことば／収蔵品紹介（22） 扇「こちら向く林檎畑の眸かな」／川柳・詩歌集から（吉川英明）／埋もれていた作品「本伝御前試合」／新収蔵資料〈岩田正巳画「佐々木小次郎図」〉 ※原本未見
- 1-23. 『草思道だより』 第6巻第3号 1997年9月1日
収録：英治忌特別展 「川柳家・吉川雉子郎展」／『続・川柳詩歌集』から（吉川英明）／川柳味雑話（吉川英治）／解説「短詩型文学の時代」／収蔵品紹介（23） 額装「苦徹成珠」／新収蔵資料「三井永一挿絵原画」／写真コンクール ※原本未見
- 1-24. 『草思道だより』 第6巻第4号 1997年12月1日
収録：吉川英治文化賞講演会／年輪による年代測定法について（光谷拓実）／身近な自然を考える（馬塚丈司）／柳田資料に見る吉川雉子郎／収蔵品紹介（24） 卷子「ちしゅん菴會記」／川柳・詩歌集より（吉川英明）／来館者ノートより ※原本未見
- 1-25. 『草思道だより』 第7巻第1号 1998年3月1日
収録：舌を洗ふ（吉川英治）／柳田資料に見る吉川雉子郎／吉川先生の御陰（大野風太郎）／収蔵品紹介（25） 軸装「長干行」／川柳・詩歌集より（吉川英明）／来館者ノートから ※原本未見
- 1-26. 『草思道だより』 第7巻第2号 1998年6月1日
収録：平成一〇年度吉川英治賞決定／受賞のことば／収蔵品紹介（26） 色紙「たのしみある所に愉しみ たのしみなき所にも愉しむ」／川柳・詩歌集より（吉川英明）／『文録三人間』（吉川英治）／英治の愛した青梅・奥多摩写真コンクール入選作品発表 ※原本未見
- 1-27. 『草思道だより』 第7巻第3号 1998年9月1日
収録：特別展「子供と吉川英治」／吉川英治少年少女小説一覧／『文録三人間』（吉川英治）／収蔵品紹介（27） 軸装「寒流帯月澄如鏡」／川柳・詩歌集より（吉川英明） ※原本未見
- 1-28. 『草思道だより』 第7巻第4号 1998年12月1日
収録：吉川英治文化賞講演会／沙漠緑化への挑戦（遠山柁雄）／『文録三人間』（吉川英治）／学芸員実習を終えて（関根美帆）／川柳・詩歌集より（吉川英明）／収蔵品紹介（28） 軸装「凧々良い子悪い子なかりけり」 ※原本未見
- 1-29. 『草思道だより』 第8巻第1号 1999年3月1日
収録：自由に学び働ける喜び（高橋實）／『文録三人間』（吉川英治）／特別展の来館

- 者ノートより／収蔵品紹介 (29) 額装「雪山春不遠」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／「吉川英治と宮本武蔵展」開催 (姫路文学館) ※原本未見
- 1-30. 『草思道だより』 第8巻第2号 1999年6月1日
 収録：平成一一年度吉川英治賞決定／吉川英治南方紀行日誌／収蔵品紹介 (30) 扇子「我のみの 夜半の机とおもひしに なぐさめがほの しろき花百合」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／英治の愛した奥多摩の自然と人々写真コンテスト入賞作品発表 ※原本未見
- 1-31. 『草思道だより』 第8巻第3号 1999年9月1日
 収録：特別展『宮本武蔵のイメージ』／宮本武蔵小説一覧／吉川英治南方紀行日誌／収蔵品紹介 (31) 額装「汚色蟻院図」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／第三回写真コンテスト募集要項 英治の愛した奥多摩の自然と人々 ※原本未見
- 1-32. 『草思道だより』 第8巻第4号 1999年12月1日
 収録：『アホウドリに夢中』 (長谷川博) ／吉川英治南方紀行日誌／学芸員実習を終えて (森谷華子) ／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／収蔵品紹介 (32) 〈色紙「右国上五合菴路花すすき」〉 ※原本未見
- 1-33. 『草思道だより』 第9巻第1号 2000年3月1日
 収録：『ありのままの自分でいい』 (見城慶和) ／吉川英治南方紀行日誌／収蔵品紹介 (33) 軸装「せうへんの先を曲げるよ春の風」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／新規収蔵資料 ※原本未見
- 1-34. 『草思道だより』 第9巻第2号 2000年6月1日
 収録：平成一二年度吉川英治賞決定／吉川英治南方紀行日誌／収蔵品紹介 (34) 軸装「花 御防人 たつや青葉の多摩の瀬を 征くものこるも あらぬいそぎに」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／杉本苑子講演会 ※原本未見
- 1-35. 『草思道だより』 第9巻第3号 2000年9月1日
 収録：特別展「太平記をめぐる ――杉本苑子と吉川英治」／はずかしがらずにやってみよう (山崎勲) ／写真コンテスト入賞者発表／収蔵品紹介 (35) 色紙「寺へ出て寺までかへる盆の月」／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／資料の寄贈 ※原本未見
- 1-36. 『草思道だより』 第9巻第4号 2000年12月1日
 収録：新・平家物語取材紀行日誌／収蔵品紹介 (36) 色紙「大衆即大智識」／写真コンテスト入賞作品選評／学芸員実習を終えて (山崎和) ／川柳・詩歌集より (吉川英明) ／資料集 (一〇) 〈吉川英治舞台上演作品一覧〉 ※原本未見
- 1-37. 『草思道だより』 第10巻第1号 2001年3月1日
 収録：「吉川英治 エンタテインメント・ワールド」／剪らないうちの牡丹が花 (吉川英治) ／中国「全国人物類博物館記念館現状と発展の見通し 学術検討会」に参加し

- て(城塚朋和) / 秘書が見た吉川英治の執筆風景 / 収蔵品紹介 (37) 色紙「草思堂」 / 川柳・詩歌集より (吉川英明) ※原本未見
- 1-38. 『草思道だより』 第10巻第2号 2001年6月1日
収録: 平成一三年度吉川英治賞決定 / 受賞のことば / 新世紀の吉川英治展 / 収蔵品紹介 (38) 色紙「かにかくに君と吉野と新平家」 / 川柳・詩歌集より (吉川英明) / 写真コンテスト入賞作品選評 ※原本未見
- 1-39. 『草思道だより』 第10巻第3号 2001年9月1日
収録: 英治忌特別展「菊池寛と吉川英治——その交友と文学観」 / 三越「吉川英治展」を終えて / 写真コンテスト入賞者発表 / 収蔵品紹介 (39) 色紙「菊作り咲き揃ふ日は蔭の人」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 「草思堂だより」総目次 (1) / 記念館日誌 / 第5回写真コンテスト
- 1-40. 『草思道だより』 第10巻第4号 2001年12月1日
収録: 吉川英治文化賞記念講演会 / 釘 千年のいのち (白鷹幸伯) / 吉川英治論集 三点 / 博物館実習を終えて (江口里佳) / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 『草思堂だより』総目次 (2) / 写真コンテスト選評
- 1-41. 『草思道だより』 第11巻第1号 2002年3月1日
収録: 「人生を探究するために」 (近藤恒夫) / 吉川英治未収録随筆集「新春一話」「いさゝかの茶ごゝろ」 / 新規受け入れ資料 / 収蔵品紹介 (40) 軸装「いじらしや国敗れても梅は咲く」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 記念館日誌 / 写真コンテスト
- 1-42. 『草思道だより』 第11巻第2号 2002年6月1日
収録: 天皇皇后両陛下下行幸啓 / 平成一四年度吉川英治賞決定 / 受賞のことば / 国際理解とボランティア (菅原昭) / 収蔵品紹介 (41) 軸装「瓜田之王者」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 記念館日誌 / 写真コンテスト選評
- 1-43. 『草思道だより』 第11巻第3号 2002年9月1日
収録: 館長に就任して (吉川英明) / 記念館日誌 / 英治忌特別展「宮本武蔵」 / 吉川英治旧蔵の「丸岡有馬文書」について (高木昭作) / 写真コンテスト結果発表 / 収蔵品紹介 (42) 色紙「濁世にやおん汗ばみの盧遮那仏」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 追悼・吉川英穂氏
- 1-44. 『草思道だより』 第11巻第4号 2002年12月1日
収録: 随筆宮本武蔵 (吉川英治) / 映画「住井すゑ・百歳の間人宣言」と吉川英治 (南文憲) / 第六回写真コンテスト募集要項 / 宮本武蔵関連の展覧会 / 新刊図書紹介 / 収蔵品紹介 (42) 色紙「汝も又夜明かし癖か冬の蠅」 / 川柳・詩歌集から (吉川英明) / 記念館日誌他
- 1-45. 『草思道だより』 第12巻第1,2合併号 2003年3月1日
収録: 鎌田敏夫さんと『武蔵』を語る / 平成15年度吉川英治賞決定 / 「無知の弁」 (吉

川英治) / 収蔵品紹介 44 色紙「ぬる川や湯やら霧やら月見草」 / 記念館日誌 / 写真コンテスト入賞作品紹介 / イベントカレンダー 他

1-46. 『草思道だより』 第 12 巻第 3 号 2003 年 9 月 1 日

収録：英治忌特別展と武蔵関連イベント / 特別展に寄せて「武蔵の風景」 / 館長随想 (1) 英治忌に思う / 第六回吉川英治記念館写真コンテスト / 新発売のミュージアムグッズ / 収蔵品紹介 45 色紙「魏曹植 七歩詩」 / 記念館日誌 / 写真コンテスト入賞作品紹介

1-47. 『草思道だより』 第 12 巻第 4 号 2003 年 12 月 1 日

収録：「歴史物への寸想」(吉川英治) / 英治忌と武蔵イベント / 第 7 回写真コンテスト募集要項 / 記念館日誌 / 館長随想 (2) 湯のたぎる音 / 収蔵品紹介 46 色紙「柳原涙の痕や酒のしみ」 / 写真コンテスト入賞作品紹介

1-48. 『草思道だより』 第 13 巻第 1 号 2004 年 3 月 1 日

収録：新収蔵資料 / 『武蔵』ブームを振り返って / 記念館日誌 / 館長随想 (3) 梅のころ / 収蔵品紹介 47 軸「萱崖は母の胸にも似たるかな」 / 高きを忘れただぬくもれり / ミュージアムショップリニューアルオープン

1-49. 『草思道だより』 第 13 巻第 2 号 2004 年 6 月 1 日

収録：杉本先生のこと(吉川文子) / 『私本太平記』とさしえの杉本健吉さんのこと(松本昭) / 平成 16 年度吉川英治賞決定 / 館長随想 (4) 杉本健吉先生を偲んで / 収蔵品紹介 48 色紙「小田原やここ父祖の地とみるからに松のすがたもだれやらに似る」 / ミュージアムショップ営業開始 / 記念館日誌

1-50. 『草思道だより』 第 13 巻第 3 号 2004 年 9 月 1 日

収録：英治忌特別展「追悼・杉本健吉——吉川英治との交流を中心に」 / イベントカレンダー / 第七回吉川英治記念館写真コンテスト入賞者発表 / 写真作品募集 第八回吉川英治記念館写真コンテスト / 記念館日誌 / 館長随想 (5) 五十年ぶり、の記 / 収蔵品紹介 49 色紙「秋の灯や英明英穂何を読む」 / 第 7 回写真コンテスト入賞作品紹介 / 草思堂の花々

1-51. 『草思道だより』 第 13 巻第 4 号 2004 年 12 月 1 日

収録：墨絵奈良へ(吉川英治) / 見る「本」(山口啓介) / 資料の寄贈 / 記念館日誌 / 総合学習の感想文 / 写真コンテスト選評 / 第 8 回写真コンテスト要項 / 館長随想 (6) あこのころの景色 / 収蔵品紹介 50 短冊「もの音もあらぬ書斎のさむさかな」 短冊「木枯らしの夜半の中なりわが机」 / 第 7 回写真コンテスト入賞作品

1-52. 『草思道だより』 第 14 巻第 1 号 2005 年 3 月 1 日

収録：春の特別展「杉本健吉『新・平家絵物語』展」 / 悲願“新・平家絵物語”因縁(杉本健吉) / 青年清盛と私(市川雷蔵) / 館長随想 (7) 旧暦のすすめ / 収蔵品紹介 51 短冊「ちちははの忌もおこたりてはたらけどやすらぎたまへ良き子とはならむ」

記念誌（開館）

1. 『吉川英治記念館設立史』 1988年9月7日 編集：吉川英治記念館 発行：財団法人吉川英治国民文化振興会 目次無し

【34】大佛次郎記念館

図録

1. 『漫画に見る普仏戦争，パリ・コミューン』 1981年3月10日 編集・発行：財団法人大佛次郎記念
収録：カラー口絵／はじめに／大佛次郎記念館「政治風刺画コレクション」について／
図録／解説 普仏戦争期におけるフランスの政治風刺画について／収録作品の解説／
参考：関連事件略年表
2. 『大佛次郎生誕九十年記念展』 1987年11月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念
収録：大佛次郎生誕九十年記念展にあたって（飛鳥田一雄）／カラー図版／展示解説／
大佛次郎略年譜／「鞍馬天狗」作品一覧／新聞小説一覧／大佛次郎記念館のあゆみ／事
業内容一覧／主な出品資料／協力者

目録（シリーズ）

1. 『おさらぎ選書』
 - 1-1. 『「おさらぎ選書」第一集』 1986年3月（1992年3月増補版） 編集・発行：
財団法人大佛次郎記念会
収録：「影を追ふ」（大佛次郎）／大佛次郎時代小説作品目録／大佛次郎記念館新収資
料目録〈普仏戦争／パリ・コミューンに関するポスター／リーフレット〉
 - 1-2. 『おさらぎ選書 第二集 大佛次郎記念館蔵書目録 歴史 一昭和61年12月末日
現在一』 1987年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
 - 1-3. 『「おさらぎ選書」第三集』 1988年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
収録：「明治に歩み寄る」（大佛次郎）／大佛次郎作品目録〈現代小説／ノンフィクシ
ョン／少年少女小説／童話／戯曲〉／「鳩と気球」パリ籠城期（一九七〇～七一年）
における郵政事情（松井道昭）
 - 1-4. 『「おさらぎ選書」第四集 大佛次郎記念館蔵書目録 社会科学・自然科学・工学・
産業・芸術・語学』 1990年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
 - 1-5. 『「おさらぎ選書」第六集 大佛次郎エッセイ作品目録』 1992年3月 編集・発

行：財団法人大佛次郎記念会

- 1-6. 『「おさらぎ選書」第七集』 1993年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
収録：大佛次郎作品目録〈翻訳／翻案／抄訳／対談／鼎談／座談／講演／談話／俳句／詩〉／『国防政府査問録』に見る、籠城下パリ市民の精神状態（松井道昭）
- 1-7. 『おさらぎ選書 第八集 大佛次郎作品掲載紙誌目録』 1993年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
- 1-8. 『おさらぎ選書 第九集 大佛次郎記念館蔵書目録 文学—文学総記・日本文学—
—平成5年12月末日現在—』 1994年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
- 1-9. 『おさらぎ選書 第十集 大佛次郎記念館蔵書目録 文学—外国文学—
—平成6年12月末日現在—』 1997年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
- 1-10. 『おさらぎ選書 第11集 大佛次郎記念館蔵書目録 総記・哲学、補遺 —平成
13年12月末日現在—』 2002年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会

目録

1. 『パリ・コミュニケーション蔵書（洋書）目録 大佛次郎氏旧蔵』 1977年3月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会
収録：はじめに・凡例／パリ・コミュニケーション蔵書の特色／A 公文書／B 新聞及び定期刊行物／C 「コミュニケーション」に関する記録（回想・記録・実歴談・書簡）／D 同時代人の「コミュニケーション」に関する評論／E 「コミュニケーション」に関する研究書／F 人物研究／G 地方の「コミュニケーション」／H 普仏戦争およびパリの「包囲」／I 環境（その他の参考文献）／J 「コミュニケーション」に関する文芸作品／K 図画・写真・古地図／L 辞典・目録
2. 『大佛自答作品掲載紙誌目録稿』 1980年10月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会 目次無し
3. 『大佛次郎記念館所蔵・政治風刺画コレクション目録』 1981年1月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会 目次無し
4. 『大佛次郎記念館所蔵「フランス第三共和成立史資料」目録』 1983年5月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会 目次無し
収録：はしがき／凡例／目録／件名索引／付録
5. 『大佛次郎記念館所蔵「ドレフェス事件関連資料」目録』 1994年10月31日 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会 目次無し
6. 『大佛次郎記念館所蔵「パリ史資料」目録』 2002年12月 編集・発行：大佛次郎記念館 目次無し

研究誌

1. 『アルバム大佛次郎』 1983年4月30日 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会

収録：大佛次郎 興亡の 75 年／大佛次郎一人と文学（歴史家の無私な眼（小林秀雄）／大らかな大人（福原麟太郎）／大佛次郎略年譜（福島行一）

記録集

1. 『おさらぎ選書』

1-1. 『「おさらぎ選書 第 12 集」 大佛次郎研究会〈講演と研究発表〉論文集』 2004 年 3 月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会

収録：日暮れて（大佛次郎）／大佛次郎研究会《講演と研究発表》論文集〈大佛次郎とラジカリズム（村上光彦）／大佛文学を貫くもの（山口俊章）／美しき歴史叙述 — 「天皇の世紀」研究史—（福島行一）／名探偵・鞍馬天狗の冒険 大佛次郎とコナン・ドイル（田中喜芳）

1-2. 『「おさらぎ選書 第 13 集」 大佛次郎研究会〈シンポジウムと講演〉集』 2005 年 3 月 編集・発行：大佛次郎記念館

収録：大佛次郎研究会《シンポジウムと講演》集「『天皇の世紀』はなぜすごいのか？（菊田均 新保祐司 富岡幸一郎）／司馬遼太郎、綱淵謙錠と大佛次郎（久米勲）／時代の壁、時代の暗さ（村上光彦）

作品

1. 『おさらぎ選書』

1-1. 『「おさらぎ選書」第五集 大佛次郎初期作品集』 1991 年 3 月 編集・発行：財団法人大佛次郎記念会

収録：二つの種子／夕立／《俳句》／薩摩潟／《俳句》／《一高ロマンス》〈黄金文学——高便所の楽書／受験当時を顧みて／黄金文学——高便所の楽書（続）／受験当時を顧みて（続）／初めてストームに襲はれた記／一高鉄拳制裁物語／一高コンパの夜／蠟勉と万年床—試験前の向陵生活／一高の怪談—七不思議／女人禁制案——高ロマンス 二月総代会議案／記念祭前夜／一高物語 Sheets の応援旗—対外野球試合大活劇／（本年度の一高寮歌）／賄征伐——高ロマンス／食物修行——高ロマンス／一高に来る人々へ—序に更えて／入寮記／神楽ヶ岡遠征—対三高野球試合／敗北の日／鏡浦の水泳部生活／ストーム撃退物語／来らんとする諸氏へ／夏の国へ——高ロマンス 水泳部行／給仕から見た一高の食堂／一高水泳部の生活／鼻／解題（福島行一）

【35】神奈川県立神奈川近代文学館

図録

1. 『神奈川近代文学館開館記念 近代文学一〇〇年と神奈川展』 1984年10月13日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：開館記念展にあたって（小田切進）／カラー口絵／19世紀から20世紀へ（前田愛）〈ヨコハマ—文明の港— [ペリー・ショック／横浜開港／大佛次郎「幻燈」の世界／仮名垣魯文と文明開化／新聞の誕生]／北村透谷と民権運動 [演説・速記／政治小説／透谷のあしどり／石坂公歴のこと（色川大吉）]／森鷗外、逍遙・二葉亭／風景の発見 [江の島／逗子／鎌倉／箱根／国木田独歩／国木田独歩の愛の手紙（福田清人）]／日清戦後の文学 [社会小説／樋口一葉]／近代文学の成熟と展開（紅野敏郎）〈20世紀の幕開け [大正世代の門出／日露戦争と文学者／遂に新しき詩歌の時は来りぬ／大逆事件前後／横浜開港五十周年]／日露戦後の文学 [自然主義の人びと／耽美派作家の多様性／森鷗外の再活躍／夏目漱石とその周辺]／大正デモクラシーの時代 [白樺派の人びとの個性／大正デモクラシー／芥川龍之介／葛西善蔵／広津和郎／宇野浩二／谷崎潤一郎と佐藤春夫／関東大震災]／大正期の詩歌 [白秋・牧水・夕暮／朔太郎と耿之助／大正期の歌人たち／大人子供（山本太郎）^{ふとか}]／児童文学の開花〉／現代の表現を求めて〈震災と復興—谷崎・芥川を中心に— [「痴人の愛」とモダニズム／芥川の死]／都市化時代の文学 [「文芸時代」と横光・川端／都会文学の成立と展開／プロレタリア文学／労働者像と闘士像の展開]／昭和詩の展開 [前衛詩の成立／「驢馬」の人びと／朔太郎・孝太郎・「四季」など]〉
2. 『没後十五年 獅子文六展』 1984年12月13日 発行：財団法人神奈川文学振興会
目次無し
3. 『日本の子どもの文学展 図録』 1985年10月18日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：「日本の子どもの文学展」開催にあたって（小田切進）／日本の子どもの文学展によせて〈絵本についてひとこと（赤羽末吉）／きらめく宝石（安西篤子）／蔑視の中で（飯沢匡）／「子どもの文学展」へ寄せる（稲垣達郎）／未来への展望をひらく（いぬいとみこ）／人の生涯の文学（今西祐行）／快哉と謝意（加古里子）／問題は未来にあり（木下順二）／想像力の宝庫（渋谷孝輔）／大事なこと（庄野潤三）／私にとって灯台（滝平二郎）／内田百閒氏のこと（筒井敬介）／新しい発見の予感（鳥越信）／開けゴマ（中里恒子）／未来への願いをこめて（灰谷健次郎）／子供のころの印象（羽仁進）／意義ぶかいこゝろみである（椋鳩十）／画期的な五部構成—多くの人々の関心を—（関英雄）／児童文学展への期待（滑川道夫）／子どもの文学展に（福田清人）／子どもたちのために（藤田圭雄）〉／図版／カラーページ／第一部 児童文学・その前史から現代まで〈前史／子どもの文学の夜明け／ロマンの花咲く／大正のころ／暗い谷間の光と影／子どもの文学の新しい動き／解説（関英雄 富田博之 上笙一郎）〉／第二

部 絵本・さしえの歩み〈お伽絵の時代／童画の成立／抒情画・蜜描画の時代／現代／解説（宮川健郎）〉／第三部 子どもの歌の流れ〈わらべうた／唱歌／童謡／子どもの歌／解説（佐藤宗子 上笙一郎）〉／第四部 教科書の中の児童文学〈往来物から墨ぬり教科書まで／戦後の検定教科書と児童文学／解説（根本正義）〉／第五部 女流児童文学の歩み〈女流児童文学のめばえ／女流児童文学の成長／くらい谷間の女流児童文学／女流児童文学の開花／解説（上笙一郎）〉／児童文学略年表（富田博之）／日本各地の主な児童文学碑／主な出品資料・出品協力者

4. 『生誕百年 武者小路実篤と白樺美術展 神奈川と白樺派』

4-1. 『生誕百年 武者小路実篤と白樺美術展 神奈川と白樺派』 1985年4月27日 編集：武者小路実篤と白樺美術展編集委員会 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：神奈川の展覧にあたって（小田切進）／一時期（稲垣達郎）／善美の人（瀬沼茂樹）／存在の意味（本田秋五）／挿話（串田孫一）／武者小路実篤と新しき村（渡辺貫二）／パパの日日（武者小路辰子）／「いないよ」の精神（大津山国夫）／「白樺」と美術（匠秀夫）／部門解説（第一部～第五部）（紅野敏郎）／武者小路実篤年譜（中川孝）／【図版・年譜】《文学部門》[第一部 生い立ちから『荒野』前後／第二部 「白樺」の時代——『お目出たき人』『その妹』『友情』『人間万歳』／第三部 《新しき村》の建設と生長／第四部 昭和の足跡——『愛慾』『井原西鶴』『愛と死』『真理先生』／第五部 仙川時代]／《美術部門》[白樺をめぐる大正美術 {「白樺」と大正美術／白樺主催の展覧会／草土社・フェウザン会／白樺美術館・白樺演劇社}／「白樺」と西洋美術／「白樺」周辺の画家たち／武者小路実篤コレクション]／出品目録
出品協力者

4-2. 『生誕百年 武者小路実篤と白樺美術展 別冊 神奈川と白樺派』 1985年4月27日 発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

5. 『生誕百年 木下杢太郎展』 1985年8月8日 発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

6. 『没後二十年 高見順展』 1985年9月12日 発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

7. 『尾崎一雄展』 1986年3月28日 発行：財団法人神奈川文学振興会

収録：尾崎一雄の文学と、その生涯をしのんで —— 《いのちあって生きることを大切にす》心——（小田切進）／父祖の地／文学に賭けて〈本と尾崎一雄（稲垣達郎）／初対面のころ（永井龍男）／出会い（丹羽文雄）／師・志賀直哉と〈ヤツデの強さ（安岡章太郎）／尾崎さんのこと（藤枝静男）〉／横丁時代〈「暢気眼鏡」のこと（井伏鱒二）／戦争と病気〈尾崎さんの思い出（円地文子）〉／「虫のいろいろ」から晩年まで〈「虫のいろいろ」の素晴らしさ（山本健吉）／尾崎さんの人と小説（本多秋五）／直感と理性（紅野敏郎）／暮ばなし（大岡昇平）／尾崎記念文庫のこと（小田切進）／本展の構成

について（中野孝次）／主な出品物／協力者・出品協力者

8. 『鈴木三重吉没後五十年記念展 〈赤い鳥〉の森 ―日本のこどもの文化の源流―』
1986年7月26日 主催：県立神奈川近代文学館／（財）神奈川文学振興会 発行：（財）
神奈川文学振興会 目次無し
9. 『大衆文学展 よみがえるヒーローたち 図録』 1986年10月25日 発行：財団法人
神奈川文学振興会
収録：「よみがえるヒーローたち」展について（小田切進）／神奈川県ならではの（井上
靖）／わたしたちの夢（村上元三）／大衆文学と現代（瀬沼茂樹）／大衆文学の道しる
べ（尾崎秀樹）／明治の「家庭小説」のヒロイン（中村真一郎）／机龍之介の魅力（堀
田善衛）／鞍馬天狗（小松伸六）／サムライ・ビジネスマン武蔵（石川弘義）／『君の
名は』の真知子（青木雨彦）／ゴジラ（中沢新一）／怪人二十面相礼賛（赤塚行雄）／
カラーページ／物語のなかの明治 ―“つづきもの”から立川文庫へ（前田愛）／大衆
の時代―成立期（真鍋元之／川合澄男）／ヒーロー総登場―発展期（真鍋元之／川合澄
男）／新しい展開へ―成熟期（真鍋元之／川合澄男）／戦火の中で（真鍋元之／川合澄
男）／戦後―廃墟から繁栄へ（清原康正）／探偵小説から推理小説へ（中島河太郎／権
田萬治）／略年譜―大衆文学の流れ／主な出品資料／出品協力者
10. 『川端康成展 没後十五年 人・芸術、その魅力』 1987年3月21日 発行：財団
法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって（小田切進）／川端文学のめざしたもの（山本健吉）／「伊豆の
踊子」について（井上靖）／川端文学の魅力（瀬沼茂樹）／川端文学の特質（中村光夫）
／カラー図版／旅のファンタジー／川端康成の生涯／都市の景観／死の象徴／幻想と
耽美の夜／《女性》性への誘い／舞踏の美／永遠の回帰／美しい日本の私／世界になか
の川端康成（川端香男里）／川端康成略年譜／主な出品物／出品者・協力者
11. 『堀口大學展』 1987年7月11日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって（小田切進）／『月下の一群』（河盛好蔵）／耳の詩（飯島耕一）
／葉山の堀口先生（團伊玖磨）／装幀、挿絵本について（関野準一郎）／詩人の誕生〈誕
生から渡航まで／『月下の一群』の頃〉／『月光とピエロ』から『人間の歌』まで〈初
期詩編から『砂の枕』まで／『人間の歌』まで〉／葉山にて〈戦後の試作〉／翻訳の世
界／装幀・挿絵の世界／カラー図版／父の展覧会によせて（高橋すみれ子）／堀口大學
略年譜／主な出品物／出品者・協力者
12. 『夏目漱石展』 1987年10月17日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：漱石展の開催にあたって（小田切進）／漱石の書画（瀬沼茂樹）／漱石と現在（三
好行雄）／漱石と鎌倉（大岡昇平）／漱石と禅（井上禅定）／カラー図版／漱石の美の
世界 I 絵画／漱石の美の世界 II 書蹟／漱石が描いた神奈川／地図・漱石と神奈川／
出品者・協力者

13. 『太宰治展』 1988年4月23日 発行：財団法人神奈川文学振興会
 収録：開催にあたって（小田切進）／なぜ今日、太宰治展か（奥野健男）／「走れメロス」について（中沢けい）／新風土記叢書「津軽」について（相馬正一）／恋と革命（矢代静一）／「晩年」「人間失格」（増田みず子）／「人間失格」について（野原一夫）／カラー図版／津軽の風土と太宰治／生い立ちと習作期／地下運動のころ／「晩年」・排除と反抗／原稿生活者／「アカルサハ、ホロビノ姿デアラウカ」／「ヴィヨンの妻」と「斜陽」／人間失格／主な出品物／出品者・協力者
14. 『神奈川文学散歩展 湘南の光と影』 1988年7月23日 主催：県立神奈川近代文学館／（財）神奈川文学振興会 発行：（財）神奈川文学振興会
 収録：開催にあたって（小田切進）／東家と《鵠沼文人村》（宮坂覺）／辻堂桜花園通り（山田宗睦）／ふるさとは海岸（菊村到）／カラー図版／明治の湘南／文士多彩一太守おから昭和へ／湘南と戦後の文学／主な出品物／出品者・協力者／湘南文学散歩地図／湘南の文学散歩案内
15. 『堀辰雄展 一生涯と芸術一』 1988年10月22日 発行：財団法人神奈川文学振興会
 収録：開催にあたって（小田切進）／全体の構成（中村真一郎）／小説へのしたたかな意志（清水徹）／「曠野」について（池澤夏樹）／三つの窓（鈴木貞美）／堀辰雄の手紙（富士川英郎）／病床の日々（堀多恵子）／カラー図版／生涯 堀辰雄の風景／芸術 堀辰雄の軌跡／部門解説（中村真一郎／谷田昌平）／堀辰雄略年譜／主な出品物／出品者・協力者
16. 『中里恒子展 一物語のこころ一』 1989年4月15日 発行：財団法人神奈川文学振興会
 収録：中里さんと私（宇野千代）／『まりあんぬ物語』誕生のころ（巖谷大四）／持続ということ（竹西寛子）／満開の花の下に（堀田善衛）／カラー図版／まりあんぬ・ものがたり／第一部 前半生〈少女・中里恒の物語風景／明るい日光室の時代〉／第二部 後半生〈異国への道／魔の刻への誘い／うつつの日々／死をめぐる物語〉／中里恒子略年譜／主な出品物／出品者・協力者
17. 『神奈川文学散歩展 「横浜一文学の港」』 1989年7月22日 発行：財団法人神奈川文学振興会
 収録：神奈川文学散歩展 《横浜一文学の港》開催にあたって（小田切進）／ヨコハマの暗と明 一明治～昭和初期の文学瞥見（内田四方蔵）／なつかしい風（生島治郎）／ハマッ子作家と海（青木雨彦）／水の匂い（岡松和夫）／カラー図版／〔第一部〕舞台は横浜…〈山手——異国の丘／《季節のない街》／港の風景—その昼と夜／横浜の影と生命／田園・いまむかし／〔第二部〕開港から国際港都へ〈開港場と居留地の街／大正期の横浜／混乱と繁栄—昭和期〉／横浜文学散歩地図／横浜の文学略年譜／主な出品

物／出品者・協力者

18. 『吉川英治展』 1989年10月21日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：吉川英治展の開催にあたって（小田切進）／かがみ女（杉本苑子）／吉川英治の伝記小説と維新もの（早乙女貢）／生まれ出づる悩み 「私本太平記」の誕生（松本昭）／吉川英治先生の絵（杉本健吉）／カラー図版／人気作家への道／文学の新しい展開／国民文学の創造へ／人間・吉川英治／書画の世界（カラー図版）／部門解説（尾崎秀樹）／吉川英明／城塚朋和／清原康正）／吉川英治略年譜／主な出品物／出品者・協力者
19. 『有島武郎・有島生馬・里見弴展 ―白樺派三兄弟の芸術―』 1990年3月31日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：因縁（本多秋五）／本展の構成（紅野敏郎）／「或る女」・「海の夫人」（江種満子）／眼の人、有島生馬（酒井忠康）／志賀直哉と里見弴（阿川弘之）／カラー図版／有島家の物語 プロローグ／三人の幼少時代／目覚めのころ／新しい世界へ／＝の「白樺」前史／「白樺」の時代／有島武郎の文学と思想／有島生馬の美術と文学／里見弴文学の世界／エピローグ 有島家の多彩な肖像／主な出品物／有島三兄弟略年譜／出品者・協力者
20. 『神奈川文学散歩展 海辺のきらめき——小田原・真鶴・湯河原』 1990年10月20日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：神奈川文学散歩展《海辺のきらめき——小田原・真鶴・湯河原》開催にあたって（小田切進）／小田原好日（北條秀司）／会えなかった先輩たち（藤田湘子）／文学と小田原、真鶴、湯河原（石井富之助）／カラー図版／風土が育んだ作家たち／保養地・別荘地の風景／車窓から／文人たちの宿／小田原・真鶴・湯河原文学散歩地図／小田原・真鶴・湯河原の文学略年表／主な出品物／出品者・協力者
21. 『山本周五郎展』 1991年4月6日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：純文学と大衆文学の垣根をとりはらう ―山本周五郎展の開催にあたって―（小田切進）／山本周五郎文学の発見（奥野健男）／生きることを好きにさせる力（辻邦生）／山本周五郎先生と私（佐多芳郎）／たとえば人生派（藤沢周平）／カラー図版／【第一部】《ながい坂》を歩く人―前半生の歩み／【第二部】巡礼としての文学―山本周五郎の作品世界／部門・コーナー解説（木村久邇典／山田宗睦／早乙女貢）／山本周五郎略年譜／主な出品物／「山本周五郎と横浜」地図／出品者・協力者
22. 『神奈川文学散歩展 都市の叫び、水のささやき―川崎と文学』 1991年7月20日 発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：誇り（瀬戸内寂聴）／多摩川のアダムとイヴ（島田雅彦）／「タベの雲」の一家（庄野潤三）／カラー図版／【第一部】〈多摩川に育まれて～川崎の原風景〉／【第二部】〈鶺鴒の流れに～都市の文学風景〉／川崎文学散歩地図／川崎文学略年表／主な出品物／出品者・協力者

23. 『日本の詩歌展—詩・短歌・俳句の一〇〇年』 1991年10月19日 発行：財団法人
神奈川文学振興会

収録：日本の詩歌展—詩・短歌・俳句の一〇〇年開催にあたって（小田切進）／二つの
アンソロジー（伊藤信吉）／二十代の空穂（窪田章一郎）／好みと影響（谷川俊太郎）
／「寒雷」の出発（加藤楸邨）／詩歌をその全体で見る意味（大岡信）／「新歌人集団」
の発足（近藤芳美）／去年今年貫く棒の如きもの 高浜虚子（飯田龍太）／カラー図版
／新しい詩歌の時代／短歌・俳句の革新／近代短歌の出発／近代詩の成熟と展開／《ス
ポット》抒情小曲—大正センチメンタル／近代短歌の開花／《スポット》海外詩の翻訳
と影響／革新と伝統と—大正俳句の流れ／現代詩の胎動／昭和初期の詩壇／昭和短歌
の幕開け／現代俳句への道／戦争をめぐる／戦後史の諸相／短歌の再生／戦後俳句
の展開／部門解説（伊藤信吉／熊沢正一／古沢太穂／葛原繁／草間時彦／北村太郎／島
田修二／入沢康夫／小海永二／佐佐木幸綱）／「詩・短歌・俳句一〇〇年のあゆみ」略
年譜／主な出品物 出品者・協力者

24. 『芥川龍之介展 生誕一〇〇年』 1992年4月4日 発行：財団法人神奈川文学振興
会

収録：新しい芥川像—一本展の構想について—（中村真一郎）／芥川龍之介の想出（加藤
周一）／「神々の微笑」（遠藤周作）／芥川のなかのフランス文学（辻邦生）／森鷗外
と芥川龍之介（秋山駿）／「理想の弟子」から…（高橋英夫）／芥川龍之介研究の新し
き地平に（宮坂覺）／芥川と映画（川本三郎）／前門の芥川、後門の龍之介（荻野アン
ナ）／ある感慨をこめて（芥川瑠璃子）／カラー図版／下町の人 「大川の水」「少年」
／「新思潮」から《木曜会》へ 「羅生門」「鼻」／芥川と外国文学 「蜘蛛の糸」「藪
の中」／“切支丹”への関心 「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」「西方の人」／歴
史の流れの中に 「地獄変」「戯作三昧」「舞踏会」／田端の時代 「秋」「侏儒の言葉」
／「保吉の手帳から」／中国への旅 「杜子春」「北京日記抄」「湖南の扇」／軽井沢で
の出会い 「越し人」／晩年 「河童」「齒車」「或阿呆の一生」／国際作家 Akutagawa
／部門解説（中村真一郎）／芥川龍之介略年譜／主な出品物 出品協力者

25. 『没後五〇年 中島敦展 —一閃の光芒—』 1992年9月26日 発行：財団法人
神奈川文学振興会

収録：想像力と詩的対象と—中島敦の世界の二つの柱—（辻邦生）／中島敦の生涯と世
界（田鍋幸信）／横浜が横浜であった時代（勝又浩）／おかしみと形而上性（竹西寛子）
／三作の脚色（矢代静一）／多面の才の人（菅野昭正）／カラー図版／生い立ち—異郷
で／文学のめざめ—学生時代／横浜時代—「なほ高く上らむ」／夢と現実のはざま—
南洋へ／彗星のように—作家の誕生、そしてすぐの死／中島敦の世界（「斗南先生」/
「かめれおん日記」／「光と風と夢」／「李陵」）／部門解説（田鍋幸信）／中島敦略
年譜／主な出品物 出品協力者 1

26. 『「湘南の文学と美術」展』 1993年9月18日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会／財団法人神奈川文学振興会
 収録：「湘南の文学と美術」展開催にあたって（中野孝次）／鶴沼と「白樺」の人びと（紅野敏郎）／湘南を描いた洋画家たち（原田実）／二宮・大磯・平塚／茅ヶ崎・藤沢
 〈《杏雲堂と南湖院》／《東家と作家たち》／《「白樺」と湘南》〉／鎌倉・逗子・葉山
 〈《鎌倉文庫》／《文学と美術の交流》〔徳富蘆花と黒田清輝／泉鏡花と鏑木清方／「白樺」の人びと／朝井閑右衛門と詩人たち〕〉／出品目録 美術関係／出品目録 文学関係／画家と湘南 関係事項／文学者と湘南 関係事項／展覧会協力者
27. 『馥郁タル火夫ヨ 生誕100年西脇順三郎 その詩と絵画』 1994年5月28日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会／財団法人中川文学振興会
 収録：開催にあたって／無類の詩人（栗津則雄）／煙っている光線（飯田善國）／詩人西脇の孤独（中村真一郎）／マージョリとの出会い（西脇緑）／昭和十年代の西脇順三郎（那珂太郎）／詩集『失われた時』（江森國友）／『壊歌』・天体的意識のパークッション（渋谷孝輔）／晩年の西脇さん（飯島耕一）／西脇絵画の透明感（岡田隆彦）／画家としての西脇順三郎（池田満寿夫）／文学部門（新倉俊一）〈馥郁タル火夫ヨ1894-1934／幻影の人 1935-1949／豊饒のめがみ 1950-1962／永遠の旅人1963-1982〉／美術部門（橋秀文）／詩（栗津則雄・選）／画論（酒井忠康・選）／著書目録・美術関係文献目録（新倉俊一・偏）／年譜（新倉俊一・偏）／出品目録〈文学館主／美術関係〉／展覧会協力者
28. 『開館一〇周年・増築落成記念 収蔵コレクション展』 1994年10月1日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：財団法人神奈川文学振興会／財団法人中川文学振興会
 収録：開館十周年にあたって（中野孝次）／収蔵コレクション展案内（保昌正夫）／カラー図版／1〈中村光夫文庫／村井弦斎資料／森鷗外資料／近代作家と原稿用紙（紀田順一郎）／広津柳浪・和郎・桃子資料／夏目漱石資料／内田百閒資料／生田長江資料／中川孝収集 実篤文庫／里見弴資料／渾大防小平資料／谷崎潤一郎資料／芥川龍之介資料／藤森成吉文庫／福本和夫文庫／昭和政治史資料瞥見（伊藤隆）／尾崎一雄文庫／添田唾蟬坊・知道文庫／中西悟堂文庫／中野重治資料／神西清文庫／堀辰雄文庫／中里恒子文庫／中島敦文庫／長篠康一郎収集 太宰治文庫／野間宏文庫／戦後文学資料について（川西政明）／高橋和巳資料／矢代幸雄使用／木下杢太郎文庫／西脇順三郎資料／北村初雄資料／近藤東文庫／杉本三木雄文庫／栗林一石路資料／大野林火文庫／楠本憲吉文庫／鈴木三重吉・赤い鳥文庫／那須辰造文庫／滑川道夫文庫／藤田圭雄文庫／邦枝完二資料／子母沢寛資料／土師清二資料／山本周五郎資料／大衆文学関係コレクション（清原康正）／獅子文六文庫／北村透馬資料／北原武夫資料／蘭郁二郎資料／龍胆寺雄資料／高木健夫文庫／新聞小説の切り抜き（川合澄男）／新聞連載小説資料／勝

- 呂忠文庫) / 2 (カラー図版 / 口絵華やかなりし頃——明治期挿絵資料 (青木茂))
29. 『泉鏡花展—水の迷宮—』 1995年4月22日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 財団法人神奈川文学振興会 / 財団法人中川文学振興会
収録: 開催にあたって / 「泉鏡花展—水の迷宮—」の構成 (村松定孝) / 鏡花先生の芝居 (坂東玉三郎) / 鏡花と金沢—「川向こうの世界」— (小林輝治) / 鏡花における母子神話 (山口昌男) / [水の迷宮] (泉鏡花—水の迷宮 (種村李弘)) / [人と文学] (出生から上京まで—鏡花世界の原風景— (松村友視) / 紅葉門下時代—幻想文学の成立— (松村友視) / 逗子と鏡花 (川村二郎) / 麴町番長時代—鏡花文学の大成一 (松村友視)) / 略年譜 / 主な出品物 / 出品・協力者
30. 『神奈川文学散歩展 鎌倉 文学の理想郷』 1995年10月21日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会
収録: 開催にあたって / 鎌倉の文学者たち (岡松和夫) / 白波に洗われて (詩) (田村隆一) / 鎌倉の秋 (尾崎左永子) / 分子に優しい町 (安西篤子) / “鎌倉文士” 林房雄 (江藤淳)] / 戦時中の鎌倉文士 (富岡幸一郎) / 戦後鎌倉の詩歌俳人 (三木卓) / カラー図版 / 第一部 谷戸の風、浪の音—明治大正の鎌倉— / 第二部 鎌倉文士の時代—震災後～昭和の鎌倉— / 第三部 古都の近代文学—戦後の鎌倉— / 主な出品資料 / 出品・協力者 / 鎌倉文学散歩地図 / 鎌倉近代文学年表
31. 『神奈川文学散歩展 箱根・県央—緑と風と文学と』 1996年4月20日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会
収録: 西湘山水—明治の紀行文について (近藤信行) / それまでの十年 (黒井千次) / 郷土の作家たち—その縁とトポス (清原康正) / 透谷も越えた小仏峠 (今西祐行) / カラー図版 / 【第一部】 箱根 (箱根の開発—明治— / 箱根の発展—大正— / 箱根の変貌—昭和— / 箱根の戦後風景) / 【第二部】 県央 (郷土の作家 / 風土を描く) / 主な出品資料 / 出品・協力者 / 箱根・県央文学散歩地図 / 箱根・県央文学略年表
32. 『大岡昇平展』 1996年10月19日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会
収録: 開催にあたって (中野孝次) / 大岡昇平・讃 (埴谷雄高) / 親身な人 (澤地久枝) / 大岡さんの思い出 (ドナルド・キーン) / 「事件」をめぐって (佐木隆三) / 大岡昇平さんのゴルフ (水上勉) / 文学的青春期 (秋山駿) / 戦争と大岡昇平 (加賀乙彦) / 同時代への眼 (中野孝次) / 歴史小説の世界 (吉田熙生) / 成城での日々 (中野孝次) / スポット (「わが美的洗脳」 / 鉢の木会 / 「ボヤキの大岡」 / 大岡と神奈川) / 略年譜 / 主な出品物 / 出品協力者
33. 『立原正秋展』 1997年4月12日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会
収録: 開催にあたって / 立原正秋とのケンカのこと (本多秋五) / 若き日の立原正秋 (小

川国夫) / 父のような人 (宮城谷昌光) / 「日本の庭」について (岡松和夫) / 回想 (桶谷英昭) / カラー図版 / 第一部 冬原風景—前半生 (高井有一) / 第二部 小説家立原正秋の誕生 (高井有一) / 第三部 立原文学の世界 (高井有一) / 立原正秋と鎌倉 / 略年譜 / 主な出品資料 / 出品・協力者

34. 『文学の挿絵と装幀展』 1997年10月4日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって / 挿絵のゆりかごの時代 (安野光雅) / 夢の手本 (池内紀) / 挿絵・口絵と印刷製版技術の変遷 (渡辺圭二) / カラー図版 / 第一部 明治・大正の文学と挿絵 (酒井忠康) / 第二部 近代挿絵の確立 (植田満文) / 第三部 近代挿絵の開花 (尾崎秀樹) / 主な出品資料 / 出品・協力者

35. 『広津柳浪・和郎・桃子展 —広津家三代の文学』 1998年4月11日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって / 広津家の人々・広津家の資料 (阿川弘之) / 広津柳浪作品と明治の貧困社会 (紀田順一郎) / 広津柳浪・和郎・桃子 (紅野敏郎) / 思い出ふたつ (水上勉) / 広津先生と松川裁判 (本田昇) / 文学表現と男の誠実 (澤地久枝) / カラー図版 / 第一部 柳浪の時代—明治 (中島国彦) / 第二部 和郎の時代—大正・昭和 (橋本迪夫) / 第三部 広津家の終章—桃子 (松原新一) / 広津桃子作品年譜 / 主な出品資料 / 出品・協力者 / 広津家系図の調査報告 / 略年譜

36. 『谷崎潤一郎展』 1998年10月3日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって (中野孝次) / 谷崎文学の魅力と未来 (河野多恵子) / 谷崎文学の思い出 (ドナルド・キーン) / 倚松庵十首 (大岡も古都) / 谷崎源氏と松子夫人 (瀬戸内寂聴) / “小説の神様” (E・G・サイデンステッカー) / カラー図版 谷崎文学への誘い / 第一部 大輪・谷崎の誕生 / 第二部 鬼才撩乱 / 第三部 美神・松子の出現 / 第四部 性と死—晩年の谷崎 / 部門解説 (千葉俊二) / 主な出品資料 / 出品・協力者 / 略年譜 / 「YOKOHAMA と谷崎」地図

37. 『開高健展』 1999年4月10日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって (中野孝次) / 海を越えて 開高健展図録に寄せる (牧羊子) / 「日本三文オペラ」について (梁石日) / 共感性強い作家・人間開高健 (ジャック・ラローズ) / 移動性の物書き (島田雅彦) / カラー図版 / 第1部 焼跡・闇市からの出発 (加賀乙彦) / 第2部 力強く、遠くへ (黒井千次) / 第3部 ヴェトナム (加賀乙彦) / 第4部 ひそやかに、深く (高橋英夫) / 第5部 釣り人、世界を行く (高橋英夫) / 第6部 開高健のダンディズム (黒井千次) / スポット〈“トリス文化”の花形演出家 / 白井ページ / 「面白半分」の編集 / 牧羊子、そして開高道子〉 / 主な出品資料 / 出

品・協力者／開高健略年譜

38. 『永井荷風展』 1999年10月2日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって（中野孝次）／竹の心—まへがきにかへて。（安岡章太郎）／アメリカでの荷風（川本三郎）／荷風を読むという経験（林望）／詩人荷風（高橋睦郎）／カラー図版／第一部 荷風の原点（竹盛天雄）／第二部 耽美派の栄光と屈折（竹盛天雄）／第三部 偏奇館の日々（近藤信行）／エピローグ 荷風の戦後（近藤信行）／略年譜／主な出品資料／出品・協力者
39. 『原爆文学展 ヒロシマ・ナガサキ —原民喜から林京子まで—』 2000年10月7日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって（中野孝次）／長崎からの発信（林京子）／カラー図版／それは人間の列ではなかった。亡者の列だった。 一九四五年八月六日・八月九日／広島原爆文学地図／長崎原爆文学地図／第一部 何が何でも書き残さねば—原爆文学の誕生一九四五年～一九五〇年代前半〈凝縮された言葉に託して—原爆詩歌〉／第二部 原爆と文学—多様化する「ヒロシマ・ナガサキ」の表現 一九五〇年代後半～一九六〇年代〈身体と言葉によって—原爆戯曲〉／第三部「原爆」を抱えて生きる—被爆者の現在を描く 一九七〇年代〈半世紀—原爆文学展に（竹西寛子）／子供たちに… 原爆児童文学〉／第四部 原爆文学の新たな試み—核文学の時代へ 一九八〇年代〈地の群れ〉の思い出（阪本一亀）／アメリカにおける日本の原爆文学（ジョン・W・トリート）／「ヒロシマ・ナガサキ」を原点として—多様な外国文学／部門・作家解説（黒古一夫）／主な出品資料、出品者・協力者／原爆文学年表
40. 『子どもの本の世界展 20世紀から21世紀への贈り物』 2001年4月7日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって／楽しみな21世紀（佐藤さとる）／子供だった時も母であった時も……（佐野洋子）／秘密の切符（江國香織）／世紀とジャンルを越えて（山下洋輔）／第I部「子どもの本の世界」へ扉をひらく 20世紀前半（上笙一郎）〈カラー図版／夢と幻想の童話（上笙一郎）／子どもの日常と童話（上笙一郎）／雑誌の世界 子どもの夢と日常（上笙一郎）／童謡・詩I 童心をうたう（三木卓）〉／第II部「子どもの本の世界」を求めて 20世紀後半（佐藤宗子）〈カラー図版／子どもの日常の物語（佐藤宗子）／もう一つの世界の物語（佐藤宗子）／絵本という王国（司修）／童謡・詩II ことばと音の遊び（三木卓）〉／主な出品資料／出品・協力者／作品年表
41. 『野間宏と戦後派の作家たち展』 2001年10月6日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
収録：開催にあたって／書いてますか（黒井千次）／野間宏—正義の騎士（大庭みな子）

／野間さんの小説—「全体小説」（小田実）／律儀で純真—若き日の島尾敏雄（庄野潤三）／カラー図版／第一部 野間宏の文学世界〈形成と展開／到達と終焉〉／第二部 戦後派の作家たち〈戦争—巨大な蕩尽が遺したもの／前衛—芸術表現のたたかい〉／第三部 野間宏をめぐる人々／解説（紅野謙介）／スポット〈行動派作家の足跡 I／行動は作家の足跡 II／あさって会と戦後派〉／主な出品資料／出品・協力者／野間宏と戦後派—一人年表

- 42.『夏目漱石遺品受贈記念 夏目漱石展—21世紀へのことば—』 2002年4月27日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／漱石—21世紀へのことば（岡松和夫）／漱石の孤独（奥泉光）／もうひとつの vastness（リービ英雄）／カラー図版／プロローグ 漱石山房という空間／一部 漱石山房での日々〈I 朝日新聞への入社／II 漱石山房への転居 「吾輩」の死—漱石山房以前の作品／III 修善寺の大患以後 半生をふりかえる／4 最晩年—絶筆「明暗」〉／二部 漱石山房の人びと〈I 松山、熊本で出会った人びと／II 装幀・挿絵を手がけた画家たち／III 帰国後に教えを受けた人びと／IV 晩年に門をたたいた文学青年たち〉／エピローグ 漱石の書画／解説（石崎等）／21世紀へのことば／略年譜／主な出品資料／出品・協力者

- 43.『生誕—〇〇年記念展 歌びと吉野秀雄』 2002年10月12日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／歌、すなわち人生（道浦母都子）／肝にひびかう書（加藤僊一）／吉野英雄先生のこと（白井欽一）／カラー図版／書と落款印／1 生い立ち／2 歌びとへの道／3 妻を哭する絶唱 文壇を震撼さす／4 悲しみの淵から／5 良寛への傾倒／《コーナー 旅と酒》／6 自在の境地／解説（島田修二／中野孝次）／主な出品資料／出品・協力者／略年譜

- 44.『不滅の^{ヒーロー}剣豪3人展 —鞍馬天狗、眠狂四郎、宮本武蔵』 2003年4月26日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／剣豪は死なず（早乙女貢）／文明への疑惑（鶴見俊輔）／時代小説を変えた！（宮本昌孝）／吉川武蔵について（津本陽）／カラー図版〈鞍馬天狗之巻／眠狂四郎之巻／宮本武蔵之巻〉／鞍馬天狗之巻（早乙女貢）／眠狂四郎之巻（清原康正）／宮本武蔵之巻（縄田一夫）／吉川『武蔵』見参！／吉川『武蔵』に挑む！／主な出品資料／出品・協力者

- 45.『井上靖展 詩と物語の大河 —北国 氷壁 敦煌 しろばんば 孔子—』 2003年10月4日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／最後のひとこと 酸素天幕の井上靖さん（大岡信）／見事な首

尾一貫（宮本輝）／井上作品映画化の思い出（熊井啓）／カラー図版／第一部 作家への歩み 芥川賞受賞まで〈I 生い立ち／II 彷徨の時代／III 雌伏の十年〉第二部 井上文学の世界〈I 詩—「北国」から「星蘭干」まで／II 自伝的小説—「あすなる物語」から「わが母の記」まで／III 現代小説—「鬪牛」から「わだつみ」まで／IV 歴史小説—「漆胡樽」から「孔子」まで／V エッセイ・紀行〉／解説（曾根博義）／主な出品資料／出品・協力者／略年譜（巻末折込）

46. 『21世紀文学の預言者 芥川龍之介展』 2004年4月24日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／下町の芥川龍之介（増田みず子）／ふと現実を離れる瞬間—鵠沼時代の芥川（川本三郎）／「自嘲 水涕や鼻の先だけ暮れのこる」（中田雅敏）／カラー図版／第一部 生い立ち／第二部 文壇デビューから職業作家へ／第三部 苦悩の時代／第四部 晩年・死／解説〈部門解説（宮坂覺）／キリスト教徒の出会いとその深化（宮坂覺）／詩的精神あるいは詩なるもの（宮坂覺）／末期の眼がとらえた聖書、キリスト（宮坂覺）〉／芥川の預言／主な出品資料／出品・協力者／芥川と神奈川ゆかり地図・年表／略年表／家系図

47. 『開館二〇周年記念収蔵コレクション展 作家の筆跡。作家の逸品。』 2004年10月2日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：開催にあたって／収蔵コレクション案内（紀田順一郎）／漱石遺物の思い出（夏目房之助）／“気力”（山内静夫）／川端康成関係の出品資料について（川端香男里）／「暗い絵」執筆のころ（野間光子）／遺品の整理（荻原海一）／続『ぼっぼのお手紙』（鈴木すず）／カラー図版／第一部 明治・大正の作家《〈スポット〉作家の少年・少女時代／《〈スポット〉関東大震災の時作家は？》／第二部 昭和の作家《〈〈スポット〉太平洋戦争と作家》／第三部 詩歌／第四部 児童文学／題五部 時代小説《〈〈スポット〉演劇関連資料／《〈〈スポット〉稀観本・稀観雑誌》／文庫・コレクション一覧／これまでの展覧会

目録

1. 『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録』

1-1. 『尾崎一雄文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 1』 1986年3月28日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会

収録：尾崎一雄文庫目録に寄せて（小田切進）／凡例／特別資料目録〈原稿〔尾崎一雄原稿／諸家原稿〕／書簡〔尾崎一雄書簡／尾崎一雄宛書簡／その他の書簡〕／その他の資料〉／志賀直哉コレクション〈原稿／書簡／著書／書画／写真／雑誌／その他〉／図書目録〈著書／日本近代文学／一般書〉／雑誌目録〈執筆誌〉

- 1-2. 『獅子文六文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 2』 1986年12月13日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：獅子文六文庫について（小田切進）／凡例／自筆資料（原稿／書簡／自筆文書／書画）／図書（著書／日本近代文学／一般書）／その他の資料（雑誌／切抜／印刷物／写真／遺品／その他）
- 1-3. 『大野林火文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 3』 1987年3月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：はじめに／凡例／著書／日本近代文学／一般書（文学／その他）
- 1-4. 『木下杢太郎文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 4』 1988年3月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：はじめに（小田切進）／凡例／特別資料目録（原稿〔木下杢太郎原稿／諸家原稿〕／書簡〔木下杢太郎書簡／木下杢太郎宛書簡／その他の書簡〕／その他の資料〔日記／自筆文書／切抜／印刷物／図書／その他〕） 図書目録（著書／日本近代文学／一般書）／雑誌目録
- 1-5. 『福本和夫文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 5』 1989年3月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：福本和夫文庫について（小田切進）／凡例／特別資料目録（原稿／書簡〔福本和夫書簡／福本和夫宛書簡〕／その他の資料〔自筆文書／書画／切抜／印刷物／写真／遺品／その他〕）／図書目録（著書／日本近代文学／一般書／雑誌）
- 1-6. 『藤森成吉文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 6』 1990年3月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：藤森成吉文庫について（小田切進）／凡例／自筆資料（原稿／書簡／書画）／図書（著書／作品／一般書〔9 文学／0 総記／1 哲学・宗教／2 歴史・地理／3 社会科学／4 自然科学／5 技術・工学・工業／6 産業／7 芸術／8 言語〕）／その他の資料（雑誌／切抜／印刷物／文書／写真／その他）／書名索引
- 1-7. 『高木健夫文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 7』 1992年3月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：高木健夫文庫について（小田切進）／凡例／特別資料目録（新聞切抜〔作品／その他〕／その他の資料〔新聞小説史資料／諸家原稿／諸家書簡／原画／印刷物／その他〕）／図書目録（著書／作品／一般書〔9 文学／0 総記／1 哲学・宗教／2 歴史・地理／3 社会科学／4 自然科学／5 技術・工学・工業／6 産業／7 芸術／8 言語〕）／新聞・雑誌目録（新聞／雑誌）／図書書名索引
- 1-8. 『添田唾蟬坊・知道文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 8』 1994年7月1日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会
収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録（添田唾蟬坊資料〔原稿／自筆資料／書

- ／切抜／印刷物／写真／文書・遺品]／添田知道資料 [添田知道原稿／諸家原稿／自筆資料／書画／切抜／印刷物／写真／文書／遺品]／書簡 [添田唾蟬坊書簡／添田唾蟬坊宛書簡／添田知道書簡／添田知道宛書簡]／図書目録〈著書／作品／一般書 [9 文学／0 総記／1 哲学・宗教／2 歴史・地理／3 社会科学／4 自然科学／5 技術・工学・工業／6 産業／7 芸術／8 言語]〉／新聞・雑誌目録／図書書名索引
- 1-9. 『中川孝収集 実篤文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 9』 1998年4月28日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
- 収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録〈自筆資料 [原稿／書簡／書画／その他]／印刷資料 [執筆切抜／関連切抜／印刷物]／その他の資料 [写真／視聴覚資料／遺品・その他]〉／図書目録〈和書 [著書／日本近代文学／一般書 {9 文学／0 総記／1 哲学・宗教／2 歴史・地理／3 社会科学／4 自然科学／5 技術・工学・工業／6 産業／7 芸術／8 言語}]／外国語図書 [著書／一般書]〉／新聞・雑誌目録〈執筆雑／関連記事〉／図書書名索引
- 1-10. 『中里恒子文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 10』 1999年4月5日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
- 収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録〈自筆資料 [原稿／書簡／書画／手帳／予定表／その他]／印刷資料 [執筆切抜／関連切抜／執筆印刷物／関連印刷物／その他の印刷物]／その他の資料 [写真／視聴覚資料／文書／執筆資料／遺品・その他]〉／図書目録〈和書 [著書／日本近代文学／一般書 {9 文学／0 総記／1 哲学・宗教／2 歴史・地理／3 社会科学／4 自然科学／5 技術・工学・工業／6 産業／7 芸術／8 言語}]／外国語図書〉／雑誌目録／図書書名索引
- 1-11. 『中村光夫文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 11』 2000年7月12日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
- 1-12. 『近藤東文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 12』 2002年3月25日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
- 収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録〈自筆資料 [原稿／書簡／書画／その他]／印刷資料 [執筆切抜／関連切抜／執筆印刷物／関連印刷物／その他の印刷物]／その他の資料 [写真／視聴覚資料／文書]〉／図書目録〈著書／日本近代文学〉／新聞・雑誌目録
- 1-13. 『鈴木三重吉・赤い鳥文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 13』 2003年3月25日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財

団法人神奈川文学振興会

収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録〈自筆資料〔原稿／書簡／書画〕／印刷資料〔執筆切抜／関連切抜／執筆印刷物／関連印刷物／その他の印刷物〕／その他の資料〔視聴覚資料／その他〕〉／図書目録〈著書／日本近代文学／その他〉／新聞・雑誌目録

1-14.『楠本憲吉文庫目録 県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 14』 2005年3月12日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：刊行にあたって／凡例／特別資料目録／図書目録〈著書・作品収録図書／日本近代文学／その他の文学〔文学一般／日本文学（近代文学を除く）／各国の文学〕〉／新聞・雑誌目録

2.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト』

2-1.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1995～1996年度受入』 1997年7月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-2.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1994・1997年度受入』 1998年9月15日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-3.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1993・1998年度受入』 1999年7月15日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-4.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1992・1999年度受入』 2000年7月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-5.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1991・2000年度受入』 2001年7月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-6.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 1990・2001年度受入』 2002年7月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-7.『県立神奈川近代文学館所蔵 特別資料リスト 2002年度受入』 2003年7月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

収録：I 受入先別／II 作家別

2-8.『神奈川近代文学館収蔵特別資料リスト 1983～1989』 2004年7月10日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

3. 『県立神奈川近代文学館収蔵 新聞・雑誌目録 1995年版』 1996年3月25日 編集・発行：財団法人神奈川文学振興会 目次無し

研究誌

1. 『神奈川近代文学年表 1985～1952』 1985年2月14日 編集・発行：(財)神奈川文学振興会 目次無し
2. 『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈明治編〉』 1991年2月15日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：財団法人神奈川文学振興会 製作：神奈川新聞社出版局
収録：はじめに(小田切進)／神奈川近代文学年表《明治編》／地名索引／人名索引／あとがき
3. 『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈大正・昭和前期編〉』 1995年3月25日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会 製作：神奈川新聞社出版局
収録：神奈川近代文学年表〈大正編／昭和前期編〉／地名索引／人名索引

館報

1. 『神奈川近代文学館』
- 1-1. 『神奈川近代文学館』 第1号 1983年7月10日
収録：神奈川近代文学館の構想(小田切進)／館の展示設備(佐佐木朝登)／気軽に訪ねたい(安西篤子)／故郷としての横浜(磯田光一)／追悼尾崎一雄名誉館長(小田切進／青木茂)／立原正秋の原稿(岡松和夫)／獅子先生の創作ノート(高野昭)／館への期待(川添猛)／独自の資料整理基準案まとまる／資料保全設備の全容／図書資料寄贈者名／館の歩み(昭和五十四年九月十日～昭和五十八年五月末)
- 1-2. 『神奈川近代文学館』 第2号 1983年12月5日
収録：随筆〈大倉山公園の図書館(庄野潤三)〉／神奈川と私〈私の卒業証書(野口富士男)〉／神奈川と文学〈魯文と窟螻蟻庵(前田愛)〉／五雲亭貞秀あるいは横浜絵(酒井忠康)〉／神奈川の大衆作家(1)(尾崎秀樹)／寄贈資料紹介〈尾崎一雄文庫(1)〉／資料受入報告／神奈川近代文学振興会役員名簿／館の日誌
- 1-3. 『神奈川近代文学館』 第3号 1984年3月15日
収録：随筆〈らんらんとした目(城山三郎)〉／神奈川とわたし〈むかし横浜(中里恒子)〉／岸田吟香と横浜(巖谷大四)〉／神奈川と文学〈神奈川自由民権運動と透谷(色川大吉)〉／透谷文学の出発点(小沢勝美)〉／神奈川の大衆作家(2)(尾崎秀樹)／寄贈し了承会〈尾崎一雄文庫(2)〉／直哉コレクションなど蔵書について／館の日誌

- 1-4. 『神奈川近代文学館』 第4号 1984年6月10日
収録：随筆〈歌びと（馬場あき子）〉／神奈川とわたし〈鎌倉・川崎の土地っ子（藤田親昌）〉／文学史の実験（磯田光一）／神奈川と「白樺」の人びと（紅野敏郎）／牧野英二と岩越昌三（保昌正夫）／ワーグマンと高橋由一の出会い（青木茂）／尾崎一雄文庫（3） 雑誌コレクションから／国際ペンの代表来館／館の日誌
- 1-5. 『神奈川近代文学館』 第5号 1984年10月10日
収録：神奈川の誇り（小田切進）／開館にあたって（長洲一二）／開館に寄せて〈河口松太郎／稲垣達郎／井上靖／永井龍男／中村光夫／瀬沼茂樹／大岡昇平／藤田圭雄／山本健吉／中里恒子／滑川道夫／遠山茂樹／古沢太穂／和田茂樹／小島寅雄／河合正一／小山弘志／杉本三木雄／庄野潤三／土田直鎮／中野孝次／三好行雄／細郷道一／安西篤子／尾崎秀樹／青木雨彦／島崎緑二〉／開館記念展ア・ラ・カルト
- 1-6. 『神奈川近代文学館』 第6号 1984年12月10日
収録：公立民営で実現（小田切進）／随筆〈谷崎と神奈川（河野多恵子）〉／神奈川とわたし〈神奈川文化雑感（松信泰輔）〉／獅子文六展特集〈豊雄と文六河盛好蔵（河盛好蔵）〉／楽屋の岩田先生（岸田今日子）／滞欧時代の観劇ノート（藤木宏幸）／「獅子展」の観どころ／ゆかりの図書コーナー『福田正夫全詩集』のこと（福田美鈴）／神奈川の作家の肖像—『鎌倉案内』ほか（金子昌夫）／受贈資料紹介
- 1-7. 『神奈川近代文学館』 第7号 1985年2月25日
収録：随想〈東と西（阿部昭）〉／神奈川とわたし〈文学者と郷土色（松崎鉄之介）〉／文学館を訪ねて（飯澤匡／脇坂茂樹／大森黎／岩田幸子／中村文也）／所蔵資料紹介〈神西清ノート（中村真一郎）〉／神奈川と文学〈明治の山手（小玉晃一）〉／高木文庫の寄贈をよろこぶ（青木雨彦）／所蔵資料紹介〈独歩未発表書簡〉
- 1-8. 『神奈川近代文学館』 第8号 1985年4月25日
収録：随想〈武者小路さんの『ある青年の夢』（草野心平）〉／神奈川とわたし〈鎌倉・大船の合併（三谷光雄）〉／文学館を訪ねて（川西政明／斎藤五郎／谷崎昭男／鈴木隆）／武者小路実篤と白樺美術展特集〈先駆者としての武者小路実篤（中野孝次）〉／美術と文学者（黒井千次）／岸田劉生の鵠沼時代と「白樺」（匠秀夫）／展覧会場から
- 1-9. 『神奈川近代文学館』 第9号 1985年8月5日
収録：随想〈鷗外・茂吉・柰太郎（加藤周一）〉／神奈川とわたし〈文学の航跡（野上義一）〉／所蔵資料紹介〈木下柰太郎文庫（富士川英郎）〉／木下目太郎展特集〈贅言木下柰太郎（稲垣達郎）〉／窓の外の入日雲（平川祐弘）／恩師 木下柰太郎先生（小堀杏奴）／高見順展特集〈高見順展の構想（中村真一郎）〉／機転ある処置（渋川驍）／書物への“愛”（吉原幸子）／柰太郎・高見展会場から
- 1-10. 『神奈川近代文学館』 第10号 1985年10月15日
収録：随想〈木下柰太郎展を見て（加賀乙彦）〉／神奈川とわたし〈ふるさと鎌倉（川

- 端香男里) / 文学館を訪ねて (海老原光義 / 中西道子 / 小坂三郎 / 磯野祥子) / 日本の子どもの文学展特集〈創意をこめた構想 (関英雄) / 女性と児童文学と (上笙一郎) / 神奈川と子どもの文学 (長崎源之助)〉 / 展覧会場から / 資料受入報告・県内の動き
- 1-11. 『神奈川近代文学館』 第 11 号 1986 年 1 月 5 日
収録: 随想〈雑誌「プロ芸」のこと (本多秋五) / 人の暮し (田村隆一)〉 / 文学館を訪ねて〈去りがたい思い (大原富枝) / 高見順展を観て (山内静夫)〉 / 追悼〈川崎長太郎一匿名批評の頃 (渋川驍) / 和田傳一「沃土」のこと (小澤彰)〉 / 所蔵資料紹介〈「痴人の愛」の原稿 (千葉俊二)〉 / 牧野信一展特集〈古さと新しさと (磯田光一) / 牧野信一展へのノート (保昌正夫) / 牧野信一と小田原図書館〉 / 資料受入報告・県内の動き
- 1-12. 『神奈川近代文学館』 第 12 号 1986 年 4 月 1 日
収録: 尾崎一雄展特集〈尾崎一雄展開催によせて (永井龍男 / 丹羽文雄 / 円地文子 / 山本健吉 / 藤枝静男 / 本多秋五 / 大岡昇平 / 安岡章太郎 / 紅野敏郎 / 中野孝次)〉 / 尾崎一雄と江戸文学 (稲垣達郎) / 豪華な目録 (小田切進) / 文学館を訪ねて〈信一と一平 (池内紀)〉 / 神奈川とわたし〈あの野の光 (春名徹) / 《館の文庫紹介》
- 1-13. 『神奈川近代文学館』 第 13 号 1986 年 7 月 25 日
収録: 《赤い鳥》の森展特集〈不死鳥の「赤い鳥」 (与田準一) / 展覧会開催に寄せて (福田清人 / 藤田圭雄 / 滑川道夫 / 福井研介 / 山本太郎 / 松谷みよ子) / その画期的意義 (関英雄) / 三重吉と「赤い鳥」 (桑原三郎) / 「赤い鳥」の現代性 (鳥越信)〉 / 稀有な目録 (大橋健三郎) / 受贈資料紹介 / 福本和夫文庫紹介 / 横浜に新しい名所が誕生 / 尾崎一雄展盛況裡に終わる
- 1-14. 『神奈川近代文学館』 第 14 号 1986 年 10 月 25 日
収録: 大衆文学展特集〈神奈川ならではの (井上靖) / わたしたちの夢 (村上元三) / 大衆文学と現代 (瀬沼茂樹) / 明治の「家庭小説」のヒロイン (中村真一郎) / 鞍馬天狗 (小松伸六) / わたしの好きな大衆文学作品 (アンケート) / 大衆文学展にあたって (尾崎秀樹) / 神奈川とわたし〈二つの港町と松竹大船 (鈴木和年)〉 / 福本和夫文庫紹介 (2) / 受贈資料紹介 / 県内の動き
- 1-15. 『神奈川近代文学館』 第 15 号 1987 年 1 月 5 日
収録: 随想〈横浜の文化的感覚 (中里恒子) / 近代文学館のある町 (益田義信)〉 / 神奈川と私〈私の神奈川 (宮原昭夫)〉 / 文学館を訪ねて〈大衆文学展を見て (戸川幸夫) / 感無量の展観 (平井隆太郎)〉 / ゆかりの図書コーナー (加藤衛 / 祖父江昭二) / 所蔵資料紹介〈「蜘蛛の糸」の原稿 (三好行雄)〉 / 那須辰造文庫紹介 / 受贈資料紹介・県内の動き
- 1-16. 『神奈川近代文学館』 第 16 号 1987 年 4 月 1 日
収録: 川端康成特集〈川端文学のめざしたもの (山本健吉) / 川端さんのこと (佐多

稲子) / 川端文学の魅力 (瀬沼茂樹) / 川端康成と現代・未来 (長谷川泉) / 世界のなかの川端文学 (川端香男里) / 神奈川と川端康成 (平山城児) / わたしの好きな川端作品 (アンケート) / 追悼・磯田光一理事 (大きな柱だった (小田切進)) / 受贈資料紹介 / 県内の動き

1-17. 『神奈川近代文学館』 第17号 1987年7月1日

収録: 堀口大學特集 (『月下の一群』 (河盛好蔵) / 装幀、挿絵本について (関野準一郎) / 葉山の堀口先生 (團伊玖磨) / 近代の詩語の根 (安藤元雄) / 先生のお言葉から (高田敏子) / 耳の詩 (飯島耕一) / 明光照らす (江森國友) / ライト・ヴァース (丸谷才一)) / 神奈川とわたし (文学と志 横浜と小田原 (内田四方蔵)) / 文学館を訪ねて (絵になる光景 (武者小路辰子) / 川端康成展を観て (宮坂覺) / 高木健夫文庫紹介

1-18. 『神奈川近代文学館』 第18号 1987年10月15日

収録: 夏目漱石展特集 (漱石の書画 (瀬沼茂樹) / 漱石と現在 (三好行雄) / 漱石と鎌倉 (大岡昇平) / 漱石と神奈川二題 (石崎等) / 漱石と出会う (杉本苑子・三田誠広・三浦雅士) / 漱石と禅 (井上禅定)) / 館を訪ねて (牧羊子 / 川口朗) / 神奈川とわたし (新しい歌枕の宝 (島田修二)) / 所蔵資料紹介 (実篤研究の宝庫 (大津山国夫) / 追悼・前田愛理事 (意欲的な推進者 (小田切進))

1-19. 『神奈川近代文学館』 第19号 1988年1月15日

収録: 三浦半島の風土と抒情展特集 (記憶と断絶 (永井路子) / 三浦半島と北原白秋 (佐佐木幸綱) / 白秋と三崎を結んだ人 (野上義一) / 三浦半島の詩界 (長島三芳) / 明治の逗子 (小玉晃一) / 牧水、三浦半島の「時」 (小山文雄) / 横須賀とわたし (川崎洋)) / 文学館を訪ねて (漱石展を見る (村上光彦) / 現代の高校生気質に (平塚敬一)) / 神奈川とわたし (奇妙な安心感 (村上流)) / 添田唾蟬坊・知道文庫紹介

1-20. 『神奈川近代文学館』 第20号 1988年4月15日

収録: 太宰治展特集 (なぜ今日、太宰治展か (奥野健男) / 新風土記叢書『津軽』について (相馬正一) / 恋と革命 (矢代静一) / 「人間失格」について (野原一夫) / 「斜陽」「人間失格」 (増田みず子) / 「走れメロス」について (中沢けい)) / 文学館を訪ねて (きめ細かな展示 (槌田満文) / 三浦半島展を見て (鈴木幸子) / 添田唾蟬坊・知道文庫紹介 / 受贈資料紹介 / 県内の動き

1-21. 『神奈川近代文学館』 第21号 1988年7月15日

収録: 神奈川県文学散歩展特集 (湘南の光と影一友ありて一 (小山文雄) / ふるさとは海岸 (菊村到) / 東家と《鶴沼文人村》 / 辻堂桜花園通り (山田宗睦) / 展覧会場から) / 尽きない興味—『木下杢太郎文庫目録』によせて— (新田義之) / 神奈川とわたし (横浜駅東口界限 (郷静子)) / 所蔵資料紹介 (戦後新劇史の基本資料 (藤木博之)) / 図書・資料受入報告 / 県内の動き・館日誌

1-22. 『神奈川近代文学館』 第22号 1988年10月15日

収録：堀辰雄展特集〈全体の構成（中村真一郎）／「驢馬」の頃の堀辰雄（佐多稲子）／「雪の上の足跡」について（佐佐木基一）／美しい言葉の魅力（小久保実）／三つの窓（鈴木貞美）／「曠野」について（池澤夏樹）／病床の日々（堀多恵子）／館を訪ねて（鈴木俊子／国松春紀）／神奈川とわたし〈かながわとの縁（山中恒）／高橋和巳関係資料について（川西政明）／追悼・中村光夫常務理事（小田切進）／県内の動き・館日誌

1-23. 『神奈川近代文学館』 第23号 1989年1月15日

収録：新しい博物館・美術館（栗津潔）／神奈川とわたし〈海への思い（尾崎左永子）／文学館を訪ねて〈海に見える文学館（杉山平一）／堀辰雄と折口先生（岩城希伊子）／若い感性を磨くために（島田一）／武井武雄先生のお墓（飯沢匡）／所蔵資料紹介〈虫食いのある証文（中島国彦）／館の文庫紹介〈中西鳥学の基盤（大悟法進）／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-24. 『神奈川近代文学館』 第24号 1989年4月15日

収録：中里恒子特集〈持続と言うこと（竹西寛子）／美德と奔放（高橋英夫）／中里さんと私（宇野千代）／中里さんの詩心（阿部昭）／私小説的素材と物語の発想のあいだ（三枝和子）／美しい晩年（古屋健三）／文学館を訪ねて〈我がフランス山讃歌（ゆりはじめ）／メディアを読む場所（川崎賢子）／神奈川とわたし〈横浜の下町（北村太郎）／館の文庫紹介〈近藤東文庫の一瞥（伊藤信吉）／県内の動き・館日誌

1-25. 『神奈川近代文学館』 第25号 1989年7月15日

収録：《横浜—文学の港》展特集〈ヨコハマの暗と明（内田四方蔵）／『海港』ありき（山田今次）／思い出の俳人たち（古沢太穂）／ヘボンとヨコハマ（高谷道男）／ハマッ子作家と海（青木雨彦）／水の匂い（岡松和夫）／なつかしい風（生島治郎）／貴重資料ずらり—『福本和夫文庫目録』によせて—（内海庫一郎）／神奈川とわたし〈横浜に生れて（野澤節子）／館の文庫紹介〈二葉亭コレクション—中村光男文庫について—（十川信介）／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-26. 『神奈川近代文学館』 第26号 1989年10月15日

収録：吉川英治展特集〈横浜での展覧に寄せて（尾崎秀樹）／かがみ御巫（杉本苑子）／吉川英治先生の絵（杉本健吉）／吉川英治先生の伝奇小説と維新もの（早乙女貢）／「新・平家」の結び（扇谷正造）／「私本太平記」の誕生（松本昭）／あべこべ乗車券（吉川文子）／文学館を訪ねて〈豊かな資料に魅せられて（竹本員子）／横浜の文学館を見に（伊藤完吾）／神奈川とわたし〈私の原風景としてのハマ（八木義徳）／所蔵資料紹介〈北林透馬資料瞥見（石井光太郎）

1-27. 『神奈川近代文学館』 第27号 1990年1月15日

収録：粋な日本人代表（埴谷雄高）／堀辰雄の洋書のこと（中村真一郎）／神奈川と

わたし〈夢の国とは（山本道子）〉／文学館を訪ねて〈中里恒子展を観て（岡畏三郎）／横浜偶感（長谷川權）／柵目のむこうに（佐藤宗子）〉／山梨県立文学館の開館にあたって（三好行雄）／所蔵資料紹介〈高野鷹藏旧蔵書その他（近藤信行）／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-28. 『神奈川近代文学館』 第28号 1990年4月15日

収録：有島武郎・有島生馬・里見弴展特集〈因縁（本多秋五）／志賀直哉と里見弴（阿川弘之）／「一房の葡萄」寸見（山田昭夫）／有島武郎とアメリカ（小玉晃一）／眼の人、有島生馬（酒井忠康）／「或る女」・「海の夫人」（江種満子）／有島展の構成（紅野敏郎）〉／文学館を訪ねて〈近代文学と神奈川店を見る（鈴木健次）／憧憬と悔恨と（篠崎禮子）〉／神奈川とわたし〈第二の故郷（鷹羽狩行）〉／所蔵資料紹介〈邦枝完二・子母澤寛の資料（清原康正）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-29. 『神奈川近代文学館』 第29号 1990年7月15日

収録：ドキュメント昭和の文学展特集〈文学青年だった時期（小島信夫）／思い出のなかの昭和文学（佐伯彰一）／体験という支配者（林京子）／証言（澤地久枝）／放送での作家（三國一朗）／昭和の文学の底力（川西政明）／思想形成をたどる資料『藤森文庫目録』によせて（浦西和彦）〉／神奈川とわたし〈三界に家なし（小島直記）〉／所蔵資料紹介〈西脇順三郎の晩年の詩稿（新倉俊一）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-30. 『神奈川近代文学館』 第30号 1990年10月15日

収録：小田原・真鶴・湯河原展特集〈山嶺の気（小田切秀雄）／福田正夫と「民衆」（永田東一郎）／小田原好日（北條秀司）／白秋の小田原生活（島田修二）／小田原の牧野信一（保昌正夫）／会えなかった先輩たち（藤田湘子）／二人の作家（八木義徳）／文学と小田原、真鶴、湯河原（石井富之助）〉／神奈川とわたし〈夏の終り（秋元松代）／文学館を訪ねて〈遠慮なき回想（野呂芳男）／最高に良い日（佐藤文代）〉／所蔵資料紹介〈北原武夫 流行作家時代の原稿など（坂上弘）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-31. 『神奈川近代文学館』 第31号 1991年1月15日

収録：第一書房の本（富士川英郎）／男と女の回想録（津村節子）／神奈川とわたし〈マダム篠田の家（赤塚行雄）〉／文学館を訪ねて〈セットされた雰囲気（高橋春雄）／山手界限（平林敏彦）／海辺のきらめき展を観て（中村嘉子）〉／館の文庫紹介〈楠本憲吉さんの思い出（清崎敏郎）〉／所蔵資料紹介〈北村初雄宛書簡を読む（江森國友）〉

1-32. 『神奈川近代文学館』 第32号 1991年4月15日

収録：山本周五郎展特集〈生きることを好きにさせる力（辻邦生）／山本周五郎文学の発見（奥野健男）／周五郎の短篇の魅力（伊藤桂一）／たとえば人生派（藤沢周平）／山本周五郎先生と私（佐多芳郎）／周五郎展の構成について（木村久邇典）〉／井上

靖常務理事追悼（小田切進）／神奈川とわたし〈いい街との出会い（有馬真喜子）〉／所蔵資料紹介〈塩長五郎の蔵書（林茂夫）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-33. 『神奈川近代文学館』 第33号 1991年7月15日

収録：神奈川文学散歩展特集〈誇り（瀬戸内寂聴）／猫弓のこと（永瀬清子）／「夕べの雲」の一家（庄野潤三）／多摩川散策（飯田善國）／「川崎百人一首」のこと（馬場あき子）／南部川崎と文学（入谷清久）／多摩川のアダムとイヴ（島田雅彦）／多摩丘陵と文学（池内輝雄）〉／「文学者たちの神奈川」を読む（紀田順一郎）／神奈川とわたし〈湘南と「青鞥」の女性たち（堀場清子）〉／所蔵資料紹介〈井上光二旧蔵書について（井上輝夫）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-34. 『神奈川近代文学館』 第34号 1991年10月15日

収録：日本の詩歌展特集〈二十代の空穂（窪田章一郎）／「寒雷」の出発（加藤楸邨）／「新歌人集団」の発足（近藤芳美）／去年今年貫く棒の如きもの 高浜虚子（飯田龍太）／歌集命名由来（塚本邦雄）／詩に出会ったころ（中村稔）／好みと影響（谷川俊太郎）／詩歌をその全体で見る意味（大岡信）〉／神奈川とわたし〈第二の故郷・横浜（三好徹）／文学館を訪ねて〈山本周五郎展を観て（窪田篤人）／豊饒な流れの底に（佃陽子）〉／所蔵資料紹介〈小林多喜二の遺稿など（栗原幸夫）〉／受贈資料紹介・県内の動き・館日誌

1-35. 『神奈川近代文学館』 第35号 1992年1月15日

収録：随想〈書庫雑談（陳舜臣）／中原中也の一異文（吉田熙生）〉／神奈川とわたし〈揺りかごから墓場まで（荻野アンナ）〉／文学館を訪ねて〈日本の詩歌展を観て（倉橋羊村）／そいそいと動かして（角野栄子）／かもめの便り〈三崎白秋会（野上飛雲）〉／館の文庫紹介〈鎮魂の地に一中島敦資料（田鍋幸信）〉／所蔵資料紹介〈村井弦斎関係資料（大塚豊子）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-36. 『神奈川近代文学館』 第36号 1992年4月15日

収録：生誕一〇〇年 芥川龍之介展特集〈新しい芥川像一本展の構想について（中村真一郎）／芥川龍之介の想出（加藤周一）／「神々の微笑」（遠藤周作）／ある感慨をこめて（芥川瑠璃子）／芥川のなかのフランス文学（辻邦生）／森鷗外と芥川龍之介（秋山駿）／「理想の弟子」から…（高橋英夫）／芥川研究の新しき地平に（宮坂覺）／芥川と映画（川本三郎）／前門の芥川、後門の龍之介（荻野アンナ）〉／神奈川とわたし〈葉山に住んで四十年（堀口すみれ子）〉／かもめの便り〈鎌倉漱石の会（内田朝子）〉／所蔵資料紹介〈生田長江資料（谷崎昭男）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-37. 『神奈川近代文学館』 第37号 1992年7月15日

収録：随想〈古書店への感謝（三木卓）／いとしく、そして嫉ましく（新川和江）〉／文学館を訪ねて〈深淵の感覚（阿部良雄）／十七歳の感動（松永琅枝）〉／神奈川とわ

たし〈出会えた人たち（福田美鈴）／新聞小説史と高木さん 『高木健夫文庫目録』に寄せて（林亮勝）／所蔵資料紹介〈森林太郎「クライスト集中に見えたる奇怪なる決闘の話」翻刻（長谷川泉）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-38. 『神奈川近代文学館』 第38号 1992年10月15日

収録：没後五〇年 中島敦展特集〈李陵碑の伝説（駒田信二）／想像力と詩的対象と（辻邦生）／三作の脚色（矢代静一）／おかしみと形而上性（竹西寛子）／多面の才の人（菅野昭正）／横浜が横浜であった時代（勝又浩）／展覧会の編集にそえて（田鍋幸信）〉／神奈川とわたし〈鎌倉（草間時彦）〉／かもめの便り〈中島敦の会（田沼智明）〉／所蔵資料紹介〈「多情佛心」の“コピー”原稿（江種満子）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-39. 『神奈川近代文学館』 第39号 1993年1月15日

収録：随想〈振り返れば、未来（木村尚三郎）／本との関係（加藤幸子）〉／神奈川とわたし〈藤野の山里（今西祐行）〉／かもめの便り〈横浜文芸懇話会（内田四方蔵）〉／所蔵資料紹介〈添田知道「空襲下日記」（鹿野政直）〉／館の文庫紹介〈長篠康一郎収集太宰治文庫（関井光男）〉／受贈資料報告／県内の動き・館日誌

1-40. 『神奈川近代文学館』 第40号 1993年4月15日

収録：就任のことば（中野孝次）／特集 小田切進理事長追悼〈寸言（本多秋五）／元立教同僚の記憶から（松崎仁）／長安 空し（長洲一二）／ある日、館長室で（永井路子）／最後の御葉書（野上義一）／弔辞（中野孝次）〉／神奈川とわたし〈ふたつの場所（加島祥造）〉／かもめの便り〈湘東文庫（鈴木英夫）〉／大磯文学散歩の楽しみ（小泉浩一郎）／所蔵資料紹介〈蘭郁二郎資料（會津信吾）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-41. 『神奈川近代文学館』 第41号 1993年7月15日

収録：湘南の文学と美術展特集〈近代が動く—湘南と文士たち（小山文雄）／湘南を描いた画家たち（匠秀夫）／鎌倉の文士たち（村上光彦）／木下利玄の歌集（紅野敏郎）〉／福田正夫生誕百年によせて〈思い出の片影（伊藤信吉）〉／所蔵資料紹介〈春夫あて潤一郎書簡（千葉俊二）〉／受贈資料報告／県内の動き・館日誌

1-42. 『神奈川近代文学館』 第42号 1993年10月15日

収録：随想〈楸邨先生追想（古沢太穂）／義秀記念館と義秀賞（安西篤子）〉／神奈川とわたし〈横浜と鎌倉（岡松和夫）〉／かもめの便り〈夏目漱石と徳富蘇峰（高野静子）〉／横須賀・葉山・逗子文学散歩によせて（堀口すみれ子）／所蔵資料紹介〈鷗外新資料（竹盛天雄）／近藤東文庫の雑誌から（中島可一郎）〉／受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-43. 『神奈川近代文学館』 第43号 1994年1月15日

収録：新春随想（中野孝次）／随想〈風の声（辻井喬）〉／葛原妙子の処女歌集改編（馬

場あき子) / 神奈川とわたし〈幻景の本牧(菅野昭正) / 湘南の文学と美術展を観て(東環樹) / 北村透谷没後百年によせて〈隠れたる透谷(富岡幸一郎) / 文学散歩〈下曾我行(小山文雄) / 所蔵資料紹介〈野間真綱宛漱石書簡(伊豆利彦) / 受贈資料報告・県内の動き・館日誌

1-44. 『神奈川近代文学館』 第44号 1994年4月15日

収録：西脇順三郎展特集〈詩碑の近くに住んで(入沢康夫) / 出品資料から / こういう風に描けるとは(海上雅臣) / 連載随筆1〈エピソード一つ(八木義徳) / 神奈川とわたし〈明治の痕跡(紀田順一郎) / 県内の同人誌1〈「潮音」の歩み(太田絢子) / この一冊 / 所蔵資料紹介〈内田百閒資料(内田道雄) / 図書資料受入報告・閲覧室から・県内の動き・朝夕抄録

1-45. 『神奈川近代文学館』 第45号 1994年7月15日

収録：随筆〈さまよう(大庭みな子) / 連載随筆2〈義秀さんの一喝(八木義徳) / 神奈川とわたし〈片瀬の蜃気楼(佐江衆一) / 県内の同人誌2〈「鹿火屋」の歩み(原裕) / この一冊 / 所蔵資料紹介〈宮嶋資夫と「坑夫」(黒古一夫) / 図書資料受入れ報告 / 機能面さらに充実——増築部紹介 / 常設展のみどころ2・閲覧室から / 県内の動き・朝夕抄録

1-46. 『神奈川近代文学館』 第46号 1994年10月15日

収録：開館十周年にあたって〈ローカル・カラーを超えて(岡松和夫) / 開館十周年に寄せて(中村真一郎) / 貴重な資料の数々 / 連載随筆3〈吉行淳之介君を悼む(八木義徳) / 神奈川とわたし〈引越しのたまもの(中藺英助) / 県内の同人誌3〈「濱」(下田稔) / この一冊 / 所蔵資料紹介〈横光利一原稿五編(保昌正夫) / 図書・資料受入れ報告 / 常設展のみどころ3・閲覧室から / 県内の動き・朝夕抄録

1-47. 『神奈川近代文学館』 第47号 1995年1月15日

収録：新春随想(中野孝次) / 随想〈漱石が歩いた道(山本道子) / 神奈川とわたし〈一体どこの人間か(高橋治) / 県内の同人誌4〈「歌と評論」(三馬昭一) / この一冊 / 『添田唾二坊・知道文庫目録』刊行によせて 演歌について(加太こうじ) / 所蔵資料紹介〈幸徳秋水宛斎藤緑雨書簡(十川信介) / 図書・資料受入れ報告 / 資料保存この十年 / 常設展のみどころ4・閲覧室から / 県内の動き・朝夕抄録

1-48. 『神奈川近代文学館』 第48号 1995年4月15日

収録：泉鏡花特集〈パリで読んだ鏡花(津島佑子) / 出品資料から / 泉鏡花の《新しさ》について(松村友視) / 鎌倉の文人たち 一〈里見弴先生 多情薄情(瀬戸内寂聴) / 神奈川とわたし〈ヨコハマ夢譚(笠原淳) / 県内の同人誌5〈「相模野」(片野静雄) / この一冊 / 所蔵資料紹介〈中野重治書簡六百五十三通(林淑美) / 図書・資料受入れ報告 / 常設展のみどころ5・閲覧室から / 県内の動き・朝夕抄録

1-49. 『神奈川近代文学館』 第49号 1995年7月15日

収録：随想〈嘘について（天沢退二郎）〉／鎌倉の文人たち 二〈吉屋信子さん こよなく女らしい人（瀬戸内寂聴）〉／阪神大震災に遭遇して（畑幸雄）／神奈川とわたし〈高校時代（山本昌代）〉／県内の同人誌 6〈「駒草」（蓬田紀枝子）〉／この一冊／所蔵資料紹介〈斎藤清衛宛前田夕暮書簡（山田吉郎）〉／図書・資料受入れ報告／常設展のみどころ 6・閲覧室から／県内の動き・朝夕抄録

1-50. 『神奈川近代文学館』 第 50 号 1995 年 10 月 15 日

収録：神奈川文学散歩展・鎌倉特集〈「門」の周辺（永井路子）〉／鎌倉の文人たち 三〈川端康成先生① 朱泥の徳利（瀬戸内寂聴）〉／『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈大正・昭和前期編〉』を読む（山田宗睦）／「神奈川近代文学館」一～五十号主要目次／神奈川とわたし〈青春を支えてくれた第二の故郷（斎藤栄）〉／県内の同人誌 7〈「遠つびと」（関口満津子）〉／この一冊／所蔵資料紹介〈田中直樹氏寄贈「文学界」創刊関係資料（郡司勝義）〉／図書資料受入れ報告・常設展のみどころ 7／閲覧室から・県内の動き・朝夕抄録

1-51. 『神奈川近代文学館』 第 51 号 1996 年 1 月 15 日

収録：年の初めに思う（中野孝次）／鎌倉の文人たち 四〈川端康成先生② ノーベル賞の日（瀬戸内寂聴）〉／ヨーロッパの電子出版（紀田順一郎）／神奈川とわたし〈僕にとって神奈川県とは（寺田透）〉／県内の同人誌 8〈「醍醐」（浜田蝶二郎）〉／この一冊・レプリカ製作について／友の会・鎌倉文学散歩報告／所蔵資料紹介〈森川義信宛鮎川信夫、中桐雅夫書簡（牟礼慶子）〉／図書資料受入れ報告・常設展のみどころ 8／閲覧室から・県内の動き・朝夕抄録

1-52. 『神奈川近代文学館』 第 52 号 1996 年 4 月 15 日

収録：神奈川文学散歩展 箱根・県央特集〈舞台になりにくい土地だが（古山高麗雄）〉／箱根仙石原の折口信夫（岡野弘彦）／出品資料から〉／鎌倉の文人たち II（一）〈非凡なエッセイ（秋山駿）〉／神奈川とわたし〈故郷三つ（佐藤さとる）〉／県内の同人誌 9〈「日本未来派」（西岡光秋）〉／この一冊／所蔵資料紹介〈広津和郎の松川裁判関係資料（坂本育雄）〉／資料受贈報告・常設展のみどころ 9／閲覧室から・県内の動き・朝夕抄録

1-53. 『神奈川近代文学館』 第 53 号 1996 年 7 月 15 日

収録：新展示「戦後の文学」特集〈「戦後の文学—新世代の登場まで」展に寄せて（川西政明）〉／「絵合せ」を読む（庄野潤三）／鎌倉の文人たち II（二）〈中原中也 冥府の色（秋山駿）〉／神奈川とわたし〈鉄橋を渡る（竹西寛子）〉／県内の同人誌 10〈「掌」（志崎純）〉／この一冊／所蔵資料紹介〈稲垣足穂『一千一秒物語』草稿を読む（高橋康雄）〉／資料受贈報告・受入済資料・閲覧室／県内の動き・これからの催し・朝夕抄録

1-54. 『神奈川近代文学館』 第 54 号 1996 年 10 月 15 日

収録：大岡昇平展特集〈大岡文学の本質（中野孝次）／出品資料から／文士中の文士（大久保房男）／鎌倉の文人たち II（三）〈小林秀雄 未刊の「感想」のこと（秋山駿）〉／神奈川とわたし〈川のある風景（小林久三）〉／県内の同人誌 11〈「末黒野」（青木重行）〉／所蔵資料紹介〈横山健堂資料にふれて（平岡敏夫）〉／資料受贈報告・受入済資料・閲覧室／県内の動き・朝夕抄録

1-55. 『神奈川近代文学館』 第 55 号 1997 年 1 月 15 日

収録：横浜の顔、日本の顔（中野孝次）／随想〈長谷川伸と新鷹会（村上元三）〉／出品資料から／「文学界」復刻と井伏さん（古山登）／鎌倉の文人たち II（四）〈国木田独歩 明治の覇気（秋山駿）〉／神奈川とわたし〈山里から港町へ（西木正明）〉／県内の同人誌 12〈戸塚駅乗降者俳句会会報（八木莊一）〉／所蔵資料紹介〈井上光晴の草稿、ノート（ゆりはじめ）〉／資料受贈報告・受入済資料・閲覧室／県内の動き・朝夕抄録

1-56. 『神奈川近代文学館』 第 56 号 1997 年 4 月 15 日

収録：海の人（秦恒平）／東ヶ谷山房綴（立原光代）／ファインダー／連載随筆 1 神奈川の中の上州人〈詩人 高橋元吉（伊藤信吉）〉／神奈川とわたし〈文字の開眼（東郷隆）〉／県内の同人誌〈「玉藻」（星野高士）〉／所蔵資料紹介〈小巻豆城氏旧蔵資料とその思い出（古沢太穂）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-57. 『神奈川近代文学館』 第 57 号 1997 年 7 月 15 日

収録：与謝野晶子と「横天貿易新報」（赤塚行雄）／戦時下の荷風（川本三郎）／ファインダー／連載随筆 2 神奈川の中の上州人〈作家 佐藤緑葉（伊藤信吉）〉／神奈川とわたし〈あの日掲げた灯を（篠原あや）〉／県内の同人誌 14〈あざみ（河野薫）〉／所蔵資料紹介〈矢代幸雄資料によせて（山梨絵美子）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-58. 『神奈川近代文学館』 第 58 号 1997 年 10 月 15 日

収録：「文学の挿絵と装幀展」にかかわって（槌田満文）／挿絵の愉しみ（久世光彦）／ファインダー／連載随筆 3 神奈川の中の上州人〈歌人 田中辰雄（伊藤信吉）〉／神奈川とわたし〈江ノ島改造思案（辻原登）〉／県内の同人誌 15〈青虹（石井徹）〉／所蔵資料紹介〈大岡昇平「野火」原稿発見（樋口覚）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-59. 『神奈川近代文学館』 第 59 号 1998 年 1 月 15 日

収録：みねとしげと鷗外（森まゆみ）／神西さんと堀さん（中村真一郎）／ファインダー／連載随筆 4 神奈川の中の上州人〈詩人 大手拓次（伊藤信吉）〉／神奈川とわたし〈私の横須賀（長島三芳）〉／県内の同人誌 16〈川柳「路」（関水華）〉／所蔵資料紹介〈藤田圭雄文庫「手紙の思い出」（藤田圭雄）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入

済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-60. 『神奈川近代文学館』 第60号 1998年4月15日

収録：ユニークな三代の作家展（橋本迪夫）／麻薬的快感（村松友視）／ファインダー／連載随筆1 5、60年代の交友録から〈安部公房のこと（中園英助）〉／神奈川とわたし〈至福の子ども時代（のごく一端）（保坂和志）〉／県内の同人誌17〈「山河」（加藤あきと）〉／所蔵資料紹介〈芥川龍之介の小島政二郎宛書簡（宮坂覺）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-61. 『神奈川近代文学館』 第61号 1998年7月15日

収録：中村真一郎さんの処女翻訳（入沢康夫）／ヘボン先生、バード女史、それに伊藤という無名の青年（関川真央）／ファインダー／連載随筆2 5、60年代の交友録から〈敏雄と四郎（中園英助）〉／神奈川とわたし〈秋谷の海（水橋晋）〉／県内の同人誌18〈水脈（村山清二）〉／所蔵資料紹介〈中川孝収集実篤文庫目録（西垣勤）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-62. 『神奈川近代文学館』 第62号 1998年10月15日

収録：三十年ぶりの谷崎潤一郎（野口武彦）／エゴイズムの魅力（山崎洋子）／ファインダー／連載随筆3 5、60年代の交友録から〈泰淳と健（中園英助）〉／神奈川とわたし〈五十四年間（山田太一）〉／県内の同人誌19〈道標（徳安通敬）〉／所蔵資料紹介〈花田清輝の肉筆原稿の寄贈について（古林尚）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-63. 『神奈川近代文学館』 第63号 1999年1月15日

収録：「近藤東文庫」展のあとに（金子秀夫）／海洋族の世界人（夏堀正元）／ファインダー／連載随筆4 5、60年代の交友録から〈大江健三郎（中園英助）〉／神奈川とわたし〈思い出あれこれ（内山登美子）〉／県内の同人誌20〈京浜詩脈（佐藤富美雄）〉／所蔵資料紹介〈三重吉と「赤い鳥」、その表と裏（佐藤宗子）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-64. 『神奈川近代文学館』 第64号 1999年4月15日

収録：厳粛な別れ道（青野聰）／開高健と戦争（川西政明）／ファインダー／連載随筆1 逝ってしまった先達たち〈その年の思い出（大庭みな子）〉／神奈川とわたし〈横浜ハードボイルド（北方謙三）〉／県内の同人誌21〈銀貨（日向野花郷）〉／所蔵資料紹介〈佐多芳郎の世界（渡辺圭二）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-65. 『神奈川近代文学館』 第65号 1999年7月15日

収録：投稿少年から文士まで（猪瀬直樹）／昔噺から聖書まで（長部日出雄）／ファインダー／連載随筆2 逝ってしまった先達たち〈早春の雨（大庭みな子）〉／神奈川とわたし〈遙かな港（浅田次郎）〉／県内の同人誌22〈市民短歌（大伴道夫）〉／所蔵

資料紹介『中里恒子文庫目録』に寄せて（西永達夫）／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-66. 『神奈川近代文学館』 第66号 1999年10月15日

収録：昂揚と沈潜と（竹盛天雄）／荷風を憶う（近藤富枝）／ファインダー／連載随筆3 逝ってしまった先達たち〈半世紀（大庭みな子）〉／神奈川とわたし〈新鮮な地（上坂高生）〉／県内の同人誌23〈象（篠原あや）〉／所蔵資料紹介〈「漱石の遺品」の記者発表とこれから（保昌正夫）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-67. 『神奈川近代文学館』 第67号 2000年1月15日

収録：風葉とまわりの人々（小中陽太郎）／尾崎さんに惹かれて（高橋英夫）／ファインダー／連載随筆4 逝ってしまった先達たち〈木立（大庭みな子）〉／神奈川とわたし〈相模原三十年（南原幹雄）〉／県内の同人誌24〈地下水（鈴木多佳）〉／所蔵資料紹介〈戦後の出発を画した鮎川信夫の手書き原稿（牟礼慶子）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-68. 『神奈川近代文学館』 第68号 2000年4月15日

収録：「座談の名人」の小説（青木彰）／論客去る（陳舜臣）／ファインダー／連載随筆1 師友忘じ難し〈山本周五郎の釣銭（早乙女貢）〉／神奈川とわたし〈偶然の回帰（赤瀬川隼）〉／県内の同人誌25〈青い階段（朝野章子）〉／所蔵資料紹介〈富永太郎「詩帖1」の魅力（佐々木幹郎）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-69. 『神奈川近代文学館』 第69号 2000年7月15日

収録：完成の眼差し（金子兜太）／子規とパソコン（坪内稔典）／ファインダー／連載随筆2 師友忘じ難し〈中山義秀の酒（早乙女貢）〉／神奈川とわたし〈総長3POH行（山下明生）〉／県内の同人誌26〈よこはま野火（進藤いつ子）〉／所蔵資料紹介〈作家の声、時代の声（富岡幸一郎）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-70. 『神奈川近代文学館』 第70号 2000年10月15日

収録：反核運動と原爆文学（中野孝次）／「あの日のこと」と『黒い卵』（堀場清子）／ファインダー／連載随筆3 師友忘じ難し〈海音寺潮五郎と刀（早乙女貢）〉／神奈川とわたし〈横浜そして神奈川（水原紫苑）〉／県内の同人誌27〈顔（牧石剛明）〉／所蔵資料紹介〈『中村光夫文庫目録』をよむ（中山和子）〉／閲覧室／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-71. 『神奈川近代文学館』 第71号 2001年1月15日

収録：写真に幻想を加えて（新田義之）／「日本現代詩研究社国際ネットワーク」のこと（小海永二）／ファインダー／連載随筆4 師友忘じ難し〈有馬頼義の薬（早乙

女貢) / 神奈川とわたし (空襲、そして軍事基地 (寛慎二)) / 県内の同人誌 28 (紫陽花 (柴崎左田男)) / 所蔵資料紹介 (フランス文学華やかかなりし頃 (古屋健三)) / 閲覧室 / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-72. 『神奈川近代文学館』 第 72 号 2001 年 4 月 15 日

収録: 大人にすゝめたい児童文学 (河合隼雄) / 口から蛇 (立原えりか) / ファインダー / 連載随筆 1 わが師友 小沼丹さんの章 (秀作時代のお守 (三浦哲郎)) / 神奈川とわたし (神奈川は広い (皆川博子)) / 県内の同人誌 29 (獣 (本野多喜夫)) / 所蔵資料紹介 (資料の顔——中島敦文庫 (勝又浩)) / 閲覧室 / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-73. 『神奈川近代文学館』 第 73 号 2001 年 7 月 15 日

収録: 芥川龍之介と鵠沼の東屋 (佐江衆一) / 戦時下の石川淳 (渡辺喜一郎) / ファインダー / 連載随筆 2 わが師友 天狗太郎さんの章 (失われた好局 (三浦哲郎)) / 神奈川とわたし (もう東京はいらない (山崎洋子)) / 県内の同人誌 30 (波 (倉橋羊村)) / 所蔵資料紹介 (原画の迫力と魅力——中尾進資料 (清原康正)) / 閲覧室 / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-74. 『神奈川近代文学館』 第 74 号 2001 年 10 月 15 日

収録: 野間さんのえくぼ (佐木隆三) / 文学、その地平をどこまでも (菅野昭正) / ファインダー / 連載随筆 3 わが師友 新本燦根さんの章 (釣竿をステッキにして (三浦哲郎)) / 神奈川とわたし (葉山の少年 (太田治子)) / 県内の同人誌 31 (萬華鏡 (芳忠復子)) / 所蔵資料紹介 (ふしぎな人 正岡容 (大西信行)) / 閲覧室 / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-75. 『神奈川近代文学館』 第 75 号 2002 年 1 月 15 日

収録: 私の心に生きる明治の文学 (伊豆利彦) / 忘れてはいけない作家 (祖父江昭二) / ファインダー / 所蔵資料紹介 (「戦艦大和」鎮魂の旅——吉田満資料 (千早耿一郎)) / 神奈川とわたし (山手十番館の落日 (新井満)) / 県内の同人誌 32 (まんさく (木内岳南)) / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-76. 『神奈川近代文学館』 第 76 号 2002 年 4 月 15 日

収録: 漱石と房総 (川本三郎) / 漱石はいまもなぜ読まれるのか (高橋源一郎) / ファインダー / 連載随筆 1 まだ海のあったころ 『荒地』のこと、氷川丸のこと (加島祥造) / 神奈川とわたし (黙阿弥いらいの縁 (河竹登志夫)) / 県内の同人誌 33 (狩 (遠藤若狭男)) / 所蔵資料紹介 (近藤東特別資料の意義 (金子秀夫)) / 閲覧室 / 資料受贈報告 / 受入済資料 / 掲示板 / 朝夕抄録 / イベント

1-77. 『神奈川近代文学館』 第 77 号 2002 年 7 月 15 日

収録: 松本清張 反権力の栄光 (森村誠一) / 敦の魅力 (森田誠吾) / ファインダー / 連載随筆 2 まだ海のあったころ (大きな草っ原と崖っぷち (加島祥造)) / 神奈川

とわたし〈引っ越し人生《神奈川編》(伊井直行)〉／県内の同人誌 34〈かりん(岩田正)〉／所蔵資料紹介〈みごとな推敲の厳密さ—寺田透文庫について(田邊園子)〉／閲覧室／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-78. 『神奈川近代文学館』 第 78 号 2002 年 10 月 15 日

収録：よみがえった万葉人(島田修三)／戦後彗星の如く出現、吉野秀雄讃(斎藤正二)／ファインダー／連載随筆 3 まだ海のあったころ〈磯子の海 1(加島祥造)〉／神奈川とわたし〈海のほとりへ(高橋睦郎)〉／県内の同人誌 35〈風嘯(岩本俊夫)〉／所蔵資料紹介〈菅原克己資料によせて(三木卓)〉／閲覧室／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-79. 『神奈川近代文学館』 第 79 号 2003 年 1 月 15 日

収録：新春随想 正月の山手(紀田順一郎)／『夜明け前』と神奈川(十川信介)／『閏二月二十九日』のこと(林淑美)／ファインダー／連載随筆 4 まだ海のあったころ〈磯子の海 2(加島祥造)〉／神奈川とわたし〈梶ヶ谷界限(入沢康夫)〉／県内の同人誌 36〈ポエム・横浜(大瀧修一)〉／所蔵資料紹介〈戦後空間が持ち得た可能性を映す(岡庭昇)〉／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-80. 『神奈川近代文学館』 第 80 号 2003 年 4 月 15 日

収録：三人のヒーロー 一つの視点(山田宗睦)／ファインダー／連載随筆 1 文壇離れの文士像〈田宮虎彦あん(城山三郎)〉／神奈川とわたし〈私と金沢八景(中沢けい)〉／県内の同人誌 37〈青山(山崎ひさを)〉／所蔵資料紹介〈山本七平の「デスマスク」(井尻七平)〉／閲覧室／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-81. 『神奈川近代文学館』 第 81 号 2003 年 7 月 15 日

収録：牧羊子先生と茅ヶ崎駅(小林照幸)／一葉・明治の女(滝藤満義)／ファインダー／連載随筆 2 文壇離れの文士像〈大岡昇平さん(城山三郎)〉／神奈川とわたし〈いまも自然の神奈川(青野聡)〉／県内の同人誌 38〈アル(西村富枝)〉／所蔵資料紹介〈『鈴木三重吉・赤い鳥文庫目録』を手にして(上笙一郎)〉／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-82. 『神奈川近代文学館』 第 82 号 2003 年 10 月 15 日

収録：ペン大会のことなど(三好徹)／井上靖の詩の魅力(秦恒平)／ファインダー／連載随筆 3 文壇離れの文士像〈永井龍男さん(城山三郎)〉／神奈川とわたし〈因縁(藤沢周)〉／県内の同人誌 39〈= (笥慎二)〉／所蔵資料紹介〈定型復帰への道(山田吉郎)〉／閲覧室／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録／イベント

1-83. 『神奈川近代文学館』 第 83 号 2004 年 1 月 15 日

収録：新春随想 神奈川近代文学館の二十年(中野孝次)／戦前記の小林秀雄(秋山駿)／師の書庫(福田はるか)／ファインダー／連載随筆 4 文壇離れの文士像〈結

城昌治さん（城山三郎）／神奈川とわたし（岡倉天心と横浜（新井恵美子））／県内の同人誌 40（椎の実（山口飛蝶））／所蔵資料紹介（野間宏「戦中日記」の衝撃（尾末奎司））／資料受贈報告、受入済資料／掲示板／朝夕抄録

1-84. 『神奈川近代文学館』 第 84 号 2004 年 4 月 15 日

収録：特別展「21 世紀文学の予言者芥川龍之介展」〈芥川と外国文学管見（小玉晃一）／慈眼寺まで（原田宗典）／展示会場から／図録紹介〉／連載随筆 1 戦後の児童文学者たち〈カボチャの花（長崎源之助）〉／神奈川とわたし〈神奈川近代文学館との 20 年（内田四方蔵）〉／閲覧室／神奈川文学年表 1／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／お知らせ

1-85. 『神奈川近代文学館』 第 85 号 2004 年 7 月 15 日

収録：寄稿〈不思議な出会いに立ち会った（高橋治）／菊池寛の復活（日高昭二）／展示会場から〉／連載随筆 2 戦後の児童文学者たち〈津軽のりんご（長崎源之助）〉／神奈川とわたし〈今、思うこと（江森國友）〉／閲覧室／神奈川近代文学年表 2／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／お知らせ

1-86. 『神奈川近代文学館』 第 86 号 2004 年 10 月 15 日

収録：追悼・中野孝次〈安西篤子／山田宗睦／加島祥造／秋山駿／児玉清／岡松和夫〉／開館 20 周年記念寄稿①〈松沢成文／篠崎孝子〉／収蔵コレクション展寄稿〈石川九揚／立松和平／矢島裕紀彦／展示会場から／図録紹介〉／連載随筆 3 戦後の児童文学者たち〈自分の道（長崎源之助）〉／神奈川とわたし〈緩やかな時の流れ（尾崎左永子）〉／資料受贈報告／掲示板／お知らせ

1-87. 『神奈川近代文学館』 第 87 号 2005 年 1 月 15 日

収録：新春随想〈念頭の願い（安西篤子）〉／開館 20 周年記念寄稿②〈展示のつくり（竹西寛子）／二十周年回顧（野上義一）／神奈川近代文学館二十年のあゆみ（略年譜）〉／寄稿・新青年〈“懐かしの”ではない「新青年」（新保博久）／展示会場から〉／連載随筆 4 戦後の児童文学者たち〈花びら忌（長崎源之助）〉／神奈川とわたし〈大好きな町（末吉暁子）〉／閲覧室／神奈川近代文学年表 3／資料受贈報告／受入済資料／掲示板／お知らせ

2. 『神奈川近代文学館年報』

2-1. 『神奈川近代文学館年報 昭和 60 年度』 1986 年 奥付無し

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈昭和 60 年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈入館状況（59 年度）／入館状況（60 年度）／会議室利用状況（59 年度）／会議室利用状況（60 年度）〉／資料収集状況〈文学資料収集状況／おもな購入資料／おもな寄贈資料〉／条例等〈神奈川県立神奈川近代文学館条例／同上施行規則〉／（財）神奈川文学振興会〈神奈川

近代文学館建設の趣意／（財）神奈川文学振興会について／役員等名簿（57. 4. 1）
／同上（61. 3. 1）／（財）神奈川文学振興会の組織／文芸講演会等の開催状況／60
年度事業計画／60年度展示計画／理事会開催状況／評議員会開催状況）

2-2. 『神奈川近代文学館年報 昭和61年度』 1987年 奥付無し

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設
面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈昭和
61年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈入館状況（59年度）／
入館状況（60年度）／入館状況（61年度）／会議室利用状況（59年度）／会議室利
用状況（60年度）／会議室利用状況（61年度）〉／資料収集状況〈文学資料収集状況
／おもな購入資料／おもな寄贈資料〉／条例等〈神奈川県立神奈川近代文学館条例／
同上施行規則〉／（財）神奈川文学振興会〈神奈川近代文学館建設の趣意／（財）神
奈川文学振興会について／役員等名簿（57. 4. 1）／同上（62. 6. 2）／（財）神奈
川文学振興会の組織／文芸講演会等の開催状況／61年度事業計画／61年度展示計画
／理事会開催状況／評議員会開催状況）

2-3. 『神奈川近代文学館年報 昭和62年度』 1988年 奥付無し

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設
面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈昭和
62年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈入館状況（59年度）／
入館状況（60年度）／入館状況（61年度）／入館状況（62年度）／会議室利用状況
（59年度）／会議室利用状況（60年度）／会議室利用状況（61年度）／会議室利
用状況（62年度）〉／資料収集状況〈文学資料収集状況／おもな購入資料／おもな寄贈
資料〉／条例等〈神奈川県立神奈川近代文学館条例／同上施行規則〉／（財）神奈川
文学振興会〈神奈川近代文学館建設の趣意／（財）神奈川文学振興会について／役員
等名簿（63. 5. 31）／（財）神奈川文学振興会の組織／文芸講演会等の開催状況／
62年度事業計画／62年度展示計画／理事会開催状況／評議員会開催状況）

2-4. 『神奈川近代文学館年報 昭和63年度』 1989年 奥付無し

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設
面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈昭和
63年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈入館状況（59年度）／
入館状況（60年度）／入館状況（61年度）／入館状況（62年度）／入館状況（63
年度）／会議室利用状況（59年度）／会議室利用状況（60年度）／会議室利用状況
（61年度）／会議室利用状況（62年度）／会議室利用状況（63年度）〉／資料収集
状況〈文学資料収集状況／おもな購入資料／おもな寄贈資料〉／条例等〈神奈川県立
神奈川近代文学館条例／同上施行規則〉／（財）神奈川文学振興会〈神奈川近代文学
館建設の趣意／（財）神奈川文学振興会について／役員等名簿（元. 4. 1）／（財）

神奈川文学振興会の組織／文芸講演会等の開催状況／63年度事業計画／63年度展示計画／理事会開催状況／評議員会開催状況

2-5. 『神奈川近代文学館年報 平成1年度』 1990年 奥付無し

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈平成元年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈年度別入館状況の推移／昭和59年度月別入館状況／昭和60年度月別入館状況／昭和61年度月別入館状況／昭和62年度月別入館状況／昭和63年度月別入館状況／平成元年度月別入館状況／年度別会議室利用状況の推移／昭和59年度月別会議室利用状況／昭和60年度月別会議室利用状況／昭和61年度月別会議室利用状況／昭和62年度月別会議室利用状況／昭和63年度月別会議室利用状況／平成元年度月別会議室利用状況〉／資料収集状況〈文学資料収集状況／おもな購入資料／おもな寄贈資料〉／条例等〈神奈川県立神奈川近代文学館条例／同上施行規則〉／（財）神奈川文学振興会〈神奈川近代文学館建設の趣意／（財）神奈川文学振興会について／役員等名簿（平成2年5月25日現在）／（財）神奈川文学振興会の組織／平成元年度文芸講演会等の開催状況／平成2年度事業計画／平成2年度展示計画／理事会開催状況／評議員会開催状況

2-6. 『神奈川近代文学館年報 平成2年度』 1991年4月

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈平成2年度予算一覧／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈年度別入館状況の推移／展覧会別入館者の状況／平成元年度月別入館者の状況／平成2年度月別入館者の状況／年度別会議室利用状況の推移／平成元年度月別会議室利用状況／平成2年度月別会議室利用状況〉／資料収集状況〈文学資料収集状況／おもな購入資料／おもな寄贈資料〉／条例等〈神奈川県立神奈川近代文学館条例／同上施行規則〉／（財）神奈川文学振興会〈神奈川近代文学館建設の趣意／（財）神奈川文学振興会について／役員等名簿（平成3年4月1日現在）／（財）神奈川文学振興会の組織／理事会開催状況／評議員会開催状況／平成2年度文芸講演会等の開催状況／平成3年度事業計画／平成3年度展示計画

2-7. 『神奈川近代文学館年報 平成3年度』 1992年6月

収録：建設目的／沿革／施設の概要〈所在地／敷地面積／建設期間／建設費等／建設面積等／施設の内容／その他〉／組織及び運営〈分掌事務／業務委託〉／予算〈平成4年度予算一覧（当初予算）／近代文学館関係予算の推移〉／利用状況〈年度別入館状況の推移／展覧会別入館者の状況／平成2年度月別入館者の状況／平成3年度月別入館者の状況／平成2年度月別閲覧の状況／平成3年度月別閲覧の状況／年度別会議室利用状況の推移／平成2年度月別会議室利用状況／平成3年度月別会議室利用状

況) / 資料収集状況 (文学資料収集状況 / おもな購入資料 / おもな寄贈資料) / 条例等 (神奈川県立神奈川近代文学館条例 / 同上施行規則) / 増改築工事 (収蔵庫等の増改築について) / (財) 神奈川文学振興会 (神奈川近代文学館建設の趣意 / (財) 神奈川文学振興会について / 役員等名簿 (平成 4 年 4 月 1 日現在) / (財) 神奈川文学振興会の組織 / 理事会開催状況 / 評議員会開催状況 / 平成 3 年度文芸講演会等の開催状況 / 平成 4 年度事業計画 / 平成 4 年度展示計画)

2-8. 『神奈川近代文学館年報 平成 4 年度』 1993 年 4 月

収録: 建設目的 / 沿革 / 施設の概要 (所在地 / 敷地面積 / 建設期間 / 建設費等 / 建設面積等 / 施設の内容 / その他) / 組織及び運営 (分掌事務 / 業務委託) / 予算 (平成 5 年度予算一覧 (当初予算) / 近代文学館関係予算の推移) / 利用状況 (年度別入館状況の推移 / 展覧会別入館者の状況 / 平成 3 年度月別入館者の状況 / 平成 4 年度月別入館者の状況 / 平成 3 年度月別閲覧の状況 / 平成 4 年度月別閲覧の状況 / 年度別会議室利用状況の推移 / 平成 3 年度月別会議室利用状況 / 平成 4 年度月別会議室利用状況) / 資料収集状況 (文学資料収集状況 / おもな購入資料 / おもな寄贈資料) / 条例等 (神奈川県立神奈川近代文学館条例 / 同上施行規則) / 増改築工事 (収蔵庫等の増改築について) / (財) 神奈川文学振興会 (神奈川近代文学館建設の趣意 / (財) 神奈川文学振興会について / 役員等名簿 (平成 5 年 4 月 1 日現在) / (財) 神奈川文学振興会の組織 / 理事会開催状況 / 評議員会開催状況 / 平成 4 年度文芸講演会等の開催状況 / 平成 5 年度事業計画 / 平成 5 年度展示計画)

2-9. 『神奈川近代文学館年報 平成 5 年度』 1994 年 4 月

収録: 建設目的 (神奈川近代文学館設立の趣意) / 沿革 / 条例等 (神奈川県立神奈川近代文学館条例 / 同上施行規則) / 施設の概要 (所在地 / 敷地面積 / 建設面積等 / 施設の内容 / その他) / (財) 神奈川文学振興会 ((財) 神奈川文学振興会について / 役員等名簿 (平成 6 年 3 月 31 日現在) / (財) 神奈川文学振興会の組織・業務委託 / 理事会開催状況 / 評議員会開催状況 / 平成 5 年度文芸講演会等の開催状況 / 平成 6 年度事業計画 / 平成 6 年度展示計画) / 予算 (平成 6 年度予算一覧 (当初予算) / 近代文学館関係予算の推移) / 利用状況 (年度別入館状況の推移 / 展覧会別入館者の状況 / 平成 4 年度月別入館者の状況 / 平成 5 年度月別入館者の状況 / 平成 4 年度月別閲覧の状況 / 平成 5 年度月別閲覧の状況 / 年度別会議室利用状況の推移 / 平成 4 年度月別会議室利用状況 / 平成 5 年度月別会議室利用状況) / 資料収集状況 (文学資料収集状況 / おもな購入資料 / おもな寄贈資料)

2-10. 『神奈川近代文学館年報 一九九四年度 (平成六)』 1995 年 6 月 1 日 編集: 財団法人神奈川文学振興会 発行: 神奈川県立神奈川近代文学館 / 財団法人神奈川文学振興会

収録: はじめに (中野孝次) / 《巻頭論文》 (「尾崎一雄文庫」のなかから「文芸城」

二冊の重さ（紅野敏郎）／西脇順三郎の死と禅（江森國友）／一九九四年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／一九九四年度記事／資料編

2-11. 『神奈川近代文学館年報 一九九五年度（平成七）』 1996年6月1日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／「横光利一原稿五編」追記（保昌正夫）／泉鏡花の文学について（川村二郎）／一九九五年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／友の会活動アンケート調査結果／一九九五年度記事／資料編

2-12. 『神奈川近代文学館年報 一九九六年度（平成八）』 1997年6月20日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／「死霊」第四章推敲の跡（鳥井邦郎）／第二の身体—遺稿・遺品をめぐる（吉田熙生）／一九九六年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／一九九六年度記事／資料編

2-13. 『神奈川近代文学館年報 一九九七年（平成九年）度』 1998年6月20日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／立原正秋展の後に（岡松和夫）／《滑川道夫文庫》を見る（上笙一郎）／一九九七年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／一九九七年度記事／資料編

2-14. 『神奈川近代文学館年報 一九九八年（平成一〇年）度』 1999年6月18日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／広津文庫死霊について（坂本育雄）／谷崎と横浜——谷崎潤一郎展余聞——（千葉俊二）／一九九八年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／一九九八年度記事

2-15. 『神奈川近代文学館年報 一九九九年（平成一一年）度』 2000年7月31日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／開高健の「闘い」（川村湊）／三重吉の光—「鈴木三重吉・赤い鳥文庫」閲覧—（宮川健郎）／一九九九年度報告／資料部門／展示部門／広報普及／一九九九年度記事／資料編

2-16. 『神奈川近代文学館年報 二〇〇〇年（平成一二年）度』 2001年6月30日 編集：財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会

収録：はじめに／漱石書画考—夏目家より寄贈された漱石の遺品に触れて（石崎等）
／原爆文学について（鹿野政直）／二〇〇〇年度報告／資料部門／展示部門／広報普及
／二〇〇〇年度記事／資料編

2-17. 『神奈川近代文学館年報 二〇〇一年（平成一三年）度』 2002年6月30日 編集：
財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川
文学振興会

収録：「文学」と「本」のあいだ —「二〇世紀の日本児童文学」を展示するにあたって—
（佐藤宗子）／千語研究の一級資料—野間宏文庫の意義（紅野謙介）／二〇〇一
年度報告／資料部門／展示部門／企画普及／二〇〇一年度記事／資料編

2-18. 『神奈川近代文学館年報 二〇〇二年（平成一四年）度』 2003年6月30日 編集：
財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈
川文学振興会

収録：荷風書簡百十五通（うち新発見三十三通）の充実 —初山梓月資料のうちから—
（竹盛天雄）／「吉野秀雄展」を顧みる（島田修二）／二〇〇二年度報告／資料部
門／展示部門／企画普及／二〇〇二年度記事／資料編

2-19. 『神奈川近代文学館年報 二〇〇三年（平成一五年）度』 2004年6月30日 編集：
財団法人神奈川文学振興会 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈
川文学振興会

収録：近代俳句のキーパーソン井泉水の日記（村上護）／井上靖展の意図と構成（曾
根博義）／二〇〇三年度報告／資料部門／展示部門／企画普及／二〇〇三年度記事／
資料編

記念誌（開館）

1. 『神奈川近代文学館建設の趣意』 1982年6月23日 発行：（財）神奈川文学振興会
収録：神奈川近代文学館建設の趣意・設立発起人／感動と責任（長洲一二）／超一級の
文学殿堂に（小田切進）／第一歩（尾崎一雄）／役員の一員として（井上靖）／地方へ
の興味（中村光夫）／お祝い申し上げる（里見淳）／西と東（永井龍男）／神奈川近代
文学館へ寄せる（稲垣達郎）／県立近代文学館と私（近藤東）／新しい文学館のために
（瀬沼茂樹）／児童文学への期待（滑川道夫）／詩人たちの面影（伊藤信吉）／近代文
学館創設を歓ぶ（山本健吉）／長谷川伸と横浜（村上元三）／感想と要望（関英雄）／
私と郷土文学（小澤彰）／一点の資料（城山三郎）／楽しめる文学館（馬場あき子）／
文学と風土（尾崎秀樹）／県立近代文学館への期待（江藤淳）／神奈川近代文学館の建
設を喜ぶ I（細郷道一）／神奈川近代文学館の建設を喜ぶ II（桶本正夫）／神奈川近代
文学館の建設を喜ぶ III（菅井栄一郎）／神奈川近代文学館のしごと／理事・監事・顧問・
評議員・事務局員名簿・神奈川県ゆかりの作家／図版神奈川近代文学館

記念誌（周年）

1. 『一九八四・四～一九九四・三 神奈川近代文学館一〇年史』 1994年10月1日 編集：財団法人神奈川文学振興会編 発行：神奈川県立神奈川近代文学館／財団法人神奈川文学振興会
収録：神奈川近代文学館十周年にあたって（長洲一二）／文学館これまでとこれから（中野孝次）／一雄が残していった資料と心（尾崎松枝）／中村光夫と中村文庫（木庭久美子）／資料の重要性（紅野敏郎）／小田原の作家たち（保昌正夫）／神奈川の文学と文学館（内田四方蔵）／仕事二つ（小山文雄）／これからの文学館（山田宗睦）／神奈川近代文学館のあゆみ 一九七九・八～一九九四・三／資料編

【36】鎌倉文学館

図録

1. 『開館記念 鎌倉文学館』 1985年10月31日 発行：鎌倉市教育委員会
収録：旧前田家別邸由来／自然と歴史につつまれて／文学館開館を祝う（小島寅雄）／開館にあたって（永井龍男）／收藏品より／座談会——鎌倉と文学を語る（永井龍男 永井路子 清水基吉 澤寿郎 金子晋）／小林秀雄さんと桜（那須良輔）／文学都市の華麗な実験（島田修二）／同人誌「南北」のころ（安西敦子）／おもかげ（富士川英郎）／文士と鎌倉の自然（伊藤海彦）／鎌倉・文学碑めぐり
2. 『小津安二郎一人と仕事』 1986年6月1日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
3. 『芥川賞・直木賞と鎌倉』 1986年10月18日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
4. 『特別展 高浜虚子展 俳句と文学・虚子のすべて』 1987年5月27日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
5. 『特別 立原正秋展』 1987年10月10日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
6. 『特別展 鎌倉の歌人展』 1988年5月27日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
7. 『特別展 久保田万太郎展』 1988年10月15日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
8. 『特別展 吉屋信子展』 1989年5月26日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し

9. 『鎌倉古都展参加 特別展 中世文学展——中世文学と鎌倉——』 1989年10月20日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
10. 『澁澤龍彦展』 1990年6月15日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
11. 『特別展 中山義秀展』 1990年10月26日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
12. 『特別展 大佛次郎と鎌倉』 1991年6月 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
13. 『特別展 永井龍男』 1991年10月18日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
14. 『特別展 林不忘—三つのペンネームを持つ作家—』 1992年6月12日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
15. 『特別展 鎌倉と詩人たち』 1992年10月16日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
16. 『特別展 小牧近江 一種蒔く人一』 1993年6月11日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
17. 『特別展 鎌倉と明治文学者 —漱石 独歩 樗牛 天知—』 1993年10月15日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
18. 『特別展 里見淳』 1994年6月10日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
19. 『特別展 鎌倉と俳人たち』 1994年10月14日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
20. 『鎌倉文学館開館十周年記念 特別展 高見順』 1995年9月29日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
21. 『特別展 海音寺潮五郎』 1996年9月27日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
22. 『特別展 生誕百年記念 大佛次郎 —文学・人・鎌倉—』 1997年10月3日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し
収録：ごあいさつ／大佛次郎と画家達の作品／遺愛品／仕事場風景／おいたち／作家への道／鞍馬天狗／時代小説／開花物／現代小説／戯曲／少年少女小説・童話／ノンフィクション／史伝・天皇の世紀／鎌倉と大佛次郎／作品と鎌倉／『パリ燃ゆ』の執筆年齢について（高田宏）／百歳の父（野尻政子）／主要著書目録／略年譜／主な展示資料／専門員／協力者・出品協力者
23. 『特別展 中原中也 —鎌倉の軌跡—』 1998年10月9日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館 目次無し

収録：ごあいさつ／中也の故郷／中也の風景／中也の遺品／中也の原稿／おいたち／少年期／旅立ち／「朝の歌」から／『山羊の歌』へ／文也の死／中也・心の素描／鎌倉へ／鎌倉の日記／鎌倉の生活／鎌倉の詩作／鎌倉から／鎌倉の死／いま何故中原中也か（中村稔）／中原中也のこと（野々上慶一）／略年譜／主要著書目録／主な参考文献／主な展示資料

24. 『特別展 永井路子』 1999年4月23日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館

収録：永井文学の特色（磯貝勝太郎）／思うこと（永井路子）／「氷輪」／「美貌の女帝」／「雲と風と」／「王朝序曲」「この世をば」／「三條院記」「望みしは何ぞ」「波のかたみ」／「炎環」／「つわものの賦」「北条政子」／「相模のものふたち」／鎌倉時代作品 「銀の館」／「山霧」「元就、そして女たち」／「戦国武将の素顔」「姫の戦国」「王者の妻」「朱なる十字架」／「流星」「乱紋」／八月十五日から見た鎌倉（縄田一男）／うたかたの「葛の葉抄」／「茜さす」／異議あり日本史「悪霊列伝」ほか／「わが千年の男たち」／歴史をさわがせた女たちシリーズ／随筆・紀行文〈ネジ一本（杉本苑子）／野方時代（西村滋）〉／作品目録／永井路子アルバム／略年譜

25. 『特別展 生誕百年記念 川端康成一美しい日本・そして鎌倉一』 1999年10月1日 発行：鎌倉市教員委員会／鎌倉文学館

収録：はじめに／川端康成の生涯〈おいたち／一高時代・「伊豆の踊子」／東大寺大・新進作家への道／「浅草紅団」・都市の中で／戦前から戦中にかけて／戦後の中から／社会的・国際的活躍〉／代表作〈「伊豆の踊子」とその風景／「雪国」の世界／「古都」など〉／ゆかりの品々〈川端康成と画家達／ゆかりの品々〉／川端康成と鎌倉〈鎌倉での生活／鎌倉文庫／「千羽鶴」／「山の音」／作品と鎌倉〉／川端康成・点描／川端康成と鎌倉（川端香男里）／美の存在と発見（藤田圭雄）／私の中の川端さん（巖谷大四）／略年譜／主要著書目録

26. 『特別展 晶子・かの子と鎌倉一愛・いのち・文学』 2000年9月29日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館

収録：与謝野晶子〈おいたち／寛との出会い／『みだれ髪』／欧州旅行／文化学院／「冬柏」／晩年〉／「墨と硯を」（森藤子）／与謝野晶子略年譜／与謝野晶子主要著書目録／「晶子の鎌倉・かの子の鎌倉」（尾崎左永子）／岡本かの子〈おいたち／一平との出会い／仏教への傾倒／芥川との出会い／外遊へ／『鶴は病みき』／晩年〉／岡本かの子略年譜／岡本かの子主要著書目録／主な展示資料

27. 『企画展「鎌倉の禅林と作家たち一建長寺・円覚寺の文学風土」』 2001年10月12日 奥付無し

収録：建長寺／円覚寺／大佛次郎／葛西善蔵／夏目漱石／島崎藤村／有島武郎／川端康成／「鎌倉の禅林と文人たち」（三浦勝男）／主な展示品／出品者・協力者

28. 『企画展「武者小路実篤～文学・人・鎌倉」』 2002年4月26日 発行：財団法人鎌

倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館 目次無し

収録：ごあいさつ／おいたち／鎌倉と実篤／『白樺』／新しき村／文学の世界／書画の世界／美術遍歴／円熟の時代／略年譜／主要著書目録／展示目録

29. 『企画展 文学と鎌倉大仏』 2002年8月9日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館 目次無し

収録：ご挨拶／古記録のなかの大仏／高德院にたつ文学碑／文人たちと大仏／鎌倉大仏年表／参考文献／主な展示資料

30. 『企画展 女流作家と鎌倉』 2002年9月28日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：円地文子／岡本かの子／田村俊子／湯浅芳子／宮本百合子／森田たま／広津桃子／吉屋信子／「脈うつ女流文学」与那覇恵子／川上喜久子／北畠八穂／相馬黒光／真杉静枝／「小説を書く日々」山本道子／女流文学と文学賞／主要著書目録／主な展示資料

31. 『企画展「生誕100年 小津安二郎 未来に語りかけるものたち」』 2003年4月25日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：語りかける〈生誕から小学生／中学生／蒲田撮影所／父と子／従軍／戦後／女優／好／志賀直哉／里見淳／母と子／1963〉／エッセイ〈小津安二郎とライカ（長井秀行）／小津先生と鎌倉（山内静夫）／小津安二郎〈プロフィール／フィルモグラフィ〉

32. 『愛の手紙 一親愛なる者たちへ』 2003年10月10日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：樋口一葉／樋口一葉から半井桃水へ／平田禿木から樋口一葉へ／斎藤緑雨から樋口一葉へ／樋口一葉と手紙／二葉亭四迷から池辺三山へ／正岡子規から夏目漱石へ／夏目漱石と手紙／夏目漱石から森田草平／夏目漱石から津田青楓／夏目漱石から芥川龍之介へ／寺田寅彦から津田青楓へ／芥川龍之介と手紙／芥川龍之介から小穴隆一へ／菊池寛から芥川龍之介へ／片山広子から佐佐木信綱へ／与謝野晶子から有島武郎へ／斎藤茂吉から宇野浩二へ／高村光太郎から水野葉舟へ／川端康成と手紙／川端康成から北条民雄へ／田村俊子から佐多稲子へ／三島由紀夫から清水基吉へ／清水基吉「学生服時代」／主な展示資料

33. 『企画展「立原正秋—美と伝統を求めて」』 2004年4月23日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：立原正秋の名残り／「朝顔の家」（立原幹）／おいたち／創作への道／同人誌時代／直木賞受賞／流行作家の時代／最期の年／中世への憧憬／食のこだわり／鎌倉と作品／鎌倉転居記／略年譜／主要著書目録／評伝・関連図書・映画化テレビ放映作品／主な展示資料

34. 『企画展「星野立子—天才少女のスローライフ」』 2004年10月1日 発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：紫の立子／俳句雑誌「玉藻」の彩／立子のファッション／「幸福を意識した人 ― 星野立子の役割―」（西村和子）／I章 おいたち〈い 高浜虚子の次女として／ろ 鎌倉移転／は 女学校時代／に 結婚／ほ 就職〉／II章 俳句でたどる立子の生涯〈一、父、虚子の思い まゝごとの飯もおさいも土筆かな ―立子初めての俳句／二、立子のやはらかき心 蝌蚪一つ鼻杭にあて休みをり ―虚子の指導／三、夫の理解 大佛の冬日は山に移りけり ―妻として、俳人として／四、運命のスタートライン 春の夜のとりちらかしたる机上かな ―「玉藻」創刊／五、十五秒に一区 ペン走るまゝ五七五爽やかに ―プロの俳人としての日々／六、大バッシング 美しき緑走れり夏料理 ―俳句の芸術／七、わが名は「立子」 父がつけしわが名立子や月を仰ぐ ―虚子と立子／八、世界へ羽ばたく 皆が見る私の和服パリ薄暑 ―俳句の価値／九、悲しみのなかになぜ泣くやこの美しき花をみて／十、スローライフで忙しく 露の世の間に合はざりしことばかり ―虚子の遺志をついで／十一、最期まで 春寒し赤鉛筆は六角形 ―凛として／愛用品アルバム〉／III章 作品世界〈立子の俳句／句集より〉／「母、星野立子の思出」（星野椿）／資料編／星野立子略年譜／主要図書目録／主な展示資料／季語索引

研究誌

1. 『鎌倉文学館資料シリーズ』

1-1. 『鎌倉文学館資料シリーズ1 鎌倉文学碑めぐり』 1988年10月31日 編集：鎌倉文学館 発行：鎌倉市教育委員会
 収録：一、大船・北鎌倉方面〈1 天広丸狂歌碑（今泉 白山神社）／2 小野田泉里句碑（台 稲荷社）／3 夏目漱石句碑（山ノ内 帰源院）／4 田村俊子記念碑（山ノ内 東慶寺）／5 四賀光子歌碑 二基（同）／6 田島絹亮句碑（同）／7 野田大塊句碑（同）／8 釈宗演・佐佐木信綱歌碑（同）／9 真杉静枝墓背誌（同）／10 三枝博音句碑（同）／11 徳富蘇峰詩碑（同）／12 太田水穂歌碑（同）／13 中村汀女句碑（同）／14 高見順詩碑（同）／15 安藤寛歌碑（山ノ内 浄智寺）／16 尾崎喜八墓詩碑（山ノ内 明月院）／17 井上剣花坊川柳碑（山ノ内 建長寺）／18 柳下湖麿歌碑・蕉禅俳諧五哲記念碑（同）／19 石塚友二句碑（同）〉／二、鎌倉駅より東部方面〈1 菅裸馬句碑（雪ノ下 鶴岡八幡宮）／2 源実朝歌碑（同）／3 村田清風句碑（西御門二丁目）／4 尾崎迷堂句碑（二階堂 荏柄天神社）／5 保利宗久歌碑（二階堂 鎌倉宮）／6 吉野秀雄歌碑（二階堂 瑞泉寺）／7 久保田万太郎句碑（同）／8 高浜虚子句碑（同）／9 大宅壮一評論碑（同）／10 尾崎迷堂句碑（二階堂 杉本寺）／11 鴨下荻江歌碑（浄妙寺 報国寺）／12 北条・新田合戦追悼歌碑（同）／13 木下利玄記念歌碑（同）〉／三、扇ガ谷より由比ガ浜方面〈1 底脱の井歌碑（扇ガ谷 海蔵寺）／2 清水基吉句碑（同）／3 金子一峰句碑（同）／

4 里見淳旧居碑（扇ガ谷二丁目）／5 星野立子句碑（扇ガ谷 寿福寺）／6 海上寿子歌碑（同）／7 米川稔歌碑（同）／8 佐竹音次郎歌碑（佐助一丁目）／9 松尾芭蕉句碑（由比ガ浜一丁目）／10 高浜虚子庵趾）／四、長谷・極楽寺方面〈1 与謝野晶子歌碑／2 星野立子句碑（同）／3 金子薫園歌碑（同）／4 飯室謙齐句碑（同）／5 吉屋信子（同）／6 宮沢賢治詩碑（長谷 光則寺）／7 杉聴雨歌碑（同）／8 高山樗牛記念碑（長谷 長谷寺）／9 高浜虚子句碑（同）／10 久米正雄胸像（同）／11 大野万木句碑（同）／12 戸川稲村句碑・阿佛尼旧蹟碑（極楽寺三丁目）〉／五、鎌倉駅より大町・材木座方面〈1 田辺松坂詩碑（大町・妙本寺）／2 仙覚万葉集研究跡碑（同）／3 塚本柳斎歌碑（大町 常栄寺）／4 星野立子句碑（大町 妙法寺）／5 勝田幸州句碑（材木座三丁目）／6 松尾芭蕉句碑（材木座 千手院）〉／六、稲村ガ崎より西部方面〈1 明治天皇歌碑（稲村ガ崎公園）／2 ボート遭難・七里ヶ浜哀歌碑（同）／3 西田幾多郎歌碑（稲村ガ崎三丁目）／4 佐佐木信綱歌碑（鎌倉山三丁目）〉／七、鎌倉文学館内の碑〈1 種蒔く人記念碑／2 外灯碑文〉／追加分

1-2. 『鎌倉文学館資料シリーズ 2 鎌倉文学散歩 大船・北鎌倉方面』 1994年2月20日 編集：鎌倉文学館 発行：鎌倉市教育委員会

収録：一、大船駅付近〈(一) 大船駅／(二) 大船観音／(三) 離山／(四) 大船撮影所〉／二、岩瀬・今泉方面〈(一) 岩瀬で没した国木田虎雄／(二) 白山神社の天広丸狂歌碑／(三) 散在ガ池と今泉不動〉／三、玉縄方面〈(一) 龍宝寺と玉縄城跡／(二) 松田竹の嶋人の小説「玉縄城」／(三) 玉縄で没した俳人石塚友二〉／四、北鎌倉駅付近〈(一) 北鎌倉駅付近の文人／(二) 北鎌倉付近を描いた作品／(三) 稻荷社の小野田泉里句碑と地元の俳人たち〉／五、円覚寺〈(一) 円覚寺概観／(二) 帰源院と文人／(三) 松嶺院と文人／(四) 寿徳庵と文人／(五) 仏日庵と文人／(六) 蔵六庵と文人／(七) 作品にみる円覚寺／(八) 円覚寺に眠る人々〉／六、東慶寺〈(一) 東慶寺概観／(二) 川柳駟入寺／(三) 文学関係碑／(四) 東慶寺に眠る人々〉／七、浄智寺・明月谷戸付近〈(一) 浄智寺／(二) 浄智寺に眠る人々／(三) 浄智寺付近の文人／(四) 明月谷戸の文人／(五) 明月院〉／八、建長寺〈(一) 建長寺概観／(二) 文学関係碑／(三) 建長寺と葛西善蔵／(四) 建長寺付近〉

1-3. 『鎌倉文学館資料シリーズ 3 鎌倉文学散歩 雪ノ下・浄明寺方面』 1997年3月12日 編集：鎌倉文学館 発行：鎌倉市教育委員会

収録：一、鎌倉駅から扇ガ谷方面〈(一) 鎌倉駅／(二) 小町通り／(三) 旧川喜多邸のあたり／(四) 浄光明寺周辺／(五) 亀ヶ谷坂のあたり〉／二、鶴岡八幡宮〈(一) 鶴岡八幡宮／(二) 鎌倉時代を描く作品／(三) 実朝と金槐和歌集／(四) 御谷の自然／(五) 雪ノ下の大佛邸のあたり／(六) 宝戒寺周辺／(七) 西御門周辺／(八) 頼朝ゆかりの地〉／三、鎌倉宮周辺〈(一) 荏柄天神／(二) 鎌倉宮／(三) 護良親王

と太平記／(四) 覚園寺周辺／(五) 永福寺跡のあたり／(六) 瑞泉寺／(七) 瑞泉寺の文学碑／(八) 天園ハイキングコース／(九) 二階堂周辺／四、金沢街道方面
〈(一) 金沢街道／(二) 杉本寺・浄妙寺周辺／(三) 報国寺周辺／(四) 田楽辻子のあたり／(五) 十二所周辺／(六) 朝比奈切通し〉／五、鎌倉駅から名越方面〈(一) おんめ様周辺／(二) 妙本地／(三) 安養院周辺／(四) 釈迦堂切通し／(五) 松葉ヶ谷のあたり／(六) 名越切通し

1-4. 『鎌倉文学館資料シリーズ4 鎌倉文学散歩 長谷・稲村ガ崎方面』 1999年3月27日 編集：鎌倉文学館 発行：鎌倉市教育委員会

収録：一、鎌倉駅から仮粧坂方面〈(一) 鎌倉駅西口周辺／(二) 寿福寺周辺／(三) 海蔵寺周辺／(四) 源氏山公園のあたり／(五) 佐助周辺〉／二、由比ヶ浜・材木座方面〈(一) 材木座海岸への道筋／(二) 光明寺／(三) 材木座の文学者たち／(四) 和賀江島／(五) 由比ヶ浜周辺／(六) 高浜虚子と鎌倉／(七) 笹目ヶ谷〉／三、長谷方面〈(一) 高德院(大仏)／(二) 大仏周辺の文学者たち／(三) 鎌倉文学館周辺／(四) 長谷寺／(五) 長谷寺周辺／(六) 万葉集と鎌倉／(七) 御霊神社〉／四、極楽寺・稲村ヶ崎方面〈(一) 極楽寺切通し／(二) 極楽寺周辺／(三) 月影ヶ谷／(四) 稲村ヶ崎公園／(五) 稲村ヶ崎の文学者たち／(六) 七里ヶ浜〉／五、腰越から深沢方面〈(一) 小動崎／(二) 腰越周辺の文学者たち／(三) 片瀬付近／(四) 鎌倉山周辺／(五) 深沢周辺

2. 『鎌倉文学館 収蔵コレクション』 2002年3月31日 編集・発行：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団／鎌倉文学館

収録：文学館と庭の風景／文学館内の風景／鎌倉文士〈大佛次郎／川端康成／久米正雄／小島政二郎／小林秀雄／今日出海／里見弴／高見順／永井龍男／中村光夫／中山義秀／林房雄／島木健作〉／鎌倉文庫／小説家〈夏目漱石／泉鏡花／芥川龍之介／有島武郎／国木田独步・島崎藤村／高山樗牛・星野天知／有島生馬／武者小路実篤・長与善郎／広津和郎・葛西善蔵／村松梢風・深田久弥／林不忘／海音寺潮五郎・山本周五郎／直紀三十五・胡桃沢耕史／久生十蘭・山口瞳／久保田万太郎／立原正秋・太宰治／大岡昇平／石川淳・小林勇〉／歌人〈佐佐木信綱／太田水穂・四賀光子／与謝野寛／与謝野晶子／吉井勇／木下利玄／吉野秀雄／山崎方代〉／俳人〈高浜虚子／星野立子／荻原井泉水／石塚友二／松本たかし〉／川柳作家〈井上剣花坊〉／詩人〈西脇順三郎／堀口大學／北原白秋／尾崎喜八／蒲原有明・萩原朔太郎／中原中也・堀辰雄／神西清／津村信夫・菊岡久利〉／女性作家〈永井路子／安西篤子／円地文子・北島八穂／真杉静枝・川上喜久子／相馬黒光・岡本かの子／森田たま／吉屋信子〉／翻訳・脚本家〈澁澤龍彦／厨川白村・竹山道雄／小牧近江・昇曙夢／北條秀司／秘田余四郎・小津安二郎〉／鎌倉文学館のしおり／昭和十一年当時の前田侯爵家鎌倉別邸

3. 『新版 鎌倉文学年表』 2004年6月1日 編集：財団法人鎌倉市芸術文化振興財団

／鎌倉文学館 目次無し

記念誌（周年）

1. 『鎌倉文学館 10 周年記念』 1995 年 9 月 28 日 発行：鎌倉市教育委員会／鎌倉文学館

収録：はじめに／目次／鎌倉文庫と文士たち／里見弴／久米正雄展／小津安二郎展／芥川賞・直木賞と鎌倉／高浜虚子展／立原正秋展／鎌倉の歌人展／久保田万太郎展／吉屋信子展／中世文学展／渋沢達彦展／中山義秀展／大佛次郎と鎌倉／永井龍男展／林不忘展／鎌倉と詩人たち／小牧近江展／鎌倉と明治文学者／里見弴展／鎌倉と俳人たち／高見順展／鎌倉ゆかりの作品と風景／あとがき

【37】 山中湖文学の森 徳富蘇峰館・三島由起夫文学館

図録

1. 『徳富蘇峰館開館記念展』 1998 年 7 月 24 日 編集・発行：山中湖文学の森・徳富蘇峰館

収録：蘇峰と山中湖／蘇峰の生涯／蘇峰四人の師／蘇峰交友録

2. 『山中湖文学の森 三島由紀夫文学館開館記念展』 1999 年 7 月 3 日 発行：山中湖文学の森・三島由紀夫文学館 編集：山中湖文学の森・三島由紀夫文学館（井上隆史／工藤正義／佐藤秀明／高村哲仁／平敷尚子）

収録：三島由紀夫アルバム／第一章 早熟な文才開花——『花ざかりの森』前後（大正一四～昭和二三年）／第二章 自己改造の苦闘——『仮面の告白』から『金閣寺』へ（昭和二四～三一年）／第三章 華麗な挑戦精神——『鏡子の家』からの成熟（昭和二三～三九年）／第四章 文武両道のゆくえ——『豊饒の海』の時代（昭和四〇～四五）／本館所蔵コレクションより〈幼年時代のノート／学習院初等科時代の作文集／中等科時代の資料／高等科時代の資料／東京帝国大学時代の資料／習作期の未発表作品／直筆原稿／取材・創作ノート／「豊饒の海」ノート〉／出品者・協力者一覧

作品

1. 『三島由紀夫詩集 愛蔵版』 2000 年 7 月 14 日 著者：三島由紀夫 発行：山中湖文学の杜・三島由紀夫文学館

収録：『聖室からの詠唱』〈自由詩の部 [秋／寂秋／順禮老者／光は普く漲り／幼き日／窓硝子／獨樂／オルゴル／斜陽／晝寝／鴉／秋の声／雨／鷺／防＝演＝／深山の春／つめたきもの・あたゝかきもの／隕星／墓場／暦／雨の降る朝／希望／新らしい本] 〉

定型詩の部 [玻 = 盃 / ほたる / 初夏のゆふべ / 春 / ふゆのまち / 港の宵 / 雲 / 夙川の雨] / 短唱の部 [母恋ふ雉子 / 親なし野狐 / かねたゝき / むらさきのちり / せみのきぬ] / 童謡の部 [つばめ / 土筆 / 海辺のあそび / 鷗 / とんぼ / お月見 / みかん / =] / 短歌・発句の部 [短歌十四首 / 発句随筆] / 連作詩の部 [月夜操 = A Description of scenery at Ishinomiya / 滄浪五月 The world of illusions / 浜辺のつばな August has come! / 聖室からの詠唱 Eastern poems / L氏のステッキ The Modern Verse / 森たち Green Forest Poems / ドイツの薔薇 Sacred Music of Germany (ハイネ譯詩選)] / 終曲 [海の詩] / 『NOTe BOOK』 (= の 老い / 倦怠 / 冬の = = / 夜の花 (雪どけの季節) / 青い泡 / 文化地獄 / 夜の白木蓮 / 晝の白木蓮 / 風と辛夷 / 室内静物 / パセリ / 聖女 / 朝 / 挽歌 / 春の埃 / ひとりぜりふ / 夏歌 / 悲壯調 / 御陵春日 / 秋の桃 / 不信 / 桃の樂 / 別荘地雨景 / なぐさめうた / 古代) / その他の詩篇 (忘却の日々 / 秋の光り / 雅歌 / 挽歌一篇 / 夜の = / 菊 / 果實 / 戀供養 / 鬼 / 古代の盜掘 / 星への拒み / 春の歌一戯詩一 / 小曲 第三番 / 小曲 第四番 / 戀と嘆きの小さい島々 / 鴉の絵巻 / 沈丁花 / 鬼 / GIN (短詩) / 今日のアダリィ / 明石にて / 火と水について / 桃 1 / 桃 2) / あとがき『詩を書く少年』の実像 (佐伯彰一) / 解題

【38】山梨県立文学館

図録

1. 『山梨県立文学館開館記念展「山梨の文学」』 1989年11月2日 企画・編集：山梨県立文学館

収録：開館記念展に寄せて (三好行雄) / 山梨ゆかりの作家と作品 (風土と文学 [樋口一葉 / 中村星湖 / 前田晃 / 深沢七郎 / 山本周五郎 / 木々高太郎 / 小尾十三 / 太宰治と山梨 / 田中冬二と山梨 / 伊藤左千夫と山梨の歌人たち / 三井甲之 / 山崎方代 / 秋山秋紅蓼 / 徳永寿美子 / 村岡花子] / 美のかたちとこころ / 山梨ゆかりの作家一故郷と近代社会一 (野山嘉正) / 芥川龍之介 (大川の水一作家以前 / 空中の火花一作家前期 / ぼんやりした不安一作家後期 / 龍之介の小窓 / 羅生門 / 河童 / 龍之介と漱石・鷗外 / 龍之介と直哉・潤一郎 / 龍之介の俳句 / 龍之介と蛇笏 / 青年期に訪れた山梨 / 夏期大学 / 山梨での足跡図 / 死とその時代 / 芥川龍之介生活地図・年表・田端の家 / 芥川龍之介の創作方法) / 飯田蛇笏 (蛇笏秀句 / 舞台と背景 / 俳人蛇笏への歩み [帰郷と友情 / 『芋の露』 / 「キララ」から「雲母」へ / 「ホトトギス」の人々 / 虚子と蛇笏] / 俳人蛇笏の広がり [山河日常 / 「雲母」の人々 / 俳味の風姿] / 身のむくもり / 著作眺望 / 蛇笏俳句の深まり [悲傷を超えて / 晩年の艶] / 蛇笏句の四季 / 蛇笏管見 (飯田龍太) / 甲斐のうた (甲斐のうた / 『古事記』の筑波問答 / 『古今和歌集』の在原滋春 / 古代短

歌の広がり／『伊勢物語』と富士山／『伊勢物語』について／夢窓疎石と五山文学／武田家とその周辺／甲斐の八景歌／良純親王と甲斐流寓／甲斐が嶺・甲斐の白根（久保田淳）／甲州の近世文学（柳沢吉保とその周辺／国学・儒学の人々／甲州の俳諧〔芭蕉と甲州／山口素堂／貞亨・元禄期の俳人たち／享保期の俳人たち／安永・天明期の俳人たち／文化・文政期の俳人たち／幕末・明治初期の俳人たち〕／甲斐の自然と日本武尊・素堂・蛇笏（森川昭）／山梨の近代文学（明治・大正期の文学／山梨の小説・評論・脚本／山梨の詩／山梨の短歌／山梨の俳句／山梨の童謡／山梨の川柳／近代の漢詩／山梨の女性／山梨の文芸誌／山梨の近代文学（小林富司夫）／山梨ゆかりの文学者／山梨出身・在住の文学者／古典ゆかりの人々／展示資料一覧／出品協力者・資料寄贈者

2. 『書簡の文学 手紙に見る作家の素顔』 1990年4月28日 企画・編集：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（三好行雄）／書簡文学の特質 一漱石と「白樺」のひとびと一（紅野敏郎）／書簡の織りなす人間模様／夏目漱石／漱石書簡の深い魅力（平岡敏夫）／芥川龍之介／「そのままずんずんお進みなさい」（宮坂覺）／作家の書簡一恋・恋愛（野山嘉正）／樋口一葉／したたかな一葉／太宰治／太宰治と書簡（山内祥史）／正宗白鳥／深沢七郎／保阪嘉内と宮澤賢治／賢治の書簡（原子朗）／芭蕉書簡の世界（森川昭）／木葉童子と高村光太郎／伊藤左千夫と根岸短歌会／与謝野晶子／晶子書簡をめぐって（逸見久美）／山崎方代／正岡子規と高浜虚子／飯田蛇笏とその周辺／師弟切々と（広瀬直人）／書簡の文学一心の絆（白倉一由）／展示資料一覧／出品協力者・展示協力者

3. 『樋口一葉の世界』 1990年10月13日 企画・編集：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（川手千興）／甲州の樋口一葉（野山嘉正）／祖父と父（祖父八左衛門／真下晩菘／父則義）／作家へのみち（桜木の宿）／女性の覚醒を視点として見た一葉の青春時代（野口碩）／萩の舎／歌人 樋口夏子（山根賢吉）／作家へのみち／一葉の日記—その虚像と実像（木村真佐幸）／女は主張する／『たけくらべ』『にぎりえ』の世界（「文学界」のひとびと）／一葉と馬場孤蝶（紅野敏郎）／『たけくらべ』の世界（虚像と実像—新吉原遊郭／『たけくらべ』関係地図／帝都の内と外）／一輪の花—一葉の基層（松沢俊夫）／『にぎりえ』／下谷・本郷界限（樋口一葉関係地図）／『たけくらべ』界限（森川昭）／西鶴と一葉（白倉一由）／光と影（「三人冗語」—露伴・鷗外・緑雨）／後代の知己（竹西寛子）／その死／『ゆく雲』のふるさと／甲州と一葉（荻原留則）／一葉像さまざま（年表—樋口一葉とその時代／展示資料一覧）／出品協力者・展示協力者

4. 『旅の文学 山梨の自然と人』 1991年4月27日 企画・編集：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／風景との対話—旅の文学展に寄せて—（近藤信行）／近世の旅と文学／甲府城と徽典館の文人（荻生徂徠／友野霞舟と乙骨耐軒）／歌人・国学者の旅（賀茂季鷹と清水浜臣／黒川春村）／近世俳人の往来（松尾芭蕉／大淀三千

風／『五色墨』と甲州の俳人／五味可都里の俳交／上矢敲氷／万延元年のアメリカ紀行／近世紀行文の魔力（板坂耀子）／明治の紀行文〈遅塚麗水／大町桂月／田山花袋／風景の発見〉／山の文学〈小島烏水／木暮理太郎／田部重治／深田久弥／平賀文男／杉原邦太郎〉／山の文学——山出の心の変化——（串田孫一）／佐佐木信綱／長塚節／若山牧水／田中冬二／尾崎喜八／草野心平／野尻抱影／新田次郎／井伏鱒二／近代の旅の文学（野山嘉正）／山梨の自然と人 ゆかりの文学碑／新歌碑・句碑（白倉一由）／展示資料一覧／出品協力者・展示協力者

5. 『生誕百年記念 芥川龍之介展』 1991年10月5日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／芥川文学の特質—企画展を通して—（紅野敏郎）／田端の家の人達（芥川瑠璃子）／I 生涯と文学（新原家／芥川家／生誕／江東小学校時代／府立第三中学校時代〔初期作品〕／第一高等学校時代／東京帝国大学時代〔恋愛／スケッチブック／芥川と夏目漱石〕／海軍機関学校教官時代／「空中の火花」への憧憬—東京帝国大学時代—（海老原英次）／『羅生門』から『傀儡師』まで—海軍機関学校教官時代—（清水康次）／我鬼窟時代／澄江堂時代〔河童図の変遷／死の反響／『或阿呆の一生』〕／大正八年、「作家の生活」と芥川龍之介—我鬼窟時代—（浅野洋）／芥川龍之晩期にみる挫折と希求—澄江堂時代—（佐藤康正）／II 佐品の創造（羅生門／父／或日の大石内蔵之助／きりしとほろ上人伝／秋／保吉の手帳から—等／一塊の土／大導寺信輔の半生—等／蜃気楼／河童／「或日の大石内蔵之助」のことなど（石割透）／構想と修辞への努力（関口安義）／III 文人龍之介（詩／和歌／俳句／童話／芥川龍之介の文人氣質—初期書簡の韻文—（野山嘉正）／芥川龍之介と泉鏡花（村松定孝）／芥川と志賀直哉・谷崎潤一郎／芥川と古典文学／岐路に立つつつ—志賀・谷崎らとの同時代的交響のなかで—（竹盛天緒）／芥川龍之介と古典文学（森川昭）／芥川と中国文学／芥川と西洋文学／北京での出会い（飯倉照平）／芥川とアメリカ文学（佐伯彰一）／山梨と芥川龍之介／現代と芥川龍之介／系図・関連地図／展示資料一覧／出品協力者・展示協力者・写真協力者

6. 『与謝野晶子と「明星」』 1992年4月25日 企画・編集：山梨県立文学館
収録：ごあいさつ／「明星」の広場（紅野敏郎）／I 与謝野鉄幹と晶子（帳場格子の内から—一塊の晶子／与謝野晶子—浜寺の一日（島津忠夫）／「妻をめとらば」—与謝野鉄幹／白萩・白百合・白梅—晶子・山川登美子・茅野雅子／「やは肌のあつき血潮」—『みだれ髪』／与謝野晶子の短歌史的位置—『みだれ髪』にそって）／II 「明星」の人々（正岡子規と鉄幹／河井醉茗と「文庫」／「明星」と美術／「君死に給ふこと勿れ」／「明星」の浪漫主義（中丸宣明）／「自我の詩を發揮せん」—「明星」に寄稿した人々／島崎藤村／佐佐木信綱／相馬御風／蒲原有明／薄田泣菫／木下杢太郎／堀口大学／岡本かの子／上田敏／石川啄木／北原白秋／吉井勇／窪田空穂／高村光太郎／水野葉舟／「明星」の内外）／III 晶子日常（「人及び女として」／「青鞥」／日本女子大学

と山川登美子・茅野雅子／文化学院と寛・晶子／古典文学の紹介／旅先で／「咲耶姫居ます山より」—山梨と与謝野夫妻／山梨と与謝野寛・晶子夫妻（白倉一由）／IV 「明星」その後〈「方寸」／「昂」「屋上庭園」「朱欒」〉／与謝野晶子略年譜／主な展示資料／出品協力者・展示協力者・写真協力者

7. 『飯田蛇笏展 没後三十年』 1992年10月3日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／碑のことなど（飯田龍太）／『山廬集』／芋の露連山影を正しうす 明治末から大正時代〈甲府中学／京北中学／早稲田吟社／「文庫」「新聲」／俳諧散心／明治の山梨俳壇／蛇笏の帰郷／虚子の俳壇復帰／「キララ」から「雲母」へ／「雲母」主宰／子規から蛇笏へ（野山嘉正）／くろがねの秋の風鈴鳴りにけり 昭和初年代〈寒夜句三昧／古典俳諧への関心／『俳句道を行く』／『穢土寂光』／蛇笏の旅／風交清雅／叙情の振幅（廣瀬直人）〉／冬瀧のきけば相つぐこだまかな 戦中から戦後へ〈肉親の情／家嚴長逝／著作望見／戦中戦後の蛇笏（丸山哲郎）〉／おく霜を照る日しづかに忘れけり 戦後・晩年〈「雲母」復刊／「社告」／悲傷超克／山河日常／『椿花集』（飯田龍太）／蛇笏賞／蛇笏と現代／戦後・晩年の片々（小林富司夫）〉／交友・蛇笏山脈〈若山牧水／芥川龍之介／日夏耿之介／三好達治／ホトトギスの人々〔渡辺水巴／村上鬼城／前田普羅／原石鼎〕／蛇笏山脈〔西島麥南／石原舟月／中川宋淵／宮武寒々／松村蒼石／高室呉龍／高橋淡路女／柴田白葉女／榎本虎山／五味酒蝶／今村霞外／辻蒨村〕／生涯山廬門弟子—蛇笏の高弟西島麥南—（田中鬼骨）／師弟人温／蛇笏と空穂、その山と句と歌〉／一句燦々 アンケート 蛇笏の一句／飯田蛇笏年譜／展示資料一覧／出品協力者・展示協力者

8. 『現代の女性作家』 1993年4月24日 企画・編集：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／宇野千代 宇野千代さんの魅力（近藤信行）／佐多稲子 処女作からの道（松本道子）／“女”の表現（中山和子）〈松田解子／住井すゑ／大原富枝／佐藤愛子／杉本苑子／永井路子／曾野綾子／岩橋邦枝／原田康子／平岩弓枝／山崎豊子／瀬戸内寂聴／田辺聖子／津村節子／富岡多恵子／倉橋由美子／阿部光子／渡邊喜恵子／松原一枝／池田みち子／河野多恵子／萩原葉子／宮尾登美子／新章文子／戸川昌子／竹西寛子／三枝和子／吉行理恵／安西篤子／三浦綾子／大庭みな子〉／女流文学者の気魂（中島和夫）〈金井美恵子／岩阪恵子／津島佑子／山本道子／米谷ふみ子／夏樹静子／木々康子／鳥井架南子／高橋たか子／吉田知子／郷静子／稲葉真弓／一ノ瀬綾／林京子／中島梓／皆川博子／梅原稜子／重兼芳子／増田みず子／中沢けい／金子きみ／戸田房子／橋本美耶子／山口洋子／小池真理子／杉本章子／森禮子／高樹のぶ子／木崎さと子／笙野頼子／加藤幸子／有爲エンジェル／林真理子／山田詠美／村田喜代子／山崎洋子／藤堂志津子／北原亞以子／鷺沢萌／吉本ばなな／小川洋子／入江曜子／瀧澤美恵子／萩野アンナ／松村栄子／多和田葉子／石井桃子／岩崎京子／李良枝／干刈あがた／白洲正子／武田百合子／島尾ミホ／角田房子／塩野七生

／澤地久枝／江刺昭子／田中澄江／秋元松代／若城希伊子）／近現代女性文学とプライド（新川和江／高良留美子／石垣りん／吉原幸子／新藤涼子／生方たつゑ／齋藤史／大西民子／山中智恵子／馬場あき子／盛岡貞香／安永露子／雨宮雅子／細見綾子／桂信子／野澤節子）／望月百合子 山梨の女性作家（白倉一由）（犬養道子／望月洋子／中村きい子／辺見じゅん／須賀敦子）／資料一覧／出品協力者

9. 『山崎方代展』 1994年4月23日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／甲州右左口村／方代讃（飯田龍太）／方代誕生／山崎一輪の時代（右左口青年団と「ふたば」／新聞への投稿／「一路」入会／横浜へ／兵士として）／「一路」から「工人」へ／「黄」／泥の会／心の観察者（岡部桂一郎）／第一詩集『方代』（『方代』と『山崎方代歌集』）／『右左口』まで（田谷時代／吉野秀雄と方代／秀雄追悼／合同歌集『現代』／「寒暑」）／第二歌集『右左口』（方代と山梨）／わが歌の秘密／第三歌集『こおろぎ』／短歌愛読者賞受賞／「うた」参加／『青じその花』（鎌倉手広の日々／山川草木／天生流露）／方代展に思う——方代さんと山本周五郎——（木村久邇典）／唐木順三との交友（二つの歌碑）／第四歌集『迦葉』／方代とわたし（玉城徹）／山崎方代年譜／展示資料一覧／出品協力者・展示協力者

10. 『中村星湖展』 1994年10月1日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／「少年行」の世界／短編作家中村星湖の重い存在（紅野敏郎）／甲府中学／早稲田大学／文壇への登場（読みつがれた『少年行』／「少年行」について（南條範夫）／坪内逍遙／島村抱月／二葉亭四迷）／早稲田文学記者／小説家星湖（国木田独歩／田山花袋／島崎藤村／岩野泡鳴／相馬御風／夏目漱石の手紙）／「故郷」の文学—「少年行」（中丸宣明）／『ボヴァリー夫人』の翻訳／星湖と「赤い鳥」／農民文芸会／フランスの星湖（正宗白鳥／人見東明／中山義秀・犬田卯の手紙／前田晁）／サンデー文壇の星湖／文化は郷土なり／五湖文化（釣ざんまい）／戦後出発／山人会の活動（星湖、晁と山人会（川合澄男）／山荘八景）／晩年／星湖と現代／中村星湖と富士北麓（内藤成雄）／中村星湖年譜／展示資料一覧／展示協力

11. 『「近代文学とミレー 文学と美術の接点を求めて」展図録』 1994年12月10日 編集：山梨県立文学館／山梨県立美術館 発行：山梨県立文学館／山梨県立美術館 目次無し

12. 『井伏鱒二 風貌・姿勢』 1995年4月29日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：ごあいさつ（紅野敏郎）／折から薫風の季節に（飯田龍太）／『山椒魚』—『仕事部屋』（少年時代／福山中学時代／早稲田大学時代／聚芳閣記者／山椒魚／夜ふけと梅の花／仕事部屋／風貌・姿勢）／『さざなみ軍記』—『厄除け詩集』（さざなみ軍記／ジョン万次郎漂流記／「博浪抄」の周辺／厄除け詩集／田園記／桃の咲くころ（伊藤桂一）／絶妙な仕掛け（平岡篤頼）／井伏鱒二と甲州／太幸治と井伏鱒二／花の町／疎開時代／短篇二つ—「へんろう宿」「葉煙草」—（竹西寛子）／『本日休診』—『遙拝

隊長』〈侘助／本日休診／遙拝隊長／まげもの／太宰治のこと／阿佐ヶ谷会の人々／漂
民宇三郎／ドリトル先生／七つの街道／取材旅行／太宰碑のこと（小林富司夫）〉／『黒
い雨』—『荻窪風土記』〈黒い雨／黒い雨（今村昌平）／小黒坂の猪／川で会った人た
ち／絵画／早稲田の森／岳麓点描／荻窪風土記／随筆の味（黒井千次）／陶芸／井伏先
生の手（川島勝）／「軀ノ津茶会記」まで（寺田博）／文士の風貌／文学の殉教者（高
橋英夫）〉／山梨ゆかりの作品／井伏鱒二略年譜／主な展示資料一覧

13. 『田中冬二展図録』 1995年9月30日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／冬二・ひとすじの道（堀内幸枝）／少年時代—肉
親との別れ／富山—^{いくじ}生地への郷愁／文学編へのめざめ—立教中学時代／詩の世界へ—
長谷川巳之吉との出会い／第一詩集 青い夜道／海に見える石段／山鳴—次女立子の
死／花冷え／長野へ—妻科・諏訪時代／「妻科の家」の頃（田中昭一郎）／故園の歌／
「山郷」の成立／椽の黄葉／菽麦集／田舎のあふれる噴井の水のように（阿毛久芳）／
郡山へ／豊田へ／晩春の日に／草雨亭／冬二の詩碑と奈良田（一瀬稔）／田中冬二と山
梨／詩と散文／牡丹の寺／旅の詩人・田中冬二／葡萄の女／失われた簪・石臼の歌／サ
ングラスの蕪村／織女・八十八夜／私家版詩集／田中冬二と俳句／田中冬二—詩と俳句
の平面—（野山嘉正）／交友〈堀口大學／尾崎喜八・丸山薫／津村信夫・高祖保／乾直
恵・井上多喜三郎／一瀬稔・堀内幸枝〉／田中冬二略年譜／主な展示資料一覧

14. 『宇野千代の世界』 1996年4月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／明日もさらに宇野千代（紅野敏郎）／生いたち／
燕楽軒／「脂粉の顔」—「色ざんげ」 馬込・淡島のころ〈「脂粉の顔」／尾崎一雄士
郎と馬込文士村／「幸福」／「白い家と罪」 新進作家叢書／特集「宇野千代女史」／
馬込のあたり（保昌正夫）／伊豆 湯ヶ島／「稲妻」／「^{けし}罌粟はなぜ紅い」／梶井基次
郎 尾崎一雄士郎宛書簡／素晴らしい人生を生きる（萩原葉子）／東郷青児と「大人の絵
本」／「色ざんげ」／「別れも愉し」「ひとの男」／「この白粉入れ」／「おはん」ス
タイル社・「文體」の創刊〈北原武夫とスタイル社創設／「文體」の創刊／「恋の手紙」
「妻の手紙」／「人形師天狗屋久吉」／「スタイル」の復刊／「文體」の復刊／小林秀
雄／「おはん」／フランスの千代／「聞き書き」の名手（佐伯彰一）／史的宇野千代論
抄（奥野健男）／「風の音」「淡墨の桜」〈「風の音」／「刺す」／「貞潔」「親しい仲」
／「天風先生座談」／「幸福」の受賞／「或る一人の女の話」／「往復書簡」／「淡墨
の桜」／「八重山の雪」／「水西書院の娘」／宇野千代さんの故郷（近藤信行）／宇野
千代全集〔東郷青児からの手紙／宇野千代への手紙〕／「青山二郎の話」／「或る日記」
／不老不死のひと（三枝佐枝子）／「生きて行く私」〈「生きて行く私」／「普段着の
『生きて行く私』」／「生きて行く私 人生相談」「折り折りの『生きて行く私』」〔ごあ
いさつ／何だか私死なないうような気がするんですよ〕／永遠の命（瀬戸内寂聴）／宇野
千代展／いま、生きて行く私）／宇野千代略年譜／主な展示資料一覧

15. 『龍之介・牧水・普羅と八ヶ岳 ―北巨摩の文学―』 1996年7月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／北巨摩の旅びとたち（近藤信行）／北巨摩地方の文学地図／前田普羅の「甲斐の山々」／蓮華とひらく八ヶ嶽（福田甲子雄）／増富温泉の文人たち―飯田蛇笏と高浜虚子―／近世の俳人たち―「蕪庵」の人々・堀内引蝶・辻嵐外―／八ヶ岳南麓の俳諧（白倉一由）／若山牧水―「木枯紀行」―／山ざくらのぼんぼり（若山旅人）／佐佐木信綱と小尾保彰／高原と詩人たち（藤原定／尾崎喜八／田中冬二）／保阪嘉内と宮沢賢治／芥川龍之介と高原夏期大学／芥川龍之介と峡北夏期大学（関口安義）／井伏鱒二と北巨摩／北巨摩紀行・山の文学者たち（大町桂月／小島烏水／平賀文男／深田久弥）／武田氏をめぐる文学（山本周五郎／新田次郎）／北巨摩地方を舞台にした文学作品／北巨摩地方の文学者たち（小尾十三／山田多賀市・相田隆太郎／伊藤生更・鈴木青処）／北巨摩地方の文芸誌―「中央線」など―／主な展示資料一覧／出品・協力者一覧

16. 『前田晁・田山花袋・窪田空穂 ―雑誌「文章世界」を軸に―』 1997年4月26日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／励んで、耐えて、大成 ―前田晁・田山花袋・窪田空穂―（紅野敏郎）／「文章世界」表紙原画／「文章世界」の表紙・口絵・挿絵について（酒井忠康）／「文章世界」の絵はがき／出版社（博文館／同時代の雑誌）／前田晁（誕生から早稲田大学時代／編集者としての第一歩）／「文章世界」の創刊／「文章世界」の展開／もしも雑誌「文章世界」が無かったら（中島国彦）／「文章世界」の寄稿者たち（国木田独歩／二葉亭四迷／島崎藤村／夏目漱石・芥川龍之介／柳田国男／田山花袋と柳田国男（相馬庸郎）／島村抱月／正宗白鳥／吉江喬松・小川未明・相馬御風／片上伸・上司小剣・近松秋江／石川啄木・幸徳秋水・土岐善麿／高村光太郎／岩野泡鳴・徳田秋声／宇野浩二・広津和郎／加能作次郎・長谷川天溪・中沢臨川／吉井勇・北原白秋／萩原朔太郎・人見東明・中野秀人）／「文章世界」を飾った画家たち（中村不折・丸山晚霞／森田恒友・斎藤与里・竹久夢二／山脇信徳・関根正二／中川一政／名取春仙）／「文章世界」の投稿者たち（山梨からの投稿者たち／室生犀星・久保田万太郎・内田百閒・三上於菟吉・谷崎精二・矢野峰人／木村毅・田中冬二・岡田三郎・吉屋信子／小島政二郎・小林多喜二・塚越亨生・水守亀之助／中村武羅夫・加藤武雄）／「文章世界」と晁／ジャーナリストとしての前田晁（来嶋靖生）／田山花袋（その初期／『笛吹川』（平岡敏夫）／自然主義時代／大正期の花袋 ―／白石実三・水野仙子／花袋の逸話―前田晁と白石実三（宇田川昭子）／大正期の花袋 二／花袋追慕）／窪田空穂（「明星」「山比古」「十月会」／小説家・空穂／『評釈伊勢物語』／「国民文学」の頃／「槻の木」の頃／昭和の空穂／空穂の昭和五年（三枝昂之）／空穂その晩年）／前田晁（晁の翻訳／前田晁訳『短篇十種キイランド集』のことなど（保昌正夫）／「世界文学」と

『少年国史物語』／児童文学者徳永寿美子／「山梨日日新聞」文芸欄選者／山人会／山人会と文学碑（川合澄男）／晁と空穂の死／晁への挽歌（武川忠一）／文学館・記念館／《資料》「文章世界の会」名簿／前田晁・田山花袋・窪田空穂 略年譜／主な展示資料一覧／出品・協力者一覧

17. 『二十一世紀への架橋 企画展 現代歌人の宴』 1997年10月4日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／「現代歌人の宴」展に思う一暗い時代からの出発（篠弘）／近藤芳美／加藤克巳／戦後と新歌人集団（加藤克巳）／中野菊夫／山本友一／宮英子／香川進／扇畑忠雄・木暮政次／小市巳世司・宮地伸一／清水房雄・本林勝夫・米田利昭／五島茂・長澤美津／齋藤史／生方たつゑ／佐藤志満／森岡貞香／水野昌雄／中野嘉一・宮崎信義／石黒清介・千代國一／窪田章一郎／岡部桂一郎・田谷鋭／玉城徹／岡野弘彦／武川忠一／塚本邦雄／岡井隆／土屋文明の掛軸のことなど（岡井隆）／前登志夫／山中智恵子・岩田正／長澤一作・藤岡武雄／橋本喜典・川島喜代詩・高嶋健一／吉田漱／青年歌人会議 メモランダム（吉田漱）／吉野昌夫／菱川善夫・来嶋靖生／島田修二／石本隆一／田井安曇・奥村晃作／高瀬一誌・石田比呂志・大滝貞一／春日井建／篠弘／安永蒨子／尾崎佐永子／春日真木子／富小路禎子・雨宮雅子／馬場あき子／「彩」一女流五人一のころ（馬場あき子）／松沢弘・北沢郁子・大塚陽子／稲葉京子・辺見じゅん／佐佐木幸綱／色紙・短冊のこと（佐佐木幸綱）／清原日出夫／石川不二子・高野公彦／玉井清弘・小中英之・平井弘／藤井常世・佐藤通雅／福島泰樹／三枝昂之／「反措定」のころ（三枝昂之）／伊藤一彦・時田則雄・濱田康敬／小高賢・道浦母都子／大島史洋・小池光・永田和宏／河野裕子／女性短歌の奥行（栗木京子）／香川ヒサ・花山多佳子・真鍋正男／今野寿美・栗木京子／森山晴美・青井史・阿木津英／大下一真・島田修三・山田富士郎／藤原龍一郎・永井陽子・松平盟子／小島ゆかり・水原紫苑・坂井修一／米川千嘉子・加藤治郎・谷岡亜紀／俵万智／〔愛造の品々〕／山梨出身・在住の歌人（北浦宏・和田保造・岡晴耕・山本寛太／保坂耕人・斎藤薫・土屋大吉・井上たか子／山本とみ江・的場信輝・小林周義・田野口清／筒井義明・小林光江・内藤成雄・吉井ときゑ／土屋八枝子・守山ふみか・関戸公子・楠百合子／大野とくよ・山村鉄夫・若宮貞次・橋田國一／小石澤克巳・上野久雄・清水賢一・望月幸朗／山口倭文子・林市江・秋元千恵子・古屋正作／大柴侑宏・川崎勝信・小野和己・三枝浩樹／秋山佐和子・山下雅人・河野小百合／〔山梨県内で発行されている歌誌〕／藤原宗勝・藤原常之・早川花子・武川精一・横山賀年子／長谷部好信・岩田よしゑ・飯島まさよ・功刀恒子・望月芳子・天野一夫・和田一蓉／横田義雄・太田敦視・中沢玉恵・松田能臣・上田みさを・遠藤節子・渡辺とし子・荒井静子・鈴木淑子・相吉貴子・沼崎悦子・沢井照江・斎藤皓一・山田吉郎）／〔主な展示資料一覧〕／〔出品・協力者一覧〕

18. 『画文交響 ―飯田蛇笏をめぐる画人たち―』 1998年4月25日 編集・発行：山

梨県立文学館

収録：開催にあたって／ひそかな感想として（飯田龍太）／飯田蛇笏と「キラ」と「雲母」／岸田劉生と草土社／日本画家 牛田＝村／岸田劉生と飯田蛇笏の周辺（酒井忠康）／珊瑚会の日本画家たちを中心に〈小川千甕／牛田＝村／小川芋銭／平福百穂／川端龍子・川端茅舎／二つの「交響」のかたち（中島国彦）〉／草土社の洋画家たちを中心に〈岸田劉生／土屋義郎／「妖気」漂う — 「白樺」・劉生・蛇笏・龍之介をめぐる—（紅野敏郎）／椿貞雄／河野貞雄／河野通勢／画文交響—美しい伝統（芳賀徹）／芥川龍之介／芥川龍之介と美術（石割透）／望月春江／長谷川朝風／山口蓬春／蛇笏の著書と装幀〉／多彩な個性〈向井潤吉／不破章／辻葦夫／のむら静六／蘇る画文の魅力（廣瀬直人）／朝井閑右衛門／石川滋彦／大場芳男／中村宗久／宅間正一／近藤浩一路／三枝茂雄〉／主な展示資料一覧／出品協力者一覧

19. 『曲軒・山本周五郎の世界 —読者の支持を賞とした作家—』 1998年10月3日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／甲州 出生の地〈明治四十年水害／本籍地 大草村／甲州を題材にした作品〉／山本周五郎商店「きねや」の時代／須磨時代〈さまざまなペンネームで書かれた習作草稿〉／山本周五郎の遺品（木村久邇典）／浦安時代／馬込文士村の時代／山本周五郎の世界（尾崎秀樹）／横浜時代／求道を貫いた作家（伊藤桂一）／名作に立ち向う勇氣（縄田一男）／周五郎と私（土屋嘉男）／周五郎の言葉（杉本章子）／あの頃（今江祥智）／たった一度の邂逅—山口瞳—／「おごそかな渴き」—周五郎終焉／山本周五郎賞／虚構の力、山本周五郎（笠原伸夫）／周五郎作品の世界〈「夏草戦記」／「樅の木は残った」／「赤ひげ診療譚」／「五瓣の椿」／「青べか物語」／「季節のない街」／「さぶ」／「虚空遍歴」「ながい坂」〉／山本周五郎略年譜／主な展示資料一覧

20. 『やまなし・女性の文学 —樋口一葉・^{イ・ヤンジ}李良枝・津島佑子・林真理子を軸に—』 1999年4月10日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／一葉の薬包紙（幸田弘子）／樋口一葉／望月百合子／三枝佐枝子／徳永寿美子／村岡花子／米澤順子／小川正子／金子文子／津島佑子／互いに眺め合う視点—「火の山—山猿記」（坂上弘）／堀内幸枝／大野とくよ／雨宮雅子／瀬津忠子・小木町圭子／やまなし・女性作家（白倉一由）／藤谷みさを・長谷川テル／小林史子／渋谷玻璃子・茂手木みさを／井上たか子／吉井ときゑ・土屋八枝子／秋元千恵子・秋山佐和子／楠百合子・遠藤節子・林市江／窪田玲女・赤堀春江／小島花枝・加藤晴子・佐藤和枝／廣瀬町子・保坂敏子／雨宮慶子・河野小百合／二人のジャーナリスト—望月百合子と三枝佐枝子（近藤信行）／李良枝／富士（辻章）／林真理子／二つの鉱脈（安西篤子）／やまなし文学賞の女性受賞者・李優蘭／主な展示資料一覧／協力者一覧・編集後記

21. 『山梨の文学 —21世紀へ—』 1999年10月3日 編集・発行：山梨県立文学館
 収録：開催にあたって（紅野敏郎）／山梨と十一人の作家（樋口一葉／中村星湖／飯田蛇笏／飯田蛇笏の独創（野山嘉正）／芥川龍之介／井伏鱒二／井伏鱒二「二つの話」のこと（近藤信行）／太宰治／中里介山／木々高太郎／山本周五郎／深沢七郎／山崎方代／方代さんの贈り物（高室陽二郎））／文学史・点描／文学の風土としての山梨（甲州俳諧の流れ／八ヶ岳南麓の俳諧（白倉一由）／徽典館の漢学者 乙骨耐軒／文芸熱の高まり／生活と自然／昭和初期の文芸諸相／戦争の時代／戦後から現代—21世紀へ／山梨の文学—21世紀へ（清水昭三）／「雲母」の時代）／山梨の文学・略年表／展示資料一覧／協力者一覧
22. 『画文交響 —明治末期から大正中期へ—』 2000年4月23日 編集・発行：山梨県立文学館
 収録：「明星」（與謝野晶子／與謝野寛／和田英作／藤島武二／青木繁／蒲原有明）／「スバル」（森鷗外／石川啄木／木下杢太郎／ルンプ／高村光太郎／吉井勇）／「三田文學」（永井荷風／森鷗外／森鷗外と木下杢太郎—《性急な交代》をめぐって—（竹盛天雄））／「方寸」（石井柏亭／山本鼎／森田恒友／小杉未醒／倉田白羊／平福百穂／織田一磨／青木繁／坂本繁二郎／浅井忠）／パンの会（木下杢太郎／石井柏亭／北原白秋／高村光太郎／知られざる伊上凡骨（酒井忠康）／木村莊八／吉井勇／ルンプ）／「屋上庭園」（北原白秋／木下杢太郎／長田秀雄／永井荷風）／木下杢太郎／北原白秋／「朱欒」／高村光太郎／高村光太郎—反逆の日々—（北川太一）／大逆事件（竹久夢二／幸徳秋水／木下杢太郎／石川啄木／與謝野寛／佐藤春夫）／「創作」（若山牧水／中川一政／高村光太郎／北原白秋）／「白樺」（武者小路実篤）／志賀直哉／有島生馬（有島武郎／ゴッホ／ムンク／ピアズレー／「白樺」の実体（紅野敏郎）／リーチ／梅原龍三郎／南薫造／児島喜久雄）／岸田劉生／美術雑誌 展覧会目録（「現代の洋画」「現代の美術」ヒュウザン会／草土社／光風会／二科会／村山槐多／安井曾太郎）／萬鐵五郎／「青鞥」「奇蹟」「假面」（高村（長沼）智恵子／小林徳三郎）／「早稲田文學」（齋藤興里）／「文章世界」（山脇信徳）／「ホトトギス」（中村不折／夏目漱石／絵を描く文人（芳賀徹）／樋口五葉／交響の音色（青木茂）／津田青楓／名取春仙）／「新市長」（自由劇場／小山内薫／芥川龍之介・小穴隆一）／「感情」（萩原朔太郎／田中恭吉／室生犀星／恩地孝四郎）／資料一覧
23. 『太宰治と壇一雄』 2000年9月30日 編集・発行：山梨県立文学館
 収録：太宰治と壇一雄 生き立ち・青春（太宰治／壇一雄／太宰と壇・作家デビュー／『晩年』を支えたもの（鳥居邦朗））／太宰治—「富嶽百景」から「グッド・バイ」—（太宰治と山梨／戦争の時代／創作の現場—草稿より／終焉・その後／太宰治と結婚（橘田茂樹）／作家と原稿用紙—太宰治の場合（安藤宏））／壇一雄—自在な文学—（大陸放浪から「リツ子」へ／直木賞 受賞／旅・家族・料理／「火宅の人」／終焉・その

後／「火宅の人」—魂の祝祭—（小島千加子）／追憶のこと、少々（伊藤桂一）／周辺の人々〈佐藤春夫／井伏鱒二／坂口安吾／田中英光／保田興重郎／中谷孝雄・平林英子／必敗の戦士—壇一雄（眞鍋呉夫）〉／太宰治・山梨ゆかりの作品／壇一雄・略年譜／展示資料一覧／出品・協力者

24. 『夏目漱石展 —木曜日を面会日と定め候—』 2001年4月28日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：木曜日を面会日と定め候／新時代の作家へ 芥川龍之介、久米正雄宛書簡／夏目家／漱石 佐幕派の文学、一葉にもふれて（平岡敏夫）／子規との交友／倫敦留学／新世紀と漱石（相原和邦）／漱石と「ホトトギス」〈「吾輩は猫である」／高浜虚子／「坊っちゃん」〉／漱石と門下生〈松根東洋城／寺田寅彦／野間真綱／野上豊一郎・野上弥生子／鈴木三重吉／小宮豊隆／熱い敬慕のなかで（高橋英夫）／森田草平・「漱石と伊藤左千夫」／野村伝四／安倍能成・阿部次郎／内田百閒／林原耕三・赤木桁平／漱石と百閒（内田道雄）／「草枕」〉／発表舞台は「新聞」〈「虞美人草」／「坑夫」／「夢中夜」／「三四郎」／「それから」／「門」／修善寺大患／「思ひ出す事など」／鷗外との交友／朝日文芸欄／「彼岸過迄」／「行人」／「硝子戸の中」／長塚節・中勘助／武者小路実篤・志賀直哉／「道草」／「明暗」／江戸っ子漱石の東京（加賀乙彦）〉／漱石と芥川〈貴重な問答—夏目漱石と松岡譲—（半島一利）／漱石追想〉／夏目漱石略年譜／主な展示資料一覧／出品・協力者

25. 『富士百景—その文学と美—』 2001年9月29日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／古典文学の中の富士〈竹取物語／伊勢物語／曾我物語／富士信仰と文学〉／文学の風土・富士北麓〈谷村と俳諧／中村星湖——「少年行」から「五湖文化」へ／虚子と「ホトトギス」の人々／民俗学者／李良枝——二つの祖国と富士／川合信水・壇一雄／鳴山草平・渥美芙峰・中大路佳郷〉／富士と近代の作家たち〈富士山憧憬——言葉のアルピニストたち [北村透谷・小島烏水／武田久吉／正岡子規／芥川龍之介／松方三郎・深田久弥／堀口大學／草野心平／太宰治／新田次郎]／裾野——湖水の輝き・鳥の声 [土屋文明・野上弥生子／徳富蘇峰／中西悟堂／金子光晴／木下杢太郎・田中冬二／谷崎潤一郎]／人間と暮らしへのまなざし [武田泰淳／武田百合子／大岡昇平／井伏鱒二／津島佑子]〉／絵画・写真〈足立源一郎／増田誠／のむら清六／萩原英雄／岡田紅陽／白籬史朗〉／まれ人の波紋—谷村と俳諧（楠元六男）／富士北麓に開花した土地っ子文人 —中村星湖・大森義憲とその周辺—（内藤成雄）／戦を歎き憤る歌（岡野弘彦）／富士山・そこに秘められたもの（近藤信行）／堀口大學の《富士》（阿毛久芳）／草野心平と富士（栗津則雄）／展示資料一覧／出品・協力者

26. 『芭蕉展 —一月日は百代の過客にして—』 2002年4月27日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／芭蕉自筆「奥の細道」／伊賀上野から江戸出府／

深川芭蕉庵／芭蕉の旅〈野ざらし紀行／一貞享末年一蛙合・鹿島紀行／笈の小文／更級紀行／奥の細道〔「奥の細道」の諸本／小野竹喬 奥の細道句抄絵〕／上方漂泊／晩年の江戸／終焉の旅／臨終・追悼／芭蕉像さまざま／近代文学と芭蕉〉／芭蕉と甲州〈上矢敲氷資料／芭蕉と素堂〉／俳諧七部集の世界〈小本『俳諧七部集』の流れ〉／今、なぜ、芭蕉か（尾形侑）／新出本『桃青三百韻 附両吟二百韻』について（雲英末雄）／芭蕉の字体（櫻井武次郎）／戯れ書きの俳諧（上野洋三）／小本七部集の値うち（永井一彰）／芭蕉略年譜／出品資料一覧／出品・協力者

27. 『足立源一郎『日本の山脈』スケッチ画と山の文学』 2002年6月18日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し

28. 『松本清張と木々高太郎』 2002年9月28日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：開催にあたって（紅野敏郎）／作家・松本清張誕生—木々が見いだした才能／木々高太郎〈文学への目覚め《青春時代》／大脳生理学者・林 麟^{はやしたかし おおころち}／大心池先生登場—探偵小説の世界へ／《同時代の探偵小説作家たち》江戸川乱歩・横溝正史・海野十三・小栗虫太郎・夢野久作／「シュピオ」創刊・直木賞受賞／「推理小説」の開拓《戦後の活動》／松本清張〈悲傷への蓄積《小倉時代》／四十一歳からのスタート／犯罪動機の追及—社会派作家の誕生／甲州との出会い／様々なジャンルへの挑戦（古代史／現代小説／歴史・現代小説／評伝的小説／現代史）／清張映画の世界／北九州市立松本清張記念館）／探偵文壇の超新星・木々高太郎（山前讓）／日本ミステリー史における木々高太郎の役割（岩崎正吾）／松本清張と近代文学（平岡敏夫）／清張さんと司馬さんと昭和史（半島一利）／仕事の鬼☆松本清張（藤井康栄）／略年譜／主な展示資料／協力者

29. 『中里介山「大菩薩峠」の世界』 2003年4月26日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：開催にあたって（紅野敏郎）／「大菩薩峠」の登場人物たち／『大菩薩峠』を読む愉しさ（竹盛天雄）／作者・介山の生い立ち～多摩川のほとりから～〈出生～教員時代／上京・都新聞社入社〉／「大菩薩峠」の誕生〈「都新聞」連載開始／「大菩薩峠」創作ノート／創作ノート『人情風俗』のこと（櫻沢一昭）〉／「大菩薩峠」の広がり〈春秋社との出会い／高尾・御嶽山麓の日々／「東京日日新聞」「大阪毎日新聞」への連載／『大菩薩峠』と活字道楽（紅野謙介）／同時代の目〉／「大菩薩峠」の画家たち／舞台とスクリーンの「大菩薩峠」／理想郷の夢〈西隣村塾の開設／勝縁荘・三界庵／未完の「大菩薩峠」／晩年・その死〉／後代の発言／略年譜／主な展示資料一覧／出品・協力者

30. 『山梨の農民文学』 2003年7月19日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し

31. 『文士の友情 芥川龍之介と菊池寛・久米正雄』 2003年9月27日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：芥川龍之介 生い立ち／菊池寛 生い立ち／久米正雄 生い立ち／第一高等学校時代〈蘆花の講演「謀叛論」〉／大学時代 I 第三次「新思潮」〈道（荒川洋治）／アイ

ルランド文学／芥川初期戯曲未定稿／「羅生門」／大学時代Ⅱ 第四次「新思潮」〈久米正雄書簡の語るもの——一九一五年秋、第四次『新思潮』創刊前夜（関口安義）〉／文壇への登場 一九一六（大正五）～一九一九（大正八）年〈トップランナーだった久米正雄（紅野敏郎）／松岡譲／戯曲／通俗小説／菊池寛——世界観芸術との争闘（日高昭二）／児童文学〉／文壇での活躍 一九二〇（大正九）～一九二四（大正十三）年〈屋根から墜ちた天使たち（石割透）／文藝春秋〉／晩年の芥川 一九二五（大正十四）～一九二七（昭和二）年〈「現代日本文学巡礼」フィルム／俳句〉／芥川の死・その後／主な展示資料一覧／略年譜／出品・協力

32. 『山崎方代—歌と書の世界—』 2004年4月29日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し

33. 『樋口一葉展Ⅰ われは女なりけるものを —作品の軌跡—』 2004年7月3日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／—「たけくらべ」の世界—／出生から少女時代〈祖父と父／出生から少女時代／萩の舎／女戸主として・本郷菊坂へ〉／作品の軌跡〈半井桃水との出会い〔闇桜／「樋口夏子」と「一葉」（高田千波）／たま襷／五月雨・別れ霜／経つくえ／一葉文学の展開と位置（橋本威）〕／「都の花」から「文学界へ」〔うもれ木／暁月夜／「文学界」／雪の日／下谷竜泉寺町〕／奇蹟の十四か月へ〔琴の音／花ごもり／本郷丸山福山町／やみ夜／大つごもり／たけくらべ／軒もる月／ゆく雲／『ゆく雲』—距離の物語として—（菅聡子）／うつせみ／にぎりえ／封じ込められた「真情」が開かれる —「にぎりえ」未定稿Cと初期の作品資料の接点—（野口碩）／十三夜〕／最後の光彩〔この子・わかれ道／裏紫（上）・そぞろごと・われから／通俗書簡文／晩年・歿後〕／略年譜／本郷区・小石川区 一葉関係地図／主な展示資料一覧／出品・協力

34. 『樋口一葉展Ⅱ 生き続ける女性作家 —一葉をめぐる人々—』 2004年10月2日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開催にあたって（紅野敏郎）／—ふしぬけ出てしがな—奈津誕生—〈甲州中萩原村／甲州人の絆／立身出世の夢—大吉・あやめの江戸出府—／姉・兄・妹—樋口家の教育—／一葉が「親類」と呼んだ周辺の人々（野口碩）〉／雲上の月は何まじはり—歌塾・萩の舎—〈歌塾・萩の舎／萩の社と一葉（菅聡子）／兄の死・父の死／甲州縁の青年たち〉／真の情を筆に—小説家への第一歩—〈半井桃水との出会い／「武蔵野」刊行／桃水との絶交と思慕／「都の花」へ／「文学界」へ〉／「塵の中」の日々—下谷竜泉寺町の生活—〈荒物・駄菓子店を生業に／“後期”一葉文学に久佐賀の影（木村真佐幸）〉／「水の上」の奇蹟—本郷丸山福山町を訪れた人々—〈「奇蹟の十四か月」へ／「文学界」の青年たちの訪問／一葉と『文学界』同人たち（山田有策）／ジャーナリズムと一葉／稽古を訪れた人々／同時代の評価／一葉文学の立役者（関礼子）／ある展墓（高井

有一) / 晩年・その死 / 姉亡き後に) / 生き続ける女性作家 / 主な展示資料一覧 / 出品・協力

目録

1. 『山梨縣立文學館所藏漢籍・國書分類目録』 1991年3月15日 編集・発行：山梨縣立文學館

収録：漢籍〈經部〔一 易類{(一) 周易} / 二 書類{(一) 尚類} / 三 詩類{(一) 毛詩} / 四 禮類{(三) 禮記} / 五 春秋類{(一) 左氏傳} / 六 孝教類 / 七 羣經總義類{(一) 羣經 / (二) 總義} / 八 四書類{(一) 大學 / (二) 中庸 / (三) 論語 / (四) 孟子 / (五) 學庸 / (七) 四書} / 一〇 小學類{(一) 訓詁 / (二) 字書 / (三) 韻書}] / 史部〔一 正史類 / 二 編年類 / 四 別史類 / 五 雜史類 / 八 傳記類{(二) 名人 / (三) 總録} / 九 史評類 / 一一 地理類{(三) 山水 / (五) 通記} / 一四 政書類{(三) 邦計} / 一六 目錄類{(一) 書目}] / 子部〔一 儒家類 / 二 兵家類 / 三 法家類 / 八 藝術類{(一) 書畫 / (二) 法帖 / (四) 篆刻} / 一〇 雜家類{(一) 雜學 / (三) 雜説} / 一二 類書類 / 一三 釋家類{(一) 經・律・論・疏 / (三) 語録・古則 / (五) 雜著} / 一四 道家類] / 集部〔一 楚辭類 / 二 別集類{(一) 漢・魏・六朝 / (二) 唐・五代 / (三) 宋 / (四) 金・元 / (五) 明 / (六) 清 / (八) 民國} / 三 總集類{(一) 斷代 / (二) 通代} / 五 詩文評類 / 七 戲曲小説類{(二) 通俗小説}] / 叢書部 / 新學部〔〇二九 藏書目録 / 一八〇 佛教 / 二八二 傳記(中國) / 九二〇 中國文學〕 / 準漢籍〈1 經部〔(八) 四書類 / (一〇) 小學類] / 3 子部〔(三) 法家類 / (一四) 道家類] / 4 集部〔(三) 總集類 / (四) 詩文評類〕 / 國書〈一 總記〔1 圖書{(一) 書誌學 / (三) 藏書目] / 4 隨叢{(一) 雜筆 / (二) 雜考}] / 三 佛教〔1 總記{(二) 史傳} / 2 經・律・論・疏 / 4 宗派{(八) 禪宗} / 7 附録{(一) 基督教}] / 四 言語〔3 音韻 / 6 辭書{(一) 字典 / (二) 辭典 / (三) 名彙}] / 五 文學〔1 國文{(五) 文集} / 2 漢文{(一) 總記 / (二) 詩文評・作詩作文 / (三) 總集 / (四) 別集 / (五) 日記 / 遊記} / 3 和歌{(三) 撰集 / (四) 家集} / 5 俳諧] / 七 歴史〔2 日本史{(一) 總記 / (二) 通史 / (三) 時代史 / (五) 史論 / (六) 傳記} / 3 外國史{(一) 東洋史}] / 八 地理〔2 日本地誌{(三) 地方誌} / 4 外國地誌{(一) 總記}] / 九 政治・法制〔2 政治{(一) 總記 / (2) 政治論} / 4 法令{(二) 公家 / (5) 雜}] / 一〇 經濟〔2 度量衡・貨幣} / 一一 教育〔2 教訓 / 4 教科書{(三) 雜}] / 一三 醫學〔漢方{(三) 本草}] / 一五 藝術〔2 書畫{(一) 總記 / (二) 繪畫 / (三) 書蹟 / (五) 印譜}] / 一六 諸藝〔7 料理] / 一七 武藝・武術〔2 兵法〕 / 檢字拊書名索引 / 檢字拊人名索引

2. 『青山毅現代文学コレクション目録』 1996年2月12日 編集・発行：山梨縣立文學

館

収録：高見順〈関連図書／研究書／図録／雑誌／その他／高見順賞〉／吉行淳之介〈雑書／研究書／雑誌／その他／吉行エイスケ・あぐり・和子／吉行理恵〉／島尾敏雄〈雑書／研究書／雑誌／新聞／島尾ミホ〉／平野謙〈関連図書／参考文献〉／谷沢永一〈研究書〉／その他

3. 『山崎方代旧蔵資料目録』 1996年8月19日 編集：山梨県立文学館 発行：中道町／山梨県立文学館

収録：1 図書／2 逐次刊行物／3 特殊資料〈原稿／書画／著作／印刷／周辺／視聴／書簡／その他〉

紀要

1. 『資料と研究』

- 1-1. 『資料と研究』 第1輯 1996年3月15日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：明治期紀行文の文学表現 —小島烏水の昇仙峡紀行を中心に— (中島国彦) / 芥川龍之介と児童文学 (関口安義) / 三代伝はつての出来そこね —八左衛門・則義・一葉— (山田有策) / 透谷伝の謎・谷村長安寺の墓 (平岡敏夫) / 斎藤茂吉の滞欧随筆について (中村稔) / 表記と推敲 —「国民俳壇」より『山廬集』へ— (廣瀬直人) / 元禄・享保期甲州俳諧資料の示唆するところ (楠元六男) / 「文體」の検討 —宇野千代・井伏鱒二・太宰治・坂口安吾・三好達治ら— (紅野敏郎) / 芥川龍之介「義仲論」のテキストについて (雨宮弘志 保坂雅子) / 中村星湖宛 相馬御風書簡 (雨宮弘志 堀内万寿夫 保坂雅子 高室有子) / 中村星湖作成スクラップ①～③ 附「『瓦屋』夫婦」(京城日報)「長岡温泉にて」(山梨日日新聞)「或村の出来事」(小樽新聞付録・趣味と娯楽) (内藤利允 中込照子 山形敏貴 市川直子) / 津嘉山一穂未完詩集草稿 翻刻と解題 (一瀬茂) / 回木家所蔵調和前句付資料 (高室有子) / 「キラ、」創刊と飯田蛇笏 (井上康明) / 井伏鱒二の方法 —「中島の柿の木」と「旧・笛吹川の趾地」をめぐって— 附「中島の柿の木」の本文校異 (神津幸穂) / 飯田龍太俳句私見 —「雲の峰」の句を中心に— (齊藤幸三)

- 1-2. 『資料と研究』 第2輯 1997年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：阿房列車の笑い (内田道雄) / 板垣鷹穂と小林多喜二 —一通の書簡をめぐって— (小笠原克) / 貞操の市場 —菊池寛『真珠夫人』ノート (日高昭二) / 緑雨は一葉をどう読んだか —「われから」—をめぐって (十川信介) / 与謝野晶子の「源氏物語礼讃」歌 (竹西寛子) / 尾崎喜八と田中冬二 (三浦仁) / 「少年行」原稿写真版 / 原稿「少年行」解題 (中丸宣明) / 「若草」と井伏鱒二 (紅野敏郎) / 芥川道章・鈴木三重吉・久米正雄 他宛 芥川龍之介書簡 / 吉田弥生宛 芥川龍之介書簡下書き (齊藤幸三 遠藤秀紀) / 中村星湖作成スクラップブック④～⑤ (内藤利信 中込照

子 望月洋子 市川直子) / 前田晁宛 上司小剣書簡 (雨宮弘志) / 前田晁宛 村岡花子書簡 (保坂雅子) / 小尾孝平宛 野尻抱影書簡 (堀内万寿夫) / 山崎方代 歌集『方代』関連草稿 翻刻と解題 (一瀬茂) / 回木家所蔵調和前句付資料 (2) (高室有子) / 深沢七郎「楢山節考」原稿について (井上康明)

1-3. 『資料と研究』 第3輯 1998年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

棕櫚句：樋口一葉小特集〈物語の錠び・出来事の生成 — 『ゆく雲』をめぐって (関礼子) / 『経づくえ』論のために (橋本威) / 生き急いだ一葉 一生と死のはざままで — (木村真佐幸) / 「樋口一葉と甲州」補遺 (荻原留則) / 和田芳恵の樋口一葉 (保昌正夫) / 芥川龍之介〈草稿の秘める謎二、三 (海老井英次) / 「十ノ二十松屋製」の表と裏—芥川龍之介の一枚の原稿 (石割透) / 芥川龍之介手帳写真版 (手帳一、手帳十、手帳新) / 雑誌探究 (1929年) — 「クロネコ」「映画・文芸」「丸ノ内」「FANTASIA」をめぐって— (紅野敏郎) / 乙骨耐軒文書 (漢詩草稿・海防掛大小目付答申案草稿) 一附・乙骨耐軒碑銘草稿 (吉田英也 清水琢道 遠藤秀紀) / 池辺三山・「山梨日日新聞」掲載「新聞記者の地位」 (斎藤幸三) / 中村星湖作成スクラップブック⑥~⑧ (篠原昭治 中込照子 望月洋子 河西美佐子) / 前田晁自筆書簡 一 田山花袋・島崎藤村・高浜虚子他一 (保坂雅子) / 小尾孝平宛 野尻抱影書簡 (2) (堀内万寿夫) / 山崎方代「一枚の皿」草稿 (一瀬茂) / 回木家所蔵調和前句付資料 (3) (高室有子) / 1916 (大正5)年の「キラ、」と飯田蛇笏 (井上康明)

1-4. 『資料と研究』 第4輯 1999年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：中里介山特集〈切断と転移をめぐる物語 — 『大菩薩峠』における音曲の思想 (紅野謙介) / 日本と世界をつなぐ大衆文学者 — 中里介山における事実と想像— (中島誠) / 修羅人生の旅 — 中里介山の世界 (尾崎秀樹) / 「隣人之友」大菩薩峠号 (再録) — 中里介山・神田豊穂・堺利彦・宮島新三郎・加藤一夫ら— / 中里介山の大菩薩峠 (近藤信行) / 芥川龍之介の詩歌—未定稿の詩を中心に— (阿毛久芳) / 日本におけるアナスタシア伝説 (武藤泰史) / 雑誌探究 (1927年) 「演劇芸術」—寺下辰夫・西条八十・岩田豊雄・堀口大学・今日出海・豊田四郎ら— 「バリケード」—萩原恭次郎・草野心平・土方定一・坂本遼・小野十三郎・伊藤整ら— 「農民」—吉江喬松・中村星湖・椎名其二・加藤武雄・相田隆太郎・犬田卯・石原文雄ら— (紅野敏郎) / 井伏鱒二「頓生菩提」原稿 — 「頓生菩提」「冷凍人間」の校異について (折居篤 河守和子) / 山本周五郎初期習作「染血櫻田門外」草稿 (堀内万寿夫) / 中村星湖作成スクラップブック⑨~⑩ (飯野正仁 中込照子 望月洋子) / 前田晁宛 水野葉舟書簡 (雨宮弘志) / 「田中冬二 自筆詩・句集」目次と俳句部分の翻刻 (一瀬茂) / 乙骨耐軒文書 (海防掛答申案草稿「生牛懇望一件」・初期漢詩草稿「維新亭齋詩」初稿より甲申二十八首) (吉田英也 遠藤秀紀) / 回木家所蔵調和前句付資料 (4) (高室有子) / 小川千甕宛 飯田蛇笏書簡・飯田蛇笏宛 小川千甕書簡 (保坂雅子) / 飯

田蛇笏宛書簡 一島村元・吉野左衛門・高浜年尾・勝峰普風・野口二郎— (井上康明)
／編集後記

1-5. 『資料と研究』 第5輯 2000年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：深沢七郎特集〈「楢山節考」論 一半近代主義と民話的迫真性— (相馬庸郎) /
「楢山節考」を読む 一作品とその批評— (曾根博義) / 『笛吹川』は渉れるのか 一
その思想を生かした小説技法を中心に— (松本鶴雄) / 『楢山節考』考 (亀井秀雄)
／「深沢七郎と石和鷹」 一小説的《祈り》(栗坪良樹) / 雑誌探究(1930年) 「漫
談」—古川翠波・徳川夢声・大辻司郎・長谷川伸・直記三十五・安成二郎・稲垣足穂・
酒井真人ら— 「モダン日本」—菊池寛・井伏鱒二・牧野信一・竹中郁ら— 「新早
稲田文学」—梅田寛・中島直人・浦上后三郎・渡平民・河合勇ら— (紅野敏郎) / 乙
骨耐軒とその子孫 (永井菊枝) / 乙骨耐軒「仙嶽新道銘」札記 (成瀬哲生) / 乙骨耐
軒文書 (海防掛蝦夷地経営関係答申案草稿・漢詩草稿) (吉田英也 遠藤秀紀) / 「田
中冬二 自筆詩句集」詩の翻刻 (一瀬茂) / 山田多賀市『耕土』についての一考察 (堀
内万寿夫) / 中村星湖作成スクラップブック⑩ (飯野正仁 中込照子 望月洋子 飯
沼典子) / 中村星湖宛書簡 一田山花袋・鈴木三重吉・正宗白鳥・西條八十一 (中野
和子) / 雨宮庸蔵宛書簡 一窪川いね子・長谷川海太郎・村松梢風・藤澤恒夫・室生
犀星・上司小剣・森田たま・野上弥生子— (折居篤) / 飯田蛇笏書簡 一渡辺水巴・
島田青峰・水原秋櫻子・土岐善麿・杉村楚人冠— (井上康明) / 回木家所蔵調和前句
付資料(5) (高室有子) / 編集後記 / 山梨県立文学館所蔵「芥川龍之介旧蔵洋書」目
録 (飯野正仁)

1-6. 『資料と研究』 第6輯 2001年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：飯田蛇笏特集〈自立する蛇笏 (山下一海) / 新しいぞ、蛇笏は (坪内稔典) /
蛇笏讚 (有馬朗人) / 蛇笏の俳句論 (平井照敏) / 単純と余韻——蛇笏俳句の柱とし
て—— (廣瀬直人) / 山廬集の成立へ——「ホトトギス」明治三十八年から大正六年
までの飯田蛇笏の俳句—— (井上康明) / 「ホトトギス」における蛇笏関連記事——
大正三年から六年まで—— (高室有子) / 乙骨耐軒文書 (海防掛答申案草稿) (吉田
英也) / 乙骨耐軒「仙嶽關路図跋」札記 (成瀬哲生) / 雑誌探究(1934年) 季刊「苑」
三冊の検討 ——百田宗治・西脇順三郎・堀口大学・安西冬衛・春山行夫・竹中郁・
丸山薫・三好達治・中原中也・城左門・青柳瑞穂・室生犀星・萩原朔太郎・左川ちか・
津村信夫・北川冬彦・伊藤整・三岸好太郎・福沢一郎・藤田嗣治ら—— (紅野敏郎)
／山梨の初期アララギ系歌人・神奈桃村日記(一) (一瀬茂・中野和子) / 久米正雄・
芥川龍之介宛 松岡讓 書簡 久米正雄・新思潮同人・松岡讓宛 成瀬正一書簡 (保
坂雅子) / 中村星湖スクラップブック⑪ (飯野正仁 中込照子 三澤麻須美 飯沼典
子) / 山本周五郎初期習作未定稿「酔漢と細君」他五編 (堀内万寿夫) / 檀参郎宛 檀
一雄書簡 (折居篤) / 井伏鱒二原稿「本日休診」の校異について (溝口克己 古守泰

子) / 編集後記

1-7. 『資料と研究』 第7輯 2002年1月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：井伏鱒二特集〈井伏鱒二書簡集という夢（東郷克美）／井伏鱒二と重松静馬—『黒い雨』成立の経緯—（相馬正一）／徴用をはさんでの甲州—傍証・井伏鱒二—（桶田佑）／井伏鱒二「甲斐の黒駒」未定稿（保坂光夫）／井伏鱒二原稿「本日休診」の校異について（2）（古守泰子 高山洋子）／野田本と野田書房の小冊子「手帖」の特質——野田誠三・永井荷風・日夏耿之介・小林秀雄・佐藤春夫・山内義雄・成瀬正勝・瀧井孝作・堀辰雄・芥川龍之介・井伏鱒二・河上徹太郎・飯田蛇笏・中野重治ら——（紅野敏郎）／鈴木三重吉の綴方観と山梨の子どもたち（溝口克己）／松岡譲旧蔵「九日会記録」手帳（1）総覧（保坂雅子）／草野心平 岡崎清一郎宛書簡（折居篤）／中村星湖作成スクラップブック⑬⑭（邊見清志 日向俊子 三澤麻須美 飯沼典子）／山本周五郎初期未定稿（詩・現代小説）（堀内万寿夫）／回木家所蔵調和前句付資料（6）（高室有子）／編集後記／海野梅堂「親朋字号」雅号索引（初稿）（成瀬哲生）

1-8. 『資料と研究』 第8輯 2003年2月15日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：壇一雄特集〈壇一雄と日本浪漫派（桶谷秀昭）／日月燦燦——壇一雄と保田興重郎覚書——（谷崎昭男）／檀さんと『ポリタイア』（沖山明德）／「最後の文士」という自負——「火宅の人」小休止の頃の壇一雄（小島千加子）／「壇一雄との日々」（談話）（檀ヨソ子）／孤独な生への視座——「火宅の人」原稿および本文の成立について（折居篤）／壇一雄宛書簡——保田興重郎・小高根二郎・五味康祐・庄野潤三・尾崎一雄・平林英子・邱永漢・芳賀檀・吉田健一・劉寒吉・後藤明生・武田泰淳——（中野和子）／雑誌探索（1）昭和初期の「若草」の一駒——竹久夢二・片岡鉄兵・南部修太郎・岡本潤・小野十三郎・伊藤整・黒島伝治・宮地嘉六・草野心平・川崎長太郎ら——（2）「異象」細目——舟木重信・宇野喜代之介・関口次郎・伊藤武雄・藤森秀夫・山脇信徳——（紅野敏郎）／樋口則義の前半生（清水琢道）／乙骨耐軒の詩と「甲陽御嶽新道之図」——昇仙峽最古図考——（成瀬哲生）／長谷川巳之吉 田中冬二宛書簡（古守泰子）／山崎方代の草稿をめぐって（溝口克己・高山洋子）／海音寺潮五郎と鳴山草平——鳴山草平寄託資料を中心に——（堀内万寿夫）／『定本 百戸の谿』——「雲母」昭和十六年から二十八年までの飯田龍太の俳句（邊見清志 日向俊子 飯沼典子）／松岡譲旧蔵「九日会記録」手帳（2）総覧（保坂雅子）／『葛里句集』翻刻（高室有子）／乙骨耐軒文書目録（1）（三澤麻須美）／編集後記

1-9. 『資料と研究』 第9輯 2004年3月15日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：山崎方代特集〈山崎方代における故郷の意味（笠原伸夫）／方代の享受——唐木順三の一遍論——（坂出裕子）／方代短歌の文体考——その展開について——（大下一

真) / 私の山崎方代 —その歌の文末表現について— (来嶋靖生) / 短歌史の中の方代 (三枝昂之) / 山崎方代「鼻」関連草稿他短歌草稿 (高山洋子 小林洋子) / 雑誌探索 「山比古」の検討 (上) —窪田空穂・水野葉舟・島崎藤村・国木田独歩・柳田国男・太田水穂・中沢臨川・秋元洒汀・蒲原有明・平塚紫袖・岡野知十・小山内薫・川田順・河井醉茗・小島鳥水・吉江孤雁・矢ヶ崎奇峰・三津木春影・田山花袋ら— (紅野敏郎) / 「二十一才夏 吉行淳之介」大学ノート 写真版 (中野和子) / 木々高太郎宛書簡—海野十三・江戸川乱歩・松本清張— (堀内万寿夫 藤本嘉一) / 井伏鱒二 「若彦路」未定稿二首 (保坂光夫) / 長谷川巳之吉 田中冬二宛書簡 (二) (古守泰子) / 「豹 LÈOPARD」堂目次 (邊見清志 日向俊子 山本香菜子) / 上矢敲氷「鶉日記」翻刻 (高室有子) / 乙骨耐軒文書目録 (二) (三澤麻須美) / 山梨県立文学館所蔵 「芥川龍之介旧蔵和漢書」目録 (保坂雅子) / 編集後記

- 1-10. 『資料と研究』 第10輯 2005年3月10日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：太宰治特集〈太宰治の青春像 —二律背反の《生》— (相馬正一) / 『新釈諸国噺』論 (安藤宏) / 太宰治と歴史小説 (小泉浩一郎) / 小林秀雄「三つの放送」と太宰治「新郎」、そしてトシオ・モリ (細谷博) / 太宰治「ヴィヨンの妻」原稿について (井上康明) / 太宰治「ヴィヨンの妻」原稿 (写真版) / 雑誌探索 「山比古」の検討 (下) —国木田独歩・窪田空穂・太田水穂・吉江孤雁・中沢臨川・水野葉舟・秋元洒汀・蒲原有明・平塚紫袖・三津木春影・田山花袋・国府犀東・坪谷水哉・江見水蔭・大島宝水・川崎杜外・神谷鶴伴・山本露滴・原抱一庵・幸田露伴・大塚甲山ら— (紅野敏郎) / 「八木義徳を語る」(談話) (八木正子) / 乙骨耐軒宛書簡 (清水琢道) / 乙骨耐軒文書 書簡目録 (一) (一瀬正司) / 「チチノキ」総目次 (日向俊子 込山たまき 山本香菜子) / 木々高太郎宛書簡 —水谷準・夢野久作・岩田豊雄・小栗虫太郎・甲賀三郎・福士幸次郎・大下宇陀児— (堀内万寿夫 藤本嘉一) / 山梨の初期アララギ系歌人・神奈桃村日記 (二) (小林洋子 高山洋子) / 相馬御風 前田晁宛書簡 (古守やす子) / 河野一作句帖「塵塚」翻刻 (高室有子) / 第一輯～第九輯総目次 / 編集後記

研究誌

1. 『芥川龍之介資料集 普及版 「羅生門」』 1996年5月1日 編集・発行：山梨県立文学館
収録：《羅生門》関連ノート / 《交野の平六》草稿 / 《交野の五郎》草稿・《羅生門》草稿 / 解説 / 「帝国文学」に掲載された「羅生門」 / 「帝国文学」・『羅生門』・『鼻』に掲載された「羅生門」の老婆の話の部分 / 「帝国文学」・『羅生門』・『鼻』に掲載された「羅生門」の末尾 / 芥川龍之介について

記録集

1. 『山梨の文学』

1-1. 『山梨の文学』 1985年3月31日 編集・発行：山梨県教育委員会

収録：まえがき／樋口一葉の文学（白倉一由）／俳句と山梨の風土（福田甲子雄）／山梨と近代短歌（野山嘉正）／うた人は、おのが哀しきボンネの中に住みてこそ（加賀美子麓）／山梨と近代文学（関口安義）

1-2. 『山梨の文学』 1986年3月31日 編集・発行：山梨県教育委員会

収録：まえがき／山梨と太宰治（上野久雄）／飯田蛇笏の世界（小林富司夫）／山崎方代の文学（坂本徳一）／山梨の風土と短歌（守山ふみか）／芭蕉成立時における素堂と芭蕉（清水茂夫）／郡内と文学（内藤成雄）

1-3. 『山梨の文学』 1987年3月31日 編集・発行：山梨県教育委員会

収録：まえがき（渡邊弘）／太宰治と天下茶屋（外川政雄）／児童文学あれこれ（横田幸葉）／芭蕉は俳諧の展開と郡内流寓（松本武秀）／峡南地方の文学（赤堀五百里）

1-4. 『山梨の文学』 1988年3月31日 編集・発行：山梨県教育委員会／県立文学館準備室

収録：日原無限と岡千里（今西幹一）／小川正子と『小島の春』（清水威）／韓国の土になった甲州人 — 浅川巧のことなど —（山村正光）／甲斐の古俳人（池原鍊昌）／江戸の俳諧と甲州方言（小林是綱）／調査研究〈宮沢賢治・保阪嘉内年譜（保阪庸夫）／御坂峠の碑のこと（小林富司夫）

1-5. 『山梨の文学』 1989年3月31日 編集・発行：山梨県教育委員会／県立文学館準備室

収録：文学シンポジウム〈山梨と文学——その風土を探る——（辻邦生 近藤信行 井尻千男 小林富司夫）／山梨の詩と風土（杉田巖）／私の歴史小説（牧宏）／現代短歌のゆくえ（清水賢一）

1-6. 『山梨の文学』 1990年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：シンポジウム〈蛇笏と龍之介（大岡信 飯田龍太 三好行雄）／講演会〈女性と文学（津島佑子）／なまよみの甲斐の文学講座〈短歌に歌われた甲斐の魅力（三枝浩樹）／漱石文学入門（加藤豊子）／山梨の伝説と能・狂言 — 能「鶺鴒」・狂言「蟹山伏」 —（橋本朝生）

1-7. 『山梨の文学』 1991年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：講演会〈漱石の書簡（紅野敏郎）／樋口一葉と与謝野晶子（竹西寛子）／なまよみの甲斐の文学講座〈近代文学と国語辞典（松井栄一）／山本周五郎の文学風土 — 『柳橋物語』を視座に —（川島秀一）／小説より奇なり（三神弘）

1-8. 『山梨の文学』 1992年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：講演会〈江戸時代の旅と文学（森川昭）／山の文学（近藤信行）／芥川龍之介

と現代（小川国夫）／シンポジウム〈作品の創造——『羅生門』『秋』『或阿呆の一生』などをめぐって——（石割透 海老井英次 後藤明生 関口安義）／なまよみの甲斐の文学講座〈山梨の農村歌舞伎とその舞台（水木亮）／江戸と甲州街道（楠元六男）／若山牧水と山梨（山田吉郎）〉

1-9. 『山梨の文学』 1993年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：講演会〈与謝野晶子と古典文学（久保田淳）／飯田蛇笏について（飯田龍太）／俳句と私（高井有一）／飯田蛇笏の史的意義（紅野敏郎）／鼎談〈飯田蛇笏の魅力（黒井千次 渋沢孝輔 本林勝夫）〉／なまよみの甲斐の文学講座〈黒川金山と伝説（清雲俊元）／吉原の文学（和田博通）／異人さんたちの南アルプス（山村正充）／資料〈外国人たちの日本国内旅行・登山年表〉

1-10. 『山梨の文学』 1994年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：講演会〈私の文学と人生（津村節子）〉／シンポジウム〈芥川龍之介資料集を読む—草稿と完成作品—（小島信夫 海老井英次 石割透 野山嘉正）〉／なまよみの甲斐の文学講座〈金子光晴の詩集『蛾』を読む—《富士》に関連して—（阿毛久芳）／伝承文学と歴史のはざま（佐藤眞佐美）／柳沢家の学芸と荻生徂徠（松本武秀）

1-11. 『山梨の文学』 1995年3月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：座談会〈方代短歌の美（岡部桂一郎 木村久邇典 玉城徹 紅野敏郎）〉／講演会〈星湖文学の魅力（紅野敏郎）〉／なまよみの甲斐の文学講座〈山村文化の可能性—いま上九一色村がおもしろい—（岩崎正吾）／なぜ方言を研究するか—早川方言をふまえて—（松本泰丈）／短歌をよみ続けて—歌人許山茂隆・斎藤薫氏の出身地で—（土屋八枝子）

1-12. 『山梨の文学』 1996年3月30日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈流^{りゅうぐう}寓俳人の系譜—石牙・嵐外・井月・志雪について—（清水昭三）／伝説の成長—雛鶴姫の伝承を例に—（堀内真）／八ヶ岳南麓の文化と文学—特に大泉を中心に—（清水琢道）

1-13. 『山梨の文学』 1997年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈「谷崎潤一郎『細雪』について」（千葉俊二）／「甲西町の俳諧について」（池原日祈）／「小説家という^{メテエ}《職》—深沢七郎・山本周五郎—」（福岡哲司）／シンポジウム〈「甲州の風土と文学」（白倉一由 三神弘 水木亮）

1-14. 『山梨の文学』 1998年3月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈北村透谷と現代—蒙軒^{もうけん}学舎に触れつ—（野山嘉正）／反骨文学^{たど}を辿る—深沢七郎・熊王徳平・山田多賀市・古屋五郎—（不二牧駿）／俳句の第一歩（河野友人）

1-15. 『山梨の文学』 1999年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈山梨の文学 一蛇笏・方代・一葉—（川手千興）／柳田国男と道志村（杉本仁）／甲斐武田氏の興亡 一中部地方最大の戦国大名は何故滅んだのか—（平山優）〉

1-16. 『山梨の文学』 2000年3月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈「白磁の人」浅川巧を辿る（江宮隆之）／上の中国文化史（成瀬哲生）／山崎方代と右左口（今西幹一）〉

1-17. 『山梨の文学』 2001年3月10日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：なまよみの甲斐の文学講座〈ネイチャーライティング 一文学の新たな可能性— 四尾連湖の詩人野沢一を読む（大神田丈二）／マザー・グースと甲斐わらべうた（沢登君恵）／甲府の芝居と江戸役者（神田由築）〉

1-18. 『山梨の文学』 2002年3月12日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：富士北麓と文人た 一中村星湖と大森義憲とその周辺—（内藤成雄）／堀口大学の（富士）、金子光晴の（富士） 一（富士百景）をめぐって—（阿毛久芳）／富士山と文学（近藤信行）

1-19. 『山梨の文学』 2003年3月10日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：企画展開会記念文学講演会〈芭蕉遠望（廣瀬直人）／昭和と共生した清張（森村誠一）〉／なまよみの甲斐の文学講座〈文学における老いの問題 一窪田空穂を中心に—（三枝浩樹）／文字の文学と声の文学 一朗読から学んだこと—（河野司）／「大菩薩峠」の原郷 一小菅・奥多摩—（櫻沢一昭）〉

1-20. 『山梨の文学』 2004年3月23日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：宮澤賢治の不思議（保阪庸夫）／飯田蛇笏の雲と風（福田甲子雄）／『耕土』の丘——山田多賀市の生涯（備仲臣道）

1-21. 『山梨の文学』 2005年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：開館十五周年記念企画展「樋口一葉 I」〈シンポジウム「女」にとって文学とは何か 一樋口一葉をめぐって—（中沢けい 岩橋邦枝 津島佑子 今野寿美 茅野裕城子）〉／なまよみの甲斐の文学講座〈父・小林富司夫のこと（小林聡一郎）／郷土の文人小林富司夫氏について（野山嘉正）／富士となるさわ（内藤成雄）／前田普羅の「甲斐の山々」（紅野敏郎）〉

作品

1. 『山崎方代のうた』 2000年11月30日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し
2. 『飯田蛇笏の俳句』 2002年3月15日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し
3. 『樋口一葉』 2004年3月31日 編集・発行：山梨県立文学館 目次無し

複製

1. 『芥川竜之介資料集』

- 1-1. 『芥川竜之介資料集 函版 1』 1993年11月3日 編集・発行：山梨県立文学館
- 1-2. 『芥川竜之介資料集 函版 2』 1993年11月3日 編集・発行：山梨県立文学館
- 1-3. 『芥川竜之介資料集 解説』 1993年11月3日 編集・発行：山梨県立文学館

館報

1. 『山梨県立文学館館報』

1-1. 『山梨県立文学館館報』 第1号 1989年11月3日

収録：文学館の課題（三好行雄）／文学館活動の拠点（望月幸明）／沿革／シンボルマークについて／開館によせて（芥川瑠璃子）／慶祝（小田切進）／山梨のこと（井伏鱒二）／山の緑（近藤信行）／私の飯田蛇笏（福田甲子雄）／漱石書簡について（紅野敏郎）／館蔵資料紹介／古書市場からみた近代文学資料（岩森亀一）／資料寄贈者紹介・施設館内／開館記念展の概要・開館記念行事案内

1-2. 『山梨県立文学館館報』 第2号 1990年3月20日

収録：「山梨の文学」展開催／山梨のこと（三浦哲郎）／ナマヨミノ（玉城徹）／かなわぬ思い（三枝佐枝子）／幡谷東吾文庫のこと（小林富司夫）／館蔵資料紹介・資料寄贈者／資料翻刻／館蔵資料を検索するには／開館記念行事の報告／館の日誌・館からのご案内

1-3. 『山梨県立文学館館報』 第3号 1990年7月20日

収録：「書簡の文学」展開催／「樋口一葉の世界」展近づく／三好行雄館長追悼（望月幸明 飯田龍太 小田切進 紅野敏郎 野山嘉正 広瀬直瀬）／三好行雄館長略歴／資料翻刻／「書簡の文学」展報告／館蔵資料紹介・資料寄贈者／館の日誌・館からの御案内

1-4. 『山梨県立文学館館報』 第4号 1990年11月20日

収録：「樋口一葉の世界」展開催／開館一周年を迎えて／市古貞次氏文化勲章受章／甲州と私（八木義徳）／故郷何独在東京（小出昭一郎）／好日好酒（曾根崎保太郎）／展示室観覧者のアンケート集計／館蔵資料紹介・資料寄贈者／資料翻刻／館の日誌・館からの御案内

1-5. 『山梨県立文学館館報』 第5号 1991年3月20日

収録：新館長に紅野敏郎氏／朗読鑑賞会開催・「旅の文学」展近づく／就任にあたって（紅野敏郎）／わが血脈のなかの甲斐の国（辻邦生）／行き交いの文学（大浦猛）／甲斐国との出会い（坂本徳一）／「旅の文学」展紹介／『山梨県立文学館所蔵漢籍・国書分類目録』刊行・資料寄贈者／資料翻刻／館の日誌・館からの御案内

1-6. 『山梨県立文学館館報』 第6号 1991年7月20日

収録：星湖の魅力—『少年行』その他—（竹盛天雄）／第一詩集を出したころ（一瀬稔）／「甲斐がね百首」のこと（三枝昂之）／樋口一葉の未定稿（野山嘉正）／寄託資料紹介〈樋口一葉関連資料／映画・テレビドラマ脚本／小尾十三関連資料〉／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈芥川龍之介編集回覧雑誌「曙光」第四号〉／館の日記／館からの御案内

1-7. 『山梨県立文学館館報』 第7号 1991年11月20日

収録：戦争の中の一歌人のこと（近藤芳美）／俳文学会のことなど（両角倉一）／「ものの果てなる」（保坂敏子）／「たけくらべ」再掲本文原稿とその背景（野口碩）／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈芥川龍之介編集回覧雑誌「曙光」第四号〉／館の日記／館からの御案内

1-8. 『山梨県立文学館館報』 第8号 1992年3月20日

収録：《パンドラの匣》さながらに 一生誕百年記念芥川龍之介展・一見記—（海老井英次）／文学つれづれ（熊王徳平）／二通の書簡（岡晴耕）／生誕百年記念芥川龍之介展報告／中村公紀氏寄託中村鬼十郎資料／資料寄贈者／資料翻刻〈芥川龍之介『不思議』『ウエールカーム』『昆虫採集記』等、長塚節 三井甲之宛書簡〉／館の日記／館からの御案内

1-9. 『山梨県立文学館館報』 第9号 1992年7月20日

収録：一つのかたまり（加藤楸邨）／山梨生まれで得した話（今川徳三）／八ヶ岳南麓の春（河野小百合）／やまなし文学賞 募集／やまなし文学賞 選考委員／飯田蛇笏展 没後三十年 紹介／ひととき（有泉七種）／横向きの肖像（丸山哲朗）／与謝野晶子と「明星」展 報告／新観覧料・使用料／資料翻刻〈小尾十三「しつけ糸」／芥川龍之介「昆虫採集論二」「大海賊」他〉

1-10. 『山梨県立文学館館報』 第10号 1992年9月20日

収録：禁断の蛇笏（山下一海）／差出・わが風景（牧宏）／日下部駅（山本育夫）／研究ノート〈かな書きへの志向（廣瀬直人）〉／館蔵資料紹介〈樋口一葉資料報告〉／閲覧室より〈新聞切抜ファイル〉／寄贈図書紹介〈森鷗外関係図書〉／資料寄贈者／資料翻刻〈石原文雄『田舎名物其の一』／芥川龍之介『新コロンプス』〉／館の日記／館からの御案内

1-11. 『山梨県立文学館館報』 第11号 1993年1月1日

収録：甲斐の山々（桂信子）／生き残り・考（柳澤八十一）／末子の話（三枝浩樹）／展示室観覧者のアンケート／山梨県内の文芸同人誌／資料寄贈者／資料翻刻〈山崎方代『空樽の氷』／小尾十三『からすの親子』〉／館の日記／館からの御案内

1-12. 『山梨県立文学館館報』 第12号 1993年3月20日

収録：“女”の表現（中山和子）／山梨と松村英一（斎藤薫）／私の桃源郷（古屋久昭）／やまなし文学賞をふりかえって／「現代の女性作家」展／新収蔵展 樋口一葉

と「家」／資料寄贈者／資料翻刻〈山崎方代「暗い梯子が垂れている」／小尾十三「からすの親子」／河井醉茗 飯田蛇笏宛書簡 明治40・4・24〉／館の日誌／館からの御案内

1-13. 『山梨県立文学館館報』 第13号 1993年6月20日

収録：女流文学者の気魂（中島和夫）／月に一度の歌の旅（和田保造）／夏雲群るるころ（成島俊司）／「現代の女流作家」展について／「現代の女流作家展」を観て（大原富枝）／絢爛豪華なる女性作家展（村松定孝）／第二回やまなし文学賞募集／寄贈資料より／資料寄贈者一覧／資料翻刻〈山崎方代「寒中侘助」草稿／小尾十三「からすの親子」／高浜虚子 飯田蛇笏宛書簡 大正十三年七月十四日付／館の日誌／館からの御案内

1-14. 『山梨県立文学館館報』 第14号 1993年9月20日

収録：井伏先生と山梨（小林富司夫）／旧作の舞台（河野友人）／イメージの原郷（いいたかずひこ）／『芥川龍之介資料集』について／研究ノート《〈武士道〉と芥川龍之介（石割透）／五味家と諸俳人（楠元六男）》／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈山崎方代「正月の歌」三十四首草稿／小尾十三「青き大麦畠にて」〉／館の日誌／館からの御案内

1-15. 『山梨県立文学館館報』 第15号 1993年12月20日

収録：田中冬二に寄せて（堀内幸枝）／空穂の一首（清水賢一）／至福の刻（不二牧駿）／討論会「現代の文学—山梨の小説を中心に」を開催／資料寄贈者／資料翻刻〈山崎方代「めし」二十首草稿／小尾十三「青き大麦畠にて」〉／館の日誌／館からの御案内

1-16. 『山梨県立文学館館報』 第16号 1994年3月20日

収録：方代短歌の位置づけ（篠弘）／日暮れ鳥（原田重三）／父祖の地（笠井忠文）／第二回やまなし文学賞を振り返って／「山崎方代展」開催／抱影先生と私（中込純次）／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈「山崎方代歌集」九十八首草稿／野尻抱影 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-17. 『山梨県立文学館館報』 第17号 1994年6月20日

収録：『われよりほかに』頌（千葉俊一）／幻の三重塔（井上たか子）／幻の馬（水木亮）／新資料紹介／平成六年度上半期事業／第三回やまなし文学賞募集／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈坪内逍遙 中村星湖宛書簡／島崎藤村 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-18. 『山梨県立文学館館報』 第18号 1994年9月20日

収録：わが家の芥川龍之介（尾形侑）／「失われた地平線」（山寺仁太郎）／月の光幻想（江尻ゆり子）／調査報告／中村星湖と川合仁（川合澄男）／平成六年度下半期事業／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈相馬御風 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／

館からの御案内

1-19. 『山梨県立文学館館報』 第19号 1995年1月1日

収録：井伏鱒二のことなど（飯田龍太）／山梨の歴史と文学のかかわりを想う（濱田隆）／二枚の写真（高室陽二郎）／校外授業としての文学館観覧／『芥川龍之介資料集』の教材化（川手千興）／近代文学とミレー 文学と美術の接点を求めて／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈永井荷風 中込純次宛書簡／犬田卯 中村星湖宛書簡／中山議秀^{ママ} 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-20. 『山梨県立文学館館報』 第20号 1995年3月20日

収録：プッシング・アニマル（阪田寛夫）／空襲前夜の宴（内田一郎）／山梨への念い（白倉一由）／鱒二さんの俳諧性（有馬郎人）／井伏さんのカタストロフ感覚（佐伯彰一）／井伏さんの自然体（辻井喬）／第三回やまなし文学賞を振り返って／閲覧室だより／資料寄贈者／資料翻刻〈相馬御風 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-21. 『山梨県立文学館館報』 第21号 1995年7月5日

収録：「あやめ香水」のことなど（三浦仁）／笛吹川に魅せられて（大塚初重）／中村星湖と「五湖文化」（内藤成雄）／井伏鱒二の訂正削除—「中島の柿の木」と「旧・笛吹川趾地」／平成七年度上半期事業／第四回やまなし文学賞募集／閲覧室より／資料寄贈者／資料紹介〈高浜虚子書「山廬」扁額／「雲母」十周年記念号〉／資料翻刻〈相馬御風 中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-22. 『山梨県立文学館館報』 第22号 1995年9月20日

収録：方代さんの全歌集出版のこと（飯島耕一）／井伏鱒二展を見て（渡邊弘）／土への郷愁（小林史子）／「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」新装オープン／土橋治重と「風」—第二回風忌／田中冬二展によせて—一冬二と甲州の旅（磯村英樹）／平成七年度下半期事業／閲覧室より／資料寄贈者／資料紹介〈新俳句雑誌「白雛」／芥川龍之介「水虎晩帰之図」〉／資料権刻〈鳴山草平自筆履歴書控・中村星湖宛書簡〉／館の日誌／館からの御案内

1-23. 『山梨県立文学館館報』 第23号 1996年1月1日

収録：幼少年時代の甲府（市古貞次）／私の文章修行（池原鍊昌）／甲州よいとこ（中山堅恵）／やまなし文学賞の受賞者は今〈もの忘れ（鬼内仙次）／婦女入来（目崎徳衛）〉／「詩のつどい」開催／閲覧室より／資料寄贈者／資料紹介〈太宰治 井伏鱒二宛書簡・詩誌「花粉」〉／資料翻刻〈中村星湖宛書簡（島崎藤村・柳田国男・加藤武雄）〉／館の日誌／館からの御案内

1-24. 『山梨県立文学館館報』 第24号 1996年3月30日

収録：永遠の命（瀬戸内寂聴）／糸ざくら（佐藤精一）／甲府盆地（大野とくよ）／企画展「宇野千代の世界」／素晴らしい人生を生きる（萩原葉子）／第四回やまなし文

学賞を振り返って／閲覧室より／資料寄贈者・受贈逐次刊行物／資料紹介〈「二十一歳夏吉行淳之介」大学ノート（紅野敏郎）〉／研究ノート〈芥川龍之介の短歌草稿「砂上日暮」をめぐって（神津幸穂）〉／資料翻刻〈上司小剣 中村星湖宛書簡 西條八十 中村星湖宛書簡（堀内万寿夫）〉／館の日誌／館からのご案内

1-25. 『山梨県立文学館館報』 第25号 1996年6月20日

収録：石の国（津島佑子）／箆笥のなかの月（三神弘）／富士には砲弾はにあわない（佐藤眞佐美）／追悼 小林富司夫〈文学館誕生前夜のこと（高室陽二郎）〉／情熱と含蓄の人（廣瀬直人）／第五回やまなし文学賞募集／平成八年度上半期事業／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈前田晁あて書簡／飯田蛇笏あて書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-26. 『山梨県立文学館館報』 第26号 1996年9月20日

収録：私的発見二つ（秋山駿）／開高健賞を受賞して（渡辺利夫）／新しい時代の予感（安藤一宏）／『白磁の人』の故郷（江宮隆之）／「資料と研究」第一輯をよむ（山崎一穎）／平成八年度下半期事業／閲覧室より〈資料寄贈者〉／資料翻刻〈前田晁あて書簡（小川未明・村岡花子・窪田空穂・高村光太郎）〉／館の日誌・館からのご案内

1-27. 『山梨県立文学館館報』 第27号 1997年1月1日

収録：年頭の挨拶（紅野敏郎）／紅葉、黄葉、……（保坂和志）／夢の綻び（曾根崎保太郎）／小説の「形」について（岩崎正吾）／宮沢賢治への旅（横山充男）／資料紹介〈深沢七郎「楢山節考」原稿（井上康明）／文芸同人誌「中部文学」（堀内万寿夫）〉／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈原石鼎 飯田蛇笏宛書簡／南方熊楠 土橋里木宛書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-28. 『山梨県立文学館館報』 第28号 1997年3月20日

収録：やっぱり七郎さんのこと（石和鷹）／陽は西に傾けど（日野四郎）／最初の三行目（坂本徳一）／空穂と山梨（清水賢一）／第五回やまなし文学賞をふりかえって／乙骨耐軒一人とその資料（吉田英也）／閲覧室より／資料寄贈者／資料翻刻〈岩野泡鳴 前田晁宛書簡（葉書）[明治四十四年十二月七日消印／大正元年十月九日付]／前田晁 中村星湖宛書簡（封書）[昭和四年四月二十九日付]〉／館の日誌・館からのお知らせ

1-29. 『山梨県立文学館館報』 第29号 1997年6月20日

収録：葬儀委員長の述懐（伊藤桂一）／『石原文雄作品集』寸感（一瀬稔）／前田博子さんのこと（三神ふさ子）／資料紹介〈「土上」創刊号（井上康明）／詩誌「豹」（一瀬茂）〉／第六回やまなし文学賞募集／平成九年度上半期事業／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈原石鼎 飯田蛇笏宛書簡／島村元 飯田蛇笏宛書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-30. 『山梨県立文学館館報』 第30号 1997年9月20日

収録：甲府駅に降りた人たち（古井由吉）／御火焼之老人と趙仁豊（犬飼和雄）／「花火」（植松光宏）／うたともだちの妙子さん（森岡貞香）／資料紹介〈芥川龍之介の手紙（井上康明）〉／平成九年度下半期事業／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈長谷川巳之吉 田中冬二宛書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-31. 『山梨県立文学館館報』 第31号 1997年12月20日

収録：マホロバはどこに（藤井貞和）／詩集出版後のひとこと（堀内幸枝）／八ヶ岳詩遊館（小久保文庫）と四季派（桜井節）／小説との出会い（李優蘭）／資料紹介〈有島武郎と内田宜人との縁（紅野敏郎）／文芸雑誌月刊「あぢさゐ」（堀内万寿夫）／歌誌「みづがき」（一瀬茂）〉／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈片山伸の前田晁宛書簡二通／川端信一、川端龍子の飯田蛇笏宛書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-32. 『山梨県立文学館館報』 第32号 1998年3月20日

収録：古きよきもの（萩原英雄）／造化の下の風景（清水昭三）／三ヶ島葎子と中村星湖（秋山佐和子）／美術から文学へ、文学から美術へ（飯野正仁）／第六回やまなし文学賞を振り返って／資料紹介〈大学短歌会・機関誌「芽」（遠藤秀紀）〉／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈飯田蛇笏宛書簡 四通（小川芋銭・小川千甕・近藤浩一路）〉／館の日誌・館からのご案内

1-33. 『山梨県立文学館館報』 第33号 1998年6月20日

収録：葡萄・楠／露の茜／書名の難しさ／資料紹介〈「自由文芸」／俳誌「青栗」〉／第七回 やまなし文学賞／平成十年度 文学館事業予定／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈米澤理蔵宛書簡 四通（前田晁・徳田秋声・高村光太郎・與謝野晶子）〉／館の日誌・館からのご案内

1-34. 『山梨県立文学館館報』 第34号 1998年9月20日

収録：郷里の作家（荒川洋治）／演劇が立ち上がる時（水木亮）／詩の現れる場所（雨宮慶子）／虚構の力、山本周五郎（笠原伸夫）／企画展「曲軒・山本周五郎の世界」展示資料について／資料紹介〈藤田圭雄宛森田たま書簡（紅野敏郎）〉／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈堀口大學 田中冬二宛書簡四通〉／館の日誌・館からのご案内

1-35. 『山梨県立文学館館報』 第35号 1998年12月20日

収録：洋梨の木（長谷川權）／理想としての自然死（宿沢あぐり）／孤影（秋元千恵子）／「やまなし文学賞」受賞者より〈ブーゲンビレア（室生房子）〉／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈前田晁宛 十一谷義三郎書簡（葉書・封書）／雨宮庸蔵宛 十一谷義三郎書簡（封書）〉／館の日誌・館からのご案内

1-36. 『山梨県立文学館館報』 第36号 1999年3月10日

収録：兄からもらった本（三木卓）／藤谷みさをと私（古守豊甫）／小さな郷土館のありかた（末利光）／互いに眺め合う視点 — 「火の山—山猿記」（坂上弘）／第七回

やまなし文学賞結果／資料翻刻〈海音寺潮五郎 鳴山草平宛書簡〉／閲覧室より／寄贈資料より／館の日誌・館からのご案内

1-37. 『山梨県立文学館館報』 第 37 号 1999 年 6 月 20 日

収録：渡世人手配（北川太一）／白日社甲斐支社の歌人たち（山田吉郎）／蛇笏の椿（瀧澤和治）／平成十一年文学館事業予定／第八回やまなし文学賞募集／寄贈資料より／資料翻刻〈海音寺潮五郎 鳴山草平宛書簡 二通／中込純次宛書簡 三通（西條八十・萩原朔太郎・川路柳虹）〉／館の日誌・館からのご案内

1-38. 『山梨県立文学館館報』 第 38 号 1999 年 9 月 20 日

収録：一葉・透谷・『罪と罰』（平岡敏夫）／増穂の作家 熊王徳平と秋山恵三（志村秀太郎）／日蝕を視る——一九九九年八月十一日——（足立朗）／開館十周年を迎えてくとも切磋琢磨を（倉和男）／誇りたい、県立文学館（渡邊弘）／追悼 清水茂夫氏〈清水茂夫先生と不易流行（石川源朗）／清水茂夫氏追悼（野山嘉正）〉／資料翻刻〈山下陸奥宅「多摩川町」〉／館の日誌・館からのご案内

1-39. 『山梨県立文学館館報』 第 39 号 1999 年 12 月 20 日

収録：幸福な束縛（辻仁成）／文学者と聖書（木田献一）／中村絃子さんの奏法と「文相」（井尻千男）／企画展「山梨の文学—21 世紀へ—」展示資料より／閲覧室より／飯田蛇笏俳句写真展入賞者／寄贈資料より／資料翻刻〈岡千里宛書簡（土屋文明・古泉千樞）／壇一雄書簡（肥下恒夫・中河与一宛）〉／館の日誌・館からのご案内

1-40. 『山梨県立文学館館報』 第 40 号 2000 年 3 月 20 日

収録：機器と文学（秦恒平）／焼き物との出会い（川崎勝信）／受賞後一年・・・（渡辺房男）／企画展「画文交響—明治末期から大正中期へ—」によせて〈交響の音色（青木茂）／絵を描く文人（芳賀徹）〉／第八回やまなし文学賞結果／寄贈資料より／資料翻刻〈飯田蛇笏宛書簡（杉田久女・長谷川かな女・岡本松濱）〉／館の日誌・館からのご案内

1-41. 『山梨県立文学館館報』 第 41 号 2000 年 6 月 20 日

収録：手紙の字（高田衛）／釣師（土屋大吉）／老いの挑戦（原田重三）／平成十二年度文学館事業予定／第九回やまなし文学賞募集／寄贈資料より／資料翻刻〈若山牧水 岡忠太郎（橙里）宛書簡 一九一〇（明治四三）年八月九日／徳富蘇峰 藤谷真淵宛書簡 一九五〇（昭和二五）年一二月二九日〉／館の日誌・館からのご案内

1-42. 『山梨県立文学館館報』 第 42 号 2000 年 9 月 10 日

収録：夕方、展示室で（平原一良）／島木赤彦（望月幸朗）／桑の実—甲州・忘れがたきこと—（石原武）／企画展「太宰治と壇一雄」によせて〈「火宅の人」—魂の祝祭—（小島千加子）／『晩年』を支えたもの（鳥居邦郎）〉／閲覧室より／資料翻刻〈津田青楓 松岡譲宛書簡（封書）／小出権重 邦枝完二宛書簡（封書）／菊池寛 相田隆太郎宛書簡（封書）／相田隆太郎 久米正雄宛書簡（封書）〉／館の日誌・館からのご案内

ご案内

1-43. 『山梨県立文学館館報』 第43号 2000年12月15日

収録：峠の民話（高村壽一）／三島由紀夫と山中湖（工藤正義）／汗を拭きながら（まきののぶ）／企画展「太宰治と壇一雄」〈展示資料より・初期原稿／壇一雄「逗留客」原稿 全二十枚／太宰治「陰火」原稿 全三十九枚〉／閲覧室より／資料翻刻〈野尻清彦（大佛次郎） 小尾孝平宛葉書／野尻抱影 松島靖宛葉書／太宰治 竹村坦宛葉書／太宰治 野田宇太郎宛葉書〉／館の日誌・館からのご案内

1-44. 『山梨県立文学館館報』 第44号 2001年3月20日

収録：静思の森（立松和平）／手前味噌（今川徳三）／朝食の憂鬱（受賞後日談）（都築隆広）／「夏目漱石展—木曜日を面会日と定め候—」によせて〈貴重な問答—夏目漱石と松岡譲—（半藤一利）／漱石 佐幕派の文学、一葉にもふれて（平岡敏夫）〉／第九回やまなし文学賞結果／在野の自由人—川合澄男さん追悼—（紅野敏郎）／資料翻刻〈高村光太郎・室生犀星・粕谷正雄宛書簡〉／館の日誌・館からのご案内

1-45. 『山梨県立文学館館報』 第45号 2001年6月20日

収録：第三の浪と本格ミステリ大賞の創設（笠井潔）／平成十三年度文学館事業予定／資料紹介 山崎方代離郷記念写真ほか／第十回やまなし文学賞募集／寄贈資料より／資料翻刻〈室生犀星 粕谷正雄宛書簡 一九五〇（昭和二十五）年一月十九日他／佐多稻子 粕谷正雄宛書簡 一九五三（昭和二十八）年三月十六日他〉／館の日誌・館からのご案内

1-46. 『山梨県立文学館館報』 第46号 2001年9月10日

収録：たけくらべ紀行・始末記（森まゆみ）／企画展「富士百景」によせて〈草野心平と富士（栗津則雄）／まれ人の波紋—谷村と俳諧（楠元六男）〉／資料紹介〈俳誌「河鹿」／歌誌「歌人動向」〉／寄贈資料より／閲覧室より／私の心のなかの望月さん（紅野敏郎）／資料翻刻〈石坂洋次郎 粕谷正雄宛書簡 一九四九（昭和二十四）年三月九日他／網野菊 粕谷正雄宛書簡 一九五四（昭和二十九）年九月二十日／館の日誌・館からのご案内

1-47. 『山梨県立文学館館報』 第47号 2001年12月20日

収録：甲州の葉脈（中沢新一）／企画展「富士百景—その文学と美—」展示資料より〈井伏鱒二「若彦路」未定稿〉／資料紹介〈文芸誌「えびかづら」・「郷土」〉／閲覧室より・寄贈資料紹介／資料翻刻〈松岡譲 田中冬二宛書簡 一九三〇（昭和五）年十二月二十五日他〉／館の日誌・館からのご案内

1-48. 『山梨県立文学館館報』 第48号 2002年3月20日

収録：「芭蕉展」によせて〈今、なぜ、芭蕉か（尾形侑）〉／「芭蕉展」展示資料／資料紹介〈文芸誌「線」・「左右」〉／第十回やまなし文学賞結果／寄贈資料より／資料翻刻〈松岡譲 田中冬二宛書簡 一九三一（昭和六）年八月一五日他／小山清 井伏鱒

二宛書簡 一九四九（昭和二十四）年七月十五日他）／館の日誌・館からのご案内

1-49. 『山梨県立文学館館報』 第 49 号 2002 年 6 月 20 日

収録：「日本の山旅」覚え書き（足立朗）／特設展「足立源一郎『日本の山旅』スケッチ画と山の文学」展示資料より／文学のつどい、映画鑑賞会／第 11 回やまなし文学賞募集／寄贈資料より／閲覧室より／年間予定／資料翻刻（松岡譲 久米正雄宛書簡／赤木桁平 久米正雄宛書簡／林原耕三 久米正雄宛葉書／菊池寛 松岡譲宛書簡）／館の日誌／館からのご案内／他館の情報

1-50. 『山梨県立文学館館報』 第 50 号 2002 年 9 月 10 日

収録：甲斐の山々（岡田日郎）／企画展「松本清張と木々高太郎」に寄せて〈仕事の鬼☆松本清張（藤井康栄）／探偵文壇の超新星・木々高太郎（山前譲）〉／企画展「松本清張と木々高太郎」展示資料より／閲覧室より／なまよみの甲斐の文学／講座開催／寄贈資料より／資料翻刻（松岡譲 久米正雄宛書簡）／館の日誌／館からのご案内／他館の情報

1-51. 『山梨県立文学館館報』 第 51 号 2002 年 12 月 20 日

収録：同人雑誌の置き場（勝又浩）／収蔵品展展示資料より／映画鑑賞会のお知らせ／文学館を訪れる子どもたち／文学館ウォッチング・子ども映画会のお知らせ／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻（荻原井泉水 中村星湖宛書簡）／館の日誌／館からのご案内／他館の情報

1-52. 『山梨県立文学館館報』 第 52 号 2003 年 3 月 20 日

収録：企画展「中里介山『大菩薩峠』の世界」によせて／創作ノート『人情風俗』のこと（櫻沢一昭）／やまなし文学賞結果／寄贈資料より／資料紹介〈壇一雄関連寄託資料より〉／「資料と研究」第八輯刊行／山本周五郎生誕百年記念展示／小説家・埴原一亟について／年間展示予定／資料翻刻（芥川龍之介「魔法島」・中学校時代作文）／館の日誌／館からのご案内／他館の情報

1-53. 『山梨県立文学館館報』 第 53 号 2003 年 6 月 20 日

収録：反目、志賀直哉と中野重治（清水昭三）／企画展「中里介山『大菩薩峠』の世界」に寄せて〈小説「大菩薩峠」に書き入れられた一葉の日記（荻原留則）〉／第 12 回やまなし文学賞募集要項／寄贈資料より／閲覧室より／資料翻刻（中村武羅夫 前田木城宛書簡／小島烏水 前田木城宛書簡）／館の日誌・館からのご案内・他館の情報

1-54. 『山梨県立文学館館報』 第 54 号 2003 年 9 月 10 日

収録：未完の《麗子像》二点（酒井忠康）／企画展「文士の友情 芥川龍之介と菊池寛・久米正雄」によせて〈久米正雄書簡の語る者（関口安義）〉／企画展 展示資料紹介／報告 木々高太郎資料を受託／寄贈資料より／資料翻刻（前田晁 坂本石創宛書簡／中村星湖 坂本石創宛書簡／多田裕計 池原鍊昌宛書簡）／館の日誌・館からの

ご案内・他館の情報

1-55. 『山梨県立文学館館報』 第55号 2003年12月20日

収録：ひらひらひらと舞ひ行くは（栗坪良樹）／収蔵品点展示資料より／常設展示室第一室「野尻抱影と山梨」／報告 齋藤茂吉資料を受贈／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈多田裕計 池原鍊昌宛書簡／長塚節 三井甲之宛書簡〉／館の日記・館からのご案内

1-56. 『山梨県立文学館館報』 第56号 2004年3月20日

収録：特設点「山崎方代一歌と書の世界一」／「資料と研究」第九輯発行／常設展第一室「献呈本にみる作家の交流」／やまなし文学賞結果／寄贈資料より／資料紹介〈小沼丹「村のエトランジェ」原稿〉／年間展示予定／資料翻刻〈長塚節・伊藤左千夫・島木赤彦 三井甲之宛書簡〉／館の日記／館からの御案内／他館の情報

1-57. 『山梨県立文学館館報』 第57号 2004年6月10日

収録：企画展「樋口一葉展 I」によせて〈封じ込められた「真情」が開かれる（野口碩）〉／「樋口一葉展 I」展示資料紹介／金田一春彦さんとの縁（紅野敏郎）／閲覧室より／やまなし文学賞募集／寄贈資料より・資料翻刻〈小山清・小沼丹 小林富司夫宛書簡〉／館の日記／館からのご案内／他館の情報

1-58. 『山梨県立文学館館報』 第58号 2004年9月10日

収録：ある展墓（高井有一）／「樋口一葉展 II」展示資料紹介／報告 津島佑子氏寄託資料／寄贈資料より／資料紹介〈芥川龍之介 聴講ノート〉／資料翻刻〈矢崎源九郎 小林富司夫宛書簡〉／館の日記／館からのご案内／他館の情報

1-59. 『山梨県立文学館館報』 第59号 2004年12月20日

収録：茂吉が描いた墓碑銘（本林勝夫）／「収蔵品展」展示資料より〈三茶書房主岩森さん（紅野敏郎）〉／資料報告〈飯田蛇笏筆俳句扁額〉／閲覧室より／寄贈資料より／資料翻刻〈山本周五郎初期習作未定稿より〉／館の日記／館からのご案内／他館の情報

1-60. 『山梨県立文学館館報』 第60号 2005年3月20日

収録：文芸編集者の死（大村彦次郎）／第13回 やまなし文学賞結果／企画展によせて〈読者たちのその後 「赤い鳥」VS「少年倶楽部」（砂田弘）〉／企画展「赤い鳥」と「少年倶楽部」の世界展示資料紹介／資料翻刻〈長谷川天溪 田山花袋・前田晁宛書簡〉／寄贈資料より／館の日記／館からのご案内／他館の情報

2. 『山梨県立文学館5年間の軌跡』 → 『山梨県立文学館年報』 → 『山梨県立文学館10周年記念誌』 → 『山梨県立文学館年報』

2-1. 『山梨県立文学館5年間の軌跡』 1995年3月20日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：巻頭写真／口絵／知事あいさつ／教育長あいさつ／館長あいさつ／1 沿革

〈(1) 建設までの経過 [①背景／②構想策定懇話会／③文学資料の収集及び啓発等／④開館] / (2) 開館記念式典 / (3) 各年度事業概要等 [①平成元年度／②平成2年度／③平成3年度／④平成4年度／⑤平成5年度／⑥平成6年度]〉 / 2 組織 / 3 施設の概要 〈(1) 施設の概要 [①建物配置図・平面図(文学館概要図) / ②建物用途別面積表 / ③芸術の森公園概略図] / (2) 施設の機能 [①文学館施設 / ②文学館管理受託施設]〉 / 4 収蔵資料概要 〈(1) 資料収集の方針 / (2) 資料の購入状況 / (3) 資料の受納・受託状況 / (4) 主な収蔵資料 / (5) 複製資料の作成状況 / (6) 図書・逐次刊行物収集状況 / (7) 主な図書資料 / (8) 文学資料館外貸付状況〉 / 5 事業

〈(1) 開館記念展「山梨の文学」と常設展示 [①コーナー構成] / (2) 企画展示 [①書簡の文学 / ②樋口一葉の世界 / ③旅の文学—山梨の自然と人— / ④生誕百年記念芥川龍之介展 / ⑤与謝野晶子と「明星」 / ⑥飯田蛇笏展 没後30年 / ⑦現代の女性作家 / ⑧山崎方代展 / ⑨中村星湖展] / (3) 常設展特別企画 [①山梨と高浜虚子 / ②辻嵐外と嵐外十哲 / ③「たけくらべ」の世界 / ④映画と文学 / ⑤文学者の扇面と年賀状 / ⑥新収蔵資料より 近代の文人① / ⑦新収蔵資料より 近世の俳人 / ⑧佐野四郎の世界 一富士見ゆる丘より一 / ⑨新収蔵展「樋口一葉と『家』」 / ⑩山梨の自然と文学 飯田蛇笏・中村星湖・深沢七郎・山崎方代ほか / ⑪五味可都里と蟹守の世界 / ⑫芥川龍之介 草稿の世界 / ⑬野尻抱影 書簡の世界 / ⑭新収蔵品展] / (4) 教育普及 [①展示会説 / ②教育普及事業 / ③「山梨の文学」 / ④「山梨文学マップ」 / ⑤「山梨県立文学館」] / (5) 映像資料 / (6) 資料の公開 (7) 広報活動 / (8) 刊行物記録 [①館報 / ②企画展図録] / (9) 閲覧室の運営 [①閲覧室の設置 / ②閲覧室の利用 / ③閲覧室の具体的業務] / (10) その他 [①山梨県立文学館コンサート / ②《第1回》サマーナイト・ジャズ・フェスティバル / ③サマーナイトファンタジー / ④人形劇と紙芝居 / ⑤小さな森の演奏会 / ⑥《第2回》サマーナイト・ジャズ・フェスティバル / ⑦《第3回》サマーナイト・ジャズ・フェスティバル]〉 / 6 やまなし文学賞 / 7 顕彰 〈(1) 開館時における顕彰 / (2) 文学館シンボルマーク入選者表彰 / (3) 有料観覧者10万人記念品贈呈 / (4) 平成5年度における犬種夫〉 / 8 統計資料 〈(1) 常設展示観覧者数 / (2) 企画展示観覧者数 / (3) 平成4年度～平成6年度第2土曜日入館者数 / (4) 県民の日(11月20日)の入館者数 / (5) 講堂使用者数 / (6) 研修室使用者数 / (7) 閲覧室利用状況 / (8) 茶室利用状況 / (9) 野外研修施設利用状況〉 / 9 関係法規 / 10 関係委員名簿 〈(1) 山梨県立文学館協議会委員 / (2) 山梨県立文学館専門委員 / (3) 山梨県立文学館顧問 / (4) 山梨県立文学館構想策定懇話会委員 / (5) 山梨県立文学館建設懇話会委員 / (6) 山梨県立文学館文学資料選定委員〉 / 11 組織図 / 12 職員名簿 / 13 利用の案内

2-2. 『山梨県立文学館年報』 1997年11月30日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：1 沿革 / 2 施設の概要 〈(1) 施設の概要 / (2) 施設の機能〉 / 3 事業概要

- 〈(1) 事業内容／(2) 常設展示／(3) 企画展示／(4) 特別展示／(5) 教育普及事業／(6) 刊行物の記録／(7) 閲覧室の運営〉／4 収蔵資料概要〈(1) 資料収集の方針／(2) 資料の購入状況／(3) 資料の受納・受託状況／(4) 図書・逐次刊行物収集状況／(5) 資料の貸出状況〉／5 やまなし文学賞／6 統計資料〈(1) 入館者状況／(2) 館利用状況〉／7 関係法規／8 関係委員名簿／9 組織／10 利用案内
- 2-3. 『山梨県立文学館年報』 1998年11月30日 編集・発行：山梨県立文学館
 収録：1 沿革／2 施設の概要〈(1) 芸術の森公園略図／(2) 文学館平面図／(3) 建物用途別面積表〉／3 事業概要〈(1) 事業内容／(2) 常設展示／(3) 企画展示／(4) 特別展示／(5) 教育普及事業／(6) 刊行物の記録／(7) 閲覧室の運営〉／4 収蔵資料概要〈(1) 資料収集の方針／(2) 特殊資料の購入状況／(3) 特殊資料の受贈状況／(4) 特殊資料の受託状況／(5) 図書・逐次刊行物 収集状況／(6) 資料の貸出状況〉／5 やまなし文学賞／6 統計資料〈(1) 入館者状況／(2) 館利用状況〉／7 関係法規／8 関係委員名簿／9 組織／10 利用案内
- 2-4. 『山梨県立文学館 10周年記念誌』 1999年11月3日 編集・発行：山梨県立文学館
 収録：刊行にあたって(紅野敏郎 天野建 輿石和雄)／グラビア／沿革史／事業の報告〈常設展示／企画展〔開館記念展〔山梨の文学〕／〔所感の文学〕〔樋口一葉の世界〕〔旅の文学〕／〔芥川龍之介展〕〔与謝野晶子と「明星」〕〔飯田蛇笏展〕／〔現代の女性作家〕〔山崎方代展〕〔中村星湖展〕／〔井伏鱒二風貌・姿勢〕〔青い夜道の詩人田中冬二展〕〔宇野千代の世界〕／〔龍之介・牧水・普羅と八ヶ岳—北巨摩の文学—〕〔前田晁・田山花袋・窪田空穂—雑誌「文章世界」を軸に—〕〔二十一世紀への架橋現代歌人の宴〕／〔画文交響—飯田蛇笏をめぐる画家たち〕／〔曲軒・山本周五郎の世界—読者の支持を賞とした作家—〕／〔開館10周年記念展1「やまなし・女性の文学」—樋口一葉・^{イ・ヤンジ}李良枝・津島佑子・林真理子を軸に〕／〔開館10周年記念展2「山梨の文学」—21世紀へ—〕／特設展示(常設展特別企画)／教育普及事業〔事業の概要／文学講演会・企画展関連講座一覧／文学講座 1・2・3／文学講座 4／なまよみの甲斐の文学講座／子供映画会、文学教室、文学館ウォッチング等／朗読鑑賞会、映画会〕／やまなし文学賞／刊行物一覧〈ねんぼう(1～38号)／年報、芥川龍之介資料集、山梨県立文学館所蔵漢籍・国書分類目録等／「資料と研究」(1～4輯)／「山梨の文学」(1～15号)〉／収蔵資料の概要〈資料収集の方針／特殊資料の購入・壽蔵・受託状況／複製資料の作成状況／文学資料館外貸付状況、図書・逐次刊行物収集状況／主な図書資料／視聴覚資料一覧〉／閲覧室の運営〈閲覧室資料紹介コーナー〉／施設の概要〈芸術の森公園略図／県立文学館平面図／建物用途別面積表〉／施設の機能〈文学館施設及び文学館受託施設〉／利用案内〈時間／旧刊／観覧料／減免／交通案内／案内図等〉／館利用状況〈常設展／企画展観覧者数／講堂／研修室／閲覧室／茶

室及び野外研修施設利用者数) / 関係法規 (山梨県立文学館設置及び管理条例 / 山梨県立文学館設置及び管理条例施工規則 / 山梨県文学資料取得基金条例 / 山梨県立文学館処務規定 / 山梨県立文学館専門委員会要綱 / 山梨県立文学館協力員設置要綱 / 山梨県都市公園条例 / 山梨県都市公園条例施行規則) / 関係委員名簿 (山梨県立文学館協議会委員 / 山梨県立文学館専門委員 / 山梨県立文学館顧問) / 歴代幹部職員 / 組織図・職員

2-5. 『山梨県立文学館年報』 2000年10月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：1 沿革 / 2 施設の概要 (1) 芸術の森公園略図 / (2) 文学館平面図 / (3) 建物用途別面積表) / 3 事業概要 (1) 常設展示 / (2) 企画展示 / (3) 特別展示 / (4) 教育普及事業 / (5) 刊行物の記録 / (6) 閲覧室の運営) / 4 収蔵資料の概要 (1) 資料収集の方針 / (2) 特殊資料の購入状況 / (3) 特殊資料の受贈状況 / (4) 特殊資料の受託状況 / (5) 図書・逐次刊行物収集状況 / (6) 資料の貸出状況) / 5 やまなし文学賞 / 6 館利用状況 / 7 関係法規 / 8 関係委員名簿 / 9 組織 / 10 利用の案内

2-6. 『山梨県立文学館年報』 2001年10月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：

収録：1 沿革 / 2 施設の概要 (1) 芸術の森公園略図 / (2) 文学館平面図 / (3) 建物用途別面積表) / 3 事業概要 (1) 常設展示 / (2) 企画展示 / (3) 特別展示 / (4) 教育普及事業 / (5) 刊行物の記録 / (6) 閲覧室の運営) / 4 収蔵資料の概要 (1) 資料収集の方針 / (2) 特殊資料の購入状況 / (3) 特殊資料の受贈状況 / (4) 特殊資料の受託状況 / (5) 図書・逐次刊行物収集状況 / (6) 文学資料館外貸付状況) / 5 やまなし文学賞 / 6 館利用状況 / 7 関係法規 / 8 関係委員名簿 / 9 組織 / 10 利用の案内

2-7. 『山梨県立文学館年報』 2002年8月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：1 沿革 / 2 施設の概要 (1) 芸術の森公園略図 / (2) 文学館平面図 / (3) 建物用途別面積表) / 3 事業概要 (1) 常設展示 / (2) 企画展示 / (3) 特別展示 / (4) 収蔵品展 / (5) 教育普及事業 / (6) 刊行物の記録 / (7) 閲覧室の運営) / 4 収蔵資料の概要 (1) 資料収集の方針 / (2) 特殊資料の購入状況 / (3) 特殊資料の受贈状況 / (4) 特殊資料の受託状況 / (5) 図書・逐次刊行物収集状況 / (6) 文学資料館外貸付状況) / 5 やまなし文学賞 / 6 館利用状況 / 7 関係法規 / 8 関係委員名簿 / 9 組織 / 10 利用の案内

2-8. 『山梨県立文学館年報』 2003年8月31日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：1 沿革 / 2 施設の概要 (1) 芸術の森公園略図 / (2) 文学館平面図 / (3) 建物用途別面積表) / 3 事業概要 (1) 常設展示 / (2) 企画展示 / (3) 特別展示 / (4) 収蔵品展 / (5) 教育普及事業 / (6) 刊行物の記録 / (7) 閲覧室の運営) /

4 収蔵資料の概要〈(1) 資料収集の方針／(2) 特殊資料の購入状況／(3) 特殊資料の受贈状況／(4) 特殊資料の受託状況／(5) 図書・逐次刊行物収集状況／(6) 文学資料館外貸付状況〉／5 やまなし文学賞／6 館利用状況／7 関係法規／8 関係委員名簿／9 組織／10 利用の案内

2-9. 『山梨県立文学館年報』 2004年11月30日 編集・発行：山梨県立文学館

収録：1 沿革／2 施設の概要〈(1) 芸術の森公園略図／(2) 文学館平面図／(3) 建物用途別面積表〉／3 事業概要〈(1) 常設展示／(2) 企画展示／(3) 特別展示／(4) 収蔵品展／(5) 教育普及事業／(6) 刊行物の記録／(7) 閲覧室の運営〉／4 収蔵資料の概要〈(1) 資料収集の方針／(2) 特殊資料の購入状況／(3) 特殊資料の受贈状況／(4) 特殊資料の受託状況／(5) 図書・逐次刊行物収集状況／(6) 文学資料館外貸付状況〉／5 やまなし文学賞／6 館利用状況／7 関係法規／8 関係委員名簿／9 組織／10 利用の案内

【39】池波正太郎真田太平記館

図録

1. 『池波正太郎真田太平記館図録』 2000年3月1日 編集：池波正太郎真田太平記館
発行：上田市

収録：グラフィア／ごあいさつ／池波正太郎の世界〈池波正太郎取材寸描（益子輝之）／取材中の池波正太郎／作家 池波正太郎〔執筆中の池波正太郎／万年筆 煙草 硯箱 文机・原稿用紙／自筆原稿「母」「私の旅行」／自筆原稿「原っぱ」自筆画「原っぱ」／細めの帯に粋がある 帽子／「花ぶさ」にて／たまやかな暮らしの達人（常盤新平）〕／書斎〔書斎／仕掛人に憩いなし／『錯乱』／貴重本〕／絵の楽しみ〔絵筆と共に／年賀状〕／三大シリーズ〔『鬼平犯科張』『剣客商売』『仕掛人・藤枝梅安』〕／池波正太郎略年譜〕／『真田太平記』の世界〈真田太平記とは／真田家と私／著作〔『真田太平記』／創作ノート／『真田太平記』初出誌／『真田太平記』台本〕／真田太平記年表／真田家関連作品／『真田太平記』の主な登場人物／『真田太平記』散策／池波さんの上田周辺（風間完）／信州上田と池波正太郎（重金敦之）／ギャラリー〔『真田太平記』挿絵原画〕／シアター〔「上田攻め」／「城下町上田」〕／忍忍洞／施設紹介

館報

1. 『池波正太郎真田太平記館』

1-1. 『池波正太郎真田太平記館』 第1号 1999年6月1日 目次無し

収録：池波正太郎自筆画展 II 「東京の情景」展示資料から／常設展示資料紹介／来

- 館者ノートより ひとつこと ふたこと／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (1)
- 1-2. 『池波正太郎真田太平記館』 第2号 1999年9月1日 目次無し
収録：池波正太郎の遺愛品常設展示資料紹介／夏休み特別企画 忍者の道具展開催／
全国文学館協議会に加入／運営委員会発足／入館者二万人を超える／平成十一年度特
別展・企画展計画／来館者ノートより (2) ひとつこと ふたこと／池波正太郎『真
田太平記』の舞台を歩く (2)
- 1-3. 『池波正太郎真田太平記館』 第3・4合併号 2000年1月1日 目次無し
収録：池波正太郎真田太平記館開館一周年記念 池波正太郎自筆画展 PART III・開催
／池波正太郎の海外旅行／開館一周年記念講演会開催／保育園児にも人気の忍忍洞／
館内紹介／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (3)
- 1-4. 『池波正太郎真田太平記館』 第5号 2000年5月1日 目次無し
収録：中一弥挿絵原画展 開催中／中氏をお迎えしてにぎやかに挿絵原画展オープン
／ひそひそ囁 (鶴松房治)／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (4)
- 1-5. 『池波正太郎真田太平記館』 第6号 2000年8月1日 目次無し
収録：『真田太平記』の舞台を歩く写真展／上田と沼田を結ぶ往還 (常田軍三)／最近
の来館者ノートから／中一弥氏挿絵絵はがき新発売／池波正太郎『真田太平記』の舞
台を歩く (5)
- 1-6. 『池波正太郎真田太平記館』 第7号 2001年1月1日 目次無し
収録：好評のうちに終了 秋の特別企画 池波正太郎剣客商売展／プロデューサー市
川久夫が語る 池波正太郎あれこれ話／池波正太郎真田太平記館 入館者五万人達成
／池波正太郎 年賀状カレンダー／カレーハウス ベンガル／最近の来館者ノートか
ら／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (6)
- 1-7. 『池波正太郎真田太平記館』 第8号 2001年3月1日 目次無し
収録：上田 池波正太郎ゆかりの一品展 開催中／同時開催 思い出の下道界限展／
来館者ノートより／中一彌描く池波正太郎作品の挿絵を購入／四月二十日～七月一日
開催予定 春の企画展 中一彌挿絵原画展 池波正太郎『忍びの旗』より／池波正太
郎『真田太平記』の舞台を歩く (7)
- 1-8. 『池波正太郎真田太平記館』 第9号 2001年6月1日 目次無し
収録：池波正太郎「忍びの旗」 中一彌挿絵原画展開催中／「忍びの旗」挿絵原画紹
介／来館者ノート／友の会文学散歩 池波正太郎の神田／池波正太郎『真田太平記』
の舞台を歩く (8)
- 1-9. 『池波正太郎真田太平記館』 第10号 2001年8月20日 目次無し
収録：池波正太郎「真田太平記」の舞台を歩く・写真展 開催中／新発売 池波正太
郎自筆画ポストカード／生まれ育った浅草の地に「池波正太郎記念文庫」オープン (鶴
松房治)

- 1-10. 『池波正太郎真田太平記館』 第 11 号 2001 年 12 月 18 日 目次無し
収録：開催中 熊切圭介写真展 池波正太郎のリズム 平成十三年十二月二十四日まで／池波正太郎真田太平記館 大町正人と仲間たちの小さな小さなおしゃべりコンサート 気ままな日曜日／上田市清明小学校三年生探検隊／友の会「池波正太郎記念文庫見学」／クリスマスコンサート／池波正太郎「真田太平記」の舞台を歩く・バスツアー／文学講座 見る・聞く・感じる「真田太平記の世界」／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (9)
- 1-11. 『池波正太郎真田太平記館』 第 12 号 2002 年 3 月 31 日 目次無し
収録：春の企画展「講談本に見る真田十勇士の世界」／アンケート集計結果／「池波正太郎真田太平記館友の会」からのお知らせ／オリジナル 封筒・便箋 一筆箋 新発売／来館者ノートから／新任館長あいさつ／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (一〇)
- 1-12. 『池波正太郎真田太平記館』 第 13 号 2002 年 7 月 1 日 目次無し
収録：写真展「真田太平記」の舞台を歩く 家康東下～関ヶ原／池波正太郎自筆原稿「真説決戦川中島」収蔵／来館者ノートから／「講談本に見る真田十勇士の世界」開催中／講談本・立川文庫と真田十勇士について／【友の会文学散歩】池波正太郎の上野を訪ねて
- 1-13. 『池波正太郎真田太平記館』 第 14 号 2002 年 10 月 1 日 目次無し
収録：風間完の描く「街」展 一池波正太郎「食卓の情景」を中心に一／汚点（益子輝之）／今後の予定／シアター等の貸出について／日渡奈那コンサート ギターで夕涼み／来館者ノートから／喫茶 ル・パスタン 新メニュー／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (一五)
- 1-14. 『池波正太郎真田太平記館』 第 15 号 2003 年 1 月 30 日 目次無し
収録：池波正太郎自筆原稿展「回想のジャン・ギャバン フランス映画の旅」／風間完の描く「街」展 ～池波正太郎「食卓の情景」を中心に～／図録販売のお知らせ／特別講演会 池波正太郎さんと「真田太平記」（風間完 重金敦之）／池波正太郎真田太平記館友の会 文学散歩 晩秋の松代へ
- 1-15. 『池波正太郎真田太平記館』 第 16 号 2003 年 4 月 20 日 目次無し
収録：池波正太郎自筆原稿展「ヨーロッパの人と風景」／新収蔵資料 池波正太郎自筆原稿「まぼろしの城」／特別展 地元作家シリーズ I 加藤莊次郎 真田太平記陶人形展 絵画展 日本の風景／SBC ラジオ番組 新修上田六文銭歴史ロマン／平成一五年度 池波正太郎真田太平記館事業計画／池波正太郎真田太平記館入館者十万人達成／石のベンチ設置のお知らせ／喫茶ル・パスタン 春の新メニュー
- 1-16. 『池波正太郎真田太平記館』 第 17 号 2003 年 7 月 30 日 目次無し
収録：写真展「真田太平記」の舞台を歩く 紀州九度山～大坂夏の陣／池波正太郎自

筆原稿収蔵「肥前・名護屋」ほか／収蔵品紹介 風間完画伯の挿絵 『真田太平記』
挿絵原画／開館五周年記念事業のお知らせ／文学講座(前期)「池波正太郎の人と作品」
／池波正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (12)

1-17. 『池波正太郎真田太平記館』 第18・19合併号 2003年12月20日 目次無し
収録：好評開催中 開館5周年記念 池波正太郎「鬼平犯科帳」展／中一弥 挿絵「鬼
平犯科帳」／開館五周年記念事業 「池波正太郎の上野浅草まつり」開催／ミニコン
サート アンデス音楽のタペ ～民族楽器が奏でるアンデスの詩情～／来館者ノート
から／池波正太郎『鬼平犯科帳』展／真田太平記の舞台を歩く (13)

1-18. 『池波正太郎真田太平記館』 第20号 2004年3月31日 目次無し
収録：風間完追悼展 風間完が描く「真田太平記」の女たち／風間完年譜／バイオリ
ンリサイタル バッハのひととき／文学講座「池波正太郎の江戸」 ～切絵図で散歩
する池波正太郎の江戸の街～／平成十六年度池波正太郎真田太平記館事業計画／池波
正太郎『真田太平記』の舞台を歩く (14)

1-19. 『池波正太郎真田太平記館』 第21号 2004年7月17日 目次無し
収録：写真展開催中「真田太平記」の舞台を歩く ～名護屋・駿府・上田～／池波正
太郎のエッセイから／グッド・オールド・デイズ・シネマ《エッセイ》8 にんじん
(池波正太郎)／文学散歩 「真田太平記」の舞台を歩くバスツアー／文学講座「池
波正太郎の江戸」 ～風間完追悼展 風間完が描く「真田太平記」の女たち／風間完
年譜／バイオリンリサイタル バッハのひととき／文学講座「池波正太郎の江戸」 ～
切絵図で散歩する池波正太郎の〔江戸の街〕II～／今後の予定／池波正太郎『真田太
平記』の舞台を歩く (15)

1-20. 『池波正太郎真田太平記館』 第22号 2005年1月1日 目次無し
収録：秋の企画展、平成一七年一月一〇日まで開催中 池波正太郎が描いた忍びの者
たち／池波正太郎文学散歩 伊賀・甲賀 忍びの里を歩く／企画展 展示資料から
～忍びの者たちが使った道具～／冬の企画展のお知らせ「上田ゆかりの作家二人展
～新田潤と久米正雄～」／文学講座「池波正太郎の忍者作品」／池波正太郎『真田太
平記』の舞台を歩く (16)

1-21. 『池波正太郎真田太平記館』 第23・24合併号 2005年3月15日 目次無し
収録：上田ゆかりの作家二人展 新田潤と久米正雄／新田潤略年譜／新田潤と上田／
新田潤著作／久米正雄著作／久米正雄と上田／久米正雄略年譜／弔辞(新田潤へ)／
真田中学校校歌の作詞／平成十七年度 池波正太郎真田太平記館事業計画

【40】 臼井吉見文学館

発行物無し

【41】軽井沢高原文庫

図録

1. 『堀辰雄展』 1985年8月10日 発行：軽井沢高原文庫
収録：ごあいさつ（池内輝雄 藤巻勲夫）／高原文庫開館に寄せて（佐藤正人）／堀辰雄展に寄せて（中村真一郎）／夏椿（室生朝子）／堀辰雄展に寄せて（矢内原伊作）／堀辰雄との縁（谷田昌平）／縁或る塩沢の地（堀多恵子）／戦前の著作と全集／自筆の資料〈ノオト・書簡 その他／研究ノオト〉／遺品／晩年の愛読書／同人雑誌／遺影と住んだ家／堀辰雄略年譜／展示品目録
2. 『川端康成展』 1986年8月1日 発行：軽井沢高原文庫
収録：川端康成展によせて（川端秀子）／対談 戦前戦後の思い出を語る（川端秀子 堀多恵）／「川端康成」との出会い（内藤祐史）／展示品目録
3. 『フォーゲラーとリルケ展 ヴォルプスヴェーデの芸術家たち』 1990年4月20日 発行：軽井沢高原文庫
収録：ヴォルプスヴェーデからのメッセージ／ごあいさつ／座談会〈夢見られた共同体／芸術家村の宿命（上山安敏 河中正彦 城眞一）〉／評論／フォーゲラーとリルケ「近代」批判のための二つの視点（城眞一）／「春」の画家フォーゲラーへの旅 児島喜久雄の記録から（山田俊幸）／エッセイ／一枚の切り抜き（鈴木亨）／フォーゲラーとリルケ（塚越敏）／立原道造とフォーゲラー（佐藤康則）／ユートピアと終末（気谷誠）／日本でのフォーゲラー受容抄（岩切信一郎）／謎——フォーゲラーと立原道造（堀内達夫）／参考文献（岩切信一郎・山田俊幸編）／Bibliographie (Auswahl)（城眞一編）／フォーゲラーとリルケ関係年譜（城眞一編）

紀要

1. 『高原文庫』
 - 1-1. 『高原文庫』 第1号 1986年5月1日 編集：池内輝雄 発行：軽井沢高原文庫
収録：特集・中村真一郎〈第I部 中村真一郎の世界〔中村真一郎の文学世界をめぐって（中村真一郎 富岡幸一郎）・「中村真一郎の会」祝辞（石川淳）／中村真一郎と蝶々の話（加藤周一）／『春』の構造（池内輝雄）／『夏』を読む（石崎等）／『秋』一文体と「私」の性格について（曾根博義）／『冬』に寄せて（鈴木貞美）〕／第II部 中村真一郎展〔中村真一郎展に寄す（堀田善衛）／中村真一郎展に寄す（加賀乙

彦) / 中村真一郎展に寄す (辻邦生) / 中村真一郎展に寄せて (小久保実) / 「中村真一郎展」展示品目録 / 編集後記

1-2. 『高原文庫』 第2号 1987年7月1日 編集：池内輝雄 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 福永の人柄と仕事ぶりについて (中村真一郎) / 2 座談会 福永武彦・文学の形成と発展——その深淵をさぐる試み (辻邦生 豊崎光一 曾根博義 鈴木貞美 池内輝雄 (司会)) / 3 福永武彦を語る (追分の福永さんの土地 (加賀乙彦) / 思い出 (萩原葉子) / 福永先生の鷗外と漱石 (源高根) / 福永先生の手紙 (堀田珠子) / 花にまつわる福永さんの思い出 (堀多恵子) / くさひばり (室生朝子) / 4 福永文学の世界 (水の構図・意識の構図——『廃市』の周辺—— (中島国彦) / 「告別」の魂の救恤 (首藤基澄) / 「幼年」——眠ることと目醒めることと—— (野沢京子) / 5 (常照皇寺の咲かざる桜 (池澤夏樹) / 遊禽亭半知可庵 (福永貞子) / 後記

1-3. 『高原文庫』 第3号 1988年8月1日 編集：池内輝雄 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 座談会 室生犀星 人と作品の魅力をかす試み (中村真一郎 池澤夏樹 池内輝雄 (司会)) / 2 講演 室生犀星 (吉本隆明) / 3 回想の室生犀星 (室生さんのおもいで (佐多稲子) / 軽井沢の室生犀星さん (奥野健男) / 遠い夏の遠い軽井沢 (伊藤信吉) / 室生先生の「耳」 (松本道子) / 犀星先生からの戴きもの (谷田昌平) / 庭・陶器・長編小説 (小谷恒) / あて名は気分しだい (伊藤人誉) / 4 室生犀星研究 (室生犀星の大正五・六年 小考——タゴール・ドストエフスキー—— (杉浦静) / 《魚眠洞》的世界から《天馬》的境地へ——粗描・犀星の初期随筆—— (大橋毅彦) / 戦う犀星と『戦へる女』 (木村幸雄) / 昭和二十年代の犀星の短篇 (本多浩) / 5 対談 犀星を想う (室生朝子 堀多恵子) / 編集後記

1-4. 『高原文庫』 第4号 1989年7月20日 編集：池内輝雄 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 評論 (「中間者」の悲哀 (郷原宏) / 立原道造の詩をめぐって (田中清光) / 2 座談会 立原道造をどう読むか——詩的精神のありかをさぐる試み (菅野昭正 高橋順一 吉田熙生 池内輝雄 飛高隆夫) / 3 エッセイ (立原道造をめぐる少女たちと三詩集 (江頭彦造) / 木いちご酒の瓶 (堀多恵子) / 建築家立原道造 (武基雄) / 立原道造と喫茶店 (杉山平一) / 日本橋界限 (鈴木亨) / 立原道造の世界 (小久保実) / 激語の位相 (安藤靖彦) / 4 あの頃の立原道造と僕らのこと (猪野謙二 池内輝雄 (聞き手)) / 5 立原道造研究 (立原道造・その表現と身体性をめぐって (小関和弘) / 「^{アンデンケン}追憶」について——立原道造の方法についてのエスキイス (山田俊幸) / 編集後記にかえて

1-5. 『高原文庫』 第5号 1990年7月20日 発行：軽井沢高原文庫

収録：座談会 戦前・戦後の岸田家について（岸田衿子 岸田今日子 谷川俊太郎 中村真一郎）／対談 現代における岸田國士の戯曲（矢代静一 末木利文）／岸田國士問題——文学者としての責任をめぐって（渡辺一民）／魂の冒険、人格の変容——岸田國士『鞭を鳴らす女』をめぐって（鈴木貞美）／岸田國士と文学座（原千代海）／岸田國士先生と私（古山高麗雄）／略年譜 北軽井沢と岸田國士

1-6. 『高原文庫』 第6号 1991年7月25日 発行：軽井沢高原文庫

収録：座談会 円地文子——その文学と軽井沢（中村真一郎 室生朝子 竹西寛子 小島千加子）／円地文子——人と文学（奥野健男）／円地文子さんのこと（戸板康二）／花はさまざま匂へども——円地文子と軽井沢（分銅惇作）／円地さんの歌舞伎ばなし（松本道子）／母円地文子と軽井沢（富家素子）／円地文子略年譜

1-7. 『高原文庫』 第7号 1992年7月18日 編集：大藤敏行／青山達夫／白石昌美 発行：軽井沢高原文庫

収録：ふたつの芥川像（中村真一郎）／対談 芥川さんと軽井沢（堀多恵 室生朝子）／インタビュー つるや旅館と芥川龍之介（佐藤太郎 佐藤次郎）／晩年の芥川龍之介（平岡敏夫）／展覧会に寄せて（芥川瑠璃子）

1-8. 『高原文庫』 第8号 1993年7月23日 編集：大藤敏行／青山達夫／白石昌美 発行：軽井沢高原文庫

収録：1『高原』の出発と終焉（山室静）／『高原』の回顧——資料を中心にして（掛川長平）／2 エッセイ〈山室静の不屈性（埴谷雄高）／「高原」の頃（中村真一郎）／処女作の頃（遠藤周作）／「高原」とわたし（富士川英郎）／高原孤愁（宇佐美英治）／あの頃（堀多恵子）／再会（小山正孝）／高原の夢想（鈴木亨）／短かったその歴史（掛川長平）／3『高原』を読んで（島田雅彦）／ユートピアの儚さ（荻野アンナ）／『高原』によせて（中沢けい）／4「高原」の作家と作品〈作家と作品 福永武彦（佐々木基一）／中村真一郎『土の影の下に』（鈴木貞美）／若き日の遠藤周作とリヴィエール（矢代静一）／幻視者原民喜（小海永二）〉／5「高原」の意義について〈「高原」の意義——戦後文学史の再構築のために（池内輝雄）〉／6 資料編〈口絵／『高原』総目次／文学地図——『高原』発行当時の同人ほか／「高原」関連年譜／「高原」創刊御挨拶／主な展示品〉

1-9. 『高原文庫』 第9号 1994年7月22日 編集：大藤敏行／白石昌美 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 近代と軽井沢〈軽井沢と文学（中村真一郎）／文学のなかの避暑地（池内輝雄）／九〇年前のリゾート文化（宮原安春）〉／2 インタビュー〈戦前の軽井沢（朝吹登水子）〉／3 エッセイ〈時の流れの中で（堀多恵子）／思い出の軽井沢（室生朝子）／黄昏のベア・ハウス（山崎剛太郎）〉／4 風土と文学〈信濃追分の文学者たち（相馬正一）／眞夏の朝の会——千ヶ滝、星野の文学者たち（矢代静一）／「絵はが

き」の思い出——堀辰雄の軽井沢（菅野昭正）／大学村の人びと——北軽井沢大学村の文学者とその周辺のこと（岸田衿子）／5 軽井沢と文士たち〈芥川龍之介と片山廣子を中心に（宮坂覺）／冬ごもりと旅と（安藤元雄）／中村真一郎と福永武彦（鈴木貞美）／ただならぬ火——軽井沢の犀星と康成（小島千加子）〉／6 軽井沢高原文庫の十年

1-10. 『高原文庫』 第10号 1995年7月20日 編集：大藤敏行／本城牧子 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 〈「伝説の時代」のこと（竹西寛子）／コンプレック・ふりーの視力（木崎さと子）〉／2 〈油屋連想（宇田健）〉／3 野上文学の世界〈新羅の『森』（助川徳是）／北軽井沢と野上弥生子（中村智子）〉／4 北軽井沢と野上弥生子〈もうひとりの人——北軽井沢の野上弥生子さんに（谷川俊太郎）／野上さんちの小母さま——大学村の「おとな」たち（岸田今日子）／野上弥生子さんと北軽井沢の一日（嶋中雅子）／森の精——北軽の野上彌生子——（小島千加子）／野上彌生子先生の思い出（平松守彦）／野上弥生子さんの書斎（加賀乙彦）〉／5 〈北軽井沢と母（野上素一）〉／附〈巣箱（野上弥生子）〉

1-11. 『高原文庫』 第11号 1996年7月20日 編集：大藤敏行／本城牧子 発行：軽井沢高原文庫

収録：芹沢光治良特集〈芹沢光治良さんの思い出（中村真一郎）／芹沢さんの弔電など（大岡信）／父の愛情（芹沢文子 岡玲子）／芹沢光治良と軽井沢（大藤敏行）／芹沢光治良展出品リスト〉／沓掛と文学〈沓掛・中軽井沢の文学（奥野健男）／白秋と朔太郎（飯島耕一）／狐狸庵山人とドクトル・マンボウ（矢代静一）／安部公房さんと鉄砲水（北杜夫）／阿部知二の青い森（阿部良雄）／昔沓掛、今中軽井沢（＝目卯女）／葛原妙子さんのこと（室生朝子）／杉浦翠子と翡翠荘（塩川治子）／「砂の女」の頃の安部公房（谷田昌平）／中軽井沢・沓掛文学略年表／中軽井沢・沓掛ゆかりの文学者たち（文学地図）〉

1-12. 『高原文庫』 第12号 1997年7月19日 編集：大藤敏行／土屋麗奈 発行：軽井沢高原文庫

収録：I 〈追分あれこれ（大橋健三郎）〉／II 〈対談 追分の昔と今 ——福永武彦を中心として——（加賀乙彦 原卓也）〉／III 〈堀辰雄と信濃追分（谷田昌平）／加藤道夫さんと追分（矢代静一）〉／IV 〈字浅間山（小島信夫）／追分に鳥を求めて（加藤幸子）／佐多さんと福永さん（小島千加子）／追分と私（後藤明生）〉／付〈信濃追分文学略年表／信濃追分ゆかりの文学者たち（文学地図）〉

1-13. 『高原文庫』 第13号 1998年7月18日 発行：軽井沢高原文庫

収録：I 遠藤周作と軽井沢展〈遊びの達人遠藤周作さん（加賀乙彦）〉／II 座談会〈軽井沢の遠藤さん（遠藤順子 矢代和子 斎藤喜美子）〉／III 遠藤周作を語る〈寂

しがり屋（北杜夫）／遠藤周作さんのこと（大原富枝）／遠藤先生と中国（木崎さと子）／小説家の“眼”（加藤宗哉）／高原派の詩人は今いずこ（若林真）／遠藤周作——最後の日々と軽井沢（鈴木秀子）／遠藤周作と宇宙棋院（谷田昌平）／IV 遠藤文学の世界〈遠藤周作「血の故郷」について（高橋千劔破）／小説作法からみた『深い河』（高橋英夫）／V 〈遠藤周作年譜（山根道公）〉

1-14. 『高原文庫』 第14号 1999年7月25日 発行：軽井沢高原文庫

収録：I 〈中村真一郎展に寄せる（加賀乙彦）〉／II 〈中村真一郎さん（朝吹登水子）〉／III 座談会〈中村真一郎の人と文学（加藤周一 竹西寛子 清水徹）〉／IV 中村文学の世界〈中村真一郎の世界（菅野昭正）／「軽井沢」と中村真一郎の文学（小田実）／漢詩と中村文学（入谷仙介）〉／V 中村真一郎を語る〈中村さんのこと（室生朝子）／真一郎さんの思い出（中村稔）／母の記憶（飯島耕一）／固有名詞の宇宙（安藤元雄）／中村真一郎さんの諧謔（小島千加子）／一九八八年海星巢の中村先生（三島利徳）〉／VI 思い出〈日常生活と軽井沢別荘（佐岐えりぬ）〉

1-15. 『高原文庫』 第15号 2000年7月22日 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 展覧会に寄せて〈20世紀と軽井沢展《戦前篇》（加賀乙彦）〉／2 インタビュー〈軽井沢あれこれ（相馬雪香）〉／3 聞き書き 軽井沢の歴史を語る〈有島武郎さんのことなど（駒村歌子）／軽井沢ホテルを語る（佐藤芳壽）〉／4 エッセイ〈遠く古く近く（伊藤信吉）／僕の少年時代（羽仁進）／軽井沢レクイエム（山崎剛太郎）／軽井沢の思い出（ベアテ・シロタ・ゴードン）／思い出の中の軽井沢（乾奈美）〉／5 風土と文学〈堀辰雄と軽井沢・素描（池内輝雄）／立原道造と信濃追分——詩人の夢みた《ふるさと》——（相馬正一）〉

1-16. 『高原文庫』 第16号 2001年7月20日 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 展覧会に寄せて〈20世紀と軽井沢展《戦後篇》（加賀乙彦）〉／2 インタビュー〈軽井沢今昔（堀多恵子）〉／3 エッセイ『二十億光年の孤独』のころ（谷川俊太郎）／軽井沢の思い出（遠藤順子）／軽井沢の文壇ゴルフ（大久保房男）／文学の城郭都市——軽井沢の作家と私——（小島千加子）／父・草田男と軽井沢（中村弓子）〉／4 風土と文学〈犀星・つるや旅館・素描（本多浩）／福永先生と追分（堀田珠子）〉

1-17. 『高原文庫』 第17号 2002年7月20日 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 〈北杜夫展によせて（加賀乙彦）〉／2 〈軽井沢と私（北杜夫）〉／3 座談会〈軽井沢での交遊（奥野道子 矢代和子 斎藤喜美子）〉／4 エッセイ〈端倪すべからざる——。（佐藤愛子）／北さんからの贈りもの（辻佐保子）／旧制松高で（小塩節）／絵になる人（小島千加子）／マンボウの浮き沈み（斎藤由香）〉／5 作品論〈何をおいても『楡家の人びと』（原子朗）／『神河内』を読んで（富岡幸一郎）〉

1-18. 『高原文庫』 第18号 2003年7月30日 発行：軽井沢高原文庫

収録：1 〈「谷川俊太郎展」に寄せて（加賀乙彦）〉／2 〈七十年（谷川俊太郎）〉／3 エ

ッセイ〈谷川俊太郎のこと（大岡信）／最期はヘリコプターで空へ（川崎洋）／日本語つかい（安藤元雄）／谷川さんのこと（武満浅香）／谷川作品に絵をつける（和田誠）／盆栽の松は枯れても…… —俊太郎氏とのあるエピソード—（寺島尚彦）／4 作家論〈谷川俊太郎のリズム（佐々木幹郎）／谷川俊太郎についての「7×1」（小田久郎）〉／5 座談会〈故郷の大学村（谷川俊太郎 岸田衿子 岸田今日子）〉

1-19. 『高原文庫』 第19号 2004年7月30日 発行：軽井沢高原文庫

収録：1〈生誕一〇〇年記念「堀辰雄展」に寄せて（加賀乙彦）〉／2 エッセイ〈堀辰雄のステッキ（池内紀）／異質な花（木崎さと子）／聖なる文学風土への郷愁（前登志夫）／3 堀辰雄を語る〈ただ一度会った堀さん（岡野弘彦）／初めての手紙（畑中良輔）／私の「風立ちぬ」周辺逍遙（山崎剛太郎）〉／4 堀文学の世界〈書簡に生きた詩的なこころ—堀辰雄とリルケー（高橋英夫）／フランス語で読む『風立ちぬ』（菅野昭正）／堀辰雄の部屋（安藤元雄）／堀辰雄研究の未来像—北方志向のことなど—（竹内清己）〉／5〈堀辰雄年譜のこと（谷田昌平）／回想 昭和二八年五月一六月（加藤俊彦）〉／6〈堀辰雄略年譜〉／7〈堀辰雄アルバム抄〉

館報

1. 『軽井沢高原文庫通信』

- | | | | |
|-------------------|------|-------------|------|
| 1-1. 『軽井沢高原文庫通信』 | 創刊号 | 1986年4月20日 | 目次無し |
| 1-2. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第2号 | 1986年7月25日 | 目次無し |
| 1-3. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第3号 | 1986年11月15日 | 目次無し |
| 1-4. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第4号 | 1987年1月25日 | 目次無し |
| 1-5. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第5号 | 1987年4月25日 | 目次無し |
| 1-6. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第6号 | 1987年8月10日 | 目次無し |
| 1-7. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第7号 | 1987年12月15日 | 目次無し |
| 1-8. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第8号 | 1988年3月25日 | 目次無し |
| 1-9. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第9号 | 1988年8月20日 | 目次無し |
| 1-10. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第10号 | 1989年1月25日 | 目次無し |
| 1-11. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第11号 | 1989年8月5日 | 目次無し |
| 1-12. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第12号 | 1989年12月20日 | 目次無し |
| 1-13. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第13号 | 1990年4月20日 | 目次無し |
| 1-14. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第14号 | 1991年2月28日 | 目次無し |
| 1-15. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第15号 | 1991年4月2日 | 目次無し |
| 1-16. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第16号 | 1991年5月28日 | 目次無し |
| 1-17. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第17号 | 1992年4月1日 | 目次無し |
| 1-18. 『軽井沢高原文庫通信』 | 第18号 | 1992年7月10日 | 目次無し |

- 1-19. 『軽井沢高原文庫通信』 第19号 1992年12月25日 目次無し
- 1-20. 『軽井沢高原文庫通信』 第20号 1993年3月25日 目次無し
- 1-21. 『軽井沢高原文庫通信』 第21号 1993年8月1日 目次無し
- 1-22. 『軽井沢高原文庫通信』 第22号 1993年11月10日 目次無し
- 1-23. 『軽井沢高原文庫通信』 第23号 1994年2月25日 目次無し
- 1-24. 『軽井沢高原文庫通信』 第24号 1994年5月31日 目次無し
- 1-25. 『軽井沢高原文庫通信』 第25号 1994年9月30日 目次無し
- 1-26. 「軽井沢高原文庫通信 臨時増刊」 第25号別冊 1994年9月30日 目次無し
- 1-27. 『軽井沢高原文庫通信』 第26号 1994年12月30日 目次無し
- 1-28. 『軽井沢高原文庫通信』 第27号 1995年3月30日 目次無し
- 1-29. 『軽井沢高原文庫通信』 第28号 1995年7月7日 目次無し
- 1-30. 『軽井沢高原文庫通信』 第29号 1995年11月1日 目次無し
- 1-31. 『軽井沢高原文庫通信』 第30号 1996年2月15日 目次無し
- 1-32. 『軽井沢高原文庫通信』 第31号 1996年4月25日 目次無し
- 1-33. 『軽井沢高原文庫通信』 第32号 1996年7月25日 目次無し
- 1-34. 『軽井沢高原文庫通信』 第33号 1996年10月25日 目次無し
- 1-35. 『軽井沢高原文庫通信』 第34号 1997年2月25日 目次無し
- 1-36. 『軽井沢高原文庫通信』 第35号 1997年5月30日 目次無し
- 1-37. 『軽井沢高原文庫通信』 第36号 1997年9月10日 目次無し
- 1-38. 『軽井沢高原文庫通信』 第37号 1997年12月15日 目次無し
- 1-39. 『軽井沢高原文庫通信』 第38号 1998年4月15日 目次無し
- 1-40. 『軽井沢高原文庫通信』 第39号 1998年8月1日 目次無し
- 1-41. 『軽井沢高原文庫通信』 第40号 1998年11月15日 目次無し
- 1-42. 『軽井沢高原文庫通信』 第41号 1999年3月31日 目次無し
- 1-43. 『軽井沢高原文庫通信』 第42号 1999年7月5日 目次無し
- 1-44. 『軽井沢高原文庫通信』 第43号 1999年12月1日 目次無し
- 1-45. 『軽井沢高原文庫通信』 第44号 2000年4月20日 目次無し
- 1-46. 『軽井沢高原文庫通信』 第45号 2000年7月10日 目次無し
- 1-47. 『軽井沢高原文庫通信』 第46号 2000年10月31日 目次無し
- 1-48. 『軽井沢高原文庫通信』 第47号 2001年2月28日 目次無し
- 1-49. 『軽井沢高原文庫通信』 第48号 2001年6月15日 目次無し
- 1-50. 『軽井沢高原文庫通信』 第49号 2001年10月15日 目次無し
- 1-51. 『軽井沢高原文庫通信』 第50号 2002年2月10日 目次無し
- 1-52. 『軽井沢高原文庫通信』 第51号 2002年4月20日 目次無し
- 1-53. 『軽井沢高原文庫通信』 第52号 2002年7月12日 目次無し

- 1-54. 『軽井沢高原文庫通信』 第53号 2002年11月15日 目次無し
 1-55. 『軽井沢高原文庫通信』 第54号 2003年3月31日 目次無し
 1-56. 『軽井沢高原文庫通信』 第55号 2003年7月5日 目次無し
 1-57. 『軽井沢高原文庫通信』 第56号 2003年11月25日 目次無し
 1-58. 『軽井沢高原文庫通信』 第57号 2004年4月10日 目次無し
 1-59. 『軽井沢高原文庫通信』 第58号 2004年6月20日 目次無し
 1-60. 『軽井沢高原文庫通信』 第59号 2004年10月20日 目次無し
 1-61. 『軽井沢高原文庫通信』 第60号 2005年3月20日 目次無し

【42】小諸市立藤村記念館

研究書

1. 『小諸に於ける藤村の足あと』 1963年6月15日 著者：林勇 発行：小諸市懐古園内小諸市立藤村記念館
 収録：第一 詩から散文への歩み／第二 木村熊二と小諸義塾／第三 千曲川旅情の旅——「落梅集について」——／第四 「千曲川のスケッチ」雑記／第五 習作小説について／第六 小諸に於ける藤村案内〈(一) 小諸義塾趾／(二) 旧城三ノ門／(三) 初倉趾の青空教室／(四) 木村記念碑／(五) 瓦門の塾舎／(六) 水明楼(木村熊二の書齋)／(七) 中棚鉦泉／(八) 千曲川(五里淵)／(九) 藤村旧居／(一〇) 一ぜんめし／(一一) 藤村詩碑／(一二) 藤村記念館／(一三) 日向吉次郎記念碑〉／第七 小諸時代の藤村年譜〈(一) 明治三十二年／(二) 明治三十三年／(三) 明治三十四年／(四) 明治三十五年／(五) 明治三十六年／(六) 明治三十七年／(七) 明治三十八年／(八) 明治三十九年〉
2. 『小諸なる古城のほitori ——島崎藤村と小諸——』 1967年6月30日 著者：林勇 発行：小諸市懐古園内市立藤村記念館
 収録：口絵〈一 島崎藤村／二 藤村旧居 その一 (旧居の絵画及び家主)／三 藤村旧居 その二 (隣家の家で撮影した写真など)／四 藤村旧居 その三 (藤村執筆の結婚祝辞その他)／五 藤村旧居 その四 (旧居の近隣絵画その他)／六 藤村旧居 その五 (冬子夫人の筆蹟)／七 千曲川旅情の歌 その一 (歌の作られた当時の懐古園)／八 千曲川旅情の歌 その二 (明星、落梅集、詩碑等の題名比較)／九 小諸義塾 その一 (懐古園天主台下の記念撮影)／一〇 小諸義塾 その二 (小諸義塾趾標柱、女子学習舎入学生など)／一一 小諸義塾 その三 (三宅克己氏、義塾徽章など)／一二 小諸義塾 その四 (島崎先生担当の国文教科書)／一三 小諸義塾 その五 (島崎先生担当の英語教科書)／一四 小諸義塾 その六 (今世少年

に掲載の唐がらしの歌) /一五 千曲川のスケッチ その一 (水明楼、戻り橋、五里淵) /一六 千曲川のスケッチ その二 (祇園祭の神輿と町家の青簾) /一七 千曲川のスケッチ その三 (清水の山小屋、ます屋の看板など) /一八 千曲川のスケッチ その四 (山小屋、東沢別荘、仕立屋の亭主) /一九 習作小説 その一 (旧主人掲載の雑誌新小説) /二〇 習作小説 その二 (水彩画家と晚霞氏抗議文) /二一 「破戒」 その一 (著者宛、小諸辞去の挨拶) / 二二 「破戒」 その二 (破戒の口絵、蓮華寺山門など) /二三 「破戒」 その三 (破戒執筆当時の藤村と文学碑) /二四 「破戒」 その四 (東京西大久保、藤村旧居趾の碑) /中扉写真 <一 新体詩人、島崎藤村 /二 野辺山原 (茨木猪之吉君画帳より) /三 英語の指導を受けた長野師範の学生 /四 「落梅集」の表紙 /五 旧城、三の門 (明治時代) /挿画 <一 小説「破戒」蓮華寺趾の碑 /二 藤村地図 /第一編 教育者としての島崎先生 <第一 小諸義塾に於ける地位 /第二 教壇の島崎先生 /第三 周年の目に映じたる詩人藤村 /第四 島崎先生の教育について /第五 結ばれた子弟の縁 /第二編 「千曲川のスケッチ」昔と今 <第一 はじめに /第二 小諸義塾 /第三 藤村周辺の人々 その一 (木村熊二、鮫島晋氏等、義塾同僚の人々) /第四 藤村周辺の人々 その二 (学校の小使、仕立屋の亭主など同僚以外の人々) / (附) 志賀村の神津猛氏 /第五 馬場裏の草屋 /第六 中棚鉦泉と水明楼 /第七 一ぜんめし、揚羽屋 /第八 懐古園 /第九 時の歩いた足跡 /第三編 冬子夫人、馬場裏の生活 <第一 夫人冬子さん /第二 自宅に於ける先生 /第三 簡素な生活 /第四 近隣との光彩 /第五 東京から訪ねて来た人々 /第四編 「千曲川旅情の歌」から「破戒」まで <第一 詩集の美わしき終曲 (歳時記の試みや雲の観察記録など) /第二 習作小説と小諸 (旧主人、藁草履、水彩画家など) /第三 「破戒」雑記 (小諸生活窮極の所産、モデル問題と「破戒」、「何の罪」との比較など) / (附) 藤村と飯山 (三井文彦) <第一 「破戒」と飯山 /第二 藤村と真宗寺 / [附録] 小諸中心、藤村年譜 <第一 出生より小諸生活まで /第二 小諸生活 /第三 出京より死亡まで)

【43】堀辰雄文学記念館

図録

1. 『堀辰雄展 堀辰雄文学記念館開館特別展図録』 1993年4月21日 発行：軽井沢町堀辰雄文学記念館
収録：特別展に寄せて (松葉邦男) /堀辰雄文学記念館の開館にあたって (堀多恵) /特別展示品 <深沢紅子挿画集 /中野重治色紙・書簡 /福永武彦色紙・ハガキ /折口信夫原稿・書簡 /萩原朔太郎書簡 /芥川龍之介書簡 /片山広子書簡 /立原道造ハガキ /神西

清ハガキ／野村英夫ハガキ／中村真一郎ハガキ／丸岡明書簡／津村信夫書簡／室生犀星ハガキ／特別展示品〈署名本／初版本〉／常設店〈遺品／堀辰雄文学地図／翻訳本／自筆原稿／堀辰雄著書目録／署名本／著作目録（生前）／著作目録（没後）／愛読書／遺品・寄贈品リスト／年譜

2. 『堀辰雄文学記念館常設展示図録』 2001年10月21日（2003年7月12日改訂） 編集：堀辰雄文学記念館 発行：軽井沢町教育委員会

収録：図録発刊によせて（佐藤雅義 堀多恵）／堀辰雄文学記念館概要／堀辰雄文学記念館施設紹介／自筆草稿／自筆書簡／翻訳本・初出雑誌／常設展示 堀辰雄—生涯と文学〈向島、隅田川畔で育った幼少年期／青春の軽井沢体験に始まる文学的出発／黄色い麦藁帽子の少女との出会い／多彩な作家活動—結婚生活の中で／日本古典・古代への親近／病床に夢を育んだ、信濃追分での生活〉／堀辰雄年譜／堀辰雄の住んでいた別荘／来簡／弔辞／遺愛品／挿画／署名本／堀辰雄軽井沢文学地図／堀辰雄追分文学地図

3. 『堀辰雄没後 50 年特別企画展図録 「僕は歩いてみた 風のなかを…」』 2003年7月3日 編集：堀辰雄文学記念館 発行：軽井沢町教育委員会

収録：目次・例言／堀辰雄没後五十年にあたって（堀多恵子）／展観に当たって（池内輝雄）／I モダニズムの時代と軽井沢体験／II 戦争の時代と文学活動／III 軽井沢・追分での生活／著書の紹介／「芝生」（堀多恵子）／堀辰雄年譜～「堀辰雄と軽井沢」を中心として～／主な展示資料

4. 『堀辰雄生誕百年特別企画展 図録』 2004年8月10日 編集：堀辰雄文学記念館 発行：軽井沢町教育委員会

収録：目次・例言／生誕百年に寄せて（堀多恵子）／ご挨拶（堀辰雄文学記念館）／【紀行文】〈堀辰雄の「強さ」（加藤周一）／ひとつの策略 ひとつの約束（畑中良輔）／回想（加藤俊彦）〉／【展示会説】《季節はずれ》ということ（池内輝男）／I 近代と軽井沢／II 堀辰雄と軽井沢／III 『美しい村』から『大和路・信濃路まで』[「美しい村」／「風立ちぬ」／「大和路・信濃路」]／IV 「戦後」という時代／年譜

記録集

1. 『野ばらの匂う散歩みち —堀多恵子談話集—』 2003年7月30日 編集：堀辰雄文学記念館 発行：軽井沢町教育委員会

収録：ひとところ／1 軽井沢と堀辰雄〔平成五年〕／2 堀辰雄 大和路の旅〔平成六年〕／3 堀辰雄 信濃路の旅〔平成七年〕／4 堀辰雄の二人の師〔平成八年〕／5 立原道造と堀辰雄〔平成九年〕／6 中村真一郎と堀辰雄〔平成十年〕／7 福永武彦と堀辰雄〔平成十一年〕／8 堀辰雄の『幼年時代』〔平成十二年〕／9 堀辰雄—妻への手紙〔平成十三年〕／10 堀辰雄—妻への手紙 II〔平成十四年〕

作品

1. 『堀辰雄初期作品集』 2004年7月30日 編集：堀辰雄文学記念館 発行：軽井沢町教育委員会
収録：I 詩篇〈仏蘭西人形／青つぼい詩稿〔病夢／映画館／銀座喫茶店／離愁〕／帆前船／古足袋／書物生活／ファンタスティック／天使達が……／詩／病／絵はがき〉／II 小説篇〈甘栗／風景／土曜日／一九二三年の原稿／錯覚〔お嬢さん失礼しました／一人の紳士が二人に見えた／蜥蜴はゐないよ／寓話／歩いている紳士／速力／セルロイドなのかしら／詩集〕／即興（眠りながら）／即興（蝶）／不器用な天使／刺青した蝶／眠っている男／手のつけられない子供／ルウペンスの偽画／ジゴンと僕／詩の素描／水族館／鼠／天使にからかふ／窓／聖家族〉／解説・初期作品の意味するもの（池内輝雄）／感謝のことば（堀多恵子）

【44】（財）会津八一記念館

図録

1. 『平成十年度特別展 東大寺龍松院秘蔵拓本展 一筒井寛秀コレクションから一 會津八一の見た寧楽の仏たち』 1999年3月3日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館
収録：ごあいさつ（小柳マサ）／「會津八一の見た寧楽の仏たち」展によせて（筒井寛秀）／拓本の話（會津八一）／図版／作品解説／資料／目録
2. 『平成十一年度特別展 春日野 會津八一と杉本健吉 一心に響く歌・書そして絵一』 1999年7月31日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館
収録：ごあいさつ（小柳マサ）／解説 邪鬼にひかれて一秋艸道人と杉本画伯一／略年譜／図版／歌稿にみる秋艸道人・奈良歌の変遷／資料編（新潟市會津八一記念館所蔵會津八一の奈良に関する書作品及び原稿等 総目録／図版）／春日野會津八一と杉本健吉展示目録
3. 『會津八一記念館開館二十五周年記念 逆境からの再出発 一中条時代の會津八一一』 2000年10月5日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館
収録：ごあいさつ（小柳マサ）／中条町と會津八一（丹呉協平）／図版／寒燈集の歌（喜多上）／中条時代の會津八一の書（長坂吉和）／作品解説／出品目録
4. 『早稲田大学・新潟市會津八一記念館所蔵品交換 會津八一生誕120年記念展』 2001年9月12日 編集：早稲田大學會津八一記念博物館／財団法人會津八一記念館 発行：早稲田大學會津八一記念博物館
収録：ごあいさつ（小柳マサ）／ごあいさつ（高橋榮一）／會津先生の書（加藤諄）／

図版〈新潟市會津八一記念館所蔵資料／早稲田大学會津八一記念博物館所蔵資料〉／作品解説／略年譜

5. 『平成十四年特別展 吉野秀雄生誕一〇〇年記念 ―誇り高き歌びと― 會津八一と吉野秀雄』 2002年8月29日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館

収録：ごあいさつ（久保尋二）／友人吉野秀雄（會津八一）／秋艸道人歿後十年（吉野秀雄）／會津八一と吉野秀雄（山崎馨）／『寒蟬集』亡妻挽歌と万葉（島田修三）／図版／吉野秀雄アルバム／作品解説／會津八一・吉野秀雄略年譜

6. 『平成十五年度特別展 棟方志功生誕一〇〇年記念 會津八一と棟方志功 ―ほとぼしる個性―』 2003年10月2日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館

収録：ごあいさつ（久保尋二）／随筆「棟方志功のこと」（會津八一）／會津八一と棟方志功（宇賀田達雄）／独往の書 ―會津八一と棟方志功―（野中吟雪）／棟方志功 新潟ゆかりの地（地図）／図版／作品解説／随筆「華巖譜」「板画美」（棟方志功）／會津八一・棟方志功略年譜／出品目録

7. 『平成十六年度特別展 會津八一 中国へのまなざし』 2004年9月11日 編集：財団法人會津八一記念館 発行：新潟市會津八一記念館

収録：ごあいさつ（神林恒道）／會津八一の東洋美術史（大橋一章）／會津八一の歌と中国文学 ―隱逸と仙境への仮想―（和泉久子）／秋艸道人と書（中野遵）／図版／作品解説／出品目録

【45】（財）石川近代文学館

図録

1. 『石川近代文学館開館記念 郷土作家三人展』 1968年11月3日 発行：石川近代文学館 目次無し

2. 『石川近代文学館 移転開館記念図録』 1986年10月25日 発行：財団法人石川近代文学館

収録：第一室 思想界の先人たち／第二室 日本海辺の文学／第三室 秋声をめぐる人びと／第四室 鏡花文学の世界／第五室 犀星を愛した詩人たち／第六室 詩歌の流れ／第七室 四高その青春と光芒／第八室 異色作家の風景／第九室 自然と造形への挑戦者／特別展示室 井上靖特別展〈第一部 井上文学のふるさと／第二部 井上靖とシルクロード〉／展示総目録／石川関係主要作家一覧／石川近代文学年表

3. 『財団法人石川近代文学館新装一周年記念 石川近代文学全集創刊記念 石川近代文学

展』 1987年11月5日 編集：財団法人石川近代文学館 発行：(株)東武百貨店 目次無し

4. 『近代詩歌の流れ 一第二部 石川の短歌一』 1988年10月 発行：石川近代文学館
収録：アララギ／運河／藝林／コスモス／国民文学／新歌人／新雪／鳥舟〔折口信夫(釈
迢空)とその周辺〕／日本海／女人短歌／未来／雷鳥／中部短歌／曾遊文人・歌人／能
登の歌人／四高短歌／市民文学賞／文学館／資料提供者

5. 『室生犀星生誕百年記念特別展』 1989年7月1日 企画発行：財団法人石川近代文学館 目次無し

6. 『図録 石川近代文学館』 1998年3月31日 監修：財団法人石川近代文学館 発行：財団法人石川近代文学館

収録：図録をつくりました(喜田惣一郎)／思想界の先人たち(暁烏敏／鈴木大拙／西田幾多郎／藤岡作太郎／三宅雪嶺)／日本海辺の文学(五木寛之／折口信夫／加賀乙彦／加賀耿二／加能作次郎／陣出達郎／曾野綾子／高田宏／橋外男／戸部新十郎／藤沢清造／半村良／古井由吉／水芦光子)／秋声をめぐる人びと(徳田秋声／石橋忍月／山本健吉／桐生悠々／徳田一穂／寺崎浩)／鏡花文学の世界(泉鏡花／泉斜汀／尾崎紅葉／里見弴／樋口一葉／鏡花のゆかり)／犀星を愛した詩人たち(室生犀星／芥川龍之介／多田不二／萩原朔太郎／犀星のゆかり)／詩歌の流れ(尾山篤二郎／加藤楸邨／岡部文夫／鶴彰／坪野哲久／長沢美津／永瀬清子／浜口国雄／松瀬青々／村井武生)／四高とその青春と光芒(井上靖／北村透谷喜八／桜田常久／杉森久英／高橋治／中野重治／森山啓)／自然と造形への挑戦者(谷口吉郎／中西悟堂／中谷宇吉郎／深田久弥／秋声・犀星文学碑)／異色作家の風景(奥野他見男／かんべむさし／島田清次郎／竹久夢二／広津里香)／あとがき(新保千代子)／特別展ポスター選／特別展一覧

目録

1. 『岡栄一郎 年譜と著作目録』 1989年6月20日(1997年4月28日改訂版 1998年9月30日補訂版 2001年10月1日増訂版) 編者：井口哲郎 発行：石川近代文学館

収録：岡栄一郎 像／岡栄一郎 年譜《付 家系略図》／岡栄一郎 著作目録／《遺稿》漱石山房追憶(岡栄一郎)／あとがき

紀要

1. 『鏡花研究』

1-1. 『鏡花研究』 創刊号 1974年8月10日 編集：新保千代子 発行：石川近代文学館

収録：母胎のロマン 一鏡花文学における聖界一(藤本徳明)／座談会 鏡花先生を

偲んで（里見淳 寺木定芳 戸板康二）／鏡花のことども（泉名月）／漱石から鏡花へ —— 『草枕』と『春昼』の成立——（小林輝治）／『白羽箭』論（国田次郎）／新資料紹介（新保千代子）／鏡花新出書簡考 —— 上京時をめぐる年譜への疑問——／「非戦闘員」（新保千代子）／売色鴨南蛮／「時計哲学」小解（東田康隆）／鏡花研究会消息／あとがき

1-2. 『鏡花研究』 第2号 1976年3月30日 編集：新保千代子 発行：石川近代文学館

収録：「鏡花研究」管見（村松定孝）／千鳥幻想 — 「サの字千鳥」考—（吉村博任）／《私の中の鏡花》〈辻の柳（大沢衛）／「わが愛する鏡花」（講演筆記）（ドナルド・キーン）／「飛艶魔物語」考（小林輝治）／「瓔珞品」小考（東田康隆）／【随想】〈「鏡花と酒」（石田美枝）〉／新資料紹介〈「賣ト先生」をめぐる（新保千代子）／「賣ト先生」草稿〉／目細家資料校異考〈「妙の宮」（国田次郎）／「聲の一心」（小林輝治）〉／鏡花研究会消息／あとがき

1-3. 『鏡花研究』 第3号 1977年3月30日 編集：新保千代子 発行：石川近代文学館

収録：白鷺幻想（吉村博任）／「妖怪年代記」論 — 「高野聖」の系譜（一）—（小林輝治）／鏡花文学におけるロマン的構造について — 比較文学的に—（国田次郎）／研究会レポート〈「雪柳」のイメージ（藤本徳朗）〉／私の中の鏡花〈拾い読み — 鏡花の俳句—（黒田櫻の園）／鏡花の生れた下新町と津田左右吉（本岡歌子）／鏡花と花（五十嵐トヨ子）〉／新資料紹介 — 妹たか女をめぐる書簡考と自筆年譜訂正—（新保千代子）／鏡花研究会消息（三）／あとがき

1-4. 『鏡花研究』 第4号 1979年3月30日 編集：新保千代子 発行：石川近代文学館

収録：鏡花雑談 —— フランス文学者の見た鏡花——（生島遼一）／鏡花派近況漫話 —— カナダ訪問と大信田宛書簡——（村松定孝）／鏡花におけるダンテの受容（国田次郎）／おぎん・こぎんの寺（大沢衛）／逗子特集〈泉鏡花の住んだ逗子（君島安正）／鏡花曼荼羅 —— 「春昼」における密教的風景——（吉村博任）／「草迷宮」の構造 —— 毬唄幻視譚——（小林輝治）／秋の逗子に 鏡花の足跡を訪ねて（小林弘子）／新資料紹介（新保千代子）／鏡花研究会消息（四）／あとがき

1-5. 『鏡花研究』 第5号 1983年5月30日 編集：新保千代子 発行：石川近代文学館

収録：鏡花と一葉（伊狩章）／菖蒲幻想 —— 鏡花の言語空間について——（吉村博任）／鏡花と落人散人（浦田敬三）／鏡花と「海潮音」（国田次郎）／鏡花の戯曲 —— 水のエピステーマー——（小林輝治）／津軽に旅して（平阿富美子）／資料〈伊地味鏡花参考文献目録（雑誌の部）補遺（田中励儀）／新資料紹介（新保千代子）／「貧

民倶楽部」と「慈善会」校異表) / 鏡花研究会消息 (五) / あとがき

1-6. 『鏡花研究』 第6号 1984年11月10日 編集:新保千代子 発行:石川近代文学館

収録:「冠弥左衛門」という作(岡保生) / 「ふとで者」の行衛—『遊行車』小論(越野格) / 「遊行軍」をめぐる—「『ふとで者』の行衛」管見—(田中励儀) / 『化鳥』小考 運命の凋落みた亡母への尽きせぬ鎮魂歌(小林弘子) / 鏡花と民話(国田次郎) / 「歌行燈」のモデルを追って(新保千代子) / 「白金之絵図」成立考(小林輝治) / 神隠幻想—「龍潭譚」論(吉村博任) / 鏡花研究会消息(六) / 特別行事 / あとがき

1-7. 『鏡花研究』 第7号 1989年3月31日 編集:新保千代子 発行:石川近代文学館

収録:鏡花歿後五十年記念特集〈「絵解きからの視座」——「絵解き鏡花」——(吉村博任) / 「妙の宮」成立考——明治二十九年の鏡花——(田中励儀) / 「縁結び」から「由縁の女」へ——鏡花文学の新しい主題——(小林弘子) / 「鶯花径」再論(越野格) / 夕顔とお君——『縁結び』の美的考察(国田次郎) / しげ女余談(新保千代子) / [新資料紹介] 鏡花の父清次宛書簡三通(小林輝治) / 鏡花先生 五十回忌 会記(富田明子) / 鏡花の思い出(神原圓幸) / 鏡花研究会消息 / あとがき

1-8. 『鏡花研究』 第8号 1993年9月24日 編集:新保千代子 発行:石川近代文学館

収録:「伯爵の釵」論——白山靈驗譚(一)——(吉村博任) / 鏡花の上京日時——二十年目の新事実——(小林輝治) / 『乱菊』の典拠——「金城美譚如月雪」を中心に——(秋山稔) / 新資料紹介(新保千代子) / 特別寄稿 「非戦闘員」解説(吉田昌志) / 鏡花研究会消息 / あとがき

1-9. 『鏡花研究』 第9号 2000年3月31日 編集:小林輝治 発行:石川近代文学館

収録:鏡花作品における秘数(三)——白山靈驗譚——(吉村博任) / 「照葉狂言」の背景——懐旧と離郷——(秋山稔) / 「婦系図」——二重化する主人公——(穴倉玉日) / 鏡花小説における《私》語りの機能(1)——「磯あそびの場合——(越野格) / 「山海評判記」成立考——旅館・鉄道・井戸覗き——(田中励儀) / 『鏡花全集』未収新資料 「娘時代の身だしなみ」「芸術と修養」の二作(小林輝治) / 「無憂樹」校異(井口哲郎) / 蛇——水の幻影・泉鏡花の誘いと恐れ——(秦恒平) / 鏡花研究会消息 / あとがき

1-10. 『鏡花研究』 第10号 2002年3月30日 編集:小林輝治 発行:石川近代文学館

収録:贖罪の軌跡——「白鷺」から「萩薄内證話」まで——(吉村博任) / 「縷紅

新草」覚え書き —贖罪意識の観点から— (小林輝治) / 泉鏡花『桜心中』論 —
—輻湊するモチーフ— (秋山稔) / 「鶯花径」 — “松” に込められた母恋いの
けじめ— (小林弘子) / 『鏡花全集』未収録資料紹介 「子守役から筆を執るまで」
(田中勲儀) / 「歌行燈」校異 (井口哲郎) / 「春昼」「春昼後刻」への和泉式部伝説、
その他の民話の影響 (遺稿) (國田次郎) / 鏡花研究会消息 / あとがき

研究誌

1. 『開館二十五周年記念 「終焉記」と「未発表『序文』』』 1993年3月31日 発行：
財団法人石川近代文学館開館二十五周年記念刊行会
収録：はしがきに代えて (新保千代子) / 終焉記 (藤岡作太郎) / 『国文学史講話』未
発表「序文」 (西田幾多郎) / あとがき (新保千代子)

作品

1. 『森山啓小説集 市之丞と青葉』 1970年4月20日 著者：森山啓 発行：石川近代
文学館 発売：北国書林
収録：七つの願望 / 嫉妬 / 半年ごとの孤閨 / 鄙美人 / 彼が来るまで / 若いいのち / 青い
靴 / 市之城と青葉 / あとがき

全集

1. 『石川近代文学館全集』
 - 1-1. 『石川近代文学全集 1 泉鏡花』 1987年7月15日 著者：泉鏡花 編者：小林
輝治 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部
収録：義血俠血 / 照葉狂言 / 龍潭譚 / 化鳥 / 名媛記 / 海の鳴る時 / 薬薬取 / 國貞ゑが
く / 由縁の女 / 夫人利生記 / 繪本の春 / 卵塔場の天女 / 縷紅新草 / 愛と婚姻 / 北國空
 / 寸情風土記 / おばけずきのいはれ少々と處女作 / ロマンチツクと自然主義 / 予の態
度 / 能樂座談 / 賣卜先生 / 大和心 / 貧民俱樂部 / 評伝 鏡花・その生涯と文学 (小林
輝治) / 解説 (小林輝治) / 参考文献 (小林輝治) / 年譜 (小林輝治) / あとがき (小
林輝治)
 - 1-2. 『石川近代文学全集 2 徳田秋声』 1991年1月15日 著者：徳田秋声 編者：
小林輝治 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部
収録：光を追うて / 懺 / 煩悶 / 女教師 / 甥 / 四十女 / 母 / 死後 / 丸薬 / 暗い町 (古洞
画) / 穴 / 冷たい目 / 葦 / 鶯の羹 / 菊見 / 感傷的のこと / 籠の小鳥 / 不安の中に / 挿話
 / 町の踊り場 / 旅日記 / 名ばかりの普通選挙 / 郷里へ来て (「思い出るまゝ」より) /
時事漫談 / 鶯・鯉・鴨など / 田舎の春 / 漫言 秋声録 / 実妹家門フデ宛書簡 / 講演文
郷里金澤 / 卷末研究 (和座幸子) (評伝 秋声・その生涯と文学 / 作品解説 / 参考文献

／年譜〉／あとがき

1-3. 『石川近代文学全集 3 室生犀星』 1998年10月31日 著者：室生犀星 編者：新保千代子 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：性に目覚める頃／或る少女の死まで／九谷庄三／すいかつら（抄）／後の日の童子／馬守眞／山河老ゆる／私の「白い牙」／熊／青い猿／鶴千代（改題「山犬」）・山犬続編／醫王山／弄獅子／くちなは／詩人 萩原朔太郎／舌を噛み切った女／三人の女／我が愛する詩人の傳記（抄）／人は、草ふかく／火の魚／巻末研究（新保千代子）〈評伝 私の中の室生犀星／作品解説／参考文献／年譜〉／あとがき

1-4. 『石川近代文学全集 4 深田久弥・水芦光子・島田清次郎・加賀耿二』 1996年3月1日 著者：深田久弥／水芦光子／島田清次郎／加賀耿二 編者：小林輝治 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：深田久弥〈火にも水にも／白山／金沢を思う〉／水芦光子〈雪の喪章／「雪の喪章」こぼればなし／おんいのち〉／島田清次郎〈地上一地に潜むもの／若芽〉／加賀耿二〈錦／少年／土地はだれのものか〉／巻末研究（小林輝治）〈評伝〔深田久弥／水芦光子／島田清次郎／加賀耿二〕／作品解説〔深田久弥／水芦光子／島田清次郎／加賀耿二〕／参考文献〔深田久弥／水芦光子／島田清次郎／加賀耿二〕／年譜〔深田久弥／水芦光子／島田清次郎／加賀耿二〕〉／あとがきに代えて

1-5. 『石川近代文学全集 5 加能作次郎・藤沢清造・戸部新十郎』 1988年2月29日 著者：加能作次郎／藤沢清造／戸部新十郎 編者：西敏明 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：加能作次郎〈恭三の父／厄年／羽織と時計／世の中へ／乙女心〉／藤沢清造〈根津権現裏（抄）／狼の吐息／「家康入國」の評判／生地獄凶抄〉／戸部新十郎〈安見隠岐の罪状／霞の水／加賀だいそうどう〉／巻末研究（西敏明）〈加能作次郎／藤沢清造／戸部新十郎〉／あとがき

1-6. 『石川近代文学全集 6 杉森久英』 1995年8月15日 著者：杉森久英 編者：水洞幸夫 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：能登／天才と狂人の間／能登の人／雪の町の少女／雪ぐにのひと／四高の思い出／河北潟／ふるさと能登の思い出／能登には天狗も住んでいた／百味一舌／加賀の蓮根／生きていたフナ／寿煎餅と千歳／赤いカマボコ／カニ／皮くじら／くちご／だごじる／ぶえんとからつ物／能登の味二つ／このわた／デンデン虫とさざえ／うどんと弁証法／上昇力と下降力／藤沢清造のこと／「悲惨な末路」という伝説／室生犀星の人と作品／能登の朝焼け／中野重治／評伝／作品解説／参考文献／年譜／あとがき

1-7. 『石川近代文学全集 7 井上靖』 1987年9月25日 著者：井上靖 編者：森井道男 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：北の海／夜の声／あすなろう／流星／夜の金魚／波の音／自然との奔放な生活

／青春を賭ける一つの情熱／金沢城の石垣／柔道部の先輩／高校時代の友の背後姿／井戸と山／砂丘と私／シベリアの旅／巻末研究（森井道男）〈評伝 芥川賞までの道程／解説／参考文献／年譜〉／あとがき

1-8. 『石川近代文学全集 8 中野重治』 1989年6月20日 著者：中野重治 編者：小川重明 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：歌のわかれ／むらぎも／愚かな女／旧友／四人の志願兵／司書の死／わが文学的自伝／自作案内／日本詩歌の思い出／濫読のあと／停滞期にいるものの回想／私の読書遍歴／万葉集のこのへんのところ／文学と私／六月／むかしのことむかしの人／金沢堅町山田屋小路／五十年まえと三十年まえ／先生の息子／加賀・能登の秋／脱けたところ脱けているところ／金沢の家／ふたしかな記憶／うろ覚えの記／わがエセ哲学／現場の人／北陸の文学／日本海の美しさ／旧盆すぎの奥能登／今日ただいまのところ／金沢の食いもの／こってりした美／私の故郷／嘘とまことと半々に／楽しき雑談八・松茸の残り／一つの対対話／書簡三通／巻末研究（小川重明）〈評伝 文学とその生涯／作品解説／参考文献／年譜〉／あとがき

1-9. 『石川近代文学全集 9 森山啓』 1988年10月31日 著者：森山啓 編者：森英一 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：愛別／北窓ひらく／葛花集／^{うる}鮎／野茨／美しいもの・醜いもの（抄）／ある男／貧者の愛／清洲橋／君を死なせはしない／淪落／出かせぎ／聖女の入浴／杞人の憂／風の吹く道／農婦病／野菊の露／関所破り／霜柱二十年（抄）／巻末研究（森英一）〈評伝 森山啓・人と文学／作品解説／参考文献／年譜〉／あとがき

1-10. 『石川近代文学全集 10 曾野綾子・五木寛之・古井由吉』 1987年11月20日 著者：曾野綾子／五木寛之／古井由吉 編者：鶴羽伸子／藤本徳明／金子直一 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：曾野綾子〈黎明〉／五木寛之〈朱鷺の墓 空笛の章／聖者が町へやってきた／小立野刑務所裏／浅の川暮色／夜の斧／天使の墓場／金沢での立原正秋／風邪の幻郷へ〉／古井由吉〈雪の下の蟹／影／踊り場参り／小説と土地／海の魚ども／何を疎んで／長い町の眠り〉／巻末研究〈曾野綾子（鶴羽伸子）／五木寛之（藤本徳明）／古井由吉（金子直一）〉／あとがき

1-11. 『石川近代文学全集 11 高橋治・高田宏』 1998年12月15日 著者：高橋治／高田宏 編者：秋山稔 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：高橋治〈紺青の鈴／名もなき道を（抄）／石の微笑み／墓を売る女／金沢との出会い／金沢の人々／泉鏡花、吐く名文〉／高田宏〈雪 古九谷／雪日本 心日本（抄）／白山のブナの森／日本海繁盛記（抄）／かくれんぼ／田舎の戦後〉／巻末研究（秋山稔）〈高橋治〔評伝 風と情と心一美と反俗、愛とロマンの作家の足跡／解説／参考文献／年譜〕／高田宏〔評伝 雪恋いの《詩人》高田宏一雪国人の軌跡／解説／参考

文献／年譜〕／あとがき

1-12. 『石川近代文学全集 12 三宅雪嶺・石橋忍月・藤岡東圃・桐生悠々 等』 1988

年 8 月 25 日 著者：三宅雪嶺／石橋忍月／藤岡東圃／桐生悠々 編者：藤田福夫 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：三宅雪嶺〈自分を語る／宇宙（抄）／雪嶺絶筆（抄）〉／石橋忍月〈束髪娘／金澤風俗の一斑〉／藤岡東圃〈松雲公小傳（抄）／金澤の工藝美術／北國新聞の五千號に當りて／浴余雑談〉／桐生悠々〈紅花染^{べにばなぞめ}／第四高等学校時代／「束髪娘」に就きて忍月居士に望む〉／阿部章蔵〈出張日記〉／阿部次郎〈北越の夏〉／大町桂月〈山水めぐり（抄）〉／田山花袋〈北國街道／山水小記（抄）／日本一周（抄）〉／長谷川如是閑〈金澤行〉／藤井紫影〈白山紀行／「藤岡東圃」傳記〉／吉田絃二郎〈北陸の旅〉／小倉正恆〈小倉正恆談叢（抄）〉／鴻巣盛廣〈北陸萬葉集古蹟研究（抄）〉／古屋文明〈續萬葉紀行〉／西田幾多郎〈若かりし日の東圃〉／横山源之助〈日本の下層社会（抄）〉／巻末研究（藤田福夫）〈評論・紀行の人々／（附）評伝三宅雪嶺先生／（附）石橋忍月の金沢時代／（附）金沢における藤井紫影〉／参考文献／年譜〈三宅雪嶺／石橋忍月／藤岡東圃／桐生悠々〉／著者紹介／定本一覧／あとがき

1-13. 『石川近代文学全集 13 中西悟堂・中谷宇吉郎・谷口吉郎』 1998 年 12 月 21

日 著者：中西悟堂／中谷宇吉郎／谷口吉郎 編者：井口哲郎 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：中西悟堂〈放飼の雀／尾長／やぶさめ／やませみ／カイツブリの観察／猛禽モズ／国鳥「キジ」物語／ホトギスの奇習／野鳥の歌と人の聞做し／加賀白山の記／三河鳳来寺山／安達太良山の記／カスミ網の実態と問題点／野鳥開眼／逍遙者〉／中谷宇吉郎〈私のふるさと／私の生まれた家／九谷焼／御殿の生活／西遊記の夢／簪を挿した蛇／若き日の思い出／真夏の日本海／科学以前の心／湯布院行／一人の無名作家／『日本石器時代提要』のこと／ツーン湖のほとり／温泉／生活の実験／イグアノドン^{イグアノドン}の唄／ウィネッカの冬／雑魚図譜／壁画模写／画業二十年／母性愛の蟹／御馳走の話／雪を作る話／霜柱と凍上^{こもり}の話／誰も生まれないまえから雪は降っていた（抄）／『北越雪譜』の科学／雷獣／雪は資源である／ハワイの雪／アラスカの氷河／極北の氷の下の町／線香花火／冬彦夜話／寅彦夏話／桂浜／鳥井さんのことなど／リチャードソン／湯川秀樹さんのこと／露伴先生と科学〉／谷口吉郎〈雪あかりの日——シンケル博物館／月明かりのmatter-horn／建築は口ではない／機会建築の内省／化膿した建築意匠／ミカンの皮の意匠／家と庭／建築に生きる（抄）／李太郎先生／壁画と建築／世界語としての「しぶい」／木・竹の意匠／墓碑の意匠／窓の表情／記念碑十話／椿と仏像／濃い伝統・深い色／金沢の川と森／きびしい風土の中の造形美／ごきみつさん／金沢と私／記念碑散歩〉／巻末研究（井口哲郎）〈中西悟堂〔評伝 文学と科学の間／解説／参考文献／年譜〕／中谷宇吉郎〔評伝 その出会い／解説／参

考文献／年譜]／谷口吉郎 [評伝 その文学志向／解説／参考文献／年譜]／あとがき)

1-14.『石川近代文学全集 14 近代小説・評論』 1993年9月20日 編者：森英一 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：奥野他見男〈或る医学士〉／酒井真人〈傑作の動機〉／橘外男〈ナリン殿下への回想〉／桜田常久〈静かなる湖底〉／窪川鶴次郎〈新浅草物語(抄)〉／陣出達朗〈牛首覚え帖〉／西敏明〈法幣地区〉／加藤勝代〈馬のにはほひ〉／生島治郎〈死者だけが血を流す(抄)〉／泉斜汀〈秋の金沢〉／矢田挿雲〈江戸から東京へ(抄)〉／水毛生伊作〈作家を中心として見たる最近の日本文学(抄)〉／大谷繞石〈銀屏〉／永瀬清子〈川柳・諷刺詩を否定す〉／鶴彬〈川柳は詩でないか——永瀬清子に答へる——〉／尾佐竹猛〈黒川良安の事蹟に就て〉／伊藤武雄〈アイスバイン／「芸術を民衆に」／今度は苦言を〉／小松伸六〈森山啓論／加能作次郎小論——大正期作家の宿命——〉／大沢衛〈ハーディ文学の研究(抄)〉／木村素衛〈魂の静かなる時に(抄)〉／小生夢坊〈沈説天狗の話(抄)〉／高村勝治〈へミングウェイ(抄)〉／福田陸太郎〈マリアン・ムーア〉／山本健吉〈妣の国／金沢の味覚さまざま〉／西義之〈旅すがら道すがら(抄)／旅は道連れ(抄)〉／小島小夜夫〈最近文壇の動静／階級芸術と社会性／文芸と階級に就いて〉／大島卓爾〈社会批評の文学／時代精神の芸術化〉／本田昴〈階級芸術について 大島卓爾君に〉／和田龍一〈金沢の観点に立つ——無産文学小論／金沢に於ける無産者芸術運動の方向——ナップ支部に与へる感想——〉／土居千一郎〈芸術の階級性、宣伝性 ナップに抗する人々に〉／巻末研究(森英一)〈作品解説／作者紹介／参考文献〉／あとがき

1-15.『石川近代文学全集 15 近代戯曲』 1990年8月30日 編者：井口哲郎 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：泉鏡花〈天主物語〉／仲木貞一〈柿実る村〉／室生犀星〈大槻伝蔵〉／藤沢清造〈恥／嘘〉／岡栄一郎〈意地／松永弾正／槍持定助／大名／討たず討たれず〉／北村喜八〈狂人を守る三人／山の喜劇／勸進帳／美しき家族／あゝ荒野〉／永井柳太郎〈銭屋五兵衛〉／巻末研究(井口哲郎)〈近代戯曲史の流れに沿って／作品解説／作者紹介／石川県戯曲年表／参考文献〉／あとがき

1-16.『石川近代文学全集 16 近代詩』 1991年10月5日 編者：上田正行 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：桐生悠々／国府犀東／暁鳥敏／江南文三／十河桂舟／表棹影／室生犀星／西出朝風／中川一政／藤森秀夫／多田不二／相川俊幸／中西悟堂／中山啓／杉江重英／宮崎孝政／小島貞一／村井武生／厚見他嶺夫／北村喜八／千石喜久／中野重治／窪川鶴次郎／太田辰夫／森山啓／中田忠太郎／黒田秀雄／太田敏種／明田弥三夫／島藪秀雄／陣出達朗／松田利久／鶴彬／島田清次郎／室木豊春／棚木一良／山谷多知夫／鷹樹

英弘／小笠原啓介／金浦翔二／高橋玄一郎／水芦光子／井上靖／永瀬清子／浜田友章
／石田良雄／浅野晃／木戸逸郎／相澤道郎／安水稔和／濱口國雄／福中都生子／やま
もとあきこ／広津理香／参考／卷末研究（上田正行）〈石川近代詩の流れ／石川県近代
詩年表／作者紹介／参考文献〉／あとがき

1-17. 『石川近代文学全集 17 近代短歌』 1996年7月1日 編者：藤田福夫／梶井重
雄／今村充夫 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：西田幾多郎／輿謝野寛／八波則吉／岡本大無／暁鳥敏／輿謝野晶子／鴻巣盛広
／篠原水衣／江戸さい子／竹久夢二／西出朝風／釋迢空／江南文三／秋山光夫／室生
犀星／尾山篤二郎／松村英一／植松寿樹／土屋文明／井田虎男／表棹影／古屋利之／
中川一政／中西悟堂／村上賢三／米山久子／綱村流水／菱哲／北村喜八／中野重治／
小木曾三郎／板緑秀太郎／駒井静子／窪川鶴治郎／密田良二／犬丸秀雄／太田辰夫／
長沢美津／飯田栄重／坪野哲久／山本賢次／折口春洋／井上靖／芦田高子／岡部文夫
／作田扶実子／市田渡／堀井泰一／伊豆蔵節子／栗山年尾／坂本其水／藤田福夫／梶
井重雄／金崎権理／稲元太市／吉島速夫／古川達夫／上川幸作／今井文子／乾満寿子
／糸藤義人／袋井幸子／西野寿美枝／大杉幸子／森美禰／西村裕子／毛利源光／今村
充夫／伊林利子／松谷繁次／竹内文子／津田嘉信／津川洋三／山口幸夫／清水温子／
吉田三郎／岩田記未子／中藤久子／尾沢清量／崎田富代／永井正子／飛鳥游美／喜多
昭夫／卷末研究〈石川県歌壇史／石川県歌壇年表／作者紹介〉／あとがき

1-18. 『石川近代文学全集 18 近代俳句』 1990年4月28日 編者：中西舗土／新田
祐久 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷・出版部

収録：藤井紫影／桂井未翁／松瀬青々／北川洗耳／石田露泣／筏井竹の門／徳田秋声
／泉鏡花／高浜虚子／太田南圃／大谷繞石／直野碧玲瓏／竹村秋竹／中川富女／蔵月
明／浅野白山／小松月尚／森本之棗／前田普羅／野村満花城／室生犀星／水原秋桜子
／高野素十／大森績翠／本田一杉／笹谷羊多樓／潮田紅果／西村公鳳／小松砂丘／新
田雨人／山本清嗣／杉原竹女／中村草田男／深田九山／野原木佳／坂本其水／北市都
黄男／山口誓子／中村笙川／黒田桜の園／野本永久／加藤楸邨／太田郁子／細見綾子
／中西舗土／清川とみ子／高島筍雄／今村青魚／蔵巨水／高木晴子／本岡歌子／柏禎
／沢木欣一／豊原月右／南秋草子／泉紫像／中山純子／千田一路／井上雪／小竹由岐
子／新田祐久／卷末研究〈石川県俳壇史（中西舗土）／石川県俳壇年表（新田祐久）
／作者紹介（中西舗土 新田祐久）／参考文献（中西舗土 新田祐久）〉／あとがき

1-19. 『石川近代文学全集 19 近代川柳』 1996年5月1日 編者：奥美瓜露 発行：
石川近代文学館 発売：能登印刷出版部

収録：窪田銀波樓／安川久留美／森田一二／永山香林坊／櫻井六葉／浅田紋二郎／櫻
井漁村／浅村蝶子郎／小林紅法師／高木鈴の家／小西兎絲子／浅村紅の花／中川めか
く子／宮島龍二／鶴彬／森下冬青／関本一瓢／越中今雨／秋山梅生／森高旭虹／山上

千太郎／野村松水／伊藤茶仏／林革刃／倉部東雲／河崎幸太楼／西せい花／橋爪京村
／西田自然人／荒木友路／森田白林／前田義風／辻村朱子郎／池高千秋／橋本沐人／
野村静古／田中方月／高島とし竜／塩谷三思樓／上田千路／開発秋醉／岡田一と／山
田良行／中谷道子／北村幽犀子／中嶋伊之助／細川聖夜／四方比呂美／森本清子／福
岡竜雄／多間哲夫／高山涼髪／高柳傍人／安部静／隅田外男／佃静波／宮村百々子／
高塚夏生／福村今日志／辰巳富子／寺中よし輔／浦真／吉田秀哉／御供田あい子／中
山北斗／酒井路也／谷口洋月／小森靖江／奥美瓜露／卷末研究〈石川県川柳史／石川
県川柳年表／作者紹介／参考文献・資料〉／あとがき

- 1-20.『石川近代文学全集別巻 軌跡・石川の近代文学』 1998年12月20日 編著者：
森英一／上田正行／小林輝治 発行：石川近代文学館 発売：能登印刷出版部
収録：石川近代文学史（森英一）〈第一章 近代文学の曙（明治元～30年）[四高の開
学／加賀の三太郎／北声会／石橋忍月／鏡花の上京／秋声の上京／桐生悠々／江口
渙]／第二章 近代文学の成立（明治31～45年）[明星派／北辰詩社／室生犀星／『蕪
すし』／秋声の開花／霜川と菊子]／第三章 近代文学の展開（大正元～12年）[『遍
路』／『卓上噴水』ほか／川柳の改革／加能作次郎／島田清次郎／相川俊幸／四高洋
画会／村井武生／犀星の小説／西出朝風／藤沢清造／千石と悟堂]／第四章 近代か
ら現代へ（大正13年～昭和8年）[北村喜八／仲木と岡／中野重治／『驢馬』／窪川
鶴次郎／森山啓／宮崎孝政／県内のプロ文運動（1）／『翁行燈』と『掌』／県内の
プロ文運動（2）／坪野啓久／岡部文夫／須井一／鶴彬／深田久弥／井上靖／昭和期
の秋声／鏡花その後]／第五章 戦中の文学（昭和9～19年）[永瀬清子／水芦光子
／短歌／俳句／詩／尾佐竹猛／矢田挿雲／奥野他見男／橋外男／桜田常久／尾山篤二
郎／伊藤・木村／山田克郎]／第六章 戦後文学の成立（昭和20～30年）[『文華』
／『新雪』ほか／『北陸文学』ほか／堀田善衛／「内灘問題」／文学碑]／第七章 現
代文学の展開（昭和31～45年）[沢木の上京／山本健吉／諸誌の創刊／曾野綾子・生
島治郎／杉森久英／五木寛之／石川近代文学館／諸作の発表]／第八章 現代文学の諸
相（昭和46～64年）／古井由吉／泉鏡花賞／『雪垣』他の創刊／『北陸文学』ほか
／女性の活躍／詩歌の作品／戸部新十郎／高田宏／小松伸六／高橋治／二人の新人／
石川近代文学全集／評論・研究]／石川近代文学年表（上田正行）／石川近代文学地
図 一能登から加賀へ・風や土と、そこで歴史を生きた人たち一（小林輝治）／「あ
とがき」に代えて さまざまに思い出されること

記念誌（周年）

- 1.『開館二十五周年記念 石川近代文学館と私』 1993年3月31日 発行：財団法人石
川近代文学館開館二十五周年記念刊行会
収録：はじめに（喜田惣一郎）／石川近代文学館と私〈二人の夢を（金子曾政）／近代

文学館と私（清水忠）／文学館と私—あの頃のこと—（西敏明）／思い出すままに（興村博子）／加能作次郎文学散歩（南秋草子）／「鏡花研究会」創立の頃（小林輝治）／湖北十一面観音めぐり（山川妙子）／鏡花生誕百年・それ以後——「鏡花研究会」のことなど——（吉村博任）／石川近代文学館と私——北村喜八（井口哲郎）／忘れえぬドナルド・キーン氏の講演（国田次郎）／「歌行燈」の世界（井上雪）／谷川俊太郎氏と朗読（井崎外枝子）／私と石川近代文学館（森昭夫）／開館十周年記念「婦系図」公演のことなど（小林弘子）／津軽への旅（江間富喜子）／「中野重治と天皇制——『五勺の酒』をめぐる』のこと（小川重明）／夢二歌碑建立まで（新保千代子）／秋声碑除幕式（森英一）／軽井沢文学散歩——一九八三・五・二二（中村靖子）／昭和六十年徳田秋声忌（平田富美子）／井上靖「流星」文学碑（森井道男）／鏡花幻視行——シュールの写真展から——（富田明子）／鏡花研究会のこと（田中励儀）／石川近代文学館を訪れた人々／石川近代文学館展示者一覧／あとがき

【46】泉鏡花記念館

館報

1. 『鏡花雪うさぎ』 創刊号 2005年3月31日

収録：あいさつ／わが心の「泉鏡花」／企画展紹介 絵画「鏡花幻想」展／泉鏡花文学碑（「化鳥」）と鏡花のみち／『鏡花の巡礼街道』／解説ボランティアレポート／事業予定・事業報告／ショップ紹介・雑記

【47】徳田秋聲記念館

図録

1. 『秋聲 —徳田秋聲記念館—』 2005年4月7日 発行：金沢市／徳田秋聲記念館

収録：ごあいさつ（山出保）／開館を迎えて（志賀紀雄）／秋聲文学の原風景 金沢・浅野川界限を中心に〈浅野川／卯辰山／ひがし茶屋街／尾張町裏通り／文学地図／秋聲とその故郷〉／徳田秋聲旧宅（東京）／小伝・時代を追うて〈一 幼少期 そして青春の彷徨／二 紅葉門下からの出発／三 自然主義文学の深化／四 新しい読者と共に／五 スキャンダルに抗して／六 「市井」からの凝視／（参考・1）秋聲作品映画化リスト／（参考・2）秋聲作品舞台化リスト〉／秋聲の愛した品々〈祖父と父（徳田章子）／秋聲とダンス（コラム・1）／秋聲とベートーヴェン（コラム・2）〉／秋聲はいまも新しい（松本徹）／新しい『徳田秋聲全集』の意義 鬱然たる秋聲文学、その全容

に迫る空前の集大成（小林脩）／徳田秋聲年譜／主要参考文献／資料提供・協力者一覧

【48】室生犀星記念館

図録

1. 『犀星 ～室生犀星記念館～』 2002年8月1日 編集：乃村工藝社／博文堂／デザインスタジオスピーク 発行：金沢市／室生犀星記念館
収録：ごあいさつ（山出保）／開館を迎えて（船登芳雄）／犀星望郷アルバム〈犀川／雨宝院／医王山／庭／金石海岸／犀星とその故郷〉／犀星人物アルバム〈悲しき生いたち～私生児として～／俳句の世界へ～注目の最年少俳人／状況、そして挫折／故郷に帰る／白秋に認められる／朔太郎との出会い／「人魚詩社」創立／恋する女ひと二人／朔太郎、金沢へ／『感情』創刊／田端文士村／養父の死／結婚／小説「幼年時代」掲載される／軽井沢で夏を過ごす／長男豹太郎の死／朝子の誕生／金沢に居を移す／犀星を訪ねた人々／自分の庭をつくる／『驢馬』創刊／芥川龍之介、自殺／義母の死／大森へ／唯一の海外旅行／とみ子倒れる／ドウゾウさん死す／逝きし人々／疎開／二つの文学碑／『女ひと』がベストセラーに／とみ子の死／文学賞受賞／闘病の日々／犀星、逝く／故郷の土に／犀星先生の金沢（堀多恵子）／犀星の愛した品々〈捨てられなかった段ボール箱（室生朝子）〉／犀星文学アルバム〈俳句／詩／お祝いひとこと（伊藤信吉）／小説／全集～没後発刊されたもの～／浅野川と犀星（加賀乙彦）／校歌〉／室生犀星年譜／資料提供・協力者一覧

【49】藤村記念館

図録

1. 『藤村童話とふるさと展』 1994年10月1日 編集：藤村記念館 目次無し
2. 『図録 島崎藤村』 2000年2月 編集・発行：藤村記念館
収録：カラー図版／藤村のふるさと 馬籠／上京 明治学院／青春期／詩人藤村の誕生／詩人から小説家へ／『家』完成前後／フランスへ／芝桜川町より麻布飯倉片町へ／大作『夜明け前』の完成／晩年の藤村／愛用の遺品／島崎藤村略年譜
3. 『藤村のことは 一溢るゝものこそすべてである一』 2003年11月 編集・発行：藤村記念館 目次無し
4. 『島崎藤村の文学碑 一誰でもが太陽であり得る一』 2004年8月22日 編集・発行：藤村記念館

収録：島崎藤村の文学碑〈1 一関文学の蔵詞碑／2 仙台青葉城詩碑／3 荒浜詩碑／4 下仁田詩碑／5 明治学院校詩碑／6 目黒区駒場詩碑／7 柿生草木寺詩碑／8 湯河原伊藤屋詩碑／9 天城湯ヶ島詞碑／10 飯山真宗寺詞碑／11 豊野駅前詞碑／12 豊野町蟹澤詞碑／13 小諸懐古園詩碑／14 JR小諸駅構内詩碑／15 惜別詩碑／16 小諸宮坂宅詩碑／17 小諸松井農園詩碑／18 臼田町稻荷山公園詩碑／19 穂高町藤村会詩碑／20 宮田村小田切宅歌碑／21 木曾高等学校詞碑／22 木曾教育会館詞碑 1／23 木曾教育会館詞碑 2／24 木曾福島小学校詞碑／25 上松小学校詞碑／26 旧荻原小学校詞碑／27 大桑中学校詞碑／28 南木曾中学校詞碑／29 旧妻籠小学校詞碑／30 山口中学校詞碑／31 藤村記念館詞碑 1／32 藤村記念館詞碑 2／33 藤村記念館詞碑／34 馬籠永昌寺詩碑／35 新茶屋詞碑／36 大久手桃園詞碑／37 伊良湖岬詩碑 1／38 伊良湖岬詩碑 2／39 奈良万葉植物園歌碑／40 石山寺詩碑／41 城崎駅前詞碑／42 ブラジル大和言葉歌碑〉／島崎藤村揮毫碑・関係した碑〈1 葛登紫岬壽楽園碑／2 仙台市名掛丁藤村広場／3 高崎市草木屋詞碑／4 「海水館」記念碑／5 泰明小学校記念碑／6 島崎藤村旧居跡（西大久保）／7 島崎藤村旧居跡（飯倉片町）／8 国木田独歩記念碑／9 北村透谷記念碑／10 塩壺温泉曲碑／11 蓮華寺跡碑／12 木村熊二記念碑／13 藤村旧栖地碑（小諸）／14 日向吉次郎記念碑／15 青木卓治記念碑／16 祢津羽衣榭記念碑／17 小山喜代野夫人碑／18 水車塚の碑／19 彌榮橋・木曾川プレート／20 蓮月不染乃墓／21 田山花袋墓／22 巢山家代々の墓（池田町）／23 巢山家代々の墓（木曾平沢）／24 島崎藤村の墓（大磯）／25 島崎藤村の墓（馬籠）／26 島崎正樹・縫子の墓／27 島崎家の墓（馬籠）／28 藤村下宿先のプレート

目録

1. 『藤村記念館文庫目録』 1982年3月 発行：藤村記念館

収録：第一文庫〈第一ケース／第二ケース／第三ケース／第四ケース／第五ケース／第六ケース／第七ケース／蔵書コーナー／記念展示コーナー／壁間・写真／第二文庫〈中央ケース／壁ケース一・二 詩書コレクション／壁ケース三 アルバムコーナー／壁ケース四 近代日本名著のおもかげ／壁ケース五 藤村自著、基礎研究書／壁間〉／資料収納庫／記念堂／隠居所／ふるさとの部屋／図書室

研究書

1. 『父藤村の思い出と書簡』 2002年8月22日 著者：島崎楠雄 編集・発行：藤村記念館

収録：まえがき（鈴木昭一）／むかしばなし／飯倉片町の頃／馬籠の土を踏みつつ／労働春秋／建設譜／緑屋の発足（1）／緑屋の発足（2）／緑屋の発足（3）／山のささや

き／父再び緑屋へ／父の再婚／庭づくりのこと／私の結婚／島崎家系図（作品登場人物）／『父藤村の思い出と書簡』によせて（井出孫六）

記録集

1. 『藤村記念館記念講演集』 1994年3月31日 発行：(財)藤村記念館
収録：作家論〈『夜明け前』の魅力（北小路健）／『破戒』をめぐって（平野謙）／『破戒』の本体について（田中富次郎）／藤村と農村（山室静）／思い出や、作品論や（伊藤信吉）／藤村詩の魅力（渋谷孝輔）／藤村と私（栗津則雄）／『夜明け前』と島崎正樹翁の和歌（鈴木昭一）／藤村と「比較日本学」（剣持武彦）／藤村と婦人運動（牧野式子）／文化講演〈万葉のころ（犬養孝）／ニューギニア食人族の生活（西丸震哉）／歴史と人間（井出孫六）／詩のあけぼの（山本太郎）／花は自然に咲く（岩沢喜作）／日本の芸能に現われた子供たち（篠田正浩）／父 藤村の思い出〈藤村の直筆で…／『嵐』についての私観（島崎楠雄）／父藤村の想ひ出を語る（島崎楠雄）／藤村一家の墓石由来／藤村没後五十念記念誌発刊について／カット（島崎緑二）

復刻

1. 『藤村いろは歌留多（復刻版）』 1980年12月25日 著者：島崎藤村／岡本一平 製作：実業之日本事業出版部 発行：藤村記念館
1-1. 『藤村いろは歌留多』 1926年1月5日 著者：島崎春樹／岡本一平 発行：実業之日本社
2. 『東方の門』 2001年9月 著者：島崎藤村 発行：藤村記念館
2-1. 『東方の門』 1944年10月9日 著作者：島崎藤村 発行：島崎楠雄

翻刻

1. 『明治女学校生徒 佐藤輔子の日記』 2003年12月10日 翻刻・編者：及川和男 発行：藤村記念館
収録：序文（鈴木昭一）／佐藤輔子の日記〈明治二十五年〔九月／十月／十一月／十二月〕／懐を述ぶ／注釈／佐藤輔子関連年譜／後記（及川和男）

館報

1. 『藤村記念館だより』
1-1. 『藤村記念館だより』 第1号 1973年10月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し
収録：藤村記念館の運営（島崎楠雄）／ふるさと友の会発足の頃（園原登）／藤村記念館の現況と将来の展望（末木利一）／夜明け前を読みつゝ（勝岡ふく江）／藤村先

生を忍ぶ夕べ（末木式子）／南窓雑記（一）＝藤村記念郷かたみのいえの来し方行く末＝（松原常雄）／参観者の声

1-2. 『藤村記念館だより』 第2号 1974年1月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し

収録：新春の夢（島崎楠雄）／古橋懐古館を見学して（末木利一）／藤村記念堂落成記念日に思うこと（大脇珠）／今年度の勤労作業（鈴木儀助）／南窓雑記（二）＝藤村記念郷の来し方行く末＝（松原常雄）／座談会 第一次藤村記念堂落成思い出話（末木利一）／記念講演会（末木式子）／四国旅行の思い出（牧野勲）／ある日の一日（有賀千恵）／参観者の声／ふるさと ー藤村童話ー／編集後記

1-3. 『藤村記念館だより』 第3号 1974年5月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し

収録：耐え得る心（島崎楠雄）／読み合わせ会の発展（浦沢美雪）／人の情（末木ふくゑ）／光は今（山中茂）／理事長あいさつ／昭和49年度藤村記念郷総会／昭和四九年度事業計画／藤村記念郷新役員／事務局組織／藤村記念郷規約／総会のまとめ（末木式子）／南窓雑記（三）＝藤村記念郷の来し方行く末＝（松原常雄）／参観者の声／記念講演会（末木式子）／ふるさと ー藤村童話ー 奥山に燃える火／編集後記

1-4. 『藤村記念館だより』 第4号 1974年7月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し

収録：嵐についての私観（一）（島崎楠雄）／藤村について（原富子）／北進越大会に参加して（末木利一）／職員研修旅行（鈴木千秋）／南窓雑記（四）＝藤村記念郷の来し方行く末＝（松原常雄）／参観者の声／ふるさと ー藤村童話＝ ふるさとの言葉／編集後記

1-5. 『藤村記念館だより』 第5号 1974年10月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し

収録：嵐についての私観（二）（島崎楠雄）／明治村一日研修旅行の思い出（小松孝夫）／村の歴史研究（勝岡福次郎）／木曾路観光に就て（有賀四郎）／南窓雑記（五）＝藤村記念郷の来し方行く末＝（松原常雄）／第三十二回忌 盛夏に藤村先生をしのぶ／理事長挨拶／公園（松原常雄）／参観者の声／ふるさと ー藤村童話＝ 五木の森／編集後記

1-6. 『藤村記念館だより』 第6号 1975年1月1日 発行：馬籠藤村記念郷 目次無し

収録：新春を迎えて（島崎楠雄）／勤労感謝の日に（原稔）／ふるさと ー藤村童話＝ 唄の好きな石臼／ペンの進がままに（原ただ）／南窓雑記（六）＝藤村記念郷の来し方行く末＝（松原常雄）／座談会 第二次藤村記念文庫落成思い出話（島崎緑

二) /夜明け前の魅力(北小路健) /役職員の方々の年賀/編集後記

1-7.『藤村記念館だより』 第7号 1975年5月1日 発行:馬籠藤村記念郷 目次無し

収録:昭和五十年藤村記念郷総会〈理事長あいさつ(島崎楠雄) /設立趣意書) /朗読(松原常雄) /昭和四十九年度事業報告/昭和五十年事業計画/嵐についての私観(三)(島崎楠雄) /南窓雑記(七) =藤村記念郷の来し方行く末=(松原常雄) /伊那路への招待〈縁えにしの糸(北小路健) /伊那路の旅(島崎楠雄) /祝辞(松原常雄) /随行走り書(尾澤久志) /「大宗館文庫」に寄せて(島崎緑二) /饗宴(小笠原春夫) /藤村文学に親しむ(婦人学級) /編集後記

1-8.『藤村記念館だより』 第8号 1975年7月1日 発行:馬籠藤村記念郷 目次無し

収録:嵐についての私観(四)(島崎楠雄) /藤村会館の設立について(牧野勲) /藤村植物園〈一(松原常雄) /二(島崎緑二) /三(牧野要治) /南窓雑記(八) 一藤村記念郷の来し方行く末一(松原常雄) /藤村先生紀行文「山陰土産」のあとをたずねて〈鳥取 松江(大脇好子) /津和野(末木式子) /萩(鈴木千秋) /山陰旅日記(松原常雄) /山陰ところどころ(島崎楠雄) /五月の日記の中から/ふるさと 一藤村童話 お茶をつくる家/編集後記

1-9.『藤村記念館だより』 第9号 1975年11月1日 発行:馬籠藤村記念郷 目次無し

収録:藤村先生 三十三回忌 感ずることども(島崎楠雄) /藤村先生の思い出〈うしろすがた(島崎蒨介) /父と共にありし日(井出柳子) /祖父の三十三回忌とその階層(島崎緑二) /三十三回忌法要を終えて(佐々木恵忠) /藤村先生の思い出(原いく) /一、挨拶(島崎楠雄) /二、遺髪埋葬式回顧(松原常雄) /藤村忌に出席して(大槻久雄) /三十三回忌に参加して) /座談会/南窓雑記(九) 一藤村記念郷の来し方行く末一(松原常雄) /まとめ(末木式子) /参加者の声/編集後記

1-10.『藤村記念館だより』 第10号 1976年1月1日 発行:財団法人藤村記念郷 目次無し

収録:新春所感(島崎楠雄) /破戒をめぐって 落成記念日講演会(平野謙) /記念郷十のニュース/馬籠集会所について(島崎渡) /藤村いろはがるた(原晨也) /読み合わせ会の遠足(園原登) /一日研修旅行(原市郎) /南窓雑記(一〇) 一藤村記念郷の来し方行く末一(松原常雄) /藤村記念館 第二文庫/役員の方々の年賀/編集後記

1-11.『藤村記念館だより』 第11号 1976年5月1日 発行:財団法人藤村記念郷 目次無し

収録:新年度に思うこと(島崎楠雄) /馬籠早春(沢田正春) /藤村先生 聖誕祭/

聖誕祭に参加して（笠井忠）／藤村先生のお誕生日（大脇千恵）／南窓雑記（一一）
—藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／昭和五十年事業報告／五十一年度事業
計画／総会まとめ（末木式子）／思うこと（西尾はつみ）／『藤村文学に親しむ会』
に参加しよう（島崎黎子）／ふるさと —藤村童話— 燕の来る頃／編集後記

1-12. 『藤村記念館だより』 第12号 1976年7月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：馬籠集会所の落成にあたって（島崎楠雄）／金沢・博物館研修会（松原常雄）
／秋田・博物館研修会（末木式子）／南窓雑記（一二） —藤村記念郷の来し方行く
末—（松原常雄）／五月の日記より／雑感（原邦雄）／ふるさと 藤村童話 たなば
たさま／りんご仲間入り 作品にちなむ『植物園』 山口村の藤村記念館／編集後記

1-13. 『藤村記念館だより』 第13号 1976年10月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：藤村先生、三十四回忌／父の思い出（島崎楠雄）／藤村とふるさと（松原常雄）
／藤村忌に寄せて（池田作治）／藤村記念館図書室を開くにあたって／南窓雑記（一
三） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／木曾と藤村文学（武居孝男）／
ふるさと —藤村童話— 梨や柿はお友達／編集後記

1-14. 『藤村記念館だより』 第14号 1977年1月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：新年のごあいさつ（島崎楠雄）／馬籠集会所 落成式 昭和五十一年五月二十
九日／馬籠集会所について（牧野勲 島崎緑二 園原登）／南窓雑記（一四） —藤
村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／役職員の方々の年賀

1-15. 『藤村記念館だより』 第15号 1977年5月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和五十二年総会〈総会所見（島崎楠雄）／藤村記念郷の回顧と展望（松原
常雄）〉／南窓雑記（一五） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／藤村先生
生誕祭／生誕祭の日のこと（宮下芳）／『破戒』をよんで（今井さだゑ）／ふるさと
—藤村童話— 草摘みに／質問二つ（松原常雄）／編集後記

1-16. 『藤村記念館だより』 第16号 1977年7月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：嵐についての私観（五）（島崎楠雄）／映画フィルム手に入る 一夜明け前、破
戒、嵐—／松阪 奈良 京都の旅（鈴木千秋）／木曾路にある芭蕉句碑／南窓雑記（一
六） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／長野県博物館協議会に出席して
（末木式子）／ふるさと —藤村童話— 玩具は野にも畠にも／編集後記

1-17. 『藤村記念館だより』 第17号 1977年10月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：藤村先生、三十五回忌 父の思い出（島崎楠雄）／藤村忌によせて（松原常雄）
／藤村忌に参加して（贅川永吉 鈴木早苗）／思うままに（末木式子）／南窓雑記（一
七） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／参加者の声／ふるさと —藤村
童話— 青い柿／編集後記

1-18. 『藤村記念館だより』 第 18 号 1978 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：雨あかり（島崎楠雄）／『ふるさと』座談会（島崎緑二 末木ふくゑ 大脇千
恵 古井徳松 松原常雄 大島りつ 原いく 勝岡ふく江 勝岡福次郎）／『ふるさ
と』いろはがるた／南窓雑記（一八） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）
／役職員年賀／おしらせ／編集後記

1-19. 『藤村記念館だより』 第 19 号 1978 年 5 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和五十三年度総会 春うらゝ（島崎楠雄）／藤村記念郷の回顧と展望（松原
常雄）／昭和五十三年度事業計画／南窓雑記（一九） —藤村記念郷の来し方行く末
—（松原常雄）／『破戒』の本体について（田中富次郎）／藤村先生 生誕祭／藤村
生誕祭に参加して（仁科寛 小林由利子）／島崎藤村詩碑除幕式に参列して（松原常
雄）／ふるさと —藤村童話— 雀のおやど／編集後記

1-20. 『藤村記念館だより』 第 20 号 1978 年 7 月 10 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：職員研修旅行の記（島崎緑二）／お盆を迎えて —追悼座談会—（島崎緑二 松
原常雄 園原登 牧野勲 鈴木儀助 佐々木恵忠 原市郎 横井正次郎 牧野要治
末木貢）／南窓雑記（二十） —藤村記念郷の来し方行く末—（松原常雄）／お礼の
手紙／ふるさと —藤村童話— 永昌寺／編集後記

1-21. 『藤村記念館だより』 第 21 号 1978 年 11 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：藤村先生 三十六回忌 挨拶（島崎楠雄）／藤村忌によせて（松原常雄）／“何
か善いことをやろまいか”（村山正）／南窓雑記（二十一） —藤村記念郷の来し方行
く末—（松原常雄）／藤村忌に参加して（河口賀一）／ふるさと —藤村童話— 炉
辺／おしらせ／編集後記

1-22. 『藤村記念館だより』 第 22 号 1979 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：賀正 皇太子殿下と記念館（島崎楠雄）／旅路・われ —馬籠藤村墓地—（黒
木清次）／詩と私信（島崎蒨助）／南窓雑記（二十二） —藤村記念郷の来し方行く
末—（松原常雄）／皇太子・同妃殿下をお迎えして（島崎緑二）／落成記念日 記念
式（挨拶（島崎楠雄）／落成記念日によせて（松原常雄）／祝辞（池田作二 栃秋勲

可知千) / 記念講演 藤村と農村 (山室静) / 編集後記

1-23. 『藤村記念館だより』 第 23 号 1979 年 4 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：理事長退任にあたって 一記念館の運営一 (島崎楠雄) / あいさつ (島崎緑二)
/ 藤村先生 生誕祭 / 島崎藤村について (斉藤通) / 映画「破戒」について (末木ユ
キ / 藤村生誕祭 (鈴木喜男) / 昭和五十三年度博物館等関係職員研修会 / 南窓雑記 (二
十三) 一藤村記念郷の来し方行く末一 (松原常雄) / 昭和 54 年度総会

1-24. 『藤村記念館だより』 第 24 号 1979 年 7 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：全理事長感謝慰労理事長激励の会 / 南窓雑記 (二十四) 一藤村記念郷の来し
方行く末一 (松原常雄) / 編集後記

1-25. 『藤村記念館だより』 第 25 号 1979 年 10 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：藤村先生 三十七回忌 挨拶 (島崎緑二) / 藤村先生 三十七回忌によせて (松
原常雄) / 合唱 朗唱 吟唱 / 三十七回忌の集いによせて (原慶也 宮下修二 末木
フクエ 西尾はつみ) / 故郷の人々の心に生きる藤村先生 (熊田昇) / 三十七回忌に
参加して (安藤知恵子) / お知らせ / 記念堂の植物 一パイカオーレン一 (寺沢宇平)
/ 前理事長島崎楠雄様表彰さる / 南窓雑記 (二十五) 一藤村記念郷の来し方行く末
一 (松原常雄) / 三月の日記から / ふるさと 一藤村童話一 お墓参りの道 / 編集後
記

1-26. 『藤村記念館だより』 第 26 号 1980 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：一九八〇年 賀正 (島崎緑二) / ふるさと藤村植物園 座談会 (島崎緑二 松
原常雄 宮下芳 牧野勲 末木貢 寺沢宇平 安藤知恵子 牧野要治) / 『ふるさと
藤村植物園』によせて (大橋登) / 南窓雑記 (二十六) 一藤村記念郷の来し方行く
末一 (松原常雄) / 第三十三会落成記念日 / 万葉のころ 一衣の縫目一 (犬養孝)
/ 謹賀新年 / ふるさと 一藤村童話一 冬の贈り物 / 編集後記

1-27. 『藤村記念館だより』 第 27 号 1980 年 4 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和五十五年度総会 あいさつ (島崎緑二) / 藤村美術 図書館 / 南窓雑記 (二
十七) 一藤村記念郷の来し方行く末一 (松原常雄) / 藤村先生 生誕祭 / 生誕祭に
参加して / 一おたより一 / 記念館の菊 (松田明) / 三十年誌を読んで (小口ゆり子)
/ 編集後記

1-28. 『藤村記念館だより』 第 28 号 1980 年 7 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：藤村記念館一級資料が時代順に 昔の隠居所は《ふるさとの部屋》(小田切進) / 旅のファインダー —島崎藤村記念堂— (黒木清次) / 南窓雑記 (二十八) —藤村記念郷の来し方行く末— (松原常雄) / お盆 / 永昌寺 / 島崎藤村先生の墓地を作る手伝い (勝岡福次郎) / お盆によせて (末木ふくゑ) / 『破戒』を訪ねて = 婦人会読み合わせグループ = (末木利子) / 藤村の作品『家』を読んで / 藤村記念館の遠足 / 記念館見学お礼手紙の中から / お礼の手紙から (古井つや子) / ふるさと —藤村童話— 鳥獣もお友達 / あとがき

1-29. 『藤村記念館だより』 第 29 号 1980 年 10 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し

収録：藤村先生 三十八回忌 (島崎緑二) / 藤村と草・木・花 (松原常雄) / 藤村忌によせて (大脇ちえ 末木吾朗) / 藤村先生にさゝぐコーラス / 参観者の声 / 南窓雑記 (二十九) —藤村記念郷の来し方行く末— (松原常雄) / ふるさと —藤村童話— はちの子 / あとがき

1-30. 『藤村記念館だより』 第 30 号 1981 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し

収録：賀正 (島崎緑二) / 『ふるさと』座談会 (島崎緑二 勝岡福次郎 牧野勲 勝岡ふく江 松原常雄 原いく 長谷川薫 末木ふくゑ) / 南窓雑記 (三十) —藤村記念郷の来し方行く末— (松原常雄) / 蜂に刺される (浦沢美雪) / 福島小学校の皆さんへ (松原常雄) / 案内所今昔 (古井つや子) / 役職員の方々の年賀

1-31. 『藤村記念館だより』 第 31 号 1981 年 4 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し

収録：第百九回 生誕祭 あいさつ (滝沢修 島崎緑二 高木孝一) / 『夜明け前』公演を観て (宮木義雄 宮川兵太 田口暉彦 牧野勲 後藤孝子) / 生誕祭に参加して (鈴木敬雄) / 民芸の方々を妻籠に迎えて (岡田昭司) / 民芸の方々を馬籠に迎えて (原和英) / 南窓雑記 (三十一) —藤村記念郷の来し方行く末— (松原常雄) / 昭和 56 年度総会

1-32. 『藤村記念館だより』 第 32 号 1981 年 7 月 15 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し

収録：前理事長 追悼 / 父より楠雄さんへの手紙 / 島崎前理事長と記念館だより / 父の死 (島崎樹夫) / 島崎楠雄さん追悼座談会 (島崎緑二) / 南窓雑記 (三十二) —藤村の手紙— (松原常雄)

1-33. 『藤村記念館だより』 第 33 号 1981 年 10 月 15 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し

収録：真夏の行事 (島崎緑二) / おはなし (松原常雄) / 藤村父子にささげる音楽会 / 南窓雑記 (三十三) —藤村記念郷の来し方行く末— (松原常雄) / 太陽の言葉 藤

村詩碑除幕式

- 1-34. 『藤村記念館だより』 第 34 号 1982 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：賀正 一九八二年 元旦／人はなぜ馬籠に行くか（井出孫六）／座談会 一い
ろいろなお客さん一（島崎緑二）／いろいろなお客様 一手紙による一／座談会 手
紙で思うこと一、二／南窓雑記（三十四） 藤村記念郷の来し方行く末（松原常雄）
／藤村いろはがるた
- 1-35. 『藤村記念館だより』 第 35 号 1982 年 5 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：昭和五十七年度総会 あいさつ（島崎緑二）／藤村記念郷の回顧と展望（松原
常雄）／設立趣意書／藤村先生 生誕祭／藤村の色彩感覚（末木式子）／木曾谷の藤
村碑（山口中学校郷土クラブ）／一父藤村の思い出を語る一（島崎楠雄 古井つや子）
／『幼さなものがたり』／あとがき
- 1-36. 『藤村記念館だより』 第 36 号 1982 年 7 月 15 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：松原先生 追悼／“誠実^{まこと}は残る” ——松原常雄先生がいただきつづけた言葉—
（田中富次郎）／松原先生の思い出（宮川兵太）／松原先生のこと（大槻久雄）／松
原先生のご冥福を祈る（浦沢美雪）／追悼座談会（島崎緑二 菊池重三郎 大中寅二
松原常雄）／おたより／島崎渡さんのこと（島崎緑二）／長野県博物館協議会に参加
して／唐澤政知の作文にたいする藤村の評言／編集後記
- 1-37. 『藤村記念館だより』 第 37 号 1982 年 7 月 15 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：真夏の行事 藤村先生四十四回忌／父 藤村行く（島崎鶏二）／菊池重三郎さ
んの思い出（牧野勲）／大中寅二さんの思い出／松原常雄先生の思い出（蜂谷宣彦）
／「第三文庫建設の経過」／菊池先生に感謝しながら（宮川兵太）／おたよりから／
編集後記
- 1-38. 『藤村記念館だより』 第 38 号 1983 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：覚え（島崎緑二）／父藤村の思い出と書簡（島崎楠雄）／第三十回全国博物館
大海に参加して（蜂谷宣彦）／感じること（西尾里恵）／目白三平を聞く（楯恵津子）
／あとがき
- 1-39. 『藤村記念館だより』 第 39 号 1983 年 5 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：昭和五十八年度総会 新年度に向けて（島崎緑二）／藤村記念郷 役員／無題
（丸山政吉）／「覚え」（島崎緑二）／藤村の生誕祭 藤村の少年時代（蜂谷宣彦）／

神坂の行事調べ（神坂小五年生）／ジョン・ミルンと藤村・漱石（森本貞子）

1-40. 『藤村記念館だより』 第40号 1983年7月20日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：父藤村の思い出と書簡（島崎楠雄）／藤村ゆかりの地を訪ねて 職員研修旅行
〈大磯（楯恵津子）／鎌倉（西尾里恵）／三浦と小田原 「長嶋家を訪ねて（島崎
緑二）／城ヶ島一油壺一小田原（鈴木定子）／天城ごえ（蜂谷宣彦）／おたよりから
／コーラスと小諸（牧野式子）

1-41. 『藤村記念館だより』 第41号 1983年11月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：真夏の行事 餅まき ―第三文庫上棟式に参列して―（島崎蒨助）／あいさつ
（島崎緑二）／眠れる春（大槻恵美子）／馬籠と私（夏目芳子）／おたより／先人の
展示感覚／一日研修旅行（蜂谷宣彦 牧野勲）

1-42. 『藤村記念館だより』 第42号 1984年1月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：賀正（島崎緑二）／第三十六回 藤村記念館落成記念日 第三文庫落成式 あ
いさつ（島崎緑二）／感謝状受賞者／謝辞（松下健一）／『記念公演』 第三文庫建
設の経過（河合慧四郎）／来館者の質問

1-43. 『藤村記念館だより』 第43号 1984年6月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和58年度総会／藤村生誕祭 あいさつ（島崎緑二）／一、作品「春」につ
いて（蜂谷宣彦）／二、ふるさとの歴史あれこれ（神坂小学校六年生）／第三文庫開
館式 お祝いのことば（可知千 粟津則雄 山本太郎 那珂太郎 涉沢孝輔 入沢康
夫 新藤涼子）／おたよりから

1-44. 『藤村記念館だより』 第44号 1984年8月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：氷魔を祓う ～植村直己さんを想いつつ～（山本太郎）／「齋垣居」の由来（島
崎蒨助）／十曲峠／京都研修旅行（西尾里恵 鈴木定子 楯恵津子 牧野式子）／藤
村の京都（蜂谷宣彦）／ふるさと ―藤村童話― えのきの実／あとがき

1-45. 『藤村記念館だより』 第45号 1985年1月1日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：賀正（島崎緑二）／思い出や 作品論や（伊藤信吉）／「佐藤輔子」について
（蜂谷宣彦）／第二十二回「藤村記念 歷程賞」／ふるさと ―藤村童話― 雪は踊
りつつある

1-46. 『藤村記念館だより』 第46号 1985年5月5日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和 60 年度総会／（続）思い出や・作品論や（伊藤信吉）／藤村生誕祭／生誕祭（島崎緑二）／生誕祭に参加して（古井つや子）／牧野勲さんを偲ぶ／読み合わせ会に参加して（末木昭）／あとがき

1-47. 『藤村記念館だより』 第 47 号 1985 年 11 月 5 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：馬籠の菩提寺（永昌寺）で藤村の四十三回忌／藤村ゆかりの人を訪ねた記 一
「或る婦人に与ふる手紙」の貴女（宮川兵太）／『柿本大人像』について（蜂谷宣彦）
／藤村忌のあいさつの為の稿（島崎緑二）／田中富次郎先生記念図書／藤村記念館を
訪れて／ふるさと 一藤村童話一 鳥屋

1-48. 『藤村記念館だより』 第 48 号 1986 年 1 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：年頭にあって（島崎緑二）／記念館日誌／新潟への研修旅行（蜂谷宣彦）／
役員研修旅行 東北（藤村と芭蕉（鈴木敬雄）／みちのくの旅（宮下敬三））／「ヨハ
ネによるキリスト受洗」の彫金像（蜂谷宣彦）／ふるさと 藤村童話 雪は踊りつつ
ある

1-49. 『藤村記念館だより』 第 49 号 1986 年 6 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：昭和 61 年度総会（4 月 22 日）／陳徳文氏のこと（島崎緑二）／藤村生誕祭／
ふるさと 一藤村童話一 水晶のおみやへ／あとがき

1-50. 『藤村記念館だより』 第 50 号 1986 年 11 月 1 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：記念館だより第五十号によせて（島崎緑二）／藤村記念堂の想い（安藤半一郎）
／記念堂によせて（今津のぶ子）／蛇の思い出（浦沢美雪）／藤村の詩歌を作曲して
の所感（小田切草心）／木曾路の旅（加藤昌子）／藤村の会のこと（北澤実）／消息
（島崎蒨助）／馬籠の笹苺（S・S）／『夜明け前』完読記念 木曾路再訪の旅（鈴木
昭一）／塩の音の詩碑によせて（田中節子）／おたより（陳徳文 土屋菊代）／芋焼
餅と五平餅と蜂の子（西丸四方）／お墓の思い出（林三男之助）／ふるさとに寄せた
藤村の心（原晨也）／郷里と郷土（飛田文雄）／シンガポールに於ける島崎藤村の足
跡を尋ねて（水野永一）／島崎藤村の人間像を探る 一教え子並びに長男楠雄氏の書
簡をめぐって一（三井文彦）／お便り（三村喜一郎）／馬籠の人と風土 藤村いろは
がるたを通して（森惣八郎）／『たより五十号を迎えて』（蜂谷宣彦）／あとがき

1-51. 『藤村記念館だより』 第 51 号 1987 年 1 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し

収録：無題（蜂谷宣彦）／藤村木曾路碑（西尾順一）／第四十会落成記念日講演会 氏
のあけぼの（山本太郎）／木蓮（堀進）

- 1-52. 『藤村記念館だより』 第 52 号 1987 年 6 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷
目次無し
収録：祖父藤村と私（島崎緑二）／木曾路の春 ～島崎藤村の足跡を訪ねて～（陳徳文）／藤村先生との初めての出会い（S・S）／『夜明け前』を読んで（北林敦 今井香代 原美里 大脇菜々）／映画『破戒』観賞（山口中学校三年生）／昭和 62 年度総会（5 月 12 日）
- 1-53. 『藤村記念館だより』 第 53 号 1987 年 10 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し
収録：一藤村忌記念講話— 藤村先生の小諸でのこと（鶴見享）／藤村、破戒、そして飯山（吉沢盛幸）／『夜明け前』を読んで（神坂小学校四年生）／山陰の旅 —職員研修旅行報告—／おたより／藤村忌記念行事／あとがき
- 1-54. 『藤村記念館だより』 第 54 号 1988 年 1 月 25 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し
収録：無題（蜂谷宣彦）／島崎藤村と木曾の教育 木曾中学校々歌（原慶也）／藤村詩の魅力（渋谷孝輔）／『夜明け前』ロケに参加して／おたより
- 1-55. 『藤村記念館だより』 第 55 号 1988 年 6 月 10 日 発行：財団法人藤村記念郷 目次無し
収録：昭和 63 年度総会（5 月 10 日）／六十二年度 事業報告／映画『夜明け前』観賞記／藤村生誕祭／第一回「馬籠・詩の学校」／馬籠・詩の学校雑感（関村亮一）／おたより／藤村童話 —ふるさと— お祖母さんのかぎ／あとがき
- 1-56. 『藤村記念館だより』 第 56 号 1988 年 11 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し
収録：藤村忌記念行事／藤村記に参列して（大脇秀子 森井小夜子）／馬籠（土屋郁子）／木曾路の旅から（平野勝重）／六十三年度職員研修旅行 ——北陸文学散歩——／あとがき
- 1-57. 『藤村記念館だより』 第 57 号 1989 年 2 月 28 日 発行：藤村記念館 目次無し
収録：年頭にあって（島崎緑二）／年頭雑感（蜂谷宣彦）／第四十二回落成記念日講演会 藤村と私（栗津則雄）／講演をお聞きして（下島かづ江）／年からきた馬籠人（曾谷道子）／藤村先生に学ぶ（森惣八郎）
- 1-58. 『藤村記念館だより』 第 58 号 1989 年 6 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し
収録：平成元年度総会（5 月 7 日）／役員研修旅行 西伊豆～箱根（古井秋郎 大脇喜久男）／藤村生誕祭／あとがき
- 1-59. 『藤村記念館だより』 第 59 号 1989 年 10 月 20 日 発行：藤村記念館 目次

無し

収録：藤村四十七回忌／「藤村いろは歌留多」について（蜂谷宣彦）／映画「夜明け前」を観て（原節子 曾我定子）／『破戒』の映画を観て（鈴木新藏）／職員研修旅行 大磯—横浜—東京／島崎藤村学会に参加して（牧野式子）／お知らせ／ふるさと—藤村童話— おんどりの冒険／あとがき

1-60. 『藤村記念館だより』 第 60 号 1990 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第四十二回落成記念日講演会 花は自然に咲く（岩澤喜作）／喜びと感謝の一日（大槻芳尾）／落成記念日によせて（原和英）／おさなものがたり —藤村童話— 冬のみやげ／あとがき

1-61. 『藤村記念館だより』 第 61 号 1990 年 6 月 20 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成二年度総会（5 月 7 日）／役員研修旅行 松阪—伊勢—伊賀上野（大人と俳人（末木貢）／記念郷研修の旅（拓殖日出夫）／本との出会い —『夜明け前』—（茅野益穂）／ことしも“読み合わせ会”を終わって（蜂谷宣彦）／藤村生誕祭（二月十七日）／第三回「馬籠・詩の学校」／馬籠・詩の学校に参加して（北川道雄）／—資料紹介— 初裕の軸／ふるさと —藤村童話— きつねの身の上話

1-62. 『藤村記念館だより』 第 62 号 1990 年 11 月 5 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村四十八回忌／藤村と婦人運動 『処女地』を中心として（牧野式子）／職員研修旅行（長崎オランダ村（園原明美）／長崎（西尾千奈実）／柳川（鈴木定子）／白秋の故郷柳川（蜂谷宣彦）／映画『破戒』を観て（原節子）／おたより／懐かしい「古里かるた」（大脇秀子）／ふるさと —藤村童話— 峠の馬のあいさつ／あとがき

1-63. 『藤村記念館だより』 第 63 号 1991 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第四三回落成記念日講演会 『夜明け前』と島崎正樹翁の和歌（鈴木昭一）／講演会を聞いて（牧野康）／あとがき／藤村童話 —ふるさと— 凧

1-64. 『藤村記念館だより』 第 64 号 1991 年 6 月 10 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成三年度総会（5 月 13 日）／旅の思い出 —奥浜名湖—（吉村彰 末木太郎）／藤村生誕祭／映画の「夜明け前」（吉村公三郎）／藤村会／ふるさと —藤村童話— 黒い蝶々／あとがき

1-65. 『藤村記念館だより』 第 65 号 1991 年 10 月 15 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村四十九回忌／第 49 回藤村忌に参列して（鈴木昭一）／心に残る四十九回藤村忌（北川道雄）／藤村忌に想う（寺沢宇平）／＝善祥夫妻との出逢い（島崎緑二）／おたより／「春」の峰子（西京とも云う）に因む地を訪ねて（蜂谷宣彦）／第 18 回 島崎藤村学会全国大会／職員研修旅行 江ノ島一鎌倉一東京／第三十三回 北信越博物館協議会総会（蜂谷宣彦）／馬籠での藤村一家（前沢婦美）／ふるさと 一藤村童話一 庄吉爺さん／お知らせ／あとがき

1-66. 『藤村記念館だより』 第 66 号 1992 年 1 月 20 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第 44 回 落成記念日講演会 日本の芸能に現れた子供たち（篠田正浩）／映画『嵐』を観て（曾我定子）／全国博物館大会に参加して（牧野式子）／小諸「藤村記念館」研修（鈴木大）／ふるさと 一藤村童話一 水の話／あとがき

1-67. 『藤村記念館だより』 第 67 号 1992 年 7 月 15 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成四年度総会（5 月 15 日）／伊良湖の岬に柳田国男を偲ぶ（島崎緑二）／島崎蒨助記念郷顧問追悼（弔辞（蜂谷宣彦）／葬儀に参列して（安藤茂良）／島崎蒨助氏の葬儀に参列して（原和英））／「第三記念文庫」設計基本プランに就いての備忘メモ（島崎蒨助）／役員研修旅行に参加して（末木昭）／霜伊那だより『分配』のこと（堀進）／馬籠の思い出（瓦林賢二）／藤村生誕祭／ふるさと 一藤村童話一 鯨すくい／あとがき

1-68. 『藤村記念館だより』 第 68 号 1992 年 11 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村五十回忌／藤村と「比較日本学」（剣持武彦）／参加者の声（第一回再読『夜明け前』の旅（藤岡達子）／再読『夜明け前』馬籠の旅（川戸洞恵美子））／おたより「尾張旭藤村を読む会」の人々／島崎藤村と刀匠堀井来助（小山内真二）／あとがき

1-69. 『藤村記念館だより』 第 69 号 1993 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：島崎正樹翁の掛物の若と自筆歌稿「松枝」・同「常葉集」（鈴木昭一）／第四十五回落成記念日 吉江忠男コンサート 一藤村詩を歌う一／藤村雑感（伊藤仁四郎）／「再び陳徳文氏のこと」（島崎緑二）／下伊那だより（二） 一飯田蛇笏と藤村のこと一（堀進）／あとがき

1-70. 『藤村記念館だより』 第 70 号 1993 年 6 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成五年度記念郷総会 一五月九日一／『東宝の門』と新資料 「桃林和尚廻国日記」〔写し〕（鈴木昭一）／一役員研修旅行一（大庭康雄）／倉敷にて（鈴木大）／十八年ぶりの岡山後楽園（鈴木光吉）／西行庵を訪ねて（原節子）／おしらせ／第

二十回藤村生誕祭／ふるさと ―藤村童話― 荷物を運ぶ馬／あとがき

1-71. 『藤村記念館だより』 第 71 号 1993 年 11 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村 五十一回忌／「ふるさと」に至る道（藪禎子）／木曾馬籠にて（市川雄二）／墓前を流れる濃密な時間（佐佐木政治）／平成五年度「北信越博物館協議会総会」参加報告（蜂谷宣彦）／東山魁夷館にて（西尾潔）／小布施長野への旅（鈴木英一）／一資料紹介一／おしらせ／あとがき

1-72. 『藤村記念館だより』 第 72 号 1994 年 1 月 15 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村の趣向 ―芭蕉・セザンヌ・ドビュッシーを中心に―（島崎緑二）／一資料紹介一／おしらせ／あとがき／ふるさと ―藤村童話― お隣の人達

1-73. 『藤村記念館だより』 第 73 号 1994 年 7 月 15 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成六年度記念郷総会／財団法人藤村記念郷役員名簿／『夜明け前』と私（原節子）／役員研修旅行 伊勢（旅行記（熊谷文男）／訃報（斎藤稔））／理事長 追悼式辞（蜂谷宣彦）／島崎緑二エッセイ 「十曲峠」／少年時代の水浴び／酒の肴／第二十一回藤村生誕祭／北信越博物館協議会総会 長岡市にて（鈴木定子）／おしらせ／あとがき

1-74. 『藤村記念館だより』 第 74 号 1995 年 1 月 15 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第 47 回落成記念日講演会 女したたかに美しく（島利栄子）／安雲野研修旅行（成瀬由美）／友の会一日研修旅行（松原智恵子）／「雪」（島崎緑二）／島崎緑二エッセイ 「ジャガ芋のこと」／あとがき

1-75. 『藤村記念館だより』 第 75 号 1995 年 5 月 10 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡 一 むかしばなし（島崎楠雄）／藤村記念館所蔵 藤村の未発表書簡など（永渕朋枝）／『春』をめぐって（堀井淳一）／第二十一回藤村生誕祭／ふるさと 藤村童話 小鳥の先達／あとがき

1-76. 『藤村記念館だより』 第 76 号 1995 年 7 月 20 日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡 二 飯倉片町の頃（前半）（島崎楠雄）／藤村記念館所蔵 藤村の未発表書簡など（永渕朋枝）／平成七年度総会（5 月 23 日）／ワイマアル・ふたたび（大脇修二）／財団法人藤村記念郷役員名簿／就任にあたって（佐々木禅了）／日誌より／お知らせ／訂正／あとがき

1-77. 『藤村記念館だより』 第 77 号 1995 年 11 月 1 日 編集：佐々木禅了 発行：

藤村記念館 目次無し

収録：島崎正樹全歌集（五十音順）（鈴木昭一）／父藤村の思ひ出と書簡 二 飯倉片町の頃（後半）（島崎楠雄）／第五十三回藤村忌／記念講演 「ふるさと」に想う（佐々木禅了）／鈴木健コンサート 藤村詩を歌う／収蔵資料の紹介／お知らせ／日誌より／あとがき

1-78. 『藤村記念館だより』 第78号 1996年1月15日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：島崎正樹全歌集（五十音順）その二（鈴木昭一）／父藤村の思ひ出と書簡 四 労働春秋（前半）（島崎楠雄）／藤村学会で考えた「一関と神戸」（瓦林賢二）／今はこの世にいない死者たちが書かせてくれました 第三十三回藤村記念歷程賞は那珂太郎氏の詩集「鎮魂歌」／あけましておめでとうございます（佐々木禅了）／日誌より／あとがき

1-79. 『藤村記念館だより』 第79号 1996年5月10日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡 四 労働春秋（後半）（島崎楠雄）／峠越え（庄司由美）／島崎正樹全歌集（五十音順）その三（鈴木昭一）／藤村記念館友の会 大磯研修旅行アンケートより／第二十二回 藤村生誕祭／日誌より／国際ペン大会への渡航時南方通信を寄するとて／あとがき

1-80. 『藤村記念館だより』 第80号 1996年7月25日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡 五 建設譜（前半）（島崎楠雄）／職員研修旅行／平成8年度 藤村記念館の運営及び事業計画／財団法人藤村記念郷役員名簿（平成8年度）／日誌より／お知らせ／あとがき

1-81. 『藤村記念館だより』 第81号 1996年11月1日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡 五 建設譜（後半）（島崎楠雄）／六 緑屋の發足（一）（前半）（島崎楠雄）／島崎正樹全歌集（五十音順）その四（鈴木昭一）／藤村忌に寄せて（佐々木禅了）／お知らせ／日誌より／あとがき

1-82. 『藤村記念館だより』 第82号 1997年1月1日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：創立五〇周年を迎えて（大脇修二）／第49回落成記念日講演会 藤村の海と山（十川信介）／父藤村の思ひ出と書簡 六 緑屋の發足（一）（後半）（島崎楠雄）／第四十九回落成記念日／お知らせ／島崎藤村文学碑展／日誌より／あとがき

1-83. 『藤村記念館だより』 第83号 1997年5月1日 編集：佐々木禅了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：創立五〇周年記念／藤村記念事業 旧・ふるさと友の會會員／旧ふるさと友の會會員による「回想・そしてあの時代」(一)／藤村記念館 50年・小史／「回想・そしてあの時代」(二)／菊池重三郎氏の横顔／座談会 藤村堂創立・五〇年後の回想(日室み江 原美千代 園原文江 日室千保)／後記にかえて(大脇修二)

1-84. 『藤村記念館だより』 第84号 1997年8月1日 編集：佐々木禪了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：島崎正樹全歌集(五十音順)その五(鈴木昭一)／父藤村の思ひ出と書簡(七) 緑屋の發足(2)(前半)(島崎楠雄)／平成八年度事業報告／平成九年度事業計画／平成九年度 財団法人藤村記念郷通常總會資料より(大脇修二)／財団法人藤村記念郷役員名簿(平成9年度)／五月二十四日御前十一時十分 入館者一千万人達成／日誌より／資料受贈について／お知らせ／あとがき

1-85. 『藤村記念館だより』 第85号 1997年11月15日 編集：佐々木禪了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：『夜明け前』を見直して新脚本を書く(津上忠)／インタビュー 「新劇の素晴らしき遺産を現代の視点で蘇らせたい」(木村光一)／あとがき

1-86. 『藤村記念館だより』 第86号 1998年1月20日 編集：佐々木禪了 発行：藤村記念館 目次無し

収録：年頭にあたって(大脇修二)／島崎正樹全歌集(五十音順)その六(鈴木昭一)／父藤村の思ひ出と書簡(七) 緑屋の發足(2)(後半)(島崎楠雄)／落成五十周年記念講演 山国に健康に生きるための基礎知識(西丸震哉)／第五十回落成記念日／資料受贈について／お知らせ／日誌より

1-87. 『藤村記念館だより』 第87号 1998年6月5日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：藤村記念館館長主任にあたって(鈴木昭一)／平成十年度通常總會資料 財団法人藤村記念郷の運営及び事業計画・(要旨)(大脇修二)／事業計画(概要)／平成九年度事業報告／財団法人藤村記念郷役員名簿／第二十五回藤村生誕祭／島崎正樹全歌集(五十音順)その七(鈴木昭一)／父藤村の思ひ出と書簡 八 緑屋の發足(3)(島崎楠雄)／日誌より

1-88. 『藤村記念館だより』 第88号 1998年10月30日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：父藤村の思ひ出と書簡(九)(前半)(島崎楠雄)／第五十二回藤村忌 講演「詩人藤村の誕生」(鈴木昭一)／『夜明け前』の舞台探訪 一下諏訪・和田峠方面一(斎藤稔)／追悼・犬養孝先生(大脇修二)／お知らせ

1-89. 『藤村記念館だより』 第89号 1999年1月26日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：年頭にあたって（大脇修二）／第五十一回落成記念日講演会 藤村と現代（黒井千次）／父藤村の思ひ出と書簡（九）（前半）（島崎楠雄）／お知らせ／日誌より／藤村記念館友の会研修旅行（滋賀～京都）／あとがき

1-90. 『藤村記念館だより』 第90号 1999年4月30日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：企画展「藤村のフランス」開催にあたって（鈴木昭一）／藤村アルバムより／藤村とフランス／平成十一年度 文学散歩のお知らせ／あとがき

1-91. 『藤村記念館だより』 第91号 1999年7月7日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成十一年度 藤村記念郷通常総会資料財団法人藤村記念郷の事業報告及び事業計画（要旨）（大脇修二）／平成十年事業報告／平成十一年度事業計画／財団法人藤村記念郷役員名簿（平成十一年度）／父藤村の思ひ出と書簡（十）（島崎楠雄）／シリーズ・藤村文学の世界を歩く 第一回『夜明け前』の舞台を歩く／お知らせ／木曾五木復活！！／来館者と語る ベアテ・シロタ・ゴードンさん ―藤村との出会い―／日誌より／あとがき

1-92. 『藤村記念館だより』 第92号 1999年10月1日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第五十七回藤村忌講演 長編作家としての藤村（加賀乙彦）／島崎正樹全歌集（五十音順）その八（鈴木昭一）／父藤村の思ひ出と書簡（十）（島崎楠雄）／第二回文学散歩 木曾谷文学散歩（二村英文）／お知らせ／日誌より

1-93. 『藤村記念館だより』 第93号 2000年1月25日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：年頭にあたって（大脇修二）／第五十二回落成記念日講演会 初めて馬籠を訪れた頃（畑中良輔）／島崎正樹全歌集（五十音順）その九（鈴木昭一）／父藤村の思ひ出と書簡（十）（島崎楠雄）／お知らせ／日誌より

1-94. 『藤村記念館だより』 第94号 2000年5月1日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：企画展『夜明け前』の世界によせて（鈴木昭一）／平成十二年度文学散歩 『夜明け前』ゆかりの地探訪／お知らせ／あとがき

1-95. 『藤村記念館だより』 第95号 2000年7月30日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成十二年度 藤村記念郷通常総会資料 財団法人藤村記念郷の事業報告及び事業計画（要旨）（大脇修二）／平成十一年度事業報告／平成十二年度事業計画／財団法人藤村記念郷役員名簿（平成十二年度）／父藤村の思ひ出と書簡（十一）（島崎楠雄）／父藤村の思ひ出と書簡（十二）（島崎楠雄）／水車塚によせて（新村洋子）／滝沢修

さん逝く／日誌より／お知らせ／あとがき

1-96. 『藤村記念館だより』 第96号 2000年12月25日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：『夜明け前』と黒船（鈴木昭一）／父藤村の思ひ出と書簡 十三 私の結婚（前半）（島崎楠雄）／「フランシスの伝説」（崎山信義）／藤村忌あいさつ／お知らせ／あとがき

1-97. 『藤村記念館だより』 第97号 2001年3月10日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：落成記念日講演 『夜明け』のあと（澤地久枝）／父藤村の思ひ出と書簡 十三 私の結婚（後半）（島崎楠雄）／新資料紹介／日誌より／藤村生誕祭プログラム／お知らせ／あとがき

1-98. 『藤村記念館だより』 第98号 2001年7月18日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：平成十三年度 藤村記念郷通常総会 事業報告及び事業計画（要旨）（大脇修二）／平成十二年度事業報告／平成十三年度事業計画／財団法人藤村記念郷役員名簿（平成十二年度）／島崎正樹全歌集（五十音順）その十（鈴木昭一）／随想集『桃の雫』より 三議鳩の記／『落梅集』より／日誌より／お知らせ／あとがき

1-99. 『藤村記念館だより』 第99号 2001年10月20日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：第五十九回藤村忌講演「山国の声」（高田宏）／お手紙より／私のロケ体験記（島崎晴哉）／お知らせ／日誌より／あとがき

1-100. 『藤村記念館だより』 第100号 2002年1月1日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：年頭にあたって（大脇修二）／五十四回落成記念日記念講演「島崎藤村の憂鬱」（車谷長吉）／「文学散歩」に参加して／藤村記念館だより100号 ～ともに歩んで～（牧野式子）／「ガイドノート」から（小川洋一 斉藤稔）／資料紹介 藤村が子供に与えた絵／お知らせ／日誌より／あとがき

1-101. 『藤村記念館だより』 第101号 2002年4月30日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：島崎藤村第二十九回生誕祭（百三十歳） 記念講演「藤村先生のお誕生日」（鈴木昭一）／第五十四回藤村記念堂落成記念日の車谷長吉さんの講演「藤村の憂鬱」を聞いて（中島登美子）／大統領選挙戦の印象（島崎藤村）／資料紹介／日誌より／お知らせ／資料貸し出し／あとがき

1-102. 『藤村記念館だより』 第102号 2002年6月30日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：没後 60 年記念舞台公演 藤村忌（8 月 22 日夜） 藤村の青春を描く（高木達）
／演劇の舞台で知る 藤村が歩んだ道（黒川鍾信）／青春の賊 あらすじ（高木達）
／島崎正樹全歌集（五十音順）その十一（鈴木昭一）／平成十三年度事業報告／平成
14 年度事業計画（要旨）（大脇修二）／財団法人藤村記念郷役員名簿（平成十四年度）
／日誌より／お知らせ／あとがき

1-103. 『藤村記念館だより』 第 103 号 2003 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：お便りから（大脇修二）／藤村六十回忌講演 詩から散文へ—小諸時代の藤村
（井出孫六）／資料紹介／最も近い国、韓国 —島崎藤村学会・慶州国際大会に参加
して—（洞田睦）／日誌より／お知らせ／あとがき

1-104. 『藤村記念館だより』 第 104 号 2003 年 6 月 15 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：平成十五年度藤村記念郷事業計画（要旨）（大脇修二）／平成十五年度財団法人
藤村記念郷役員／第五十六回落成記念講演「藤村の家をめぐる」（高井有一）／第三
十回藤村生誕祭講演「島崎正樹翁のふるさと讃歌」（鈴木昭一）／日誌より／お知らせ
／第六十一回藤村忌／企画展 藤村のことば —溢るゝものこそすべてである—／ミ
ュージアム・グッズ／ホームページについて／あとがき

1-105. 『藤村記念館だより』 第 105 号 2003 年 9 月 7 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：島崎正樹全歌集（五十音順）その十三（鈴木昭一）／日誌より／藤村のふるさ
と散歩 親子、友達で歩こう／お知らせ／図書紹介 島崎蕪助自伝 父・藤村への抵
抗と回帰（平岡敏夫）

1-106. 『藤村記念館だより』 第 106 号 2004 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：第六十一回忌講演 嵐 三つの「ご縁」を介して（秦恒平）／第五十六回落成
記念日記念行事から ふるさと友の会会員と語る／第四十一回「藤村記念歷程賞」受
賞作品／日誌より／お知らせ

1-107. 『藤村記念館だより』 第 107 号 2004 年 5 月 16 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：誰でもが太陽であり得る —島崎藤村の文学碑について—／第 31 回 藤村生
誕祭講演 春樹少年（藤村先生）の少年時代（鈴木昭一）／生誕祭プログラム／日誌
より／お知らせ／企画展／平成十六年度賛助会員募集／あとがき

1-108. 『藤村記念館だより』 第 108 号 2004 年 8 月 8 日 発行：藤村記念館 目次
無し

収録：ワイマアル…ふたたび（大脇修二）／島崎正樹全歌集（五十音順）その十四（鈴

木昭一) / 絵地図「馬籠」に寄せて (久芳勝也) / 島崎房子さんを偲ぶ (母、房子のこと (島崎五美雄) / 四方木屋のおばあちゃん (鈴木定子)) / 企画展あれこれ / お手紙 / 日誌より / 七夕祭り / お知らせ / あとがき

1-109. 『藤村記念館だより』 第 109 号 2004 年 10 月 25 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：詩碑「初こひのうた」の建立・序幕に寄す (鈴木昭一) / 藤村の墓守 第 62 回忌講演 (黒川鐘信) / 私の藤村・わたしの木曾路 (今、木曾馬籠を想う (柳沢京子) / 藤村と木曾の料理 (中川俊郎)) / ミュージアム・ショップ新製品のご案内 / CD 発売にあたって / 藤村詩集を歌う (伊藤仁四郎) / 日誌より / お知らせ / あとがき

1-110. 『藤村記念館だより』 第 110 号 2005 年 1 月 1 日 発行：藤村記念館 目次無し

収録：是より北木曾路…今 (大脇修二) / 「初恋」が一つの運命 (小沢守) / 私の藤村・わたしの木曾路 (「直角に片付ける」—馬籠の思い出 (片山和俊)) / 随想 島崎こま子さん (磯村道代) / 力餅 —藤村童話— / 日誌より / お知らせ / あとがき

記念誌 (周年)

1. 『藤村記念郷三十年誌』 1979 年 3 月 1 日 編集：編集委員会 発行：財団法人藤村記念郷

収録：一、藤村年譜 / 二、合い談法人藤村記念郷設立趣意書 / 三、藤村記念堂落成前後 / 四、藤村記念館落成 / 五、春樹少年を語る村の古老、其他 / 六、藤村記念館案内 / 七、藤村記念堂落成思い出話 / 八、藤村記念郷の来し方行く末 (一～一二) / 九、藤村資料館建設趣意書と思い出話 (注 正しくは資料館第一文庫) / 一〇、藤村記念郷の来し方行く末 (一三～二三) / 一一、隠居所とふるさとの部屋 / 一二、第二文庫の構成と展示を終えて (注 資料館第二文庫) / 一三、馬籠集会所「図書室、案内所」 / 一四、手洗い / 一五、三大行事 藤村忌・落成記念日・聖誕祭 / 一六、藤村と教育会・学校・社会 / 一七、ふるさと藤村植物園 / 一八、昭和四十年年度以降総会 / 一九、藤村記念郷役職員 / 二〇、映画フィルム「夜明け前」「破戒」「嵐」入手 / 二一、年度別観覧者数 / 二二、参観者の声 / 二三、今日までの主な行事、テレビ、新聞等々 / 二四、日記抄 / 二五、本文裏打ちとなる写真随所に掲載 / 二六、編集後記

2. 『藤村記念館五十年誌』 1997 年 11 月 1 日 編集：佐々木禅了 / 蜂谷宜彦 / 牧野式子 / 鈴木定子 発行：財団法人藤村記念郷

収録：五十年誌によせて (大脇修二) / 財団法人藤村記念郷設立趣意書 / 財団法人藤村記念郷寄附行為 / 第一章藤村記念堂の建設 (木曾馬籠 (菊地重三郎) / 馬籠の記念堂 (谷口吉郎) / 新しい造形美を求めて——亀井勝一郎氏との対談—— (谷口吉郎) / 藤村記念館の完成まで (安藤茂一) / 藤村資料館落成と回顧 (松原常雄) / 馬籠まつり (有島

生馬)) /第二章ふるさと友の会(座談会「第一次藤村記念堂落成思い出話」/座談会「第二次藤村記念文庫落成思い出話」/ふるさと友の会会員名簿/回想・そしてあの時代(一)[横井正次郎/牧野要治/日室寅雄/大脇敏平/志水乙吉/鈴木儀助/杉山高雄/鈴木虎三/張山平造/磯村林平/土屋玄一/日室敏郎/鈴木鎌吉]/回想・そしてあの時代(二)[小笠原貞司/杉山巳之助/末木百介/張山不二/佐藤一馬/原勝/和合秀雄/原和英/日室典二/原春喜/蜂谷宜彦/安江春子/科野八重]) /第三章藤村記念館の歩み(藤村三十三回忌(昭和五十年八月二十二日)[感ずることども(島崎楠雄)]/藤村の思い出[うしろすがた(島崎蕪介)/父と共にありし日(井出柳子)/祖父の三十三回忌とその回想(島崎緑二)/三十三回忌法要を終えて(佐々木恵忠)]/馬籠集会所落成式(昭和五十一年五月二十九日)[落成にあたって(島崎楠雄)]/藤村記念館三十周年(昭和五十三年十一月十五日)[皇太子美智子妃殿下をお迎えして(松原常雄)]/前理事長感謝慰労理事長激励の会(昭和五十四年六月一日)[挨拶(島崎緑二)/慰労の会によせて(松原常雄)/挨拶(犬養孝)/挨拶(藤田金之助)/謝辞(島崎楠雄)]/劇団民芸の方々の来訪(昭和五十六年二月)[あいさつ(滝沢修)/あいさつ(島崎緑二)/あいさつ(高木孝一)/『夜明け前』公演を終えて(牧野勲)]/藤村詩碑除幕式(昭和五十六年四月)/初代理事長島崎楠雄 追悼[御詠歌(島崎文子)/追悼座談会]/第三文庫落成・開館式(昭和五十八年十月十五日・五十九年三月四日)[祝辞(栗津則雄)/祝辞(山本太郎)/祝辞(那珂太郎)/祝辞(渋沢孝輔)/祝辞(入沢康夫)/祝辞(新藤涼子)]/藤村記念歷程賞の発足(昭和五十九年)(栗津則雄)/『夜明け前』(NHK)テレビ馬籠ロケ(昭和六十二年二月)[古井輝夫/原初文/鈴木信芳/安藤幹夫/原壮太]/「馬籠・誌の学校」開校[馬籠・誌の学校に参加して(北川道雄)]/藤村五十回忌(平成四年八月二十二日)[藤村のことば(島崎緑二)]/第二十回島崎藤村学会全国大会(平成四年八月二十三日)[島崎藤村学会全国大会に際して(剣持武彦)/島崎藤村学会馬籠大会]/ワイマアルふたたび——理事長就任あいさつ——(大脇修二)/企画展の開催/読み合わせ会[『夜明け前』を読みつつ(勝岡ふく江)/読み合わせ会の発展(浦沢美雪)/『藤村文学に親しむ会』に参加しよう(島崎黎子)/『破戒』を読んで(今井さだゑ)/ことしの“読み合わせ会”を終わって(蜂谷宜彦)]/読み合わせ会と文学講座[映画『破戒』について(末木ユキ)/藤村生誕祭(鈴木善男)/映画『嵐』鑑賞記(島崎麻子)/『嵐』について(国原英雄)/藤村先生(加藤ゆかり)/半蔵の生き方(後藤和代)/半蔵の一生(宮下美恵)/半蔵の心(鈴木圭)/身分差の苦しみは上の人にも(末木強)]/第四章藤村とふるさと馬籠——あのころの馬籠(昭和二十年代)——(「ふるさと」に至る道(藪禎子)/座談会 少年藤村と馬籠/座談会 ふるさとと藤村/座談会 ふるさとの行事/座談会 藤村童話『ふるさと』を中心にして/藤村をめぐる思い出[藤村先生のお誕生日(大脇ちゑ)/島崎藤村先生の基地を作る手伝い(勝岡福次郎)/藤村先生との初めての出会い(杉

山宗一) / 馬籠での藤村一家 (前沢婦美)] / 三大行事) / 第五章年表 (藤村記念館年譜——日誌より—— / 第六章資料編 (藤村記念館事務局職員 / 藤村記念郷役員 / 創立当初からの決算書 / 入館者の推移) / あとがき

【51】(財) 芹沢・井上文学館

発行物無し

【52】浜松文芸館

図録

1. 『浜松文芸十人の先駆者』 発行年月日不明 発行：浜松文芸館
収録：松島十湖 / 加藤雪腸 / 柳本城西 / 原田濱人 / 鷹野つぎ / 相生垣瓜人 / 清水みのる / 百合山羽公 / 藤枝静男 / 小百合葉子

【53】新美南吉記念館

図録

1. 『新美南吉』 2000年3月 編集・発行：新美南吉記念館
収録：誕生から小学校の卒業まで / 半田中学校入学から「ごん狐」の誕生まで / = 聖歌との出会いと東京での暮らし / 岩滑への帰郷から運命との闘い / 南吉文学の幕開け / 南吉文学の青春 / 『おぢいさんのランプ』から永眠まで / 日記・ノート / 童謡・師・短歌・俳句 / 教科書の南吉作品 / 新美南吉記念館の収蔵品 / 新美南吉文学散歩 / 新美南吉年譜 / 新美南吉記念館案内 / 蔵と山車と南吉の町 半田市

紀要

1. 『研究紀要』 → 『新美南吉記念館 研究紀要』
 - 1-1. 『研究紀要』 第1号 1995年3月 発行新美南吉記念館
収録：安城高女時代の南美南吉 (沢田保彦) / 新美南吉と歌見誠一 (遠山光嗣) / 南吉文学と郷土 (II) / 「南吉文庫」から「新美南吉記念館」へ (大石源三) / 新美南吉顕彰のあゆみ (一) —— 著作集・研究文献について —— (片山秀雄) / 資料一 新美南吉童話賞の歩み / 資料二 「ごんぎつねの会」の活動について (吉田重夫) / 資

料三 新美南吉記念館建設の経過 (竹内幸子)

- 1-2. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第2号 1996年3月 発行：新美南吉記念館
収録：「うた時計」を中心とした作品分析 (天木佳津枝) / 南吉の周辺 (天木佳津枝)
/ 「ごん狐」の図像についての一考察 (畑中圭一) / ひとつの文学表現——南吉の俳句—— (大石源三) / 安城高女時代における南吉と病について——教え子の闘病としを通して—— (遠山光嗣) / 新美南吉顕彰のあゆみ (三) (片山秀雄) / 資料 新美南吉の三輪露あて書簡 昭和十五年五月初旬 (推定) 封書 (推定)
- 1-3. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第3号 1997年3月 発行：新美南吉記念館
収録：新美南吉と郷土 (III) ——南吉作品にみる認識と自我の目覚め—— (榊原義夫)
/ 南吉の童謡と詩——時代とのかかわりを見ながら—— (矢口栄) / 「おじいさんのランプ」の舞台はなぜ大野なのか I——岩滑から観た大野という町—— (遠山光嗣)
/ 安城における南吉顕彰のあゆみ (一) (片山秀雄)
- 1-4. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第4号 1998年3月 発行：新美南吉記念館
収録：南吉の初期作風の確立とその継承・転回 (一) ——南吉の習作期から成熟期にみえる作風の転回を日記から探る—— (榊原義夫) / 南吉の残した童謡と詩——その魅力—— (矢口栄) / 「おじいさんのランプ」の舞台はなぜ大野なのか II——大野街道と南吉文学—— (遠山光嗣) / 新資料紹介 ——南吉作品日記「その日その日」—— (「常念御坊とのら犬」「不毛地帯・ボク」)
- 1-5. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第5号 1999年3月 発行：新美南吉記念館
収録：新美南吉の詩・童謡——叙事体で語る実存—— (谷悦子) / 東京における南吉の足跡調査について I——南吉が暮らした領と下宿—— (遠山光嗣) / 安城における南吉顕彰のあゆみ (二)
- 1-6. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第6号 2000年3月 発行：新美南吉記念館
収録：〈不孝者意識〉を越えて (一) ——安城高等女学校教員時代の結核—— (北二郎)
/ 南吉の初期作風の確立とその継承・転回 (二) ——南吉の習作期にみえる作風の転回を探る—— (榊原義夫) / 安城における南吉顕彰のあゆみ (三) (片山秀雄)
- 1-7. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第7号 2001年3月 発行：新美南吉記念館
収録：草稿「権狐」と定稿「ごん狐」の比較・検討からの提言 (沢田保彦) / 東京における南吉の足跡調査について II ——南吉が暮らした中野区新井・上高田界限—— (遠山光嗣) / 安城における南吉顕彰のあゆみ (四)
- 1-8. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第8号 2002年3月 発行：新美南吉記念館
収録：草稿「権狐」と定稿「ごん狐」の比較・検討からの提言 その2 ——文章・表現に見られる書き換え—— (沢田保彦) / 南吉童話における〈鐘〉の意義 ——文学の補助教材として—— (顧錦芬) / 新資料紹介「その日その日」 I (遠山光嗣)
- 1-9. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第9号 2003年3月 発行：新美南吉記念館

収録：新美南吉の描いた「街」 —新たなモチーフの発見— (畑中圭一) / 南吉をめぐる人々 —新美南吉生誕 90 年記念講演会 (第 16 回新美南吉顕彰講演会) — (赤座憲久) / 南吉文学の魅力 (三) —「手袋を買いに」から「ヒロツタ ラツパ」まで —東京外語時代 (前・中期) の作品六作品を読む— (矢口栄) / 新資料紹介「その日 その日」 II

1-10. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第 10 号 2004 年 3 月 発行：新美南吉記念館
発行：占領下の児童書検閲と南吉童話 —プラング文庫所蔵資料に探る— (谷瑛子) / 新美南吉とナイン会のこと (青木始) / 南吉童話を読む —第一七回新美南吉顕彰講演会— (西本鶏介) / 南吉文学の魅力 (四) —「デンデンムシノ カナシミ」から「お母さん達」まで —東京外語時代 (中期) の作品二二作を読む— (矢口栄) / 新美南吉と木本成子 —初恋の女性とその周辺— (遠山光嗣)

1-11. 『新美南吉記念館 研究紀要』 第 11 号 2005 年 3 月 発行新美南吉記念館
収録：岡崎に見る新美南吉の足跡 (杉浦兼次) / 「螢いろの灯」から「灯のない螢」へ —表題の訂正について— (保坂重政) / 占領下の検閲で全文削除を命じられた南吉作品 —「耳」についての再調査から— (谷瑛子) / 南吉文学魅力 (五) —「鞠」から「久助君の話」まで —東京外語時代 (後期) から安城高女時代 (前期) の作品七作を読む— (矢口栄) / 南吉の謎の友人をめぐる (戸田豊志) / 発見された異聖歌旧蔵資料について (遠山光嗣)

受賞作品集

1. 『赤いろうそく 新美南吉童話賞入選作品集』

1-1. 『赤いろうそく 第 7 回 新美南吉童話賞入選作品集』 1996 年 1 月 31 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-2. 『赤いろうそく 第 8 回 新美南吉童話賞入選作品集』 1996 年 12 月 8 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-3. 『赤いろうそく 第九回 新美南吉童話賞入選作品集』 1997 年 12 月 1 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-4. 『赤いろうそく 第十回 新美南吉童話賞入選作品集』 1998 年 12 月 1 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-5. 『赤いろうそく 第十一回 新美南吉童話賞入選作品集』 1999 年 12 月 1 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-6. 『赤いろうそく 第十二回 新美南吉童話賞入選作品集』 2000 年 12 月 1 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-7. 『赤いろうそく 第十三回 新美南吉童話賞入選作品集』 2001 年 12 月 1 日 編集・発行：新美南吉記念館

1-8. 『赤いろうそく 第十四回 新美南吉童話賞入選作品集』 2002年12月1日 編集・発行：新美南吉記念館

1-9. 『赤いろうそく 第十五回 新美南吉童話賞入選作品集』 2003年12月1日 編集・発行：新美南吉記念館

1-10. 『赤いろうそく 第十六回 新美南吉童話賞入選作品集』 2005年1月28日 編集・発行：新美南吉記念館

※『赤いろうそく』は、1988年12月10日に創刊された文芸誌だが、当時の編集・発行元は「(社)半田青年会議所」であり、「新美南吉記念館」がこれに携わるようになったのは、第7回以降である。

【54】加悦町江山文庫

図録

1. 『江山文庫開館記念 江山文庫館蔵名品展図録』 1994年10月22日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

2. 『与謝野鉄幹没後六十年記念特別展 礼巖と鉄幹』 1995年10月6日 発行：加悦町江山文庫 目次無し

3. 『第二回江山文庫館蔵名品展図録』 1996年10月5日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

4. 『錦秋のこころを観る 一子規の流れをたどって—』 1997年9月6日 発行：加悦町江山文庫

収録：口絵／序／展示作品〈和歌／俳句／漢詩文／書簡／絵画〉／解説〈和歌／俳句／漢詩文／書簡／絵画〉／参考〈漢詩文の読み方〉／記念講演会案内

5. 『江山文庫平成10年度秋季特別展 礼巖と蓮月 ——ゆかりの歌人たち——』 1998年9月12日 発行：加悦町江山文庫

収録：あいさつ(西原重一)／序(正田益嗣)／図録／出品目録／解説／村上華岳書簡ほか／記念行事案内

6. 『江山文庫開館五周年記念秋季特別展図録』 1999年9月7日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

7. 『一丹後のミレニアム記念— 江山文庫秋季特別展』 2000年9月8日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

8. 『錦秋の丹後画壇展図録』 2002年9月10日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

9. 『錦秋の山水花鳥展 —併店・俳句本の楽しさ— 図録』 2003年9月 編集・発行：

加悦町立江山文庫 目次無し

10. 『尾藤家の障壁画 ―京都府指定有形文化財・尾藤家住宅オープン記念』 2004年10月12日 編集・発行：加悦町立江山文庫
収録：ごあいさつ／収集された京都画壇の襖絵―尾藤家住宅増築と京派の襖絵（横谷賢一郎）／尾藤家の障壁画〈近世の画家たち／近代の画家たち／丹後の画家たち〉／出品目録／作家略歴／十一代尾藤庄蔵宛与謝野鉄幹書簡について（竹下浩二）／おもな参考文献／ご協力いただいた方々

研究誌

1. 『与謝野礼巖・鉄幹年譜』 1995年10月6日 編集・発行：加悦町立江山文庫 目次無し

復刻

1. 『禮巖法師歌集（復刻版）』 1993年10月1日 編集：西原重一 発行：西原重一／加悦町
1-1. 『禮巖法師歌集』 1910年8月5日 編集：與謝野寛 発行：新詩社

受賞作品集

1. 『江山文庫俳句大賞作品集』
1-1. 『椿文化資料館オープン記念 江山文庫俳句大賞・俳句大会作品集』 1996年8月1日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-2. 『第二回江山文庫俳句大賞作品集』 1997年10月12日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-3. 『第三回江山文庫俳句大賞作品集』 1998年10月18日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-4. 『第四回江山文庫俳句大賞作品集』 1999年10月18日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-5. 『第五回江山文庫俳句大賞作品集』 2000年10月15日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-6. 『第六回江山文庫俳句大賞作品集』 2001年10月15日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-7. 『第七回江山文庫俳句大賞作品集』 2002年10月 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し
1-8. 『第八回江山文庫俳句大賞作品集』 2003年10月19日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し

- 1-9. 『第九回江山文庫俳句大賞作品集』 2004年10月19日 編集：加悦町立江山文庫 発行：加悦町計画調整課 目次無し

【55】茨木市立川端康成文学館

図録

1. 『川端康成その人とふるさと ——茨木市立川端康成文学館』 1986年3月31日 編集：川端康成文学館 発行：茨木市／茨木市教育委員会
収録：第一部 川端康成の生いたち〈誕生の頃／祖父母との生活／豊川小学校時代／茨木中学校時代／一高・東大寺代／新進作家の頃〉／第二部 川端文学とその舞台〈「伊豆の踊子」／「浅草紅団」／「雪国」／「千羽鶴」「山の音」／「古都」・「眠れる美女」「片腕」／「美しい日本の私」〉／第三部 川端康成のふるさと〈宿久庄の頃／茨木——青春の日々／ふるさとへの想い〉／第四部 川端康成の書／第五部 世界の中の川端文学／第六部 ノーベル文学賞受賞〈「ストックホルムの川端康成」(石濱恒夫)〉／第七部 茨木市名誉市民に推挙される〈「茨木市の名誉市民となって」(川端康成)〉／第八部 川端康成文学館の開館〈「たいへん嬉しい文学館の完成」(川端秀子)／「父・川端康成を語る」(川端香男里)〉／第九部 川端康成文学館の歩み〈文学講座、企画展、生誕月記念特別企画展の開催／「書のこころと川端文学」(村上三島)〉／第十部 川端康成年譜(茨木市を中心に)
2. 『Yasunari Kawabata: The Man And His Hometown』 1987年9月1日 編集・発行：茨木市／茨木市教育委員会
収録：Part 1〈Kawabata's Early Years [1 His Birth and Death of Parents／2 Life with Grandparents／3 Toyokawa Elementary School／4 Ibaraki Middle School／5 First Higher School and Tokyo Imperial University]〉／Part 2〈Kawabata Residence〉／Part 3〈Kawabata's Works and Their Settings [Izu no Odoriko (The Izu Dancer)／Asakusa Kurenaidan (Scarlet Gang of Asakusa), Bungei Jidai to Shinkankaku-ha (Bungei Jidai and the Neo-Sensualist school)／Yukiguni (Snow Country)／Sembazuru (Thousand Cranes), Yama no Oto (The Sound of the Mountain)／Koto (The Ancient Capital)／Nemureru Bijo (House of the Sleeping Beauties), Kataude (One Arm)]〉／Part 4〈Ibaraki, Osaka and Kyoto in Kawabata's Works〉／Part 5〈Nobel Prize for Literature Awarded〉／Part 6〈Honorary Citizen of Ibaraki／On Becoming an Honorary Citizen〉／Part 7〈Kawabata Literature in the World〉／Part 8〈Kawabata's Calligraphic Works〉／Part 9〈A Brief Sketch of Kawabata's Life〉
3. 『茨木市立川端康成文学館 川端康成その人とふるさと ——挿話編——』 1989年3

月 31 日 編集・発行：茨木市／茨木市教育委員会／川端康成文学館

収録：文壇交友〈藤沢恒夫氏に聞く 川端さんは天性の文人でした／則武亀三郎氏に聞く 川端さんはフットとおもしろい話をする人でした／福田浅治郎氏に聞く 古美術商としておつきあいさせていただいた／石濱恒夫氏に聞く 禅問答のような日々への想い／梶井寿郎氏の講演から〉／学友は語る〈阪部房吉氏に聞く 遊びに行つて布袋竹を貰いました／玉村イト氏に聞く 皆とはあまり遊ばはらしませなんだな／川合孝勝氏に聞く 一高合格にみんなびっくりしました／陰山恵昌氏に聞く 授業中に尾崎紅葉の小説を読んではりました／田村正雄氏に聞く 文学一筋の名誉ある受賞ですね／寺の保夫氏に聞く 寄宿舎で川端さんと同室でした／正野勇次郎氏に聞く 負けん気でしっかりしていました／小林清孝氏に聞く 文学に特に興味を持っていました〉／ふるさとからの思い出〈川端キヌエ氏に聞く こまやかな温かいお人でしたな／川端富枝氏に聞く 土蔵から綴り方帳などが出てきました／阪本昭子氏に聞く 日常のこまごまとしたことに思い出が／平田テイ氏に聞く 幼少の頃は兄妹のように暮らしてました／秋岡義彦氏に聞く 時にはまるで親の家のように／鬼迫明夫氏に聞く もの静かで寡黙な方という印象で／中村三郎氏に聞く 京都でも執筆されていたと聞いています〉／インタビュアー（笹川隆平）

4.『川端康成文学館のあゆみ ——茨木市立川端康成文学館』 2001年3月31日 発行：茨木市／茨木市教育委員会

収録：一、開館から平成十一年まで〈1. 川端康成生誕月記念特別企画展の開催 ——川端康成ゆかりの美術家の展覧会の軌跡／2. 文学講座の開催／3. ギャラリーにおける企画展の開催／4. 中学生の読書会／5. 川端康成文学館ギャラリー 展覧会の記録〉／二、生誕百年の記念事業 年間を通して繰り広げられた事業の一覧〈1. 田主誠 版画展「川端康成のいた茨木」／2. 川端康成からの年賀状／3. 川端康成書簡展 I「ふるさとへの便り」／4. ふるさとウォーク（茨木～宿久庄）／5. 写真でみる 川端康成旧制中学の頃／6. 原稿と初版本などにみる川端文学／7. 館蔵書展「佐々木鐵仙 川端文学を書く」／8. 特別企画展「めぐりあい・川端文学と美術」／9. 川端康成書簡展 II「筆まめな川端康成」／10. 映画会「伊豆の踊子」／11. 川端康成と関西／12. 川端康成墨書展／13. 柿沼和夫写真展「川端康成 美の巡礼」／14. 川端康成書簡展 III「作家・編集者にあてて」／15. 特別講演会「川端文学のふるさと」——（財）川端康成記念会理事長（川端香男里）／16. 原稿と装画・挿絵などでみる川端文学／17. 「言の葉コンサート」～川端康成・文学の世界～／18. 国内各地及び海外での川端康成生誕百年〉／三、二十一世紀に向けて——平成十二年の記録〈1. 平成十二年の事業〔企画展——田主誠 版画展「川端少年の歩いた道」／生誕月記念特別企画展——『古都』日本画と書の世界展〕／旧制茨木中学生の筆写による「村誌」の公開／第十五回文学講座〕／2. 所蔵品目録の作成・川端康成文学館刊行物一覧〉／あとがき

【56】大阪府立国際児童文学館

目録

1. 『大阪府立国際児童文学館蔵書・情報目録 1868～1945』
 - 1-1. 『大阪府立国際児童文学館蔵書・情報目録 1868～1945』 1985年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館
収録：凡例／蔵書索引〈書名／著者名〉／情報目録
 - 1-2. 『財団法人大阪国際児童文学館蔵書・情報目録 1868～1945 増補改訂版』 1988年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
2. 『大阪府立国際児童文学館財産目録』
 - 2-1. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 図書の一部』
 - 2-1-1. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 図書の一部 I 1985』 1986年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
収録：目録／著者索引
 - 2-1-2. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 図書の一部 II 1946～1950』 1988年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
 - 2-2. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 逐次刊行物篇』
 - 2-2-1. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 逐次刊行物篇 1986』 1987年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
収録：国内の一部／外国の一部／国内の一部 編者・発行所索引／外国の一部
 - 2-2-2. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 逐次刊行物・外国語篇 1993』 1994年3月29日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
収録：In alphabet／In Cyrillic alphabet／In Hangul alphabet／In Chinese characters
 - 2-2-3. 『逐次刊行物目録 戦前篇』 1997年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
 - 2-3. 『大阪府立国際児童文学館財産目録 原画篇 1988』 1989年3月30日 編集：大阪国際児童文学館 発行：大阪国際児童文学館
収録：はじめに／凡例／田島征彦〈祇園祭／じごくのそうべえ／総粋民話 島／火の笛／有馬敲少年詩集・ありがとう／まんげつのはなし／あつおのぼうけん〉／梶山俊夫〈ねしょんべんものがたり／におい山脈／お日さまのうた／日がくれる／山の子ども／あほろくの川だいこ／いぐいぐいぐいぐ〉／鈴木靖将〈水仙月の四日〉／茂田井武〈きつねのおつかい〉／泉啓一〈ガラス絵「賢治曼陀羅」〉

2-4.『大阪府立国際児童文学館財産目録 紙芝居篇 1990』 1991年3月30日 編集・発行：大阪国際児童文学館

収録：凡例／目録〈1. 街頭紙芝居／2. 印刷紙芝居〉／解説〈1. 三邑会の紙芝居について／2. 主要画家解説／3. 教育紙芝居概史（上地ちづ子）〉／索引〈1. 街頭紙芝居作者 通称→異称，異称→通称／2. 街頭紙芝居 表題索引／3. 印刷紙芝居 表題索引／4. 印刷紙芝居 作者索引〉

2-5.『大阪府立国際児童文学館財産目録 和書之部 増補改訂版 1946～1952』 1993年3月30日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し

収録：目録／書名索引／著者索引

3.『南部新一記念文庫目録』

3-1.『南部新一記念文庫目録 雑誌の部（和書）』 1992年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し

3-2.『南部新一記念文庫目録 児童図書部の部』 1993年2月15日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し

収録：通称→異称 異称→通称 対照表／児童書・理論書篇 目録／周辺図書篇 目録／書名索引／著者索引

紀要

1.『国際児童文学館紀要』

1-1.『国際児童文学館紀要』 創刊号 1985年3月31日 発行：(財)大阪国際児童文学館

収録：児童文学研究における「雑誌」の位置（鳥越信）／資料研究：雑誌細目〈「少年園」——細目と解題（畑中圭一）／「少年文武」——細目と解題（高橋静男）〉

1-2.『国際児童文学館紀要』 第2号 1986年3月31日 発行：(財)大阪国際児童文学館

収録：雑誌「小国民」（のち「少国民」）解題（一）（鳥越信）／雑誌細目凡例／雑誌「小国民」細目（一）（上田信道 高橋静男 鳥越信）／雑誌「幼年雑誌」解題（一）（西田良子）／雑誌「幼年雑誌」細目（一）（西寄康雄 西田良子）

1-3.『国際児童文学館紀要』 第3号 1986年12月31日 発行：(財)大阪国際児童文学館

収録：太田玉茗論—童謡の萌芽期に関する一考察—（畑中圭一）／新美南吉「手袋を買ひに」論—ほんとうに人間はいいものかしらという問いの意味—（上田信道）／巖谷小波の児童文学の文体について—会話の分析—（小松聡子）／雑誌「小国民」（のち「少国民」）解題（二）（鳥越信）／雑誌細目凡例／雑誌「小国民」細目（二）（上田信道 鳥越信 西寄康雄 畑中圭一）

- 1-4. 『国際児童文学館紀要』 臨時増刊号 (第4号) 1987年3月31日 発行:(財) 大阪国際児童文学館
 収録: Opening Remarks / Profile of Participants / Presentations (The International Network of Children's Literature--some comments from a German point of view (Klaus Doderer) / For IICLO Conference (Anne Scott MacLeod) / Strengthening Children--Book Ties between Finland and Japan (Riitta Kuivasmäki) / International Cooperation and Networking (Shin Torigoe)) / Discussion Part 1 / Discussion Part 2 / Appendix / 開会にあたって / 参加者紹介 / 問題提起 (児童文学の国際ネットワーク 西ドイツの立場からの提言 (クラウド・ドーデラー) / 大阪国際児童文学館の会議によせて (アン・スコット・マクレオド) / 子どもの本の絆を強める——フィンランドと日本 (リーッタ・クイヴァスマキ) / 国際協力とネットワーク (鳥越信)) / 全体討議 1 / 全体討議 2
- 1-5. 『国際児童文学館紀要』 第5号 1988年3月25日 発行:(財) 大阪国際児童文学館
 収録: 新美南吉「屁」にみられるこども像 (上田信道) / 巖谷小波の児童文学における仮名遣 —いわゆる“お伽仮名”について (小松聡子) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 解題 (三) (鳥越信) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 細目 (三) (鳥越信) / 芸術の揺籃期—動物物語、教訓話、わらべ唄 (M. ソリアーノ 日本語訳・解説: 畑中圭一) / 今日の児童文学・児童文学研究とグリム兄弟の意味 (K. ドーデラー 日本語訳・解説: 上野陽子) / The meaning and importance of the Grimm Brothers for today's children's literature research (K. ドーデラー 英語訳: Ingeborg Wernicke) / Die Bedeutung der Bruder Grimm für Die heutige Kinder- und Jugendliteratur und ihre Erforschung (Klaus Doderer)
- 1-6. 『国際児童文学館紀要』 第6号 1990年3月25日 発行:(財) 大阪国際児童文学館
 収録: 対談“谷川俊太郎のなかの子ども” (畑中圭一) / 日本の「ノンちゃん」と中国の「ノンちゃん」 (朱自強) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 細目 (四) (鳥越信) / 椋鳩十単行本著作目録・参考文献目録 / 付活動報告 / 執筆者紹介 / キーワード / 編集後記
- 1-7. 『国際児童文学館紀要』 第7号 1992年3月31日 発行:(財) 大阪国際児童文学館
 収録: 豊田次郎の「お月さん」と童謡茶話会—「関西の童謡運動史」拾遺— (畑中圭一) / 芥川龍之介の「杜子春」と中国の「杜子春」 (高山 (高烈夫)) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 解題 (四) (鳥越信) / Internationalism I Barnlitteraturforslningen (Klingberg, Göte) / 児童文学研究における国際性—第2階国際グリム賞受賞記念講

演 (Klingberg, Göte 訳: 清水育男) / 韓日児童文学の比較研究 (1) (李在徹 訳: きどのりこ) / A Fear In Children's Literature (Papuzinska-Beksiak, Joanna) / Some Problems in Translating Picture Books (Aziz, Izza Abdul) / ロマンティシズムと歴史への回帰—フィンランド児童文学の現状 (Huhtala, Liisi 訳: 高橋静男・渡部翠) / 昔話からトーベ・ヤンソンまで—フィンランド童謡史 (Apo, Satu 訳: 高橋静男・渡部翠) / 付 活動報告 / 執筆者紹介 / 編集後記

1-8. 『国際児童文学館紀要』 第 8 号 1993 年 3 月 31 日 発行: (財) 大阪国際児童文学館

収録: 対象・昭和期における痴呆の童謡運動 —仙台・前橋・名古屋の場合— (畑中圭一) / 宮崎一雨の児童文学 (上田信道) / 佐々木邦の児童文学—雑誌「少女畫報」掲載作品について— (西寄康雄) / 日本の戦争児童文学について (沈振明) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 細目 (五) 附: 対外活動記録 (鳥越信) / 音声表現・身体表現を使った物語体験の試み—大阪国際児童文学館を出会いの場として— (土居安子) / 共同研究「児童文学研究文献についての情報分析及びその研究」中間報告 (一) (斎藤寿始子 酒井晶代) / ムーミン童話研究参考文献目録 (1) (高橋静男) / 付 キーワード / 執筆者紹介 / 編集後記 / 奥付

1-9. 『国際児童文学館紀要』 第 9 号 1994 年 3 月 31 日 発行: (財) 大阪国際児童文学館

収録: 明治中期における幼少年雑誌出版と地方 —愛知で創刊された「益友」を中心に— (酒井晶代) / 永島永州の児童文学 —冒険・探偵小説を中心に— (上田信道) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 細目 (六) —一九九三年活動記録 (鳥越信) / 第四回国際グリム賞記念講演二題 (児童文学研究としての専門事典 (鳥越信) / 子供の為に、未来の為に —鳥越信先生のグリム^{ママ}彰受賞を祝って (蔣風 訳: 楊汝賢) / ムーミン童話研究参考文献目録 (2) (高橋静男) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (土居安子) / 報告 名古屋近辺の同人雑誌について (阿部紀子) / 付 キーワード / 執筆者紹介 / 編集後記 / 奥付

1-10. 『国際児童文学館紀要』 第 10 号 1995 年 3 月 31 日 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: 明治中期における幼少年雑誌出版と地方 (二) —岡山で創刊された「わらんべ」を中心に— (酒井晶代) / 阿武天風の軍事冒険小説 —日米未来戦の系譜を中心に— (上田信道) / 雑誌「少年赤十字」と巖谷小波・岡本帰一 (栞居孝) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 細目 (七) (鳥越信) / ムーミン童話研究参考文献目録 (3) (高橋静男) / 日本における韓国児童文学 (中村修) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 —こえとからだで「くまの子ウーフ」をよむ— (土居安子) / 子どもと本との出会いの場に求められる条件 その (1) 大阪国際児童文学館こども室

の観測を通して（今村芳恵 永田桂子）／講演記録二題〈昔話からメルヘンへ — スカンジナビアの場合—（リュドミラ・ブラウデ 訳：田中泰子・丸尾美保）／*Persoonallisuuden kukka: Vieraantumisen ja vapautuminen Muumisaduissa*（Takahashi Shizuo）／（日本語訳）個性の花：ムーミン童話における疎外と解放（高橋静男）／（付）キーワード／執筆者紹介／編集後記／奥付

1-11. 『国際児童文学館紀要』 第 11 号 1996 年 3 月 31 日 発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：淡路呼潮の児童文学 —— 探偵小説を中心に ——（遠藤純）／小酒井不木の児童文学 —— 《少年科学探偵》シリーズを中心に ——（上田信道）／賢治童話の表現研究 —— 副詞「まるで」を手がかりとして ——（小松聡子）／最近の絵本論にみられる児童観 —— 1984 年から 1994 年を中心に ——（永田桂子）／雑誌「小国民」（のち「少国民」）細目（八）（鳥越信）／*Voix, Ecriture, Image — 1965-1995: 300 ans de contes —*（Denise Dupont-Escarpit Japanese version: Ishizuka Saeko）／昔話の 300 年 いかに語られ、書かれ、描かれてきたか（ドニーズ・デュボン・エスカルピ 訳：石沢小枝子）／大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 — こえとからだで三木卓作「ジュース」をよむ —（土居安子）／パーソナルコンピュータを使用した児童文学作品分析支援システムの開発（上田信道）／ムーミン童話研究参考文献目録（4）（高橋静男）／（付）キーワード／執筆者紹介／編集後記／奥付

1-12. 『国際児童文学館紀要』 第 12 号 1997 年 3 月 31 日 発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：絵雑誌「お伽絵解こども」の美育観（村川京子）／児玉花外の児童文学（上田信道）／尾島菊子の少女小説の文体（小松聡子）／佐々木邦の児童文学（西寄康雄）／榎本楠郎編『現代童話集』の成立と賢治童話（遠藤純）／内務省図書課「昭和 13 年児童雑誌検閲簿」について（梶居孝）／雑誌「小国民」（のち「少国民」）細目（9）（鳥越信）／方定煥と「オリニ」誌（李相琴）／*Artikkeli perustuu esitemään, joka pidettiin 17.9.1995 Åbo akademien järjestämässä seminaarissa “Hur gick det sen?”*（Riitta Kuivasmäki）／ノベルは新しいジャンルか（リーッタ・クイバスマキ 訳：高橋静男）／大阪国際児童文学館における物語体験の可能性（4）（土居安子）／子どもと本との出会いの場に求められる条件 その（2）（今村芳恵 永田桂子）／ムーミン童話研究参考文献目録（5）（高橋静男）／（付）キーワード・要約／執筆者紹介／編集後記・奥付

1-13. 『国際児童文学館紀要』 第 13 号 1998 年 3 月 31 日 発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：雑誌『ちゑのあけぼの』とその時代 —— 明治十九年～明治二十一年 ——（梶居孝）／三宅花圃の少女小説の文体 —— 「車の轍」を中心に ——（小松聡子）／雑誌「小国民」

(のち「少国民」) 解題 (五) (鳥越信) / 佐々木邦の児童文学 — 『いたづら小僧日記』 研究 — (西寄康雄) / 松山思水と「日本少年」 (上田信道) / 羽田書店版『風の又三郎』の成立に関する考察 (2) — 松田甚次郎『土に叫ぶ』との関連を中心に — (遠藤純) / 現代の、「仕掛け絵本」考 (永田桂子) / *Das Kind als Partner des Buches - Ein historischer Überblick -* (Prof. Dr. Theodor Brüggemann) / 本のパートナーとしての子ども — 歴史的概観 — (テオドール・ブリュッゲマン 訳: 田中安男) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (5) — 絵本『ぼくはジャガーだ』の物語体験 — (土居安子) / 表現上の特性からみた二つの《ごんぎつね》 (上田信道) / 金井信生堂・絵本目録 (1) — 第 1 期 1908 (明治 41) 年から 1923 (大正 12) 年まで — (大橋眞由美) / ムーミン童話研究参考文献目録 (6) (高橋静男) / (付) キーワード・要約 / 編集後記・奥付

1-14. 『国際児童文学館紀要』 第 14 号 1999 年 3 月 31 日 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 解題 (六) (鳥越信) / 滝沢素水の児童文学 (上田信道) / プロレタリア童話作家ヘルミーニア・ツア=ミューレン 人と作品 — ドイツ語圏の子どもの本 1920 年代光と影 その 1 — (上野陽子) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (6) — 「木」の連続ワークショップ — (土居安子) / 子どもと本との出会いの場に求められる条件 その (3) — 大坂国際児童文学館こども室の観測を通して (今村芳恵 永田桂子) / 金井信生堂・絵本目録 (2) — 第 2 期《その 1》1924 (大正 13) 年から 1928 (昭和 3) 年まで — (大橋眞由美) / 雑誌「日本之少年」(白文観) 細目 (1) (西寄康雄 高橋静男 鳥越信) / (付) キーワード・要約 / 編集後記・奥付

1-15. 『国際児童文学館紀要』 第 15 号 2000 年 3 月 31 日 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: 変貌しつつある現代の絵本事情 — 1980 年代以降 — (永田桂子) / 研究と資料 『1928 年版 水口』 — 異聖歌の未刊行自筆童謡集について — (上田信道) / 雑誌「小国民」(のち「少国民」) 解題 (七) (鳥越信) / 『学習新聞』 細目 (1) (小松聡子) / *The Contamination of the Fairy Tale, or The Changing Nature of the Grimms' Fairy Tales* (Dr. Jack Zipes) / おとぎ話の混交 — グリム童話の変容 (ジャック・ザイプス 訳: 吉田純子) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (7) — 「魔法」の連続ワークショップ — (土居安子) / キーワード・要約 / 編集後記・奥付

1-16. 『国際児童文学館紀要』 第 16 号 2001 年 3 月 31 日 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: 「小国民」誌の異版 (上田信道) / 我が国に於ける、絵本研究の嚆矢に関する一考察 (永田桂子) / 戦時下における宮沢賢治の受容 — 大陸移民と松田甚次郎 — (遠

藤純) / 『学習新聞』細目 (2) (小松聡子) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (8) —参加者の反応を手がかりに— (土居安子) / 雑誌「日本之少年」(博文館) 細目 (2) (西寄康雄 高橋静男 鳥越信) / キーワード・要約/編集後記・奥付

1-17. 『国際児童文学館紀要』 第 17 号 2002 年 3 月 31 日 発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：児童文化の安全対策 —絵本の場合— その歴史と現状、と提言— (永田桂子) / 児童文学及び国語教育における宮沢賢治研究・実践文献目録 (1990 年～99 年) (遠藤純 大藤幹夫 平岡弘子) / ドイツ児童文学賞 —受賞作品邦訳リスト— (上野陽子) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (9) —作品選択の観点の考察— (土居安子) / 蝶の羽の重さ (ジャン・ペロー 訳：畑中圭一) / キーワード・要約/編集後記・奥付

1-18. 『国際児童文学館紀要』 第 18 号 2005 年 3 月 31 日 発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：我が国の三歳未満児対象絵本 —下限とされた年齢と理論の嚆矢— (永田桂子) / 第 9 回国際グリム賞受賞記念論文 児童文学を語るさまざまな声：何を、いかに語るべきか (ピーター・ハント 訳：多田昌美) / 大阪国際児童文学館における物語体験の可能性 (10) —ワークショップの演出方法— (土居安子) / 日本児童文学研究・評論史年表 (1946～1954 年) (編：向川幹雄) / キーワード・要約/編集後記・奥付

2. 『外国人客員研究員 研究報告集』

2-1. 『外国人客員研究員 研究報告集 1989～1990』 1993 年 2 月 28 日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに/協賛企業ご芳名/外国人客員研究員 1989～1991/論文および研究報告〈芥川竜之介の「杜子春」と中国の「杜子春」(高山) / 韓日児童文学の比較研究 (1) (李在徹) / 児童文学における恐怖の問題 (ヨアンナ・P・ベクシアク) / 研究報告「絵本の翻訳における諸問題」(イザ・A・アジズ) / 加古里子絵本の魅力——緻密な科学精神と豊かな感性 (季穎) / 明治初期における中・日児童文学の比較 (梅紗) / 研究報告「日本児童文学史の研究」(朱自強) / 研究報告「チェコと日本の子どもの本の交流」(ズデニク・スラビイ) / 研究報告「日本児童演劇・人形劇の研究」(サボ・マリア)〉

2-2. 『外国人客員研究員 研究報告集 1991～1992』 1994 年 1 月 31 日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに/協賛企業ご芳名/外国人客員研究員 1989～1993/論文および研究報告〈児童文学における「長靴をはいた猫」の変容 (マルガリータ・スラヴォヴァ) / 日本の児童文学に受容されたインドの物語 (アニタ・カンナ) / 日本の戦争児童文

学について (沈振明) / ドイツにおける少女小説と日本における少女小説 (タチアナ・クレイ) / 日本におけるこどもの図書選択の要因 (ラム・クマール・バンデい)

2-3. 『外国人客員研究員 研究報告集 1992～1994』 1995年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員／論文、研究報告、及び講演録
〈中日児童文学交流的回顧及全胆《中国語》(蔣風) / 中日児童文学交流的回顧及び展望 (蔣風) / 子供の為に、未来の為に (講演) (蔣風) / 戦後の児童文学 (楊汝賢) / 昔話からメルヘンへ — スカンジナビアの場合《ロシア語》(リュドミラ・ブラウデ) / 昔話からメルヘンへ — スカンジナビアの場合 (リュドミラ・ブラウデ) / アンデルセンについて (リュドミラ・ブラウデ) / An African Night's Entertainment and Momotaro (Osayimwense Osa) / 『アフリカの楽しみの夕べ』と「桃太郎」(オセイウエンス・オサ) / アフリカの児童文学とヤングアダルト文学の状況 (オセイウエンス・オサ)〉

2-4. 『外国人客員研究員 研究報告集 1994～1995』 1996年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～1995／論文及び研究報告
〈'The Nighthawk Star': The picture book by Morimoto Junko (Helen Kilpatrick) / モリモト ジュンコによる「よだかの星」の絵本化 (ヘレン・キルパトリック) / Die Heil(end)e Welt der Grimmschen Märchen. Romantische Illusionen und realistische Hoffnungen (Winfred Kaminski) / グリム・メルヒェンの幸福な世界と癒しの世界 — ロマンティックな幻想と現実的な希望 — (ヴィンフレッド・カミンスキー) / 1990年以降の現代ドイツ児童文学《講演》(ヴィンフレッド・カミンスキー) / Etude des representations de la famille dans les albums de jeunesse, publiés en 1994, au Japon (Suzanne Pouliot) / 絵本にえがかれた家族像 — 1994年に日本で出版されたものから — (スザンヌ・プリオ) / カナダ・フランス語圏における今日の児童文学《講演》(スザンヌ・プリオ)〉

2-5. 『外国人客員研究員 研究報告集 1995～1996』 1997年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～1996／論文及び研究報告
〈Experiences in Nordic Literature 《講演》 - A short story for children - birth of a new genre? (Riitta Kuivasmäki) / ノベルは児童文学における新しいジャンルか《講演》(リーッタ・クイヴァスマキ) / 方定煥と「オリニ」誌 — 「オリニ」誌刊行の背景 — (李相琴) / 日本と韓国にかける児童文化の橋 — 韓国オリニ文化をとおして考える — 《講演》(李相琴)〉

2-6. 『外国人客員研究員 研究報告集 1996～1997』 1998年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～1998／論文及び研究報告〈生活綴方運動史に関する調査(ニニ・イエンセン)／Report of Research Conducted at the International Institute for Children's Literature in Osaka (Nini Jensen)／New Illustration for Old Folktales (Zohreh Ghaeni)／赤羽末吉の昔話絵本—新しい潮流(ゾーレ・ガエーニ)／A Brief History of Children's Book Illustration in Iran《講演》(Zohreh Ghaeni)／イランにおける子どもの本の挿絵の歴史《講演》(ゾーレ・ガエーニ)〉

2-7. 『外国人客員研究員 研究報告集 1997～1998』 1999年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～1999／論文及び研究報告〈「ももたろう」の絵本化(ボンアノン・ニヨムカ)／イラストレーションと想像力(ルース・ボティックハイマー)／Illustration and Imagination (Ruth Bottigheimer)

2-8. 『外国人客員研究員 研究報告集 1999年度』 2000年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～1998／論文及び研究報告〈日本の現代児童文学における日常的物語—子ども像を中心に—(林文茜)／マンガ：危険？ それとも救い？(ジョン・フォスター)／MANGA: MENACE OR SAVIOUR? (John Foster)／子ども向けコミックから見たオーストラリアの歴史(ジョン・フォスター)／私たちは皆、変わりはない—ダルボアとリフキンが描いた「日本」—(ヘレーネ・エリアンダー)／Nästan précis som vi (Helene Ehriander)

2-9. 『外国人客員研究員 研究報告集 2000年度』 2001年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～2001／論文及び講演録〈論文[日本の絵本に描かれた風景について—英米の絵本の風景表現との比較を通じて—(トニー・ワトキンス)／The Representation of Landscape in Japanese Picture Books together with a Comparative Examination of British and American representations (Tony Watkins)／韓国と日本の児童文学雑誌『オリニ』と『赤い鳥』に関する一考察(朴淑慶)／講演[バルト海からのたより—リトアニアの子どもの本—(ケスタティス・ウルバ)]〉

2-10. 『外国人客員研究員 研究報告集 2001年度』 2002年3月31日 編集・発行：財団法人大阪国際児童文学館

収録：はじめに／協賛企業ご芳名／外国人客員研究員 1989～2002／論文〈児童文学における創作フェアリーテイルあるいはファンタジー—タイポロジー(類型学)の見地から—(ケストウティス・ウルバ)／On the Typology of Literature Fairy Tales

and/or Fantasies for Children (Kestutis Urba) / 「Fantasy」という語の日中訳語比較 (彭懿) / 日中 = 于 Fantasy (幻想小説) — 詞的翻訳比較研究 — (彭懿) / 日本における読書運動 (高明美)

2-11. 『外国人客員研究員 研究報告集 2002 年度』 2003 年 8 月 編集・発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: はじめに / 協賛企業ご芳名 / 外国人客員研究員 1989~2003 / 論文〈今日の児童文化における赤ずきん^{ママ}の不変の人気について (サンドラ・ベケット) / Little Red Riding Hood's Enduring Popularity in Contemporary Children's Culture (Sandra L. Beckett) / 「童話伝統批判」をめぐる一考察 (鄭如峰) / 講演録〈「赤ずきんは、今」(サンドラ・ベケット) / Recycling Red Riding Hood for Contemporary Children (Sandra L. Beckett)〉

2-12. 『外国人客員研究員 研究報告集 2003 年度』 2004 年 7 月 編集・発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: はじめに / 協賛企業ご芳名 / 外国人客員研究員 1989~2004 / 論文〈日本語絵本の翻訳に関する一考察 — 3 冊の絵本を例に — (プラサンサ・カルコッテゲ) / ベトナム読書環境からみる宮沢賢治の童話における教育性 (グエン・ド・アン・ニエン) / ベトナム誤訳『風の又三郎』 Matasaburo - Câu bé con thân Gió (Tác giả: Miyazawa Kenji / Người dịch: An Nhiên)〉

研究誌

1. 『報告書 大阪府内の赤ちゃん^{ママ}と絵本に関するサービスの実態調査 大阪府内市町におけるサービスの事例』 2005 年 3 月 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: はじめに / 大阪府内の市町村における赤ちゃん^{ママ}と絵本に関するサービスの実態調査 / 大阪府内市町におけるサービスの事例〈大阪市 / 池田市 / 和泉市 / 泉佐野市 / 柏原市 / 交野市 / 熊取町 / 島本町 / 吹田市 / 摂津市 / 泉南市 / 豊中市 / 寝屋川市 / 阪南市 / 箕面市〉

2. 『(財) 大阪国際児童文学館 平成 16 年度研究・調査報告書 0・1・2 歳児を対象にした絵本 — その意義と活用 —』 2005 年 3 月 編集: 小森伸子 / 窪田美鈴 / 永田桂子 発行: 財団法人大阪国際児童文学館

収録: はじめに / 共同研究 3 年間の概要 / 平成 16 年度研究・調査報告〈1 「乳児が絵本を読むこと」に関する 0、1 歳児の保護者の考え — 乳児の行動に対する読みとりに基づいた検討 — (小森伸子) / 2 0・1・2 歳児にとっての絵本 — 事例研究をもとに — (永田桂子) / 3 絵本の画面展開における視覚構成 — 2 歳以下を対象年齢に含む絵本を中心に (窪田美鈴) / 4 「試論」絵本氷原を楽しむ受容者の声と、視覚構成の工夫 — 大阪府域の家庭、市町村で選ばれている絵本を例に (窪田美鈴) / 5 大阪府の市町村にお

ける赤ちゃんと絵本に関するサービスの実態（小森伸子）

記録集

1. 『日独シンポジウム ―児童文学に見る今日の〈子ども〉― 報告書』 1988年11月10日 発行：大阪国際児童文学館

収録：序／編集にあたって／シンポジウム開催要項／シンポジウム日程／講師紹介（登壇順）〈ラインベルト・タッベルト／三宅興子／ハインツ・ヘングスト／村瀬学／ビネッテ・シュレーダー／佐野洋子／ペーター・ヘルトリング／上野瞭〉／第1日（11月10日）〈基調報告① 西ドイツの児童図書館に見る子ども（R・ラッベルト）／基調報告② 児童文学に見る今日の《子ども》 ―日独両国のものを論じるにあたって（三宅興子）／質疑応答／基調報告③ テキストからコンテクストへ―子どもと文学（H・ヘングスト）／基調報告④ 映像文化の中の「子どもと文学」（村瀬学）／質疑応答、及び、討論〉／第2日（11月11日）〈基調報告⑤ どのような子ども観が、自分の創作に反映しているか（B・シュレーダー）／基調報告⑥ どの様な子ども像、子どものイメージが自分の作品に反映しているか（佐野洋子）／対談、及び、討論／基調報告⑦ なぜ私は子どもの本を書きつづけるのか ―中間報告／基調報告⑧ たかが物語、されど物語（上野瞭）／対談、及び、討論〉／第3日（11月12日）〈まとめ、及び、討論〉／総括（三宅興子 R・タッベルト）／特別寄稿 児童文学に見る今日の子ども（バルバラ・シャリオット）

2. 『日中児童文学シンポジウム報告書』 1991年2月28日 発行：（財）大阪国際児童文学館

収録：序／シンポジウム開催要領／シンポジウム日程／講師紹介（登壇順）〈村中李衣／程＝／前川康男／任大星／蔣風／鳥越信／曹文軒（論文参加）／佐藤宗子／藤尾金弥（コーディネーター）〉／基調報告〈作者、そして「わたし」と作品世界との心的距離 ―主観化と客観化の奥行きについて―（村中李衣）／私の夢の本…（程＝）／大人は子どもを愛しているか？（前川康男）／私の歩いてきた道と芸術性の追求（任大星）／1919～1959「栄えある茨の道」跋涉―中国近代児童文学40年の足跡―（蔣風）／日本児童文学における中国―1989年から1945年まで―（鳥越信）／1959年以後の中国児童文学（曹文軒）／「現代児童文学」を振り返る ―《成長》への期待と《伝達》への信頼、そしてパラダイムの崩壊―（佐藤宗子）〉／総括・まとめ（勝尾金弥 河野孝之 西田良子）

事典

1. 『日本児童文学大事典』

1-1. 『日本児童文学大事典 第1巻』 1993年10月31日 編者：大阪国際児童文学

館 発行：大日本図書

収録：人名 あ〜と

1-2. 『日本児童文学大事典 第2巻』 1993年10月31日 編者：大阪国際児童文学

館 発行：大日本図書

収録：人名 な〜わ・事項・逐次刊行物

1-3. 『日本児童文学大事典 第3巻』 1993年10月31日 編者：大阪国際児童文学

館 発行：大日本図書

収録：叢書・児童文学賞・巻末資料一覧・索引

作品

1. 『新・文学の本だな』

1-1. 『こおろぎでんわ 新・文学の本だな 低学年①』 1985年4月1日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-2. 『かえるのぴょん 新・文学の本だな 新1年生①』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-3. 『へびだれもしらない 新・文学の本だな 中学年①』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-4. 『夜明け前声やってきた 新・文学の本だな 高学年①』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-5. 『シャベルでホイ 新・文学の本だな 低学年②』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-6. 『しずかな地面 新・文学の本だな 中学年②』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-7. 『今すぐ旅に出なければならない 新・文学の本だな 高学年②』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

1-8. 『おにのこもりうた 新・文学の本だな 低学年③』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

- 1-9. 『世界じゅうの海が 新・文学の本だな 中学年③』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-10. 『おまえの顔は一番の不思議 新・文学の本だな 高学年③』 1985年4月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-11. 『なつのおくび 新・文学の本だな 中学年④』 1985年12月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-12. 『わたしが一番きれいだったとき 新・文学の本だな 高学年④』 1985年12月25日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-13. 『かっぱのおさら 新・文学の本だな 低学年⑤』 1985年12月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-14. 『うさぎのでんぼう 新・文学の本だな 低学年⑥』 1985年12月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-15. 『地球の乗客はぼく 新・文学の本だな 中学年⑥』 1986年1月10日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-16. 『おむすびいつつ 新・文学の本だな 新1年生②』 1986年2月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-17. 『10ぴきありさん 新・文学の本だな 低学年④』 1986年2月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-18. 『雨の糸 新・文学の本だな 中学年⑤』 1986年2月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-19. 『教えてくださいどこにいればいいのか 新・文学の本だな 高学年⑤』 1986年2月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社
- 1-20. 『長靴をはいた猫からの手紙 新・文学の本だな 高学年⑥』 1986年2月15日 編集：大阪国際児童文学館 編者：あまんきみこ／奥田継夫／鳥越信／松田司郎

／三宅興子／横川寿美子 発行：国土社

復刻

1. 『雑誌「童話」復刻版』 1982年3月1日 編集：柴野民三／関英雄／鳥越信 企画

協力：財団法人大阪国際児童文学館 発行：岩崎書店

- 1-1. 『童話』 第1巻第1号 1920年（大正9年）4月1日
- 1-2. 『童話』 第1巻第2号 1920年（大正9年）5月1日
- 1-3. 『童話』 第1巻第3号 1920年（大正9年）6月1日
- 1-4. 『童話』 第1巻第4号 1920年（大正9年）7月1日
- 1-5. 『童話』 第1巻第5号 1920年（大正9年）8月1日
- 1-6. 『童話』 第1巻第6号 1920年（大正9年）9月1日
- 1-7. 『童話』 第1巻第7号 1920年（大正9年）10月1日
- 1-8. 『童話』 第1巻第8号 1920年（大正9年）11月1日
- 1-9. 『童話』 第1巻第9号 1920年（大正9年）12月1日
- 1-10. 『童話』 第2巻第1号 1921年（大正10年）1月1日
- 1-11. 『童話』 第2巻第2号 1921年（大正10年）2月1日
- 1-12. 『童話』 第2巻第3号 1921年（大正10年）3月1日
- 1-13. 『童話』 第2巻第4号 1921年（大正10年）4月1日
- 1-14. 『童話』 第2巻第5号 1921年（大正10年）5月1日
- 1-15. 『童話』 第2巻第6号 1921年（大正10年）6月1日
- 1-16. 『童話』 第2巻第7号 1921年（大正10年）7月1日
- 1-17. 『童話』 第2巻第8号 1921年（大正10年）8月1日
- 1-18. 『童話』 第2巻第9号 1921年（大正10年）9月1日
- 1-19. 『童話』 第2巻第10号 1921年（大正10年）10月1日
- 1-20. 『童話』 第2巻第11号 1921年（大正10年）11月1日
- 1-21. 『童話』 第2巻第12号 1921年（大正10年）12月1日
- 1-22. 『童話』 第3巻第1号 1922年（大正11年）1月1日
- 1-23. 『童話』 第3巻第2号 1922年（大正11年）2月1日
- 1-24. 『童話』 第3巻第3号 1922年（大正11年）3月1日
- 1-25. 『童話』 第3巻第4号 1922年（大正11年）4月1日
- 1-26. 『童話』 第3巻第5号 1922年（大正11年）5月1日
- 1-27. 『童話』 第3巻第6号 1922年（大正11年）6月1日
- 1-28. 『童話』 第3巻第7号 1922年（大正11年）7月1日
- 1-29. 『童話』 第3巻第8号 1922年（大正11年）8月1日
- 1-30. 『童話』 第3巻第9号 1922年（大正11年）9月1日

- 1-31. 『童話』 第3卷第10号 1922年(大正11年)10月1日
1-32. 『童話』 第3卷第11号 1922年(大正11年)11月1日
1-33. 『童話』 第3卷第12号 1922年(大正11年)12月1日
1-34. 『童話』 第4卷第1号 1923年(大正12年)1月1日
1-35. 『童話』 第4卷第2号 1923年(大正12年)2月1日
1-36. 『童話』 第4卷第3号 1923年(大正12年)3月1日
1-37. 『童話』 第4卷第4号 1923年(大正12年)4月1日
1-38. 『童話』 第4卷第5号 1923年(大正12年)5月1日
1-39. 『童話』 第4卷第6号 1923年(大正12年)6月1日
1-40. 『童話』 第4卷第7号 1923年(大正12年)7月1日
1-41. 『童話』 第4卷第8号 1923年(大正12年)8月1日
1-42. 『童話』 第4卷第9号 1923年(大正12年)9月1日
1-43. 『童話』 第4卷第10号 1923年(大正12年)10月1日
1-44. 『童話』 第4卷第11号 1923年(大正12年)11月1日
1-45. 『童話』 第5卷第1号 1924年(大正13年)1月1日
1-46. 『童話』 第5卷第2号 1924年(大正13年)2月1日
1-47. 『童話』 第5卷第3号 1924年(大正13年)3月1日
1-48. 『童話』 第5卷第4号 1924年(大正13年)4月1日
1-49. 『童話』 第5卷第5号 1924年(大正13年)5月1日
1-50. 『童話』 第5卷第6号 1924年(大正13年)6月1日
1-51. 『童話』 第5卷第7号 1924年(大正13年)7月1日
1-52. 『童話』 第5卷第8号 1924年(大正13年)8月1日
1-53. 『童話』 第5卷第9号 1924年(大正13年)9月1日
1-54. 『童話』 第5卷第10号 1924年(大正13年)10月1日
1-55. 『童話』 第5卷第11号 1924年(大正13年)11月1日
1-56. 『童話』 第5卷第12号 1924年(大正13年)12月1日
1-57. 『童話』 第6卷第1号 1925年(大正14年)1月1日
1-58. 『童話』 第6卷第2号 1925年(大正14年)2月1日
1-59. 『童話』 第6卷第3号 1925年(大正14年)3月1日
1-60. 『童話』 第6卷第4号 1925年(大正14年)4月1日
1-61. 『童話』 第6卷第5号 1925年(大正14年)5月1日
1-62. 『童話』 第6卷第6号 1925年(大正14年)6月1日
1-63. 『童話』 第6卷第7号 1925年(大正14年)7月1日
1-64. 『童話』 第6卷第8号 1925年(大正14年)8月1日
1-65. 『童話』 第6卷第9号 1925年(大正14年)9月1日

- 1-66. 『童話』 第6巻第10号 1925年(大正14年)10月1日
 1-67. 『童話』 第6巻第11号 1925年(大正14年)11月1日
 1-68. 『童話』 第6巻第12号 1925年(大正14年)12月1日
 1-69. 『童話』 第7巻第1号 1926年(大正15年)1月1日
 1-70. 『童話』 第7巻第2号 1926年(大正15年)2月1日
 1-71. 『童話』 第7巻第3号 1926年(大正15年)3月1日
 1-72. 『童話』 第7巻第4号 1926年(大正15年)4月1日
 1-73. 『童話』 第7巻第5号 1926年(大正15年)5月1日
 1-74. 『童話』 第7巻第6号 1926年(大正15年)6月1日
 1-75. 『童話』 第7巻第7号 1926年(大正15年)7月1日

1-76. 『雑誌「童話」復刻版 別冊《解説・執筆者一覧》』 1982年3月1日 編集：
 柴野民三／関英雄／鳥越信 企画協力：財団法人大阪国際児童文学館 発行：岩崎書店

収録：刊行にあたって／《解説》〈雑誌「童話」の特色——児童文学史上の位置（鳥越信）／雑誌「童話」の創作童話（関英雄）／雑誌「童話」の童謡と音楽（藤田圭雄）／雑誌「童話」の絵画 思い出すままに——主として川上四郎先生の絵（柴野民三）／雑誌「童話」の童話劇（冨田博之）／わが知れる「童話」の投稿家たち（平林武雄）／雑誌「童話」の再話について（佐藤宗子）／西條八十と本居宣長（金田一春彦）／雑誌「童話」と千葉省三（関口安義）／雑誌「童話」研究文献解題（向川幹雄）／《雑誌「童話」の思い出》〈「童話」とその頃の思い出（北村寿夫）／雑誌「童話」の思い出（与田準一）／投書三昧（茶木滋）／雑誌「童話」それは日本児童文学書のたから（淀川長治）／大正の子（高橋義孝）／「童話」は私の投書の第一歩（古村徹三）／雑誌「童話」は、ただ郷愁（戸塚博司）／雑誌「童話」に育てられ結ばれた稀な友情（赤星琴子）／雑誌「童話」と共に少女期を生きて（亀田りえ）／父のあの頃（千葉まさ子）〉／この復刻版について／執筆者索引

2. 『雑誌『児童文学』復刻版』 1984年8月7日 編集委員：関口安義／小西正保 企画協力・提携：大阪国際児童文学館 発行：アリス館

2-1. 『児童文学』 第1冊 1931年(昭和6年)7月20日

2-2. 『児童文学』 第2冊 1932年(昭和7年)3月10日

2-3. 『雑誌『児童文学』復刻版 別冊』 1984年8月7日 編集委員：関口安義／小西正保 企画協力・提携：大阪国際児童文学館 発行：アリス館

収録：刊行のことば（菅泰男）／解説〈雑誌『児童文学』について（関口安義）／児童文学史における雑誌『児童文学』（続橋達雄）／近代文学作家と雑誌『児童文学』（紅野敏郎）／近代詩人と雑誌『児童文学』（伊藤信吉）／童謡詩人と雑誌『児童文学』（藤田圭雄）／雑誌『児童文学』の創作童話（西田良子）／宮澤賢治と雑誌『児童文学』

(小西正保) / 雑誌『児童文學』の翻訳童話(横川寿美子) / 雑誌『児童文学』のこと
と〈時代への批判から出発(天澤提二郎) / 『児童文學』との出会い(鳥越信) / 私
の書いた純粹童話(春山行夫) / 雑誌『児童文學』を読んで〈ふたりの詩人——善助
と猶吉(堀尾青史) / 一つの時代(安藤美紀夫) / 詩的童話への希求(佐藤通雅) /
セnderド市にて(宮川健郎) / 雑誌『児童文學』の復刻にあたって

3. 『『児童芸術研究』復刻本』 1986年6月14日 編集:財団法人大阪国際児童文学館
発行:久山社

3-1. 『児童芸術研究』 第1巻第1号 11月号 1934年(昭和9年)11月25日

3-2. 『児童芸術研究』 第2号 1935年(昭和10年)2月1日

3-3. 『児童芸術研究』 第3号 1935年(昭和10年)3月25日

3-4. 『児童芸術研究』 第4号 1935年(昭和10年)6月10日

3-5. 『児童芸術研究』 第5号 1935年(昭和10年)8月10日

3-6. 『児童芸術研究』 第6号 1935年(昭和10年)11月10日

3-7. 『児童芸術研究』 第7号 1936年(昭和11年)2月20日

3-8. 『児童芸術研究』 第8号 1936年(昭和11年)6月15日

3-9. 『児童芸術研究』 第9号 1936年(昭和11年)9月5日

3-10. 『児童芸術研究』 第10号 1937年(昭和12年)1月28日

3-11. 『児童芸術研究』 第11号 1937年(昭和12年)3月20日

3-12. 『児童芸術研究』 第12号 1937年(昭和12年)6月1日

3-13. 『児童芸術研究』 第13号 1937年(昭和12年)10月1日

3-14. 『児童芸術研究』 第14号 1938年(昭和13年)5月15日

3-15. 『児童芸術研究(全14冊, 附録・別冊各1)』 1986年6月14日 編集:財団
法人大阪国際児童文学館 発行:久山社

収録:『児童芸術研究』の復刻にあたって(菅泰男) / 『児童芸術研究』解説・解題『児童
芸術研究』の史的位罫(向川幹雄) / 渡辺三郎と児童芸術教育研究所の周辺(上田
信道) / 渡辺三郎について(藤本芳則) / 外国児童文学理論の紹介(勝尾金弥) / 「児
童芸術研究」と槇本楠郎・菅忠道(鳥越信) / 演劇分野からみた特徴(富田博之) /
「児童芸術研究」とわたし(中川正文) / 回想〈渡辺三郎の思い出(有馬タツエ) /
構成主義的な空間への投射——渡辺三郎の演出について——(上原弘毅) / 「児童
芸術研究」の復刻刊行に寄せて(辻部政太郎) / 復刻版制作にさいして / 『児童芸術
研究』総目次 / 執筆者索引

4. 『『豆の木』復刻本』 1998年11月10日 企画・編集:財団法人大阪国際児童文学館
発行:大阪書籍

4-1. 『豆の木』 創刊号 1950年(昭和25年)3月19日

4-2. 『豆の木』 第2冊 1950年(昭和25年)4月16日

- 4-3. 『豆の木』 第3冊 1950年（昭和25年）5月14日
- 4-4. 『豆の木』 第4冊 1950年（昭和25年）7月16日
- 4-5. 『豆の木』 第5冊 1950年（昭和25年）8月27日
- 4-6. 『豆の木』 復刊第1号 1953年（昭和28年）3月1日
- 4-7. 『豆の木』 復刊第2号 1953年（昭和28年）5月30日
- 4-8. 『『豆の木』復刻本解説書』 1998年11月10日 企画・編集：財団法人大阪国際児童文学館 発行：大阪書籍
- 収録：はじめに（中川正文）／第一章 復刻本発刊にあたって〈日本児童文学史における『豆の木』（大藤幹夫）／『豆の木』の作家たち（向川幹雄）〉／第二章 『豆の木』の思い出〈はじめての友人（神戸淳吉）／私と『豆の木』（長崎源之助）／『豆の木』と私（いぬいとみこ）／『豆の木』の思い出（鳥越信）／資料『豆の木』について（長崎源之助）〉／第三章 作品論〈長崎源之助の作品（上田信道）／佐藤暁の作品論（藤本芳則）／構図の試作——いぬいとみこの叙情、物語性そして問題提起——（佐藤宗子）／手紙と星と——神戸淳吉の作品——（宮川健郎）／馬淵一世・祖父江里子・若林豊子の作品を中心に（西寄康雄）／野岸初子・宮内徳一・竹内弥太郎の作品を中心に（小松聡子）〉／付録 『豆の木』の資料〈『豆の木』関連年表（遠藤純）／『豆の木』参考文献目録（遠藤純）／企画・編集・執筆者一覧〉

館報

1. 『大阪国際児童文学館ニュース』→『大阪国際児童文学館 news』→『大阪国際児童文学館 REPORT』
- 1-1. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第1号 1982年8月20日
- 収録：発刊にあたって（桑原武夫）／設立までの経緯と現在の問題（向川幹雄）／建設準備委員会からの現状報告／わがコレクション（談：鳥越信）／昭和57年度の催し予定／寄贈資料の受け入れ状況と寄贈御礼
- 1-2. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第2号 1983年3月31日
- 収録：大阪国際児童文学館着工によせて（佐治敬三）／この一年／表紙木の音（塩崎源一郎）／児童文学所縁名物／寄贈資料の受け入れ状況と寄贈御礼
- 1-3. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第3号 1983年12月1日
- 収録：近づく開館を前に（菅康男）／Information ——ひろ・ほん・おとずれ・もよおし／Opinion 児童文学館への期待（上田由美子・竹内長武）／いま開館に向けて ——こんな準備をすすめています／寄贈御礼と受け入れ状況の御報告／児童文学所縁名物
- 1-4. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第4号 1984年10月1日
- 収録：国際児童文学館の御案内／いま陽がのぼる 子どもの本の城 ——5月5日国

際児童文学館オープン——／記念講演要旨 子どもが本をひらくとき（石井桃子）／
三本の柱（菅泰男）／新美南吉資料寄託される／雑誌「児童文学」復刻／利用状況の
報告／寄贈御礼と受け入れ状況の御報告

1-5. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第5号 1985年3月1日

収録：資料の寄贈あいつぐ／活動の記録そしていま 国際児童文学館は……／スクラ
ップブック 一国際児童文学館関連の新聞記事など一／開館6ヶ月で入館10万人を
突破 一利用状況の報告一／講演要録 「『日本童謡史』を書き終えて」（藤田圭雄）

1-6. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第6号 1987年3月31日

収録：心のための機関（司馬遼太郎）／国際児童文学館この一年 1986.4～1987.3／
今春の国際耳朶欧文学館はこんなことを／おもな寄贈コレクション／全寄贈者リスト
1984.4～1986.3

1-7. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第7号 1988年3月31日

収録：資料ご寄贈のお願い／国際児童文学館この一年 1987.4～1988.3／今年はこん
なことを……／全寄贈者リスト

1-8. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第8号 1989年3月31日

収録：第二回国際グリム賞受賞者 G・クリングベリ博士に決定／この一年・国際児
童文学館の活動 1988.4～1989.3／今春はこんなことを／87年度全寄贈者リスト

1-9. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第9号 1990年3月31日

収録：外国客員研究員制度が発足／この一年・国際児童文学館の活動 1989.4～
1990.3／今年はこんなことを／88年度寄贈者リスト

1-10. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第10号 1991年5月31日

収録：第三回グリム賞 J・フレーザー博士が受賞／この一年・国際児童文学館の活
動 一九九〇年四月～九一年三月／今年はこんなことを／八九年度資料寄贈者リスト

1-11. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第11号 1992年3月31日

収録：ニッサン童話と絵本のグランプリ 第8回入賞作品が決定／この一年・国際児
童文学館の活動 一九九一年四月～九二年三月／ただいま企画中／一九九〇年度資料
寄贈者リスト

1-12. 『大阪国際児童文学館ニュース』 第12号 1993年3月31日

収録：第四回国際グリム賞 鳥越信氏に決定／この一年・国際児童文学館の活動
1992年4月～93年3月／今年はこんなことを／資料寄贈者 1991・4～92・3

1-13. 『大阪国際児童文学館 news』 第13号 1994年3月31日

収録：大阪国際児童文学館編 日本児童文学大事典 刊行／この一年・国際児童文学
館の活動 1993年4月～94年3月／今年はこんなことを／ありがとうございました
資料寄贈者（1992年4月～1993年3月）

1-14. 『大阪国際児童文学館 news』 第14号 1995年3月31日

- 収録：大阪国際児童文学館 開館 10 周年／この一年・国際児童文学館の活動 1994 年 4 月～1995 年 3 月／今年はこんなことを
- 1-15. 『大阪国際児童文学館 news』 第 15 号 1996 年 3 月 31 日
収録：第五回国際グリム賞 D・エスカルピ氏が受賞／この一年・国際児童文学館の活動 1995 年 4 月～1996 年 3 月／今年はこんなことを／ありがとうございました 資料寄贈者（1994 年 4 月～1996 年 3 月）
- 1-16. 『大阪国際児童文学館 news』 第 16 号 1997 年 3 月 31 日
収録：私にとって何がいちばん大切か（中川正文）／この一年・国際児童文学館の活動 1996 年 4 月 1997 年 3 月／今年はこんなことを／今年度購入の古書紹介／ありがとうございました 資料寄贈者（1996 年 4 月～12 月）
- 1-17. 『大阪国際児童文学館 news』 第 17 号 1998 年 3 月 31 日
収録：第六回国際グリム賞 T・ブリュッゲマン氏が受賞／この一年・国際児童文学館の活動 1997 年 4 月～1998 年 3 月／今年はこんなことを／今年度購入の古書紹介／ありがとうございました 資料寄贈者（1997 年 1 月～12 月）
- 1-18. 『大阪国際児童文学館 news』 第 18 号 1999 年 3 月 31 日
収録：戦後児童文学の様態をあらわす同人誌 『豆の木』の復刻／この一年・国際児童文学館の活動 1998 年 4 月～1999 年 3 月／今年はこんなことを／今年度購入の古書紹介／ありがとうございました 資料寄贈者（1998 年 1 月～12 月）
- 1-19. 『大阪国際児童文学館 news』 第 19 号 2000 年 3 月 31 日
収録：インターネットで所蔵資料の検索が可能になりました／この一年・国際児童文学館の活動 1999 年 4 月～2000 年 3 月／第七回国際グリム賞 ジャック・ザイプス博士が受賞／2000 年度はこんなことを／今年度購入の古書紹介／ありがとうございました 資料寄贈者（1999 年 1 月～12 月）
- 1-20. 『大阪国際児童文学館 news』 第 20 号 2001 年 3 月 31 日
収録：すべての図書・雑誌がインターネット検索が可能になりました／この一年・国際児童文学館の活動 2000 年 4 月～2001 年 3 月／2001 年度はこんなことを／今年度購入の古書紹介／ありがとうございました 資料寄贈者（2000 年 1 月～12 月）
- 1-21. 『大阪国際児童文学館 REPORT』 第 21 号 2002 年 10 月 1 日
収録：初心にたちかえって／2001 年度の活動（2001 年 4 月～2002 年 3 月）／2002 年度の予定（2002 年 4 月～2003 年 3 月）／ありがとうございました 資料寄贈者（2001 年 1 月～2002 年 3 月）
- 1-22. 『大阪国際児童文学館 REPORT』 第 22 号 2003 年 10 月 1 日
収録：子ども向け図書検索システム「本の海大冒険」の開発・研究／2002 年度の活動（2002 年 4 月～2003 年 3 月）／ありがとうございました 資料寄贈者（2002 年 4 月～2003 年 3 月）

- 1-23. 『大阪国際児童文学館 REPORT』 第23号 2004年10月1日 目次無し
2. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』
- 2-1. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 創刊盛夏号 発行年月日不明 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
- 2-2. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 創刊錦秋号 1991年11月3日 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
- 2-3. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 早春号 1992年2月25日 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
- 2-4. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 錦秋号 1992年10月27日 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
- 2-5. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 清明号 1993年4月6日 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し
- 2-6. 『大阪国際児童文学館事務局長だより』 季春号 1994年3月10日 編集：中川裕嗣 発行：財団法人大阪国際児童文学館 目次無し

記念誌

1. 『大阪国際児童文学館 10年の歩み (1984～1994)』 1995年1月 編集：財団法人大阪国際児童文学館 発行：財団法人大阪国際児童文学館
収録：開館十年に思う（菅泰男）／開館十周年を祝う（谷口文夫）／風の話（司馬遼太郎）／思い出（藤田圭雄）／開館十周年を迎えて（弥吉菅一）／もっと威張るためには（向川幹雄）／五十年先、百年先が楽しみ（榊居孝）／十周年に想う（大藤幹夫）／新たな決意で歩み始める（かつおきんや）／日本にたったひとつの児童文化・文学の殿堂を求めて（中川徳子）／これからの十年への出発（中川正文）／目でみる10年の歩み／資料編〈1. 主なできごと／2. 講座等の開催状況／3. 紀要の総目次／4. 外国人客員研究員／5. 歴代役員名簿／6. 歴代職員名簿〉
2. 『大阪府立国際児童文学館 20年の歩み (1984～2004)』 2004年 編集・発行：大阪国際児童文学館
収録：1. 20周年に寄せることば〈少年の志（中川正文）／20周年に寄せて（菅泰男）／大阪府立国際児童文学館開館20周年によせて（竹内脩）〉／2. 20周年記念式典・講演会・鼎談〈次第／式典〔お祝いのことば（小峰紀雄）／お祝いのことば（原昌）〕／講演会・鼎談「子どもの本の未来」〔講師紹介／鶴見俊輔氏の講演／加古里子氏の講演／鶴見俊輔氏・加古里子氏・松居直氏の鼎談〕〉／3. 目で見る20年の歩み／4. 資料編〈①所蔵資料点数／②「国際児童文学館紀要」目次一覧／③外国人客員研究員一覧／④国際グリム賞受賞者一覧／⑤講座・講演会・シンポジウム／⑥刊行資料一覧／⑦主な子ども室の催し／⑧展示／⑨ニッサン童話と絵本のグランプリ受賞者一覧〉

【57】 司馬遼太郎記念館

図録

1. 『司馬遼太郎』 2001年11月1日（2004年4月1日改訂版） 企画編集：財団法人司馬遼太郎記念財団 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：ごあいさつ（福田みどり）／司馬学校を夢見て（井上ひさし）／司馬遼太郎作品紹介／鼻の城／竜馬がゆく／燃えよ剣／国盗り物語／坂の上の雲／空海の風景／項羽と劉邦／菜の花の沖／韃靼疾風録／草原の記／風塵抄／この国のかたち／街道をゆく／二十一世紀に生きる君たちへ／創造の原点（安藤忠雄）／皆さんと歩む記念館（上村洋行）／司馬遼太郎記念財団の紹介／記念館利用案内
2. 『司馬遼太郎記念館「竜馬がゆく」展』 2002年4月23日 企画・編集・発行：財団法人司馬遼太郎記念財団 目次無し

研究誌

1. 『司馬遼太郎と幕末の出来事』 2004年4月 発行：司馬遼太郎記念館 目次無し

作品

1. 『二十一世紀に生きる君たちへ』 2003年4月25日 著者：司馬遼太郎 企画編集：司馬遼太郎記念館 発行：司馬遼太郎記念館
収録：二十一世紀に生きる君たちへ（原稿）／二十一世紀に生きる君たちへ／人間の荘厳さ／洪庵のたいまつ／発刊にあたって（上村洋行）

館報

1. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌』
 - 1-1. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2001年秋季号』 創刊号 2001年10月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：司馬遼太郎記念館の願い（上村洋行）／車座の中心（陳舜臣）／司馬さんの蔵書（出久根達郎）／記念館までの道のり（青木彰）／創造の原点（安藤忠雄）／記念館の周辺一八戸の里散歩道／『近所の記』《抜粹》（司馬遼太郎）／各地の催し—司馬遼太郎にちなんで／司馬遼太郎賞・フェローシップ・菜の花忌／私の司馬遼太郎体験（関川夏央）／寄附してくださった方のメッセージから／事務局だより／開館建設資金寄付者名簿／グラビア〈特集・記念館 in Photo／八戸にて〔album・時の風景〕／司馬さんの筆跡〉

- 1-2. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2002 年冬季号』 第 2 号 2002 年 1 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／とてつもない友（寺内大吉）／第 5 回 司馬遼太郎賞に宮部みゆき・山内昌之両氏／第 5 回 菜の花忌について／これまでのフェロウシップ報告から／『菜の花忌』司会・進行役として（古屋和雄）／「私の司馬遼太郎体験」（中村彰彦）／《車座の中で》（大村彦次郎）／ベトナム同行記（友田錫）／『酔って候』記者 A・加藤さん 司馬作品翻訳事情／事務局だより／「来館者ノート」から／グラビア〈ベトナム 1973 [album・時の風景]／司馬さんの筆跡／記念館オープン 70 日／記念館グッズ案内)
- 1-3. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2002 年春季号』 第 3 号 2002 年 4 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から／司馬さんの優しさ（三浦朱門）／特集・第 6 回菜の花忌／シンポジウム「21 世紀に生きる君たちへ」／「私の司馬遼太郎体験」（清水義範）／《車座の中で》（島山哲明）／私の宝物・韓国旅行（井上博道）／司馬作品翻訳事情・台湾（吉田信行）／フェロウシップ報告から／事務局だより〈特別展「竜馬がゆく」／記念館講演シリーズ／近況ほか）／司馬遼太郎文学碑『峠』／司馬さん寸景／編集後記／グラビア〈第 6 回菜の花忌／司馬さんの筆跡／韓のくに 1971 [album・時の風景]／記念館グッズ案内)
- 1-4. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2002 年夏季号』 第 4 号 2002 年 7 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／後釜ぐせ（阿川弘之）／司馬遼太郎記念館講演シリーズ①〈戦国時代と司馬さん（宮城谷昌光）〉／『関ヶ原』取材同行記・美濃路（田沼武能）／「私の司馬遼太郎体験」（小川保雄）／《車座の中で》（川野黎子）／フェロウシップ報告から／風待ち港の宿にて（風間完）／司馬作品翻訳事情・『坂の上の雲』（インタビュー W・E・ナフ教授）／事務局だより〈入館者 5 万人突破／講評「竜馬がゆく」展／記念館講演シリーズ後期日程／司馬遼太郎関連新刊案内／近況ほか）／司馬遼太郎文学碑『21 世紀に生きる君たちへ』／司馬さん寸景／編集後記／グラビア〈関ヶ原 1964 [album・時の風景]／司馬さんの筆跡／「竜馬がゆく」展から／記念館グッズ案内)
- 1-5. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2002 年秋季号』 第 5 号 2002 年 10 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／司馬さんの励まし（嶋中雅子）／司馬遼太郎記念館講演シリーズ〈ノンフィクションと司馬さん（柳田邦男）／ものづくりと司馬さんの世界（安藤忠雄）〉／「私の司馬遼太郎体験」（石川美子）／木曜島への旅（野村宏治）／司馬作品翻訳事情〈韓国での読まれ方（河田卓司）〉／フェロウシップ報告から／事

務局だより〈「友の会」交流会開催／「ツアー」実施へ／開館 1 周年特別展／「友の会」会員更新のお知らせ／観光バス駐車場／記念館日誌から／司馬遼太郎関連新刊案内ほか〉／『花神』ゆかりの碑《司馬遼太郎文学碑》／司馬さん寸景（野村崇）／編集後記／グラビア〈木曜島 1976 [album・時の風景]／司馬さんの筆跡／開館 1 周年・記念館アルバムから／記念館グッズ案内〉

1-6. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2003 年冬季号』 第 6 号 2003 年 1 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／司馬さんと「近代説話」（伊藤桂一）／第 6 回司馬遼太郎賞に杉山正明氏／フェローシップの 2 氏も決定／第 7 回菜の花忌について／司馬遼太郎記念館講演シリーズ〈竜馬と遼太郎（出久根達郎）／司馬さんのイスラーム観（山内昌之）／旅の愉悦《時の風景》（松原正毅）／私の司馬遼太郎体験（太田治子）／《車座の中で》（端山文昭）／司馬さんとの同行記（サトウサンペイ）／事務局便り〈「友の会」交流会／記念館に「まちなみ景観賞」／「坂の上の雲」で町づくり／記念館日誌から／司馬遼太郎関連新刊案内ほか〉／『竜馬がゆく』《司馬遼太郎文学碑》／司馬さん寸景（菅禮子）／編集後記／グラビア〈江南・雲南・＝1978～ [album・時の風景]／司馬さんの筆跡／司馬遼太郎賞の杉山正明さん／政教・友の会交流会（東京）。記念館グッズ案内〉

1-7. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2003 年春季号』 第 7 号 2003 年 4 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／司馬さんの思いで（樋口隆康）／司馬遼太郎氏のスピーチ（黒岩重吾）／第 7 回菜の花忌特集〈講演と対談「大阪について」（中西進／田辺聖子・藤本義一）〉／司馬遼太郎記念館講演シリーズ〈日本国憲法と司馬さん（井上ひさし）〉／私の司馬遼太郎体験（濱名志松）／《時の風景》「北のまほろば」への旅（村井重俊）／司馬遼太郎作品翻訳事情〈モンゴルでの読まれ方（鯉渕信一）〉／事務局だより〈「21 世紀に生きる君たちへ」展／「友の会」バスツアー／記念館日誌から／司馬遼太郎関連新刊案内ほか〉／瑠璃光寺の碑《司馬遼太郎文学碑》／司馬さん寸景（和田宏）／編集後記／グラビア〈特集 第 7 回菜の花忌（撮影 坂本達哉）／司馬さんの筆跡／[album・時の風景]「北のまほろば」1994（撮影 長谷忠彦）／記念館グッズ案内〉

1-8. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2003 年夏季号』 第 8 号 2003 年 7 月 20 日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から（上村洋行）／挿絵の記憶（安野光雅）／司馬さんの蔭徳（粕谷一希）／記念館講演シリーズ『街道をゆく』と地域学（森浩一）／人間とロボット（立花隆）／私の司馬遼太郎体験（C. カドゥ）／《車座の中で》少数民族への想い（鈴木肇）／時の風景〈アメリカ素描の旅（阿部義正）〉／事務局だより〈『二十一世紀に

生きる君たちへ』単行本好評／記念館に竜馬さん？／たそがれコンサート／講演シリーズ案内／事務局近況ほか）／宮崎八郎戦没ノ碑《司馬遼太郎文学碑》／司馬さん寸景（窪内隆起）／編集後記／グラビア〈[album・時の風景] ポーツマス 1985（撮影 坂本達哉）／司馬さんの筆跡／「友の会ツアー」初夏の京都へ／記念館グッズ案内〉

1-9.『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2003年秋季号』 第9号 2003年10月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団

収録：大書架から（上村洋行）／「政治家に接触しない」の禁忌（姜在彦）／記念館講演シリーズ〈司馬さんの眼鏡（永井路子）／私の司馬遼太郎体験（松前洋一）／《車座の中で》三角帽子の小妖精（川口信行）／《時の風景》オランダ・ロケ同行記（畠山経彦）／事務局だより〈2周年記念企画展／ホームページ新装／蔵書データベース化すすむ／来館者10万人こえる／事務局日誌から／司馬遼太郎関連新刊案内ほか〉／『播磨灘物語』《司馬遼太郎文学碑》／友の会通信〈「私の好きな登場人物」アンケート結果会員寄稿から／江南のみち（本間信一）／今を思う（植田栄二）／司馬さん寸景（浅井聡）／編集後記／グラビア〈[album・時の風景] オランダ 1988（撮影 飯田隆夫）／司馬さんの筆跡／記念館アルバムから 10万人目の来館者ほか／記念館グッズ案内

1-10.『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2004年冬季号』 第10号 2004年1月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団

収録：大書架から（上村洋行）／記号化と相対化（上田正昭）／第7回司馬遼太郎賞に池澤夏樹氏／フェローシップの2氏も決定／司馬遼太郎記念館講演シリーズ〈司馬遼太郎と「もうひとつの日本」（松本健一）／私の昭和～ゾルゲ事件～（篠田正浩）／私の司馬遼太郎体験（田中準造）／《車座の中で》乃木さんと太宰治（豊田健次）／時の風景『空海の風景』に案内されて（山形真功）／事務局だより〈濃尾参州記展好評／次回企画展は「幕末の世界」／「菜の花忌」プログラム／記念館日誌から／司馬遼太郎関連新刊案内ほか〉／『この国のかたち』《司馬遼太郎文学碑》／友の会通信〈「私の好きな登場人物」／会員寄稿から「長いおつきあい」（田崎ちる子）／「愛蘭土紀行」（町田孝行）／司馬さん寸景（池辺史生）／編集後記／グラビア〈[album・時の風景] 高野山 1975（撮影 増山武久）／司馬賞の池澤夏樹氏／「記念館アルバム」から／記念館グッズ案内

1-11.『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2004年春季号』 第11号 2004年4月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団

収録：大書架から（上村洋行）／三島の水そのほか（大岡信）／特集 第8回菜の花忌〈受賞者スピーチ（池澤夏樹）／シンポジウム「変革の時代のひとびと」（河合隼雄 井上ひさし 松本健一 森まゆみ 司会・古屋和雄）／フェローシップ（第6回）報告（須藤義人 高橋宏幸）／司馬遼太郎記念館講演シリーズ〈モンゴルと司馬遼太郎

- (梅棹忠夫 聞き手・小長谷有紀) / 与えられつづけて (田中明) / 私の司馬遼太郎体験 (竹内修司) / 事務局だより (新企画展「司馬遼太郎が描く幕末の世界」 / 記念財団新役員決定ほか) / 『歴史と小説』《司馬遼太郎文学碑》 / 友の会通信 (「私の好きな登場人物」 / 会員寄稿から「堺からの便り」(山田博昭) / 「誤報をめぐって」(事務局)) / ツェベクマさんのこと (鯉渕信一) / グラビア (菜の花忌 (撮影 坂本達哉) / 「濃尾参州記」ツアー / 「album・時の風景」『燃えよ剣』周辺 / 記念館グッズ案内)
- 1-12. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2004年夏季号』 第12号 2004年7月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から (上村洋行) / 雄大な交響詩『韃靼疾風録』(神坂次郎) / 司馬遼太郎記念館講演シリーズ (歴史小説のこと (宮尾登美子) / アジアがつくった世界地図 (杉山正明)) / 司馬さんの侠気 (植田新也) / 至福の旅・近江へ (末富明子) / 司馬作品翻訳事情『韃靼疾風録』(J・フォーゲル) / 事務局だより (記念財団平成15年度事業報告 / 講演シリーズ後期案内 / 蔵書目録の入力状況 / 「菜の花忌の会」発足) / 《司馬遼太郎文学碑》『街道をゆく』下関市 / 友の会通信 (「私の好きな登場人物」) / 《司馬さん寸景》(山形真功) / 編集後記 / グラビア (「album・時の風景」竜馬脱藩の道 土佐・構原1985 (撮影 佐久間陽三) / 衝立のなかの仲間たち / 「幕末の世界展」から / ボランティア研修ツアー (版画・文 田主誠) / 記念館グッズ案内)
- 1-13. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2004年秋季号』 第13号 2004年10月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：大書架から (上村洋行) / 司馬遼太郎と天皇制 (長部日出雄) / 司馬遼太郎記念館講演シリーズ (話す・語る・沈黙する (山折哲雄) / 女性の時代 (安藤忠雄)) / 私の司馬遼太郎 (牧冬彦) / 司馬遼太郎、昭和三十四年夏 / 司馬作品翻訳事情 韓国での読まれ方 II (黒田勝弘) / 草原の星と虹と (藤原作弥) / 事務局だより (新企画展「挿し絵でみる司馬作品」 / 菜の花ネットワーク / 来期「菜の花忌」案内 / お抹茶セット / 京都ツアー / 新刊案内ほか) / 《司馬遼太郎文学碑》『三島の水』静岡・三島市 / 友の会通信 (「訪ねて良かった司馬作品舞台」) / 来館者ノートから / 《司馬さん寸景》(藤谷宏樹) / 編集後記 / グラビア (挿し絵でみる司馬作品 / 記念館グッズ案内)
- 1-14. 『遼 司馬遼太郎記念館会誌 2005年冬季号』 第14号 2005年1月20日 編集：司馬遼太郎記念館会誌編集委員会 発行：財団法人司馬遼太郎記念財団
収録：第8回司馬遼太郎賞に松本健一氏 / フェローシップは桶井健策氏 / 「司馬さんと維新の群像」(辻井喬) / 司馬遼太郎記念講演シリーズ (ユーラシアの再編成にむけて (松原正毅) / ことばの風景 (天野祐吉)) / 司馬遼太郎賞選評 / 受賞のことばほか / 大書架から (上村洋行) / 20世紀最大のジャーナリスト (山田慎二) / 菜の花の縁 (木下秀男) / 子猿がゆく (みなもと太郎) / 事務局だより (「第9回菜の花忌」 / 「挿し絵でみる司馬作品企画展」会期延長 / 講演シリーズ案内 / 新刊紹介) / 《司馬

遼太郎文学碑》『肥前の諸街道』／友の会通信〈訪ねて良かった司馬作品の舞台〉／《司馬さん寸景》(坂本達哉)／編集後記／グラビア〈受賞者の顔・松本健一氏／記念館アルバムから／記念館グッズ案内〉

【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館

図録

1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館第十二回特別展 「志賀直哉と谷崎潤一郎」 図録』 1993年7月30日 編集：生井知子／細江光 発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館
収録：巻頭言(阿川弘之)／秘蔵の三通のお便り(直井潔)／生い立ち／青年時代／作家デビュー／大正時代／関西時代／晩年／書簡／アルバム／「新春座談会」／出品・資料協力者一覧
2. 『谷崎潤一郎・『細雪』そして芦屋』 1997年12月 編集・発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人明日死文化振興財団
収録：ごあいさつ(竹田長男)／開館と松子夫人の思い出(辻本勇)／芦屋と谷崎潤一郎(大谷晃一)／谷崎潤一郎の人と作品(たつみ都志)〈生い立ちから関西移住まで／『細雪』の世界／晩年の谷崎潤一郎／寄稿[岡本時代の谷崎(明里千章)／芦屋時代の谷崎(細江光)／『細雪』について(千葉俊二)／世界の谷崎文学(E. G. サイデンステッカー)]〉／谷崎潤一郎略年譜／阪神館転居あとと芦屋ゆかりの地／館蔵品(抄)／編集後記／資料協力者一覧
3. 『開館十周年記念 小出楯重の素描 小出楯重と谷崎潤一郎—「蓼喰ふ蟲」の世界』 2000年9月 編集：芦屋市立美術博物館／芦屋市谷崎潤一郎記念館編 発行：芦屋市立美術博物館／芦屋市谷崎潤一郎記念館編
収録：ごあいさつ／謝辞／「小出楯重の素描」(川崎晃一)／凡例／I 素描(一)／II 初期作品(一)／III 初期作品(二)／IV 滞欧書簡／V スケッチ／VI 文学関係「蓼喰ふ蟲」の挿絵を中心に／VII 素描(二)／「挿絵雑談」『アトリエ』第六卷三号(一九二九年三月)(小出楯重)／「『蓼喰ふ蟲』の挿絵」(荒川明子)／装丁、表紙、挿絵リスト／略年譜／出品目録

目録

1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館蔵 谷崎潤一郎資料目録 図書・逐次刊行物篇 2001年版』 2002年3月31日 編集：芦屋市谷崎潤一郎記念館 発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団
収録：凡例／図書〈I. 谷崎潤一郎著書[1. 単行本／2. 作品収録単行本／3. 全集、作

- 品集／4. 作品収録文学全集、選集、叢書／5. 文庫]／II. 谷崎潤一郎関連記述、論文収録図書／III. 谷崎潤一郎作品外国語訳図書)／逐次刊行物〈谷崎潤一郎関連記述、論文収録逐次刊行物)／書名索引
2. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館所蔵 北川真三収集 谷崎潤一郎資料目録 一真三堂文庫目録一』 2005年3月31日 編集：芦屋市谷崎潤一郎記念館 発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団
収録：図書〈I. 谷崎潤一郎著書 [1. 単行本／2. 作品収録単行本／3. 全集、作品集／4. 作品収録文学全集、選集、叢書／5. 文庫]／II. 谷崎潤一郎関連記述・論文収録図書／III. 谷崎潤一郎作品外国語訳図書)／逐次刊行物／プログラム、図録、パンフレット、目録／音声資料／書名索引
3. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館所蔵 近藤良貞収集 谷崎潤一郎資料目録 一近藤良貞文庫目録一』 2005年3月31日 編集：芦屋市谷崎潤一郎記念館 発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団
収録：図書〈I. 谷崎潤一郎著書 [1. 単行本／2. 作品収録単行本／3. 全集、作品集／4. 作品収録文学全集、選集、叢書／5. 文庫／6. 点字図書]／II. 谷崎潤一郎関連記述・論文収録図書、一般図書／III. 谷崎潤一郎作品外国語訳図書)／逐次刊行物／プログラム、台本、図録、パンフレット、目録／音声資料／文書・記録類／書名索引

記録集

1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館資料集』
- 1-1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館資料集(1) 映像・音声資料』 1995年12月 編集：細江光 発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団
収録：はじめに／谷崎潤一郎記念館所蔵映像資料〈一 「特集対談 潤一郎夜話」[出演：谷崎潤一郎・佐々木茂索 放映：昭和三十年十一月二十三日午後九時十五分から四十五分まで NHK テレビ]／二 「ここに鐘は鳴る 谷崎潤一郎」[出演：谷崎潤一郎・長谷川良吉／杉浦貞二・峯岸鎮治・笹沼源之助・稲葉千代・津島寿一・長田幹彦・金子竹次郎・今東光・内田吐夢・紅沢葉子・岡田茉莉子・伊藤整・山中美智子・吉井勇・(アナウンサー)八木治郎 放映：昭和三十四年十一月二日午後七時半から八時まで NHK テレビ]／三 「婦人の時間・この人 この道 谷崎潤一郎」[出演：谷崎潤一郎・後藤末雄・高島達四郎・(聞き手)十返千鶴子 放映：昭和三十七年十二月六日午後一時二十分から五十分まで NHK テレビ]／四 「日本の文学 源氏物語と私」[出演：谷崎潤一郎 放映：昭和三十八年一月三十、三十一日午前十時四十分から五十五分まで 読売テレビ]〉／谷崎潤一郎記念館所蔵音声資料〈一 「芥川龍之介について」[出演：谷崎潤一郎・嶋中鵬二 放送：昭和二十九年七月二十四日午前八時半から九時十五分までのうち十四分四十三秒 NHK ラジオ第一放送]／二 「新

春座談会」[出演：谷崎潤一郎・志賀直哉・吉井勇・(司会)辰野隆 放送 昭和三十年一月一日午後十一時から四十分まで ラジオ東京]／三 「芸術よもやま話」[出演：谷崎潤一郎・円地文子 放送：昭和三十五年二月一日午後七時半から八時までのうち三分四十五秒 文化放送]

2. 『「阪神間モダニズム展 ―ハイカラ趣味と女性文化―」資料集』 1997年10月18日 編集・発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団
収録：ごあいさつ／目次／新しさと古さの共存 ―谷崎潤一郎の見た阪神間― (たつみ都志)／I 阪神間の風景 (一、気候・風土／二、風景の近代化 [(一) 別荘地・住宅地／(二) 環境])／II 阪神間の暮らしと文化 (一、習慣／二、女性の文化)／文学作品の表現に見る「阪神間」モダニズムの影 ―まとめにかえて― (槌賀七代)／阪神間文学地図／作家略歴／出典／主要参考文献

翻刻

1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館資料集』

- 1-1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館資料集 (2) 雨宮庸蔵宛谷崎潤一郎書簡』 1996年10月8日 編集・発行：芦屋市谷崎潤一郎記念館／財団法人芦屋市文化振興財団

収録：I はじめに／II 凡例／III 雨宮庸蔵略歴／IV 解説および書簡本文 (1 『吉野葛』執筆まで／2 高野山時代／3 孔舎衛時代^{くさか}／4 西宮時代／5 横屋時代／6 北畑時代／7 芦屋時代／8 『源氏物語』現代語版／9 反高林時代^{たんたかいぼやし}／10 年月日不詳 封筒のみ)／V 付録 (1 使用の用箋について／2 書簡一覧／3 阪神間の転居跡)

- 1-2. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館資料集 (三) 久保家所蔵 谷崎潤一郎 久保義治・一枝宛書簡』 1999年3月31日 編集：芦屋市谷崎潤一郎記念館 発行：財団法人芦屋市文化振興財団

収録：はじめに (竹田長男)／久保一枝さんのこと (観世恵美子)／谷崎とお春どん (渡邊清治)／久保義治・一枝の略歴および書簡について／書簡翻刻 (昭和十八年／昭和十九年／昭和二十年／昭和二十一年／昭和二十三年／昭和二十四年／昭和二十五年／昭和二十六年／昭和二十七年／昭和二十九年／昭和三十年／昭和三十一年／昭和三十二年／昭和四十年／年次未詳)／母のこと (久保昭)／書簡一覧／人名・地名解説および索引

館報

1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』

- 1-1. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第1号 1991年10月1日 目次無し

収録：谷崎文学と芦屋 (長谷川節男)／潤一郎と春夫 ―メフィストフェレス春夫

- の役割——（たつみ都志）／佐藤春夫記念館と提携／第8回特別展「京都の谷崎潤一郎」 伝統と創造／館蔵資料紹介 俵屋宗達筆「源氏物語屏風切」
- 1-2. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第2号 1992年2月1日 目次無し
収録：谷崎文学の高揚／病床の短歌（渡辺清治）／なつかしい思い（観世恵美子）／きれいなものが好きだった（高橋百合子）／谷崎松子と佐保姫のこと ——「春琴抄」前後——（岩城康隆）／谷崎文学における女性像（細江光）／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎自筆色紙「細雪」「ささめゆき」
- 1-3. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第3号 1992年6月1日 目次無し
収録：「打出の家」／富田碎花に聞いた 潤一郎と打出の家の話（市居義彬）／「文章読本」と谷崎文学（上）（岩城康隆）／「聞書抄」「猫と庄造と二人のおんな」の背景（永栄啓伸）／谷崎潤一郎と田村孝之介（濱口博章）／さくらまつり／館蔵資料紹介「潤一郎訳源氏物語」特製本
- 1-4. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第4号 1992年9月1日 目次無し
収録：華々しい登場／マゾヒストの東京論（1）（千葉俊二）／赤い屋根 「文化住宅」というトポス（武田信明）／「文章読本」と谷崎文学（中）（岩城康隆）／谷崎文学講座を受講して（藤谷弥生）／館蔵資料紹介 「魯山人瞑入り印頼」と七宝焼朱肉入れ
- 1-5. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第5号 1992年12月1日 目次無し
収録：郷愁の幼少時代 日本橋界限／マゾヒストの東京論（2）（千葉俊二）／「文章読本」と谷崎文学（下）（岩城康隆）／最近の評論から／友の会のあゆみと共に（戸田幸子）／「源氏物語」原典を読む講座／館蔵資料紹介 外国語に訳された谷崎潤一郎の作品
- 1-6. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第6号 1993年3月1日 目次無し
収録：二つの峰 一潤一郎と直哉一／マゾヒストの東京論（3）（千葉俊二）／知られざる古川丁未子（1）（たつみ都志）／最近の評論から／『源氏物語』の世界にいらっしやりませんか（島田光子）／「源氏物語」原典を読む講座／館蔵資料紹介 潤一郎書幅 和歌の「つのくにの…」
- 1-7. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第7号 1993年6月1日 目次無し
収録：同時代を生きる…／知られざる古川丁未子（2） 一めぐりあい一（たつみ都志）／志賀直哉・谷崎潤一郎の全集未収録資料紹介（生井知子 細江光）／館蔵資料紹介 著者献呈署名入り『暗夜行路』豪華本
- 1-8. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第8号 1993年9月1日 目次無し
収録：開館五周年をむかえて（長谷川節男）／出会いの不思議（辻本勇）／知られざる古川丁未子（3） 一妖婦要素一（たつみ都志）／志賀直哉関係者の来館／女性への絶章二題（直井潔）／館蔵資料紹介 自筆原稿『きのふけふ』
- 1-9. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第9号 1993年12月1日 目次無し

- 収録：伝統芸能のこと／知られざる古川丁未子（4） —離婚後の丁未子—（たつみ都志）／開館五周年記念「伝統芸能の夕べ」 潤一郎さんのことども／館蔵資料紹介 愛用の京三味線
- 1-10. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第10号 1994年3月1日 目次無し
収録：「春琴抄」のこと／「春琴抄」を考える（1） —成立事情を中心に—（永栄啓伸）／谷崎潤一郎と雑誌「観照」（三島祐一）／館蔵資料紹介 自筆原稿『越冬記』
- 1-11. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第11号 1994年6月1日 目次無し
収録：「春琴抄」朱色漆塗り本／「春琴抄」を考える（2） —黙契の着想—（永栄啓伸）／企画展 『細雪』の世界 開催にあたって／RSTによる 谷崎文学 朗読の会／最近の評論から／第五回 細雪まつり／「源氏物語」原典を読む講座／職員の異動について／館蔵資料紹介 根津松子あて自筆書簡
- 1-12. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第12号 1994年9月1日 目次無し
収録：ゆかりの京都／「春琴抄」を考える（3） —永遠化への手順—（永栄啓伸）／雑誌「鈴の音」と平和記念東京博覧会（細江光）／犬を食べる話（伊吹和子）／日本近代文学館懇談会に出席して／館蔵資料紹介 奥村富久子あて自筆書簡
- 1-13. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第13号 1994年12月1日 目次無し
収録：昭和21年5月13日付 磯田又一郎宛書簡／「春琴抄」を考える（4） —復元される春琴—（永栄啓伸）／谷崎潤一郎をしのぶ月見の宴／谷崎文学読書会紹介／第15回「谷崎潤一郎と京都」展資料紹介（1）（細江光）／館蔵資料紹介 書額 潺湲亭
- 1-14. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第14号 1995年3月31日 目次無し
収録：「あぢさみの花に心を…」／をかもとの里は住よし（明里千章）／第15回「谷崎潤一郎と京都」展資料紹介（2）（細江光）／「花の段」と「紅しだれ」／館蔵資料紹介 磯田又一郎画『花の段』
- 1-15. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第15号 1995年6月30日 目次無し
収録：再開にあたって／谷崎潤一郎と若き日の仲間たち —大島堅造・大貫晶川・恒川陽一郎—（細江光）／岡本梅ヶ谷の家と鮎子（磯田知子）／第15回「谷崎潤一郎と京都」展資料紹介（3）（細江光）／館蔵資料紹介 自筆原稿『青春物語』緒言
- 1-16. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第16号 1995年9月15日 目次無し
収録：谷崎潤一郎の未発表書簡／をかもとの宿はすみよし —谷崎、「岡本の家」購入の経緯—（明里千章）／谷崎潤一郎新資料紹介（1）（細江光）／館蔵資料紹介 松子夫人愛用蒔絵螺鈿の『琴』
- 1-17. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第17号 1995年12月1日 目次無し
収録：谷崎潤一郎と池長孟／小特集「谷崎潤一郎と池長孟」紹介（細江光）／谷崎潤一郎新資料紹介（2）（細江光）／雨宮庸蔵あて自筆書簡／「芦屋市谷崎潤一郎記念館

資料集（一） 映像・音声資料」発行のお知らせ／谷崎文学作品朗読会のお知らせ／
館蔵資料紹介 内田巖 画 谷崎潤一郎肖像

- 1-18. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 18 号 1996 年 3 月 1 日 目次無し
収録：復興にむけ（三浦清）／谷崎潤一郎と大阪（一）（三島祐一）／谷崎潤一郎新資料紹介（3）（細江光）／今、谷崎の時代（金井啓修）／館蔵資料紹介 隅野滋子あて
自筆書簡
- 1-19. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 19 号 1996 年 6 月 1 日 目次無し
収録：心のライフラインを（畑幸雄）／谷崎潤一郎と大阪（二）（三島祐一）／鎖瀾閣^{きらんかく}
—谷崎潤一郎・岡本の家—復元運動（たつみ都志）／第七回細雪まつり／図書・資料
受贈報告 平成七年度／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎和歌短冊
- 1-20. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 20 号 1996 年 9 月 1 日 目次無し
収録：谷崎潤一郎・激動の時代／雨宮庸蔵氏宛 谷崎潤一郎書簡をめぐって（細江光）
／企画展紹介 昭和十年前後の谷崎潤一郎 —『盲目物語』から『潤一郎訳 源氏物
語』まで—／谷崎潤一郎と大阪（三）（三島祐一）／館蔵資料紹介 自筆原稿『武州公
秘話
- 1-21. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 21 号 1996 年 12 月 1 日 目次無し
収録：震災と文化の復興（北村春江）／雨宮庸蔵氏所蔵 山田孝雄書簡紹介（細江光）
／自筆原稿の味わい —谷崎潤一郎の原稿・書簡にふれて（明里千章）／谷崎潤一郎
と大阪（四）（三島祐一）／館蔵資料紹介 源氏物語翻訳完成記念東大寺伝来型猿面硯
- 1-22. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 22 号 1997 年 6 月 1 日 目次無し
収録：ごあいさつ／名誉館長就任にあたって（竹田長男）／嶋川信子さんの訃報／第
8 回 細雪まつり／「源氏物語」原典を読む講座／谷崎潤一郎作品朗読会／「阪神間
モダニズム展」開催について（槌賀七代）／谷崎潤一郎と創元社（一）（矢部文治）／
資料受贈報告 平成八年度
- 1-23. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 23 号 1997 年 10 月 1 日 目次無し
収録：特別展示開催にあたって（畑幸雄）／阪神間モダニズム展 ハイカラ趣味と女
性文化（荒川明子）／「潺湲亭夏日」^{せんかんていかじつ}に就いて —昭和 24 年 8 月谷崎潤一郎先生、
64 才—（増田実）／佐藤春夫記念館訪問記（竹田長男）／「谷崎潤一郎先生三三回忌」
に列席して（三浦清）／谷崎潤一郎と創元社（二）（矢部文治）／久保一枝さんを偲ん
で 『細雪』“お春どん”の一周忌に捧ぐ（藤原知子）／館蔵資料紹介 関口俊吾作「裸
婦」
- 1-24. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 24 号 1998 年 2 月 1 日 目次無し
収録：開館十周年にあたって（三浦清）／「吉野葛」の里を訪ねて —記念館バスツ
アー—／新資料紹介（1） —“お春どん”（久保一枝さん）宛書簡—（藤原知子）／
伊東市天城診療所訪問記（細江光）／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎著『鍵』

- 1-25. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第25号 1998年6月1日 目次無し
 収録：さらなる発展を願って（畑幸雄）／潺湲亭初冬 —谷崎先生御夫妻と私—（増田実）／第九回細雪まつりを開催／第三の女人像—黒瀬久賀の存在— 吉井勇あて書簡から垣間見たもの（たつみ都志）／資料受贈報告 平成九年度
- 1-26. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第26号 1998年10月1日 目次無し
 収録：開館十周年を迎えて（北村春江）／『父となりて』の著者とその娘（竹田長男）／打出のころ（観世恵美子）／ベートーヴェンピアノ協奏曲第3番によせて（渡邊清治）／祖父の涙（高橋百合子）／谷崎先生と私（嶋中雅子）／「ルンという犬と「老人」 —『細雪』続編の草稿—（伊吹和子）／写真でふりかえる記念館の十年／熱海の先生（綾部瓊子）／時の向こうに（北野悦子）／此岸の夢 彼岸の夢（奥村富久子）／「痴人の愛」のヒロイン（谷崎秀雄）／誤失歩のことなど（谷崎昭男）／谷崎潤一郎と熱海（一）（明里千章）／十年間の展示記録／十周年記念グッズ発売中／開館十周年記念企画展「谷崎潤一郎と阪神間」
- 1-27. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第27号 1999年2月1日 目次無し
 収録：記念館のありようを考えると（畑幸雄）／開館十周年記念式典と企画展を終えて／『幼少時代に見られる自己劇化』 吉井勇宛書簡に見る晩年（大村治代）／時の向こうに（二） セピア色の写真（北野悦子）／谷崎潤一郎と熱海（二）（明里千章）／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎 北野恒富宛書簡
- 1-28. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第28号 1999年6月1日 目次無し
 収録：谷崎潤一郎の短歌／絶品、巨匠木村氏が撮った大谷崎先生像の決定版に就いて（増田実）／時の向こうに（三） 伊豆山の谷崎先生（北野悦子）／第十回 細雪まつり／鞆の浦（一）（谷崎秀雄）／谷崎潤一郎と熱海（三）（明里千章）／資料受贈報告 平成十年度
- 1-29. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第29号 1999年10月1日 目次無し
 収録：企画展の開催にあたり／谷崎潤一郎の歌 ——現代へ語りかけるもの——（武川忠一）／谷崎潤一郎研究会について／谷崎潤一郎と熱海（四）（明里千章）／鞆の浦（二）（谷崎秀雄）／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎 吉井勇宛書簡
- 1-30. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第30号 2000年2月1日 目次無し
 収録：谷崎先生の思い出（一）（宮本信太郎）／鞆の浦（三）（谷崎秀雄）／谷崎潤一郎と熱海（五）（明里千章）／「蓼喰ふ虫」論 —設定年月・年齢と縮刷本『水沫集』の意味—（中谷元宣）／館蔵資料紹介 谷崎潤一郎原稿「西行東行 —昭和十九年日記抄—」
- 1-31. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第31号 2000年6月1日 目次無し
 収録：マグネシウムのけむり（今井利久）／谷崎先生の思い出（二）（宮本信太郎）／—谷崎潤一郎賞— 「文学公園&トーク」を終えて／谷崎の「探偵小説」 —『中央

- 公論 秘密と開放』号の言説分布を通して— (生方智子) / 谷崎潤一郎と熱海 (六)
 (明里千章) / 資料受贈報告 平成十一年度
- 1-32. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 32 号 2000 年 10 月 1 日 目次無し
 収録: 「追想・忘れじの女神 谷崎松子さんのこと」(増田実) / 「鴨東綺譚」表題考・
 事始め(藤原学) / 谷崎潤一郎と熱海(七)(明里千章) / 谷崎潤一郎と熱海関連年譜
 / 企画展 小出楢重と谷崎潤一郎 —「蓼喰ふ蟲」の世界— / 関連企画 小出楢重の
 素描 開館十周年記念
- 1-33. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 33 号 2001 年 2 月 1 日 目次無し
 収録: シンポジウム —実生活と作品— 「蓼喰ふ蟲」をめぐって(明里千章) / 書
 簡からみた「蓼喰ふ蟲」の執筆過程について(荒川明子) / 谷崎潤一郎と「陰翳礼讃」
 の世界(村井浩子) / 第三十六回 谷崎潤一郎賞受賞記念 特別講演会 作家 辻原
 登氏
- 1-34. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 34 号 2001 年 9 月 1 日 目次無し
 収録: 四十年目の手紙 —谷崎潤一郎=渡辺千萬子往復書簡— / 自分の手で書くとい
 うこと —『谷崎潤一郎=渡辺千萬子 往復書簡』をめぐって— (明里千章) / モノ
 ログからダイアログへ 『谷崎潤一郎=渡辺千萬子往復書簡』編集余話(千葉俊
 二) / 企画展 —「^{ふうてん}瘋癲老人日記」の世界— / 関連企画 / 資料受贈報告 平成 12 年
 度
- 1-35. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 35 号 2002 年 3 月 1 日 目次無し
 収録: 対談 小説と実生活のはざま —^{ふうてん}「瘋癲老人日記」颯子のモデルを迎えて— (渡
 辺千萬子 明里千章) / 「瘋癲老人日記」の挿絵をめぐって ~谷崎潤一郎と棟方志
 功(松尾理恵子) / 「助六芝居」のこと(渡辺たをり) / 第三十七回 谷崎潤一郎賞
 受賞記念特別講演会 —読書の魅力を川上さん語る— 作家 川上弘美氏
- 1-36. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 36 号 2002 年 9 月 1 日 目次無し
 収録: 谷崎文学のつどい 残月祭 / 谷崎文学のつどい 残月祭 講演会 「谷崎文学
 の魅力」 —歌と物語— (二)(千葉俊二) / 「谷崎潤一郎」から「祖父薄田泣菫」へ
 の手紙(満谷昭夫) / 月刊誌『ファッション』と『細雪』 —階層とそれを超える
 文学と(石野泉美) / 企画展 棟方志功と谷崎潤一郎 / 資料受贈報告 平成 13 年度
- 1-37. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 37 号 2003 年 3 月 1 日 目次無し
 収録: 谷崎文学のつどい 残月祭 講演会 「谷崎文学の魅力」 —歌と物語— (三)
 (千葉俊二) / 谷崎とポー —「日本に於けるクリツプン事件」を例に— (三嶋潤子)
 / 谷崎潤一郎が愛した神戸の店々(島雄) / 谷崎潤一郎賞記念特別講演会 —現代文
 学の問題— 作家 筒井康隆氏
- 1-38. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 38 号 2003 年 9 月 30 日 目次無し
 収録: 企画展 谷崎潤一郎訳「源氏物語」の世界 / 京都下鴨 旧谷崎邸を訪ねて(伊

吹和子) / 谷崎潤一郎「秘密」の世界 ——探偵小説との関連から—— (永井敦子)
/ 谷崎潤一郎文学のエスペラント訳 (植村達男) / 谷崎関係資料受贈報告 平成 14
年度 / 第二回 谷崎文学のつどい 残月祭

1-39. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 39 号 2004 年 3 月 31 日 目次無し
収録: 思い出すままに —谷崎先生のこと— (宮地裕) / 第二回 谷崎文学のつどい
残月祭 講演会 淡路人形浄瑠璃と谷崎潤一郎 (明里千章) / 「幫間」考 —その作
品評価をめぐる— (中谷元宣) / 谷崎潤一郎受賞記念特別講演会 「虚構としての
伝統。わたしの谷崎潤一郎」 多和田葉子氏

1-40. 『芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース』 第 40 号 2004 年 10 月 31 日 目次無し
収録: 第三回 谷崎文学のつどい 残月祭 対談「フィナーレに華を ~谷崎晩年の
ミューズ・千萬子~」(渡辺千萬子 たつみ都志) / 「北白川仕伏町三番地」(渡辺千萬子)
/ 谷崎関係資料受贈報告 平成 15 年度 / 潺湲亭はるあき (塩崎文雄) / 谷崎の「白
峰」体験 (細川光洋) / 新潮社『代表的名作選集 お艶殺し』の位相 (日高佳紀) /
第三回 谷崎文学のつどい 残月祭

【59】姫路文学館

図録 (常設展)

1. 『姫路文学館への招待 播磨の風土と文化』 1991 年 4 月 1 日 編集・発行: 姫路文
学館

収録: ごあいさつ / 展示の構成 / 播磨曼荼羅 (風土 海 / 風土 川 / 風土 平野 / 風土
山 / 歴史 国土生成 / 歴史 古代の道と駅 / 歴史 陰陽師の逃避行 / 歴史 書写山炎
上 / 歴史 騒乱の世紀 / 歴史 戦国播磨と秀吉 / 歴史 近代へのうねり / 播磨と文学
者たち) / 三上参次 (一. 明窓浄机 / 二. 藩士の子 / 三. 治者の鑑 / 四. 志の学問 / 三
上参次・年表) / 辻善之助 (一. 心の中の仏 / 二. 仏教史への道 / 三. 盛進の歴史をと
きあかす / 四. 愛と情の人 / 辻善之助・年表 / 東京大学史料編纂所) / 和辻哲郎 (一.
心の風景 / 二. 文学への憧憬 / 三. 人と人との間 / 四. 和辻哲郎の世界 / 和辻哲郎・年
表) / 井上通泰 (一. 播州の名流 / 二. 南天荘先生 / 三. 医師として / 四. 多面的な才
能 / 五. 松岡兄弟 / 井上通泰・年表) / 有本芳水 (一. 蘇る純情 / 二. 飾磨の海 / 三.
童心の人 / 有本芳水・年表) / 初井しづゑ (一. 飛翔のはじめ / 二. 持続のこころ / 三.
匂い立つ才華 / 初井しづゑ・年表) / 椎名麟三 (一. 禁断の故郷 / 二. 心象風景 / 三.
自由の彼方で / 四. われここに立つ / 椎名麟三・年表) / 阿部知二 (一. 忘れ得ぬ風景
/ 二. 作家への通 / 三. 文壇の星 / 四. 歴史の証人 / 五. 心の風土 / 阿部知二・年表)
/ 岸上大作 (一. まよい / 二. 風に乗って / 三. ぼくのためのノート / 岸上大作・年表)

／播磨ゆかりの文人たち／播磨を描いた文人たち／姫路文学館施設概況／姫路文学館
平面配置図・主要面積／文学館周辺散策／資料一覧／協力者一覧

2. 『姫路文学館への招待 播磨の風土と文化』 1996年5月24日(再版) 編集・発行：
姫路文学館

収録：ごあいさつ／展示の構成／播磨曼荼羅〈風土 海／風土 川／風土 平野／風土
山／歴史 国土生成／歴史 古代の道と駅／歴史 陰陽師の逃避行／歴史 書写山炎
上／歴史 騒乱の世紀／歴史 戦国播磨と秀吉／歴史 近代へのうねり／播磨と文学
者たち〉／三上参次〈一. 明窓浄机／二. 藩士の子／三. 治者の鑑／四. 志の学問／三
上参次・年表〉／辻善之助〈一. 心の中の仏／二. 仏教史への道／三. 盛進の歴史をと
きあかす／四. 愛と情の人／辻善之助・年表／東京大学史料編纂所〉／和辻哲郎〈一.
心の風景／二. 文学への憧憬／三. 人と人との間／四. 和辻哲郎の世界／和辻哲郎・年
表〉／井上通泰〈一. 播州の名流／二. 南天荘先生／三. 医師として／四. 多面的な才
能／五. 松岡兄弟／井上通泰・年表〉／有本芳水〈一. 蘇る純情／二. 飾磨の海／三.
童心の人／有本芳水・年表〉／初井しづゑ〈一. 飛翔のはじめ／二. 持続のこころ／三.
匂い立つ才華／初井しづゑ・年表〉／椎名麟三〈一. 禁断の故郷／二. 心象風景／三.
自由の彼方で／四. われここに立つ／椎名麟三・年表〉／阿部知二〈一. 忘れ得ぬ風景
／二. 作家への通／三. 文壇の星／四. 歴史の証人／五. 心の風土／阿部知二・年表〉
／岸上大作〈一. まよい／二. 風に乗って／三. ぼくのためのノート／岸上大作・年表〉
／司馬遼太郎〈「私の播州」／一. 作家の原型／二. ひとびとの中で／三. 深まる思索
／歴史を舞台に／播州を描く／司馬遼太郎・年表〉／映像展示室／情報検索システム／
播磨ゆかりの文人／姫路文学館施設概況／姫路文学館平面配置図・主要面積／文学館周
辺・近隣の文学施設／資料一覧／協力者一覧

図録(企画展)

1. 『開館記念特別展 和辻哲郎の世界』 1991年4月1日 編集・発行：姫路文学館編
収録：ごあいさつ／展示の構成／一. 序の巻〈「坂はてるてる」／わたくしの生まれた
村／書齋にて〉／二. 顔の巻〈「面」と肢体／自然の顔と「面」(1)／自然の顔と「面」
(2)／『面とペルソナ』について(坂部恵)〉／三. 人の巻〈文芸と美へのあこがれ／
思索と苦悩、そして愛／和辻哲郎倫理学〉／四. 風土の巻〈詩人の旅／「モンスーン」
／「沙漠」／「牧場」〉／五. 転の巻〈地中の松の根／「歓喜を産む苦患」／「春が来
た」〉／六. 巡礼の巻〈古き仏たち／巡礼の道／飛翔する想像力／『古寺巡礼』の旧版
(根来司)〉／七. 光と影の巻(1)〈世界的視野の時代／阿弥陀とピエタ／『鎖国』と
読売文学賞〉／八. 光と影の巻(2)〈生命のかたち〉／和辻哲郎事典／全著書一覧／和
辻哲郎をめぐる人々(中村元)／和辻哲郎の思い出(井上禅定)／和辻哲郎の軌跡(坂
部恵)／和辻哲郎・年表／資料一覧／寄贈者・出品協力者

2. 『播磨燃ゆ—太平記展』 1991年9月10日 主催：姫路文学館／NHK神戸放送局／NHK姫路支局／NHKサービスセンター 目次無し
3. 『一風雅を愛した姫路城主—酒井宗雅展』 1991年10月12日 編集：姫路文学館
収録：あいさつ（中西進 荒川克郎）／凡例／図版〈原色図版／一、姫路城主酒井忠以／二、風流茶人 一得庵／三、多趣多芸／〔参考〕坂井抱一〉／「酒井宗雅に想う」（粟田添星）／「宗雅と不昧」（筒井紘一）／「酒井宗雅の画業について」（木村重圭）／出品解説／年譜／主な参考文献／出品者・協力者・写真協力
4. 『播磨灘物語展—知将黒田官兵衛を描く』 1992年4月3日 主催：姫路文学館 目次無し
5. 『松岡五兄弟 松岡鼎 井上通泰 柳田國男 松岡静雄 松岡映丘』 1992年10月9日 編集・発行：姫路文学館
収録：松岡五兄弟（中西進）／【図版】〈松岡五兄弟／松岡家／松岡鼎／松岡鼎年譜／井上通泰／井上通泰年譜／柳田國男。柳田國男年譜／松岡静雄／松岡静雄年譜／松岡映丘／松岡映丘年譜〉／【松岡五兄弟について】〈松岡家当主・松岡文雄さんに聞く／祖父井上通泰と私達（坪内泰子）／井上通泰の学問——萬葉集新考を中心に——（神堀忍）井上通泰と吉備史談会（吉崎志保子）／父國男と私（柳田為正）／詩人松岡國男（井出孫六）／衿持（鎌田久子）／「鳶飛んで魚踊る」——父松岡静雄のこと——（松岡磐木）／松岡静雄——浪漫者の夢——（柘植信行）／父松岡映丘について（松岡道男）／松岡映丘先生（高山辰雄）／松岡映丘について（木村重圭）／【常設展セミナーより】〈井上通泰と柳田國男（永池健二）〉／企画展「松岡五兄弟展」について／常設展「井上通泰コーナー」について／南天荘文庫（井上通泰旧蔵）について／協力者一覧／主な参考文献
6. 『万葉一人と歴史 額田王／柿本人麻呂／山上憶良／大伴家持』 1993年4月23日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／カラー図版（1）／人と歴史〈額田王 歌の黎明〔額田王の「私」（竹西寛子）〕／柿本人麻呂 真昼に立つ〔響く弦（大庭みな子）〕／山上憶良 天平の精華〔土の文学（中西進）〕／大伴家持 萬容の黄昏〔大伴家持の位置と意味（大岡信）〕／万葉集の諸本〈カラー図版（2）〉／日本画と万葉集〈上村松篁『万葉の春』について（田中日佐夫）〉／上代裂き／播磨の万葉集〈万葉人の播磨／播磨万葉地図／播磨の万葉歌〉／万葉研究史〈万葉集と播磨の文人／近世の万葉研究〉／年表／資料目録／おもな参考文献・協力者一覧
7. 『森 はな おばあちゃんは児童文学作家になった。』 1993年7月2日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／図版〈人と作品／推敲のあと——「お葉つきいちょう」原稿から〉／思い出の森はな〈『じろはったん』と『もどってくるもどってこん』（今西祐行）／森

さんと『じろはったん』(灰谷健次郎) / 『じろはったん』のコスモポリタニズム(大崎ドロテア) / タチアオイの花と蛇の目の傘と(川口汐子) / なんじゃもんじゃの木(岡本夢村) / 「母、教師。そして作家」—森はなを語る—(森俊樹) / 年譜 / 系譜 / 協力者一覧

8. 『抒情と行動—昭和の作家 阿部知二』 1993年9月14日 編集・発行: 姫路文学館
収録: 阿部知二のこと——「冬の宿」をめぐる回想(中西進) / 図版〈1. 知性と抒情の源泉 / 2. 西欧への情熱・文学のはじめ / コラム 阿部知二の出発(森本穂) / 3. 阿部文学理論 模索の時代 / 4. 「暗黒の時代」を照らす / コラム 阿部知二『冬の宿』をめぐって(水上勲) / 5. ジャワ・戦争体験 / コラム ジャワの阿部知二——苦渋と陶醉と——(木村一信) / 6. 行動と隠遁の季節——戦後の姫路時代 / コラム 姫路時代の阿部さん(沖塩徹也) / 7. 政治と文学——知識人の使命に賭ける / コラム 『捕囚』の内面と外面(竹松良明) / 明治大学交遊 / 軽井沢——千ヶ瀧 / 英米文学研究 / コラム 阿部知二と英米文学(池田昌夫) / 児童文学 / ハンセン氏病への関心 / 小説《朝の鏡》 / 酒 / 書斎の周辺 / 長男 阿部良雄 / いま、阿部知二をめぐって / コラム 「知二」資料蒐集をめぐって(大塚正基) / 寄稿〈阿部知二の小説の問題(中村真一郎) / 阿部知二さんのこと(木下順二) / 阿部知二先生の女性観——『婦人口論』編集者の立場から——(三枝佐枝子) / 阿部知二 文学と人(奥野健男) / フランスの旅(一九六八年・一九六九年)(與謝野文子) / 年譜資料一覧 / 主な参考文献 / 協力者一覧
9. 『開館3周年記念特別展 「よみがえる歌舞伎の美」展』 1994年4月2日 編集・発行: 姫路文学館 目次無し
10. 『森鷗外展』 1994年9月22日 主催: 姫路文学館 / 読売新聞社 / NHK 姫路支局 目次無し
11. 『水上勉の世界—竹と紙と土』 1995年7月7日 主催: 姫路文学館 / 神戸新聞社 目次無し
12. 『井上靖展』 1995年9月14日 主催: 姫路文学館 / 毎日新聞社 目次無し
13. 『「瀬戸内の女性作家」展』 1996年8月9日 主催: 姫路文学館・朝日新聞社 目次無し
14. 『特別展「虚空に遊ぶ 俳人 永田耕衣の世界」図録』 1996年10月4日 編集・発行: 姫路文学館
収録: 耕衣とカブラ(中西進) / 虚空生口上(永田耕衣) / 第一章 明治の少年〈印南野風景 / 父と母 / 運は運なり、運転するなり〉 / 第二章 俳句遍歴〈芸術的青春 / 白泥会 / 「浮気三昧」時代 / 「鶴」同人時代 / 俳句事件余波 / 「天狼」同人時代 / 「琴座」とともに / 「俳句評論」の挑戦) / 第三章 句集にみる耕衣史〈『加古』『傲霜』『驢鳴集』 / 『吹毛集』『與奪鈔』『悪霊』 / 『闌位』『冷位』『殺佛』『殺祖』『物質』 / 『菴室』『人生』『泥ん』『狂機』『自入』 / その他の著作) / 第四章 永田耕衣の世界〈出会い

- の絶景／わが物心帖／書は人、人は書／禅のアマチュア／田荷軒／田荷軒周辺——須磨の散歩道／第五章 「大晩年」を生きる〈衰退のエネルギー／大震災——孤独の賑わい〉／耕衣随想〈げんげんの芽の元旦や残欠翁（大野一雄）／春老（加藤郁乎）／耕衣頌（金子兜太）／耕衣さんのありがたみ（小島信夫）／慈悲滴滴 耕衣翁訪問顛末（高橋睦郎）／殺佛殺祖秋茄子（馬場あき子）〉／耕衣造語俳句鈔／田荷軒狼箴鈔／年譜
15. 『近代絵本の一世紀展 二十一世紀を生きる子どもたちへ』 1997年7月25日 発行：姫路文学館 目次無し
収録：明治期／大正期／昭和期／絵雑誌の変遷／展示資料目録
16. 『特別展 椎名麟三の昭和 混沌からの蘇生』 1997年9月26日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ（上田正昭）／椎名と私との知られない交友（中村真一郎）／椎名麟三略年譜／図版〈カラー図版／モノクロ図版／生きるための読書／混沌からの蘇生／演劇と信仰／その他〉／解説〈生きるための読書（斎藤末弘）／混沌からの蘇生（江頭太助）／演劇と信仰（宮野光男）／資料目録・解説／初期作品一覧／対談・鼎談・座談会一覧／戯曲初演一覧
17. 『作家と装幀展 ～館蔵品より～』 1997年4月11日 発行：姫路文学館 目次無し 奥付無し
18. 『夏目漱石・芥川龍之介展』 1998年3月31日 編集協力：財団法人日本近代文学館 発行：姫路文学館
収録：カラー版／夏目漱石〈三山居士と漱石（江藤淳）／現在にも生きている人物（小島信夫）／解説（中島国彦）〉／芥川龍之介〈「芋粥」と「蔵の中」と「外套」（後藤明生）／芥川らしさ（佐佐木幸綱）／解説（石割透）〉／出品目録
19. 『羽の裏紅く匂ひし一白秋門下 歌人 初井しづ枝』 1998年9月25日 編集・発行：姫路文学館
収録：白金の硬質の抒情（宮英子）／飛翔のはじめ〈少女時代／結婚／生活〉／白秋の通一「日光」～「多磨」—〈「日光」時代／「香蘭」時代／「多磨」時代〉／姫路にて—戦後の文化復興運動—〈時世／白鷺城〉／「女人短歌」と女歌〈紫のひと／吾が子 純〉／持続のこころ—「コスモス」とともに—〈宮柊二／白秋先生〉／命のかたち—歌集・著書—〈『花麒麟』（鑑賞 田谷鋭）／『藍の紋』（鑑賞 森岡貞香）／『白露蟲』（鑑賞 高野公彦）／『冬至梅』（鑑賞 前登志夫）／『夏木立』（鑑賞 安永落子）／散文集ほか／碑〉／年譜
20. 『吉川英治と宮本武蔵』 1999年4月23日 編集・発行：姫路文学館
収録：あいさつ／目次／吉川英治〈幼少年期／青年期／壮年期／『剣難女難』／『神州天馬侠』／『鳴門秘帖』／『新編忠臣蔵』・『黒田如水』・文化運動／『太閤記』／中国従軍／『三国志』／晩年／終戦／『新・平家物語』／『私本太平記』／『新・水滸伝』

／文化勲章受章／家／英治の楽しみ／夫婦／吉川英治年譜）／吉川英治『宮本武蔵』の世界〈文壇宮本武蔵論争／小説『宮本武蔵』誕生／講談時代の宮本武蔵／『宮本武蔵』の世界）／宮本武蔵——播州出生説を中心に〈宮本武蔵肖像／泊神社棟札／書簡／宮本家資料／『沼田家記』／『五輪書』／「枯木鳴鴉図」「蓮池翡翠図」／泊神社扁額／数々の武蔵本／宮本武蔵年譜）／武蔵紀行／参考文献／協力者・凡例／特別寄稿〈「武蔵と英治」（吉川英明）／「吉川英治の『宮本武蔵』」（尾崎秀樹）／「わたしの宮本武蔵」（田原総一郎）／笹沢左保氏に質問／「武蔵の実像」（早乙女貢）

21. 『60年 ある青春の軌跡 歌人 岸上大作』 1999年10月8日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／現時点からみた岸上大作の歌（岩田正）／第一章 故郷〈幸福な記憶／五月の雨／父の居ぬ家／文学への信仰）／第二章 上京〈「本日より東京の人となる。」／岸上大作は銀幕の夢を見るか？（藤原龍一郎）／「俺はいつもひとり。」／孤独の散歩／日々の暮らし／「タンカ タンカ タンカ バカヤロウ」／「汎」の頃のこと（田島トヨ子）／二十歳一生まれ出ようとして／「国学院短歌」の頃（藤井常世）／東京心象風景）／第三章 一九六〇年〈最後の年／安保闘争の波／「具象」の思い出（田島邦彦）／新鋭歌人として／岸上大作「東京日記」）／第四章 死〈「自らの弱さに嘔吐しながら、弱さにおぼれている。」／「ぼくのためのノート」／二十一歳の死をめぐって／本の後の話『意思表示』について（西村尚）／帰郷—福崎へ）／第五章 挽歌〈岸上大作一首鑑賞／石原和子・加藤治郎・辰巳泰子・俵万智・林あまり・林和清・穂村弘・吉川宏志）／岸上大作への挽歌／随想〔貧しさという健全さ—岸上大作再読（小高賢）／岸上大作のこと（三枝昂之）／渋谷の街 再訪（沢口芙美）／岸上大作とわたし（鈴木竹志）／わが罪悪—岸上大作の死の前後（林安一）／私の中の岸上大作（松坂弘）〕／岸上大作年譜（高瀬隆和編）／岸上大作著作・文献目録（高瀬隆和編）／岸上大作展に寄せて（高瀬隆和）

22. 『少年の日の春は行く 有本芳水』 2000年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／少年の日（明治19年～明治42年）〈飾磨の海／有本芳水との出会いから（武田健）／関西中学の頃／芳水の岡山／早稲田の青春）／実業之日本社時代（明治43年～昭和16年）〈入社／初期の「日本少年」／「日本少年」明治43年～大正8年〔学習よみもの／ポンチ／多彩なよみもの／実用記事、その他／実業之日本車と「日本少年」（増田義和）／時事の話題／すごろく／懸賞・投稿欄／増刊号／口絵の競演〕／「芳水詩集」「旅人」「ふる郷」「海の国」／有本芳水に寄せる思い（後藤茂）／著作関係図書／芳水の少年小説／ツウシン／「日本少年」を去る／「悲しき笛」—妻と子へ—／父 芳水と（有本忠）／「野球美談」—ベースを見てから—／永遠のノスタルジア（昭和17年～昭和51年）〈よみがえる「芳水詩集」／有本芳水の少年詩（続橋達雄）／「笛鳴りやまず」—文壇回想—／略年譜／子供の詩「有本芳水賞」

23. 『石川啄木展 貧苦と挫折を超えて』 2000年8月18日 監修：中村稔 発行：姫路文学館
 収録：啄木の生涯〈揺籃の地・渋民／青春の盛岡／東の間の上京・帰郷から『あこがれ』刊行へ／盛岡ふたたび／渋民・代用教員として／北海道漂泊 函館・札幌・小樽・釧路／上京・朝日新聞社校正係となる／「スバル」創刊／大逆事件／未発刊の雑誌「樹木と果実」／貧困の中の死〉／啄木と内海信之／石川啄木略年譜／詩歌の世界〈『あこがれ』／「黄草集」／「ローマ字日記」／『一握の砂』／『悲しき玩具』／「呼子と口笛」〉／主な展示資料
24. 『風土記が語る古代播磨』 2000年10月13日 編集・発行：姫路文学館
 収録：ごあいさつ／I 風土記と古代史文献／II 播磨の神々の足跡／III 播磨の伝承と豪族／IV 古代びとの地域交流／V 風土記研究の現在／風土記関係書跡一覧／解説／播磨国風土記の王者と神々（上田正昭）／風土記の魅力（河合隼雄）／播磨地域における古墳群の消長（櫃本誠一）／播磨国風土記の説話から（神田典城）／異郷に競う文化と技術——伊和大神と天日槍の争い——（寺林峻）／播磨国風土記のなかの出雲（瀧音能之）／『風土記』の季節（松尾光）／年表／協力者／おもな参考図書
25. 『二人のヨーロッパ 辻善之助と和辻哲郎』 2001年4月27日 編集・発行：姫路文学館
 収録：ごあいさつ／I 二人のヨーロッパ 辻善之助〈辻善之助のアメリカ・ヨーロッパ／行程図／芸術／名所／博物館／家族／社会・風俗／自然／その他／洋行・その後／旅行の周辺〉／二人のヨーロッパ 和辻哲郎〈和辻哲郎のヨーロッパ／行程図／芸術／名所／博物館／家族／社会・風俗／自然／その他／洋行・その後／旅行ガイド〉／II 辻善之助 学問と人生〈辻家一族と父の教育／一高から帝国大学文化大学へ／史料編纂掛に勤務／日本仏教史を講義／史料編纂事業の拡張／史料編纂所長に就任／都地善之助の編集・校訂した史料出版から／退官と戦時下の日々／学問の完成／辻善之助の蔵書から／辻善之助略年譜／辻善之助洋行余話（辻達也）／和辻哲郎の東西文化総合論（米谷匡史）〉／主要展示資料／協力者・参考文献
26. 『特別展 泉鏡花と『天守物語』の世界』 2001年10月5日 編集・発行：姫路文学館
 収録：不断の泉——泉鏡花〈文学の源郷〔幼少年期・上京まで〕／硯友社時代〔尾崎紅葉と硯友社／鏡花を見いだした紅葉／再び上京／観念小説作家／すゞとのめぐりあい——『婦系図』事件／硯友社の文学の衰退〕／自然主義の台頭／予の態度／再び文壇へ／夢の終焉／鏡花水脈／鏡花の日常／美しい時代／鏡花の手蹟／装幀の美——鏑木清方・小村雪岱〉／『天守物語』の世界〈『天守物語』の世界／『天守物語』誕生／『天守物語』の上演／鏡花の『天守物語』／鏡花と富姫／鏡花と妖怪／富姫の背景——姫路城の妖怪／英雄の刑部退治と岡本綺堂『小坂部姫』／富姫・刑部・妖怪刑部〉／寄稿文

〈川村二郎氏／泉名月氏／板東玉三郎氏／波津彬子氏〉

27.『文学館とっておきコレクション 1991～2002』 2002年3月31日 編集・発行：
姫路文学館 目次無し

28.『特別展図録 お夏清十郎ものがたり』 2002年10月18日 編集・発行：姫路文学
館

収録：開催に寄せて／第一章 伝説のみなもと〈絵図と写真でたどる『村翁夜話集』／
事件の記録と反響／伝説のお膝元として〉／第二章 浮遊するものがたり—「お夏清十
郎物語」の系譜〈金山をめぐる悲恋物語／遊女と客の恋／向ひ通るは…／吉原のお夏清
十郎／うたから演劇へ—『松平大和守日記』／第三章 巨星の登場 西鶴と近松〈井
原西鶴『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」[挿絵でたどる「姿姫路清十郎物語」
／「姿姫路清十郎物語」の風景]／寄稿 “好色五人女”お夏私考（藤本義一）／近松
門左衛門「おなつ清十郎五十年忌歌念仏」[挿絵でたどる「五十年忌歌念仏」／変貌す
るお夏清十郎]／寄稿 お夏清十郎の経済学（野口武彦）／第四章 お夏のゆくえ〈室
津／備前片上／関連地図《室津・備前》／第五章 お夏、舞う〈坪内逍遙「お夏狂乱」
／寄稿 日舞と SF（菅浩江）／青山青果「お夏清十郎」／日本歌劇「お夏狂乱」／銀
幕のお夏清十郎／宝塚歌劇／バレエ／寄稿 「お夏・清十郎」上演時のあの人この人（石
田種生）／第六章 魅せられた芸術家たち〈絵画／文学／寄稿 「お夏清十郎」のこ
と（平岩弓枝）／関連地図《姫路》／お夏清十郎関連年表／協力者一覧・参考文献

29.『特別展 播磨の旅人たち 紀行と絵図にみる江戸時代』 2002年10月17日 編集・
発行：姫路文学館

収録：播磨の紀行—旅人たちのこころ（上田正昭）／一 播磨の地誌・播磨巡覧／二 海
の道と陸の道 播磨灘と山陽道／三 江戸時代の名所ガイド／四 播磨の名所・道中記
／播磨の土産／播磨旅人年表／五 中世の播磨の旅〈西行、源通親、一遍、細川幽斎〉
／六 文人たちの播磨〈松尾芭蕉、太田南畝、十編社一九、彦玉〉／七 異人たちの播
磨〈（朝鮮通信使）申維翰、（オランダ商館使節）ケンペル、シーボルト〉／八 学者た
ちの播磨〈貝原益軒、湯浅常山、司馬江漢、橘南谿、長久保赤水、伊能忠敬〉／九 志
士と庶民の播磨〈頼山陽、吉田松陰、清河八郎、吉田重房〉／播磨名所・旧跡・道標地
図／旅の道具・矢立／十 明治・大正・昭和の紀行／影響関係（松坂耀子）／旅びとが
目にした播磨のむかし（橘川真一）／出品目録

30.『特別展「森澄雄の世界 俳句——いのちをはこぶもの」』 2003年4月18日 編集・
発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ（上田正昭）／いのちを運ぶ（森澄雄）／第一章 時代——終戦まで
〈一・二つの故郷／二・青春の彷徨——「寒林をゆけどゆけど」／三・遺言——生と死
のはざま〉／第二章 ふたたびのいのち〈一・生還——出会い／二・上京——『雪樂』
の世界へ〉／第三章 俳句とは、人間とは〈一・『花眼』のころ／姫路——故郷との再

開／二・「杉」誕生／三・淡海恋い／「森先生」／随想「河童庵の思い出」(幸田弘子)
／四・虎空燦々／ものとのかたらい／第四章 俳句のめでたさ〈一・突然の訣れ——
白鳥夫人の死／二・病——いのちあるがまま／三・俳諧自由〉／森澄雄全著作解題(上
野一孝編)／澄雄随想(近江の春(岡野弘彦)／曼珠沙華(榊莫山)／透明な宇宙感覚
—『天日』の世界—(中西進)／虚心の豊饒(中村稔)／難解な句(丸谷才一)〉／私
にとっての「名言」抄(榎本好宏)／森澄雄年譜(藤村克明編)

31. 『企画展 「ふしぎ」な絵 ——安野光雅 絵本の世界』 2003年8月13日 編
集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／安野光雅さんの「ふしぎ」な絵／I 『ふしぎなえ』の世界／II 『ふ
しぎなさーかす』の世界／III 『もりのえほん』の世界／IV 人間の目 だまされる目
／V 寄稿 安野光雅「空想と疑う力」／VI 寄稿 松居直「二十世紀の絵本史に残る
仕事」／VII 寄稿 池内紀「安野さんのこと」／奥付

32. 『大正の文庫王 立川熊次郎と「立川文庫」』 2004年4月23日 編集・発行：姫路
文学館

収録：ごあいさつ(上田正昭)／立川文庫とは／立川文庫の思い出／I 立川熊次郎 苦
難の少年時代〈一、ふるさと宮田／二、小学校退学／三、修業時代／四、二人の姉[岡
本かじ(岡本増進堂)／井上こすみ(井上盛進堂)]〉／II 立川熊次郎 立川文明堂創
業〈一、唐物町時代／二、博労町時代／立川文庫誕生の背景[講談速記本／寄稿 立川
文庫誕生の一席(旭堂小南陵)／立川文明堂の講談速記本／立川文明堂 関連地図(大
阪)]／立川文庫の執筆者たち[山田家の人々／「女紋」]／立川文庫 あれこれ／立川
文庫の物語[一休禅師／水戸黄門／宮本武蔵／猿飛佐助／寄稿 少年の夢(新藤兼人)]
／III 文庫王 立川熊次郎〈一、文庫本隆盛時代／二、立川文明堂／三、信仰と故郷へ
のまなざし／立川熊次郎 関連地図(姫路)／寄稿 暴れ川に近郊随一の石橋「宮田・
大正橋」(品田正博)／IV 立川熊次郎 参考書・教科書出版へ〈一、安堂寺橋通時代
／二、晩年／三、書店——その後／寄稿 「立川文庫」～立川一郎をとおして～(立川
法子)〉／V 生き続ける 立川文庫〈玩具[寄稿 童戯立川文庫(新島廣一郎)]／映
画／講談・漫画・大衆文学／復刻・復刊／寄稿 われら少年、サルトビススケ(市川宏
三)／寄稿 立川文庫ゆかりの地を訪ねて(三木基弘)／寄稿 今治と猿飛佐助(和田
清身)／切り絵「真田十勇士」(新村清比古)〉／VI 資料編〈立川文庫刊行一覧／立川
熊次郎年譜／協力者・参考文献〉

33. 『特別展 あの日の子どもたち——播磨の文人たちの少年時代』 2004年10月15日
編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／「三つのふるさと——わが少年時代」(上田正昭)／第一章 明治・
大正の子どもたち〈三上参次／松岡五兄弟／辻善之助／有本芳水／三木露風／【投稿少
年】／和辻哲郎／【愛読書 その一】／三木清／永田好衣／初井しづ枝／【少女少女、

ハレー彗星に出会う】／遠地輝武／阿部知二／木山捷平／森はな／椎名麟三／【子どもたちの「最初の本」国語教科書〔明治〕】／第二章 昭和の子どもたち〈安田章生／司馬遼太郎／三島由紀夫／岸上大作／【子どもたちの「最初の本」国語教科書〔大正・昭和〕】／第三章 子どもの時間〈夏休み／旅／先生／おもちゃ／【愛読書 その二】】／第四章 わが少年時代〈桂米朝／横尾忠則／高田賢三／池内紀／車谷長吉／永田萌／長谷川集平／「子どもたちへのメッセージ」〉

目録

1. 『岸上大作資料目録』 1994年3月31日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／目次／凡例／岸上まさゑ旧蔵資料（弦 福永佳世氏寄託）〈原稿・歌稿／雑記帳／日記・手帳／岸上大作書簡（手紙・葉書）／雑資料／雑誌／図書／図書（文庫本）／使用品など／岸上繁一書簡ほか／印刷物・メモなど／スクラップ（岸上没後）〉／高瀬隆和旧蔵資料（高瀬隆和氏寄託）〈岸上大作書簡（手紙・葉書）／図書／雑誌／スクラップ（岸上没後）〉
2. 『阿部知二文庫目録 一阿部知二遺族寄贈・寄託資料一』 1995年3月31日 編集・発行：姫路文学館
収録：はじめに／凡例／目録〈図書〔阿部知二著書一全集／阿部知二著書一単行本等／阿部知二著書一翻訳（ジュニア向けを除く）／阿部知二著書一ジュニア向け／一般図書／長崎関係／ジャワ・バリ関係／ガイドブック等／座右の書等／その他〕／雑誌／新聞／その他の発表資料〔月報／出版案内パンフレット／図書切り抜き／教科書切り抜き〕／原稿・遺墨〔原稿／その他の自筆資料〕／遺品・その他〔遺品類／その他の阿部知二資料／父阿部良平関係〕／写真／書簡〔阿部知二発信一家族宛て／阿部知二発信一家族宛て以外／第三者発信一阿部知二宛て／第三者発信一妻澄子宛て 他〕〉
3. 『森はな資料目録 ——図書・原稿——』 1995年3月31日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／目次／凡例／森はな資料〈図書／原稿その他〉
4. 『大塚正基文庫目録 播磨ゆかりの文人の資料（書籍 雑誌 書簡 書画・遺墨 原稿 その他）』 1999年3月31日 編集・発行：姫路文学館
収録：はじめに／目次／この目録の利用について／〔補足〕姫路文学館の資料分類と目録項目について〈1. 形態による分類／2. 文人・古典による管理／3. 作家記号／4. 郷土関係について／5. 資料カード／6. 排列／7. 目録の記載事項／8. 表記について〉／書籍／雑誌 I（NDC別）／雑誌 II（文人・古典別）／書簡／書画・遺墨／原稿／その他の資料／付録 1 文人・古典別索引／付録 2 姫路文学館資料分類
5. 『初井しづ枝文庫目録 一初井しづ枝遺族寄贈・寄託資料一』 2002年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：はじめに／目次・凡例／目録〈書籍〔著者名一覧／目録〕／雑誌／新聞／書簡〔差出人一覧／目録〕／原稿／遺品・その他〉／【初井しづ枝略年譜】

紀要

1. 『姫路文学館紀要』

1-1. 『姫路文学館紀要』 第1号 1998年3月14日 編集・発行：姫路文学館

収録：創刊のことば（上田正昭）／古代播磨の伝承再考（上田正昭）／『播磨国風土記』の褶墓と飄風（松尾光）／前田林外研究（一） 前田林外の生涯（杉田陽子）／和辻哲郎と構造主義（玉田克宏）／阿部知二の戦後ヨーロッパ体験（甲斐史子）／付・資料紹介 阿部知二第二十二回国際ペンクラブ大会講演原稿“OUR CASE”日本語訳

1-2. 『姫路文学館紀要』 第2号 1999年3月15日 編集・発行：姫路文学館

収録：飛鳥文化の再発見——キトラ古墳と高松塚古墳——（上田正昭）／『播磨国風土記』地名伝承の成立（松尾光）／和辻哲郎の「国家」概念における「自覚」について（玉田克宏）／「鶏頭陣」時代の永田耕衣——昭和十年代の句帳から（竹廣裕子）

1-3. 『姫路文学館紀要』 第3号 2000年3月15日 編集・発行：姫路文学館

収録：前田林外研究（二） 『夏花少女』考（杉田陽子）／晩年の井上通泰—「南天荘同人会」関係資料から（河野雅子）／第一回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と対談 「二十一世紀に生きる司馬遼太郎の文学と思想」（上田正昭 上村洋行 山折哲雄）

1-4. 『姫路文学館紀要』 第4号 2001年3月23日 編集・発行：姫路文学館

収録：〔第二回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と対談〕司馬遼太郎と朝鮮文化——四〇〇年の時空を超えて、いま語る故郷への熱い思い——（上田正昭 沈壽官 金在徳）／〔資料紹介〕辻善之助著「欧米巡歴録」（翻刻・解題 玉田克宏）／「新声」掲載の有本芳水詩歌〔資料編〕（柳谷香）／〔永田耕衣研究（二）〕終戦前夜の永田耕衣（竹廣裕子）

1-5. 『姫路文学館紀要』 第5号 2002年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：〔第三回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と対談〕司馬遼太郎の文学と人生（田辺聖子 神坂次郎 上田正昭）／姫路時代の井上通泰（河野雅子）／〔前田林外研究（三）〕浪漫詩から民謡へ（杉田陽子）／戦後姫路時代の阿部知二——自己発見の営み（甲斐史子）

1-6. 『姫路文学館紀要』 第6号 2003年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：〔第四回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と鼎談〕司馬遼太郎と『街道をゆく』の友人たち（姜在彦 桶井昭治 上田正昭）／〔資料紹介〕辻善之助洋行関係資料／播磨 昭和初期文学史〈播磨 昭和初期の文学活動 概要（竹廣裕子）／昭和初期の山崎における短歌活動（萌芽期から休眠まで）（稲村幸子）／昭和初期における播磨の

歌人群像（木村満二）／〔聞き書き〕茂吉との出会い——曾爾太郎（久米川孝子）／少女歌集・止水會——石原（久米川）むつゑ（久米川孝子）／明石の横山蜃楼と『漁火』（三浦木兎）／昭和初期の姫路の俳句活動に就いて（吉田青城）／民謡詩人は民衆詩人（鳳真治）／詩誌「愛誦」の詩人たち——播磨地方詩史へのひとつの試み（高橋夏男）／播磨地方文学史年表（明治末期～昭和二十年）（竹廣裕子編）

1-7. 『姫路文学館紀要』 第7号 2004年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：〔第五回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と鼎談〕司馬遼太郎と『播磨灘物語』（寺林峻 小和田哲男 上田正昭）／〔前田林外研究（四）〕四つのお夏清十郎物語（杉田陽子）／〔資料紹介〕阿部知二 内海繁宛書簡（甲斐史子）

1-8. 『姫路文学館紀要』 第8号 2005年3月31日 編集・発行：姫路文学館

収録：〔第六回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演と対談〕『この国のかたち』をさぐる（半藤一利 上田正昭）／晩年の井上通泰② 「播州会会報」より（河野雅子）／和辻哲郎「自叙伝の試み」の《試み》について（玉田克宏）／〔永田耕衣研究三〕終戦直後の永田耕衣——「葱」に憑かれた日々（竹廣裕子）

研究誌

1. 『'91 播磨文芸祭 昭和二十年代播磨の文学活動 「焼け跡のルネッサンス」』 1991

年11月23日 編集・発行：姫路文学館／'91 播磨文芸祭実行委員会

収録：第一章 播磨の文学運動——昭和二十年代を中心に 〈【文学】焼け跡のルネッサンス（森本稜）／【詩】播磨路にのこした戦後詩運動（市川宏三）／【短歌】不死鳥の歌——歌人の復活（水野美子）／【俳句】二十年代の俳句の復興と俳人たち（島津明子）／【川柳】昭和二十年代を中心とした川柳の活動（泉梨花女）／【児童文学】播磨の児童文学（尾崎美紀 和田典子）〉／第二章 この時、この人〈内海繁・人と文学（市川宏三）／山崎為人——「幻の花はいかに咲いたか」（小坂文之）／芦塚孝四——心優しいモダニストの復権（高須剛）／木村真康・人と文学（木村満二）／皆光茂・人と文学（金田弘）〉／第三章 昭和二十年代の証言〈昭和二十年代を振り返って（沖塩徹也）／東播の文学活動（玉岡松一郎）／昭和二十年代の記録（池田昌夫）／空の青かったあの頃（真下恭）／カタログ考（鳳真治）／「IOM」同盟の概説（安藤礼二郎）／詩雑誌「群」の周辺（市川宏三）／四つもの昔は何だった？（渡辺けんぞう）／時のかなたから（川口汐子）／龍野町一丁目（萩野清子）／児童詩の周辺（萩原節男）／深井晋水（西応鳳城）／もう還らない（林秀子）／昭和二十年代の追憶（稲佐芦堤）／中野喜翁を思う（中野蛙柳）／龍野を中心とした播磨の俳句界（山本紅園）／若草とその回顧（栄家立也）／二十年代の証言（戸田酔古）／あの頃のこと（羽瀧礼子）／「ふあうすと川柳社姫路支部」（泉比呂史 藤永三歩）〉／第四章 播磨の戦後文学史年表（二十年代）

2. 『'93 播磨文芸祭 昭和三十年代 播磨の文学活動 「意思表示の時代」』 1993年1

月 6 日 編集・発行：姫路文学館

収録：序章〈意思表示の時代 ——昭和三十年代の播磨（森本穂）〉／第一章 播磨の文学活動 ——昭和三十年代を中心に〈【文学】噴出孔求めるマグマ ——まさに意思表示の時代（柳谷郁子）／【詩】すそ野に広がる詩活動（住吉千代美）／【短歌】播磨歌壇三十年代の航跡（木村満二）／【俳句】昭和三十年代の播磨の俳句界（橋本収）／【川柳】昭和三十年代の播磨の川柳活動 ——「もはや戦後ではない」（樋口由紀子）／【児童文学】播磨の児童文学 ——昭和三十年代を中心に（和田典子）〉／第二章 この時、この人〈接木幹——鰻江に雨が…（高須剛）／モダニズムの知と愛に生きた詩人——廣田善緒 人と文学（小林武雄）／花のごとく——林秀子 人と歌（高嶋健一）／虚像と実像の間、そして反逆 ——昭和三十年代の赤尾兜子の人と文学（寿賀義治）／積極的に生きぬいた人 ——横谷輝 人と文学（井上哲哉）／浦山桐郎監督の思い出（前田陽一）〉／第三章 昭和三十年代の出版〈若いわたしがよみがえる（川口汐子）／「城砦」刊行前後と私（宝谷叡）／詩集『麦』の失策を忘れるな（市川宏三）／バンパイアの棲む街（船地慧）／句集『上層風』出版の頃（光谷揚羽）／「先生の忘れもの」のこと（萩原節男）／詩歌集軽装版「この通」について（岸原廣明）／昭和三十年代の思い出（沖塩徹也）／かるそんポエム（金田弘）／『姫路抒情』の刊行（玉岡松一郎）／詩集・勲章辞退抄の頃（鳳真治）／『新子』は姫路生まれです（時実新子）／詩集『蟻族無頼』前後（高須剛）／『鷺一羽』句集出版の頃のこと（羽瀧礼子）／岸上大作『意思表示』の底流（松岡比天）〉／第四章 播磨の戦後文学史年表 ——昭和三十年代——／執筆者略歴／協力者一覧／編集後記（田村周平）

3. 『94 播磨文芸祭 昭和四十年代播磨の文学活動 「繚乱の季節」』 1994 年 1 月 14 日
編集・発行：姫路文学館

収録：序章〈「繚乱の季節」 ——昭和四十年代播磨の文学活動（竹廣裕子）〉／第一章 播磨の文学活動 ——昭和四十年代を中心に〈文学 文運隆盛の証し ——プロ作家の出現と相次ぐ単行本の出版（藤木明子）／詩 「繚乱の季節」 ——詩集を中心とした時代との渡りあい（大西隆志）／短歌 地味豊饒の時 ——昭和四十年代の播磨歌壇（楠田立身）／俳句 昭和四十年代の播磨俳壇のあゆみ（花畑圭郎）／川柳 彼方此方に“ひといろの花” ——昭和四十年代の川柳（情野千里）／児童文学 四十年代・播磨の児童文学支流が大河に注ぐ“時”（西村恭子）／演劇 ベテランの競演・新人の台頭・新劇団の旗揚げ 合同公演の大作 ——繚乱の季節へ（西川卓男）〉／第二章 この時、この人〈荒木良雄先生の思い出（野中春水）／金井寅之助先生のこと（市川征策）／詩人杉本衣子との出会い（本庄ひろし）／柳井秀 人と作品（寺本躬久）／犬飼一家の中で（加藤三七子）／原津玖紫の人と作品（田中義昭）／繁延いぶしの俳句遍歴（浅海明龍）／俳人らしくない俳人 大和秋平（渡辺けんぞう）／日本一の川柳世話人・大井正夫（東野大八）／堀尾青史の人と文学 [堀尾青史のやさしさ（上地ちづ子）／「続けることで

すよ」——今もそう語りかけられて（辻雅人）／師・井上正利追想——姫路の演劇文化に大きな足跡（坪内政彦）／重慶さんの思い出（苅谷俊介（談））／第三章 昭和四十年代の出版〈研究の方法を提示した名著 池田昌夫『現代アメリカ文学の諸相』（越川正三）／座右の一冊 寺河俊人『幻の寺』（浅田耕三）／船地慧と坂口安吾の接点 船地慧『続墮落論』（河田碩一）／灼ける時代と青春への発言 中上学詩集『蠍たち』（高橋夏男）／青木敬介『播磨灘』の周辺（竹内和夫）／抽象の夢 竹廣龍三詩集『そして 31』（山岸廣次）／藤村省三歌集『雪の音』について（稲村幸子）／短歌は祈り 空地ちづ子『白き花冠』（久米川孝子）／《ぎりぎりの可能の線》の豊かさ 藤原優第三歌集『米寿』（鷹野春美）／小田慎次句集『戸守』のまなざし（橋本修）／中野蛙柳句集『鳥』とその周辺（川野蓼）／行田真沙夫句集『噴水』について（小坂文之）／中塚礎石川柳句集『礎石』（保西岳詩）／金子青泡作品集『一枚の皿』読後感より（戸田酔古）／川口志保子『二つのハーモニカ』が語りつぐもの（尾崎美紀）／米騒動『大正七年の長い夏』（藤井宏造）／アンネの日記——劇団混沌へのレクイエム（竹居洋子）／「泰山木の木の下で」周辺（宇佐美吉哉）／第四章 播磨の戦後文学史年表 ◎ 昭和四十年代／執筆者一覧／協力者一覧／編集後記

研究書

1. 『姫路文学館シリーズ1 井上通泰伝』 1990年8月15日 著者：永井早苗 発行：姫路文学館
収録：まえがき／井上通泰伝〈一、その生涯／二、人となり／三、業績 [イ 業績その一 医学に関するもの／ロ 業績その二 史学に関するもの／ハ 業績その三 歌学に関するもの]〉／井上通泰年譜／家系図
2. 『阿部知二 道は晴れてあり』 1993年11月20日 著者：竹松良明 発行：神戸新聞総合出版センター 企画：姫路文学館
収録：序（阿部良雄）／第一章 忘れ得ぬ風光 岡山と出雲——明治36年～大正元年／第二章 第二の故郷 野里小学校と姫路中学——大正2年～大正8年／第三章 「であ八さん」の青春 第八高等学校——大正9年～大正12年／第四章 金箔の門出「朱門」 東京帝大英文科と同人雑誌——大正13年～昭和4年／第五章 『主知的文学論』の旗のもとに 「日独対抗競技」以後——昭和5年～昭和10年／第六章 道は晴れてあり 『冬の宿』以後——昭和11年～昭和16年／第七章 漂泊の味 ジャワ・上海——昭和16年～昭和20年／第八章 城と再生 『城』の周辺、渡欧——昭和21年～昭和29年／第九章 社会と文学 『日月の窓』と『白い塔』——昭和31年～昭和40年／第十章 死とよみがえり 『捕囚』まで——昭和41年～昭和48年／阿部知二年譜／阿部知二著書目録（単行本）／あとがき
3. 『近代播磨文学史——鷺城文壇を中心とした』 1996年10月30日（増補新版） 著

者：橋本政次 発行：姫路文学館

収録：序（有本芳水）／まえがき／凡例／第一篇 鷺城文壇以前〈一 播磨と新文学／二 維新後の姫路文学界／三 新教育と文学／四 中央文学界の黎明／五 大阪と姫路の文学関係／六 姫路地方の新文学／七 各地方の新文学〉／第二篇 鷺城文壇前期〈日曜文壇の創設／二 前期の社内同人／三 前期の投稿家／四 日露戦争と日曜文壇／五 俳句亡国論／六 鷺城文壇と改む〉／第三篇 鷺城文壇後期〈一 鷺城文壇の引継ぎ／二 後期の社内同人／三 中央文学界の風潮／四 学校方面の俊英／五 その後の姫路文学界／六 各地方文学界の推移／七 鷺城文壇の革新／後期の投稿家／九 私の作品／十 鷺城文壇の終末〉／第四篇 最近の文学界〈一 最近の中央文学界／二 最近の姫路文学界／三 最近の各地方文学界／四 鷺城文壇の意義〉／跋（高橋秀吉）／解説（宮崎修二郎）／〔資料〕〈「近代播磨文学史」に関連する橋本政次宛書簡（抄録）／鷺城文壇の記事——「鷺城新聞」（姫路市史編集室所蔵）より／播磨関係主要人名索引

4. 『血と雨の墓標 評伝・岸上大作』 1999年10月20日 著者：小川太郎 発行：姫路文学館

収録：序章「若き死」の衝撃／第二章 「戦後民主主義」の第一期生／第三章 歌人への第一歩／第四章 美しき誤算／第五章 “ひとりの愛”をもとめて／第六章 安保闘争の渦のなかで／終章 死への道程／ぼくのためのノート（絶筆）（岸上大作）／岸上大作年譜／あとがき

記録集

1. 『和辻哲郎の魅力』 1989年3月31日 発行：姫路市（文学資料館開設準備室）

収録：大輪の文化の花咲く（戸谷松司）／播磨の生んだ文化人と和辻哲郎（梅原猛）／和歌忌避の和辻哲郎（勝部真長）／和辻哲学の魅力（坂部恵）／日本文化史上の和辻哲郎（湯浅泰雄）／人間和辻哲郎の隠された側面（古川哲史）

作品

1. 『椎名麟三戯曲選』 1997年9月26日 著者：椎名麟三 編者：姫路文学館 発行：姫路文学館

収録：第三の証言（三幕）／自由の彼方で（三幕）／天国への遠征（一幕）／姫山物語（二幕七場）／長すぎる瞬間（一幕）／荷物（一幕）／初演記録／椎名麟三戯曲作品一覧／解説（高堂要）

2. 『たんぽぽの詩^{うた} 坂本遼作品選』 1999年3月25日 著者：坂本遼 編者：姫路文学館 発行：姫路文学館

復刻

1. 『復刻版 自由の彼方で』 1993年3月28日 著者：椎名麟三 発行：姫路文学館 製作：講談社出版サービスセンター
 - 1-1. 『自由の彼方で』 1954年3月10日 著者：椎名麟三 発行：大日本雄辯會講談社
2. 『復刻版 播磨の文学』 1993年3月28日 著者：荒木良雄 発行：姫路文学館 製作：田中印刷出版
 - 2-1. 『播磨の文学』 1961年1月20日 著者：荒木良雄 発行：みるめ書房
3. 『復刻版 邂逅』 1995年3月1日 著者：椎名麟三 発行：姫路文学館 製作：講談社出版サービスセンター
 - 3-1. 『邂逅』 1952年12月28日 著者：椎名麟三 発行：大日本雄辯會講談社 製作：講談社出版サービスセンター

翻刻

1. 『復刻版 播磨古歌考』 1995年10月20日 著者：橋本政次 発行：姫路文学館
 - 1-1. 『播磨古歌考』 1970年10月20日 著者：橋本政次 発行：播磨史籍刊行会

館報

1. 『手帖姫路文学館』
 - 1-1. 『手帖姫路文学館』 第1号 1991年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：あいさつ（中西進）／展示品から／姫路文学館誕生（小林武雄 安水稔和 川口汐子 寺林峻 水野美子 高瀬隆和）／学芸員メモ／寄贈・寄託《西播文学》／文学館日誌／記録——文学館の歩み（1）／播磨の文学界／文学館の本／次回特別展《太平記》／講演・セミナーご案内
 - 1-2. 『手帖姫路文学館』 第2号 1991年11月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特集・'91 播磨文芸祭／学芸員メモ／寄稿（岡昌宏）／寄贈・寄託《文学圏》／文学館日誌／記録——文学館の歩み（2）／播磨の文学界／文学館の本／寄贈者一覧／次回特別展《播磨灘物語》／催しのご案内
 - 1-3. 『手帖姫路文学館』 第3号 1992年3月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特集「播磨灘物語展」／学芸員メモ《森本稔氏の講演から》／報告／出版案内／寄贈者一覧／文学館日誌／記録——文学館の歩み（3）／播磨の文学界／友の会会員募集／平成四年度特別企画展案内
 - 1-4. 『手帖姫路文学館』 第4号 1992年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《川端康成展》／学芸員メモ《岡本かの子と初井しづ枝》／報告・《播磨灘物語展》／新収蔵資料紹介・《大塚正基文庫》／出

版案内／寄贈者一覧／文学館日誌（2月初～5月末）／記録・文学館の歩み（4）／播磨の文学界／友の会活動／和辻哲郎文化賞の募集／催しのご案内

1-5. 『手帖姫路文学館』 第5号 1992年10月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《松岡五兄弟展》／学芸員メモ《「川端康成展」展示品から》／報告・《詩人高見順の午後》／演奏会《風の表情》／子どもセミナー／出版案内／寄贈者一覧／文学館日誌／記録・文学館の歩み（5）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-6. 『手帖姫路文学館』 第6号 1993年1月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《意思表示の時代展》／学芸員メモ／和辻哲郎研究の最近の動向から／報告・《川端康成展》《松岡五兄弟展》／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／記録・文学館の歩み（6）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-7. 『手帖姫路文学館』 第7号 1993年4月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《万葉一人と歴史》／学芸員メモ《和辻哲郎研究の最近の動向から》／報告・《川端康成展》《松岡五兄弟展》／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／記録・文学館の歩み（7）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-8. 『手帖姫路文学館』 第8号 1993年7月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《森はな展》／学芸員メモ《井上通泰と「南天荘同人会」》／報告・《万葉一人と歴史》／播磨文学トピックス／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／記録・文学館の歩み（8）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-9. 『手帖姫路文学館』 第9号 1993年10月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特集・企画展《森はな展》／学芸員メモ《井上通泰と「南天荘同人会」》／報告・《万葉一人と歴史》／播磨文学トピックス／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／記録・文学館の歩み（9）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-10. 『手帖姫路文学館』 第10号 1994年1月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：写真館／ニュース／特集・企画展《繚森の季節展》／学芸員メモ／報告・《阿部知二展》／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／記録・文学館の歩み（10）／播磨の文学界／友の会活動／催しのご案内

1-11. 『手帖姫路文学館』 第11号 1994年4月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：写真館／ニュース／特集・企画展《よみがえる歌舞伎の美展》／学芸員メモ／報告・《播磨文芸祭》／出版案内／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／記録・文学館の歩み（11）／友の会活動／催しのご案内

- 1-12. 『手帖姫路文学館』 第12号 1994年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／特集・企画展《アルプスの少女ハイジ展》／学芸員メモ／報告・《よみがえる歌舞伎の美展》／出版物のお知らせ／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／記録・文学館の歩み（12）／友の会活動／催しのご案内
- 1-13. 『手帖姫路文学館』 第13号 1994年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／特集・企画展《明治の文豪 森鷗外展》／学芸員メモ《野口雨情と姫路》／報告・アルプスの少女ハイジ展／夏の講座ダイジェスト／文学館・一言／文学館日誌／播磨の文学界／催しのご案内
- 1-14. 『手帖姫路文学館』 第14号 1995年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／長田弘講演〈世界は一冊の本〉／学芸員メモ〈鷗外「沙羅の木」から連想〉／報告・森鷗外展／播磨の文学界／友の会第四回播磨文芸祭に参加／第七回和辻哲郎文化賞授賞式のご案内／寄贈者一覧／文学館・一言／文学館日誌／（仮称）姫路文学館別館新築工事いよいよ着工
- 1-15. 『手帖姫路文学館』 第15号 1995年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／別館展示者紹介／学芸員メモ〈遠地輝武の戦後〉／第四回播磨文芸祭日記／出版物のお知らせ／文学館・一言／寄贈者一覧／播磨の文学界／文学館日誌／播磨の文学界／友の会だより／新入職員紹介／催しのご案内
- 1-16. 『手帖姫路文学館』 第16号 1995年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／特別展「水上勉の世界一竹と紙と土」／別館展示者紹介／学芸員メモ〈情報システムの試み〉／播磨関係の本の寄贈のお願い／図書案内／文学館・一言／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／第八回和辻哲郎文化賞募集／友の会だより／次回展覧会予告／市民セミナーのご案内
- 1-17. 『手帖姫路文学館』 第17号 1995年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／特別展「井上靖展」／別館展示者紹介／報告「水上勉展」／文学館日誌／文学館・一言／図書案内／和辻哲郎文化賞応募募状況／寄贈者一覧／播磨の文学界／夏の講座・記録／催し物のご案内
- 1-18. 『手帖姫路文学館』 第18号 1996年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／別館展示者紹介／「司馬さんと姫路」／報告「井上靖展」／図書案内／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／文学館・一言／友の会だより／和辻哲郎文化賞授賞式のご案内／事務所移転のお知らせ
- 1-19. 『手帖姫路文学館』 第19号 1996年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：写真館／ニュース／司馬遼太郎展／学芸員メモ／播磨文芸祭日記／図書案内／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／文学館・一言／友の会だより／第九回和辻哲郎文化賞募集のお知らせ／瀬戸内の女流作家展／行事予定／夏季大学案内
- 1-20. 『手帖姫路文学館』 第20号 1996年7月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：南館オープン／「播磨のこころ」を演出して（前田陽一）／瀬戸内の女性作家展／学芸員メモ〈司馬遼太郎と赤尾兜子〉／図書案内／文学館・一言／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／友の会だより／次回展覧会予告

1-21. 『手帖姫路文学館』 第21号 1996年10月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特別展「永田耕衣展」／報告「司馬遼太郎展」／報告「瀬戸内の女性作家展」／聞き書き「和辻哲郎の思い出」／文学館日誌／図書案内／寄贈者一覧／播磨の文学界／文学館一言／友の会だより／催し物のご案内「播磨文芸祭」

1-22. 『手帖姫路文学館』 第22号 1997年1月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／学芸員メモ／報告「俳人永田耕衣の世界」／姫路文学館の新刊／聞き書き「和辻哲郎の思い出」／第9回和辻哲郎・文化賞授賞式参加者募集！／平成9年度文学館事業のご案内／文学館日誌／図書案内／寄贈者一覧／播磨の文学界／文学館一言／友の会だより／次回展覧会予告

1-23. 『手帖姫路文学館』 第23号 1997年4月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／企画展 作家と装幀展／学芸員メモ／報告 播磨文芸祭／聞き書き「和辻哲郎の思い出」／文学館日誌／図書案内／寄贈者一覧／文学館一言／播磨の文学界／友の会だより／次回展覧会予告／平成9年の行事予定

1-24. 『手帖姫路文学館』 第24号 1997年7月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：新旧館長あいさつ／企画展「近代絵本の一世紀展」「ブスケ神父と三木露風」（大谷恒彦）／図書案内／学芸員メモ／報告「播磨文芸祭」「作家と装幀展」／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／文学館一言／職員異動／友の会だより／次回展覧会予告「椎名麟三の昭和」／こどもセミナーのご案内

1-25. 『手帖姫路文学館』 第25号 1997年10月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特別展「椎名麟三の昭和——混沌からの蘇生」／学芸員メモ／報告《夏季大会》《こどもセミナー》／文学館日誌／播磨の文学界／寄贈者一覧／文学館一言／閲覧室から／友の会だより／告知板

1-26. 『手帖姫路文学館』 第26号 1998年1月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／第7回播磨文芸祭〈いま、ことばを抱きしめたい〉／播磨曼茶羅の世界（1）／図書案内／学芸員メモ〈思想家としての椎名麟三〉／特別展〈椎名麟三の昭和／近代絵本の一世紀展／永田耕衣追悼展〉／文学館日誌／播磨の文学界／寄贈者一覧／文学館・一言／友の会だより／和辻哲郎文化賞授賞式のご案内／次回展覧会予告

1-27. 『手帖姫路文学館』 第27号 1998年4月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：展示品から／ニュース／特別展〈夏目漱石・芥川龍之介展〉／学芸員メモ「伝説の生まれる時」／報告「第7回播磨文芸祭」／図書案内／播磨曼茶羅／文学館を訪

れた方々／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／友の会からのお知らせ／平成
10年度行事予定／夏季大学のお知らせ

- 1-28. 『手帖姫路文学館』 第28号 1998年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特別展〈初井しづ枝展〉／学芸員メモ「明暗」原稿の
行方／報告「第7回播磨文芸祭（後半）」／夏目漱石・芥川龍之介展／図書案内／播
磨曼荼羅／播磨の文学界／文学館日誌／寄贈者一覧／友の会からのお知らせ／新資料
紹介／職員の異動
- 1-29. 『手帖姫路文学館』 第29号 1998年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特別展「近現代歌人展」／新資料紹介／図書案内／学
芸員実習／学芸員メモ「宮本武蔵」／報告「夏季大学」／播磨の文学界／播磨曼荼羅
／友の会からのお知らせ／文学館日誌／初井展／寄贈者一覧／播磨文芸祭予告
- 1-30. 『手帖姫路文学館』 第30号 1999年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／第8回播磨文芸祭〈ことばできもちをつたえたい〉／
学芸員メモ〈文学雑誌「小鼓」について〉／報告「初井しづ枝展」／図書案内／播磨
曼荼羅／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／友の会だより／次回展覧会予告／
和辻哲郎文化賞授賞式のご案内
- 1-31. 『手帖姫路文学館』 第31号 1999年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特別展「吉川英治と宮本武蔵展」／学芸員メモ／報告
〈「第八回播磨文芸祭」（前半）／「近現代歌人展」〉／図書案内／播磨曼荼羅／播磨の
文学界／寄贈者一覧／文学館日誌／友の会だより／次回展覧会予告〈司馬遼太郎展〉
／平成11年度行事予定
- 1-32. 『手帖姫路文学館』 第32号 1999年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：展示品から／ニュース／特別展「司馬遼太郎展」／学芸員メモ／報告〈「第八回
播磨文芸祭」（後半）／「吉川英治と宮本武蔵展」〉／姫路文学館の出版物／図書案内
／播磨曼荼羅／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／友の会だより／次回展覧会
予告〈歌人岸上大作展〉
- 1-33. 『手帖姫路文学館』 第33号 1999年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「岸上大作展」／報告〈「司馬遼太郎展」／
「司馬遼太郎メモリアル・デー」／「トライやる・ウィーク」／「夏季大学」〉／図書
案内／播磨の文学界／播磨曼荼羅／寄贈者一覧／文学館日誌／友の会だより／第9回
播磨文芸祭予告／職員の異動
- 1-34. 『手帖姫路文学館』 第34号 2000年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「永田耕衣展」／第九回播磨文芸祭／学芸
員メモ／図書案内／報告「岸上大作展」／播磨曼荼羅／播磨の文学界／寄贈者一覧／
文学館日誌／友の会だより／次回展覧会予告／第十二回和辻哲郎文化賞授賞式参加者

募集

- 1-35. 『手帖姫路文学館』 第35号 2000年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「有本芳水展」／報告「播磨文芸祭」／報告「俳哲永田耕衣 生誕百年展」／播磨の文学界／寄贈者一覧／文学館日誌／友の会だより／次回展覧会予告／新作ビデオ紹介／二〇〇〇年夏季大学募集／12年度年間スケジュール
- 1-36. 『手帖姫路文学館』 第36号 2000年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「石川啄木展」／学芸員メモ／報告「第9回播磨文芸祭」(後半)／播磨の文学界／姫路文学館紀要 NO.3／報告「有本芳水展」／寄贈者一覧／図書案内／播磨曼荼羅／文学館日誌／友の会だより／次回特別展予告／メモリアルデーのおしらせ／人事異動
- 1-37. 『手帖姫路文学館』 第37号 2000年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「風土記が語る古代播磨展」／学芸員メモ／図書案内／報告・夏季大会／報告・第二回司馬遼太郎メモリアルデー／播磨の文学界／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨曼荼羅／友の会だより／森澄雄句碑除幕式開催／第10回播磨文芸祭
- 1-38. 『手帖姫路文学館』 第38号 2001年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／第十回播磨文芸祭／学芸員メモ／報告〈「石川啄木展」／「風土記が語る古代播磨展」〉／播磨曼荼羅／第十三回和辻哲郎文化賞授賞式参加者募集／播磨の文学界／図書案内／寄贈者一覧／文学館日誌／友の会だより／次回展覧会予告／ミュージアムグッズの御案内
- 1-39. 『手帖姫路文学館』 第39号 2001年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「二人のヨーロッパ展」／辻善之助と和辻哲郎／報告「第10回播磨文芸祭」／播磨曼荼羅／夏季大学開催のお知らせ／播磨の文学界／文学館日誌／図書案内／寄贈者一覧／友の会だより／次回展覧会予告／13年度年間スケジュール
- 1-40. 『手帖姫路文学館』 第40号 2001年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「智恵子抄」展／学芸員メモ／報告「第10回播磨文芸祭」／報告「二人のヨーロッパ展」／播磨曼荼羅／播磨の文学界／図書案内／寄贈者一覧／文学館日誌／友の会活動／次回展覧会予告／司馬遼太郎メモリアル・デー／人事異動
- 1-41. 『手帖姫路文学館』 第41号 2001年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「泉鏡花と『天守物語』の世界」／学芸員メモ／報告・司馬遼太郎メモリアルデー／報告・夏季大学／報告・智恵子抄展／図書案内／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨の文学界／播磨曼荼羅／友の会だより／第11

回播磨文芸祭／人事異動

- 1-42. 『手帖姫路文学館』 第42号 2002年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／第11回播磨文芸祭／報告「泉鏡花と『天守物語』の世界」展／学芸員メモ／播磨の文学界／図書案内／文学館日誌／寄贈者一覧／友の会だより／次回展覧会予告／第十四回和辻哲郎文化賞授賞式参加者募集
- 1-43. 『手帖姫路文学館』 第43号 2002年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／「文学館とっておきコレクション 1991～2002」／報告「第11回播磨文芸祭」／播磨曼荼羅／情報検索システム／図書案内／文学館日誌／播磨の文学界／寄贈者一覧／夏季大学開催のお知らせ／友の会だより／次回展覧会予告「詩のボクシング」チャンピオン決定／14年度年間スケジュール
- 1-44. 『手帖姫路文学館』 第44号 2002年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「愛の手紙 文学者の様々な愛のかたち」／報告「第11回播磨文芸祭」／「詩のボクシング全国大会観戦記」／「文学館とっておきコレクション(1991～2002)」／図書案内／寄贈者一覧／文学館日誌／播磨の文学界／友の会だより／次回展覧会予告「お夏清十郎物語」／「第四回司馬遼太郎メモリアル・デー」参加者募集
- 1-45. 『手帖姫路文学館』 第45号 2002年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「お夏清十郎ものがたり」／学芸員メモ「深尾須磨子と平戸廉吉」／報告「夏季大学」／「司馬遼太郎メモリアル・デー」／播磨曼荼羅／文学館日誌／図書案内／播磨の文学界／友の会だより／寄贈者一覧／紀要発行／第12回播磨文芸祭
- 1-46. 『手帖姫路文学館』 第46号 2003年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／第12回播磨文芸祭／報告「愛の手紙」／報告「お夏清十郎ものがたり」／学芸員メモ「辻善之助の日記などの資料について」／「寄贈された吉塚勤治宛内海繁書簡」／播磨曼荼羅／図書案内／播磨の文学界／文学館日誌／寄贈者一覧／友の会活動／予告「森澄雄の世界」／和辻哲郎文化賞参加者募集
- 1-47. 『手帖姫路文学館』 第47号 2003年4月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／特別展「森澄雄の世界 俳句—いのちをはこぶもの」／報告「第12回播磨文芸祭」／播磨の文学界／資料整理状況／播磨曼荼羅／図書案内／文学館日誌／寄贈者一覧／夏季大学開催のお知らせ／友の会だより／次回展覧会予告「詩のボクシング」チャンピオン決定／15年度年間行事予定
- 1-48. 『手帖姫路文学館』 第48号 2003年7月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／展覧会案内「安野光雅 絵本の世界展」／報告「第12回播磨文芸祭」／学芸員メモ「森澄雄「人生の機関車」」／播磨の文学界／図書案内／文学館日誌／寄贈者一覧／播磨曼荼羅／友の会だより／次回展覧会予告「播磨の

旅人たち」展〉／司馬遼太郎メモリアル・デー

1-49. 『手帖姫路文学館』 第49号 2003年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／展覧会案内「播磨の旅人たち 紀行と絵図による江戸時代」／学芸員メモ／報告〈「森澄雄の世界」／「第5回司馬遼太郎メモリアル・デー」／「'03夏季大学」〉／姫路文学館紀要発行／文学館日誌／図書案内／友の会だより／寄贈者一覧／播磨の文学界／第13回播磨文芸祭／ふれあいの祭典短歌祭のお知らせ

1-50. 『手帖姫路文学館』 第50号 2004年1月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：文人たちの風景／ニュース／第13回播磨文芸祭／報告「不思議な絵」／報告「播磨の旅人たち」／学芸員メモ〈「立川文庫と山田一家 特別展の準備から」／「吉田松陰の播磨」〉／文学館日誌／図書案内／播磨の文学界／寄贈者一覧／播磨曼茶羅／友の会だより／予告「立川熊次郎と『立川文庫』展」／和辻哲郎文化賞参加者募集

1-51. 『手帖姫路文学館』 第51号 2004年4月1日 編集・発行：姫路文学館 目次無し

1-52. 『手帖姫路文学館』 第52号 2004年7月1日 編集・発行：姫路文学館 目次無し

1-53. 『手帖姫路文学館』 第53号 2004年10月1日 編集・発行：姫路文学館 目次無し

1-54. 『手帖姫路文学館』 第54号 2005年1月1日 編集・発行：姫路文学館 目次無し

2. 『姫路文学館年報』

2-1. 『姫路文学館年報』 第1号 1993年10月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／目次／沿革／開館まで〈1. 経過／2. 展示基本計画／3. 常設展示計画／4. 建築計画〉／開館〈1. 開館に伴う諸行事／2. 開館記念展／3. 受賞〉／施設の概要／事業報告〈1. 特別企画展／2. 常設展セミナー／3. 講座・研究会／4. 後援・協賛事業／5. 博物館実習／6. 出版活動／7. ビデオ制作〉／資料概況〈1. 資料収集状況／2. 協力者一覧／3. 文学館資料の貸出状況〉／和辻哲郎文化賞／管理運営〈1. 入館者数／2. 館使用状況／3. 資料特別観覧状況／4. 出版物（復刻本、図録等）販売数／5. 組織および分掌事務／6. 予算の概要〉／委員会等／アンケート結果／姫路文学館友の会／例規集／利用案内

2-2. 『姫路文学館年報』 第2号 1995年3月1日 編集・発行：姫路文学館
収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示／施設の概要／事業報告〈1. 特別企画展「万葉一人と歴史」／「ふるさとを語り継ぐ 森はな展」／「抒情と講堂—昭和の作家 阿部友二展」／「'94播磨文芸祭 繚乱の季節展」〉／2. 子どもセミナー／3. 夏季大学／4. 博物館実習／5. 出版活動／6. 映像資料制作〉／資料概況〈1. 資料収集

状況／2. 協力者一覧／3. 文学館資料の貸出状況)／和辻哲郎文化賞／管理運営〈1. 入館者数／2. 館使用状況／3. 資料特別観覧状況／4. 出版物(復刻本、図録等)販売数／5. 組織および分掌事務／6. 予算の概要)／委員会等／アンケート結果／姫路文学館友の会／日誌抄／例規集／利用案内

2-3. 『姫路文学館年報』 第3号 1996年3月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示／施設の概要／事業報告〈1. 特別企画展 [「よみがえる歌舞伎の美」展／「永遠の名作 アルプスの少女ハイジ展」／「森鷗外展」]／2. 第4回播磨文芸祭—あそべやあそべ、ことばとことば／3. 子どもセミナー／4. 夏季大学／5. 博物館実習／6. 出版活動／7. 映像資料制作)／資料概況〈1. 資料収集状況／2. 協力者一覧／3. 文学館資料の貸出状況)／和辻哲郎文化賞／管理運営〈1. 入館者数／2. 館使用状況／3. 資料特別観覧状況／4. 出版物(復刻本、図録等)販売数／5. 組織および分掌事務／6. 予算の概要)／委員会等／姫路文学館友の会／日誌抄／例規集／利用案内

2-4. 『姫路文学館年報』 第4号 1997年3月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示(北館)／南館建設〈1. 経過 [古い建物と刺激的に対話する(安藤忠雄)]／2. 基本計画 [司馬遼太郎記念室／映像展示室／図書室／情報検索システム]〉／施設の概要／事業報告〈1. 特別企画展 [「水上勉展—竹と紙と土」／「井上靖展—いま歴史ロマンが光る—」]／2. 第5回播磨文芸祭—あそべやあそべ、ことばとことば／3. 講座・学習会 [市民名作講座／古典文学講座／市民セミナー]／4. 夏季大学／5. 博物館実習／6. 出版活動／7. 映像資料制作)／資料概況〈1. 資料収集状況／2. 協力者一覧／3. 文学館資料の貸出状況)／和辻哲郎文化賞／管理運営〈1. 入館者数／2. 館使用状況／3. 資料特別観覧状況／4. 出版物(復刻本、図録等)販売数／5. 組織および分掌事務／6. 予算の概要)／姫路文学館友の会／日誌抄／例規集／利用案内

2-5. 『姫路文学館年報』 第5号 1997年10月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示(北館)／常設展示(南館)／南館完工／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1. 特別企画展 [(1)「司馬遼太郎の世界—「明治」を拓いたひとびと」／(2)「瀬戸内の女性作家」展／(3)「虚空に遊ぶ 俳人 永田耕衣の世界」]／2. 第6回播磨文芸祭—あそべやあそべ、ことばとことば／3. 講座学習会 [(1)市民名作講座／(2)古典文学講座／(3)市民セミナー]／4. 夏季大学／5. 博物館実習／6. 出版活動／7. 映像資料制作)／資料概況〈1. 資料収集状況／2. 協力者一覧／3. 文学館資料の貸出状況)／運営管理〈1. 利用状況 [(1)入館者数／(2)館使用状況／(3)資料特別観覧状況／(4)出版物販売数]／2. 組織および分掌事務／3. 予算)／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-6. 『姫路文学館年報』 第6号 1998年9月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 館藏品展「作家と装幀」展／(2) 「近代絵本の一世紀」展／(3) 「椎名麟三の昭和 混沌からの蘇生」]／2 永田耕衣追悼展 俳哲の生涯をしのぶ／3 第7回播磨文芸祭 ～いま、ことばをだきしめたい～／4 講座学習会 [(1) 市民名作講座／(2) 古典文学講座／(3) こどもセミナー／(4) 池内紀講演会]／5 夏季大学／6 博物館実習／7 出版活動／8 映像資料制作〉／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況〉／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用状況／(3) 資料特別観覧状況／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算〉／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-7. 『姫路文学館年報』 第7号 1999年7月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 夏目漱石・芥川龍之介展／(2) 「羽の裏紅く匂ひし一白秋門下歌人 初井しづ枝」展／(3) 「短歌の世界 近・現代歌人展」]／2 第8回播磨文芸祭／3 講座・学習会 [(1) 市民名作講座／(2) 「司馬遼太郎で明治を読む」読書会／(3) 「古典文学講座」／(4) 「近代文学入門講座」一美をもとめた作家たち]／4 夏季大学／5 博物館実習／6 出版活動／7 映像資料制作〉／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況〉／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要〉／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-8. 『姫路文学館年報』 第8号 2000年7月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 吉川英治と宮本武蔵展／(2) 司馬遼太郎展 19世紀の青春群像／(3) 歌人 岸上大作展／(4) 俳人永田耕衣生誕百年展]／2 第9回播磨文芸祭／3 第1回司馬遼太郎メモリアル・デー／4 講座・学習会 [(1) 古典文学講座／(2) 近代文学講座／(3) 市民名作講座／(4) 「司馬遼太郎で戦国を読む」読書会]／5 夏季大学／6 博物館実習／7 トライやる・ウィーク／8 出版活動／9 映像資料制作〉／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況〉／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要〉／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-9. 『姫路文学館年報』 第9号 2001年9月1日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 大正少年詩ロマン 有本芳水展／(2) 石川啄

木展 貧苦と挫折を超えて／(3) 風土記が語る古代播磨展]／2 第10回播磨文芸祭／3 第2回司馬遼太郎メモリアル・デー／4 講座・学習会 [(1) 古典文学講座／(2) 近代文学講座／(3) 市民名作講座／(4) 司馬遼太郎読書会]／5 夏季大学／6 博物館実習／7 出版活動／8 映像資料制作)／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況／4 文学館資料の出版物掲載状況)／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要)／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-10. 『姫路文学館年報』 第10号 2002年9月20日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 二人のヨーロッパ展 辻善之助と和辻哲郎／(2) 智恵子抄—高村智恵子の芸術と恋とその生涯／(3) 泉鏡花と『天守物語』の世界]／2 第11回播磨文芸祭／3 第3回司馬遼太郎メモリアル・デー／4 講座・学習会 [(1) 古典文学講座／(2) 近代文学講座／(3) 市民名作講座／(4) 司馬遼太郎読書会]／5 夏季大学／6 博物館実習／7 ミニ・インターシップの受入れ／8 出版活動／9 映像資料制作／10 情報検索システム)／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の帯出状況／4 文学館資料の出版物掲載状況／5 文学館資料の翻刻状況)／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要)／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-11. 『姫路文学館年報』 第11号 2003年9月20日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 文学館とっておきコレクション 1991～2002／(2) 愛の手紙 文学者の様々な愛のかたち／(3) お夏清十郎ものがたり]／2 第12回播磨文芸祭／3 第4回司馬遼太郎メモリアル・デー／4 講座・読書会 [(1) 古典文学講座／(2) 近代文学講座／(3) 市民名作講座／(4) 司馬遼太郎読書会]／5 夏季大学／6 博物館実習／7 ミニ・インターシップの受入れ／8 出版活動／9 映像資料制作／10 情報検索システム／11 ホームページの制作)／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況／4 文学館資料の出版物掲載状況)／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要)／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

2-12. 『姫路文学館年報』 第12号 2004年9月20日 編集・発行：姫路文学館

収録：ごあいさつ／目次／沿革／常設展示（北館）／常設展示（南館）／和辻哲郎文化賞／事業報告〈1 特別企画展 [(1) 森澄雄の世界 俳句—いのちをはこぶもの／

(2) 「ふしぎ」な絵—安野光雄 絵本の世界／(3) 播磨の旅人たち 紀行と絵図にみる江戸時代]／2 第13回播磨文芸祭／3 第5回司馬遼太郎メモリアル・デー／4 講座・読書会 [(1) 古典文学講座／(2) 近代文学講座／(3) 市民名作講座／(4) 司馬遼太郎読書会]／5 夏季大学／6 ふれあいの祭典 短歌祭／7 博物館実習／8 ミニ・インターシップの受入れ／9 13歳・文学館との出会い事業／10 出版活動／11 映像資料制作／12 情報検索システム)／資料概況〈1 資料収集状況／2 協力者一覧／3 文学館資料の貸出状況／4 文学館資料の出版物掲載状況)／運営管理〈1 利用状況 [(1) 入館者数／(2) 館使用者数／(3) 資料特別観覧申請／(4) 出版物販売数]／2 組織および分掌事務／3 予算の概要)／施設の概要／姫路文学館友の会／日誌抄／条例規則集／利用案内

【60】佐藤春夫記念館

図録

1. 『《望郷の詩人・偉大な文学者》 図録佐藤春夫』 1990年5月30日 編輯・発行：佐藤春夫記念館
収録：一、本館所蔵の品々ほか／二、春夫邸を移築〈客間再現〉／三、アルバム・佐藤春夫〈(1) 出生～新宮中学／(2) 上京～大正期〔三田時代〕／(3) 昭和・関口町～戦時〔千代夫人をめぐる／長男方哉誕生／弟とマロニエの樹／戦時下〕／(4) 戦後期〔疎開、佐久との係わり〕〕／四、華麗、幅広い交友〈堀口大學との交友〉／五、文豪の風貌〈好んで“狭い”書齋〉／六、多様、多彩な作品群〈明治大正期／昭和前期／戦後期／遂行のあと〉／七、書画にみる“風流”／八、追悼、佐藤春夫／九、「わんぱく時代」とその“土壌”〈「わんぱく時代」の舞台／「わんぱく時代」草稿／明治40年代の新宮〉／十、ふるさとの碑ほか／佐藤春夫年譜／佐藤家家系図／著作目録／〔後記にかえて〕
2. 『文豪 佐藤春夫のふるさとめぐり』 1992年8月 発行：(財)佐藤春夫記念会
収録：佐藤春夫の略歴とふるさとガイド
3. 『特別展 芥川龍之介・佐藤春夫展 〈世紀末〉へのまなざし』 1999年9月1日 主催：財団法人・佐藤春夫記念会／南紀熊野体験博・新宮市実行委員会 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：ごあいさつ(新宮市長 佐藤春陽)／『図録』の刊行に寄せて(館長 草加浅一)／イエロー・ブック・河童図・魯迅揮毫本ほか／「羅生門」と「田園の憂鬱」の《世紀末》(中村三代司)／芥川龍之介と佐藤春夫の世紀末(石割透)／春夫と龍之介と中国文学(藤井省三)／龍之介の晩年と春夫(辻本雄一)／〔佐藤春夫記念館スポット1～7〕

／〔主な展示資料〕／〔芥川龍之介・佐藤春夫関係年譜 三峪さわ代編〕／〔協力者等一覧〕／〔後記〕

翻刻

1. 『佐藤春夫宛 森丑之助書簡』 2003年3月20日 編集・発行：新宮市立佐藤春夫記念館

収録：刊行にあたって（疋田眞臣）／森丑之助書簡〈佐藤春夫宛〔大正九年七月十七日／大正九年七月二十日／大正九年八月十二日／大正九年八月二十六日／大正九年八月三十日（電報）／大正九年八月三十一日／大正九年八月三十一日／大正九年九月二日／大正九年九月十日〕／東熙市宛〔大正九年七月十五日〕〉／佐藤春夫が描いた森丑之助（笠原政治）／参考資料〈森丙牛遺稿／台湾見物 曾遊生／佐藤春夫の台湾作品／佐藤春夫・森丑之助年譜〉

館報

1. 『佐藤春夫記念館だより』

- 1-1. 『佐藤春夫記念館だより』 第1号 1994年12月1日 編集・発行：佐藤春夫記念館

収録：はじめに（草加浅一）／七十五年目の翻訳（佐藤方哉）／門弟ではないけれど（大久保房男）／初公開「千代をめぐるの書簡（草稿）展」に寄せて—平成五年十月一日＝十二月二十六日—（辻本雄一）春夫記念館、来館者「感想ノート」より／寄贈品目録

- 1-2. 『佐藤春夫記念館だより・特別記念版①』 1995年9月20日 編集・発行：佐藤春夫記念館

収録：佐藤春夫先生のこと（庄野英二）／庄野英二の文学（戸塚恵三）／解説にかえて（辻本雄一）／庄野英二作品目録／熊野ゆかりの作品／佐藤春夫が描かれている作品／年譜

- 1-3. 『佐藤春夫記念館だより』 第2号 1995年12月1日 編集・発行：佐藤春夫記念館

収録：はじめに（草加浅一）／徐福墓畔の家（佐藤智恵子）／関口台の家のことなど（竹田長男）／春夫先生と大學（堀口すみれ子）春夫記念館、来館者「感想ノート」より／寄贈品目録

- 1-4. 『佐藤春夫記念館だより』 第3号 1997年1月15日 編集・発行：佐藤春夫記念館

収録：はじめに（草加浅一）／思い出（牛山百合子）／ピノチオ（若林芳樹）／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／寄贈品目録

- 1-5. 『佐藤春夫記念館だより』 第4号 1998年3月15日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：はじめに（草加浅一）／「望郷五月歌」詩碑と茶室「鳥集庵」（上野元）／文豪佐藤春夫と巨匠河井寛次郎（奥西保）／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／佐藤春夫関係寄贈品目録
- 1-6. 『佐藤春夫記念館だより』 第5号 1999年3月20日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：はじめに（草加浅一）／春夫素描（佐藤良雄）／佐藤春夫の思い出（砂原和雄）／勝浦沖で捕獲した人魚の逸話（森江栄次郎）／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／佐藤春夫関係寄贈品目録
- 1-7. 『佐藤春夫記念館だより』 第6号 2000年3月20日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：はじめに（草加浅一）／スナップショット（Snapshot）（渡邊清治）／佐藤春夫先生の思い出（舟越道子）／10周年記念式典及びび行事／回顧10年／10年のあゆみ／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／佐藤春夫関係寄贈品目録
- 1-8. 『佐藤春夫記念館だより』 第7号 2001年5月1日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：最近の熊野、とくに新宮について（中村裕）／我が青春の一冊（草加浅一）／「紀州との不思議な関係」 —佐藤春夫と井上靖と—（大井一郎）／「私の春夫著作読書遍歴」（菊地博）／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／佐藤春夫関係寄贈品目録／記念館館長に就任して（疋田真臣）
- 1-9. 『佐藤春夫記念館だより』 第8号 2002年5月1日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：新宮市立丹鶴小学校校歌制定についての思い出（小野俊二）／『佐藤春夫の短歌』へ寄せられた私信（木下美代子）／日本台湾学会で「佐藤春夫と台湾」の研究発表（下村作次郎）／春夫記念館、来館者「感想ノート」より／教科書に掲載されている詩／佐藤春夫関係寄贈品目録／（昭和三六年）『望郷の賦』執筆、発表の頃（疋田真臣）
- 1-10. 『佐藤春夫記念館だより』 第9号 2003年10月1日 編集・発行：佐藤春夫記念館
収録：ご挨拶とお願い（船上光次）／新宮市立緑丘中学校校歌（奥村隼郎）／和歌山県立熊野高等学校校歌（岸彰則）／佐久市立浅間中学校校歌（池田ヨシミ）／和歌山県立新宮商業高等学校校歌（前田徳男）／佐藤春夫関係寄贈品目録／来館者「感想ノート」より
- 1-11. 『佐藤春夫記念館だより』 第10号 2004年7月20日 編集・発行：佐藤春夫

記念館

収録：《寂しさ》が人をつなぐ春夫文学（河野龍也）／佐藤春夫記念館を訪ねて（西沢てる／ご挨拶（船上光次）／佐藤春夫ゆかりの地を歩く 新宮散歩地図／来館者「感想ノート」より／「ピノッキオ」と新宮の関係／資料紹介／新収蔵資料／寄贈品目録
—平成 15 年度

記念誌

1. 『開館 10 周年記念 新宮市立佐藤春夫記念館 10 年のあゆみ』 1999 年 11 月 23 日
発行：新宮市立佐藤春夫記念館
収録：はじめに／目次／沿革〈1. 記念館の経過／2. 記念館設立趣旨／3. 佐藤春夫略年譜／4. 記念館の紹介〉／事業報告〈1. 特別企画展／2. 定例事業 [(1) 佐藤春夫忌御供茶式／(2) 佐藤春夫筆塚供養]／3. 他事業 [(1) 春夫文学散歩／(2) 文学愛好者のつどい／(3) 講演会／(4) 佐藤春夫文学講座／(5) 出版事業、他]〉／修造資料／管理運営〈1. 新宮市教育委員会組織／2. (財) 記念会組織／3. 館長・理事長／4. 年度別入館者数、開館日数、他〉／施設の概要〈1. 設置主体、運営主体／2. 設計の要点／3. 記念館の規模及び平面図〉／利用案内

【61】森鷗外記念館

図録

1. 『森 鷗外 明治知識人の歩んだ道』 1996 年 3 月 21 日 監修：山崎一穎 編集・発行：森鷗外記念館
収録：発刊にあたり（中島巖）／発刊によせて（長谷川泉）／監修にあたって（山崎一穎）／第一章 鷗外の生涯〈西欧を父として 上京後から東大時代／自由と美の国へドイツ留学／作家誕生／帰国後の鷗外／待機の時 日清・日露戦争と小倉時代／豊熟の時代 日露戦後の文壇へ復帰／晩年の輝き 歴史・史伝小説の世界を拓く／石見人森林太郎として 遺言〉／第二章 津和野の日々〈文久二年（一八六二）[誕生／森家系譜]／慶応三年（一八六七）[絵図に残された森家／現在の森鷗外旧宅／家庭での学問]／明治元年（一八六八年）[米原家での学習]／明治二年（一八六九年）[藩校「養老館」入学／最初の蔵書印と号／養老館の教授／養老館教科書]／明治三年（一八七〇）[外国語事始め／養老館に通った道／西周]／明治四年（一八七一）[上京準備／横堀盆踊り]／明治五年（一八七二）[上京／上京の経路／津和野との交流]／第三章 年譜／終わりに（山根津知夫）
2. 『森 鷗外明治知識人の歩んだ道 注記』 1996 年 3 月 21 日 注記者：山崎一穎 編

集・発行：森鷗外記念館

収録：(1) 鷗外上京後の住居／(2) 上京の年の写真（於東京）／(3) 東京大学医学部の教授達（明治十年十二月現在）／(4) 鷗外の漢学の師・依田学海／(5) 東京大学の卒業式風景／(6) 鷗外の陸軍省入りに助力する周辺／(7) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(8) 留学上申書／(9) 留学辞令、拝謁／(10) 鷗外出発／(11) 「日東十客」の写真／(12) 父静夫から鷗外宛書簡／(13) ベルリンに於ける医学関係者の写真／(14) 武島務免官後の発表論文／(15) 鷗外帰国／(16) 鷗外と赤松登志子の結婚の年月日／(17) 西周から森静男宛書簡／(18) 西周から森静男宛書簡／(19) 第一回日本医学会総会／(20) 「東京医事新誌」の主筆交代／(21) 医学博士の学位授与／(22) 日清戦争従軍記録／(23) 北白川宮能久親王／(24) 亀井滋明／(25) 西周の憲法私案発見／(26) 小倉行き辞令（六月八日付）／(27) 原田直次郎の訃報／(28) 赤松登志子の訃報／(29) 鷗外から原田直次郎宛書簡（未発表）／(30) 鷗外の結婚と新夫人の紹介記事／(31) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(32) 第二軍の編成／(33) 田山花袋と鷗外／(34) 寺崎広業戦場を語る／(35) 「せめては草」／(36) 鷗外から妻志げ宛書簡／(37) 鷗外から長子於菟宛葉書／(38) 雨声会へ出席／(39) 陸軍軍医総監陸軍省医務局長就任／(40) 臨時仮名遺調査委員会委員／(41) 臨時脚気病調査会設置／(42) 鷗外から小山内薫宛書簡／(43) 文学博士の学位授与／(44) 文芸委員会／(45) 極秘の建議漏洩す／(46) 警視庁検閲本『恋愛三昧』／(47) 明治天皇崩御、改元／(48) 明治天皇の葬儀、乃木希典夫妻の殉死／(49) 乃木希典の遺言書／(50) 宮芳平（一八九三・六・五～一九七一・三・三〇）／(51) 大正天皇即位式／(52) 『盛儀私記』の初出／(53) 退職辞令／(54) 漢詩「齟齬」考／(55) 鷗外から木嶋清熊宛書簡（未発表）／(56) 勅撰議員候補の顔触れ／(57) 鷗外から渋江保宛書簡／(58) 鷗外から伊沢徳宛書簡（未発表）／(59) 鷗外から竹内鉄五郎宛書簡（未発表）／(60) 鷗外から宮崎幸麿宛依頼／(61) 鷗外から萩野由之宛書簡／(62) 鷗外から浜野知三郎宛書簡／(63) 鷗外から室田英哉宛書簡／(64) 室田英哉宛書簡中同封の鷗外メモ（未発表）／(65) 鷗外から室田英哉宛書簡／(66) 宮崎幸麿から鷗外宛回答／(67) 『北條霞亭』の初出／(68) 帝室博物館総長に就任／(69) 帝国美術院の院長に就任／(70) 正倉院御物拝観規定／(71) 『白木画帖』／(72) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(73) ロシア革命、米騒動、シベリヤ出兵／(74) 原敬首相暗殺／(75) 『裴將軍帖』への書き込み／(76) 鷗外から潤三郎宛葉書（未発表）／(77) 医薬を排する鷗外／(78) 『礼儀小言』の初出／(79) 「石見人」の読みに関して／(80) 山県有朋の死去、国葬／(81) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(82) 森 鷗外死去—新聞記事（見出し）／(83) 鷗外と津和野／(84) 津和野藩主の廃藩置県の建白書

3. 『鷗外忌特別展「鷗外 その終焉」 新資料にみる森林太郎の精神』 1996年7月9日 監修：山崎一穎 指導助言：小泉浩一郎／清田文武 企画・構成・発行：森鷗外記

念館

4. 『平成9年度特別展図録 鷗外苑の年賀状 附 篤次郎、潤三郎宛』 1997年12月12日 監修：山崎一穎 企画・構成：森鷗外記念館
5. 『鷗外忌特別展図録 「鷗外の終焉」』 1998年7月16日 監修：山崎一穎 企画・構成・編集：森鷗外記念館 発行：株式会社紀伊國屋書店
収録：はじめに／目次／鷗外展に寄せて（長谷川泉）／監修にあたって（山崎一穎）／臨終前後の状況／医者や薬を避け続けた鷗外の信条／僕の尿即ち妻の涙に候／石見人森林太郎として死せんと欲す／衰えたる哲人の像を見るようだ／資料
6. 『森 鷗外 明治知識人の歩んだ道』 増補改訂 1999年3月31日 監修：山崎一穎 編集・発行：森鷗外記念館
収録：発刊にあたり（中島巖）／発刊によせて（長谷川泉）／監修にあたって（山崎一穎）／第一章 鷗外の生涯（西欧を父として 上京後から東大時代／自由と美の国へドイツ留学／作家誕生／帰国後の鷗外／待機の時 日清・日露戦争と小倉時代／豊熟の時代 日露戦後の文壇へ復帰／晩年の輝き 歴史・史伝小説の世界を拓く／石見人森林太郎として 遺言）／第二章 津和野の日々（文久二年（一八六二）[誕生／森家系譜]／慶応三年（一八六七）[絵図に残された森家／現在の森鷗外旧宅／家庭での学問]／明治元年（一八六八年）[米原家での学習]／明治二年（一八六九年）[藩校「養老館」入学／最初の蔵書印と号／養老館の教授／養老館教科書]／明治三年（一八七〇）[外国語事始め／養老館に通った道／西周]／明治四年（一八七一）[上京準備／横堀盆踊り]／明治五年（一八七二）[上京／上京の経路／津和野との交流]／第三章 年譜（改定）／終わりに（山根津知夫）／増補改訂にあたって（斉藤数弘）／増補目次（第一部 鷗外の生涯／第二部 鷗外と津和野／第三部 鷗外の子どもたち）
7. 『森 鷗外明治知識人の歩んだ道 注記』 増補改訂 1999年3月31日 注記者：山崎一穎 編集・発行：森鷗外記念館
収録：(1) 鷗外上京後の住居 ※／(2) 上京の年の写真（於東京）／(3) 東京大学医学部の教授達（明治十年十二月現在）／(4) 鷗外の漢学の師・依田学海／(5) 東京大学の卒業式風景／(6) 鷗外の陸軍省入りに助力する周辺／(7) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(8) 留学上申書／(9) 留学辞令、拝謁／(10) 鷗外出発／(11) 「日東十客」の写真／(12) 父静夫から鷗外宛書簡／(13) ベルリンに於ける医学関係者の写真／(14) 武島務免官後の発表論文／(15) 鷗外帰国／(16) 鷗外と赤松登志子の結婚の年月日 ※／(17) 西周から森静男宛書簡／(18) 西周から森静男宛書簡／(19) 第一回日本医学会総会／(20) 「東京医事新誌」の主筆交代／(21) 医学博士の学位授与／(22) 日清戦争従軍記録／(23) 北白川宮能久親王／(24) 亀井滋明／(25) 西周の憲法私案発見／(26) 小倉行き辞令（六月八日付）／(27) 原田直次郎の訃報／(28) 赤松登志子の訃報／(29) 鷗外から原田直次郎宛書簡（未発表）／(30) 鷗外の結婚と新夫人の紹介

記事／(31) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(32) 第二軍の編成／(33) 田山花袋と鷗外／
(34) 寺崎広業戦場を語る／(35) 「せめては草」／(36) 鷗外から妻志げ宛書簡／(37)
鷗外から長子於菟宛葉書／(38) 雨声会へ出席／(39) 陸軍軍医総監陸軍省医務局長就
任／(40) 臨時仮名遺調査委員会委員／(41) 臨時脚気病調査会設置／(42) 鷗外から
小山内薫宛書簡／(43) 文学博士の学位授与／(44) 文芸委員会／(45) 極秘の建議漏
洩す／(46) 警視庁検閲本『恋愛三昧』／(47) 明治天皇崩御、改元／(48) 明治天皇
の葬儀、乃木希典夫妻の殉死／(49) 乃木希典の遺言書／(50) 宮芳平(一八九三・六・
五～一九七一・三・三〇)／(51) 大正天皇即位式／(52) 『盛儀私記』の初出／(53)
退職辞令／(54) 漢詩「齟齬」考／(55) 鷗外から木嶋清熊宛書簡(未発表)／(56)
勅撰議員候補の顔触れ／(57) 鷗外から渋谷保宛書簡／(58) 鷗外から伊沢徳宛書簡(未
発表)／(59) 鷗外から竹内鉄五郎宛書簡(未発表)／(60) 鷗外から宮崎幸麿宛依頼
／(61) 鷗外から萩野由之宛書簡／(62) 鷗外から浜野知三郎宛書簡／(63) 鷗外から
室田英哉宛書簡／(64) 室田英哉宛書簡中同封の鷗外メモ(未発表)／(65) 鷗外から
室田英哉宛書簡／(66) 宮崎幸麿から鷗外宛回答／(67) 『北條霞亭』の初出／(68)
皇室博物館総長に就任／(69) 帝国美術院の院長に就任／(70) 正倉院御物拝観規定／
(71) 『白木画帖』／(72) 鷗外から賀古鶴所宛書簡／(73) ロシア革命、米騒動、シ
ベリヤ出兵／(74) 原敬首相暗殺／(75) 『裴將軍帖』への書き込み／(76) 鷗外から
潤三郎宛葉書(未発表)／(77) 医薬を排する鷗外／(78) 『礼儀小言』の初出／(79)
「石見人」の読みに関して／(80) 山県有朋の死去、国葬／(81) 鷗外から賀古鶴所宛
書簡／(82) 森 鷗外死去—新聞記事(見出し)／(83) 鷗外と津和野／(84) 津和野
藩主の廃藩置県の建白書／増補改訂〈(1) 鷗外上京後の住居／(16) 鷗外と赤松登志子
の結婚年月日／(85) 上京の経路〉／増補〈(86) 山県有朋「常磐会」選者に対する諮
問書／(87) 「常磐会議決」稿(鷗外筆、全集未収録)／(88) 鷗外から井上通泰宛書
簡(大正六年十月三十日付、全集未収録)／(89) 井上通泰「常磐会廃会の辞」原稿／
(90) 鷗外から賀古鶴所宛書簡(大正十一年五月二十六日付)／(91) 賀古鶴所から加
藤拓川宛書簡(大正十一年七月六日付)／(92) 賀古鶴所から加藤拓川宛書簡(大正十
一年七月八日付)／(93) 鷗外の客体書／(94) 哀悼の寄せ書き／(95) 賀古鶴所から
加藤拓川宛書簡(大正十一年七月十二日付)／(96) 賀古鶴所から加藤拓川宛書簡(太
守御十一年八月二日付)／(97) 禅林寺(東京都三鷹市)の鷗外の墓所／(98) 永明寺
(島根県津和野町)の森家墓所／(99) 養老館「入門授初之品」八種／(100) 廃藩に
関する御沙汰書／(101) 鷗外から加部巖夫宛書簡(大正八年三月三日付)／(102) 贈
正二位亀井侯碑(鷗外の撰文)／(103) 鷗外から佐伯常麿宛書簡(大正十年十二月五
日付)／(104) 鷗外から於菟、マリ、アンヌ、類宛端書(京都から、大正四年十一月
十六日付)／(105) 鷗外から於菟、茉莉、杏奴、類宛端書(京都から、大正四年十一
月十六日付)／(106) 鷗外から子供たち宛書簡(奈良から、大正七年十一月二十一日

付)

8. 『開館五周年記念特別展図録 『鷗外宛の年賀状』第二集』 1999年11月19日 監

修：山崎一穎 企画・構成：森鷗外記念館

収録：開館五周年にあたって／特別展開催にあたって／目次／「鷗外宛の年賀状」の表情を読む（山崎一穎）／1 川上眉山より森鷗外宛 明治25年1月1日／2 落合直文より森鷗外・森篤次郎宛 明治25年1月8日／3 正岡子規より森鷗外宛 明治34年1月1日／4 長岡外史より森鷗外宛 明治36年1月5日／5 平木白星より森鷗外宛 明治36年12月31日／6 賀古鶴所より森鷗外宛 明治37年12月31日／7 小山内薫より森鷗外宛 明治38年1月3日／8 大下藤次郎より森鷗外宛 明治40年1月1日／9 高濱虚子より森鷗外宛 明治40年1月3日／10 内田魯庵より森鷗外宛 明治42年1月1日／11 木下杢太郎より森鷗外宛 明治42年1月1日／12 長塚節より森鷗外宛 明治42年1月1日／13 尾上柴舟より森鷗外宛 明治42年1月2日／14 泉鏡花より森鷗外宛 明治42年1月7日／15 岡田三郎助より森鷗外宛 明治42年1月12日／16 フリッツ・ルンプより森鷗外宛 明治42年12月31日／17 下村観山より森鷗外宛 [明治43]年1月3日／18 満谷國四郎より森鷗外宛 明治44年1月1日／19 北原白秋より森鷗外宛 [大正2]年1月5日／20 石井柏亭より森鷗外宛 大正3年1月1日／21 斎藤茂吉より森鷗外宛 大正3年1月1日／22 徳富蘇峰より森鷗外宛 大正3年1月1日／23 山本鼎より森鷗外宛 大正3年1月5日／24 巖谷小波より森鷗外宛 大正4年1月1日／25 夏目漱石より森鷗外宛 大正4年1月1日／26 長原孝太郎より森鷗外宛 大正4年1月2日／27 谷崎潤一郎より森鷗外宛 大正4年1月5日／28 中村不折より森鷗外宛 大正5年1月1日／29 久保田米斎より森鷗外宛 大正6年1月1日／30 田村俊子より森鷗外宛 大正6年1月1日／31 吉田博より森鷗外宛 大正6年1月1日／32 古泉千樞より森鷗外宛 大正6年1月4日／33 矢嶋柳三郎より森鷗外宛 大正8年1月1日／34 横川唐陽より森鷗外宛 大正8年1月1日／35 山本一郎より森鷗外宛 大正8年1月5日／36 森鷗外・志げより荒木帙太郎・同夫人宛 大正10年1月1日／附録 干支表／参考資料 鷗外日記に見られる主要交友記録

9. 『森鷗外記念館企画展図録』 2001年1月19日 企画・構成・発行：森鷗外記念館

収録：パネル展開催にあたって／解説 「鷗外印譜」について／目次／「鷗外印譜」〈①「三木の舎」／②「医学士森林太郎図書之記」／③「RINTARO MORI Dr.med TOKYO」／④「R.M.」／⑤「林太郎」／⑥「曾在豊国」「観潮楼主」「森氏高湛」／⑦「師子遊戯」「鷗外漁史」「源高湛」／《参考資料》「獅子遊戯」「鷗外」「森高湛」／⑧「無念爾祖事修厥徳」／⑨「森林太郎」／⑩「更於時事無以求」／⑪「解組丙辰初同僚貽此書」／⑫「鷗外」／⑬「千朶山房主人」／⑭「護封」／《参考資料》「千朶山房」「鷗外漁史」「源高湛」〉

10. 『森鷗外生誕一四〇周年記念第 2 期特別展 鷗外 その終焉 —津和野への回帰—』
 2002 年 7 月 6 日 監修：山崎一穎 企画・構成・編集・発行：森鷗外記念館
 収録：開催にあたって／監修にあたって／「森ハ覚者として没したり」／ブルジョワ・デモクラットとしての鷗外／鷗外にかかわる人々／鷗外を取り巻く人々／森家の系譜とその最期／鷗外の病歴／出郷から退官まで／出郷・東大入学・陸軍省入省・退官／臨終前後の状況／医者や薬を避け続けた鷗外の信条／鷗外最期の手紙「僕の尿即ち妻の涙に候…」／石見人森林太郎として死せんと欲す／故郷「石見」について／鷗外最後の言葉～昏睡状態～／衰えたる哲人の像を見るようだ／故郷への回帰／津和野への分骨／鷗外 33 回忌法要～肺結核の公表～／人は死に臨んで／鷗外遺言三種
11. 『森鷗外生誕 140 周年記念コンサート 「鷗外とオペラ Ogai MORI und Oper」』
 2002 年 11 月 9 日 発行者：森鷗外記念館 編集：森鷗外記念館 目次無し
12. 『森鷗外生誕一四〇周年記念第 3 期特別展 鷗外宛年賀状 第三集』 2002 年 11 月 15 日 監修：山崎一穎 企画・構成：森鷗外記念館
 収録：館長あいさつ／監修にあたって／目次／1 饗庭篁村より森鷗外宛 明治 30 年（1897）1 月 9 日／2 北里蘭より森鷗外宛 明治 31 年（1898）1 月 9 日／3 藤井乙男より森鷗外宛 明治 32 年（1899）1 月 1 日／4 渋谷在明より森鷗外宛 明治 36 年（1903）1 月 1 日／5 藤井茂太より森鷗外宛 明治 36 年（1903）1 月 2 日／6 大野酒竹より森鷗外宛 明治 37 年（1904）1 月 1 日／7 佐藤三吉より森鷗外宛 明治 37 年（1904）1 月 1 日／8 山本一郎より森鷗外宛 明治 38 年（1905）1 月 11 日／9 平野萬里より森鷗外宛 明治 38 年（1905）12 月 31 日／10 平野萬里より森鷗外宛 大正 2 年（1913）1 月 11 日／11 小山内薫より森鷗外宛 明治 39 年（1906）1 月 1 日／12 小山内八千代より森鷗外宛 明治 39 年（1906）1 月 13 日／13 市村讚次郎より森鷗外宛 明治 41 年（1908）1 月 1 日／14 小杉天外より森鷗外宛 明治 41 年（1908）1 月 1 日／15 國分青二より森鷗外宛 明治 41 年（1908）1 月 3 日／16 山本鼎より森鷗外宛 明治 41 年（1908）1 月 14 日／17 正宗敦夫より森鷗外宛 明治 41 年（1908）12 月 31 日／18 長岡外史より森鷗外宛 明治 42 年（1909）1 月 1 日／19 長岡外史より森鷗外宛 明治 45 年（1912）1 月 1 日／20 郡司成忠より森鷗外宛 明治 42 年（1909）1 月 1 日／21 遅塚麗水より森鷗外宛 明治 45 年（1912）1 月 1 日／22 石橋思案より森鷗外宛 大正 1 年（1912）12 月 29 日／23 横川唐陽より森鷗外宛 大正 1 年（1912）12 月 31 日／24 石原忍より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／25 伊豆凡夫より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／26 鶴澤芳松より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／27 加藤静児より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／28 塚本靖より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／29 寺崎廣業より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 1 日／30 満谷國四郎より森鷗外宛 大正 3 年（1914）1 月 15 日／31 藤島武二より森鷗外宛 大正 4 年（1915）1 月 1 日／32 吉井勇より森鷗外宛 大正 4 年

(1915) 1月1日/33 生田葵山より森鷗外宛 大正5年(1916) 1月1日/34 岡野知十より森鷗外宛 大正5年(1916) 1月1日/35 岡野知十より森鷗外宛 大正6年(1917) 1月1日/36 小寺菊子より森鷗外宛 大正5年(1916) 1月1日/37 長原止水より森鷗外宛 大正5年(1916) 1月1日/38 市河三陽より森鷗外宛 大正8年(1919) 1月1日/39 古泉千樞より森鷗外宛 大正8年(1919) 1月1日/40 斎藤茂吉より森鷗外宛 大正8年(1919) 1月1日/41 高楠順次郎より森鷗外宛 大正8年(1919) 1月1日/42 白井雨山より森鷗外宛 大正10年(1921) 1月1日/参考資料 平壤戦地図

13. 『森鷗外記念館開館十周年記念特別展展示 図録 鷗外宛年賀状聚成』 2004年11月20日 監修：山崎一穎 企画・構成：森鷗外記念館
収録：特別展開催にあたって(森鷗外記念館館長 斉藤数弘) / 「鷗外宛年賀状」を読む(展示・図録監修者 山崎一穎) / 目次 / 1 川上眉山 森鷗外宛 明治25年1月1日(消印) / 2 落合直文 森鷗外・篤次郎宛 明治25年1月8日(消印) / 3 饗庭篁村 森鷗外宛 明治30年1月9日(消印) / 4 北里蘭 森鷗外宛 明治31年1月9日(日付) / 5 藤井乙男 森鷗外宛 明治34年1月1日(日付)

目録

1. 『森鷗外記念館資料目録 I. 書簡編』 1998年3月31日 編集・発行：森鷗外記念館
収録：書簡編(年代順)〈鷗外関係書簡/鷗外関係書簡(封筒のみ)/家族関係書簡/知人関係書簡/その他〉/索引編(発信人・受信人別)〈鷗外より家族宛/鷗外より知人宛/家族より鷗外宛/知人より鷗外宛/家族間交信/家族より知人宛/知人より森篤次郎宛/知人より森篤次郎宛/知人間交信/その他〉
2. 『森鷗外記念館資料目録 II. 鷗外関係資料編』 1999年3月31日 編集・発行：森鷗外記念館
収録：1. 遺品資料〈1. 遺品/2. 家藏品〉/2. 自筆原稿類〈1. 日記類/2. 原稿・覚書類/3. 墨跡類/4. 遺言〉/3. 公文書資料〈1. 公文書〉/4. 〈1. 鷗外特殊資料/2. 郷土関係資料/3. 養老館関係資料/4. 記念事業関係資料/5. 交友関係資料/6. 時代資料/7. 地図・図版

館報

1. 『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ』
1-1. 『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ I』 1997年3月31日 企画・構成・発行：森鷗外記念館 目次無し
1-2. 『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ II』 1998年3月31日 企画・構成・

発行：森鷗外記念館 目次無し

1-3.『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ III』 1999年3月31日 企画・構成・

発行：森鷗外記念館 目次無し

1-4.『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ IV』 2000年3月31日 企画・構成・

発行：森鷗外記念館 目次無し

1-5.『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ V』 2001年3月31日 企画・構成・

発行：森鷗外記念館 目次無し

1-6.『森鷗外記念館館報 ミュージアムデータ VI (1号再販)』 2002年3月31日

企画・構成・発行：森鷗外記念館 目次無し

【62】(財)吉備路文学館

発行物無し

【63】勝央美術文学館

図録

- 1.『勝央町制施行 50周年記念事業・勝央美術文学館開館記念特別展 郷土の美術・文学展』 2004年10月9日 主催：勝央美術文学館 共催：勝央町／(財)美作学術文化振興財団 後援：山陽新聞社／津山朝日新聞社／株式会社テレビ津山 編集：勝央美術文学館

収録：勝央町制施行 50周年記念事業・勝央美術文学館開館記念特別展 「郷土の美術・文学展」開催にあたって(勝央美術文学館長 岸本耕二)／福島金一郎／赤堀佐平／水野恭子／秋田寅雄／秋野卓美／有元康道／池吉彦／尾崎侃／小早川篤四郎／高山始／日原晃／鷺田重郎／文学者 木村毅／劇作家 額田六福／翻訳家 額田やえ子／劇作家・小説家 岡本綺堂／出版社青蛙房 社長 岡本経一／作東の蘭学者と幕末前後の文化人(小林令助(岡)／原村元貞(石生)／佐々木裕四郎(豊久田)／小林曾助(岡)／平賀元義

【64】ふくやま文学館

図録

1. 『ふくやま文学館 ^{ふるさと} 郷土の心を求めて』 1999年4月23日 編集・発行：ふくやま文学館

収録：一、福山市および近接市町村ゆかりの文学者たち〈英文学者・随筆家 福原麟太郎／劇作家 小山祐士／詩人・俳人 木下夕爾／ゆかりの文学者たち／福山文学史略年表〉／二、井伏鱒二の世界〈人生の機軸〔誕生から郷土を離れるまで／早稲田大学時代／文学修業時代と作家としての道程／戦争と井伏／戦後円熟期〕／文学の機軸〔井伏文学の出発／都会の屈託と田舎への回帰／歴史を素材として／郷土と井伏文学／怒りと抵抗—井伏文学における戦争／現実を見つめて〕／自筆原稿／詩集／児童文学と教科書／翻訳された井伏文学／書斎と遺愛の品々／飄々たる人生／井伏鱒二略年譜／井伏鱒二主要著書年表〉／協力者一覧

2. 『井伏鱒二と交友した文学者たち ——師・友人・弟子・後輩——』 2000年3月1日 編集・発行：ふくやま文学館

収録：まえがき／文学の世界へ〈吉田絃二郎／岩野泡鳴／谷崎清二／田中貢太郎〉／尊敬した作家たち〈森鷗外／正宗白鳥／志賀直哉〉／井伏文学を評価した人々〈佐藤春夫／牧野信一／小林秀雄〉／文士交歓〈中村正常／堀辰雄／蔵原伸二郎／永井龍男／河上徹太郎／三好達治／青柳瑞穂／深田久彌／亀井勝一郎／上林暁／中島健蔵／坪田譲治〉／井伏と弟子たち〈太宰治／中村地平／小沼丹／三浦哲郎〉／井伏に親しんだ後輩たち〈木山捷平／村上菊一郎／安岡章太郎／開高健〉／井伏と対談した文学者〈河盛好蔵／深沢七郎〉／井伏鱒二略年譜／井伏鱒二に関する人物記、文学・作品評総覧／井伏鱒二の分掌に登場する日本近代文学者総索引／あとがき

3. 『井伏文学のふるさと』 2000年9月22日 編集・発行：ふくやま文学館

収録：まえがき／望郷のうた〈山の図に寄せる／勉三さん／蟻地獄（コンコンの唄）〉／福山市加茂町〈「朽助のゐる谷間」（大谷池）／「丹下氏邸」 四川 丹下氏邸／「集金旅行」 栗根 井伏生家／「白毛」 四川／「谷間」／「武州鉢形城」〉／福山市鞆町〈「鞆ノ津所見」／「さざなみ軍記」／「鞆ノ津茶会記」〉／福山城〈「お濠に関する話」〉／因島市〈「因ノ島」〉／神辺町〈「木砲隊始末記」〉／新市町〈「鐘供養の日」〉／上下町・世羅町〈「虎松日誌」〉／三和町小島〈「黒い雨」／「御用控帳」〉／油木町〈「開墾村の与作」〉／郷土大概記〈「郷土大概記」 福山市草戸町／「郷土大概記」 尾道／「郷土大概記」 走島／「郷土大概記」 門田杉東先生〉／郷土を題材としたと推定される作品・文章数／あとがき

4. 『井伏鱒二と太宰治』 2001年10月6日 編集・発行：ふくやま文学館

収録：まえがき／太宰治略年譜／井伏鱒二による太宰治十八景〈1 弘前高校時代の太宰治（一九二七年頃）／2 井伏鱒二に師事（一九三〇年）／3 左翼活動（一九三〇～三二年）／4 鎌倉腰越心中未遂事件 ——津島文治さんの対応（一九三〇年）／5 東

大卒業試験（一九三五年）／6 太宰治失踪（一九三五年）／7 武蔵野病院入院（一九三六年）／8 下宿独居生活を切りあげて御坂峠へ（一九三八年）／9 甲府で見合い（一九三八年）／10 放屁問答 ——『富嶽百景』をめぐる（一九三九年）／11 南豆荘で水難（一九四〇年）／12 太宰治の将棋／13 太宰治と徴用（一九四一年）／14 疎開のころ（一九四五～四六年）／15 上京後の太宰治（一九四六～四八年）／16 太宰治救済の打ち合わせ（一九四八年）／17 心中死（一九四八年）／18 御坂峠の太宰治文学碑（一九五三年）／太宰治主要七作品〈「思ひ出」（一九三三年）／「走れメロス」（一九四〇年）／「東京八景」（一九四一年）／「津軽」（一九四四年）／「ヴィヨンの妻」（一九四七年）／「斜陽」（一九四七年）／「人間失格」（一九四八年）〉／井伏鱒二あて太宰治書簡／二つの井伏鱒二日記〈「太宰治に関する日記」（附翻刻）（一九三六年）／三好達治詩集『朝菜集』書入れ日記（一九四三年～四五年）〉／太宰治について書いた井伏鱒二文総覧／あとがき

5. 『在郷の詩人 木下夕爾』 2002年10月11日 編集・発行：ふくやま文学館
収録：まえがき／生い立ち〈詩「父の記憶」／「木下夕爾への追憶の葉」（松浦語）〉／中学時代〈詩「月夜の道」／短歌「雑詠」〉／東京時代〈詩「海近く来て」／詩「殺意」／詩「狐」／詩「六月のほとり」〉／名古屋時代〈詩「三月のほとり」／詩「雹の降る家」〉／帰郷〈詩集『田舎の食卓』と『生れた家』[詩「BONJOUR」／詩「田舎の食卓」／詩「田舎の理髪店で」／詩「野」]／「朝に俗銭を得て 夕に詩をつくる」〉／戦争記〈詩「家」／詩「暮春某日」／詩「枯草の上」／詩「日本の秋」／詩「早春」〉／戦後〈詩集『昔の歌』[詩「日日の孤独」／詩「若き日」]／詩「夜の孤独」／詩「あけくれ」／詩「秋立つ日」／「夏の日」（宮崎晶子）／詩集『晩夏』[詩「晩夏」／詩「夜学生」]／詩「都の友へ」／詩集『笛を吹く人』[詩「倒れる樹」／詩「笛を吹くひとよ」／詩「冬の噴水」]〉／『笛を吹くひと』以後〈詩「僕は樹木のように」／詩「生の歌」／詩「蒜山高原」／詩「朝焼夕焼」／詩「長い不在」／最後の手紙（井伏鱒二あて）〉／俳句『遠雷』以前／『遠雷』／『遠雷』以後／校歌その他／略年譜／木下夕爾書／あとがき

6. 『井伏鱒二没後十年記念 井伏文学の笑い』 2003年10月11日 編集・発行：ふくやま文学館
収録：まえがき／詩〈なだれ／歳末閑居／緑蔭／蛙／春宵／田家春望〉／物語〈寒山拾得／岬の風景／谷間／朽助のある谷間／山椒魚／シグレ島叙景／丹下氏邸／川／お濠に関する話／侘助／遙拝隊長／丑寅爺さん／漂民宇三郎〉／風貌・姿勢、祖父、母〈風貌・姿勢 堀辰雄／風貌・姿勢 小林秀雄／風貌・姿勢 亀井勝一郎〉／書画骨董の災難／おふくろ〉／身边作品〈場面のこうか／女人来訪／＝肋集／悪夢／樟腦の粉／荻窪風土記〉／新規挿絵一覧／井伏文学の笑い——シンポジウムに寄せて——〈井伏文学の笑いと私（磯貝英夫）／笑いのある風景——若き日の井伏鱒二——（寺横武夫）／井伏文

学の笑い——自慢話をしなかった釣師——（岩崎文人）／「笑い」という武器——井伏文学の戦中——（前田貞昭）／特別寄稿〈鱒二の祖父民左衛門（井伏章典）／「黒い雨」の成立過程——往復書簡を中心にして——（重松文宏）／あとがき

7. 『高村光太郎展カタログ別冊』 2004年 編集：ふくやま文学館／ふくやま美術館
収録：高村光太郎と森鷗外——まえがきに代えて——（磯貝英夫）／光太郎詩の源泉（北川太一）／本展示の構成（I 詩人・高村光太郎前史 [1 生い立ち——江戸庶民の家風／2 彫刻と文学——東京美術学校時代／3 彫刻の真を求めて——ロダンへの傾倒／4 ヨーロッパと日本の葛藤——欧米留学／5 デカダン時代——パンの会の渦中へ]／II 詩人・高村光太郎の登場 [1 反抗、頽唐、焦燥——『道程』前期／2 デカダンからの脱出、《自然》の発見——『道程』後期、『道程』以後／3 社会批判——「猛禽篇」時代]／III 値いがたき智恵子——『智恵子抄』『智恵子抄その後』[1 愛の日々／2 智恵子人間界を超える／3 智恵子の死／4 年を経て]／IV 日本帰郷・戦争詠と自己流^{るたく}謫 [1 昂揚と回帰——『大いなる日に』『をぢさんの詩』『記録』／2 自己流謫——『典型』／3 帰京。智恵子を刻むために——『典型以後』]）／主要出品目録
8. 『ふくやま文学館開館五周年記念 所蔵資料展 さまざまな風格』 2005年2月4日
編集・発行：ふくやま文学館
収録：まえがき／さまざまな風格（——原稿を中心に—— [井伏鱒二／福原麟太郎／小山祐士／木下夕爾／村上菊一郎／小山東一／日野啓三／島田荘司／葛原しげる／近藤芳美／木山捷平／山城巴／志賀直哉／林芙美子／横山美智子／岡倉由三郎／岡倉天心／内田百閒／永井龍男／小沼丹／庄野潤三／大江健三郎]／——書—— [中村憲吉／倉田百三／田中貢太郎／葛西善蔵／土井晩翠／西脇順三郎／阿部知二／吉田健一／三浦哲郎]）／特別寄稿 備後モンパルナス ——狼煙を待つ人々（中山茅集子）／主要展示資料目録／ふくやま文学館（一九九九～二〇〇四年度）の記録 ——企画展・主要行事・出版物等——／あとがき

研究誌

1. 『ふくやま文学館所蔵資料シリーズ『福山の文学』』
1-1. 『ふくやま文学館所蔵資料紹介 ——井伏鱒二・福原麟太郎・小山祐士・木下夕爾・村上菊一郎 小伝——』 第5集 2004年3月31日 編集・発行：ふくやま文学館
目次無し

作品

1. 『ふくやま文学館所蔵資料シリーズ『福山の文学』』
1-1. 『井伏鱒二著 南島風土記』 第1集 2000年3月1日 編集・発行：ふくやま文学館
目次無し

- 1-2. 『井伏鱒二著 丹下氏邸』 第2集 2001年1月25日 編集・発行：ふくやま文学館 目次無し
- 1-3. 『井伏鱒二 『詩集朝菜集』（三好達治）書入れ日記』 第3集 2002年3月1日 編集・発行：ふくやま文学館 目次無し
- 1-4. 『福原麟太郎 ヨーロッパ大回遊記 ——イタリア・ギリシャを中心に——』 第4集 2003年3月31日 編集・発行：ふくやま文学館 目次無し
- 1-5. 『小山祐士 「北海道演奏旅行記」』 第6集 2005年3月31日 編集・発行：ふくやま文学館 目次無し

翻刻

1. 『新版 児童詩集』 2002年10月31日 著者：木下夕爾 編集・発行：ふくやま文学館 目次無し

【65】 中原中也記念館

図録

1. 『特別展示 中也の軌跡 II 上京・「朝の歌」のころ』 1995年10月 編集・発行：中原中也記念館 目次無し
2. 『平成14年度中原中也記念館特別展 「二つの中也の首 ——彫刻家高田博厚の極限のフォルム」』 2002年7月31日 編集・発行：中原中也記念館 目次無し
3. 『平成15年度・中原中也記念館 秋の企画展 青いソフトに——北原白秋と中原中也』 2003年9月3日 編集・発行：中原中也記念館 目次無し
4. 『中原中也記念館 特別企画展 宮沢賢治と中原中也』 2004年7月28日 編集・発行：中原中也記念館 目次無し

紀要

1. 『中原中也研究』
 - 1-1. 『中原中也研究』 創刊号 1996年3月31日 編集：「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館
 収録：巻頭エッセイ〈創元社版全集編集のころ（中村稔）／中原中也『山羊の歌』初版の周辺（福田百合子）／講演〈中原中也とフランス文学（イブ＝マリ・アリュール）／論究〈中也・賢治・山頭火（佐藤泰正）／オノマトペと《繰り返し》の主題（北川透）／中原について（加藤典洋）／ベルグソンの「笑い」と中也（樋口覚）／「千葉寺雑記」の彼方（佐々木幹郎）／未発表資料〈中原中也カルテ 「病床日誌」〉／中

原中也記念館館蔵資料及び図書目録〈資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料/2 中原中也関係者資料] / 図書目録 [1 作品集/2 全集/3 初出雑誌(含復刻)/4 論集/5 特集雑誌/6 研究・評論・エッセイ・その他/7 新聞/8 映像/9 音楽・朗読]〉 / 「中原中也の会」(仮称) 会則案/編集後記

1-2. 『中原中也研究』 第2号 1997年3月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈中原中也小感(中村真一郎) / 中原中也と自然の数(荒川洋治)〉 / インタビュー〈「文圃堂」の古都 野々上慶一さんに聞く〉 / 講演〈中原中也の場所(秋山俊)〉 / シンポジウム〈いま中原中也をどう読むか(パネラー：黒川創・樋口寛 / 会場参加：飯島耕一・中村稔・北川透 / 司会：佐々木幹郎)〉 / 論究〈中原中也の「あざやぐ」記憶(吉竹博) / 中也「蛙声」の詩語とそのイメージ(何積橋) / 中原中也ダダ詩の構成について(長沼光彦) / 告白と翻訳のあいだに(大出敦)〉 / 未発表資料〈『山羊の歌』校正刷写真版 / 【解題】校正刷発見の経緯 / 『山羊の歌』校正刷写真版・校正一覧〉 / 中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録(一九九六年一月～十二月)〈資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料/2 中原中也関係者資料] / 図書目録 [1 作品集/2 初出雑誌/3 論集/4 関連図書/5 特集雑誌/6 研究・評論・エッセイ・その他/7 新聞/8 映像/9 音楽・朗読]〉 / 中原中也の会・会則 / 中原中也の会・役員名簿 / 「中原中也研究」投稿規約 / 編集後記

1-3. 『中原中也研究』 第3号 1998年3月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈唄や歌など(伊藤信吉) / はぐれた瓦(吉田加南子)〉 / 【特集】中原中也とフランス詩〈シンポジウム [中原中也とフランス文学をめぐって 中原中也の会・中原中也生誕九十年記念大会(パネラー：新井豊美・宇佐美斉 / 司会：飯島耕一 / 会場参加：中村稔・和田健・長谷川晃・寺田操)] / 論究 I [持続と切断(鈴木和成) / 二人の月光派(青木健) / 「夜更の雨」(小山俊輔) / 歌が流れる(宇佐美斉) / 中也のランボー訳(上田真木子) / 中也におけるフランス詩の受容(何積橋)] / 論究 II [昭和初年頃の中原中也と「生活」(長沼光彦) / 中原中也と政治意識(吉竹博)]〉 / 「道修山夜曲」の初出誌「黎明」 / 【解題】「黎明」発見の経緯(佐々木幹郎) / 中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録(一九九七年一月～十二月)〈資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料/2 中原中也関係者資料] / 書誌目録 [1 作品集/2 初出雑誌/3 論集/4 関連図書/5 特集雑誌/6 研究・評論・エッセイ・その他/7 新聞/8 映像/9 音楽・朗読]〉 / 中原中也の会・会則 / 中原中也の会・役員名簿 / 「中原中也研究」投稿規約 / 編集後記

1-4. 『中原中也研究』 第4号 1999年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈降る雪は いつまで降るか（金子兜太）／「ゆあーん ゆよーん」と「ぼあーん ぼあーん」（道浦母都子）／半世紀ぶりに中也のことを書く（いいだもも）〉／講演〈「一つのメルヘン」と「蛙声」（中村稔）〉／【特集】中原中也と童謡的なものをめぐって〈シンポジウム [中原中也と童謡の時代 中原中也の会・第三回大会シンポジウム（パネリスト：谷川俊太郎・佐々木幹郎・中島国彦／司会：樋口覚／発言：山本哲也・和田健・中村稔）]／論究Ⅰ [中原中也と北原白秋 童謡的なものをめぐって（佐藤通雅）／歌うようにしゃべる中也とみずゞ アンダースローなポエジー（寺田操）／人魚の発見 中也詩の童謡的なものをめぐって（山本哲也）／ホテルの屋根に降る雪は 中原中也と北原白秋（加藤邦彦）]／論究Ⅱ [『在りし日の歌』における別れ 「永訣の秋」が意味するもの（中原豊）／ダダイスト中也とセンチメンタリズム（長沼光彦）／「死んだ明治も甦れ」 「春の夜」小考（高橋順子）／忘れられた対立（大出敦）]／新資料発見 1〈前川佐美雄宛・中原中也書簡八通／【解題】佐美雄との交流（佐々木幹郎）〉／新発見資料 2〈千駄木八郎訳・ルナル「オノリーヌ婆さん」／千駄木八郎訳・「ルナル日記抄」／【解題】ルナルと中原中也（宇佐美斉）〉／中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録（一九九八年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料／2 中原中也関係者資料]／書誌目録 [1 作品集／2 初出雑誌／3 論集／4 関連図書／5 特集雑誌／6 研究・評論・エッセイ・その他／7 新聞／8 映像／9 音楽・朗読]〉／「中原中也研究」投稿規約／編集後記

1-5. 『中原中也研究』 第5号 2000年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈反復（杉山平一）／喪失と風景 中原中也小見（高橋文二）〉／講演〈中原中也の言葉の音楽 歌から詩へ詩から歌へ（岡井隆）〉／シンポジウムⅠ〈中原中也、近代詩の中の恋愛 中原中也の会・第四回大会シンポジウム（パネリスト：中村稔・宇佐美斉・國生雅子／司会：北川透／発言：有沢裕紀子・大井康暢・金山克哉）〉／シンポジウムⅡ〈京都時代の中原中也とダダイズム 中原中也の会・京都集会（第三回研究集会）（パネリスト：鈴木和成・神谷忠孝・北川透／司会：佐々木幹郎／発言：大井康暢・堀本吟）〉／論究〈翻訳家としての中原中也（宇佐美斉）／京都時代の中原中也 生活の軌跡（二木晴美）／ダダイスト中也の恋（長沼光彦）／中原中也の“音風景”（渡辺彰夫）／中原中也における直観と論理（吉竹博）／ボードレール原作 中原中也改作 「時こそ今は……」評釈 中也の感じた存在と時（樋口覚）〉／中原中也記念館館蔵及び中原中也書誌目録（一九九九年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料／2 中原中也関係者資料]／書誌目録 [1 作品集／2 初出雑誌／3 論集／4 関連図書／5 特集雑誌／6 研究・評論・エッセイ・その他／7 新聞／8 映像／9 音楽・朗読]〉／「中原中也研究」投稿規約／中原中也の会・

会則／編集後記

1-6. 『中原中也研究』 第6号 2001年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈中也・ヴィヨン・賢治（天沢退二郎）／「胡桃の会」と署名帖について（佐伯研二）／【特集】昭和初年代の詩的青春 中原中也の会・第五回大会シンポジウム〈シンポジウム [昭和初年代の詩的青春と中原中也（パネリスト：阿毛久芳・加藤典洋／司会：樋口覚／発言：中村稔・北川透・佐々木幹郎）]／講演 [《青春》の大衆化と終焉（三浦雅士）]／論究 [中原の「です・ます」調 文体混在の問題をめぐって（疋田雅昭）／空転する語り 「浮浪歌」と「道化の臨終」をめぐって（池田誠）／「瞞る私の聴官よ」 「朝の歌」と「かなしみ」（陶原葵）／中原中也における人称の問題（吉竹博）]／【小特集】安原喜弘「晩年の手記」（1983-88）[小林秀雄の思い出／小林秀雄と中原中也／中原中也妹よ・絶唱／中原中也と私／花のかおり／はしと茶碗]／解題（安原喜秀）／編註（佐々木幹郎）／中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録（二〇〇〇年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料／2 中原中也関係者資料]／書誌目録 [1 作品集／2 全集／3 初出雑誌／4 論集／5 特集雑誌／6 関連図書／7 研究・評論・エッセイ・その他／8 新聞／9 映像／10 音楽・朗読]〉／「中原中也研究」投稿規約／中原中也の会・会則／中原中也の会・会員名簿／編集後記

1-7. 『中原中也研究』 第7号 2002年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈中也と音楽 中也と亡父・三郎についての中村稔さんとの往復書簡より（諸井誠）〉／聞き手・記録＝中村稔（西川千鶴子）／講演〈昔読んだ中也、今会う中也（三木卓）〉／【特集】『新編中原中也全集』第三巻「翻訳」の発刊をめぐって〈シンポジウム 中原中也とランボー、ヴェルレーヌ 中原中也の会・第五回研究集会 [編集委員の立場から……（1）中也の翻訳（佐々木幹郎）／編集委員の立場から……（2）中也はランボーとヴェルレーヌをどのように見ていたか（宇佐美斉）／読者の立場から……（1）ランボーと中也（鈴木和成）／読者の立場から……（2）ヴェルレーヌと中也（山田兼士）]〉／シンポジウム（パネリスト：宇佐美斉・鈴木和成・山田兼士／司会：佐々木幹郎／発言：宮治弘之・樋口覚）／論究 I 〈中原中也 「名辞以前」において《応答》はあるか（丹治恆次郎）／中原中也は山羊が羊か 『山羊の歌』という詩集名について（イヴ＝マリ・アリュール／宇佐美斉＝訳）〉／論究 II 〈中原中也の「詩壇」意識 一九三五年前後の詩をめぐる状況と「日本詩人会」「詩人クラブ」「東京詩人クラブ」（加藤邦彦）／在りし日の歌 「蘇小小歌」と「含羞」をめぐって（趙峻）〉／中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録（二〇〇一年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・

資料／2 中原中也関係者資料]／書誌目録 [1 作品集／2 全集／3 初出雑誌／4 論集／5 特集雑誌／6 関連図書／7 研究・評論・エッセイ・その他／8 新聞／9 映像／10 音楽・朗読]／中原中也の会・会則／「中原中也研究」投稿規約／編集後記

1-8. 『中原中也研究』 第8号 2003年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈お太鼓叩いて（入沢康夫）／謎は深まるほうがいい（出口裕弘）〉／講演〈中原中也と高田博厚（加藤周一）〉／【特集】宮沢賢治と中原中也 中原中也の会・第六回研究集会〈公開対談 [「銀河鉄道の夜」と「夜汽車の食道」をめぐって（対談：いいだもも・中村稔／司会：鈴木和成）]／集中討議 [《心象スケッチ》と《名辞以前》をめぐって 中原中也から見た宮沢賢治（パネリスト：入沢康夫・北川透／発言：中村稔・吉竹博・佐々木幹郎・鈴木和成）]〉／【小特集】中原中也・故郷と信仰 中原中也の会・第七回大会〈講演 [近代文学とキリスト教—中原中也の位置（佐藤泰正）]〉／論究 I 〈故郷と信仰という問題（笠原芳光）／隠蔽された「神」 中原中也の故郷と信仰（山本哲也）／テキストとしての中也・覚えがきとして 故郷・信仰をめぐって（倉橋健一）〉／論究 II 〈中原中也の「倦怠」（吉竹博）／中原中也『山羊の歌』の詩境 詩魂に包摂される世界（権田浩美）〉／中原中也記念館館蔵資料及び中原中也書誌目録（二〇〇二年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料／2 中原中也関係者資料]／書誌目録 [1 作品集／2 初出雑誌／3 論集／4 特集雑誌／5 関連図書／6 研究・評論・エッセイ・その他／7 新聞／8 映像／9 音楽・朗読]〉／中原中也の会・会則／中原中也の会・会員名簿／「中原中也研究」投稿規約／編集後記

1-9. 『中原中也研究』 第9号 2004年8月31日 編集：中原中也の会・「中原中也研究」編集委員会 発行：中原中也記念館

収録：巻頭エッセイ〈歌は言葉の意味を超えたところに（小室等）／いのちの母国さがし（森崎和江）〉／【特集】中原中也一言葉の音楽 中原中也の会・第七回研究集会〈公開対談 [中原中也と諸井三郎 詩と音楽（対談：諸井誠・中村稔／司会：傳馬義澄）]〉／論究 1a [中原中也と音楽 アンチ・ディレッタントの本領（樋口覚）]〉／【小特集】北原白秋 中原中也の会・第八回大会〈シンポジウム [原郷としての幼年時代 北原白秋と中原中也（パネリスト：宮沢賢治・福島泰樹・北川透／司会：阿毛久芳／発言者：佐々木幹郎・山田兼士）]〉／論究 1b 〈白秋の声・中也の声（中原豊）〉／論究 2 〈中原中也とボードレール 《倦怠》をめぐって（西野常夫）／中原中也のダダ詩と歌謡に関する考察 「自滅」を中心に（古賀晴美）／伝統と道具 「白痴群」創刊号発表詩篇という中也のマニフェスト（渡邊浩史）／中原中也と『死』（吉竹博）〉／新資料〈小学校時代の中也の書と習字教科書（河田和子）〉／中原中也記念館館蔵資

料及び中原中也書誌目録（二〇〇三年一月～十二月）〈館蔵資料 [1 中原中也遺稿・遺品・資料/2 中原中也関係者資料] /書誌目録 [1 作品集/2 全集/3 初出雑誌/4 論集/5 特集雑誌/6 関連図書/7 研究・評論・エッセイ・その他/8 新聞/9 映像/10 音楽・朗読]〉 /中原中也の会・会則 /中原中也の会・役員名簿 /「中原中也研究」投稿規約 /編集後記

館報

1. 『中原中也記念館館報』

1-1. 『中原中也記念館館報』 創刊号 1996年3月31日

収録：創刊後あいさつ（福田百合子） /その志明らかなれば 一館報発刊によせて（佐藤泰正） /運営協議会 /寄稿「末黒野」余聞（和田健） /中也の軌跡 I・II /収蔵品トピック /中原中也記念館の記録 /寄贈・寄託資料 /キーワードは「中也」（竹花京子） /聞き語り 「中也ゆかりのひとびと」 /点訳図書の寄贈 /お知らせ

1-2. 『中原中也記念館館報』 第2号 1997年3月31日

収録：文館と中庭：舞台公演を「魅せられて中也詩」に決める迄（加藤耀子） /運営協議会委員の交替 /公開講座 詩人に近づけたような（福田百合子） /中原中也記念館公開講座の記録 /企画展 中也の軌跡 III 「寒い夜の自画像」とその周辺 /中原中也生誕 90-1 年祭 /中原中也記念館の記録 /寄贈・寄託資料 /新資料紹介 /聞き語り 中也ゆかりの人々② /トピックス 土の中からガラス瓶 /お知らせ

1-3. 『中原中也記念館館報』 第3号 1998年3月31日

収録：中也生誕九十年の諸行事を終えて（福田百合子） /碑の前で、それでも（安原善秀） /寄贈資料 /中也とランボーの脳味噌（朝比奈誼） /企画展「中原中也とランボー」 /父のプレゼント（諸井康子） /新資料紹介 /生誕九〇年・没後六〇年記念行事 /トピックス「中也の帽子」再現 /「私の好きな中也の詩」集計結果 /刊行物紹介 /中原中也生誕九〇年祭 /公開講座の記録 /中也生誕九〇年記念大会他 /中原中也記念館の記録 /聞き語り「中也ゆかりのひとびと」 /お知らせ

1-4. 『中原中也記念館館報』 第4号 1999年3月31日

収録：ごあいさつ（福田百合子） /一六四番目に『山羊の歌』を贈られた男（竹田巖） /大空の下の朗読会（伊藤孝子） /小さなお誕生会 /公共建築百選（荒瀬秀治） /『末黒野』と吉田緒佐夢（和田健） /中原中也記念館公開講座 /『山羊の歌』が世に出るまで /小企画展示 /開館5周年を迎えて /常設展示パネル替え /寄贈資料 /新収蔵資料紹介 /中原中也の会入会の手引き /中原中也記念館の記録 /第四回中原中也賞 /第五回中原中也賞募集要項

1-5. 『中原中也記念館館報』 第5号 2000年3月31日 目次無し

収録：廳舎の屋根（福田百合子） /特別寄稿〈中也ならどう読む？（秋山駿） /『小

さき芽』と吉田緒佐夢（和田健）／父 阿部六郎の思い出（小野悠紀子）／阿部六郎と中原中也 寄贈書簡解説／年増婦^{としま}の声 ～中也と私～（大谷巖）／大谷従二と中原中也 寄贈書簡解説／主なできごと（1999年3月～2000年2月）／平成11年度企画展中也の軌跡Ⅳ 『在りし日の歌』のなかの子供／中原中也記念館公開講座／第5回中原中也賞『いまにもうるおっていく陣地』蜂飼耳さん

1-6. 『中原中也記念館館報』 第6号 2001年3月31日

収録：ごあいさつ『末黒野』の背景（福田百合子）／特別寄稿〈「富永太郎の書簡と正岡忠三郎日記」——正岡家資料について（佐々木幹郎）／「吉田緒佐夢の人間像」（和田健）／新資料〈ランボオ詩集《学校時代の詩》／神保光太郎 詩集『帰郷』〉／特別企画展〈安原善弘書簡〉／平成12年度行事／第6回中原中也賞 受賞作品／平成13年度行事予定

1-7. 『中原中也記念館館報』 第7号 2002年3月31日

収録：特別寄稿〈「我家のダダさん」（富永一矢）〉／企画展〈秋の悲歎・富永太郎——私はわたし自身を救助しよう〉／特別寄稿〈「中原中也という経営」（山岡頼弘）／「中原中也を肉筆で読む」——山口大学人文学部・2001年度夏期集中講義レポートより／「中也と心平の青春交友」（長谷川由美）〉／特別展〈書簡にみる交流の足跡〉／小企画展〈山口の歌人・友廣保一〉／新資料〈高田博厚制作「古在由直ブロンズ像」〉／平成13年度行事記録／第7回中原中也賞 受賞作品／平成14年度行事予定

1-8. 『中原中也記念館館報』 第8号 2003年3月31日

収録：特集 追悼・伊藤拾郎氏／特別寄稿〈特別展『中原中也展～汚れつちまつた悲しみに…』（赤間亜土）〉／新収蔵資料〈「療養日誌」／「竹田鎌二郎日記」／「末黒野」〉／企画展〈『丘の上サあがつて——中村古峯』〉／特別展〈『二つの中也の首——彫刻家・高田博厚の極限フォルム』〉／平成14年度行事記録／第8回中原中也賞受賞作品／平成15年度行事予定

1-9. 『中原中也記念館館報』 第9号 2004年3月31日

収録：特集Ⅰ 中原美枝子氏〈弔辞（中村稔）／弔辞（福田百合子）／美枝子さんの思い出〉／特集Ⅱ 記念館リニューアル〈新しい記念館を歩く／テーマ展示「中也 愛の詩——長谷川康子をめぐって」〉／企画展示「中也の書」／企画展〈『青いソフトに——北原白秋と中原中也』〉／小企画展ピックアップ〈「中原中也～和本デジタル文庫～創本 藤本智眷」／「四谷花園アパート時代—竹田健二郎日記より—」〉／新収蔵資料紹介〈「青い花」／「詩報」〉／主な出来事（平成15年度 行事記録）／第9回中原中也賞受賞作品／平成16年度 行事予定

1-10. 『中原中也記念館館報』 第10号 2005年3月31日

収録：特別寄稿〈ボン・マルシェ日記 修復こぼれ話（秦博志）／ちゅうとやーの「中也ソングブック in 鎌倉」コンサートレポート（谷川賢作）〉／特別企画展示〈「宮沢

賢治と中原中也」プロムナード・トーク〉／テーマ展示〈「祈り—中也の宗教性」〉／文学碑除幕式の思い出〈「嘉村礒多文学碑を巡って」(大平和登)／「みつばの『おしたし』」(福田百合子)〉／新収蔵資料紹介〈谷川徹三宛検定署名入り『山羊の歌』／『COME VENA D'ACQUA』(イタリア誤訳『山羊の歌』所収)〉／企画展示〈「文学サロンとしての酒場」／「河上徹太郎」〉／読書会だより／入館者 40 万人突破／主なできごと(平成 16 年度 行事記録)／第 10 回中原中也賞受賞作品／平成 17 年度行事予定

【66】徳島県立文学書道館

図録

1. 『徳島県文学書道館開館記念特別展 瀬戸内寂聴展』 2002 年 10 月 26 日 編集：山地美千代／湯澤洋子／(株) トータルメディア開発研究所 発行：財団法人徳島県文化振興財団／徳島県立文学書道館
収録：ふるさとへの感謝(瀬戸内寂聴)／瀬戸内さんのこと(山田詠美)／あなたはいつか桃色の骨になる(久世光彦)／自分の生を描く —私小説／抽象的な気分が満ちる—芸術小説／夢の衝迫(川村二郎)／女たちの激しい生を描く —伝記小説／瀬戸内寂聴対談日野啓三 私の世界／出家者による初の訳 —寂聴「源氏物語」現代語訳／なぜ出家したのかを問うて —出家者小説／「白道」について(竹西寛子)／瀬戸内寂聴著作年譜
2. 『生誕百年記念 橋本無道展 妻と故郷と俳句を愛した一生』 2003 年 3 月 31 日 企画・編集：泉始位 発行：財団法人徳島県文化振興財団／徳島県立文学書道館
収録：大型人間(金子兜太)／百年を凝縮した人(出久根達郎)／夢道さんのこと(今枝立青)／生誕百年記念 橋本夢道展に寄せて(佐野比呂志)／夢道と暮らした十八年(石田恭一)／橋本夢道年譜／「層雲」時代まで／大恋愛／俳誌「俳句人」ほか／愛妻物語／獄中句／旅／鳴門の渦／母郷徳島／月島・銀座／天命／家族／交流／書
3. 『鎌田敏夫展』 2003 年 8 月 2 日 企画・編集：竹内紀子／三浦真美／橋本みどり／島さなえ 発行：財団法人徳島県文化振興財団／徳島県立文学書道館
収録：プロフィール／インタビュー／ドラマのセリフから／鎌田敏夫と「とくしま」 —朝日新聞「四国つれづれ」より—／「やにゃこい男と阿波女」(柴門ふみ)／主要著作リスト／シナリオを手がけた作品
4. 『「寂聴の旅」展』 2003 年 9 月 20 日 企画・編集：竹内紀子／三浦真美／橋本みどり／島さなえ／松平和美 目次無し
収録：寂聴の旅 年譜【海外】／わたしの旅(瀬戸内寂聴)／ソ連／ヨーロッパ／中国

／ガンダーラ／シルクロード／尼僧・瀬戸内寂聴の水着（横尾忠則）／チベット／ペルー／カナダ／韓国／イラク／イタリア／ポルトガル／インド／

5. 『モラエス生誕 150 年・ハーン没後 100 年記念特別展 モラエスとハーン展 東洋に魅せられた二人の西洋人』 2004 年 4 月 17 日 編集・発行：徳島県立文学書道館
収録：巻頭詩（富士正晴）／モラエスの遺品（山下博之）／モラエスの足跡（ポルトガル時代（林啓介）／モザンビーク時代（芝正裕）／マカオ時代（芝正裕）／神戸時代（林啓介）／徳島時代（山下博之））／モラエスをめぐる人々／モラエスと七つの恋（竹内絃子）／モラエスの航海（林啓介）／モラエス、ハーン、末慶寺（岡村多希子）／モラエスの散歩道（林啓介）／モラエスの著作と解題（福原健生）／さまざまな余韻—モラエスとハーン—（福間直子）／モラエスと八雲—憧憬から追慕へ—（秦敬一）／失われた日本のモラエスと八雲（速川和男）／年譜〈モラエス／ハーン〉／主な展示資料〈モラエス／ハーン〉／参考文献／出品・協力者一覧
6. 『瀬戸内寂聴新聞小説展』 2004 年 8 月 7 日 企画・編集：竹内紀子／三浦真美／秋枝真由美／北本友美
収録：「女の海」から「いよよ華やぐ」まで（瀬戸内寂聴）／女の海／妻たち／彼女の夫たち／祇園女御／妻と女の間／純愛／京まんだら／幻花／まどう／こころ／愛の時代／家族物語／愛死／いよよ華やぐ／転機になった「懲役一年」（西岡ひょう）／「まどう」まで（諏訪正人）／瀬戸内寂聴作品年表
7. 『吉増剛造展 書物のヴィジョン～生涯は夢の中径～』 2004 年 12 月 18 日 発行：財団法人徳島県文化振興財団／徳島県立文学書道館 目次無し
収録：ご挨拶／『生涯は夢の中径』あとがき自筆原稿 1999 年／啄木ローマ字日記の古畳／「絵馬」自筆原稿 1977 年／銅板 2001—2003 年／写真／吉増剛造プロフィール

紀要

1. 『徳島県立文学書道館 研究紀要 水脈』
 - 1-1. 『徳島県立文学館・書道美術館（仮称）解説準備研究紀要 水脈』 第 1 号 2000 年 8 月 1 日 発行：徳島県環境生活部生活文化国際総室
収録：文学館・書道美術館（仮称）計画の概要と資料収集の状況について（泉始位）／「阿波ゆかり書家」調査探訪記（荒岡勲）／「文学館」の特色を示す資料の紹介（原田聖子）／書家の書斎（一）書籍（南香織）／資料調査から一野上彰との出会い（泉始位）／雨の日の搬送—佃實夫氏資料のこと（泉始位）／文学館・書道美術館の「時代」一言葉というタイムカプセル—（宮崎淳）／「詩」から遠い時代（日野俊顕）／「私の文学史」について—貴司山治とプロレタリア文学—（伊藤純）／遺稿 私の文学史（貴司山治著 伊藤純編注）
 - 1-2. 『徳島県立文学館・書道美術館（仮称）解説準備研究紀要 水脈』 第 2 号 2001

年 3 月 15 日 発行：徳島県環境生活部生活文化国際総室

収録：文学館・書道美術館（仮称）整備事業の状況から（日下浩一）／文学館・書道美術館（仮称）資料収集状況について（岸野美紀）／久米惣七旧蔵資料（京屋社会福祉事業団寄贈）について（泉始位）／小説「隠れ湯の殺人」（全集未収録作品）（海野十三著 泉始位翻刻）／久米惣七旧蔵資料（久米仁氏寄託）について（原田聖子）／落款印・遊印・引首印について（荒岡勲）／「進学三諭」の精神—柴野栗山—（南香織）／父を語る（富永敏衛）／【資料紹介】新居湘香の書（富久和代）／土の言葉—悦田喜和雄方言辞典—（江津敬）／小説「乳ばなれ」（断章）（悦田喜和雄）／眉山の遠近法（宮崎淳）／ベント・カルケジャ宛てモラエス私信（未公刊資料 日本初訳）（モラエス著 岡村多希子訳・解説）／阿波の歌百首（紀野恵）

1-3. 『徳島県立文学館・書道美術館（仮称）解説準備研究紀要 水脈』 第 3 号 2002 年 3 月 29 日 発行：徳島県民環境部文化国際課

収録：文学館・書道美術館（仮称）整備事業の状況から（日下浩一）／文学館・書道美術館（仮称）資料収集状況について（岸野美紀）／生まれ生づる言葉たち—開館プレ・イベント始動—（宮崎淳）／書聖中林梧竹名品展 列品解説『楷書と王羲之臨書』（日野俊顕 南香織）／「涼太」と「私」—瀬戸内寂聴「夏の終り」から「場所」まで—（竹内紀子）／木村知石と徳島（富永泰寿子）／聞き書き モラエスさんのこと（野口有香）／落款印・遊印・引首印について その 2（荒岡勲）／佃實夫資料（佃陽子氏寄贈）について（泉始位）／小杉楹邨の書（富久和代）／生田花世—風貌と内面の軌跡（伊丹悦子）／柴野栗山と書（東南光）／いたみの文学 いのちの文学の創造—県南・阿南の文学…北條民雄と佃實夫…—（伊川公司）

1-4. 『徳島県立文学書道館 研究紀要 水脈』 第 4 号 2003 年 7 月 31 日 発行：徳島県立文学書道館

収録：隸書の達人 佐藤寛堂（萬次）（富久和代）／文人内田要蔵 事跡抄（武蔵正勝）／小説「順吉」（悦田喜和雄）／鎌田敏夫作品紹介（竹内紀子）／徳島ゆかり書家と「蘭亭序」—菘翁・梧竹・奇石の館蔵品を中心に—（富永泰寿子）／座談会「同人誌『徳島作家』を語る」（出席者「徳島作家」同人他）／近代文学の流れの中で瀬戸内寂聴を考える（尾形明子）／〔資料紹介〕日本たばこ産業収蔵品の書画（東南光）／いたみの文学 いのちの文学の創造—北條民雄と川端康成の文学上の交流—（伊川公司）

文芸雑誌

1. 『文芸とくしま』

1-1. 『文芸とくしま』 第 1 号 2004 年 2 月 29 日 発行：徳島県／徳島県立文学書道館

1-2. 『文芸とくしま』 第 2 号 2005 年 2 月 28 日 発行：徳島県／徳島県立文学書道館

【67】 菊池寛記念館

図録

1. 『菊池寛』 1992年11月3日 編集・発行：菊池館記念館

収録：ごあいさつ（脇信夫）／文藝春秋の父菊池寛〈文藝春秋と菊池寛（上林吾郎）／私と芥川賞（大江健三郎）／直木賞と菊池寛（井上ひさし）〉／菊池寛の生涯と作品〈高松時代／上京学生時代／新聞記者から文学界へ／流行作家／創意工夫の文藝春秋／菊池寛全集完成す／文壇の大御所／芥川・直木賞を創設す／生活第一芸術第二〉／菊池寛を語る〈菊池寛の人柄（菊池英樹・佐藤碧子・石井桃子・上林吾郎・吉川文子）／菊池寛の文学（井上ひさし・大江健三郎・中河与一・大草実・江藤淳）／解説／菊池寛年譜／菊池寛記念館案内／主な点字資料一覧・図録資料一覧

研究書

1. 『菊池寛伝』 改訂版 1993年3月31日 著者：中西靖忠 監修：永田敏之 編集・発行：菊池寛記念館

収録：生い立ち〈家は藩の学者にし／貧乏は情けなかった／父は醜い顔という／もず狩りは名人／“マイナス”の遊び／ぞろい変わった少年／早熟な読書体験／中学でトップになる／スポーツ好き〉／修業時代〈推薦で東京高師へ／除名され遍歴生活／青春謳歌の一高生活／友の罪を被り退学／成瀬家に救われて／落莫荒涼たる京都／卒業と第四次『新思潮』〉／記者時代〈時事新報に入社／夏目漱石の死を取材／写真見ただけの結婚／めざましく文壇へ／初期の作品について／芥川との交わり／芥川と毎日に入社〉／人気作家へ〈「藤十郎の恋」で初登場／嵐の人気「真珠夫人」／流行作家と呼ばれて／英仏独へ留学を志望／あれこれと物思う／同人誌の発行を計画〉／文藝春秋前期〈創刊号は二十八頁／清新な野趣が評判／同人や収支を公表／大震災にショック／順調で『文芸講座』も／三年で十一万部に／児童文学への関心／「小学生全集」のこと／総合雑誌へ踏出す〉／壮年の生活と意見〈「五十で死ぬ」つもりで／友と「私の日常道徳」／子供も犬も放任主義／社民から普選に出馬／公約と異色の講演会／結果は七位で落選〉／株式会社へ改組〈佐佐木茂索の入社／基礎も社風も固まる／寛の頁「話の屑籠」〉／不愉快な時代に〈満州事変と五・一五／言論と寛の姿勢／言論統制強まる中で／政府の無施策に不安／政治家、大衆に失望〉／芥川・直木賞を創設〈民間で初の文学賞／戦争中も続けた選考／菊池寛賞も制定〉／創刊十五周年を迎える〈二・二六事件に暗澹／朗らかな時代は遠く／十五年の歩みを総括／社長はだれ、将棋盤？／「政界夜話」の裏表／

軍に直言する座談会) / 日中の戦いの中で (屈服させるは不可能 / 従軍など三たび渡中 / 和平親善を訴える) / 太平洋戦争の時代 (明朗闊達な精神で / 統制で文芸雑誌に / やるだけやって敗戦 / 文藝春秋社を解散 / 放言で公生活を総決算) / 終章 (静かな新生への希望 / 突然に訪れた終焉)

全集

1. 『菊池寛全集』

1-1. 『菊池寛全集 第一巻』 1993年11月3日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：鉄拳制裁 / 歌舞伎若衆 / 盆栽 / 沢村田之助 / 順番 / 暴徒の子 / ある兄弟 / 屋上の狂人 / 海の勇者 / 奇蹟 / 父帰る / 敵討以上 / 藤十郎の恋 / 温泉場小景 / A DRAMATIC SKETCH / 茅の屋根 / 時勢は移る / 岩見重太郎 / 玄宗の心持 / 袈裟の良人 / 小野小町 / 義民甚兵衛 / 獅子と道化師 / 貞操 / 乳 / 真似 / 震災余譚 / 世評 / 浦の苦屋 / 夫婦 / 丸橋忠弥 / 石橋山 / 時の氏神 / 恋愛病患者 / 妻 / 相似 / 亡兆 / 兄の場合 / 入れ札 / 仇討出世譚 / 時と恋愛 / あの道此道 / 彼等の希望 / 原敬 / 地獄のドン・ファン / 姉 / 秀吉と清正 / ある女性三部合奏 / 七番目の愛人 / 肉眼心眼 / 旧恋 / 本願寺異変 / 解題 / 解説 (井上ひさし 上林吾郎)

1-2. 『菊池寛全集 第二巻』 1993年12月10日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：犬族解放 / 身投げ救助業 / 江戸っ子 / 三浦右衛門の最後 / 道を訊く女 / 恩を返す話 / 第一人者 / ある敵打の話 / 群集 / 悪魔の弟子 / ゼラール中尉 / 暴君の心理 / 勲章を貰ふ話 / 病人と健康者 / 海鼠 / 盗みをしたN / 死者を嗤ふ / 大島が出来る話 / 若杉裁判長 / 無名作家の日記 / 海の中にて / 由良之助役者 / 敵の葬式 / 忠直郷行状記 / 父の模型 / 青木の出京 / 愛嬌者 / 恩讐の彼方に / 盗人を飼ふ / 晩年 / 葬式に行かぬ訳 / 我鬼 / たちあな姫 / ある抗議書 / 藤十郎の恋 / まどっく先生 / 小説「灰色の檻」 / 友と友の間 / 簡単な死去 / ある恋の話 / 奥附の印 / 神の如く弱し / 勝負事 / 死床の願ひ / 出世 / 形 / 義勇 / 盗者被盜者 / M 侯爵と写真師 / 慎ましき配偶 / 笑ひ / 極楽 / 名君 / 義民甚兵衛 / マスク / 祝盃 / 姉の覚書 / 蘭学事始 / 妻の非難 / 啓吉の誘惑 / 解題 / 解説 (阿川弘之)

1-3. 『菊池寛全集 第三巻』 1994年1月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：入れ札 / 島原心中 / 乱世 / 流行児 / 仇討三態 / R / おせつかい / 将棋の師 / 俊寛 / 船医の立場 / 西南奇聞 / 歯痛 / ある青年 / 天の配剤 / 中傷者 / 澄子の一生 / 非望 / 父、母、妻、子 / 悪因縁 / 特種 / 首縊り上人 / 肉親 / 偽軍国美談 / 信康母子 / 遊女の天国 / 従妹 / 法律 / 或日来た人達 / 写真 / 盗み / 石本検校 / ある記録 / 微苦笑 / 羽

衣／墨／武家廃絶録／仇討出世譚／敗北／自讃／不孝／愛児不死／恋愛結婚／歓待／新太郎光政／家蜜と正盛／返り討／敵葉／安楽椅子／蠅フライ／盛岡にて／母子／噂の発生／聖き友情／ある恋愛闘争／或日の業平／笑はせた男／妻の感傷／母／恋愛結婚制度／鼠小僧外伝／石田光成／男女同権／ぎつちよの甚／塙団右衛門／上杉謙信と樵夫／天一坊事件／妻は見たり！／夫妻愛綺譚／謀略／良人諸供／親心／東郷大将と盲人達／解題／解説（水上勉）

1-4. 『菊池寛全集 第四巻』 1994年2月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：処女花園／男心軽佻／女心軽佻／弘法大師／富士は晴／敵討母子連れ／姉妹／狐／上意打／猫騒動異聞／不壊の愛／老人募集／武門の恥／母の夢／正道奇道／なすな偽恋／鳴かぬ鶯／妻は皆知れり／勝利の後／男子の愛／恋愛休戦／母卑しからず／見合結婚是非／許婚／嘘も美し／野菊の兵士／両枝の花／嘘の効果／雷雨／わが子の結婚／双愛記／たった一人の男性／瓶中処女／恋人は此処に／愛憎／ミス・フローラ／仇討新八景／好色物語／新今昔物語／解題／解説（安岡章太郎）

1-5. 『菊池寛全集 第五巻』 1994年3月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：真珠夫人／毒の華／慈悲心鳥／火華／解題／解説（川端康成）

1-6. 『菊池寛全集 第六巻』 1994年4月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：新珠／陸の人魚／受難華／解題／解説（後藤明生）

1-7. 『菊池寛全集 第七巻』 1994年5月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：第二の接吻／赤い白鳥／結婚二重奏／明眸禍／解題／解説（河野多恵子）

1-8. 『菊池寛全集 第八巻』 1994年6月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：新女性鑑／東京行進曲／不壊の白珠／心の日月／解題／解説（山田太一）

1-9. 『菊池寛全集 第九巻』 1994年7月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：父なれば／壊けゆく珠／姉妹／有憂華／青春凶絵／蝕める春／解題／解説（由良三郎）

1-10. 『菊池寛全集 第十巻』 1994年8月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：勝敗／春蕾／新女人粧／未来花／解題／解説（杉本苑子 加太こうじ）

1-11. 『菊池寛全集 第十一巻』 1994年9月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

- 収録：妖麗／良人ある人々／花の東京／蒼眸黒眸／結婚街道／解題／解説（西村孝次）
- 1-12. 『菊池寛全集 第十二巻』 1994年10月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：無憂花夫人／明麗花／日像月像／三家庭／生活の虹／解題／解説（西村孝次）
- 1-13. 『菊池寛全集 第十三巻』 1994年11月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：貞操問答／結婚の条件／街の姫君／禍福／解題／解説（西村孝次）
- 1-14. 『菊池寛全集 第十四巻』 1994年12月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：恋愛白道／新道／美しき鷹／結婚天気図／解題／解説（西村孝次）
- 1-15. 『菊池寛全集 第十五巻』 1995年1月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：女性の戦ひ／愛憎の書／女性本願／美しき職能／短篇小説集 四／解題／解説（森田誠吾）
- 1-16. 『菊池寛全集 第十六巻』 1995年5月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：ナポレオン伝／日本合戦譚／日本名婦伝／十往心論／実録史譚／歴史小品集一／解題／解説（山本有三）
- 1-17. 『菊池寛全集 第十七巻』 1995年2月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：日本武将譚／新日本外史／日本戦史抄／歴史小品集 二／解題／解説（杉森久英）
- 1-18. 『菊池寛全集 第十八巻』 1995年4月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：黒船来／明治海将伝／二千六百年史抄／天誅組罷通る／勤皇菊池一族／歴史小品集 三／解題／解説（吉川英治）
- 1-19. 『菊池寛全集 第十九巻』 1995年6月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：大衆維新史読本／大衆明治史／明治文明綺談／解題／解説（久米正雄）
- 1-20. 『菊池寛全集 第二十巻』 1995年3月15日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：続明治文明綺談／西住戦車長伝／満鉄外史／解題／解説（光岡明）
- 1-21. 『菊池寛全集 第二十一巻』 1995年7月31日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋
収録：女性論集〈恋愛と結婚の書／日本女性読本〔現代娘読本・現代人妻読本〕／新

女大学〔新女大学／現代良人読本／貞操読本／夫婦幸福読本／現代手紙読本〕／女性問題文集〕／史伝 六〈大宰府と菅公／歴史小品集 四〉／解題／解説（永井龍男）

1-22. 『菊池寛全集 第二十二巻』 1995年10月30日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：初期文集／文芸講座諸文集／文芸と人生／文芸論集一（外国文学論）／文芸論集二（文学論）／文芸論集三（演劇映画論）／解題／解説（佐伯彰一）

1-23. 『菊池寛全集 第二十三巻』 1995年12月20日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：半自叙伝 其他／日本競馬読本／随想集／歴史随想集／解題／解説（永井龍男）／全集題名索引

1-24. 『菊池寛全集 第二十四巻』 1995年8月30日 著者：菊池寛 刊行：高松市菊池寛記念館 発売：文藝春秋

収録：「文藝春秋」編輯記文集／「文藝春秋」感想文集／話の屑籠／話の芥箱／話の塵／詳細目次／解題／解説（林健太郎）

文芸雑誌

1. 『文芸もず』

1-1. 『文芸もず』 第1号 2000年6月20日

1-2. 『文芸もず』 第2号 2001年6月20日

1-3. 『文芸もず』 第3号 2002年6月20日

1-4. 『文芸もず』 第4号 2003年6月30日

1-5. 『文芸もず』 第5号 2004年6月30日

【68】壺井栄文学館

研究書

1. 『壺井栄伝』 1995年1月10日 著者：戎居仁平治 発行：壺井栄文学館

収録：はじめに／小豆島坂手港の昔と今／伊勢の的矢の日和山／父の呑気屋 母の神経質／青果の浮き沈み／箏箏の環が鳴る／忘れがたい小説「小豆飯」／初任給二円也／弁護士を志した兄彌三郎／妹スエの死／文学への目覚め／初対面の「貧しき人々の群」／「今日の人」黒島傳治／晩年の父と母／私はおしゃれ／大塚克三「舞台美術大道具帳」／文学的青春はおくて／「二十四の瞳」／まずはめでたや／壺井栄年譜／父のこと 栄のこと そして繁治のこと（戎居研造）

館報

1. 『壺井栄文学館だより』

- 1-1. 『壺井栄文学館だより』 号数表記無し 1996年8月15日 目次無し
- 1-2. 『壺井栄文学館だより』 第3号 1999年8月20日 目次無し
- 1-3. 『壺井栄文学館だより』 第4号 2000年8月20日 目次無し
- 1-4. 『壺井栄文学館だより』 第5号 2001年7月28日 目次無し

【70】松山市立子規記念博物館

図録（常設展）

1. 『正岡子規の世界 松山市立子規記念博物館 総合案内』 1981年3月31日 編集・

発行：松山市立子規記念博物館

収録：子規肖像／本巻の仕事と役割／正岡子規の人間像（長谷川孝士）／展示をごらんになる前に／I 道後・松山の歴史〈伝承の愛比売／古代人の美〔古代人のくらし／瀬戸内古代文化圏〕／万葉の時代〔伊予の古代／伊予の歌謡〕／中世の文化と伊予〔河野一族の活躍／遊行の聖一遍〕／松山藩の藩政のもとに〔花ひらく元禄／俳諧の中興と文人趣味／台頭する庶民文化／幕末松山藩の苦悩〕／II 子規とその時代〈子規のおいたち〔明治の変革と正岡家／小学校時代の子規／武士の文学〕／青雲の志〔中学校時代の子規／子規の旅立ち／市街地と松山市の誕生〕／青春に賭ける日々〔多感な学生生活／ベースボールと子規／漱石との交友／俳句に親しむ／文学に志す／小説を執筆する／旅に出る子規／ペンネーム「子規」〕／ジャーナリスト子規〔その頃の新聞界・日本新聞社への入社／新聞人子規の活躍／従軍記者子規／療養の日々〕／映像でたどる明治の息吹／名作『坊っちゃん』と松山／そのころの松山／伊予の文学と史蹟を訪ねて〕／III 子規のめざした世界〈二人の文豪／検索コーナー〔「松山散歩」／「日本派俳句結社地図」〕／闘病の中での文学的結晶〔俳句の革新／「ほととぎす」創刊／芭蕉・蕪村・一茶・子規／新体詩にいとむ／短歌の革新／子規庵歌会／写生文の提案〕／苦痛をのりこえて〔病床の子規が見たいと思ったもの／「仰臥漫録」と「病牀六尺」／子規の絵画／絶筆三句〕／子規山脈〔子規を受け継ぐ／子規から現代へ〕／子規の生涯（年譜）／松山からはばたいた人びと／展示資料目録／英文による展示内容紹介／特別企画展紹介／施設の概要／ちょっとした話／利用案内

2. 『松山市立子規記念博物館 総合案内』 1985年3月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：開館に寄せて／施設利用ガイド／展示の構成／道後・松山の歴史〈伝承の愛比売／古代人の美／万葉の時代／中世の文化と伊予／松山藩の藩政のもとに〉／子規とその

時代〈明治初期の松山の文学／子規のおいたち／青春に賭ける日々／ジャーナリスト子規／そのころの松山／映像でたどる明治の息吹き〉／子規のめざした世界〈愚陀仏庵での子規と漱石／闘病の中での文学的結晶／苦痛をのりこえて／子規を継いだ人々〉／明治にはばたいた松山人脈／子規をめぐる人々／子規の歩み（年譜）／利用案内／施設概要／博物館条例

図録（企画展）

1. 『開館特別展図録「子規の絵」』 1981年4月2日 松山市立子規記念博物館
収録：絵が好きだった子規〈画道独稽古／桜亭雑誌（国立国会図書館）／近世雅感詩文（国立国会図書館）／蓮台（書簡さし絵）／筆まかせ（国立国会図書館）／つづれの錦（国立国会図書館）／水戸紀行裏四日大尽（天理図書館）／小説月の都（天理図書館）／灯台の風景〉／絵を楽しんだ子規〈鉢植南瓜／風刺画／鶉図（国立国会図書館）／大津絵／原人図（国立国会図書館）／庭前図画賛／蔓草と鶏頭／草花（ノウゼンハレン）／鉢植の草花／水差二題／牡丹図／あづま菊／鶏頭画賛／鉢植鶏頭／病室の冬／床の間写生図／菓物帖（国立国会図書館）／草花帖（国立国会図書館）／玩具帖／左千夫像〉／子規自画像〈自画像・淡彩／自画像・下絵／自画像・淡彩（国立国会図書館）〉／仰臥漫録の絵〈仰臥漫録〉／解説〈子規の絵について（石井南放）〉
2. 『虚子 遍歴の青春』 1981年9月12日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：はじめに（和田茂樹）／中学校時代〈虚子書簡子規あて（明治24年5月23日）／虚子書簡子規あて（明治24年9月7日）／俳句会稿「岸の細波」／俳句会稿「暇なき月日」／子規書簡可全・碧梧桐・虚子あて（明治25年1月13日）／俳句会稿「歌仙行」／俳句会稿「二輪梅」／虚子書簡子規あて（明治25年1月20日）／俳句会稿「松山競吟集」〉／高等学校時代〈虚子書簡子規あて（明治25年3月14日）／虚子書簡子規あて（明治26年2月5日）／河東碧梧桐書簡子規あて（明治26年9月17日）／俳句会稿「四十八月」／俳句会稿「六夜月」／虚子書簡子規あて（明治26年12月10日）／子規書簡河東碧梧桐あて（明治25年3月10日）／虚子書簡子規あて（明治27年1月1日）／河東碧梧桐書簡子規あて（明治26年12月28日）／五百木飄亭書簡子規あて（明治26年12月下旬）／俳句会稿「反故集第二」／俳句会稿「虚桐送別会」／虚子書簡子規あて（明治27年11月4日）／『風流懺法』／「風流懺法後日譚」原稿／『贈答句集』／『虚子京遊句録』／東京時代虚子書簡子規あて（明治28年12月15日）／五百木飄亭書簡子規あて（明治28年12月13日）／「寓居日記」／虚子書簡子規あて（明治29年5月23日頃）／俳句幅「先生が……」／俳句幅「松虫に……」／俳句色紙「蕪村像」／俳句色紙「柳緑花紅……」／歌会稿「序詞出生祝」／子規書簡大原恒徳あて（明治33年3月21日）／虚子書簡子規あて（明治31年7月8日）／「ホトトギス」二巻一号／『俳句入門』／「浅草寺のくさぐさ」／「連句の趣味」／ホトトギス社員配当表

／『蕪村句集講義』／『春夏秋冬』／俳句幅「遠山に……」／俳句幅「秋晴や……」／
虚子書簡大原恒徳あて（明治 35 年 9 月 19 日）／「温泉百句」／「現今の俳句会界」／
俳体詩「尼」／「吾輩は猫である」／虚子書簡河東碧梧桐あて（明治 40 年 9 月 14 日）
／虚子書簡長塚節あて（明治 41 年 3 月 14 日）／『鶏頭』／『俳諧師』／『柿二つ』／
鼓「鼓あぶる……」／『稿本虚子句集』／「ホトトギス」雑詠欄復活号／原稿幅「進む
べき俳句の道・緒言つづき」／『進むべき俳句の道』／俳句短冊「時雨つつ……」／俳
句短冊「弟子僧に……」／俳句短冊「去年の巢に……」／俳句短冊「きじをとる……」
／俳句短冊「遠山に……」／俳句短冊「城山の……」／俳句短冊「三時打つ……」／俳
句短冊「ふるさとの……」／企画解説

3. 『碧梧桐 自在への句と書』 1982 年 4 月 20 日 編集・発行：松山市立子規記念博物
館

収録：はじめに（和田茂樹）／子規に兄事して／旅と新傾向／前衛の原点／碧梧桐派の
人々／碧書の出発点（澤田大暁）／年譜／企画解説

4. 『第 4 回特別企画展図録 伊予の俳諧』 1982 年 10 月 9 日 編集・発行：松山市立子
規記念博物館

収録：中央俳諧と伊予／概説「伊予の俳諧」／伊予俳諧の源流／伊予俳諧のあけぼの／
芭風の発展の伊予の俳壇／幕末俳壇と宗匠たち／伊予の俳諧系図（図）／伊予俳諧の歴
史（年表）／出典総目録／企画解説

5. 『第 6 回特別企画展図録 子規・漱石と松風会のひとびと』 1983 年 4 月 29 日 編集・
発行：松山市立子規記念博物館

収録：松風会の初期／子規と松風会／漱石と松風会／近藤我観／野間＝柳／岡村三鼠／
伴狸伴／大島梅屋／豊島天外／下村為山／「ほととぎす」創刊の背景／柳原極堂／松川
金波／田中蛙堂／御手洗不迷／村上霽月／仙波花＝／森盲天外／釈一宿／森田雷死久
／白石南竹／天野箕山／宇都宮丹靖／久保より江／野間一雲／野間猿人／宮脇榎村／
済川竹里／三由淡紅／景浦稚桃／森円月／森河北／内藤世南／岡田燕子／二宮孤松／
土居藪鶯／解説／資料／松風会参加者一覧／愛媛県子規派俳句結社分布一覧／出展総
目録／展示の概要

6. 『第 7 回特別企画展図録 子規短歌の継承』 1983 年 10 月 16 日 編集・発行：松山
市立子規記念博物館

収録：近代短歌革新への道／根岸短歌会／左千夫と節／アララギの興隆／子規短歌の継
承について／出展総目録

7. 『第 8 回特別企画展図録 伊予松山の城主』 1984 年 4 月 29 日 編集・発行：松山市
立子規記念博物館

収録：城主の風貌（肖像画）／松山築城／花開く文化（元禄文化）／耐乏からの創造（享
保飢饉から）／難局打開—維新の嵐／解説〈出展総目録／年表／企画解説〉

8. 『第9回特別企画展図録 子規をめぐる画人たち—浅井忠・中村不折—』 1984年10月9日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：巻頭カラー〈浅井忠〔グレーの古橋／朝顔蒔絵手箱／田植・秋山大原女／貔子窩第二軍司令部／蝦蟇仙人／木かげの女・動物／金州城外／「武士の山狩」下絵・上／「武士の山狩」下絵・中／鬼ヶ島／帆船／菓子器・湯呑〕／中村不折〔少年裸立像／「ホトトギス」九巻四号／七福神嬉遊／高砂初旭・バラと竹〕〉／画人子規を育てた二人の洋画家／浅井忠／中村不折／出展資料総目録／近代日本洋画家界の人脈／浅井忠・中村不折年譜／企画解説
9. 『第11回特別企画展図録 中村草田男と石田波郷——松山の生んだ人間探究派——』 1985年4月28日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：巻頭グラビア／中村草田男／石田波郷／年譜／企画解説／出展総目録
10. 『第12回特別企画展図録 子規と“明治”』 1985年10月22日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：1 明治の首都 ——江戸から東京へ——／2 文明開化と学校 ——教科書に見る明治——／3 青雲の都へ ——子規上京——／4 筆まかせ風まかせ ——当世書生氣質——／5 新聞の時代 ——日清戦争と新聞人——／解説「子規と“明治”」／出展資料総目録
11. 『第13回特別企画展 松山の藩絵師』 1986年4月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：巻頭カラー／絵師待望の近世初期／松本山雪／松本山月／豊田随園／武井周発／豊田随可／遠藤広古／遠藤広実／松山藩における絵師の系譜—地方絵師の一断面—／近世松山の画人／松山藩絵師の系譜／松山藩の絵師関係年表／出展総目録／協力
12. 『第14回特別企画展図録 芭蕉・蕪村・子規』 1986年10月21日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：巻頭カラー／松尾芭蕉／与謝蕪村／正岡子規／資料の読み／年譜／企画解説／出展総目録／協力
13. 『第15回特別企画展図録 河東碧梧桐五〇周年忌記念 自由律俳句の草創期—碧梧桐から井泉水へ—』 1987年4月28日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：巻頭カラー／河東碧梧桐の新傾向／荻原井泉水の自由律／企画解説／年譜／出展総目録／協力
14. 『第16回特別企画展図録 拓川と羯南—たくせんとかつなん—』 1987年10月27日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：拓川と羯南／資料の読み／年譜／近代主要新聞系統図／系譜／解説／出展総目録／協力
15. 『第17回 特別企画展図録 子規を生む潮流 河野氏と一遍 ——漂泊と定着と——』

1988年4月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：I 海上の道と「一所懸命」／II 遊行聖のすがた／III 絵巻に見る一遍／IV 遊行と定着の文化／年表／目録解題／企画解説

16.『第18回特別企画展図録 連歌——「座」の文学』 1988年11月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：1 連歌とは〈子規と連歌／江戸時代の連歌／連歌の形式〉／2 連歌の発生と展開／3 連歌の地方的展開〈節と時衆僧の連歌／大祝一門の連歌／庶民の台頭と近世〉／4 「座」の文学／大山祇神社法楽連歌の世界／連歌史年表／企画解説／出展総目録／協力者

17.『第19回特別企画展図録—市制百周年記念— 松山俳壇百年の群像』 1989年4月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：巻頭カラー／松風会から金平会へ／「葉桜」と松高俳句会／新俳句時代／企画解説／年譜／松山で誕生した俳句雑誌百年の歴史／松山俳句結社の足跡／出典総目録／協力

18.『第20回特別企画展図録 俳句と HAIKU』 1989年10月3日 監修・訳者：佐藤和夫 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：Part I 感性の叫び／俳句を描く〈松山〔夏の日〕{砂浜に（安野由佳）／白い歯で（白方公子）／田舎道（今井由紀子）／ひまわりと（白方淳）／あつい道（佐伯定範）／ざわめきを（菅玲見）}／空に{こうもりが（光田万里子）／きりの朝（池田亜希子）／化石とり（大上隆太）／子どもたち（真田奈保）／むくむくと（萩野泰秀）}／あめがふれば{アジサイに（鎌倉啓志）／つゆぞらに（岡本庄司）／あじさいに（宮田真見）／さくらの木（渡部光宏）／おさな子や（小谷安代）}／虫たちは{はちの家（青木真一）／かたつむり（客野葉子）}／ひろがる{五月晴れ（八木孝志）／池のふち（国広和正）／菜の花の（塚田恭子）}／凝らす{ひまわりと（岡本亜矢子）／いもうとが（白石瑠理）／ユリの花（越智祐吾）／手のひらの（藤沢真帆）／金魚たち（木原さやか）}／ゆりのはな（鈴木麻衣）}／いのち{キリギリス（清水大樹）／なつのほし（地頭所孝）}／きこせる{かえるのこえ（古中秀治）／魚市場（大澤勇人）／あまがえる（尾上貴志）}／おどる{夏の空（福山葵）／なの花に（小池正浩）／あつい夜（天野一聖）}／教室に（山平梢子）／すいすいと（西山貴子）}／かざる{かかしさん（山本有美）}／雨あがり（松田裕美）／向日葵や（飴矢義明）／雨の中（中村明子）／お城山（長野雅之）／見るたびに（徳岡まり）}／水面…{田の水に（真木あゆみ）}／五月晴れ（高市五月）／水無月の（兵頭千賀子）}／風ふいて{すすきの穂（井上美里）}／たびゆく{春のきり（乗松千尋）}／遍路みち（橘信二郎）／春の日に（森中義則）／瀬戸大橋（黒岩竜太）／船旅の（村井園子）}／ふれあう{やっどほれた（真木正治郎）}／土曜日（吉見忠幸）／紫陽花の（森華）／おにのかお（戸田絢子）}／学校では{満天の（山田恭

子) /しんがつき (濱田美和子) /新入生 (濱本美佳) /歓声に (窪田彩子)} /オーストラリア [Hatching (ロイコ・ステフェン) /Cat (クリスチャン・ペントンフォード) /A little (シェーン・アームストロング) /In the dark (ティム・ベントリー) /A mist (トロイ・アントネリー) /Slow (ソーニャ・ステフェンス) /Autumn (マイケル・マッケオウン) /The chrysalis (エイミイ・マグラス) /As the winter (レイチェル・スミス) /The sun (タニア・ラム) /A watery (キム・ローソン) /Climbing (ギャヴィン・リター) /Could (トレント・レカス) /The old (シンディ・クンスト) /Hermit (スティーヴン・スクーガル) /A bug (ニコウル・ビスチョフ) /Slowly (マーク・コネラン) /The leaves (りーん・カースノフスキ) /The clumsy (キャラン・クロウリー)] /カナダ [Face (メイブル・スアレス) /Splash! (マリー・ジェフリーズ) /Leaves (マリー・ルイズ・タワーズ) /I have no (ジェニファー・マリノスキー) /The hot (ジョアンナ・ウィリアムズ) /The rotten (アリスン・ギャビン) /A little girl (サブリーナ・バーン) /One still (デヴィット・ステルフォックス)] /イギリス [Hills (セバスチャン・モードリング) /The polluted (ジャクリーン・フォークナー) /Trees (ポール・サンダース) /Cherry (リンジィ・ストゥアート) /Tipp-ex (ベン・ヘイズルウッド) /Jagged (スザンナ・ホール) /My rocket (スティーブン・ワトソン) /Gentle (アレックス・シャープ) /Bird (エリザベス・フレッチャー カーリー・プレストン) /Sweet (作者不明)] /アメリカ [Sweet (サマンサ・ベッカー) /The ライン (エドワード) /Darling (セラ・ウィニングアム) /As rain (クリスティー・ノリス) /Proud (ヘザー・ロハティン) /The sunshine (ビクター・アルバート) /Birds fly (キャサリーン・ダエン) /The breeze (ロザリー・ディクローブ)] /こどもと俳句 /Part II 俳句からハイクへ〈輸出文学『俳句』 /ジャポニズムの台頭とハイクの発展 /カウンターカルチャーと俳句 /紹介された俳人たち /世界のハイク詩人たち /外国語による俳句文献とその流れ〉 /こども俳句作品集 /展示資料解題 /企画解説

19. 『第 21 回特別企画展図録 「子規の係族」』 1990 年 4 月 29 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：正岡家 / 大原観山 / 大原恒徳 / 加藤拓川 / 岡村三鼠 / 藤野海南 / 服部嘉陳 / 藤野漸 / 藤野古白 / 服部嘉香 / 岸重崔 / 歌原松陽 / 歌原誠 / 三並良 / 歌原蒼苔 / 佐伯政直 / 企画解説 / 正岡家系図 / 正岡家歴代年譜 / 親族系図

20. 『第 22 回特別企画展図録 子規庵の日々』 1990 年 10 月 16 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：I 子規庵の日々〈1 拠点としての上根岸 / 2 子規庵につどう / 3 「病牀六尺」一日々を生きる〉 / II 子規と根岸〈1 風景としての子規庵 / 2 くれ竹の根岸の里〉 / 企画解説 / 出展資料総目録

21. 『第 23 回特別企画展 「柳原極堂—子規と共に—」 1991 年 4 月 28 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 極堂・子規の交友〈1 子規との出会い／2 「文友」極堂／3 極堂と松風会／4 俳人極堂／5 「ほととぎす」発行〉／II そして子規顕彰へ〈1 新聞人極堂／2 政治家極堂／3 俳誌「=頭」／4 「松山子規会」／5 子規と共に〉／年表／企画解説／出展目録
22. 『第 24 回特別企画展 「子規から茂吉へ』 1991 年 10 月 22 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：少年時代の茂吉／『竹の里歌』との出会い—子規と茂吉—／「写生」へ／茂吉の子規論一覧／企画解説／齋藤茂吉年譜／出展目録
23. 『第 25 回特別企画展図録 村上霽月—業余俳諧の精神—』 1992 年 4 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：光風霽月に生きる／業余俳諧の精神／野中の一本杉／霽月の題画吟／転和吟の草創始／写真でだどる霽月／霽月の句碑／霽月年譜／企画解説／出展総目録
24. 『第 26 回特別企画展 画家 下村為山』 1992 年 10 月 20 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 洋画家為山〈1 為山画の源流／2 為山画の発展〉／II 俳人牛伴〈1 牛伴と子規／2 「松風会」／3 「ホトトギス」／4 巧緻なる俳人〉／III 俳味画家〈1 スケッチ／2 為山と俳画〉／IV 書家 下村為山〈1 初期為山書／2 六朝書家〉／為山と不折について—ライバル物語り後日譚—（鴻池楽斎）／年表／企画解説／出展リスト
25. 『第 27 回特別企画展 「子規と常盤会寄宿舎の仲間たち』 1993 年 4 月 27 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：常盤会寄宿舎の創立／子規の学生時代／常盤会寄宿舎の仲間たち〈常盤会寄宿舎在舎表／常盤の芸くらべ表／常盤会寄宿舎の今昔写真集／「常盤学舎寮生の皆さんへ」〉／年譜／企画解説／出展目録
26. 『第 28 回特別企画展図録 「歌人岡麓』 1993 年 10 月 19 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：〔1〕短歌との出会い／〔2〕子規庵歌会／〔3〕「アララギ」とともに／〔4〕晩年、
あずみの安曇野／年譜／企画解説／出展目録
27. 『第二十九回特別企画展図録 鼠骨と「子規』 1994 年 4 月 19 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 子規と鼠骨／II 旧友会・政教社時代／III 子規庵歌会—「阿迦雲」／IV 焦土からの復興／寒川鼠骨先生の門下の一人として／鼠骨年譜／企画解説／出展資料目録

28. 『第30回特別企画展図録 「伊予の湯」』 1994年11月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 伊予の湯／II 道後の文化／III 道後温泉の変遷／IV 本館建設百年の歩み／道後温泉年表／企画解説／出展総目録
29. 『図録 漱石と子規—愚陀佛庵一〇〇年—』 1995年4月25日 編集：松山市立子規記念博物館 発行：朝日新聞社文化企画局大阪企画部
収録：漱石と子規 愚陀佛庵一〇〇年目次／第一章 第一高等中学校での出会い／第二章 愚陀佛庵の日々／第三章 それぞれの道／第四章 文豪 夏目漱石／第五章 夏目漱石の書画作品／第六章 正岡子規の書画作品／年譜／漱石の「愚」（北山正迪）／子規 戯れと楽しみ（和田茂樹）／出展リスト／協力者
30. 『第32回特別企画展 「子規と写生文」』 1995年10月24日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：文章への関心／写生文と「山会」／写生文派の人びと／年譜／山会リスト／企画解説／出展目録
31. 『第33回特別企画展 「佐幕派の子弟たち——少年子規の決断」』 1996年4月23日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：1 明教館と儒者／2 明治の息吹／3 子規と学問／4 立身出世—松山中学只虚名／企画解説／近大教育年譜／出展総目録
32. 『第34回特別企画展 「来松二〇〇年 小林一茶と寛政紀行」』 1996年10月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 「寛政七年紀行」／II 一茶と樗堂／III 一茶とその作品／「座敷行脚」一茶（矢羽勝幸）／企画解説／一茶年譜／出展総目録
33. 『第35回特別企画展 「藤野古白 異才の夭折」』 1997年4月20日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I その死より／II 子規とともに／III 早稲田派の文人として／IV 明治の陰画／古白年譜／企画解説／母宛て遺書読み下し／「自殺之弁」読み下し／出展総目録／協力者リスト
34. 『第三十七回特別企画展 「子規と詩歌」』 1998年4月21日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 子規文学の革新／II 近代詩歌の成立と子規／III 子規の詩歌／企画解説／年譜／出典総目録
35. 『第三十八回特別企画展 「子規と日本派の人びと」』 1999年4月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 俳諧の新境地をめざして〈新派俳句と仲間たち／新派俳句結社誕生〉／II 子規庵に集う／III 子規と日本派の発展／子規庵俳句会・満月会・奥羽百文会の動向／企

画解説／出展総目録

36. 『第四〇回特別企画展 「俳句」の誕生—子規の近代俳句確立—』 2000年4月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 俳諧研究から—芭蕉再評価—／II 仲間と共に—蕪村発見—／III 実作者として／企画解説／年譜／出展総目録
37. 『子規100年祭 in 松山 特別企画展 「ジャーナリスト子規」』 2001年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I ジャーナリズムへの興味／II 新聞人子規／III 従軍記者／IV 「日本新聞社員タリ」／年譜／企画解説／出展総目録
38. 『子規100年祭 in 松山特別企画展 「子規と友人たち」』 2001年4月24日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 同郷の友人たち／II 他郷の友人たち／III 畏友漱石／寄稿「子規と友人たち」／企画解説／出展総目録
39. 『子規100年祭 in 松山特別企画展 「子規の文学」』 2001年7月20日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：手紙・はがきに見る子規／子規の文学〈その源流／子規と旅—芭蕉敬慕—／さまざまな試行／晩年の境地〉／特集 子規庵（東京・根岸）資料一覧
40. 『子規100年祭 in 松山特別企画展 「正岡子規の絵」』 2001年9月15日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：子規肖像／子規の絵／子規を取り巻く人々／絵画に見る子規文学〈一、子規の絵画批評／二、子規と「渡辺のお嬢さん」〉／寄稿「子規の写生画」／企画解説／出展資料リスト／年譜
41. 『第46回特別企画展 「肉筆の復権」～子規・碧梧桐・不折の書～』 2002年7月27日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I いのちをのせて—子規の書—／II 「方法」の展開／III 美の諸相／企画解説／出典総目録
42. 『第47回特別企画展 「子規と故郷」』 2002年10月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 子規を育んだ「松山」／II 青年子規の上京／III 郷党との交流／IV 「松山」への想い／企画解説／年譜／出典総目録
43. 『第48回特別企画展 はて知らず 子規と旅』 2003年7月29日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 子規と旅〈初めての旅／子規上京／無銭旅行／水戸紀行／日光へ／かくれみの一房総旅行—／かけはしの記—木曾旅行—／大磯へ／はて知らずの記—奥羽旅行—〉／II 子規をなぐさめたもの—海外への憧れ—〈初めての海外〉／III 友人・知人たちの

旅／子規の紀行／企画解説／出典総目録

44. 『第四十九回特別企画展 佐藤紅緑 子規門の多彩人』 2004年7月27日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：I 紅緑の風土／II 日本新聞社員として／III 子規との季節—俳人紅緑—／IV 八面六臂の活躍／企画解説／主点総目録

目録

1. 『松山市立子規記念博物館 館蔵資料目録 I』 1984年3月31日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：ごあいさつ／目次／凡例／A 中・近世資料／B 近代資料／C 〈正岡子規関係資料 (1) 〉／正岡子規関係資料 (2) 〉／D その他資料／人名索引

館報

1. 『季刊 子規博だより』
- 1-1. 『季刊 子規博だより』 第1巻第1号 1981年8月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：おもいつくまま〈市民生活と博物館（長谷川迪）／学而時習之不亦説乎（中村時雄）〉／提言〈いま子規に学ぶもの（和田茂樹）〉／子規に生きる 1〈子規会から得たもの（越智二良）／子規と会津八一（森直太郎）〉／博物館あ・ら・かると〈閲覧室地その利用〉／子規博開館——明日へのかけ橋（西原多喜男）／博物館によせて／愚陀佛庵復元①〈間取りを固める（河合勤）〉／子規博ニュース／館蔵資料紹介／読者のページ／友の会通信
- 1-2. 『季刊 子規博だより』 第1巻第2号 1981年12月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真解説（石原誠）／おもいつくまま 2〈子規のサシミ（草間時彦）〉／子規に生きる 2〈「歌よみ」が語る子規文学（弘田義定）／子規の随筆「犬」をめぐって（長谷川孝士）〉／博物館あ・ら・かると〈インストラクター・システム〉／愚陀佛庵復元②〈よみがえる明治（河合勤）〉／館蔵資料紹介 2〈子規漱石の文章論（森正経）〉／子規を考える／団体観覧事始め／子規博ニュース／読者のページ／編集ノート／ミュージアム・ショップ
- 1-3. 『季刊 子規博だより』 第1巻第3号 1982年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真解説（日野正寛）／おもいつくまま 3〈郷土の誇りと明日を創る博物館（加藤有次）〉／子規に生きる 3〈松山を掘りだす博物館（出利夫）〉／松山市立子規記念博物館〈建築と施設（萬家照展 宇高純一）〉／少年子規と受験道場共立学校（古

賀蔵人) / 博物館あ・ら・かると <ミュージアム・ショップ> / 愚陀佛庵復元③ <愚陀佛庵復元こぼればなし (河合勤)> / 館蔵資料紹介 3 <「俳句分類草稿」の意義 (和田茂樹)> / 子規博ニュース / 読売のページ / 編集ノート

1-4. 『季刊 子規博だより』 第2巻第1号 1982年7月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真解説 (森正経) / おもいつくまま 4 <子規と伝統 (馬場あき子)> / 子規に生きる 4 <子規資料を守った人びと (正岡あや) / 格物致知 (中村時雄)> / 開館一周年 / 子規と与謝野鉄幹 (坪内稔典) / 博物館あ・ら・かると <資料の保存> / 研究ノート <河東碧梧桐 (越智武志)> / 館蔵資料紹介 4 <碧梧桐晩年の書 (白田三雅)> / 連載●東京の子規① <久松邸をめぐって (和田克司)> / 子規博ニュース / 編集ノート

1-5. 『季刊 子規博だより』 第2巻第2号 1982年10月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 (林住夫 宝来淑子) / おもいつくまま 5 <強い感銘をうける (小田切進)> / 子規に生きる 5 <久松家と給費生子規 (久松定武 和田茂樹) / 『俳諧史展』に寄せて (尾形仂) / 山頭火についての断想 (大山澄太) / はくぶつかん あ・ら・かると <写真でみる展示室> / 連載●東京の子規② <子規の神田の下宿 (和田克司)> / 館蔵資料紹介 5 <俳諧系統 (日野正寛)> / 研究ノート <伊予の初期俳諧 (森正経)> / 子規博ニュース / 編集ノート

1-6. 『季刊 子規博だより』 第2巻第3号 1983年1月7日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 (林住夫 岸郁男) / おもいつくまま 6 <俳都と賀状有情 (中村時雄)> / 子規に生きる 6 <子規とふるさとの植物 (山本四郎 和田茂樹) / はくぶつかん あ・ら・かると <博物館運営のかなめ> / 別刷付録解説 <子規周辺御人びと「松山市街全図」 (和田茂樹)> / 俳句二十四体と神仙体 (本井英) / 研究ノート <江戸時代の松山俳人 (白田三雅)> / 子規博ニュース / 編集ノート

1-7. 『季刊 子規博だより』 第2巻第4号 1983年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 (林住夫 越智武志) / おもいつくまま 7 <ひと・人・風土 (真鍋博)> / 子規に生きる 7 <開館三年目をむかえて (中村時雄 和田茂樹) / 「松風会」発祥の地 (森元四郎) / はくぶつかん あ・ら・かると <オリエンテーションルーム> / 連載●東京の子規③ <子規上京後の学校 (和田克司)> / 館蔵資料紹介 7 <「月の都」をめぐる三書簡 (宝来淑子)> / 子規博ニュース / 編集ノート

1-8. 『季刊 子規博だより』 第3巻第1号 1983年7月5日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙・常信寺（林住夫）／表紙写真解説（白田三雅）／おもいつくまま 8〈得能路刀さんのこと（村上杏史）〉／子規に生きる 8〈現代博物館の現状と課題（毛利正夫）〉／館蔵資料紹介 8〈山吹の一枝（越智武志）〉／博物館のある街 どうぞ／若者子規 伊香保の抵抗（古賀藏人）／はくぶつかん あ・ら・かると〈学芸活動の多様性〔作業室〕〉／連載●東京の子規 4〈子規と東京大学予備門（和田克司）〉／「子規俳句索引」発行楽屋裏（日野正寛）／子規博ニュース／編集ノート

1-9. 『季刊 子規博だより』 第3巻第2号 1983年10月6日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 9〈子規と信綱（佐佐木幸綱）〉／子規に生きる 8〈1000号後の「ホトトギス」と松山（高浜君子 稲畑汀子 深川正一郎 和田茂樹）〉／連載●東京の子規 5〈子規と第一高等中学校（和田克司）〉／時のうつろい（上） 子規の時間論（越智通敏）／館蔵資料紹介 9〈竹の里歌（石原誠）〉／研究ノート〈長塚節の推敲稿をめぐって（宝来淑子）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-10. 『季刊 子規博だより』 第3巻第3号 1984年1月7日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 10〈子規写生帖と小野竹喬先生（小笠原臣也）〉／子規に生きる 10〈陸羯南の娘として（上）（最上巴 和田茂樹）〉／連載●東京の子規 6〈根岸の子規庵（和田克司）〉／はくぶつかん あ・ら・かると〈学芸活動の拠点〔研究室〕〉／時のうつろい（下） 子規の時間論（越智通敏）／館蔵資料紹介 10〈歌仲間の似顔絵（白田三雅）〉／研究ノート〈長塚節の推敲稿をめぐって（二） —「鍼の如く」—（宝来淑子）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-11. 『季刊 子規博だより』 第3巻第4号 1984年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 11〈墨東・墨西（安嶋彌）〉／子規に生きる 11〈陸羯南の娘として（下）（最上巴 和田茂樹）〉／研究ノート〈城下町松山の成立と発展（森正経）〉／見て・聞いて・話して／はくぶつかん あ・ら・かると〈子規のペンネーム〉／連載●東京の子規 7〈根岸子規庵周辺（和田克司）〉／松山藩主の系譜（伊藤義一）／館蔵資料紹介 11〈松山藩主旧蔵源氏物語五四帖（写本）（石原誠）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-12. 『季刊 子規博だより』 第4巻第1号 1984年7月15日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 12〈俳句分類とコンピューター（久保田正文）〉／子規に生きる 12〈中村草田男と松山（二神傳三郎 牧野龍夫 宮内むさし）〉／新発見・子規の写真／よみがえる記録 子規庵の『燈爐』（古賀藏人）

／はくぶつかん あ・ら・かると〈特集 子規博セミナー〉／館蔵資料紹介 12〈浅井忠の子規にあてた手紙とその生涯（田城武志）〉／研究ノート〈子規漢学の師系（白田三雅）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-13. 『季刊 子規博だより』 第4巻第2号 1984年10月15日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 13〈小林一茶の真蹟の発見（門田協之介）〉／子規に生きる 13〈波郷とその師故郷（森元四郎 五十崎朗 石田武 川口淀村）〉／NHK 特集『四国の選択』に参加して ―文学の辺境を照らす俳句を思いながら―（熊本良悟）／九州における漱石と霽月（足立修平）／正岡子規と浅井忠 ―一通の手紙の原風景―（高橋在久）／研究ノート〈子規と二人の洋画家 浅井忠・中村不折（田城武志）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-14. 『季刊 子規博だより』 第4巻第3号 1985年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 14〈他所者の目に映った松山（登石健三）〉／第4回 子規を考える一日レポート〈審査を終えて（重田英明）／「子規を考える」部会からの報告〉／子規に生きる 14〈波郷とその師故郷（下）（森元四郎 五十崎朗 石田武 川口淀村）〉／〔インタビュー〕今川七郎氏に聞く――研究ノート〈草田男と波郷―松山の生んだ人間探究派―（石原誠）〉／新連載●宮城の子規 1〈仙台周辺の子規（和田克司）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-15. 『季刊 子規博だより』 第4巻第4号 1985年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真及び解説（林住夫）／おもいつくまま 15〈松山人の城下町（小泉政孝）〉／子規に生きる 15〈人間 中村草田男（中村松夫 渡部三千子 竹田郁子 石崎依子 和田茂樹）〉／館蔵資料紹介 13〈夏目漱石の弓削田精一あて書簡（森正経）〉／60年度事業計画 See.Hear.Talk／新連載●宮城の子規 2〈子規と松島（和田克司）〉／研究ノート〈草田男と波郷―松山の生んだ人間探究派（二）―（石原誠）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-16. 『季刊 子規博だより』 第5巻第1号 1985年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま 16〈言葉にあらわれた日米文化の違い（松岡陽子・M）〉／子規記念博物館 ―開館後のあゆみ―（和田茂樹）／子規に生きる 16〈漱石に生きる ―「神井妙験」の道後にて―（村上三島 和田茂樹）〉／子規幼少時の居宅（森正経）／連載●中国の子規 1〈金州訪問に至る通（和田克司）〉／研究ノート〈草田男と波郷―松山の生んだ人間探究派（三）―（石原誠）〉／子規博ニュース／編集ノート／「子規を考える一日」「夏休み子規博こども会」募集

- 1-17. 『季刊 子規博だより』 第5巻第2号 1985年10月3日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
 収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま17〈夏目漱石と住田昇 一松山中学校赴任の事情一（岩城之徳）〉／子規に生きる17〈子規・その時代と精神（久保田正文 和田茂樹）〉／中村草田男論の試み（井本農一）／子規日本派の展開とその位置（村山故郷）／研究ノート〈明治の風景（森正経）〉／子規博ニュース／編集ノート
- 1-18. 『季刊 子規博だより』 第5巻第3号 1986年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
 収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま18〈隠れたる考古学愛好者 安藤正楽を憶う（安藤忠）〉／子規に生きる18〈子規の外輪山 画人浅井忠（高橋在久 和田茂樹）〉／館蔵資料紹介14〈新資料 子規の英文書簡と従軍記者あて書簡（和田茂樹）〉／第5回 子規を考える一日優秀作品紹介／連載●中国の子規2〈子規と柳樹屯（和田克司）〉／子規博ニュース／編集ノート
- 1-19. 『季刊 子規博だより』 第5巻第4号 1986年3月31日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
 収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま19〈子規と一遍上人像（岡野弘彦）〉／子規に生きる19〈松山の藩絵師（石井進 武智圭邑 和田茂樹）〉／松山の藩絵師 松本山月研究ノート 一山月の新たなイメージ（矢野徹志）／連載●中国の子規3〈柳樹屯・金州間（和田克司）〉／研究ノート〈特別企画展調査報告 松本山雪に関する疑問点（宝来淑子）〉／正岡家と城下町松山2〈父・常尚をめぐって（森正経）〉／子規博ニュース／編集ノート
- 1-20. 『季刊 子規博だより』 第6巻第1号 1986年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
 収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま20〈松山行▲子規と麓▲（秋山加代）〉／子規に生きる20〈アララギの茂る家 蕨真と蕨樞堂兄弟（蕨玲子）〉／子規と房総（和田茂樹）／特別寄稿〈長塚節の新資料（大戸三千枝）〉／碧梧桐「三千里」の旅（栗田靖）／ホトトギス考（小泉道）／正岡家と城下町松山3〈子規とその家系（1）（森正経）〉／研究ノート〈子規と芭蕉・蕪村（1）（石原誠）〉／子規博ニュース／編集ノート
- 1-21. 『季刊 子規博だより』 第6巻第2号 1986年10月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
 収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま21〈病苦の子規（天岸太郎）〉／子規に生きる21〈虚子の思い出（村上杏史 和田茂樹）〉／まぶたに残る子規の遺品 一母八重の松山への贈り物一（古賀蔵人）／子規と外国（佐藤和夫）／Summer Vacation ◆アルバム 子規博こども会／研究ノート〈子規と芭蕉・蕪村（2）（石原誠）〉／子

規博ニュース／編集ノート／開館五周年記念事業ご案内

- 1-22. 『季刊 子規博だより』 第6巻第3号 1987年2月28日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま 22〈記念写真の謎（越智二良）〉／俳句の国際化と松山 特集〈日本の詩歌（大岡信）／松山と俳句（草間時彦）／俳句の国際化（佐藤和夫）／外国人と俳句（D・キーン）／談話会 俳句の国際化に関する今後の課題〉／子規・漱石兩人一基句碑（和田茂樹）／長塚節の新資料（二）（大戸三千枝）／正岡家と城下町松山 4〈子規とその家系（二）（森正経）〉／正岡子規俳句短歌の植物 1（日野正寛）／子規博ニュース／編集ノート
- 1-23. 『季刊 子規博だより』 第6巻第4号 1987年3月31日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 23〈県民文化会館の緞帳「椿の園」（西田春善）〉／子規に生きる 22〈自由律俳句と井泉水（大山澄太 和田茂樹）〉／荻原井泉水の俳論（瓜生敏一）／連載●中国の子規 4〈金州 南門（和田克司）〉／研究ノート〈井泉水と子規（田城武志）／正岡子規俳句短歌の植物 2（日野正寛）〉／子規博ニュース／編集ノート
- 1-24. 『季刊 子規博だより』 第7巻第1号 1987年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 24〈緑あふれる街を（本沢宏）〉／子規に生きる 23〈虚子とつる女と私（今井千鶴子 和田茂樹）〉／記憶と血からの自由 — 漱石「こころ」の妻について—（渥見秀夫）／研究ノート〈荻原井泉水と子規 — 二人の「愛桜子」—（田城武志）〉／連載●中国の子規 5〈金州 東門（和田克司）〉／正岡子規俳句短歌の植物 3（日野正寛）／子規博ニュース／編集ノート／子規顕彰全国俳句大会募集／子規を考える一日募集
- 1-25. 『季刊 子規博だより』 第7巻第2号 1987年10月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 25〈なま身のこころ（岡部伊都子）〉／子規に生きる 24〈拓川・「忠恕」の美学（蒲池文雄 和田茂樹）〉／連載●中国の子規 6〈金州 北門（和田克司）〉／拓川・羯南と近代明治（島津豊幸）／加藤家と正岡家 ①〈拓川とその家族（上）（宝来淑子）〉／正岡子規俳句短歌の植物 4（日野正寛）／子規博ニュース／ルポ・夏休み子規博こども会／編集ノート
- 1-26. 『季刊 子規博だより』 第7巻第3号 1988年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：表紙写真（田城武志）／おもいつくまま 26〈にせ坊っちゃん、松山へ（夏目房之介）〉／子規に生きる 25〈プロレタリア俳句の原点（瓜生敏一 和田茂樹）〉／“村

上霽月翁の転和吟” 管見（中川貴好）／連載●中国の子規 7〈金州 北門外と西門（和田克司）〉／館蔵資料紹介 15〈「松風会句稿」（和田茂樹）〉／加藤家と正岡家②〈拓川とその家族（下）（宝来淑子）〉／子規博ニュース／編集ノート

1-27. 『季刊 子規博だより』 第7巻第4号 1988年3月31日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 27〈松山のこと父のこと（品川嘉也）〉／子規に生きる 26〈「南無阿弥陀仏」と「糸瓜仏」——遍上人と子規居士——（越智通敏 和田茂樹）〉／蕨真一郎宛長塚節葉書十四葉（大戸三千枝）／連載●中国の子規 8〈金州 南門城樓（和田克司）〉／研究ノート〈遊行と定着のはざままで——文化現象としての「一遍」——（森正経）〉／正岡子規俳句短歌の植物 5（日野正寛）／子規博ニュース／編集ノート

1-28. 『季刊 子規博だより』 第8巻第1号 1988年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 28〈子規の俳句観（西崎清久）〉／子規と南山閣（永野孫柳）／連載●中国の子規 9〈金州 関帝廟と講師廟（和田克司）〉／特別寄稿〈子規と南伊予の人々（白田三雅）〉／第17回特別企画展記念特別寄稿〈一遍の和歌（田村憲治）〉／研究ノート〈遊行と定着のはざままで 2——文化現象としての「一遍」——（森正経）〉／正岡子規俳句短歌の植物 6（日野正寛）／子規の母 八重（渡部直子）／子規を考える 1日作品募集欄／子規博ニュース／編集ノート

1-29. 『季刊 子規博だより』 第8巻第2号 1988年10月5日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま〈蔵沢墨竹と子規の絵（石井南放）〉／子規に生きる 27〈中世文芸の一視点（白方勝 和田茂樹）〉／西の連歌圏 九州・中国・四国（金子金治郎）／子規山脈（山本健吉）／連載●中国の子規 10〈金州 山東会館（和田克司）〉／連歌 子規拾遺／THE RENGA?／子規博ニュース／編集ノート

1-30. 『季刊 子規博だより』 第8巻第3号 1989年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま 30〈深くこの生を愛す（平井亀雄）〉／子規に生きる 28〈革新のエネルギー（白方勝 和田茂樹）〉／連載●中国の子規 11〈金州 北郊（和田克司）〉／特別寄稿〈正岡子規と南伊予の人びと（承前）（白田三雅）〉／研究ノート〈花の下連歌（石丸耕一）〉／子規における俳句と短歌（宮地伸一）／正岡子規俳句短歌の植物 7（日野正寛）／子規博ニュース／編集ノート

1-31. 『季刊 子規博だより』 第8巻第4号 1989年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（石原誠）／おもいつくまま〈市制 100周年と子規（越智二良）〉／

特集 一市制百周年記念特別企画展より一〈松山俳壇百年の群像／松高俳句から愛大俳句へ（高橋信之）〉／研究ノート〈松山俳壇百年史 松風会から松高俳句へ（田城武志）〉／子規に生きる 29〈松高俳句会の思い出（前）（大野岬歩 和田茂樹）〉／連載 ●中国の子規 12〈徳富蘇峰の「金州瞥見」（和田克司）〉／子規博かわら板／表紙写真散歩

1-32. 『季刊 子規博だより』 第9巻第1号 1989年6月27日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 道後温泉駅／おもいつくまま〈故郷行（徳永山冬子）〉／特集 みんなあつまれ！〈「俳句」と“HAIKU”ほか〉／「四国文学」（潮崎月穂）／研究レポート〈子規全集未掲載資料（和田茂樹）〉／子規に生きる 30〈松高俳句会の思い出（後）（大野岬歩 和田茂樹）〉／連載●中国の子規 13〈国民新聞に報ぜられた金州（和田克司）〉／子規博かわら板／表紙写真散歩

1-33. 『季刊 子規博だより』 第9巻第2号 1989年10月5日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 大街道／おもいつくまま〈俳句ドラマ（早坂暁）〉／特集 久女と四国（石昌子）／レポート〈左千夫の手紙（1）（大戸三千枝）〉／市制百周年特別企画〈子規当時の松山風景（和田克司）〉／第20回特別企画展一応募作品一 最優秀作品発表「こどもの俳句入り絵画」／研究ノート〈子規—西洋・江戸（森正経）〉／子規博かわら板／表紙写真散歩

1-34. 『季刊 子規博だより』 第9巻第3号 1990年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 道後湯之町／おもいつくまま 34〈俳句とわたし（青木雨彦）〉／特別寄稿〈子規・漱石とニッケル時計（古賀蔵人）〉／第20回特別企画展 「俳句とHAIKU」談話会〈世界にひろがる俳句（佐藤和夫 子規博ボランティア講座）〉／連載●中国の子規 14〈子規と旅順（和田克司）〉／研究ノート〈子規—西洋・江戸（二）（森正経）〉／正岡子規俳句短歌の植物（日野正寛）／子規博かわら板／表紙写真解説

1-35. 『季刊 子規博だより』 第9巻第4号 1990年3月31日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 堀端と松山城／おもいつくまま〈ゆめ（加藤慶二）〉／連載●中国の子規 15〈子規と旅順の砲台（和田克司）〉／子規に生きる 31〈いとこの多し桃の花（服部嘉修）〉／正岡家系 判明した系譜／研究ノート〈「正岡家系」の新事実（宝来淑子）〉／正岡家と城下町松山 5〈子規とその家系（三）（森正経）〉／子規博かわら板／表紙写真散歩

1-36. 『季刊 子規博だより』 第10巻第1号 1990年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 子規記念博物館（林住夫）／おもいつくまま〈地域博物館一本音と建前論—（新井重三）〉／子規に生きる 32〈地方からの発信（篠崎圭介 和田茂樹）〉／《新資料》左千夫の手紙—その 2—〈篠原志都児・蕨樞堂宛左千夫書簡（大戸三千枝）〉／はくぶつかんあらかると●子規博 10 年〈特別企画展〉／研究レポート〈中学生子規の戯名作品発見（和田茂樹）〉／正岡家と城下町松山 6〈子規とその家系（四）（森正経）〉／子規博かわら板／子規博 10 年

1-37. 『季刊 子規博だより』 第 10 巻第 2 号 1990 年 10 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 正面玄関（林住夫）／おもいつくまま〈俳句のまち（池田尚郷）〉／夏！元気かい！／子規に生きる 33〈「東京上根岸ニ住ム」—子規庵コノ地ニ永遠ナレ—（沢田正造）〉／根岸見て歩き（伊藤彰規）／東京根岸地図／特別寄稿〈子規庵をめぐって（和田克司）〉／研究ノート〈子規と根岸（一）（森正経）〉／子規博かわら板／子規博 10 年

1-38. 『季刊 子規博だより』 第 10 巻第 3 号 1991 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真 道後より市内遠望（林住夫）／ごあいさつ（中村時雄）／おもいつくまま〈子規記念博物館十年に寄せて（稲畑汀子）〉／子規博十年に寄せて（草間時彦）／「子規年譜」との対話（古賀藏人）／私の学んだ二つのこと（槌谷弥生）／子規記念博物館創立十周年に当って（濱口喜太郎）／HAIKU との出会い（ルース・バージン）／子規にまつわることども（明比文治）／慶祝（小田切進）／「場の記念性」について（出利夫）／子規に生きる 34〈子規博開館 10 周年記念座談会（緒方義彦 鳥谷照雄 栗林栄 宍戸真喜子 田中勝利 毛利極美 森華 和田茂樹 日野正寛）〉／はくぶつかんあらかると●子規博 10 年〈子規を考える一日〉／年年歳歳◇子規博思い出のアルバム／子規博だより総目次／子規博出版物在庫数／子規博 10 年間の統計／編集後記／子規博かわら版／講座のご案内／「御題新年梅」

1-39. 『季刊 子規博だより』 第 10 巻第 4 号 1991 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：表紙写真（林住夫）／おもいつくまま〈花とホトトギス（森川国康）〉／子規に生きる 35〈吾生はへちまのつるの行き処 —極堂を語る—（三井清 武智圭邑 二神ヒサ 和田茂樹）〉／松山子規会の草創期（和田茂樹）／はくぶつかん・あ・ら・かると〈資料収集〉／研究ノート〈極堂・子規の交友（一）（伊藤彰規）〉／正岡子規俳句短歌の植物（日野正寛）／喫茶去／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと

1-40. 『季刊 子規博だより』 第 11 巻第 1 号 1991 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 40〈それぞれの花を咲かせよう（井伊磯子）〉／一座建立（田

- 中誠一) / 子規に生きる 36 <子規の教育学 (長谷川孝士) / はくぶつかん・あ・ら・かると <ディスプレイ / 館蔵資料紹介 16 <子規最後の旅 (森正経) / 研究ノート <極堂・子規の交友 (二) (伊藤彰規) / 正岡子規俳句短歌の植物 (日野正寛) / 表紙写真解説 (林住夫) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと
- 1-41. 『季刊 子規博だより』 第 11 巻第 2 号 1991 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：おもいつくまま 41 <大森彦七のこと (新井孝重) / 子規に生きる 37 <父・茂吉の思い出 (齋藤茂太 齋藤美智子) / はくぶつかん・あ・ら・かると <博物館実習 / 子規 50 年祭と安倍能成先生のこと (正岡浩) / 特別寄稿 <子規と茂吉と私 (鈴木啓蔵) / 研究ノート <子規から茂吉へ継がれたもの —茂吉の子規論から— (宝来淑子) / 表紙写真解説 (林住夫) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと
- 1-42. 『季刊 子規博だより』 第 11 巻第 3 号 1992 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：おもいつくまま 42 <美学とナショナリズム (大野岬歩) / 子規に生きる 38 <自由民権運動と子規 (岡林清水) / はくぶつかん・あ・ら・かると <観覧者 / 特別寄稿 <子規博ただいま改装中 (出利夫) / 秋山好古・真之兄弟のこと (正岡浩) / 子規博トピックス / 研究ノート <子規・「写生」の周辺 (森正経) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと
- 1-43. 『季刊 子規博だより』 第 11 巻第 4 号 1992 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：おもいつくまま <俳句礼讃 (須貝俊司) / 子規に生きる 39 <光風霽月一父を語る— (村上寿子 足立修平 足立達子 村上日南子 三由孝太郎) / 特別企画展によせて <道徳経済に生きた村上半太郎 (井上久) / 祖母・加藤ひさのこと (正岡浩) / 茂吉随想 (松尾靖秋) / シリーズ●藤野三兄弟 <三兄弟の生いたち (服部嘉修) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内
- 1-44. 『季刊 子規博だより』 第 12 巻第 1 号 1992 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
収録：おもいつくまま 44 <仕事を通して教わった子規 (栗田博行) / 子規に生きる 40 <「五七五の地球儀」異聞 (新名英司 高木貞重 山路健) / 研究ノート <霽月の転輪吟をめぐる (石丸耕一) / 祖父、加藤拓川のこと (正岡浩) / 館蔵資料紹介 17 <子規と老宗匠 (森正経) / シリーズ●藤野三兄弟 <三兄弟の生いたち (二) (服部嘉修) / 表紙写真解説 (林住夫) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと
- 1-45. 『季刊 子規博だより』 第 12 巻第 2 号 1992 年 9 月 25 日 編集・発行：松山

市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま〈国際化時代と小唄（奥島孝康）〉／子規に生きる 41〈為山と子規（鴻池楽斎 和田茂樹）〉／研究ノート〈詩趣味から俳趣味へ（伊藤彰規）〉／父、忠三郎のこと（正岡浩）／光芒を放った人びとの系譜（一）〈井上正夫と森律子 丸山定夫と伊丹万作（出利夫）〉／喫茶去・博物館実習を終えて／子規博かわら板／講座乃御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-46. 『季刊 子規博だより』 第12巻第3号 1993年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 46〈短詩型文学研究所のすすめ（有馬朗人）〉／子規に生きる 42〈女性と生涯学習（永井ユリエ 和田茂樹）〉／光芒を放った人びとの系譜（二）〈井上正夫と森律子 丸山定夫と伊丹万作（出利夫）〉／館蔵資料紹介 18〈青年 勝田圭計の日記（石丸耕一）〉／シリーズ●藤野三兄弟 3〈新制軍隊の初陣と長州征伐（服部嘉修）〉／父と朝比奈隆さんのことなど（正岡浩）／研究ノート〈文学と美術（一）（森正経）〉／喫茶去／子規博かわら板／講座の御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-47. 『季刊 子規博だより』 第12巻第4号 1993年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 47〈子規・主計分写「衛生生理学」（多田井喜生）〉／子規に生きる 43〈「常盤会寄宿舎の仲間たち ～子規から現代へ～」（増田忠彦）〉／特別寄稿〈明治を継ぐ「常盤学舎」（平松昇 鈴木孝裕）〉／光芒を放った人びとの系譜（三）〈井上正夫と森律子 丸山定夫と伊丹万作（出利夫）〉／母・正岡あやのこと（正岡浩）／研究ノート〈子規と常盤会寄宿舎（上）「雪の間」と「内閣編集局」（宝来淑子）〉／子規博トピックス〈新・映像システム〉／子規博かわら板／講座の案内／表紙（林住夫）

1-48. 『季刊 子規博だより』 第13巻第1号 1993年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 48〈新しい芭蕉とのめぐりあい（今栄蔵）〉／子規に生きる 44〈「子規と祖父一順」（天岸太郎 和田茂樹）〉／特別寄稿〈芥川龍之介と子規を結ぶ糸（古賀蔵人）〉／母と叔父たちと戦争のこと（正岡浩）／光芒を放った人びとの系譜（四）〈井上正夫と森律子 丸山定夫と伊丹万作（出利夫）〉／研究ノート〈子規と常盤会寄宿舎（下）（宝来淑子）〉／喫茶去／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-49. 『季刊 子規博だより』 第13巻第2号 1993年9月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 49〈陸奥の詩人と絵と記念碑と（村田慶之輔）〉／子規に生きる 45〈「岡麓の思い出」（岡廣志 大野一郎 中島千代 太田正文 根尾幸子 秋山加

- 代 小澤とみ江 神山源子) / 特別寄稿 (追慕 岡麓先生 (太田正文)) / 少年自体の想い出と旧海軍兵学校 (正岡浩) / 研究ノート (子規と麓との対話 (服部嘉修)) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと / 表紙写真解説 (林住夫)
- 1-50. 『季刊 子規博だより』 第13巻第3号 1994年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
- 収録：おもいつくまま (雑煮のこと (小谷稔)) / 子規に生きる 46 (俳句で読む子規の生涯 (山下一海 和田茂樹)) / 特別企画展「歌人岡麓」記念講演要旨 (正岡子規と岡麓 (秋山加代)) / 父と田実渉さんのこと (正岡浩) / 松山の文学黎明期 (和田茂樹) / シリーズ●藤野三兄弟 5 (服部嘉修) / 天皇皇后両陛下をお迎えして (和田茂樹) / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / 天皇皇后両陛下来館スナップ (林住夫)
- 1-51. 『季刊 子規博だより』 第13巻第4号 1994年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
- 収録：おもいつくまま 51 (寒山と拾得 (半藤一利)) / 子規に生きる 47 (「子規庵の日々、その後」 (寒川真佐子 進士トヨ子 寒川知佳子)) / 特別寄稿 (開館10周年回顧と展望 (加藤有次)) / 祖父、野上俊夫のこと (正岡浩) / 特別寄稿 (子規居士と鼠骨師 (大嶋誠之介)) / 館蔵資料紹介 19 (子規の五百木飄亭あて書簡 (和田茂樹)) / 博物館の横軸思考 (日野正寛) / 研究ノート (新聞記者 寒川鼠骨 (森正経)) / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと / 表紙写真解説 (林住夫)
- 1-52. 『季刊 子規博だより』 第14巻第1号 1994年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
- 収録：おもいつくまま 52 (事実と真実の間 (新藤兼人)) / 子規に生きる 48 (「坊っちゃん」気分 (夏目房之介)) / 特別寄稿 (子規・露伴の出会いを見直す — 「月の都」の出版を春陽堂が内諾 — (古賀蔵人)) / みんな集まれ！ 子規を考える一日 募集あんない / シリーズ●藤野三兄弟 6 (藩政改革後の三兄弟の足跡 (服部嘉修)) / 「道後温泉百年祭」に出席して (正岡浩) / 館蔵資料紹介 20・21 (子規の五百木飄亭あて書簡 (二) (和田茂樹) / 鼠骨記「律子刀自病床覚」 (森正経)) / 子規博かわら板 / 講座乃御案内 / 表紙写真解説 (林住夫)
- 1-53. 『季刊 子規博だより』 第14巻第2号 1994年9月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館
- 収録：おもいつくまま 53 (湯岡碑文と赤人の謎 (中小路駿逸)) / 子規に生きる 49 (「本館百年湯けむり談義」 (島崎有三 新山和臣 和田茂樹)) / 特別寄稿 (道後温泉本館建築秘話 (河合勤)) / 館蔵資料紹介 (下村為山の柳原極堂あて書簡 (和田茂樹)) / 研究ノート (江戸時代の道後温泉とその信仰 (石丸耕一)) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 講座の御案内 / へんしうのおと / 表紙写真解説 (林住夫)
- 1-54. 『季刊 子規博だより』 第14巻第3号 1995年1月1日 編集・発行：松山

市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 54 〈中国の女文字（遠藤織枝）〉／子規に生きる 50 〈正岡子規と大江健三郎 一のぼるのくにの住人の検証—（長谷川孝士）〉／特別寄稿〈伊予温湯記の周辺（小島憲之）〉／シリーズ●藤野三兄弟 7 〈藩政改革後の三兄弟の足跡（服部嘉修）〉／叔母・ユスティシアのこと（正岡浩）／特別企画展「伊予の湯」記念講演要旨〈伊予の湯 今昔（和田茂樹）〉／子規博かわら板／講座のご案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-55. 『季刊 子規博だより』 第 14 巻第 4 号 1995 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 55 〈ロンドンと漱石（伴野朗）〉／子規に生きる 51 〈「漱石とわが松山」（浦屋薫 桜井武男 渡部満泰）〉／特別寄稿〈漱石と子規・松山—松山はロンドン・説—（平岡敏夫）〉／“阪神大震災”を体験して（正岡浩）／シリーズ●藤野三兄弟 8 〈嘉陳の帰郷と子規と古白（服部嘉修）〉／館蔵資料紹介〈夏目漱石の正岡子規あて書簡（都築和可子）〉／研究ノート〈漱石と子規—書簡に託した交友—（伊藤彰規）〉／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-56. 『季刊 子規博だより』 第 15 巻第 1 号 1995 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 56 〈俳句と私（大石慎三郎）〉／子規に生きる 52 〈松山から熊本へ—漱石と子規 愚陀佛庵 100 年—（桜田清美 西田光子 小崎至）〉／特別寄稿〈子規居士と松山の野球（大嶋誠之介）〉／司馬先生御夫妻と母のこと（正岡浩）／館蔵資料紹介 24 〈正岡子規の河東碧梧桐あて書簡（石丸耕一）〉／子規・清国の足跡を訪ねて 1（池内央）／研究ノート〈文学と美術（二）（森正経）〉／喫茶去／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-57. 『季刊 子規博だより』 第 15 巻第 2 号 1995 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 57 〈「心のすれ違い」（石津定雄）〉／子規に生きる 53 〈文の冒険としての写生文（上）（十川信介 金井恵子）〉／特別寄稿〈子規と写生文—文章表現革新への情熱—（長谷川孝士）〉／館蔵資料紹介 25 〈子規の加藤拓川あて書簡（伊藤彰規）〉／子規・清国の足跡を訪ねて 2（池内央）／研究ノート〈文章革新への胎動（宝来淑子）〉／戦後 50 年目の夏に思うこと（正岡浩）／博物館実習日誌／子規博かわら板／講座乃御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-58. 『季刊 子規博だより』 第 15 巻第 3 号 1996 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 58 〈一寸見せたかったと思う物（塚本学）〉／子規に生きる 54 〈「文の冒険としての写生文（下）」（十川信介 金井恵子）〉／特別寄稿〈子規・明治

二十六年のしぐれ（山下一海）／ヨーロッパの大晦（正岡浩）／子規・清国の足跡を訪ねて（池内央）／館蔵資料紹介 26〈子規の河東碧梧桐あて書簡（宝来淑子）／研究ノート〈文学と美術（三）（森正経）〉／喫茶去／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-59.『季刊 子規博だより』 第15巻第4号 1996年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 59〈可能性に挑んで道を拓く ―少年正岡子規と学友たち―（影山昇）／子規に生きる 55〈「松山における教育の黎明」―幕末から明治初期にかけて―（景浦勉 高須賀康生 和田茂樹）／司馬遼太郎さんの思い出（正岡浩）／子規・清国の足跡を訪ねて 4（池内央）／特別寄稿〈愛媛近代教育の確立へ ―鳴雪と子規―（和田茂樹）／館蔵資料紹介 27〈三並良の子規あて書簡（森正経）〉／研究ノート〈子規を動かす力 ―羨望の中に潜む自己投影―（都築和可子）／子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-60.『季刊 子規博だより』 第16巻第1号 1996年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 60〈子規を偲ぶ（正宗禅寺にて）（渡邊百恵）／ごあいさつ（長谷川孝士 和田茂樹）／子規に生きる 56〈鼎談「はがき歌」雑感（仲川たけし 中本幸子 長谷川孝士）／子規・清国の足跡を訪ねて 5 ―上陸第一夜を中国人と同宿―（池内央）／去年の子規忌に優勝したブルーウェーブ（正岡浩）／特別寄稿〈さわがしき晩年よりひとつ二つ（一柳喜久子）／館蔵資料紹介 28〈古島一念あて子規書簡明治35年5月（森正経）〉／子規博かわら板／みんな集まれ！／講座乃御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-61.『季刊 子規博だより』 第16巻第2号 1996年9月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 61〈ニューヨークの財布（青木怜子）／子規に生きる 57〈伊予の一茶を考える（和田茂樹 美山靖 長谷川孝士）／特別寄稿〈西行行脚時代の一茶（矢羽勝幸）／「早慶六連戦」と安藤元博とうしゅのこと（正岡浩）／子規・清国の足跡を訪ねて 6（池内央）／館蔵資料紹介 29〈秋山真之の子規あて書簡（石丸耕一）／研究ノート〈一茶再来（伊藤彰規）／子規博かわら板／講座乃御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-62.『季刊 子規博だより』 第16巻第3号 1997年1月1日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 62〈“ねずみの巣”の中の一茶（門田圭三）／子規に生きる 58〈子供たちの表現力を伸ばす法（神野昭 山高吉仁 堀田優子 長谷川孝士）／第34回特別企画展 記念講演要旨〈一茶 一人と文学―（矢羽勝幸）／特別寄稿〈西

行脚時代の一茶（二）（矢羽勝幸）／我が母校の先生たちと仇名のこと（正岡浩）
／館蔵資料紹介 30〈藤野古白の子規あて書簡（渡部光一郎）〉／シリーズ●藤野三兄弟 9〈嘉陳の晩年と古白の死（服部嘉修）〉／正岡子規 俳句の動物①（日野正寛）／
子規博かわら板／講座の御案内／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-63.『季刊 子規博だより』 第 16 巻第 4 号 1997 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 63〈子規山脈と松山の人々（中村稔）〉／子規に生きる 59〈火焰を包みたる氷の如し（和田茂樹 長谷川孝士）〉／特別寄稿〈古白と早稲田派（一條孝夫）〉／シリーズ●藤野三兄弟 10〈藤野漸の人柄と実像（服部嘉修）〉／父の友人達の愉快な話（正岡浩）／研究ノート〈厭世家にはあらず 「戯曲」戦争より（渡部光一郎）〉／館蔵資料紹介 31〈武知五友筆「白鹿洞書院揭示」（都築和可子）〉／子規博かわら板／講座乃御案内／表紙写真解説（林住夫）

1-64.『季刊 子規博だより』 第 17 巻第 1 号 1997 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 64〈新聞の鬼—正岡子規（松下功）〉／子規に生きる 60〈従軍記者 子規 学芸記者の目 文学者の目（池内央 長谷川孝士）〉／特別寄稿〈「子規恋い哲学僧」（喜田重行）〉／館蔵資料紹介 32〈子規の大原恒徳あて書簡（石丸耕一）〉／シリーズ●藤野三兄弟 11〈藤野漸と謡曲の普及（服部嘉修）〉／「昭和三十年代」をふりかえって（正岡浩）／正岡子規 俳句の動物②（日野正寛）／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-65.『季刊 子規博だより』 第 17 巻第 2 号 1997 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 65〈子規によりて（中島千波）〉／子規に生きる 61〈司馬遷に遼か及ばず 司馬遼太郎への想い（石浜典夫 長谷川孝士）〉／特別寄稿〈梯田と熱烈歓迎 司馬遼太郎と「構原街道」（藤谷宏樹）〉／研究ノート〈司馬遼太郎の子規像（石丸耕一）〉／館蔵資料紹介 33〈正岡子規画「玩具帖」（大石和可子）〉／「司馬遼太郎氏と太平洋戦争のこと」（正岡浩）／正岡子規 俳句の動物③（日野正寛）／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-66.『季刊 子規博だより』 第 17 巻第 3 号 1998 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま〈「来さいや」（山下泰子）〉／子規に生きる 62〈一粒の金—地域文化の掘り起こし—（白方勝 長谷川孝士）〉／特別寄稿〈断絶と持続（玉井清弘）〉／はくぶつかん・あ・ら・かると〈図録を作る（大石和可子）〉／学生時代の思い出と二人の女性（正岡浩）／研究ノート〈文学と美術（森正経）〉／館蔵資料紹介〈子規のガラス乾版写真—明治 24 年 3 月 27 日—（金子紘也）〉／喫茶去／子規博かわら板／

告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-67. 『季刊 子規博だより』 第 17 巻第 4 号 1998 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 67 〈虚子の自然保護（西田實）〉／子規に生きる 63 〈子規新体詩の魅力（図子英雄 長谷川孝士）〉／京都の「知られざる英才教育」（正岡浩）／特別寄稿〈「子規の新体詩」（宮坂静生）〉／館蔵資料紹介〈子規の夏目漱石あて書簡 一明治 31 年 3 月 28 日一（渡部光一郎）〉／研究ノート〈連鎖する文学 俳句・新体詩・短歌（大石和可子）〉／はくぶつかん・あ・ら・かると〈空調について（石丸耕一）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-68. 『季刊 子規博だより』 第 18 巻第 1 号 1998 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 68 〈北極点単独徒歩から一年（河野兵市）〉／子規に生きる 64 〈転機の波紋（前） 時代が求めた人間 子規（岩橋勝 内田九州男 長谷川孝士）〉／32 年前の航空機事故のこと（正岡浩）／特別寄稿〈近世伊予の文化的風土と俳諧 一子規の俳句革新前史一（松井忍）〉／館蔵資料紹介 36 『万家人名録』（石丸耕一）／子規山脈事典（金子紘也）／正岡家と城下町松山 7 〈父隼太御馬廻加番タリ（森正経）〉／子規の見た明治 1 〈日光東照宮（大石和可子）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-69. 『季刊 子規博だより』 第 18 巻第 2 号 1998 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 69 〈心を求めて～喜びと感動の空間から～（山崎泰）〉／子規に生きる 65 〈転機の波紋（後） 時代が求めた人間 子規（岩橋勝 内田九州男 長谷川孝士）〉／子規の妹・律のこと（正岡浩）／特別寄稿〈連想と写生一子規の俳句現場（坪内稔典）〉／館蔵資料紹介 37 〈高浜虚子の子規あて書簡 一明治 28 年 12 月 15 日一（大石和可子）〉／子規山脈事典（渡部光一郎）／研究ノート〈常盤会と松山同郷会（石丸耕一）〉／子規の見た明治 2 〈日光山（金子紘也）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-70. 『季刊 子規博だより』 第 18 巻第 3 号 1999 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 70 〈子規・蕪村・芭蕉（山折哲雄）〉／子規に生きる 66 〈情報の発信と受信 一子規 100 年に向けて一（和田克司 長谷川孝士）〉／一鉄道ファンの思い出（正岡浩）／子規の「韻さぐり」 一現代詩の現場から一（堀内統義）／子規山脈事典 其三（石丸耕一）／館蔵資料紹介 38 〈下村為山の子規あて書簡 一明治 27 年 9 月 29 日一（金子紘也）〉／子規の見た明治 3 〈伊香保温泉・榛名山（大林正典）〉／研究ノート〈森田義郎という人（渡部光一郎）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板

／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-71. 『季刊 子規博だより』 第 18 巻第 4 号 1999 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 71 〈講談社版『子規全集』企画前夜（村上護）／子規に生きる 67 〈松山が好き！ 子規が好き！（大西貢 田中誠一 長谷川孝士）／特別寄稿 〈子規と露月（石田冲秋）／館蔵資料紹介 39 〈子規の松瀬青々あて書簡 一明治 32 年 7 月 30 日一（渡部光一郎）／母と桑原・今西先生のことなど（正岡浩）／研究ノート 〈「日本派」の成立（金子紘也）／子規の見た明治 4 〈大津（石丸耕一）／はくぶつかん・あ・ら・かると 〈常設展示について（渡部光一郎）／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／表紙写真解説（林住夫）

1-72. 『季刊 子規博だより』 第 19 巻第 1 号 1999 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 72 〈子規の恩恵（永野浩）／子規に生きる 68 〈子規・秋山兄弟と私たち 一『坂の上の雲』にみる明治の青春群像一（仲川直美 日野智子 青山敬明 松下愛子 長谷川孝士）／父と中原中也のことなど（正岡浩）／特別寄稿『子規全集』落穂ひろい（駒井皓二）[1. 岡倉天心と子規／2. 興津転居断念の傷心]／館蔵資料紹介 40 〈正岡八重の子規あて書簡 一明治 19 年 5 月 2 日一（大石和可子）／子規の見た明治 5 〈巖島・尾道（渡部光一郎）／子規山脈事典 其四（大林正典）／研究ノート 〈『坂の上の雲』における子規、真之（石丸耕一）／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-73. 『季刊 子規博だより』 第 19 巻第 2 号 1999 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 73 〈松山歌人会のあゆみ（三好けい子）／子規に生きる 69 〈表現と教育（竹田美喜 長谷川孝士）／子規山脈事典 其五（渡部光一郎）／特別寄稿 〈子規俳句の数詞のおもしろさ（河野裕子）／館蔵資料紹介 41 〈水落露石の子規あて書簡 一明治 27 年 2 月 25 日一（金子紘也）／子規の見た明治 6 〈岡山・後樂園（大林正典）／特別企画展講演録『坂の上の雲』が語りかけるもの（上）（谷沢永一）／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-74. 『季刊 子規博だより』 第 19 巻第 3 号 2000 年 1 月 1 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 74 〈茂吉、重治、子規を結ぶもの（田井安曇）／子規に生きる 70 〈子規の生命（喜田重行 長谷川孝士）／佐藤紅緑と次男・節氏のこと（正岡浩）／子規山脈事典 其六（石丸耕一）／第 39 回特別企画展記録講演録 〈「坂の上の雲」が語りかけるもの（下）（谷沢永一）／研究ノート 〈子規・岡山旅行の真相（大石和可子）／館蔵資料紹介 42 〈岡野知十の子規あて書簡 一明治 27 年 1 月 3 日一

(渡部光一郎) / 子規の見た明治 7 (金沢・兼六園 (金子紘也)) / 子規博かわら板 / 告知板 / へんしうのおと / しきはくカレンダー

1-75. 『季刊 子規博だより』 第 19 巻第 4 号 2000 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 75 (ミラノで漱石を、俳句と和歌を語り合う (松山巖)) / 子規に生きる 71 (俳都・松山に生きる (篠崎圭介 長谷川孝士)) / 祖父、加藤拓川とその周辺 (正岡明) / 特別寄稿 (俳句革新の動機 (栗津則雄)) / 館蔵資料紹介 43 (海南新聞ノ発兌ヲ賀ス 明治 16 年 2 月ころ (石丸耕一)) / 子規の見た明治 8 (巖島神社の絵馬 (大石和可子)) / 子規山脈事典 其七 (金子紘也) / 研究ノート (「俳句」の誕生 —子規の芭蕉論から— (渡部光一郎)) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 告知板 / へんしうのおと / しきはくカレンダー

1-76. 『季刊 子規博だより』 第 20 巻第 1 号 2000 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 76 (みちはるかなる伊予 (扇畑忠雄)) / 子規に生きる 72 (市民運動としての子規顕彰 (永野武 黒田仁朗 長谷川孝士)) / 加藤拓川とその周辺 —山県有朋の接待— (正岡明) / 特別寄稿 (子規と連俳 (秋尾敏)) / 館蔵資料紹介 44 (大原其戎の子規あて書簡 明治 20 年 9 月 19 日 (金子紘也)) / 子規の見た明治 ⑨ (東京大学予備門 (大石和可子)) / 子規山脈事典其八 (大石和可子) / 研究ノート (明治近代の表現者たち—漱石と子規 (森正経)) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 告知板 / へんしうのおと / しきはくカレンダー

1-77. 『季刊 子規博だより』 第 20 巻第 2 号 2000 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 77 (遊ば。(天野祐吉)) / 子規に生きる 73 (子規と近世文学 (福田安典 長谷川孝士)) / 加藤拓川とその周辺 —西園寺公望翁— (正岡明) / 特別寄稿 (正岡子規と洋画家・浅井忠 (塩川京子)) / 正岡子規 100 年祭記念事業いよいよスタート (前神千草) / 子規の見た明治⑨ (東京 (金子紘也)) / 子規山脈事典其九 (渡部光一郎) / 研究ノート (「俳句」の誕生 (続) (渡部光一郎)) / 喫茶去 / 子規博かわら板 / 告知板 / へんしうのおと / しきはくカレンダー

1-78. 『季刊 子規博だより』 第 20 巻第 3 号 2001 年 2 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 78 (出産を伝えるって難しい (吉村典子)) / 子規に生きる 74 (子規と「国際観光温泉文化都市」松山 (奥村武久)) / 加藤拓川とその周辺 —交友関係の全貌 (その一) — (正岡明) / 特別寄稿 (子規とジャーナリズム精神 —日清戦争をめぐる— (山口侯二)) / 子規山脈事典其拾 (金子紘也) / 館蔵資料紹介 45 (子規の寒川鼠骨あて書簡 —明治 34 年 1 月 15 日— (森正経)) / 研究ノート (子

規と古島一雄（大石和可子）／子規博だより VOL10-4～VOL20-3 バックナンバー
記事一覧／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと

1-79.『季刊 子規博だより』 第20巻第4号 2001年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 79〈青年子規・漱石（水原紫苑）〉／子規に生きる 75〈子規と友人たち（今村威 和田克司 長谷川孝士）〉／祖父、加藤拓川とその周辺 ―交友関係の全貌（その二）―（正岡明）／特別寄稿〈正岡子規の俳句友だち ―河東碧梧桐と高浜虚子を中心に―（夏石番矢）〉／子規100年祭 in 松山開催スケジュール／子規100年祭と市民参加／研究ノート〈河東碧梧桐と中村不折（渡部光一郎）〉／子規山脈事典 其拾壺（大石和可子）／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-80.『季刊 子規博だより』 第21巻第1号 2002年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 80〈元祖「ボールマニア」（渡部融）〉／子規に生きる 76〈子規・碧梧桐・不折の書（菊川國夫 長谷川孝士）〉／子規百年祭によせて（正岡明）／特別寄稿〈子規と現代（栗津則雄）〉／常設展示室に「子規とベースボール」コーナー新設／研究ノート〈河東碧梧桐と中村不折（続）（渡部光一郎）〉／子規山脈事典其拾弍（金子紘也）／子規100年祭 in 松山 事業報告／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-81.『季刊 子規博だより』 第21巻第2号 2002年9月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 81〈「美術と俳句」雑感（原田平作）〉／子規に生きる 77〈子規のふるさと松山（池田洋三 長谷川孝士）〉／子規山脈事典其拾参（大石和可子）／特別寄稿〈子規と松山城（清水正史）〉／館蔵資料紹介 46〈草間時福の河東碧梧桐・高浜虚子あて書簡（渡部光一郎）〉／子規の見た明治11〈松山城（樋口英一）〉／子規の野球殿堂入りレリーフ「子規とベースボール」コーナーに展示／研究ノート〈「新しさ」への探究―ベースボールと文学―（金子紘也）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-82.『季刊 子規博だより』 第21巻第3号 2002年12月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 82〈坂の上の雲を見つめる銅像のはなし（青山淳平）〉／のぼさんとあそぼ。（天野祐吉）／ごあいさつ〈21世紀に生きる正岡子規（長谷川孝士）〉／特別寄稿〈子規の俳句革新の方法 ―子規の俳句と芭蕉の発句―（柴田奈美）〉／館蔵資料紹介 47〈子規の河東碧梧桐あて書簡 ―明治25年6月27日―（金子紘也）〉／子規の見た明治12〈修善寺（中村芳徳）〉／子規山脈事典其拾四（渡部光一郎）／

特別寄稿〈「子規インターネット博物館への道程」 今後の博物館からの情報発信等について（墨岡學）〉／研究ノート〈子規の従軍と仕込杖（大石和可子）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-83. 『季刊 子規博だより』 第21巻第4号 2003年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：おもいつくまま 83〈都市の空気（上村洋行）〉／子規に生きる 78〈人肌の言葉を考える（清水史 天野祐吉）〉／子規山脈事典 其拾五（金子紘也）／特別寄稿〈子規に少しずつ繋がる三つの話（田井安曇）〉／館蔵資料紹介 48〈子規の伊藤鼎あて書簡 一明治33年4月4日一（大石和可子）〉／子規の見た明治 13〈瀧尾神社白糸滝（能口千鶴）〉／研究ノート〈子規と古白 一対立する存在一（渡部光一郎）〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／しきはくカレンダー

1-84. 『季刊 子規博だより』 第22巻第1号 2003年6月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介〈「玩具帖」（渡部光一郎）〉／庚申庵史跡庭園開園（重松佳久）／特別寄稿〈「樗堂の求めた市中の隠・庚申庵」（松井忍）〉／子規の見た明治 特別版（大石和可子）／対談〈ベースボールを通して時代を見つめる（天野祐吉 金子紘也）〉／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-85. 『季刊 子規博だより』 第22巻第2号 2003年9月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介〈「行脚俳人芭蕉」（渡部光一郎）〉／特集・石田波郷（相原左義長 玉乃井明 松木ヒサ子 松本勇二）／研究ノート（大石和可子）／子規山脈事典（渡部光一郎）／特別寄稿〈「子規の精神」（桶谷秀昭）〉／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-86. 『季刊 子規博だより』 第22巻第3号 2003年12月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 51〈「秋海棠」（渡部光一郎）〉／エッセイ〈「写生の神秘」（中沢新一）〉／特別寄稿〈「子規の『奥の細道』」（喜田重行）〉／研究ノート〈「京都の仲川四明」（渡部光一郎）〉／「のぼさんとあそぼ」展御報告／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-87. 『季刊 子規博だより』 第22巻第4号 2004年3月25日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 52〈「コゝアを持て来い」（大石和可子）〉／エッセイ〈「幅の広い文学者子規」（ジャンニオン・バイチマン）〉／特別寄稿〈「寄席を生きるということ 一正岡子規が江戸文化から学んだもの一」（金井景子）〉／研究ノート〈「秋山真之に対する一考察」（金子紘也）〉／子規山脈事典（大石和可子）／喫茶去／子規博かわら板

／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-88. 『季刊 子規博だより』 第 23 巻第 1 号 2004 年 6 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 53 〈「英文芭蕉論 Baseo as a poet」(水野絵理)〉／エッセイ〈「子規と草加帖」(河野裕子)〉／特別寄稿〈俳人佐藤紅緑の判断 一句稿「かりがね集」公刊にあたって一(復本一郎)〉／研究ノート〈新聞「小日本」の季節(上)(渡部光一郎)〉／子規山脈事典(水野絵理)／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-89. 『季刊 子規博だより』 第 23 巻第 2 号 2004 年 9 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 54 〈子規漢詩「金州城」(上田一樹)〉／特集・佐藤紅緑／子規山脈事典(渡部光一郎)／はくぶつかんあらかると〈子規博の HP について(水野絵理)〉／喫茶去／子規博かわら板／告知板／へんしうのおと／道後寄席通信

1-90. 『季刊 子規博だより』 第 23 巻第 3 号 2004 年 12 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 55 〈子規の河東碧梧桐あてはがき(渡部光一郎)〉／エッセイ〈「フゼイ写真の上の五七五」(赤瀬川原平)〉／講演〈「アンソロジスト子規」(大岡信)〉／研究ノート〈「子規の選択」(大石和可子)〉／子規山脈事典(上田一樹)／道後寄席通信／子規博かわら版／喫茶去／告知板／へんしうのおと

1-91. 『季刊 子規博だより』 第 23 巻第 4 号 2005 年 3 月 25 日 編集・発行：松山市立子規記念博物館

収録：館蔵品資料紹介 56 〈「男女句合十二ヶ月」(水野絵理)〉／エッセイ〈根岸の風景(森まゆみ)〉／特別寄稿〈子規のことども(白方勝)〉／研究ノート〈作品から見る「子規と寄席」(上田一樹)〉／子規山脈事典(渡部光一郎)／子規関連施設マップ／子規博かわら版／告知板／へんしうのおと／裏表紙について

2. 『松山市立子規記念博物館年報』

2-1. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 1 (昭和 56 年度)』 1983 年 3 月 31 日

収録：ごあいさつ／沿革／開館まで〈基調案(抄)／基本構想／建築 [1 設計から施工まで／2 施設の特徴／3 施設の概要／4 設備の概要／5 博物館活動用器機]／展示 [1 展示設計／2 展示ストーリー]／建設準備の機構と活動 [1 建設準備の組織／2 建設準備活動／3 建設事業費]／開館〈管理運営／事業報告 [1 常設展／2 特別企画展／3 協力展／4 研究会・講座／5 俳句大会／6 「子規を考える一日」／7 講演会／8 インストラクター活動状況／9 出版活動／10 調査・研究／11 図書資料の利用／12 資料特別利用状況／13 施設利用状況／14 月別観覧状況／15 昭和 56 年度事業一覧／16 松山市立子規記念博物館友の会]／例規集

- 2-2. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 2 (昭和 57 年度)』 1984 年 3 月 31 日
収録：ごあいさつ／沿革／I 昭和 57 年度のあゆみ〈1 予算・決算報告／2 月別観
覧者状況／3 館内施設利用状況／4 資料特別利用状況／5 昭和 57 年度事業一覧
／II 展示活動〈1 常設展／2 特別企画展〉／III 教育普及活動〈1 研究会・講
座／2 講演会／3 「子規を考える一日」／4 全国博物館大会／5 俳文学会全国大
会／6 講師派遣／7 出版活動〉／IV 調査研究活動〈1 執筆活動／2 調査活動
／V 収集保管活動〈1 資料収集状況／2 寄贈資料／3 購入資料／4 寄贈図書／5
資料出展協力者〉／例規集／利用案内
- 2-3. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 3 (昭和 58 年度)』 1985 年 3 月 31 日
収録：沿革／機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／調査研究／収集保管／施設
／利用／講演の記録／館蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-4. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 4 (昭和 59 年度)』 1986 年 3 月 31 日
収録：機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／調査研究／収集保管／利用／講演
の記録／新収館蔵資料目録／利用案内
- 2-5. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 5 (昭和 60 年度)』 1987 年 3 月 31 日
収録：機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／調査研究／収集保管／利用／講演
の記録／新収館蔵資料目録／利用案内
- 2-6. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 6 (昭和 61 年度)』 1988 年 3 月 31 日
収録：機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／調査研究／収集保管／利用／講演
の記録／新収館蔵資料目録／利用案内
- 2-7. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 7 (昭和 62 年度)』 1989 年 3 月 31 日
収録：機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／利用／講
演の記録／新収館蔵資料目録／利用案内
- 2-8. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 8 (昭和 63 年度)』 1990 年 3 月 31 日
収録：機能／機構／予算・決算／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／利用／講
演の記録／新収館蔵資料目録／利用案内
- 2-9. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 9 (平成元年度)』 1991 年 3 月 31 日
収録：機能／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収館蔵資料目録／利用／機
構／予算・決算／利用案内
- 2-10. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 10 (平成 2 年度)』 1992 年 3 月 31 日
収録：機能／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収館蔵資料目録／利用／機
構／予算・決算／利用案内
- 2-11. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 11 (平成 3 年度)』 1993 年 3 月 31 日
収録：機能／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収館蔵資料目録／利用／機
構／予算・決算／施設概要／例規集／利用案内

- 2-12. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 12 (平成 4 年度)』 1994 年 3 月 31 日
収録：機能／展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収蔵資料目録／利用／機構／予算・決算／例規集／利用案内
- 2-13. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 13 (平成 5 年度)』 1995 年 3 月 31 日
収録：展示／教育・普及／広報・出版／収集保管／新収蔵資料目録／利用／機構／予算・決算／例規集／利用案内
- 2-14. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 14 (平成 6 年度)』 1996 年 3 月 31 日
収録：展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収蔵資料目録／利用／組織／予算・決算／松山市立子規記念博物館友の会／例規集／利用案内
- 2-15. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 15 (平成 7 年度)』 1997 年 3 月 31 日
収録：展示／教育普及／広報・出版／収集保管／新収蔵資料目録／利用／組織／予算・決算／松山市立子規記念博物館友の会／例規集／利用案内
- 2-16. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 16 (平成 8 年度)』 1998 年 1 月 30 日
収録：展示／教育・普及／広報・出版／収集保管／新収蔵資料目録／利用／組織／予算・決算／松山市立子規記念博物館友の会／例規集／利用案内
- 2-17. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 17 (平成 9 年度)』 1998 年 12 月 1 日
収録：組織／予算・決算／展示／教育・普及／広報・出版／利用／収集保管／新収蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-18. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 18 (平成 10 年度)』 2000 年 1 月 1 日
収録：組織／予算・決算／予算・決算／展示／教育・普及／広報・出版／利用／収集保管／新収蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-19. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 19 (平成 11 年度)』 2001 年 1 月 1 日
収録：組織／予算・決算／展示／教育・普及／広報・出版／利用／収集保管／新収蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-20. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 20 (平成 12 年度)』 2002 年 1 月 1 日
収録：組織／予算・決算／展示／教育・普及／利用／収集保管／新収蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-21. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 21 (平成 13 年度)』 2002 年 10 月
収録：組織／予算・決算／展示／子規 100 年祭 in 松山／教育・普及／利用／収集保管／新収蔵資料目録／例規集／利用案内
- 2-22. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 22 (平成 14 年度)』 2004 年 3 月
収録：組織／平成 14 年度予算・決算／展示概要〈1. 展示の方法／2. 常設展示リスト／3. 特別企画展／4. 特別展〉／教育・普及活動〈1. 子規博セミナー／2. 俳句教室／3. 短歌教室／4. 連句教室／5. 初学万葉講座／6. 子規博ボランティア／7. 子規博親子バスハイク／8. 子規を考える一日／9. 博物館実習／10. 第 37 回子規顕彰

全国俳句大会／11. 第 20 回子規顕彰短歌大会／12. 第 37 回子規顕彰松山市小中高校生俳句大会／13. 第 8 回「はがき歌」全国コンテスト／14. インストラクターシステム／15. 平成 14 年度出版広報活動／16. 平成 14 年度「子規博だより」総目次／館利用状況／資料の収集〈1. 資料の収集状況／2. 新収蔵資料目録／3. 寄贈図書〉／関係法規／利用案内

2-23. 『松山市立子規記念博物館年報 年報 23 (平成 15 年度)』 2004 年 12 月

収録：組織／平成 15 年度予算・決算／展示概要〈1. 展示の方法／2. 常設展示リスト／3. 特別企画展／4. 特別展〉／教育・普及活動〈1. 子規博セミナー／2. 俳句教室／3. 短歌教室／4. 連句教室／5. 初学万葉講座／6. 子規博ボランティア／7. 子規博親子バスハイク／8. 子規を考える一日／9. 博物館実習／10. 第 38 回子規顕彰全国俳句大会／11. 第 38 回子規顕彰松山市小中高校生俳句大会／12. 第 21 回子規顕彰全国短歌大会／13. 第 9 回「はがき歌」全国コンテスト／14. 子規亭《道後寄席》／15. トップ・イラストレーターによる子規似顔絵展／16. 「のぼさんとあそぼ」子規似顔絵作品展／17. インストラクターシステム／18. 平成 15 年度出版広報活動／19. 平成 15 年度「季刊子規博だより」総目次／館利用状況／資料の収集〈1. 資料の収集状況／2. 新収蔵資料目録／3. 寄贈図書〉／関係法規／利用案内

【71】 本山町立大原富枝文学館

発行物無し

【72】 上林暁文学館

図録

1. 『こころのふるさと 上林暁 ——人と文学の世界——』 1998 年 3 月 20 日 編集：上林暁文学館図録編集委員 発行：大方町教育委員会
収録：ごあいさつ（中川徹夫）／祝辞（橋本大二郎）／上林暁文学館を祝って（大原富枝）／上林暁を支えたもの —その文芸と故郷意識—（吉村稠）／上林暁の足跡〈上林暁のふるさと／生いたち／文学への目ざめ —中学時代—／作家への志 —五高時代—／ブランデン先生に学ぶ —東大時代—／雑誌記者として —改造社時代—／結婚と出世作「薔薇盗人」 —新進作家の時代—／都落ち —蟻地獄のころ—／再上京 —作家の覚悟新らに—／私小説開眼 —遺書を書くつもりで—／妻の発病と戦争と —不遇の時代—／「聖ヨハネ病院にて」 —惨苦を見つめて—／映画と放送と〈映画「あ

やに愛しき」／放送の脚本）／文人交流／酒とタバコと将棋を愛して／竹声桃花 一暁の書一／原稿と文章／ふるさとを書く／上林の書簡／旅と帰郷／後輩への温かいまなざし／脳溢血の再発 一口述筆記で「白い屋形船」を一／悲観しない病者 一闘病生活十八年一／文学への執念 一「ブロンズ的首」一／左手に念いをこめて／俳句 一文芸に一世をを賭けし木の葉髪一／文士仲間の励まし／逝く／絶筆「秀夫君」／文業不滅／文学碑・記念碑／形見の品々／開館によせて（門脇輝男／佐々木正夫）／ごあいさつ（徳廣育夫／徳廣睦子）／上林暁について（抜粋）／上林暁〔著書目録〕／郷土関係小説一覧／郷土関係随筆・感想一覧／上林暁文学館 主な資料一覧／上林暁〔略年譜〕／協力者 個人・団体一覧／利用案内／大方町／交通案内／あとがき

館報

1. 『大方あかつき館報』

1-1. 『大方あかつき館報』 第1号 1999年8月 目次無し

収録：一周年を迎えるに当たって（中野結）／大方あかつき館報を発行するにあたって（吉本洋子）／平成11年度大方あかつき館事業計画／「大方あかつき館開館1周年」利用状況／大方あかつき館の仕事、職員の紹介／編集後記

1-2. 『大方あかつき館報』 第2号 1999年12月 目次無し

収録：特集 上林暁 意志と善意の人 ——自らの惨苦を見すえた不撓の作家——〈「梨の花」の色紙 一苦難の文字の自然破形美一（小林亥一）〉／すばらしい伊野町立図書館 一県内の図書館・文学館の視察をして一（宮川昭男）

1-3. 『大方あかつき館報』 第3号 2000年7月 目次無し

収録：特集 上林暁 意志と善意の人 その2 ——自らの惨苦を見すえた不撓の作家——〈「梨の花」の色紙 一苦難の文字の自然破形美一（小林亥一）〉／平成12年度 大方あかつき館事業計画／生涯学習

1-4. 『大方あかつき館報』 第4号 2000年12月 目次無し

収録：特集 上林暁 意志と善意の人 その3 ——自らの惨苦を見すえた不撓の作家——〈「梨の花」の色紙 一苦難の文字の自然破形美一（小林亥一）〉／感動の講演・上林暁と青年作曲家 一平成12年度第4講座 上林暁文学講座を聞いて一（宮川昭男）／生涯学習係からのお知らせ／文化振興係からのお知らせ

1-5. 『大方あかつき館報』 第5号 2001年7月 目次無し

収録：特集 上林暁 意志と善意の人 その4（最終回） ——自らの惨苦を見すえた不撓の作家——〈「梨の花」の色紙 一苦難の文字の自然破形美一（小林亥一）〉／平成13年度 大方あかつき館事業計画／1. 生涯学習事業／2. 生涯スポーツ事業

1-6. 『大方あかつき館報』 第6号 2001年12月 目次無し

収録：自らの惨苦を見すえた不撓の作家 上林暁（野並浩）／二冊の本（橋田秀代）

／生涯学習係からのお知らせ／文化振興係からのお知らせ

1-7. 『大方あかつき館報』 第7号 2002年7月 目次無し

収録：上林暁先生に学ぶ 一田ノ口小学校六年生の授業から—（宮川昭男）／大方あかつき館からのお知らせ 平成14年度事業計画

1-8. 『大方あかつき館報』 第8号 2002年12月 目次無し

収録：『上林暁生誕百周年』を振り返って（野並浩）／記念式典に参加して〈「志乃さんですぬ」（佐々木正夫）／「再会のよろこび」（門脇照男）〉

1-9. 『大方あかつき館報』 第9号 2004年1月 目次無し

収録：上林暁の人と文学（松本秀正）／上林暁を全国区へ—第一回「上林暁研究会」報告を添えて—（吉村稔）

1-10. 『大方あかつき館報』 第10号 2004年8月 目次無し

収録：上林暁の人と文学（二）（松本秀正）／漢字と仮名（一）（浜田数義）

1-11. 『大方あかつき館報』 第11号 2005年3月 目次無し

収録：上林暁の人と文学（三）（松本秀正）／上林暁、あるいは上林文学を語るとは（中村清治）

【73】高知県立文学館

図録（常設展）

1. 『「高知の文学」常設展示図録』 1997年11月1日 編集・発行：高知県立文学館

収録：あいさつ／目次／展示構成について〈土佐の風土と文学〉／土佐文学の礎（古典文学）〈紀貫之／五山文学・近世詩壇／鹿持雅澄／土佐ことば二題（片岡文雄）〉／自由民権運動と文学〈万朝報／宮崎夢柳／植木枝盛／坂崎紫瀾／中江兆民／幸徳秋水／田岡嶺雲／黒岩涙香〉／反骨の大衆文学〈博浪抄／大町桂月／田中貢太郎／田岡典夫／浜本浩／馬場孤蝶／森下雨村／文学に表れた土佐人氣質（高橋正）〉／現代の文学〈田中英光／タカクラ・テル／上林暁／田宮虎彦／小山いと子／大原富枝／安岡章太郎／清岡貞行／宮尾登美子／政治と文学（猪野睦）〉／高知の近現代詩歌〈岡本弥太／島崎曙海／大江満雄／片山敏彦／上田秋夫／榎村浩／橋田東声／北見志保子／若尾瀾水／浜田波静／土佐を呼んだ十八首（国見純生）〉／寺田寅彦記念室〈寺田寅彦の生涯／文学者寺田寅彦／科学者寺田寅彦／寅彦と芸術／寅彦ゆかりの人々／寅彦年譜〉／土佐ゆかりの作家たち〈吉井勇／井伏鱒二／大岡昇平／司馬遼太郎／高浜虚子／土佐を描いた作品〉／近代土佐の文学者年表／浦戸湾と鏡川の文学散歩／映像案内／主な展示資料一覧／協力者一覧／施設概要／館内案内／利用案内

図録（企画展）

1. 『師弟が見た近代 ——漱石と寅彦の留学体験——』 1997年11月2日 編集・発行：高知県立文学館
収録：ごあいさつ（橋田憲明）／「ロンドンで漱石が見落としたもの」（出口保夫）／「寺田先生との出会い」（竹内均）／第一部 漱石のロンドン留学〈旅立ち／漱石のロンドン風景〔「倫敦塔」・「カーライル博物館」〕／非西洋の苦闘——「文学論」の構想——〔寺田寅彦に宛てた漱石の書簡〕／帰朝——子規の死——／漱石のロンドン留学関係略図〉／第二部 寅彦のドイツ留学〈旅日記から／ベルリン留學生活〔伯林大学／ベルリン風俗絵葉書〕／欧州見聞録〔「先生への通信」〕／寅彦の欧州視察行程略図／日英博覧会派遣／ゲッチンゲンにて——西洋の秋——／帰朝の途に／寅彦・ドイツへの旅程／寅彦のベルリン留学関係略図／漱石・寅彦留学関係年譜〕／資料一覧／協力者一覧
2. 『「浜本浩とその時代」企画展図録』 1998年4月24日 編集・発行：高知県立文学館
収録：あいさつ／目次・凡例／カラー図版／吉川英治の弔詞／横関愛造のお別れのことば／父 浜本浩のこと（浜本澄夫）／祖父の思い出（佐々木倫子）／略年譜／著作年譜／モノクロ図版（解説付）／主な展示資料・ご協力いただいた方々
3. 『夏目漱石・芥川龍之介展』 1998年7月1日 発行：高知県立文学館
収録：カラー版／夏目漱石〈三山居士と漱石（江藤淳）／現在にも生きている人物（小島信夫）／解説（中島国彦）〉／芥川龍之介〈「芋粥」と「蔵の中」と「外套」（後藤明生）／芥川らしさ（佐佐木幸綱）／解説（石割透）〉／出品目録
4. 『片山敏彦生誕100年・高知県立文学館開館1周年記念展 ヴィジョネール・片山敏彦の世界』 1998年10月10日 編集・発行：高知県立文学館
収録：ごあいさつ（橋田憲明）／目次・凡例／片山敏彦の絵画／片山敏彦の文学〈紀行文〔足摺岬行〕／短篇〔奥降り〕／評論〔オディロン・ルドン／デュアメルとランボー〕〉／片山敏彦生誕百年記念展に寄せて〈色彩の原点 高知（朝長梨枝子）／ロランの友・片山敏彦の抵抗（村上光彦）／私が見た晩年の片山敏彦先生 —詩と祈りと信仰—（美田稔）／一つの回想から —片山敏彦に向かって—（片岡文雄）〉／片山敏彦年譜（永田和子）／主な展示資料一覧／ご協力いただいた方々
5. 『平成十一年度夏季特別展 石川啄木 —貧苦と挫折を超えて—』 1999年8月1日 発行：高知県立文学館
収録：石川啄木（中村稔）／揺籃の地・浜民／青春の盛岡／東の間の状況／帰郷から『あこがれ』刊行へ／処女詩集『あこがれ』／盛岡ふたたび／『黄草集』／浜民代用教員として／北海道漂泊 函館・札幌・小樽・釧路／状況・朝日新聞校正係となる／暇な時ノートから／スバル創刊／ローマ字日記より／大逆事件／歌集『一握の砂』／未発刊の雑誌「樹木と果実」／歌集『悲しき玩具』／詩集『呼子と口笛』／貧困の中の死／土佐と

- 啄木 父一禎終焉の地・土佐／啄木と孤蝶／啄木への視点三つ（佐佐木幸綱）／啄木と土佐（国見純生）／啄木年譜／展示資料一覧／協力者・協力機関一覧
6. 『没後 50 年 田中英光 ～純粹な魂の軌跡～』 1999 年 10 月 9 日 編集・発行：高知県立文学館
収録：はじめに／底流する理念（島田昭男）／1 生い立ち／2 オリンポスの青春群像／3 個強土佐への回帰と歴史小説／英光と土佐（高橋正）／4 理想を求めて ～師・太宰治～／4 理想を求めて ～戦争体験と文学～／4 理想を求めて ～党活動と文学～／田中英光 戦中から戦後へ（矢島道弘）／5 無頼の日々 ～理想の崩壊～／田中英光と太宰治・泉鏡花（田中励儀）／それから（田中英一郎）／田中英光年譜／主な展示資料一覧・協力者一覧
7. 『南海の宮沢賢治・青き霞の高士 岡本弥太生誕百年記念展 一新世紀の詩人たちへ』 1999 年 12 月 18 日 編集・発行：高知県立文学館
収録：ごあいさつ・もくじ／I 同時代の詩壇／II 弥太とふるさと／III 詩人・岡本弥太の誕生／IV 詩人たち残影／V 修羅の旅商／VI 弥太の死／寄稿文〈岡本彌太と『鬘』（間野捷魯）／『瀧』と『山河』の刊行（山川久三）／岡本彌太と『日本詩壇』（嶋岡晨）／弥太詩との出会い（片岡文雄）／あらためて光を（猪野睦）／主な展示資料一覧／年譜／協力者一覧
8. 『没後 40 年 追憶の吉井勇展』 2000 年 4 月 15 日 編集・発行：高知県立文学館
収録：あいさつ／幼少年期／「明星」から「スバル」へ／人生の転機／土佐隠棲／高知県内の歌碑／京都時代① ～京都に移住～／京都時代② ～京都に定住～／父勇を思い出すままに（吉井滋）／御在所山桜記（妻鳥季男）／吉井勇年譜／吉井勇の軌跡／主な展示資料一覧／資料協力者一覧
9. 『「宮尾登美子」展 ～『一絃の琴』…そして『權』『春燈』『朱夏』映像化された作品群～』 2000 年 6 月 編集・発行：高知県立文学館
収録：ごあいさつ（宮尾登美子）／「宮尾登美子」帰郷展／一絃の琴／自伝的三部作〈權／春燈／朱夏〉／映像化作品〈寒椿／鬼龍院花子の生涯／陽暉楼／序の舞／藏／天涯の花〉／歴史的作品〈クレオパトラ／宮尾本 平家物語〉／作家との交友／宮尾登美子愛蔵品など／年譜／宮尾文学のふるさと／展示風景／主な資料一覧／協力者一覧
10. 『企画展図録「土佐の反骨・田岡嶺雲」』 2000 年 10 月 25 日 編集・発行：高知県立文学館
収録：ご挨拶・目次／口絵写真／「詩を生きた男」（西田勝）／一、生い立ち・家族／「田岡嶺雲と土佐人気質」（高橋正）／二、青雲の志を抱いて／《嶺雲と俳句》／三、文芸評論家 田岡嶺雲／「泉鏡花と田岡嶺雲」（田中励儀）／四、青春の愛と試練一津山の恋一／五、ジャーナリスト 嶺雲／六、姑蘇の風月（大陸放浪）／七、病中放浪／八、反骨の思想家として／九、終焉の地 日光／十、嶺雲を継ぐもの／「ロシアの嶺雲

研究科・ブガーエヴァ先生」〔追悼〕（加藤百合）／十一、嶺雲回想・嶺雲評など／《主な展示資料》／《年譜及び関連年表》／《嶺雲の言葉から》／《協力者一覧》

11. 『企画展 土佐のむかしばなしと伝説』 2001年6月 編集：高知県立文学館

収録：ごあいさつ／土佐民話・その魅力（市原麟一郎）／土佐のむかしばなしと伝説〈第一部 昔話、伝説とは〔土佐の昔話／昔話と伝説／語り伝えた人々／話の種を運んだ人々〕／第二部 山・里・淵・海の昔話〔山のはなし／やまちちのはなし／やまんばのはなし／狼のはなし／平家伝説／天人（七夕）女房／村・里のはなし／狸のはなし／しばてんのはなし／幽霊のはなし／長者伝説／わらいばなし／水辺のはなし／八百比丘尼／えんこう／牛鬼淵伝説／蛇のはなし〕／第三部 文学になったむかしばなし〔江戸時代／明治時代／大正時代／昭和時代（戦前～战中）／昭和時代（戦後～）／現代〕／土佐の民話調査の概要と課題（坂本正夫）／世話話の世界（常光徹）／土佐庶民信仰の旅（市原麟一郎）〈土佐の地蔵さんめぐり〈魚よせ地蔵／楫とり地蔵／一石六地蔵／寅さん地蔵／千体地蔵／子安地蔵／化粧地蔵／見渡し地蔵／しばてん地蔵／千代丸地蔵／北むき地蔵／ちよ地蔵／新之丞地蔵／空とぶ地蔵／玄蕃地蔵／耳なし地蔵／ゆうげん地蔵／長池地蔵／えんこう地蔵／一字一石塔地蔵／つべかえり地蔵／かつぜん地蔵／首きり地蔵／しゅむか地蔵／岡崎の地蔵／しょうぐん地蔵／西むき地蔵／逢坂地蔵／へんろ地蔵／物言う地蔵〉／弘法伝説・土佐霊場めぐり〈二十四番礼所 最御崎寺／二十六番礼所 金剛頂寺／二十八番礼所 大日寺／三十番礼所 善楽寺／三十一番礼所 竹林寺／三十五番礼所 清滝寺／三十六番礼所 青龍寺／三十七番礼所 岩本寺／三十八番礼所 金剛福寺／三十九番礼所 延光寺〉

12. 『企画展図録「おあん・婉・お馬… 土佐の近世の女性と文学」』 2001年11月 編集・発行：高知県立文学館

収録：関ヶ原合戦の体験を語り伝えた女性「おあん」〈「おあん物語」と「おあん物語絵巻」について（桑山俊彦）／関係年表・関係地図／「おあん物語絵巻」／「おあん」関係資料 関ヶ原合戦図ほか／「おあん物語」本文（翻刻）／関係系図・山田去暦履歴）／兼山の娘、「野中婉」——碩学谷泰山と心通わせた女性〈「野中婉、その誇り高き半生」（依光貫之）／関係年表・野中氏系図／物部川絵図／大野竜夫「兼山公絵巻」／婉・兼山・泰山関係資料／婉・兼山・泰山らを描いた文学作品〉／「純信お馬」の「お馬」——藩政末期、恋にかけた庶民女性〈「お馬さんへの想い」（正延哲士）／関係年表・うま宛純信手紙／「僧『純信』の実像——守られた純信の遺品」（里見剛）／資料・関係写真〉／土佐の近世ゆかりの女性〈「商家の妻たち—根来屋桂井素庵の母・才谷屋順水の祖母・辰巳屋勘之丞の妻お常」（松本瑛子）／山内一豊の妻、そして母〉／おあんとおあん物語（雑記）／資料編——付録／主要展示資料／主要参考文献／ご協力いただいた方々（機関）

13. 『パリ憧憬 —日本人文学者の《フランス》体験—』 2002年2月 編集・発行：高

知県立文学館

収録：ごあいさつ（橋田憲明）／総解説（今橋映子）／第Ⅰ部 先進文明の衝撃と同時代東京〈1. 19世紀パリ—マルヴィル写真集から／2. 同時代東京風景／3. 幕末・明治官僚たちの見た麗都／（コラム：翻訳文学から自然主義まで）〉／第Ⅱ部 憧憬と葛藤—荷風・光太郎〈1. 都市の進歩者—荷風 [1-1. 荷風と同時代水彩画家たち／1-2. 荷風のパリ・荷風の東京—『日和下駄』の世界]／2. 憧れと乖離—光太郎〉／第Ⅲ部 近代日本美術の仕掛け人—岩村透／第Ⅳ部 近代詩歌の息吹〈1. 三千里わが恋人のかたはらに—鉄幹・晶子／2. フランスへ行きたしと思へども／（コラム：月下の詩人たち—サンボリズムと翻訳詩集）〉／第Ⅴ部 旅情から文明論へ—藤村〈（コラム：広場の発見—オペセルヴァトワール広場と万世橋）〉／第Ⅵ部 放浪の果てに—1930年代パリ〈1. 金子光晴／2. 1930年代の作家たち〉／第Ⅶ部 シュルレアリスムの光／第Ⅷ部 土佐人のパリ—岩村透を中心に〈本店出品の岩村透資料の中から／岩村透略年譜〉／展示風景／参考文献・主な展示資料・特別資料

14. 『企画展『田岡典夫没後 20年』図録』 2002年9月2日 編集・発行：高知県立文学館

収録：ごあいさつ／カラー図版／田岡典夫略年譜／目次／兄田岡典夫のこと（聞き書き）（佐久間淑子）／「格禄お召し上げ」（船曳由美）／「田岡典夫先生のこと」（山村瑞子）／「田岡典夫の歴史物」（高橋正）／神様からのご褒美（前川竜女）／熱海のウマ、桜馬場のキツネ（和田健一）／1、田岡家の継承者として〈田岡家の先祖／父 田岡典章／母 田岡寿子／実母 佐久間はま／叔父 田岡嶺雲／従兄 田岡良一／叔父 木村久寿弥太／田岡家の継承者〉／2、幼少期から多感な青春期へ〈大阪「今宮の家」で坊ちゃん育ち／帰高、田岡御殿の落成と少女との別れ／本に囲まれ成長、得意だった作文／フランク・チャンピオンの思い出／日記を付け始める／大正自由文化の中で成長／中学入学と三年後の母寿子の死／学校を転々と／権威への不服従、「野人田岡典夫」の誕生／教師殴打事件と中退。東京へ転校／「莫奇伝」（弁解篇）の試み〉／3、パリ遊学とその後の生き方—パリで得たもの〈パリでの自由な青春の日々／新橋で喫茶リドーを開業／尾上菊五郎にひかれ日本俳優学校へ入学／独学と文学修行〉／4、作家への先達、作家としての歩み〈吉井勇との出会い／田中貢太郎の導きと「博浪抄」の編集／博浪抄一行の土佐来訪／「桃葉先生の碑」の建碑／菊池館の励ましと直木賞受賞／「強情いちご」その他で直木賞に／「新鷹会」へ—長谷川伸門下／大衆小説は墮落文学か／『小説野中兼山』で毎日出版文化賞〉／5、戦争と田岡典夫〈東京から熱海へのい移住／軍人開館での直木賞授賞式／戦時下の文筆／「虎の顎」へ—満36歳での応召〉／6、その主な作品世界〈しばてんもの／処女作品集『しばてん』／『シバテン群像』／土佐の武士物／『小説 武辺土佐物語』／『九反帆口論』／『系図』／『腹を立てた武士たち』／勤王の志士たち／権九郎シリーズ／『へのへの茂平』／『かげろうの館』、そして一条

兼定のこと／訳書『ミセス ミニヴァ』／畢生の大作『小説野中兼山』／名随筆の数々
—『庭下駄』『ととじまり』／7、世界の旅から…「ポケットに手をつっこんで」—
パリ・中南米・欧州・中国、世界を旅して／8、さまざまな人々との縁^{えにし}〈青山茂／大黒
東洋士／横山隆一／尾崎士郎／井伏鱒二／大原富枝／谷崎潤一郎／長谷川伸／志賀直
哉〉／9、浦戸湾の風光を守る一玉島（巢山）と典夫／10、瑞子さんへの手紙／11、「博
浪抄」と田岡典夫〈安芸小松屋旅館で田中貢太郎倒れ危篤／「博浪抄」の、そして「南
風」へ／「博浪抄」の復刻〉／田岡典夫の言葉から／自作について／主要展示資料／主
要参考文献／ご協力いただいた方々・機関

15. 『寺田寅彦 —天然に生まれし眼差し—』 2003年2月10日 編集・発行：高知県立文学館

収録：あいさつ／1 寺田寅彦の高知〈庭の追憶〉／2 帽子をめぐる物語／3 愛しき者たちへ〈父と子／寅彦の猫たち〉／4 眼差しの習作〈デザインと寅彦〉／5 寅彦の自画像／6 もう一つの花物語／7 追憶のとき／年譜／展覧会の記録

16. 『良寛展ガイドブック』 2004年1月2日 編集：高知県立文学館／晴耕雨読 監修：加藤僖一 発行：高知県立文学館

収録：良寛書の魅力（加藤僖一）／一 良寛へのとびら〈素顔の良寛〔良寛の時代／出雲崎／出家／備中玉島・円通寺へ／円通寺から西国行脚の旅へ／土佐の良寛と近藤万丈『寢覚めの友』／故郷を目指す良寛と父の死／五合庵の生活の開始と訪問者／良寛托鉢の日々／文人たちとの交流／最後の良寛と貞心尼〕／良寛の歌〔近世和歌／春／夏／秋／冬／長歌／長歌二老いの中の良寛／良寛・貞心尼〕／逸話の中の良寛〔《子供の発見》と子供と遊ぶ良寛／手毬のうた三体／手毬のうた／良寛の好きなもの／嫌いなもの〕／良寛を求めて〔相馬御風の良寛／唐木良寛・厳しい貌つきの良寛／常不軽菩薩と阿修羅の道／清貧の思想〕／二 良寛遺墨解説文・略年譜・出品リスト

記録集

1. 『高知県立文学館講演記録 流風余韻』

- 1-1. 『高知県立文学館講演記録 流風余韻 第一集（一九九七年十一月～一九九八年二月）』 1998年3月30日 編集・発行：高知県立文学館

収録：講演記録「流風余韻 第一集」の発刊によせて（橋田憲明）／凡例／開館記念講演会 「ふるさとと文学」（安岡章太郎）／開館記念講演会 「寺田家の人々」（要旨）（山田一郎）／開館記念特別展講演会 「漱石のロンドン風景」（出口保夫）／開館記念特別展講演会 「寅彦と地球物理学」（樋口敬二）／第二回土佐菜の花忌記念講演会 「司馬遼太郎の世界」（尾崎秀樹）

- 1-2. 『高知県立文学館講演記録 流風余韻 第二集（一九九八年五月～一九九九年二月）』 2000年8月1日 編集・発行：高知県立文学館

収録：講演記録「流風余韻 第二集」発刊によせて（橋田憲明）／凡例／平成十年度春の企画展「浜本浩とその時代」記念講演会 雑誌「改造」と浜本浩（宇治土公三津子）／平成十年度特別展記念講演会 漱石と芥川—その接点と差異—（紅野敏郎）／片山敏彦生誕一〇〇年及び高知県立文学館開館1周年記念講演会 片山敏彦の「ふるさと」（清水茂）／智恵子抄展記念講演会 光太郎・智恵子—鮮烈な生の軌跡—（北川太一）／第五四回日本芸術院賞・恩賜賞受賞記念講演会 大原富枝一人と文学—（中村稔）

1-3. 『高知県立文学館講演記録 流風余韻 第三集（一九九九年五月～二〇〇〇年十一月）』 2002年3月31日 編集・発行：高知県立文学館

収録：講演記録「流風余韻 第三集」発刊によせて（橋田憲明）／凡例／'99年特別展「司馬遼太郎—一九世紀の青春群像」記念講演会 坂本龍馬と司馬遼太郎（渡辺司郎）／'99年「石川啄木展—貧苦と挫折を超えて」記念講演会 石川啄木の新しさと魅力（中村稔 佐佐木幸綱）／'99「没後五十年 田中英光展—純粋な魂の軌跡—」記念講演会 田中英光の文学—虚構への信頼（田中励儀）／'99年「岡本弥太生誕百年記念展」記念講演会 岡本弥太と「日本詩壇」（嶋岡晨）／二〇〇〇年特別展「没後四十年 追憶の吉井勇展」記念講演会 追憶の吉井勇（妻鳥季男）／二〇〇〇年特別展「土佐の反骨田岡嶺雲展」関連 国際シンポジウム 田岡嶺雲と現代（西田勝 ロナルド・P・ロフタス 岸陽子 キム・レイホ 呂元明）

1-4. 『高知県立文学館講演記録 流風余韻 第四集（二〇〇〇年六月～二〇〇二年三月）』 2003年3月31日 編集・発行：高知県立文学館

収録：講演記録「流風余韻 第四集」発刊によせて（橋田憲明）／凡例／「宮尾登美子」展 記念講演 宮尾さんとわたし（杉本苑子）／「おあん、婉、お馬…土佐の近世の女性と文学」展 記念講演 「おあん物語」とその絵巻の魅力（桑山俊彦）／「おあん、婉、お馬…土佐の近世の女性と文学」展 記念講演 野中婉、その誇り高き半生（依光貫之）／「パリ憧憬—日本人文学者の《フランス》体験—」 記念講演 近代美術の先覚者 岩村透 ～高知・東京・パリ～（田辺徹）／「パリ憧憬—日本人文学者の《フランス》体験—」 記念講演 「パリ憧憬—日本人文学者の《フランス》体験・岩村透を中心に」（今橋映子）

2. 『山内一豊入国四〇〇年共同企画 ひとものこころ —土佐の近世— 企画展・講演会・シンポジウム報告書』 2002年3月31日 編集・発行：山内一豊入国四〇〇年共同企画実行委員会

収録：ポスター／パンフレット／目次／新しい歴史研究の出発点に（山田一郎）／経緯報告に代えて（渡部淳）／第一部 企画展紹介〈10館企画展紹介 [「将軍と大名」（土佐山内家宝物資料館）／「徳川幕府崩壊—大政奉還と武力討伐—」（北川村立中岡慎太郎館）／「堰と用水路」（春野町立郷土資料館）／「幕末の土佐藩—山内氏の苦悩—」

(高知県立坂本龍馬記念館) / 「近世大名の誕生 一山内一豊 その時代と生涯一」(土佐山内家宝物資料館) / 「長宗我部元親・盛親の栄光と挫折」(高知県立歴史民俗資料館) / 「お殿様のくらし 一武家の日常一」(安芸市立歴史民俗資料館) / 「近世土佐の美術」(高知県立美術館) / 「おあん、婉、お馬… 土佐の近世の女性と文学」(高知県立文学館) / 「お殿様のくらし 一武家の日常一」(宿毛市立宿毛歴史館) / 「再発見高知城」(高知城懐徳館)] / 高知新聞連載記事[「徳川幕府と山内家」展に寄せて 《上》《下》(土佐山内家宝物資料館 渡部淳) / 「山内一豊入国四百年共同企画展 ひとつのころ 一土佐の近世一」に寄せて(土佐山内家宝物資料館 渡部淳) / 徳川幕府崩壊 一大政奉還と武力討伐一(北川村立中岡慎太郎館 豊田満広) / 「堰と用水路」展(春野町立郷土資料館 徳平晶) / 「幕末の土佐藩 一山内氏の苦悩一」(高知県立坂本龍馬記念館 三浦夏樹) / 「近世大名の誕生 一山内一豊 その時代と生涯一」展《上》《下》(土佐山内家宝物資料館 行藤たけし) / 「長宗我部元親・盛親の栄光と挫折」展(高知県立歴史民俗資料館 野本亮) / 「お殿様のくらし 一武家の日常一」展(安芸市立歴史民俗資料館 小林和香) / 「近世土佐の美術」展 一江戸時代の美術の諸相一(高知県立美術館 川島郁子) / 「土佐の近世の女性と文学」展(高知県立文学館 別役佳代) / 「お殿様のくらし 一武家の日常一」展(宿毛市立宿毛歴史館 矢木伸欣) / 「再発見高知城」展(土佐山内家宝物資料館 藤田有紀)] / 第二部 講演会・シンポジウム記録〈講演会・シンポジウムポスター／講演会要旨[藤井讓治氏講演要旨／倉地克直氏講演要旨] / シンポジウム記録[シンポジウム内容／入場者数・アンケート結果]〉

館報

1. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』

1-1. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第1号 1998年7月11日 目次無し

収録：リレー随筆(1) 磨輒(橋田憲明) / 次回企画展によせて 夏季特別展 夏目漱石・芥川龍之介展 資料が語る漱石・龍之介の世界(北川かおり) / 学芸員メモ 「浜本浩とその時代展」を終えて(別役佳代) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ1 田宮虎彦「足摺岬」(岡林清水) / 行事報告 / 資料受贈報告 / 文学館日誌 / 高知県立文学館カレンダー 1998年7～9月

1-2. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第2号 1998年10月1日 目次無し

収録：リレー随筆(2) 台風——東京と土佐(安岡章太郎) / 次回企画展によせて ヴィジョネール 片山敏彦の世界(津田加須子) / 学芸員メモ 「大河内正敏宛て 寺田寅彦留学絵はがき」から(北村かおり) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 悼・岡林清水先生(く虚碧に^{ただよ}う 一岡林先生と文学館一(橋田憲明) / 岡林先生を悼む(高橋正)) / 文学館日誌 / 資料受贈報告 / 高知県立文学館カレンダー 1998年10～12

月

- 1-3. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第3号 1999年1月1日 目次無し
収録：リレー随筆(3) わかれ(坪井百合子) / 次回企画展によせて 智恵子抄展
(野中佐和子) / 学芸員メモ 「ヴィジョネール・片山敏彦の世界」展を終えて(津
田加須子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ2 田中英光「櫻」(国則
三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 1998年9月～11月 / 高知県立文学館カレン
ダー 1999年1～3月
- 1-4. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第4号 1999年4月1日 目次無し
収録：リレー随筆(4) 田中貢太郎への愛着(紅野敏郎) / 次回企画展によせて 司
馬遼太郎展 —十九世紀の青春群像— (別役佳代) / 学芸員メモ 「智恵子抄」展を
終えて(野中佐和子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ3 上林暁「過
ぎゆきの歌」(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 1998年12月～1999年2
月 / お知らせ / 高知県立文学館カレンダー 1999年4～6月
- 1-5. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第5号 1999年7月1日 目次無し
収録：リレー随筆(5) 我が故郷、朝倉(宮地佐一郎) / 次回企画展によせて 石
川啄木展 —貧苦と挫折を超えて— (津田加須子) / 学芸員メモ① 資料紹介 「博
浪抄」関係資料2点(別役佳代) / 学芸員メモ② 心に残った話 安岡章太郎氏の講
演を拝聴して(別役佳代) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ4 森下
雨村「猿猴 川に死す」(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 1999年3月～
5月 / 高知県立文学館カレンダー 1999年7～9月
- 1-6. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第6号 1999年10月1日 目次無し
収録：リレー随筆(6) 志和(嶋岡晨) / 次回企画展によせて 「没後50年 田中
英光展」 ～純粋な魂の軌跡～ / 学芸員メモ 「土佐と啄木」—今回の展示の中から—
 / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ5 黒岩涙香 萬朝報「発刊の辞」
(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 1999年6月～8月 / 高知県立文学館カ
レンダー 1999年10～12月
- 1-7. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第7号 2000年1月5日 目次無し
収録：リレー随筆(7) 土佐の光と影(田中光二) / 次回企画展によせて 「岡本
弥太 生誕100年記念展」 —新世紀の詩人たちへ—(野中佐和子) / 学芸員メモ 「田
中英光展—純粋な魂の軌跡—」を終えて(嶋崎るり子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹
介 / 土佐文学さんぽ6 岡本弥太 詩碑をめぐって(国則三雄志) / 資料受贈報告 /
文学館日誌 1999年9月～11月 / 高知県立文学館カレンダー 2000年1～3月
- 1-8. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第8号 2000年4月1日 目次無し
収録：リレー随筆(8) 高知とSF(森下一仁) / 次回企画展によせて —二〇〇〇
年春季企画展— 「没後40年 追憶の吉井勇」(嶋崎るり子) / 次々回企画展によせ

- て 二〇〇〇年初夏企画展「宮尾登美子」展 『一絃の琴』…そして『櫛』『春燈』『朱夏～映像化された作品群（仮）（津田加須子）／資料受贈報告／悼・大原富枝先生〈大原富枝さんを弔む（橋田憲明）／大原富枝先生を偲んで（鍋島寿美枝）〉／文学館日誌 1999年12月～2000年2月／高知県立文学館カレンダー 2000年4～6月
- 1-9. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第9号 2000年7月1日 目次無し
収録：リレー随筆（9） 「宮尾登美子展」によせて（宮尾登美子）／次回企画展によせて 高知県立文学館二〇〇〇年夏季特別展 「幻の童謡詩陣・金子みすゞの世界展」／学芸員メモ 春季企画展「没後40年 追憶の吉井勇」を終えて～勇と土佐（嶋崎るり子）／土佐文学さんぽ 7 馬場孤蝶—『庚寅日記—（国則三雄志）／資料受贈報告／文学館日誌 2000年3月～5月／高知県立文学館カレンダー 2000年7～9月
- 1-10. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第10号 2000年10月1日 目次無し
収録：リレー随筆（10） 田岡嶺雲が愛児と初めて会った日（西田勝）／次回企画展によせて 「土佐の反骨 田岡嶺雲展」（別役佳代）／学芸員メモ 2000年初夏企画「宮尾登美子」展『一絃の琴』…そして『櫛』『春燈』『朱夏～映像化された作品群～を終えて（津田加須子）／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ 8 田岡嶺雲—『^{さつきでん}數奇傳』—（国則三雄志）／資料受贈報告／文学館日誌 2000年6月～8月／高知県立文学館カレンダー 2000年10～12月
- 1-11. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第11号 2001年1月1日 目次無し
収録：リレー随筆（11） 丸岡明さんと鏡川（安岡章太郎）／次回企画展によせて ヨハンナ・シュピーリ没後100年 「アルプスの少女ハイジ」写真展（津田加須子）／学芸員メモ 田岡嶺雲関係資料の紹介／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ 8 川島豊敏—詩集『肉體』—序より（国則三雄志）／資料受贈報告／文学館日誌 2000年9月～11月／高知県立文学館カレンダー 2001年1～3月
- 1-12. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第12号 2001年4月1日 目次無し
収録：リレー随筆（12） 上林暁先生（佐々木正夫）／次回企画展によせて 寺山修司展 テラヤマ・ワールド —きらめく闇の宇宙（嶋崎るり子）／高知への旅から 70年 歌人 吉井勇 点描（妻鳥季男）／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ 10 浜本浩 土佐のカルメン（国則三雄志）／資料受贈報告／文学館日誌 2000年12月～2001年2月／高知県立文学館カレンダー 2001年4～6月
- 1-13. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第13号 2001年7月1日 目次無し
収録：リレー随筆（13） 父のことと遠い記憶（津野輔猷）／次回企画展によせて 土佐のむかしばなしと伝説展 とんとむかしにあそびにきいや！（野中佐和子）／学芸員メモ 「寺山修司展」を終えて（嶋崎るり子）／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ 11 大江満雄 詩集『日本海流』（昭和十八年）（国則三雄志）／資料受

贈報告／文学館日誌 2001年3月～5月／高知県立文学館カレンダー 2001年7～9月

- 1-14. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第14号 2001年10月1日 目次無し
収録：リレー随筆(14) 土佐漢詩紀行(石川忠久)／次回企画展によせて 山内一豊入国400年共同企画 「おあん、婉、お馬… 土佐の近世の女性と文学」(別役佳代)／学芸員メモ 土佐のむかしばなしと伝説展／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ12 中江篤介 『一年有半』(博文館)(国則三雄志)／資料受贈報告／文学館日誌 2001年6月～8月／高知県立文学館カレンダー 2001年10～12月
- 1-15. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第15号 2002年1月1日 目次無し
収録：リレー随筆(15) 寺田寅彦のセロのレッスン(佐藤泰平)／次回企画展によせて 冬季特別展 「パリ憧憬 ～日本文学者の《フランス》体験～」(津田加須子)／学芸員メモ 「おあん、婉、お馬… 土佐の近世の女性と文学」展を開催して(別役佳代)／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ13 幸徳秋水 秋水絶筆(刑死二日前)(国則三雄志)／資料受贈報告／文学館日誌 2001年9月～11月／高知県立文学館カレンダー 2002年1～3月
- 1-16. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第16号 2002年4月1日 目次無し
収録：リレー随筆(16) 物部川の挽歌—田岡先生に捧げる(船曳由美)／次回企画展によせて 「棟方志功展」(野中佐和子)／高知県立文学館開館5周年記念事業 ミニ企画「寅彦と宇吉郎の絵画展」によせて(津田加須子)／「パリ憧憬」展を終えて(津田加須子)／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ14 立仙啓一 炎天下エレジー／資料受贈報告／文学館日誌 2002年12月～2月／高知県立文学館カレンダー 2002年4～6月
- 1-17. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第17号 2002年7月1日 目次無し
収録：リレー随筆(17) 高知とパリを結ぶ縁—蘇る岩村透(今橋映子)／次回企画展によせて 「田岡典夫 没後二十年展」 —シバテンを愛し土佐を愛した直木賞作家(別役佳代)／学芸員メモ 「棟方志功展」から～土佐の棟方志功～(野中佐和子)／「寅彦と宇吉郎の絵画展」を終えて(津田加須子)／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ15 北見志保子／資料受贈報告／文学館日誌 2002年3月～5月／高知県立文学館カレンダー 2002年7～9月
- 1-18. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第18号 2002年10月1日 目次無し
収録：リレー随筆(18) 寅彦と宇吉郎を若い世代に(神田健三)／次回企画展によせて 「寺田寅彦展—天然に育まれし眼差し—」^{てんぜん}／学芸員メモ 田岡典夫 没後20年展を開催して(別役佳代)／閲覧室から／県内同人誌紹介／土佐文学さんぽ16 大町桂月／資料受贈報告／文学館日誌 2002年6月～8月／高知県立文学館カレンダー 2002年10～12月

- 1-19. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第19号 2003年1月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(19) 心のふるさと(高辻玲子) / 次回企画展紹介 「愛の手紙展～文学者の様々な愛のかたち」(津田加須子) / 学芸員メモ 寺田寅彦—天然に育まれ志眼差し—より(川島郁子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ 17 「波の音」より / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2002年9月～11月 / 高知県立文学館カレンダー 2003年1～3月
- 1-20. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第20号 2003年4月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(20) 「死」に向かう態度—兆民と子規—(十川信介) / 次回企画展紹介 ミニ企画「折口信夫短歌展」 / 学芸員メモ 「愛の手紙展」—文学者の様々な愛のかたち—資料から(津田加須子) / 書籍ご紹介 / 土佐文学さんぽ 18 土佐日記紀貫之(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2002年12月～2003年2月 / 高知県立文学館カレンダー 2003年4～6月
- 1-21. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第21号 2003年7月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(21) 友情(今川英子) / 次回企画展紹介 生誕100年記念「林芙美子展 花のいのちはみじかくて…」(別役佳代) / ミニ企画展紹介 中村太郎写真展「宮沢賢治 幻想紀行」(野中佐和子) / 学芸員メモ 収蔵資料名品展(4/29～5/15) 報告 / 土佐文学さんぽ 19 吉井勇(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2003年3月～2003年5月 / 高知県立文学館カレンダー 2003年7～9月
- 1-22. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第22号 2003年10月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(22) 放浪記に恋した父(山田まさ子) / 次回企画展紹介 「永遠のグリム童話展」(野中佐和子) / 学芸員メモ 林芙美子の周辺から(別役佳代) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ 20 島崎曙海^{あけみ}(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2003年6月～2003年8月 / 高知県立文学館カレンダー 2003年10～12月
- 1-23. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第23号 2004年1月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(23) 寺田寅彦について(中村稔) / 企画展紹介 「良寛展—詩と書とその生涯」 / 次回企画展紹介 「文学・青春」 / 土佐文学さんぽ 21 田中貢太郎(国則三雄志) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2003年9月～2003年11月 / 高知県立文学館カレンダー 2004年1～3月
- 1-24. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第24号 2004年4月1日 目次無し
 収録：リレー随筆(24) 岡本彌太の「海」(山川久三) / 次回企画展紹介 マザー・グースの世界展(仮)(野中佐和子) / ミニ企画展紹介 岡田憲佳写真展「金子みすゞ 思い花」(野中佐和子) / 学芸員メモ 「良寛展—詩と書とその生涯」より(川島郁子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ 22 風を呑む男—小砂丘忠義(猪野睦) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2003年12月～2004年2月 / 高知県立文学館

カレンダー 2004年4～6月

- 1-25. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第25号 2004年7月1日 目次無し
収録：リレー随筆(25) 上林暁・川端康成…入野松原の文学碑(平山光男) / 次回
企画展紹介 川端康成一文豪が愛した美の世界 / 学芸員メモ 月と文学 一生きて、
月を見る一(別役佳代) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文学さんぽ 23 吉野川
ふるさと残像 大原富枝(猪野睦) / 資料受贈報告 / 文学館日誌 2004年3月～2004
年5月 / 高知県立文学館カレンダー 2004年7～9月
- 1-26. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第26号 2004年10月1日 目次無し
収録：リレー随筆(26) 川端康成、美の山塊(水原園博) / ミニ企画展紹介 すて
きな絵本の世界展 ～コールドコット賞受賞作品を中心に～ / 学芸員メモ 資料紹介
(ロマン・ロランの手紙から)(津田加須子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 / 土佐文
学さんぽ 24 江ノ口川沿いの文学 寺田寅彦(猪野睦) / 資料受贈報告 / 文学館日誌
2004年6月～2004年8月 / 高知県立文学館カレンダー 2004年10～12月
- 1-27. 『高知県立文学館ニュース 藤並の森』 第27号 2005年1月1日 目次無し
収録：リレー随筆(27) 新しい清盛の出現(古澤陽子) / 次回企画展紹介 『宮尾
本 平家物語』 完結記念 宮尾登美子の世界展(津田加須子) / 学芸員メモ 「川端
康成一文豪が愛した美の世界」展より(川島郁子) / 閲覧室から / 県内同人誌紹介 /
土佐文学さんぽ 25 「流離譚」の里 安岡章太郎(猪野睦) / 資料受贈報告 / 文学館
日誌 2004年9月～2004年11月 / 高知県立文学館カレンダー 2005年1～3月

記念誌

1. 『高知県立文学館 開館5周年記念誌』 2003年3月 編集・発行：高知県立文学館
収録：I 文学館開館まで〈1 設置の目的 / 2 開館までの歩み [寄稿 さらなる充実
へ(猪野睦) / 寄稿 郷土文化会館から文学館へ(高橋正) / 寄稿 五周年ニ思ウ(坂
本稔) / 資料収集のことなど(橋田憲明)] / 3 資料 [(1) 文学館構想検討委員会設置
要綱・委員名簿 / (2) 高知県立文学館基本構想 / (3) 文学館開設準備委員会設置要綱・
組織図・準備委員会委員名簿・専門委員会名簿] / II 文学館5年の歩み〈1 高知県
立文学館のオープン [寄稿 高知県立文学館開館5周年回顧(上田壽)] / 2 常設展示
と企画展示 [(1) 常設展示の展示構成と内容 / (2) 企画展の歩みと企画行事など / 文
学館印象記(高知新聞「声」欄より)] / 3 文学講座(文学専門講座・文学カレッジ)
 / 4 児童生徒文学作品朗読コンクール [寄稿 開館5周年に寄せて—教育とのかかわ
りから—(鈴木義夫)] / 5 映画および映画ビデオの上映会 / 6 民間サークルの参画
 [朗読の会 / 寄稿 文学を身近に(松田光代) / 語りと紙芝居の会・小夏の映画会・カ
ルチャーサポーター] / 7 出版・広報 [展示図録・講演集「流風余韻」他・館報「藤
並の森」] / 8 資料収集と保存 [(1) 整理登録済み資料 / (2) 寺田寅彦資料 / (3) 特

設文庫・資料]〕／III 資料〈1 施設の概要／2 館内平面図／3 年度別予算額の推移
／4 年度別入館者数／5 展示別観覧者の状況／6 文学館ホール及び茶室利用者等の
推移／7 現在販売中の図録等一覧表／8 文学館運営協議委員、文学館職員〉

【74】香北町立吉井勇記念館

発行物無し

【75】火野葦平資料館

発行物無し

【76】福岡市文学館

図録

1. 『「福岡市文学館」開設記念 カフェと文学～レイロで会いましょう～』 2002年5月
25日 編集・発行：福岡市総合図書館文学・文書課
収録：【プロローグ】ふくおかの街と文学／【第I部】ブラジレイロ～レイロで会いま
しょう／【第II部】木靴（門）～お前よ美しくあれと声にする／【エピローグ】青春の「前
途」／【付図】福岡市縦横詳細地図（昭和十三年度）
2. 『福岡市文学館 秋の企画展 クローズアップ・FUKUOKA① 余は発見せり ～伊達
得夫と旧制福高の文学山脈～』 2002年9月25日 編集・発行：福岡市総合図書館文
学・文書課
収録：第I部 余は発見せり〈かけがへのない男／カメラアングラー（同級生）／余は発見
せり／売れない本の作り方／詩を書かない詩人／なつかしい人格〉／第II部 旧制福
岡高等学校〈あゝ玄海／燦爛夢の／纏うに淡き／はかた／玲瓏たる幻〉／第III部〈旧
制福岡高等学校 文学山脈 ～人名辞典～〉
3. 『「本」を創る～フクオカ出版物語～』 2003年7月2日 編集・発行：福岡市総合図
書館文学・文書課文学係
収録：はじめに／第I部 福岡の出版社 現代篇／第II部 フクオカ出版物語 前史篇
〈江戸期福岡藩の出版／明治、大正、昭和前期／福岡の書店小史（明治一昭和20年）
／福岡の書店略年表（昭和20年まで）／福岡の出版社／近代の出版社創業略年表

4. 『福岡市文学館企画展 クローズアップ・FUKUOKA② ペンの悦び ——原田種夫の世界』 2004年2月10日 編集・発行：福岡市総合図書館文学・文書課
収録：I 原田種夫の文業／II 人間——詩人の出発／III 小説家への展開／IV 文壇史発掘／V 編集・造本／VI 博多案内人／VII 原田種夫が歩く／VIII 萩の抄／IX 原田種夫年譜／X 原田種夫著書リスト
5. 『福岡と芥川賞直木賞 その作家と作品』 2004年6月30日 編集・発行：福岡市総合図書館文学・文書課文学係
収録：福岡と芥川賞・直木賞——その作家と作品／福岡の芥川賞・直木賞年譜／索引／阿芥川賞選考委員として（高樹のぶ子）／江戸のエッセンス（杉本章子）／作家・作品紹介／書くことの始まり（高橋睦郎）／作家・作品紹介／福岡を遠く離れ（大道珠貴）／協力者一覧
6. 『福岡市文学館企画展 クローズアップ・FUKUOKA③ こぞの雪 岡松和夫—文学と時代—』 2005年1月25日 編集・発行：福岡市文学館
収録：インタビュー●岡松和夫氏に聞く／博多遠景〈家族●「筑紫夫婦貴」「峠の棲家」／風土の人間●『鉢をかざく女』『熊野』／戦争・少年の目●「志賀島」「小蟹のいる村」〉／博多—岡松文学の舞台／東京での青春〈《火炎瓶》の世代●「無私の感触」「壁」「事件の記憶」／文学への出発●「或る年の秋」／浩浩居●「愛用」〉／横浜・鎌倉〈家庭●「深く目覚めよ」「魂ふる日」／中世●『風の狂へる』『一休伝説』『実朝私記抄』／異郷●「海の砦」「異郷の歌」〉／略年譜／著作一覧／福岡中学校の頃（明石善之助）／第74回芥川賞・直木賞が決定した日（佐木隆三）／「犀」のこと（岡松和夫／神津拓夫）／浪漫の糸を紡ぐ意志『断弦』覚書（井上洋子）

記録集

1. 『福岡市文学館・公開市民講座 福岡の近代文学』 2004年3月31日 編集・発行：福岡市総合図書館文学・文書課
収録：発刊にあたって（深野治）／1 福岡市文学館とは何か、文学地図をどう描くか（花田俊典）／2 近代詩歌の夜明け —福岡の短歌と俳句—（井上洋子）／3 夢野久作の登場 —大正から昭和へ—（山本巖）／4 昭和十年代の福岡の文学 —「九州文学」と「こをろ」を中心に—（山本哲也）／5 終戦前後の社会状況と戦後の文学活動（花田俊典）／6 経済成長期の福岡と文学 —一九六〇代から八〇年代の概観—（深野治）／7 昭和の終焉と文学の形 —可能性をひろげる福岡の女性作家—（狩野啓子）／8 「福岡の文学」の現状（深野治）／《執筆者紹介》／《付記》

創作集

1. 『平成15年度福岡市文学館文学講座 詩のワークショップ作品集』 2004年3月31日

【77】松本清張記念館

図録

1. 『松本清張記念館図録』 1998年8月4日 編集・制作：株式会社文藝春秋／「松本清張記念館図録」編集部 発行：北九州市立松本清張記念館 目次無し
2. 『ふるさと小倉 清張文学の羽搏き』 1998年12月21日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：開催にあたって／ふるさと小倉 清張文学の羽搏き／ふるさと小倉 一 町外から少年期まで／ふるさと小倉 二 文学への目覚め／ふるさと小倉 三 文学の萌芽／芥川賞受賞／初期作品の世界／未発表の原稿から／年譜
3. 『森鷗外小倉赴任一〇〇周年記念 清張と鷗外 鷗外へのまなざし、響きあうもの』 1999年6月19日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：開催にあたって／清張と鷗外／小倉時代の森鷗外／清張《鷗外》を歩く／清張が描いた鷗外／鷗外と清張の足跡／小倉郷土会と清張／対談・清張と鷗外 そして田上耕作のことなど
4. 『時間の習俗展 「和布刈」 発、ミステリーの旅』 1999年12月17日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：時間の習俗展——「和布刈」 発、ミステリーの旅／作品の世界／トリックの世界／清張と俳句／旅心・古代史への興味
5. 『清張文学の土壌 一大正期の小倉』 2000年8月1日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：ごあいさつ／清張文学の土壌—大正期の小倉／「軍都」の成り立ち—一刻まれた悲喜の跡—／大正期のまちなみ—城下町の静けさと、変化への胎動と—／小倉絵巻／文化の興隆／学び舎の記憶—懐旧の念、縁の糸—／日常の暮らし／好奇心と探求心—清張文学発生の「場」—
6. 『新たなる飛翔一点と線のころ』 2000年12月15日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：新たなる飛翔一点と線のころ／I 「点と線」の世界／II 「点と線」の背景、その頃の日本／III 「点と線」誕生前夜／IV 新たなる飛翔「点と線」誕生
7. 『松本清張と風間完 「昭和史発掘」挿画と、映像「点と線」の原画から 風間完 挿画・原画展』 2001年8月1日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館
収録：はじめに／松本清張と風間完／風間完 著書・画集／風間完プロフィール／記念

館オリジナル映像「点と線」／昭和史発掘／風間完が描いた清張作品／画家・松本清張
……風間完／主な展示物

8. 『証言—朝日新聞社時代の松本清張』 2002年1月12日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：はじめに／一、朝日新聞西部本社《時代》／二、歯車のネジ——《社員》松本清張／三、家長として——松本清張のもう一つの《素顔》／四、泥砂の中——《旅人》清張／五、出逢いとしての《百万人の小説》——芥川賞受賞前後／主な展示物

9. 『黒い画集・展 —挑戦、とりどりのタブロー—』 2002年8月1日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：開催にあたって／I. 『黒い画集』をひらく前に／II. 『黒い画集』をひらいて〈遭難／証言／坂道の家／失踪／紐／寒流／凶器／濁った陽／草〉／III. 映画になった『黒い画集』／IV. 連作推理小説の系譜／主な展示物

10. 『松本清張没後10年特別企画展 松本清張の旅』 2003年1月18日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：はじめに／I 未知への憧れ／II 清張作品で旅する／III 海外取材紀行／IV 行動する作家／V ころの旅／松本清張取材旅行年譜／主な展示物

11. 『松本清張記念館開館五周年特別企画展 松本清張と菊池寛』 2003年8月4日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：菊池寛〈学校遍歴の青春期／「無名」時代／菊池寛の文学／文壇の大御所／菊池寛の『文藝春秋』という発明（半藤一利）〉／松本清張〈少年時代／「学歴の克服」／作家・清張の誕生／越境する作家〉／寛から清張へ〈菊池作品の影響／『形影 菊池寛と佐佐木茂索』論 人間的興味の小説（片山宏行）／松本清張の菊池寛に対する言及／文士の肖像 愛用品〉／ふたりが遺したもの〈遺書／文学賞 芥川賞から清張賞まで／松本清張の仕事（井上ひさし）〉／主な展示物

12. 『松本清張 「火の路」誕生秘話 古代史家との往復書簡を中心に』 2004年1月16日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：I 『火の路』へ〈飛鳥・古代石造遺物〉／II 通信講座『火の路』教室〈福山敏男氏との往復書簡（抄）／藪田嘉一郎氏との往復書簡（抄）／清張と交流のあった研究者たち〔石田幹之助／門脇禎二／金思二／倉野憲司／斉藤国治／直木孝次郎／直良信夫／樋口清之／樋口隆康／森浩一〕〉／III 資料室・書庫から〈「火の路」資料参考品／「火の路」参考図書〉／主な展示物

13. 『松本清張の軍隊時代 ——朝鮮の風景』 2004年8月1日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：はじめに／I 三十四歳の松本二等兵〈コラム 報道の中のニューギニア（松本常彦）〉／II 軍隊体験〈久留米／竜山地区／京都市街／コラム 文学者たちのみた朝鮮（赤

塚正幸) / 井邑 / 釜山～仙崎) / III 朝鮮体験 (生活人清張の軍隊体験 (藤井忠俊) / 軍隊体験を反映した作品)

14. 『挿絵展 松本清張作品を彩る単色の世界』 2005年1月25日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：開催にあたって / 杉全直 (「風の息」ストーリー / 挿画になるまで [取材と挿画 / 掲載までのプロセス] / 「事故の二十年あとで」 (杉全直)) / 濱野彰親 (「十万分の一の偶然」ストーリー / 挿画になるまで [取材と挿画 / 小説×挿画の共鳴] / 「ゾクゾクする描写」 (濱野彰親)) / 「清張と挿画の黄金時代」 (郷原宏) / 清張作品を手がけた挿画家たち / 連載にあたって作者からのメッセージ

紀要

1. 『松本清張研究』

1-1. 『松本清張研究 1999』 創刊準備号 1999年3月31日 編集：田中伸和 (松本清張研究会) 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：松本清張研究について (平岡敏夫) / 歌と石と植物と (山田有策) / 『天城越え』は『伊豆の踊子』をどう超えたか (藤井淑禎) / 松本清張と私 (藤井康栄) / 記念館レポート (松本清張記念館開館、その前後 未来につながる文学館をめざして / 「点と線」ほか《直筆原稿》記念館へ / 第一回特別企画展を終えて / 今後のスケジュール / 記念館案内) / 編集後記

1-2. 『松本清張研究 2000』 創刊号 2000年3月31日 編集：田中伸和 (松本清張研究会) 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：森鷗外と松本清張——不遇への共感—— (平岡敏夫) / 特集 清張と鷗外 松本清張記念館開館一周年記念シンポジウム 松本清張にとって鷗外とは (赤塚正幸 藤井淑禎 山田有策 [司会] 花田俊典) / 小倉郷土会と松本清張 (小林安司) / 流謫へのまなざし——松本清張と森鷗外—— (宗像和重) / 《新資料紹介》松本清張未発表原稿と書簡 / 『点と線』論序説 (天沢退二郎) / 「装飾評伝」の虚実 (花田俊典) / 「氷雨」——男と女 手練手管の玄人芸の終焉 (藤井淑禎) / 歴史を推理する——松本清張『二・二六事件』の回想—— (菅野昭正) / [書評] 藤井淑禎『清張ミステリーと昭和三十年代』 (花田俊典) / 記念館研究ノート (藤澤隆文) (「清張と鷗外」展のねらい / 「時間の習俗」が語るもの——企画展を開催して / 「或る『小倉日記』伝」発送のヒント——企画展「清張と鷗外」後日談) / 記念館開館関連 [新聞・雑誌記事] / 記念館だより / 編集後記

1-3. 『松本清張研究 2001』 第2号 2001年3月31日 編集：田中伸和 (松本清張研究会) 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：大正時代の小倉と清張 (小林安司) / 特集 松本清張と菊池寛 (座談会 松本

清張と菊池寛（井上ひさし 平岡敏夫 [司会] 山田有策）／ミステリーの自覚—菊池・芥川の地層と清張—（藤井淑禎）／『形影 菊池寛と佐佐木茂索』論—人間的興味の小説—（片山宏行）／反制度の継承—松本清張と菊池寛の「メディア」と「読者」（小笠原賢二）／『小説研究十六講』から『小説研究十六講』へ—菊池寛・木村毅・松本清張（石川巧）／《講演再録》菊池寛の文学（松本清張）／『神々の乱心』論—「未完」の魔界譚として—（天沢退二郎）／松本清張は「再考のホラー作家」か？—「解決不可能性」の時代がもたらしたもの（高橋敏夫）／清張と歴史教育—『落差』のアクチュアリティー（仲正昌樹）／松本清張と文壇—大岡昇平の「松本清張批判」をめぐって（曾根博義）／松本清張の短編技法（木股知史）／松本清張の仮想敵—全集「日本の文学」をめぐって（宮田毬栄）／すぐれた戦後文学—『黒い福音』を再読して（飯島耕一）／「哲学館事件」（『小説東京帝国大学』）解説にみる清張の視座と葛藤—《史的事実の叙述》と《想像による描写》のはざままで—（衛藤吉則）／エッセイ『火の路』の旅 I（高橋和夫）／記念館研究ノート『点と線』—ノンフィクションへのプロローグ（藤澤隆文）／《資料研究》「点と線」（原稿・雑誌・単行本・全集）の校異について／企画展「清張文学の土壌—大正期の小倉」を終えて／記念館だより／編集後記

1-4. 『松本清張研究 2002』 第3号 2002年3月31日 編集：田中伸和（松本清張研究会） 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：過去への旅—清張ミステリーの原点—（山田有策）／特集 清張文学と旅（座談会 清張流「旅はひとりがいい」（宮部みゆき 川本三郎 半藤一利）／『半生の記』に描かれた旅（平岡敏夫）／死の彼方までの旅—『砂漠の塩』論—（天沢退二郎）／初老の憧憬、もう一人のゴーガン—「駅路」論—（花田俊典）／清張文学における「旅」—『砂の器』の記号論—（仲正昌樹）／清張・初期作品における「旅」（赤塚正幸）／旅の時間の松本清張（宮田毬栄）／再録・旅のエッセイ 雑誌「旅」より（松本清張）[ひとり旅／時刻表と絵葉書と／耶馬溪から水郷日田へ]／初公開 ヨーロッパ『草の径』取材日記（松本清張）／『草の径』取材随行者座談会「あの旅行は楽しかったね」（藤井康栄 岡崎満義 田中光子）／エッセイ『火の路』の旅 II（高橋和夫）／清張ミステリーと女性読者—女性誌との連携を軸として—（藤井淑禎）／記念館だより／編集後記

1-5. 『松本清張研究 2003』 第4号 2003年3月31日 編集：田中伸和（松本清張研究会） 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：ミステリー工房の秘密（阿刀田高）／特集 清張ミステリーの《現在》（座談会 松本清張の時代に生きて（森村誠一 郷原宏 山田有策）／風景の複合（川本三郎）／《赤い鯨》の群れる海—『蒼い描点』と『天才画の女』—（郷原宏）／社会派ミステリーから社会派サスペンスへ—『黒い福音』と『聖獣配列』—（綾目広治）

／社会派推理小説における「メディア」の機能——『不安な演奏』を可能にしたもの——（仲正昌樹）／松本清張の《小市民》——復讐と挫折——（栗坪良樹）／「悪」へと反転する「正義」——『眼の壁』と『けものみち』を中心に——（小笠原賢二）／明子はなぜ殺されたか——「表象詩人」論——（平岡敏夫）／古びることのない新しさ（山前譲）／再録・推理小説の文章（松本清張）／『黒い画集』をめぐって〈「遭難」の内と外——『週刊朝日』と『黒い画集』——（藤井淑禎）／中年男の六〇年^{シックスティ}前後——「坂道の家」を読む——（大井田義彰）／「黒い画集 あるサラリーマンの証言」——映像と記憶——（中沢弥）／『黒い画集』における模索と実験の跡——「遭難」「証言」「坂道の家」の校異を通して——（中川里志）／作家アンケート「松本清張 再発見のために」（秋野照葉 阿刀田高 泡坂妻夫 折原一 佐野洋 島村匠 白山三郎 西村京太郎 葉治英哉 古川薫 三咲光郎 宮部みゆき 村雨貞郎 森村誠一 山本一力 山本音也 和久峻三）／〔書評〕藤井康栄『松本清張の残像』（平岡敏夫）／「行者神髓」論——《物書きの魔》について（天沢退二郎）／記念館だより／編集後記

1-6. 『松本清張研究 2004』 第5号 2004年3月31日 編集：田中伸和（松本清張研究会） 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：特集 松本清張の敗戦前後〈座談会 戦争体験が作家にもたらしたもの（白山三郎 色川大吉 平岡敏夫）／軍隊篇〔松本衛生兵の朝鮮体験（南富鎮）／衛生兵の《点と線》——「任務」と「繁昌するメス」——（栗坪良樹）／もう一つの原点——「百済の草」と「走路」——（綾目広治）／「遠い接近」の後景——松本清張の軍隊体験——（花田俊典）〕／占領期篇〔「日本の黒い霧」の時代認識と評価——「黒地の絵」と帝銀・下山・松川事件諸作品の資料検証——（藤井忠俊）／松本清張が見た戦後（金子勝昭）〕／アンケート 『日本の黒い霧』——私はこう読んだ（上田正昭 大城立裕 鎌田慧 小林久三 佐藤忠夫 島村匠 出久根達郎 西木正明 葉治英哉 三咲光郎 村雨貞郎 新藤兼人《随想》）〕／「表象詩人」論——あるいは《詩人》のオブセッション——（天沢退二郎）／記念館だより／編集後記

1-7. 『松本清張研究 2005』 第6号 2005年3月31日 編集：田中伸和（松本清張研究会） 発行：北九州市立松本清張記念館

収録：飛鳥の石造遺物と斉明天皇——酒船石遺跡と益田岩船——（直紀孝次郎）／特集 清張古代史の軌跡と現在〈対談 清張古代史の現在を再検証する——邪馬台国論と『火の路』を中心に——（門脇禎二 森浩一）／松本清張の古代史研究（上田正昭）／松本清張の邪馬台国論（岡本健一）／『火の路』検証（山口博）／「石の骨」の虚実（春成秀爾）／グラビア〔松本清張所蔵の古鏡（藤丸詔八郎）／松本清張所蔵の銅鐸（難波洋三）〕／作品論〔「断碑」論——藤森栄一『森本六爾伝』と共に——（平岡敏夫）／比喩としての翡翠——松本清張『万葉翡翠』をよむ——（中西進）／古代史

の薪は二度燃え上がる——「陸行水行」の成立と展開——（郷原宏）／仮説を語る小説——「東経 139 度線」——（綾目広治）／麦の種が落ちたのは何のためか——「火神被殺」論——（天沢退二郎）／眩人の周辺（陳舜臣）／松本清張記念館古代史シンポジウム[蘇我氏——逆賊の実像を探る——／（辰巳和弘 亀井輝一郎 平林章仁 加藤謙吉 《司会》水谷千秋）／蘇我氏と日本の古代——『日本書紀』の記載の検討——（水谷千秋）]／清張古代史の軌跡 関連作品・記事・著書目録／記念館だより

2. 『松本清張研究奨励事業研究報告』

2-1. 『第一回松本清張研究奨励事業研究報告』 2000 年 8 月 4 日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：清張文学の基層—菊池寛の方法と立場〈菊池寛から松本清張へ——「西郷礼」の成立（石川巧）／法の臨界に向かう言葉——菊池寛から松本清張へ（新城郁夫）／「清張実話」の濫觴（谷口基）／音楽殺人の時代的過程——菊池寛大衆長編小説から松本清張「砂の器」へ（安智史）／危機をめぐる連載小説——菊池寛の「震災」から松本清張の「戦時外交」へ（前田潤）／松本清張氏は、「哲学館事件」（『小説東京帝国大学』）に何をみたのか？（衛藤吉則）

2-2. 『第二回松本清張研究奨励事業研究報告』 2001 年 10 月 10 日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：「謀略朝鮮戦争」をめぐる歴史記述の問題 —開戦時の語りから考える—（中西由紀子 山下静香）／松本清張『北の詩人』論（趙正民）

2-3. 『第三回松本清張研究奨励事業研究報告』 2002 年 8 月 31 日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：松本清張の戦争と衛生兵の朝鮮体験（南富鎮）

2-4. 『第五回松本清張研究奨励事業研究報告』 2004 年 7 月 31 日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：蘇我氏と日本の古代～『日本書紀』の記載の検討～（水谷千秋）

館報

1. 『松本清張記念館』

1-1. 『松本清張記念館』 創刊号 1999 年 3 月

収録：創刊によせて（藤井康栄）／特別寄稿（小林安司）／運営委員会／写真でみるこの一年／館内みどころ／トピックス〈直筆原稿、清張記念館へ／研究奨励事業募集〉／展示品紹介〈ニコン F3〉／探検！清張記念館〈“情報ライブラリ”の巻〉／お知らせ／北九州文学マップ

1-2. 『松本清張記念館』 第 2 号 1999 年 9 月

収録：インタビュー（今村元市）／開館一周年記念事業／特別企画展「清張と鷗外」

- から／展示品紹介／探検！清張記念館／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-3. 『松本清張記念館』 第3号 2000年3月
収録：心のふれあい小倉の思い出 インタビュー（小野昭治）／ふるさと小倉シリーズ③ 「時間の習俗展」／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-4. 『松本清張記念館』 第4号 2000年8月
収録：清張文学の根幹 インタビュー（小林安司）／紹介・松本清張研究会／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-5. 『松本清張記念館』 第5号 2000年12月
収録：デザイナーから作家へ インタビュー（西島伊三雄）／企画展「点と線」／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-6. 『松本清張記念館』 第6号 2001年3月
収録：平成十二年度市民文芸講座／講演会／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-7. 『松本清張記念館』 第7号 2001年11月
収録：開館3周年記念事業／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／北九州文学マップ／お知らせ／記念館入館者四十万人突破／トピックス
- 1-8. 『松本清張記念館』 第8号 2002年1月
収録：清張を語る 寄稿（飯窪敏彦／企画展「証言・朝日新聞社時代の松本清張」／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／お知らせ／北九州文学マップ／トピックス
- 1-9. 『松本清張記念館』 第9号 2002年3月
収録：松本清張没後十年記念シンポジウム〈講演「清張さんの思い出」（中江利忠）／パネルディスカッション「松本清張と朝日新聞社」〉／平成十三年度市民文芸講座／みんなの広場／友の会活動報告／お知らせ／北九州文学マップ／展示品紹介／探検！清張文学館／トピックス
- 1-10. 『松本清張記念館』 第10号 2002年8月
収録：特集 小林安司先生を悼む〈特別寄稿〔「謙抑の人」（谷伍平）／「小林安司先生を偲ぶ」（今村元市）〕〉／特別企画展「黒い画集・展」／松本清張没後十年記念事業／友の会活動報告／北九州文学マップ／トピックス
- 1-11. 『松本清張記念館』 第11号 2002年11月
収録：特集 没後10年記念講演会／没後10年記念事業／第4回研究奨励事業贈呈式／展示品紹介／探検！清張記念館／みんなの広場／友の会活動報告／企画展紹介「松本清張の旅」／北九州文学マップ／没後10年記念テレビ番組／トピックス

1-12. 『松本清張記念館』 第12号 2003年3月

収録：没後10年記念・清張忌俳句大会／講演と対談 松本清張の旅／展示品紹介／探検！清張文学館／みんなの広場／友の会活動報告／企画展紹介「松本清張の旅」／新企画 清張原風景「点描」／研究誌「松本清張研究」発行／トピックス

1-13. 『松本清張記念館』 第13号 2003年8月

収録：インタビュー 清張を語る 清張さんとわたし（安田満）／特別企画展「松本清張と菊池寛」展／清張原風景 点描「火ノ山」／みんなの広場／友の会活動報告／秋吉茂氏を悼む／展示品紹介／探検！清張文学館／トピックス

1-14. 『松本清張記念館』 第14号 2003年12月

収録：開館五周年記念講演会 「ミステリーのこころ」（夏樹静子）／特別寄稿 おじいちゃんの声 菊池寛の思い出と新資料（松成貴美）／企画展紹介『松本清張「火の路」誕生秘話』／清張原風景「点描」／展示品紹介／友の会活動報告／トピックス

1-15. 『松本清張記念館』 第15号 2004年3月

収録：松本清張の印刷所時代／展示品紹介／清張原風景「点描」／記念館刊行物のご案内／探検！清張記念館／みんなの広場／友の会活動報告／トピックス

1-16. 『松本清張記念館』 第16号 2004年8月

収録：古代史 講演・シンポジウム／研究発表会／展示品紹介／清張原風景「点描」／みんなの広場／友の会活動報告／特別企画展『松本清張の軍隊時代』／探検！清張文学館／トピックス

1-17. 『松本清張記念館』 第17号 2004年12月

収録：古川薫氏講演会／企画展 松本清張作品を彩る単色の世界／清張原風景「点描」／展示品紹介／探検！清張記念館／みんなの広場／友の会活動報告／朗読劇「或る『小倉日記』伝」／トピックス

1-18. 『松本清張記念館』 第18号 2005年3月

収録：濱野彰親講演会／展示品紹介／清張原風景「点描」／みんなの広場／友の会活動報告／研究誌「松本清張研究」第六号発行／探検！清張文学館／企画展紹介「小説に読む考古学」／トピックス

2. 『年報』 → 『松本清張記念館年報』

2-1. 『年報'99』 第1号 1999年9月1日 編集・発行：北九州市立松本清張記念館

収録：沿革／概要／開館記念事業／研究センター事業／普及事業／その他／資料概況／統計／組織／平成10年度予算／平成11年度事業予定／館内紹介／利用案内／根拠規定

2-2. 『松本清張記念館年報（平成11年度）』 第2号 2000年9月1日 編集・発行：

北九州市立松本清張記念館

収録：沿革／概要／研究センター事業／普及事業／その他／資料概況／統計／組織／

平成 11 年度予算／平成 12 年度事業予定／館内紹介／利用案内／根拠規定

2-3. 『松本清張記念館年報（平成 12 年度）』 第 3 号 2001 年 9 月 1 日 編集・発行：

北九州市立松本清張記念館

収録：沿革／概要／研究センター事業／普及事業／推理劇場新作映像ソフト制作事業
／その他／資料概況／統計／組織／平成 12 年度予算／平成 13 年度事業予定／館内紹
介／利用案内／根拠規定

2-4. 『松本清張記念館年報（平成 13 年度）』 第 4 号 2002 年 9 月 1 日 編集・発行：

北九州市立松本清張記念館

収録：沿革／概要／研究センター事業／普及事業／推理劇場新作映像ソフト制作事業
／その他／資料概況／統計／組織／平成 13 年度予算／平成 14 年度事業予定／館内紹
介／利用案内／根拠規定

2-5. 『松本清張記念館年報（平成 14 年度）』 第 5 号 2003 年 9 月 1 日 編集・発行：

北九州市立松本清張記念館

収録：沿革／概要／研究センター事業／普及事業／推理劇場新作映像ソフト制作事業
／その他／資料概況／統計／組織／平成 14 年度予算／平成 15 年度事業予定／館内紹
介／利用案内／根拠規定

【78】長崎市立遠藤周作文学館

図録

1. 『遠藤周作文学館一周年記念企画展 「作家の書棚より」 ～書き込み本と狐狸庵アル
バム～』 2001 年 11 月 1 日 発行：遠藤周作文学館

収録：ごあいさつ（山道幸雄）／一周年記念企画展に寄せて〈書き込み本のもつ意味（山
根道公）〉／一周年企画展・その軌跡と全容〈素顔の遠藤周作（藤田尚子）〉／展示資料
一 書き込み本〈堀辰雄と遠藤周作（高山鉄男／山根道公）〉／遠藤周作と日本文学／『武
功夜話』の世界（高橋千劔破）／『切支丹鮮血遺書』—『沈黙』への道程〉／展示資料
二 狐狸庵アルバム／展示資料一覧／協力／編集

2. 『第二回企画展 遠藤周作の愛した長崎 —『沈黙』から『女の一生』まで—』 2002
年 10 月 編集：藤田尚子 発行：外海町立遠藤周作文学館 目次無し

収録：ごあいさつ（山道幸雄）／『沈黙』／『女の一生 一部・キクの場合』／『女の
一生 二部・サチ子の場合』／『キリシタンの里』／沈黙の声を聴く ——二十一世紀
に向けて／『沈黙』／『女の一生 一部・キクの場合』／『女の一生 二部・サチ子
の場合』／関連資料／遠藤周作級蔵書における書込み調査 『女の一生 一部・キク
の場合』を中心に（藤田尚子）／遠藤周作と小崎登明修道士との対談から（「聖母の騎士」

増刊号 聖母の騎士社 昭和 58 年 1 月 1 日初版より抄録) / 主要参考文献/ 協力者一
覧

3. 『第 3 回 企画展 遠藤周作 一様々なる世界 I』 2004 年 5 月 16 日 編集・発行：
外海町立遠藤周作文学館
収録：はじめに/ 純文学の世界/ 歴史小説の世界/ 戯曲の世界/ 狐狸庵・ユーモア小説
/ 心あたかな病院運動/ 遠藤周作と遊びの世界

翻刻

1. 『遠藤周作『沈黙』草稿 翻刻』 2004 年 3 月 30 日 編集・解説：藤田尚子 発行：
外海町立遠藤周作文学館
収録：口絵〈遠藤周作自筆草稿の全容〉/ 出版によせて〈草稿にたどりついた藤田さん
おめでとう（遠藤順子）/ 発掘された宝——幻の「沈黙」草稿（山根道公）/ まえが
き〈まえがき/I 資料概要/II 完成までの過程/III 凡例〉/ 『沈黙』草稿 翻刻〈序
章 [塩津秘書清書草稿 a/ 遠藤周作自筆草稿 1] / 第一章 [塩津秘書清書草稿 b/ 遠藤周
作自筆草稿 2/ 遠藤周作自筆草稿 3] / 第二章 [遠藤周作自筆草稿 4/ 遠藤周作自筆草稿
5/ 遠藤周作自筆草稿 6/ 遠藤周作自筆草稿 7/ 遠藤周作自筆草稿 8/ 遠藤周作自筆草稿
7] / 第三章 [遠藤周作自筆草稿 9/ 遠藤周作自筆草稿 10/ 遠藤周作自筆草稿 11/ 遠藤
周作自筆草稿 12/ 遠藤周作自筆草稿 13/ 遠藤周作自筆草稿 12/ 遠藤周作自筆草稿 14]
/ 第四章 [遠藤周作自筆草稿 15/ 遠藤周作自筆草稿 16/ 塩津秘書清書草稿 c/ 遠藤周作
自筆草稿 17/ 遠藤周作自筆草稿 18/ 遠藤周作自筆草稿 19/ 遠藤周作自筆草稿 20/ 塩津
秘書清書草稿 d] / 第五章〈同〉/ 第六章〈同〉/ 第七章〈同〉/ 第八章〈同〉/ 付録
〈I 遠藤周作自筆草稿 21 22/II 日記/III 創作ノート/IV 遠藤周作旧蔵書
(抄)〉/ 解説/ あとがき

館報

1. 『遠藤周作文学館』
 - 1-1. 『遠藤周作文学館』 創刊号 2002 年 3 月 27 日
収録：ごあいさつ 遠藤周作の故郷（三浦朱門）/ 文学館ニュース/ 遠藤周作旧蔵書
への書き込み調査（一）/ 文学散歩/ 経過報告/ これからの企画案内/ 施設概要/ 編
集後記
 - 1-2. 『遠藤周作文学館』 第 2 号 2003 年 3 月 30 日
収録：第二回企画展 遠藤周作の愛した長崎 — 『沈黙』から『女の一生』まで—/
作家の愛した場所で/ 文学館ニュース/ 受贈資料から/ 遠藤周作旧蔵書への書き込み
調査（二）/ 文学散歩/ 経過報告

【79】熊本近代文学館

図録（常設展）

1. 『熊本近代文学館・総合案内』 1987年2月25日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：展示作家・解説及び年譜〈徳富蘇峰／徳富蘆花／小泉八雲／夏目漱石／徳永直／高群逸枝／宗不旱／種田山頭火／松岡荒村／篠原温亭／十川秋骨／蓮田善明／淵上毛銭／蔵原伸二郎／小山勝清／平川虎臣／荒木精之／小山寛二／長田秀雄／長田幹彦／井上微笑／渋川玄耳／宮部寸七翁／中村汀女／耕治人／竹崎有斐／木下順二／安永蒨子／石牟礼道子／光岡明〉／イベントコーナー／主題別コーナー／ビデオコーナー／文学館平面図及び概要／設立経緯 オープンまでの歩み／熊本近代文学年表／展示資料一覧（展示品目録）〈徳富蘇峰／徳富蘆花／小泉八雲／夏目漱石／徳永直／高群逸枝／宗不旱／種田山頭火／松岡荒村／篠原温亭／十川秋骨／蓮田善明／淵上毛銭／蔵原伸二郎／小山勝清／平川虎臣／荒木精之／小山寛二／長田秀雄／長田幹彦／宮部寸七翁／渋川玄耳／井上微笑／現代作家／独立ケース／中央ケース〉／資料提供者・協力者一覧／熊本近代文学館周辺地図
2. 『熊本近代文学館・総合案内・（一訂版）』 1994年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：展示作家・解説及び年譜〈徳富蘇峰／徳富蘆花／小泉八雲／夏目漱石／徳永直／高群逸枝／宗不旱／種田山頭火／松岡荒村／篠原温亭／十川秋骨／蓮田善明／淵上毛銭／蔵原伸二郎／小山勝清／平川虎臣／荒木精之／小山寛二／耕治人／中村汀女／竹崎有斐／長田秀雄／長田幹彦／井上微笑／渋川玄耳／宮部寸七翁／木下順二／安永蒨子／石牟礼道子／光岡明〉／電照写真パネル／主題別コーナー／ビデオコーナー／イベント一覧／文学館平面図及び概要／設立経緯 オープンまでの歩み／熊本近代文学年表／資料提供者・協力者一覧／熊本近代文学館周辺文学碑案内

図録（企画展）

1. 『—今日の風今日の花— 中村汀女展』 1989年9月20日 編集：熊本県立図書館／熊本近代文学館 発行：熊本近代文学館友の会出版刊行部
収録：窓を打つ雨（小川濤美子）／平常心の道（水上勉）／大輪の花（星野椿）／木の実（岩下ゆう二）／カラー図版／第一期 俳人の誕生—江津のうた—／第二期 大輪の花—4Tのころ—／第三期 結実のとき—『風花』の世界—／第四期 今日の風今日の花—平常心のうた—／中村汀女略年譜／系図／中村汀女展 主な展示資料
2. 『球磨の文学と文学碑』 1991年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：1 人吉・球磨出身の主な作家／2 人吉・球磨出身者の文学作品／3 人吉・球

磨にちなんだ作品／4 人吉・球磨の文学碑／「球磨の文学展」主な展示資料／人吉・熊野文学碑マップ

目録

1. 『熊本近代文学館関係図書雑誌目録 1989年3月現在』 1990年3月31日 編集・発行：熊本県立図書館／熊本近代文学館
収録：荒木精之／荒木精之 関係資料／石牟礼道子／石牟礼道子 関係資料／井上微笑／井上微笑 関係資料／木下順二／木下順二 関係資料／蔵原伸二郎／蔵原伸二郎 関係資料／小泉八雲／小泉八雲 関係資料／耕治人／耕治人 関係資料／小山勝清／小山勝清 関係資料／小山寛二／小山寛二 関係資料／篠原温亭／篠原温亭 関係資料／澁川玄耳／澁川玄耳 関係資料／宗不旱／宗不旱 関係資料／高群逸枝／高群逸枝 関係資料／竹崎有斐／竹崎有斐 関係資料／種田山頭火／種田山頭火 関係資料／十川秋骨／十川秋骨 関係資料／徳富蘇峰／徳富蘇峰 関係資料／徳富蘆花／徳富蘆花 関係資料／徳永直／徳永直 関係資料／長田秀雄／長田秀雄 関係資料／長田幹彦／長田幹彦 関係資料／中村汀女／中村汀女 関係資料／夏目漱石／夏目漱石 関係資料／蓮田善明／蓮田善明 関係資料／平川虎臣／平川虎臣 関係資料／淵上毛銭／淵上毛銭 関係資料／松岡荒村／松岡荒村 関係資料／光岡明／光岡明 関係資料／宮部寸七翁／宮部寸七翁 関係資料／安永蒨子／安永蒨子 関係資料／対象外作家（著編者名順）／対象外作家 ア行／対象外作家 カ行／対象外作家 サ行／対象外作家 タ行／対象外作家 ナ行／対象外作家 ハ行／対象外作家 マ行／対象外作家 ヤ行／対象外作家 ラ行／対象外作家 ワ行／書名索引・図書の部／書名作品 雑誌の部
2. 『耕治人文庫目録（熊本近代文学館目録 2）』 1991年3月29日 編集・発行：熊本県立図書館／熊本近代文学館 目次無し

館報

1. 『熊本近代文学館報』
 - 1-1. 『熊本近代文学館報』 第1号 1985年10月16日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：文学通してふるさと再発見（熊本近代文学館の開設に寄せて）（細川護熙）／熊本近代文学館ついにオープン／熊本近代文学館に望む（専門委員・熊本近代文学研究会）／熊本近代文学館の概要・展示の留意点／開館にあたりご協力いただいた方々・オープンまでの歩み
 - 1-2. 『熊本近代文学館報』 第2号 1987年1月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：文化創造の拠点へ（開館1年を過ぎて）（光岡明）／徳永直展開く／徳永直展

- に寄せて（中村青史）／木下順二展に寄せて（＝田康己）／中村汀女展に寄せて（岩下ゆう二）／日本談義展に寄せて（須田耕史）／文学館この一年／文学館情報（熊本文学散歩）
- 1-3. 『熊本近代文学館報』 第3号 1987年3月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：春の日のもの思い（小澤豪）／後藤是山展を開催他／徳永直と私（久保田義夫）
／不吉な蜘蛛（光岡明）／展示作家シリーズ（1） 戸川秋骨と島崎藤村（細川正義）
／なのはな浄土（星永文夫）／友の会のご案内（熊本近代文学館友の会規約）／文学館情報（主題別コーナー）
- 1-4. 『熊本近代文学館報』 第4号 1987年6月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：不孝と幸福（光岡明）／那須良輔展を開催他／展示作家シリーズ（2） 淵上毛銭詩の原郷・「詩想蝶」（今村潤子）／公開座談会「徳永直を語る」（抄録）（久保田・首藤・中村・森塚）／太郎まんだら 一蒼秀の人は山さん（福島次郎）／文学館情報（熊本近代文学館友の会）
- 1-5. 『熊本近代文学館報』 第5号 1987年9月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：尼ヶ崎一夜（安永露子）／ものに寄せる鈍感（光岡明）／展示作家シリーズ（3） 蔵原伸二郎 原始の《蒼鷺》（宮内俊介）／那須良輔氏講演会 鎌倉の文士たち（抄録）（那須良輔）／日暮れの惑い（須田耕史）／文学館情報（文学館界限）
- 1-6. 『熊本近代文学館報』 第6号 1987年12月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：拠点について（光岡明）／うまくいった裏（沖津正巳）／展示作家シリーズ（4） 小泉八雲（首藤基澄）／乾信一郎展を開催他／詩と真実展に寄せて（詩と真実編集委員一同）／訪問レポート 倫敦漱石記念館（宮尾尚）／文学館この一年／文学館情報（絵津花壇）
- 1-7. 『熊本近代文学館報』 第7号 1988年3月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：菜の花に寄せて（井芹俊郎）／竹を伐る話（堀川喜八郎）／展示作家シリーズ（5） 夏目漱石「人間」と「ことば」をめぐる（赤井恵子）／特殊追悼・耕治人氏（久保田義夫 光岡明）／《乾信一郎展に寄せて》乾氏の作品と私（上塚尚孝）／梅崎春生展開催／文学館情報（新作ビデオテープ）
- 1-8. 『熊本近代文学館報』 第8号 1988年6月6日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：私の「熊本情報」（乾信一郎）／小説以前のこと（光岡明）／展示作家シリーズ（6） 高群逸枝 「詩人高群逸枝の復権を」（中村青史）／梅崎恵津氏講演会 梅崎の日常（抄録）（梅崎恵津）／弔魂・宮本研（＝田康己）／葉祥明展を開催他
- 1-9. 『熊本近代文学館報』 第9号 1988年10月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：リラックスの形（光岡明）／耕治人氏のこと（久野啓介）／展示作家シリーズ（7） 篠原温亭 「新しい評価を待つ人」（中村青史）／葉祥明氏講演会抄録 「絵本・詩・人生」（葉祥明）／天草の文学展他／寄贈図書・雑誌紹介

- 1-10. 『熊本近代文学館報』 第10号 1989年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：文科ということにふれて（森一則）／子どものことばと自然（光岡明）／天草の海辺（島一春）／天草の文学（吉永忠志）／展示作家尻シリーズ（8）（須田耕史）／中村汀女追悼特集／熊日文学賞にみる現代熊本の作家展／文学館この一年
- 1-11. 『熊本近代文学館報』 第11号 1989年6月15日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：新聞と地方文化（橋元俊樹）／オキナワ（光岡明）／北原白秋展を開催他／追悼特集 耕治人／文学シンポジウム 文学の条件（甲斐・梶尾・橋元・光岡）
- 1-12. 『熊本近代文学館報』 第12号 1989年12月18日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：オリーブの岬（安永露子）／卒啄の機（光岡明）／映画「からたちの花」再見（久保節男）／イベント・「耕治人展」「北原白秋展」／宮本研展を開催他
- 1-13. 『熊本近代文学館報』 第13号 1989年12月18日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：地方から文学の再生を（中村青史）／汀女雑感（古江研也）／文学館この一年／耕治人展記念講演抄録 「耕治人 一人と文学」（渡辺勝夫）／特集 宮本研展／阿蘇の文学展他
- 1-14. 『熊本近代文学館報』 第14号 1990年3月20日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：山に向かう（光岡明）／研究社の態度について（首藤基澄）／熊本の詩人展に寄せて（堀川喜八郎）／劇作家宮本研の日常（宮本静）／文学館収蔵資料紹介／熊本の詩人展・文学館友の会活動報告
- 1-15. 『熊本近代文学館報』 第15号 1990年6月25日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：もう一つの照葉樹林文化（三浦洋一）／「書く作業」のこと（1）（光岡明）／文学論争よ、おこれ（中村青史）／展示作家シリーズ（9） 種田山頭火 「山頭火、山へ」（星永文夫）／展示作家シリーズ（10） 小山寛二（宮内俊介）／阿蘇の文学他／熊本の詩人展開催中
- 1-16. 『熊本近代文学館報』 第16号 1990年8月10日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：いい信号（久保田義夫）／「書く作業」のこと（2）（光岡明）／少年少女文学展に寄せて（竹崎有斐）／少年少女文学展開催中
- 1-17. 『熊本近代文学館報』 特別号 1990年8月20日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：詩集一覧（平成2年6月30日現在）／詩誌一覧

- 1-18. 『熊本近代文学館報』 第17号 1990年11月10日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：ロシアの凄み（沖津正巳）／「書く作業」のこと（3）（光岡明）／追想の荒木精之「荒木精之展」によせて（須田耕史）／竹崎有斐氏講演会 わたしがめぐり会った先生たち（抄録）（竹崎有斐）／展示作家シリーズ（11）平川虎臣 《吹き過ぎる風》をみつめて（木村一信）／荒木精之展開催中

- 1-19. 『熊本近代文学館報』 第18号 1991年2月25日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：作家との出会い（橋元俊樹）／「書く作業」のこと（4）（光岡明）／球磨の文学展に寄せて（高田泰次）／展示作家シリーズ（12）小山勝清 「球磨と小山勝清」（細川正義）／文学館この一年／荒木精之展シンポジウム「荒木精之の人と文学」（大江・堀川・松岡・須田）／球磨の文学展を開催

- 1-20. 『熊本近代文学館報』 第19号 1991年6月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：「あらすじ」人生（神山宗興）／日本人と自然その1 —Natureとの違い—（光岡明）／上林暁展に寄せて（首藤基澄）／球磨の文学展記念講演会 「球磨の文学～思い出すことごと」（抄録）（高田泰次）／図書館雑誌等寄贈者紹介・平成2年度近代文学館友の会活動報告／上林暁展を開催

- 1-21. 『熊本近代文学館報』 第20号 1991年9月10日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：「夜明け前」と御馬下の角小屋（長い魁一郎）／日本人と自然2 —Natureとの違い—（光岡明）／「小泉八雲展」に寄せて「耳なし芳一」の詩学（西成彦）／展示作家シリーズ（13）宗不早「歌壇に背を向け孤高の放浪」（鎌田吉豊）／寄贈者芳名／小泉八雲展開催中他

- 1-22. 『熊本近代文学館報』 第21号 1991年12月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：彼岸の鬼たち（吉村滋）／日本人と自然その3 —Natureとの違い—（光岡明）／小泉八雲展記念講演会「ヘルンと私」（抄録）（小泉時）／「熊本の歌人展」に寄せて（安永露子）／「小泉八雲展」を終えて

- 1-23. 『熊本近代文学館報』 第21号別冊 1991年12月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：歌集一覧（平成3年10月31日現在）／熊本歌壇略年譜

- 1-24. 『熊本近代文学館報』 第22号 1992年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：文学は残る（松岡智）／日本人と自然その3 —Natureとの違い—（光岡明）
／「菊池川流域の文学展」に寄せて（中村青史）／平成3年度文学館友の会事業／展
示作家シリーズ（14） 蓮田善明 《末期の眼》の作家（永田満徳）／図書・雑誌等
寄贈者芳名／「菊池川流域の文学展」を開催

1-25. 『熊本近代文学館報』 第23号 1992年6月15日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：物を書く動機（波木里正吉）／汀女先生から教わったこと（上）（光岡明）／林
房雄ノート —「林房雄展」によせて—（首藤基澄）／「菊池川流域の文学と文学者
たち」（抄録）（中村青史）／展示作家シリーズ（15） 徳永直 「徳永直と米村鉄蔵」
（久保田義夫）／林房雄展・新作ビデオテープ紹介

1-26. 『熊本近代文学館報』 第24号 1992年9月15日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：日本語で書くということ（姜信子）／汀女先生から教わったこと（下）（光岡明）
／不知火海沿岸の文学（犬童進一）／不知火海沿岸の文学展

1-27. 『熊本近代文学館報』 第25号 1993年1月15日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：ブンガク・クエスト《取扱説明書》（梶尾真治）／林房雄展記念講演会「林房雄
とその時代」（抄録）（村松剛）／展示作家シリーズ（17） 竹崎有斐「人生を問う文
学」（村田秀明）／日本の唱歌展・日本の唱歌展に寄せて

1-28. 『熊本近代文学館報』 第26号 1993年3月15日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：デラシネの耳と熊本（尾形惇）／清水町万石（光岡明）／「熊本の俳人展」に
寄せて（今村潤子）／展示作家シリーズ（17） 木下順二と信仰（金戸清高）／文学
館この一年／熊本の俳人展・日本の唱歌展「講演会・唱歌コンサート」

1-29. 『熊本近代文学館報』 特別号 1993年5月31日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：句集出版一覧・句碑一覧

1-30. 『熊本近代文学館報』 第27号 1993年7月15日 編集・発行：熊本近代文学
館

収録：作家の観察眼（西村一成）／文学館友の会特別講演会「時代が求める文章と発
想」（抄録）（内藤厚）／月花を出でず（「安永露子展」に寄せて）（安永露子）／「安
永露子展」・「熊本の俳人展」を見て

1-31. 『熊本近代文学館報』 第28号 1993年10月15日 編集・発行：熊本近代文
学館

収録：せんば山の狸（今村葦子）／熊本の俳人展記念講演会「熊本の風土と俳句」（抄

録) (長谷川權) / 「熊本城下町の文学展 (I)」に寄せて (宮内俊介) / 石光真清と石光真人 (石光真琴) / 熊本の俳人展記念 投句作品から

1-32. 『熊本近代文学館報』 第 29 号 1993 年 12 月 15 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：年はとるもの (伊藤比呂美) / 安永蒔子展記念講演会「姉・安永蒔子とその歌」 (抄録) (永畑道子) / 竹崎有斐氏を悼む / 熊本城下町の文学展 (I) 記念・講演会と映写会開く

1-33. 『熊本近代文学館報』 第 30 号 1994 年 3 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：父子家庭 (石田比呂志) / 熊本城下町の文学展 (I) 記念講演会「熊本と石光家」 (抄録) (石光真琴) / 山頭火のいた熊本の町 (「山頭火と熊本展」に寄せて) (井上智重) / 展示作家シリーズ (18) 松岡荒村一正気の歌 (古江研也) / 山頭火と熊本展・文学館この一年

1-34. 『熊本近代文学館報』 第 31 号 1994 年 6 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：春浪天狗兄 (たつみや章) / 文学館友の会特別講演会「いかに書くか いかに書かないか」 (抄録) (阿部達児) / 竹崎有斐さんの人柄と作品 (中田幸作) / 竹崎祐斐展・友の会この一年

1-35. 『熊本近代文学館報』 第 32 号 1994 年 9 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：たまゆらのわが九月 (星永文夫) / 山頭火と熊本展記念講演会「山頭火と熊本」 (抄録) (村上護) / 展示作家シリーズ (19) 中村汀女一処女句集「春雪」 (今村潤子) / 再び詩人高群逸枝の復権を (「高群逸枝展」に寄せて) (中村青史) / 高群逸枝展・池辺三山あての漱石の書簡

1-36. 『熊本近代文学館報』 第 33 号 1994 年 12 月 26 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：アンネ・フランクとの出会い (野中輝明) / 竹崎有斐展記念講演会「竹崎有斐を語る」 (抄録) (前川康男) / 展示作家シリーズ (20) 徳富蘇峰の文学 (中村青史) / 宮本武蔵について (「熊本城下町の文学展 (II)」に寄せて) (首藤基澄) / 熊本城下町の文学展 (II)・高群逸枝展を見て

1-37. 『熊本近代文学館報』 第 34 号 1995 年 3 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：ちから梅 (清田由井子) / 高群逸枝展記念講演会「時代の風雲と高群逸枝」 (抄録) (中村青史) / 展示作家シリーズ (21) 井上微笑 (永田満徳) / 展示作家シリーズ (22) 玄耳の熊本 (米村恒憲) / 文学館この一年

- 1-38. 『熊本近代文学館報』 第 35 号 1995 年 6 月 20 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：生きて動く文学館に（光岡明）／文学館友の会特別講演会「文学を愛する方たちへ」（抄録）（光岡明）／光岡さんに感謝する（三浦洋一）／十年一日・近代文学館のこと（安永蒨子）／漱石と子規 愚陀佛庵 100 年展・友の会この一年
- 1-39. 『熊本近代文学館報』 第 36 号 1995 年 9 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：文学は、刃を秘めた花（永畑道子）／熊本城下町の文学展（II）記念講演会「宮本武蔵の生涯」（抄録）（島田真祐）／宮部寸七翁の境涯 一現も夢も冴え返る一（星永文夫）／漱石と子規 愚陀佛庵 100 年展を見て（木村隆之）／漱石と子規 愚陀佛庵 100 年展で記念講演会／熊本近代文学館長に永畑道子氏
- 1-40. 『熊本近代文学館報』 第 37 号 1995 年 12 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：「永畑新館長の就任を喜ぶ」（平山謙二郎）／「漱石と子規・熊本」―「坊っちゃん」と「草枕」をめぐって― 《熊本近代文学館イベント「漱石と子規 愚陀佛庵一〇〇年展」記念講演会》（平尾敏夫）／展示作家コーナー（24）長田秀雄 ―イプセンと『歓楽の鬼』―（田康己）／農民文学展に寄せて（松岡智）／農民文学展／友の会文集第三号発刊／永畑道子近代文学館長講演会／《寄贈資料紹介》
- 1-41. 『熊本近代文学館報』 第 38 号 1996 年 3 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：「靄の晴れるまで」（柘植周子）／『『雙蝶』―透谷と蘇峰・取材の道―』 《近代文学館友の会特別講演会・抄録》（永畑道子）／展示作家コーナー（25）徳富蘆花（中村青史）／「農民文学展」開催中／友の会この一年／文学館この一年
- 1-42. 『熊本近代文学館報』 第 39 号 1996 年 8 月 25 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：「男と犬」（藤坂信子）／「医者の一揆 土を求めて」 《熊本近代文学館特別展「農民文学展」記念講演会・抄録》（竹熊宜孝）／展示作家シリーズ（26）「耕治人氏の強さ」（久保田義夫）／漱石来熊一〇〇周年に寄せて（1）「漱石の俳句遺産」（星永文夫）／「熊本近代文学館収蔵品展」／「熊本近代文学館一〇年史」発刊／漱石来熊一〇〇周年記念行事
- 1-43. 『熊本近代文学館報』 第 40 号 1996 年 9 月 1 日 編集・発行：熊本近代文学館
 収録：「子どもの目の丈から、自分捜しへ」（中山節夫）／《漱石来熊一〇〇周年に寄せて（2）》「草枕」の舞台（首藤基澄）／《くまもと・映画一〇〇年展に寄せて》わがシネマ・パラダイス―映画館変遷考―（藤川治水）／熊本の映画人たち（井上智

- 重) / 興行から見た「映画一〇〇年」(辻昭次郎)
- 1-44. 『熊本近代文学館報』 第41号 1997年1月10日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：維摩経より(立松和平) / 映画と文学 《近代文学館友の会特別講演会 抄録・前編》(篠田正浩) / 徳富蘆花の「人道主義」 — 「謀反論」の五つの要素— (堤克彦) / くまもと・乱の文学展 I / くまもと・映画一〇〇年展 記念上映会他
- 1-45. 『熊本近代文学館報』 第42号 1997年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：天草に想う(福島譲二) / 映画と文学 《近代文学館友の会特別講演会 抄録・後編》(篠田正浩) / 映画「幕末太陽伝」の美術監督 中村公彦氏に聞く(中村公彦・井上智重)
- 1-46. 『熊本近代文学館報』 第43号 1997年7月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：名を汚すまじ(松永茂生) / 不旱のやさしさ(高橋伯夫) / 「五則の靴」紀行と天草のキリシタン文化 《熊本近代文学館特別展「くまもと・乱の文学展(一) 記念講演会 抄録」(濱名志松) / 映画「沈黙」の解説 《熊本近代文学館友の会 映画上映会 解説・抄録》(藤川治水) / 「島・豊饒の時—宮古の心と文化」ビデオ上映会開催 / 文学館この一年
- 1-47. 『熊本近代文学館報』 第44号 1997年11月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：わが五高(木下順二) / 五高、人と文学展に寄せて(首藤基澄) / 第五高等学校開校一一〇周年に寄せて(内田健三) / シリーズ「私と文学」第一回(中西輝政著『大英帝国衰亡史』(稲垣精一) / 獄中日記『死出の道艸』と私(水間摩遊美) / 『苦海浄土 わが水俣病』との出会い(丸山定巳) / 『夜汽車』ができるまで(田代格) / 文学館からのお知らせ
- 1-48. 『熊本近代文学館報』 第45号 1998年2月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：狂い道(飯尾憲士) / 『文学』との関わり(吉井恵璃子) / ミシェル・ペロー女史を囲む会(恋、そして革命—ジョルジュ・サンドと与謝野晶子 公開討論抄録(前編)) / シリーズ「私と文学」第二回(「君は吉村昭の『巖嵐』を読んだか」(小口崇彦) / 我がふるさとと文芸活動(久家サワ子) / 「負の論理」(藤岡雅彦) / 私と読書(中尾富枝))
- 1-49. 『熊本近代文学館報』 第46号 1998年4月5日 編集・発行：熊本近代文学館
収録：役にたたない人間は役にたたないのか(米倉齊加年) / ミシェル・ペロー女史

を囲む会〈恋、そして革命—ジョルジュ・サンドと与謝野晶子 公開討論抄録（後編）〉
／シリーズ「私と文学」第三回〈真面目な本も読んで来たが…（島田真祐）／二つ
の出会い（松下紘一郎）／文学と私（大我孝）〉

1-50. 『熊本近代文学館報』 第47号 1998年7月5日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：小楠の教えるもの（花立三郎）／横井小楠の強さと弱さ—『不屈正也』と隠棲願望（堤克彦）／くまもと・乱の文学展（II）記念講演会〈「反乱の時代と熊本」抄録〉
／シリーズ「私と文学」第四回〈我が師は飯尾憲士こと“憲ちゃん”（末吉駿一）／施肥（野村陽子）／本（山口則男）／野上兄妹との出会いから（村田由美）〉

1-51. 『熊本近代文学館報』 第48号 1998年11月5日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：木下順二の世界（江藤文夫）／熊本近代文学館特別展「横井小楠展」記念講演
〈横井小楠の経済思想—富国論の現代的意義—（山崎益吉）〉／シリーズ「私と文学」
第五回〈隣人の書棚の高橋和巳（松下純一郎）／栃の実（沖田真通子）／カマキリ（檜
室道人）／子どもの本屋の恐怖（小宮楠緒）／華麗なる美術の裏の歴史（尾本直子）〉

1-52. 『熊本近代文学館報』 第49号 1999年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：江戸の風と大野酒竹（あざ蓉子）／熊本近代文学館特別展「木下順二の世界展」
記念講演会〈木下順二の劇とことば（江藤文夫）〉／シリーズ「私と文学」第六回〈中
国史つまみ喰い（岡村じゅん）／福田先生の導き（大庭照子）／文学での出会い（山
口力男）／日々のたのしみ（山口かな）〉

1-53. 『熊本近代文学館報』 第50号 1999年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：青春の系譜のなかで（永畑道子）／カレンダー（三浦洋一）／岸辺の文学館の
ために（安永蒨子）／曲がり角の掛け声（光岡明）／シリーズ「私と文学」第七回〈逆
境から芽をふく（波止杏一）／フィリピンの歴史（森本修代）／私と文学（丹後杏一）
／ヒースの荒野に憧れて（竹田尚子）〉／文学館この一年（平成十年度）

1-54. 『熊本近代文学館報』 第51号 1999年7月15日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：ひかりの群れに（高嶋和恵）／近代文学館特別展「徳富蘇峰展」記念講演会〈熊
本人蘇峰（中村青史）〉／新収蔵資料の紹介／シリーズ「私と文学」第八回〈私と文学
（妹尾義徳）／念ずれば花ひらく（井上康秋）／二人の師（橋本正勝）／原点の一冊
（加藤みゆき）〉

1-55. 『熊本近代文学館報』 第52号 1999年10月20日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：詩人丸山薫と熊本（岩本晃代）／夏の旅（宮崎静夫）／“東条暗殺”に動いた二人の先達 — 「武道・スポーツと文学展」に寄せて—（松永茂生）／シリーズ「私と文学」第九回〈草紅花—文学の道を選んで—（福田喜交）／私と文学（広田恭子）／私と文学（楢木野史貴）／本が好き（山村由紀子）〉

1-56. 『熊本近代文学館報』 第53号 2000年3月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：「生誕百年展」について（川端香男里）／熊本近代文学館特別展「生誕百年展」記念講演会〈百年の昔「油麻藤の花」の背景（中村青史）〉／シリーズ「私と文学」第十回〈董ほどな——（釜良之介）／黒きスカーフ（富田豊子）／あこがれの地（野口祥子）〉

1-57. 『熊本近代文学館報』 第54号 2000年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：回想の“せんだんとどろ”（須田耕史）／シリーズ「私と文学」第十一回〈文學？源點的漫畫（前田浩文）／脈絡なき読書歴（土田隆）〉／「くまもと女性史研究会」講演会抄録〈くまもと・華麗なる風土（前編）（安永蒨子）〉／文学館この一年（平成十一年）

1-58. 『熊本近代文学館報』 第55号 2000年7月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：俳句深耕（首藤基澄）／シリーズ「私と文学」第十二回〈立志小説の名手がいいた（山本博昭）／私と文学（和泉志乃部）〉／「夫婦でよく散歩されていた…」 — 伊香保温泉旅館主が語る蘆花の思い出（松永茂生）／「くまもと女性史研究会」講演会抄録〈くまもとの女性と風土（後編）（安永蒨子）〉

1-59. 『熊本近代文学館報』 第56号 2000年12月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：曼珠沙華（由宇とし子）／シリーズ「私と文学」第十三回〈宣長様……（上原優子）／本との出会い（三浦房江）〉／近代文学館特別展「二〇〇〇年百人一句展」記念講演会〈現代俳句の世界（星永文夫）〉／新収蔵資料の紹介

1-60. 『熊本近代文学館報』 第57号 2001年2月20日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：上林町の思い出（山崎貞士）／近代文学館特別展「中村汀女展」記念講演会〈江津湖の化身（今村潤子）〉／シリーズ「私と文学」第十四回〈私と文学（岩井宏一郎）／文学も“孤高”ではいけない？（南村寒司）／大河ドラマと歴史認識（野口健一郎）／私と文学（和田正隆）〉

1-61. 『熊本近代文学館報』 第58号 2001年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：「語り」の可能性（中山智香子）／掃苔漫步（河上良輝）／『くまもとの女性史』を通して（井芹さゆり）／徳永直が語った人生観（松永茂生）／文学館この一年（平成12年度）／シリーズ「私と文学」第十五回〈やっぱり『猫』が好き（松島利昭）／少年の私との対話（三国隆昌）／文学を趣味にしたら…（高浜州賀子）／わたしの素顔（柳原薫）〉

1-62. 『熊本近代文学館報』 第59号 2001年9月30日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：館長就任二カ月の弁（久野啓介）／「文学作品を読み、語り合う会」の活動について（丹後杏一）／地下鉄、小さな物語（吉田優子）／シリーズ「私と文学」第十六回〈私と文学（園田洋一郎）／砂漠へ（松竹洗哉）〉／近代文学館特別展「奇想の小説たち～SFの世界～」記念講演会〈ぼくのSF作法（梶尾真治）〉

1-63. 『熊本近代文学館報』 第60号 2002年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：荒木精之さんと私（藤川治水）／近代文学館特別展「荒木精之と日本談義展」記念講演会〈熊本近代史と荒木精之（松本健一）〉／文学館この一年（平成十三年度）／シリーズ「私と文学」第十七回〈文学と私（田川憲生）／私と文学（井上佳子）／私と文学（笹原正志）〉

1-64. 『熊本近代文学館報』 第61号 2002年9月1日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：時代を生きた歌人齋藤史（河野裕子）／熊本近代文学館特別巡回展〈「荒木精之と日本談義展」を終えて（山内理至）〉／「阿蘇の文学」の教材化（緒方宏章）／シリーズ 我が青春の一冊〈「愛と幻想のファシズム」（黒田武一郎）〉／図書館・近代文学館・友の会共催特別講演会〈「内なる灯」（石牟礼道子）〉

1-65. 『熊本近代文学館報』 第62号 2003年1月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：谷川雁のことなど（吉本隆明）／蓮田善明「有心」—純粋な生—（永田満徳）／シリーズ 我が青春の一冊〈「私の個人主義」（北山浩士）〉／占領下の子ども文化展特別講演会〈「未来をしんじたとき」（松井直）〉

1-66. 『熊本近代文学館報』 第63号 2003年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：勝手な想像スルベシ！（岡田智彦）／熊本近代文学館を利用した国語学習について（境真由美）／悟真寺の大銀杏（野村陽子）／シリーズ 我が青春の一冊〈「河童」（中村青史）〉／図書に見る宮本武蔵の世界展特別講演会〈「五輪書をめぐって」（大河内昭爾）〉

1-67. 『熊本近代文学館報』 第64号 2003年11月30日 編集・発行：熊本近代文

学館

収録：上林暁の新発見資料より〈「五高七高対戦記」(徳広巖城)〉／十七文字の限りない宇宙 一句会ライブ二〇〇三 in 北陵—(三池悦子)／「ハンセン病と文学展」特別講演会抄録〈「ハンセン病文学と北條民雄」(加賀乙彦)／新収蔵物紹介(小泉八雲書簡)〉

1-68. 『熊本近代文学館報』 第65号 2004年3月31日 編集・発行：熊本近代文学館

収録：「たゞ純文学の正当な進歩をのぞみ」 主義傾向を越えた雑誌『日本記録』の意味 一平川虎臣の新発見資料より—／「文壇登場の頃」 一平川虎臣の文藝復興—(中山秀人)／「谷川雁の世界展」特別講演会抄録〈「彼が居た」(鶴見俊輔)〉

記念誌

1. 『熊本近代文学館一〇年史』 1996年3月31日 編集・発行：熊本県立図書館／熊本近代文学館

収録：一 熊本近代文学館開館一〇周年にあたって〈生きることと、芸術(永畑道子)／一〇周年にあたって(清水包)／一〇年をふり返って(光岡明)／近代の見える講座三人トークと宮崎精一氏(安永露子)／文化の殿堂(首藤基澄)〉／二 熊本近代文学館のあゆみ〈(1) 特別展 [1 日本談義展／2 中村汀女展／3 木下順二展／4 徳永直展／5 後藤是山展／6 那須良輔展／7 収蔵品展／8 氏と眞實展／9 乾信一郎展／10 梅崎春生展／11 葉祥明展／12 収蔵品展／13 天草の文学展／14 現代熊本の作家展／15 耕治人展／16 北原白秋展／17 中村汀女展／18 宮本研展／19 阿蘇の文学展／20 熊本の詩人展／21 少年少女文学展／22 荒木精之展／23 収蔵品展／24 球磨の文学展／25 上林暁展／26 小泉八雲展／27 収蔵品展／28 熊本の歌人展／29 菊池川流域の文学展／30 収蔵品展／31 林房雄展／32 不知火海沿岸の文学展／33 日本の唱歌展／34 熊本の俳人展／35 安永露子展／36 熊本城下町の文学展 (I)／37 山頭火と熊本展／38 収蔵品展／39 竹崎有斐展／40 高群逸枝展／41 熊本城下町の文学展 (II)／42 漱石と子規 愚陀佛庵一〇〇年展]／(2) 特別展関連イベント／(3) 熊本近代文学館報・総目次／(4) 製作ビデオ一覧〉／三 熊本の近代文学のながれ〈(1) 散文／(2) 近代詩／(3) 短歌／(4) 俳句〉／四 熊本近代文学年表

【80】かごしま近代文学館

図録

1. 『鹿児島県の文学と風土 鹿児島近代文学館への招待』 1998年1月29日 発行：かごしま近代文学館
収録：新たな文学創造の拠点として（鹿児島市長 赤崎義則）／鹿児島の文学的風土（文芸評論家 尾崎秀樹）／文化発信の基点（早稲田大学名誉教授・日本近代文学館常任理事・山梨県立文学館館長 紅野敏郎）／常設展示 I 鹿児島ゆかりの6人の作家〈海音寺潮五郎／林芙美子／椋鳩十／梅崎春生／島尾敏雄／向田邦子〉／かごしま文学マップ／常設展示 II 鹿児島文学の群像（22人）〈有島武郎／有島生馬／里見弴／昇曙夢／山本實彦／古木鐵太郎／平林彪吾／妻木新平／一色次郎／黒田三郎／八田知紀／税所敦子／黒田清綱／高崎正風／吉井勇／萬造寺齊／森園天涙／杉田久女／山口誓子／篠原鳳作／藤後左右／福永耕二〉／かごしま近代文学館施設概要／利用案内／協力者一覧
2. 『図録「向田邦子の魅力」展』 1999年10月1日 編集・発行：かごしま近代文学館
収録：ご挨拶／プロローグ／顔 ～交流～／腹 ～食～／コラム（柿内扶仁子）／姿 ～ファッション～／コラム（向田和子）／手 ～作品世界～／コラム（深町幸男）／足 ～旅～／「故郷もどき」鹿児島の思い出／略年譜／エピローグ／展示資料目録／出品・協力者
3. 『図録 生誕一〇〇年記念「海音寺潮五郎」展 ～西郷隆盛をライフワークとした作家』 2000年10月1日 編集・発行：かごしま近代文学館
収録：ごあいさつ／「生誕百年展に寄せて」／海音寺潮五郎の文学の特色／構成 I 作家 海音寺潮五郎〈(1) 作家としての軌跡／(2) 海音寺の文学世界〉／構成 II 薩摩の快男児 海音寺潮五郎〈(1) 海音寺潮五郎と鹿児島／(2) 作品 西郷隆盛〉／構成 III 素顔に迫る〈(1) 家族／(2) 趣味／(3) 交遊〉／海音寺潮五郎と司馬遼太郎——「蒙古来る」と司馬の幻想小説——／海音寺潮五郎略年譜／展示資料目録
4. 『林芙美子展—花のいのちいはみじかくて—』 2001年10月11日 編集・発行：かごしま近代文学館
収録：開催にあたって／ごあいさつ／（石田忠彦）／I 林芙美子の作品とメディア／II 文壇での活躍〈(1) 代表作／(2) 作家との交流〉／III 家庭にて〈(1) 巴里からのラブレター／(2) 新宿の芙美子邸〉／鹿児島と林芙美子／子どもたちへの愛情／林芙美子略年譜／主な展示資料
5. 『椋鳩十の世界』 2004年10月8日 編集・発行：かごしま近代文学館
収録：開催にあたって／監修者挨拶（たかしよいち）／幼少年時代～感動は人生の窓を開く～／少年時代の思い出マップ／文学への目覚め～詩人、山窩小説家として～／教師として／児童文学作家として／椋鳩十動物物語の源泉の地（久保田瑤二）／キクイタダキ（久保田喬二）／図書館活動への情熱／図書館長 久保田彦穂（本村寿年）／晩年～力一杯今を生きる～／略年譜／主な展示資料

館報

1. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』

1-1. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 創刊号 1998年12月18日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：ごあいさつ（稗田正）／二つの望郷（濱里忠宜）／子どもの本の物語（文学講演会抄録）（森絵都）／メルヘンおはなし会／メルヘンえいが会／ライブラリーから／寄贈図書紹介／所蔵資料紹介／常設展示室／メルヘン館へようこそ／近代文学館・メルヘン館日誌／館からのご案内

1-2. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第2号 1999年3月5日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：ごあいさつ（赤崎義則）／特別企画展／開催にあたって（石田忠彦）／特別寄稿（吉井和子）／おはなし会・えいが会／ひな祭り行事／所蔵資料紹介／常設展示室／メルヘン館へようこそ／近代文学館・メルヘン館日誌／館からのご案内

1-3. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第3号 2000年2月28日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展／文学講演会／向田邦子作品朗読会／文学講座／夏休み子ども文学講座／メルヘンおはなし会・えいが会／所蔵資料紹介／メルヘンおりがみ教室／黒田三郎 詩集『流血』展／開館二周年記念事業

1-4. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第4号 2000年12月13日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展／特別寄稿／各種講座／文学講演会／夏休み移動展／詩人・藤田文江展／収蔵品展／写真パネル展／メルヘン館定例行事／館からのご案内

1-5. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第5号 2002年3月6日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展 林芙美子展／文学講演会／関連講座、文学映画会／夏休み子ども文学講座／ルンちゃん誕生／寺村輝夫原画展／所蔵資料から／館からのご案内

1-6. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第6号 2003年3月7日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展「夏目漱石・芥川龍之介展」／文学講演会・関連文学講座／文学散歩／ピーマン村の絵本原画展／逆さ絵パネル展／夏休み子ども文学講座／開館5周年記念イベント／メルくんルンちゃんのお部屋／館からのご案内

1-7. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第7号 2004年3月7日 発行：

かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展「かごしま文学紀行 一ゆかりの作家を訪ねて」／文学講演会・

関連文学講座／文学散歩／きたやまようこの絵本原画展／みんなおいでよポエムの国
へ「現代少年少女展・童謡詩展」／夏休みこども文学散歩「椋鳩十ってどんな人？」
／子ども読書会／館からのご案内

1-8. 『かごしま近代文学館・メルヘン館 館報』 第8号 2005年3月16日 発行：
かごしま近代文学館／かごしまメルヘン館

収録：特別企画展「生誕一〇〇周年記念 椋鳩十の世界」／文学講演会・関連文学講
座／文学散歩／あきやまただしの絵本原画展／ちぎり絵紙芝居「奄美の民話」展／夏
休みこども文学散歩「椋鳩十ってどんな人？」／朗読ふるさとの文学／こども読書会
／館からのご案内

2. 『かごしま近代文学館・メルヘン館年報』

2-1. 『かごしま近代文学館かごしまメルヘン館年報 平成11年度』 2001年2月

収録：1 沿革／2 施設概要／3 かごしま近代文学館〈(1) 常設展示室 I／(2) 常
設展示室 II／文学サロン／文学ホール／ライブラリー〉／4 かごしまメルヘン館
〈(1) 人形たちの広場／(2) メルヘンの小径／(3) 不思議の卵／(4) 空想スタジ
オ／(5) メルヘンホール／(6) 親子読書コーナー〉／5 事業概要〈(1) かごしま
近代文学館／(2) かごしまメルヘン館〉／6 収蔵資料概況／7 博物館実習／8 管
理運営〈(1) 利用状況／(2) 財団法人鹿児島市教育施設管理公社の概要／(3) 主な
事務分掌／(4) 消防計画／9 かごしま近代文学館条例／10 かごしまメルヘン館条
例

2-2. 『かごしま近代文学館・メルヘン館年報 平成12年度』 2001年8月

収録：1 沿革／2 施設概要／3 かごしま近代文学館〈(1) 常設展示室 I／(2) 常
設展示室 II／文学サロン／文学ホール／ライブラリー〉／4 かごしまメルヘン館
〈(1) 人形たちの広場／(2) メルヘンの小径／(3) 不思議の卵／(4) 空想スタジ
オ／(5) メルヘンホール／(6) 親子読書コーナー〉／5 事業概要〈(1) かごしま
近代文学館／(2) かごしまメルヘン館〉／6 収蔵資料概況／7 博物館実習／8 管
理運営〈(1) 利用状況／(2) 財団法人鹿児島市教育施設管理公社の概要／(3) 主な
事務分掌／(4) 消防計画／9 かごしま近代文学館条例／10 かごしまメルヘン館条
例

2-3. 『かごしま近代文学館・メルヘン館年報 平成13年度』 2002年8月

収録：1 沿革／2 施設概要／3 かごしま近代文学館〈(1) 常設展示室 I／(2) 常
設展示室 II／文学サロン／文学ホール／ライブラリー〉／4 かごしまメルヘン館
〈(1) 人形たちの広場／(2) メルヘンの小径／(3) 不思議の卵／(4) 空想スタジ
オ／(5) メルヘンホール／(6) 親子読書コーナー〉／5 事業概要〈(1) かごしま
近代文学館／(2) かごしまメルヘン館〉／6 収蔵資料概況／7 博物館実習／8 管
理運営〈(1) 利用状況／(2) 財団法人鹿児島市教育施設管理公社の概要／(3) 主な

事務分掌／(4) 消防計画／9 かがしま近代文学館条例／10 かがしまメルヘン館条例

2-4. 『かがしま近代文学館・メルヘン館年報 平成14年度』 2003年7月

収録：1 沿革／2 施設概要／3 かがしま近代文学館〈(1) 常設展示室1／(2) 常設展示室2／文学サロン／文学ホール／ライブラリー〉／4 かがしまメルヘン館〈(1) 人形たちの広場／(2) メルヘンの小径／(3) 不思議の卵／(4) 空想スタジオ／(5) メルヘンホール／(6) 親子読書コーナー〉／5 事業概要〈(1) かがしま近代文学館／(2) かがしまメルヘン館〉／6 収蔵資料概況／7 博物館実習／8 管理運営〈(1) 利用状況／(2) 財団法人鹿児島市教育施設管理公社の概要／(3) 主な事務分掌／(4) 消防計画／9 かがしま近代文学館条例／10 かがしまメルヘン館条例

2-5. 『かがしま近代文学館・メルヘン館年報 平成15年度』 2004年8月

収録：1 沿革／2 施設概要／3 かがしま近代文学館〈(1) 常設展示室1／(2) 常設展示室2／文学サロン／文学ホール／ライブラリー〉／4 かがしまメルヘン館〈(1) 人形たちの広場／(2) メルヘンの小径／(3) 不思議の卵／(4) 空想スタジオ／(5) メルヘンホール／(6) 親子読書コーナー〉／5 事業概要〈(1) かがしま近代文学館／(2) かがしまメルヘン館〉／6 収蔵資料概況／7 博物館実習／8 管理運営〈(1) 利用状況／(2) 財団法人鹿児島市教育施設管理公社の概要／(3) 主な事務分掌／(4) 消防計画／9 かがしま近代文学館条例／10 かがしまメルヘン館条例

【81】川内まごころ文学館

図録

1. 『川内まごころ文学館 オープニング図録 川内文芸の水脈 ～「白樺」と「改造」の世界を中心に～』 2004年1月30日 発行：川内まごころ文学館

収録：目次／開設の主旨／文学館展示のご案内／川内文芸の水脈の発見と創造 ～水景文化都市の柱として（森卓朗）／川内まごころ文学館の開館に寄せて 一有島・里見文芸資料と総合雑誌「改造」関係資料の二本柱の特質一（紅野敏郎）／【常設展示1】「有島三兄弟とくに里見弴の文芸世界」〈有島武と三兄弟 [有島芸術の源流父武について／有島一家の系譜／有島三兄弟の芸術／西洋の風、平佐の風一有島兄弟の源流一（犬塚孝明）／有島武語録]／里見弴の文芸世界 [里見文学開眼と自己確立～「和而不同」～／戦時下での里見弴と戦後の生き方／里見弴のまごころ哲学／里見弴「藝」の世界～人間と文芸の調和～／川内と里見弴・有島生馬／里見弴の死と評価／歳月（山内静夫）／郷

土ゆかりの芸術家たちの世界】／【常設展示 2】／プロローグ「山本實彦の物語」／山本實彦と改造社（三島盛武）／「改造社に残された二百余名の直筆原稿の世界」〈「改造」創始者山本實彦について／改造社の育んだベストセラー作家たち／實彦へ・作家からの書簡／総合雑誌「改造」で活躍した作家たち／文学館開館に寄せて（山邊美佐枝）／實彦・郷土から世界へ—改造社と世界的文化人たち—〉／【施設案内】／【顕彰者一覧・協力者一覧】／【利用案内】

2. 『総合雑誌『改造』直筆原稿収蔵図録』 2004年3月31日 編集：川内まごころ文学館 発行：川内まごころ文学館

収録：はじめに（紅野敏郎）／改造社関連資料来川の記（桐原大明）／1 菊池館「此の頃の感想」・「競馬談」／2 芥川龍之介 「或旧友へ送る手記」・「続西方の人」／3 直木三十五 「討たず斬り」／4 谷崎潤一郎 「芸術一家言」／5 横光利一 「持病と弾丸」・「婦人」・「春婦」・「純粹小説論」／6 井伏鱒二 「波高島」／7 武者小路実篤 「或る男」／8 大佛次郎 「ドレフェス事件」／9 広津和郎 「藤村覚え書」／10 瀧井孝作 「無限抱擁」／11 石坂洋次郎 「フィリッピン共和国通信」／12 林芙美子 「放浪記あとがき」・「スマトラ」／13 火野葦平 「敵將軍」／14 堺利彦 「堺利彦伝」／15 賀川豊彦 「貧民窟の夏」／16 伊藤野枝 「火つけ彦七」／17 小林多喜二 「工場細胞」／18 河東碧梧桐 「書簡より見たる子規」／19 高濱虚子 「小諸雑詠」・「平凡化された漱石」／20 吉井勇 「土佐に入る」／21 高村光太郎 「某月某日」／22 室生犀星 「日録」／23 三好達治 「朝」・「鴉」／24 バートランド・ラッセル 「工業主義の内的傾向」／〔コラム〕改造社と白樺の作家たち／【山本實彦資料】／「山本實彦先生小伝」（西園廣志講述）／「百難克服の碑」（亀山小学校校区民一同）／編集後記／川内まごころ文学館利用案内

3. 『〈薩摩川内市誕生記念〉川内まごころ文学館 開館・姉妹間盟約1周年特別企画展 新・有島三兄弟展図録』 2005年2月8日 編集：川内まごころ文学館 発行：薩摩川内市川内まごころ文学館

収録：本展の趣旨／市長あいさつ／監修あいさつ／教育長あいさつ／有島三兄弟遺族代表あいさつ／有島武郎 ～その芸術と死の周辺～〈武郎の書と生と／武郎の文学と生と〉／有島生馬 ～己と人をいかしたその大きな歩み～〈生馬の画業の歩み／生馬の文筆活動〉／里見淳 ～その多芸多才・円熟の生～〈淳の縦横無尽な芸の世界／淳の小説／淳の脚本／淳の随筆〉／開館式典風景／姉妹間盟約式典風景／姉妹間3館長あいさつ／有島三兄弟年譜／利用案内、協力者一覧

作家名索引

以下に示しているのは、〔付属資料 1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕についての索引である。排列は作家名の五十音順とした。

この索引に収録した作家名は、各文学館の「図録」または「目録」の書名に記述されているか、あるいは個人文学館の館名として名を連ねている人物のみを収録対象とし、「図録」と「目録」以外の発行物の書名や目次のみに登場する作家名については、収録を割愛している。その代わりに、「図録」と「目録」の書名に記述された作家名は、その全てを収録対象とするため、一部に「近世」以前の人物や、海外の作家なども含まれているが、それぞれの文学館の活動方針を尊重したいがため、一方的にそれらを除外することはせず、他の作家と同等に扱っている。

また、収録対象となる作家については、全文学館の発行物の書名と目次から、該当する箇所を全て拾い出している。

あ	
会津八一, 159, 168, 176, 184, 189, 295, 296, 400, 406, 413, 599, 600, 740	548, 550, 551, 552, 553, 556, 558, 559, 560, 561, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 580, 581, 582, 583, 591, 592, 597, 601, 612, 644, 648, 669, 680, 694, 695, 700, 702, 703, 750, 766, 772, 804, 807
相葉有流, 38, 159, 168, 170, 176, 177, 184	朝田晃彦, 161, 162
青山毅, 225, 563	足立源一郎, 560, 561, 580
赤木桁平, 252, 260, 367, 373, 384, 560, 580	安部公房, 55, 228, 236, 413, 532, 592
あがた森魚, 19, 24	阿部知二, 220, 263, 326, 592, 676, 677, 679, 685, 686, 687, 689, 692, 715
秋田雨雀, 34, 69, 72, 74, 76, 77, 78, 366, 367, 369, 370, 373	阿部米太郎, 168, 170, 175, 184
芥川龍之介, 30, 52, 60, 61, 140, 178, 224, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 257, 258, 259, 262, 263, 264, 266, 276, 277, 278, 279, 281, 282, 283, 284, 286, 287, 289, 290, 299, 307, 310, 312, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 379, 380, 384, 386, 387, 391, 392, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 404, 409, 410, 411, 427, 506, 511, 512, 517, 527, 532, 534, 536, 545,	有島生馬, 16, 26, 152, 157, 252, 260, 268, 366, 367, 368, 373, 379, 380, 388, 398, 399, 488, 510, 526, 548, 559, 634, 803, 806, 807
	有島武郎, 16, 26, 27, 29, 37, 38, 43, 48, 53, 54, 56, 59, 60, 77, 140, 156, 251, 252, 260, 262, 266, 276, 277, 281, 282, 286, 287, 309, 312, 368, 371, 373, 374, 379, 380, 388, 390, 393, 394, 397, 398,

402, 404, 408, 510, 526, 544, 545, 548,
559, 577, 593, 803, 807
有本芳水, 398, 676, 677, 681, 684, 686,
690, 696, 700
安藤鶴夫, 203, 207
安藤元雄, 88, 107, 193, 195, 200, 239,
242, 243, 397, 418, 524, 592, 593, 594
安積良齋, 141
安野光雅, 514, 665, 684, 697

い

飯田蛇笏, 39, 40, 41, 179, 292, 429, 461,
550, 551, 553, 556, 557, 558, 559, 564,
565, 566, 567, 569, 570, 571, 572, 573,
574, 576, 577, 578, 581, 582, 583, 626
猪狩満直, 31, 41, 131, 133, 136, 137, 174
生田勉, 238, 241
池田満寿夫, 194, 224, 512
池田勇八, 247, 249
池波正太郎, 224, 229, 237, 585, 586, 587,
588
池辺三山, 252, 261, 378, 379, 398, 399,
418, 545, 565, 796
石井研堂, 139, 141
石川啄木, 20, 21, 22, 26, 37, 38, 39, 41,
49, 51, 56, 71, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 91,
94, 97, 102, 107, 108, 110, 132, 167,
168, 175, 187, 228, 252, 260, 262, 263,
265, 266, 270, 275, 277, 280, 282, 283,
284, 285, 287, 293, 294, 296, 297, 298,
301, 383, 389, 390, 397, 407, 408, 409,
410, 552, 556, 559, 682, 696, 724, 766,
767, 771, 773
石坂洋次郎, 69, 70, 76, 77, 78, 219, 267,
387, 579, 807

泉鏡花, 156, 265, 266, 275, 283, 284, 285,
287, 373, 379, 418, 421, 512, 513, 529,
540, 548, 552, 601, 602, 603, 604, 606,
608, 609, 610, 611, 682, 696, 697, 701,
709, 767
一原有徳, 21, 25
伊藤信吉, 97, 102, 158, 159, 160, 161,
162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169,
174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181,
182, 183, 184, 185, 186, 187, 190, 191,
192, 194, 198, 199, 256, 263, 267, 277,
287, 294, 296, 302, 316, 342, 360, 361,
384, 389, 393, 408, 409, 415, 511, 525,
528, 531, 541, 590, 593, 612, 614, 622,
623, 657, 717
伊藤整, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27,
31, 36, 37, 38, 40, 41, 43, 44, 47, 48, 51,
54, 58, 219, 252, 257, 262, 263, 266,
268, 271, 282, 283, 284, 287, 295, 296,
314, 318, 389, 397, 401, 404, 405, 423,
565, 566, 567, 669
稲垣達郎, 250, 251, 252, 253, 257, 258,
259, 261, 262, 263, 267, 268, 271, 275,
277, 279, 282, 284, 287, 289, 290, 292,
294, 296, 298, 301, 303, 306, 307, 318,
337, 357, 358, 363, 374, 375, 377, 384,
385, 386, 388, 389, 391, 392, 393, 394,
395, 396, 397, 398, 400, 403, 506, 507,
522, 523, 541
井上通泰, 87, 212, 676, 677, 678, 686,
687, 689, 692, 708
井上靖, 16, 17, 20, 39, 52, 55, 76, 86, 88,
89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 99,
100, 142, 219, 220, 225, 226, 234, 235,
251, 252, 253, 254, 256, 257, 258, 269,
277, 282, 294, 357, 390, 397, 401, 403,

409, 490, 508, 516, 522, 523, 535, 541,
600, 601, 605, 609, 610, 611, 679, 693,
699, 704
井伏鱒二, 108, 184, 185, 203, 208, 266,
278, 279, 421, 507, 531, 552, 554, 555,
556, 559, 560, 564, 565, 566, 567, 568,
572, 574, 575, 579, 583, 713, 714, 715,
716, 765, 770, 807
入沢康夫, 131, 134, 136, 137, 193, 195,
227, 312, 404, 511, 529, 532, 535, 622,
634, 720
岩野泡鳴, 38, 147, 156, 266, 270, 283,
284, 296, 298, 365, 366, 367, 368, 369,
373, 375, 389, 390, 411, 554, 556, 576,
713

う

植松壽樹, 252, 260, 609
臼井吉見, 262, 263, 268, 387, 392, 588
宇野浩二, 37, 252, 261, 266, 268, 276,
277, 369, 370, 371, 372, 373, 378, 379,
384, 386, 387, 398, 412, 416, 417, 506,
545, 556
宇野千代, 48, 194, 220, 253, 254, 255,
359, 373, 401, 405, 509, 525, 553, 555,
564, 575, 583

え

江口きち, 167, 175, 176, 177, 181, 182
江代充, 194, 202
遠藤周作, 109, 220, 224, 232, 233, 254,
256, 263, 385, 401, 403, 419, 511, 527,
591, 592, 593, 788, 789

お

扇畑忠雄, 38, 83, 86, 87, 88, 91, 92, 94,
97, 99, 100, 101, 108, 116, 118, 130,
160, 163, 168, 557, 757
大岡昇平, 188, 204, 219, 251, 253, 268,
279, 287, 294, 298, 335, 380, 385, 398,
400, 401, 402, 405, 416, 507, 508, 513,
522, 523, 524, 531, 535, 548, 560, 765,
783
大塚正基, 219, 222, 679, 685, 691
大手拓次, 159, 169, 173, 174, 175, 176,
177, 180, 194, 200, 297, 298, 531
大伴家持, 678
大野林火, 183, 184, 292, 389, 430, 433,
461, 462, 463, 464, 478, 480, 481, 512,
518
大原富枝, 111, 222, 255, 269, 401, 409,
412, 523, 553, 574, 593, 763, 765, 770,
771, 774, 777
岡榮一郎, 372, 601, 608
小笠原克, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 27, 28,
33, 34, 35, 36, 40, 43, 45, 46, 47, 49, 53,
56, 57, 61, 267, 279, 296, 307, 384,
390, 402, 410, 564
尾形龜之助, 101, 102, 105, 110, 134
岡松和夫, 412, 509, 513, 514, 516, 521,
525, 528, 529, 536, 540, 779
岡本かの子, 516, 222, 252, 255, 370, 371,
372, 379, 384, 387, 393, 404, 544, 545,
548, 552, 691
小熊秀雄, 18, 20, 24, 31, 32, 39, 41, 43,
57, 59, 61, 62, 295, 296
尾崎一雄, 184, 251, 261, 267, 339, 383,
386, 507, 512, 517, 521, 522, 523, 539,
555, 567

尾崎紅葉, 140, 156, 211, 212, 265, 274,
275, 280, 282, 285, 287, 375, 411, 412,
424, 429, 489, 513, 576, 601, 611, 641,
682
長部日出雄, 69, 73, 78, 226, 228, 229,
236, 413, 532, 667
大佛次郎, 140, 224, 250, 257, 393, 422,
503, 504, 505, 506, 543, 544, 548, 549,
579, 807
小津安二郎, 268, 400, 542, 545, 548, 549
小原玲, 165

か

海音寺潮五郎, 215, 216, 217, 218, 219,
220, 224, 553, 543, 548, 567, 578, 803
開高健, 38, 56, 268, 385, 514, 515, 532,
540, 576, 713
柿本人麻呂, 678
葛西善蔵, 34, 69, 71, 74, 77, 156, 219,
266, 276, 277, 369, 370, 371, 372, 373,
506, 544, 547, 548, 715
風巻景次郎, 24, 34
片山敏彦, 419, 765, 766, 771, 772, 773
加藤克巳, 160, 203, 205, 208, 557
加藤楸邨, 39, 40, 41, 100, 176, 178, 205,
206, 207, 220, 268, 279, 380, 394, 426,
429, 511, 527, 528, 573, 601, 609
仮名垣魯文, 251, 265, 271, 275, 306, 307,
506
金子兜太, 39, 90, 100, 161, 163, 164, 184,
205, 208, 269, 413, 533, 680, 718, 723
鎌田慧, 75, 78, 79, 784
鎌田敏夫, 501, 723, 725
亀井勝一郎, 27, 37, 40, 44, 262, 399, 633,
713

川上澄生, 30, 61
川端康成, 140, 225, 233, 241, 250, 251,
255, 256, 257, 258, 262, 264, 266, 268,
269, 277, 278, 279, 282, 283, 284, 286,
287, 295, 303, 307, 310, 312, 314, 372,
373, 379, 380, 384, 385, 390, 398, 406,
408, 409, 416, 423, 506, 508, 517, 523,
524, 530, 544, 545, 548, 589, 640, 641,
691, 692, 725, 728, 777
河東碧梧桐, 39, 41, 70, 141, 184, 266,
283, 284, 294, 295, 296, 298, 332, 411,
424, 425, 426, 427, 732, 733, 734, 739,
741, 744, 752, 753, 758, 760, 807
河邨文一郎, 18, 21, 24, 30, 36, 40, 41, 49,
51, 52, 53, 54, 57, 58, 59, 61
上林暁, 204, 269, 412, 713, 763, 764, 765,
773, 774, 777, 794, 802

き

木々高太郎, 550, 559, 561, 568, 580
菊池寛, 140, 156, 178, 184, 225, 251, 255,
266, 277, 362, 367, 368, 369, 371, 372,
373, 380, 391, 410, 497, 501, 536, 545,
561, 562, 564, 566, 578, 580, 726, 727,
728, 729, 730, 781, 782, 783, 785, 787
岸上大作, 676, 677, 681, 685, 688, 690,
695, 700
岸田劉生, 485, 488, 490, 522, 558, 559
北畠八穂, 69, 70, 72, 76, 78, 545
北村小松, 69, 75, 76
北杜夫, 130, 220, 224, 226, 233, 234, 236,
256, 411, 592, 593
木下杢太郎, 101, 263, 295, 296, 401, 507,
512, 518, 522, 524, 552, 559, 560, 709
木下夕爾, 713, 714, 715, 716

<

陸羯南, 71, 72, 75, 78, 79, 205, 742
草野心平, 31, 38, 41, 130, 131, 132, 133,
134, 135, 136, 137, 138, 139, 159, 160,
174, 176, 177, 179, 180, 185, 190, 191,
195, 263, 267, 269, 297, 298, 342, 360,
386, 388, 392, 405, 413, 417, 522, 552,
560, 565, 567, 579
草野天平, 131, 136, 137, 138
楠本憲吉, 254, 255, 262, 275, 279, 284,
290, 298, 329, 391, 512, 520, 526
国木田独歩, 26, 37, 39, 102, 140, 145,
147, 154, 155, 204, 205, 207, 219, 262,
265, 269, 274, 275, 280, 282, 285,
287310, 312, 337, 366, 396, 411, 412,
506, 522, 531, 543, 548, 554, 556, 568,
613
久保栄, 20, 27, 28, 35, 37, 39, 45, 50, 55,
59, 386, 424
久保田万太郎, 184, 249, 293, 294, 367,
368, 369, 370, 372, 373, 422, 424, 542,
546, 548, 549, 556
久米三汀, 140
久米正雄, 139, 140, 141, 175, 366, 368,
369, 370, 371, 372, 373, 547, 548, 549,
560, 561, 562, 564, 566, 578, 580, 588,
729

こ

小出楯重, 578, 668, 675
幸田露伴, 37, 38, 157, 176, 184, 208, 211,
250, 265, 266, 273, 275, 280, 282, 286,
287, 306, 307, 311, 312, 375, 390, 391,

551, 568, 607, 751

耕治人, 790, 791, 792, 793, 797, 802
小杉放菴, 147, 247, 249
小場晴夫, 238, 239, 240, 241, 242, 244
小林久三, 143, 144, 531, 784
小林多喜二, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 36, 37,
38, 40, 57, 262, 266, 278, 279, 281,
282, 311, 312, 384, 385, 527, 556, 564,
807
小林正樹, 19, 234
小牧近江, 388, 543, 548, 549
今官一, 69, 74, 77, 78
近藤東, 397, 512, 519, 525, 528, 532, 534,
541
近藤嘉男, 192

さ

斎藤喜博, 162, 163, 169, 174, 176, 183
斎藤茂吉, 39, 40, 41, 52, 53, 86, 88, 92,
105, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120,
121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128,
129, 130, 158, 168, 184, 203, 208, 219,
264, 266, 270, 271, 281, 282, 293, 294,
379, 395, 424, 545, 564, 581, 709, 711,
737
酒井宗雅, 678
坂口安吾, 161, 162, 176, 177, 185, 189,
208, 220, 221, 231, 266, 279, 335, 384,
560, 564, 689
佐多稲子, 142, 222, 250, 252, 253, 254,
255, 261, 90, 328, 380, 386, 390, 391,
401, 405, 416, 420, 525, 545, 553, 579,
590
佐藤愛子, 72, 219, 226, 233, 235, 422,
553, 593

佐藤垢石, 177, 186, 190, 193
佐藤紅緑, 69, 71, 72, 74, 75, 76, 77, 157,
207, 365, 366, 740, 756, 760
佐藤春夫, 32, 37, 39, 140, 184, 263, 246,
266, 276, 277, 281, 282, 286, 287, 293,
294, 368, 370, 371, 372, 373, 380, 400,
404, 405, 506, 559, 560, 567, 671, 673,
702, 703, 704, 705, 713
佐藤緑葉, 159, 164, 165, 169, 172, 173,
176, 177, 180, 181, 531
里見淳, 26, 140, 157, 266, 268, 276, 277,
338, 349, 367, 368, 370, 371, 372, 373,
379, 380, 394, 400, 413, 422, 488, 510,
526, 529, 541, 543, 545, 547, 548, 549,
601, 602, 803, 806, 807
更級源蔵, 20, 30, 31, 34, 42
沢木耕太郎, 226, 234

し

椎名誠, 228, 236
椎名麟三, 220, 676, 677, 680, 685, 690,
691, 694, 700
塩田良平, 250, 256, 261, 262, 263, 264,
275, 282, 285, 287, 327, 384, 408, 415
志賀直哉, 19, 20, 26, 27, 32, 43, 176, 184,
219, 226, 227, 235, 251, 252, 262, 266,
268, 276, 277, 279, 81, 282, 283, 284,
286, 287, 303, 307, 310, 312, 367, 368,
371, 379, 380, 388, 396, 399, 411, 417,
483, 485, 486, 488, 490, 491, 507, 510,
517, 526, 545, 552, 559, 560, 580, 668,
670, 671, 713, 715, 770
式場隆三郎, 252 259
獅子文六, 506, 512, 518, 522
品川力, 252, 260, 384, 403

司馬遼太郎, 39, 143, 144, 217, 218, 224,
256, 268, 401, 409, 420, 505, 561, 660,
662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 677,
683, 685, 686, 687, 693, 694, 695, 696,
697, 698, 699, 700, 701, 702, 752, 753,
754, 765, 770, 771, 773, 803
洪沢孝輔, 192, 200, 256, 358, 395, 402,
406, 506, 512, 570, 614, 634
澁澤龍彦, 268, 400, 543, 548
島崎藤村, 34, 101, 103, 108, 109, 145,
147, 150, 151, 165, 167, 169, 176, 177,
178, 181, 184, 252, 260, 262, 263, 265,
267, 269, 270, 274, 275, 279, 280, 282,
283, 284, 285, 287, 293, 294, 296, 300,
307, 311, 312, 365, 366, 368, 369, 370,
373, 374, 375, 379, 380, 384, 385, 386,
389, 396, 407, 410, 412, 544, 548, 552,
554, 556, 565, 568, 574, 575, 596, 597,
612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619,
620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627,
628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635,
684, 689, 769, 792, 807
清水刀根, 191, 192
白石実三, 145, 151, 157, 164, 165, 167,
176, 180, 181, 187, 556
素木しづ, 28, 29, 59, 367

す

杉浦明平, 38, 240, 241, 244, 268, 396
杉本健吉, 496, 497, 502, 510, 525, 599
鈴木三重吉, 265, 269, 270, 322, 348, 366,
368, 373, 379, 387, 390, 402, 424, 425,
508, 512, 519, 523, 532, 535, 540, 560,
564, 566, 567
鈴木茂三郎, 252, 259, 397

せ

瀬戸内寂聴, 66, 142, 193, 217, 224, 255,
409, 510, 527, 529, 530, 553, 555, 575,
723, 724, 725
瀬沼茂樹, 27, 185, 250, 251, 252, 253,
254, 255, 257, 261, 262, 263, 264, 267,
268, 270, 275, 277, 279, 282, 284, 287,
289, 290, 292, 294, 299, 300, 306, 307,
314, 326, 329, 330, 331, 332, 333, 334,
335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342,
348, 349, 351, 352, 353, 354, 358, 359,
360, 374, 375, 377, 380, 385, 386, 389,
390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397,
398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405,
415, 507, 508, 522, 523, 524, 541
芹沢光治良, 219, 222, 223, 232, 394, 423,
592

そ

相馬黒光, 102, 545, 548
添田唾蟬坊, 512, 518, 519, 524, 529
添田知道, 512, 518, 519, 524, 528, 529

た

田岡典夫, 402, 412, 765, 769, 770, 775
田岡嶺雲, 383, 401, 402, 765, 767, 769,
771, 774
高木恭造, 69, 71, 76, 77
高木健夫, 386, 390, 392, 512, 518, 524,
528
高橋和巳, 252, 262, 263, 393, 419, 420,
512, 525, 799

高橋留治, 35, 47, 48, 59, 61
高橋元吉, 161, 169, 173, 174, 176, 177,
181, 190, 194, 195, 531
高濱虚子, 38, 40, 41, 87, 88, 179, 184,
204, 205, 208, 265, 266, 268, 269, 270,
278, 279, 291, 292, 294, 296, 298, 329,
332, 365, 366, 373, 379, 386, 387, 418,
424, 425, 426, 429, 431, 462, 464, 479,
511, 527, 542, 546, 547, 548, 549, 551,
553, 556, 560, 565, 574, 575, 582, 609,
709, 732, 733, 744, 745, 755, 758, 765,
807
高見順, 40, 94, 140, 250, 252, 257, 259,
266, 279, 284, 287, 379, 380, 388, 391,
417, 418, 419, 420, 422, 507, 522, 523,
543, 546, 548, 549, 564, 692
高村光太郎, 31, 41, 102, 131, 133, 134,
137, 139, 160, 165, 174, 176, 177, 185,
191, 263, 266, 270, 271, 281, 282, 293,
294, 360, 379, 398, 410, 412, 420, 545,
551, 552, 556, 559, 576, 577, 579, 715,
807
高柳重信, 94, 159, 161, 165, 168, 176,
177, 183, 207
財部鳥子, 192, 193, 245, 421
瀧口修造, 225, 233, 235, 336, 416
武井武雄, 133, 136, 138, 144, 525
竹久夢二, 30, 61, 140, 141, 176, 177, 178,
184, 205, 219, 229, 237, 266, 275, 277,
291, 292, 380, 386, 390, 395, 406, 408,
556, 567, 601, 609, 611
武満徹, 225, 233, 235
太宰治, 27, 34, 69, 70, 74, 75, 76, 77, 176,
188, 189, 205, 251, 254, 258, 259, 261,
262, 264, 266, 278, 279, 286, 287, 308,
309, 311, 312, 379, 392, 397, 403, 404,

407, 409, 413, 415, 416, 421, 425, 509,
512, 524, 528, 548, 550, 551, 554, 555,
559, 560, 564, 568, 569, 575, 578, 579,
666, 713, 714, 767
立原正秋, 268, 389, 396, 513, 514, 521,
540, 542, 545, 548, 549, 606
立原道造, 238, 239, 240, 241, 242, 243,
244, 245, 246, 266, 278, 279, 292, 379,
418, 589, 590, 593, 597, 598
立川熊次郎, 684, 698
田中辰雄, 164, 169, 174, 177, 180, 181,
531
田中英光, 220, 560, 765, 767, 771, 773
田中冬二, 176, 185, 316, 550, 552, 555,
556, 560, 564, 566, 567, 568, 574, 575,
577, 579, 583
谷川俊太郎, 62, 104, 135, 139, 166, 190,
195, 198, 234, 245, 511, 527, 591, 592,
593, 594, 611, 644, 718
谷崎潤一郎, 176, 184, 252, 259, 262, 264,
266, 271, 278, 279, 281, 282, 283, 284,
287, 299, 307, 310, 312, 366, 367, 368,
369, 370, 372, 373, 379, 380, 384, 405,
408, 412, 420, 422, 506, 512, 514, 532,
540, 552, 560, 570, 668, 669, 670, 671,
672, 673, 674, 675, 676, 709, 770, 807
田村隆一, 96, 194, 263, 354, 385, 392,
513, 523
田山花袋, 145, 146, 147, 148, 149, 150,
151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158,
165, 167, 169, 176, 178, 181, 184, 185,
187, 204, 205, 207, 219, 266, 269, 270,
280, 282, 286, 287, 311, 365, 366, 367,
368, 370, 373, 375, 385, 392, 407, 552,
554, 556, 557, 565, 566, 568, 581, 583,
607, 613, 706, 708

檀一雄, 96, 559, 566

ち

知里幸恵, 33, 41, 42, 58, 420

つ

司修, 143, 165, 176, 178, 182, 183, 187,
190, 191, 195, 221, 515

辻善之助, 676, 677, 682, 684, 686, 696,
697, 701

辻征夫, 191, 192, 199

津田青楓, 259, 379, 545, 559, 578

土屋文明, 39, 40, 41, 103, 115, 116, 134,
158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165,
167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174,
175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182,
183, 184, 185, 186, 187, 208, 293, 416,
557, 560, 578, 609

筒井寛秀, 599

壺井栄, 203, 208, 219, 255, 730, 731

て

寺田寅彦, 184, 205, 276, 277, 379, 414,
545, 560, 765, 766, 770, 772, 775, 776,
777

寺山修司, 24, 33, 62, 69, 71, 74, 75, 76,
77, 78, 84, 102, 110, 188, 219, 228, 236,
417, 774

と

土井晚翠, 101, 105, 106, 109, 110, 265,
274, 275, 291, 292, 715

東宮七男, 169, 176, 177, 181, 190, 192,
194
徳田秋聲, 140, 146, 147, 156, 266, 270,
271, 279, 281, 282, 285, 287, 365, 366,
367, 368, 369, 371, 372, 373, 384, 389,
393, 399, 409, 424, 556, 577, 600, 601,
604, 609, 610, 611, 612
徳富蘇峰, 140, 188, 189, 257, 374, 390,
399, 528, 546, 549, 560, 578, 709, 747,
790, 791, 796, 797, 799
徳富蘆花, 39, 176, 177, 178, 183, 184,
188, 189, 204, 219, 220, 265, 268, 274,
275, 285, 287, 306, 307, 391, 512, 561,
790, 791, 797, 798, 800
豊田有恒, 176, 186, 195
トルストイ, 16, 177, 181, 189, 251, 256,
355, 358, 410, 493

な

永井荷風, 205, 207, 262, 263, 264, 265,
266, 270, 276, 277, 278, 279, 281, 282,
283, 284, 286, 287, 295, 296, 304, 307,
311, 312, 366, 368, 373, 387, 395, 400,
407, 408, 415, 515, 531, 533, 541, 559,
567, 575, 769
永井龍男, 140, 253, 268, 398, 507, 522,
523, 535, 541, 542, 543, 548, 549, 713,
715, 730
永井路子, 97, 142, 143, 144, 187, 254,
269, 401, 405, 409, 524, 528, 530, 542,
544, 548, 553, 666
中川一政, 252, 268, 349, 380, 396, 412,
483, 484, 486, 490, 492, 556, 559, 608,
609
中里介山, 218, 252, 410, 559, 561, 565,

580
中里恒子, 268, 391, 398, 506, 509, 512,
519, 521, 522, 523, 525, 526, 533
中沢清, 169, 184, 192
中沢茂, 33, 40, 47, 52, 56, 58, 62
中島敦, 207, 219, 511, 512, 527, 528, 534
中島周介, 168
中城ふみ子, 18, 23, 24, 39, 41, 50, 94
永田耕衣, 679, 686, 687, 694, 695, 696,
699, 700
中野重治, 20, 21, 25, 34, 35, 40, 41, 43,
191, 219, 263, 266, 267, 277, 278, 279,
292, 318, 328, 380, 384, 385, 388, 394,
410, 420, 512, 529, 567, 580, 597, 601,
605, 606, 608, 609, 610, 611
中原中也, 103, 108, 132, 134, 136, 138,
188, 263, 266, 278, 279, 286, 287, 293,
294, 297, 298, 335, 413, 527, 30, 543,
544, 548, 566, 716, 717, 718, 719, 720,
721, 722, 723, 756
中村草田男, 39, 41, 86, 94, 184, 220, 425,
429, 430, 461, 462, 463, 481, 593, 609,
734, 742, 743, 744
中村星湖, 156, 366, 367, 368, 369, 370,
371, 373, 386, 387, 550, 554, 559, 560,
564, 565, 566, 567, 570, 571, 573, 574,
575, 576, 577, 580, 582, 583
中村汀女, 184, 220, 430, 462, 463, 481,
546, 790, 791, 792, 793, 796, 800, 802
中村光夫, 253, 262, 263, 264, 279, 289,
298, 305, 307, 339, 352, 357, 389, 391,
392, 396, 398, 508, 512, 519, 522, 525,
533, 541, 542, 548
中山義秀, 39, 139, 140, 220, 533, 543,
548, 549, 554
永代静雄, 146, 154, 155

夏目漱石, 30, 37, 60, 61, 87, 101, 107,
109, 140, 222, 232, 250, 252, 254, 257,
262, 263, 265, 266, 269, 270, 271, 275,
277, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 287,
288, 289, 299, 304, 305, 306, 307, 309,
310, 312, 332, 364, 365, 366, 373, 374,
375, 379, 388, 389, 390, 393, 395, 396,
400, 401, 404, 411, 421, 422, 424, 425,
426, 487, 506, 508, 512, 516, 517, 524,
527, 528, 529, 533, 534, 541, 543, 544,
545, 546, 548, 550, 551, 552, 554, 556,
559, 560, 569, 572, 579, 590, 601, 602,
622, 680, 694, 695, 700, 709, 726, 731,
732, 733, 738, 739, 740, 743, 744, 745,
747, 752, 755, 757, 758, 766, 770, 771,
772, 790, 791, 792, 796, 797, 802, 804,
807

南城一夫, 190

に

新美南吉, 635, 636, 637, 638, 643, 660
西脇順三郎, 88, 185, 227, 236, 263, 295,
296, 512, 526, 529, 540, 548, 566, 715

ぬ

額田王, 678

の

野上弥生子, 185, 219, 222, 253, 254, 255,
266, 277, 289, 306, 367, 380, 390, 401,
560, 566, 592
野口雨情, 20, 49, 51, 109, 131, 132, 136,
138, 693

野間宏, 28, 220, 512, 515, 516, 536, 541
野村胡堂, 81, 84, 219, 224, 252, 259, 392

は

ハーン, 724

萩原恭次郎, 162, 165, 169, 174, 175, 176,
177, 180, 181, 182, 190, 191, 194, 200,
201, 266, 283, 284, 295, 296, 408, 565
萩原朔太郎, 87, 88, 101, 107, 159, 160,
165, 169, 176, 177, 179, 180, 181, 182,
183, 186, 187, 190, 191, 192, 193, 194,
195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202,
203, 219, 247, 261, 262, 263, 266, 276,
277, 281, 282, 286, 287, 293, 294, 295,
296, 297, 298, 302, 368, 379, 384, 386,
387, 398, 404, 406, 407, 408, 414, 506,
548, 556, 559, 566, 578, 592, 597, 601,
605, 612

萩原葉子, 176, 177, 186, 187, 192, 193,
194, 199, 222, 227, 248, 255, 256, 307,
387, 399, 409, 416, 553, 555, 575, 590

橋本無道, 723

初井しづ枝, 680, 684, 685, 686, 691, 695,
700

埴保己一, 204, 208

浜本浩, 399, 765, 766, 71, 772, 774

林京子, 256, 417, 515, 526, 553

林不忘, 405, 411, 543, 548, 549

林芙美子, 34, 39, 58, 63, 104, 105, 109,
110, 219, 255, 266, 278, 279, 286, 287,
296, 404, 416, 715, 776, 803, 804, 807

原阿佐緒, 105, 106, 108, 110, 111, 112,
113, 114

原田種夫, 388, 396, 402, 779

原民喜, 93, 252, 260, 396, 515, 591

ひ

樋口一葉, 255, 260, 66, 273, 275, 282,
379, 384, 413, 414, 506, 545, 550, 551,
558, 559, 562, 565, 569, 571, 572, 573,
574, 581, 582, 583, 601
樋口有介, 195
日根野徳二, 170
火野葦平, 38, 252, 385, 778, 807
平井照敏, 161, 163, 164, 173, 176, 187,
440, 479, 566
広津和郎, 140, 157, 219, 252, 266, 276,
277, 327, 367, 368, 369, 370, 371, 372,
373, 387, 404, 411, 422, 506, 512, 514,
530, 548, 556, 807
広津桃子, 268, 397, 514, 545
広津柳浪, 140, 265, 275, 512, 514

ふ

フォーグラマー, 589
深田久弥, 38, 220, 221, 231, 414, 548,
552, 556, 560, 601, 605, 610, 713
福士幸次郎, 69, 72, 74, 77, 371, 373, 568
福田貂太郎, 165, 169, 181, 192
福本和夫, 512, 518, 523, 525
藤森成吉, 140, 185, 370, 371, 373, 512,
518
二葉亭四迷, 37, 250, 262, 263, 265, 273,
280, 282, 366, 374, 375, 379, 389, 506,
525, 545, 554, 556

ほ

星野立子, 40, 184, 430, 435, 461, 462,

463, 545, 546, 547, 548

堀田あけみ, 165
堀口大學, 263, 266, 277, 291, 292, 297,
298, 508, 524, 548, 552, 555, 560, 565,
566, 571, 577, 702
堀辰雄, 238, 239, 241, 243, 245, 262, 263,
264, 266, 278, 279, 282, 283, 284, 295,
296, 311, 312, 385, 388, 509, 512, 525,
548, 567, 589

ま

前田晁, 146, 147, 151, 152, 366, 367, 368,
369, 370, 371, 373, 554, 556, 557, 576,
577, 580, 581, 583
前田夕暮, 41, 93, 184, 373, 530
正岡子規, 72, 86, 87, 88, 93, 141, 158,
165, 176, 179, 184, 205, 207, 212, 250,
262, 265, 268, 273, 275, 293, 294, 296,
329, 330, 332, 385, 386, 388, 289, 394,
400, 414, 424, 425, 426, 427, 429, 533,
545, 551, 552, 553, 560, 638, 709, 731,
732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739,
740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747,
748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755,
756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763,
766, 776, 797, 802, 807
正宗白鳥, 38, 147, 157, 205, 262, 265,
269, 270, 366, 369, 372, 375, 551, 554,
556, 566, 713
真尾悦子, 134
真尾倍弘, 134, 137
町田康, 194
松岡映丘, 678
松岡鼎, 678
松岡静雄, 678

松本清張, 83, 142, 143, 252, 254, 357,
391, 397, 403, 418, 534, 561, 568, 580,
780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787,
788

み

三浦綾子, 36, 37, 39, 51, 56, 57, 59, 63,
64, 65, 66, 67, 68, 69, 399, 416, 553

三浦哲郎, 69, 73, 77, 78, 256, 534, 572,
713, 715

三島由紀夫, 38, 108, 207, 264, 411, 545,
549, 579, 685

水戸部アサイ, 238, 239, 241

南川潤, 161, 162, 176, 177, 185

三野混沌, 132, 136, 138

宮尾登美子, 415, 553, 667, 765, 767, 771,
774, 777

宮川春汀, 146, 157

宮澤賢治, 18, 19, 24, 31, 40, 41, 90, 94,
102, 105, 109, 131, 134, 136, 137, 195,
206, 208, 235, 263, 266, 276, 277, 281,
282, 286, 287, 297, 298, 302, 310, 312,
414, 547, 551, 556, 569, 571, 576, 647,
648, 651, 657, 716, 720, 767, 776

宮本百合子, 139, 140, 219, 222, 227, 255,
262, 266, 278, 279, 286, 287, 380, 384,
392, 397, 405, 417, 545

む

椋鳩十, 390, 506, 644, 803, 805

向田邦子, 803, 804

武者小路実篤, 26, 27, 39, 43, 140, 205,
207, 219, 220, 253, 266, 270, 271, 276,
277, 280, 282, 286, 287, 292, 307, 310,

312, 366, 367, 368, 370, 372, 373, 380,
391, 400, 406, 407, 413, 483, 484, 485,
486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493,
494, 507, 512, 519, 522, 524, 532, 544,
545, 548, 559, 560, 807

棟方志功, 30, 73, 77, 205, 600, 675, 775

村上昭夫, 86, 88, 95

室生犀星, 159, 160, 169, 176, 177, 179,
180, 184, 185, 190, 191, 194, 247, 248,
249, 262, 263, 264, 266, 276, 277, 284,
291, 295, 296, 368, 371, 373, 379, 386,
388, 396, 397, 400, 402, 410, 412, 413,
556, 566, 579, 590, 592, 593, 598, 600,
601, 605, 608, 609, 610, 612, 807

も

モラエス, 724, 725

森鷗外, 37, 50, 109, 150, 157, 184, 205,
207, 211, 212, 213, 214, 215, 241, 252,
257, 260, 262, 263, 265, 266, 270, 271,
274, 275, 281, 282, 283, 284, 286, 287,
291, 292, 293, 294, 295, 296, 300, 306,
307, 310, 312, 365, 366, 373, 374, 375,
377, 379, 389, 390, 391, 400, 401, 404,
506, 511, 512, 522, 527, 528, 531, 550,
551, 559, 560, 573, 590, 679, 693, 699,
705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712,
713, 715, 780, 782, 785

森澄雄, 163, 385, 683, 684, 696, 697, 698,
701

森田たま, 28, 29, 37, 38, 50, 51, 59, 548,
566, 577

森田素夫, 172, 178, 186

森はな, 678, 679, 685, 692, 698

森村誠一, 143, 204, 208, 404, 534, 571,

783, 784,
諸橋元三郎, 132, 133, 136

や

八木保太郎, 173, 177
柳田國男, 146, 148, 150, 151, 153, 154,
219, 236, 266, 270, 307, 556, 568, 571,
575, 626, 678
山口青邨, 38, 41, 85, 91, 92, 93, 100, 204,
430, 432, 462, 463, 464
山崎方代, 548, 550, 551, 554, 559, 562,
564, 565, 567, 568, 569, 571, 573, 574,
579, 581, 582, 583
山田風太郎, 227, 235, 237, 269, 392, 411
山上憶良, 678
山村暮鳥, 87, 101, 132, 159, 165, 167,
169, 173, 176, 179, 190, 194, 198, 297,
298
山本周五郎, 105, 110, 224, 510, 512, 526,
527, 533, 548, 550, 554, 556, 558, 559,
565, 566, 567, 569, 570, 577, 581, 583

ゆ

湯浅光雄, 216, 395

よ

横溝正史, 219, 220, 229, 231, 235, 236,
237, 561
横光利一, 74, 176, 184, 220, 225, 233,
251, 253, 262, 266, 277, 279, 283, 284,
286, 287, 372, 373, 380, 398, 409, 415,
417, 425, 529, 540, 807
与謝野晶子, 38, 41, 82, 83, 87, 106, 109,

148, 176, 177, 184, 208, 222, 255, 262,
263, 265, 274, 275, 280, 282, 291, 292,
293, 294, 370, 373, 379, 389, 411, 418,
421, 531, 544, 545, 547, 548, 551, 552,
553, 559, 564, 569, 570, 573, 577, 582,
583, 798, 799
与謝野鉄幹 (寛), 38, 82, 106, 157, 184,
252, 265, 274, 275, 289, 297, 298, 365,
402, 420, 548, 552, 553, 559, 638, 639,
741,
与謝野礼蔵, 639
吉井勇, 38, 41, 266, 270, 291, 292, 367,
369, 370, 371, 373, 407, 548, 552, 556,
559, 669, 670, 674, 710, 765, 767, 769,
771, 773, 774, 776, 778, 803, 807
吉川英治, 144, 184, 224, 388, 390, 405,
406, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500,
501, 502, 503, 510, 525, 680, 681, 695,
700, 729, 766
吉田一穂, 17, 18, 23, 29, 30, 37, 38, 41,
60, 297, 298, 410, 419, 426
吉田精一, 250, 252, 261, 262, 263, 264,
268, 270, 271, 275, 277, 279, 282, 284,
287, 289, 290, 292, 294, 296, 299, 357,
374, 384, 385, 386, 387, 389, 391, 392,
395, 400, 401, 407
吉野せい, 131, 132, 136, 137, 139
吉野秀雄, 159, 165, 169, 174, 176, 177,
181, 182, 195, 384, 516, 535, 541, 546,
548, 554, 600
吉原幸子, 191, 407, 522, 554
吉増剛造, 33, 136, 227, 390, 405, 724
吉屋信子, 39, 222, 373, 530, 542, 545,
547, 549, 556
吉行淳之介, 142, 219, 224, 234, 255, 256,
267, 391, 405, 529, 564, 568, 576

四元康祐, 195, 203

米倉大鎌, 193

り

良寛, 182, 516, 770, 776

リルケ, 425, 589, 594

わ

若山牧水, 40, 41, 76, 157, 164, 177, 181,

184, 186, 187, 203, 208, 266, 270, 291,
292, 369, 373, 388, 404, 552, 553, 556,
559, 570, 578

渡辺淳一, 23, 27, 36, 38, 44, 51, 52, 56,
208, 217, 232

和田芳恵, 37, 38, 40, 55, 142, 143, 182,
252, 267, 279, 284, 287, 384, 385, 386,
391, 405, 565

和辻哲郎, 407, 676, 677, 682, 684, 686,
687, 690, 692, 693, 694, 695, 696, 697,
698, 699, 700, 701

付属資料 2 : 「全国文学館協議会」発行物目録

「全国文学館協議会」の発行物には、以下の通り、「会報」と「ガイドブック」の 2 種類が存在する。

会報

1. 『全国文学館協議会会報』

1-1. 『全国文学館協議会会報』 第 1 号 1996 年 6 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：各館の展覧会の記録／各館の計画、検討している企画展／各館の資料の貸出について／全国文学館協議会において検討され、要望されている事項（中村稔幹事長のまとめ）及び（まとめ）に対する各館の意見・要望など／その他各館の意見・要望・報告など／全国文学館協議会 会則／全国文学館協議会 会員・役員／全国文学館協議会 これまでの経緯

1-2. 『全国文学館協議会会報』 第 2 号 1996 年 9 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：各館の資料集・目録・紀要・年俸など展覧会図録以外の刊行物の記録／各館で主催・後援している研究会などの活動／各館の意見・要望・報告など／各館の展覧会の記録、および各展覧会の図録・パンフレットについて（続）／各館の計画、検討している企画展（続）／各館において資料を貸出すかどうか、貸出す場合はその条件（続）／全国文学館協議会において検討され、要望されている事項（中村稔幹事長のまとめ）及び（まとめ）に対する各館の意見・要望など（続）／全国文学館協議会 会員・役員

1-3. 『全国文学館協議会会報』 第 3 号 1997 年 1 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：第 1 回展示情報部会報告／個人展における展示手法について—「大岡昇平展」を事例として（神奈川文学振興会主査 鎌田邦義）／映像の展示—ビデオ制作の実務について（姫路文学館学芸員 甲斐史子）／文学碑展について（藤村記念館副館長 牧野式子）／避暑地の文学展—私立文学館として（軽井沢高原文庫副館長 大藤敏行）／部会に出席しての意見・感想・要望など／第 1 回展示情報部会から学んだことなど（幹事長 中村稔）／その他報告・意見・感想・要望など／後記

1-4. 『全国文学館協議会会報』 第 4 号 1997 年 5 月 20 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館の展示に関する共同討議／共同討議・文学館の展示に関する諸問題（幹事長 中村稔）／共同討議／意見など

- 1-5. 『全国文学館協議会会報』 第5号 1997年9月20日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：各館の資料の収集、保存、整理、閲覧・利用について／その他各館の意見、要望、報告など／会員館概要／後記
- 1-6. 『全国文学館協議会会報』 第6号 1998年1月15日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：第1回資料情報部会報告／日本近代文学館における資料の整理について（日本近代文学館事務局主事 小林章子）／資料の収集・保存とコンピュータ管理について（世田谷文学館図書係 佐野晃一郎／中垣理子）／子規博における資料収集について（松山市立子規記念博物館学芸係長 森正経）／日本現代詩歌文学館の設立経緯と最近の資料収集の状況について（日本現代詩歌文学館振興会事務局長 佐藤章）／部会に出席しての意見・感想・要望など／全国文学館等一覧表（全国文学館協議会幹事 木原直彦）
- 1-7. 『全国文学館協議会会報』 第7号 1998年6月15日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：文学館の資料に関する共同討議／討議資料・資料の収集、整理、保存、閲覧、利用について（幹事長 中村稔）／共同討議／全国文学館協議会 会員／後記
- 1-8. 『全国文学館協議会会報』 第8号 1998年9月20日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：総務情報部会において検討すべき諸問題（会長 中村稔）／各館の総務に関する諸問題について／各館のインターネットホームページについて／肉筆原稿、写真の展示および著作権について（会長 中村稔）／報告・お知らせ／全国文学館協議会 会則（1998.6.18 改正）／後記
- 1-9. 『全国文学館協議会会報』 第9号 1999年2月20日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：第1回総務情報部会報告／さいたま文学館の運営について（さいたま文学館長 山形邦彦）／文学に親しむキッカケづくりが使命？（鎌倉文学館副館長 杉山富代）／現在に至るまでの経緯（中原中也記念館学芸員 那須香）／大原富枝文学館の歩み（大原富枝文学館長 山下伸男）／部会に参加しての感想
- 1-10. 『全国文学館協議会会報』 第10号 1999年6月15日 発行：全国文学館協議会事務局
収録：文学館の総務に関する共同討議／討議資料＝総務情報部会において検討すべき諸問題（会長 中村稔）／共同討議／全国文学館協議会 会員
- 1-11. 『全国文学館協議会会報』 第11号 1999年9月15日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：展示情報部会（第2回）の開催に寄せて〈各館の展示に関して直面している問題点／展示情報部会への意見・要望／事例報告で取り上げて欲しい事項や問題点／中村稔会長の講演で取り上げてほしい法的問題／その他、展示に関する報告・感想・意見・要望〉／その他、意見・要望や近況報告など／会員館概要（補遺）／新加入館（会報10号発行以降）／後記

1-12.『全国文学館協議会会報』 第12号 2000年1月20日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：展示情報部会（第2回）報告／「伊藤整の『日本文壇史』展製作日記」（市立小樽文学館主査 玉川薫）／常設展示の構成等をめぐって（（財）北海道文学館事業課長 平原一良）／文学館における常設展示の手法について—仙台文学館を事例として（トータル・メディア開発研究所チーフディレクター 安藤淳一）／展示に関する法律問題（全国文学館協議会会長 中村稔）／部会に参加しての意見・感想など／新加入館（会報11号発行以降）／後記

1-13.『全国文学館協議会会報』 第13号 2000年6月15日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館に関する著作権等の法律問題に関する懇談会（記録）／〔配付資料〕文学館に関連する著作権の基礎的な理解のために（会長 中村稔）／文学館の展示に関する共同討議（第1回）／討議資料／共同討議／全国文学館協議会 会員（名簿）／後記

1-14.『全国文学館協議会会報』 第14号 2000年9月15日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：資料情報部会（第2回）の開催に寄せて〈「北海道文学全集」のこと（（財）北海道文学館副理事長 木原直彦）／「現況」をめぐる私見断片（（財）北海道文学館事業課長 平原一良）／「資料に関する問題点、現状など」に関連して非受入図書の実状について（日本現代詩歌文学館学芸員 豊泉豪）／各館の資料に関する問題点、現状など（いわき市立草野心平記念館学芸員 長谷川由美）／田山花袋記念館の資料の公開について—田山花袋記念館研究叢書の刊行—（田山花袋記念館学芸員 阿部弥生）／文学館準備段階における資料の実状（（仮称）大宮文学館 西浜智子）／無題（さいたま文学館司書 長島利弘）／資料の保存について（文京区立鷗外記念本郷図書館館長 池田忠／担当 谷祐子）／東京都江戸東京博物館文学グループの文学館アンケート結果（東京都江戸東京博物館学芸員 行吉正一）／俳句文学館と資料収集の問題点（俳句文学館図書室長 岡田日郎）／実篤記念館におけるデータベースの構築について（調布市武者小路実篤記念館学芸員 伊藤陽子）／『石川近代文学全集』刊行の経緯（石川近代文学館館長 井口哲郎）／姫路文学館の資料に関する現状および問題点（姫路文学館学芸員 河野雅子）／文学館職員のための研修講座について（お知ら

せ) (日本近代文学館) / 全国文学館等一覧表 (木原直彦編) / 会員館概要 (補遺) / 新加入館 (会報 13 号発行以降) / 後記

1-15. 『全国文学館協議会会報』 第 15 号 2001 年 1 月 20 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：資料情報部会 (第 2 回) 報告 (事例報告 [俳句文学館の資料収集の問題点—現在並びに今後について— (俳句文学館図書室長 岡田日郎) / コンピュータ作業の実際—図書の入力を中心に (神奈川近代文学館資料課 渡辺恵理) / 「群馬文学全集」について (土屋文明記念文学館副館長 飯塚薫) / 姫路文学館における資料収集・整理の現状と問題点 (姫路文学館学芸員 河野雅子)] / 部会に参加しての意見・要望・感想など) / 報告・お知らせ / 全国文学館協議会の歩み / 全国文学館協議会会報 1 ~ 14 号目次 / 後記

1-16. 『全国文学館協議会会報』 第 16 号 2001 年 6 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館の資料に関する共同討議 (討議資料=資料の収集、整理、保存、閲覧、利用について / 共同討議) / 全国文学館協議会 会員 / 後記

1-17. 『全国文学館協議会会報』 第 17 号 2001 年 7 月 10 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：随想—文学館学序説のエスキスのために《総務篇》(中村稔)

1-18. 『全国文学館協議会会報』 第 18 号 2001 年 9 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：総務情報部会の開催に寄せて (各館の総務に関する問題点、現況など [日本現代詩歌研究センターの設立について (日本現代詩歌文学館事務局長 荒磯富治) / 「こども図書館」と、1 つの提案 (仙台文学館学芸室長 斎藤美代子) / 総務に関する問題点、現況など (いわき市立草野心平記念文学館主任学芸員 小野浩) / 文学館経営のコストとサービス ——最近のいくつかのこと—— (群馬県立土屋文明記念文学館副館長 飯塚薫) / 前橋文学館友の会の紹介 (水と緑と詩のまち前橋文学館副館長 江原範和) / 鎌倉文学館の財団への委託化について (鎌倉文学館 井上弘子 小田島一弘) / 姫路文学館友の会及び同会ボランティア制度について (姫路文学館学芸課係長 甲斐史子) / ふくやま文学館総務に関する現況と問題点 (ふくやま文学館学芸担当 小川由美)] / 中村稔会長「随想—文学館学序説のエスキスのために《総務篇》(会報 17 号) への意見・感想ほか [「随想—文学館学序説のエスキスのために《総務篇》」を読んで —博物館としての文学館— (日本現代詩歌文学館学芸員 豊泉豪) / 博物館としての文学館「随想—文学館学序説のエスキスのために《総務篇》」について (世田谷文学館学芸課長 生田美秋)] / 近況報告、お知らせ (中国「全国人物類 (系) 博物館記念館 現状と発展の見通し学術検討会」に参加して (吉川英治記念館 城塚朋和)

／文学館職員のための研修講座について（おしらせ）（日本近代文学館）／全国文学館等一覧表（補遺）／後記

1-19. 『全国文学館協議会会報』 第 19 号 2002 年 1 月 25 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：総務情報部会（第 2 回）事例報告〈文学館における友の会の実践（世田谷文学館総務課庶務係 瀬川ゆき）／東京都近代文学博物館の 35 年（東京都近代文学博物館学芸担当係長 仙石鶴義）／個人記念館で考えたこと、考えていること（吉川英治記念館事務長 城塚朋和）／中原中也記念館の現状、そして将来（中原中也記念館副館長 中村千里）／中村稔会長「文化芸術振興基本法案に期待できるか」（「朝日新聞」2001.11.21 から転載）／文化芸術振興基本法の施行について（文化庁からの通知 2001.12.7 付）／後記

1-20. 『全国文学館協議会会報』 第 20 号 2002 年 6 月 15 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館の総務に関する共同討議（第 2 回）〈討議資料／共同討議（記録）〉／意見・報告／会員館概要（補遺）／全国文学館協議会会員（名簿）／後記

1-21. 『全国文学館協議会会報』 第 21 号 2002 年 10 月 1 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：展示情報部会（第 3 回）の開催に寄せて〈各館の常設展の現状と問題点／展示情報部会で取り上げて欲しい事項や問題点／その他、展示に関する報告・感想・意見・要望など〉／各館の展覧会の記録、および各展覧会の図録・パンフレットについて／各館の計画、検討している企画展／展示に関するアンケート（回答）／その他、報告・感想・意見・要望など／後記

1-22. 『全国文学館協議会会報』 第 22 号 2003 年 2 月 10 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：展示情報部会（第 3 回）事例報告〈一般テーマ展の面白さと難しさ — 「文学・青春」展について（日本近代文学館常務理事 曾根博義）／武者小路実篤記念館の展示活動（武者小路実篤記念館主任学芸員 伊藤陽子）／夏目漱石展について（神奈川近代文学館展示課長 藤野正）／常設展のない企画展（司馬遼太郎記念館館長 上村洋行）〉／近況報告など／後記

1-23. 『全国文学館協議会会報』 第 23 号 2003 年 6 月 20 日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館の展示に関する共同討議（第 3 回）〈討議項目要領／共同討議（記録）[1. 常設展について／2. 企画展について／3. 文学館間の展示に関する協力関係について／4. 監修者（専門的研究者）と職員との関係について]〉／展示に関するアンケート（回答）／会員館概要（補遺）／全国文学館協議会会員（名簿）

1-24. 『全国文学館協議会会報』 第24号 2003年10月1日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：資料情報部会（第3回）の開催に寄せて〈各館で資料に関して問題となっていること／各館所蔵の特色あるコレクションの紹介／資料情報部会で取り上げてほしい事項や問題点／その他、資料に関する報告など〉／その他意見、報告など／全国文学館等一覧表（全国文学館協議会幹事 木原直彦）／会員館概要（補遺）／後記

1-25. 『全国文学館協議会会報』 第25号 2004年1月30日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：資料情報部会（第3回）事例報告〈仙台文学館の資料整理の現状と課題（仙台文学館学芸員 赤間亜生）／三猿文庫《地域文学史陵》活用について（草野心平記念文学館専門学芸委員 小野浩 長谷川由美）／大佛次郎記念館所蔵パリ＝コミュニケーション関連資料について（大佛次郎記念館研究員・横浜市立大学教授 松井道昭）／「資料と研究」について（山梨県立文学館館長 紅野敏郎／学芸員 高室有子 保坂雅子）〉／草野心平先生と川内・天山文庫（川内村 秋元卓三）／後記

1-26. 『全国文学館協議会会報』 第26号 2004年6月17日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：文学館の資料に関する共同討議（第3回）〈討議資料／共同討議記録 [1. 資料管理のコンピュータ化について／2. 資料の保存について／3. 時間の資料の把握はどのようになされているか、またはされるべきか]〉／近況報告など／資料管理をコンピュータ化した館へのアンケート（回答）／会員館概要（補遺）／全国文学館協議会会員（名簿）／後記

1-27. 『全国文学館協議会会報』 第27号 2004年10月5日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：総務情報部会（第3回）の開催に寄せて〈各館の総務に関する問題点、現状など・理念／建物、設備、施設／人員、ことに専門職員／広報活動など〉／今後の部会のあり方、新たな方針について／資料管理をコンピュータ化した館へのアンケート（回答・続）／お知らせ・近況報告

1-28. 『全国文学館協議会会報』 第28号 2005年1月20日 発行：全国文学館協議会事務局

収録：総務情報部会（第3回）事例報告〈総務に関する現状と課題について（群馬県立土屋文明記念文学館総務普及グループ員 平形嘉規）／吉川英治記念館の財政構造の変遷（吉川英治記念館事務長 片岡元雄）／鎌倉文学館の財政面における直営と財団運営の比較（鎌倉文学館課長 井上弘子）／（財）石川近代文学館のあゆみ（石川近代文学館理事長兼館長 香村幸作）〉／近況報告など

1-29. 『全国文学館協議会会報』 第29号 2005年6月16日 発行：全国文学館協議

会事務局

収録：文学館の総務に関する共同討議（第3回）〈共同討議／共同討議記録 [1. 財政／2. 理念／3. 建物、施設、設備]〉／全国文学館協議会発足10周年（記録）〈歩み／会報目次（概要） 1～28号〉／会員館概要（補遺）／全国文学館協議会会員（名簿）

ガイドブック

1. 『全国文学館ガイド』 2005年8月20日 編者：全国文学館協議会 発行：小学館
収録：特集1 文豪が愛した小物たち／《エッセイ》物だって生き生きしていた（高橋源一郎）／特集2 文豪の直筆原稿を読む／特集3 風土と文学〈北海道の風土を訊ねられて（亀井秀雄）／人の居る野—武蔵野—（黒井千次）／^{からまつ}落葉松と^{にれ}榆と—文学の風景（池内輝雄）／瀬戸内の風土と文学者たち（中村稔）／福岡のダンディズム（岩橋邦枝）〉／文学館ガイド 北海道・東北エリア〈井上靖記念館 [《エッセイ》東延江]／三浦綾子記念文学館 [《詩》工藤正廣]／北海道立文学館 [《エッセイ》山名康郎]／市立小樽文学館 [《エッセイ》吉田美和子]／有島記念館 [《エッセイ》吉田美和子]／函館市文学館 [《エッセイ》木下順一]／青森県近代文学館 [《エッセイ》三浦哲郎]／弘前市立郷土文学館 [《エッセイ》獺不次男]／石川啄木記念館 [《エッセイ》門屋光昭]／日本現代詩歌文学館 [《エッセイ》安水稔和]／仙台文学館 [《エッセイ》井上ひさし]／原阿佐緒記念館 [《エッセイ》原保美]／齋藤茂吉記念館 [《エッセイ》尾崎左永子]／こおりやま文学の森資料館 [《エッセイ》玄侑宗久]／いわき市立草野心平記念文学館 [《エッセイ》小室等]〉／コラム 文学者の処女作／文学館ガイド 関東エリア〈徳富蘆花記念文学館 [《エッセイ》高橋千劔破]／水と緑と詩のまち前橋文学館 [《エッセイ》加藤鶴男]／群馬県立土屋文明記念文学館 [《エッセイ》荒川洋治]／田山花袋記念文学館 [《エッセイ》川本三郎]／古河文学館 [《エッセイ》粕谷栄一]／さいたま文学館 [《エッセイ》高橋玄洋]／田端文士村記念館 [《エッセイ》川本三郎]／文京区立鷗外記念本郷図書館鷗外記念室 [《エッセイ》森まゆみ]／立原道造記念館 [《エッセイ》安藤元雄]／俳句文学館 [《エッセイ》鈴木豊一]／江戸東京博物館 [《エッセイ》槌田満文]／世田谷文学館 [《エッセイ》原田宗典]／海音寺潮五郎記念館 [《エッセイ》末富千櫃]／日本近代文学館 [《エッセイ》安藤宏]／調布市武者小路実篤記念館 [《エッセイ》紅野謙介]／吉川英治記念館 [《エッセイ》鈴木光司]／神奈川近代文学館 [《エッセイ》三木卓]／大佛次郎記念館 [《エッセイ》長部日出雄]／鎌倉文学館 [《エッセイ》山本道子]〉／コラム 明治以降のベストセラー／文学館ガイド 中部エリア〈新潟市會津八一記念館 [《エッセイ》小池邦夫]／石川近代文学館 [《エッセイ》西のぼる]／室生犀星記念館 [《エッセイ》辻井喬]／泉鏡花記念館 [《エッセイ》田中勳儀]／徳田秋聲記念館 [《エッセイ》松本徹]／藤村記念館 [《エッセイ》井出孫六]／池波正太郎真田太平

記館 [《エッセイ》重金敦之] / 小諸市立藤村記念館 [《エッセイ》下山嬢子] / 軽井沢
高原文庫 [《エッセイ》岸田今日子] / 堀辰雄文学記念館 [《エッセイ》堀多恵子] / 臼
井吉見文学館 [《エッセイ》熊井明子] / 山梨県立文学館 [《エッセイ》紅野敏郎] / 山
中湖文学の森 [《エッセイ》秋山駿] / 芹沢・井上文学館 [《エッセイ》勝呂奏] / 新美
南吉記念館 [《エッセイ》かつおきんや] / 浜松文芸館 / 文学館ガイド 近畿・中国エ
リア (加悦町江山文庫 [《エッセイ》倉田紘文] / 茨木市立川端康成文学館 [《エッセイ》
原善] / 大阪府立国際児童文学館 / コラム ^{めおと}夫婦文学者 / 司馬遼太郎記念館 [《エッセイ》
出久根達郎] / 芦屋市谷崎潤一郎記念館 [《エッセイ》千葉俊二] / 姫路文学館 [《エッ
セイ》車谷長吉] / 佐藤春夫記念館 [《エッセイ》谷崎昭男] / 森鷗外記念館 [《エッセ
イ》山崎一穎] / 吉備路文学館 [《エッセイ》飯島耕一] / 勝央美術文学館 [《エッセイ》
^{あまこ}天児直美] / ふくやま文学館 [《エッセイ》島田荘司] / 中原中也記念館 [《エッセイ》
北川透] / コラム 文学者と星座 / 文学館ガイド 四国・九州エリア (菊池寛記念館 [《エ
ッセイ》片山宏行] / 壺井栄文学館 [《エッセイ》佐々木正夫] / 徳島県立文学書道館 [《エ
ッセイ》黒田杏子] / 松山市立子規記念博物館 [《エッセイ》天野祐吉] / 高知県立文学
館 [《エッセイ》猪野睦] / 上林暁文学館 [《エッセイ》野並浩] / 火野葦平資料館 [《エ
ッセイ》佐々木久子] / 北九州市立松本清張記念館 [《エッセイ》郷原宏] / 福岡市文学
館 [《エッセイ》深野治] / 長崎市立遠藤周作文学館 [《エッセイ》遠藤順子] / 熊本近
代文学館 [《エッセイ》安永露子] / かごしま近代文学館 [《エッセイ》石田忠彦] / 薩
摩川内市川内まごころ文学館 [《エッセイ》山内静夫] / トータルメディア開発 / 東京修
復保存センター / 全国文学館等一覧 (木原直彦編) / 文学者別五十音 INDEX / 文学館・
全国文学館協議会について (中村稔)

付属資料3：文学館の「出版形態」

目次

凡例	4
1. 総合文学館の「出版形態」	5
1.1 【30】(財)日本近代文学館の「出版形態」	5
1.2 【31】俳句文学館の「出版形態」	5
1.3 【56】大阪府立国際児童文学館の「出版形態」	6
1.4 【35】神奈川県立神奈川近代文学館の「出版形態」	6
1.5 【11】日本現代詩歌文学館の「出版形態」	7
2. 地域文学館の「出版形態」	7
2.1 【38】山梨県立文学館の「出版形態」	7
2.2 【59】姫路文学館の「出版形態」	8
2.3 【06】(財)北海道文学館の「出版形態」	8
2.4 【41】軽井沢高原文庫の「出版形態」	9
2.5 【19】群馬県立土屋文明記念文学館の「出版形態」	9
2.6 【79】熊本近代文学館の「出版形態」	10
2.7 【26】(財)世田谷文学館の「出版形態」	10
2.8 【21】水と緑と詩のまち 前橋文学館の「出版形態」	11
2.9 【09】弘前市立郷土文学館の「出版形態」	11
2.10 【04】市立小樽文学館の「出版形態」	12
2.11 【23】さいたま文学館の「出版形態」	12
2.12 【73】高知県立文学館の「出版形態」	13
2.13 【08】青森県近代文学館の「出版形態」	13
2.14 【12】仙台文学館の「出版形態」	14
2.15 【36】鎌倉文学館の「出版形態」	14
2.16 【45】(財)石川近代文学館の「出版形態」	15
2.17 【16】郡山市こおりやま文学の森資料館の「出版形態」	15
2.18 【28】(財)田端文士村記念館の「出版形態」	16
2.19 【54】加悦町江山文庫の「出版形態」	16
2.20 【80】かごしま近代文学館の「出版形態」	17
2.21 【64】ふくやま文学館の「出版形態」	17
2.22 【66】徳島県立文学書道館の「出版形態」	18
2.23 【76】福岡市文学館の「出版形態」	18

2.24	【17】	古河文学館の「出版形態」	19
2.25	【81】	川内まごころ文学館の「出版形態」	19
2.26	【52】	浜松文芸館の「出版形態」	20
2.27	【63】	勝央美術文学館の「出版形態」	20
2.28	【05】	函館市文学館の「出版形態」	21
2.29	【62】	(財)吉備路文学館の「出版形態」	21
3.		個人文学館の「出版形態」	22
3.1	【70】	松山市立子規記念博物館の「出版形態」	22
3.2	【49】	藤村記念館の「出版形態」	22
3.3	【14】	(財)斎藤茂吉記念館の「出版形態」	23
3.4	【33】	(財)吉川英治記念館の「出版形態」	23
3.5	【32】	調布市武者小路実篤記念館の「出版形態」	24
3.6	【18】	田山花袋記念文学館の「出版形態」	24
3.7	【27】	立原道造記念館の「出版形態」	25
3.8	【58】	芦屋市谷崎潤一郎記念館の「出版形態」	25
3.9	【77】	松本清張記念館の「出版形態」	26
3.10	【15】	いわき市立草野心平記念文学館の「出版形態」	26
3.11	【67】	菊池寛記念館の「出版形態」	27
3.12	【10】	(財)石川啄木記念館の「出版形態」	27
3.13	【25】	(財)海音寺潮五郎記念館の「出版形態」	28
3.14	【65】	中原中也記念館の「出版形態」	28
3.15	【34】	大佛次郎記念館の「出版形態」	29
3.16	【39】	池波正太郎真田太平記館の「出版形態」	29
3.17	【53】	新美南吉記念館の「出版形態」	30
3.18	【13】	原阿佐緒記念館の「出版形態」	30
3.19	【61】	森鷗外記念館の「出版形態」	31
3.20	【07】	三浦綾子記念文学館の「出版形態」	31
3.21	【57】	司馬遼太郎記念館の「出版形態」	32
3.22	【60】	佐藤春夫記念館の「出版形態」	32
3.23	【24】	文京区立鷗外記念本郷図書館の「出版形態」	33
3.24	【72】	上林暁文学館の「出版形態」	33
3.25	【20】	徳富蘆花記念文学館の「出版形態」	34
3.26	【44】	(財)会津八一記念館の「出版形態」	34
3.27	【43】	堀辰雄文学記念館の「出版形態」	35
3.28	【68】	壺井栄文学館の「出版形態」	35

3.29	【78】	長崎市立遠藤周作文学館の「出版形態」36
3.30	【03】	旭川市立井上靖記念館の「出版形態」36
3.31	【55】	茨木市立川端康成文学館の「出版形態」37
3.32	【37】	山中湖文学の森 徳富蘇峰館／三島由紀夫文学館の「出版形態」37
3.33	【42】	小諸市立藤村記念館の「出版形態」38
3.34	【02】	有島記念館の「出版形態」38
3.35	【46】	泉鏡花記念館の「出版形態」39
3.36	【48】	室生犀星記念館の「出版形態」39
3.37	【40】	臼井吉見文学館の「出版形態」40
3.38	【47】	徳田秋聲記念館の「出版形態」40
3.39	【51】	(財) 芹沢・井上文学館の「出版形態」41
3.40	【71】	本山町立大原富枝文学館の「出版形態」41
3.41	【74】	香北町立吉井勇記念館の「出版形態」42
3.42	【75】	火野葦平資料館の「出版形態」42

凡例

1. 本資料は〔付属資料1:「全国文学館協議会」加盟文学館発行物目録〕の結果を踏まえ、それぞれの文学館につき、「発行物の性質」ごとにその発行点数を数えたものであり、本文中〔3.3 出版事業の性質〕を補足する資料として作成した。
2. ①には「発行物の性質」ごとの発行点数を、②にはそれぞれの文学館の「出版形態」を記した。
3. 文学館の排列は、総合文学館、地域文学館、個人文学館ごとに、発行点数の総計が多い順とした。

1. 総合文学館の「出版形態」

1.1 【30】（財）日本近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	26
[ロ]所蔵資料の記録	31
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	16
[ニ]対象作家の作品	2,102
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	261
総計	2,436

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録型／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

1.2 【31】俳句文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	8
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	54
[ニ]対象作家の作品	535
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	413
総計	1,010

②出版形態：[ロ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[ロ]所蔵資料記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

1.3 【56】大阪府立国際児童文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	12
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	37
[ニ]対象作家の作品	119
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	31
総計	199

②出版形態：[ロ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

1.4 【35】神奈川県立神奈川近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	47
[ロ]所蔵資料の記録	23
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	3
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	108
総計	181

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

1.5 【11】日本現代詩歌文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	21
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	16
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	48
総計	86

②出版形態：[イ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2. 地域文学館の「出版形態」

2.1 【38】山梨県立文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	34
[ロ]所蔵資料の記録	3
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	32
[ニ]対象作家の作品	6
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	69
総計	144

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.2 【59】 姫路文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	35
[ロ]所蔵資料の記録	5
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	16
[ニ]対象作家の作品	6
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	66
総計	128

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.3 【06】（財）北海道文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	30
[ロ]所蔵資料の記録	6
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	15
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	76
総計	127

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.4 【41】 軽井沢高原文庫の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	19
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	61
総計	83

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.5 【19】 群馬県立土屋文明記念文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	27
[ロ]所蔵資料の記録	9
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	15
[ニ]対象作家の作品	20
[ホ]利用者の作品	1
[ヘ]文学館活動の記録.....	6
総計	78

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ホ][ヘ]の6種類の発行物を出版する「複合出版型（6種）」（[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ホ]利用者作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.6 【79】熊本近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	69
総計	75

②出版形態：[イ][ロ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.7 【26】（財）世田谷文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	27
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	10
[ヘ]文学館活動の記録.....	29
総計	68

②出版形態：[イ][ロ][ホ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.8 【21】水と緑と詩のまち 前橋文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	31
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	27
総計	59

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.9 【09】弘前市立郷土文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	55
総計	55

②出版形態：[ヘ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」（[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.10 【04】市立小樽文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	16
[ロ]所蔵資料の記録	4
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	3
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	30
総計	54

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.11 【23】さいたま文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	23
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	15
[ヘ]文学館活動の記録.....	10
総計	51

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ホ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.12 【73】高知県立文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	17
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	5
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	28
総計	50

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.13 【08】青森県近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	21
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	3
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	22
総計	46

②出版形態：[イ][ニ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.14 【12】 仙台文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	18
[ロ]所蔵資料の記録	3
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	11
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	12
総計	44

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.15 【36】 鎌倉文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	34
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	6
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	1
総計	41

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.16 【45】（財）石川近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	6
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	11
[ニ]対象作家の作品	21
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	1
総計	40

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.17 【16】郡山市こおりやま文学の森資料館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	11
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	4
[ヘ]文学館活動の記録.....	14
総計	29

②出版形態：[イ][ホ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.18 【28】（財）田端文士村記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	12
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	12
総計	25

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

2.19 【54】加悦町江山文庫の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	10
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	9
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	21

②出版形態：[イ][ハ][ニ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性）の文学館である。

2.20 【80】 かがしま近代文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	5
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	13
総計	18

②出版形態：[イ][ヘ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[イ]展示記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

2.21 【64】 ふくやま文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	8
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	6
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	15

②出版形態：[イ][ハ][ニ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性）の文学館である。

2.22 【66】徳島県立文学書道館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	7
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	4
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	2
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	13

②出版形態：[イ][ハ][ホ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[ほ]利用者作品公開性）の文学館である。

2.23 【76】福岡市文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	6
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	1
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	8

②出版形態：[イ][ハ][ホ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[ほ]利用者作品公開性）の文学館である。

2.24 【17】古河文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	7
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	7

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([い]展示記録性)の文学館である。

2.25 【81】川内まごころ文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	3

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([い]展示記録性)の文学館である。

2.26 【52】 浜松文芸館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	1

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([い]展示記録性)の文学館である。

2.27 【63】 勝央美術文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	1

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([い]展示記録性)の文学館である。

2.28 【05】函館市文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

2.29 【62】（財）吉備路文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3. 個人文学館の「出版形態」

3.1 【70】松山市立子規記念博物館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	46
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	114
総計	161

②出版形態：[イ][ロ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.2 【49】藤村記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	2
[ニ]対象作家の作品	3
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	112
総計	122

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の5種類の発行物を出版する「複合出版型（5種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.3 【14】（財）斎藤茂吉記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	3
[ニ]対象作家の作品	7
[ホ]利用者の作品	51
[ヘ]文学館活動の記録.....	28
総計	91

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ホ][ヘ]の6種類の発行物を出版する「複合出版型（6種）」
 （[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[へ]活動記録性
 ／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性）の文学館である。

3.4 【33】（財）吉川英治記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	2
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	5
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	53
総計	62

②出版形態：[イ][ロ][ニ][ヘ]の4種類の発行物を出版する「複合出版型（4種）」（[い]
 展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文
 学館である。

3.5 【32】 調布市武者小路実篤記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	37
[ロ]所蔵資料の記録	1
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	5
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	2
[ヘ]文学館活動の記録.....	16
総計	61

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ホ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[ほ]利用者作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.6 【18】 田山花袋記念文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	24
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	19
[ニ]対象作家の作品	9
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	5
総計	59

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の 5 種類の発行物を出版する「複合出版型（5 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.7 【27】立原道造記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	11
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	4
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	35
総計	50

②出版形態：[イ][ニ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[い]展示記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.8 【58】芦屋市谷崎潤一郎記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	3
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	2
[ニ]対象作家の作品	2
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	40
総計	50

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ][ヘ]の5種類の発行物を出版する「複合出版型（5種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.9 【77】松本清張記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	14
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	11
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	23
総計	48

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.10 【15】いわき市立草野心平記念文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	16
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	20
総計	36

②出版形態：[イ][ニ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[イ]展示記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.11 【67】 菊池寛記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	24
[ホ]利用者の作品	5
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	31

②出版形態：[イ][ハ][ニ][ホ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[ほ]利用者作品公開性）の文学館である。

3.12 【10】（財）石川啄木記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	3
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	19
総計	27

②出版形態：[イ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.13 【25】（財）海音寺潮五郎記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	22
総計	23

②出版形態：[ハ][ヘ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.14 【65】中原中也記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	9
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	10
総計	23

②出版形態：[イ][ハ][ヘ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.15 【34】大佛次郎記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	2
[ロ]所蔵資料の記録	16
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	3
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	22

②出版形態：[イ][ロ][ハ][ニ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性）の文学館である。

3.16 【39】池波正太郎真田太平記館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	21
総計	22

②出版形態：[イ][ヘ]の 2 種類の発行物を出版する「複合出版型（2 種）」（[い]展示記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.17 【53】新美南吉記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	11
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	10
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	22

②出版形態：[イ][ハ][ホ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ホ]利用者作品公開性）の文学館である。

3.18 【13】原阿佐緒記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	21
総計	21

②出版形態：[ヘ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」（[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.19 【61】 森鷗外記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	13
[ロ]所蔵資料の記録	2
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	6
総計	21

②出版形態：[イ][ロ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[い]展示記録性／[ろ]所蔵資料記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.20 【07】 三浦綾子記念文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	2
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	14
総計	18

②出版形態：[イ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[い]展示記録性／[は]研究記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.21 【57】 司馬遼太郎記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	2
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	14
総計	18

②出版形態：[イ][ハ][ニ][ヘ]の 4 種類の発行物を出版する「複合出版型（4 種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.22 【60】 佐藤春夫記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	12
総計	16

②出版形態：[イ][ニ][ヘ]の 3 種類の発行物を出版する「複合出版型（3 種）」（[イ]展示記録性／[ニ]作品公開性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.23 【24】文京区立鷗外記念本郷図書館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	12
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	15

②出版形態：[イ][ロ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[イ]展示記録性／[ロ]所蔵資料記録性）の文学館である。

3.24 【72】上林暁文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	11
総計	12

②出版形態：[イ][ヘ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[イ]展示記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.25 【20】徳富蘆花記念文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	10
総計	11

②出版形態：[イ][ヘ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[イ]展示記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.26 【44】（財）会津八一記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	7
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	7

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」（[イ]展示記録性）の文学館である。

3.27 【43】堀辰雄文学記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	6

②出版形態：[イ][ハ][ニ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[イ]展示記録性／[ハ]研究記録性／[ニ]作品公開性）の文学館である。

3.28 【68】壺井栄文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	1
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	5
総計	6

②出版形態：[ハ][ヘ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[ハ]研究記録性／[ヘ]活動記録性）の文学館である。

3.29 【78】長崎市立遠藤周作文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	3
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	2
総計	6

②出版形態：[イ][ニ][ホ]の3種類の発行物を出版する「複合出版型（3種）」（[い]展示記録性／[に]作品公開性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.30 【03】旭川市立井上靖記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	4
総計	5

②出版形態：[イ][へ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」（[い]展示記録性／[へ]活動記録性）の文学館である。

3.31 【55】 茨木市立川端康成文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	4
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	4

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([い]展示記録性)の文学館である。

3.32 【37】 山中湖文学の森 徳富蘇峰館／三島由紀夫文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	2
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	1
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	3

②出版形態：[イ][ニ]の2種類の発行物を出版する「複合出版型（2種）」([い]展示記録性／[に]作品公開性)の文学館である。

3.33 【42】小諸市立藤村記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	2
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	2

②出版形態：[ハ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([ハ]研究記録性)の文学館である。

3.34 【02】有島記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	1

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([イ]展示記録性)の文学館である。

3.35 【46】 泉鏡花記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	1
総計	1

②出版形態：[ヘ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([ヘ]活動記録性)の文学館である。

3.36 【48】 室生犀星記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	1
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	1

②出版形態：[イ]の1種類の発行物を出版する「単出版型」([イ]展示記録性)の文学館である。

3.37 【40】 臼井吉見文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3.38 【47】 徳田秋聲記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3.39 【51】（財）芹沢・井上文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3.40 【71】 本山町立大原富枝文学館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3.41 【74】香北町立吉井勇記念館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。

3.42 【75】火野葦平資料館の「出版形態」

①発行物の性質ごとの発行点数：

発行物の性質	発行点数
[イ]展示の記録.....	0
[ロ]所蔵資料の記録	0
[ハ]所蔵資料／対象作家の研究.....	0
[ニ]対象作家の作品	0
[ホ]利用者の作品	0
[ヘ]文学館活動の記録.....	0
総計	0

②出版形態：発行物を出版していない「未出版型」の文学館である。